

Oracle8*i*

エラー・メッセージ

リリース 8.1

2000 年 2 月

Oracle8i エラー・メッセージ, リリース 8.1

原本名: Oracle8i Error Messages, Release 2 (8.1.6)

Copyright © 1996, 1999, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
対象読者	ix
構成	ix
関連ドキュメント	x

第I部 概要

1 メッセージの使用方法

メッセージ関連のマニュアル	1-1
Oracle Server	1-1
製品固有	1-1
オペレーティング・システム固有	1-2
メッセージの精度	1-2
メッセージの形式	1-2
メッセージにおける埋込み変数の認識	1-3
メッセージ・スタック	1-3
オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡	1-4
Oracle 例外メッセージ	1-4
トレース・ファイル	1-5
警告ファイル	1-6

第II部 Oracle Server メッセージ

2 ORA-00000 ～ ORA-00899

3 ORA-00900 ～ ORA-01499

4 ORA-01500 ～ ORA-02099

5 ORA-02100 ～ ORA-04099

6 ORA-04100 ～ ORA-07499

7 ORA-07500 ～ ORA-09857

8 ORA-09870 ～ ORA-12299

9 ORA-12300 ～ ORA-12399

10 ORA-12400 ～ ORA-12699

11 ORA-12700 ～ ORA-19399

12 ORA-19400 ～ ORA-24279

13 ORA-24280 ～ ORA-29249

14 ORA-29250 ～ ORA-30999

第III部 サーバー・ユーティリティ・メッセージ

15 Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)

16 エクスポート・メッセージ (EXP)

- 17 インポート・メッセージ (IMP)
- 18 パラメータ・メッセージ (LRM)
- 19 パラメータ・メッセージ (LCD)
- 20 BFILE 関連のメッセージ (LFI)
- 21 PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)
- 22 サマリー・アドバイザ・メッセージ (QSM)
- 23 Recovery Manager メッセージ (RMAN)
- 24 SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)

第 IV 部 ネットワーク・メッセージ

- 25 Net8 メッセージ (TNS)
- 26 Oracle Names Client メッセージ (NNC)
- 27 Oracle Names Server メッセージ (NNO)
- 28 Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)
- 29 Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)
- 30 External Naming メッセージ (NNF)
- 31 簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)

32 リモート操作メッセージ (NCR)

33 ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)

第 V 部 プリコンパイラ・メッセージ

34 SQL*Module メッセージ (MOD)

35 オブジェクト型トランスレータ型ファイル・メッセージ (O2F)

36 オブジェクト型トランスレータ初期化メッセージ (O2I)

37 オブジェクト型トランスレータ解析解除メッセージ (O2U)

38 Pro*COBOL メッセージ (PCB)

39 PCF FIPS メッセージ (PCF)

40 Pro* メッセージ (PCC)

41 プリプロセッサ (PCC)

42 プリプロセッサ (PCC)

43 パーサー・メッセージ (PCC)

44 Pro*C/C++ メッセージ (PCC)

45 コマンド行メッセージ (PCC)

46 SQL ランタイム・メッセージ (SQL)

第 VI 部 オプション・メッセージ

47 *interMedia* Audio メッセージ (AUD)

48 *interMedia* Image メッセージ (IMG)

49 *interMedia* Video メッセージ (VID)

50 *interMedia* Text メッセージ (DRG)

51 Time Series メッセージ (TS)

52 Spatial Data Option メッセージ (SDO)

53 Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)

索引

はじめに

このマニュアルでは、Oracle 製品の使用中表示されるエラー・メッセージについて説明します。このマニュアルでは、次の製品のメッセージを説明します。

製品 / 章の名前	接頭番号
<i>interMedia</i> Audio メッセージ (AUD)	AUD
<i>interMedia</i> Text メッセージ (DRG)	DRG
Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)	EPC
エクスポート・メッセージ (EXP)	EXP
<i>interMedia</i> Image メッセージ (IMG)	IMG
インポート・メッセージ (IMP)	IMP
パラメータ・メッセージ (LCD)	LCD
BFILE 関連のメッセージ (LFI)	LFI
パラメータ・メッセージ (LRM)	LRM
SQL*Module メッセージ (MOD)	MOD
リモート操作メッセージ (NCR)	NCR
簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)	NMP
Oracle Names Client メッセージ (NNC)	NNC
External Naming メッセージ (NNF)	NNF
Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)	NNL
Oracle Names Server メッセージ (NNO)	NNO

製品 / 章の名前	接頭番号
Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)	NPL
ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)	NZE
オブジェクト型トランスレータ型ファイル・メッセージ (O2F)	O2F
オブジェクト型トランスレータ初期化メッセージ (O2I)	O2I
オブジェクト型トランスレータ解析解除メッセージ (O2U)	O2U
Oracle Server メッセージ	ORA-00000 ~ ORA-00899 ORA-00900 ~ ORA-01499 ORA-01500 ~ ORA-02099 ORA-02100 ~ ORA-04099 ORA-04100 ~ ORA-07499 ORA-07500 ~ ORA-09857 ORA-09870 ~ ORA-12299 ORA-12300 ~ ORA-12399 ORA-12400 ~ ORA-12699 ORA-12700 ~ ORA-19399 ORA-19400 ~ ORA-24279 ORA-24280 ~ ORA-29249 ORA-29250 ~ ORA-30999
Pro*COBOL メッセージ (PCB)	PCB
Pro*C/C++ メッセージ (PCC)	PCC
プリプロセッサ (PCC)	PCC
コマンド行メッセージ (PCC)	PCC
パーサー・メッセージ (PCC)	PCC
プリプロセッサ (PCC)	PCC
Pro* メッセージ (PCC)	PCC
PCF FIPS メッセージ (PCF)	PCF

製品 / 章の名前	接頭番号
PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)	PLS
サマリー・アドバイザ・メッセージ (QSM)	QSM
Recovery Manager メッセージ (RMAN)	RMAN
Spatial Data Option メッセージ (SDO)	SDO
SQL ランタイム・メッセージ (SQL)	SQL
SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)	SQL*Loader
Net8 メッセージ (TNS)	TNS
Time Series メッセージ (TS)	TS
<i>interMedia</i> Video メッセージ (VID)	VID
Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)	VIR

このマニュアルでは、各メッセージについて、メッセージの文、および考えられる原因の説明と対処方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合には、解決方法を示します。

対象読者

このマニュアルは、すべての Oracle ユーザーを対象にしています。

構成

『Oracle8i エラー・メッセージ』は、全部で 3 冊あります。それぞれの内容は次のとおりです。

- 第 I 部「概要」
- 第 II 部「Oracle Server メッセージ」
- 第 III 部「サーバー・ユーティリティ・メッセージ」
- 第 IV 部「ネットワーク・メッセージ」
- 第 V 部「プリコンパイラ・メッセージ」
- 第 VI 部「オプション・メッセージ」

関連ドキュメント

このマニュアルの中で、他の資料の情報を参照している箇所があります。このマニュアルで参照している関連ドキュメントは、次のとおりです。

- Oracle Server の概要および機能については、『Oracle8i 概要』を参照してください。
- Oracle Server の管理については、『Oracle8i 管理者ガイド』および『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。
- Oracle Server でのアプリケーションの開発方法については、次を参照してください。
 - 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド 基礎編』
 - 『Oracle8i PL/SQL パッケージ・プロシージャ リファレンス』
 - 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド ラージ・オブジェクト』
 - 『Oracle8i アプリケーション開発者ガイド アドバンスド・キューイング』
- 前のバージョンの Oracle から Oracle8i への移行手順については、『Oracle8i 移行ガイド』を参照してください。
- Oracle の SQL コマンドおよび関数については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。
- Oracle Server にバンドルされているユーティリティ（エクスポート、インポートおよび SQL*Loader など）については、『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』を参照してください。
- ホスト・オペレーティング・システムで稼動している Oracle Server 固有の情報については、各オペレーティング・システムに対応する Oracle マニュアル（タイトルはオペレーティング・システムによって異なります）を参照してください。使用可能であれば、システム・リリース・ノートも参照してください。
- Net8 については、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。データの暗号化、外部認証サービスおよび Oracle DCE 統合など Oracle Advanced Networking Option に組み込まれている機能については、『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。

オラクル社は、配布メディア上で使用可能な形式でいくつかのファイルを提供する場合があります。これらのファイルには、このマニュアルに記載されていない Oracle ソフトウェアのマイナー・リリースについての説明があります。通常、これらのファイルは、README.DOC、BUGFIX.DOC、BUGHST.DOC および RESTRICT.DOC という名前で提供されます。マニュアルに記載されていないソフトウェア情報については、これらのファイルを参照してください。

追加情報： これらのファイルの名前および位置は、オペレーティング・システムによって異なる場合があります。これらのファイルについては、各オペレーティング・システムに対応した Oracle マニュアルを参照してください。

第 I 部

概要

第 I 部には、次の章があります。

- 第 1 章「メッセージの使用方法」

メッセージの使用方法

この章では、メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。次のトピックについて説明します。

- [メッセージ関連のマニュアル](#)
- [メッセージの精度](#)
- [メッセージの形式](#)
- [メッセージにおける埋込み変数の認識](#)
- [メッセージ・スタック](#)
- [オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡](#)
- [Oracle 例外メッセージ](#)
- [トレース・ファイル](#)
- [警告ファイル](#)

メッセージ関連のマニュアル

Oracle Server

これらのメッセージは、Oracle プログラムの実行時に Oracle Server によって生成されます。このマニュアルには、Oracle 製品および Tools に共通するメッセージを記載します。

製品固有

これらのメッセージは各製品ごとに異なり、マニュアルの文章はその製品用のものです。

オペレーティング・システム固有

これらのメッセージは各オペレーティング・システムに固有のものです。各オペレーティング・システムには、一定の範囲のメッセージ・コード番号が割り当てられています。たとえば、ORA-7500 ～ ORA-7999 の範囲のメッセージは DEC VAX/VMS メッセージ用であり、これらのメッセージは該当するオペレーティング・システム固有のマニュアルに記載されています。

メッセージの接頭辞を見れば、そのメッセージの情報がどこに記載されているか分ります。たとえば、このマニュアル中のメッセージには "ORA" の接頭辞が付いているものがあります。接頭辞がないメッセージがある場合、最初にご使用の Oracle Server 用のマニュアルを調べ、その後このマニュアルで調べます。

メッセージの精度

このマニュアルのメッセージで最も重要なのは、その精度です。バージョン・アップ時のメッセージの変更により、Oracle ソフトウェアと一致しない場合があります。

メッセージの形式

表示されるすべてのメッセージには、どのプログラムから出力されたかを示す接頭辞が付いています。たとえば、接頭辞「ORA」は、Oracle 製品によって生成されたメッセージに表示されます。このマニュアルに記載されているメッセージはこの接頭辞ごとに並んでいます。このマニュアルの「はじめに」にある表に、メッセージの接頭辞とメッセージが記載されている章を示します。

なお、メッセージはすべてメッセージ・コード番号に従って示されています。メッセージを検索するときは、このメッセージ・コード番号を使用してください。

メッセージにおける埋込み変数の認識

メッセージを容易に見出し、エラーを解決するため、Oracle ではある種のメッセージにオブジェクト名、数、文字列が埋め込まれています。これらの埋め込まれた変数は *string*、*number* または *character* の部分に表示されます。たとえば、次のようなメッセージがあるとします。

```
ORA-00020: 最大プロセス数 (string) を超えました。
```

このメッセージは実際には次のように表示されます。

```
ORA-00020: 最大プロセス数 (50) を超えました。
```

メッセージ・スタック

「メッセージ・スタック」が表示されることがよくあります。メッセージ・スタックは、Oracle の各レベルから出力される一連の関連メッセージです。

次のメッセージ・スタックは一般的な例です。

```
ORA-06502: PL/SQL: 数値または値のエラー  
ORA-06512: "SCOTT.VALUE_ERR" 行: 1  
ORA-06512: 行: 1
```

次のメッセージ・スタックは VAX/VMS の例です。

```
ORA-01034: Oracle は使用できません。  
ORA-07625: smsget: $MGBLSC に失敗しました。  
%SYSTEM-W-NOSUCHSEC、このような (グローバル) セクションはありません。
```

この例の場合、スタックの 1 番下のメッセージは VMS オペレーティング・システムから出力されたものです。システム内の各レベルで検出されるメッセージは、その原因をたどるときに役立ちます。たとえば、前述の場合、Oracle がまだ起動されていないためにシステム・グローバル領域 (SGA) が存在せず、Oracle Server を使用できない可能性もあります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡する場合、必ずメッセージのスタック全体を報告してください。

オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡

メッセージによっては、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡するときは、次の情報を用意してください。

- Oracle が実行しているハードウェア、オペレーティング・システムおよびオペレーティング・システムのリリース番号。
- Oracle Server の詳細なリリース番号（たとえば、8.0.2 または 7.1.3）。
- エラー発生時に実行していたすべての Oracle プログラム（バージョン番号も含む）。たとえば、SQL*Net V2.0 または SQL*Forms V3.0。
- メッセージ・コードまたはメッセージがいくつか表示されている場合、出力順の正確なコード番号とメッセージ本文。
- 問題の重大度：次の順位に従います。
 - 1 = プログラムを実行できない。操作に重大な影響がある。
 - 2 = プログラムが実行できる。操作は非常に制限される。
 - 3 = 限定された機能でプログラムを実行可能。操作全体ではそれほど重大ではない。
 - 4 = 問題はユーザーが回避できる。操作に対する影響はきわめて小さい。

さらに、次の情報を提供してください。

- ユーザーの氏名
- 会社名
- 会社の Oracle サポート ID 番号
- 電話番号

Oracle 例外メッセージ

Oracle の広範囲な自動検査機能は、内部エラーの検出に役立ちます。Oracle 内部例外として次のメッセージが一括して出力されます。

```
ORA-00600: 内部エラー・コード, 引数  
: [string], [string], [string], [string], [string], [string], [string], [string]
```

このメッセージは実際には次のように表示されます。

```
ORA-00600: 内部エラー・コード, 引数: [1042], [3], [upilam], [], [], [], [], []
```

メッセージ文の後には、エラーの発生地点および属性を示す引数が最高 6 個まで表示されます。第 1 の引数は内部エラー番号を示します。他の引数は各種の数値、名前、文字列です。空のカッコは無視してかまいません。

ユーザーにメッセージが返されるのみでなく、このメッセージの原因に関する情報と一緒に内部エラーが警告ファイルに書込まれます。警告ファイルには、内部エラーによって生成されたトレース・ファイルの保存位置も書き込まれます。トレース・ファイルと警告ファイルについては、次の節を参照してください。

この ORA-00600 メッセージが出力された場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

トレース・ファイル

Oracle インスタンスの起動時、ユーザー・プロセスまたはバックグラウンド・プロセスで予期しないイベントが発生した場合、必ずトレース・ファイルが作成されます。トレース・ファイル名には、インスタンス名、プロセス名、Oracle プロセス番号が含まれています。ファイル拡張子つまりファイル・タイプは、通常 TRC となります。それ以外の場合についてはオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルに記述されています。このトレース・ファイルにはシステム・グローバル領域、プロセス・グローバル領域、スーパーバイザ・スタック、レジスタのダンプが入っています。

2 つの初期化パラメータがトレース・ファイルの保存位置を指定します。

- **BACKGROUND_DUMP_DEST** は、Oracle バックグラウンド・プロセス PMON、DBWR、LGWR および SMON によって作成されたトレース・ファイルの保存位置を指定します。
- **USER_DUMP_DEST** は、SQL*Loader や Pro*C などのユーザー・プロセスによって作成されたトレース・ファイルの保存位置を指定します。

警告ファイルには、内部エラーが発生したときに生成されるトレース・ファイルの保存位置が書き込まれます。警告ファイルについては、次の項を参照してください。

問題の診断に使用する前に、トレース・ファイルをフォーマットする必要があります。トレース・ファイルをフォーマットするためには、ほとんどのシステムで利用可能であり、各オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルに記述されている DUMPFMT ユーティリティを使用してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターは、問題を解決するためにフォーマット済のトレース・ファイルを要求することがあります。

トレース・ファイルの詳細は、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

警告ファイル

警告ファイルは、内部エラーやバックアップのような管理作業に関する情報を記録したログ・ファイルです。内部エラーが発生した場合、メッセージは端末の画面に表示されるのみでなく、警告ファイルにも書き込まれます。Oracle は内部エラーに関する他の情報、たとえば、エラーなどによって生成されたトレース・ファイルの名前および位置などを、警告ファイルに書き込みます。

警告ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります。警告ファイルの位置は、バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルの位置と同じです。この位置は、初期化パラメータ `BACKGROUND_DUMP_DEST` で指定されます。詳細は、ご使用のオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

オペレータのコンソールを使用している場合、Oracle からのメッセージがコンソールに表示されることがあります。重要なメッセージは、オペレータのコンソールのみでなく警告ファイルにも書き込まれます。Oracle 以外のメッセージもコンソールに表示される場合があるため、Oracle の管理作業やエラーをトレースするには、コンソール・ログよりも警告ファイルの方が適しています。

警告ファイルには、バックアップやオンライン REDO ログ・ファイルのアーカイブのような管理作業の情報も記録されます。警告ファイルの詳細は、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

第Ⅱ部

Oracle Server メッセージ

第Ⅱ部には、次の章があります。

- 第2章「ORA-00000 ～ ORA-00899」
- 第3章「ORA-00900 ～ ORA-01499」
- 第4章「ORA-01500 ～ ORA-02099」
- 第5章「ORA-02100 ～ ORA-04099」
- 第6章「ORA-04100 ～ ORA-07499」
- 第7章「ORA-07500 ～ ORA-09857」
- 第8章「ORA-09870 ～ ORA-12299」
- 第9章「ORA-12300 ～ ORA-12399」
- 第10章「ORA-12400 ～ ORA-12699」
- 第11章「ORA-12700 ～ ORA-19399」
- 第12章「ORA-19400 ～ ORA-24279」
- 第13章「ORA-24280 ～ ORA-29249」
- 第14章「ORA-29250 ～ ORA-30999」

ORA-00000 ～ ORA-00899

ORA-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に終了しました。例外事項はありません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-00001 一意制約 (*string.string*) に反しています。

原因：UPDATE または INSERT 文が重複するキーを挿入しようとしました。DBMS MAC モードで構成された Trusted Oracle では、重複する入力があるレベルで存在する場合、このメッセージが表示される可能性があります。

処置：重複しないように値を変更するか、索引の一意性の制約を取り消してください。

ORA-00017 セッションがトレース・イベントを設定するよう要求しました。

原因：別のセッションがカレント・セッションにトレース・イベントを設定することを要求しました。

処置：これは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00018 最大セッション数を超えました。

原因：セッション状態オブジェクトがすべて使用中です。

処置：SESSIONS 初期化パラメータの値を増加してください。

ORA-00019 最大セッション・ライセンス数を超えました。

原因：ライセンスがすべて使用中です。

処置：LICENSE MAX SESSIONS 初期化パラメータの値を増加してください。

ORA-00020 最大プロセス数 (*string*) を超えました。

原因：プロセス状態オブジェクトがすべて使用中です。

処置：PROCESSES 初期化パラメータの値を増加してください。

ORA-00021 他のプロセスに接続されているセッションは切り替えできません。

原因：ユーザー・セッションは現在他のユーザーによって使用されています。

処置：他のプロセスに接続されているセッションには切り替えないでください。

ORA-00022 無効なセッション ID です。アクセスは拒否されました。

原因：指定されたセッションが存在しないか、またはコールを実行したユーザーがアクセス権限を持っていません。

処置：アクセス権限を持っている（つまり、所有しているか、CHANGE_USER 権限を持っている）有効なセッション ID を指定してください。

ORA-00023 セッションではプロセス・プライベート・メモリーを参照します。セッションの連結を解除できません。

原因：プロセスのプライベート・メモリーを参照するカレント・セッションを切断しようとした。

処置：オープン・ネットワーク接続をしているセッション、非常に大きいコンテキスト領域を持っているセッション、オペレーティング・システム権限を持っているセッションはプロセス・メモリー（PGA）を参照することがあります。切断するには、セッションのデータベース・リンクまたはカーソルをクローズする必要があります。オペレーティング・システム権限を持っている場合での切離しは常に無効となります。

ORA-00024 シングル・プロセス・モードで複数ログインは使用できません。

原因：シングル・プロセス・モードで起動している Oracle に対して、異なるプロセスから複数回ログインしようとした。

処置：他のプロセスからログオフしてください。

ORA-00025 *string* を割り当てることができません。

原因：メモリー不足のためにアプリケーションが失敗しました。

処置：SGA ヒープを大きくして Oracle を再起動してください。

ORA-00026 セッション ID が欠落しているか、または無効です。

原因：ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッション ID 文字列が無効、または文字列が指定されていません。

処置：有効なセッション ID を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00027 現行セッションを強制終了できません。

原因：ALTER SYSTEM KILL SESSION を使用して、現行セッションを強制終了しようとした。

処置：現行セッションは強制終了できません。別のユーザー・セッションでコマンドを使用してください。

ORA-00028 セッションは強制終了されました。

原因: 権限のあるユーザーによってセッションが強制終了され、データベースにログインできなくなりました。

処置: データベース管理者に連絡してください。管理者がユーザーをログアウトさせる必要のある操作を実行しようとしている可能性があります。データベースが使用可能になったことをデータベース管理者から通告されてから、再度ログインして作業を再開してください。

ORA-00029 セッションはユーザーのセッションではありません。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッション ID は、ユーザー・セッションではありません。たとえば、セッションが再帰的に起動されている可能性があります。

処置: 有効なセッション ID を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00030 ユーザー・セッション ID がありません。

原因: ユーザー・セッション ID が存在しません。セッションがログアウトした可能性があります。

処置: 有効なセッション ID を使用してください。

ORA-00031 セッションは強制終了されます。

原因: ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドに指定されたセッションは、中断できない操作（たとえば、トランザクションのロールバックまたはネットワーク操作によるブロック）に関わっているため、ただちに強制終了できません。セッションは、カレント操作の終了後、ただちに強制終了するようにマークされました。

処置: セッションを強制終了するのに処置は必要ありませんが、このセッションで ALTER SYSTEM KILL SESSION コマンドをさらに実行すると、セッションがより早く強制終了されます。

ORA-00032 セッション移行パスワードが無効です。

原因: セッション作成コールに指定したセッション移行パスワードが無効です（長すぎます）。

処置: 有効な（30 文字より短い）パスワードを使用して再試行してください。

ORA-00033 カレント・セッションには移行パスワードが入力されていません。

原因: カレント・セッションを切り離そうとしたか、または複製しようとしたが、移行パスワードが入力されていません。これは許可されていません。

処置: 移行パスワードを入力してセッションを作成してください。

ORA-00034 カレント PL/SQL セッションでは *string* はできません。

原因: ALTER SESSION DISABLE COMMIT IN PROCEDURE 文によって COMMIT または ROLLBACK を禁止されているセッションで、PL/SQL オブジェクト（プロシージャ、ファンクション、パッケージ）から COMMIT または ROLLBACK を発行しようとした。

処置: このセッションで PL/SQL から COMMIT および ROLLBACK を使用可能にするか、カレント・セッションでこれらが使用禁止のときは、COMMIT または ROLLBACK を使用しないでください。

ORA-00035 LICENSE_MAX_USERS はカレント・ユーザー数未満にはできません。

原因: LICENSE_MAX_USERS の値にカレント・ユーザー数未満の数字を指定しました。

処置: ライセンス制限をチェックして、ユーザー数を減らすか、ライセンスを追加購入してください。

ORA-00036 再帰的 SQL レベルの最大値 (*string*) を超えました。

原因: 指定した数を超えて再帰的 SQL を作成しようとした。

処置: 再帰的 SQL を削除してください。再帰的トリガーがある場合は、それも削除してください。

ORA-00037 異なるサーバー・グループに属するセッションには切り換えられません。

原因: 異なるサーバー・グループでセッションを切り換えようとした。これは許可されていません。

処置: サーバーが、同じサーバー・グループに属するセッションに切り換えるようにしてください。

ORA-00038 セッションを作成できません。サーバー・グループは別のユーザーに所属しています。

原因: 別のユーザーが所有しているサーバー・グループで、移行不可なセッションを作成しようとした。

処置: サーバー・グループは、移行不可モードでサーバー・グループのサーバーにログインする最初のユーザーによって所有されます。サーバー・グループを所有するユーザーが、後続の移行不可モードのログインをすべて行う必要があります。移行不可モードで別のユーザーにログインさせるには、サーバー・グループの所有権の変更が必要です。所有権を変更するには、カレント・セッションをすべてログオフし、サーバー・グループのすべての既存サーバーから切り離れた後、新しいユーザーでログインしてください。

ORA-00050 エンキューの取得中に、オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

原因: Oracle エンキューに必要な OS リソースを取得できませんでした。通常、これはオペレーティング・システム・ユーザーの割当て制限が低すぎることが原因です。

処置: ご使用のシステムのマニュアルでオペレーティング・システムのエラーについて調べ、必要とされる処置を実行してください。

ORA-00051 リソースの待機中に、タイムアウトが発生しました。

原因: このエラーは通常、異常終了したインスタンスに起因して発生します。

処置: リカバリしていないインスタンスを再起動してください。

ORA-00052 最大エンキューリソース数 *string* が発生しました。

原因: エンキュー・リソースが不足しています。

処置: ENQUEUE_RESOURCES 初期化パラメータの値を増加してください。

ORA-00053 最大エンキュー数を超えました。

原因: エンキュー状態のオブジェクトが設定数を超えました。

処置: ENQUEUEES 初期化パラメータの値を増加してください。

ORA-00054 リソースビジー、NOWAIT が指定されていました。

原因: 使用できないリソースに対して LOCK TABLE コマンドまたは SELECT FOR UPDATE コマンドが発行されました。NOWAIT キーワードによって、コマンド・プロンプトの状態に戻されています。

処置: 数分してから操作を再度試みてください。または NOWAIT キーワードをなくしてコマンドを実行してください。

ORA-00055 最大 DML ロック数を超えました。

原因: DML ロック状態のオブジェクトが設定数を超えました。

処置: DML_LOCKS 初期化パラメータの値を増加して、Oracle を再起動してください。

ORA-00056 *string.string* に対して DDL ロックがすでに非互換モードで設定されています。

原因: 示されたオブジェクトに対して別のユーザーがすでにロックを保持しているときに、DDL ロックを取得しようとした。これは解析ロックを持っている表を削除するときに発生します。

処置: 表を削除する前に、その表が解析ロックを持っていないことをチェックしてください。数分待ってから操作を再試行してください。

ORA-00057 最大一時表ロック数を超えました。

原因: 一時表の数が一時表ロック数と同値または超えています。一時テーブルはしばしば大規模なソートによって作成されます。

処置: TEMPORARY_TABLE_LOCKS 初期化パラメータの値を増加して、Oracle を再起動してください。

ORA-00058 このデータベースをマウントするには、DB_BLOCK_SIZE は *string* でなければなりません (*string* ではない)。

原因: データベースを起動するときに使用した DB_BLOCK_SIZE 初期化パラメータの値が、そのデータベースを作成したときに使用された値と一致しません。この不一致が発生した理由としては、次のことが考えられます。

- マウントするデータベースが間違っている。
- 初期化パラメータ・ファイルが間違っている。
- DB_BLOCK_SIZE パラメータの値を変更した。

処置: この原因に対して次のいずれかを実行してください。

- 正しいデータベースをマウントする。
- 正しい初期化パラメータ・ファイルを使用する。
- DB_BLOCK_SIZE パラメータの値を訂正する。

ORA-00059 DB_FILES の最大数を超えました。

原因: DB_FILES 初期化パラメータの値を超えています。

処置: DB_FILES 初期化パラメータの値を増加して、Oracle を再起動してください。

ORA-00060 リソース待機の間デッドロックが検出されました。

原因: ユーザー・セッションと別のセッションが、お互いにロックしたリソースを待機していました。このような状況をデッドロックと呼びます。デッドロックを解消するため、他のセッションが作業を継続できるように、発行済の 1 つ以上の文がロールバックされました。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- ROLLBACK 文を発行してから、最後のコミット以降に実行したすべての操作を再実行する。
- ロックが解除されるまで少し（おそらく数分）待ってからロールバック文を再実行する。

ORA-00061 別のインスタンスが異なった DML_LOCKS を設定をしています。

原因: 起動した共有インスタンスが DML ロックを使用し、実行中のインスタンスが使用していないか、またはこれの逆になっています。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- すべてのインスタンスで DML_LOCKS に 0（ゼロ）を設定することによって、DML_LOCKS を使用しないようにする。
- すべてのインスタンスで DML_LOCKS に正の整数を設定することによって、DML_LOCKS を使用するようにする。

ORA-00062 DML_LOCKS が 0 なので、DML 全表ロックが取得できません。

原因：インスタンスは、DML_LOCKS の値を 0（ゼロ）に設定して起動しましたが、実行される文は全表ロック（S、X または SSX）を必要とします。

処置：0（ゼロ）でない DML_LOCKS でインスタンスを再起動し、文を再実行してください。

ORA-00063 LOG_FILES の最大数を超過しました。

原因：LOG_FILES 初期化パラメータの値を超過しました。

処置：LOG_FILES 初期化パラメータの値を増加して、Oracle を再起動してください。そのパラメータの値は存在するログ・ファイルの最大数と同値にする必要があります。

ORA-00064 オブジェクトが大きすぎてこの O/S 上に割り当てられません (string,string)。

原因：初期化パラメータが、このオペレーティング・システム上で割当て可能な領域よりも大きい連続領域の割当てを必要とする値に設定されました。

処置：初期化パラメータの値を減らしてください。

ORA-00065 FIXED_DATE を初期化できません。

原因：FIXED_DATE 文字列が yyyy-mm-dd:hh24:mi:ss の日付形式ではありません。

処置：初期化パラメータが正しい日付形式で設定されていることを確認してください。

ORA-00066 LOG_FILES は string ですが、互換性を実現するために string でなければなりません。

原因：このインスタンスでのログ・ファイルの最大数は他のインスタンスでの数値と同じではありません。オープンできるすべてのファイルを、すべてのインスタンスがオープンできる必要があります。

処置：LOG_FILES 初期化パラメータの値を同じ値に変更してください。

ORA-00067 値 string（パラメータ string）が無効です。少なくとも string でなければなりません。

原因：初期化パラメータの値が無効ではありません。

処置：メッセージに指示されている値を選択してください。

ORA-00068 値 string（パラメータ string）が無効です。string 以上 string 以下に設定してください。

原因：初期化パラメータの値が無効ではありません。

処置：メッセージに指示されている値を選択してください。

ORA-00069 ロックを獲得できません -- *string* に対して表のロックが使用不能になっています。

原因: メッセージに示されている表をロックしようとして、コマンドを発行しました。表をロックできるコマンドの例として、LOCK TABLE、ALTER TABLE...ADD (...) などがあります。

処置: ALTER TABLE... ENABLE TABLE LOCK コマンドを使用して、コマンドを再試行してください。

ORA-00070 コマンド *string* が無効です。

原因: 無効なデバッグ・コマンドが指定されました。

処置: HELP と入力して、使用可能なコマンドのリストを確認してください。

ORA-00071 プロセス番号は 1 から *string* の間でなければなりません。

原因: 無効なプロセス番号が指定されました。

処置: 有効なプロセス番号を指定してください。

ORA-00072 プロセス *string* がアクティブではありません。

原因: 無効なプロセスが指定されました。

処置: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00073 コマンド *string* は *string* から *string* の間の引数を取ります。

原因: 無効な引数番号が指定されました。

処置: 有効な引数番号を指定してください。HELP と入力してコマンドとその構文のリストを確認してください。

ORA-00074 プロセスが指定されていません。

原因: デバッグ・プロセスが指定されていません。

処置: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00075 プロセス *string* がこのインスタンス内に見つかりません。

原因: 指定されたプロセスがカレント・インスタンスに記録されませんでした。

処置: 有効なプロセスを指定してください。

ORA-00076 ダンプ *string* が見つかりません。

原因: 存在しないダンプを呼び出そうとしました。

処置: DUMPLIST と入力して使用可能なダンプのリストを確認してください。

ORA-00077 ダンプ *string* が無効です。

原因: 無効なダンプを呼び出そうとしました。

処置: 別のダンプを指定してください。

ORA-00078 名前で変数をダンプできません。

原因: 名前で変数をダンプしようとしたますが、この機能はシステムでサポートしていません。

処置: PEEK コマンドを実行してください。

ORA-00079 変数 *string* が見つかりません。

原因: 存在しない変数をダンプしようとした。

処置: 有効な変数名を使用してください。

ORA-00080 無効なグローバル領域がレベル *string* で指定されました。

原因: 無効なグローバル領域をダンプしようとした。

処置: PGA の場合はレベル 1、SGA はレベル 2、UGA はレベル 3 を使用してください。
extra + level を使用して、各ポインタの *extra* バイトおよびグローバル領域 *level* をダンプしてください。この場合、*extra* は 4 の倍数です。

ORA-00081 アドレス範囲 [*string*, *string*] が読取り不能です。

原因: 無効なメモリー・アドレス範囲を読み取ろうとしたか、書き込もうとした。

処置: 別のアドレスまたは長さを指定してください。

ORA-00082 *string* のメモリー・サイズが有効な [1], [2], [4]*stringstringstringstringstring* のセットではありません。

原因: POKE コマンドに無効な長さが指定されました。

処置: 有効な長さ (1、2、4、8 のいずれか) を使用してください。

ORA-00083 警告: マップされた SGA が破壊された可能性があります。

原因: SGA が破壊された可能性があります、SGA はマップされました。

処置: DUMPSGA コマンドを使用して SGA をダンプしてください。

ORA-00084 グローバル領域は PGA または、SGA、UGA でなければなりません。

原因: 無効なグローバル領域をダンプしようとした。

処置: PGA、SGA または UGA のいずれかを指定してください。

ORA-00085 現行コールが存在しません。

原因: カレント・コール・ヒープをダンプしようとしたますが、これは無効です。

処置: プロセスがコールを開始するまで待ってください。

ORA-00086 ユーザー・コールが存在しません。

原因: ユーザー・コール・ヒープをダンプしようとしたますが、これは無効です。

処置: プロセスがコールを開始するまで待ってください。

ORA-00087 このコマンドはリモート・インスタンスでは実行できません。

原因: OPS コマンドが OPS ORADEBUG でないコマンドに発行されました。

処置: OPS 構文を使用しないでコマンドを発行してください。

ORA-00088 このコマンドは MTS サーバーでは実行できません。

原因: デバッグ・コマンドが MTS サーバーで発行されました。

処置: 専用サーバーを使用して、コマンドを再発行してください。

ORA-00089 ORADEBUG コマンドでのインスタンス番号が無効です。

原因: OPS ORADEBUG コマンドで無効なインスタンス番号が指定されました。

処置: 有効なインスタンス番号を使用して、コマンドを再発行してください。

ORA-00090 OPS ORADEBUG コマンドに対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: パラレル ORADEBUG の実行に必要なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: 単一インスタンス ORADEBUG で各インスタンスにコマンドを再発行してください。

ORA-00091 LARGE_POOL_SIZE は、少なくとも *string* でなければなりません。

原因: LARGE_POOL_SIZE の値が最小サイズより小さいです。

処置: LARGE_POOL_SIZE の値を増加して、最小サイズより大きくしてください。

ORA-00092 LARGE_POOL_SIZE は、LARGE_POOL_MIN_ALLOC よりも大きくなければなりません。

原因: LARGE_POOL_SIZE の値が LARGE_POOL_MIN_ALLOC の値より小さいです。

処置: LARGE_POOL_SIZE の値を増加して、LARGE_POOL_MIN_ALLOC より大きくしてください。

ORA-00093 *string* は *string* 以上 *string* 以下でなければなりません。

原因: パラメータ値が有効な範囲内ではありません。

処置: パラメータ値を変更して、指定された範囲内にしてください。

ORA-00094 *string* は整数値でなければなりません。

原因: パラメータ値が整数ではありません。

処置: パラメータ値を変更して、整数にしてください。

ORA-00096 無効な値 *string* がパラメータ *string* に指定されています。 *string* の中から選択してください。

原因: 初期化パラメータの値が有効ではありません。

処置: メッセージに指示されている値を選んでください。

ORA-00097 Oracle SQL 機能は、SQL92 *string* レベルでは使用できません。

原因：SQL92 標準に準拠していない Oracle SQL 機能を使用しようとしてしました。

処置：この機能を使用しないか、ALTER SESSION SET FLAGGER コマンドで適切な SQL92 準拠レベルを設定してください。

**ORA-00099 リソース待機中にタイムアウトしました。PDML デッドロックの可能性があり
ます。**

原因：トランザクションに必要なリソースがビジーです。PDML トランザクションは、指定の時間内にリソースを獲得することができませんでした。この PDML トランザクションと現在システム内で稼動している他のトランザクションに関連して、デッドロックが発生している可能性があります。

処置：PARALLEL_TRANSACTION_RESOURCE_TIMEOUT パラメータの値を増加して、操作を再試行してください。

ORA-00100 データが見つかりません。

原因：アプリケーションが、不明またはアクセス不能なデータを参照しました。

処置：このエラー条件をアプリケーション内で処理するか、アプリケーション・コードに適切な変更を加えてください。

ORA-00101 システム・パラメータ MTS_DISPATCHERS の指定は無効です。

原因：MTS_DISPATCHERS パラメータの構文が正しくありません。

処置：初期化パラメータ・ファイルに正しい構文で MTS_DISPATCHERS パラメータを指定し、インスタンスを停止してから再起動してください。

ORA-00102 ディスパッチャはネットワーク・プロトコル *string* を使用できません。

原因：MTS_DISPATCHERS に指定されたネットワークがディスパッチャに必要な機能を持っていません。

処置：ディスパッチャがサポートしているネットワーク・プロトコルは、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-00103 ネットワーク・プロトコルが無効です (ディスパッチャが使用します)。

原因：Net8 の CONNECT 文字列に指定されたネットワークはディスパッチャが使用します。

処置：接続文字列に別のネットワーク・プロトコルを指定してください。

ORA-00104 デッドロックを検出したため共有サーバーはすべてブロックされ、リソース待機します。

原因：すべての使用可能な共有サーバーが、クライアントによってロックされたリソースを必要とする要求をサービスしています。クライアントは、共有サーバーのリソースを解放することはできません。

処置: MTS_MAX_SERVERS システム・パラメータの制限を増加してください。システムは、サーバーの数が MTS_MAX_SERVERS で指定された値に達するまで自動的に新しいサーバーを起動して、デッドロックを中断させます。

ORA-00105 ディスパッチャ機能はプロトコル *string* 用に構成されていません。

原因: INIT.ORA ファイルで指定されていないネットワーク・プロトコルに、ディスパッチャの構成を変更しようとした。

処置: 次の 1 つを実行してください。

- MTS_DISPATCHERS 初期化パラメータの定義にそのネットワーク・プロトコルを指定してシステムを再起動する。
- 初期化パラメータ・ファイルに指定されているネットワーク・プロトコルで ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS コマンドを使用する。

ORA-00106 データベースはディスパッチャ接続時には起動または停止できません。

原因: ディスパッチャを介して共有サーバーに接続している間に、インスタンスを起動または停止しようとした。

処置: ディスパッチャを介さずに、INTERNAL ユーザーで再接続してください。多くの場合、ネットワーク接続文字列を指定しないで INTERNAL に接続すると、これを実行できます。

ORA-00107 Oracle リスナー・プロセスに接続できません。

原因: 通常は、ネットワーク・リスナー・プロセスが起動されていないと発生します。

処置: 次の点をチェックしてください。

- ネットワーク構成ファイルは正しく設定されているか。
- クライアント側のアドレスは正しく指定されているか。
- リスナー初期化パラメータ・ファイルは正しく設定されているか。

ORA-00108 非同期接続に対するディスパッチャのセットアップができません。

原因: 通常、非同期処理をサポートしていないディスパッチャがネットワーク・プロトコルを使用すると発生します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00111 サーバー数が *string* に制限されているので、起動しているサーバーはありません。

原因: MTS_MAX_SERVERS システム・パラメータによって指定されているよりも多くのサーバーを起動しようとした。

処置: 必要に応じて、MTS_MAX_SERVERS 初期化パラメータの値を増加するか、または適切なサーバーの数で ALTER SYSTEM SET MTS_SERVERS コマンドを再発行してください。

ORA-00112 ディスパッチャの最大数は *string* です。

原因：システム・パラメータ MTS_MAX_DISPATCHERS に指定されているよりも多くのディスパッチャを起動しようとした。

処置：必要に応じて、MTS_MAX_DISPATCHERS 初期化パラメータの値を増加してください。

ORA-00113 プロトコル名 *string* が長すぎます。

原因：MTS_DISPATCHERS 初期化パラメータで指定されたプロトコル名が長すぎます。

処置：MTS_DISPATCHERS 値の有効なプロトコル名を使用してください。

ORA-00114 システム・パラメータ MTS_SERVICE の値が指定されていません。

原因：初期化パラメータ MTS_SERVICE のみでなく、DB_NAME パラメータの値も存在しません。

処置：初期化ファイルに MTS_SERVICE または DB_NAME の定義を追加してください。明示的に MTS_SERVICE を指定しない場合、この値はデフォルトで DB_NAME の値に等しくなります。

ORA-00115 接続が拒否されました ; ディスパッチャ接続表の容量が限界に達しています。

原因：ディスパッチャがこれ以上接続をサポートしないために、ディスパッチャによって接続要求が拒否されました。

処置：別のディスパッチャに接続するか、または専用サーバーを使用してください。

ORA-00116 MTS_SERVICE 名が長すぎます。

原因：MTS_SERVICE 初期化パラメータに指定されたサービス名が長すぎます。

処置：短いサービス名を MTS_SERVICE 値に使用してください (225 字以下)。

ORA-00117 システム・パラメータ MTS_SERVERS が有効範囲にありません。

原因：MTS_SERVERS パラメータに指定された値が正しくありません。

処置：MTS_SERVERS は 0 (ゼロ) を超えて、MTS_MAX_SERVERS の値未満である必要があります。

ORA-00118 システム・パラメータ MTS_DISPATCHERS が有効範囲にありません。

原因：MTS_DISPATCHERS パラメータの値が正しくありません。

処置：MTS_DISPATCHERS 値すべての合計は、0 (ゼロ) 以上 MTS_MAX_DISPATCHERS の値以下である必要があります。

ORA-00119 システム・パラメータ MTS_LISTENER_ADDRESS の指定が無効です。

原因：MTS_LISTENER_ADDRESS パラメータの構文が正しくありません。

処置：正しい構文については、『Oracle8i リファレンス・マニュアル』を参照してください。

ORA-00120 ディスパッチャ機能が使用可能になっていません。

原因: ディスパッチャ機能が使用可能になっていないか、またはディスパッチャ機能を使用して Oracle の実行イメージがインストールされていません。

処置: ディスパッチャ・プロセスの開始および設定の手順は、『Oracle8i 管理者ガイド』およびご使用のオペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。

ORA-00121 MTS_SERVERS が MTS_DISPATCHERS なしで指定されています。

原因: MTS_SERVERS の定義は INIT.ORA ファイルで指定されていますが、MTS_DISPATCHERS の定義はありません。MTS_DISPATCHERS の値を設定しないと、共有サーバーを使用できません。

処置: INIT.ORA ファイルにある MTS_DISPATCHERS の定義を追加してください。(または MTS が使用されていない場合は、MTS_SERVERS の定義を取り除いてください。)

ORA-00122 ネットワーク構成を初期化できません。

原因: Oracle は Net8 を初期化できませんでした。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-00123 アイドル状態の共有サーバーが終了しています。

原因: 共通の待ち行列で待機中の、アイドル状態のサーバーの数が多すぎます。

処置: このエラーは内部的に使用されます。処置は必要ありません。

ORA-00124 MTS_DISPATCHERS が MTS_MAX_SERVERS なしで指定されています。

原因: MTS_DISPATCHERS の定義は INIT.ORA ファイルで指定されましたが、MTS_MAX_SERVERS に 0 (ゼロ) が指定されました。

処置: MTS_MAX_SERVERS に 0 (ゼロ) より大きい値を指定してください。

ORA-00125 接続は拒否されました。PRESENTATION が無効です。

原因: TNS アドレス DESCRIPTION の CONNECT_DATA にある PRESENTATION が正しくないか、またはサポートされていません。

処置: TNS アドレスで指定された PRESENTATION を修正してください。

ORA-00126 接続は拒否されました。DUPLICITY が無効です。

原因: TNS アドレス DESCRIPTION の CONNECT_DATA にある DUPLICITY が正しくないか、またはサポートされていません。

処置: TNS アドレスで指定された DUPLICITY を修正してください。

ORA-00127 ディスパッチャ *string* は存在しません。

原因: 現在、指定した名前のディスパッチャは実行されていません。

処置: 存在するディスパッチャ・プロセスを D### 形式の名前で指定して、再試行してください。

ORA-00128 このコマンドにはディスパッチャ名が必要です。

原因: ALTER SYSTEM SHUTDOWN の構文が間違っています。

処置: 正しい構文を使用してください。

```
ALTER SYSTEM SHUTDOWN [ IMMEDIATE ] 'dispatcher name'
```

ORA-00150 トランザクション ID が重複しています。

原因: 既存のトランザクションによってすでに使用されている ID で、新規のトランザクションを開始しようとした。

処置: ご使用のアプリケーションを確認してください。

ORA-00151 トランザクション ID が無効です。

原因: 指定されたトランザクション ID は、存在する有効なトランザクションに対応していません。

処置: ご使用のアプリケーションを確認してください。

ORA-00152 カレント・セッションが要求されたセッションと一致しません。

原因: カレント・セッションは UPIXADO() コールに渡されたものと異なっています。

処置: ご使用のアプリケーションを確認してください。

ORA-00153 XA ライブラリで内部エラーが発生しました。

原因: XA ライブラリはスレッド固有のポインタにアクセスできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00154 トランザクション・モニターでプロトコル・エラーが発生しました。

原因: トランザクション・モニターは AX_REG コールに対し TMJOIN を返しましたが、トランザクションはローカルに中断されました。

処置: トランザクション・モニター・ベンダーの技術サポートに連絡してください。

ORA-00155 グローバル・トランザクション以外では作業を実行できません。

原因: アプリケーションが、グローバル・トランザクション以外で Oracle 7.3 Server の作業を実行しようとした。

処置: そのアプリケーションが Oracle 7.3 Server に接続されているか確認してください。リソース・マネージャが Oracle 7.3 の場合、AX_REG コールに対してトランザクション・モニターから NULL XID を返してはいけません。

ORA-00160 グローバル・トランザクション長 *string* が最大値 (*string*) を超えています。

原因: フィールド長が長すぎる外部グローバル・トランザクション ID が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00161 トランザクション・ブランチ長 *string* が不正です (最大許容長 *string*)。

原因: 長すぎる、または長さが 0 の外部トランザクション・ブランチ ID が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00162 外部 DBID 長 *string* が最大値 (*string*) を超えています。

原因: フィールド長が長すぎる外部データベース名が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00163 内部データベース名の長さ *string* が最大長 (*string*) を超えています。

原因: フィールド長が長すぎる内部データベース名が渡されました。

処置: この問題を外部トランザクションのコーディネータ・ベンダーに連絡してください。

ORA-00200 制御ファイルを作成できませんでした。

原因: 制御ファイルを作成できませんでした。

処置: 十分なディスク領域があることおよびファイル名の重複がないことを確認して、再度、制御ファイルを作成してください。

ORA-00201 制御ファイルのバージョン: *string* には Oracle のバージョン *string* との互換性がありません。

原因: 制御ファイルが互換性のないソフトウェアによって作成されました。

処置: 互換性のあるソフトウェア・リリースで再起動するか、または CREATE CONTROLFILE を使用して、このリリースと互換性のある新規の制御ファイルを作成してください。

ORA-00202 制御ファイル: *string*

原因: 他のエラー・メッセージに関連するファイル名です。

処置: 問題の記述については関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00203 無効な制御ファイルを使用しています。

原因: 制御ファイル内のマウント ID が、このデータベースをマウントするために最初のインスタンスで使用された制御ファイル内のマウント ID と同一ではありません。これらの制御ファイルは同一データベース用ですが、同一ファイルではありません。1 つのインスタンスがバックアップ制御ファイルを使用している可能性があります。

処置: 正しい制御ファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-00204 制御ファイル (ブロック *string*, 番号 *string*) で読み込みエラーが発生しました。

原因: ディスクの I/O 障害が、制御ファイルの読み込み中に検出されました。

処置: ディスクがオンラインになっていることを確認してください。オンラインになっていなければオンラインにして、Oracle を停止してから再起動してください。ディスクがオンラインになっている場合は、オペレーティング・システムの状況を調査して Oracle がディスクまたは制御ファイルを読み込めない原因を見つけてください。破損した制御ファイルのリカバリに関しては、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。ご使用のオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00205 制御ファイル識別エラー。詳細はアラート・ログをチェックしてください。

原因: システムは指定された名前およびサイズの制御ファイルを見つけることができません。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- 正しい制御ファイル名が初期化パラメータ・ファイルの CONTROL_FILES 初期化パラメータで、正しく指定されていることを確認した上で操作を再実行する。
- ミラー化制御ファイルの（つまり、初期化パラメータ・ファイルで複数の制御ファイルを参照している）場合、エラー・メッセージに示された制御ファイル名を初期化パラメータ・ファイルから削除し、インスタンスを再起動する。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成する。

ORA-00206 制御ファイルで（ブロック *string*, 番号: *string*）書込みエラーが発生しました。

原因: ディスクの I/O 障害が、制御ファイルの書込み中に検出されました。

処置: ディスクがオンラインになっていることを確認してください。オンラインになっていなければオンラインにして、Oracle を停止してから再起動してください。ディスクがオンラインになっている場合は、オペレーティング・システムの状況を調査して Oracle がディスクまたは制御ファイルを書き込めない原因を見つけてください。破損した制御ファイルのリカバリに関しては、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。ご使用のオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00207 同一データベースに対する制御ファイルではありません。

原因: 制御ファイル内のマウント ID が、このデータベースをマウントするために最初のインスタンスで使用されたマウント ID と同一ではありません。一方のマウントで間違った制御ファイルを使用しているか、または 2 つのデータベースが同一の名前を持っている可能性があります。

処置: 制御ファイルを正しいデータベースに対して使用しており、旧バージョンのものでないことをチェックしてください。制御ファイルを多重化している（つまり、初期化パラメータ・ファイルで複数の制御ファイルを参照している）場合、エラー・メッセージに示された制御ファイルの名前を初期化パラメータ・ファイルから削除し、インスタンスを再起動してください。エラー・メッセージが表示されなくなったら、問題の制御ファイルを初期化パラメータ・ファイルから削除し、新しいファイル名を指定して、初期化パラメータ・ファイル内に制御ファイルの別のコピーを作成してください。

ORA-00208 制御ファイル名の数が制限数 *string* を超えています。

原因: Oracle サポートの制限を超える数の制御ファイルを使用しようとした。

処置: Oracle をシャットダウンしてください。初期化パラメータ・ファイル内の CONTROL_FILES パラメータの制御ファイルの数を減らしてから Oracle を再起動してください。使用していないファイルを削除してください。

ORA-00209 制御ファイルのブロック・サイズの不一致。詳細はアラート・ログをチェック。

原因: 制御ファイル・ヘッダーのブロック・サイズが、DB_BLOCK_SIZE パラメータで指定されたサイズと一致しません。

処置: エラー・メッセージに指示されたサイズまでブロック・サイズを減らしてから操作を再試行してください。

ORA-00210 指定された制御ファイルをオープンできません。

原因: 制御ファイルをオープンできません。

処置: 制御ファイルが存在し、それが別のプログラムによってロックされていないかを確認してください。

ORA-00211 制御ファイルが前の制御ファイルと一致していません。

原因: 制御ファイルが、別のデータベースに属するよう指定されました。

処置: 正しい制御ファイルを見つけてインストールしてください。

ORA-00212 ブロック・サイズ *string* が必要最小サイズ *string* バイト未満です。

原因: 指定されたブロック・サイズが小さすぎます。システム・オーバーヘッドの領域が必要です。

処置: より大きいブロック・サイズを指定して操作を再試行してください。

ORA-00213 制御ファイルを再使用できません。旧ファイル・サイズは *string* です。 *string* が必要です。

原因: 制御ファイルを再使用するためには、前に使用したものと同じファイル・サイズである必要があります。

処置: REUSE を指定しないか、CREATE DATABASE または CREATE CONTROLFILE 文にある MAXDATAFILES 句、MAXLOGFILES 句、MAXLOGMEMBERS 句、MAXLOGHISTORY 句および MAXINSTANCES 句の一致した組合せを指定してください。

ORA-00214 制御ファイル *string* のバージョン *string* はファイル *string* のバージョン *string* と適合しません。

原因: 使用した制御ファイルとデータ・ファイルおよびログ・ファイルのバージョンが一致しません。

処置: 一貫した制御ファイル、データ・ファイルおよびログ・ファイルの組を使用してください。つまり、ファイルはすべて同じデータベースに対するもので、同時期のものである必要があります。

ORA-00215 少なくとも 1 つの制御ファイルが必要です。

原因: 制御ファイルが指定されていません、または、指定した制御ファイルが存在しません。

処置: 少なくとも 1 つ有効な制御ファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-00216 8.0.2 の制御ファイルは、移行用にサイズ変更できません。

原因: リリース 8.0.2 で作成された制御ファイル内のレコードが欠けています。これ以降のリリースを実行しようとするとき、制御ファイルのサイズを変更することによって欠けているレコードが自動的に追加されますが、このサイズ変更に失敗しました。

処置: サイズ変更失敗の原因をアラート・ログで調べてください。制御ファイルにスペースを追加して解決されるようであれば、追加してください。解決しなければ、トレース・ファイルにダンプされた CREATE CONTROLFILE スクリプトを使用して新しい制御ファイルを作成してください。

ORA-00218 制御ファイルのブロック・サイズ *string* が DB_BLOCK_SIZE (*string*) と一致しません。

原因: 制御ファイル・ヘッダーに格納されたブロック・サイズが、初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE の値と異なります。これは、DB_BLOCK_SIZE が間違って設定されたか、制御ファイルが破損してしまったか、あるいは別のデータベースに属している可能性があります。

処置: 破壊されていない制御ファイルのコピーをリストアしてください。

ORA-00219 必要な制御ファイル・サイズ *string* が、最大許容サイズ *string* を超えています。

原因: CREATE DATABASE、CREATE CONTROLFILE、cfileCalcSizeList または cfileCalcSizeArray が、最大許容値を超える制御ファイル・サイズ（ブロック単位）を必要とするパラメータの組合せを指定して実行されました。

処置: CREATE DATABASE または CREATE CONTROLFILE の場合、MAXDATAFILES 句、MAXLOGFILES 句、MAXLOGMEMBERS 句、MAXLOGHISTORY 句および MAXINSTANCES 句の別の組合せを使用してください。cfileCalcSizeList() または cfileCalcSizeArray() の場合、レコード単位でカウントされる別の組合せを使用してください。

ORA-00220 制御ファイルが最初のインスタンスでマウントされていない。アラート・ログをチェック

原因: 指定された制御ファイルは、マウントされている他の制御ファイルとは異なるマウント ID を持っています。これは、データベースをマウントした最初のインスタンスがこの制御ファイルを使用しないことを意味します。

処置: 正しい制御ファイルを見つけてインストールしてください。

ORA-00221 制御ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

原因: 1 つ以上の制御ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-00222 現在マウントされている制御ファイルの名前を再使用します。

原因: ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドまたは cfileSetSnapshotName へのパラメータとして指定されたファイル名が、現在マウントされている制御ファイルの名前と一致しません。

処置: 別のファイル名で操作を再試行してください。

ORA-00223 変換ファイルが無効またはバージョンが正しくありません。

原因: Oracle7 から Oracle8 への変換ファイルが、無効なデータを含んでいるか、または別のバージョンの移行ユーティリティによって作成されました。このエラーは、ALTER DATABASE CONVERT コマンドの発行時に、間違った ORACLE_HOME 環境変数を指定した場合にも発生します。

処置: 正しいバージョンの変換ファイルを使用するか、または移行ユーティリティで変換ファイルを再生成してください。移行ユーティリティが実行可能な Oracle8 RDBMS と同じバージョンであることと、環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定されていることを確認してください。

ORA-00224 無効なレコード・タイプ *string* で制御ファイルをサイズ変更しようとしてしました。

原因: RECORD_TYPE パラメータに無効な値を使用して cfileResizeSection をコールすることによって、制御ファイルを拡張または縮小しようとしてしました。

処置: 0 (ゼロ) 型以外の有効なレコード型 (有効範囲は 1 から 16) を指定する RECORD_TYPE パラメータの値を使用してください。

ORA-00225 制御ファイルに必要なサイズ *string* が実際のサイズ *string* と異なっています。

原因: 制御ファイルのヘッダーに指定されている制御ファイルに必要なサイズと実際のオペレーティング・システム・ファイルのサイズが異なっています。通常、これは制御ファイルが破損していることを示しています。

処置: 破損していない制御ファイルのコピーをリストアしてください。

ORA-00226 代替制御ファイル・オープン中は操作できません。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。このプロセスでは固定表アクセス用に代替制御ファイルがオープンされています。

処置: cfileUseCurrent をコールした後、操作を再試行してください。

ORA-00227 制御ファイル (ブロック *string*, 番号 *string*) で破損ブロックが検出されました。

原因: 制御ファイルの読取り中に、ブロック・ヘッダーの破損またはチェックサム・エラーが検出されました。

処置: CREATE CONTROLFILE または RECOVER DATABASE USING BACKUP CONTROLFILE コマンドを使用してください。

ORA-00228 代替制御ファイル名の長さが最大値 *string* を超えています。

原因: cfileSetSnapshotName または cfileUseCopy のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

処置: ファイル名を短くして操作を再試行してください。

ORA-00229 処理不可:すでにスナップショット制御ファイル・エンキュを保持しています。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。このプロセスでスナップショット制御ファイル・エンキュを保持しています。

処置: cfileUseCurrent をコールしてスナップショット制御ファイル・エンキュを開放した後、操作を再試行してください。

ORA-00230 処理不可:スナップショット制御ファイル・エンキュが使用できません。

原因: 実行しようとした操作は、現在実行できません。別のプロセスでスナップショット制御ファイル・エンキュを保持しています。

処置: スナップショット制御ファイル・エンキュを保持している並行操作が終了してから操作を再試行してください。

ORA-00231 スナップショット制御ファイルの名前が指定されていません。

原因: cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseSnapshot 呼出しの間に、前回指定されていたスナップショット制御ファイルのファイル名が指定されていないことがわかりました。

処置: cfileSetSnapshotName をコールし、スナップショット制御ファイル名を指定してください。

ORA-00232 スナップショット制御ファイルが存在しないか、不正か、読み込み不可です。

原因: cfileUseSnapshot 呼出しの間に、スナップショット制御ファイルが存在しないか、不正か、読み込み不可であることがわかりました。

処置: cfileMakeAndUseSnapshot を再コールまたは初回コールしてください。

ORA-00233 コピー制御ファイルが不正か、読み込み不可です。

原因: cfileUseCopy 呼び出しの間に、指定のコピー制御ファイルが不正か、読み込み不可であることがわかりました。

処置: ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドを実行し、cfileUseCopy と同じファイル名を指定してから、cfileUseCopy を再試行してください。

ORA-00234 スナップショットかコピー制御ファイルの識別エラー、またはオープン・エラー。

原因: cfileUseSnapshot、cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseCopy 呼出しで、指定の名前のスナップショットまたはコピーの制御ファイルが、検出されないか、オープンできません。

処置: cfileMakeAndUseSnapshot または ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE を使用して、スナップショットまたはコピー制御ファイルをそれぞれ再作成してください。

ORA-00235 同時更新されたため制御ファイル固定テーブルが矛盾しています。

原因: 制御ファイルの更新アクティビティが同時に実行されたので、制御ファイル固定テーブルの問合せで、矛盾した情報が読み込まれました。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-00236 スナップショット処理不可: マウントされた制御ファイルはバックアップです。

原因: 現行のマウントされた制御ファイルがバックアップ制御ファイルであるときに、cfileSetSnapshotName、cfileMakeAndUseSnapshot または cfileUseSnapshot を呼び出そうとしました。

処置: カレント制御ファイルをマウントして操作を再試行してください。

ORA-00237 スナップショット処理不可: 制御ファイルが新規に作成されました。

原因: CREATE CONTROLFILE で新規に作成された制御ファイルをマウントしているときに、cfileMakeAndUseSnapshot を呼び出そうとしました。

処置: カレント制御ファイルをマウントして操作を再試行してください。

ORA-00238 データベースの一部であるファイル名が再使用されます。

原因: ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドまたは cfileSetSnapshotName のパラメータとして渡されたファイル名が、現行のデータベースの一部であるファイル名と一致します。

処置: 別のファイル名で操作を再試行してください。

ORA-00250 アーカイバが起動していません。

原因: 自動アーカイブを停止しようとしたますが、アーカイバ・プロセスは実行されていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-00251 LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST は文字列 *string* と同じ宛先にできません。

原因: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータで指定された宛先が、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドで指定された宛先と同じです。

処置: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータに別の宛先を指定するか、ALTER SYSTEM コマンドで別の宛先を指定してください。

ORA-00252 ログ *string* (スレッド *string*) は空であるためアーカイブできません。

原因: アーカイブする前に、ログを REDO 生成に使用する必要があります。指定されたログはデータベースに認識されて以来使用されていません。ただし、ログ・スイッチにおいてインスタンスが消滅した可能性があり、ログは空です。

処置: 空のログをアーカイブする必要はありません。REDO ログ・ファイルをアーカイブしないでください。

ORA-00253 文字制限 *string* が、アーカイブ先文字列 *string* の分だけ超過しています。

原因: ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドで指定された宛先が長すぎます。

処置: エラー・メッセージに指定されている制限より短い文字列を使用して、ALTER SYSTEM コマンドを再試行してください。

ORA-00254 アーカイブ制御文字列 *string* でエラーが発生しました。

原因: 指定されたアーカイブ・ログ位置は、アーカイブ・コマンドにおいても LOG_ARCHIVE_DEST 初期化パラメータにおいても有効ではありません。

処置: 使用されたアーカイブ文字列を確認し、有効なオンライン・デバイスを参照していることを確認してください。

ORA-00255 アーカイブ (ログ *string*, スレッド *string*, 順序番号 *string*) 中にエラーが発生しました。

原因: アーカイブ中にエラーが発生しました。

処置: 付随するエラー・メッセージ・スタックを調べてさらに詳しい情報を得てください。オンライン・ログが壊れている場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログを消去してください。ログ作成後までのバック・アップによるリカバリは使用不可になりますが、データベースで REDO が生成できます。

ORA-00256 アーカイブ先文字列 *string* を変換できません。

原因: ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドで指定された宛先が変換できません。

処置: 付随するエラー・メッセージ・スタックを調べてさらに詳しい情報を得てください。別の文字列を使用して、ALTER SYSTEM コマンドを再試行してください。

ORA-00257 アーカイブ・エラーです。DBA に連絡してください。

原因: ARCH プロセスが REDO ログをアーカイブしようとしてエラーを受け取りました。問題がすぐに解決されない場合、データベースはトランザクションの実行を停止します。アーカイブ先のデバイスで REDO ログ・ファイルを格納する領域が不足している可能性があります。

処置: アーカイバ・トレース・ファイルをチェックして問題の詳細な説明を調べてください。また、ARCHIVE_LOG_DEST 初期化パラメータに指定されたデバイスがアーカイブに対して適切にセットアップされていることを検証してください。

ORA-00258 NOARCHIVELOG モードの手動アーカイブではログ指定が必要です。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードです。手動でログをアーカイブするコマンドで、順序番号、グループ番号またはファイル名で、ログを明示的に指定しませんでした。

処置: ファイル名、グループ番号またはスレッドおよび順序番号でログを指定してください。

ORA-00259 ログ *string* (スレッド *string*) は現行ログです。アーカイブできません。

原因: オープン・スレッドの現行ログをアーカイブしようとした。ログ・ファイルは REDO エントリを生成するために使用されるので、この操作は実行できません。

処置: スレッドがオープンしているインスタンスのログ・スイッチを強制実行してください。インスタンスがオープンされていない場合、データベースをオープンする必要があります。その後、インスタンス・リカバリはスレッドをリカバリできます。

ORA-00260 オンライン・ログ順序番号 *string* がスレッド *string* に対して見つかりません。

原因: ARCHIVE 文にあるログ順序番号に一致するオンライン・ログがスレッドにありません。このことは、次の状況で起こる可能性があります。

- このログは他の順序番号で再使用された。
- このログは消去された。
- 順序番号が現時点のログ順序番号より大きい。
- いずれのログもスレッドに存在しない。

処置: ARCHIVE 文を調べて、有効なログ順序番号を指定してください。有効なログ順序番号を指定してください。

ORA-00261 ログ *string* (スレッド *string*) は現在アーカイブ中または修正中です。

原因: 他のプロセスによってログは現在アーカイブされているか、または管理コマンドがログを修正中です。ログを修正する操作には、消去、メンバーの追加、メンバーの削除、メンバーの改名およびログの削除があります。

処置: カレント操作が終了するのを待って、再試行してください。

ORA-00262 現行ログ *string* (クローズしているスレッド *string*) は切替えできません。

原因: ログはクローズされたスレッドの現行ログなので、消去したり手動でアーカイブすることはできません。別のログを現行ログにするためにログを切り換えることはできません。このスレッドに対する他のすべてのログをアーカイブし消去する必要があり、再使用できません。

処置: 同じスレッドの中の別のログを最初にアーカイブするか、または他のログをすべて消去してください。切替えができない原因を引き起こす付随するエラーを調べてください。

ORA-00263 スレッド *string* でアーカイブを必要とするログがありません。

原因: このスレッドにあるアーカイブされていないログを手動でアーカイブしようとしたが、アーカイブが必要なログがありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-00264 リカバリは必要ありません。

原因: どのような種類のリカバリも必要ないファイルに対してメディア・リカバリを行おうとしました。

処置: 選択したファイルに対してメディア・リカバリを行わないでください。ファイル名が適切に指定されていることを調べてください。そうでない場合には適切なファイル名を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00265 インスタンス・リカバリが必要ですが、ARCHIVELOG モードに設定できません。

原因: データベースがクラッシュしたか、または ABORT オプションによって停止されました。オンライン・ログがカレント・データ・ファイルをリカバリするには不十分な可能性があるため、メディア・リカバリを使用できません。

処置: データベースをオープンしてから、NORMAL または IMMEDIATE を指定して SHUTDOWN コマンドを入力してください。

ORA-00266 アーカイブ済みログ・ファイルの名前が必要です。

原因: メディア・リカバリ中にアーカイブ REDO ログ・ファイルの名前を入力するように要求されましたが、入力しませんでした。

処置: 正しいログ・ファイルをマウントして、要求された時点でその名前を入力してください。

ORA-00267 アーカイブ済みログ・ファイルの名前は必要ありません。

原因: メディア・リカバリ中にアーカイブ REDO ログ・ファイルの名前が入力されましたが、名前は要求されませんでした。

処置: 新たなログ・ファイルの名前を入力しないでメディア・リカバリを継続してください。

ORA-00268 指定したログ・ファイルは存在しません (string)。

原因: 指定した REDO ログ・ファイルは存在しません。

処置: ファイル名の綴りと大文字小文字の区別を確認してからコマンドを再試行してください。

ORA-00269 指定したログ・ファイルはスレッド *string* の一部で、*string* ではありません。

原因: 指定した REDO ログ・ファイルは指定されたスレッドの一部ではありません。

処置: 適切なスレッドから REDO ログ・ファイルを使用していない場合、REDO ログ・ファイルのスレッドがコマンド行上のスレッドと一致していることを確認してください。一致していない場合は、適切なスレッドから REDO ログ・ファイルを使用してください。エラーを修正してからコマンドを再試行してください。

ORA-00270 アーカイブ・ログ *string* の作成でエラーが発生しました。

原因: アーカイブ先のファイルを作成、またはオープンしているときにエラーが発生しました。

処置: アーカイブ先が有効であり、アーカイブ先のデバイス上に十分なスペースがあることを確認してください。

ORA-00271 アーカイブの必要なログは存在しません。

原因: アーカイブされていないログ・ファイルを手動でアーカイブしようとしたが、アーカイブの必要なファイルは存在しません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-00272 アーカイブ・ログ *string* の書込みでエラーが発生しました。

原因: ログ・ファイルのアーカイブ中に I/O エラーが発生しました。

処置: 出力デバイスが使用可能な状態にあることを確認し、発生したデバイス・エラーを訂正してください。また、アーカイブのための十分なスペースが出力デバイス上で使用可能であることを確認してください。

ORA-00273 ダイレクト・ロード・データのメディアのリカバリは記録されていません。

原因: メディア・リカバリセッションで、ダイレクト・ローダーによってロードされ、REDO 情報を記録していない表が見つかりました。この表の中のブロックのいくつか、またはすべては欠陥ありとしてマークされました。

処置: 表を削除するか切捨てて、欠陥のあるブロックを再使用できるようにしてください。ファイルの最新のバックアップが使用できる場合、このファイルをリカバリしてエラーを解決してください。

ORA-00274 リカバリ・オプション *string* が無効です。

原因: 無効なオプションがリカバリ・コマンドに対して指定されました。

処置: 構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

ORA-00275 メディアのリカバリがすでに開始されています。

原因: 同一のセッションで2回目のメディア・リカバリを開始しようとした。

処置: 最初のメディア・リカバリ・セッションを完了するか、または取り消してください。またはメディア・リカバリを実行するために別のセッションを開始してください。

ORA-00276 CHANGE キーワードに変更数が指定されていません。

原因: コマンド行に CHANGE キーワードが指定されましたが、変更数が指定されていません。

処置: CHANGE キーワードの後に有効な変更数を指定してコマンドを再試行してください。

ORA-00277 UNTIL リカバリ・フラグ *string* に対するオプションが無効です。

原因: UNTIL キーワードとともに使用できるのは CANCEL、CHANGE、および TIME のみです。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00278 ログ・ファイル *string* はこのリカバリでは必要なくなりました。

原因: 指定した REDO ログ・ファイルはカレント・リカバリでは必要なくなりました。

処置: 処置は必要ありません。アーカイブされた REDO ログ・ファイルを必要に応じて、カレント位置から削除すると、ディスク領域を節約できます。ただし、将来、別のリカバリ・セッションにこの REDO ログ・ファイルが必要になることもあります。

ORA-00279 変更 *string* (*string* で生成) にはスレッド番号 *string* が必要です。

原因: リカバリを続行するには要求されたログが必要です。

処置: 要求されたログに ALTER DATABASE RECOVER LOGFILE ファイル名を指定するか、ALTER DATABASE RECOVER CANCEL でリカバリを取り消してください。

ORA-00280 変更 *string* (スレッド *string*) は順序番号 *string* に存在します。

原因: このメッセージは、他のエラー・メッセージで要求される REDO ログ・ファイルを指定された変更番号で配置するのに役立ちます。

処置: このメッセージで示された情報を使用して、他のエラーのために必要なアーカイブ REDO ログ・ファイルを指定してください。

ORA-00281 メディアのリカバリにディスクパッチャは使用できません。

原因: ディスクパッチャ・プロセスを使用してメディア・リカバリを実行しようとした。メモリー要件によって、メディア・リカバリを実行するときにディスクパッチャ・プロセス接続は使用できません。

処置: 専用サーバー・プロセスを介してインスタンスを接続し、メディア・リカバリを実行してください。

ORA-00282 UPI *string* コールはサポートされません。ALTER DATABASE RECOVER を使用してください。

原因: 指定された UPI コールは現在サポートされていません。

処置: すべてのリカバリ処理には、ALTER DATABASE RECOVER コマンドを使用してください。

ORA-00283 エラーによってリカバリ・セッションは取り消されました。

原因: リカバリ中に発生したエラーは、カレント・リカバリ・セッションを終了させる致命的なエラーと判断されました。

処置: このメッセージとともに詳細なメッセージが示されます。適切な処置については他のメッセージを調べてください。

ORA-00284 リカバリ・セッションは継続します。

原因: リカバリ中に発生したエラーは、カレント・リカバリ・セッションを継続できる致命的ではないエラーと判断されました。

処置: このメッセージとともに詳細なメッセージが示されます。適切な処置については他のメッセージを調べてください。

ORA-00285 TIME は文字列制約として指定されていません。

原因: 時間の文字列制約として UNTIL TIME が指定されていません。

処置: 一重引用符 (') で囲んで時間を入力してください。

ORA-00286 有効なデータを持ったメンバーが存在しません。

原因: 使用可能な REDO ログ・ファイル・グループのメンバーが存在しないか、または使用可能なメンバーに完全なデータが含まれていません。

処置: メンバーが一時的にオフラインになっている場合には使用できるようにしてください。特に REDO ログ・ファイルをリモート・アクセスしている場合には、正しいファイル名を使用していることを確認してください。

ORA-00287 指定された変更番号 *string* はスレッド *string* にはありません。

原因: 指定された変更番号は指定されたスレッドに対するオンライン REDO ログに存在しません。

処置: 文を調べて有効な変更番号を指定してください。アーカイブ・ログに対しては NEXT オプションを使用してください。

ORA-00288 リカバリを継続するには ALTER DATABASE RECOVER CONTINUE を入力してください。

原因: メディア・リカバリにおいて、新しいログは必要ではありませんが、チェックポイントを行い、エラーをレポートするために CONTINUE コマンドが必要です。

処置: ALTER DATABASE RECOVER CONTINUE を入力して、リカバリを再開してください。

ORA-00289 検討すべきログ・ファイル: *string*

原因: 初期化パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST および LOG_ARCHIVE_FORMAT によって、必要とされる次の REDO ログ・ファイル名をこのメッセージは示しています。このメッセージでは、必要とされる REDO ログ・ファイルがアーカイブされた時点で LOG_ARCHIVE_DEST と LOG_ARCHIVE_FORMAT が同一であると想定しています。

処置: リカバリに必要とされる次のログ・ファイルには、このファイル名を使用するようにしてください。

ORA-00290 OS のアーカイブ・エラーが発生しました。次のエラーを参照してください

原因: REDO ログ・ファイルにアーカイブを試みている途中で、サーバーにおいて予期しないオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置: メッセージに示されているオペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。さらにオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00291 PARALLEL オプションには数値が必要です。

原因: リカバリ・コマンドが誤って指定されました。PARALLEL オプションにパラレル度を指定する引数が続かなければなりません。

処置: 望ましいパラレル度を指定する引数を使用してコマンドを再入力してください。

ORA-00292 パラレル・リカバリ機能がインストールされていません。

原因: パラレル・リカバリが要求されましたが、パラレル・リカバリ・オプションがインストールされていません。

処置: RECOVER コマンドから PARALLEL 句を削除してください。また、初期化ファイルの RECOVERY_PARALLELISM パラメータも削除してください。

ORA-00293 制御ファイルが REDO ログと同期していません。

原因: インスタンスの起動時にカレントではない制御ファイルが指定されたので、REDO ログ・ファイルと制御ファイルが同期しません。

処置: カレント制御ファイル、または USING BACKUP CONTROL FILE 句を使用して RECOVER コマンドを再試行してください。

ORA-00294 アーカイブ・ログ・フォーマットの指定子 *string* が無効です。

原因: LOG_ARCHIVE_FORMAT 初期化パラメータに、無効なフォーマット指定子が検出されました。*string* に指定できる文字は、s、S、t および T のみです。

処置: 初期化パラメータ・ファイルを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-00295 データ・ファイル番号 *string* が無効です。1 以上 *string* 以下に指定してください。

原因: 無効なファイル番号が指定されました。

処置: 正しいデータ・ファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-00296 RECOVER DATAFILE LIST の最大ファイル数 (*string*) を超えています。

原因: RECOVER DATAFILE LIST コマンドが、DB_FILES 初期化パラメータで許可されるファイルより多くのデータ・ファイルを指定しました。Recovery Manager でリカバリを実行し、DB_FILES 初期化パラメータでインスタンスが開始されているとき、このエラーは発生します。ここで DB_FILES 初期化パラメータに、ユーザーの RECOVER コマンドを実行するために Recovery Manager がリカバリする必要があるデータ・ファイルより少ないデータ・ファイルを指定しています。

処置: DB_FILES を大きくしてインスタンスを再起動してください。

ORA-00297 RECOVER DATAFILE START の前に RECOVER DATAFILE LIST の指定が必要です。

原因: RECOVER DATAFILE START コマンドが発行されましたが、RECOVER DATAFILE LIST コマンドが発行されませんでした。Recovery Manager は常に RECOVER DATAFILE START の前に RECOVER DATAFILE LIST を発行するため、Recovery Manager でリカバリを実行するときのみ、このエラーが発生します。これは、Recovery Manager の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00298 TIMEOUT 間隔が欠落しているか、または無効です。

原因: TIMEOUT キーワードの後に、0（ゼロ）でない整数の TIMEOUT 間隔（分単位）が指定される必要があります。

処置: 構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

ORA-00300 REDO ログ・ブロック・サイズ *string* の指定が無効です。－ 制限値 *string* を超えています。

原因: オペレーティング・システムの最大ブロック・サイズより大きいブロック・サイズの REDO ログを指定しました。

処置: REDO ログのブロック・サイズを小さくして操作を再試行してください。

ORA-00301 ログ・ファイル *string* を追加でエラーが発生しました。ファイルを作成することができません。

原因: ログ・ファイルの作成に失敗しました。

処置: 次を確認してください。

1. デバイスに十分な記憶領域がある。
2. 有効なファイル名である。
3. デバイスがオンラインである。
4. I/O エラーが発生している。

また、コマンド行で REUSE が指定されている、または誤ったサイズのファイルが存在している可能性があります。REUSE を指定しないか、または正しいサイズのファイルを使用してください。

ORA-00302 ログの制限数 *string* を超えました。

原因: REDO ログ・ファイルの最大数を超えました。ログ・ファイルの数に関しては、データベース作成時に設定した制限があります（一般的には 16）。

処置: MAXLOGFILES の値を大きくして CREATE CONTROLFILE コマンドを実行してください。

ORA-00304 要求した INSTANCE_NUMBER は使用中です。

原因: すでに使用中の初期化パラメータ INSTANCE_NUMBER の値を使用してインスタンスを起動しようとしていました。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- 別の INSTANCE_NUMBER を指定する。
- この番号で実行中のインスタンスを停止する。
- この番号で実行中のインスタンスで、インスタンス・リカバリが終了するまで待機する。

ORA-00305 ログ *string* (スレッド *string*) が矛盾しています。別のデータベースに属しています。

原因: REDO ログ・ファイル中のデータベース ID が、制御ファイル内のデータベース ID と一致しません。この REDO ログ・ファイルは、カレント・データベースのもではありません。

処置: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00306 インスタンス数が制限数 *string* を超えました。

原因: このインスタンスを起動すると、このデータベースに許可されたインスタンスの最大数を超過してしまいます。このメッセージは、STARTUP 共有および複数インスタンスでのみ表示されます。

処置: 起動するインスタンス数は、次に示す数のいずれか小さい方の値までにしてください。

- オペレーティング・システム固有の最大数
- CREATE DATABASE 文に指定される MAXINSTANCES オプションによって指定されたインスタンス数

ORA-00307 要求した INSTANCE_NUMBER は有効範囲を超えています (最大値 *string*)。

原因: 初期化パラメータ INSTANCE_NUMBER に有効範囲外の数値が指定されました。

処置: INSTANCE_NUMBER の値を有効範囲内に変更してからインスタンスを再起動してください。最小値は 1 です。最大値は、オペレーティング・システム固有の最大値または CREATE DATABASE 文に指定された MAXINSTANCES オプションの値の小さい方になります。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-00308 アーカイブ・ログ *string* をオープンできません。

原因: アーカイブ REDO ログ・ファイルにシステムがアクセスできません。

処置: オフライン・ログが存在すること、および、記憶装置がオンラインになっていることとアーカイブ・ファイルの位置をチェックしてください。続いて、リカバリを続行するか、リカバリ・セッションを再起動してください。

ORA-00309 ログが無効なデータベースに属しています。

原因: ログが別のデータベースに属しているため、システムがアーカイブ REDO ログにアクセスできません。

処置: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00310 アーカイブ・ログは順序番号 *string* を含んでいますが、順序番号 *string* が必要です。

原因: アーカイブ・ログの順序番号が間違っています。アーカイブ・ログが破損したか、リカバリ中に違う REDO ログ・ファイル名が指定された可能性があります。

処置: 正しい REDO ログ・ファイルを指定して操作を再試行してください。

ORA-00311 アーカイブ済みログのヘッダーを読み込むことができません。

原因: アーカイブ REDO ログ・ファイルのログ・ファイル・ヘッダーを読み取ろうとしたときに I/O エラーが発生しました。

処置: このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。適切な処置については関係するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00312 オンライン・ログ *string* スレッド *string*: *string*

原因: このメッセージはファイル名を知らせます。詳細は別のエラーを参照してください。

処置: このメッセージとともに別のメッセージが表示されます。適切な処置については関係するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00313 ログ・グループ *string* (スレッド *string*) のメンバーをオープンできません。

原因: オンライン・ログをオープンできません。ファイルが存在すべき位置にない可能性があります。

処置: 必要であれば、正しい REDO ログ・ファイルを指定するかまたはログを使用可能にしてください。付随するメッセージも参照してください。

ORA-00314 ログ *string* (スレッド *string*) 順序番号 *string* が *string* と一致しません。

原因: オンライン・ログに欠陥があるか、またはファイルは古いバージョンです。

処置: ログの正しいバージョンを確認してインストールするか、ログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00315 ログ *string* (スレッド *string*) でヘッダーに無効なスレッド番号 *string* があります。

原因: オンライン・ログに欠陥があるか、またはファイルは古いバージョンです。

処置: ログの正しいバージョンを確認してインストールするか、ログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00316 ログ *string* (スレッド *string*) のヘッダー・タイプ *string* はログ・ファイルではありません。

原因: オンライン・ログに欠陥があるか、またはファイルは古いバージョンです。

処置: ログの正しいバージョンを確認してインストールするか、ログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00317 ヘッダーのファイル・タイプ *string* はログ・ファイルではありません。

原因: これはアーカイブ・ログ・ファイルではありません。

処置: 正しいファイルを見つけて、再試行してください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00318 ログ *string* (スレッド *string*) のファイル・サイズ *string* は *string* と一致しません。

原因: 制御ファイルに示されたファイル・サイズが、ログ・ファイル内の制御ファイルのファイル・サイズと一致しません。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00319 ログ *string* (スレッド *string*) のログ・リセット状態が無効です。

原因: オンライン REDO ログが、制御ファイルのものとは異なるログ・リセット・データを持っています。ログが間違っリストアされたバックアップである可能性があります。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00320 ログ *string* (スレッド *string*) からログ・ファイル・ヘッダーを読み込めません。

原因: ファイルが使用可能ではありません。

処置: ログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00321 ログ *string* スレッド *string* のファイル・ヘッダーを更新できません。

原因: ファイルに書込めません。

処置: ファイルへのアクセス権限を修正してください。

ORA-00322 ログ *string* (スレッド *string*) は現行コピーではありません。

原因: オンライン・ログは間違っリストアされたバックアップであると判断されました。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00323 現行ログ (スレッド *string*) は使用不可で他のログ・ファイルはすべてアーカイブが必要です。

原因: REDO 生成を別のオンライン・ログに切り換える必要がありますが、他のログはすべてアーカイブしてからでなければ使用できません。このため、スレッドをオープンしようとして失敗しました。

処置: スレッドのログをアーカイブして、オープンを再試行してください。

ORA-00324 ログ・ファイル *string* の変換された名前 *string* が長すぎます。 *string* 文字は制限 *string* を超えています。

原因: ログ・ファイルの変換名が長すぎます。

処置: より短い変換名の未変換名を選択してください。

ORA-00325 アーカイブ済みログ（スレッド *string*）でヘッダー内のスレッド番号 *string* が無効です。

原因：アーカイブ・ログが壊れているか、別のスレッド番号です。REDO の適応にログを使用できません。

処置：正しいアーカイブ・ログを見つけてください。

ORA-00326 ログは変更 *string* で開始します。もっと以前の変更 *string* が必要です。

原因：リカバリのために用意されたアーカイブ・ログは、必要となるログの後に生成されたものです。REDO に合ったログは、まだ使用できません。

処置：正しいアーカイブ・ログを見つけてください。

ORA-00327 ログ *string*（スレッド *string*）の物理サイズ *string* は *string* でなければなりません。

原因：ログ・ファイルのサイズが小さくなっています。これはコンピュータ処理の誤りか、オペレーティング・システム・エラーが原因です。

処置：バックアップからログ・ファイルをリストアしてください。バックアップを使用できない場合、このログを削除して再作成してください。データベースが正常に停止されているれば、これ以外の処置は必要ありません。データベースが正常に停止されていない場合、不完全なリカバリが必要になる場合があります。

ORA-00328 アーカイブ済みログは変更 *string* で終了します。もっと新しい変更 *string* が必要です。

原因：リカバリに指定されたアーカイブ・ログは、必要なログの前に生成されたものです。REDO に合ったログを使用できません。

処置：正しいアーカイブ・ログを見つけてください。

ORA-00329 アーカイブ済みログは変更 *string* で開始します。変更 *string* が必要です。

原因：アーカイブ・ログが正しいログではありません。もっと以前のログが必要です。

処置：正しいログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00330 アーカイブ済みログは変更 *string* で終了します。変更 *string* が必要です。

原因：アーカイブ・ログが正しいログではありません。もっと後のログが必要です。

処置：正しいログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00331 ログのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* との互換性がありません。

原因：ログが Oracle バージョンと互換性のないバージョンで書かれています。

処置：互換性のあるソフトウェアでデータベースをリカバリし、正常に停止してから、現在のソフトウェアで Oracle を再起動してください。

ORA-00332 ログが小さすぎて完全にアーカイブされていない可能性があります。

原因：割り当てられた領域よりも小さいログです。アーカイバでの書き込み中は、SHUTDOWN ABORT が原因の可能性があります。

処置：このログの完全バージョンを入手して、リカバリに使用してください。オンライン・バージョンまたは正常にアーカイブされたコピーのいずれかにあります。

ORA-00333 REDO ログの読み込みでエラーが発生しました（ブロック *string*, 件数 *string*）。

原因：付随のエラーに示されているログを読み込み中に、I/O エラーが発生しました。

処置：ファイルへのアクセス権限を修正するか、またはファイルの別のコピーを入手してください。

ORA-00334 アーカイブ済みログ：*string*

原因：このメッセージは他のエラーに関係のあるファイル名を示します。

処置：関連のあるエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00335 オンライン・ログ：*string* は存在しません。

原因：このメッセージは他のエラーに関係のあるファイル名を示します。

処置：関連のあるエラー・メッセージを参照してください。

ORA-00336 ログ・ファイルのサイズ *string* が最小ブロック *string* より小さくなっています。

原因：CREATE DATABASE 文に指定したログ・ファイルのサイズが小さすぎます。

処置：ログ・ファイル・サイズを増やしてください。

ORA-00337 ログ・ファイル *string* が存在しないかサイズが指定されていません。

原因：追加しようとしたログは存在せず、ファイル作成のためのサイズも指定されていません。

処置：ログ・ファイルにサイズを指定してください。

ORA-00338 ログ *string*（スレッド *string*）は制御ファイルよりも新しいものです。

原因：ログ・ファイル内の制御ファイル変更順序番号は制御ファイル内の番号よりも大きくなっています。これは間違った制御ファイルが使用されていることを示しています。このエラーが繰り返されると、実際の問題を訂正しないままエラーが発生しなくなることになります。データベースをオープンしようとするたびに、制御ファイル変更順序番号は十分な大きさになるまで更新されます。

処置：カレント制御ファイルを使用するか、バックアップ制御ファイルのリカバリを実行して、制御ファイルをカレントにしてください。バックアップ制御ファイルのリカバリの実行に関する制限事項すべてに必ず従ってください。

ORA-00339 アーカイブ済みログに REDO 情報が含まれていません。

原因: アーカイブ済みログが正しいログではありません。このログは、REDO 生成に使用されていないログ・ファイルのコピーか、現行のログになろうとしているオンライン・ログです。

処置: 正しいログ・ファイルをリストアしてください。

ORA-00340 オンライン・ログ *string* (スレッド *string*) 処理中に I/O エラーが発生しました。

原因: この名前のオンライン・ログで I/O エラーが発生しました。

処置: ファイルへのアクセス権限を修正するか、またはバックアップからファイルをリストアしてください。

ORA-00341 ログ *string* (スレッド *string*) でヘッダーに無効なログ番号 *string* があります。

原因: オンライン・ログ・ファイル内の内部情報が制御ファイルと一致しません。

処置: 正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。リカバリ手順については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-00342 アーカイブ済みログは最後の RESETLOGS より前に作成されました。

原因: 最後の ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンド以前に作成されたログをリカバリに使用しました。そのコマンドより後に作成された、正しい REDO を収録した別のログ・ファイルが必要です。

処置: 正しいログ・ファイルを指定してください。

ORA-00343 エラーが多すぎます。ログ・メンバーはクローズされました。

原因: このログ・メンバーに対するエラーの最大数を超過しました。

処置: この問題と一緒に表示される別のエラーメッセージを参照して、根本的な問題を修正してください。

ORA-00344 オンライン・ログ *string* を再作成できません。

原因: ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドまたは ALTER DATABASE CLEAR LOGFILE コマンドの実行中に、ログ I/O に障害が発生しました。

処置: 付随のエラーに示されるファイルまたはデバイスを訂正してください。

ORA-00345 REDO ログの書込みでエラーが発生しました (ブロック *string*, 件数 *string*)。

原因: ログを書き込み中に I/O エラーが発生しました。

処置: エラーの原因を訂正し、システムを再起動してください。ログが失われている場合は、メディア・リカバリまたは不完全リカバリを使用してください。

ORA-00346 ログ・メンバーは STALE としてマークされました。

原因: ログ・ファイル・メンバーが完全ではありません。

処置: この問題と一緒に表示される別のエラーメッセージを参照して、根本的な問題を修正してください。

ORA-00347 ログ *string* (スレッド *string*) でブロック・サイズ *string* と *string* が一致しません。

原因: オンラインのリカバリ中に、制御ファイルに指定されているブロック・サイズと、REDO ログ・ファイル中のブロック・サイズが一致しません。

処置: バックアップから正しい REDO ファイルをリストアするか、またはオンライン REDO ログ・ファイルをリセットしてください。

ORA-00348 単一プロセス REDO で障害が発生しました。インスタンスを中止してください。

原因: 単一プロセス操作中にログ・コードの致命的部分で障害が発生しました。このエラーは、正常な複数プロセス操作では発生しません。

処置: SHUTDOWN ABORT を実行して、データベースを再起動してください。

ORA-00349 *string* のブロック・サイズを確保できません。

原因: オペレーティング・システムは、このファイルのブロック・サイズを決定することができません。

処置: 付随のエラー・メッセージを調べて、デバイスを訂正するか、別のファイル名を指定してください。

ORA-00350 ログ *string* (スレッド *string*) はアーカイブする必要があります。

原因: ログがアーカイブされていないのにメディア・リカバリが使用可能であるため、コマンドは実行できません。

処置: ログをアーカイブするか、またはメディア・リカバリを使用不可にしてください。コマンドが UNARCHIVED オプションをサポートするのであれば、それを使用することができます。ただし、これは、バックアップを使用不可にし、いくつかのオフライン・ファイルを強制的に削除する可能性があります。

ORA-00351 RECOVER UNTIL 文に指定された時間が無効です。

原因: RECOVER UNTIL 文に指定された時間は、1998 年 1 月 1 日より後である必要があります。

処置: 1998 年 1 月 1 日より後の時間を指定してください。

ORA-00352 すべてのログ (スレッド *string*) をアーカイブする必要があるのに、使用可能にできません。

原因: アーカイブが必要なログでスレッドを使用可能にしようとし、メディア・リカバリが使用可能になっています。スレッドに対する新たな現行ログを作成できるログが存在しません。

処置: スレッドのログをアーカイブするか、またはメディア・リカバリを使用不可にしてください。

ORA-00353 ブロック *string* 付近のログに欠陥があります (変更 *string*、時間 *string*)。

原因: REDO ログの欠陥が何種類か見つかりました。このエラーでは欠陥のある位置が指摘されています。付随のエラーには欠陥の種類が説明されます。

処置: 正しいバージョンの REDO ログでリカバリを実行するか、指摘された変更または時間までの不完全リカバリを実行してください。

ORA-00354 REDO ログ・ブロック・ヘッダーに欠陥があります。

原因: 付随するエラーで示された REDO ブロックのブロック・ヘッダーは無効です。ともに表示されるエラー・メッセージにブロック番号とタイムスタンプが示されます。

処置: 正しいバージョンの REDO ログでリカバリを実行するか、または欠陥のある REDO ログ・ファイルの前まで取消しベースのリカバリを実行してください。アーカイブ中にこれが起きた場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログをクリアすることによって、問題ログのアーカイブをスキップすることができます。その後に、データベースのリカバリ可能性を保証するために、それぞれのデータ・ファイルのバックアップを取る必要があります。

ORA-00355 変更番号に欠陥があります。

原因: REDO ログで先の変更番号よりも小さな変更番号が見つかりました。ログ欠陥が存在します。先の変更か、またはこの変更において欠陥が存在します。

処置: 正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。

ORA-00356 変更の記述に矛盾した長さが含まれています。

原因: REDO ログ内の変更レコードに、加算すると矛盾した値になる長さが含まれています。ログ欠陥が存在します。

処置: 正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。

ORA-00357 ログ・ファイルに指定したメンバーが多すぎます (最大値 *string*)。

原因: ADD LOGFILE コマンドまたは ADD LOGFILE MEMBER コマンドを実行すると、ログのメンバーが多すぎる結果になります。メンバーの数は、データベース作成時に設定されます。

処置: ログ・ファイル・メンバーを少なくして使用してください。

ORA-00358 ファイル・メンバーが多すぎます (最大値 *string*)。

原因: CREATE 文または ALTER 文で、カッコで囲んだファイル・リストに指定されたメンバーが多すぎます。

処置: ポート定義制限内のファイル・メンバーの数を指定してください。

ORA-00359 ログ・ファイル・グループ *string* は存在しません。

原因: ADD LOGFILE MEMBER または DROP LOGFILE の要求で、存在しないログ・ファイル・グループ番号が指定されました。

処置: ログ・ファイルの構成を確認し、コマンドを再発行してください。

ORA-00360 *string* はログ・ファイル・メンバーではありません。

原因: ファイル名が DROP LOGFILE MEMBER コマンドに渡されましたが、データベースの一部ではないか、またはデータ・ファイルです。

処置: 有効なログ・ファイル・メンバー名を指定してください。

ORA-00361 *string* はグループ *string* の最後のログ・ファイル・メンバーです。

原因: ログ・グループの最後のメンバーを削除しようとした。

処置: 必要であれば、DROP LOGFILE を使用してログ全体を削除してください。

ORA-00362 メンバーは有効なグループ *string* のログ・ファイルを形成するために必要です。

原因: 完全なログ・ファイルを形成するために必要なデータが削除されるため、ログ・ファイル・メンバーを削除する要求は拒否されました。

処置: 必要であれば、DROP LOGFILE を使用して、(必要ならばアーカイブの後で) ログ全体を削除してください。

ORA-00363 ログがアーカイブ済みバージョンではありません。

原因: リカバリに使用されたログは、現行ログからのオンライン・バージョンのバックアップです。このログのアーカイブ済みバージョンはスレッド最終のマークがされていない可能性があります。また、CREATE CONTROLFILE コマンド中の使用可能スレッドの現行ログの出力に失敗した可能性があります。

処置: アーカイブ済みバージョンのログを見つけてそのログの名前を指定してください。CREATE CONTROLFILE 実行直後のメディア・リカバリの場合、現スレッドの現行ログが含まれていることを確認してください。

ORA-00364 ヘッダーを新規ログ・メンバーに書き込めません。

原因: 既存のグループへ追加するログ・メンバーにヘッダーを書き込もうとした時点で入出力エラーが発生しました。

処置: 同時に出力されるエラーを参照してください。問題を修正するか、別のファイルを使用してください。

ORA-00365 指定したログは、正しい次のログではありません。

原因: 指定されたログは、適用されたログと一致しないことが確認されました。おそらくこれは、データベースのコールド・バックアップ・イメージに対して生成されたログを使用したことが原因です。

処置: データベースのコピーに対して生成されたログを探し、リカバリにファイル名を指定してください。

ORA-00366 ログ *string* (スレッド *string*) ファイル・ヘッダーでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: REDO ログのファイル・ヘッダーに、ディスクから読み取ったファイル・ヘッダーから計算した値と一致しないチェックサムが含まれています。これは、ファイル・ヘッダーが破損していることを意味します。

処置: ログの正しいバージョンを見つけてインストールするか、ログをリセットしてください。

ORA-00367 ログ・ファイル・ヘッダーでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: REDO ログのファイル・ヘッダーに、ディスクから読み取ったファイル・ヘッダーから計算した値と一致しないチェックサムが含まれています。これは、ファイル・ヘッダーが破損していることを意味します。

処置: 正しいファイルを見つけて、再試行してください。

ORA-00368 REDO ログ・ファイルでチェックサム・エラーが発生しました。

原因: 付随するエラーで示された REDO ブロックは無効です。REDO ブロックにブロックの内容と一致しないチェックサムがあります。

処置: 正しいバージョンのログでリカバリを実行するか、または指摘された時間までの時間ベースのリカバリを実行してください。アーカイブ中にこれが起きた場合は、UNARCHIVED オプションを使用してログをクリアすることによって、問題ログのアーカイブをスキップすることができます。その後、データベースのリカバリ可能性を保証するために、それぞれのデータ・ファイルのバックアップを取る必要があります。正しいファイルをリストアするか、またはログをリセットしてください。

ORA-00369 スレッド *string* の現行ログは使用できません。他のログが消去されています。

原因: REDO 生成を他のオンライン・ログに切り換える必要があるが、スレッドをオープンするのに失敗しました。しかし、他のすべてのログは消去されているか、または、それらを使用する前にアーカイブしなければなりません。

処置: ALTER DATABASE CLEAR LOGFILE コマンドが依然としてアクティブな場合は、コマンドが完了するのを待ってください。アクティブでなければ、CLEAR コマンドを再入力してください。他に消去されていないスレッドのオンライン・ログがあれば、そのログをアーカイブしてください。

ORA-00370 kcpchange 操作でデッドロックが発生しました。

原因: ソフトウェアが内部的に使用するエラー・コードです。これは、通常発生しないエラーです。

処置: 内部エラーとして処理してください。エラー番号 ORA-00600 を参照してください。

ORA-00371 使用可能な空きバッファ・ハンドルがありません。

原因: メモリー不足のため、操作が進められません。

処置: SHARED_POOL_SIZE 初期化パラメータの値を大きくして、再試行してください。

ORA-00372 ファイル *string* を修正することはできません。

原因: 変更できないファイルの内容を変更しようとしてしました。このファイルは読み専用の表領域の一部とみられますが、オフラインにする過程であるか、クローズの途中である可能性があります。

処置: ファイルおよびその表領域の状態を確認してください。

ORA-00373 オンライン・ログのバージョン *string* には Oracle バージョン *string* との互換性がありません。

原因: オンライン・ログが Oracle バージョンと互換性のないバージョンで書かれています。ログ・ファイルが旧バージョンか新バージョンの Oracle で作成された可能性があります。

処置: 互換性のあるソフトウェアでデータベースをリカバリしてから、正常に停止させ、現在のソフトウェアで再起動してください。

ORA-00374 DB_BLOCK_SIZE=*string* は無効です (有効範囲 [*string*..*string*])。

原因: 無効な値が DB_BLOCK_SIZE パラメータに指定されました。

処置: パラメータの値を訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-00375 デフォルトの DB_BLOCK_SIZE が取得できません。

原因: システムでデフォルトの DB_BLOCK_SIZE の値を決定できません。

処置: システム固有のエラーを参照してください。対処として、INIT.ORA ファイルにブロック・サイズを指定してください。

ORA-00376 ファイル *string* を読み込むことはできません。

原因: 読み不可能なファイルから読み込もうとしてしました。ファイルがオフラインの可能性もあります。

処置: ファイルの状態を調べてください。オンラインにしてください。

ORA-00377 ファイル *string* のバックアップ間隔が短いと、書き込み操作の停止の原因になります。

原因: このファイルに対するバックアップの間隔が短かすぎます。新たにファイルのバックアップを開始する度に、以前に発行した（ただし、未完了の）書き込みをすべて再発行する必要があります。バックアップの間隔が非常に短いと、書き込みの一部が繰返して発行され、完了しない可能性があります。

処置: このファイルに対する hot-backup コマンドの発行間隔を長くしてください。

ORA-00378 バッファ・プールが指定どおりに作成できません。

原因: バッファ数または LRU ラッチ数が少なすぎるため、指定されたバッファ・プールの構成を満たすことができません。

処置: バッファ数か LRU ラッチ数のどちらか、または両方を増やしてください。または、バッファ・プールの構成を小さくしてください。

ORA-00379 バッファ・プール *string* に使用可能なバッファがありません。

原因: 指定されたバッファ・プール内のすべてのバッファが使用され、使用可能なバッファはありません。

処置: 指定したプール内のバッファの数を増やしてください。

ORA-00390 ログ *string* (スレッド *string*) は消去中なので、現行ログにはなりません。

原因: 使用不可能なログが見つかったので REDO スレッドに対して新しいオンライン・ログに切り換えようとしたが失敗しました。このログは現在消去中であり、消去が完了したときに使用可能になります。このコマンドは消去を完了しないで終了することもあります。

処置: クリア・コマンドが実行中の場合は、完了するのを待ってください。打ち切られた場合は、クリア・コマンドを再発行するか、ログを削除してください。

ORA-00391 すべてのスレッドは一度に新しいログ・フォーマットに切り替えなければなりません。

原因: 互換条件が新しいログ・フォーマット・ナンバーを適用するため、シングル・スレッドの現行のログを切り替えようとしたが許可されませんでした。ログ・フォーマットを変えるときには、すべてのスレッドは同時に新しいフォーマットに切り替える必要があります。

処置: データベースを開いて、調整されたログ・スイッチを作動させてください。それができない場合は、以前にデータベースを開くために使用したソフトウェア・バージョンおよび互換性設定へ戻ってください。

ORA-00392 ログ *string* (スレッド *string*) を消去中です。操作できません。

原因: このオンラインログの操作は現在消去中です。このコマンドは消去を完了しないで終了することもあります。

処置: クリア・コマンドが実行中の場合は、完了するのを待ってください。打ち切られた場合は、クリア・コマンドを再発行するか、ログを削除してください。

ORA-00393 ログ *string* (スレッド *string*) はオフライン・データファイルの回復に必要です。

原因: オフライン・データ・ファイルの回復のためにログは消去できません。ログがアーカイブされていないので他に使用可能なコピーはありません。このログが消去される場合、そのファイルを含む表領域は削除されます。

処置: ログをアーカイブしてから再度消去コマンドを入力してください。アーカイブが不可能であり、表領域を削除するのが望ましいのであれば、消去コマンドの最後に UNRECOVERABLE DATAFILE と入力してください。

ORA-00394 アーカイブ中にオンライン・ログが再使用されました。

原因: アーカイブ中のオンライン・ログ・ファイルを再使用しようとした。

処置: オンライン・ログ・ファイルは上書きされています。アーカイブできません。

ORA-00395 クローン・データベース用のオンライン・ログを改名する必要があります。

原因: クローン・データベースをオープンすると、プライマリ・ログ・ファイルが上書きされないようにするために、強制的にログ・ファイルが改名されます。

処置: 手動か、LOG_FILE_NAME_CONVERT 初期化パラメータを使用して、ログ・ファイルを改名してください。

ORA-00400 リリース番号 *string* (パラメータ *string*) が無効です。

原因: 初期化パラメータに指定されたりリース・レベルが無効です。

処置: パラメータ・ファイルのパラメータ値を修正して、再実行してください。

ORA-00401 パラメータ *string* の値はこのリリースではサポートされません。

原因: 指定されたパラメータ値はこのリリースではサポートされません。

処置: 正しい値を指定するか、または該当パラメータを削除してデフォルト値が使用されるようにしてください。

ORA-00402 リリース *string* の DB 変更はリリース *string* では使用できません。

原因: データベースに対してソフトウェアの新しいリリースを必要とする変更が行われました。または、互換性パラメータに違反する変更が行われました。

処置: 変更を認識するソフトウェア・バージョンを使用してください。または、初期化パラメータ・ファイルの互換性要件を調整してください。

ORA-00403 *string* (*string*) は他のインスタンス (*string*) と一致しません。

原因: 別のインスタンスが、COMPATIBLE または COMPATIBLE NO RECOVERY パラメータをこのインスタンスとは異なる設定にしました。

処置: カレント・インスタンスのパラメータを変更して、すでに実行中の他のインスタンスに一致させてください。

ORA-00404 変換ファイルが見つかりません: *string*

原因: バージョン7からバージョン8に変換するためのファイルが見つかりません。

処置: 正しいデータベースに対して移行プロセスを開始したことと、変換ファイル名がアクセス可能であることを確認してください。

ORA-00405 関係のある型 *string*

原因: 報告されたタイプは他のエラーに関連しています。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

ORA-00406 COMPATIBLE パラメータは、*string* 以上が必要です。

原因: COMPATIBLE 初期化パラメータの値が十分に高くないため、操作が実行できませんでした。コマンドを許可すると、データベースは現在の COMPATIBLE パラメータに指定されたりリースとの互換性がなくなります。

処置: シャットダウンし、互換性の設定値を高くして再起動してください。

ORA-00407 リリース *string.string* から *string.string* へのアップグレードはできません。

原因: 異なるリリースでソフトウェアを実行する他のインスタンスが、すでにデータベースをマウントしています。

処置: すべてのインスタンスをシャットダウンし、新しいソフトウェアで再起動してください。

ORA-00408 パラメータ *string* が TRUE に設定されています。

原因: 互換性エラーのパラメータを報告します。

処置: シャットダウンし、互換性の設定値を高くして再起動してください。

ORA-00436 Oracle のライセンス許可が与えられていません。オラクル社に連絡してください。

原因: 現在インストールされている Oracle のソフトウェアは、この CPU 上で稼働するようにライセンス許可が与えられていません。これは、Oracle を正しくインストールしていない場合にも起こります（たとえば、間違ったライセンス・コードを使用した場合）。

処置: Oracle が正しくインストールされていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00437 Oracle 機能のライセンス許可が与えられていません。オラクル社に連絡してください。

原因: 現在インストールされている Oracle の機能は、この CPU 上で稼働するようにライセンス許可が与えられていません。これは、Oracle を正しくインストールしていない場合にも起こります（たとえば、間違ったライセンス・コードを使用した場合）。

処置: Oracle が正しくインストールされていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00438 *string* のオプションがインストールされていません。

原因: 指定されているオプションはインストールされていません。

処置: オプションのコールをやめるか、オプションを購入してインストールしてください。

ORA-00439 機能は使用できません: *string*

原因: 指定された機能が使用可能ではありません。

処置: この機能は使用しないでください。

ORA-00443 バックグラウンド・プロセス *string* が起動していません。

原因: 指定されたプロセスは起動しませんでした。

処置: 実行可能イメージが正しい保護状態で正しい位置にあること、また十分なメモリがあることを確認してください。

ORA-00444 バックグラウンド・プロセス *string* の起動中に障害が発生しました。

原因: 通常は、無効な（または存在しない）バックグラウンド・プロセス・イメージが原因です。

処置: 有効なバックグラウンド・プロセス・イメージを入手してください。

ORA-00445 バックグラウンド・プロセス *string* が *string* 秒後に起動しませんでした。

原因: 指定されたプロセスが、指定時間後に起動しませんでした。

処置: バックグラウンド・プロセスが停止しておらず、トレース・ファイルを残しているかを確認してください。

ORA-00446 予期しない時にバックグラウンド・プロセスが起動されました。

原因: Oracle ですでに実行されているバックグラウンド・プロセスが指定されました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、このプロセスを起動したユーザーがサイトに存在しない場合は、このメッセージをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00447 バックグラウンド・プロセスに致命的なエラーが発生しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの1つが突然停止しました。

処置: システムを再起動してください。BACKGROUND_DUMP_DEST のバックグラウンド・トレース・ファイルが示している問題を確認して、必要に応じて修正してください。

ORA-00448 バックグラウンド・プロセスが正常終了しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの1つが特定ユーザーの要求によって正常終了しました。

処置: 問題を解決中の場合は、他のメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルをチェックしてください。他のエラー・メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正し、Oracle を一度停止してから再起動してください。

ORA-00449 バックグラウンド・プロセス *string* がエラー *string* で予想外の終了をしました。

原因: バックグラウンド・プロセスの機能を必要とするフォアグラウンド・プロセスによって、プロセスが停止していることが検知されました。

処置: そのプロセスに対するメッセージおよびトレース・ファイル中に記録されたエラー・コードを参照してください。

ORA-00470 LGWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: ログ・ライター・プロセスが異常終了しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00471 DBWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: データベース・ライター・プロセスが異常終了しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00472 PMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: プロセス・モニター・プロセスが異常終了しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00473 ARCH プロセスはエラーで終了しました。

原因: アーカイブ・プロセスが異常終了しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00474 SMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: システム・モニター・プロセスが異常終了しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00475 TRWR プロセスはエラーで終了しました。

原因: システム・トレース・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00476 RECO プロセスはエラーで終了しました。

原因: 分散トランザクション (2 フェーズ・コミット) のリカバリ・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00477 SNP* プロセスはエラーで終了しました。

原因: スナップショット・リフレッシュ・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00480 LCK* プロセスはエラーで終了しました。

原因: ロック・プロセスが異常終了しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00481 LMON プロセスはエラーで終了しました。

原因: ロック・マネージャ・モニター・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00482 LMD* プロセスはエラーで終了しました。

原因: ロック・マネージャ・デーモン・プロセスが異常終了しました。

処置: インスタンスを再起動してください。

ORA-00483 停止中にプロセスが異常終了しました。

原因: バックグラウンド・プロセスの1つが、停止の時点で正常に終了しませんでした。

処置: SHUTDOWN ABORT コマンドを使用してください。ともに表示されるエラー・メッセージがあれば、そのメッセージとバックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルを調べてください。メッセージで示されるエラーの原因となる問題を訂正してください。インスタンスを一度停止してから再起動してください。トレース・ファイルに他のバックグラウンド・プロセス・メッセージが指摘されている場合は、元のエラーが見つかるまで、指摘されたプロセスがあるかどうかトレース・ファイルを調べてください。

ORA-00568 割込みハンドラの最大数を超えました。

原因: ブレーク・キーが入力されたときのために登録されている割込み処理ルーチンの数が、許容最大数を超えています。

処置: 登録されている割込みハンドラの数減らしてください。

ORA-00574 osndnt: \$CANCEL に失敗しました。(ブレーク)

ORA-00575 osndnt: \$QIO に失敗しました。(out-of-band ブレーク送信)

ORA-00576 in-band break プロトコル・エラー

ORA-00577 out-of-band break プロトコル・エラー

ORA-00578 リセット・プロトコル・エラー

ORA-00579 osndnt: サーバーが受信した接続要求は、形式が間違っています。

ORA-00580 プロトコルのバージョンが一致しません。

ORA-00581 osndnt: コンテキスト領域を割り当てられません。

ORA-00582 osndnt: コンテキスト領域の割当てを解放できません。

ORA-00583 osndnt: \$TRNLOG に失敗しました。

ORA-00584 接続をクローズできません。

ORA-00585 ホスト名の書式が間違っています。

ORA-00586 osndnt: LIB\$ASN_WTH_MBX に失敗しました。

ORA-00587 リモート・ホストに接続できません。

ORA-00588 ホストからのメッセージは短すぎます。

ORA-00589 ホストからのメッセージに不正なデータ長がありました。

ORA-00590 ホストからのメッセージに不正なメッセージ・タイプがあります。

ORA-00591 書き込まれているバイト数が間違っています。

ORA-00592 osndnt: \$QIO に失敗しました。(メールボックス・キュー)

ORA-00593 osndnt: \$DASSGN に失敗しました。(ネットワーク・デバイス)

ORA-00594 osndnt: \$DASSGN に失敗しました。(メールボックス)

ORA-00595 osndnt: \$QIO に失敗しました。(受信)

ORA-00596 osndnt: \$QIO に失敗しました。(送信)

ORA-00597 osndnt: \$QIO に失敗しました。(メールボックスの再キュー待ち)

ORA-00598 osndnt: \$QIO に失敗しました。(メールボックス読み込み)

ORA-00600 内部エラー・コード , 引数 :[string],[string],[string],[string],[string],[string],[string],[string]

原因: これは、Oracle プログラムの例外に対する一括内部エラー番号です。プロセスに予期しない条件が発生したことを示しています。次にこのメッセージの原因をいくつか示します。

- タイムアウト
- ファイルの破壊
- メモリー内のデータチェックの誤り
- ハードウェア、記憶、I/O の誤り
- 誤ったファイルのリストア

最初の引数は内部メッセージ番号です。他の引数は各種の数値、名前、文字列です。数値は、Oracle の異なるバージョン間では意味が異なる場合があります。

処置: 次の情報を収集した後、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

- エラーに至るまでの経過
- エラーに至った操作
- エラー時のオペレーティング・システムおよびデータベースの状況
- ORA-00600 メッセージが出力される以前に発生したなんらかの異常な状況
- エラー発生によって生成されたトレース・ファイルの内容
- アラートファイルの関連部分

注意: このメッセージは、別のエラーとして出力される場合もあります。この内部エラーより前のエラーに注目してください。

ORA-00601 クリーン・アップ・ロックの競合が発生しました。

原因: プロセス・モニターによるプロセスのリカバリ中に、ロックの競合が発生しました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00602 内部プログラミング例外が発生しました。

原因: 内部プログラミング例外が発生しました。

処置: このエラーをプログラム・バグとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00603 致命的な Oracle エラーが発生したため、Oracle サーバー・セッションが終了しました。

原因: Oracle サーバー・セッションはリカバリ不能の状態にあります。

処置: Oracle に再ログインしてください。新規のサーバー・セッションが自動的に作成されます。詳細は、セッション・トレース・ファイルを調べてください。

ORA-00604 再帰 SQL レベル *string* でエラーが発生しました。

原因: 再帰 SQL レベル文（内部ディクショナリ表に適用する文）を処理中にエラーが発生しました。

処置: スタックに次に表示されるエラーに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00606 内部エラー・コード

原因: 遅延 UPI 関数へのコールが遅延モード以外で行われました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00607 データ・ブロックの変更中に内部エラーが発生しました。

原因: Oracle がデータ・ブロックに REDO ログ・ファイルを適用しているとき、内部エラーまたはメモリー例外が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00701 データベースの起動に必要なオブジェクトを変更できません。

原因: データベースのウォーム・スタートに必要な、制御ファイルのブートストラップ・セグメント中に定義されているデータベース・オブジェクト（表、クラスタまたは索引）を変更しようとしたか削除しようとした。

処置: オブジェクト名の綴りを訂正するか、その名前を ALTER 文または DROP 文から取り除いてください。

ORA-00702 ブートストラップ・バージョン *string* がバージョン *string* と矛盾します。

原因: ブートストラップ・データのバージョンがソフトウェアのカレント・バージョンと互換性がありません。

処置: データ・ファイルと互換性のあるソフトウェアのバージョンをリストアしてください。

ORA-00703 行キャッシュ・インスタンス・ロックの最大数を超過しました。

原因: 十分な行キャッシュ・エンキューがありません。

処置: ROW CACHE ENQUEUE パラメータの値を増加し、システムを再起動してください。

ORA-00704 ブートストラップ・プロセス障害です。

原因: ブートストラップ・プロセスに障害が発生しました。問題の原因に関する詳細な情報は、ともに表示されるエラー・メッセージを調べてください。

処置: 他のメッセージで示される問題を修正してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00705 起動中の状態が不安定です。インスタンスを停止して再起動してください。

原因: 直前のインスタンスの起動が終了しました。

処置: インスタンスを完全に停止してから、再起動してください。

ORA-00816 エラー・メッセージ変換が失敗しました。

原因: ルーチンでメッセージ・コードを変換できないような内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00900 ～ ORA-01499

ORA-00900 SQL 文が無効です。

原因：ユーザーが入力した文は有効な SQL 文として認められません。このエラーは Procedural Option がインストールされていない場合で、かつ（CREATE PROCEDURE 文などの）このオプションを必要とする SQL 文が発行された場合に起こります。SQL*Plus を起動して Procedural Option がインストールされているかを判断できます。PL/SQL バナーが表示されていない場合には、このオプションはインストールされません。

処置：構文を訂正するか、あるいは Procedural Option をインストールしてください。

ORA-00901 CREATE コマンドが無効です。

原因：CREATE コマンドの後に有効な CREATE オプションが指定されませんでした。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00902 データ型が無効です。

原因：CREATE 文または ALTER TABLE 文に指定したデータ型は無効です。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00903 表名が無効です。

原因：無効または存在しない表名またはクラスタ名を指定しました。また、このメッセージは ALTER CLUSTER 文や DROP CLUSTER 文中に無効なクラスタ名を指定したか、またはクラスタ名を指定しなかった場合にも出力されます。

処置：綴りをチェックしてください。表名またはクラスタ名の先頭は英字である必要があります。また、英数字および特殊文字 \$、_、# のみ使用できます。名前は 30 文字以下の予約語以外の単語である必要があります。

ORA-00904 列名が無効です。

原因：列名を入力していないか、または無効です。

処置: 有効な列名を入力してください。列名の先頭は英字である必要があります。長さは 30 文字以内で、英数字および特殊文字 \$、_、# のみで構成されている必要があります。それ以外の文字を含んでいる場合は、二重引用符で囲む必要があります。また、予約語は使用できません。

ORA-00905 キーワードがありません。

原因: 必須のキーワードがありません。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00906 左カッコがありません。

原因: 左カッコが省略されています。ある種のコマンド (CREATE TABLE、CREATE CLUSTER、INSERT など) では、項目リストをカッコで囲む必要があります。WHERE 句および UPDATE *table* SET *column* = (SELECT...) 文の副問合せもカッコで囲む必要があります。

処置: 必要な箇所に左カッコを挿入して、構文を訂正してから、文を再実行してください。

ORA-00907 右カッコがありません。

原因: 左カッコはあるが右カッコが抜けている、または、カッコの間に不要な情報があります。カッコは対で指定する必要があります。

処置: 構文を訂正して、文を再実行してください。

ORA-00908 NULL キーワードがありません。

原因: 次のいずれかが原因です。

- CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文で、その列中に NULL 値を認めないことを指定する NOT はありますが、NULL キーワードが省略されていました。
- IS [NOT] NULL 論理オペレータで、NULL キーワードが検出されませんでした。たとえば、次の文に続いてこのメッセージが出力されます。

```
SELECT * FROM EMP WHERE DEPTNO IS NOT;
```

NULL キーワードが IS NOT キーワードの後に続く必要があります。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00909 引数の個数が無効です。

原因: 参照した Oracle 関数の引数の数が誤っています。SYSDATE を除くすべての Oracle 関数には、少なくとも引数が 1 つ必要です。

処置: 必要な数の引数を入力して、関数の構文を訂正してください。

ORA-00910 指定した長さがデータ型に対して大きすぎます。

原因：文字フィールドにサイズを指定しなかったか、または指定したサイズが正しくありませんでした。それぞれの文字列には最大長を指定する必要があります。この長さの最大値は、CHAR または VARCHAR2 など、文字データ型によって異なります。

処置：フィールドに最大長を入力してください。

ORA-00911 文字が無効です。

原因：特殊文字は特定の場所でのみ使用できます。名前に \$、_ および # 以外の特殊文字を使用しており、その名前を二重引用符 (") で囲んでいない場合、このメッセージが出力されます。この規則が適用されない 1 つの例外は、データベースの名前です。この場合には、二重引用符は除去され、無視されます。

処置：無効な文字を文から削除するか、オブジェクト名を二重引用符で囲んでください。

ORA-00913 値の個数が多すぎます。

原因：SQL 文には同数の 2 組の値が必要です。このエラーは、2 組目の項目数が 1 組目に比べて多くなっている場合に発生します。たとえば、WHERE 句または HAVING 句の中の副問合せから返される列が多すぎる、VALUES 句または SELECT 句から INSERT にリストされている列より多くの列が返されるなどです。

処置：各組の項目数を調べて、2 組とも同数になるように SQL 文を変更してください。

ORA-00914 ADD キーワードがありません。

原因：次の中にキーワード ADD がないものがあります。

- ALTER DATABASE 文のキーワード LOGFILE
- ALTER TABLE 文の列要素または表制約
- ALTER TABLESPACE 文のキーワード DATAFILE

処置：ALTER 文にキーワード ADD を指定してください。

ORA-00915 ディクショナリ表のネットワーク・アクセスは現在使用できません。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00917 カンマがありません。

原因：INSERT 文中の列または値のリスト、または ((C,D),(E,F), ...) 形式のリストに必要なカンマが省略されています。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00918 列の定義が未確定です。

原因: 結合に使用されている単一の列名が複数の表に存在しており、参照があいまいです。結合において列名を参照する場合、それが複数の表に存在しているものであれば、その列名に表名の接頭辞を付ける必要があります。列は TABLE.COLUMN または TABLE_ALIAS.COLUMN のように参照されます。たとえば、EMP 表と DEPT 表を結合しており、両方に DEPTNO 列が含まれている場合、DEPTNO に対するすべての参照は、EMP.DEPTNO または E.DEPTNO のように表名の接頭辞を付けます。

処置: 複数の表に存在する列名には、前述の例のように、表名または表の別名、およびピリオド (.) の接頭辞をその列名の前に付けてください。

ORA-00919 関数が無効です。

原因: ある入力関数呼出しのような形式になっていますが、Oracle 関数として認識できません。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00920 関係演算子が無効です。

原因: 関係演算子が欠落しているか、無効な状態で検索条件が入力されました。

処置: 条件の中に、=、!=、^=、<>、>、<、>=、<=、ALL、ANY、[NOT]BETWEEN、EXISTS、[NOT]IN、IS[NOT]NULL、[NOT]LIKE などの有効な関係演算子を指定してください。

ORA-00921 SQL コマンドが不完全です。

原因: SQL コマンドが不完全です。有効なコマンドの一部が入力されましたが、少なくとも 1 つの主要な構成要素が省略されています。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00922 オプション指定されていないか、または無効です。

原因: 列または記憶域句の定義で無効なオプションが指定されました。列指定には、列に NULL 値を入力できないことを指定する NOT NULL オプションが有効です。また、データ型の後には制約条件のみを指定できます。なお、DATE または LONG データ型に対して最大長を指定した場合もこのエラーが発生します。

処置: 構文を訂正してください。列または記憶域の指定から誤ったオプションまたは長さの指定を削除してください。

ORA-00923 FROM キーワードが指定の位置にありません。

原因: SELECT 文または REVOKE 文の中で、FROM キーワードが欠落しているか、位置が間違っているか、綴りが間違っています。FROM キーワードは、SELECT 文では最後に選択した項目の後に、REVOKE 文では権限の後に指定してください。

処置: 構文を訂正してください。適切な位置に FROM キーワードを挿入してください。SELECT リストそのものが誤っている可能性もあります。別名で引用符を使用している場合は、その別名を二重引用符で囲んでいることを確認してください。また、別名に予約語を使用していないことを確認してください。

ORA-00924 BY キーワードがありません。

原因：GROUP BY、ORDER BY または CONNECT BY 句の BY キーワードがありません。GRANT 文では、IDENTIFIED キーワードの後にも BY が必要です。

処置：構文を訂正してください。必要な位置に BY キーワードを挿入して、文を再試行してください。

ORA-00925 INTO キーワードがありません。

原因：INSERT 文に INTO キーワードが指定されていません。

処置：構文を訂正してください。必要な位置に INTO キーワードを挿入して、文を再試行してください。

ORA-00926 VALUES キーワードがありません。

原因：INSERT 文に VALUES キーワードまたは SELECT が指定されていません。INSERT INTO 句の後には、VALUES 句または SELECT 副問合せを指定する必要があります。

処置：構文を訂正してください。INSERT INTO 句の後に VALUES 句または副問合せを指定してください。

ORA-00927 等号がありません。

原因：次の箇所のいずれかに等号がありません。

- UPDATE 文の SET 句
- 検索条件で等しくないことを意味する「!」の後

処置：構文を訂正してください。必要な位置に等号を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00928 SELECT キーワードがありません。

原因：CREATE VIEW 文には SELECT 副問合せを指定する必要があります。

処置：構文を訂正してください。CREATE VIEW 句の後に必須の SELECT 句を挿入して、文を再試行してください。

ORA-00929 ピリオドがありません。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00930 アスタリスクがありません。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00931 識別子がありません。

原因：指定された文字列に識別子がありません。

処置：文字列引数を訂正してください。

ORA-00932 データ型が一致しません。

原因：次のいずれかです。

- データ型の互換性がない操作を実行しようとしてしました。たとえば、文字フィールドを日付フィールドに追加する（日付は、数値フィールドにのみ追加できます）、または文字フィールドを長いフィールドに連結する操作などが、この操作に該当します。
- 通常は使用しないことになっているデータベース・オブジェクト（表、ビューなど）に対し操作を実行しようとしてしました。たとえば、システム表をユーザーが変更することはできません。まれに、誤った綴りのオブジェクト名が制限付きオブジェクト名に対応付けられていることが原因で、このエラーが発生することもあります。
- 記述されていないビューを使用しようとしてしました。

処置：原因に応じて次の処置を行ってください。

- データ型が異なっていることが原因である場合は、データ型が一致するようにしてください。たとえば、TO_NUMBER 関数で文字フィールドを数値フィールドに変換してから、日付フィールドに追加してください。長いフィールドで関数は使用できません。
- 通常は使用しないことになっているオブジェクトにアクセスしたことが原因である場合は、制限付きオブジェクトにアクセスしないようにしてください。

ORA-00933 SQL コマンドが正しく終了されていません。

原因：SQL 文が不適切な句で終了しています。たとえば、CREATE VIEW 文または INSERT 文の中に ORDER BY 句がある可能性があります。ORDER BY を順序付ビューの作成またはある種の順序の挿入には使用できません。また、1 つの引数のみで IN 句（たとえば、IN(X)）を使用すると、SQL は正しく終了しません。IN 句には 2 つ以上の引数を指定する必要があります。

処置：不適切な句を削除して構文を訂正してください。削除した句は別の SQL 文で重複して使用できます。たとえば、ビューの行を順序付けする場合、ビューの作成時ではなく、問合せ時に実行できます。このエラーはまた、SQL*Forms のアプリケーション中で継続行が字下げされている場合にも発生します。字下げされている行を調べ、その空白部を削除してください。

ORA-00934 ここではグループ関数は使用できません。

原因：WHERE 句または GROUP BY 句の中で、AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などのグループ関数のいずれかが使用されました。

処置: WHERE 句または GROUP BY 句からグループ関数を削除してください。副問合せまたは HAVING 句の中に関数を指定することによって、希望する結果が得られます。

ORA-00935 グループ関数のネスト・レベルが深すぎます。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00936 式がありません。

原因: 句または式の必須部分が省略されています。たとえば、列または式のリストがない SELECT 文、または不完全な式の SELECT 文を入力しています。また、このメッセージは、SELECT TABLE 文などに誤って予約語を使用した場合にも出力されます。

処置: 構文を調べて、欠落している部分を指定してください。

ORA-00937 単一グループのグループ関数ではありません。

原因: 個別の列式を GROUP BY 句に含めない限り、SELECT リストには、グループ関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE など) および個別の列式の両方を含めることができません。

処置: SELECT リストからグループ関数または個別の列式のどちらかを削除するか、またはリストされている個別の列式をすべて含む GROUP BY 句を追加してください。

ORA-00938 関数の引数が不足しています。

原因: 関数の参照での引数が少なすぎます。

処置: 関数の構文を調べて、必要な数の引数を指定してください。

ORA-00939 関数の引数が多すぎます。

原因: 関数の参照での引数が多すぎます。

処置: 関数の構文を調べて、必要な数の引数のみを指定してください。

ORA-00940 ALTER コマンドが無効です。

原因: 無効な ALTER オプションを指定しています。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00941 クラスタ名がありません。

原因: クラスタ名が欠けているか無効です。

処置: 有効なクラスタ名を指定してください。有効なクラスタ名は、英字で始まり、30 文字以内で、英数字または特殊文字 \$、_ および # のみ使用できます。また、予約語は指定できません。名前は CREATE CLUSTER キーワードの直後に指定する必要があります。

ORA-00942 表またはビューが存在しません。

原因: 指定した表またはビューが存在しないか、ここでは許可されていないシノニムが使用されました。または、表が要求されているところでビューが参照されました。既存のユーザーの表およびビューは、データ・ディクショナリを問い合わせることによって一覧できます。表へのアクセスには、特定の権限が必要な場合があります。アプリケーションがこのメッセージを戻した場合は、アプリケーションがアクセスしようとした表がデータベースに存在しないか、またはアプリケーションにその表へのアクセス権がありません。

処置: 次の点を確認してください。

- 表またはビューの名前の綴りが正しいか。
- 表が必要な位置にビューが指定されていないか。
- 存在する表またはビューの名前があるか。

表を作成する必要がある場合、または表へのアクセスに必要な権限がユーザーまたはアプリケーションに必要な場合は、データベース管理者に連絡してください。

また、他のスキーマの表またはビューにアクセスする場合は、正しいスキーマが参照されていること、およびオブジェクトに対するアクセスが付与されていることを確認してください。

ORA-00943 クラスタが存在しません。

原因: カレント・ユーザーは、指定した名前のクラスタを所有していません。

処置: CLUSTER キーワードの後に有効なクラスタ名を指定して、文を再試行してください。

ORA-00944 クラスタ列の個数が不足しています。

原因: CREATE CLUSTER 文の指定より少ない数のクラスタ列で表を作成しようとしてしました。CREATE TABLE 文の CLUSTER 句では、クラスタを作成したときに定義されたすべてのクラスタ列を指定する必要があります。

処置: CREATE TABLE 文のクラスタ列をすべて指定して、文を再試行してください。

ORA-00945 指定したクラスタ列は存在しません。

原因: CREATE TABLE 文の CLUSTER 句に指定した列は、この表の列ではありません。

処置: 表に対して定義した列の名前を使用して、文を再試行してください。

ORA-00946 TO キーワードがありません。

原因: TO キーワードがない GRANT 文を指定したか、または GRANT コマンドが無効な形式で入力されました。

処置: GRANT コマンドの構文を調べて、必要な箇所に TO キーワードを挿入して、文を再試行してください。

ORA-00947 値の個数が不足しています。

原因：SQL 文には同数の 2 組の値が必要ですが、2 組目の項目数が 1 組目に比べて少ない場合にこのエラーが発生します。この原因は、次に示すように WHERE 句または HAVING 句でネストされた SELECT 文が戻す列が不足している点にあります。

```
WHERE (A,B) IN (SELECT C FROM ...)
```

このエラーのもう 1 つの共通した原因は、次の例のように、INSERT 文で VALUES 句または SELECT 句に INSERT に必要な個数の値が含まれていない場合です。

```
INSERT INTO EMP (EMPNO,ENAME) VALUES ('JONES')
```

処置：各組の項目数を調べて、2 組とも同数になるように SQL 文を変更してください。

ORA-00948 ALTER CLUSTER 文はサポートされていません。

原因：ALTER CLUSTER 文は使用できなくなりました。

処置：既存の表からクラスタにデータを追加するためには、次の SQL 文を使用してください。

```
CREATE TABLE newtable SELECT * FROM oldtable CLUSTER clustername;  
DROP oldtable;  
RENAME TABLE newtable oldtable;
```

ORA-00949 リモート・データベースへの参照は無効です。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-00950 DROP オプションは無効です。

原因：DROP コマンドの後に、CLUSTER、DATABASE LINK、INDEX、ROLLBACK SEGMENT、SEQUENCE、SYNONYM、TABLE、TABLESPACE、VIEW などの、有効な DROP オプションが指定されていません。

処置：コマンドの構文を調べ、有効な DROP オプションを指定して、文を再試行してください。

ORA-00951 クラスタが空ではありません。

原因：DROP CLUSTER 文に空ではないクラスタを指定しました。オプションの INCLUDING TABLES 句を指定しない限り、表を含んでいるクラスタを削除できません。DROP TABLE コマンドを使用すれば、クラスタから表を削除できます。

処置：DROP CLUSTER 文で INCLUDING TABLES 句を指定するか、DROP TABLE コマンドでクラスタからすべての表を削除してから、DROP CLUSTER コマンドを発行してください。

ORA-00952 GROUP キーワードがありません。

原因：現在グループはインプリメントされていません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-00953 索引名が指定されていないか、または無効です。

原因：CREATE INDEX、DROP INDEX または VALIDATE INDEX 文で、索引名が欠落しているか、または無効です。

処置：INDEX キーワードの後に有効な索引名を指定してください。既存の索引を削除または検証する場合は、データ・ディクショナリを検索して名前を調べてください。新しい索引を作成する場合は、再試行の前に構文に誤りがないことを調べてください。

ORA-00954 IDENTIFIED キーワードがありません。

原因：GRANT CONNECT 文に IDENTIFIED キーワードを指定していません。

処置：構文を調べて、最後のユーザー名の後に IDENTIFIED キーワードを指定してください。形式は次のとおりです。

```
GRANT CONNECT TO user-list IDENTIFIED BY password-list;
```

ORA-00955 すでに使用されているオブジェクト名です。

原因：すでに存在するデータベース・オブジェクト（表、ビュー、クラスタ、索引、シノニムなど）を作成しようとしてしました。ユーザーのデータベース・オブジェクトには一意の名前を付ける必要があります。

処置：データベース・オブジェクトに一意の名前を入力するか、既存のオブジェクトを変更または削除して、再使用できるようにしてください。

ORA-00956 監査オプションが無効です。

原因：AUDIT または NOAUDIT コマンドの後に、有効なオプションまたはキーワード ALL が指定されていません。たとえば、表を監査する場合、ALTER、AUDIT、COMMENT、DELETE、GRANT、INDEX、INSERT、LOCK、RENAME、SELECT、UPDATE などのオプションを指定する必要があります。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00957 列名が重複しています。

原因：CREATE 文または INSERT 文の中で、1つの列名が2度指定されました。表、ビューまたはクラスタで列名は一意である必要があります。

処置：CREATE 文で、どちらかの列名を新しい一意の列名に変更してください。INSERT 文の場合は、重複する名前の片方を削除してください。

ORA-00958 CHECK キーワードがありません。

原因：CREATE VIEW 文の WITH OPTION 句では、WITH キーワードの後に CHECK キーワードを続けて指定しなければなりません。

処置: 構文を調べて、必要な箇所に CHECK キーワードを挿入してから、文を再実行してください。

ORA-00959 表領域 *string* は存在しません。

原因: 文で存在しない表領域名を指定しました。

処置: 存在する表領域の名前を入力してください。表領域名のリストについてはデータ・ディクショナリを参照してください。

ORA-00960 選択リストに未確定の列名があります。

原因: ORDER BY 句で指定している列名が選択リストの複数の列と一致しています。

処置: 重複する列名を選択リストから削除してください。

ORA-00961 日時 / 間隔の値が正しくありません。

ORA-00962 group-by / order-by 式が多すぎます。

原因: GROUP BY 句または ORDER BY 句に 1000 より多い式があります。

処置: GROUP BY 句または ORDER BY 句に 1000 より多い式を使用しないでください。

ORA-00963 間隔の型がサポートされていません。

原因: サポートされてない間隔の型が検出されました。

処置: 有効な間隔の型を使用してください。

ORA-00964 FROM リストに表名がありません。

原因: 問合せの SELECT リストに指定した表が、FROM 句リストには指定されていません。

処置: 表名の綴りを調べ、SELECT リストの各表名が FROM リストの表名と一致することを確認してから、文を再試行してください。

ORA-00965 * (アスタリスク) に対して列の別名は使用できません。

原因: SELECT リストのすべての列を返す機能 (*) に対して別名を使用しました。次に例を示します。

```
SELECT * COL_ALIAS FROM EMP;
```

処置: 個別に列を指定するか、または "*" に別名を指定しないでください。

ORA-00966 TABLE キーワードがありません。

原因: LOCK 文を指定しましたが、TABLE キーワードがないか、綴りが間違っているか、または位置が間違っています。LOCK 文は、LOCK TABLE *tablename* で始める必要があります。

処置: 構文を訂正してください。

ORA-00967 WHERE キーワードがありません。

原因：SELECT 文の WHERE キーワードが欠落しているか、綴りが間違っているか、または位置が間違っています。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00968 INDEX キーワードがありません。

原因：CREATE UNIQUE INDEX または VALIDATE INDEX 文の INDEX キーワードが欠落しているか、綴りが間違っているか、または位置が間違っています。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00969 ON キーワードがありません。

原因：GRANT、REVOKE または CREATE INDEX 文の ON キーワードが欠落しているか、綴りが間違っているか、または位置が間違っています。

処置：構文および綴りを調べ、必要な箇所に ON キーワードを使用してください。

ORA-00970 WITH キーワードがありません。

原因：WITH キーワードを付けずに START キーワードが指定されました。ツリー構造の間合せて START WITH 句を使用する場合は、キーワードは両方とも必要になります。

処置：START キーワードを START WITH キーワードに変更して、文を再実行してください。

ORA-00971 SET キーワードがありません。

原因：UPDATE 文の SET キーワードが欠落しているか、綴りが間違っているか、または位置が間違っています。

処置：構文および綴りを調べ、更新される表名の後に SET キーワードを使用してください。

ORA-00972 識別子が長すぎます。

原因：スキーマ・オブジェクトの名前が 30 文字を超えています。スキーマ・オブジェクトとは、表、クラスタ、ビュー、索引、シノニム、表領域、ユーザ名などです。

処置：名前を 30 文字以下にしてください。

ORA-00973 行件数の見積りが無効です。

ORA-00974 PCTFREE 値（パーセンテージ）が無効です。

原因：CREATE INDEX 文に指定された空き領域のパーセンテージが 0 ～ 100 の間ではありません。PCTFREE 値が 0 の場合、ブロック全体が使用できます。値が 100 であれば、データをこれ以上挿入できないので無用です。デフォルト値は 10 です。

処置：PCTFREE 値を 0 ～ 100 の間に指定し、文を再実行してください。

ORA-00975 日付と日付の加算はできません。

原因: 2つの日付フィールドを同時に加算しようとしてしました。日付は数値フィールドにのみ加算できます。他の日付フィールドには加算できません。

処置: Oracle の TO_NUMBER 関数を使用して、片方の日付フィールドを数値フィールドに変換してから、もう片方の日付フィールドにそれを加算してください。

ORA-00976 LEVEL,PRIOR,ROWNUM はここでは使用できません。

原因: このコンテキストにおいて、PRIOR 句、擬似列 LEVEL または ROWNUM を使用することは不適切です。

処置: SQL 文の構文を調べて、キーワード PRIOR、LEVEL または ROWNUM を削除または再配置してください。

ORA-00977 監査オプションが重複しています。

原因: AUDIT 文または NOAUDIT 文に同じオプションが2度以上指定されました。

処置: 他の監査オプションを指定せずに ALL を指定するか、または重複する監査指定を削除してください。

ORA-00978 GROUP BY 句が指定されずにグループ関数がネストしています。

原因: グループ関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE など) が別のグループ関数で (たとえば、MAX (COUNT(*)) などの形で)、対応する GROUP BY 句を指定しないで使用されています。

処置: GROUP BY 句を指定するか、または不要なレベルのネストを削除してください。

ORA-00979 GROUP BY の式がありません。

原因: GROUP BY 句には SELECT 句中の式がすべて含まれていません。グループ関数 AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE などに含まれない SELECT 式は GROUP BY 句の中にリストされている必要があります。

処置: GROUP BY 句に、グループ関数引数でない SELECT 式をすべて含めてください。

ORA-00980 シノニムの変換ができません。

原因: 使用したシノニムは、存在しない表、ビューまたはシノニムに基づいています。

処置: シノニムをそれが参照するオブジェクトの名前で置き換えるか、あるいはシノニムを再作成して、有効な表、ビューまたはシノニムを参照するようにしてください。

ORA-00981 表およびシステム監査オプションは混在できません。

原因: 1つの AUDIT 文中に、表およびシステム範囲のオプションが両方指定されています。

処置: AUDIT コマンドの構文を調べて、1つ以上の AUDIT 文を再実行してください。

ORA-00982 正符号がありません。

原因：結合条件の中に左カッコがありますが、その後に正符号 (+) がありません。通常、結合条件中の左カッコは外部結合を指定するため、後に正符号が続きます。結合処理で、ある列に対して外部結合を指定するためには、結合条件の列参照の後に、カッコで囲んで正符号 (+) を指定する必要があります。

処置：SQL 構文を訂正して、文を再実行してください。

ORA-00984 ここでは列は使用できません。

原因：INSERT 文の VALUES 句のように、式の認められていない位置に列名が使用されました。

処置：文の構文を調べて、適切な位置に列名のみを使用するようにしてください。

ORA-00985 プログラム名が無効です。

原因：構文エラーの可能性あります。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00986 グループ名が指定されていないか、または無効です。

原因：構文エラーの可能性あります。

処置：構文を訂正してください。

ORA-00987 ユーザー名が指定されていないか、または無効です。

原因：GRANT 文にユーザー名が指定されていません。または、指定されたユーザー名のいずれかが無効です。GRANT 文では、有効なユーザー名をキーワード TO の後に続けて指定し、ユーザーを定義する必要があります。ユーザー名は、英字で始まり、英数字および特殊文字 \$、_、# のみから成り、30 文字以下である必要があります。それ以外の文字を含んでいる場合は、二重引用符で囲む必要があります。また、予約語であってはなりません。

処置：GRANT 文に、有効なユーザー名またはユーザー名のリストをキーワード TO の後に続けて指定してください。

ORA-00988 パスワードが指定されていないか、または無効です。

原因：GRANT 文にパスワードの数より多いユーザー名が指定されました。GRANT 文にリストされた各ユーザー名に対して、有効なパスワードを 1 つ指定する必要があります。

処置：各ユーザー名に対して有効なパスワードを 1 つ入力してください。

ORA-00989 ユーザー名に対するパスワードが多すぎます。

原因：GRANT 文にユーザー名の数より多いパスワードが指定されました。GRANT 文にリストされた各ユーザー名に対して、パスワードは 1 つのみ入力できます。

処置：ユーザー名およびパスワードの数を同一にして入力してください。

ORA-00990 権限が指定されていないか、または無効です。

原因：GRANT 権限文に権限が指定されていないか、指定された権限の 1 つが無効です。

処置：SELECT、INSERT、DELETE、UPDATE、ALTER、INDEX、REFERENCES、ALL などの有効な権限を 1 つ以上入力してください。複数の権限を付与する場合は、リスト内にカンマ (,) で区切って入力します。または、ALL キーワードを指定すると、すべての権限を付与できます。

ORA-00991 MAC の権限だけがプロシージャに付与されます。

原因：オブジェクト権限または MAC 以外のシステム権限がプロシージャに付与されました。

処置：PROCEDURE 句を使用して、MAC 権限のみを付与してください。

ORA-00992 REVOKE コマンドの書式が無効です。

原因：入力された REVOKE コマンドの形式が無効です。REVOKE コマンドには 2 つの形式があります。第 1 の形式は、ユーザーのデータベース・アクセス権限の取消しに使用されます。第 2 の形式は、ユーザーのオブジェクト権限の取消しに使用されます。

処置：コマンド構文を調べ、文を再実行してください。

ORA-00993 GRANT キーワードがありません。

原因：GRANT 文の終わりに、GRANT キーワードを指定せずに WITH キーワードが指定されました。権限および他のユーザーに同権限を付与する許可をユーザーに付与するには、GRANT 文の終わりに WITH GRANT OPTION キーワードを指定する必要があります。

処置：WITH キーワードを WITH GRANT OPTION キーワードに変更して、文を再実行してください。

ORA-00994 OPTION キーワードがありません。

原因：GRANT 文の終わりに、OPTION キーワードを伴わない WITH GRANT キーワードが指定されました。

処置：WITH GRANT キーワードを WITH GRANT OPTION キーワードに変更して、文を再実行してください。

ORA-00995 シノニムの識別子が無効です。

原因：CREATE SYNONYM 文または DROP SYNONYM 文中のシノニム名が欠落しているか、無効です。

処置：構文と綴りを調べてください。どちらの文にも、キーワード SYNONYM の直後に有効なシノニム名を指定する必要があります。有効なシノニム名は、英字で始まり、英数字および特殊文字 \$、_、# から成り、30 文字以内である必要があります。また、予約語は指定できません。

ORA-00996 連結演算子は | ではなく || です。

原因: 1 本の縦線 (|) で連結を指定しようとしたましたが、連結演算子は 2 本の縦線 (||) です。

処置: 連結する場合は 2 本の縦線 (||) を入力してください。連結でなければ、1 本の縦線 (|) は取り除いてください。

ORA-00997 LONG データ型は使用できません。

原因: 関数あるいは DISTINCT、WHERE、CONNECT BY、GROUP BY または ORDER BY 句で LONG データ型の値が使用されました。LONG 値は SELECT 句でのみ使用できます。

処置: 関数または句から LONG 値を削除してください。

ORA-00998 式に列の別名を指定しなければなりません。

原因: CREATE VIEW 文で式または関数を使用していますが、対応する列名が指定されていません。式または関数をビューで使用する場合は、そのビューに対するすべての列名を CREATE VIEW 文に明示的に指定する必要があります。

処置: ビュー内の各列について、ビュー名の後にカッコで囲んで列名を入力してください。

ORA-00999 ビュー名が無効です。

原因: CREATE VIEW 文のビュー名が欠落しているか、無効です。

処置: 有効なビュー名を CREATE VIEW の後に指定してください。有効なビュー名は、英字で始まり、英数字および特殊文字 \$、_、# から成り、30 文字以内である必要があります。また、予約語は指定できません。これ以外の文字を使用する場合は、二重引用符で囲む必要があります。

ORA-01000 最大オープン・カーソル数を超えました。

原因: ホスト言語プログラムがオープンしようとしているカーソルの数が多すぎます。1 ユーザーあたりのカーソルの最大数は、初期化パラメータ OPEN_CURSORS によって決定されています。

処置: プログラムを変更して、使用するカーソルの数を減らしてください。このエラーが頻発するようであれば、Oracle を停止して、OPEN_CURSORS の値を大きくしてから、Oracle を再起動してください。

ORA-01001 カーソルが無効です。

原因: ホスト言語のプログラム・コールが無効なカーソルを指定したか、プリコンパイラ・コマンドの AREASIZE オプションおよび MAXOPENCURSORS オプションの値が多すぎます。SQL、DESCRIBE、NAME、DEFINE、BIND、EXEC、FETCH、CLOSE などのコールで参照される前に、OPEN コールを使用してすべてのカーソルをオープンしておく必要があります。ログイン・データ領域 (LDA) は、OLON または OLOGON を使用して定義しておく必要があります。LDA が定義されていない場合、OPEN、COM、CON、ROL および LOGOFF の各コールに対して、このメッセージが出力されます。

処置: エラーとなったコール文を確認してください。必要に応じて、正しい LDA 領域を指定するか、カーソルをオープンしてください。カーソルに問題がなければ、プリコンパイルの前に AREASIZE オプションおよび MAXOPENCURSORS オプションの値を大きくする必要があります。

ORA-01002 フェッチ順序が無効です。

原因: ホスト言語プログラムの FETCH コールの発行順序が間違っています。フェッチの前に parse-and-execute コールが正常に発行される必要があります。全レコードのフェッチ後に、アクティブ・セットから FETCH を実行しようとする、このエラーが発生する場合があります。または、コミット後の SELECT FOR UPDATE カーソルからのフェッチによってエラーが発生する場合があります。また、PL/SQL カーソル・ループが暗黙にフェッチを行うとエラーの原因となる場合があります。

処置: データをフェッチする前に、SQL 文を解析して実行してください。

ORA-01003 解析された文がありません。

原因: ホスト言語プログラム・コールがカーソルを参照しましたが、対応する解析済の SQL 文がありません。単一の SQL コール（たとえば OSQL3）を使用して、SQL 文を Oracle に渡し、文とオープン・カーソルを対応させる必要があります。DESCRIBE、NAME、DEFINE、BIND、EXECUTE および FETCH コールのいずれかで参照される場合、カーソルには、対応する SQL 文が必要です。

処置: SQL コール（たとえば OSQL）を実行して、必要な SQL 文を渡してから、カーソルを参照してください。

ORA-01004 デフォルトのユーザー名は使用できません。ログオンは拒否されました。

原因: 自動ログインをサポートしていないシステムでこの機能を使用しようとした。

処置: 完全なユーザー名およびパスワードを指定して、Oracle にログインしてください。

ORA-01005 パスワードに NULL 値が入力されたためログオンは拒否されました。

原因: ログインで指定したパスワードは無効です。

処置: 有効なパスワードを指定してください。

ORA-01006 バインド変数がありません。

原因: 対応する SQL 文中にリストされていない変数に対して、プログラムから BIND コールが発行されました。BIND コール (OBIND または OBINDN) では、SQL 文のコロン (:) またはアンパサンド (&) の接頭辞が付いている変数のみを参照できます。このエラーは、プリコンパイラ・プログラムおよび関連するライブラリ (SQLLIB) 間の不一致が原因で発生することもあります。

処置: BIND コールを変更して、対応付けられた SQL 文に指定された置換変数の 1 つを参照するようにしてください。

ORA-01007 変数が選択リストにありません。

原因: SELECT 句にリストされていない変数を参照しました。OCI の場合、位置パラメータに対して渡された数が 1 より小さいか、あるいは DESCRIBE、NAME または DEFINE コールの SELECT 句内の変数の数より大きい場合に、このエラーが発生することがあります。また、SQL*Forms または SQL*Report では、SELECT 句に指定した数より多くの変数を INTO 句に指定すると、このエラーが発生します。

処置: 示された問題のうち、どれが障害を引き起こしているかを判別し、適切な処置を実行してください。

ORA-01008 バインドされていない変数があります。

原因: 置換変数を含む SQL 文を実行したとき、バインドされない変数が残りました。SQL 文を実行するとき、置換変数には置換される値が必要です。

処置: OCI で、OBIND または OBINDN コールを使って必要な値を置換してください。

ORA-01009 必須パラメータがありません。

原因: ホスト言語プログラム・コールによって必須パラメータがすべて渡されていません。

処置: コールの構文を調べて、必須パラメータをすべて入力してください。

ORA-01010 OCI 操作が無効です。

原因: 次のどれかです。

- 無効な OCI 操作を試行しました。
- バージョン 7.1 (またはそれ以上) のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用し、環境変数 ORA_ENCRYPT_LOGIN が TRUE に設定されている状態で、バージョン 7.0 またはそれ以下の Oracle Server に接続しようとしてしました。
- バージョン 7.1 (またはそれ以上) の Oracle Server に接続し、初期化パラメータ DBLINK_ENCRYPT_LOGIN が TRUE に設定されている状態で、バージョン 7.0 またはそれ以下の Oracle Server を示すデータベース・リンクを使用しようとしてしました。

処置: 前述の原因に応じて次の処置を行ってください。

- 無効な OCI 操作を使用しないでください。
- 分散データベースの暗号化された接続パスワードを使用しない場合には、ORA_ENCRYPT_LOGIN を FALSE に設定してください。暗号化された接続パスワードを使用する場合には、すべての Oracle Server をバージョン 7.1 (またはそれ以上) にアップグレードしてください。
- 分散データベースの暗号化されたデータベース・リンクを使用しない場合には、DBLINK_ENCRYPT_LOGIN を FALSE に設定してください。暗号化されたデータ

ベース・リンクを使用する場合には、すべての Oracle Server をバージョン 7.1（またはそれ以上）にアップグレードしてください。

ORA-01011 バージョン 6 と交信する時には V7 互換モードは使用できません。

原因： Oracle バージョン 6 に接続しているときに、Oracle7 の互換モードを使用しようとした。

処置： バージョン 6 の SQL 言語タイプを使用してください。必要に応じてバージョン 6 の SET COMPATIBILITY コマンドを使用してください。

ORA-01012 ログオンされていません。

原因： Oracle にログインせずに、ホスト言語プログラムが OLON または OLOGON 以外の Oracle コールを発行しました。このエラーは、ユーザー・プロセスが接続されているインスタンスがプロセスを強制的に切断して終了した後に、このユーザー・プロセスがデータベースにアクセスしようとする、発生する場合があります。

処置： OLON または OLOGON をコールして Oracle にログインした後に、Oracle コールを発行してください。インスタンスが再起動されたら、処理を再試行してください。

ORA-01013 ユーザーによってカレント操作の取消しが要求されました。

原因： ユーザーが CTRL-C (Control-C) または他の取消し操作によって Oracle の操作を中断しました。カレント操作は強制的に終了されます。これは情報メッセージです。

処置： 次の操作を続行してください。

ORA-01014 Oracle の停止処理中です。

原因： インスタンスの停止（シャットダウン）処理中に、ユーザーが Oracle にログインしようとした。停止処理中は、Oracle にログインできません。

処置： Oracle が起動した後で、ログインしてください。

ORA-01015 ログオンが再帰的に呼び出されました。

原因： これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置： オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01016 フェッチ後しかこのファンクションはコールできません。

原因： カーソルが無効な状態です。

処置： フェッチ後、無効なファンクションをコールする前に適切な OCI/UIP ファンクションをコールしてください。

ORA-01017 ユーザー名 / パスワードが無効です。ログオンは拒否されました。

原因： Oracle にログインするときに、無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。ユーザー名およびパスワードは、GRANT CONNECT 文に指定したものである必要があります。ユーザー名およびパスワードを同時に入力する場合の形式は、ユーザー名 / パスワードです。

処置: 有効なユーザー名およびパスワードの組合せを、正しい形式で入力してください。

ORA-01018 LONG データ型の列ではありません。

原因: LONG フェッチ・オプションを使用してデータをフェッチしようとしたが、指定した列は LONG ではありません。

処置: LONG フェッチ・オプションを指定しないでフェッチを再実行するか、LONG 列で表を作成してください。

ORA-01019 ユーザー・サイドのメモリーを割り当てることができません。

原因: ユーザー・サイドのメモリー・アロケートがエラーを戻しました。

処置: プロセス・ヒープ・サイズを大きくするか、または古いコール・セットに切り換えてください。

ORA-01020 コンテキストの状態が不明です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01021 指定したコンテキスト・サイズが無効です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01022 この構成では、データベース操作はサポートされていません。

原因: 通信している二つの Oracle Server に対して、データベース操作がユーザー・プログラミング・インタフェース (UPI) に一致しませんでした。

処置: Oracle Server をアップグレードするか、またはユーザー・サイドのアプリケーションを新しいライブラリに再リンクしてください。この問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01023 カーソル・コンテキストが見つかりません (カーソル番号が無効です)。

原因: カーソル番号が有効なオープン・カーソルではありません。

処置: カーソルがオープンしていることを確認してください。

ORA-01024 OCI コールのデータ型が無効です。

原因: OCI プログラム・コールで無効なデータ型が指定されました。OCI コールでは、Oracle データ型に 1 ～ 7 までの数を指定します。

処置: データ型の記述を確認して、データ型に正しい数を入力してください。

ORA-01025 UPI パラメータの値が有効範囲外です。

原因: UPI 関数に対する整数パラメータが有効範囲外です。

処置: 通常、これは Oracle DBMS 上に組み込まれたツールのエラーです。このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01026 バインド・リストにサイズが 4000 を超える複数バッファが存在しています。

原因: バインド・リストに長いバッファが複数存在します。

処置: 通常の列にバインドされているバインド変数のバッファ・サイズを、4000 より小さくなるように変更してください。

ORA-01027 データ定義操作ではバインド変数は使用できません。

原因: SQL データ定義操作でバインド変数を使用しようとしてしました。

処置: バインド変数は許可されていません。

ORA-01028 2 タスクで内部エラーが発生しました。

原因: LONG メッセージの送信を受け取りましたが、カーソル・コンテキストがありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-1029 2 タスクで内部エラーが発生しました。

原因: LONG がないときに、LONG の再送信の要求を受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01030 SELECT INTO 変数がありません。

原因: バインド・コールに指定された SELECT... INTO が、SQL 文の変数に対応していません。

処置: 文を訂正できない場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01031 権限が不足しています。

原因: 適切な権限のないユーザーがカレント・ユーザー名またはパスワードを変更しようとしてしました。必要なオペレーティング・システム権限がないデータベースをインストールしようとする、このエラーが発生します。Trusted Oracle が DBMS MAC で構成されていると、カレント・ログインより高いラベルで必要な権限をユーザーに付与した場合、このエラーが発行されます。

処置: データベース管理者に依頼して、操作を行うか、または必要な権限を付与してください。適切な権限が高いラベルで付与されていても、Trusted Oracle ユーザーがこのエラーを受け取る場合は、適切なラベルで再度権限を付与してもらうように、データベース管理者に依頼してください。

ORA-01032 ユーザー ID が存在しません。

原因: エクスポート / インポートに関連する内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01033 Oracle の初期化または停止中です。

原因: Oracle の起動中または停止中にログインしようとしてしました。

処置: 数分間待ってから、再試行してください。

ORA-01034 Oracle は使用できません。

原因: Oracle は起動していません。次の原因が考えられます。

- SGA に、割当てられていたよりも多くの領域が必要になっている。
- インスタンスを指定するオペレーティング・システム環境変数が正しく定義されていない。

処置: 続いて出力されるメッセージを参照して、原因を確認し、その他のメッセージで説明されている問題を訂正してください。Oracle が初期化されている場合には、いくつかのオペレーティング・システム上で、Oracle が正しくリンクされていることを確認してください。プラットフォーム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-01035 Oracle は RESTRICTED SESSION 権限を持つユーザーのみ使用可能です。

原因: インスタンスが制限モードで起動されているため、ログインは禁止されています。RESTRICTED SESSION システム権限を有するユーザーのみがログインできます。

処置: 制限オプションを付けずに Oracle を再起動するよう要求するか、または RESTRICTED SESSION システム権限を取得してください。

ORA-01036 変数の名前 / 数が無効です。

原因: ユーザー・サイドにバインド・コンテキストを見つけることができません。

処置: バインドされている変数が SQL 文に存在することを確認してください。

ORA-01037 カーソル・メモリーの最大値を超えました。

原因: カーソルの使用可能なメモリーをすべて消費する複雑な SQL 文を処理しようとしてしました。

処置: 複雑な SQL 文を単純にしてください。あるいは、NO_EXPAND ヒントを使用すると、WHERE 句に OR 条件または INLISTS を指定した問合せに対して、コストベース・オプティマイザが OR- 拡張を考慮しないようにできます。通常、コストベース・オプティマイザは OR 拡張の使用を考慮し、使用しない場合よりコストが低くなると判断した場合には、このメソッドを使用します。ヒントの使用については、『Oracle8i パフォーマンスのための設計およびチューニング』を参照してください。

ORA-01038 DB ファイルのバージョン *string* には Oracle バージョン *string* では書込めません。

原因: 古い形式でデータ・ファイルのヘッダーに書き込もうとしてしました。新しい形式は、現在のソフトウェア・バージョンに互換性があることをデータベースが確認した後で使用可能です。

処置: データベースをオープンして新しいファイル形式にしてから、操作を繰り返してください。データベースをオープンする前にその操作が必要な場合は、前のリリースのソフトウェアを使用して操作してください。

ORA-01039 ビューの基礎オブジェクトに対する権限が不十分です。

原因: 他のユーザーのビューの基礎オブジェクトに必要な権限を持たずに、そのビューの実行計画を表示しようとした。

処置: 必要な権限を取得するか、無効な操作を実行しないようにしてください。

ORA-01040 パスワードが無効です; ログオンが拒否されました。

原因: パスワードにマルチバイト文字があるか、US7ASCII 範囲にない文字があります。

処置: 有効な文字でパスワードを再送信してください。

ORA-01041 内部エラーが発生しました。hostdef エクステンションが存在しません。

原因: HSTDEF にある HSTDEF エクステンションへのポインタが NULL です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01042 オープン・カーソルを持つセッションを切り離すことはできません。

原因: オープン・カーソルを持つセッションを切り離そうとした。

処置: セッションを切り離す前にカーソルをすべてクローズしてください。

ORA-01043 ユーザー・サイドのメモリー異常 [string],[string],[string],[string]

原因: アプリケーション・コードが、Oracle が使用するユーザー・メモリーの一部を破損させました。

処置: アプリケーション・コードがメモリーを上書きしていないことを確認してください。

ORA-01044 バッファのサイズ *string* (変数 *string* 用) が最大値 *string* を超えています。

原因: 全サイズが許可されている最大サイズを超えたバッファをバインドしようとした。全配列サイズは次のように計算されます。

`(element_size)*(number of elements)`

処置: バッファ・サイズを小さくしてください。

ORA-01045 ユーザー *string* には CREATE SESSION 権限がありません。ログオンが拒否されました。

原因: CREATE SESSION 権限を持たないユーザー ID に接続しようとした。

処置: ユーザーに CREATE SESSION 権限を付与してください。

ORA-01046 コンテキスト領域を拡張するための領域を獲得できません。

原因: オペレーティング・システムが必要な領域を割当てないため、Oracle は現在の領域をこれ以上拡張できません。このメッセージに続いてシステムに固有のエラー・メッセージが出力されます。

処置: カーソルをいくつかクローズして、再試行してください。または、オペレーティング・システムの割当て量を確認して、より多くの仮想メモリーを使用できるか調べてください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01047 上のエラーは、スキーマ=string, パッケージ=string, プロシージャ=string で発生しました。

原因: 固有の情報がさらに提供された後にこのメッセージが出力されます。

処置: 以前に出力されたメッセージから原因と処置を調べてください。

ORA-01048 指定されたプロシージャがコンテキストで見つかりません。

原因: 遅延 RPC で指定されているプロシージャ・ユーザーが存在しません。

処置: プロシージャが存在し、レプリケーション・プロセスを参照できることを確認してください。

ORA-01049 名前によるバインドはストリーム RPC ではサポートされていません。

原因: 新しいサーバー・バージョンが、古いサーバー・バージョンからサポートされていない操作を要求するときにこのエラーが起こります。

処置: 1 つ以上の Oracle Server をアップグレードするか、またはユーザー・アプリケーションを新しいライブラリに再リンクしてください。

ORA-01050 コンテキスト領域をオープンするための領域を獲得できません。

原因: オペレーティング・システムが必要な領域を割当てないため、Oracle は新しいコンテキスト領域をオープンできません。このメッセージに続いてシステムに固有のエラー・メッセージが出力されます。

処置: カーソルをいくつかクローズして、再試行してください。または、オペレーティング・システムの割当て量を確認して、より多くの仮想メモリーを使用できるか調べてください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01051 遅延 rpc パッファのフォーマットが無効です。

原因: SYS.DEF\$_CALL にある遅延 RPC が破壊されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01052 宛先 LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が必要ですが、未指定です。

原因: LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータが 2 に設定されているときに、LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの有効な宛先が指定されていませんでした。

処置: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの値を指定するか、または LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータの値を 1 に設定してください。

ORA-01053 ユーザー記憶領域のアドレスが読み込めません。

原因: バインド変数または他のユーザー領域を Oracle で読み込めませんでした。

処置: 有効なユーザー・バッファ上で正しくバインドしていることを調べて、操作を再試行してください。

ORA-01054 ユーザー記憶領域のアドレスに書き込めません。

原因: 定義 (FETCH... INTO または SELECT... INTO)、変数または他のユーザー領域に書き込めません。

処置: INTO 変数および標識が正しく指定されていることを調べて、操作を再試行してください。

ORA-01057 ユーザー・イグジットで block.field 参照が無効またはあいまいです。

原因: ユーザー・イグジット中のブロック・フィールド識別子に対する参照が、正しくないか、あいまいです。綴りが誤っているか、不完全である可能性があります。

処置: 構文および識別子の綴りを調べて、参照を訂正してください。

ORA-01058 新 Upi インタフェースの内部エラーです。

原因: 存在しない HSTDEF エクステンションを削除しようとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01059 バインドまたは実行の前に解析する必要があります。

原因: クライアント・アプリケーションが、文の解析前に変数をバインドしようとしたか、または PL/SQL ブロックでオープンされたカーソルを実行しようとしてしました。

処置: バインドまたは実行前に、文が解析されるようにしてください。

ORA-01060 配列のバインドまたは実行はできません。

原因: クライアント・アプリケーションがカーソルの配列をバインドしようとしたか、またはタイプ・カーソルのバインド変数を使用して PL/SQL ブロックに対して繰り返し実行しようとしてしました。

処置: 単一カーソルをバインドするか、一度 PL/SQL ブロックを実行してください。

ORA-01061 V7 のクライアント・アプリケーションを使って V8 のサーバーは起動できません。

原因: バージョン 7 (またはそれ以下) のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用して、バージョン 8 (またはそれ以上) のサーバーを起動しようとしてしました。

処置: バージョン 8 (またはそれ以上) のライブラリにリンクした Oracle クライアント・アプリケーションを使用してください。

ORA-01070 サーバーで Oracle の旧バージョンを使用しています。

原因: 古い Oracle Server を使用しようとしてしました。

処置: サーバーをアップグレードしてください。

ORA-01071 Oracle を起動しないで操作を実行することはできません。

原因: Oracle を起動する前に操作を実行しようとしてしました。

処置: Oracle を起動して、操作を再試行してください。

ORA-01072 Oracle は稼働していないので停止できません。

原因: Oracle を停止しようとしてしましたが、Oracle は稼働していません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01073 致命的な接続エラーが発生しました。コール・タイプが認識できません。

原因: 無効な内部操作を行おうとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01074 Oracle を停止できません。ログオフしてください。

原因: ログイン・セッション内で Oracle を停止しようとしてしました。

処置: Oracle を停止する前にログオフしてください。

ORA-01075 すでにログオンしています。

原因: すでにログオンしているのにログオンしようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01076 1 つのプロセスに対する複数ログオンはサポートされていません。

原因: Oracle は 1 つのプロセスに対する複数ログオンをサポートしていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01077 バックグラウンド・プロセス初期化が失敗しました。

原因: Oracle バックグラウンド・プロセスの初期化中に障害が発生しました。

処置: 付属のメッセージ・スタックまたはトレース・ファイル中の診断情報を参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01078 システム・パラメータの処理が失敗しました。

原因: システムの起動時の初期化パラメータの処理に失敗しました。

処置: 診断情報の詳細は、エラー・スタックを参照してください。

ORA-01079 Oracle が正しく作成されていないので操作は中止になりました。

原因：データベースまたは制御ファイル作成時のエラーです。

処置：データベースが最初に作成されたとき、または制御ファイルが再作成されたときに表示されたメッセージを確認してください。適切な処置を行い、データベースまたは制御ファイルを再作成してください。

ORA-01080 Oracle の停止中にエラーが発生しました。

原因：システムの停止時に障害が発生しました。

処置：付属のメッセージ・スタックの診断情報を参照し、適切な処理を行ってください。

ORA-01081 すでに稼働中の Oracle を起動しようとしてしました。まず Oracle を停止してください。

原因：すでに稼働中の Oracle を起動しようとしてしました。

処置：Oracle を再起動する場合は、一度停止してください。

ORA-01082 row_locking=always はトランザクション処理オプションです。

原因：「row_locking = always」が INIT.ORA ファイルに指定されています。この機能は、トランザクション処理オプションのない Oracle ではサポートしていません。

処置：INIT.ORA ファイルから指定を削除するか、「default」または「intent」に設定してください。

ORA-01083 パラメータ値 *string* が他のサーバーのパラメータ値と一致していません。

原因：指定された初期化パラメータ値は、パラレル構成のすべてのサーバーと同じである必要があります。

処置：他の制御ファイルの値と一致するように初期化パラメータ・ファイルの値を変更してください。

ORA-01084 OCI コールの引数が無効です。

原因：エラーの原因となった OCI コールには、無効な値の引数があります。

処置：有効な引数値を使用してください。詳細は、『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』および適切なプログラミング言語の書物を参照してください。

ORA-01085 遅延 RPC のエラーを *string.string.string* に送ります。

原因：指定したプロシージャが遅延リモート・プロシージャ・コールとして実行されたときに、エラーが検出されました。

処置：前に発生したエラーの原因を訂正してください。

ORA-01086 セーブポイント *string* は設定されていません。

原因：一度も設定していないセーブポイントに対してロールバックしようとしてしました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01087 Oracle にログオンしているので、起動はできません。

原因: 現在 Oracle にログオンしているユーザーが Oracle を起動しようとした。

処置: ログオフしてから、STARTUP コマンドを発行してください。

ORA-01088 アクティブ・プロセスがあるので Oracle は停止できません。

原因: ユーザーがインスタンスにログインしています。

処置: すべてのユーザーがログオフするまで待機するか、または SHUTDOWN IMMEDIATE を使用してください。

ORA-01089 停止処理中 (shutdown immediate) なので操作は許可されません。

原因: 稼働中の Oracle インスタンスを停止するために、SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドが使用されました。実行中の操作は終了しました。

処置: インスタンスの再起動を待つか、またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-01090 停止処理中なので接続はできません。

原因: 稼働中の Oracle インスタンスを停止するために、SHUTDOWN コマンドが使用されました。Oracle への接続はできません。

処置: インスタンスの再起動を待つか、またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-01091 強制起動時にエラーが発生しました。

原因: 旧 SGA は破壊できません。

処置: 手作業で旧 SGA を削除してください。手順については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。その後、STARTUP コマンドを再試行してください。

ORA-01092 Oracle インスタンスが終了し強制的に切り離されました。

原因: 接続していたインスタンスが異常終了しました。SHUTDOWN ABORT による可能性があります。カレント・プロセスは強制的にインスタンスから切り離されました。

処置: データベース管理者に連絡して、インスタンスをいつ再起動するのかを判断してください。インスタンスが再実行された後に再接続してください。

ORA-01093 ALTER DATABASE CLOSE は接続中のセッションがない場合にしか実行できません。

原因: インスタンスにログインしているセッションが、カレント・セッション以外に少なくとももう 1 つ存在しています。他のセッションがアクティブであるときに ALTER DATABASE CLOSE は実行できません。

処置: 他のセッションを検出して切り離してから、ALTER DATABASE CLOSE コマンドを再試行してください。また、SHUTDOWN IMMEDIATE コマンドを発行して、ユーザーをシステムから強制的に切り離すか、または SHUTDOWN ABORT コマンドを使用して、ユーザーが切り離されるのを待たずに、データベースを停止してください。

ORA-01094 ALTER DATABASE CLOSE を処理中なので接続できません。

原因：ALTER DATABASE CLOSE コマンドでクローズ中のデータベースに接続しようとした。

処置：データベースがオープンしているときに再接続してください。データベース管理者に連絡してデータベースがオープンされる時間を確認してください。

ORA-01095 DML 文は 0 行処理しました。

原因：OTEX() コールからの DML カーソルが実行時に 0 行処理しました。

処置：コール側でロールバックするか、またはメッセージを無視してカーソル配列中の残りのカーソルを実行できます。

ORA-01096 プログラムのバージョン *string* がインスタンス *string* と適合しません。

原因：このプログラムは、接続しようとしているインスタンスとは異なるバージョンのサーバーにリンクされています。

処置：プログラムをインスタンスと同じバージョンの Oracle と再リンクするか、そのプログラムのバージョンのサーバーを使用してデータベースを再起動（強制起動）してください。

ORA-01097 トランザクションの処理中にデータベースを停止できません。まずコミットまたはロールバックを実行してください。

原因：トランザクションの処理中にデータベースを停止しようとした。

処置：カレント・トランザクションをコミットまたはロールバックしてから、データベースを停止してください。

ORA-01098 LONG 挿入の際にプログラム・インタフェース・エラーが発生しました。

原因：TTCGETV コールが失敗するときの内部エラーのために、アプリケーション・プログラム・インタフェースが LONG 列を挿入または更新できません。たとえば、ネットワークの読み込みエラーまたはコールに渡されたパラメータは有効ではありません。

処置：挿入または更新を再試行してください。

ORA-01099 単一プロセス・モードで起動した DB は SHARED モードではマウントできません。

原因：初期化パラメータ SINGLE_PROCESS を TRUE に設定して、パラレル・モードでデータベースをマウントしようとした。

処置：パラレル（共有）モードでインスタンスを起動する前に、EXCLUSIVE モードでデータベースをマウントするか、初期化パラメータ SINGLE_PROCESS を FALSE に設定してください。

ORA-01100 データベースはすでにマウントされています。

原因：マウントしようとしているデータベースと同じ名前のデータベースを別のインスタンスがマウントしています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-01101 作成中のデータベースは別のインスタンスによってマウントされています。

原因: 他のインスタンスに現在マウントされているデータベースと同じ名前のデータベースを作成しようとしています。

処置: データベース名を変更するか、他のインスタンスを停止してください。

ORA-01102 データベースを排他モードでマウントすることができません。

原因: いくつかの別のインスタンスが、排他または共有モードでマウントされたデータベースを使用しています。

処置: 他のインスタンスを停止するか、または互換性のあるモードでマウントしてください。

ORA-01103 制御ファイルのデータベース名 *string* が *string* ではありません。

原因: 制御ファイルのデータベース名が、ご使用のデータベース名と一致していません。

処置: 正しい制御ファイルを見つけるか、またはご使用のデータベース名を変更してください。

ORA-01104 制御ファイルの数 *string* が *string* と一致しません。

原因: このインスタンスに使用される制御ファイルの数が、既存のインスタンスの制御ファイルの数と一致しません。

処置: 制御ファイルがすべてリストされていることを確認してください。

ORA-01105 マウントは別のインスタンスによるマウントと矛盾します。

原因: データベースをマウントしようとして、同じ名前でも別のインスタンスがデータベースをマウントしていることを検出しましたが、そのマウントは矛盾します。追加エラーにその理由が示されます。

処置: 同時に出力されるエラーを参照してください。

ORA-01106 ディスマウントする前にデータベースをクローズしなければなりません。

原因: クローズする前にデータベースをアンマウントしようとしてしました。

処置: データベースをクローズしてから、操作を再試行してください。

ORA-01107 メディアのリカバリを行なうにはまずデータベースをマウントしなければなりません。

原因: データベースがマウントされていない状態で、メディア・リカバリを実行しようとしてしました。

処置: データベースをマウントしてください。

ORA-01108 ファイル *string* は、バックアップ中またはメディア・リカバリ中です。

原因: メディア・リカバリがすでにファイルに適用されているか、またはデータベースが NOARCHIVELOG モードでバックアップ中です。ファイルを通常のデータベース・アクセスまたはクラッシュ・リカバリには使用できません。

処置: メディア・リカバリ・セッションまたはバックアップを完了させるか取り消してください。

ORA-01109 データベースがオープンされていません。

原因: このコマンドを実行するには、データベースのオープンが必要です。

処置: データベースをオープンして、コマンドを再試行してください。

ORA-01110 データ・ファイル *string*: *string*'

原因: このメッセージは他のエラー・メッセージに関係のあるファイル名を示しています。

処置: 問題の記述については関連するエラー・メッセージを参照してください。

ORA-01111 データ・ファイル名 *string* が不明です。正しいファイルへの改名が必要です。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されたデータ・ファイルがありません。または、そのデータ・ファイルが作成される以前に保存された制御ファイルを使用して、BACKUP CONTROLFILE RECOVERY が行われました。

処置: 不明なファイルの名前を実際のファイルの名前に改名してください。

ORA-01112 メディアのリカバリ処理が開始されていません。

原因: メディア・リカバリを継続しようとしています、メディア・リカバリは開始されていませんでした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01113 ファイル *string* はメディアのリカバリが必要です。

原因: メディア・リカバリが必要なデータ・ファイルをオープンしようとしてしました。

処置: メッセージに示されたデータ・ファイルをメディア・リカバリしてから、操作を再試行してください。

ORA-01114 ファイル *string* (ブロック番号 *string*) への書込み I/O エラーが発生しました。

原因: ファイルが保存されているデバイスが、オフラインになっている可能性があります。

処置: デバイスへのアクセスをリストアしてから、操作を再試行してください。

ORA-01115 ファイル *string* (ブロック番号 *string*) からの読込み I/O エラーが発生しました。

原因: ファイルが保存されているデバイスが、オフラインになっている可能性があります。

処置: デバイスへのアクセスをリストアしてから、操作を再試行してください。

ORA-01116 データベース・ファイル *string* のオープンでエラーが発生しました。

原因: 通常、そのファイルにはアクセスできません。

処置: データベース・ファイルが所定の位置にあり、アクセス可能であることを確かめて、操作を再試行してください。

ORA-01117 ファイル *string* はブロック・サイズ: *string* では登録できません (制限値 *string*)。

原因: 許可されている最大のブロック・サイズを超える大きさのデータベース・ファイルを登録しようとして失敗しました。

処置: ブロック・サイズを小さくして、操作を再試行してください。

ORA-01118 データベース・ファイルをこれ以上登録できません。制限数 *string* を超えました。

原因: データベース・ファイルを登録しようとして失敗しました。ファイル数制限を超えています。

処置: データベース領域がさらに必要な場合は、データベースをエクスポートしてから、データ・ファイル数の制限およびファイル・サイズの制限を大きくして、データベースを再作成してください。

ORA-01119 データベース・ファイル *string* の作成でエラーが発生しました。

原因: デバイスの領域が不十分です。

処置: 作成するファイルのサイズを小さくするか、使用可能な領域を確保できる別のデバイス上にファイルを割り当ててください。ファイル・サイズが文に指定されなかった場合は、デバイス上の使用可能な領域よりも小さいファイル・サイズを指定してください。

ORA-01120 オンライン・データベース・ファイル *string* は削除できません。

原因: オンラインのときに、データベース・ファイルを削除しようとして失敗しました。

処置: 削除する前に、ファイルをオフラインにしてください。

ORA-01121 データベース・ファイル *string* は改名できません。ファイルは使用中またはリカバリ中です。

原因: オープン・インスタンスでオンラインのデータベース・ファイルまたはリカバリ中のデータ・ファイルを、ALTER DATABASE RENAME を使用して改名しようとして失敗しました。

処置: すべてのインスタンスでデータベースをクローズして、すべてのリカバリ・セッションを終了してください。

ORA-01122 データベース・ファイル *string* の照合検査でエラーが発生しました。

原因: このファイルの情報が、制御ファイルの情報と矛盾しています。理由については他のエラーを確認してください。

処置: データベース・ファイルおよび制御ファイルが、このデータベースに対して正しいファイルであることを確認してください。

ORA-01123 メディアのリカバリが使用不能なのでオンライン・バックアップを開始できません。

原因: オンラインの表領域のバックアップを開始しようとして失敗しました。メディア・リカバリが使用できないためです。

処置: メディア・リカバリを使用可能にして、この操作を再試行してください。

ORA-01124 データ・ファイル *string* はリカバリできません。ファイルは使用中またはリカバリ中です。

原因: メディア・リカバリをしようとしたますが、ファイルをリカバリできませんでした。オンラインで他のインスタンスがデータベースをオープンしているか、または他のプロセスがファイルのメディア・リカバリを行っています。

処置: メディア・リカバリを行わないでください。

ORA-01125 メディアのリカバリを使用不可にできません。ファイルは *string* にはオンライン・バックアップが設定されています。

原因: メディア・リカバリを使用不可にしようとしたますが、オンライン・バックアップが実行中です。

処置: 問題のある表領域のバックアップを終了して、このコマンドを再試行してください。

ORA-01126 データベースを排他モードでマウントする必要があります。この操作にはオープンされていません。

原因: データベースが排他モードでマウントされていないため、操作が失敗しました。

処置: Oracle を停止してから、データベースを排他モードでマウントしてください。

ORA-01127 データベース名 *string* が文字制限数 *string* を超えています。

原因: 指定したデータベース名が長すぎます。

処置: 8 文字（バイト）以内のデータベース名を指定し直して、操作を再試行してください。

ORA-01128 *string* はオフラインになっているためオンライン・バックアップを開始できません。

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたますが、ファイルの 1 つがオフラインです。

処置: 問題のあるファイルをオンラインにして、このコマンドを再試行するか、またはコールド・バックアップを実行してください。

ORA-01129 ユーザーのデフォルト表領域または一時表領域が存在しません。

原因: ユーザーのデフォルトまたは一時表領域が削除されています。

処置: デフォルトまたは一時表領域を再度割り当ててください。

ORA-01130 データベース・ファイルのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* と互換性がありません。

原因: 指定されたデータベース・ファイルは互換性のないバージョンの Oracle で作成されています。または、ファイルが無効であるか存在しません。

処置: Oracle を停止して、適切なバージョンを起動するか、またはデータ・ファイルに対する参照を確認してデータ・ファイルが存在することを確認してください。

ORA-01131 DB_FILES システム・パラメータ値 *string* が制限値 *string* を超えています。

原因: 初期化パラメータ DB_FILES に指定した値が大きすぎます。

処置: DB_FILES パラメータの値を小さくして、操作を再試行してください。

ORA-01132 データベース・ファイル名 *string* の長さが文字制限数 *string* を超えています。

原因: 指定したデータ・ファイル名が長すぎます。

処置: ファイル名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-01133 ログ・ファイル名 *string* の長さが文字制限数 *string* を超えています。

原因: 指定した REDO ログ・ファイル名が長すぎます。

処置: ファイル名を短くして、操作を再試行してください。

ORA-01134 データベースは別のインスタンスにより排他モードでマウントされています。

原因: データベースにアクセスしようとして失敗しました。別のインスタンスによって排他モードでマウントされているためです。

処置: 別インスタンスを停止するか、あるいはそのインスタンスがデータベースをクローズするかまたは共有モードでマウントするのを待って、操作を再試行してください。

ORA-01135 DML/ 問合せでアクセスしているファイル *string* はオフラインです。

原因: オフラインのデータ・ファイルにアクセスしようとして失敗しました。

処置: データ・ファイルをオンラインに戻してください。

ORA-01136 ファイル *string* に指定したサイズ (*string* ブロック) は元のサイズの *string* ブロック未満です。

原因: ファイルのサイズが ALTER DATABASE CREATE DATAFILE の AS 句に指定されましたが、サイズは必要な大きさを満たしていません。

処置: サイズを大きくして、ファイルを作成してください。

ORA-01137 データ・ファイル *string* はオフラインにされています。

原因: オンラインにしようとしているオフラインのファイルに対して、ロックを獲得できませんでした。ファイルをオフラインにしているインスタンスが、ロックを保持している可能性があります。

処置: その他のインスタンスがファイルのロックを解放するのを待ってください。

ORA-01138 このインスタンスでデータベースをオープンしなければなりません。

原因: データベースがこのインスタンスによってマウントされ、オープンされていないときに、別のインスタンスがデータベースをオープンしている場合、要求された操作は実行できません。

処置: オープン・インスタンスで操作を実行するか、このインスタンスでデータベースをオープンするか、または他のインスタンスでデータベースをクローズしてください。

ORA-01139 RESETLOGS オプションはデータベース手動リカバリ後のみ有効です。

原因: RESETLOGS オプションが ALTER DATABASE OPEN で指定されましたが、不完全リカバリ・セッションがありません。

処置: RESETLOGS を指定しないで ALTER DATABASE OPEN を再試行してください。

ORA-01140 全ファイルがオフラインなのでオンライン・バックアップを終了できません。

原因: オンライン・バックアップを終了しようとしたときに、すべてのファイルがオフライン状態でした。

処置: 処置は必要ありません。表領域に対してオンライン・バックアップを終了する必要はありません。

ORA-01141 データ・ファイル *string* の改名でエラーが発生しました。新ファイル *string* は見つかりません。

原因: 新しい名前のファイルが見つからないために、制御ファイル中のデータ・ファイル名を変更しようとして失敗しました。

処置: データ・ファイルがオペレーティング・システムによって正しく改名されていることを確かめ、再試行してください。

ORA-01142 バックアップ中のファイルがないのでオンライン・バックアップを終了できません。

原因: オンライン・バックアップを終了しようとしたときに、ファイルが見つかりませんでした。

処置: 処置は必要ありません。オンライン・バックアップは、表領域に対して終了する必要はありません。

ORA-01143 メディアのリカバリを使用不可にできません。ファイル *string* はメディアのリカバリが必要です。

原因: メディア・リカバリを使用不可にしようとしたましたが、ファイルにメディア・リカバリが必要です。このため、メディア・リカバリを使用不可にできません。

処置: 問題のあるファイルをリカバリするか、またはそのファイルに付属する表領域を削除して、このコマンドを再試行してください。

ORA-01144 ファイル・サイズ (*string* ブロック) が最大値 *string* ブロックを超えています。

原因: 指定されたファイル・サイズが、最大許容サイズの値より大きくなっています。

処置: 小さなサイズを指定してください。

ORA-01145 メディアのリカバリが使用可能でないと即時にオフラインにできません。

原因: ALTER TABLESPACE ... OFFLINE IMMEDIATE または ALTER DATABASE DATAFILE ... OFFLINE は、データベースが ARCHIVE モードの場合にのみ使用可能です。

処置: 表領域をオフラインにするか、必要な操作の前に停止処理をしてください。データベースのバックアップ計画を見直す必要があります。ARCHIVE LOG モードが使用可能な場合は、操作が実行されます。

ORA-01146 ファイル *string* はバックアップ中なので、オンライン・バックアップを開始できません。

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたますが、オンライン・バックアップがデータ・ファイルの 1 つに対してすでに開始されていました。

処置: 最初のバックアップが終了してから別のバックアップを開始してください。

ORA-01147 SYSTEM 表領域ファイル *string* がオフラインです。

原因: SYSTEM 表領域に属するファイルを、データベース管理者がオフラインにしました。SYSTEM 表領域に属するファイルすべてが、オンラインとなりオープン可能になるまで、データベースは起動できません。

処置: ファイルをオンラインにしてください。

ORA-01148 Oracle Lock Manager がインストールされていないので PARALLEL ではデータベースをマウントできません。

原因: Lock Manager が存在しないにもかかわらず、データベースを PARALLEL でマウントしようとした。

処置: EXCLUSIVE モードでデータベースをマウントしてください。

ORA-01149 ファイル *string* にオンライン・バックアップが設定されているので DB を停止できません。

原因: 正常に停止しようとしたますが、オンライン・バックアップが実行中です。

処置: 問題のある表領域のバックアップを終了して、このコマンドを再試行してください。

ORA-01150 書込みを防止できません - ファイル *string* にオンライン・バックアップが設定されています。

原因: オンライン・バックアップの実行中に、表領域をオフラインまたは読取り専用にできません。この操作が許可されてしまうと、バックアップ終了時のファイル・ヘッダーの書込みが実行されません。

処置: オンライン・バックアップを終了させてから、表領域をオフラインまたは読取り専用に設定してください。

ORA-01151 必要であれば、メディアのリカバリを使用してブロックのリカバリとバックアップのリストアを行ってください。

原因: クラッシュ・リカバリまたはインスタンス・リカバリは、ブロックに変更を適用できませんでした。継続する変更ではなかったためです。これはブロックが破壊され、リカバリ中に修正された場合に発生します。このエラーは通常 ORA-01172 とともに発生します。

処置: ORA-01172 には追加情報があります。ブロックを含むファイルに対して、データ・ファイルを対象とした RECOVER を実行してください。これによって問題が解決されない場合は、バックアップからファイルをリストアし、再度リカバリを行ってください。

ORA-01152 ファイル *string* は十分に古いバックアップからリストアされていません。

原因: 不完全リカバリ・セッションを開始しましたが、データベースの一貫性のために適用する REDO ログ・ファイルの数が足りません。このファイルは、最後に適用された REDO ログに存在しています。不完全リカバリを実行する前に、バックアップからファイルをリストアしなかったためにエラーが発生した可能性があります。

処置: データベースの一貫性が保たれた状態になるまで追加 REDO ログ・ファイルを適用するか、またはより古いバックアップからデータ・ファイルをリストアして、リカバリを繰り返してください。

ORA-01153 互換性のないメディアのリカバリがアクティブです。

原因: 互換性のないメディア・リカバリを開始しようとしたか、またはメディア・リカバリ中に RESETLOGS でオープンしようとしてしました。同一のデータ・ファイルをリカバリしようとする場合、メディア・リカバリ・セッションには互換性がありません。不完全メディア・リカバリまたは RESETLOGS でのオープンは、どのメディア・リカバリとも互換性がありません。

処置: 他のメディア・リカバリ・セッションを完了させるかまたは取り消してください。

ORA-01154 データベースがビジーです。オープン、クローズ、マウント、ディスマウントは現在実行できません。

原因: インスタンスがオープンまたはマウント状態であることを必要とする操作が進行中です。

処置: その操作の終了を待って、再試行してください。データベースを停止させる場合は、SHUTDOWN ABORT を実行してください。

ORA-01155 データベースは現在オープン、クローズ、マウント、ディスマウントのいずれかを実行中です。

原因: 実行しようとした操作は、インスタンスがこのメッセージで示しているいずれかの状態である場合、正常に終了しません。

処置: オープン、クローズ、マウントまたはアンマウントが終了するのを待って、再試行してください。データベースを停止させる場合は、SHUTDOWN ABORT を実行してください。

ORA-01156 現在処理中のリカバリ作業で、ファイルへのアクセスを必要としています。

原因: メディアまたはインスタンス・リカバリが進行中です。リカバリでは、その操作でしようとしたファイルにアクセスが必要な場合があります。

処置: リカバリが終了するのを待って、再試行してください。

ORA-01157 データ・ファイル *string* を識別 / ロックできません。DBWR トレース・ファイルを参照してください。

原因: ファイルがすでに使用されていたため、バックグラウンド・プロセスはデータ・ファイルを識別できないか、またはロックできませんでした。データベースはこのファイルへのアクセスを禁止しますが、他のファイルには影響しません。ただし、データベースをオープンする最初のインスタンスはすべてのオンライン・データ・ファイルにアクセスする必要があります。ともに表示されるオペレーティング・システムからのエラーには、ファイルが認識されない理由が説明されています。

処置: オペレーティング・システム・レベルで、ファイルをデータベースに対して使用可能にしてからデータベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES を実行してください。

ORA-01158 データベース *string* はすでにマウントされています。

原因: 別のインスタンスによって、データベースがこの名前でマウントされています。

処置: どのインスタンスが実行中であるかを検出してください。制御ファイルが存在している可能性があります。

ORA-01159 ファイルは先のファイルと同じデータベースに存在しません。DB ID が無効です。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定したファイルで、同一データベースに存在しないファイルがあります。このファイルのデータベース ID が、指定された最初のファイルからのデータベース ID と一致しません。

処置: CREATE に指定されたファイルのリストを確認してください。

ORA-01160 ファイルは *string* ではありません。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンドの DATAFILE または LOGFILE セクションで指定されたファイルが、指定された状態ではありません。

処置: 指定されたファイルを確認してください。

ORA-01161 ファイル・ヘッダー内のデータベース名 *string* は指定した *string* と一致しません。

原因: コマンド行に指定したデータベース名と、ファイル・ヘッダーに指定されたデータベース名が一致しません。

処置: コマンド行に指定したデータベース名が間違っている可能性があります。矛盾を解決し、コマンドを再実行してください。データベース名を変更しようとしている場合、SET DATABASE オプションを使用していることを確認してください。

ORA-01162 ファイル・ヘッダー内のブロック・サイズ *string* は DB_BLOCK_SIZE *string* と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE によって、このファイルのブロック・サイズは、キャッシュ・バッファを割り当てるのに使用された初期化パラメータ DB_BLOCK_SIZE と互換性がないことが判明しました。これが最初のファイルでない場合は、ブロック・サイズが混在しているか、またはファイルが破損しています。

処置: これがコマンドの最初のファイルである場合、ファイルに一致するように DB_BLOCK_SIZE を訂正して、インスタンスを再起動してください。最初のファイルでない場合、ファイルの正しいバージョンを検出してください。

ORA-01163 SIZE 句で示す *string* (ブロック) はヘッダー *string* と一致している必要があります。

原因: CREATE CONTROLFILE 文の SIZE 句にバイト単位で指定されたサイズが、ヘッダーに記録されているブロック数と一致しません。

処置: 正しいファイル名およびサイズを (バイト単位で) 指定してください。

ORA-01164 MAXLOGFILES は *string* を超えることはできません。

原因: コマンド行で、値の大きすぎる MAXLOGFILES が指定されました。

処置: MAXLOGFILES の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01165 MAXDATAFILES は *string* を超えることはできません。

原因: コマンド行で、値の大きすぎる MAXDATAFILES が指定されました。

処置: MAXDATAFILES の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01166 ファイル番号 *string* が *string* (*string*) より大きくなっています。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定されたファイル番号が、MAXDATAFILES または MAXLOGFILES に指定された番号より大きくなっています。

処置: MAXDATAFILES、MAXLOGFILES またはパラメータ DB_FILES の値を大きくしてください。

ORA-01167 2つのファイルは同一ファイル番号/グループ番号または同一ファイルです。

原因: コマンド行で指定したファイルにファイル番号の重複があるか、同一ファイルが2度指定されています。完全に同じファイルでない場合は、どちらかのファイルは一方のファイルのバックアップである可能性があります。同じログの2つのメンバーである場合は、グループ・ファイル仕様部に一緒に指定しなければなりません。このメッセージは、同じ制御ファイルが INIT.ORA ファイル内の CONTROL_FILES に2回以上指定された時にも表示されます。この場合には、追加のエラー・メッセージも確認してください。

処置: 指定したファイルが、コマンドですでに指定したファイルではないことを確認してください。別のファイルである場合は、以前のバックアップを削除してください。同じログのメンバーである場合は、同じグループのファイル指定であることを確認してください。制御ファイルが二重であるために、このメッセージが表示された場合、INIT.ORA 内の CONTROL_FILES パラメータを確認し、ファイルが2回以上指定されていないかどうかを確認してください。すべてのファイル名が一意であれば、実際の制御ファイル自体が一意であることを確認してください。たとえば UNIX では、リスト内の別の制御ファイルにシンボリック・リンクまたはハード・リンクしていることを確認してください。

ORA-01168 物理ブロック・サイズ *string* は他メンバーのサイズ *string* と一致しません。

原因: ファイルが、グループ内の他のメンバーとは異なる物理ブロック・サイズのデバイス上にあります。

処置: 一致するブロック・サイズの物理デバイスを使用してください。

ORA-01169 DATAFILE 番号 1 がありません。この番号は必ず存在していなければなりません。

原因: データ・ファイル番号 1 が、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されていません。

処置: データ・ファイル番号 1 を指定して、CREATE CONTROLFILE コマンドを再実行してください。

ORA-01170 ファイル *string* がありません。

原因: CREATE CONTROLFILE 文に指定されたファイルがありません。

NORESETLOGS が使用されている場合、CREATE CONTROLFILE 文を発行するプロセスは、すべてのデータ・ファイルおよび REDO ログ・ファイルにアクセスする必要があります。

処置: ファイル名の綴りが誤っていないか確認し、すべてのファイルが存在することを確認してください。ファイル名を訂正してから文を再発行してください。

ORA-01171 チェックポイントが進まないためデータファイル *string* はオフラインになりました。

原因: ファイル・ヘッダー内のチェックポイントを進められません。理由については、他のエラーを確認してください。データ・ブロックの書込みエラーの場合と同様に、データ・ファイルはオフラインになります。

処置: 詳細は、付随するメッセージを参照してください。ファイルへのアクセスをリストアし、メディア・リカバリを行い、オンラインに戻してください。

ORA-01172 スレッド *string* のリカバリは停止しました (ブロック *string*, ファイル *string*)。

原因: クラッシュ・リカバリまたはインスタンス・リカバリは、ブロックに変更を適用できませんでした。継続する変更ではなかったためです。これはブロックが破損し、リカバリ中に修正された場合に発生します。

処置: ブロックを含むファイルに対して、RECOVER DATAFILE を実行してください。これで問題が解決されない場合は、バックアップからファイルをリストアし、再度リカバリしてください。

ORA-01173 データ・ディクショナリが SYSTEM 表領域にデータ・ファイルがないことを示しています。

原因: 次のいずれかです。

- データベースが制御ファイルより先の時点にリカバリされている。
- CREATE CONTROLFILE 文にシステム表領域のデータ・ファイルが指定されていない。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

- 最新の制御ファイルによってデータベースをリカバリする。
- システム表領域内のデータ・ファイルがすべてコマンド行に指定されていることを確認して、制御ファイルを再作成する。

ORA-01174 DB_FILES は *string* ですが、*string* にする必要があります。

原因: このインスタンスでのデータベース・ファイルの最大数は、他のインスタンスの数値と異なっています。オープンできるすべてのファイルを、すべてのインスタンスがオープンする必要があります。

処置: 互換可能にするために DB_FILES パラメータの値を変更してください。

ORA-01175 インスタンスがサポートできる数 *string* を超えるファイルがデータ・ディクショナリにあります。

原因: データ・ディクショナリに、このインスタンスがサポートできるファイル数より多くのファイルがあります。

処置: インスタンスを停止して、DB_FILES に大きい値を設定して再起動してください。

ORA-01176 制御ファイルがサポートできる数 *string* を超えるファイルがデータ・ディクショナリにあります。

原因: CREATE CONTROLFILE の実行後、データ・ディクショナリに、制御ファイルがサポートできるデータ・ファイル数より多いファイルがあります。

処置: MAXDATAFILES の値を大きくし、制御ファイルを再作成してください。

ORA-01177 データ・ファイルはデータ・ディクショナリと一致しません。ファイルが古い可能性があります。

原因：CREATE CONTROLFILE または OPEN RESETLOGS の実行後に、制御ファイルをデータ・ディクショナリと比較したときに、このデータ・ファイルがディクショナリと矛盾していることが判明しました。そのファイルはデータベースから削除されたファイルのバックアップであり、同じファイル番号が新しいファイルに再使用された可能性があります。また、このファイル番号が別のデータ・ファイルに使用されたときに、不完全リカバリが停止した可能性もあります。

処置：正しいファイルを指定して CREATE CONTROLFILE を実行するか、またはファイルをまったく指定せずに CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01178 最後の CREATE CONTROLFILE 文より前に作成されたファイル *string* は再作成できません。

原因：CREATE CONTROLFILE コマンドを最後に使用したときに存在していたデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを使用して、再作成しようとした。このファイルを再作成するために必要な情報は、このファイルをデータベースに追加したときに存在した制御ファイルによって失われました。

処置：ファイルのバックアップを検索し、リカバリしてください。そのファイルが最初に作成されたときよりも前の時点まで不完全リカバリを実行してください。

ORA-01179 ファイル *string* は存在しません。

原因：データベース・ファイルのリカバリ中に、データベースに含まれていないファイルがリストされました。

処置：ファイル名を再確認してください。SQL*DBA のコマンド行では、一重引用符を使用することに注意してください。SQL*DBA の動作環境ではファイル名も変換されます。

ORA-01180 データ・ファイル 1 は作成できません。

原因：ALTER DATABASE CREATE DATAFILE を使用して、データ・ファイル 1 を作成しようとした。

処置：バックアップからファイルをリカバリするか、またはデータベースを再作成してください。

ORA-01181 最後の RESETLOGS より前に作成されたファイル *string* は再作成できません。

原因：RESETLOGS データベースを最後にオープンしたときに存在していたデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE を使用して再作成しようとした。

処置：ファイルのバックアップを検出し、リカバリしてください。そのファイルが最初に作成されたときよりも前の時点まで不完全リカバリを実行してください。

ORA-01182 データベース・ファイル *string* は作成できません。ファイルは使用中またはリカバリ中です。

原因：オープン・インスタンスでオンラインのデータ・ファイルまたはリカバリ中のデータ・ファイルを、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE を使用して再作成しようとした。

処置：すべてのインスタンスでデータベースをクローズして、すべてのリカバリ・セッションを終了してください。

ORA-01183 データベースを SHARED モードでマウントすることはできません。

原因：他のインスタンスが、EXCLUSIVE モードでマウントされたデータベースを使用しています。

処置：その他のインスタンスを停止して、SHARED モードでマウントしてください。

ORA-01184 ログ・グループ *string* はすでに存在します。

原因：ALTER DATABASE ADD LOGFILE コマンドで指定した新しいログのログ番号は、すでに使用されています。

処置：別のログ・ファイル番号を指定するか、またはデータベースに未使用の番号を選択させてください。

ORA-01185 ログ・グループ番号 *string* が無効です。

原因：ALTER DATABASE ADD LOGFILE コマンドで指定した新しいログのログ番号が、大きすぎます。

処置：正しいログ・ファイル番号を指定してください。

ORA-01186 ファイル *string* は検査を通過しませんでした。

原因：データ・ファイルが、データベースの一部であることを保証するための検査を通過しませんでした。検査を通過しなかった理由は、ともに表示されるエラー・メッセージを調べてください。

処置：データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01187 ファイル *string* が検査を通過しなかったため、このファイルから読み込むことができません。

原因：データ・ファイルが、データベースの一部であることを保証するための検査を通過しませんでした。検査を通過するまで読取りできません。

処置：データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01188 ヘッダー内のブロック・サイズ: *string* は物理ブロック・サイズ *string* と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定されたログ・ファイル・メンバーが、ログを作成するために最初に使用されたデバイスとはブロック・サイズが異なる物理デバイス上に存在しています。

処置: 正しいブロック・サイズのデバイスにファイルを移動するか、または RESETLOGS オプションを使用して CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01189 以前のファイルと異なる RESETLOGS からのファイルです。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンド中のこのファイルまたはそれ以前のすべてのファイルは、最新の RESETLOGS より前にバックアップされたものです。これはそのファイルがオフラインであるか、または最新の RESETLOGS からオフラインであった場合にも発生する可能性があります。

処置: ファイルが、最新の RESETLOGS より前にオフラインになり、依然としてオフラインである場合は、CREATE CONTROLFILE コマンドからこのファイルを取り除いてください。データベースをオープンした後でこのファイルを改名し、オンラインにしてください。それ以外の場合は、残りのデータ・ファイルと一貫性のある該当ファイルのバージョンを確認し、コマンドを再実行してください。

ORA-01190 制御ファイルまたはデータ・ファイル *string* は最後の RESETLOGS 以前のもです。

原因: ファイルのログ・リセット情報が制御ファイルと一致しないときに、データ・ファイルを使用しようとしてしました。ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS を実行する前に、データ・ファイルまたは制御ファイルをバックアップします。

処置: さらに新しいバックアップからファイルをリストアしてください。

ORA-01191 ファイル *string* はすでにオフラインです。オフライン操作はできません。

原因: 正常な表領域をオフラインにしようとしたとき、表領域のファイルの1つがすでにオフラインになっていました。

処置: データ・ファイルをオンラインにするか、または別の表領域にオフライン・オプションを使用してください。

ORA-01192 少なくとも1つの使用可能なスレッドが必要です。

原因: CREATE CONTROLFILE コマンド行に、少なくとも1つのスレッドから、少なくとも2つの REDO ログ・ファイルを指定する必要があります。

処置: 欠落しているログ・ファイルを検出してください。検出された REDO ログ・ファイルを新たにコマンド行に指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01193 ファイル *string* はリカバリの開始時に存在したファイルと異なります。

原因: メディア・リカバリがファイル・ヘッダーを最後に検査したときにアクセスされたファイルは異なるコピーでした。ファイルのバックアップがリストアされたか、またはリカバリ中にファイル名の意味が変更されました。

処置: 正しいファイルが使用可能であることを確認し、リカバリを再試行してください。

ORA-01194 ファイル *string* は一貫した状態にするためにさらにリカバリが必要です。

原因: 不完全リカバリ・セッションを開始しましたが、ファイルを一貫したものにするために適用するログ・ファイルの数が足りません。報告されたファイルは、データベースによって以前オープンされてから、完全にクローズされていません。ファイルは更新される前の状態にリカバリしなければなりません。不完全リカバリを実行する前に、バックアップからファイルをリストアしなかったためにエラーが発生した可能性があります。

処置: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからファイルをリストアしてリカバリを繰返してください。

ORA-01195 オンライン・バックアップ・ファイル *string* は一貫した状態にするためにさらにリカバリが必要です。

原因: 不完全リカバリ・セッションを開始しましたが、ファイルを一貫したものにするために適用するログ・ファイルの数が足りません。指摘されたファイルは、バックアップが終了した時点までリカバリする必要があるオンライン・バックアップ・ファイルです。

処置: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはより古いバックアップからデータベース・ファイルをリストアして、リカバリを繰返してください。

ORA-01196 メディアのリカバリ・セッションでエラーが発生したためファイル *string* は矛盾した状態にあります。

原因: ファイルのリカバリ中に、リカバリが異常終了しました。このため、ファイルは一貫性のない状態です。このファイルのリカバリは、正常に実行できませんでした。

処置: ファイルが一貫した状態になるまでログを適用し続けるか、またはバックアップからファイルを再度リストアして、リカバリを繰返してください。

ORA-01197 スレッド *string* はログを 1 つしか含んでいません。

原因: CREATE CONTROLFILE の実行中、ログに表示されたスレッドすべては、少なくとも 2 つのログ（最後のログおよび 2 番目のログ）によって指定される必要があります。指定したスレッドには、このような 2 つのログが含まれていません。

処置: 指定したスレッドからさらにログを見つけるか、または RESETLOGS オプションを使用して、CREATE CONTROLFILE を実行してください。

ORA-01198 RESETLOGS ではログ・ファイルにサイズを指定する必要があります。

原因: OPEN RESETLOGS オプション付きで CREATE CONTROLFILE を実行している場合、すべてのログ・ファイルにはファイル・サイズを指定する必要があります。

処置: 適切なログ・ファイル・サイズを指定して、コマンドを再試行してください。

ORA-01199 ファイル *string* がオンライン・バックアップ・モードではありません。

原因: オンライン・バックアップ中でないファイルに対してオンライン・バックアップを終了しようとした。

処置: コマンドは必要ないので、入力しないでください。

ORA-01200 実ファイル・サイズ *string* が正しいサイズ *string* ブロックより小さくなっています。

原因: オペレーティング・システムが戻すファイル・サイズが、ファイル・ヘッダーと制御ファイルに示されているファイル・サイズより小さくなっています。ファイルは切り捨てられた可能性があります。不完全なコピーが原因である可能性があります。

処置: データ・ファイルの正しいコピーをリストアし、必要であればリカバリを行ってください。

ORA-01201 ファイル *string* のヘッダーで書込みに失敗しました。

原因: ファイル・ヘッダーの I/O エラーがレポートされました。エラーが検出されたため、再試行が行われます。

処置: ファイルのリカバリが必要である可能性があります。別のエラー・メッセージで必要な処置が示されます。

ORA-01202 このファイルの作成日時が一致しません。

原因: ファイル・ヘッダー内の作成日付と制御ファイル内の作成日付が一致しません。削除されたファイルのコピーである可能性があります。

処置: データ・ファイルのカレント・コピーをリストアし、必要であればリカバリを行ってください。

ORA-01203 このファイルの作成システム変更番号 (SCN) が一致しません。

原因: ファイル・ヘッダー内の作成システム変更番号 (SCN) と制御ファイル内の SCN が一致しません。削除されたファイルのコピーである可能性があります。

処置: データ・ファイルのカレント・コピーをリストアし、必要であればリカバリを行ってください。

ORA-01204 ファイル番号は *string* です (*string* ではない)。ファイルが無効です。

原因: ファイル・ヘッダー内のファイル番号が正しくありません。同じデータベース内の不当なファイルのバックアップをリストアした可能性があります。

処置: 正しいデータ・ファイルのコピーをリストアし、必要であればリカバリを行ってください。

ORA-01205 データ・ファイルではありません。ヘッダー内のファイル型は *string* です。

原因: ヘッダー内のファイル型がデータ・ファイルとして正しくありません。このファイルは、ログ・ファイルまたは制御ファイルです。型が 0 (ゼロ) 以外の小さい正数でない場合、ヘッダーは破損しています。

処置: 正しいデータ・ファイルのコピーをリストアし、必要であればリカバリを行ってください。

ORA-01206 ファイルがこのデータベースの一部ではありません。DB ID が無効です。

原因: ファイル・ヘッダー内の DB ID が制御ファイル内の DB ID と一致しません。データベースが異なるか、またはデータベース・ファイルではない可能性があります。データベースを再構築した場合、再構築前のファイルである可能性もあります。トランスポータブル表領域の機能を介して、別のデータベースからファイルがプラグ・インするときにこのエラーが表示される場合、ファイル・ヘッダーの DB ID が予期したものと一致していないことに注意してください。

処置: 正しいデータ・ファイルのコピーをリストアし、必要であればリカバリを行ってください。

ORA-01207 ファイルが制御ファイルより新しくなっています (制御ファイルが古い)。

原因: データ・ファイル内の制御ファイル変更順序番号が、制御ファイル内の番号より大きくなっています。これは間違った制御ファイルが使用されていることを示しています。このエラーが繰り返されると、実際の問題を訂正しないままエラーが発生しなくなることには注意してください。データベースをオープンしようとするたびに、制御ファイル変更順序番号は十分な大きさになるまで更新されます。

処置: カレント制御ファイルを使用するか、または BACKUP CONTROLFILE RECOVERY を実行して制御ファイルをカレントにしてください。BACKUP CONTROLFILE RECOVERY の実行に関する制限事項すべてに従ってください。

ORA-01208 データ・ファイルは古いバージョンです。現行バージョンにアクセスできません。

原因: ファイル・ヘッダー内のチェックポイントが、制御ファイル内のチェックポイントよりも前のものです。別のインスタンスですでにオープンされているデータベースをオープンする場合、または別のインスタンスがこのファイルをオンラインにした場合、このインスタンスにアクセスされるファイルは、おそらく別のバージョンです。それ以外の場合は、ファイルの使用中にそのファイルのバックアップがリストアされた可能性があります。

処置: データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01209 データ・ファイルは最後の RESETLOGS より前のものです。

原因: ファイル・ヘッダー内のリセット・ログ・データと制御ファイルが一致しません。データベースがクローズされているか、またはファイルがオフラインの場合、バックアップは、ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドを最後に実行した時点よりも前に取られたために、古いバックアップです。別のインスタンスですでにオープンされているデータベースをオープンする場合、または別のインスタンスがこのファイルをオンラインにした場合、このインスタンスにアクセスされるファイルは、おそらく別

のバージョンです。それ以外の場合は、ファイルの使用中にそのファイルのバックアップがリストアされた可能性があります。

処置: データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。その後、データベースをオープンするか、または ALTER SYSTEM CHECK DATAFILES コマンドを実行してください。

ORA-01210 データ・ファイル・ヘッダーにメディア欠陥があります。

原因: ファイル・ヘッダー・ブロックが内部的に矛盾しています。ブロックの先頭にはチェックサム付きのヘッダー、およびブロックの一貫性を保証する他のデータが存在します。最後のディスクの書込みが正常に行われなかった可能性があります。問題として最も可能性が高いのは、このファイルがデータベース用ではないということです。

処置: オペレーティング・システムで、データベースが正しいファイルを使用できるようにしてください。チェックサムのみが不当であることをトレース・ファイル・ダンプが示している場合、バックアップからファイルをリストアしてメディア・リカバリを行ってください。

ORA-01211 Oracle7 データ・ファイルは Oracle8 に移行していません。

原因: 移行しようとするデータ・ファイルが、移行前にとられたバックアップまたは移行ユーティリティ実行後に Oracle7 によってオープンされたデータベース・ファイルのいずれかです。データベースを Oracle7 から Oracle8 に移行するときは、移行プログラムが Oracle7 でそのデータベースにアクセスした最後のファイルである必要があります。

処置: オペレーティング・システムに、データベースが正しいデータ・ファイルを利用できるようにさせるか、または Oracle7 から Oracle8 への移行を繰り返してください。移行ユーティリティ実行後にデータベースがオープンしていないことを確認してください。

ORA-01212 MAXLOGMEMBERS は *string* を超えることはできません。

原因: MAXLOGMEMBERS が大きすぎるコマンド行を指定しました。

処置: MAXLOGMEMBERS の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01213 MAXINSTANCES は *string* を超えることはできません。

原因: MAXINSTANCES が大きすぎるコマンド行を指定しました。

処置: MAXINSTANCES の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01214 MAXLOGHISTORY は *string* を超えることはできません。

原因: MAXLOGHISTORY が大きすぎるコマンド行を指定しました。

処置: MAXLOGHISTORY の値を小さくして、コマンドを再試行してください。

ORA-01215 CREATE CONTROLFILE 文に使用可能なスレッド *string* がありません。

原因: CREATE CONTROLFILE 文が指定されましたが、それはデータベースで使用可能なスレッドすべてをリストしていません。

処置: 使用可能なスレッドをすべて含めて、CREATE CONTROLFILE 文を再発行してください。

ORA-01216 CREATE CONTROLFILE 文のスレッド *string* を使用不可にする必要があります。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定されたスレッドは使用可能ですが、データ・ファイルは、そのスレッドが使用不可であることを示しています。これは、CREATE CONTROLFILE に指定されたログが（スレッドを使用不可にする前から）古い可能性があります。

処置: このスレッドはデータベースを実行する必要がありません。問題のあるスレッドを使用せずに CREATE CONTROLFILE 文を再発行でき、必要に応じて、データベースがオープンした後にスレッドを再作成できます。

ORA-01217 ログ・ファイル・メンバーが異なるログ・ファイル・グループに属しています。

原因: CREATE CONTROLFILE に指定した複数メンバーのログ・ファイル・グループのメンバーが、以前のメンバーと同じグループの一部ではありません。

処置: CREATE CONTROLFILE コマンドに指定したメンバーを、正しいメンバーに訂正してください。

ORA-01218 ログ・ファイル・メンバーが同じ時点のものではありません。

原因: 複数メンバーのログ・ファイル・グループのメンバーが、異なる時点のもので。指定されたメンバーの1つが、ログの（バックアップ）コピーより古い可能性があります。

処置: ログの正しいバージョンを見つけるか、または CREATE CONTROLFILE コマンドから除外してください。

ORA-01219 データベースがオープンしていません。固定の表 / ビューに対する問合せだけが可能です。

原因: データベースがオープンされる前に、固定の表 / ビューとして認識されていないオブジェクトに対し、問い合わせが発行されました。

処置: 固定のオブジェクトのみに対する問合せを書き直すか、データベースをオープンしてください。

ORA-01220 データベースのオープン前のファイル・ベースのソートは無効です。

原因: データベースがオープンされる前に、ソート用の一時セグメントが必要な表またはビューに対し問い合わせが発行されました。データベースがオープンされる前は、メモリー内のソートのみが可能です。

処置: 大きいソートをしないうように間合せを書き直し、SORT_AREA_SIZE または SORT_AREA_RETAINED_SIZE 初期化パラメータ（あるいはその両方）の値を増やして、メモリーでソートできるようにしてください。

ORA-01221 データ・ファイル *string* はバックグラウンド・プロセスに対して同一ファイルではありません。

原因: データベース・ライターがデータ・ファイルをオープンする際、フォアグラウンドでリカバリを行う物理ファイルと異なるファイルにアクセスしました。フォアグラウンドでセットされるタイムスタンプは、バックグラウンドでは見つかりません。バックグラウンド・プロセスがそのファイルをまったく読んでいない可能性があります。

処置: DBWR トレース・ファイルの中を見て、ファイル・ヘッダーの読込みの際に受け取ったエラーを調べてください。バックグラウンド・プロセスによって同一のファイルが正常にそのファイル名でオープンする必要がある場合は、オペレーティング・システムの再構成を行ってください。

ORA-01222 *string* の MAXINSTANCES は少なくとも *string* の MAXLOGFILES が必要です (*string* ではない)。

原因: REDO の 1 スレッドあたり少なくとも 2 つのログ用の領域のないデータベースまたは制御ファイルを作成しようとしてしました。REDO のスレッドを使用可能にするには、このスレッドが 2 つのオンライン・ログを持つ必要があります。そのログでサポートできる数以上の REDO のスレッドを許可することは、意味がありません。

処置: MAXINSTANCES 引数を減らすか、または MAXLOGFILES の値を増やしてください。

ORA-01223 新規データベース名を設定するには RESETLOGS を指定しなければなりません。

原因: CREATE CONTROLFILE で SET *database name* オプションが指定されましたが、RESETLOGS は指定されませんでした。データベース名は、RESETLOGS を使用してデータベースをオープンするときのみ変更できます。

処置: CREATE CONTROLFILE に対し、RESETLOGS オプションを追加するか、SET オプションを削除してください。

ORA-01224 ヘッダー内のグループ番号 *string* は GROUP *string* と一致しません。

原因: CREATE CONTROLFILE で指定されたグループ番号がヘッダー中のグループ番号と一致していません。指定が誤っている可能性があります。

処置: GROUP オプションを指定しないか、正しい GRUOP オプションを指定してください。

ORA-01225 スレッド番号 *string* が MAXINSTANCES *string* より大きいです。

原因: スレッド番号に MAXINSTANCES より大きい値を指定しました。

処置: MAXINSTANCES に、より大きい値を指定してから再試行してください。

ORA-01226 ログ・メンバーのファイル・ヘッダーが他メンバーと矛盾しています。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージのログ・ファイル・メンバーは、以前のメンバーと同じグループですが、ヘッダー中の他のフィールドとは異なっています。ファイル・ヘッダーが壊れているか、いくつかのファイルが削除されたログのメンバーとなっている可能性があります。

処置: 正しいログ・メンバーを見つけるか、またはこのメンバーをコマンドから取り除いてください。

ORA-01227 ログ *string* が他メンバーと矛盾しています。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージに示されたログ・ファイルは、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されているログの内容と一貫性がありません。ファイル・ヘッダーが破損しているか、またはいくつかのファイルがカレント・バージョンより古いコピーである可能性があります。一貫性の不一致なので、問題の原因は表示されたログではない場合があります。コマンド中にリストされるすべてのログ・ファイルは、カレント・バージョンのオンライン・ログである必要があります。

処置: 正しいオンライン・ログを見つけるか、または RESETLOGS オプションを使用してください。

ORA-01228 SET DATABASE オプションは初期 DB をインストールする必要があります。

原因: 初期 DB のインストール時に、CREATE CONTROLFILE コマンド中に SET DATABASE オプションが含まれていませんでした。データベースは複数のサイトでインストールされるため、データベース ID を持っていません。各サイトでは、それぞれのデータベース ID が必要となります。SET DATABASE と RESETLOGS オプションを、このデータベースの制御ファイル作成のために指定する必要があります。

処置: SET DATABASE と RESETLOGS オプションを指定して、コマンドを再発行してください。

ORA-01229 データ・ファイル *string* がログと矛盾しています。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージに示されたデータ・ファイルは、CREATE CONTROLFILE コマンドに指定されているログの内容と一貫性がありません。コマンドに対して 1 つ以上のオンライン・ログを指定していない可能性があります。また、指定されている場合でも、そのバージョンがカレント・バージョンよりも古いことが考えられます。すべてのオンライン・ログ・ファイルは、コマンド中にリストされる必要があります。またカレント・バージョンのオンライン・ログである必要があります。

処置: 正しいオンライン・ログを見つけるか、または RESETLOGS オプションを使用してください。

ORA-01230 読取り専用にできません - ファイル *string* がオフラインです。

原因: 表領域を読取り専用にしようとした際に、そのファイルの 1 つがオフラインでした。

処置: ファイルをオンラインにして、このコマンドを再試行してください。

ORA-01231 読み込み、書き込み専用にできません - ファイル *string* がオフラインです。

原因: 表領域を読み込み、書き込み専用にしようとした際に、そのファイルの1つがオフラインでした。

処置: ファイルをオンラインにして、このコマンドを再試行してください。

ORA-01232 オンライン・バックアップを開始できません - ファイル *string* は読取り専用です。

原因: オンライン・バックアップを開始しようとしたますが、ファイルの1つが読取り専用とマークされています。読取り専用ファイルはオンライン・バックアップ・モードに設定する必要はありません。

処置: BEGIN BACKUP コマンドを使用せずに、バックアップを作成してください。

ORA-01233 ファイル *string* は読取り専用です。 - バックアップの制御ファイルを使用してリカバリできません。

原因: バックアップ制御ファイルを使用して、メディア・リカバリを実行しようとしたますが、ファイルの1つが読取り専用とマークされています。通常、読取り専用ファイルをリカバリする必要はありませんが、バックアップ制御ファイルでのリカバリは、オンライン・ファイルをすべてリカバリする必要があります。

処置: ファイルが読取り専用の場合、リカバリ前にそのファイルをオフラインにし、データベースがオープンしてから読取り専用の表領域をオンラインにしてください。ファイルをリカバリする必要がある場合、ファイルが読み込み / 書き込みになったときからの制御ファイルを使用してください。正しい制御ファイルが使用可能でない場合、CREATE CONTROLFILE を使用して制御ファイルを作成してください。

ORA-01234 ファイル *string* のバックアップが終了できません。 - ファイルが使用中またはリカバリ処理中です。

原因: ファイルがビジーなときに、ファイルのオンライン・バックアップを終了させようとした。リカバリや改名といった操作がアクティブになっているか、またはデータベースをオープンし、このファイルがオンラインになっているインスタンスが存在する可能性があります。

処置: データベースをオープンさせたインスタンスがある場合、ALTER TABLESPACE コマンドを使用して、そこでバックアップを終了させることができます。それ以外の場合は、その他の操作の完了を待ってください。

ORA-01235 END BACKUP は *string* ファイルで失敗しましたが、*string* では正常に終了しました。

原因: END BACKUP コマンドの1つまたは複数のファイルが失敗しました。同じコマンド中のその他のいくつかのファイルは成功しました。

処置: バックアップが終了しなかった理由については、付随するエラー・メッセージを参照してください。エラー・メッセージにリストされていないファイルは成功しています。

ORA-01236 ファイル・ヘッダー・アクセスの開始時にエラー *string* が発生しました。

原因: 示されたエラーが、ファイル・ヘッダーの初期化処理中に発生しました。

処置: 示されたエラーを訂正してください。さらに遅いアクセス・アルゴリズムを使用して、このエラーからの回復を試みてください。

ORA-01237 データファイル *string* は拡張できません。

原因: サイズ変更の間にオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの原因に対処してから、コマンドを再試行してください。

ORA-01238 データファイル *string* は縮小できません。

原因: サイズ変更の間にオペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置: このエラーは無視され、操作は正常に続行します。

ORA-01239 外部キャッシュの使用には、データベースは ARCHIVELOG モードでなければなりません。

原因: オンライン・ファイルで外部キャッシュを使用しましたが、データベースが NOARCHIVELOG モードでした。外部キャッシュにはメディア・リカバリが必要な場合もあるので、これは許可されません。

処置: データベースを ARCHIVELOG モードに変更するか、または外部キャッシュを使用しないでください。

ORA-01240 1 つのコマンドで追加するデータ・ファイルが多すぎます。

原因: コマンドに指定されたデータ・ファイルの数が、1 つのコマンドで追加できる数を超えました。全ファイル名を 1 つのログ・エントリに組み込む必要がありますが、その場合はエントリが大きくなりすぎます。

処置: CREATE TABLESPACE コマンドの場合、ファイルの数を減らして作成し、後で他のファイルを追加してください。ADD DATAFILE コマンドの場合は、複数のコマンドに分割してください。

ORA-01241 外部キャッシュが消滅しています。

原因: 外部キャッシュが再起動された可能性があります。

処置: エラー・スタック内の該当ファイルをオフラインにして、メディア・リカバリを行い、そのファイルをオンラインに戻してから操作を再試行してください。また、インスタンスすべてを再起動して、一貫した外部キャッシュを介してインスタンスが全データ・ファイルに確実にアクセスすることも確認できます。

ORA-01242 データ・ファイルのメディア障害発生: データベースは NOARCHIVELOG モードです。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードで、メディア障害のためデータベース・ファイルがアクセス不能であることが判明しました。

処置: エラー・スタック内の該当ファイルのアクセス権限をリストアし、インスタンスを再起動してください。

ORA-01243 システム表領域ファイルにメディア障害が起きました。

原因: システム表領域ファイルが、メディア障害によってアクセス不能であることが判明しました。

処置: エラー・スタック内の該当ファイルのアクセス権限をリストアし、インスタンスを再起動してください。

ORA-01244 メディア・リカバリによって名前なしデータファイルが制御ファイルに追加されました。

原因: 再作成された制御ファイルまたはバックアップ制御ファイルを使用したメディア・リカバリで、制御ファイルにないデータ・ファイルが作成されました。新しいデータ・ファイル用の制御ファイルにエントリが1つ追加されます。このファイル名は UNNAMEDnnnn となり、nnnn はファイル番号です。ファイルの作成に使用された元のファイル名は、後に続くエラー・メッセージで分かります。

処置: ファイルを改名して有効なファイル名にし、リカバリを再開してください。必要に応じて、ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを使用し、リカバリに適したファイルを作成して改名してください。ファイルをリカバリしない場合は、FOR DROP オプションを指定してそのファイルをオフラインにしてください。

ORA-01245 RESETLOGS が行われるとオフライン・ファイル *string* が失われます。

原因: オフラインであるため失われる可能性があるファイルを使用して、OPEN RESETLOGS を実行しようとしてしました。このファイルは、FOR DROP オプションを指定してオフラインにされていません。

処置: ファイルをオンラインにしてリカバリするか、FOR DROP オプションを指定してファイルをオフラインにしてください。

ORA-01246 表領域 *string* の TSPITR を使用してファイルをリカバリします。

原因: 続いて表示されるエラーに示されるファイルは、この表領域に対して表領域 Point-in-Time リカバリが行われる前に作成されたバックアップです。これらのファイルは、Point-in-Time リカバリ後の状態に回復することはできません。

処置: さらに新しいバックアップをリストアして、それらをリカバリしてください。

ORA-01247 表領域 *string* の TSPITR を使用してデータベースをリカバリします。

原因: データベース全体をリカバリしようとしてしましたが、表領域の Point-in-Time リカバリが行われたことを REDO が示しています。表領域内のファイルの新規バージョンがリカバリに組み込まれている必要がありますが、組み込まれていませんでした。

処置: 表領域をリカバリしない場合は、表領域内のファイルをオフラインにして削除してください。リカバリする必要がある場合は、その後に、必要に応じてリストアまたは改名を行い、リカバリを再始動してください。

ORA-01248 ファイル *string* が不完全リカバリの未来の時刻で作成されました。

原因: 不完全リカバリの UNTIL 時間後に最初に作成された制御ファイルのファイル・エントリで、RESETLOGS オープンを行おうとしました。このようなエントリを許可すると、この時点で必要なファイルのバージョンを隠してしまう可能性があります。ファイル番号は、RESETLOGS が使用されていれば失われているはずの別のファイルに使用されている可能性があります。

処置: さらにリカバリを行う必要があれば、ファイルの作成時間になるまで REDO を適用してください。ファイルを必要とせず、リカバリの停止時に同じファイル番号が使用されていない場合は、FOR DROP オプションでファイルをオフラインにすることができます。それ以外の場合は、RESETLOGS を使用するためには別の制御ファイルが必要です。他のバックアップのリストアやリカバリ、または CREATE CONTROLFILE を使用した制御ファイルの作成ができます。

ORA-01249 クローン・データベースでアーカイブは実現できません。

原因: オンライン REDO ログをアーカイブしようとしたか、またはクローン・データベースのアーカイブを使用可能にしようとしたしました。

処置: クローンからアーカイブしないでください。アーカイブ・ログの宛先は簡単にプライマリ・データベースの宛先と同じにして、アーカイブしたログを破棄することができます。アーカイブが必要であれば、データベースをクローンとしてではなく再作成してください。

ORA-01250 ファイル・ヘッダー・アクセスの終了時にエラー *string* が発生しました。

原因: ファイル・ヘッダー処理の終了中に、示されたエラーが発生しました。エラーは、書き込みエラーではありませんでした。

処置: 示されたエラーを訂正してください。

ORA-01251 ファイル番号 *string* に対して読込まれたファイル・ヘッダーのバージョンは不明です。

原因: ファイル・ヘッダーの読込みがレコードを返しましたが、そのバージョンが不明です。ヘッダーが破壊されているか、またはファイルが有効なデータベース・ファイルではありません。

処置: オペレーティング・システムで正しいファイルをデータベースで使用可能にするか、ファイルをリカバリしてください。

ORA-01252 書き込みを防止できません - Recovery Manager バックアップのファイル *string*

原因: 表領域を読取り専用または通常オフラインにしようとしたましたが、Recovery Manager プロキシ・バックアップが実行中です。ファイルがオフラインまたは読取り専用の場合、バックアップの完了時に、ファイル・ヘッダーを更新できません。

処置: Recovery Manager バックアップの完了を待って、このコマンドを再試行してください。

ORA-01253 オンライン・バックアップを開始できません - Recovery Manager バックアップのファイル *string*

原因: Recovery Manager が、指定されたファイルをバックアップしています。

処置: Recovery Manager プロキシ・バックアップの完了を待ってから、別のバックアップを開始してください。

ORA-01254 オンライン・バックアップを終了できません - Recovery Manager バックアップのファイル *string*

原因: Recovery Manager が、指定されたファイルをバックアップしています。

処置: Recovery Manager プロキシ・バックアップの完了を待ってください。手動で Recovery Manager のバックアップ・モードを開始または終了できません。

ORA-01255 シャットダウンできません - Recovery Manager バックアップのファイル *string*

原因: 正常にシャットダウンしようとしたますが、Recovery Manager バックアップがまだ実行中です。

処置: Recovery Manager プロキシ・バックアップの完了を待って、このコマンドを再試行してください。

ORA-01256 データベース・ファイル *string* のロックでエラーが発生しました。

原因: このファイルは、他のデータベース・インスタンスが使用中です。

処置: どのデータベース・インスタンスがこのファイルを所有しているか確認してください。

ORA-01280 重大な LogMiner エラーです。

原因: 次のいずれかが原因です。

- DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャの 1 つ以上の入力パラメータが無効である可能性があります。
- SCN の開始または終了が、選択されたログ・ファイルで使用できない可能性があります。
- 指定されたディクショナリ・ファイルが、ログ・ファイルを生成したデータベースとは異なるデータベースのファイルである可能性があります。
- LogMiner にリカバリできない内部エラーが発生した可能性があります。

処置: 入力パラメータが有効であるかどうかを確認してください。V\$LOGMNR_LOG ビューを問い合わせ、指定されたログ・ファイル・セットに有効な SCN の範囲およびログ・ファイルを生成したデータベースの DB_ID を参照できます。

ORA-01281 dbms_logmnr.start_logmnr() に無効な SCN 範囲が指定されました。

原因: StartSCN が EndSCN より大きい値になっているか、SCN 指定子が有効ではありません。

処置: 有効な SCN 範囲を指定してください。

ORA-01282 dbms_logmnr.start_logmnr() に無効なデータ範囲が指定されました。

原因: 指定された日付の値が、ログ・ファイルに対して無効です。

処置: 有効な日付範囲を指定してください。

ORA-01283 指定したオプションは無効です。

原因: 指定されたオプションが、プロシージャに対して無効です。

処置: 有効なオプションを指定してください。

ORA-01284 ファイル *string* をオープンできません。

原因: 指定されたファイルはオープンできません。

処置: ファイルまたはディレクトリが存在し、アクセス可能であることを確認してください。

ORA-01285 ファイル *string* の読み込みエラーです。

原因: ファイルまたはディレクトリが存在しないか、アクセス不能です。

処置: 有効なファイルまたはディレクトリを指定してください。また、ファイルおよびディレクトリがアクセス可能であることを確認してください。

ORA-01286 DB_ID が一致しないため、ファイル *string* を追加できません。

原因: このログ・ファイルは、これまでにリストに追加されたログ・ファイルとは異なるデータベースが作成したものです。

処置: 同じデータベースが作成したログ・ファイルを指定してください。

ORA-01287 *string* は別のデータベース再現によるファイルです。

原因: このログ・ファイルは、別のデータベース再現で作成されたものです。

処置: 同じデータベース再現が作成したログ・ファイルを追加してください。

ORA-01289 重複するログファイル *string* を追加できません。

原因: 指定されたログ・ファイルは、すでにログ・ファイルのリストに追加されています。

処置: 別のログ・ファイルを指定してください。

ORA-01290 リストにないログファイル *string* を削除できません。

原因: リストにないログ・ファイルを削除しようとしてしました。

処置: DBMS_LOGMNR.ADD_LOGFILE() プロシージャで有効なログ・ファイルを指定してください。

ORA-01291 ログファイルがありません。

原因: データに対応していないログ・ファイルがあるか、dbms_logmnr.start_logmnr() で指定した SCN 範囲がリストに追加されています。

処置: V\$LOGMNR_LOGS ビューを確認して不足している SCN 範囲を判断し、関連するログ・ファイルを追加してください。

ORA-01292 現行の LogMiner セッションにログファイルが指定されていません。

原因: 現行の LogMiner セッションにログ・ファイルが指定されていません。

処置: ログ・ファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

ORA-01293 時間または SCN 範囲がリストされたログファイルに含まれていません。

原因: 入力された日付 /SCN 範囲が、セッションに指定されたログ・ファイルに完全に含まれていません。

処置: V\$LOGMNR_LOGS ビューから SELECT して LogMiner セッションに指定されたログ・ファイルに含まれる日付または SCN 範囲を調べ、適切な日付または SCN 範囲で START_LOGMNR() プロシージャを再発行してください。

ORA-01294 ディクショナリ・ファイル *string* で情報を処理中、エラーが発生しました。破損の可能性があります。

ORA-01295 ディクショナリ *string* とログファイルで DB_ID が一致しません。

原因: ディクショナリ・ファイルは、ログ・ファイルを作成したデータベースとは異なるデータベースが作成したものです。

処置: 適合するディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01296 ディクショナリ *string* とログファイルでキャラクタ・セットが一致しません。

原因: ディクショナリ・ファイルを作成したデータベースのキャラクタ・セットは、ログ・ファイルを作成したデータベースのキャラクタ・セットと異なります。

処置: キャラクタ・セットが一致するディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01297 ディクショナリ *string* とログファイルで再実行バージョンが一致しません。

原因: ディクショナリを生成したデータベースの REDO バージョンと、ログ・ファイルを作成したデータベースの REDO バージョンが異なります。

ORA-01298 ディクショナリ *string* と一番初期のログファイルとでは SCN 互換性がありません。

原因: ディクショナリ・スナップショットは、初期のログ・ファイルの SCN 作成に対応していない SCN で取得されました。

処置: 正しいディクショナリ・スナップショットを取得してください。

ORA-01299 ディクショナリ *string* は別のデータベース再現に対応します。

原因: このディクショナリ・ファイルは、別のデータベース再現から抽出されたものです。

処置: 正しいデータベース再現から抽出したディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01300 ディクショナリ *string* と一番初期のログファイルとでは使用可能なスレッド・ビットのベクトルが一致しません。

ORA-01301 dbms_logmnr.USE_COLMAP は有効なディクショナリとのみ使用できます。

原因: dbms_logmnr.USE_COLMAP は有効なディクショナリとのみ使用できます。

処置: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() のディレクトリ・ファイルを指定してください。

ORA-01302 logmnr.opt ファイルに構文エラーがあります。

原因: logmnr.opt ファイルに構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-01303 logmnr.opt ファイルに指定されているスキーマ *string* が存在しません。

原因: 指定したスキーマが存在しません。

処置: 正しいスキーマ、または適合するディクショナリ・ファイルを指定してください。

ORA-01304 logmnr.opt ファイルに指定されている表 *string*、スキーマ *string* が存在しません。

原因: logmnr.opt ファイルに指定された表は、LogMiner のディクショナリに存在しません。

処置: 指定された表が有効であることを確認してください。

ORA-01305 logmnr.opt ファイルに指定されている列 *string* は、表 *string*、スキーマ *string* にありません。

原因: logmnr.opt ファイルに指定された列は、LogMiner のディクショナリの表定義に存在しません。

処置: 指定された列が有効であることを確認してください。

ORA-01306 dbms_logmnr.start_logmnr() は、v\$logmnr_contents から選択する前に起動する必要があります。

原因: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動する前に、V\$LOGMNR_CONTENTS からの SELECT が発行されました。

処置: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動した後で、V\$LOGMNR_CONTENTS ビューからの SELECT を発行してください。

ORA-01307 LogMiner セッションは現在アクティブではありません。

原因: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動する前に、V\$LOGMNR_CONTENTS からの SELECT が発行されました。あるいは、DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() または DBMS_LOGMNR.ADD_LOGFILE() をコールする前に、DBMS_LOGMNR.END_LOGMNR() がコールされました。

処置: DBMS_LOGMNR.START_LOGMNR() プロシージャを起動した後で、V\$LOGMNR_CONTENTS ビューからの SELECT を発行してください。

ORA-01308 初期化パラメータ utl_file_dir が設定されていません。

原因: 初期化ファイルに utl_file_dir が設定されていません。

処置: 適切なディレクトリに utl_file_dir を設定してください。

ORA-01309 指定したディクショナリ・ファイルをオープンできません。

原因: ディクショナリ・ファイルまたはディレクトリが存在しないか、アクセス不能です。

処置: ディレクトリ・ファイルおよびディレクトリが存在して、アクセス可能であるかどうかを確認してください。

ORA-01400 (string) には NULL は挿入できません。

原因: 列 "USER"."TABLE"."COLUMN" に NULL を挿入しようとした。

たとえば、次のように入力した場合、

```
connect scott/tiger
create table a (a1 number not null);
insert into a values (null);
```

Oracle は、次のように戻します。

```
ORA-01400 ("SCOTT"."A"."A1") には NULL は挿入できません。: 列 "SCOTT"."A"."A1" に
NULL を挿入できなかったという意味です。
```

処置: NULL 以外の値で、操作を再試行してください。

ORA-01401 列に挿入した値が大きすぎます。

原因: 入力した値が、列に定義した最大の幅を超えています。

処置: 列幅に小さい値を入力するか、または ALTER TABLE 文に MODIFY オプションを使用して列の幅を大きくしてください。

ORA-01402 ビューの WITH CHECK OPTION WHERE 句でエラーが発生しました。

原因: CHECK OPTION で作成したビューに対して INSERT 文または UPDATE 文を実行しようとした。この結果、ビューの WHERE 句に適合しない行が作成されます。

処置: ディクショナリ表のビューの WHERE 句を調べてください。カレント・ビューに CHECK OPTION がない場合、FROM 句は CHECK OPTION を使用して定義した第2のビューを参照しています。行を挿入するには、ビューを介して挿入するのではなく、基礎となっている表に直接挿入しなければならない場合があります。

ORA-1403 データが見つかりません。

原因：ホスト言語プログラム中で、すべてのレコードがフェッチされています。フェッチからのリターン・コードは +4 です。SQL の問合せからレコードがすべて返されたことを示しています。

処置：SELECT 文の処理を終了してください。

ORA-01404 ALTER COLUMN による索引が長すぎます。

原因：ある列の長さを増やすと、以前の CREATE INDEX 文に指定した列結合の長さが、索引の最大長 (255) を超えてしまいます。索引全体の長さは、索引付き列の幅の総和に索引付き列の数を加算したものとなります。日付フィールドは長さ 7、文字フィールドは定義された幅、数値フィールドは長さ 22 になります。

処置：列を変更するには、影響を受ける索引を削除するしかありません。索引は、索引の最大幅を超える結果になるように作成し直すことはできません。

ORA-01405 取り出した列の値が NULL です。

原因：FETCH 操作の INTO 句に NULL 値が含まれていて、標識が使用されませんでした。プログラム内の列バッファがそのまま、カーソルのリターン・コードが +2 です。Oracle を DBMS=6、エミュレーティング・バージョン 6 で実行しているのでなければ、エラーです。実行しているのならば、警告です。

処置：次のいずれかを実行してください。

- NVL 関数を使用して、検索された NULL を 0、ブランクなどの他の値に変換してください。これが最も簡潔な処置です。
- 標識を使用して NULL の発生を記録してください。NULL の発生時に固有の処置を行う場合、この項目を使用できます。
- カーソル定義を訂正して、NULL 値を含む列が検索されないようにしてください。

ORA-01406 取り出された列の値は切り捨てられました。

原因：ホスト言語プログラム中の FETCH 操作によって、ある文字列が強制的に切り捨てられました。この列のプログラム・バッファ領域が文字列全体を格納するために十分な大きさではありませんでした。フェッチからのカーソル・リターン・コードは +3 でした。

処置：最大列値を保持できるよう列のバッファ領域を増やすか、または他の適切な処理を実行してください。

ORA-01407 (string) を NULL には更新できません。

原因：NULL 値で表列 "USER"."TABLE"."COLUMN" を更新しようとしました。

たとえば、次のように入力した場合、

```
connect scott/tiger
update table a (a1 number not null);
insert into a values (null);
```

Oracle は、次のように戻します。

ORA-01407 ("SCOTT"."A"."A1") を NULL には更新できません。

列 "SCOTT"."A"."A1" を NULL に更新できなかったという意味です。

処置: NULL 以外の値で、操作を再試行してください。

ORA-01408 列リストにはすでに索引が作成されています。

原因: CREATE INDEX 文によってすでに索引が付いている列が指定されました。1 つの列には一度のみ索引を付けることができます。連結索引の一部として使用する場合、つまり、索引が複数の列から構成されている場合は、その列にさらに索引を作成できません。

処置: 必要なければ、列に索引を付け直さないでください。連結キーを作成するためには、CREATE INDEX 文に 1 列以上を追加して指定してください。

ORA-01409 行が昇順になっていないので、NOSORT オプションは使用できません。

原因: 行が昇順ではないのに、NOSORT オプションで索引を作成しました。NOSORT オプションはすでに昇順である行グループでのみ使用できます。

一意ではない索引では、ROWID が索引キーの一部とみなされました。つまり昇順に記憶されていると思われる 2 行がそうではなかったことになります。NOSORT 索引を作成する場合、表の中の 2 つの行が同じ索引値を持ち、2 つのエクステントに渡って分割されているときは、2 番目のエクステントの最初のブロックのデータ・ブロック・アドレスは 1 番目のエクステントの最後のブロックのデータ・ブロック・アドレスより小さくできます。これらのアドレスが昇順ではない場合、ROWID も昇順ではありません。これらの ROWID は索引キーとみなされているので、索引キーは昇順ではなく、したがって NOSORT 索引も作成できません。

処置: NOSORT オプションを使用せずに索引を作成するか、または表が 1 つのエクステントの中に格納されるようにしてください。

ORA-01410 ROWID が無効です。

原因: 入力された ROWID が不適切です。ROWID は、数字および A ~ F までの文字を使用する 16 進数として入力する必要があります。通常の ROWID の形式は、'000001F8.0001.0006' です。

処置: 形式を確認し、正しい形式を使用して ROWID を入力してください。ROWID 形式は、ブロック ID、ブロック内の行、ファイル ID です。

ORA-01411 列の長さを標識に格納することができません。

原因: 64K バイトを超えるサイズの列をフェッチしようとし、指定された 2 バイトの標識に列の長さを格納できませんでした。

処置: 長い列をフェッチするために新しいバインド・タイプを使用してください。

ORA-01412 このデータ型で長さ 0 は使用できません。

原因：データ型 97 の長さが 0 です。

処置：正しい長さを指定してください。

ORA-01413 パック 10 進数のバッファの値が無効です。

原因：ユーザーによってパック 10 進数としてバインドされているユーザー・バッファに、不正な値が含まれていました。

処置：正しい値を使用してください。

ORA-01414 配列をバインドするには、配列長が無効です。

原因：カレント配列長ポインタ、または最大配列長ゼロのいずれも指定せずに、配列をバインドしようとしてしました。

処置：有効な長さを指定してください。

ORA-01415 個別グループ関数が多すぎます。

原因：問合せが、処理できる数より多くの個別集計関数を含んでいます。現在の制限は 255 です。

処置：問合せ内の個別グループ関数の数を減らしてください。

ORA-01416 2 つの表を相互に外部結合することはできません。

原因：結合操作中に 2 つの表が互いに外部結合を指定しました。結合条件では、一方の表上に外部結合を指定した場合、これを他方の表上で指定することはできません。

処置：表の 1 つから外部結合の仕様部 (+) を削除してから、操作を再試行してください。

ORA-01417 表が少なくとも 1 つの他の表に外部結合されている可能性があります。

原因：a.b (+) = b.b and a.c (+) = c.c は許可されていません。

処置：本当に必要な操作であるかを確認し、ビューでまず b と c を結合してください。

ORA-01418 指定した索引は存在しません。

原因：ALTER INDEX 文、DROP INDEX 文または VALIDATE INDEX 文に、存在しない索引名が指定されました。実在する索引しか変更、削除または検証できません。データ・ディクショナリを問い合わせることによって、既存の索引をリストできます。

処置：ALTER INDEX 文、DROP INDEX 文または VALIDATE INDEX 文に既存の索引名を指定してください。

ORA-01419 datdts: 書式コードが無効です。

原因：不正な形式を使用しようとしてしました。

処置：書式を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01420 datstd: 書式コードが無効です。

原因: 無効な書式を使用しようとした。

処置: 書式を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01421 datrnd/dattrn: 精度指定子が無効です。

原因: 無効な精度指定子を使用しようとした。

処置: 精度指定子を検査し、必要があれば修正して、操作を再試行してください。

ORA-01422 要求よりも多くの行が取り出されました。

原因: 取り出された行より少ない数を実際のフェッチで指定されています。

処置: 問合せを書き直すか、または要求する行数を変更してください。

ORA-01423 行の取出しの検査中にエラーが発生しました。

原因: 取出しの実行中にエラーが発生しました。このエラーに続いてより詳細なエラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示される詳細なメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01424 エスケープ文字に続く文字がないか、または無効です。

原因: LIKE パターンにエスケープ文字に続く文字が指定されていないか、またはエスケープ文字 '%' または '_' のいずれかではありません。

処置: エスケープ文字を取り除くか、または正しく指定してください。

ORA-01425 エスケープ文字は長さ 1 の文字列でなければなりません。

原因: LIKE に指定されたエスケープ文字が長さ 1 の文字列ではありません。

処置: 長さ 1 の文字列に変更してください。

ORA-01426 オーバーフローが発生しました。

原因: オーバフロー / アンダーフローが発生しました。

処置: オペランドを減らしてください。

ORA-01427 単一行副問合せにより 2 つ以上の行が返されます。

原因: 副問合せから複数の行が返されたので、外部問合せには比較する値を指定するためのキーワード ANY、ALL、IN または NOT IN のいずれかを使用する必要があります。

処置: 比較する値を指定するために、ANY、ALL、IN、NOT IN のいずれかを使用するか、または 1 行のみ検索されるように問合せを修正してください。

ORA-01428 引数 *string* が有効範囲外です。

原因: 算術関数に無効な引数が指定されました。たとえば次のような場合です。

```
SELECT SQRT(-1) "Square Root" FROM DUAL;
```

処置: 算術関数の有効な入力および範囲については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01429 索引付き編成表: オーバフロー列を格納するデータ・セグメントがありません。

原因: オーバフロー・セグメントが定義されていません。

処置: オーバフロー・セグメントを追加してください。

ORA-01430 追加する列がすでに表に存在しています。

原因: ALTER TABLE ADD 文に、すでに表上にある列の名前を指定しました。1 つの表中の列名はすべて一意でなければなりません。

処置: 新規列に一意の名前を指定して、文を再実行してください。

ORA-01431 GRANT コマンドで内部エラーが発生しました。

原因: GRANT 文の実行中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01432 削除するパブリック・シノニムが存在しません。

原因: DROP PUBLIC SYNONYM に指定したパブリック・シノニムは無効です。プライベート・シノニムの可能性があります。

処置: シノニムの名前を訂正するか、またはシノニムがパブリックでない場合は DROP SYNONYM を使用してください。

ORA-01433 作成するシノニムがすでに定義されています。

原因: CREATE SYNONYM 文に、既存のシノニム、表、ビューまたはクラスタと同じ名前 of シノニム名を指定しました。シノニムには、それを作成したユーザーが使用可能な他のシノニム、表、ビューまたはクラスタと同じ名前を付けることはできません。

処置: シノニムに一意の名前を指定して、文を再実行してください。

ORA-01434 削除するプライベート・シノニムが存在しません。

原因: DROP SYNONYM 文に存在しないシノニムを指定しました。既存のシノニム名は、データ・ディクショナリを問い合わせることによってリストできます。

処置: DROP SYNONYM 文に存在するシノニムの名前を指定してください。

ORA-01435 ユーザーが存在しません。

原因: 存在しないユーザーを参照すると、このエラーが発生します。たとえば、SELECT、GRANT または REVOKE 文に存在しないユーザー名を指定すると、エラーとなります。GRANT CONNECT 文にのみ新しいユーザー名を指定できます。他の GRANT および REVOKE 文には、既存のユーザー名を指定する必要があります。また、SELECT 文には既存のユーザー名を指定する必要があります。

処置: SELECT、GRANT または REVOKE 文に存在するユーザー名のみを指定するか、データベース管理者に新規ユーザー名を定義してもらってください。

ORA-01436 ユーザー・データで CONNECT BY のループが発生しました。

原因: CONNECT BY 句に指定した条件によって、問合せでループが発生しました。選択する次のレコードが自分の後続者となっています。このため、問合せは無限に続きます。

処置: CONNECT BY 句を確認して、循環参照を削除してください。

ORA-01437 結合は CONNECT BY と一緒に指定できません。

原因: CONNECT BY 句と同時に結合処理を指定しました。ツリー構造の問合せに対する SELECT 文に CONNECT BY 句を使用する場合、問合せでは表は 1 つしか参照できません。

処置: CONNECT BY 句または結合処理を SQL 文から削除してください。

ORA-01438 指定した精度を超える値が列に指定されています。

原因: レコードの挿入または更新時に、その列に対して定義されている精度を超える数値が入力されました。

処置: 数値列の精度に従った値を入力するか、または ALTER TABLE コマンドに MODIFY オプションを使用して、精度を上げてください。

ORA-01439 データ型を変更する列は空でなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文でデータを含む列のデータ型を変更しようとした。列のデータ型を変更する場合、列の値は NULL である必要があります。

処置: データ型を変更する列の値は NULL の必要があります。

ORA-01440 精度または位取りを下げる列は空でなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、データを含む数字列の位取りまたは精度を下げようとした。いずれの値を下げるにしても、列の値は NULL である必要があります。精度を上げずに位取りのみを上げようとしても、このエラーが発生します。

処置: 列のすべての値を NULL に設定してから、数字の精度または位取りを下げてください。位取りを上げる場合は、位取りに合せて精度も上げるか、あらかじめ列の値をすべて NULL に設定してください。

ORA-01441 長さを短くする列は空でなければなりません。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、データを含む文字フィールドのサイズを小さくしようとした。列の最大サイズを小さくする場合、列の値は NULL である必要があります。

処置: 列のすべての値を NULL に設定してから、最大サイズを小さくしてください。

ORA-01442 NOT NULL に変更しようとした列はすでに NOT NULL です。

原因: ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、列指定を NOT NULL から NOT NULL へ変更しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01443 内部エラー：参照結果のビュー列のデータ型が無効です。

原因：ビューの参照中に内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01444 内部エラー：内部データ型が無効な外部データ型にマップされました。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01445 キー予約表なしに結合ビューから ROWID を選択できません。

原因：SELECT 文を使用して、結合処理によって導出されたビューから ROWID を検索しようとしてしました。ビュー中の検索された行は基礎となる物理レコードと対応していないため、ROWID を返すことができません。

処置：ビュー検索句の ROWID を削除してから、文を再実行してください。

ORA-01446 DISTINCT, GROUP BY などを含むビューから ROWID を選択できません。

原因：SELECT 文を使用して、関数または式から導出された列を含んでいるビューから ROWID を検索しようとしてしました。ビュー中の検索された行は基礎となる物理レコードと対応していないため、ROWID を返すことができません。

処置：ビュー検索句の ROWID を削除してから、文を再実行してください。

ORA-01447 クラスタ列に ALTER TABLE 文は使用できません。

原因：ALTER TABLE MODIFY 文に、表のクラスタ化で使用される列を指定しました。クラスタ列は変更できません。

処置：列を変更するには、最初に、クラスタ化されてないフォームで表を再作成してください。また、同時に列のサイズを大きくできます。

ORA-01448 型を変更する前に索引を削除しなければなりません。

原因：ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、索引の付いた文字列を LONG 列に変更しようとしてしました。データ型が LONG である列に索引を付けることはできません。したがって、変更する前に索引を削除する必要があります。

処置：列を参照する索引をすべて削除してから、データ型を LONG に変更してください。

ORA-01449 列は NULL 値を含んでいるので、NOT NULL に変更できません。

原因：ALTER TABLE MODIFY 文を使用して、NULL 値を含む列の定義を NOT NULL に変更しようとしてしました。NOT NULL に変更する列には、NULL 値が含まれてはいけません。

処置：列の NULL 値を NULL 以外の値に設定してから、列を NOT NULL に変更してください。

ORA-01450 キーが最大長 (*string*) を超えました。

原因: CREATE INDEX 文に指定されたすべての列を結合した長さが、最大索引長を超えました。最大索引長は、オペレーティング・システムに依存します。索引全体の長さは、索引付き列の幅の総和に索引付き列の数を加算したものとなります。日付フィールドの長さは 7、文字フィールドは定義された幅、数値フィールドの長さは 22 として計算されます。数値の長さ = (精度 / 2) + 1 で、負の場合は、+1 を加えてください。

処置: 索引長が、オペレーティング・システムの最大索引長を超えないように、索引を付ける列を選択してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01451 NULL に変更しようとした列は変更できません。

原因: その列がすでに NULL 値を受け入れるようになっていたり、NOT NULL 制約が主キーまたはチェック制約の一部であるか、または、ALTER TABLE MODIFY 文が列指定を NULL から NULL に不必要に変更しようとした。

処置: 主キーまたはチェック制約によって NOT NULL 制約が施行されている場合は、NOT NULL 制約を削除してください。

ORA-01452 重複キーがあるので CREATE UNIQUE INDEX は実行できません。

原因: CREATE UNIQUE INDEX 文に、重複する値を含む列を 1 つ以上指定しました。UNIQUE INDEX を作成するためには、索引を付ける列の値はすべて行ごとに一意でなければなりません。

処置: エントリが一意でなくてもよい場合は、CREATE INDEX 文から UNIQUE キーワードを削除してから、文を再実行してください。主キーのようにエントリが一意でなければならない場合は、UNIQUE の索引を作成する前に、重複する値をなくしてください。

ORA-01453 SET TRANSACTION はトランザクションの最初の文でなければなりません。

原因: SET TRANSACTION 文が最初になかったため、トランザクションは正しく処理されませんでした。

処置: SET TRANSACTION 文を使用する前に、カレント・トランザクションをコミットまたはロールバックしてください。

ORA-01454 列を数値データ型に変換できません。

原因: 非数値を数値に変換できません。

処置: 値に、数字、符号、小数点、文字 E または e 以外の値が含まれていないことを確かめて、操作を再試行してください。

ORA-01455 列の変換により整数データ型がオーバーフローしました。

原因: 指定した式の変換形式が、指定したデータ型に対して大きすぎます。

処置: より大きいデータ型を定義するか、データを訂正してください。

ORA-01456 READ ONLY トランザクションでは挿入 / 削除 / 更新ができません。

原因：非 DDL の挿入 / 削除 / 更新をしようとしたか、または更新操作を選択しようとした。

処置：トランザクションをコミット（またはロールバック）して、再実行してください。

ORA-01457 列の変換により 10 進数データ型がオーバーフローしました。

原因：指定した式の変換形式が、指定した型に対して大きすぎます。COBOL プログラムの PICTURE 句で COMP-3 を使用する場合にも、このエラーが発生します。この句は Pro*COBOL プリコンパイラおよび COBOL で受け入れられますが、このエラーとなります。

処置：より大きいデータ型を定義するか、データを訂正してください。

ORA-01458 可変長文字列の長さが無効です。

原因：可変長文字列をバインドまたは定義していますが、バッファ長が必要最小限の長さより小さくなっています。

処置：バッファ・サイズを大きくするか、他のデータ型を使用してください。

ORA-01459 可変長文字列の長さが無効です。

原因：バッファ長が、必要な最小値より小さいか、バインド実行時のバッファ長から 2 バイトを減じた長さより大きい値でした。

処置：文字列のサイズが、バッファを保持できるほど十分大きいかどうかを確認してください。

ORA-01460 要求された変換ができません。

原因：要求された形式変換はサポートされていません。

処置：要求された変換を SQL 文から取り除いてください。TO_CHAR、TO_DATE および TO_NUMBER 関数の構文を調べて、サポートされている変換を確認してください。

ORA-01461 LONG 値は LONG 列にのみバインドできます。

原因：LONG データ型の値を他のデータ型に挿入しようとした。これは許可されていません。

処置：LONG データ型を他の型の列に挿入しないでください。

ORA-01462 4000 文字より大きい文字列を挿入できません。

原因：Oracle がサポートしているリテラル長の最大値は、4000 文字（バイト）です。

処置：リテラルの文字数を 4000 文字以内にするか、4000 文字を超える場合には VARCHAR2 または LONG データ型を使用してください。

ORA-01463 現行の制約では、列のデータ型を変更できません。

原因: CHAR から VARCHAR、または VARCHAR から CHAR へのデータ型変更のみを許可する参照制約あるいはチェック制約を持つ列のデータ型を変更しようとした。

処置: 制約を削除するか、または制約に違反するような操作は行わないでください。

ORA-01464 表またはビューの循環的な付与が検出されました（上位のユーザーに権限を与えようとした）。

原因: GRANT 文の TO 句に指定したユーザーには、この表上の権限がすでに付与されています。

処置: 表上に最初に権限を付与したユーザーに、その表に対する権限を付与しないでください。エラー文は不要である可能性があります。

ORA-01465 16 進数の指定が無効です。

原因: SELECT FOR UPDATE に続く UPDATE 文の ROWID の一部に無効な文字が含まれています。ROWID は、予定される正しいフォーマットで、引用符で囲んで指定する必要があります。

処置: SELECT FOR UPDATE の中で返されたとおりに ROWID を入力してください。

ORA-01466 表定義が変更されているのでデータを読み込めません。

原因: これは、表や索引などのデータベース・オブジェクトに対する時間ベースの読み込み整合性エラーです。次のいずれかが発生した可能性があります。

- オブジェクトが変更された時刻より古いスナップショットを使用して、問合せが解析および実行されました。
- オブジェクトの作成タイム・スタンプが、カレント・システム時刻よりも後になっています。たとえば、システム時刻がオブジェクトの作成時刻よりも前に設定されているような場合に発生します。

処置: 次のように処置してください。

- 古いスナップショットが原因の場合は、トランザクションをコミットまたはロールバックして、作業を再開してください。
- 作成タイム・スタンプの値が大きいことが原因の場合は、システム時刻を正しく設定してください。

オブジェクトの作成タイム・スタンプが依然としてシステム時刻よりも大きい場合は、オブジェクトが新しい作成タイム・スタンプを持つように、オブジェクトのデータをエクスポートしてこのオブジェクトを削除し、オブジェクトを再作成してから、オブジェクトのデータをインポートし、作業を再開してください。

ORA-01467 ソート・キーが長すぎます。

原因： DISTINCT、GROUP BY、ORDER BY または SET 操作では、Oracle がサポートしている長さを超える長さのソート・キーが要求されます。SELECT 文に指定した列、またはグループ関数の数が多すぎます。

処置： 操作に関連する列またはグループ関数の数を減らしてください。

ORA-01468 外部結合表は1つだけ参照できます。

原因： WHERE 句のある述語には、異なる表から2つの列が (+) で指定されています。

処置： WHERE 句を変更して、それぞれ述語には外部結合表が1つのみ含まれるようにしてください。

ORA-01469 PRIOR の後に指定できるのは列名です。

原因： PRIOR キーワードの後に、無効な列名が指定されました。

処置： 構文と綴りを確認し、有効な列名を使用して再実行してください。

ORA-01470 In リストの反復では、混合演算子はサポートされていません。

原因： In リストに異なる型の定数が指定されました。

処置： In リストに同じ型の定数を使用してください。

ORA-01471 オブジェクトと同じ名前のシノニムは作成できません。

原因： 参照するオブジェクトと同じ名前のプライベート・シノニムを作成しようとした。このエラーは通常、参照するいずれかのオブジェクトと同じ名前を持つプライベート・シノニムをユーザーが作成しようとするが発生します。

処置： 異なるシノニム名を選択するか、異なるユーザー名でシノニムを作成してください。

ORA-01472 CONNECT BY は DISTINCT, GROUP BY などを含むビューには使用できません。

原因： 出力行と基本表の行が一致していないビュー上で、CONNECT BY 句は使用できません。

処置： ビューから DISTINCT または GROUP BY を取り除くか、CONNECT BY 句をビュー内に移してください。

ORA-01473 CONNECT BY 句には副問い合わせを指定できません。

原因： CONNECT BY 句に副問い合わせは使用できません。

処置： 副問い合わせを取り除くか、または WHERE 句に移してください。

ORA-01474 CONNECT BY なしで START WITH や PRIOR は指定できません。

原因： START WITH および PRIOR は、CONNECT BY を伴わなくては意味を持ちません。

処置： SQL 文の構文を調べて、必要に応じて CONNECT BY 句を指定してください。

ORA-01475 バインド変数のデータ型を変更するには、カーソルを再解析しなければなりません。

原因：文を実行した後で、バインド変数を元のバインドとは異なるデータ型で再バインドしようとした。

処置：異なるデータ型による再バインドの前に、カーソルを再解析してください。

ORA-01476 除数がゼロです。

原因：ある式でゼロで除算しようとした。

処置：式を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-01477 ユーザー・データ領域記述子が大きすぎます。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01478 LONG 列はバインド配列に使用できません。

原因：ユーザーが、2000 バイトより大きい最大数を持つバインド変数で、バインド配列を実行しています。

処置：このようなバインド変数は、バインド配列に入れることができません。かわりに通常のバインド操作を使用してください。

ORA-01479 パッファ内の最後の文字が NULL ではありません。

原因：タイプ 97 のバインド変数が NULL を最後に含んでいません。

処置：最後の文字を NULL にしてください。

ORA-01480 STR バインド値に終了の NULL がありません。

原因：タイプ 5 (NULL で終了した文字列) のバインド変数が、終了の NULL をパッファに含んでいません。

処置：NULL 文字で、文字列を終了してください。

ORA-01481 形式パラメータが無効です。

原因：TO_CHAR または TO_NUMBER 関数に無効な形式パラメータが使用されました。

処置：構文を訂正して、操作を再実行してください。

ORA-01482 指定されたキャラクタ・セットはサポートされていません。

原因：CONVERT 関数の第 2 または第 3 パラメータは、サポートされていないキャラクタ・セットです。

処置：サポートされているキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-01483 DATE または NUMBER バインド変数の長さが無効です。

原因：DATE 型または NUMBER 型のバインド変数が長すぎます。

処置：許される最大長については、マニュアルを参照してください。

ORA-01484 配列は PL/SQL 文に対してのみバインドすることができます。

原因：PL/SQL 文以外に配列をバインドしようとしてしました。

処置：PL/SQL 文のみに配列をバインドするように注意して、違反しているコードを書き直してください。

ORA-01485 コンパイル・バインド長が実行バインド長と異なります。

原因：DTYVCS 型（前部に 2 バイトの長さを持つ VARCHAR）のバッファをバインドしました。実行時に最初の 2 バイトの長さが、バインド・コールで指定された最大のバッファ長を超えています。配列内の要素数、および配列内の現在の要素数が、配列の最大サイズを超えることはできません。

処置：配列 +2 バイトのバッファ長を格納できるように、バッファ・サイズを十分大きくしてください。

ORA-01486 配列要素のサイズが大きすぎます。

原因：そのデータ型には大きすぎるデータ値（たとえば、NUMBER）、または 2000 バイトよりも大きいデータ値（たとえば、VARCHAR または LONG）をバインドしようとしてしました。

処置：許容される長さになるように、データ値を変換または切り捨てる方法を調べてください。

ORA-01487 指定のバッファに対してバック 10 進数が大きすぎます。

原因：バッファが小さすぎて変換結果を格納できないため、変換要求を実行できませんでした。

処置：バッファのサイズを増やしてください。

ORA-01488 入力データ中のニブルまたはバイトが無効です。

原因：数値が不適切であり、変換要求を実行できませんでした。

処置：数値を修正して、再試行してください。

ORA-01489 文字列を連結した結果、長さが最大長を超えました。

原因：文字列を連結した結果、長さが最大サイズを超えました。

処置：結果が最大サイズより小さいことを確認してください。

ORA-01490 ANALYZE コマンドが無効です。

原因：ANALYZE コマンドの構文が間違っています。

処置：構文を調べて、正しい構文を使用してコマンドを入力してください。

ORA-01491 CASCADE オプションが無効です。

原因: CASCADE オプションは、表またはクラスタに対してのみ使用します。

処置: CASCADE オプションをこのように使用することはできません。構文を調べて再試行してください。

ORA-01492 LIST オプションが無効です。

原因: LIST オプションは、表またはクラスタに対してのみ使用します。

処置: LIST オプションをこのように使用することはできません。構文を調べて再試行してください。

ORA-01493 指定された SAMPLE サイズが無効です。

原因: 指定した SAMPLE サイズが範囲外です。

処置: 適切な範囲内の値を指定してください。

ORA-01494 指定された SIZE が無効です。

原因: 指定したヒストグラムの SIZE 値が範囲外でした。

処置: 適切な範囲内の値を指定してください。

ORA-01495 指定した連鎖行の表がありません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはユーザーに適切な権限がありません。

処置: 使用する表を訂正してください。

ORA-01496 指定した連鎖行の表形式が無効です。

原因: 指定した表に適切なフィールド定義がありません。

処置: 使用する表を訂正してください。

ORA-01497 ANALYZE CLUSTER のオプションが無効です。

原因: FOR COLUMNS *column_list* 句は、ANALYZE CLUSTER では使用できません。

処置: 有効な構文を使用して、再実行してください。

ANALYZE CLUSTER の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01498 ブロック検査エラーです。トレース・ファイルを調べてください。

原因: ANALYZE コマンドによるブロックの検査中に、エラーが発生しました。

処置: 問題についての詳細メッセージを、トレース・ファイルで確認してください。これらのエラーを修正してください。トレース・ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります（たとえば ORAxxxx.TRC など）。トレース・ファイルは、初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定したディレクトリに格納されています。USER_DUMP_DEST を設定していない場合、トレース・ファイルは作成されません。オブジェクトを再作成する必要がある場合もあります。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01499 表または索引の相互参照エラーです。トレース・ファイルを調べてください。

原因：ANALYZE コマンドによる索引または表の検査中に、エラーが発生しました。適切な相互参照を指していない、エントリが1つ以上あります。

処置：問題についての詳細メッセージを、トレース・ファイルで確認してください。これらのエラーを修正してください。トレース・ファイルの名前は、オペレーティング・システムによって異なります（たとえば ORAxxxx.TRC など）。トレース・ファイルは、初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定したディレクトリに格納されています。USER_DUMP_DEST を設定していない場合、トレース・ファイルは作成されません。オブジェクトを再作成する必要がある場合もあります。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

ORA-01500 ～ ORA-02099

ORA-01500 日付 / 時間の獲得でエラーが発生しました。

原因：CREATE DATABASE または ALTER TABLESPACE の実行中、日付および時間の獲得に失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01501 CREATE DATABASE 文でエラーが発生しました。

原因：CREATE DATABASE 文を実行中にエラーが発生しました。

処置：同時に出力されるエラーを参照してください。

ORA-01502 索引 *string.string* またはそのパーティションが使用不可の状態です。

原因：ダイレクト・ロードまたは DDL 操作によって、使用不可の索引またはそのパーティションにアクセスしようとした。

処置：指定した索引を DROP または REBUILD するか、または使用不可の索引パーティションを REBUILD してください。

ORA-01503 CREATE CONTROLFILE でエラーが発生しました。

原因：CREATE CONTROLFILE を実行中にエラーが発生しました。

処置：同時に出力されるエラーを参照してください。

ORA-01504 データベース名 *string* がパラメータ DB_NAME *string* と一致しません。

原因：データベースが作成またはマウントした名前が、初期化パラメータ DB_NAME に指定されている名前と一致しません。

処置：どちらかの名前を訂正するか、または省略してください。

ORA-01505 ログ・ファイル登録時にエラーが発生しました。

原因：CREATE または ALTER DATABASE の実行で、新しいログ・ファイルの追加中にエラーが発生しました。

処置：詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01506 データベース名が無効です。

原因: CREATE または ALTER DATABASE 文にデータベース名が指定されていません。DB_NAME 初期化パラメータも指定されていません。

処置: CREATE/ALTER DATABASE 文または DB_NAME 初期化パラメータに、データベース名を指定する必要があります。STARTUP の一部として指定されているデータベース名があれば、それを使用して、SVRMGR または SQL*Plus の STARTUP コマンドが ALTER DATABASE 文を発行することに注意してください。

ORA-01507 データベースがマウントされていません。

原因: データベースのマウントを必要とするコマンドを実行しようとした。

処置: SVRMGR または SQL*Plus の STARTUP コマンドを介して ALTER DATABASE 文を使用している場合は、MOUNT オプションを指定して起動してください。ALTER DATABASE DISMOUNT を直接実行している場合は何もする必要はありません。それ以外の場合は、MOUNT オプションを ALTER DATABASE 文に指定してください。バックアップまたはコピーを実行している場合は、まず必要なデータベースをマウントする必要があります。

ORA-01508 ファイル *string*, 行 *string* でエラーが発生しました。データベースが作成できません。

原因: CREATE DATABASE 文は指定されたファイルを処理できませんでした。

処置: 指定されたファイル中のエラーの行を確認してください。

ORA-01509 指定した名前 *string* が実際の名前 *string* と一致しません。

原因: ALTER DATABASE 文に指定したデータベース名は、現在マウントされているデータベース名と一致しません。

処置: データベース名を訂正するか、またはマウントされたデータベースを DISMOUNT してください。

ORA-01510 ログ・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

原因: ALTER DATABASE 文の実行で、ログ・ファイルの削除中にエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01511 ログ/データ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

原因: ALTER DATABASE 文の実行で、ログまたはデータ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01512 ログ・ファイル *string* の改名中にエラーが発生しました。新しいファイル *string* が見つかりません。

原因: 新しい名前のファイルが見つからなかったため、制御ファイル内のログ・ファイルの名前の変更に失敗しました。

処置: ログ・ファイルの改名がオペレーティング・システムによって正しく行われたかどうかを確認し、再試行してください。

ORA-01513 オペレーティング・システムが返した現行時間が無効です。

原因: オペレーティング・システムが 1988 年から 2121 年までの間にない時間を返しました。

処置: オペレーティング・システムが管理している時間を訂正してください。

ORA-01514 ログの指定でエラーが発生しました。指定したログが存在しません。

原因: ログ・ファイル名またはメンバー名リストが、既存のファイルと一致しません。

処置: 既存のログ・ファイルを指定してください。

ORA-01515 ログ・グループ: *string* 削除でエラーが発生しました。ログが存在しません。

原因: ALTER DATABASE 文が、データベース制御ファイルに認識されていないログ・ファイルを削除しようとした。

処置: 既存のログ・ファイルの名前を指定してください。

ORA-01516 存在しないログ・ファイル、データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイル *string* です。

原因: ALTER DATABASE 文を使用して、ログ・ファイルかデータ・ファイルを改名しようとしたか、またはデータ・ファイルかテンポラリ・ファイルの属性を変更しようとした。指定されたファイルがデータベースの制御ファイルに認識されていないか、またはその要求に対してサポートされない型であるため、失敗しました。

処置: 正しい型の既存ファイルの名前を指定してください。

ORA-01517 ログ・メンバー: *string*

原因: このメッセージは他のエラー・メッセージに関係のあるファイル名を示します。

処置: 続いて表示される詳細なメッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

ORA-01518 CREATE DATABASE 文では 2 つ以上のログ・ファイルを指定しなければなりません。

原因: CREATE DATABASE 文にログ・ファイルが 1 つしか指定されていません。

処置: 少なくともログ・ファイルを 2 つ指定してください。

ORA-01519 ファイル *string*, 行 *string* のあたりでエラーが発生しました。

原因: 指定されたファイルの処理中に、CREATE DATABASE 文に問題が発生しました。指定されたファイルは無効です。

処置: システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01520 データ・ファイル数 *string* が制限数 *string* を超えています。

原因: CREATE TABLESPACE 文が、このデータベースに許可されている数を超える数のファイル指定しています。

処置: ファイル数を減らすか、または MAXDATAFILES の値を大きくして制御ファイルを再作成してください。

ORA-01521 データ・ファイルの登録中にエラーが発生しました。

原因: CREATE または ALTER TABLESPACE 文で、データ・ファイルの登録中にエラーが検出されました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01522 改名するファイル *string* がありません。

原因: ALTER TABLESPACE RENAME 文で、改名すべきファイルがデータベース制御ファイル中に見つかりませんでした。

処置: 正しいファイル名を指定してください。

ORA-01523 データ・ファイル *string* はすでにデータベースに存在しているため改名できません。

原因: ALTER DATABASE RENAME または ALTER TABLESPACE RENAME 文で、ファイルの新しい名前がすでに制御ファイル中に存在します。

処置: データベースの一部として使用されていないファイル名に改名してください。

ORA-01524 データ・ファイル *string* はすでにデータベースに存在しているため作成できません。

原因: ALTER DATABASE CREATE DATAFILE 文で、ファイルの新しい名前がすでに制御ファイル中に存在します。

処置: データベースの一部として使用されていないファイル名を作成してください。

ORA-01525 データ・ファイルの改名中にエラーが発生しました。

原因: ALTER TABLESPACE の一部のファイルの改名中にエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください（エラー・スタックに挙げられているものを除くファイルはすべて改名されています）。

ORA-01526 ファイル *string* のオープン中にエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文は指定されたファイルをオープンできませんでした。システム導入時の問題の可能性があります。

処置: システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01527 ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文は指定されたファイルを読み込めませんでした。システム導入時の問題の可能性があります。

処置: システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01528 SQL 文の処理中に EOF エラーが発生しました。

原因: 指定されたファイルの読み込み中に、CREATE DATABASE 文が予期せずファイルの終わりとなりました。SQL.BSQ ファイルは無効です。

処置: システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01529 ファイル *string* のクローズ中にエラーが発生しました。

原因: CREATE DATABASE 文は指定されたファイルをクローズできませんでした。

処置: システム導入手順を再試行するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01530 このインスタンスはすでにデータベースをマウントしています。

原因: ALTER DATABASE MOUNT で、すでにマウントされているデータベースのあるインスタンスでデータベースをマウントしようとしてしました。

処置: データベースをマウントする場合は、インスタンスをいったん停止して、次にインスタンスを起動してから操作を再試行してください。

ORA-01531 このインスタンスはすでにデータベースをオープンしています。

原因: ALTER DATABASE 文で、すでにオープンされているデータベースのあるインスタンスでデータベースをオープンしようとしてしました。

処置: このインスタンスで新しいデータベースをオープンする場合は、インスタンスをいったん停止して、次にインスタンスを起動してから操作を再試行してください。

ORA-01532 インスタンスがすでに他で起動されているのでデータベースは作成できません。

原因: CREATE DATABASE 文で、別のユーザーがこのインスタンスを同時に変更している可能性があります。

処置: 別のユーザーが同時にインスタンスを変更していないことを確認してください。別のユーザーが変更していない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡するか、または操作を再試行してください。

ORA-01533 ファイル *string* は表領域に属していないので改名できません。

原因: ALTER TABLESPACE RENAME 文で、改名すべきファイルが引数の表領域中に見つかりませんでした。

処置: 正しいファイル名または正しい表領域名を指定してください。

ORA-01534 ロールバック・セグメント *string* が存在しません。

原因: ALTER または DROP ROLLBACK SEGMENT で、指定されたロールバック・セグメント名が不明です。

処置: 正しいロールバック・セグメント名を使用してください。

ORA-01535 ロールバック・セグメント *string* はすでに存在しています。

原因: 指定されたロールバック・セグメントがすでに存在します。

処置: 別の名前を使用してください。

ORA-01536 表領域 *string* に対して割り当てられた領域を使い果たしました。

原因: 表領域内に新しいセグメントのエクステントを作成しようとしたが、表領域内のセグメント所有者に対して割り当てられた領域の空きがなくなりました。

処置: 表領域内の不要なオブジェクトを削除して領域を再生するか、または権限のあるユーザーに依頼して、セグメント所有者に対する表領域の割当てを増やしてください。

ORA-01537 データ・ファイル *string* はすでに存在するため登録できません。

原因: CREATE または ALTER TABLESPACE 文で、登録しようとしているファイルはすでにデータベースの一部となっています。

処置: 別の名前を使用してください。

ORA-01538 ロールバック・セグメントの獲得に失敗しました。

原因: 共有モードで起動中に、ロールバック・セグメントの獲得に失敗しました。

処置: 排他モードで再起動してパブリック・セグメントをもう1つ作成するか、または初期化パラメータ ROLLBACK_SEGMENTS_REQUIRED で使用可能なプライベート・セグメントを指定し、共有モードで起動してください。

ORA-01539 表領域 *string* はオンラインになっていません。

原因: 表領域を読取り専用またはオフラインにしようとしたが、この表領域がオンラインでないため失敗しました。通常、表領域を読取り専用またはオフラインにする前に、表領域はオンラインである必要があります。

処置: 表領域の状態を確認してください。IMMEDIATE オプションまたは TEMPORARY オプションを使用して、すべてのファイルを強制的にオフラインにしてください。表領域を読取り専用にする前にオンラインにしてください。

ORA-1540 表領域 *string* はオフラインになっていません。

原因: 表領域がオフラインの状態ではないので、オンラインにできませんでした。

処置: 表領域の状態を確認してください。

ORA-01541 SYSTEM 表領域はオフラインにできません。必要ならば停止してください。

原因: SYSTEM 表領域をオフラインにしようとした。

処置: リカバリを行うために必要であれば停止してください。

ORA-01542 表領域 *string* はオフラインなので領域は割り当てられません。

原因: オフラインの表領域に領域を割当てようとした。

処置: 表領域をオンラインにするか、または他の表領域中にオブジェクトを作成してください。

ORA-01543 表領域 *string* はすでに存在しています。

原因: すでに存在している表領域を作成しようとしてしました。

処置: 新しい表領域には別の名前を使用してください。

ORA-01544 システム・ロールバック・セグメントは削除できません。

原因: システム・ロールバック・セグメントを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01545 指定したロールバック・セグメント *string* は使用できません。

原因: 次のいずれかです。

1. 起動中に使用不可能なロールバック・セグメントをオンラインにしようとしてしました。たとえば、ロールバック・セグメントがオフラインの表領域にあるような場合です。
2. すでにオンラインのロールバック・セグメントをオンラインにしようとしてしました。これは、初期化パラメータ・ファイルの ROLLBACK_SEGMENTS パラメータ中で、そのロールバック・セグメントが2回指定されたか、または他のインスタンスによってすでにオンラインになっているためです。
3. 現在オンラインになっているロールバック・セグメントを削除しようとしてしました。
4. 制限のないエクステンツを使用して、現在オンラインになっているロールバック・セグメントを変更しようとしてしました。

処置: 次のいずれかの処置を行ってください。

1. 指定したロールバック・セグメントを使用可能にしてください。たとえば、オフラインの表領域をオンラインにしてください。
2. 名前が重複しているとき、または他のインスタンスがそのロールバック・セグメントをすでに獲得しているときは、その名前をパラメータ ROLLBACK_SEGMENTS から削除してください。
3. まず、ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。これを行うには、アクティブなトランザクションが終了するまで待たなければならないことがあります。ロールバック・セグメントをリカバリする必要がある場合は、どのエラーが原因でトランザクションのロールバックが停止しているかを調べて、適切な処置を行ってください。
4. 3と同じです。

ORA-01546 表領域に活動中のロールバック・セグメント *string* があります。

原因: アクティブになっているロールバック・セグメントを持つ表領域をオフラインまたは読取り専用にしようとしてしました。

処置: 表領域のアクティブなロールバック・セグメントを使用するインスタンスをいったん停止してから、表領域をオフラインまたは読取り専用にしてください。

ORA-01547 警告: RECOVER は成功しましたが OPEN RESETLOGS が次のエラーを受け取りました。

原因: 不完全リカバリ・オプションのうちの 1 つを指定したメディア・リカバリが、エラーなしで終了しました。ただし、現時点で ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS コマンドを実行しようとする指定のエラーで失敗します。不完全リカバリを実行する前に、十分に古いバックアップから 1 つ以上のデータ・ファイルのリストアを忘れたために、エラーが発生した可能性があります。

処置: 別のデータ・ファイルのバックアップ、別の制御ファイル、または別の停止基準を使用して、不完全メディア・リカバリを再実行してください。

ORA-01548 活動中のロールバック・セグメント *string* があるため表領域の削除を終了しました。

原因: アクティブなロールバック・セグメントを含む表領域を削除しようとした。

処置: 表領域のアクティブなロールバック・セグメントを使用するインスタンスをいったん停止してから、表領域を削除してください。

ORA-01549 表領域が空ではないので INCLUDING CONTENTS オプションを使用してください。

原因: 空でない表領域を削除しようとした。

処置: 表領域中のすべてのオブジェクトを削除するためには、INCLUDING CONTENTS オプションを使用してください。

ORA-01550 SYSTEM 表領域は削除できません。

原因: SYSTEM 表領域を削除しようとした。これは許可されていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01551 ロールバック・セグメント拡張中にピン・ブロックが解放されました。

原因: システムがロールバック・セグメントの再帰エクステントを内部で検出しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01552 SYSTEM 表領域でない表領域 *string* にシステム・ロールバック・セグメントは使用できません。

原因: SYSTEM 表領域でない表領域に関係する操作にシステム・ロールバック・セグメントを使用しようとした。これがクローン・データベースである場合、SYSTEM 表領域外でデータを変更しようすると、このエラーが発生します。クローン・データベース内では、SYSTEM ロールバック・セグメントのみオンラインにできます。

処置: プライベートまたはパブリック・セグメントを 1 つ以上作成し、いったん停止してから再起動してください。プライベート・ロールバック・セグメントを獲得するために、初期化パラメータ ROLLBACK_SEGMENTS の変更が必要になることがあります。これが表領域の Point-in-Time リカバリ用に使用されているクローン・データベースである場合、この操作はできません。

ORA-01553 MAXEXTENTS は現在割り当てられている *string* よりも大きくなければいけません。

原因: 割り当てられている範囲が、指定された MAXEXTENTS より大きくなっています。

処置: MAXEXTENTS の値を大きくしてください。

ORA-01554 トランザクション表にトランザクション・スロットがありません。

原因: 同時実行のトランザクション件数が多すぎます。

処置: システムをいったん停止して、初期化パラメータ TRANSACTIONS、ROLLBACK_SEGMENTS または ROLLBACK_SEGMENTS_REQUIRED を変更し、再起動してください。

ORA-01555 スナップショットが古すぎます (ロールバック・セグメント番号 *string*、名前 *string* が小さすぎます。

原因: 一貫した読取りに必要なロールバック・レコードが他のユーザーによって上書きされています。

処置: ロールバック・セグメントの数を大きくしてください。

ORA-01556 ロールバック・セグメントの MINEXTENTS は 1 より大きい値でなければなりません。

原因: ロールバック・セグメントの MINEXTENTS に 2 より小さい値を指定しました。

処置: MINEXTENTS にもっと大きい値を指定してください。

ORA-01557 ロールバック・セグメントのエクステントは最低 *string* ブロックが必要です。

原因: ロールバック・セグメントのエクステントに最小値以下のブロックを指定しました。

処置: エクステントにもっと大きいブロックを指定してください。

ORA-01558 ロールバック・セグメント *string* にトランザクション ID がありません。

原因: 使用可能なトランザクション ID はすべて使用されています。

処置: インスタンスをいったん停止して、別のロールバック・セグメントを使用して再起動してください。次に、これ以上トランザクション ID を持たないロールバック・セグメントを削除してください。

ORA-01559 ロールバック・セグメントの MAXEXTENTS は 1 より大きい値でなければなりません。

原因: ロールバック・セグメントの MAXEXTENTS に 2 より小さい値を指定しました。

処置: MAXEXTENTS にもっと大きい値を指定してください。

ORA-01560 グローバル・ハッシュ表のサイズが *string* と一致しません (*string* != *string*)。

原因: 指定された「GC」初期化パラメータには、マウントされたデータベースをすでに持っているインスタンスとの互換性がありませんでした。

処置: 「GC_」パラメータを修正して、再起動してください。

ORA-01561 指定された表領域内のオブジェクトすべてを削除できませんでした。

原因: 表領域の削除中に、すべてのオブジェクトを削除できませんでした。

処置: すべてのオブジェクトが削除されるまで、表領域の削除を再試行してください。

ORA-01562 ロールバック・セグメント番号 *string* を拡張できません。

原因: ロールバック・セグメントを拡張しようとして障害が発生しました。

処置: このメッセージの後には通常、障害の原因となる別のエラー・メッセージが続きます。メンテナンスを実行するために、ロールバック・セグメントをオフラインにする必要があります。SELECT SEGMENT_NAME FROM DBA_ROLLBACK_SEGS WHERE SEGMENT_ID=*string* (*string* はメッセージに示されたセグメント番号) を使用して、ロールバック・セグメント名を判断してください。その後、ALTER ROLLBACK SEGMENT OFFLINE コマンドを使用して、ロールバック・セグメントをオフラインにしてください。

ORA-01563 ロールバック・セグメントが PUBLIC です。キーワード PUBLIC を使用してください。

原因: 指定されたパブリック・ロールバック・セグメントに、PUBLIC キーワードを使用しませんでした。

処置: パブリック・ロールバック・セグメントを識別する場合は、PUBLIC キーワードを使用してください。

ORA-01564 ロールバック・セグメントは PUBLIC ではありません。

原因: 指定されたロールバック・セグメントは PUBLIC ではありません。

処置: プライベート・ロールバック・セグメントを識別する場合は、PUBLIC キーワードを使用しないでください。

ORA-01565 ファイル *string* の識別中にエラーが発生しました。

原因: ファイルを識別しようとしてエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください

ORA-01566 DROP LOGFILE にファイルが 2 回以上指定されています。

原因: DROP LOGFILE に指定されたファイルのリストには、少なくとも重複が 1 つあります。

処置: 重複するファイルの指定を削除して、再試行してください。

ORA-01567 *string* を削除するとスレッド *string* 内の残りログ・ファイルの数が 2 より小さくなります。

原因: 指定したログをすべて削除すると、残りの使用可能なスレッドごとのログ・ファイル数が 2 より小さくなります。

処置: 削除するログを減らすか、ログを削除する前にスレッドを使用禁止にしてください。削除するよりも、ログを消去できる場合があります。

ORA-01568 PUBLIC には領域割り当て量を設定できません。

原因: PUBLIC に表領域の割当て制限を設定しようとした。

処置: 全ユーザーに対してシステム全体または表領域全体の領域権限を付与する場合、GRANT RESOURCE [ON *tablespace*] TO PUBLIC を使用してください。

ORA-01569 システム・ディクショナリ表に対してデータ・ファイルが小さすぎます。

原因: データベースの作成中、指定したデータ・ファイルが小さすぎるため、システム・ディクショナリ表を保持できません。

処置: より大きな、またはより多くのファイルを指定して、データベースを再生成してください。

ORA-01570 MINEXTENTS は現在割り当てられているエクステント *string* より大きくてはなりません。

原因: 割り当てられているエクステントの数が、指定された MINEXTENTS より小さくなっています。

処置: 割り当てられているエクステントの数より小さい MINEXTENTS 値を指定してください。

ORA-01571 REDO パージョン *string* には Oracle パージョン *string* との互換性がありません。

原因: このソフトウェア・パージョンでは、カレント REDO ログを読み取れません。クラッシュ・リカバリが必要か、またはメディア・リカバリの必要なオフライン・データベース・ファイルがあります。ファイル名がリストで示されている場合、メディア・リカバリが必要です。

処置: いったん停止して、互換性のあるソフトウェアを使用して再起動してください。必要なメディア・リカバリを行い、データベースをオープンしてください。いったん停止して、カレント・ソフトウェアを使用して再起動してください。ファイルを削除する場合は、DROP オプションを指定してそのファイルをオフラインにし、このチェックをスキップしてください。

ORA-01572 ロールバック・セグメント *string* をオンラインにできません。 *string* エクステントを超えています。

原因: ロールバック・セグメントのエクステントの数が制限を超えています。書込み用にオンラインにできません。

処置: ロールバック・セグメントを削除し再作成してください。

ORA-01573 インスタンス停止中です。変更できません。

原因: データベースが停止している間に、プロセスが変更を加えようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01574 最大同時実行トランザクション数を超えました。

原因: 同時実行トランザクション数の制限を超えました。

処置: Oracle を停止し、初期化パラメータ TRANSACTIONS の値を増やしてから、Oracle を再起動してください。

ORA-01575 領域管理リソースの待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: 領域管理に必要なリソースの獲得に失敗しました。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-01576 インスタンス・ロック・プロトコルのバージョン *string* には Oracle のバージョン *string* との互換性がありません。

原因: カレント・ソフトウェアが互換性のないロック・プロトコルを使用しています。

処置: インスタンスの起動に使用するソフトウェアをアップグレードして、互換性のあるロック・プロトコルを使用してください。

ORA-01577 ログ・ファイル *string* はすでにデータベースの一部として存在するため登録できません。

原因: CREATE または ALTER DATABASE 文で、登録しようとしているファイルはすでにデータベースの一部となっています。

処置: 別の名前を使用してください。

ORA-01578 ファイル番号 *string*, ブロック番号 *string* で Oracle データ・ブロックに障害が発生しました。

原因: 指定されたデータ・ブロックには障害が発生しました。プログラム・エラーの結果の可能性があります。

処置: 次のようなコマンドを使用して、どのオブジェクトに障害があるか調べてください。

```
SELECT SEGMENT_TYPE, OWNER || '.' || SEGMENT_NAME FROM DBA_EXTENTS
WHERE file = FILE_ID AND block BETWEEN BLOCK_ID AND BLOCK_ID + BLOCKS - 1;
```

file および *block* の値は、メッセージに表示されたものを使用してください。

指定されたブロックを含むセグメントのリストアを試行してください。このためにはセグメントを削除し、再作成する必要があります。トレース・ファイルがある場合、そこに記録されているエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

ORA-01579 リカバリ中に書込みエラーが発生しました。

原因: リカバリ中に書込みエラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルで書込みエラーの詳細を確かめて、エラーを訂正してください。

ORA-01580 バックアップ制御ファイル *string* を作成中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に制御ファイルを作成しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01581 ロールバック・セグメント *string* の新しいエクステント *string* を使用しようとしたがすでに割り当てられています。

原因: ロールバック・セグメントを拡張するために生成された UNDO が、カレント UNDO ブロック領域外で実行され、完全に割り当てられていない新しいエクステントに書き込みをしようとした。

処置: ロールバック・セグメントの拡張は、システムによってロールバックされます。それ以上の拡張は、他のトランザクションがロールバックまたはコミットされ、次のエクステントが空くまで不可能です。

ORA-01582 バックアップ用の制御ファイルがオープンできません。

原因: バックアップ用に制御ファイルをオープンしようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01583 バックアップされる制御ファイルのブロック・サイズを取得できません。

原因: バックアップ用に制御ファイルのブロック・サイズを取得しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01584 バックアップされる制御ファイルのファイル・サイズを取得できません。

原因: バックアップ用に制御ファイルのファイル・サイズを取得しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01585 バックアップ・ファイル *string* の識別中にエラーが発生しました。

原因: 制御ファイル・バックアップに使用されたファイルを識別しようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01586 バックアップ先ファイル *string* がオープンできません。

原因: バックアップ用に制御ファイルをオープンしようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 詳細情報についてのエラー・スタックを確認してください。

ORA-01587 制御ファイルのバックアップ・ファイルのコピー中にエラーが発生しました。

原因: バックアップ用に制御ファイルをコピーしようとしたときに、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: 付属のエラー・メッセージ・スタックで詳細を調べて、適切な処置を行ってください。

ORA-01588 DB をオープンするには RESETLOGS オプションを使用しなければなりません。

原因: この処理より前に RESETLOGS オプションを使用してデータベースをオープンしようとしたが、完了しませんでした。または、制御ファイル・バックアップを使用してリカバリが行われました。

処置: データベースをオープンする場合は、RESETLOGS オプションを使用してください。

ORA-01589 DB をオープンするには RESETLOGS/NORESETLOGS を使用しなければなりません。

原因: 不完全リカバリまたはバックアップ制御ファイルを使用したリカバリのいずれかが実行されています。これらのリカバリの終了後、データベースのオープンには、RESETLOGS オプションまたは NORESETLOGS オプションを指定する必要があります。

処置: 適切なオプションを指定してください。

ORA-01590 セグメント空きリストの数 *string* が最大値 *string* を超えました。

原因: 記憶領域パラメータ FREELIST GROUPS の値が大きすぎます。

処置: 記憶領域パラメータ FREELIST GROUPS の値を小さくしてください。

ORA-01591 インダウト分散トランザクション *string* がロックを保持しています。

原因: 準備状態で機能していない 2 フェーズ・コミット・トランザクションによってロックされているリソースをアクセスしようとした。

処置: データベース管理者は PENDING_TRANS\$ および関連する表を確認して、コオーディネータおよびコミット・ポイントに対するネットワーク接続を修復してください。COMMIT または ABORT コマンドの発行にデフォルトが指定されていればそれを使用して、分散トランザクションのローカルな部分を完了してください。

ORA-01592 バージョン 7 から ORACLE8 へのロールバック・セグメント *string* の形式変換中にエラー。

原因: 付随する内部エラーを参照してください。バージョン 7 のデータベースが正しく停止されなかった可能性があります。

処置: 内部エラーを調べてください。バージョン 7 のデータベースをバックアップから再ロードし、データベースを完全に停止しなければならないこともあります。

ORA-01593 ロールバック・セグメント最適化サイズ *string* ブロックが計算された初期化サイズ *string* ブロックより小さいです。

原因: ロールバック・セグメントの作成中、初期エクステントの累積サイズ（単位はブロック）が指定した OPTIMAL サイズを超えました。

処置: OPTIMAL サイズを大きくしてください。

ORA-01594 ロールバック・セグメント *string* のエクステント *string* を折り返そうとしましたがすでに解放されています。

原因: ロールバック・セグメントのエクステントを解放するために生成された UNDO が、同じエクステントに書き込もうとしました。これは、エクステントが小さいか、開放する数が多すぎる、またはその両方が原因です。

処置: 縮小するロールバック・セグメントはシステムによってロールバックされます。ロールバック・セグメントの OPTIMAL サイズを大きくしてください。

ORA-01595 エクステント *string*（ロールバック・セグメント *string*）解放中にエラーが発生しました。

原因: 非アクティブのロールバック・セグメントのエクステントを解放しようとしてエラーが発生しました。

処置: 後に続くエラー・メッセージを確認してください。

ORA-01596 *string* パラメータにはシステムを指定できません。

原因: エラー・メッセージに示されている初期化パラメータに、システム・ロールバック・セグメントが指定されました。

処置: 初期化パラメータの値を変更してください。

ORA-01597 ロールバック・セグメントをオンライン/オフラインに変更できません。

原因: システム・ロールバック・セグメントをオンラインまたはオフラインにしようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01598 ロールバック・セグメント *string* はオンラインではありません。

原因: 以前データベース管理者によってオフラインにされているか、SMON によってクリーン・アップされました。

処置: UNDO\$ または DBA_ROLLBACK_SEGMENTS でロールバック・セグメントの状態を調べ、ロールバック・セグメントが実際にオンラインであることを確認してください。

ORA-01599 キャッシュ領域がいっぱいなので、ロールバック・セグメント *string* を獲得できません（現エントリ数 *string*）。

原因: MAX_ROLLBACK_SEGMENTS パラメータの値を基にすると、静的に割り当てられた量は十分ではありません。

処置: ロールバック・セグメントをオフラインにするか、または MAX_ROLLBACK_SEGMENTS パラメータの値を大きくしてください。

ORA-01600 *string* は *string* 句 (*string*) で 1 つでなければなりません。

原因: 初期化パラメータが正しく指定されませんでした。

処置: 初期化パラメータを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01601 *string* 句 (*string*) でバケット・サイズが無効です。

原因: このパラメータではバケット・サイズが無効です。

処置: 初期化パラメータを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01603 *string* 句 (*string*) でサイズが無効です。

原因: このパラメータではサイズが無効です。

処置: 初期化パラメータを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01604 *string* 句 (*string*) でファイル番号の範囲が無効です。

原因: このパラメータでは値の範囲が無効です。

処置: 初期化パラメータを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01605 *string* 句 (*string*) にファイル番号がありません。

原因: このパラメータに値がありません。

処置: 初期化パラメータを訂正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01606 GC_FILES_TO_LOCKS がマウントされている別のインスタンスと同一ではありません。

原因: 2 つのインスタンスにおける GC_FILES_TO_LOCKS パラメータが異なっています。

処置: 初期化パラメータ GC_FILES_TO_LOCKS を修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01607 GC_LCK_PROCS *string* が別のインスタンス *string* と同一ではありません。

原因: 初期化パラメータ GC_LCK_PROCS が、データベースをオープンしている他のインスタンスと同じではありません。

処置: 初期化パラメータ GC_LCK_PROCS を修正してからインスタンスを再起動してください。

ORA-01608 ロールバック・セグメント *string* はオンラインにできません (状態 *string*)。

原因: 以前データベース管理者によって、ロールバック・セグメントがオンラインにされているか、プロセス・クラッシュの結果のままになっている可能性があります。

処置: UNDO\$ または DBA_ROLLBACK_SEGS でロールバック・セグメントの状態を確認してください。

ORA-01609 ログ *string* は現行ログ (スレッド *string*) です。メンバーは削除できません。

原因: スレッドのカレント・ログのメンバーは削除できません。

処置: スレッドがオープンされている場合、そのスレッドを使用しているインスタンスによってログの切り換えが要求されます。スレッドがオープンされていない場合は、スレッドを使用禁止にし、ログをアーカイブするかまたは削除してください。

ORA-01610 BACKUP CONTROLFILE オプションを指定してリカバリを実行してください。

原因: 以前のデータベース・リカバリ・セッションが BACKUP CONTROLFILE を指定した、RESETLOGS オプションを指定して制御ファイルが再作成された、使用中の制御ファイルがバックアップの制御ファイルであるのいずれかが原因です。BACKUP CONTROLFILE リカバリのみが許可されます。データベースを次回オープンするときにログのリセットが必要です。

処置: BACKUP CONTROLFILE オプションを使用してリカバリを実行してください。

ORA-01611 スレッド番号 *string* は無効です。1 から *string* の範囲で指定してください。

原因: コマンドに指定したスレッド番号は、制御ファイルによってサポートされるスレッドの数を超えています。

処置: 有効なスレッド番号を使用するか、制御ファイルのスレッド・レコード・セクションまたはチェックポイント・プログレス・レコード・セクション、あるいはその両方をサイズ変更してください。

ORA-01612 スレッド番号 *string* はすでに使用可能です。

原因: すでに使用可能にされているスレッドを使用可能にしようとした。

処置: このスレッドまたは使用可能な別のスレッドのいずれかを使用してください。

ORA-01613 スレッド *string* にはログが *string* しかありません。ログは少なくとも 2 つ必要です。

原因: 対応付けられたオンライン・ログ・ファイルが 2 つのみのため、スレッドを使用可能にできません。

処置: スレッドにログを追加するか、または別のスレッドを使用可能にしてください。

ORA-01614 スレッド *string* は使用中なため使用可能にできません。

原因: スレッドを使用可能にしようとしているときに、そのスレッドに対するマウント・エンキューが獲得できませんでした。このスレッドを使用可能にする別のプロセスが起動されている可能性があります。

処置: しばらく待ってから再試行するか、または使用可能な別のスレッドを検索してください。

ORA-01615 スレッド *string* はマウントされているため使用不可にできません。

原因: いくつかのインスタンス (このインスタンスも) が使用するためにスレッドを割り当てています。使用中のスレッドを使用禁止にはできません。

処置: スレッドを使用しているインスタンスを正しく停止してください。

ORA-01616 スレッド *string* はオープンされているため使用不可にできません。

原因: スレッドがクローズされていません。スレッドを使用した最後のインスタンスが、スレッドをオープンしたまま停止しました。クローズしない限り、スレッドを使用禁止にはできません。クラッシュ・リカバリまたはインスタンス・リカバリにはスレッドが必要です。

処置: データベースがオープンしている場合は、インスタンス・リカバリはスレッドをすぐにクローズします。しばらく待機してください。それ以外はデータベースをオープンすると、クラッシュ・リカバリによってスレッドはクローズされます。

ORA-01617 *string* は有効なスレッド番号ではないためマウントできません。

原因: 初期化パラメータ THREAD の値が、1 から制御ファイルで許可されているスレッド数の間にありません。

処置: インスタンスを停止するか、初期化パラメータの値を変更して再起動してください。または制御ファイルのスレッド・レコード・セクションまたはチェックポイント・プログレス・レコード・セクション、あるいはその両方をサイズ変更してください。

ORA-01618 スレッド *string* が使用可能ではないためマウントできません。

原因: 初期化パラメータ THREAD の値は、使用可能になっていないスレッドを要求しています。マウントする前にスレッドを使用可能にする必要があります。

処置: インスタンスを停止して、初期化パラメータの値を変更し、異なるスレッドをマウントした状態で再起動してください。データベースが別のインスタンスでオープンされている場合、スレッドは使用可能にできます。

ORA-01619 スレッド *string* は別のインスタンスによってマウントされています。

原因: 初期化パラメータ THREAD の値は、別のインスタンスによってマウントされているスレッドを要求しています。1 つのスレッドを使用するインスタンスは1 つのみです。

処置: インスタンスを停止して、初期化パラメータの値を変更し、異なるスレッドをマウントした状態で再起動してください。

ORA-01620 マウントに使用できるパブリック・スレッドが存在しません。

原因: 初期化パラメータ THREAD の値は、デフォルト値である 0（ゼロ）になっています。パブリックで使用可能なスレッドがなく、マウントされていません。

処置: インスタンスを停止し、プライベートに使用可能にしていマウントされていないスレッドに対して初期化パラメータの値を変更してください。データベースが別のインスタンスでオープンされている場合、スレッドをパブリックで使用可能にできます。

ORA-01621 データベースがオープンされている場合は現行ログ・メンバーは改名できません。

原因: オープン・スレッドのカレント・ログのメンバーを改名しようとしています。データベースがオープンされている場合、ログは使用中なので改名はできません。

処置: ログがカレント・ログでなくなるまで待つか、またはデータベースを排他的にマウントしてください。

ORA-01622 スレッド番号を指定してください。デフォルト指定はありません。

原因: ログの追加時にスレッドが指定されておらず、現在マウントされているスレッドが、マウント時にデフォルトで選択されました。カレント・スレッドが明示的に指定されていないため、ユーザーはログが追加されるスレッドを認識できません。

処置: 初期化パラメータ THREAD または ADD コマンドのどちらかで、スレッド番号を明示的に指定してください。

ORA-01623 ログ *string* は現行ログ (スレッド *string*) なので削除できません。

原因: スレッドがクローズされていても、そのスレッドのカレント・ログは削除できません。通常、使用禁止となっているスレッドはカレント・ログを持っていません。ただし、不完全に使用禁止にされているスレッドは再度使用禁止にする必要があります。

処置: データベースがオープンされていない場合、スレッドを使用禁止にしてください。データベースがオープンされており、インスタンスがスレッドをオープンさせる場合、インスタンスにログの切り換えを要求できます。データベースがクローズされている場合、ログを消去またはアーカイブして切り換えを強制できます。

ORA-01624 ログ *string* はスレッド *string* のクラッシュ・リカバリに必要です。

原因: スレッドのチェックポイントがログの外に進まない限り、ログを削除または消去できません。

処置: データベースがオープンしていなければ、オープンしてください。クラッシュ・リカバリはチェックポイントを進めます。データベースがオープンしている場合は、グローバル・チェックポイントを強制実行してください。ログが破壊されたためにデータベースをオープンできない場合は、このログが取り消されるまで、不完全リカバリを行わなければならない場合があります。

ORA-01625 ロールバック・セグメント *string* はこのインスタンスに属しません。

原因: このインスタンスに属していないロールバック・セグメントを縮小またはオフラインにしようとした。

処置: カレント・インスタンスに属するロールバック・セグメントのみオフラインにしてください。オフラインにするロールバック・セグメントを含むインスタンスに接続してください。

ORA-01626 ロールバック・セグメント番号 *string* はこれ以上トランザクションを処理できません。

原因: このセグメント内のトランザクションが多すぎます。

処置: 別のロールバック・セグメントを選択するか、または同時実行のトランザクション数を削減してください。

ORA-01627 ロールバック・セグメント番号 *string* はオンラインになっていません。

原因: 以前データベース管理者によってオフラインにされているか、SMON によってクリーン・アップされました。

処置: UNDO\$ または DBA_ROLLBACK_SEGMENTS でロールバック・セグメントの状態を調べ、ロールバック・セグメントが実際にオンラインであることを確認してください。

ORA-01628 最大エクステント *string* に達しました (ロールバック・セグメント *string*)。

原因: すでに MAXEXTENTS 値であるロールバック・セグメントを拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS 記憶領域パラメータの値がシステムに可能な最大値より小さい場合、この値を大きくしてください。

ORA-01629 UNDO を保存して最大エクステント *string* に達しました (表領域 *string*)。

原因: オフライン表領域の UNDO を保存するための MAXEXTENTS に達しました。

処置: SYSTEM 表領域の記憶域パラメータを確認してください。表領域は、UNDO が適用できるようにオンラインに戻す必要があります。

ORA-01630 一時セグメントで最大エクステント *string* に達しました (表領域 *string*)。

原因: 一時セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: 表領域の MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくできます。それ以外の場合は、表領域の PCTINCREASE を大きくしてください。

ORA-01631 最大エクステント *string* に達しました (表 *string.string*)。

原因: 表が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-01632 最大エクステント *string* に達しました (索引 *string.string*)。

原因: 索引が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: 索引記憶領域句の MAXEXTENTS の値が、現在のブロック・サイズに基づいた最大値より小さい場合、値を大きくしてください。それ以外は、エクステントの合計数が最大値を下回るようにより大きなエクステント・サイズで索引を再作成してください。

ORA-01633 この操作ではパラレル・サーバー・オプションが必要です。

原因: システムがパラレル・サーバーを構成していません。

処置: パラレル・サーバー・オプションを取得してください。

ORA-01634 ロールバック・セグメント番号 *string* がオフラインです。

原因: 指定したロールバック・セグメントは、データベース管理者によってオフライン指定されています。

処置: まず、ロールバック・セグメントをオンラインにしてください。

ORA-01635 指定されたロールバック・セグメント番号 *string* は使用できません。

原因: 次のどれかです。

- 起動中にオフライン・ロールバック・セグメントを獲得しようとした。
- アクティブなトランザクションを含むロールバック・セグメントを削除しようとした。

処置: 前述の原因に応じて、次の処置を行ってください。

- そのロールバック・セグメントを含む表領域をオンラインにするか、またはそのロールバック・セグメントを初期化パラメータ・ファイルに指定しないください。
- そのロールバック・セグメントが使用中の場合、ロールバック・セグメントを使用しているインスタンスを停止してください。または、ロールバック・セグメントをリカバリする必要がある場合、トランザクションのロールバックを抑止しているエラーを確認して適切な処置を行ってください。

ORA-01636 ロールバック・セグメント *string* はすでにオンラインです。

原因: ロールバック・セグメントは1つのインスタンスによってのみ使用できますが、すでに使用中のロールバック・セグメントをインスタンスがオンラインにしようとした。

処置: 初期化パラメータ・ファイルで ROLLBACK_SEGMENTS、ROLLBACK_SEGMENT_INITIAL および ROLLBACK_SEGMENT_COUNT パラメータに対して設定されている値が、問題のあるインスタンスに対して正しく設定されていることを確認してください。また、インスタンスが正しい初期化パラメータ・ファイルを使用していることを確認してください。プライベート・ロールバック・セグメントおよびパブリック・ロールバック・セグメントを混同していないことを確認してください。パラレル・モードでのロールバック・セグメントの使用については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-01637 ロールバック・セグメント *string* はインスタンス *string* が使用中です。

原因: ロールバック・セグメントは1つのインスタンスによってのみ使用できますが、すでに使用中のロールバック・セグメント・オンラインにインスタンスがアクセスしようとした。

処置: 初期化パラメータ・ファイルで ROLLBACK_SEGMENTS、ROLLBACK_SEGMENT_INITIAL および ROLLBACK_SEGMENT_COUNT パラメータに対して設定されている値が、問題のあるインスタンスに対して正しく設定されていることを確認してください。また、インスタンスが正しい初期化パラメータ・ファイルを使用していることを確認してください。プライベート・ロールバック・セグメントおよ

びパブリック・ロールバック・セグメントを混同していないことを確認してください。パラレル・モードでのロールバック・セグメントの使用については、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-01638 パラメータ *string* により Oracle バージョン *string* がパラレル・マウントを実行できません。

原因: RECOVERY_COMPATIBLE パラメータの値の設定が小さすぎたために、このソフトウェア・バージョンがパラレル・マウントを実行できません。

処置: ソフトウェアの以前のリリースを使用するか、または RECOVERY_COMPATIBLE パラメータを大きくしてください。RECOVERY_COMPATIBLE パラメータが指定されていないときにこのエラーが発生する場合は、このパラメータをカレント・ソフトウェアのリリースに設定してください。

ORA-01640 アクティブなトランザクションでは表領域を読取り専用にできません。

原因: アクティブなトランザクションがあるデータベースで、表領域を読取り専用にしようとした。表領域を読取り専用にする前に、UNDO がその中にあることを確認するため、すべてのトランザクションをコミットまたはロールバックしなければなりません。これにはインダウト分散トランザクションが含まれます。

処置: これ以上トランザクションが起動されないようにしてください。データベースを制限モードにすると、トランザクションの起動を防ぐことができます。インダウト・トランザクションがある場合、解決が必要です。

ORA-01641 表領域 *string* はオンラインではありません。データ・ファイルを追加できません。

原因: 読取り専用またはオフラインに設定されている表領域に、データ・ファイルを追加しようとした。

処置: 表領域をオンラインまたは読み / 書き両用にしてからデータ・ファイルを追加してください。

ORA-01642 読込み専用の表領域 *string* には BEGIN BACKUP は必要ありません。

原因: 読取り専用に設定されている表領域に、BEGIN BACKUP または END BACKUP しようとした。

処置: BEGIN または END コマンドを使用せずにバックアップを実行してください。ファイルが変更されていないので、バックアップには一貫性があります。

ORA-01643 SYSTEM 表領域は読取り専用にできません。

原因: SYSTEM 表領域を読取り専用に設定しようとした。SYSTEM 表領域はデータベース操作に対して読み / 書き両用である必要があります。

処置: SYSTEM 表領域を読み / 書き両用のままにしておいてください。

ORA-01644 表領域 *string* はすでに読取り専用になっています。

原因：すでに読取り専用の表領域を読取り専用にしようとした。

処置：表領域を読取り専用のままにするか、読込み / 書込み両用に変更してから再度読取り専用にしてください。

ORA-01645 以前実行した読込み / 書込みにする試行は半分完了しています。

原因：表領域を読込み / 書込み両用に行っている最中に障害が発生し、表領域は読取り専用のままですが、チェックポイントは前進しました。表領域のファイルがオフラインの場合は、RESETLOGS 後に表領域は使用不可能になります。

処置：コマンドを繰り返して、表領域を読込み / 書込み両用に行ってください。

ORA-01646 表領域 *string* は読取り専用ではありません。読込み / 書込みにできません。

原因：読込み専用ではない表領域を読込み / 書込み両用に行ようとした。表領域はオンライン、オフラインいずれの可能性もあります。

処置：表領域を読込み / 書込み両用のままにしておいてください。

ORA-01647 表領域 *string* は読取り専用です。領域を割り当てられません。

原因：読込み専用の表領域に領域を割り当てようとした。

処置：別の表領域中にオブジェクトを作成してください。

ORA-01648 ログ *string* は使用不能スレッド *string* の現行ログです。

原因：スレッドを使用可能にしようとしたましたが、半分だけ完了した後失敗しました。このログは、スレッドが使用できない状態のままですが、カレント・ログとして残っています。ログ・スイッチはスレッドが使用可能になるまで行われなため、そのログは消去またはアーカイブできません。

処置：ENABLE コマンドを再度発行して、スレッドの使用可能化を完了してください。

ORA-01649 バックアップ制御ファイルを使った操作はできません。

原因：制御ファイルがリストアされたバックアップであるときに無効なコマンドを実行しようとしています。

処置：データベースがオープンされるまで待ってから再実行してください。

ORA-01650 ロールバック・セグメント *string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因：表領域のロールバック・セグメントにエクステンツを割り当てることに失敗しました。

処置：ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01651 アンドゥ・セグメントを拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因：指定されたオフライン表領域の UNDO エントリを保存するために、エクステンツを割り当てることに失敗しました。

処置: SYSTEM 表領域に対する記憶領域パラメータを確認してください。表領域は、UNDO が適用できるようにオンラインに戻す必要があります。

ORA-01652 一時セグメントを拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の一時セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01653 表 *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の表セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01654 索引 *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の索引セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01655 クラス *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域のクラス・セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01656 最大 # エクステント (*string*) に達しました (クラス *string.string*)。

原因: クラスが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-01657 SHRINK オプションの値が無効です。

原因: 指定する値が、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を選択してください。

ORA-01658 表領域 *string* にセグメント用の INITIAL エクステントを作成できません。

原因: 作成中のセグメントに INITIAL エクステントを割り当てられる十分な連続領域を見つけられませんでした。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE を使用して表領域にさらに領域を追加するか、INITIAL の値を小さくして再試行してください。

ORA-01659 *string* を超える MINEXTENTS を表領域 *string* に割当てられません。

原因：作成中のセグメントに MINEXTENTS を割り当てられる十分な連続領域を見つけられませんでした。

処置：ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE を使用して表領域にさらに領域を追加するか、MINEXTENTS、NEXT または PCTINCREASE の値を小さくして再試行してください。

ORA-01660 表領域 *string* はすでに永続領域です。

原因：すでに永続領域になっている表領域を、永続領域にしようとした。

処置：表領域を永続領域のままにしておいてください。

ORA-01661 表領域 *string* はすでに一時領域です。

原因：すでに一時領域になっている表領域を、一時領域にしようとした。

処置：表領域を一時領域のままにしておいてください。

ORA-01662 表領域 *string* は空ではなく一時領域にできません。

原因：空でない表領域を一時表領域に変換しようとした。

処置：表領域中のすべてのオブジェクトを削除してください。

ORA-01663 表領域 *string* の内容は常に変更されています。

原因：表領域の内容が常に PERMANENT と TEMPORARY の間で変更されています。

処置：表領域の内容をどちらかに決定し、固定してください。

ORA-01664 ソート・セグメントを拡張したトランザクションが異常終了しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01665 制御ファイルが予備制御ファイルではありません。

原因：予備制御ファイルを使用せずに、予備データベースのマウント、リカバリまたはアクティブ化を実行しようとした。

処置：予備制御ファイルを作成してからデータベースを予備データベースとして使用してください。

ORA-01666 制御ファイルは予備データベース用です。

原因：予備データベースを指定する適切なコマンド・オプションを使用せずに、予備データベースのマウント、リカバリまたはオープンを実行しようとした。

処置：STANDBY オプションまたは適切なコマンドを使用するか、プライマリ制御ファイルを使用してマウントを実行してください。

ORA-01667 表領域をこれ以上登録できません。制限数 *string* を超えています。

原因: 制御ファイルには、これ以上表領域を登録する空きがありません。

処置: 制御ファイルのサイズを変更するか、他の表領域を削除してください。

ORA-01668 予備データベースにオフライン・データ・ファイル用の DROP オプションがありません。

原因: DROP オプションを指定せずに、予備データベースでデータ・ファイルをオフラインにしようとした。予備データベースでオフラインになっているファイルがリカバリされず、予備データベースをアクティブにしても使用できない可能性があります。DROP オプションを指定しても、後でファイルがオンラインにならないとは限りません。

処置: DROP オプションを指定するか、ファイルをオンラインのままにしておいてください。

ORA-01669 予備データベース制御ファイルが矛盾しています。

原因: データ・ファイルと同じ状態までリカバリされなかった制御ファイルを使用して、予備データベースをアクティブにしようとした。制御ファイルはプライマリ・データベースからコピーされ、リカバリに使用されなかった可能性があります。

処置: すべてのファイルの整合性がとれるまで、予備データベースをリカバリしてください。

ORA-01670 予備データベースのリカバリに新しいデータ・ファイル *string* が必要です。

原因: 予備データベースのリカバリによって、ファイルがプライマリ・データベースに追加されたことが通知されましたが、このファイルは予備データベースでは使用できません。

処置: プライマリ・データベースでファイルをコピーするか、予備データベースで ALTER DATABASE CREATE DATAFILE コマンドを実行して、リカバリに使用するファイルを作成してください。

ORA-01671 制御ファイルはバックアップ用で、予備制御ファイルにはできません。

原因: 現在マウントされている制御ファイルがバックアップ制御ファイルであり、予備データベース用に制御ファイルを作成しようとした。

処置: 必要なリカバリを完了してから、RESETLOGS オプションを指定してデータベースをオープンしてください。

ORA-01672 制御ファイルでファイルが不足しているか、ファイルが余分な可能性があります。

原因: 予備制御ファイルを作成しようとしたが、CREATE CONTROLFILE を介して、最新の制御ファイルが作成されたか、不完全リカバリが実行されました。このため、制御ファイル内とデータ・ディクショナリ内のデータ・ファイルは一致していない可能性があります。

処置: データベースをオープンしてから操作を再試行してください。

ORA-01673 データ・ファイル *string* を識別できません。

原因: 不完全リカバリまたは CREATE CONTROLFILE の完了後、データ・ファイルが制御ファイル内にありませんでした。スタンバイ・データベースのリカバリにはデータ・ファイルのヘッダーからの情報が必要なため、スタンバイ制御ファイルが作成できません。

処置: ファイルを検索して、それをオンラインにしてください。ファイルは必要に応じてオフラインに戻してください。このファイルを削除する場合、DROP オプションを指定してオフラインにすると、このエラーは発生しません。

ORA-01674 データ・ファイル *string* が現行ファイルより古いタイプのものです。

原因: このファイルがデータベースから削除されていることを示す REDO ログがリカバリで検出されましたが、削除されたファイルと同じファイル番号を使用して別のファイルが追加されました。これは、CREATE CONTROLFILE コマンドで、現行ファイルではなく削除された古いファイルが指定されているということです。

処置: CREATE CONTROLFILE を使用して制御ファイルを再構築し、正しいファイルを指定してください。

ORA-01675 max_commit_propagation_delay が他のインスタンスと矛盾しています。

原因: MAX_COMMIT_PROPAGATION_DELAY 初期化パラメータが他のインスタンスのパラメータと矛盾しています。

処置: すべてのインスタンスが同じ MAX_COMMIT_PROPAGATION_DELAY を持っていることを確認してください。

ORA-01676 予備ファイル名 *string* が *string* の最大長を超えて変換されました。

原因: 指定されたファイル名をスタンバイ・データベースで使われる名前に変換するとき、変換された名前がファイル名の許容最大長を超えています。

処置: 初期化パラメータ DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT または LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT を変更して、有効な名前に変換してください。

ORA-01677 予備ファイル名変換パラメータがほかのインスタンスと異なっています。

原因: DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT または LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT 初期化パラメータが、すでにデータベースにマウントされている他のインスタンスと一致しません。

処置: 初期化パラメータ DB_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT および LOG_FILE_STANDBY_NAME_CONVERT の値を、他のインスタンスと一致するように変更してください。

ORA-01678 パラメータ *string* は 2 つの文字列、パターン文字列と置換文字列でなければなりません。

原因: 初期化パラメータの値に 2 つの文字列が指定されていません。この 2 つの文字列の内、1 つの文字列はファイル名で検索されるパターンです。もう 1 つの文字列は、ファイル名で検索されたときにパターンを置換するために使用します。

処置: パラメータに 2 つの文字列を指定するか、パラメータを省略してください。

ORA-01679 データベースが EXCLUSIVE にマウントされ、活動化するようにオープンされていません。

原因: データベースが EXCLUSIVE でマウントされていないとき、またはすでにオープンしているときにスタンバイ・データベースをアクティブにしようとした。

処置: データベースを EXCLUSIVE オプションで指定してマウントし、ACTIVATE コマンドを再試行してください。

ORA-01680 LOB セグメントを拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の LOB セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01681 最大エクステント (*string*) に達しました (LOB セグメント、表領域 *string*)。

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: 表領域の MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくできます。それ以外の場合は、表領域の PCTINCREASE を大きくしてください。

ORA-01682 読取り専用データベースでは表領域 *string* に一時領域の割当てはできません。

原因: 一時領域（通常ソートに対して）が、主記憶領域またはテンポラリ・ファイルのいずれにも割り当てられませんでした。指定された表領域からの領域を割り当てようとしたが、データベースが読取り専用でオープンされています。データベースのオープンにはソート作業領域が必要です。

処置: 主記憶領域 (SORT_AREA_SIZE 初期化パラメータ) に十分な作業領域を割り当てるか、一時表領域を作成してデータベースを読取り専用にしてください。ALTER TABLESPACE ADD TEMPFILE 文を使用して、テンポラリ・ファイルを一時表領域に追加してください。

ORA-01683 索引 *string.string* のパーティション *string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の索引セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01684 最大エクステント (*string*) に達しました (表 *string.string* のパーティション *string*)。

原因: 表が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-01685 最大エクステント (*string*) に達しました (索引 *string.string* のパーティション *string*)。

原因: 索引が MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-01686 最大ファイル数 (*string*) に達しました (表領域 *string*)。

原因: 指定の表領域のファイル数が最大値に達しました。

処置: 表領域内の既存ファイルのサイズを変更するか、複数の表領域間のオブジェクトをパーティション化してください。またはいくつかのオブジェクトを別の表領域に移動してください。

ORA-01687 表領域 *string* に指定されたロギング属性が既存のものと同じです。

原因: 表領域のデフォルトのロギング属性 (LOGGING または NOLOGGING) を既存のロギング属性と同じにしようとした。

処置: 指定したロギング属性を変更してください。

ORA-01688 表 *string.string* のパーティション *string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の表セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01689 *string* 句 (*string*) に構文エラーがあります。

原因: 初期化パラメータに構文エラーがありました。

処置: 構文エラーを修正してから、インスタンスを再起動してください。

ORA-01690 別のマウントされたインスタンスと GC_ROLLBACK_LOCKS が異なります。

原因: 別のインスタンスではパラメータ GC_ROLLBACK_LOCKS が異なります。

処置: 初期化パラメータ GC_ROLLBACK_LOCKS を修正して、再起動してください。

ORA-01691 LOB セグメント *string.string* を拡張できません (*string* 分、表領域 *string*)。

原因: 表領域の LOB セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01692 LOB セグメント: *string.string* のパーティション: *string* を拡張できません (*string* 分、表領域: *string*)。

原因: 表領域の LOB セグメントにエクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-01693 最大エクステント (*string*) に達しました (LOB セグメント *string.string*)。

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-01694 最大エクステント (*string*) に達しました (LOB セグメント *string.string* のパーティション *string*)。

原因: LOB セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとしてしました。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-01695 バージョン 8.0.2 へのロールバック・セグメント *string* の変換中にエラーが発生しました。

原因: バージョン 8.0.1 のデータベースが正しく停止されなかった可能性があります。

処置: 8.0.1 のデータベースを再ロードし、正しく停止してください。

ORA-01696 制御ファイルがクローン制御ファイルではありません。

原因: 他のインスタンスでクローンとしてではなくマウントされているデータベースに、クローンとしてマウントしようとしてしました。または、カレント制御ファイルをクローンとして使用しようとしてしました。

処置: クローン・オプションなしでマウントするか、バックアップ制御ファイルを使用して他のインスタンスを停止してからクローンとしてマウントしてください。

ORA-01697 制御ファイルはクローン・データベース用です。

原因: クローン・データベースを指定する適切なコマンド・オプションなしで、クローン・データベースをマウントしようとしてしました。

処置: クローン・オプションまたは適切なコマンドを使用するか、プライマリ制御ファイルを使用してマウントを実行してください。

ORA-01698 クローン・データベースで SYSTEM ロールバック・セグメントをオンラインにしています。

原因: クローン・データベース内のロールバック・セグメントをオンラインにしようとした。

処置: このコマンドを使用しないでください。

ORA-01699 表領域 *string* がリカバリ時点でインポートされています。

原因: 表領域をオンラインにしようとした。または、Point-in-Time インポートの処理中に、別の Point-in-Time インポートを開始しようとした。

処置: インポートが完了するまで待機してください。

ORA-01700 リスト中のユーザー名が重複しています。

ORA-01701 ここではクラスタは指定できません。

ORA-01702 ここではビューは指定できません。

ORA-01703 SYNONYM キーワードがありません。

ORA-01704 文字列が長すぎます。

原因: 文字列リテラルが 4000 文字以上になっています。

処置: 4000 文字以下の文字列リテラルを使用してください。バインド変数を使用する場合にのみ、長い値を入力できます。

ORA-01705 相関列に外部結合は指定できません。

ORA-01706 ユーザー定義の関数の結果が大きすぎます。

ORA-01707 LIST キーワードがありません。

ORA-01708 ACCESS または SESSION がありません。

ORA-01709 プログラムがありません。

ORA-01710 OF キーワードがありません。

ORA-01711 権限が重複してリストされています。

ORA-01712 自分が所有していない権限は付与できません。

ORA-01713 その権限に対する GRANT OPTION がありません。

ORA-01714 ユーザー定義の関数の実行中にエラーが発生しました。

ORA-01715 クラスタ索引に UNIQUE は使用できません。

原因: クラスタ索引を UNIQUE 属性で作成しようとした。

処置: CREATE INDEX 文から UNIQUE を取り除いてください。

ORA-01716 クラスタ索引に NOSORT は使用できません。

原因: NOSORT オプションを使用してクラスタ索引を作成しようとした。

処置: CREATE INDEX 文から NOSORT を削除してください。

ORA-01717 seccta: 渡されたアクセス・モード・トークンが無効です。

ORA-01718 NOAUDIT 文では BY ACCESS 句または BY SESSION 句は使用できません。

原因: NOAUDIT 文で BY ACCESS 句または BY SESSION 句を指定しようとしました。

処置: BY ACCESS 句または BY SESSION 句を削除してください。

ORA-01719 OR 句または IN 句の中で外部結合は使用できません。

原因: OR 句の中で外部結合が表示されました。

処置: A および B を述語とすると、(A(+) OR B) と同じ結果を得るためには、(SELECT WHERE(A(+) AND NOT B)) UNION ALL (SELECT WHERE(B)) を試行してください。

ORA-01720 string.string に対する GRANT オプションは存在しません。

原因: ビューで GRANT が実行されましたが、このオブジェクトに対して権限がありません。

処置: 必要な GRANT 権限を付与してもらってください。

ORA-01721 USERENV(COMMITSCN) がトランザクションで複数回起動されました。

原因: USERENV('COMMITSCN') 機能はトランザクションで一度しか使用できません。

処置: トランザクションを修正して USERENV('COMMITSCN') を一度のみ使用してください。

ORA-01722 数値が無効です。

原因: 数値列が無効であるため、文字列から数値への変換は失敗しました。算術関数または式では、数値データを含む文字フィールドまたは数値フィールドしか使用できません。数値フィールドのみ日付から加算または減算できます。

処置: 関数または式の中の文字列を確認してください。文字列が数字、単一の符号、単一の小数点および文字 E または e のみで構成されていることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-01723 長さゼロの列は指定できません。

原因: CREATE TABLE の実行中に、長さゼロの列が指定されました（たとえば、CHAR(0) など）。

処置: 長さが少なくとも 1 になるように列宣言を訂正し、操作を再試行してください。

ORA-01724 浮動小数点の精度が有効範囲（1 から 126）を超えています。

原因: 浮動小数点の精度が、規定の範囲外です。

処置: 訂正して再試行してください。

ORA-01725 USERENV('COMMITSCN') はここでは使用できません。

原因: USERENV('COMMITSCN') 機能は、INSERT 文の VALUES 句および UPDATE 文の代入文の右辺においてのみ最上位の式として使用できます。

処置: 機能の使用方法を訂正してください。

ORA-01726 表の指定は無効です。

原因：表の指定が許されていない文に表名を使用しました。

処置：有効な表文を入力するか、適切なオブジェクトに対して現在の文を使用してください。

ORA-01727 数値の精度指定範囲（1 から 38 桁）を超えています。

原因：CREATE/ALTER TABLE 文または CREATE CLUSTER 文の数値型の列に指定する精度の桁数は、38 桁以内でなければなりません。精度を指定しない場合は、デフォルトの 22 桁が指定されます。

処置：1 ～ 38 までの数値精度を指定し、文を再試行してください。

ORA-01728 数値の位取り指定範囲（-84 から 127）を超えています。

原因：CREATE/ALTER TABLE 文または CREATE CLUSTER 文の数値フィールドに指定している位取りの範囲が無効です。-84 ～ 127 の間でなければなりません。

処置：-84 ～ 127 までの位取りを指定してください。位取りを指定しない場合は、列のデフォルトの位取りは小数点以下 0 桁になります。

ORA-01729 データベース・リンク名が必要です。

原因：リモート・データベース中の表の参照において、アットマーク（@）の後にデータベース・リンク名が指定されていません。

処置：参照を訂正して、操作を再試行してください。リモート・データベース中の表を指定する正しい構文は次のとおりです。

```
username.table_name@ database_name
```

アットマーク（@）の前後のスペースはオプションです。

ORA-01730 指定した列名の個数が無効です。

原因：CREATE VIEW 文に指定された列名の数が、SELECT 句にリストされた列の数と一致しません。CREATE VIEW 文に列名を指定する場合、SELECT 句の各列または各式に対して正しい名前を 1 つのみ指定しなければなりません。

処置：SELECT 句の各列に対して 1 つのビュー列名を指定してください。

ORA-01731 循環的なビュー定義が検出されました。

原因：一連の CREATE VIEW 文および DROP VIEW 文において、あるビューが自身を参照して定義されました。たとえば、VIEW1 が VIEW1 内のある列に定義される VIEW2 中のある列を含んでいる、という定義です。ビュー定義はデータ・ディクショナリを問い合わせることによって参照できます。

処置：ビュー定義を確認し、循環参照を削除してから文を再試行してください。

ORA-01732 このビューに対するデータ操作が無効です。

原因: 式または関数を含んでいるか、複数の表から導出されたビューにおいて、UPDATE、INSERT または DELETE 文を使用しようとした。複数のビューを結合して作成しているか、ビューが関数または式から導出された仮想列を含んでいる場合は、問合せのみ可能です。

処置: ベース表内の行に対して UPDATE、INSERT または DELETE を実行し、問い合わせるビュー上の操作を制限してください。

ORA-01733 ここでは仮想列は使用できません。

原因: ビュー内の式に対して INSERT 文、UPDATE 文または DELETE 文を使用しようとした。

処置: ビューのかわりに、ベース表内のデータに対して INSERT、UPDATE または DELETE を実行してください。

ORA-01734 パラメータが無効です。 - EXTENT MIN が EXTENT MAX より高すぎます。

原因: 不適切な値がパラメータに指定されました。

処置: パラメータを訂正してから文を再発行してください。

ORA-01735 ALTER TABLE オプションが無効です。

原因: ALTER TABLE 文に無効なオプションが指定されました。

処置: 構文を調べて、有効なオプションを指定してから文を再試行してください。

ORA-01736 [NOT] SUCCESSFUL が必要です。

原因: AUDIT 文または NOAUDIT 文の WHENEVER の後に SUCCESSFUL または NOT SUCCESSFUL 以外のものが指定されています。

処置: WHENEVER 句を訂正して、文を再試行してください。

ORA-01737 有効なモード: [ROW] SHARE, [[SHARE]] ROW EXCLUSIVE, SHARE UPDATE

原因: 入力されたロック・モードが認識されませんでした。

処置: 次のうちの 1 つを入力してください。SHARE、ROW SHARE、EXCLUSIVE、ROW EXCLUSIVE、SHARE ROW EXCLUSIVE または SHARE UPDATE。

ORA-01738 IN キーワードがありません。

原因: LOCK TABLE 文にキーワード IN がありません。

処置: LOCK TABLE 文の表名の直後にキーワード IN を指定し、文を再試行してください。

ORA-01739 MODE キーワードがありません。

原因: LOCK TABLE 文にキーワード MODE がありません。指定したロック・モードの直後にはキーワード MODE を指定する必要があります。

処置: 構文を調べて、必要な箇所にキーワード **MODE** を挿入してから、文を再試行してください。

ORA-01740 識別子に 2 重引用符がありません。

原因: 識別子を囲むために最初の二重引用符 (") が付いていますが、終わりの二重引用符がありません。識別子に \$、# または _ 以外の特殊文字あるいは空白が含まれている場合は、二重引用符で囲む必要があります。

処置: 閉じる二重引用符 (") を識別子の終わりに追加してください。

ORA-01741 長さゼロの識別子は無効です。

原因: 連続した二重引用符 ("") を識別子として使用しようとした。識別子の長さは少なくとも 1 文字でなければなりません。

処置: 識別子の二重引用符の間に、少なくとも 1 文字を挿入してください。空白文字の識別子が必要であれば、二重引用符の間に空白を入れてください。

ORA-01742 コメントが正しく終了していません。

原因: 表示されている /* トークンで始まるコメントまたはヒントが、終わりを示す */ トークンで終了していません。

処置: */ でコメントまたはヒントを正しく終了させてください。

ORA-01743 索引を作成できるのは純関数だけです。

原因: 索引関数は SYSDATE またはユーザー環境を使用してください。

処置: PL/SQL ファンクションは純関数 (RNDS、RNPS、WNDS、WNPS) でなければなりません。SQL 式は SYSDATE、USER、USERENV (), またはセッション状態に依存する関数を使用できません。NLS に依存する関数は使用できます。

ORA-01744 INTO 句の指定が無効です。

原因: 副問合せで INTO 句は使用できません。

処置: 構文を調べて、最上位の問合せに INTO 句を配置してから、文を再試行してください。

ORA-01745 ホスト/バインド変数名が無効です。

原因: バインド変数のコロンの後または INTO 指定の後に不適切な名前 (予約語など) があります。

処置: 変数名を変更して、操作を再試行してください。

ORA-01746 ここでは標識変数は使用できません。

原因: このコンテキストでは、標識変数の使用は許されません。

処置: 標識変数を削除して再試行してください。

ORA-01747 指定された列が無効です。

原因: 現在の SQL 文に列名が正しく指定されていません。

処置: 構文（特に列名の参照について）を調べてから、文を再試行してください。

ORA-01748 ここでは修飾された列名は使用できません。

原因: この SQL 文では、`username.table.column`、`table.column` などの修飾された列名は使用できません。

処置: 列の修飾を削除して、操作を再試行してください。

ORA-01749 自分自身へまたは自分自身から権限を GRANT/REVOKE できません。

原因: 自分自身に対して、オブジェクトまたはシステム権限を付与したり、取り消したりすることはできません。

処置: 別のデータベース管理者アカウントにシステム権限の GRANT または REVOKE を発行してもらってください。

ORA-01750 UPDATE/REFERENCES は列ではなく表全体からしか REVOKE できません。

原因: 更新の権限は列単位で GRANT することができますが、REVOKE は表全体に対してのみ可能です。

処置: 特定の列を指定しないでください。特定の列の更新の権限を取り消す場合は、表全体に対して REVOKE を行い、それらの特定列に対してユーザー権限を GRANT するようにしてください。

ORA-01751 dump undo オプションが無効です。

原因: ALTER DUMP UNDO コマンドに無効なオプションが指定されています。

処置: コマンドを修正して再発行してください。

ORA-01752 複数表のビューから削除できません。

原因: 削除された表にはキー保存された表がないか、複数のキー保存された表があります。または、キー保存された表がマージされていないビューか、読取り専用ビューからの表です。

処置: ビューを再定義するか、基礎となるベース表からビューを削除してください。

ORA-01753 列定義がクラスタ列の定義と一致しません。

原因: クラスタに表を追加するときに、表の列の定義がクラスタの列の定義と一致していません。

処置: すべてのクラスタ列定義が一致しない限り、表をクラスタには追加できません。

ORA-01754 LONG 型の列は表に 1 つしか含められません。

原因: LONG 列をすでに LONG 列を持っている表に追加しようとしてしました。表の LONG 列が現在すでに未使用とマークされていても、その未使用の列が削除されるまで、別の LONG 列を追加できません。

処置: ALTER TABLE コマンドを使用して、現在表にある LONG 列を削除してください。

ORA-01755 エクステント番号またはブロック番号が指定されていません。

原因: エクステント番号またはブロック番号以外のものが指定されました。

処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

ORA-01756 単一引用符が閉じられていません。

原因: 引用符付きの文字列は、単一引用符 (') で終わらなければなりません。

処置: 閉じる単一引用符を挿入して、文を再試行してください。

ORA-01757 オブジェクト番号が指定されていません。

原因: オブジェクト番号以外のものが指定されました。

処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

ORA-01758 必須列 (NOT NULL) を追加するには表が空でなければなりません。

原因: 変更する表にすでに行が存在する場合は、新しい列を NOT NULL として定義できません。

処置: NOT NULL の指定なしで、文を再試行してください。

ORA-01759 ユーザー関数が正しく定義されていません。

原因: ユーザー・ファンクションが正しく定義されていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01760 関数の引数が無効です。

原因: 引数またはこの関数に対して指定された引数が、このコンテキストでは無効です。

処置: 関数の定義を調べて、引数を訂正してください。

ORA-01761 DML 操作が、結合の中の一意的表にマップしません。

原因: 主表は、更新、挿入または削除操作が最後に実行されるベース表です。削除操作の場合、結合問合せの中に主表がないか、または 2 つ以上の主表があります。更新または挿入操作の場合、指定された列が 2 つ以上のベース表にマップします。

処置: 結合指定を変更してください。

ORA-01762 vopdrv: ビューの問合せブロックが FROM にありません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01763 更新または削除に外部結合表が含まれています。

原因: 削除操作の場合、削除された表は他のどれかの表に対して外部結合になっています。更新操作の場合、更新された表が他のどれかの表に対して外部結合になっているか、主表から到達可能な表が主表から到達できない表に対して外部結合になっています。

処置: 結合指定を変更してください。

ORA-01764 結合の新規更新値が一意であることを保証されていません。

原因: 結合問合せ表の行が、更新される行に対して1つの値のみを持つことが保証されていない表の行を使用して更新されています。

処置: 結合指定を変更してください。

ORA-01765 指定された表の所有者名は使用できません。

原因: 表名またはビュー名の指定にピリオド (.) が含まれていたか、これらの名前が無効な接頭辞によって識別されました。

処置: そのオブジェクトが正しく識別されていることを確認し、必要に応じて名前からピリオドを削除してください。

ORA-01766 このコンテキストでディクショナリ表は使用できません。

原因: SELECT 文の FROM 句の範囲外でデータ・ディクショナリ・オブジェクトの名前を使用しました。データ・ディクショナリ・オブジェクトに対しては、SELECT することのみが許可されています。

処置: 問合せを実行するデータ・ディクショナリ・オブジェクト上の操作を制限してください。

ORA-01767 UPDATE SET 式は副問合せでなければなりません。

原因: 列のリストを更新しようとして副問合せのない単純式を使用しようとしてしました。

処置: データの更新に使用する副問合せの構文を調べて、必要な副問合せを追加してください。

ORA-01768 数値列が長すぎます。

原因: 入力した文字数が 255 文字（数字、符号、小数点および指数も含む）の制限を超えています。

処置: 科学計算表記法を使用するなどして、数値列を短くしてください（たとえば、1,850,000,000 を 1.85E9 とする）。

ORA-01769 CLUSTER オプションの指定が重複しています。

原因: クラスタ化された表の CREATE に対して、複数の CLUSTER オプションを指定しようとしてしました。

処置: 重複するクラスタを削除してください。

ORA-01770 CREATE CLUSTER コマンドで CLUSTER オプションは使用できません。

原因：CREATE CLUSTER 文で CLUSTER オプションを使用しようとしてしました。

処置：CLUSTER 句を削除して、文を再試行してください。

ORA-01771 クラスタ表に対するオプションが無効です。

原因：クラスタ化された表の CREATE または ALTER に対して、次のオプションを1つ以上入力しようとしてしました。INITRANS, MAXTRANS, PCTFREE, PCTUSED, STORAGE, TABLESPACE, CACHE, NOCACHE. これらのオプションは、クラスタ自身に対してのみ指定されます。

処置：不正なオプションを削除してください。

ORA-01772 LEVEL の値が指定されていません。

原因：LEVEL の値以外のものが指定されました。

処置：エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

ORA-01773 この CREATE TABLE 文では列データ型は指定できません。

原因：表を直接作成およびロードするのに使用される SELECT 文に列データ型が指定されました。

処置：列データ型を削除してください。SELECT リスト式のデータ型が自動的に列データ型として使用されます。

ORA-01774 Dump undo オプションが複数指定されています。

原因：ALTER DUMP UNDO に同じオプションが2回指定されました。

処置：不要なオプションを削除して、コマンドを再発行してください。

ORA-01775 シノニム定義がループしています。

原因：CREATE SYNONYM 文の中で、シノニムが自身を参照して定義されました。たとえば、次のような定義は循環定義です。

```
CREATE SYNONYM s1 for s2
CREATE SYNONYM s2 for s3
CREATE SYNONYM s3 for s1
```

処置：1つのシノニム定義を変更してベース表またはビューに適用されるようにしてから、操作を再試行してください。

ORA-01776 結合ビューを介して複数のベース表を変更できません。

原因：複数の基礎となる表に属する列が挿入または更新されました。

処置：文を2つ以上の別々の文として句にしてください。

ORA-01777 このシステムでは WITH GRANT OPTION は使用できません。

原因：Oracle のこのバージョンでは、WITH GRANT OPTION はサポートされていません。

処置: WITH GRANT オプションを削除してください。

ORA-01778 副問合せの最大ネスト・レベル制限値を超えました。

原因: 255 レベルを超えるネストされた副問合せを使用しようとしてしました。

処置: ネストのレベルが 255 未満になるように、いくつかの副問合せを上位の問合せにマージしてください。

ORA-01779 複数表にマップする列を変更できません。

原因: キー保存されていない表にマップする結合ビューの列を挿入または更新しようとしてしました。

処置: 基礎となるベース表を直接変更してください。

ORA-01780 文字列定数が必要です。

原因: COMMENT 文では、キーワード IS の後のコメントは引用符付きの文字列定数である必要があります。

処置: コメントが文字列定数であることを確認してください。

ORA-01781 AS SELECT を使わずに UNRECOVERABLE を指定することはできません。

原因: 移入している副問合せを AS 句で指定しないで、CREATE TABLE 文に UNRECOVERABLE が指定されました。

処置: UNRECOVERABLE を指定しないでください。

ORA-01782 UNRECOVERABLE をクラスタまたはクラスタ化表に対して指定することはできません。

原因: CREATE CLUSTER 文またはクラスタ化された CREATE TABLE 文によって UNRECOVERABLE が指定されました。

処置: UNRECOVERABLE を指定しないでください。

ORA-01783 RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句は 1 つだけ指定できます。

原因: RECOVERABLE が複数回指定された、UNRECOVERABLE が複数回指定された、RECOVERABLE と UNRECOVERABLE の両方が CREATE TABLE 文、CREATE INDEX 文または ALTER INDEX REBUILD 文で指定されたのいずれかが原因です。

処置: RECOVERABLE 句または UNRECOVERABLE 句のうちのいずれか 1 つを残してその他はすべて削除して、文を再発行してください。

ORA-01784 データベース・メディアのリカバリが使用不能の状態では RECOVERABLE を指定できません。

原因: データベースが NOARCHIVELOG モードで実行しているときに、CREATE TABLE 文または CREATE INDEX 文が RECOVERABLE を指定しました。ログがアーカイブされていないので、上書きされ、オブジェクトの作成前に取ったバックアップから、作成中のオブジェクトをリカバリできません。

処置: RECOVERABLE を指定しないか、メディア・リカバリを使用可能にしてデータベースを再起動してください。

ORA-01785 ORDER BY 項目は、SELECT リスト式の数でなければなりません。

原因: 集合式に対する ORDER BY 項目が列番号ではないか、ORDER BY 項目が SELECT リスト列の数ではありません。

処置: ORDER BY 項目は、SELECT リスト列の数から 1 の間の数でなければなりません。列数を調べて文を再試行してください。

ORA-01786 この問合せ式では FOR UPDATE 句は使用できません。

原因: GROUP BY、DISTINCT、UNION、INTERSECT または MINUS を含む集合式の結果に対して、FOR UPDATE 句を使用しようとした。

処置: 構文を調べて、FOR UPDATE 句を削除してから、文を再試行してください。

ORA-01787 問合せブロック 1 つにつき 1 つの句しか使用できません。

原因: 問合せの中で複数の WHERE、GROUP BY、CONNECT BY または HAVING 句を使用しようとした。

処置: 重複する句を単一の句に組み合わせて、文を再試行してください。

ORA-01788 この問合せブロックでは CONNECT BY 句が必要です。

原因: CONNECT BY 句を指定せずに START WITH 句が指定されました。

処置: 構文を調べて、CONNECT BY 句を指定してから文を再試行してください。

ORA-01789 問合せブロックにある結果の列数が無効です。

原因: 集合式に関わるすべての問合せに、SELECT リスト列と同じ数が含まれていません。

処置: 集合式の中のすべての問合せと、SELECT リスト列の数がすべて同じになるようにしてください。

ORA-01790 式には対応する式と同じデータ型がなければなりません。

原因: SELECT リスト項目が、同じ集合式の別の問合せの異なるデータ型を含む SELECT リスト項目に対応しています。

処置: 対応するすべての SELECT リスト項目に、同じデータ型が含まれていることを確認してください。TO_NUMBER、TO_CHAR および TO_DATE の関数を使用して、明示的にデータ変換を実行してください。

ORA-01791 SELECT 式が無効です。

原因: 不適切な ORDER BY 項目があります。問合せは、ORDER BY 句を伴う SELECT DISTINCT です。このコンテキストでは、ORDER BY 項目はすべて定数、SELECT リスト式、オペランドが定数または SELECT リスト式である式のいずれかでなければなりません。

処置: 不適切な ORDER BY 項目を SELECT リストから削除して、文を再試行してください。

ORA-01792 表またはビューに指定できる最大列数は 1000 です。

原因: 1000 以上の列で表またはビューを作成しようとしたか、列を追加しすぎて許容できる最大の列数 1000 を超えました。表にある未使用の列も最大列数 1000 に含まれることに注意してください。

処置: CREATE コマンドが原因でエラーが発生した場合、コマンドの列数を少なくして再実行してください。ALTER TABLE コマンドが原因でエラーが発生した場合には、次の 2 つのオプションがあります。

- テーブルに未使用の列がある場合、新しい列を追加する前に、ALTER TABLE DROP UNUSED COLUMNS を実行して未使用の列を削除します。
- コマンドの列数を少なくして、再実行します。

原因: 表またはビューの作成中、1000 を超える列が指定されました。

処置: 表またはビュー定義から、制限を超える列を削除してください。情報がすべて必要であれば、列を 2 つの表またはビューに分割し、問合せのときにそれらの列を結合してください。

ORA-01793 指定できる最大索引列数は 32 です。

原因: 索引の作成中、32 を超える列が指定されました。

処置: 索引定義から、制限を超える列を削除してください。索引列がすべて必要であれば、2 つの索引に分割してください。

ORA-01794 指定できる最大クラスタ列数は 32 です。

原因: クラスタ・キーに 32 を超える列が指定されました。

処置: クラスタ・キー定義から、制限を超える列を削除してください。複数の文字列を単一行に連結してみてください。

ORA-01795 リストに指定できる式の最大数は 1000 です。

原因: リストに 255 以上の列または式を指定しました。

処置: リストから、制限を超える式を削除してください。

ORA-01796 リストではこの演算子は使用できません。

原因: このコンテキストでは関係演算子を使用できません。リストを比較するときは、等価値をテストする演算子（たとえば =、!=、IN）のみ使用してください。

処置: リスト等価値のみを比較するように、問合せを修正してください。たとえば、次の句は無効です。

```
WHERE (A,B) > ((C,D), (E,F))
```

個々の列を別々に比較する必要があるかもしれません。たとえば、A と B がそれぞれ C と D より大きいことをテストするためには、WHERE(A,B)>(C,D) ではなく、WHERE A>B AND C>D としてください。

ORA-01797 演算子の後には ANY または ALL を指定しなければなりません。

原因：キーワード ANY または ALL がありません。

処置：構文を調べて、適当な箇所に ANY または ALL を追加してください。

ORA-01798 EXCEPTION キーワードがありません。

原因：ENABLE 句に EXCEPTION キーワードがありません。

処置：構文を訂正してください。

ORA-01799 列は副問合せに対して外部結合されません。

原因：*expression (+) relop (subquery)* は使用できません。

処置：(+) を削除するか、ビューを副問合せ外にしてください。バージョン 6 およびそれ以前のバージョンでは、この場合の (+) は無視されていました。

ORA-01800 日付形式の文字列が長すぎて処理できません。

原因：日付形式で指定した文字列が長すぎます。文字列を日付として入力する場合、長さは 220 文字以内でなければなりません。

処置：日付形式には 220 文字より短い文字列のみ使用してください。

ORA-01801 日付形式が内部バッファに対して長すぎます。

原因：日付形式の文字列が長すぎて処理できません。このエラーは、日付の一部に長い文字を指定した場合に発生します。

処置：日付形式の文字列から長い文字を削除してください。

ORA-01802 ユリウス暦の日付指定が有効範囲を超えています。

原因：無効なユリウス日が入力されました。有効なユリウス日は 1 ～ 3,442,447 までです。

処置：1 ～ 3,442,447 までの有効なユリウス日を入力してください。

ORA-01803 日付 / 時間の獲得でエラーが発生しました。

原因：通常、発生しない内部エラー・メッセージです。ほとんどの場合、システム・クロックの障害によって発生してください。

処置：システム・クロックと日付または時間を要求したプロセスを調べてください。必要であれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01810 形式コードが 2 回現れています。

原因：日付指定に形式コードが 2 回リストされました。各形式コードは TO_DATE 関数に 1 回のみ指定できます。

処置：日付指定から重複する形式コードを削除して、操作を再試行してください。

ORA-01811 ユリウス暦の日付では年間通算日は使用できません。

原因: TO_DATE 関数にユリウス日および年間通算日の両方が指定されました。ユリウス日を指定する場合、年間通算日 (DDD) はユリウス日に含まれるため指定できません。

処置: 指定から年間通算日またはユリウス日を削除して、操作を再試行してください。

ORA-01812 年は1度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の年形式コードがリストされました。日付には、次の年形式コードの中のいずれか1つのみ指定できます。YYYY、YYY、YY、Y。

処置: 日付指定から年形式を1つ残してその他はすべて削除してください。

ORA-01813 時間は1度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の時間形式コードがリストされました。日付には、次の時間形式コードの中のいずれか1つのみ指定できます。HH、HH12、HH24。

処置: 日付指定から時間形式を1つ残してその他はすべて削除してください。

ORA-01814 AM/PM と A.M./P.M. は混在できません。

原因: 両方の正午標識タイプ (AM および PM) が日付指定にリストされました。正午標識の形式マスク (AM または A.M.) のいずれかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

処置: ピリオド無しまたは有りで1つの正午標識形式を一貫して使用してください。

ORA-01815 BC/AD と B.C./A.D. は混在できません。

原因: 両方のタイプの標識 (BC/AD) が日付指定にリストされました。標識 (BC/AD) の形式マスク (BC または B.C.) のいずれかが日付に指定されると、もう一方は指定できません。

処置: ピリオド無しまたは有りで1つの BC/AD 標識形式を一貫して使用してください。

ORA-01816 月は1度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の月形式コードがリストされました。日付には、次の月形式コードの中のいずれか1つのみ指定できます。MM、MON、MONTH。

処置: 日付指定から月形式を1つ残してその他はすべて削除してください。

ORA-01817 曜日は1度しか指定できません。

原因: 日付指定に複数の曜日形式コードがリストされました。日付には、次の曜日形式コードの中のいずれか1つのみ指定できます。D、DY、DAY。

処置: 日付指定から曜日形式を1つ残してその他はすべて削除してください。

ORA-01818 HH24 と AM/PM は混在できません。

原因: 日付指定には、24 時間形式コードおよび正午標識コードの両方が含まれています。24 時間形式 (HH24) を使用して時間を指定すると、正午標識 (AM または PM) は指定できません。

処置: 日付指定から正午標識形式コード (AM/PM または A.M./P.M.)、または 24 時間形式コード (HH24) を削除してください。

ORA-01819 符号付き年と BC/AD は混在できません。

原因: 日付指定には、符号付き年と B.C./A.D. 標識の両方が含まれています。年が符号付きで指定されている場合 (SYYYYY など) には、B.C. または A.D. は日付に含まれていないので、入力しないでください。

処置: 日付指定から B.C./A.D. 標識を削除してください。

ORA-01820 日付入力形式に含まれている形式コードが無効です。

原因: 日付指定に含まれている形式コードが無効です。日付を入力するときは、次のものしか指定できません。年、月、日、時、分、秒、ユリウス日、A.M./P.M. および B.C./A.D.。

処置: 日付指定から無効な形式コードを削除してください。

ORA-01821 日付形式が無効です。

原因: 日付指定に含まれている形式コードが無効です。

処置: 有効な日付形式コードのみが指定されていることを確認してください。

ORA-01822 年代形式コードがこのカレンダーで無効です。

原因: 年代情報を使用しないカレンダーに年代形式コード、E または EE を指定しました。

処置: 年代形式コードを含まない日付形式マスクを使用して、操作を再試行してください。

ORA-01830 日付形式の指定に不必要なデータが含まれています。

原因: 有効な日付形式ピクチャに余分なデータが含まれています。形式ピクチャの最初の部分は有効な日付に変換されましたが、不要なデータが残っています。

処置: 日付形式ピクチャの指定を調べて、文を訂正してください。

ORA-01831 年とユリウス暦の日付は混在できません。

原因: ユリウス日に対して誤った年が指定されました。ユリウス日に年を指定する場合、ユリウス日が発生する年である必要があります。

処置: 日付指定から年の値を削除するか、ユリウス日の正しい年を入力してください。

ORA-01832 年単位の日付とユリウス暦の日付は混在できません。

原因：年間通算日と共にユリウス日が指定されましたが、日がユリウス日と一致しません。ユリウス日と共に年間通算日を指定する場合、ユリウス日と同じ日である必要があります。

処置：日付指定から年間通算日の値を削除するか、ユリウス日の正しい日付を入力してください。

ORA-01833 月とユリウス暦の日付は混在できません。

原因：ユリウス日付に対して誤った月が指定されました。ユリウス日と共に月を指定する場合、ユリウス日が発生する月である必要があります。

処置：日付指定から月の値を削除するか、ユリウス日の正しい月を入力してください。

ORA-01834 月単位の日付とユリウス暦の日付は混在できません。

原因：月単位の日と共にユリウス日が指定されましたが、月単位の日がユリウス日と一致しません。ユリウス日と共に月単位の日を指定する場合、ユリウス日と同じ月単位の日である必要があります。

処置：日付指定から月単位の日付の値を削除するか、ユリウス日の正しい月単位の日を入力してください。

ORA-01835 曜日とユリウス暦の日付は混在できません。

原因：曜日と共にユリウス日が指定されましたが、曜日がユリウス日と一致しません。ユリウス日と共に曜日を指定する場合、ユリウス日と同じ曜日にする必要があります。

処置：日付指定から曜日の値を削除するか、ユリウス日の正しい曜日を入力してください。

ORA-01836 時と日単位の秒は混在できません。

原因：日単位の秒と合わない時が指定されました。午前 0 時からの経過秒（SSSSS）と共に時を指定する場合、その秒を含んでいる時にしてください。

処置：日付指定から時の値を削除するか、午前 0 時からの経過秒を含んだ正しい時を入力してください。

ORA-01837 時単位の分と日単位の秒は混在できません。

原因：日付指定に時単位の分と日単位の秒の両方が含まれていますが、互いの値が一致しません。時単位の分（MI）と午前 0 時からの経過秒（SSSSS）の両方を指定する場合、分にはその秒の値を含む必要があります。

処置：日付指定から分の値を削除するか、指定した秒の値に対する正しい分を入力してください。

ORA-01838 分単位の秒と日単位の秒は混在できません。

原因：日付指定に分単位の秒と日単位の秒の両方が含まれていますが、互いの値が一致しません。両方の秒を指定する場合、分単位の秒（SS）は、午前 0 時からの経過秒（SSSSS）に対応させる必要があります。

処置: 日付指定から分単位の秒の値を削除するか、指定された日単位の秒に対応する値を入力してください。

ORA-01839 指定した月に対して日付が無効です。

原因: 日付に指定された月の日が、所定の月に対して無効です。月の日 (DD) は、月の日数と 1 の間の数にする必要があります。

処置: 指定された月に有効な月の日を入力してください。

ORA-01840 入力した値の長さが日付形式に対して不足しています。

原因: 日付形式に変換するデータが不完全です。入力データよりも日付形式ピクチャの方が長くなっています。

処置: 入力を追加するか、日付ピクチャ形式を短くして、操作を再試行してください。

ORA-01841 (周) 年は -4713 と +9999 の間で指定してください。0 であってはなりません。

原因: 日付に指定した年が有効な日付範囲にありません。有効な日付は、4712 B.C.1 月 1 日と 9999 A.D.12 月 31 日の間の任意の日付です。

処置: 4712 B.C. ~ 9999 A.D. の間の有効な日付値を入力してください。

ORA-01842 四半期は 1 から 4 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付の年の四半期に対して、指定した値が無効です。四半期 (Q) は 1 と 4 の間でなければなりません。

処置: 1 ~ 4 の間の有効な四半期の値を入力してください。

ORA-01843 指定した月が無効です。

原因: 日付に指定した月は無効です。有効な月は、January ~ December (形式コード MONTH の場合) および Jan ~ Dec (形式コード MON の場合) です。

処置: 有効な月の値を正しい形式で入力してください。

ORA-01844 年単位の週は 1 から 52 までの間で指定しなければなりません。

原因: 日付の年単位の週に対して、指定した値が無効です。年単位の週 (WW) は 1 ~ 52 の間にする必要があります。

処置: 1 ~ 52 の間の年単位の週の値を入力してください。

ORA-01845 月間の週は 1 から 5 の間でなければなりません。

原因: 日付の月単位の週に対して、指定した値が無効です。月単位の週 (W) は 1 ~ 5 の間にする必要があります。

処置: 1 ~ 5 の間の月単位の週の値を入力してください。

ORA-01846 指定した曜日が無効です。

原因: 日付が指定した曜日は無効です。有効な曜日は次のとおりです。

- Monday ~ Sunday (形式コード DAY の場合)

-
- Mon ～ Sun（形式コード DY の場合）
 - 1 ～ 7（形式コード D の場合）

処置: 正しい形式で有効な曜日を入力してください。

ORA-01847 月単位の日付は 1 から月末日の間で指定しなければなりません。

原因: 日付にリストされた月単位の日は指定月に対して無効です。月単位の日（DD）は、1 からその月の日数との間にしてください。

処置: 指定された月に有効な日の値を入力してください。

ORA-01848 年単位の日付は 1 から 365（閏年は 366）の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した年間通算日は無効です。年間通算日（DDD）は、閏年以外は 1 ～ 365 の間、閏年の場合は 1 ～ 366 の間にしてください。

処置: 1 ～ 365（または 366）の間の年間通算日の値を入力してください。

ORA-01849 時間は 1 から 12 の間で指定しなければなりません。

原因: 12 時間形式を使用する日付に指定した時間が無効です。12 時間形式コード（HH または HH12）を使用する場合、時間は 1 ～ 12 の間の値を指定する必要があります。

処置: 1 ～ 12 の間の時間の値を入力してください。

ORA-01850 時間は 0 から 23 の間で指定しなければなりません。

原因: 24 時間形式を使用する日付に指定した時間が無効です。24 時間形式コード（HH24）をリストする場合、時間は 0 ～ 23 の間の値を指定する必要があります。

処置: 0 ～ 23 の間の時間の値を入力してください。

ORA-01851 分は 0 から 59 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した分の値は無効です。分は 0 ～ 59 の間で指定する必要があります。

処置: 0 ～ 59 の間の分の値を入力してください。

ORA-01852 秒は 0 から 59 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した秒の値が無効です。秒形式コード（SS）が使用されている場合は、秒は 0 から 59 の間にしてください。

処置: 0 ～ 59 の間の分の値を入力してください。

ORA-01853 日単位の秒は 0 から 86399 の間で指定しなければなりません。

原因: 日付に指定した日単位の秒の値が無効です。午前 0 時からの経過秒形式コード（SSSSS）を使用する場合、秒は 0 から 86399 の間にしてください。

処置: 0 ～ 86399 の間の秒の値を指定してください。

ORA-01854 ユリウス暦は 1 から 5373484 の間で指定しなければなりません。

原因：無効なユリウス日が入力されました。

処置：1 ～ 5373484 までの有効なユリウス日を入力してください。

ORA-01855 AM/A.M. または PM/P.M. が必要です。

原因：日付指定には正午標識形式コードが含まれていますが、指定された正午標識が無効です。日付形式に正午標識コード (A.M./P.M. または AM/PM) が含まれている場合は、その日付に有効な正午標識を含む必要があります。

処置：正しい形式、A.M./AM または P.M./PM で正午標識を指定してください。

ORA-01856 BC/B.C. または AD/A.D. が必要です。

原因：日付指定には BC/AD 形式コードが含まれていますが、指定された BC/AD 標識が無効です。日付形式に BC/AD 形式コードのいずれか (BC/AD または B.C./A.D.) が指定されている場合は、その日付に BC/B.C. または AD/A.D. が含まれている必要があります。

処置：正しい形式を使用して、日付に BC/AD 標識を指定してください。

ORA-01857 時間帯が無効です。

原因：NEW_TIME 関数に使用している時間帯コードが不適切です。

処置：時間帯コードを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-01858 数値を指定する箇所に文字が指定されています。

原因：日付形式モデルを使用して変換すべき入力データが不適切です。入力データが、形式モデルが数値を必要とする箇所に数値を含んでいませんでした。

処置：入力データまたは日付形式モデルを修正して、各要素の数値と型を一致させてください。再試行してください。

ORA-01859 文字を指定する箇所に数値が指定されています。

原因：日付形式モデルを使用して変換すべき入力データが不適切です。入力データが、形式モデルが文字を必要とする箇所に文字を含んでいませんでした。

処置：入力データまたは日付形式モデルを修正して、各要素の数値と型を一致させてください。再試行してください。

ORA-01860 年単位の週は 1 から 53 までの間で指定しなければなりません。

原因：1 ～ 53 までの間でない週の数指定しようとしました。

処置：週の数として有効な範囲内の値のみを使用してください。

ORA-01861 リテラルが書式文字列と一致しません。

原因：入力内のリテラルは、書式文字列内のリテラルと同じ長さである必要があります (先行の空白文字は除く)。FX 修飾子が指定されている場合は、リテラルを完全に一致させる必要があります (余分な空白は除く)。

処置: 書式文字列を訂正して、リテラルを一致させてください。

ORA-01862 数値が書式項目の長さと一致しません。

原因: FX および FM 書式コードが入力した日付に指定されている場合、その桁数を書式コードが指定した数値と完全に一致させる必要があります。たとえば、9 は書式指定子 DD と一致しませんが、09 は一致します。

処置: 入力した日付を訂正するか、書式文字列の FX または FM 書式指定子をオフにしてください。

ORA-01863 この年は現行カレンダーではサポートされません。

原因: この年は現行のカレンダーではサポートされません。

処置: 現行のカレンダーでサポートされている年を確認してください。

ORA-01864 指定した日付は現行カレンダーの範囲を超えています。

原因: 現在のカレンダーは指定された日付まで拡張しません。

処置: このカレンダーに有効な日付を指定してください。

ORA-01865 era が無効です。

原因: era 入力不明です。

処置: 有効な era を入力してください。

ORA-01866 日付時刻クラスが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01867 間隔が無効です。

原因: 指定された文字列の間隔が無効です。

処置: 有効な間隔を指定してください。

ORA-01868 間隔の先行精度が小さすぎます。

原因: 間隔の先行精度が小さすぎるので、指定された間隔を格納できません。

処置: 間隔の先行精度を大きくするか、先行精度が小さい間隔を指定してください。

ORA-01869 今後使用予定の予約番号。

原因: エラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01870 間隔または日付時刻は互に比較できません。

原因: 間隔または日付時刻は相互に比較できません。

処置: 相互に比較できる対の間隔または日付時刻を指定してください。

ORA-01871 秒数は 60 より小さくなければなりません。

原因: 指定された秒数が、59 以上でした。

処置: 59 またはそれ以下の秒の値を指定してください。

ORA-01872 今後使用予定の予約番号。

原因: エラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-01873 間隔の先行精度が小さすぎます。

原因: 間隔の先行精度が小さすぎるので、指定された間隔を格納できません。

処置: 間隔の先行精度を大きくするか、先行精度が小さい間隔を指定してください。

ORA-01874 時間帯の時間は、-12 から 13 の間でなければなりません。

原因: 指定した時間帯の時間が無効な範囲でした。

処置: -12 ～ 13 の間の時間帯の時間を指定してください。

ORA-01875 時間帯の分は、-59 から 59 の間でなければなりません。

原因: 指定した時間帯の分が無効な範囲でした。

処置: -59 ～ 59 の間の時間帯の分を指定してください。

ORA-01876 年の値は、-4713 以上です。

原因: 指定された年が範囲外でした。

処置: -4713 以上の数値を指定してください。

ORA-01877 内部バッファに対して文字列が長すぎます。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01878 指定したフィールドが日付時刻または間隔で見つかりません。

原因: 指定されたフィールドが日付時刻または間隔で見つかりませんでした。

処置: 指定されたフィールドが、日付時刻または間隔内にあることを確認してください。

ORA-01879 hh25 フィールドは、0 から 24 の間でなければなりません。

原因: 指定した hh25 フィールドが無効な範囲でした。

処置: 0 ～ 24 の間の hh25 フィールドを指定してください。

ORA-01880 小数秒は、0 から 999999999 の間でなければなりません。

原因: 指定した小数秒が無効な範囲でした。

処置: 0 ～ 999999999 の間の小数秒の値を指定してください。

ORA-01890 NLS エラーが見つかりました。

原因: NLS エラーが見つかりました。

処置: その他のエラー・メッセージを検索して、適切な処置を行ってください。その他のエラーがない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01891 日付時刻 / 間隔の内部エラーです。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-01898 指定した精度が多すぎます。

原因: 日付を簡潔にしようとしたところ、日付形式ピクチャに余分なデータが見つかりました。

処置: 日付形式ピクチャの構文を調べて、再試行してください。

ORA-01899 精度指定子が正しくありません。

原因: 日付に指定した精度コードは無効です。

処置: 日付形式に有効な精度コードを入力してください。有効な形式は、世紀、年、月、日、ユリウス日、時間、分、秒です。

ORA-01900 LOGFILE キーワードが必要です。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01901 ROLLBACK キーワードが必要です。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01902 SEGMENT キーワードが必要です。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01903 EVENTS キーワードが必要です。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01904 DATAFILE キーワードが必要です。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01905 STORAGE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01906 BACKUP キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01907 TABLESPACE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01908 EXISTS キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01909 REUSE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-1910 TABLES キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01911 CONTENTS キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01912 ROW キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01913 EXCLUSIVE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01914 順序番号に対する監査オプションが無効です。

原因：順序番号に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、順序番号に対しては不適切です。

処置: 順序番号に使用できないオプション (COMMENT、DELETE、INDEX、INSERT、LOCK、RENAME、UPDATE、REFERENCES、EXECUTE) を削除してください。

ORA-01915 ビューに対する監査オプションが無効です。

原因: ビューに対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、ビューに対しては不適切です。

処置: ビューに使用できないオプション (ALTER、INDEX、REFERENCES、EXECUTE) を削除してください。

ORA-01916 ONLINE、OFFLINE、RESIZE、AUTOEXTEND または END/DROP のキーワードが入ります。

原因: DATAFILE/TEMPFILE 句に必要なキーワードが使用されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-01917 ユーザーまたはロール *string* は存在しません。

原因: 指定した名前を持つユーザーまたはロールが存在しません。

処置: 名前を再指定してください。

ORA-01918 ユーザー *string* は存在しません。

原因: ユーザーがシステムに存在しません。

処置: ユーザー名が正しいかどうか検証してください。

ORA-01919 ロール *string* は存在しません。

原因: 指定した名前を持つロールが存在しません。

処置: 正しいロール名を使用しているかどうか検証してください。

ORA-01920 ユーザー名 *string* は他のユーザー名またはロール名と矛盾します。

原因: 指定した名前を持つユーザーまたはロールがすでに存在しています。

処置: 異なるユーザー名を指定してください。

ORA-01921 ロール名 *string* は他のユーザー名またはロール名と矛盾します。

原因: 指定した名前を持つユーザーまたはロールがすでに存在しています。

処置: 異なるロール名を指定してください。

ORA-01922 *string* を削除するには CASCADE を指定する必要があります。

原因: このユーザーをシステムから削除するには、CASCADE が必要です。削除する必要があるオブジェクトを、ユーザーが所有しています。

処置: CASCADE を指定してください。

ORA-01923 オブジェクトを別のユーザーがロックしているため CASCADE は中断されました。

原因：ユーザーのオブジェクトを削除できません。別のユーザーがオブジェクトをロックしました。

処置：ロック・モニターを使用して、オブジェクトをロックしているユーザーを確認してください。

ORA-01924 ロール *string* が付与されていないか存在しません。

原因：ロール設定は、アカウントに直接付与されたロールでのみ実行できます（たとえば、サブロールでは実行できません）。

処置：ロールを設定しないでください。

ORA-01925 使用可能なロールの最大数 *string* を超えました。

原因：初期化パラメータ MAX_ENABLED_ROLES が最大数を超えました。

処置：MAX_ENABLED_ROLES を大きくして、データベースをウォーム・スタートしてください。

ORA-01926 WITH GRANT OPTION を使用してもロールへ GRANT を実行できません。

原因：ロールは、GRANT OPTION の権限を持つことができません。

処置：GRANT OPTION なしで GRANT を実行してください。

ORA-01927 付与していない権限には REVOKE を実行できません。

原因：付与された権限のみ取り消すことができます。

処置：これらの権限を取り消さないでください。

ORA-01928 GRANT オプションがすべての権限に対して付与されていません。

原因：権限を付与するには、最初に GRANT オプションの権限が必要です。

処置：GRANT オプションの権限を付与してもらって、再試行してください。

ORA-01929 GRANT を実行するための権限がありません。

原因：ALL は指定されましたが、ユーザーには GRANT オプションの権限がありません。

処置：そのオブジェクトに対する権限を付与しないでください。

ORA-01930 オブジェクトの監査はサポートされていません。

原因：監査されていないオブジェクトに AUDIT または NOAUDIT が指定されました。

処置：このオブジェクトに AUDIT は指定しないでください。

ORA-01931 *string* はロールに付与できません。

原因：UNLIMITED TABLESPACE、REFERENCES、INDEX、SYSDBA または SYSOPER 権限を、ロールに付与できません。

処置: 権限をユーザーに直接付与してください。

ORA-01932 ADMIN オプションはロール *string* に付与されていません。

原因: ロールの操作には、ADMIN オプションが必要です。

処置: GRANT オプションを付与してもらって、再試行してください。

ORA-01933 ロールの権限を使用してストアド・オブジェクトを作成できません。

原因: ロールの権限を使用してストアド・オブジェクトを作成しようとした。ストアド・オブジェクトはロール権限を使用できません。

処置: 必要な権限をユーザーに直接付与してください。

ORA-01934 循環的なロールの付与が検出されました。

原因: ロールは循環的に付与されません。また、ロールは自身にも付与されません。

処置: 付与を実行しないでください。

ORA-01935 ユーザー名またはロール名がありません。

原因: ユーザー名またはロール名が必要です。

処置: ユーザー名またはロール名を指定してください。

ORA-01936 ユーザーまたはロールの作成時に所有者を指定することはできません。

原因: ユーザーおよびロールに所有者は存在しません。

処置: 所有者を指定しないでください。

ORA-01937 ロール名がないか、無効です。

原因: 有効なロール名が必要です。

処置: 有効なロール名を指定してください。

ORA-01938 CREATE USER では IDENTIFIED BY を指定しなければなりません。

原因: パスワードまたは IDENTIFIED EXTERNALLY を指定せずに、ユーザーの作成はできません。

処置: パスワード句を 1 つ指定してください。

ORA-01939 ADMIN OPTION のみ指定できます。

原因: ADMIN オプションでのみ、システム権限およびロールは付与されます。GRANT オプションは、これらの権限で使用できません。

処置: ADMIN オプションを指定してください。

ORA-01940 現在接続中のユーザーを削除することはできません。

原因: 現在ログインしているユーザーを削除しようとした。

処置: ユーザーがログオフしていることを確認して、コマンドを繰り返してください。

ORA-01941 SEQUENCE キーワードが必要です。

原因：キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを指定してください。

ORA-01942 IDENTIFIED BY と EXTERNALLY を両方指定することはできません。

原因：ユーザーは、パスワード所有の有無を指定できません。

処置：これらのオプションのどちらか一方を指定してください。

ORA-01943 IDENTIFIED BY はすでに指定されています。

原因：IDENTIFIED 句が、2 度指定されています。

処置：IDENTIFIED BY 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01944 IDENTIFIED EXTERNALLY はすでに指定されています。

原因：IDENTIFIED EXTERNALLY 句が、2 度指定されています。

処置：IDENTIFIED 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01945 DEFAULT ROLE はすでに指定されています。

原因：DEFAULT ROLES 句が、2 度指定されています。

処置：DEFAULT ROLE 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01946 DEFAULT TABLESPACE はすでに指定されています。

原因：DEFAULT TABLESPACE 句が、2 度指定されています。

処置：DEFAULT TABLESPACE 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01947 TEMPORARY TABLESPACE はすでに指定されています。

原因：TEMPORARY TABLESPACE 句が、2 度指定されています。

処置：TEMPORARY TABLESPACE 句を、1 度のみ使用してください。

ORA-01948 識別子名の長さ (*string*) が最大 (*string*) を超えています。

原因：長すぎる名前が指定されています。たとえば、dbms_session.is_role_enabled() の指定するロール名が長すぎます。

処置：正しい識別子を使用するように、アプリケーションまたはコマンドを変更してください。

ORA-01949 ROLE キーワードが必要です。

原因：ROLE キーワードがここで必要です。

処置：ROLE キーワードを指定してください。

ORA-01950 表領域 *string* に対する権限がありません。

原因：ユーザーには、指定された表領域でエクステンツを割り当てる権限がありません。

処置: ユーザーに適切なシステム権限を付与するか、表領域におけるスペース・リソースを付与してください。

ORA-01951 ロール *string* は *string* に付与されていません。

原因: 取り消そうとしたロールが、ユーザーに付与されていません。

処置: ユーザーに付与していない権限を取り消そうとしないでください。

ORA-01952 システム権限は *string* に付与されていません。

原因: 取り消そうとしたシステム権限が、ユーザーに付与されていません。

処置: 取り消そうとしている権限が付与されることを確認してください。

ORA-01953 コマンドは無効になりました。ALTER USER を使用してください。

原因: 表領域に対する割当て制限を与えるための構文が変更されました。機能を実行するために、ALTER USER コマンドを使用します。

処置: かわりに、ALTER USER コマンドを使用してください。

ORA-01954 CREATE USER では DEFAULT ROLE 句は無効です。

原因: DEFAULT ROLE を、CREATE USER に指定できません。

処置: ユーザーを作成した後に、DEFAULT ROLE を付与および変更してください。

ORA-01955 DEFAULT ROLE *string* はユーザーに付与されていません。

原因: ユーザーが持っていないロールを DEFAULT ROLE に設定しようとした。サブロールは DEFAULT ROLE 句では使用できないことに注意してください。

処置: ユーザーにロールを付与してください。

ORA-01956 OS_ROLES が使用されているためコマンドは無効です。

原因: このコマンドは、初期化パラメータ OS_ROLES が TRUE のときには使用できません。

処置: オペレーティング・システム内のユーザーにロールを付与してください。

ORA-01957 キーワード MIN または MAX がみつかりません。

原因: 引数としてキーワード MIN または MAX が必要です。

処置: キーワード MIN または MAX を入力して、操作を再試行してください。

ORA-01958 LAYER オプションには整数を指定してください。

原因: LAYER オプションに整数以外の項目が入力されました。

処置: LAYER オプションに整数を入力して、操作を再試行してください。

ORA-1959 OPCODE オプションには整数を指定してください。

原因: OPCODE オプションに整数以外の項目が入力されました。ALTER SYSTEM DUMP ... OPCODE *value* の *value* は整数である必要があります。

処置: OPCODE オプションに整数を入力して、操作を再試行してください。

OPCODE オプションの詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01960 ダンプ・ログファイル・オプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM DUMP LOGFILE オプションのコマンドに無効なオプションが入力されました。

処置: DUMP LOGFILE の有効なオプションのリストは、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01961 ダンプ・オプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM DUMP コマンドに無効なオプションが入力されました。

処置: ALTER SYSTEM DUMP に有効なオプションを入力してください。有効なオプションの例には、LOGFILE および UNDO があります。DUMP オプションの詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01962 ファイル番号またはログ順序番号を指定しなければなりません。

原因: 無効なファイル番号またはログ順序番号が指定されました。

処置: 有効なファイル番号またはログ順序番号を入力して、操作を再試行してください。有効なファイル番号およびログ順序番号の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01963 ブロック番号を指定しなければなりません。

原因: 無効なブロック番号が指定されました。

処置: 有効なブロック番号を入力して、操作を再試行してください。有効なブロック番号の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01964 TIME オプションに時間を指定しなければなりません。

原因: TIME オプションに、日付と解釈できない値が入力されました。

処置: 有効な日付を入力してください。TIME オプションの詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01965 PERIOD を指定しなければなりません。

原因: ファイル番号とブロック番号の間のピリオドが欠落しています。

処置: ファイル番号とブロック番号の間にピリオドを入力して、操作を再試行してください。ファイル番号およびブロック番号の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01967 CREATE CONTROLFILE のオプションが無効です。

原因: 無効な CREATE CONTROLFILE オプションが存在します。

処置: 有効な CREATE CONTROLFILE オプションのみ指定してください。

ORA-01968 RESETLOGS または NORESETLOGS は一度しか指定できません。

原因：複数の RESETLOGS または NORESETLOGS キーワードを指定しています。

処置：RESETLOGS または NORESETLOGS を 1 度のみ指定してください。

ORA-01969 RESETLOGS または NORESETLOGS を指定しなければなりません。

原因：RESETLOGS または NORESETLOGS が欠落しています。

処置：RESETLOGS または NORESETLOGS を 1 度のみ指定してください。

ORA-01970 CREATE CONTROLFILE ではデータベース名を指定しなければなりません。

原因：データベース名が欠落しています。

処置：DATABASE キーワードで、CREATE CONTROLFILE コマンドを再入力してください。

ORA-01971 ALTER TRACING オプションが無効です。

原因：無効な ALTER TRACING オプションが存在します。

処置：有効な ALTER TRACING オプションのみ指定してください。有効なオプションの例には、ENABLE および DISABLE があります。詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01972 ALTER TRACING ENABLE/DISABLE には文字列を指定しなければなりません。

原因：ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に有効な識別子以外が指定されました。

処置：ALTER TRACING ENABLE または DISABLE に有効な識別子を指定して、操作を再試行してください。有効な識別子の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-01973 変更番号がありません。

原因：キーワード CHANGE が見つかりましたが、変更番号が指定されていません。

処置：コマンド行を修正して、再実行してください。

ORA-01974 アーカイブ・オプションが無効です。

原因：ALTER SYSTEM ARCHIVE コマンドに無効なオプションが指定されました。

処置：コマンドの構文を調べて、再試行してください。

ORA-01975 変更番号 *string* 内の文字は無効です。

原因：無効な変更番号が指定されました。

処置：有効な変更番号を指定して、コマンドを再実行してください。

ORA-01976 変更番号がありません。

原因：必要な変更番号を指定していません。

処置：コマンドの構文を調べて必要な箇所に変更番号を指定してから、コマンドを再試行してください。

ORA-01977 スレッド番号がありません。

原因：キーワード THREAD が見つかりましたが、スレッド番号が指定されていません。

処置：コマンド行を修正して、再実行してください。

ORA-01978 順序番号がありません。

原因：キーワード SEQUENCE を指定しましたが、順序番号を指定していません。

処置：コマンド行を修正して、再実行してください。

ORA-01979 ロール *string* のパスワードが無効です。

原因：ロールを使用可能にしようとしたますが、正しいパスワードを入力しませんでした。

処置：SET ROLE コマンドで IDENTIFIED BY 句を使用して、正しいパスワードを指定してください。

ORA-01980 OS ROLE の初期化中にエラーが発生しました。

原因：ユーザーの OS ROLES をロード中、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：オペレーティング・システムのエラーを確認してください。

ORA-01981 この取り消しを実行するには CASCADE CONSTRAINTS を指定する必要があります。

原因：この取消し処理では、いくつかの外部キー制約が削除されます。これを自動的に実行するために、CASUCADE CONSTRAINTS を指定する必要があります。

処置：制約を削除するか、CASCADE CONSTRAINTS を指定してください。

ORA-01982 表に対する監査オプションが無効です。

原因：表に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、表に対しては不適切です。

処置：表に REFERENCES および EXECUTE オプションは使用できません。削除してください。

ORA-01983 DEFAULT に対する監査オプションが無効です。

原因：DEFAULT に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、DEFAULT に対しては不適切です。

処置：DEFAULT に使用できないオプション (REFERENCES) を削除してください。

ORA-01984 procedures/packages/functions に対する監査オプションが無効です。

原因: DEFAULT に対する AUDIT または NOAUDIT に指定してある監査オプションは、プロシージャ、パッケージまたはファンクションに対しては不適切です。

処置: プロシージャ、パッケージおよびファンクションに使用できないオプション (EXECUTE 以外すべて) を削除してください。

ORA-01985 LICENSE_MAX_USERS で指定された数を超えてユーザーを作成することはできません。

原因: データベース・ライセンス制限の最大ユーザー数を超えました。

処置: ライセンス制限を増やしてください。

ORA-01986 OPTIMIZER_GOAL のオプションが無効です。

原因: 無効な OPTIMIZER_GOAL オプションが存在します。

処置: OPTIMIZER_GOAL の構文を調べて、有効なオプションを指定し、文を再実行してください。

ORA-01987 クライアントの OS のユーザー名が長すぎます。

原因: クライアントのオペレーティング・システム・ユーザー名が長すぎて、OS ログインを続行できません。

処置: 省略したオペレーティング・システム・ユーザー名を使用してください。

ORA-01988 リモート OS ログオンはできません。

原因: リモートでオペレーティング・システムにログインしようとしたますが、これは許可されていません

処置: ローカル・クライアントを使用するか、REMOTE_OS_AUTHENT システム・パラメータを使用して、リモートでオペレーティング・システムへのログインができるようにしてください。

ORA-01989 ロール *string* はオペレーティング・システムで許可されていません。

原因: 指定されたオペレーティング・システムのロールが存在しないか、付与されていません。または、正しいパスワードが指定されていません。

処置: 有効なオペレーティング・システムのロール、または必要であればパスワードを使用して、SET ROLE を再試行してください。

ORA-01990 パスワード・ファイル *string* のオープン中にエラーが発生しました。

原因: 指定されたパスワード・ファイルをオープンしようとしたますが、次のエラーのどれかによって失敗しました。

- オペレーティング・システムのエラーが発生した。
- ORAPWD がすでに実行しているので、パスワード・ファイルがロックされている。

環境変数 ORA_sid_PWFILE および ORA_PWFILE が設定されていない。

処置: 前述の原因を調べて、必要な訂正を行ってください。

ORA-01991 パスワード・ファイル *string* が無効です。

原因: 指定されたパスワード・ファイル名は無効です。

処置: 正しいパスワード・ファイル名を指定してください。

ORA-01992 パスワード・ファイル *string* のクローズ中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムのエラーまたは認証処置の失敗のため、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。

処置: 前述の原因を調べて、必要な訂正を行ってください。

ORA-01993 パスワード・ファイル *string* の書込み中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムのエラーまたは認証処置の失敗のため、パスワード・ファイルを書き込めませんでした。

処置: 前述の原因を調べて、必要な訂正を行ってください。

ORA-01994 GRANT 失敗: パブリック・パスワード・ファイルにユーザーを追加できません。

原因: ユーザーがパスワード・ファイルに追加されなかったため権限付与に失敗しました。これは REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE 初期化パラメータの値が、SHARED に設定されているためです。

処置: パスワード・ファイルにユーザーを追加するには、データベースをいったん停止し、REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE 初期化パラメータを EXCLUSIVE に変更してから、データベースを再起動してください。

ORA-01995 パスワード・ファイル *string* の読み込み中にエラーが発生しました。

原因: パスワード・ファイルを読み込もうとしたときに、オペレーティング・システムのエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してください。

ORA-01996 GRANT 失敗: パスワード・ファイル *string* がいっぱいです。

原因: パスワード・ファイル中の使用可能なスロットがすでに使用されていたため、ユーザーをパスワード・ファイルに追加できず、権限付与に失敗しました。

処置: より大きなパスワード・ファイルを作成するか、いくつかのリモート・ユーザーから SYSOPER 権限および SYSDBA 権限を取り消してパスワード・ファイル中のスロットを開放してください。どのリモート・ユーザーが有効でどんな権限を持っているかは、SQL*DBA で次の問合せを発行して調べることができます。

```
SELECT * FROM V$REMOTE_USERS;
```

ORA-01997 GRANT 失敗: ユーザー *string* は外部で識別されています。

原因: IDENTIFIED EXTERNALLY 句で作成されたユーザーに SYSOPER 権限または SYSDBA 権限は付与できません。

処置: ユーザーに SYSOPER 権限または SYSDBA 権限を付与したい場合は、IDENTIFIED EXTERNALLY 句を使用せずに、いったんユーザーを削除してから再作成してください。

ORA-01998 REVOKE 失敗: ユーザー SYS は常に SYSOPER および SYSDBA を持っています。

原因: 必須の権限 SYSOPER または SYSDBA の 1 つをユーザー SYS から取り消そうとしました。これらの権限は取消しできません。

処置: この操作は行わないでください。

ORA-01999 パスワード・ファイル・モードは、*string* から *string* に変更されました。

原因: FORCE_PASSWORD_FILEMODE 初期化パラメータを使用して、別のインスタンスが起動されました。これは、現在のインスタンスの起動モードと互換性がありません。

処置: インスタンスを停止し、もう一方のインスタンス用にパスワード・ファイルの変更が完了した後に再起動してください。

ORA-02000 *string* キーワードがありません。

原因: 文で必須となるキーワードを指定しませんでした。

処置: 指定されたキーワードを使用してください。

ORA-02001 ユーザー SYS が空きリスト・グループの索引を作成することは許可されていません。

原因: SYS 権限で実行中に索引を作成しようとしてしました。

処置: 索引は、SYS 権限では作成できません。索引を作成しないか、USER 権限に切り替えてください。

ORA-02002 監査証跡への書込み中にエラーが発生しました。

原因: 監査機能は、AUDIT_TRAIL 表に書き込むことができません。このエラーが発生した場合、現在監査されている SQL 文は失敗します。このエラーは、SYSTEM 表領域が不足すると発生します。

処置: SYSTEM 表領域に領域を追加するか、AUDIT_TRAIL 表から行を削除してください。それでも失敗し、問題が解消されない場合は、Oracle をいったん停止し、監査を使用不可にしてから再起動してください。これは、初期化パラメータ AUDIT_TRAIL を FALSE に設定することによって実行できます。

ORA-02003 USERENV パラメータが無効です。

原因：USERENV 関数に指定したパラメータが無効です。

処置：有効なパラメータ (TERMINAL、SESSIONID、ENTRYID、NLS_LANG) のどれかを指定してください。

ORA-02004 セキュリティ違反です。

原因：ユーザーが適切な許可を得ずに、処理を行おうとしています。これは AUDIT_TRAIL 表に記録されます。このエラー・メッセージは AUDIT_TRAIL 表の戻りコード列にのみ出力されます。

処置：監査情報としてのみ使用されます。処置は必要ありません。

ORA-02005 このバインド / データ型定義に対して暗黙の長さ (-1) は無効です。

原因：定義変数に対して負の長さが定義関数に渡されました。

処置：ゼロまたは正の長さパラメータを明示的に渡す必要があります。

ORA-02006 パック 10 進形式文字列が無効です。

原因：パック 10 進データ型がバインドまたは定義関数に渡されたが、形式文字列パラメータがないか、無効でした。

処置：パック 10 進変数に対して有効な形式文字列パラメータを渡す必要があります。パック 10 進形式文字列の定義については、「プログラミング・マニュアル」を参照してください。

ORA-02007 ALLOCATE または DEALLOCATE オプションを REBUILD とともに使用できません。

原因：ALLOCATE STORAGE または DEALLOCATE STORAGE と、REBUILD INDEX は同時に使用できません。

処置：いずれかを選択してください。

ORA-02008 非数値列に対してゼロ以外の位取りが指定されました。

原因：非数値変数のバインドまたは定義に対して位取り因子が指定されました。

処置：位取り因子をゼロに設定して、操作を再試行してください。

ORA-02009 ファイルのサイズには 0 を指定できません。

原因：ファイル指定の SIZE 句または RESIZE 句で、0 の値が指定されました。

処置：正しい構文を使用するか、SIZE 句または RESIZE 句を省略してください。

ORA-02010 ホスト接続文字列がありません。

原因：CREATE DATABASE LINK 文の USING 句のキーワード USING の後に引用符付き文字列が指定されていません。

処置：ホスト接続文字列を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02011 データベース・リンク名が重複しています。

原因: CREATE DATABASE LINK 文で指定されたデータベース・リンク名はすでに存在します。

処置: 新しい名前を指定するか、既存のリンクを削除してください。

ORA-02012 USING キーワードがありません。

原因: CREATE DATABASE LINK 文の CONNECT TO 句の後にキーワード USING が指定されていません。

処置: CONNECT TO 句の後に USING 句を指定してください。

ORA-02013 CONNECT キーワードがありません。

原因: CREATE DATABASE LINK 文のデータベース・リンク名の後にキーワード CONNECT が指定されていません。

処置: データベース・リンク名の後に CONNECT 句を指定してください。

ORA-02014 DISTINCT, GROUP BY などを含むビューに対して FOR UPDATE 句を使用できません。

原因: ビューから SELECT...FOR UPDATE を試みましたが、そのビューの定義 SELECT 文には、その外部ブロック中の要素（外部結合、GROUP BY 句、グループ関数、SELECT DISTINCT、CONNECT BY 句、または UNION、INTERSECT、MINUS などの集合演算）が少なくとも 1 つ使用されています。

処置: このビューでは SELECT...FOR UPDATE を使用しないでください。

ORA-02015 リモート表に対して FOR UPDATE 句は使用できません。

原因: リモート・データベースの表から SELECT...FOR UPDATE を作成しようとした。

処置: 現在のところ、リモート・データベースの表から SECECT...FOR UPDATE を実行することはできません。そのかわりに、その表に対して SELECT...FOR UPDATE を実行する前に、直接リモート・データベースにログインまたは接続してください。

ORA-02016 リモート・データベースでは START WITH 句で副問合せは使用できません。

原因: START WITH 句に副問合せを使用しようとした。ツリー構造の問合せの FROM 句の表がリモート・データベースに格納されている場合、現行では、この種の副問合せは実行できません。

処置: リモート・データベースに直接接続してから、START WITH 句の副問合せを使用してください。

ORA-02017 整数値が必要です。

原因: 指定する値が、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02018 同じ名前のデータベース・リンクがオープン接続されています。

原因: ユーザーが現在接続している PUBLIC データベース・リンクは、CREATE または DROP DATABASE LINK 文に指定されているデータベース・リンク名と同じ名前です。

処置: その PUBLIC データベース・リンクを使用するカーソルをクローズしてください。

ORA-02019 指定されたデータベース・リンクは存在しません。

原因: 存在しないリモート・データベースに対して接続またはログインしようとした。

処置: 既存のデータベース・リンクを指定してください。データ・ディクショナリに問い合せて、既存のデータベース・リンクをすべて調べてください。有効な接続記述子については、オペレーティング・システム固有の Net8 ドキュメントを参照してください。

ORA-02020 使用中のデータベース・リンクが多すぎます。

原因: カレント・セッションが、INIT.ORA OPEN_LINKS の最大値を超えました。

処置: OPEN_LINKS の制限を増加するか、トランザクションをコミットまたはロールバックし、リモート・データベースを参照するオープン・カーソルをキャンセルして、オープン・リンクのいくつかを解放してください。

ORA-02021 リモート・データベースに対する DDL 操作が無効です。

原因: リモート・データベースに対して DDL 操作を行おうとしました（たとえば、「CREATE TABLE tablename@remotedbname...」など）。

処置: リモート・データベース構造を変更するためには、適切な権限でリモート・データベースに接続してください。

ORA-02022 リモート文に、リモート・オブジェクトを参照する最適化されていないビューがあります。

原因: ローカル・ビューは最適化されていない上、リモート・データベース・オブジェクトを参照しています。そして、その文はリモート・データベースで実行されるようになっています。

処置: リモート・データベース上で同様のビューを作成し、新規の view@remote を使用して SQL 文内の違反しているビューを変更してください。

ORA-02023 リモート・データベースが START WITH,CONNECT BY 述語を評価できません。

原因: 文にはリモート・データベースに対するツリー構造の問合せが含まれており、そのツリー構造の問合せの START WITH または CONNECT BY 述語に、リモート・データベースで評価できない項目が含まれています。こうした項目には、ユーザー・ファンクションに対するコール、USERENV に対するコール、ROWID に対する参照が含まれます。

処置: 使用不可の項目を削除するか、リモート・データベースに直接接続またはログインしてください。

ORA-02024 データベース・リンクが見つかりません。

原因: 削除するデータベース・リンクがディクショナリ内にありません。

処置: データベース・リンク名を訂正してください。

ORA-02025 SQL 文の中の表はすべてリモート・データベースになければなりません。

原因: SQL 文は複数のデータベースの表を参照していますが、リモート・データベースのうち 1 つ以上が Oracle Server ではありません。

処置: リモート更新は、SQL 文の中のデータベースがすべて Oracle Server の場合のみ、実行できます。前のバージョンのデータベースは個々の文で更新してください。

ORA-02026 LINK キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-02027 LONG 列を複数行にわたって更新することはできません。

原因: 列の更新に 4000 バイトを超える長さのバインド変数を使用されており、UPDATE 文が複数の行を更新しています。

処置: このバインド変数を使用して単一行のみ更新できます。

ORA-02028 正確な数の行の取出しはサーバーではサポートされていません。

原因: サーバーは UPIALL をサポートしていません。したがって、正確な行数の取出しをユーザー側でエミュレートすることはできません。

処置: 有効なサーバーに接続するか、または正確な取出しを使用しないでください。

ORA-02029 FILE キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-02030 固定表 / 固定ビューでは選択のみ可能です。

原因: 固定表 / 固定ビューで、検索以外の操作を実行しようとしています。

処置: 固定表 / 固定ビューで、行の選択のみ実行できます。

ORA-02031 固定表または索引付き編成表に対する ROWID はありません。

原因: 固定表または索引構成表から ROWID にアクセスしようとしています。

処置: 固定表または索引構成表から ROWID をアクセスしないでください。

ORA-02032 クラスタ索引の作成前にクラスタ表は使用できません。

原因: ユーザーが、クラスタ索引が作成されていないクラスタ表に対して DML 操作を実行しようとしていました。

処置: クラスタ索引を作成してください。

ORA-02033 このクラスタに対してすでにクラスタ索引が存在しています。

原因：クラスタ索引はすでに存在しています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-02034 スピード・バインドは許可されていません。

原因：スピード・バインドはバインド変数で許可されていません。システムが内部検出しました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-02035 バンドル操作の組合せが無効です。

原因：UPI バンドル実行コールが不適切な組合せの操作を実行するよう要求されました。

処置：正しい操作の組合せを使用して再試行してください。

ORA-02036 自動カーソル・オープンが記述されている変数が多すぎます。

原因：UPI バンドル実行コールが、記述されている操作に対して、自動のカーソル・オープンとクローズの実行を要求しました。ただし、SELECT リスト項目またはバインド変数が多すぎて、これを実行できません。

処置：明示的にカーソルをオープンおよびクローズしてください。

ORA-02037 スピード・バインド記憶領域が初期化されてません。

原因：スピード・バインド・コールを実行する前に、ホスト変数を含む SQL 文のスピード実行コールを実行しようとしてしました。

処置：スピード実行コールの実行の前に、スピード・バインド・コールを実行してください。

ORA-02038 ベクトル・オブジェクトは定義できません。

原因：「配列」型の選択リスト変数を定義しようとしてしました。配列は、ホスト・バインド変数としてのみ機能します。

処置：違反しているコードを訂正してください。

ORA-02039 ベクトル・オブジェクトの値によるバインドは使用できません。

原因：配列ホスト変数を値でバインドしようとしてしました。配列は、参照でのみバインドできます。

処置：違反しているコードを訂正してください。

ORA-02040 リモート・データベース *string* は 2 フェーズ・コミットをサポートしていません。

原因：複数のデータベースを分散更新しようとしてしましたが、指定されたデータベースは 2 フェーズ・コミットの準備フェーズをサポートしていません。これはそのログイン・

トランザクション特性によって決まっています。トランザクションがロールバックされました。

処置: 指定したデータベースが、トランザクションで更新する唯一のデータベースでない限り、更新しないようにしてください。単一トランザクション内での複数データベースの分散更新は、すべてのデータベースが2 フェーズ・コミット機構をサポートしている場合にのみ実行できます。

ORA-02041 クライアント・データベースはトランザクションを開始しませんでした。

原因: コーディネータが分散トランザクションを開始しないまま、調整されたデータベースで更新が起きました。ストアド・プロシージャがコミットしてから更新を行った場合、およびストアド・プロシージャをリモートで起動した場合、これが発生することがあります。外部トランザクション・モニターがXA プロトコルを侵した場合もこれが発生することがあります。

処置: 前者が原因の場合、どのコミットの後にも更新が行われていないことを確認してください。

ORA-02042 分散トランザクションが多すぎます。

原因: 実行中の分散トランザクションが多すぎるため、分散トランザクション表がいっぱいになりました。

処置: 初期化パラメータ・ファイルの DISTRIBUTED_TRANSACTIONS パラメータの値を大きくし、Oracle をいったん停止してから再起動してください。または、実行するトランザクションを少なくしてください。同時実行の分散トランザクションが少ないことが確認された場合は、内部エラーが発生している可能性がありますので、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。インスタンスをいったん停止してから再起動すると問題が解決する可能性があります。

ORA-02043 *string* を実行する前に、現行トランザクションを終了させてください。

原因: トランザクションの実行中に、COMMIT FORCE、ROLLBACK FORCE、シングル・プロセス・モードでの ALTER SYSTEM ENABLE DISTRIBUTED RECOVERY コマンドのどれかが発行されました。

処置: カレント・トランザクションを COMMIT または ROLLBACK してからコマンドを再試行してください。

ORA-02044 トランザクションが進行中なのでトランザクション・マネージャのログインは拒否されました。

原因: 分散トランザクションの処理中にリモート・トランザクション・マネージャがログインしようとしてしました。リモート・トランザクション・マネージャでプロトコル・エラーが発生しました。

処置: カレント・トランザクションを終了してください。

ORA-02045 グローバル・トランザクションに関わるローカル・セッションが多すぎます。

原因: このサイトでは、セッションが多すぎるため、このトランザクションを保存できません。

処置: リモート・サイトで別のセッションを作成する必要があるようにするため、既存のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-02046 分散トランザクションはすでに開始しています。

原因: 通常は発生しない内部エラーです。サーバー・セッションは、先の分散トランザクションを終了する前に BEGIN_TRAN リモート・プロシージャ・コール (RPC) を受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02047 動作中の分散トランザクションは結合できません。

原因: これは、Oracle バージョン 6 および Oracle7 データベースを同じトランザクションで更新しようとした場合に限り発生することがあります。その理由は次のどちらかです。

- トランザクションが 2 フェーズ・コミットをサポートしていないリモート・データベースに対して動作中である。
- 更新が保留中であり、2 フェーズ・コミットをサポートしていない別のデータベースを更新しようとした。

処置: カレント・トランザクションを完了してから、エラーの原因に対して必要な処置を行ってください。

ORA-02048 ログオンしないで分散トランザクションを開始しようとしてしました。

原因: クライアント・プログラムは分散トランザクションのログインを実行しませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02049 Timeout: 分散トランザクションがロックを待機しています。

原因: ロックの待機が INIT.ORA の DISTRIBUTED_LOCK_TIMEOUT 秒を超えました。

処置: デッドロックとして処理してください。

ORA-02050 リモート・データベースで障害が発生したためトランザクション *string* はロールバックされました。

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

処置: 障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期します。

ORA-02051 同一トランザクション内の別セッションでエラーが発生しました。

原因: 同一サイトにおいて同じグローバル・トランザクション ID を持つセッションでエラーが発生しました。

処置: 処置は必要はありません。このトランザクションは自動的にリカバリされます。

ORA-02052 *string* においてリモート・トランザクション・エラーが発生しました。

原因: 指定されたデータベース・リンクにおいてリモート・トランザクション・エラーが発生しました。

処置: 詳しいエラー・メッセージが続いて表示されます。このメッセージで示されている問題を訂正し、操作を再試行してください。

ORA-02053 リモート DB で障害が発生したためトランザクション *string* はコミットしました。

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

処置: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期化されます。

ORA-02054 トランザクション *string* の状態が不明です。

原因: 2 フェーズ・コミット機構において、ネットワーク障害またはリモート障害が発生しました。

処置: データベース管理者に連絡してください。障害が解決されると、リモート・データベースは自動的に再同期化されます。必要であれば結果として DBA_2PC_PENDING 表を監視し、トランザクションを再実行してください。

ORA-02055 分散更新操作でエラーが発生しました。ロールバックが必要です。

原因: 分散更新操作において、その操作結果をすべてロールバックしないうちに障害が発生しました。一貫性のないサイトが存在する可能性もあるため、このトランザクションをセーブポイントまでロールバックするか、または全体をロールバックする必要があります。

処置: セーブポイントまでロールバックするか、またはトランザクション全体をロールバックしてから、ロールバックされた文を再実行してください。

ORA-02056 2PC: *string*: 2 フェーズ・コマンド番号: *string* (*string*) が無効です。

原因: 2 フェーズ・コミットのプロトコル・エラーです。

処置: このトランザクションは自動的にリカバリされます。DBA_2PC_PENDING 表を監視して、問題を解明してください。必要であればトランザクションを再入力してください。必要であれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02057 2PC: *string*: 2 フェーズリカバリ状態番号: *string* (*string*) が無効です。

原因: 2 フェーズ・リカバリ・プロトコルに内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02058 ID *string* を持つ準備完了状態のトランザクションがありません。

原因: PENDING_TRANS\$ 表に LOCAL_TRAN_ID または GLOBAL_TRAN_ID を持つ、準備完了状態のトランザクションがありません。

処置: PENDING_TRANS\$ 表を確認してください。

ORA-02059 コミット・コメントに ORA-2PC-CRASH-TEST-string が含まれています。

原因: 2 フェーズ・コミットをテストするために使用される特別なコメントです。

処置: この特別なコメントは使用しないでください (*string1* から 10 の数値)。

ORA-02060 SELECT...FOR UPDATE で分散している表の結合を指定しました。

原因: SELECT...FOR UPDATE 文の中で、異なるリモート・データベースの表を結合しようとした。

処置: SELECT 文で FOR UPDATE 句を使用して結合する表は、同一データベースに存在しなければなりません。SELECT...FOR UPDATE 文を簡潔にし、同一データベースの表のみを結合してください。

ORA-02061 LOCK TABLE に分散している表を指定しました。

原因: LOCK TABLE 文では同一データベースに存在する表を指定する必要があります。

処置: LOCK TABLE コマンドを複数発行してください。

ORA-02062 分散リカバリで DBID string を受け取りました。string が必要です。

原因: コーディネータ・ポイントのデータベース・リンクが目的のデータベースを指していません。リンクが再定義されたか、異なるデータベースがマウントされている可能性があります。

処置: リンクの定義またはリモート・データベースをリストアしてください。

ORA-02063 先行のエラー・メッセージを参照してください stringstring (stringstring)。

原因: リモート・データベース・リンクの Oracle エラーです。

処置: 先行のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-02064 分散処理はサポートされていません。

原因: 次のサポートされていない操作の 1 つを行おうとした。

- データベース・リンクを参照する副問合せを使用してリモート更新の配列処理を実行しようとした。
- バインド変数を使用した LONG 列の更新、およびデータベース・リンクとバインド変数の両方を参照する副問合せによる 2 番目の列の更新を行おうとした。
- コーディネイトセッションで OUT パラメータを使用するリモート・プロシージャ・コール (RPC) からコミットが発行された。

処置: リモート更新文を単純にしてください。

ORA-02065 ALTER SYSTEM のオプションが無効です。

原因: ALTER SYSTEM にサポートされていないオプションを指定しました。

処置: サポートされているオプションの詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02066 MTS_DISPATCHERS テキストがないか、または無効です。

原因: ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS の後に必要な文字列が必要ですが、見つかりませんでした。

処置: ALTER SYSTEM SET MTS_DISPATCHERS の後に、ディスパッチャ指定を含む文字列を指定してください。

ORA-02067 トランザクションまたはセーブポイントのロールバックが必要です。

原因: 複数のリモート更新を実行するトリガーまたはストアド・プロシージャで、前の Oracle コールでは保証できないような障害が発生しました。

処置: セーブポイントまでロールバックするか、トランザクションをロールバックして、再実行してください。

ORA-02068 stringstring で重大なエラーが発生しました。

原因: 指定されたデータベース・リンクから重大なエラー（接続の切断、または致命的な Oracle エラー）を受け取りました。続いて表示されるエラー・テキストを参照してください。

処置: リモート・システム管理者に連絡してください。

ORA-02069 この操作を行なうには、global_names パラメータを TRUE に設定しなければなりません。

原因: 文のリモート・マッピングが必要ですが、GLOBAL_NAMES が TRUE に設定されなければならないため実行できません。

処置: 可能であれば、ALTER SESSION SET GLOBAL_NAMES=TRUE を発行してください。

ORA-02070 データベース stringstring はこのコンテキストでは string をサポートしません。

原因: リモート・データベースは、使用されているコンテキストにおいて指定された機能をサポートしていません。

処置: SQL 文を単純にしてください。

ORA-02071 リモート・データベース string の機能の初期化でエラーが発生しました。

原因: リモートが指定した機能表をロードできませんでした。

処置: リモート SQL*Connect 製品に関して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02072 分散データベース・ネットワーク・プロトコルが一致しません。

原因: このエラーは、Oracle の異なる PRODUCTION リリース間では発生しませんが、アルファ・リリース、ベータ・リリース間で発生することがあります。

処置: 古いリリースをアップグレードしてください。

ORA-02073 リモート更新では順序番号はサポートされません。

原因：リモート表の INSERT、UPDATES、または DELETES で順序番号は使用できません。

処置：順序番号を指定しないで操作を実行してください。

ORA-02074 分散トランザクションでは、string は実行できません。

原因：分散トランザクションの親セッション以外のセッションから、コミットまたはロールバックをコミットしようとしてしました。

処置：親セッションからのみコミットまたはロールバックしてください。

ORA-02075 別のインスタンスによりトランザクション string の状態が変更されました。

原因：別のインスタンスでのセッションから、強制コミットまたは強制ロールバックが発行されました。

処置：Oracle の別のインスタンスが、保留トランザクションのリカバリを実行しているか確認してください。DBA_2PC_PENDING に問い合わせ、トランザクションの現在の状態を判断してください。

ORA-02076 順序が更新される表または LONG 列と同一ノードにありません。

原因：すべての参照される順序は、更新される表または LONG 列と同一ノードに位置しなければなりません。

処置：問題を訂正してから文を再発行してください。

ORA-02077 LONG 列は同一ノード上の表から選択しなければなりません。

原因：SELECT 文で LONG 列の値を返す表はすべて同一ノードに位置する必要があります。

処置：問題を訂正してから文を再発行してください。

ORA-02078 ALTER SYSTEM FIXED_DATE の設定が無効です。

原因：無効な値が使用されました。

処置：正しい値を使用してください。

ORA-02079 新しいセッションはコミット分散トランザクションに結合しません。

原因：他のブランチでコミットを開始しているトランザクションのセッションで UP12BG の呼出しが発行されました。すなわち、他のセッションで同じトランザクションのブランチに UP12EN コールが発生しています。これは外部トランザクション・マネージャを使用している時にのみ起こります。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02080 データベース・リンクは使用中です。

原因: ALTER SESSION CLOSE DATABASE LINK の *link* コマンドで指定されたデータベース・リンクで、トランザクションがアクティブであるか、またはカーソルがオープンしています。

処置: コミットまたはロールバックして、カーソルすべてをクローズしてください。

ORA-02081 データベース・リンクがオープンしていません。

原因: 現在オープンされていないデータベース・リンクを使用しようとしてしました。

処置: ネットワークの問題を解決するか、リモート・データベースの問題が解決されているかどうかを判断するためにリモート・データベース管理者に連絡してください。ネットワーク問題が解決済かどうかは、ローカル・データベース管理者に問い合わせてください。リンクがオープンしてから再度操作を行ってください。

ORA-02082 ループバック・データベース・リンクには接続修飾子が必要です。

原因: カレント・データベースと同じ名前のデータベース・リンクを作成しようとしてしました。

処置: このデータベース・リンクには、名前を一意にするための後続の修飾子が必要です。これらの修飾子はオペレーティング・システムに固有なものです。データベース・リンクの作成の詳細は、使用しているオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-02083 データベース名に無効な文字 *string* が含まれています。

原因: 指定されたデータベース名には無効な文字が含まれています。たとえば、データベース名には、ピリオド、セミコロン、引用符、二重引用符、ブランク、印字できない文字を含めることはできません。命名規則の詳細は、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

処置: 有効なデータベース名を指定してください。

ORA-02084 データベース名が無効です。

原因: 完全なデータベース名が指定されませんでした。

処置: 完全なデータベース名を指定してください。

ORA-02085 データベース・リンク *string* は *string* に接続します。

原因: データベース・リンクは、リンク名とは別の名前のデータベースに接続しようとしてしました。データベース・リンク名はそのデータベース名と同じ名前であればなりません。

処置: 接続するデータベースと同じ名前のデータベース・リンクを作成してください。

ORA-02086 データベース名またはデータベース・リンク名が長すぎます。

原因: データベース名またはデータベース・リンク名が長すぎます。データベース名とデータベース・リンク名は 128 文字以内で指定します。

処置: 正しいデータベース名またはデータベース・リンク名を指定するか、文字数を少なくして名前を指定してください。

ORA-02087 オブジェクトは同一トランザクション内の別プロセスがロックしています。

原因: パラレル・サーバー環境において、同一インスタンスをループバックするデータベース・リンクが使用されています。あるセッションが、別のセッションが取得したロックを変換しようとしています。

処置: より制限的なロックを最初に取得してください。たとえば、同じオブジェクトでセッション 1 が共有ロックを取得し、セッション 2 が排他ロックを取得する場合、最初に排他ロックを取得してください。そうでなければ、オブジェクトをアクセスするために同じセッションを使用してください。

ORA-02088 分散データベース・オプションがインストールされていません。

原因: 分散データベース・オプションがインストールされていません。したがって、要求した操作は実行できません。

処置: 分散データベース・オプションの取得については、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02089 下位セッションに COMMIT は使用できません。

原因: 2 フェーズ・コミット・グローバル・コーディネータでないセッションで COMMIT が発行されました。

処置: COMMIT はグローバル・コーディネータでのみ発行してください。

ORA-02090 ネットワーク・エラー: コールバック + パススル (callback+passthru) が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02091 トランザクションがロールバックされました。

原因: 分散トランザクションがシステム・ロールバック・セグメントに割り当てられ、準備段階に入ろうとしました。ただし、必要な数の PREPARE でないスロットが得られないのでトランザクションがロールバックされました。

トランザクションがリモートサイトで異常終了した場合、ORA-02091 だけが表示されます。トランザクションがホストで異常終了した場合、ORA-02091 と ORA-02092 の両方が表示されます。

処置: カレント・トランザクションを完了してから、必要な操作を実行してください。

ORA-02092 分散トランザクションのトランザクション表スロットが不足しています。

原因: 分散トランザクションがシステム・ロールバック・セグメントに割り当てられ、PREPARED 状態に入ろうとしました。ただし、必要な数の PREPARE でないスロットが得られないのでトランザクションがロールバックされました。

処置: ロールバック・セグメントを追加して、トランザクションを再試行してください。

ORA-02093 TRANSACTIONS_PER_ROLLBACK_SEGMENT *string* が最大可能数 *string* を超えました。

原因: パラメータで指定した値がこのポートで可能な最大値を超えています。

処置: デフォルト値を使用するか、最大可能数より小さな値にしてください。

ORA-02094 複製オプションがインストールされていません。

原因: このサイトには、レプリケーション・オプションがインストールされていません。したがって、更新可能スナップショット、遅延 RPC などのレプリケーション機能は使用できません。

処置: レプリケーション・オプションをインストールしてください。レプリケーション・オプションは、Oracle Server 製品の一部ではないので、別個に購入しなくてはなりません。レプリケーション・オプションを購入する必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02095 指定した初期化パラメータを変更できません。

原因: 指定された初期化パラメータは、このオプションでは変更できません。

処置: 『Oracle8i 管理者ガイド』を参照して、パラメータの変更可能範囲を確認してください。

初期化パラメータ変更の詳細は、『Oracle8i リファレンス・マニュアル』を参照してください。

ORA-02096 指定した初期化パラメータはこのオプションでは修正できません。

原因: 初期化パラメータの変更は可能ですが、指定されたコマンドを使用しての変更はできません。

処置: 『Oracle8i 管理者ガイド』を参照して、パラメータの変更可能範囲を確認してください。

ORA-02097 指定した値が無効なので、パラメータを変更できません。

原因: 初期化パラメータの変更は可能ですが、変更された値はパラメータには使用できません。

処置: 『Oracle8i 管理者ガイド』を参照して、このパラメータの許容値の範囲を確認してください。

ORA-02098 索引表参照 (:I) の解析でエラーが発生しました。

原因: 不適切な索引表 (:I) 構文があります。

処置: これは Oracle が内部だけで使用する構文です。

ORA-02100 ～ ORA-04099

ORA-02100 PCC: メモリー不足のためメモリーが割り当てられません。

原因: SQLLIB がプログラムを実行するために十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: ユーザー・プロセス用により多くのメモリーを割り当ててください。その後、プログラムを再実行してください。繰り返しエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

ORA-02101 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。ユニット・カーソル/グローバル・カーソルが一致しません。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02102 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・キャッシュ・エントリがありません。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02103 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。カーソル・キャッシュ参照の範囲を超えています。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02104 PCC: 無効なホスト・キャッシュです。使用可能なカーソル・キャッシュがありません。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02105 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・カーソルがありません。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02106 PCC: 無効なカーソル・キャッシュです。Oracle カーソル番号が無効です。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02107 実行時ライブラリに対してプログラムが古すぎます。プログラムを再度プリコンパイルしてください。

原因: プログラムがこのリリースの SQLLIB と互換性のない古いバージョンの Oracle プリコンパイラでプリコンパイルされています。

処置: より新しいバージョンの Oracle プリコンパイラを使用してこのプログラムをプリコンパイルしてください。

ORA-02108 PCC: 実行時ライブラリに無効な記述子が渡されました。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02109 PCC: 無効なホスト・キャッシュです。ホスト参照が範囲外です。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02110 PCC: ホスト・キャッシュが無効です。ホスト・キャッシュ・エントリの型が無効です。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02111 PCC: ヒープ一貫性エラーが発生しました。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列バインド違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

ORA-02112 PCC: SELECT...INTO が戻す行が多すぎます。

原因：SELECT ...INTO 文が、指定したホスト変数に格納できる行数よりも多くの行を戻しました。

処置：3つの解決方法が考えられます。

1. プリコンパイラ・オプション SELECT_ERROR=NO を使用する。
2. より大きな配列次元のホスト変数を宣言する。
3. SELECT 文のカーソルまたはカーソル変数を宣言する。

ORA-02140 表領域名が無効です。

原因：ALTER TABLESPACE の後に識別子がありません。

処置：ALTER TABLESPACE の後に表領域名を指定してください。

ORA-02141 OFFLINE オプションが無効です。

原因：OFFLINE の後に NORMAL または IMMEDIATE 以外のオプションが指定されています。

処置：OFFLINE の後には、オプションを指定しないか、NORMAL または IMMEDIATE のいずれか1つを指定してください。

ORA-02142 ALTER TABLESPACE オプションがないか、または無効です。

原因：有効なオプションがありません。

処置：ADD、RENAME、DEFAULT、ONLINE、OFFLINE、READ ONLY、READ WRITE、BEGIN、END などの有効なオプションを1つ使用してください。

ORA-02143 STORAGE オプションが無効です。

原因：INITIAL、NEXT、MINEXTENTS、MAXEXTENTS または PCTINCREASE 以外のオプションが、STORAGE 句で指定されました。

処置：有効なオプションのみを指定してください。

ORA-02144 ALTER CLUSTER にオプションが指定されていません。

原因：ALTER CLUSTER オプションが指定されていません。

処置：PCTFREE、PCTUSED、SIZE、STORAGE などのオプションを1つ以上指定してください。

ORA-02145 STORAGE オプションがありません。

原因：STORAGE (string) のように STORAGE オプションが指定されていません。

処置：カッコ内に STORAGE オプションを1つ以上指定してください。

ORA-02146 SHARED の指定が重複しています。

原因：CREATE DATABASE 文に SHARED オプションが複数回指定されました。

処置：SHARED オプションを 1 つのみ指定してください。

ORA-02147 SHARED と EXCLUSIVE のオプションは混在できません。

原因：CREATE DATABASE 文に SHARED と EXCLUSIVE のオプションが両方指定されています。

処置：SHARED または EXCLUSIVE の一方のみを指定してください。

ORA-02148 EXCLUSIVE の指定が重複しています。

原因：CREATE DATABASE 文に EXCLUSIVE オプションが複数回指定されました。

処置：EXCLUSIVE オプションを 1 度のみ指定してください。

ORA-02149 指定されたパーティションが存在しません。

原因：オブジェクトのパーティションが見つかりません。

処置：正しいパーティション名を使用して再試行してください。

ORA-02153 VALUES 句の後のパスワード文字列が正しくありません。

原因：VALUES 句の後に暗号化パスワード文字列が入力されていません。

処置：VALUES 句の後に正しい暗号化パスワード文字列を入力してください。

ORA-02155 DEFAULT の表領域識別子が無効です。

原因：DEFAULT TABLESPACE の後に識別子がありません。

処置：DEFAULT TABLESPACE の後に表領域名を指定してください。

ORA-02156 TEMPORARY の表領域識別子が無効です。

原因：TEMPORARY TABLESPACE の後に識別子がありません。

処置：TEMPORARY TABLESPACE の後に表領域名を指定してください。

ORA-02157 ALTER USER オプションが指定されていません。

原因：オプションの指定がありません。

処置：ALTER USER オプションを少なくとも 1 つ指定してください。

ORA-02158 CREATE INDEX オプションが無効です。

原因：COMPRESS、NOCOMPRESS、PCTFREE、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、TABLESPACE、PARALLEL、NOPARALLEL、RECOVERABLE、UNRECOVERABLE、LOGGING、NOLOGGING、LOCAL または GLOBAL 以外のオプションが指定されています。

処置：有効な CREATE INDEX オプションの 1 つを選択してください。

ORA-02159 インストール済みの DLM は解放可能ロック・モードをサポートしません。

原因: GC_*PARAMETERS がパラメータ・ファイルで指定されました。これは、使用していないロックを LCK プロセスで解放できるようにします。このモードは DLM の追加サポートが必要ですが、DLM は使用できません。

処置: 追加機能を必要としない構成パラメータを指定してください。

ORA-02160 索引構成表に LONG 型の列は組み込みません。

原因: 索引構成表に定義された LONG 型の列です。

処置: 索引構成表に LONG 型の列を使用しないでください。

ORA-02161 MAXLOGFILES に対する値が無効です。

原因: MAXLOGFILES の後に数値が指定されていません。

処置: MAXLOGFILES の後に数値を指定してください。

ORA-02162 MAXDATAFILES に対する値が無効です。

原因: MAXDATAFILES の後に数値が指定されていません。

処置: MAXDATAFILES の後に数値を指定してください。

ORA-02163 FREELIST GROUPS に対する値が無効です。

原因: FREELIST GROUPS の後に数値が指定されていません。

処置: FREELIST GROUPS の後に数値を指定してください。

ORA-02164 DATAFILE 句が 2 つ以上指定されています。

原因: CREATE DATABASE コマンドに 2 つ以上の DATAFILE 句が指定されています。

処置: DATAFILE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02165 CREATE DATABASE に対するオプションの指定が無効です。

原因: 無効な CREATE DATABASE オプションがあります。

処置: 有効な CREATE DATABASE オプションのみを指定してください。

ORA-02166 ARCHIVELOG と NOARCHIVELOG が両方指定されています。

原因: CREATE DATABASE 文に ARCHIVELOG と NOARCHIVELOG の両方が指定されています。

処置: これら 2 つのオプションのうち 1 つのみを指定してください。

ORA-02167 LOGFILE 句が 2 つ以上指定されています。

原因: CREATE DATABASE コマンドに 2 つ以上の LOGFILE 句が指定されています。

処置: LOGFILE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02168 FREELISTS の値が無効です。

原因：FREELISTS の後に数値が指定されていません。

処置：FREELISTS の後に数値を指定してください。

ORA-02169 FREELISTS 記憶領域オプションは使用できません。

原因：FREELISTS 記憶領域オプションを指定しようとしてしました。このオプションは、表作成または索引作成中にのみ指定できます。

処置：これらのオプションを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02170 FREELISTS GROUPS 記憶領域オプションは使用できません。

原因：FREELIST GROUPS 記憶領域オプションを指定しようとしてしました。このオプションは、CREATE TABLE コマンドを使用している場合と、初期化パラメータ・ファイルに ALLOW_FREELIST_GROUPS パラメータが指定されている場合にのみ指定できます。

処置：FREELIST GROUPS 記憶領域オプションなしで文を再試行するか、初期化パラメータ・ファイル内の ALLOW_FREELIST_GROUPS パラメータを設定してください。

ORA-02171 MAXLOGHISTORY の値が無効です。

原因：MAXLOGHISTORY の後に数値が指定されていません。

処置：MAXLOGHISTORY の後に数値を指定してください。

ORA-02172 使用不能のスレッドに対して PUBLIC キーワードは無効です。

原因：PUBLIC キーワードが使用不能に指定されています。

処置：キーワードを削除して再発行してください。

ORA-02173 DROP TABLESPACE のオプションが無効です。

原因：表領域名の後に INCLUDING 以外のトークンが指定されていたか、INCLUDING CONTENTS の後にテキストが指定されています。

処置：表領域の後には何も指定しないか、INCLUDING CONTENTS のみを指定してください。

ORA-02174 必須のスレッド番号がありません。

原因：THREAD キーワードの後にスレッド番号を指定する必要があります。

処置：正しい構文を使用してください。

ORA-02175 ロールバック・セグメント名が無効です。

原因：CREATE または DROP ROLLBACK SEGMENT 文の ROLLBACK SEGMENT の後に、識別子が指定されていません。

処置：ROLLBACK SEGMENT の後にセグメント名を指定してください。

ORA-02176 CREATE ROLLBACK SEGMENT のオプションが無効です。

原因：CREATE ROLLBACK SEGMENT 文に無効なオプションが指定されました。

処置：有効なオプション（TABLESPACE および STORAGE）のいずれかを指定してください。

ORA-02177 必須のグループ番号がありません。

原因：GROUP キーワードの後にグループ番号を指定する必要があります。

処置：コマンドの構文を調べて、GROUP の後にグループ番号を指定してから、文を再実行してください。

ORA-02178 正しい構文は SET TRANSACTION READ { ONLY | WRITE } です。

原因：ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置：示されているように構文を修正してください。

ORA-02179 有効オプション: ISOLATION LEVEL { SERIALIZABLE | READ COMMITTED }

原因：ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置：示されているように構文を修正してください。

ORA-02180 CREATE TABLESPACE のオプションが無効です。

原因：無効なオプションが指定されています。

処置：有効なオプション（DATAFILE、DEFAULT STORAGE、ONLINE、OFFLINE）を 1 つ指定してください。

ORA-02181 ROLLBACK WORK のオプションが無効です。

原因：ROLLBACK[WORK] の後に TO 以外のトークンが指定されています。

処置：ROLLBACK [WORK] の後には、何も指定しないか、TO SAVEPOINT *name* のみを指定してください。

ORA-02182 セーブポイント名が必要です。

原因：ROLLBACK [WORK] TO [SAVEPOINT] の後に識別子がありません。

処置：TO [SAVEPOINT] の後にセーブポイント名を指定してください。

ORA-02183 有効オプション: ISOLATION_LEVEL { SERIALIZABLE | READ COMMITTED }

原因：ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置：示されているように構文を修正してください。

ORA-02184 REVOKE ではリソース割当て量は使用できません。

原因：REVOKE 文に、リソースの割り当て量が指定されました。

処置：割り当て量のないリソース権限を指定してください。

ORA-02185 COMMIT の後に WORK 以外のトークンが指定されています。

原因: COMMIT の後に WORK 以外のトークンが指定されています。

処置: COMMIT の後に何も指定しないか、WORK を指定してください。

ORA-02186 表領域のリソース管理権限は他の権限と同時に指定できません。

原因: 他の権限を許可または取り消している文に、リソース割当て量を許可または取り消そうとしました。

処置: リソースの割当て量権限に対しては、別の GRANT 文または REVOKE 文を使用してください。

ORA-02187 割当て量の指定が無効です。

原因: GRANT 文または REVOKE 文に、上限値を超える表領域の割り当て量を許可しようとした。

処置: 表領域割当て量を少なくしてください。

ORA-02189 ON <表領域名> が必要です。

原因: GRANT 文または REVOKE 文で、ユーザーが表領域割り当て量を指定しましたが、その後に ON 表領域句を指定していません。

処置: 適用される割り当て量の表領域を ON 表領域句で指定してください。

ORA-02190 キーワード TABLES が必要です。

原因: DROP CLUSTER 名の INCLUDING の後にはキーワード TABLES を指定する必要があります。

処置: INCLUDING の後に TABLES を指定してください。

ORA-02191 正しい構文は SET TRANSACTION USE ROLLBACK SEGMENT <rbbs> です。

原因: ユーザーの文に構文エラーがあります。

処置: 示されているように構文を修正してください。

ORA-02192 ロールバック・セグメントの記憶領域句に PCTINCREASE は使用できません。

原因: 記憶域パラメータ PCTINCREASE を CREATE ROLLBACK SEGMENT コマンドまたは ALTER ROLLBACK SEGMENT コマンドに指定しました。

処置: PCTINCREASE 句なしでコマンドを再実行してください。

ORA-02194 イベント指定構文エラー *string* (内部エラー *string*) が *string* 付近で発生しました。

原因: イベント指定に構文エラーがあります。

処置: 構文および入力した綴りを調べて、操作を再試行してください。

ORA-02195 *string* オブジェクトが *string* 表領域に作成されようとしてしました。

原因: 表領域の内容とオブジェクト・タイプが一致していません。

処置: 別の表領域内にオブジェクトを作成するか、ユーザー・デフォルトを変更してください。

ORA-02196 PERMANENT/TEMPORARY オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE に、PERMANENT または TEMPORARY（またはその両方の）オプションが 2 回以上指定されました。

処置: REBUILD、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE の中から 1 つまたは複数を指定してください。

CREATE TABLESPACE のパラメータについては、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02197 ファイル・リストがすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE で、2 つ以上の DATAFILE/TEMPFILE 句が指定されています。

処置: DATAFILE/TEMPFILE 句を、単一の句に結合してください。

ORA-02198 ONLINE/OFFLINE オプションがすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE に、ONLINE または OFFLINE（またはその両方の）オプションが 2 回以上指定されました。

処置: ONLINE または OFFLINE のうち 1 つのみを指定してください。

ORA-02199 DATAFILE/TEMPFILE 句がありません。

原因: CREATE TABLESPACE 文に DATAFILE/TEMPFILE 句がありません。

処置: DATAFILE/TEMPFILE 句を指定してください。

ORA-02200 WITH GRANT OPTION は PUBLIC に対して使用できません。

原因: PUBLIC に WITH GRANT OPTION を許可しようとしてしました。

処置: WITH GRANT OPTION 句を取り除いてください。

ORA-02201 ここでは順序は使用できません。

原因: FROM リストの中で順序を参照しようとしてしました。

処置: 順序は SELECT リストの中でのみ参照できます。

ORA-02202 このクラスタには表をこれ以上作成できません。

原因: すでに 32 の表を含むクラスタに、表を作成しようとしてしました。

処置: クラスタあたり 32 までの表が格納できます。

ORA-02203 INITIAL 記憶領域オプションは使用できません。

原因: 表、クラスタ、索引、ロールバック・セグメントの INITIAL 記憶領域オプションを変更しようとした。このオプションはオブジェクトを作成する時に限って指定できます。

処置: これらのオプションを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02204 ALTER,INDEX,REFERENCE,EXECUTE はビューに対して使用できません。

原因: ビューに対して無効な権限を許可または取り消そうとした。

処置: ビューに対して、ALTER、INDEX または REFERENCES の権限を許可または取り消さないでください。

ORA-02205 順序に対して使用できるのは SELECT および、ALTER 権限だけです。

原因: ビューに対して無効な権限を許可または取り消そうとした。

処置: 順序に対して、DELETE、INDEX、INSERT、UPDATE、REFERENCES または EXECUTE の権限を許可または取り消さないでください。

ORA-02206 INITRANS オプションが重複しています。

原因: INITRANS が複数指定されています。

処置: INITRANS オプションは1度のみ指定してください。

ORA-02207 INITRANS オプションの値が無効です。

原因: INITRANS 値が1から255以内の整数でなく、MAXTRANS の値以下ではありません。

処置: 有効な INITRANS 値を選択してください。

ORA-02208 MAXTRANS オプションが重複しています。

原因: MAXTRANS が複数指定されています。

処置: MAXTRANS オプションは1度のみ指定してください。

ORA-02209 MAXTRANS オプションの値が無効です。

原因: MAXTRANS 値が1から255以内の整数でなく、INITRANS の値以上ではありません。

処置: 有効な MAXTRANS 値を選択してください。

ORA-02210 ALTER TABLE にオプションが指定されていません。

原因: ALTER TABLE オプションが指定されていません。

処置: ALTER TABLE オプションを少なくとも1つ指定してください。

ORA-02211 PCTFREE または PCTUSED に対する値が無効です。

原因: PCTFREE または PCTUSED に対して指定された値が0から100以内の整数ではありません。

処置: オプションに適切な値を選択してください。

ORA-02212 PCTFREE オプションが重複しています。

原因: PCTFREE が複数指定されています。

処置: PCTFREE オプションは 1 度のみ指定してください。

ORA-02213 PCTUSED オプションが重複しています。

原因: PCTUSED が複数指定されています。

処置: PCTUSED オプションは 1 度のみ指定してください。

ORA-02214 BACKUP オプションが重複しています。

原因: ALTER TABLE に対して BACKUP オプションが 2 回以上指定されています。

処置: オプションは 1 度のみ指定してください。

ORA-02215 TABLESPACE 句が重複しています。

原因: CREATE TABLE、CREATE INDEX または CREATE ROLLBACK SEGMENT 文に 2 つ以上の TABLESPACE 句があります。

処置: TABLESPACE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02216 表領域名が必要です。

原因: CREATE/DROP TABLESPACE、CREATE TABLE、CREATE INDEX または CREATE ROLLBACK SEGMENT のいずれかの文の構文に、必要な場所に表領域名がありません。

処置: 構文で必須の表領域名を指定してください。

ORA-02217 記憶領域オプションが重複しています。

原因: INITIAL、NEXT、MINEXTENTS、MAXEXTENTS、PCTINCREASE などの記憶域オプションが複数回指定されました。

処置: 記憶域オプションは、最高 1 回まで指定してください。

ORA-02218 INITIAL 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値が、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を選択してください。

ORA-02219 NEXT 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値が、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を選択してください。

ORA-02220 MINEXTENTS 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、MAXEXTENTS の値以下の正の整数にしてください。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02221 MAXEXTENTS 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、MINEXTENTS の値以上の正の整数にしてください。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02222 PCTINCREASE 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、正の整数でなければなりません。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02223 OPTIMAL 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値が、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を選択してください。

ORA-02224 表に対して EXECUTE 権限は使用できません。

原因: ビューに対して無効な権限を許可または取り消そうとしました。

処置: 表に対して EXECUTE 権限を GRANT または REVOKE しないでください。

ORA-02225 プロシージャに対しては EXECUTE 権限だけが有効です。

原因: プロシージャ、機能またはパッケージに対して無効な権限を GRANT または REVOKE しようとしてしました。

処置: プロシージャ、機能またはパッケージに対して EXECUTE 以外のどの権限も GRANT または REVOKE しないでください。

ORA-02226 MAXEXTENTS の値が無効です (最大値: *string*)

原因: MAXEXTENTS に指定した値はデータベース・ブロックに対して大きすぎます。これは SYSTEM ロールバック・セグメントにのみ適用されます。

処置: 小さな値を指定してください。

ORA-02227 クラスタ名が無効です。

原因: クラスタ名が正しくありません。

処置: オブジェクト名の命名規則を調べ、適切なクラスタ名を入力してください。

ORA-02228 SIZE オプションが重複しています。

原因: SIZE オプションが2回以上指定されています。

処置: SIZE オプションは1度のみ指定してください。

ORA-02229 SIZE オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は整数のバイト数にしてください。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-02230 ALTER CLUSTER オプションが無効です。

原因：ALTER CLUSTER 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP 以外のオプションが指定されました。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-02231 ALTER DATABASE のオプションがないか、または無効です。

原因：ADD、DROP、RENAME、ARCHIVELOG、NOARCHIVELOG、MOUNT、DISMOUNT、OPEN または CLOSE 以外のオプションが文に指定されています。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-02232 MOUNT モードが無効です。

原因：ALTER DATABASE 文のキーワード MOUNT の後に、SHARED または EXCLUSIVE 以外のモードが指定されています。

処置：MOUNT の後に何も指定しないか、SHARED または EXCLUSIVE を指定してください。

ORA-02233 CLOSE モードが無効です。

原因：ALTER DATABASE 文のキーワード CLOSE の後に、NORMAL または IMMEDIATE 以外のモードが指定されています。

処置：CLOSE の後に何も指定しないか、または NORMAL または IMMEDIATE を指定してください。

ORA-02234 この表に対する変更はすでに記録されています。

原因：追加するログ表が他と重複しています。

処置：この変更ログをシステムに追加しないでください。レプリケーション製品のシステム表の一貫性を確認してください。

ORA-02235 この表は別の表に対する変更をすでに記録しています。

原因：変更する表は、別の表に対する変更をすでに記録しています。

処置：この表に指定されたベース表への変更を記録しないでください。レプリケーション製品のシステム表の一貫性を確認してください。

ORA-02236 ファイル名が無効です。

原因：LOGFILE、DATAFILE または RENAME 句のファイル名リストに、文字列リテラルが使用されていません。

処置：正しい構文を使用してください。

ORA-02237 ファイル・サイズが無効です。

原因：SIZE 句または RESIZE 句に整数以外の値が指定されました。

処置：正しい構文を使用してください。

ORA-02238 ファイル名リストのファイル数が異なります。

原因: ALTER DATABASE または ALTER TABLESPACE の RENAME 句では、既存のファイル名の数と、新規ファイル名の数が等しくありません。

処置: 既存の各ファイル名に対応する新規ファイル名があることを確認してください。

ORA-02239 この順序を参照しているオブジェクトがあります。

原因: 削除する順序は他のオブジェクトによって参照されています。

処置: 順序の名前が正しいことを確認するか、または順序を参照する制約やオブジェクトを削除してください。

ORA-02240 OBJNO または TABNO の値が無効です。

原因: OBJNO または TABNO の後に数値が指定されていません。

処置: OBJNO または TABNO の後に数値を指定してください。

ORA-02241 EXTENTS (FILE < 数値 > BLOCK < 数値 > SIZE < 数値 >,...) でなければなりません。

原因: エクステンツの記憶域句にエラーがあります。

処置: 正しい構文を使用して記憶域句を再指定し、コマンドを再実行してください。

ORA-02242 ALTER INDEX のオプションが指定されていません。

原因: オプションの指定がありません。

処置: REBUILD、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE の中から 1 つまたは複数を選択してください。

ORA-02243 ALTER INDEX の、または ALTER SNAPSHOT のオプションが無効です。

原因: ALTER INDEX 文、または ALTER SNAPSHOT 文の USING INDEX 句に、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE 以外のオプションが指定されています。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-02244 ALTER ROLLBACK SEGMENT オプションが無効です。

原因: 指定されるべき STORAGE オプションがありません。

処置: STORAGE オプションを指定してください。

ORA-02245 ロールバック・セグメント名が無効です。

原因: ALTER [PUBLIC] ROLLBACK SEGMENT の後に、指定されるべき識別子がありません。

処置: SEGMENT の後にロールバック・セグメント名を指定してください。

ORA-02246 ALTER SESSION SET EVENTS のテキストがありません。

原因: ALTER SESSION SET EVENTS の後に、指定されるべきリテラルがありません。

処置: EVENTS の後にイベント文字を含むリテラルを指定してください。

ORA-02247 ALTER SESSION にオプションが指定されていません。

原因：ALTER SESSION の後に、指定されるべき SET EVENTS オプションがありません。

処置：ALTER SESSION の後に SET EVENTS オプションを指定してください。

ORA-02248 ALTER SESSION のオプションが無効です。

原因：ALTER SESSION コマンドの後に SET EVENTS 以外のオプションが指定されています。

処置：ALTER SESSION コマンドの後に SET EVENTS オプションを指定して、文を再実行してください。

ORA-02249 MAXLOGMEMBERS の値が見つからないか、無効です。

原因：MAXLOGMEMBERS の後に有効な数値が指定されていません。その指定された値は、1 からログファイル・メンバーのポート固有の最小値の間にしてください。

処置：MAXLOGMEMBERS の後に有効な数値を指定してください。

ORA-02250 制約名がないか、無効です。

原因：制約名がないか、無効です。

処置：制約名に対して有効な識別子名を指定してください。

ORA-02251 ここでは副問合せは使用できません。

原因：この文での副問合せは許可されていません。

処置：副問合せを文から削除してください。

ORA-02252 制約検査条件が正しく終了していません。

原因：チェック制約に対して指定された検索条件が正しく終了していません。

処置：条件を正しく終了してください。

ORA-02253 ここでは制約は指定できません。

原因：この文では制約の指定は許可されていません。

処置：制約の指定を文から削除してください。

ORA-02254 DEFAULT [*expression*] は使用できません。

原因：この文での列に対してデフォルト式は許可されていません。

処置：デフォルト値の式を文から削除してください。

ORA-02255: 7.1.5 は廃止されます。

原因：デフォルト式は、NOT NULL 制約と競合してはいけません。

ORA-02256 参照する列の数が、参照される列の数と一致しません。

原因: 参照する外部キー・リスト内の列数と参照されるリスト内の列数が一致しません。

処置: 参照する列と参照される列を一致させてください。

ORA-02257 最大列数を超過しました。

原因: キー・リストの中の列の数が最大数を超過しています。

処置: リストの中の列の数を減らしてください。

ORA-02258 NULL と NOT NULL 指定が重複または混在しています。

原因: NULL または NOT NULL の指定が重複または一致しません。

処置: 一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02259 UNIQUE/PRIMARY KEY の指定が重複しています。

原因: 重複する UNIQUE または PRIMARY KEY を指定しました。

処置: 重複する指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02260 表には主キーを1つしか含められません。

原因: 同じ表に対して主キーを2つ以上指定しました。

処置: 余分な主キーを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02261 表に一意キーまたは主キーがすでに存在しています。

原因: その表に対してすでに存在する一意キーまたは主キーを指定しました。

処置: 余分なキーを取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02262 列のデータ型を検査中に ORA-nnnnn が発生しました。

原因: 新しい列のデータ型によって、既存の列のデフォルト値式に対するデータ型のチェック・エラーが発生しました。

処置: デフォルト値を取り除くか、または列のデータ型を変更しないでください。

ORA-02263 この列に対してデータ型を指定しなければなりません。

原因: 列に対する必須データ型が指定されていません。

処置: 必須データ型を指定してください。

ORA-02264 既存の制約によってすでに使用されている名前です。

原因: 指定された制約名は一意である必要があります。

処置: 制約に対して一意の制約名を指定してください。

ORA-02265 参照する列のデータ型が定義されていません。

原因：参照列のデータ型が未定義です。

処置：参照列のデータ型は、参照の前に定義するようにしてください。

ORA-02266 表には使用可能な外部キーによって参照される一意キー/主キーが含まれていません。

原因：別の表で使用可能な外部キーによって参照される一意キーまたは主キーのある表を削除または切り捨てようとしてしました。

処置：表を削除または切捨てる前に、他の表の外部キー制約を使用不可にしてください。次のコマンドを発行すると、どんな制約が表を参照しているか確認できます。

```
select constraint_name, table_name, status
from user_constraints
where r_constraint_name in (
select constraint_name from user_constraints where table_name
='tabnam');
```

ORA-02267 列のデータ型が参照する列のデータ型と一致しません。

原因：参照している列のデータ型が、参照している列のデータ型と一致しません。

処置：参照している列に対して、一致するデータ型を指定してください。

ORA-02268 参照された表に主キーがありません。

原因：参照された表に主キーがありません。

処置：参照された表の一意キーを明示的に指定してください。

ORA-02269 キー列は LONG データ型をとれません。

原因：キー列にデータ型 LONG を定義しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：列のデータ型を変更するか、キーから LONG 型を取り除いてから、文を再実行してください。

ORA-02270 この列リストに対して一致する一意キーまたは主キーが存在しません。

原因：CREATE 文または ALTER TABLE 文を使用して表内の一意キーまたは主キーを参照しようとしてしましたが、参照された表に該当する一意キーまたは主キーはありません。

処置：表に一意キーまたは主キーを追加するか、一意キーまたは主キーを指定した列の正しい名前を確認してから、文を再実行してください。

ORA-02271 表に制約はありません。

原因：存在しない制約を使用して表を参照しようとしてしました。

処置：制約名の綴りを調べるか、表に制約を追加して、操作を再実行してください。

ORA-02272 制約のある列は LONG データ型をとれません。

原因: 制約のある列はデータ型 LONG として定義できません。これは許可されていません。

処置: 列のデータ型を変更するか、列の制約を取り除いてから、文を再実行してください。

ORA-02273 この一意 / 主キーは外来キーによって参照されています。

原因: 外来キーによって参照される一意キーまたは主キーを削除しようとしてしました。

処置: 削除する前に、そのキーに対する参照をすべて取り除いてください。

ORA-02274 参照する制約の指定が重複しています。

原因: 一つの参照制約の指定が複数回指定されています。これは許可されていません。

処置: 重複する指定を取り除いてください。

ORA-02275 参照する制約は表にすでに存在しています。

原因: すでに存在している参照制約を指定しようとしてしました。指定が重複することになり、これは指定できません。

処置: 制約の指定は 1 回のみに行ってください。

ORA-02276 デフォルトのデータ型が列のデータ型と一致しません。

原因: 評価されたデフォルトの型と列のデータ型が一致しません。

処置: 列の型を変更するか、デフォルトの式を修正してください。

ORA-02277 順序名が無効です。

原因: 指定した順序名が無効な識別子名です。

処置: 順序名に対して有効な識別子名を指定してください。

ORA-02278 MAXVALUE/NOMAXVALUE の指定が重複または混在しています。

原因: 重複または矛盾した MAXVALUE、NOMAXVALUE が指定されました。

処置: 一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02279 MINVALUE/NOMINVALUE の指定が重複または混在しています。

原因: 重複または混在して MINVALUE、NOMINVALUE が指定されています。

処置: 一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02280 CYCLE/NOCYCLE の指定が重複または混在しています。

原因: 重複または混在して CYCLE、NOCYCLE が指定されています。

処置: 一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02281 CACHE/NOCACHE の指定が重複または混在しています。

原因：重複または混在して CACHE、NOCACHE が指定されています。

処置：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02282 ORDER/NOORDER の指定が重複または混在しています。

原因：重複または混在して ORDER、NOORDER が指定されています。

処置：一方の指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02283 開始順序番号は変更できません。

原因：開始順序番号を変更しようとしてしました。これは許可されていません。

処置：開始順序番号は変更しないでください。

ORA-02284 INCREMENT BY の指定が重複しています。

原因：INCREMENT BY 句が重複して指定されました。

処置：重複する指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02285 START WITH の指定が重複しています。

原因：START WITH 句が重複して指定されました。

処置：重複する指定を取り除いて、文を再実行してください。

ORA-02286 ALTER SEQUENCE のオプションが指定されていません。

原因：ALTER SEQUENCE オプションが指定されていません。

処置：構文を確認してください。ALTER SEQUENCE オプションを少なくとも 1 つ指定してください。

ORA-02287 ここでは順序番号は使用できません。

原因：指定された順序番号の参照（CURRVAL または NEXTVAL）は、文のこの位置では不適切です。

処置：構文を確認してください。順序番号の位置を変更するか、取り除いてください。

ORA-02288 OPEN モードが無効です。

原因：ALTER DATABASE OPEN 文に、RESETLOGS 以外のモードが指定されました。RESETLOGS が唯一の有効な OPEN モードです。

処置：文から無効なモードを取り除くか、かわりにキーワード RESETLOGS を指定して、操作を再実行してください。

ORA-02289 順序が存在しません。

原因：指定された文字列が存在しないか、またはユーザーがこの操作を行うために必要な権限を持っていません。

処置：順序名が正しく、この順序で必要な操作を行うための権限を持っていることを確認してください。

ORA-02290 検査制約 (*string.string*) に違反しました。

原因: フィールドに入力された値は定義済の検査制約に違反します。

処置: 制約に満足する値を入力してください。

ORA-02291 整合性制約 (*string.string*) に違反しました。親キーがありません。

原因: 外部キー値に一致する主キー値がありません。

処置: 外部キーを削除するか、または一致する主キーを追加してください。

ORA-02292 整合性制約 (*string.string*) に違反しました。子レコードがあります。

原因: 外部キーが参照している行を削除しようとしてしました。

処置: この行を変更するには、外部キーを削除または更新する必要があります。

ORA-02293 (*string.string*) を有効にできません - チェック制約違反です。

原因: ALTER TABLE 文で該当する値を持たない表にチェック制約を追加しようとしてしました。

処置: 該当する値を含んでいる表に対してチェック制約を指定する ALTER TABLE 文を再実行してください。ALTER TABLE 文については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02294 (*string.string*) を使用可能にできません。妥当性チェック中に制約が変更されました。

原因: 1 つの DDL 文がこの制約を使用可能にしようとしているときに、別の DDL 文が同じ制約を変更しました。

処置: 今回の制約の変更を、1 つの DDL のみで再実行してください。

ORA-02295 制約に対する ENABLE 句または DISABLE 句が複数あります。

原因: CREATE 文または ALTER TABLE 文に、与えられた制約に対して ENABLE 句または DISABLE 句を複数指定しました。

処置: 与えられた制約に対して ENABLE 句または DISABLE 句を 1 つのみ指定してください。

ORA-02296 制約 (*string.string*) を使用可能にできません。NULL 値が見つかりました。

原因: ENABLE CONSTRAINT ALTER TABLE コマンドは、表に制約を満足しない値が含まれていたためにエラーとなりました。

処置: 表の中のすべての値が制約を満足することを確認してから、ENABLE CONSTRAINT 句を指定した ALTER TABLE コマンドを実行してください。ALTER TABLE および ENABLE CONSTRAINT については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02297 制約 (*string.string*) を使用不可にできません。依存関係があります。。

原因: ALTER TABLE DISABLE CONSTRAINT コマンドは、表が制約に依存する外部キーを持っていたためにエラーとなりました。

処置: 外部キー制約を使用禁止にするか、または DISABLE CASCADE コマンドを指定してください。

ORA-02298 (*string.string*) を有効にできません - 親キーが見つかりません。

原因: ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドは、親を持たない子レコードが表に含まれていたためにエラーとなりました。

処置: 親を持たない子レコードが表に含まれていないことを確認してから、ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドを実行してください。ALTER TABLE および ENABLE CONSTRAINT については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02299 (*string.string*) を有効にできません - キーが重複しています。

原因: ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドは、表に重複するキー値が含まれていたためにエラーとなりました。

処置: 表に重複するキー値が含まれていないことを確認してから、ALTER TABLE ENABLE CONSTRAINT コマンドを実行してください。ALTER TABLE および ENABLE CONSTRAINT については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-02300 OIDGENERATORS の値が無効です。

原因: OIDGENERATORS の値に数値が指定されていません。

処置: OIDGENERATORS に数値を指定してください。

ORA-02301 OIDGENERATORS の最大値は 255 です。

原因: OIDGENERATORS の値に 255 より大きい数値が指定されました。

処置: OIDGENERATORS に指定する数値が 255 を超えないようにしてください。

ORA-02302 型名が無効か、または指定されていません。

原因: 文中に無効な型名が入力されました。または、型名が入力されませんでした。

処置: 文中に有効な型名を入力し、操作を再試行してください。

ORA-02303 依存する型か表がある型は、削除または置換できません。

原因: 依存関係がある型を削除または置換しようとしてしました。

処置: 型に依存するすべての型および表を削除してからオペレーションを再試行するか、FORCE オプションを使用してください。

ORA-02304 オブジェクト識別子リテラルが無効です。

原因: CREATE TYPE に対し、次のいずれかのオブジェクト識別子リテラルを入力しようとしてしました。

- 32 文字の 16 進文字列以外
- すでに既存のオブジェクトを識別しているオブジェクト識別子

- その型に対してすでに割当て済である元のオブジェクト識別子と異なるオブジェクト識別子

処置: オブジェクト識別子句を指定しないでください。指定する場合は、一意の、または最初に割り当てられたオブジェクト識別子と同一の、32 文字の 16 進文字のオブジェクト識別子リテラルを指定してください。その後、再試行してください。

ORA-02305 型に有効なのは EXECUTE 権限だけです。

原因: 型に対して、無効な権限 (EXECUTE 以外) を GRANT または REVOKE しようとした。

処置: 型に対しては、EXECUTE 権限のみを GRANT または REVOKE してください。

ORA-02306すでに有効な依存関係のある型を作成できません。

原因: すでにいくつかの有効な依存関係のある型を作成しようとした (これらの依存関係は、その型が存在しないという事実に基づいています)。

処置: 先に依存関係を削除してから型を作成してください。または、その型を作成しないでください。

ORA-02307 REPLACE オプションで無効な型を変更できません。

原因: REPLACE オプションで無効な型を変更しようとした。

処置: CREATE OR REPLACE TYPE コマンドを使用して型を変更してください。

ORA-02308 オプション *string* はオブジェクト型の列には無効です。

原因: オブジェクト型の列に対し、PACKED または UNPACKED などの無効なオプションが指定されました。

処置: 列の指定から無効なオプションを取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-02309 atomic NULL 違反です。

原因: 属性が NULL のオブジェクト・インスタンスにアクセスしようとした。

処置: オブジェクト・インスタンスが NULL でないことを確認してからアクセスしてください。

ORA-02310 表の許容最大列を超えました。

原因: オブジェクト型の列の属性が 1 つの表の許容最大値を超えました。

処置: オブジェクト型の属性を少なくして、操作を再試行してください。

ORA-02311 依存する型または表がある有効な型は、COMPILE オプションで変更できません。

原因: COMPILE オプションで、依存する型または表がある有効な型を ALTER しようとした。

処置: この操作を実行する必要はありません。

ORA-02313 オブジェクト型に問合せ不可型 *string* の属性が含まれています。

原因: 指定のオブジェクト型に問合せ不可型のネストされた属性が含まれています。

処置: 問合せ可能型のオブジェクト型を使用してください。

ORA-02315 デフォルト・コンストラクタの引数の数が正しくありません。

原因: デフォルト・コンストラクタに指定された引数の数がオブジェクト型の属性の数と一致しません。

処置: デフォルト・コンストラクタに正しい数の引数を指定して、操作を再試行してください。

ORA-02320 ネストされた表の列 *string* の記憶表作成時にエラーが発生しました。

原因: 指定のネストされた表の列に記憶表を作成している間に、エラーが発生しました。

処置: 詳細は、続いて表示されるメッセージを参照してください。そのメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02322 ネストされた表の列の記憶表へのアクセス時にエラーが発生しました。

原因: ネストされた表の列の記憶表で DML を実行している間にエラーが発生しました。

処置: 続いて表示されるメッセージに記述されている状態が修正できる場合は、修正してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02324 THE 副問合せの SELECT リストで列が複数選択されています。

原因: THE 副問合せで列が複数選択されています。

処置: THE 副問合せの SELECT リストで 1 列のみを指定して、操作を再試行してください。

ORA-02327 データ型 *string* の式に索引は作成できません。

原因: 索引を作成不可能な式に索引を作成しようとしてしました。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、式のデータ型が VARRAY、NESTED TABLE、オブジェクト、LOB、REF のいずれかの場合は、索引を作成しないでください。

ORA-02329 データ型 *string* の列に一意キーまたは主キーの指定はできません。

原因: データ型が VARRAY、NESTED TABLE、オブジェクト、LOB、FILE、REF の列に、UNIQUE または PRIMARY KEY 制約を指定しようとしてしました。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、制約を取り除いてください。再試行してください。

ORA-02330 データ型の指定はできません。

原因: オブジェクト表の列制約指定で、データ型を指定しようとした。

処置: データ型指定を取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-02331 データ型 *string* の列に制約は作成できません。

原因: 制約を作成できないデータ型である VARRAY、NESTED TABLE、オブジェクト、LOB、FILE または REF を持つ列に、制約を作成しようとした。

処置: 列のデータ型を変更してください。または、制約を取り除いてください。

ORA-02332 この列の属性に索引は作成できません。

原因: オブジェクト型の列の属性に索引を作成しようとした。

処置: この属性には索引を作成しないでください。

ORA-02333 この列の属性に制約は作成できません。

原因: オブジェクト型の列の属性に制約を作成しようとした。

処置: 制約を取り除いてください。または、オブジェクト型を変更してください。

ORA-02334 列の型を推論できません。

原因: (CREATE TABLE で) この列に対するデータ型が宣言されていません。また、この列の属性に制約を作成しようとした。

処置: 列に対してデータ型を宣言してください。

ORA-02335 クラスタ列のデータ型が無効です。

原因: データ型がオブジェクト、REF、NESTED TABLE、VARRAY、LOB、または FILE の CLUSTER 列を宣言しようとした。

処置: CLUSTER 列を削除してください。または、列のデータ型を変更してください。

ORA-02336 列の属性にアクセスできません。

原因: オブジェクト型の列の属性を取り出そうとした。

処置: 列のオブジェクト型を変更して、操作を再試行してください。

ORA-02337 オブジェクト型の列ではありません。

原因: 非 ADT 列にピリオド付表示をしようとした。つまり、"a" がオブジェクト型でない場合に "a.b.c" という表示をしようとした。

処置: 列の型をオブジェクト型に変更してください。または、この操作を実行しないでください。

ORA-02338 列の制約が指定されていないか、または無効です。

原因: 列制約が指定されていません。

処置: 列指定を取り除いてください。または、列制約を指定してください。再試行してください。

ORA-02339 列の指定が無効です。

原因：非オブジェクト型の列に PACKED または UNPACKED キーワードを指定しようとした。

処置：列指定から PACKED または UNPACKED キーワードを取り除いて、操作を再試行してください。

ORA-2340 列の指定が無効です。

原因：パックされた表内で UNPACKED 列を指定しようとした。

処置：列指定から UNPACKED キーワードを取り除いてください。

ORA-02342 置換型にコンパイル・エラーがあります。

原因：有効な型に対して ALTER...REPLACE 文を使用しましたが、コンパイル・エラーが発生しました。

処置：ALTER...REPLACE 文を使用して、その型をコンパイル・エラーが起きない有効な型に置き換えてください。

ORA-02344 依存する表がある型で実行の取消しはできません。

原因：依存関係がある型で実行を取り消そうとした。

処置：型に依存するすべての表を削除して、操作を再試行するか、FORCE オプションを使用してください。

ORA-02345 CURSOR オペレータに基づいた列をもつビューは作成できません。

原因：CURSOR オペレータが CREATE VIEW または CREATE TABLE ... AS SELECT 文の副問合せの中の SELECT 要素の 1 つとして使用されました。

処置：CURSOR オペレータを取り除いて、CAST オペレータと置き換えてください。

ORA-02347 オブジェクト表の列に権限は付与できません。

原因：オブジェクト表の列に権限を付与しようとした。

処置：別の表を選択してください。オブジェクト表の列に権限を付与できません。

ORA-02349 ユーザー定義型が無効です。型が不完全です。

原因：列または表のデータ型として不完全な型の定義を使用しようとした。

処置：型の定義を完全にして、操作を再試行してください。

ORA-02351 レコード: *string* は拒否されました (表 *string*, 列 *string* でエラー発生)。

原因：示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置：Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。

ORA-02352 ダイレクト・パス接続は同種でなければなりません。

原因：ユーザー側とカーネル側の接続の種類が異なります。

処置：同一のハードウェアとオペレーティング・システムの間に接続してください。

ORA-02353 マルチ・バイト・キャラクタ・エラーが発生しました。

原因: POSITION によって指定されたテキスト、または改行で終了したテキストが無効です。

処置: 制御ファイルまたはデータ・ファイルを編集して、列の配置を修正してください。

ORA-02354 フィールド *string* で変換初期化エラーが発生しました。

原因: フィールドに対する変換の初期化においてエラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02355 CONSTANT フィールド *string* で変換エラーが発生しました。

原因: CONSTANT フィールドが原因でエラーが発生しました。すべての行は拒否されました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。

ORA-02356 データベース領域が不足しているためロードが継続できません。

原因: データベースでスペースが不足したためにロードが打ち切られました。

処置: 指定した表に対してスペースを追加してください。

ORA-02357 パック 10 進変換エラーが発生しました。

原因: 列をパック 10 進から文字へ変換できませんでした。

処置: 列を調べてパック 10 進形式に合わせてください。

ORA-02358 ゾーン 10 進変換エラーが発生しました。

原因: 列をパック 10 進から文字へ変換できませんでした。

処置: 列を調べてパック 10 進形式に合わせてください。

ORA-02359 データ・ファイルのフィールドが最大長を超えました。

原因: 指定した列に対してフィールドが長すぎます。

処置: フィールド長を短くして列の長さ以内にしてください。

ORA-02360 論理レコードの終了まで列が見つかりません (TRAILING NULLCOLS を使用)。

原因: 論理レコードの終了に達した後に列が開始しました。

処置: TRAILING NULLCOLS オプションを使用するか、または列にデータを入力してください。

ORA-02361 最初の囲み文字がありません。

原因: フィールドを囲む最初の文字が見つかりません。

処置: フィールドを始める前に囲み文字を入力してください。

ORA-02362 論理レコードが終了しましたが、2 番目の囲み文字がありません。

原因：フィールドを囲む 2 番目の文字が見つかりません。

処置：フィールドを終えた後にこの文字を入力してください。

ORA-02363 TERMINATED または ENCLOSED フィールドの後に終了子がありません。

原因：TERMINATED フィールドと ENCLOSED フィールドの後に終了子が見つかりません。

処置：フィールドを終えた後にこの文字を入力してください。

ORA-02364 WHEN 句でエラーが発生したためレコード *string* は廃棄されました。

原因：表の WHEN 句でエラーが発生したために、レコードはロードされませんでした。

処置：処置は必要ありません。

ORA-02365 索引 *string* が次のエラーのため使用できません。

原因：索引はロードされませんでした。エラーの原因はエラー・メッセージの後に示されます。

処置：エラーの原因を訂正し、それから再ロードしてください。

ORA-02366 表 *string* に対する次の索引は処理されました。:

原因：指定した表に対してリストされた索引はロードされました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-02367 索引 *string* はロードされました。

原因：メッセージに示された索引はロードされました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-02368 列はすべて NULL なのでレコード *string* は廃棄されました。

原因：表の中の列はすべて NULL であるためにレコードはロードされませんでした。

処置：処置は必要ありません。

ORA-02369 警告: 可変長フィールドは切り捨てられました。

原因：可変長フィールドは論理レコードの終了で切り捨てられました。

処置：このメッセージは単なる警告ですが、可変長フィールドは各行のデータに埋め込まれた長さを持っていますから、自分のデータを検査してください。

ORA-02370 レコード: *string* (表 *string*、列 *string*) で警告エラーが発生しました。

原因：示されたレコードが原因で警告が出されました。

処置：必要であれば、警告から判断してレコードを修正してください。

ORA-02371 ダイレクト・パスではバージョン *string.string.string.string.string* 以上の SQL*Loader が必要です。

原因: 使用しているローダーがこのカーネルのバージョンと互換性がありません。

処置: 使用中のバージョンを少なくとも示されたバージョンまでアップグレードするか、または従来型パスを使用してください。

ORA-02372 相対開始位置が絶対フィールド終了位置よりも後に指定されています。

原因: POSITION (*+*n*:*y*) として指定されたフィールドの相対開始位置が、絶対位置 *y* の後に発生しています。

処置: デリミタが欠落していないことと、*n* と *y* の値が正しいことを確認してください。

ORA-02373 表 *string* に対する Insert 文を解析中にエラーが発生しました。

原因: 解析エラーが発生しました。

処置: このエラー・メッセージに続くメッセージを確認してください。

ORA-02374 バッファ・キュー読み用のスロットがありません。

原因: 読み用の空バッファがありません。

処置: READBUFFERS キーワードを使用して、読みバッファ数を増やしてください。

ORA-02375 レコード *string* は拒否されました (表 *string* でエラー発生)。

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。違反している列は不明です。

ORA-02376 リソースが無効または重複しています。

原因: 発行した CREATE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドで、未定義のリソースを指定したか、または同じリソースを 2 度指定しようとしました。

処置: リソースを定義してから CREATE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドを発行してください。または、文を調べて各リソースが 1 度のみ指定されていることを確認してください。

ORA-02377 リソース制限が無効です。

原因: 無効なリソース制限 (0) を指定しました。

処置: リソース制限には 0 より大きい値を指定する必要があります。

ORA-02378 リソース名 *string* が重複しています。

原因: CREATE PROFILE コマンドまたは ALTER PROFILE コマンドで、同じリソースを 2 度指定しました。

処置: 各リソースは 1 度のみ指定可能であることに注意して、文を再実行してください。

ORA-02379 プロファイル *string* はすでに存在しています。

原因: すでに存在しているプロファイルを作成しようとしてしました。

処置: 他のプロファイルに使用されていない名前で作成してください。

ORA-02380 プロファイル *string* は存在しません。

原因: 存在しないプロファイルにユーザーを割り当てようとしてしました。

処置: 既存のプロファイルにユーザーを割り当ててください。

ORA-02381 PUBLIC_DEFAULT プロファイルは削除できません。

原因: PUBLIC_DEFAULT プロファイルを削除しようとしてしました。

処置: PUBLIC_DEFAULT プロファイルは削除できません。

ORA-02382 *string* はユーザーに割り当てられているため CASCADE なしでは削除できません。

原因: DROP PROFILE 文の CASCADE オプションを使用しないで、ユーザーに割り当てられているプロファイルを削除しようとしてしました。ユーザーに割り当てられているプロファイルは、CASCADE オプションを指定しない限り削除できません。プロファイルを削除する前に、ユーザーは CASCADE によって PUBLIC_DEFAULT プロファイルに割り当てられます。

処置: DROP PROFILE を CASCADE オプション付きで発行して、再度すべてのユーザーを PUBLIC_DEFAULT プロファイルに割り当ててください。

ORA-02383 コスト係数が無効です。

原因: ALTER RESOURCE COST 文で、このリソースに対して負の値または UNLIMITED コストが指定されました。

処置: ALTER RESOURCE COST 文のリソースには、正の整数値のみを指定できます。各リソースに対して正の整数値を指定して文を再実行してください。

ORA-02390 COMPOSITE_LIMIT を超えたためログオフします。

原因: 自分の属するプロファイルの COMPOSITE_LIMIT を超えました。つまり、接続時間の合計、セッションあたりの論理的読取り件数、セッションあたりの CPU 使用時間、セッションで使ったプライベート SGA スペースが、プロファイルの COMPOSITE_TIME 句に設定されている制限値を超えました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの COMPOSITE_LIMIT を大きくしてもらうか、どのリソースが最も使用されているかを判断してそのリソースの制限を大きくしてもらってください。

ORA-02391 同時実行の SESSION_PER_USER 制限を超えました。

原因: ユーザーのプロファイルの SESSION_PER_USER によって許可されている同時実行セッションの最大数を超えました。

処置: 1 つ以上の同時実行セッションを終了するか、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの SESSIONS_PER_USER 制限を大きくしてもらってください。SESSIONS_PER_USER およびデータベース管理者が指定する同時セッションの管理作

業の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』および『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-02392 CPU 使用時間に対するセッション制限を超えたためログオフします。

原因: ユーザーのプロファイルの CPU_PER_SESSION によって許可されている最大 CPU 使用時間を超えました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの CPU_PER_SESSION 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02393 CPU 使用時間に対するコール制限を超えました。

原因: ユーザー・プロファイルの CPU_PER_CALL 句によって許可されているコール、解析、実行、フェッチの最大 CPU 時間を超えました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの CPU_PER_CALL 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02394 I/O 使用に対するセッション制限を超えたためログオフします。

原因: ユーザーのプロファイルの LOGICAL_READS_PER_SESSION によって許可されているセッションの最大 I/O を超えました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してプロファイルの LOGICAL_READS_PER_SESSION 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02395 I/O 使用に対するコール制限を超えました。

原因: ユーザー・プロファイルの LOGICAL_READS_PER_CALL 句によって許可されているコール、解析、実行、フェッチの最大 I/O を超えました。

処置: このエラーが頻繁に発生する場合には、データベース管理者に依頼してユーザー・プロファイルの LOGICAL_READS_PER_CALL 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02396 最大アイドル時間を超えました。再接続してください。

原因: アイドル状態を持続できる最大時間を超えました。

処置: データベースに再接続する必要があります。

ORA-02397 PRIVATE_SGA 制限を超えたためログオフします。

原因: このエラーはマルチスレッド・サーバーを使用している場合にのみ発生します。

処置: データベース管理者に依頼して PRIVATE_SGA 制限を大きくしてもらってください。

ORA-02398 プロシージャの領域使用制限を超えました。

原因: ストアド・プロシージャが SYSTEM 表領域内のスペースを限度を超えて使用しました。

処置: 使用するストアド・プロシージャを少なくするか、システム表領域に追加ファイルを加えてください。

ORA-02399 最大接続時間を越えたためログオフします。

原因：データベースに接続していることができる最大時間を超えました。

処置：データベースに再接続する必要があります。

ORA-02401 別のユーザーに所有されているビューに EXPLAIN コマンドは実行できません。

原因：SQL 文で指定されたビューは他のユーザーのものです。EXPLAIN は実行できません。

処置：カレント・ユーザーが所有するビューと同じ定義でビューを作成してください。

ORA-02402 PLAN_TABLE 表が見つかりません。

原因：行ソース情報の格納のために EXPLAIN が使用する表が、カレント・スキーマに存在しません。

処置：カレント・スキーマに PLAN_TABLE を作成するか、または文の INTO 句を使用して既存の PLAN_TABLE に EXPLAIN コマンドの結果を入力してください。

ORA-02403 PLAN_TABLE 表の形式が無効です。

原因：明示的な PLAN_TABLE に適切なフィールド定義がありません。

処置：PLAN_TABLE を再定義して、適切なフィールドの定義を得てください。

ORA-02404 指定した PLAN_TABLE 表が見つかりません。

原因：指定された PLAN_TABLE が見あたりません。

処置：指定された PLAN_TABLE を作成するか、既存のものを使用してください。

ORA-02420 スキーマの AUTHORIZATION 句がありません。

原因：AUTHORIZATION 句が CREATE SCHEMA 文にありません。

処置：AUTHORIZATION キーワードでスキーマの認可識別子を処理してください。

ORA-02421 スキーマの認可識別子がないか、または無効です。

原因：次のどれかです。

- スキーマの認可識別子が認識されません。
- 接続しているユーザー以外のスキーマ認可識別子を使用しようとしました。

処置：原因に応じて次の処置を行ってください。

- 識別子が認識されない場合は、既存の識別子を使用してください。
- 異なるユーザー名で接続されている場合は、いったんその接続を切り離して、正しいユーザー名に接続してください。

ORA-02422 スキーマ要素がないか、または無効です。

原因：CREATE SCHEMA 文に、CREATE TABLE、CREATE VIEW または GRANT 以外の文が指定されています。

処置: 『Oracle8i SQL リファレンス』で CREATE SCHEMA 文の有効なエレメントを参照してください。

ORA-02423 スキーマ名がスキーマの認可識別子と一致しません。

原因: 表定義で表名を修飾しているスキーマ名と CREATE SCHEMA 文の AUTHORIZATION 句に指定されたスキーマ名が一致しません。

処置: スキーマ名が CREATE SCHEMA 文に指定された名前と一致することを確認してください。

ORA-02424 循環したビュー参照または不明な参照表が存在します。

原因: CREATE SCHEMA 文において、その文の中の他のビューに依存するビューが含まれているか、または存在しない表に対する参照が含まれています。

処置: 依存するビューを CREATE SCHEMA 文で個別に作成してください。参照される表がすべて CREATE SCHEMA 文で定義されているか、またはこの文に関係なく存在していることを確認してください。

ORA-02425 表の作成でエラーが発生しました。

原因: CREATE SCHEMA 文の中の CREATE TABLE 文でエラーが発生しました。

処置: エラーの原因は後続するエラー・メッセージに示されます。そのエラー・メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02426 権限の付与でエラーが発生しました。

原因: CREATE SCHEMA 文の中の GRANT 文でエラーが発生しました。

処置: エラーの原因は後続するエラー・メッセージに示されます。メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02427 ビューの作成でエラーが発生しました。

原因: CREATE SCHEMA 文の中の CREATE VIEW 文でエラーが発生しました。

処置: エラーの原因は後続するエラー・メッセージに示されます。メッセージが示す適切な処置を行ってください。

ORA-02428 外部キー参照を追加できません。

原因: 宣言エラーのため、外部キー参照を追加できませんでした。参照される表が存在しないか、または表に一意キーが含まれていません。

処置: 参照表が存在し、一意キーが含まれていることを確認してください。

ORA-02429 一意キーまたは主キーの保持に使用される索引は削除できません。

原因: 一意キーまたは主キーの保持機構として使用されている索引を削除しようとした。

処置: 索引を削除するかわりに整合性制約を削除してください。

ORA-02430 制約 *string* は存在しないため使用可能にできません。

原因：この表には指定された制約がありません。

処置：制約を使用可能にする前にその制約が定義されていることを確認してください。

ORA-02431 制約 *string* は存在しないため使用不可にできません。

原因：この表には指定された制約がありません。

処置：制約を使用禁止にする前に定義されていることを確認してください。

ORA-02432 主キーは表に定義されていないため使用可能にできません。

原因：表に定義されていない主キーを使用可能にしようとした。

処置：その表に主キーの定義を追加してください。

ORA-02433 主キーは表に定義されていないため使用不可にできません。

原因：表に定義されていない主キーを使用禁止にしようとした。

処置：主キーを使用禁止にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02434 一意キー (*string*) は表に定義されていないため使用可能にできません。

原因：表に定義されていない一意キーを使用可能にしようとした。

処置：一意キーを使用可能にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02435 一意キー (*string*) は表に定義されていないため使用不可にできません。

原因：表に定義されていない一意キーを使用禁止にしようとした。

処置：一意キーを使用禁止にする前に存在していることを確認してください。

ORA-02436 検査制約で指定した日付変数、またはシステム変数が無効です。

原因：CREATE TABLE 文や ALTER TABLE 文の検査制約で、不完全な日付定数やシステム変数 (USER など) が使用されました。たとえば、世紀を指定しないで日付を指定しました。

処置：日付定数またはシステム変数を完全に指定してください。

ORA-02437 (*string.string*) を有効にできません - 主キー違反です。

原因：重複値または NULL 値を含む列で主キーを有効にしようとした。

処置：重複値または NULL 値を削除してから主キーを使用可能にしてください。

ORA-02438 列の検査制約では別の列を参照できません。

原因：別の列を参照する、列のチェック制約を定義しようとした。

処置：表のチェック制約として定義してください。

ORA-02439 延期扱いの制約で一意索引は使用できません。

原因：制約列で既存の一意の索引を持つ延期扱いの主キー / 一意の制約を使用可能にしようとした。

処置: 制約列の索引を削除するか、または制約を延期扱いにしないでください。

ORA-02440 参照制約を指定した AS SELECT 形式で表を作成することはできません。

原因: CREATE TABLE... AS SELECT... の形式を使用して表を作成する場合は、その表に対して整合性制約は作成できません。

処置: 最初に表を作成してから、その表を変更して必要な整合性制約を追加してください。

ORA-02441 存在しない主キーを削除することはできません。

原因: 表に対する主キー制約を削除しようとしたますが、主キー制約は存在しません。

処置: 表の名前が正しく入力されていることを確認してください。それ以外は、処置は必要ありません。

ORA-02442 存在しない一意キーを削除することはできません。

原因: 一意キー制約が存在しない列に対して、一意キー制約を削除しようとした。

処置: 列の名前が正しく入力されていることを確認してください。それ以外は、処置は必要ありません。

ORA-02443 存在しない制約を削除することはできません。

原因: 存在しない制約を削除しようとした。

処置: 制約と表の名前が正しく入力されていることを確認して、プロシージャを再実行してください。

ORA-02444 参照制約で参照されるオブジェクトを解決できません。

原因: スキーマ・オブジェクトへの参照を持った外部キーを定義しようとしたが、そのスキーマ・オブジェクトはベース表を参照できません。

処置: ベース表を参照できるスキーマ・オブジェクトとのみ参照制約を定義してください。

ORA-02445 例外表が見つかりません。

原因: 明示または暗黙宣言された例外表が見つかりませんでした。

処置: 正しい例外表名が使用されている場合は、表を作成して使用可能なコマンドを再試行してください。

ORA-02446 CREATE TABLE ... AS SELECT が失敗しました。制約を確認してください。

原因: いくつかの行が 1 つ以上のチェック制約に違反しているときに、CREATE TABLE ... AS SELECT 文を使用しようとした。

処置: 制約を侵している行を選択しないでください。

ORA-02447 延期扱いではない制約は延期できません。

原因：延期不可能な制約を延期しようとしてしました。

処置：その制約を削除して、延期可能な制約を新規に作成してください。

ORA-02448 制約が存在しません。

原因：指定された制約がありません。

処置：存在しない制約を選択するか、またはこの操作を実行しないでください。

ORA-02449 表の一意キーまたは主キーが外部キーに参照されました。

原因：別の表の外部キーによって参照される一意キーまたは主キーのある表を削除しようとしてしました。

処置：前述の表操作を実行する前に、他の表の外部キー制約を削除してください。次のコマンドを発行すると、どんな制約が表を参照しているか確認できます。

```
SELECT * FROM USER_CONSTRAINTS WHERE TABLE_NAME = "tabnam";
```

ORA-02450 ハッシュ・オプションが無効です。キーワード IS がありません。

原因：キーワード IS がありません。

処置：ハッシュ IS オプションを指定してください。

ORA-02451 HASHKEYS の指定が重複しています。

原因：HASHKEYS オプションが2回以上指定されています。

処置：HASHKEYS オプションを1度のみ指定してください。

ORA-02452 HASHKEYS オプションの値が無効です。

原因：指定する HASHKEYS オプションは整数値にしてください。

処置：適切な値を指定してください。

ORA-02453 HASH IS の指定が重複しています。

原因：HASH IS オプションが2回以上指定されています。

処置：HASH IS オプションを1回のみ指定してください。

ORA-02454 ブロックあたりのハッシュ・キー数 *string* が最大値 *string* を超えました。

原因：SIZE 引数が小さすぎます。

処置：SIZE 引数を増やしてください。

ORA-02455 クラスター・キー列の数は1でなければなりません。

原因：HASH IS オプションを指定する場合、キー列数は1である必要があります。

処置：HASH IS オプションを指定しないか、またはキー列数を減らしてください。

ORA-02456 HASH IS 列指定は NUMBER(*,0) でなければなりません。

原因：列指定では整数を指定する必要があります。

処置：列の定義を型 NUMBER（精度 ,0）として指定してください。

ORA-02457 HASH IS オプションには有効な列を指定しなければなりません。

原因：HASH IS 列名がクラスタ定義に指定されていません。

処置：有効な列名を指定してください。

ORA-02458 HASH CLUSTER には HASHKEYS を指定しなければなりません。

原因：HASH CLUSTER 作成時に、HASHKEYS オプションを指定する必要があります。

処置：HASHKEYS オプションを指定してください。

ORA-02459 ハッシュ・キーの値は正の整数でなければなりません。

原因：ハッシュ・キーの値が正数ではありません。

処置：正の整数を指定してください。

ORA-02460 ハッシュ・クラスタに対する索引操作は無効です。

原因：ハッシュ・クラスタに対して、クラスタ索引を作成しようとした。

処置：このような索引を作成しないでください。

ORA-02461 INDEX オプションの使用は無効です。

原因：このオプションは非ハッシュ・クラスタにのみ有効です。

処置：このオプションを指定しないでください。

ORA-02462 INDEX オプションの指定が重複しています。

原因：INDEX オプションが 2 回以上指定されています。

処置：INDEX オプションを 1 度のみ指定してください。

ORA-02463 HASH IS オプションの指定が重複しています。

原因：HASH IS オプションが 2 回以上指定されています。

処置：HASH IS オプションを 1 回のみ指定してください。

ORA-02464 クラスタ定義に HASH と INDEX を両方指定することはできません。

原因：クラスタは HASH または INDEX のいずれかであり、その両方にすることはできません。

処置：HASH IS または INDEX オプションのいずれかを削除してください。

ORA-02465 HASH IS オプションの使用は無効です。

原因：このオプションはクラスタにのみ有効です。

処置：このオプションを指定しないでください。

ORA-02466 HASH CLUSTERS に対して SIZE オプションを変更することはできません。

原因：HASH CLUSTERS 作成時に指定した SIZE は変更できません。

処置：このオプションを指定しないでください。

ORA-02467 式で参照される列がクラスタ定義にありません。

原因：ハッシュ式で参照される列がクラスタ定義に存在しません。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02468 式での定数またはシステム変数の指定が誤っています。

原因：定数またはシステム変数がハッシュ式に指定されました。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02469 ハッシュ式は ORACLE 番号を戻しません。

原因：ハッシュ式の評価結果が Oracle 番号ではありません。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02470 TO_DATE, USERENV, SYSDATE のいずれかがハッシュ式で誤って使用されています。

原因：TO_DATE、USERENV および SYSDATE はハッシュ式内では使用できません。

処置：クラスタを再作成して、ハッシュ式内のエラーを訂正してください。

ORA-02471 SYSDATE, UID, USER, ROWNUM, LEVEL のいずれかがハッシュ式で誤って使用されています。

原因：SYSDATE、UID、USER、ROWNUM、LEVEL は、ハッシュ式では使用できません。

処置：クラスタを再作成し、違反しているキーワードを削除してください。

ORA-02472 PL/SQL 関数はハッシュ式では使用できません。

原因：PL/SQL ファンクションがハッシュ式で使用されています。

処置：クラスタを再作成して、PL/SQL ファンクションを削除してください。

ORA-02473 クラスタのハッシュ式を評価する際にエラーが発生しました。

原因：クラスタのハッシュ式の評価中にエラーが発生しました。

処置：問合せを訂正して、再試行してください。

ORA-02474 使用された固定ハッシュ領域エクステント *string* が最大値 *string* を超えています。

原因：固定ハッシュ領域の作成に必要なエクステントの数が許容最大値を超えました。

処置：STORAGE 句内のエクステント割当てサイズを増やし、必要なエクステントの数を減らしてください。

ORA-02475 最大クラスタ連鎖ブロック数 *string* を超えました。

原因: クラスタ連鎖のブロック数が許可されている最大値を超えています。

処置: CREATIVE CLUSTER 文の SIZE パラメータを増分させるか、またはクラスタ・キーの適応性を考え直してください。

ORA-02476 表がパラレル・ダイレクト・ロード中なので、索引を作成できません。

原因: 指定された表はパラレル・ダイレクト・ロード中です。

処置: ロードが完了してから文を再試行してください。

ORA-02477 オブジェクト *string* のパラレル・ダイレクト・ロードを実行できません。

原因: 索引を表に作成中のためパラレル・ダイレクト・ロードができません。

処置: 索引の作成が完了してからロードを再試行してください。

ORA-02478 ベース・セグメントへマージすると、MAXEXTENTS 制限を超えてしまいます。

原因: MAXEXTENTS が一時セグメントおよびベース・セグメントにおける合計より大きい場合、一時セグメントをベース・セグメントにマージすることに失敗しました。

処置: ベース・セグメントの MAXEXTENTS に対してより大きな値を使用するか、または一時セグメントのエクステントをもっと大きくしてください。

ORA-02479 ファイル名をパラレル・ロード用に変換中にエラーが発生しました。

原因: 無効なファイル名がロード・データ内に指定されました。

処置: 有効なデータベース・ファイルを指定してください。

ORA-02480 イベントに対して指定されているイベント・クラスが多すぎます。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

処置: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02481 イベントに対して ID 範囲数が多すぎます。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

処置: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02482 イベント・クラスは指定しましたが、イベントは指定しませんでした。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

処置: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02483 イベントに対して指定した ID 値が無効です。

原因: トレース可能にするために入力した文字列が無効です。

処置: トレース可能にするための有効な制御文字列を入力してください。

ORA-02485 下位 ID 値が上位 ID 値より大きくなっています。

原因: TRACE_DEST 初期化パラメータに無効な名前が指定されています。

処置: TRACE_DEST 初期化パラメータに有効な名前を指定してください。

ORA-02486 ファイル *string* でエラーが発生しました (INIT.ORA の TRACE_DEST を確認)。

原因: TRACE_DEST 初期化パラメータに無効な名前が指定されています。

処置: TRACE_DEST 初期化パラメータに有効な名前を指定してください。

ORA-02487 ファイル *string* の書き込みでエラーが発生しました (INIT.ORA の TRACE_DEST を確認)。

原因: TRACE_DEST 初期化パラメータに無効な名前が指定されています。

処置: TRACE_DEST 初期化パラメータに有効な名前を指定してください。

ORA-02489 trace_block_size *string* は *string* で割り切れなければなりません。

原因: 初期化パラメータの TRACE_BLOCK_SIZE の設定が正しくありません。

処置: 初期化パラメータを変更して、再起動してください。

ORA-02490 RESIZE 句に必須のファイル・サイズが指定されていません。

原因: RESIZE 句に値が指定されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02491 AUTOEXTEND 句に必須キーワード ON または OFF が指定されていません。

原因: AUTOEXTEND 句にキーワード ON または OFF が指定されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02492 NEXT 句に必須のファイル・ブロック増分サイズが指定されていません。

原因: NEXT 句に値が指定されていません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02493 NEXT 句のファイル増分サイズが無効です。

原因: DATAFILE リストの NEXT 句に整数以外の値が使用されました。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02494 MAXSIZE 句の最大ファイル・サイズが無効か、または指定されていません。

原因: DATAFILE ファイル・リストの MAXSIZE 句に、UNLIMITED が指定されていないか、または無効な整数値が指定されました。MAXSIZE に SIZE の値よりも小さい値は指定はできません。

処置: 正しい構文を使用してください。

ORA-02495 ファイル *string* のサイズを変更できません。表領域 *string* は読取り専用です。

原因: 読取り専用表領域内のデータ・ファイルのサイズを変更しようとした。

処置: 表領域を読み書き用に変更して、サイズ変更操作を再試行してください。

ORA-02700 osnoraenv: ORACLE_SID の変換でエラーが発生しました。

原因: 2 タスク・ドライバが ORACLE_SID 値の検索に失敗しました。

処置: 環境変数 ORACLE_SID が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-02701 osnoraenv: oracle イメージ名の変換でエラーが発生しました。

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-02702 osnoraenv: orapop イメージ名の変換でエラーが発生しました。

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-02703 osnpopipe: パイプの作成に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが ORAPOP プロセスとの通信のためのパイプの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が満杯な可能性があります。オペレーティング・システムのエラー・コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

ORA-02704 osndopop: fork が失敗しました。

原因: 2 タスク・ドライバが ORAPOP を fork できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-02705 osnpol: 通信チャネルのポーリングに失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャネルのポーリングに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02706 osnshs: ホスト名が長すぎます。

原因: 2 タスク環境変数によって指定されたホスト文字列の長さが Oracle システム・インポーズ制限を超えています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02707 osnacc: コンテキスト領域を割り当てられません。

原因: 起動された UNIX2 タスク・ドライバがコンテキスト領域にヒープ・スペースを割り当てられませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02708 osnrntab: ORACLE_SID が不明なためホストへの接続に失敗しました。

原因: 起動された UNIX2 タスク・ドライバが ORATAB エントリの SID の検索に失敗しました。

処置: 最初に、ORATAB への読取りアクセス権があるかどうかを確認し、必要な SID がそこにあるかどうかを確認してください。必要であれば、必要な SID に対する ORATAB へのエントリを追加してください。

ORA-02709 osnpop: パイプの作成に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのパイプの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が満杯な可能性があります。オペレーティング・システムのエラー・コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

ORA-02710 osnpop: fork が失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスを fork できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-02711 osnpvalid: 検証チャネルへの書込みに失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが ORAPOP プロセスへの書込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02712 osnpop: malloc が失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが十分なヒープ・スペースをそのコンテキスト領域バッファに割り当てするのに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02713 osnprd: メッセージの受信に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャネルからのメッセージの読込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02714 osnpwr: メッセージの送信に失敗しました。

原因: パイプ・ドライバが通信チャネルへのメッセージの書込みに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02715 osnpgetbrkmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: パイプ・ドライバが認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02716 osnpgetdatmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: パイプ・ドライバが認識不可能なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02717 osnpfs: 書き込まれたバイト数が無効です。

原因: パイプ・ドライバが成功のメッセージを送信しましたが、送信されたバイト数とドライバに提供されたバイト数が合致しませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02718 osnprs: プロトコル・リセット・エラーが発生しました。

原因: 2 タスク・ドライバが接続をリセットできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02719 osnfop: fork が失敗しました。

原因: 高速ドライバが Oracle シャドウ・プロセスを fork できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-02720 osnfop: shmat が失敗しました。

原因: 高速ドライバ起動時に、プロセスが共有メモリー・バッファの連結に失敗しました。無効な共有メモリー連結アドレスが提供されたか、システムがバッファに対応するためデータ領域を使い切りました。

処置: 高速ドライバの速度をおとして起動するか、デフォルトの連結アドレスを使用してください。

ORA-02721 osnsemit: セマフォ・セットが作成できません。

原因: 高速ドライバがセマフォ・セットの受信に失敗しました。

処置: セマフォまたはセマフォ識別子のシステム・インポーズ制限を超えています。戻されたオペレーティング・システムのエラー・コードを読み取り、システム管理者に確認してください。

ORA-02722 osnpui: orapop にブレーク・メッセージが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが ORAPOP へのブレーク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02723 osnpui: ブレーク・シグナルが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスへのブレーク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02724 osnpbr: orapop にブレーク・メッセージが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが ORAPOP へのブレーク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02725 osnpbr: ブレーク・シグナルが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセスへのブレーク・メッセージを送信できませんでした。

処置: 失敗したシステム・コールを中断してください。エラー・コード（エラー番号）を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02726 osnpop: oracle 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました。

原因: パイプドライバが、Oracle 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-02727 osnpop: orapop 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました。

原因: パイプドライバが、ORAPOP 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: ORAPOP 実行可能ファイルおよび ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-02728 osnfop: oracle 実行可能ファイルへのアクセス・エラーが発生しました。

原因: 高速ドライバが、Oracle 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-02729 osncon: osntab にドライバがありません。

原因: 指定されたドライバがサポートされていません。

処置: データベース管理者とどのドライバがサポートされているかを確認してください。

ORA-02730 osnrnf: ユーザー・ログオン・ディレクトリが見つかりません。

原因: 指定したドライバが、ローカル .SQLNET ファイルの検索時にログオン・ディレクトリを見つけることができませんでした。

処置: 環境変数 HOME の設定およびエクスポートを行い、ホーム・ディレクトリを識別してください。システム管理者に /etc/passwd ファイルの UID およびホーム・ディレクトリが正しいかどうかを確認してください。

ORA-02731 osnrf: バッファの malloc が失敗しました。

原因: 指定されたドライバがバッファの MALLOC に十分なヒープ・スペースを検索できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02732 osnrf: 一致するデータベース・エイリアスが見つかりません。

原因: 指定されたデータベース別名が \$HOME/.sqlnet または /etc/sqlnet のどちらにも識別されませんでした。

処置: \$HOME/.sqlnet ファイルに別名を作成するか、システム管理者が作成したシステム全体使用の別名を入手してください。

ORA-02733 osnsnf: データベース文字列が長すぎます。

原因: データベース別名のデータベース ID への変換時に、結果のデータベース ID 文字列が Oracle システム・インポーズ制限を超えました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02734 osnftt: 共有メモリ許可をリセットできません。

原因: 高速ドライバが共有メモリ許可のリセットに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02735 osnfpm: 共有メモリ・セグメントを作成できません。

原因: 高速ドライバが 2 タスク通信の共有メモリ・セグメントの作成に失敗しました。

処置: 共有メモリ識別子のシステム・インポーズ制限がシステムに達しているかどうかを確認してください。

ORA-02736 osnfpm: デフォルトの共有メモリ・アドレスが無効です。

原因: 高速ドライバがデフォルトの共有メモリ・アドレスの確立に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02737 osnpcl: orapop を終了させることができません。

原因: パイプ・ドライバが ORAPOP の終了コマンドの送信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02738 osnpwrtbrkmsg: 書込みバイト数が無効です。

原因: パイプ・ドライバが明らかに不完全なブレーク・メッセージを送信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02739 osncon: ホスト・エイリアスが長すぎます。

原因: SQLNET ホストに使用された別名が 161 文字より長くなっています。

処置: より短い別名を使用してください。

ORA-02750 osnfsmmap: 共有メモリー・ファイル ?/dbs/ftt_<pid>.dbf をオープンできません。

原因: 高速ドライバが 2 タスク通信の共有メモリー・ファイルの作成に失敗しました。

処置: ディレクトリ ?/dbs の許可を確認してください。

ORA-02751 osnfsmmap: 共有メモリー・ファイルのマッピングができません。

原因: 高速ドライバが 2 タスク通信の共有メモリー・ファイルのマッピングに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02752 osnfsmmap: 共有メモリー・アドレスが無効です。

原因: 高速ドライバが予定の位置に共有メモリーを連結するのに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02753 osnfsmmap: 共有メモリー・ファイルがクローズできません。

原因: 高速ドライバが共有メモリー・ファイルをクローズできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02754 osnfsmmap: 共有メモリー継承を変更できません。

原因: 高速ドライバが共有メモリーの継承属性を変更できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02755 osnfsmcre: 共有メモリー・ファイル ?/dbs/ftt_<pid>.dbf をオープンできません。

原因: 高速ドライバが共有メモリーにファイルを作成するのに失敗しました。

処置: ディレクトリ ?/dbs の許可を確認してください。

ORA-02756 osnfsmnam: 名前の変換に失敗しました。

原因: 高速ドライバが共有メモリのファイル名 ?/dbs/ftt_pid.dbf の変換エラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02757 osnfop: fork およびバインドに失敗しました。

原因: 高速ドライバが必要なクラスタおよびノード番号へのプロセスの fork に失敗しました。

処置: sercose[0] で必要なノード番号および sercose[1] のクラスタ ID を確認してください。これらが有効な場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02758 内部配列の割り当てに失敗しました。

原因: システムがメモリーを使い切ったため、パッケージが配列にメモリーを割り当てられませんでした。

処置: その他のプロセスを中断するか、メモリーを増やしてマシンを再起動してください。

ORA-02759 使用可能なリクエスト記述子が十分ありません。

原因: パッケージのリクエスト記述子のすべてが他の要求の実行に使用中です。

処置: 十分に要求が終了するまで待機するか、パッケージをシャットダウンし、リクエスト記述子を増やして再度初期化してください。

ORA-02760 クライアントによるファイルのクローズは失敗しました。

原因: クライアントがサーバーの fork 後、ファイルをクローズできませんでした。

処置: システムに問題があります。システム管理者に連絡してください。

ORA-02761 取り消しされるファイル番号は負数です。

原因: SFIOV 構造体に含まれるファイル番号が 0 より小さくなっています。

処置: これはプログラミング・エラーの可能性がありますが、それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02762 取り消しされるファイル番号が最大値を超えました。

原因: SFIOV 構造体に含まれるファイル番号が最大値より大きくなっています。

処置: これはプログラミング・エラーの可能性がありますが、それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02763 要求を取り消すことができません。

原因: 取消し可能な要求が見つかりませんでした。

処置: このエラーは、すべての要求のファイル番号がすでに満杯になっている場合に発生します。

ORA-02764 パッケージ・モードが無効です。

原因: パッケージに可能なモードはパラレルまたはデュプレックスのみです。

処置: 正しい値のために SFA.H を調べてください。

ORA-02765 サーバーの最大数が無効です。

原因: 指定されたサーバーの数値が 0 以下になっています。

処置: 0 より大きい数値を使用してください。

ORA-02766 要求記述子の最大数が無効です。

原因: 要求記述子の数値が 0 以下になっています。

処置: 0 より大きい数値を使用してください。

ORA-02767 1 つのサーバーに割り当てられる要求記述子が 1 未満です。

原因: パッケージが、使用されたサーバーの数値以上の要求記述子の数値を要求しています。

処置: より高い数値を使用してください。

ORA-02768 最大ファイル数が無効です。

原因: パッケージに使用された最大ファイル数が 0 以下になっています。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02769 SIGTERM のハンドラ設定に失敗しました。

原因: パッケージが終了シグナルのためにサーバーによってハンドリングを設定できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02770 ブロック合計数は無効です。

原因: パッケージでの使用のために割り当てられるブロック合計数が 0 より大きくなっていません。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02771 要求のタイムアウト値が無効です。

原因: 数値が正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02772 最大サーバー・アイドル時間が無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02773 最大クライアント待機時間が無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02774 要求リストのラッチ・タイムアウト値が無効です。

原因: 指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02775 シグナルを実行した要求は無効です。

原因: シグナルの数値が正数ではありませんでした。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02776 シグナルを実行した要求に対する値は最大値を超えました。

原因：パッケージに "request done" シグナルとして使用するために送信された値がオペレーティング・システムによって許可された最大値を超えています。

処置：システム管理者に連絡してください。

ORA-02777 ログ・ディレクトリで Stat が失敗しました。

原因：パッケージがログ・ファイルが常駐するディレクトリについての情報を取得できませんでした。

処置：ディレクトリの許可を確認するか、または別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-02778 ログ・ディレクトリに付けられた名前が無効です。

原因：ログが保存されるディレクトリに付けられた名前がディレクトリに対応していません。

処置：別の名前を使用してください。

ORA-02779 コア・ダンプ・ディレクトリで Stat が失敗しました。

原因：パッケージが、サーバーが例外のイベントでコアをダンプするディレクトリについての情報を取得できませんでした。

処置：ディレクトリの許可を確認するか、または別のディレクトリ名を使用してください。

ORA-02780 コア・ダンプ・ディレクトリに指定された名前が無効です。

原因：サーバー・プロセスが例外のイベントでコアをダンプするディレクトリに付けられた名前が、無効です。

処置：別の名前を使用してください。

ORA-02781 タイミングをとるべきところのフラグに指定した値が無効です。

原因：指定された値が TRUE または FALSE ではありませんでした。

処置：タイミングをとるべきところのフラグに、TRUE または FALSE を指定してください。

ORA-02782 読み込み、書き込み機能が両方指定されていません。

原因：機能の対称的な作動を確実にするには、読み込みと書き込み機能の両方にポインタが必要です。

処置：両方の機能を指定するか、または両方の機能を解除してください。パッケージはそれ自体の機能を提供します。

ORA-02783 ポスト、ウェイト機能が両方指定されていません。

原因：機能の対称的な作動を確実にするには、ポストとウェイト機能の両方にポインタが必要です。

処置: 両方の機能を指定するか、または両方の機能を解除してください。パッケージはそれ自体の機能を提供します。

ORA-02784 指定された共有メモリー ID が無効です。

原因: 共有バッファ領域として使用するために指定されたセグメントの ID が無効です。

処置: 別の ID を使用するか、またはパッケージ自体に指定させてください。

ORA-02785 共有メモリー・バッファ・サイズが無効です。

原因: 共有バッファ領域として使用するために共有メモリー・セグメントに与えられたサイズが 0 以下になっています。

処置: 正数を使用してください。

ORA-02786 共有領域サイズはセグメント・サイズより大きくなければなりません。

原因: 共有バッファ領域のために指定された共有セグメントのサイズが、必要なバイト数より小さくなっています。「追加情報」フィールドの最初のフィールドが必要なサイズです。2 番目のフィールドはセグメントのサイズです。

処置: より大きいサイズのセグメントを使用するか、パッケージ自体に割り当てさせてください。

ORA-02787 セグメント・リストにメモリーを割り当てることができません。

原因: システムがメモリーを使い切ったため、パッケージが内部セグメント・リストにメモリーを割り当てのに失敗しました。「追加情報」フィールドは、パッケージが割り当てようとしたメモリーの量です。

処置: プロセスをいくつかクローズするか、またはシステム管理者に連絡してください。

ORA-02788 非同期プロセス配列内でカーネル・プロセス・ポインタをみつけることができません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02789 最大ファイル数に達しました。

原因: 非同期 I/O で使用可能な最大ファイル数に達しました。

処置: サーバーをシャットダウンし、より高い数値でパッケージを再度初期化してください。

ORA-02790 ファイル名が長すぎます。

原因: 非同期 I/O でオープンされているファイルの名前の長さが、最大値より長くなっています。「追加情報」フィールドは最大長です。

処置: より短い名前を使用してください。

ORA-02791 このファイルは非同期 I/O で使用するため、オープンできません。

原因：パッケージがなんらかの理由でオープンできません。

処置：ファイル名を確認してください。

ORA-02792 非同期 I/O で使用しているこのファイルに fstat() を実行できません。

原因：fstat(2) が、非同期 I/O で使用しているファイルの呼出しに失敗しました。

処置：ファイル名を確認してください。

ORA-02793 非同期 I/O のクローズに失敗しました。

原因：クライアントが、非同期 I/O で使用しているファイルをクローズできませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02794 クライアントは共有メモリーのキーを取得できませんでした。

原因：クライアントが、共有メモリーと使用する共有メモリーを得るためのキーを取得できませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02795 要求リストは空です。

原因：クライアントがサーバーからシグナルを受け取りましたが、done リストが空でした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02796 要求が正常に終了していません。

原因：要求が正しい状態にありません。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02797 使用可能な要求はありません。

原因：使用可能な要求記述子がありません。

処置：一部の要求が満たされるまで待機し、次に要求を再実行するかサーバーをシャットダウンし、より高い要求の数値でパッケージを初期化してください。

ORA-02798 要求数が無効です。

原因：SFARD() または SFAWRITE() のどちらかに送信された操作の数値が、0 より小さくなっています。これはユーザーのプログラミング・エラーです。

処置：呼出しプログラムを確認してください。

ORA-02799 シグナル・ハンドラが使用できません。

原因：done シグナルに対するシグナル・ハンドラのアーミングに失敗しました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02800 要求のタイムアウトが発生しました。

原因：非同期入力または出力に対する要求の一部が、必須の時間量でサービスされませんでした。

処置：システム上のロードが高い場合には、タイムアウト制限が低すぎる可能性があります。SFAINIT() でリセットしてください。サーバー・プロセスが予期しないシグナルのために停止している場合、これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02801 操作のタイムアウトが発生しました。

原因：一部の非同期操作が、カーネル・モードで時間切れになりました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02802 パラレル・モードで使用可能なサーバーがありません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02803 現在の時間の取得に失敗しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02804 ログ・ファイル名に対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因：クライアントが、ログ・ファイル名に対するバッファを割り当てることができませんでした。

処置：システム管理者に連絡してください。

ORA-02805 SIGTPA のハンドラを設定できません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02806 SIGALRM のハンドラを設定できません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02807 I/O ベクトルに対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因：クライアントが、サーバーが使用する I/O ベクトルの配列に対するメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：システム管理者に連絡してください。

ORA-02808 ファイル・オープンに使用される配列のメモリー割り当てに失敗しました。

原因: クライアントが、サーバーが使用するフラグの配列に対するメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-02809 ジャンプ・バッファが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02810 メモリー・マップ・ファイルのテンポラリ・ファイル名が作成できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02811 共有メモリー・セグメントに Attach できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02812 Attach されたアドレスは無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02813 キーを取得するためのテンポラリ・ファイル名を作成できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02814 共有メモリーを取得することができません。

原因: SHMGET(2) が失敗しました。

処置: UNIX 共有メモリーの数値を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02815 共有メモリーを Attach できません。

原因: SHMAT(2) が失敗しました。

処置: UNIX 共有メモリーの数値を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02816 プロセスを強制終了できません。

原因: サーバーが、中断シグナルが送信された後に停止されませんでした。

処置: プロセスが暴走する可能性があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02817 読み込みに失敗しました。

原因：サーバーが、要求されたデータ量を読み込めませんでした。

処置：SFARD() の呼出しを確認してください。間違ったファイル記述子が、SFARD() に送信された可能性があります。「追加情報」フィールドの数値は、読み込まれたデータ・セグメントの開始ブロック数です。

ORA-02818 読み込んだブロック数は要求された数に対して不足しています。

原因：サーバーが、要求されたデータ量を読み込めませんでした。「追加情報」フィールドの最初の数値が、読み込まれたブロック数です。2 番目は読み込まれた実際のバイト数です。これはプログラミング・エラーです。

処置：呼出しプログラムを確認してください。

ORA-02819 書き込みに失敗しました。

原因：サーバーが、書き込みを実行できませんでした。「追加情報」フィールドの数値は、書き込まれたデータ・セグメントの開始ブロック数です。「追加情報」フィールドの最初の数値が書き込まれたブロック数です。2 番目は書き込まれた実際のバイト数です。ディスクに空きがない可能性があります。

処置：UNIX エラーの数値を確認してください。

ORA-02820 要求されたブロック数を書き込めません。

原因：サーバーが、ディスクに要求されたデータ量を書き込めませんでした。ディスクの領域が不足している可能性があります。

処置：UNIX エラーの数値を確認してください。

ORA-02821 要求されたブロック数を読み込めません。

原因：サーバーが、要求されたブロック数を読み込めませんでした。ファイルの終わりが読み込まれている可能性があります。

処置：ディスク上のファイルを確認してください。

ORA-02822 ブロック・オフセットが無効です。

原因：サーバーが、指定されたブロックをシークできませんでした。

処置：UNIX エラーの数値を確認してください。

ORA-02823 バッファが割り当てられていません。

原因：I/O 済のバッファが正しい境界にありません。

処置：呼出しプログラムを確認してください。

ORA-02824 要求の空きリストが空です。

原因：すべての記述子が使用中のため、パッケージが要求記述子を割り当てるリストが空になっています。

処置: 一部が空くまで待機するか、またはパッケージをより高い数値の要求記述子で初期化してください。

ORA-02825 使用しようとした空きリストは使われています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02826 ブロック・サイズが無効です。

原因: 非同期 I/O パッケージで使用される I/O ブロック・サイズが負数になっています。これはプログラミング・エラーです。

処置: 正数または 0 を使用して、デフォルト値を取得してください。

ORA-02827 ファイル数が無効です。

原因: 操作が行われるファイル番号が 0 より小さくなっているか、オープンできるファイルの最大値より大きくなっています。

処置: 呼出しプログラムがこの数値に触れることはないので、これはプログラミング・エラーです。

ORA-02828 セグメントの空きリストが空です。

原因: 割り当て可能なセグメントがありません。

処置: 一部のセグメントを空けるか、パッケージをシャットダウンしてより高いセグメントの数値で再度初期化してください。

ORA-02829 十分な大きさのセグメントがありません。

原因: 使用できるだけの十分な大きさのセグメントが用意されていません。

処置: 一部のセグメントを空けて再試行してください。

ORA-02830 セグメントが分割できません。空きセグメントが不足しています。

原因: 空きセグメントがないため、必要なものより大きいセグメントが分割できません。

処置: 一部のセグメントを空けて再試行してください。

ORA-02831 セグメント・リストが空なのでセグメントの割当て解除に失敗しました。

原因: セグメントの割り当てを解除しようとしたますが、"in use" リストが空でした。これはプログラミング・エラーです。

処置: 呼出しプログラムを確認してください。

ORA-02832 セグメントがセグメント・リストにないためセグメントの割当て解除に失敗しました。

原因: コーラーが in use リストにないセグメントの割り当てを解除しようとした。これはプログラミング・エラーです。

処置: 呼出しプログラムを確認してください。

ORA-02833 サーバーはファイルをクローズできません。

原因: サーバーが、非同期 I/O で使用しているファイルをクローズできませんでした。

処置: 詳細は UNIX エラーの数値を参照してください。

ORA-02834 サーバーはファイルをオープンできません。

原因: サーバーが、非同期 I/O に使用するファイルをオープンできませんでした。

処置: 詳細は UNIX エラーの数値を参照してください。

ORA-02835 サーバーはクライアントにシグナルを送ることができません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02836 一時キー・ファイルを作成できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02837 テンポラリ・ファイルをアンリンクできません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02838 警告シグナルのためのシグナル・ハンドラが使用できません。

原因: 警告シグナルのためのシグナル・ハンドラの取得に失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02839 ディスクへのブロックの同期化に失敗しました。

原因: サーバーが、ディスクへの書込みをフラッシュできませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。

ORA-02840 クライアントによるログ・ファイルのオープンが失敗しました。

原因: クライアント・プロセスが、ログ・ファイルをオープンできませんでした。

処置: 詳細は UNIX エラーの数値を参照してください。

ORA-02841 サーバーが起動時に停止しました。

原因: サーバーがその初期化プロセス中に終了しました。

処置: 詳細は、サーバーのログを参照してください。

ORA-02842 クライアントはサーバーを fork できません。

原因: クライアントが、サーバーを拡張できませんでした。オペレーティング・システムが、拡張可能なプロセス数の制限に達した可能性があります。

処置: 使用可能なサーバーの数値を減らすか、より多くのプロセスをハンドルできるようにオペレーティング・システムを再構成してください。

ORA-02843 カーネル・フラグの値が無効です。

原因: 情報構造体でカーネル・フラグに無効な値が設定されました。許可されているのは TRUE および FALSE のみです。これはプログラミング・エラーです。

処置: 呼出しルーチンを確認してください。

ORA-02844 オープンしたままのフラグの値が無効です。

原因: クライアントが、サーバーがファイルを使用可能かどうかを検証した後で、ファイルがオープンされたままになっているかどうかを判別するフラグに値が設定されています。サポートされているのは TRUE および FALSE のみです。これはプログラミング・エラーです。

処置: 呼出しルーチンを確認してください。

ORA-02845 タイミングをとるフラグの値が無効です。

原因: 操作の時間切れを示すフラグに値が設定されています。サポートされているのは TRUE および FALSE のみです。これはプログラミング・エラーです。

処置: 呼出しルーチンを確認してください。

ORA-02846 サーバーを強制終了できません。

原因: サーバーが終了シグナルの応答に失敗しました。最初の数値がサーバーの番号です。2 番目はその UNIX プロセス番号です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02847 ポスト時にサーバーは終了しませんでした。

原因: サーバーが、シャットダウンするためにポストされた要求に応答しませんでした。最初の数値がサーバーの番号です。2 番目はその UNIX プロセス番号です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02848 非同期 I/O パッケージが実行していません。

原因: 最初に SFAINIT() を使用してパッケージを初期化せずに、非同期 I/O パッケージを使用して操作をしようとした。

処置: パッケージを使用する前に SFAINIT() を呼び出してください。

ORA-02849 エラーが発生したため読み込みに失敗しました。

原因：サーバーが、要求されたデータ量をディスクから読み込めませんでした。

処置：UNIX エラーの数値を確認してください。

ORA-02850 ファイルがクローズされました。

原因：非同期 I/O 操作が実行されるファイルが、すでにパッケージによってクローズされました。これはプログラミング・エラーです。

処置：呼出しプログラムを確認してください。

ORA-02851 要求リストが空です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02852 クリティカル・セクション・タイムアウト値は無効です。

原因：指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置：正数を使用してください。

ORA-02853 サーバー・リストのラッチ・タイムアウト値は無効です。

原因：指定された時間が、正数ではありませんでした。

処置：正数を使用してください。

ORA-02854 要求バッファの数が無効です。

原因：INIT.ORA ファイルで DB_SLAVE_BUFFERS に設定された値が、0 より小さくなっています。

処置：0 以上の数値を使用してください。

ORA-02855 要求数が SLAVE の数より小さいです。

原因：ご使用の INIT.ORA ファイルで DB_SLAVE_BUFFERS に設定された値が、SLAVE (DB_SLAVES) に指定された数より小さいです。

処置：DB_SLAVES に指定された数より大きな数を指定するか、0 (ゼロ) を指定してください。カーネルが適切な数を提供します。

ORA-02875 smpini: PGA の共有メモリーを取得できません。

原因：エラー・コード (エラー番号) に表示されています。

処置：問題を解決してください。

ORA-02876 smpini: PGA の共有メモリーを連結できません。

原因：エラー・コード (エラー番号) に表示されています。

処置：問題を解決してください。

ORA-02877 smpini: メモリー保護を初期化できません。

原因: ADSPCINIT プログラムが実行されていません。

処置: ご使用のインストレーション・ガイドおよびユーザーズ・ガイドに記載されている ADSPCINIT プログラムを実行してください。問題が繰り返される場合、ご使用のコンピュータを再起動してください。

ORA-02878 sou2o: smpdidini 変数が上書きされました。

原因: SMPDIDINI 変数が、おそらくクライアント・コードによって上書きされました。

処置: クライアント・コードを検証してください（たとえば、Pro*C では無効なメモリー・アクセスを確認）。シングル・タスク操作以外で問題が発生した場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02879 sou2o: 保護メモリーへのアクセス権を獲得できません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: ご使用のアプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。解決しなかった場合、エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02880 smpini: 保護用 PGA を登録できません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: ご使用のアプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。解決しなかった場合、エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02881 sou2o: 保護メモリーへのアクセス権を取消しできません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: ご使用のアプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。解決しなかった場合、エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02882 sou2o: 保護用 SGA を登録できません。

原因: これは内部エラーです。エラー番号のエラー・コードを確認してください。

処置: ご使用のアプリケーションまたはコンピュータの再起動で、問題が解決する可能性があります。解決しなかった場合、エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-02899 smscre: 拡張共有メモリー機能で SGA を作成できません。

原因: 環境変数 EXTSHM が、Oracle を起動する前に設定されました。

処置: 環境変数 EXTSHM を設定しないで、Oracle を再起動してください。

ORA-03001 現在実現されていない機能です。

原因：現在実現されていない機能を使用しようとした。

処置：現時点ではこの機能は使用しないでください。

ORA-03002 演算子は実現されていません。

原因：現在実現されていない演算子を使用しようとした。

処置：現時点ではこの演算子は使用しないでください。

ORA-03007 機能は廃止されました。

原因：現在サポートされていない機能を使用しようとした。

処置：処置は必要ありません。

ORA-03008 パラメータ COMPATIBLE>= *string* が *string* には必要です。

原因：初期化パラメータ COMPATIBLE の設定以降の Oracle バージョンの機能を使用しようとした。

処置：COMPATIBLE をメッセージに記述されている値（またはそれ以上の値）に設定して、コマンドを再試行してください。ただし、これによって、ダウングレード・オプションが制限されるので注意してください。

ORA-03100 メモリーが不足しているため通信領域を割り当てられません。

原因：通信の目的でスタック領域を割り当てようとしたが、できませんでした。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03105 内部プロトコルエラーが発生しました。

ORA-03106 2 タスク通信プロトコル・エラーが発生しました。

原因：Oracle とユーザー・タスク間の通信経路が停止しました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03107 oranet バッファがアンダーフローしました。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03108 oranet: Oracle はこのインタフェースのバージョンをサポートしていません。

原因：Net8 を介入してユーザーが接続している Oracle のバージョンは、Net8 プロトコルのこのバージョンをサポートしていません。

処置：旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03109 oranet バッファがオーバーフローしました。

原因: ユーザー・プログラムと Oracle 間のデータを転送しようとしたところ、バッファ領域がオーバーフローしました。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03110 oranet: Oracle はこの SQL のバージョンをサポートしていません。

原因: Net8 を介してユーザーが接続している Oracle のバージョンは、Net8 プロトコルのバージョンをサポートしていません。

処置: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03111 通信チャネルでブレイクを受信しました。

原因: 通信チャネル上でブレイクが処理されたが、Net8 ソフトウェアによって正しく処理されませんでした。これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03112 単一タスクとしてリンクしているサーバーは SQL*Net を使用できません。

原因: 単一タスク・サーバーに対して、Net8 接続文字列を含む文が発行されました。たとえば、DATABASE LINK が SQL 文で使用されました。

処置: 単一タスク環境で Net8 接続文字列を使用しないでください。

ORA-03113 通信チャネルでファイルの終わりが検出されました。

原因: 通信チャネル上で、予期しないファイルの終了処理が行われました。この問題は、Net8 (2 タスク) ソフトウェアで処理できませんでした。このメッセージは、Net8 接続と関係付けられているシャドウ 2 タスク・プロセスが異常終了した場合、またはプロセス間通信媒体の物理的障害、つまり、ネットワーク・マシンまたはサーバー・マシンがダウンした場合に発生することがあります。また、このメッセージは ALTER SYSTEM KILL SESSION または ALTER SYSTEM DISCONNECT SESSION が IMMEDIATE 修飾子を付けて発行された場合に発生することがあります。クライアントからの要求を待たずに、クライアントからデータベースへの接続が終了するためです。

処置: このメッセージが接続の試行中に発生する場合は、該当する Net8 ドライバのセットアップ・ファイルを調べて、Net8 ソフトウェアがサーバー上に正しくインストールされていることを確認してください。接続に成功した後でこのメッセージが発生し、エラーの原因が物理的な障害ではない場合は、障害発生時にサーバー上でトレース・ファイルが生成されたかどうかを確認してください。トレース・ファイルがあれば、Oracle 技術サポートの援助が必要な Oracle 内部エラーが発生した可能性があります。

ORA-03114 Oracle に接続されていません。

原因: 接続が確立されていないのに Oracle を呼び出そうとしました。このエラーは通常、ユーザー作成プログラムがログインしていないために起こります。また、通信障害のため切断している時にも起こります。また、このメッセージは ALTER SYSTEM KILL SESSION または ALTER SYSTEM DISCONNECT SESSION が IMMEDIATE 修飾子を付

けて発行された場合に発生することがあります。クライアントからの要求を待たずに、クライアントからデータベースへの接続が終了するためです。

処置: 操作を再試行してください。ユーザー作成プログラムを使用している場合に、このエラーが再発するようであれば、プログラムを調べてください。

ORA-03115 サポートされていないネットワークのデータ型または表現があります。

原因: あるユーザー・バインド、ユーザー定義、または Oracle 関数が、この Net8 の接続ではサポートされていません。

処置: 旧バージョンの Oracle をバージョンアップして、操作を再試行してください。

ORA-03116 変換ルーチンに渡されたバッファ長が無効です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03117 2 タスク保存領域でオーバーフローが発生しました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03118 2 タスク・コルーチンが無効状態です。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03120 2 タスク変換ルーチン: 整数オーバーフローが発生しました。

原因: 異機種間接続を介してデータを変換するとき、内部 Oracle 構造中の整数値がオーバーフローしました。これは、バッファ長が無効である、または行カウントが大きすぎるときに発生する可能性があります。通常は、ユーザー・アプリケーションのバグに起因します。

処置: パラメータを Oracle コールに確認してください。問題が再発するようであれば、列値を除くすべての整数パラメータを 32767 未満に設定してください。

ORA-03121 インタフェース・ドライバが接続されていないため関数は実行されません。

原因: 通常このメッセージは、Net8 ドライバがメモリーにロードされていない場合、またはドライバのバージョンの不一致がある場合に発生します。古いライブラリとリンクされているユーザー・プログラムが、このメッセージの原因となる場合もあります。このインタフェースは、オラクル社が提供しているプログラムでしか使用できません。

処置: オラクル社が提供したプログラムの使用中にメッセージが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。ユーザー・プログラムにエラーの原因が認められる場合、カレント・バージョンのオラクル・ライブラリを使用してプログラムをリンクしてください。

ORA-03122 ユーザー側で Oracle 側のウィンドウをクローズしようとした。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03123 操作はブロックします。

原因: 試行した操作は、現在完了できません。

処置: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-03124 2 タスク内部エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03125 クライアント / サーバー・プロトコル違反が発生しました。

原因: サーバーから、アプリケーションが誤ったエスケープ・シーケンスを受け取りました。クライアント・アプリケーションのユーザー・コードに問題があることを示している可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-03126 ネットワーク・ドライバは、非ブロック操作をサポートしません。

原因: 非ブロック操作が試行されましたが、ネットワーク・ドライバが非ブロック操作をサポートしません。

処置: デフォルトのブロック操作を使用するか、または非ブロック操作をサポートするドライバを使用してください。

ORA-03127 アクティブ操作が完了するまで、新しい操作を行えません。

原因: アクティブな非ブロック操作が完了する前または列のすべての断片の挿入やフェッチが完了する前に新たな操作を実行しようとした。

処置: 非ブロック操作が完了してから、新たな操作を実行してください。断片単位のバインド / 定義を実行する場合、すべての断片の挿入またはフェッチが完了してから新たな操作を実行してください。

ORA-03128 接続がブロック・モードです。

原因: 接続に対する非ブロック・モードの OCI テストは、接続がブロック化モードになっていることを示しています。

処置: 非ブロック・モードが必要な場合は、適切な OCI コールを使用して、モードを変更してください。

ORA-03129 次に挿入する断片がありません。

原因: アプリケーションが断片単位のバインドを列で実行しました。

処置: このバインド変数の次の断片を指定してください。

ORA-03130 次にフェッチする断片用のバッファがありません。

原因: アプリケーションが断片単位の定義を列で実行しました。

処置: 次の断片用に別のバッファを指定して、断片を取り出せるようにしてください。

ORA-03131 次の断片に無効なバッファが提供されました。

原因: アプリケーションで、次の断片用のバッファの長さがゼロに指定されたか、または、NULL ポインタが指定されました。

処置: 次の断片用のバッファ・ポインタが NULL に指定されているかどうか、または長さがゼロに指定されているかどうかを確認してください。

ORA-03200 セグメント・タイプの指定が無効です。

原因: セグメント・タイプが TABLE、INDEX、または CLUSTER ではありません。

処置: 正しいセグメント・タイプを使用してください。

ORA-03201 グループ番号の指定が無効です。

原因: 空きリスト・グループの番号が負か、またはセグメント内の空きリスト・グループ数より大きくなっています。

処置: 正しいグループ番号を使用してください。

ORA-03202 スキャン制限の指定が無効です。

原因: スキャン制限に、セグメント内の空きリスト・グループの数よりも大きい正の整数値がありません。

処置: 正しいスキャン制限を使用してください。

ORA-03203 同時実行の更新アクティビティにより、領域分析が実行できません。

原因: ユーザー更新の量が多いため、領域の解析を妨げています。

処置: コマンドを再試行するか、または基礎オブジェクトをロックしてください。

ORA-03204 セグメント型の指定には、パーティション化を指示しなければなりません。

原因: 領域分析にパーティション名が指定されましたが、オブジェクト型はパーティション化を指示していません。

処置: オブジェクトがパーティション化されている場合は、セグメント型に PARTITION を指定してください。それ以外の場合は、パーティション名を省略してください。

ORA-03205 パーティション化された型を指定するときは、パーティション名が必要です。

原因: 領域分析にパーティション名が指定されませんでしたが、オブジェクト型はパーティション化を指示しています。

処置: オブジェクトがパーティション化されている場合は、パーティション名を指定してください。それ以外の場合は、非パーティション型を指定してください。

ORA-03206 AUTOEXTEND 句で (*string*) ブロックの最大ファイル・サイズが範囲外です。

原因: 自動拡張可能ファイルの最大ファイル・サイズが、使用可能なブロックの最大数を超えています。

処置: サイズを小さくして、再試行してください。

ORA-03207 コンポジット・オブジェクトにはサブパーティション型を指定してください。

原因: 領域分析にパーティション型が指定されましたが、オブジェクト型は複合パーティション化を指示しています。

処置: サブパーティション名およびサブパーティション型を指定してください。

ORA-03208 非コンポジット・オブジェクトにはパーティション型を指定してください。

原因: 領域分析にサブパーティション型が指定されましたが、オブジェクト型は非コンポジット・パーティション化を指示しています。

処置: パーティション名およびパーティション型を指定してください。

ORA-03209 DBMS_ADMIN_PACKAGE のファイル/ブロック仕様部が無効です。

原因: ファイル番号の値またはブロック番号の値が、制限外であるか、または矛盾しています。

処置: ファイル番号 / ブロック番号の値を訂正してください。

ORA-03210 DBMS_ADMIN_PACKAGE のオプション仕様部が無効です。

原因: オプション・パラメータの値のうち 1 つが、正しくありません。

処置: オプション値を訂正してください。

ORA-03211 セグメントが存在しないか、または無効な状態です。

原因: DBMS_SPACE_ADMIN 操作で指定されているセグメントが、存在しないか、またはこの操作に適切な状態ではありません。

処置: セグメントの指定を修正するか、または適切な状態でセグメントを指定してください。

ORA-03212 一時セグメントはローカル管理の表領域では作成できません。

原因: ローカル管理の永続表領域で、SORT/HASH/LOBS に一時セグメントを作成しようとした。

処置: ユーザーの一時表領域を一時表領域に変更するか、またはディクショナリ管理の永続表領域に変更してください。

ORA-03213 DBMS_SPACE パッケージの Lob セグメント名が無効です。

原因: DBMS_SPACE 操作で指定された LOB セグメントが、存在しません。

処置: セグメントの指定を修正してください。

ORA-03214 指定したファイル・サイズが必要最小値を下回っています。

原因: 追加 / サイズ変更のデータ・ファイル / テンポラリ・ファイルに指定されたファイル・サイズが、割当て単位の必要最小値として許可されていません。

処置: ファイル・サイズの指定を増やしてください。

ORA-03215 サイズ変更で指定したファイル・サイズが小さすぎます。

原因: データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルのサイズ変更で指定したファイル・サイズによって、ビットマップ制御構造がオーバーラップしました。

処置: ファイル・サイズの指定を増やしてください。

ORA-03216 表領域 / セグメント検証を続行できません。

原因: 検証中に、処理できない破損を検出しました。

処置: 手動で検証してください。

ORA-03217 TEMPORARY TABLESPACE の変更用オプションが無効です。

原因: TEMPORARY TABLESPACE の変更に、無効なオプションが指定されました。

処置: 有効なオプション (ADD TEMPFILE) を指定してください。

ORA-03218 CREATE/ALTER TABLESPACE に対するオプションが無効です。

原因: ローカル管理型の CREATE/ALTER TABLESPACE に対するオプションが無効です。

処置: 有効なオプションを 1 つ指定してください。

ORA-03219 ローカル管理の表領域にだけ適用されます。表領域 *string* はローカル管理ではありません。

原因: ローカル管理の表領域にのみ適用できる操作が、ディクショナリ管理の表領域に指定されました。

処置: 別の表領域に操作を再発行するか、または指定された表領域には適用されないので発行しないでください。

ORA-03220 DBMS_ADMIN_PACKAGE で必要なパラメータが NULL か、または欠落しています。

原因: プロシージャのいくつか、欠落しているパラメータまたは NULL パラメータで呼び出されました。

処置: 欠落しているパラメータを指定してください。

ORA-03230 セグメントは高水位より上の未使用領域の *string* しか含んでいません。

原因: 確保しようとしたブロックが多すぎます。

処置: KEEP の量を減らしてください。

ORA-03231 INITIAL エクステントが割当て解除されていない可能性があります。

原因: リリース 7.3 以前のリリースで切り捨てられたセグメントから、領域を割振り解除しようとした。

処置: KEEP の量を増やすか、またはセグメントを切り捨ててコマンドを再発行してください。

ORA-03232 *string* ブロックのエクステントを表領域 *string* から割り当てできません。

原因: 表領域の NEXT 値より大きい HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT 値を指定しようとした。

処置: ALTER TABLESPACE DEFAULT STORAGE を使って表スペースの NEXT 値を大きくするか、または HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT の値を小さくしてください。

ORA-03233 表 *string.string* のサブパーティション *string* を *string* (表領域 *string*) で拡張できません。

原因: 表領域の表サブパーティション・セグメントに、エクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-03234 索引 *string.string* のサブパーティション *string* を *string* (表領域 *string*) で拡張できません。

原因: 表領域の索引サブパーティション・セグメントに、エクステントを割り当てることに失敗しました。

処置: ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-03235 最大エクステント (*string*) に達しました (表 *string.string*、サブパーティション *string*)。

原因: 表サブパーティションが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-03236 最大エクステント (*string*) に達しました (索引 *string.string*、サブパーティション *string*)。

原因: 索引サブパーティションが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置: MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。そうでない場合、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータで再作成する必要があります。

ORA-03237 指定サイズの初期エクステントを割り当てることができません。

原因：空きリスト・グループの指定のために、初期エクステントのサイズが大きすぎます。

処置：セグメントに指定した空きリスト・グループの数を削減してください。

ORA-03238 LOB セグメント *string.string* のサブパーティション *string* が *string* で拡張できませんでした (表領域 *string*)。

原因：表領域の LOB サブパーティション・セグメントのエクステントを割り当てようとしたが、示された表領域に十分なスペースがないためできませんでした。

処置：ALTER TABLESPACE ADD DATAFILE 文を使用して、1 つ以上のファイルを指定された表領域に追加してください。

ORA-03239 MAXEXTENTS (*string*) に達しました (LOB セグメント *string.string*、サブパーティション *string*)。

原因：LOB サブパーティション・セグメントが MAXEXTENTS を超えて拡張しようとした。

処置：MAXEXTENTS がシステムの最大値よりも小さい場合は、それを大きくしてください。それ以外の場合は、より大きな INITIAL、NEXT または PCTINCREASE パラメータを使用してサブパーティションを再作成してください。

ORA-03240 ユーザーの一時表領域は移行中の表領域と同一です。

原因：ユーザー・デフォルト一時表領域は、移行中の表領域とは別である必要があります。

処置：ユーザー・デフォルト一時表領域を別のものに變更してください。

ORA-03241 単位サイズが無効です。

原因：表領域に無効な単位サイズを指定しました。

処置：正しい単位サイズを指定してください。単位サイズの見積りについては、『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-03242 表領域の移行が 500 回再試行されました。

原因：移行を完了するには、移行時に一時セグメントが表領域に存在してはいけません。

処置：オブジェクトの削除により、大きな一時セグメントが作成される場合は、表領域は移行しないでください。

ORA-03243 接続先 DBA が既存の制御情報と重複しています。

原因：再配置中の制御情報を重複させることはできません。

処置：他の宛先アドレスを選択してください。

ORA-03244 制御情報を割り当てる空き領域がありません。

原因：表領域の移行中、制御情報を書込める領域が見つかりませんでした。ビットマップ再配置中の場合は、指定された宛先に空き領域が見つかりませんでした。

処置：移行中の場合は、表領域の空きを増やして移行を再試行してください。ビットマップ再配置中の場合は、十分な空き領域のある宛先アドレスを指定してください。

ORA-03245 表領域はディクショナリ管理され、オンラインで永続的に移行できる必要があります。

原因：表領域が、ディクショナリで管理されていないか、オンラインでないか、または永続領域ではありません。

処置：表領域がオンラインかつ永続領域で、ディクショナリ管理されていることを確認してください。

ORA-03246 無効なブロック番号が指定されました。

原因：制御情報を指定された DBA に置けません。これは、指定されたブロック番号がファイルの終わりを超えているか、ファイルがこの位置に制御情報を格納するために十分な大きさではないためです。

処置：正しいブロック番号を指定してください。

ORA-03247 無効なブロック番号が指定されました。

原因：指定された宛先へのビットマップの再配置は、表領域を自己記述させます。

処置：他の宛先 DBA を選択してください。

ORA-03248 移行処理でセグメント作成アクティビティが多すぎます。

原因：移行中に、一時セグメントを作成しようとしてしました。

処置：このエラーは、移行を 500 回再試行した後で表示されます。セグメント作成アクティビティが少ないときに、移行を実行してください。

ORA-03274 ALLOCATE EXTENT と DEALLOCATE UNUSED オプションの両方が指定されています。

原因：DEALLOCATE オプションおよび ALLOCATE オプションが同じコマンドに指定されています。

処置：どちらかのオプションを選択するか、または 2 つのコマンドをそれぞれ発行してください。

ORA-03275 DEALLOCATE オプションの指定が重複しています。

原因：ALTER TABLE または ALTER INDEX に DEALLOCATE UNUSED オプションを複数指定しています。

処置：オプションは 1 度のみ指定してください。

ORA-03276 ALLOCATE EXTENT オプションの指定が重複しています。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX に ALLOCATE EXTENT オプションを複数指定しています。

処置: オプションは1度のみ指定してください。

ORA-03277 指定された SIZE が無効です。

原因: 指定する値が、整数である必要があります。

処置: 適切な整数値を選択してください。

ORA-03278 ALLOCATE EXTENT オプションの指定が重複しています。

原因: オプション (DATAFILE、SIZE または INSTANCE) が、1度以上指定されました。

処置: 各オプションは1度のみ指定してください。

ORA-03279 INSTANCE の指定が無効です。

原因: 指定された値が、有効なインスタンス名として認識されていません。

処置: 有効な名前を使用してください。

ORA-03280 DATAFILE ファイル名の指定が無効です。

原因: 想定された文字列リテラルが見つかりません。

処置: 文字列リテラルを使用して、ファイル名を指定してください。

ORA-03281 ALLOCATE EXTENT オプションが無効です。

原因: DATAFILE、SIZE または INSTANCE 以外のオプションが指定されました。

処置: 無効なオプションを削除して、コマンドを再実行してください。

ORA-03282 ALLOCATE EXTENT オプションがありません。

原因: ALLOCATE EXTENT オプションの指定がありません。

処置: DATAFILE、SIZE または INSTANCE オプションを1つ以上指定してください。

ORA-03283 指定したデータ・ファイル *string* は存在しません。

原因: そのデータ・ファイルは存在しません。

処置: 正しいデータ・ファイルでオプションを再試行してください。

ORA-03284 データ・ファイル *string* は表領域 *string* のメンバーではありません。

原因: 指定されたデータ・ファイルは、オブジェクトが常駐している表領域に属していません。

処置: 正しいデータ・ファイルでオプションを再試行してください。

ORA-03286 ALLOCATE EXTENT は HASH CLUSTERS に対して無効です。

原因: クラスタはハッシュ・クラスタなので、EXTENT 割当てオプションは使用できません。

処置: ハッシュ・クラスタではこのコマンドを使用しないでください。

ORA-03287 FREELIST GROUP の指定が無効です。

原因: 指定した FREELIST GROUP の数値が無効です。

処置: このオブジェクトには、1 からフリー・リスト・グループの数値の間の数値を選択してください。

ORA-03288 FREELIST GROUP および INSTANCE パラメータの両方は指定できません。

原因: FREELIST GROUP と INSTANCE の両方が 1 つの句に指定されています。

処置: どちらか 1 つを取り除いてください。

ORA-03290 CLUSTER または TABLE キーワードがないため TRUNCATE コマンドが無効です。

原因: 無効なオブジェクトを指定しました。

処置: TRUNCATE CLUSTER または TRUNCATE TABLE のいずれかを指定してください。

ORA-03291 STORAGE キーワードがないため TRUNCATE コマンドのオプションが無効です。

原因: STORAGE キーワードが必要です。

処置: DROP STORAGE または REUSE STORAGE のいずれかを指定してください。

ORA-03292 切り捨てようとした表はクラスタの一部です。

原因: 切り捨てようとしている表は、クラスタのメンバーです。

処置: TRUNCATE CLUSTER または DROP TABLE のいずれかを使用してください。

ORA-03293 切り捨てようとしたクラスタはハッシュ・クラスタです。

原因: INDEX CLUSTERS のみを切り捨てることができます。

処置: TRUNCATE を使用するかわりに、HASH CLUSTER を削除して再作成してください。

ORA-03296 データ・ファイルのサイズ変更ができません。ファイル *string* が見つかりません。

原因: 指定されたデータ・ファイルはサイズ変更できません。

処置: データ・ファイル名が有効であることを確認し、有効であれば、そのファイルがアクセス可能であることを確認してください。

ORA-03297 ファイルには、要求した RESIZE 値を超える使用中のデータが含まれています。

原因: 切り捨てられる領域内のファイルの一部が、データベース・オブジェクトによって現在使用されています。

処置: ファイルをサイズ変更する前に、この領域にエクステントを含んでいるセグメントを削除または移動するか、または切り捨てられた領域内が使用可能領域のみになるように、サイズ変更値を選択してください。

ORA-03298 データファイルを縮小できません。- ファイル *string* はホット・バックアップです。

原因: ファイルがホット・バックアップのとき、データ・ファイルを縮小しようとした。これは許可されていません。

処置: ホット・バックアップの完了後に、ファイルの縮小を再試行してください。

ORA-03299 ディレクトリ表 *string* を作成できません。

原因: ディクショナリ表は、データベースに対するコマンド ALTER DATABASE DATAFILE AUTOEXTEND ON の最初の実行時に作成されます。この操作に失敗しました。その原因として、システム表領域内の領域が不十分である可能性があります。

処置: エラー・スタックにある次のエラー・メッセージの処置を参照してください。

ORA-04000 PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えることはできません。

原因: クラスタまたは表の、PCTUSED および PCTFREE の合計が、100 を超えています。

処置: 値の合計を 100 以下に指定して、表 / クラスタを作成してください。

ORA-04001 順序パラメータ *string* は整数でなければなりません。

原因: 指定した *string* (順序パラメータ) が整数ではありません。

処置: 指定したパラメータに整数値を与えて、順序を作成してください。

ORA-04002 INCREMENT はゼロでない整数でなければなりません。

原因: 順序の INCREMENT がゼロに指定されました。

処置: INCREMENT をゼロでない値に指定してください。

ORA-04003 順序パラメータ *string* が順序に対して指定できる最大サイズ *string* 桁を超えています。

原因: *string* (順序パラメータ) の桁が多すぎます。

処置: 使用できる桁の数でパラメータを指定してください。

ORA-04004 MINVALUE は MAXVALUE より小さくなければなりません。

原因: MINVALUE に MAXVALUE 以上の値が指定されています。

処置: MAXVALUE より小さい MINVALUE を指定してください。

ORA-04005 INCREMENT は (MAXVALUE-MINVALUE) より小さくなければなりません。

原因: 指定された INCREMENT が、MAXVALUE-MINVALUE の値以上です。

処置: MAXVALUE-MINVALUE の値より小さい INCREMENT を指定してください。

ORA-04006 START WITH に MINVALUE より小さい値は指定できません。

原因: 指定した開始値は MINVALUE より小さくなっています。

処置: 開始値が MINVALUE 以上であることを確認してください。

ORA-04007 MINVALUE に現在値より大きい値は指定できません。

原因: 指定した MINVALUE が、現在値を超える値です。

処置: MINVALUE が現在値以下であることを常に確認してください。

ORA-04008 START WITH に MAXVALUE より大きい値は指定できません。

原因: 開始値が、MAXVALUE より大きいです。

処置: 開始値が MAXVALUE より小さいことを確認してください。

ORA-04009 MAXVALUE に現在値より小さい値は指定できません。

原因: 現在値が、指定している MAXVALUE の値より大きくなっています。

処置: 新しい MAXVALUE が、現在値より大きいことを確認してください。

ORA-04010 CACHE には 1 より大きい値を指定しなければなりません。

原因: CACHE 句の値が 1 でした。

処置: NOCACHE を指定するか、または 1 より大きな値を指定してください。

ORA-04011 順序 *string* は *string* から *string* の間の範囲でなければなりません。

原因: 順序パラメータのいずれかに指定した値が制限を超えています。

処置: これらの制限を超えない値をパラメータに指定してください。

ORA-04012 指定されたオブジェクトは順序ではありません。

原因: 指定したオブジェクト上で順序 DDL は実行できません。

処置: 名前の綴りに注意して、文を再入力してください。

ORA-04013 CACHE には 1 サイクルより小さい値を指定しなければなりません。

原因: CREATE SEQUENCE 文で指定した CACHE に対する数は、1 サイクルの値を超えています。

処置: サイクルを拡張するか、より小さい値をキャッシュするようにして、文を再実行してください。

ORA-04014 CYCLE を実施する降順の順序には MINVALUE を指定しなければなりません。

原因: その値を CREATE SEQUENCE 文に指定していません。CYCLE を実施する順序は、そこから再び開始する値を指定する必要があります。

処置: 順序を再作成し、開始値を指定してください。

ORA-04015 CYCLE を実施する昇順の順序には MAXVALUE を指定しなければなりません。

原因: その値を CREATE SEQUENCE 文に指定していません。CYCLE を実施する順序は、そこから再び開始する値を指定する必要があります。

処置: 順序を再作成し、開始値を指定してください。

ORA-04016 順序 *string* はもう存在していません。

原因: その次の値の処理中に順序が削除されました。

処置: 順序を再作成してください。

ORA-04017 パラメータ MAX_DUMP_FILE_SIZE の値 *string* (長さ =*string*) が無効です。

原因: MAX_DUMP_FILE_SIZE パラメータの文字列が、UNLIMITED 文字列の値と一致しないか、または基数である整数の 10 を示していませんでした。

処置: このパラメータに、適切な値を再度割り当ててください。

ORA-04018 _scn_scheme パラメータの値 *string* が無効です。

原因: _SCN_SCHEME 初期化パラメータに指定された値が、定義されたスキーマとして認識されません。

処置: 適切な値を再度割り当ててください。

ORA-04019 システム変更番号 (SCN) 方式に他のインスタンスとの互換性がありません。

原因: 別のインスタンスが互換性のない Oracle リリースを実行しているか、または別のインスタンスにある _SCN_SCHEME 初期化パラメータに、別の値が割り当てられました。

処置: _SCN_SCHEME パラメータが、すべてのインスタンスにある同じ値に設定されていることを確認してください。

ORA-04020 オブジェクト *stringstringstringstringstring* をロックしようとしてデッドロックを検出しました。

原因: ライブラリ・オブジェクトに対するロックを獲得しようとしたところ、デッドロックが検出されました。

処置: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-04021 オブジェクト *stringstringstringstringstring* をロック待ちしていてタイムアウトが発生しました。

原因: ライブラリ・オブジェクトをロックしようとしている間、タイムアウトが発生しました。

処置: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-04022 待機なしが要求されましたが、ディクショナリ・オブジェクトのロックで待機が必要です。

原因: 待機なしが要求されている間、ライブラリ・オブジェクトのロックを待つ必要があります。

処置: 時間を置いてから操作を再実行してください。

ORA-04028 オブジェクト *stringstringstringstringstring* のダイアナを生成できません。

原因: ロックが競合しているため、オブジェクトにダイアナを生成できません。

処置: このエラーをカスタマ・サポート・センターに報告してください。

ORA-04029 エラー ORA-*string* が発生しました (問合せ *stringstringstring*)。

原因: 問合せ対象の表またはビューがありません。エラー番号がそのエラー示しています。

処置: エラーを修正してください。

ORA-04030 *string* バイト (*string,string*) を割り当てようとしてプロセス・メモリーが不足しました。

原因: オペレーティング・システム・プロセスのプライベート・メモリーをすべて使い切っています。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。アプリケーションには、プロセスのメモリー・スペースを過度に割り当てる原因となる問題が存在している可能性があります。

ORA-04031 共有メモリーの *string* バイトを割り当てできません (*string, string, string, string*)。

原因: 共有プールに割り当てられた共有メモリーより多くの共有メモリーが必要です。

処置: 共有メモリーがメモリー不足の場合、大きいパッケージを確保するために DBMS_SHARED_POOL パッケージを使用するか、ご使用の共有メモリーを削減するか、または SHARED_POOL_RESERVED_SIZE および SHARED_POOL_SIZE 初期化パラメータの値を増やすことによって、使用可能な共有メモリーの量を増やしてください。大きいプールがメモリー不足の場合、LARGE_POOL_SIZE 初期化パラメータを増やしてください。

ORA-04041 パッケージ本体を作成する前にパッケージ仕様部を作成する必要があります。

原因: パッケージ仕様部を作成する前に、パッケージ本体を作成しようとしてしました。

処置: パッケージ仕様部を作成してから、パッケージ本体を作成してください。

ORA-04042 プロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体が存在しません。

原因: 存在しないプロシージャ、ファンクション、パッケージ、パッケージ本体をアクセスしようとしてしました。

処置: 名前が正しいかどうかを確認してください。

ORA-04043 オブジェクト *string* は存在しません。

原因：システムが認識しないオブジェクト名が指定されました。考えられる原因は次のとおりです。

- 表、ビュー、順序、プロシージャ、ファンクション、パッケージまたはパッケージ本体に対して無効な名前が入力された。システムは、無効な名前を認識できなかったため、指定したオブジェクトは存在しないというメッセージで応答しました。
- 改名できない索引またはクラスタ、またはその他のオブジェクトを改名しようとした。

処置：指定したオブジェクトの綴りを確認し、コードを再実行してください。(データ・ディクショナリを問い合わせることによって、表、ビュー、ファンクションなどの有効な名前をリストできます。)

ORA-04044 ここにはプロシージャ、ファンクション、パッケージ、型は指定できません。

原因：文中の不適當な位置に、プロシージャ、ファンクションまたはパッケージが指定されました。

処置：名前が正しいことを確認するか、または削除してください。

ORA-04045 *string.string* の再コンパイルまたは再検証中にエラーが発生しました。

原因：このメッセージは、次のエラーが適用しているオブジェクトを示しています。オブジェクトの暗黙の再コンパイルまたは再検証中に、エラーが発生しました。

処置：詳細は、次のエラーを確認して、オブジェクトに必要な訂正をしてください。

ORA-04046 コンパイル結果が大きすぎてサポートできません。

原因：大きなストアド・プロシージャをコンパイルおよび格納しようとした結果、大きすぎてシステムがサポートまたは格納できないコンパイル・データになりました。

処置：小さいストアド・プロシージャに分割して、ストアド・プロシージャのサイズを小さくしてください。

ORA-04047 指定オブジェクトが指定フラグと適合しません。

原因：フラグが示すオブジェクト型が、指定されたオブジェクト型と一致しません。

処置：正しいオブジェクトを指定するか、または適切なフラグを使用してください。

ORA-04050 プロシージャ、ファンクション、パッケージの名前がないか、または無効です。

原因：必須のプロシージャ、ファンクション、パッケージの名前が無効であるか、またはそれらが指定されていません。

処置：有効な名前を指定してください。

ORA-04051 ユーザー *string* はデータベース・リンク *string.string* を使用できません。

原因：リモート・オブジェクト・アクセスの進行中に、存在しないデータベース・リンクを使用しようとしたか、ログイン・ユーザーまたは PUBLIC 以外のユーザーが所有しているデータベース・リンクを使用しようとした。

処置: 要求を出す同一のユーザー ID から間接的なリモート・アクセスをすべて実行するために、ご使用のデータベース・リンクの構成を変更してください。

ORA-04052 リモート・オブジェクト *stringstringstringstringstring* の検索中にエラーが発生しました。

原因: リモート・オブジェクトの検索中に、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してください。リモート・データベース・システムが、問合せおよび検索に必要なビューを作成するために、KGLR.SQL を実行していることを確認してください。

ORA-04053 リモート・オブジェクト *stringstringstringstringstring* 評価中にエラーが発生しました。

原因: リモート・オブジェクトの評価中に、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正してください。リモート・データベース・システムが、問合せおよび検索に必要なビューを作成するために、KGLR.SQL を実行していることを確認してください。

ORA-04054 データベース・リンク *string* が存在しません。

原因: PL/SQL ブロックのコンパイル中に、存在しないデータベース・リンクを使用しようとした。

処置: 別のデータベース・リンクを使用するか、またはデータベース・リンクを作成してください。

ORA-04055 異常終了: *string* で、*string* を伴う非 REF の相互依存サイクルが形成されました。

原因: コンパイルされたライブラリ単位が、他のライブラリ単位と、非参照の相互に依存した循環を形成しているため、コンパイルが異常終了しました。このエラーは、この型を循環を形成する型の属性を持つ型とコンパイルすると発生します。次に例を示します。

```
create type t1; create type t2 (a t1); create type t1 (a t2);
```

処置: (REF を追加するか、または別の型を使用して) サイクルを中断してください。

ORA-04060 *string* を実行する権限が不十分です。

原因: 十分な権限なしに、ストアド・プロシージャを実行しようとした。

処置: 必要な権限を取得してください。

ORA-04061 *string* の既存状態は無効になりました。

原因: プロシージャが変更または削除されたため、無効になった既存状態またはストアド・プロシージャと矛盾が生じた既存状態を使用して、ストアド・プロシージャの実行を再開しようとした。

処置: 再試行してください。このエラーでは、パッケージすべての既存状態に再初期化が必要です。

ORA-04062 *string* (*string* について) が変更されました。

原因: ストアド・プロシージャを実行して、プロシージャの現行とは異なるタイムスタンプまたは署名を指定する RPC スタブを扱おうとしました。

処置: 新しいタイムスタンプを獲得するために、コール元のプログラムを再コンパイルしてください。

ORA-04063 *string* にエラーがあります。

原因: ストアド・プロシージャを実行しようとしたか、またはエラーのあるビューを使用しようとした。ストアド・プロシージャの場合には、問題は構文エラーか、または他の存在していないプロシージャへの参照にある可能性があります。ビューの場合には、問題はビューの定義問合せで、存在していない表への参照にある可能性があります。表が存在していない型やアクセスできない型を参照している場合にも、このエラーは発生します。

処置: エラーを修正するか、または必要に応じて参照されるオブジェクトを作成（あるいはその両方）してください。

ORA-04064 *string* は無効になりました。

原因: 無効になったストアド・プロシージャを実行しようとした。

処置: ストアド・プロシージャを再コンパイルしてください。

ORA-04065 *string* は実行されませんでした。変更 / 削除されています。

原因: 変更は削除されたストアド・プロシージャを実行しようとしたので、コール側プロシージャからの呼出しができません。

処置: その依存関係を再コンパイルしてください。

ORA-04066 実行不可能なオブジェクト, *string*

原因: 非プロシージャを実行しようとしています。

処置: 正しい名前が指定されているかどうかを確認してください。

ORA-04067 *string* は実行されませんでした。存在していません。

原因: 存在していないプロシージャを実行しようとしています。

処置: 正しい名前が指定されているかどうかを確認してください。

ORA-04068 パッケージ *stringstringstring* の既存状態は廃棄されました。

原因: ストアド・プロシージャを実行しようとしてエラーが発生しました。

処置: ともに表示されるエラー・メッセージを参照して、指摘されているエラーを訂正してください。アプリケーション状態を再初期化してから、プロシージャを再実行してください。

ORA-04070 トリガー名が無効です。

原因：無効なトリガー名を指定しました。

処置：トリガー名が予約済のキーワードでないことを検証してください。

ORA-04071 キーワード BEFORE または AFTER、INSTEAD OF がありません。

原因：トリガー文に BEFORE 句、AFTER 句または INSTEAD OF 句を指定していません。

処置：BEFORE、AFTER または INSTEAD OF のいずれかを指定してください。

ORA-04072 トリガー型が無効です。

原因：無効なトリガー名を指定しました。

処置：INSERT、UPDATE または DELETE のいずれかを指定してください。

ORA-04073 このトリガー型では列リストが無効です。

原因：列リストが、更新できないトリガー型に指定されました。

処置：列リストを削除してください。

ORA-04074 REFERENCING に指定した名前が無効です。

原因：REFERENCING 句に無効な名前を指定しました。

処置：REFERENCING 名が予約語でないことを検証してください。

ORA-04075 トリガー・アクションが無効です。

原因：トリガー・アクションに対して、文を指定しました。

処置：トリガー・アクションを再指定してください。

ORA-04076 NEW または OLD の指定が無効です。

原因：列に対して無効な NEW または OLD を指定しました。

処置：正しい NEW または OLD を使用して、列を再指定してください。

ORA-04077 WHEN 句は表レベル・トリガーで使用できません。

原因：WHEN 句は行レベル・トリガーにのみ指定できます。

処置：WHEN 句を削除するか、または各行に指定してください。

ORA-04078 NEW と OLD の値を同一にすることはできません。

原因：REFERENCING 句には NEW および OLD に対して同一の値が指定されています。

処置：OLD または NEW の REFERENCING 値を再指定してください。

ORA-04079 トリガーの指定が無効です。

原因：CREATE TRIGGER 文が無効です。

処置：正しい構文のために文を確認してください。

ORA-04080 トリガー *string* が存在しません。

原因：TRIGGER 名が無効です。

処置：トリガー名を確認してください。

ORA-04081 トリガー名 *string* がすでに存在しています。

原因：TRIGGER 名または TRIGGER 型がすでに存在しています。

処置：異なるトリガー名を指定するか、または同じ名前前のトリガーを削除してください。

ORA-04082 表レベル・トリガーで NEW または OLD 参照は使用できません。

原因：トリガーが、表トリガーの NEW 値または OLD 値にアクセスしています。

処置：NEW または OLD の参照を削除してください。

ORA-04083 トリガー変数 *string* が無効です。

原因：トリガー本体で参照されている変数が無効です。

処置：有効なトリガー変数型については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-04084 このトリガー型の NEW の値は変更できません。

原因：BEFORE 行挿入トリガーまたは更新トリガーでのみ、NEW トリガー変数を変更できます。

処置：トリガー型を変更するか、または変数の参照を削除してください。

ORA-04085 OLD 参照変数の値は変更できません。

原因：OLD 値は読取り専用であり、変更できません。

処置：OLD 変数を変更しないでください。

ORA-04086 トリガーの記述が長すぎるので、コメントをトリガー・コードに移動します。

原因：トリガーの記述は、(ディクショナリの記憶領域のために) 2000 文字に制限されています。記述に「when」句のテキスト、またはトリガーに対して実行された PL/SQL コードのテキストが含まれていません。

処置：トリガーの記述に長すぎるコメントがある場合には、コメントをトリガーの PL/SQL コードに移動してください。

ORA-04087 ROWID 参照変数の値は変更できません。

原因：ROWID は読取り専用であり、変更できません。

処置：ROWID の値を変更しないでください。

ORA-04088 トリガー *string.string* の実行中にエラーが発生しました。

原因: トリガーの実行中に、実行時エラーが発生しました。

処置: 操作に関連のあるトリガーを調べてください。

ORA-04089 SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーは作成できません。

原因: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーを作成しようとしました。

処置: SYS が所有しているオブジェクトに対してトリガーを作成しないでください。

ORA-04090 *string* に *string* と同じ表、イベント、トリガー時間が指定されています。

原因: トリガーが、重複したイベントおよびトリガー時間になっています。

処置: トリガーする情報を組み合わせて、指定時間に発生するトリガーにしてください。

ORA-04091 表 *string.string* は変更中の為、トリガー機能はこの表を読み込み / 修正することができません。

原因: トリガー（または文中で参照されるユーザー定義の PL/SQL ファンクション）が、トリガーを起動した文によって変更中の表を問合せ（または変更）しようとした。

処置: その表をコールしないようにトリガー（または関数）を修正してください。

ORA-04092 トリガーを *string* できません。

原因: トリガーが、コミットまたはロールバックしようとした。

処置: トリガーを書き直して、コミットまたはロールバックしないようにしてください。

ORA-04093 LONG 型の列への参照はトリガー内で作成することはできません。

原因: トリガーは、トリガーしている表内の LONG 型列を参照しようとした。

処置: トリガーしている表の LONG 列を参照しないようにしてください。

ORA-04094 表 *string.string* は制約が付いているためトリガーによって修正することはできません。

原因: 親 SQL 文の参照制約のために、制限される表をトリガーが修正しようとした。

処置: その表を修正しないようにトリガーを修正してください。

ORA-04095 トリガー *string* はすでに別の表に存在しています。交換できません。

原因: 交換しようとしているトリガーが、別の表にすでに存在しているトリガーなので変換できません。

処置: 同じ名前でトリガーを削除して、トリガーを再作成してください。

ORA-04096 トリガー *string* にある WHEN 句が大きすぎます。最大 2K

原因: トリガーの WHEN 句は、ディクショナリの記憶領域のために 2K に制限されています。作成中のトリガーが大きすぎます。

処置: 小さい WHEN 句を使用してください。トリガー本体は、WHEN 句と同じ制限アクションを実行するために使用されることに注意してください。

ORA-04097 トリガーを削除または変更しようとして DDL 衝突が発生しました。

原因: 2 つの DDL 操作をトリガーまたはトリガー表で同時に実行しようとしてしました。

処置: トリガーの現在の状態を調べ、必要に応じて DDL 操作を再実行してください。

ORA-04098 トリガー *string.string* が無効で再検証に失敗しました。

原因: トリガーを実行しようとして検索し、無効であることが分かりましたが、それは保存されていませんでした。トリガーを保存しないリリースから不適切なアップグレードが行われた可能性があります。

処置: コンパイル / 許可エラーを解決するには、トリガーを使用禁止にするか、トリガーを削除してください。

ORA-04099 トリガー *string* は有効ですが、コンパイルされた形式で保存されません。

原因: トリガーを実行しようとして検索し、有効であることが分かりましたが、それは保存されていませんでした。トリガーを保存しないリリースから不適切なアップグレードが行われた可能性があります。

処置: トリガーのコンパイルを変更して、保存された書式でトリガーを作成してください。また、適切にアップグレードされているかを確認しなくてはならない場合もあります。

ORA-04100 ～ ORA-07499

ORA-04930 順序番号のオープンに失敗したか、または無効な初期状態です。

原因：順序番号を共有するオペレーティング・システム・コンポーネントが正しくインストールされていないか、MC ハードウェア障害が発生した可能性があるか、または前のインスタンスが正しく停止されませんでした。

処置：オペレーティング・システム・コマンド `ps -ef | grep instance_name` を使用して、このノードに以前のインスタンスからのバックグラウンドまたはフォアグラウンド Oracle プロセスがないことを確認してください。オペレーティング・システム・コマンド `ipcs -b` を発行することによって、Oracle の owner に属する共有メモリー・セグメントがないことを確認してください。システムに共有メモリー・セグメントまたはプロセスがまだある場合、中止オプションを指定した `SVRMGRL` を使用して、インスタンスを停止してください。インスタンスが起動していない場合は、クラスタ・ソフトウェアまたはハードウェア（あるいはその両方）がインストールされ、作動していることを確認してください。スーパー・ユーザーとしてログインし、`CNXTSHOW` コマンドを発行してください。クラスタのノードがすべて表示されていますか？それらはクラスタのメンバーですか？ノード間の通信は正常ですか？これらの質問に対するいずれかの答えがノーである場合、Digital 社のカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-04931 順序番号の初期値を設定できません。

原因：SSN の呼出しが順序番号の初期値の設定に失敗しました。これは MC ハードウェアの問題で発生することがあります。

処置：MC ハードウェアが正しく機能していることを確認してください。正しく機能していない場合は、Digital 社のカスタマ・サポートに連絡してください。正しく機能している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04932 順序番号の増分または調整に失敗しました。

原因：SSN の呼出しが順序番号の増分に失敗しました。

処置：MC ハードウェアが正しく機能していることを確認してください。正しく機能していない場合は、Digital 社のカスタマ・サポートに連絡してください。正しく機能している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04933 初期のサービス識別子がゼロ以外です。

原因: 順序番号サービスがオープンされる前に、有効なサービス識別子が存在しました。

処置: インスタンスが完全に停止していることを確認してください。

ORA-04934 現行の順序番号を取得できません。

原因: SSN の呼出しが、現行の値を戻すことに失敗しました。MC ハードウェアに多くのエラーが発生したか、または順序番号が無効になり確認できません。

処置: MC ハードウェアが正しく機能していることを確認してください。正しく機能している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-04935 SCN リカバリロックを取得または変換できません。

原因: プロセスが SCN リカバリ・ロックの取得または変換中にタイムアウトしました。別のプロセスが EX または SHR モードでロックしましたが、そのロックが開放されていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06000 NETASY: ポートのオープンでエラーが発生しました。

原因: 自動ログインでポートをオープンできません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06001 NETASY: ポートの設定でエラーが発生しました。

原因: 自動ログインでポートの属性を変更できません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06002 NETASY: ポートの読み込みでエラーが発生しました。

原因: 自動ログインではポートを読み込むことができません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06003 NETASY: ポートの書き込みでエラーが発生しました。

原因: 自動ログインではポートを書き込むことができません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06004 NETASY: ダイアログ・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: 自動ログインではダイアログ・ファイルをオープンできません。

処置: 接続文字列が正しいか、または誤字などがないかを確認してください。

ORA-06005 NETASY: ダイアログ・ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: 自動ログインではダイアログ・ファイルを読み込みできません。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06006 NETASY: ダイアログの実行に失敗しました。

原因: 予期していた応答が受信できませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06007 NETASY: ダイアログの構文エラーが発生しました。

原因: ダイアログ・ファイルに構文エラーがあります。

処置: ダイアログ・ファイルを修正してください。

ORA-06009 NETASY: ダイアログ・ファイル名が長すぎます。

原因: ダイアログ・ファイルのファイル指定の全体の長さが 64 バイトを超えています。

処置: 接続文字列を修正してください。

ORA-06010 NETASY: ダイアログ・ファイルが長すぎます。

原因: ダイアログ・ファイルの長さが 768 バイトを超えています。

処置: ダイアログを簡潔にするか（コメントや冗長な空白の削除など）、または 2 つに分割して MORE コマンドにリンクしてください。

ORA-06011 NETASY: ダイアログが長すぎます。

原因: 次のどれかです。

- ダイアログに 25 以上の交換ブロックが含まれている。
- ダイアログ送信文字列の長さが 84 バイトを超えている。

処置: ダイアログを簡潔にするか、2 つに分割して MORE コマンドでリンクしてください。

ORA-06017 NETASY: メッセージの受信でエラーが発生しました。

原因: ネットワーク読み込み操作中に、非同期ドライバが I/O エラーを取得します。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06018 NETASY: メッセージの送信でエラーが発生しました。

原因: ネットワーク書き込み操作中に、非同期ドライバが I/O エラーを取得しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06019 NETASY: ログイン接続文字列が無効です。

原因: ログイン文字列の構文エラーがあります。

処置: 正しい文字列で再実行してください。

ORA-06020 NETASY: 初期化でエラーが発生しました。

原因: 非同期ドライバが初期化を完了できませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06021 NETASY: 接続に失敗しました。

原因: 非同期ドライバがパートナーと接続できませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06022 NETASY: チャネルのオープンでエラーが発生しました。

原因: 空きチャネルがありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06023 NETASY: ポートのオープンでエラーが発生しました。

原因: 非同期ドライバがポートをオープンできませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06024 NETASY: VTM エラーが発生しました。

原因: Virtual Terminal Manager でポートの読取り / 書込みができませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06025 NETASY: 構成でエラーが発生しました。

原因: 生成された非同期ドライバはサーバー専用ですが、クライアント・サービスによって要求されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06026 NETASY: ポートのクローズでエラーが発生しました。

原因: 非同期ドライバでポートをクローズできませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06027 NETASY: チャネルのクローズでエラーが発生しました。

原因: 非同期ドライバでチャネルをクローズできませんでした。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・コードをログ・ファイルで確認してください。

ORA-06028 NETASY: ログに対して初期化できません。

原因: 非同期ドライバでロギング I/O に対して初期化できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06029 NETASY: ポートの割り当てに失敗しました。

原因: 非同期ドライバでチャネルにポートを割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06030 NETDNT: ノード名が不明のため接続に失敗しました。

原因: ホスト文字列に指定されたノード名が不明です（綴りが間違っている可能性があります）。

処置: 正しいノード名で再試行してください。

ORA-06031 NETDNT: オブジェクト名が不明のため接続に失敗しました。

原因: ホスト文字列に（存在しない）オブジェクトへの参照が含まれています。

`@d:node-obj => object is ORDNobj;`

- *node* が VMS の場合、オブジェクトは ORDNobj.COM です
- *node* が UNIX の場合、オブジェクトは ORDNobj@d:node::"task=obj" =>objectisobj; です
- *node* が VMS の場合、オブジェクトは obj.COM です
- *node* が UNIX の場合、オブジェクトは obj です

処置: 正しいオブジェクト名で再試行するか、またはホスト・ノードに必要なオブジェクトを作成してください。

ORA-06032 NETDNT: アクセス制御データが拒否されたため接続に失敗しました。

原因: ホスト文字列に無効なユーザー名 / パスワードが含まれています。

処置: 正しいユーザー名 / パスワードで再試行してください。

ORA-06033 NETDNT: パートナが接続を拒否したため接続に失敗しました。

原因: パートナとの接続が拒否されました。

処置: ネットワーク管理者に連絡してください。

ORA-06034 NETDNT: パートナが予期せず終了したため接続に失敗しました。

原因: ホスト・ノードとの接続がパートナーによって強制終了されました。

処置: オブジェクト（前述の 06031 を参照）が作動しているか（VMS がコマンド・ファイルを実行している場合は、Oracle サーバー・プロセスが起動しているか）を確認してください。これは、ネットワーク / ノードに負荷がかかっている場合に発生することがあります。この場合、再試行が有効です。

ORA-06035 NETDNT: リソースが十分ないため接続に失敗しました。

原因: 接続を完了するにはシステム・リソースが不十分です。たとえば、DECnet チャネルがすべて使用中です。

処置: ネットワーク管理者に連絡してください。

ORA-06036 NETDNT: オブジェクトからの応答がないため接続に失敗しました。

ORA-06037 NETDNT: ノードが立ち上がっていないため接続に失敗しました。

原因: ホスト・ノードが停止しています。

処置: ネットワーク管理者に連絡してください。

ORA-06038 NETDNT: ネットワーク・ドライバがロードされていないため接続に失敗しました。

ORA-06039 NETDNT: 接続に失敗しました。

原因: 予期しない理由で接続が失敗しました（OSD エラーを参照）。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06040 NETDNT: ログイン接続文字列が無効です。

原因: ログイン文字列の構文エラーがあります。

処置: 正しい文字列で再実行してください。

ORA-06041 NETDNT: 接続の切り離しに失敗しました。

原因: ネットワークのクローズ操作中に、ドライバがエラーを受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06042 NETDNT: メッセージの受信に失敗しました。

原因: ネットワーク読み込み操作中に、ドライバが I/O エラーを受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06043 NETDNT: メッセージの送信に失敗しました。

原因: ネットワーク書き込み操作中に、ドライバが I/O エラーを受け取りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06044 NETDNT: バイト・カウント割当て制限を超えたため接続に失敗しました。

原因: バイト・カウント割当てが十分でないため接続に失敗しました。

処置: バイト・カウント割当てを増やしてください。

ORA-06102 NETTCP: コンテキスト領域を割当てられません。

原因: 接続コンテキスト領域で使用できる動的メモリーが不十分です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06105 NETTCP: リモート・ホストが不明です。

原因: ログイン（接続）文字列で指定されたホスト名が不明です。

処置: 綴りを調べ、その名前が TCP/IP ホスト・ファイルにあることを確認してください。

ORA-06106 NETTCP: ソケット作成に失敗しました。

原因: プロセスのオープン・ファイルの割当てを超えている可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06107 NETTCP: Oracle ネットワーク・サーバーが見つかりません。

原因: Oracle サーバーの SERVICES ファイルにエントリがありません。

処置: TCP/IP SERVICES ファイルに（ORASRV）エントリを追加してください。

ORA-06108 NETTCP: ホストへの接続に失敗しました。

原因: リモート・ホストへの接続に失敗しました。リモート・ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが起動されていないか、またはホスト自体が起動されていない可能性があります（Telnet で後者を確認してください）。

処置: リモート・ホストで、SQL*Net TCP/IP サーバー・プロセスを起動してください。

ORA-06109 NETTCP: メッセージの受信に失敗しました。

原因: ネットワークの読取り操作の試行中に I/O エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06110 NETTCP: メッセージの送信に失敗しました。

原因: ネットワークの書込み操作の試行中に I/O エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06111 NETTCP: 接続の切離しに失敗しました。

原因: ソケットのクローズ中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06112 NETTCP: バッファ・サイズが無効です。

原因: ログイン文字列に指定されたバッファ・サイズが最大値 (4096) を超えています。

処置: 有効なバッファ・サイズで再実行してください。

ORA-06113 NETTCP: 接続が多すぎます。

原因: 同時にオープンする接続が最大数に達しました。

処置: 必要のないオープン接続を行っているアプリケーションを終了してください。

ORA-06114 NETTCP: SID の参照に失敗しました。

原因: リモート・ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーから、ログイン (接続) 文字列に指定されたデータベース SID が認識されませんでした。

処置: リモート・ホストの CONFIG.ORA ファイルに適切な SID エントリを追加してください (SQL*Net TCP/IP サーバーを再起動してください)。

ORA-06115 NETTCP: Oracle ロジカルを作成できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、Oracle サーバー・プロセスに必要な論理名を作成できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06116 NETTCP: ORASRV プロセスを作成できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが Oracle サーバー・プロセスを作成できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06117 NETTCP: 割当て制限を超えているため ORASRV を作成できません。

原因: 割当てが不十分のため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが Oracle サーバー・プロセスを作成できませんでした。

処置: SQL*Net TCP/IP サーバー・プロセスへの割当てを増やしてください。

ORA-06118 ETTCP: ORASRV とのハンド・シェイクを完了できません。

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動されましたが、初期化を完了できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06119 NETTCP: クライアント要求が無効です。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーがこの接続要求を認識できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06120 NETTCP: ネットワーク・ドライバがロードされていません。

原因: TCP/IP ネットワーク・ドライバがロードされていません。

処置: TCP/IP ドライバが正しくロードされていることを確認してください。

ORA-06121 NETTCP: アクセスに失敗しました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求と対応付けられた SID マッピング・ファイル (CONFIG.ORA で指定されている) のアクセス可能性をテストできませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06122 NETTCP: セット・アップに失敗しました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求の処理に適した環境を設定できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06123 NETTCP: KEEPALIVE 設定ができません。

原因: SQL*Net TCP/IP サーバーがソケット KEEPLIVE オプションを設定できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06124 NETTCP: ORASRV を待っている間にタイムアウトが発生しました。

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動しましたが、N 秒後に応答できませんでした。

処置: 負荷の高いシステムの場合、珍しいエラーではありません。CONFIG.ORA ファイルに SQLNET ORASRV_WAIT = no_of_secs エントリを入力して、N の値 (デフォルトは 30) を増やしてください。SQLNET ORASRV_WAIT = no_of_secs これは、次に SQL*Net TCP/IP サーバーが起動したときに有効となります。

ORA-06125 NETTCP: ORASRV は予期せず終了しました。

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動しましたが、予期せず終了しました。次の原因が考えられます。

1. ORASRV を実行する割当てが不十分である。
2. Oracle がインストールされていない。詳細は、ORASRV 出力ファイルを参照してください。ファイルは ORA_SQLNET ディレクトリにあり、ORA_SRVTnn_sid.OUT 形式の名前が付いています。

処置: 適切な処置が ORASRV 出力ファイルで明らかにならない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06126 NETTCP: ORASRV はネットワーク接続をオープンできません。

原因: Oracle サーバー・プロセスが起動しましたが、ORASRV によって渡されたソケットをオープンできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06127 NETTCP: ユーザー名を変更することはできません。

原因: クライアントのユーザー名が (ホスト・オペレーティング・システムに対して) 不明のため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが PROXY LOGIN 接続を確立できませんでした。

処置: 新規のユーザー・アカウントをホストに作成してください。

ORA-06128 NETTCP: mailbox を作成できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、(Oracle サーバー・プロセスとの IPC 通信に必要な) mailbox を作成できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06129 NETTCP: ORASRV にソケットのオーナーを転送できません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、Oracle サーバー・プロセスへのネットワーク通信ハンドルを転送できませんでした。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06130 NETTCP: ホストへのアクセスは拒否されました。

原因: ホストの CONFIG.ORA のコンポーネントである有効ノード表 (VNT) の内容によって決定されているように、クライアント・ノードはアクセス権限を持たないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーによって、この接続要求は拒否されました。

処置: アクセス権を付与するために、ホストの VNT に適切なエントリを追加してください。

ORA-06131 NETTCP: ユーザーはアクセスを拒否されました。

原因: ホストの CONFIG.ORA のコンポーネントであるユーザー名マッピング表 (UMT) の内容によって決定されているように、クライアント・ユーザー (名) はアクセス権限を持たないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーによって、この接続要求は拒否されました。

処置: アクセス権を付与するために、ホストの UMT に適切なエントリを追加してください。

ORA-06132 NETTCP: パスワードが無効なためアクセスが拒否されました。

原因: クライアント・パスワードがホスト・パスワードと一致しないため、ホストの SQL*Net TCP/IP によってこの接続要求は拒否されました。

処置: アクセス権を付与するために、パスワードの同期を取ってください。

ORA-06133 NETTCP: ファイルが見つかりません。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求と対応付けられた SID マッピング・ファイル (CONFIG.ORA で指定されている) を見つけることができませんでした。

処置: CONFIG.ORA の綴りを確認し、エントリを訂正してください。

ORA-06134 NETTCP: ファイル・アクセス権限違反です。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが、この接続要求と対応付けられた SID マッピング・ファイル (CONFIG.ORA で指定されている) に対して READ/EXECUTE 権限を持っていませんでした。

処置: SID マッピング・ファイルの保護を変更してください。

ORA-06135 NETTCP: サーバーが停止しているので接続は拒否されました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが停止しているため、この接続を拒否しました。

処置: SQL*Net TCP/IP サーバーを再起動してください。

ORA-06136 NETTCP: 接続中にハンド・シェイク・エラーが発生しました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーと通信中に、ネットワークの I/O 障害が発生しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06137 NETTCP: 接続中にハンド・シェイク・エラーが発生しました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーと通信中に、ネットワークの I/O 障害が発生しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06138 NETTCP: 接続中にハンド・シェイク・エラーが発生しました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーと通信中に、ネットワークの I/O 障害が発生しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06140 NETTCP: このユーザーは登録されていません。

原因: ホストにクライアント・ユーザー名と対応するものがないため、プロキシ・ログイン接続に失敗しました。

処置: ホストに対応するものがあるユーザーで再実行してください。

ORA-06141 NETTCP: このユーザーには権限がありません。

原因: SQL*Net TCP/IP サーバーがプロキシ・アカウントにアクセスするための十分な権限がないため、プロキシ・ログイン接続に失敗しました。

処置: アカウント保護を変更し、サーバー権限を変更してください。

ORA-06142 NETTCP: ユーザー情報の取得中にエラーが発生しました。

原因: SQL*Net TCP/IP サーバーにプロキシ・アカウントへアクセスできないため、プロキシ・ログイン接続に失敗しました。詳細は、SQL*Net TCP/IP サーバー・ログ・ファイルを参照してください。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06143 NETTCP: 最大接続数を超えました。

原因: ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーでサポートされている同時接続の最大値にすでに達しているため、接続に失敗しました。

処置:しばらく待って再試行してください。

ORA-06144 NETTCP: SID（データベース）は使用できません。

原因: ホストのデータベース管理者によって SID がオフラインに変更されました。

処置: オンラインに変更されるまでお待ちください。

ORA-06145 NETTCP: イメージがインストールされていないので ORASRV が開始できません。

原因: Oracle の保護イメージがインストールされていないため、ホストの SQL*Net TCP/IP サーバーが Oracle サーバー・プロセスを起動できませんでした。

処置: イメージをインストールしてください。

ORA-06200 TWOTASK: 接続に失敗したため mailbox を作成できません。

ORA-06201 TWOTASK: 接続に失敗したため mailbox へ Attach できません。

ORA-06202 TWOTASK: 接続に失敗したため、ORASRV プロセスを spawn できません。

ORA-06203 TWOTASK: 接続に失敗したため、ハンド・シェイクできません。

ORA-06204 TWOTASK: 接続に失敗したため ORASRV2.COM にアクセスできません。

ORA-06205 TWOTASK: 接続に失敗したため論理名を作成できません。

ORA-06206 TWOTASK: メッセージの受信に失敗しました。

ORA-06207 TWOTASK: メッセージの送信に失敗しました。

ORA-06208 TWOTASK: ログイン接続文字列が無効です。

ORA-06209 TWOTASK: mailbox はすでに存在するため接続に失敗しました。

ORA-06210 TWOTASK: ORASRV が予期せずに終了したため接続に失敗しました。

ORA-06211 TWOTASK: ORASRV を待っている際にタイムアウトが発生したため接続に失敗しました。

ORA-06212 TWOTASK: 論理名の表がいっぱいなため接続に失敗しました。

ORA-06213 TWOTASK: 接続に失敗しました。

ORA-06214 TWOTASK: ORASRV を作成するための割当て制限が十分でないため接続に失敗しました。

ORA-06215 TWOTASK: ORASRV 保護イメージがインストールされていないため接続に失敗しました。

ORA-06216 TWOTASK: ORASRV イメージ・ファイルが見つからないため接続に失敗しました。

ORA-06250 NETNTT: 送信および受信バッファを割り当てられません。

原因: 2 タスク・ドライバがデータ・バッファを割り当てられませんでした。

処置: ご使用のプログラムを実行するのに十分なメモリーがありません。他のプロセスを停止し、メモリーを開放してください。

ORA-06251 NETNTT: アドレス・ファイル名を変換できません。

原因: 環境変数 ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。

ORA-06252 NETNTT: アドレス・ファイルをオープンできません。

原因: NTT2 タスク・ドライバが、アドレス情報を含むファイルをオープンできませんでした。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。接続しようとしているインスタンスが実際に起動され、実行中であることを確認してください。

ORA-06253 NETNTT: アドレス・ファイルから引数を読み込めません。

原因: NTT2 タスク・ドライバが、アドレス・ファイルからアドレッシング情報を読み込めませんでした。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。接続しようとしているインスタンスが実際に起動され、実行中であることを確認してください。

ORA-06254 NETNTT: キューブと接続を共有できません。

原因: NTT2 タスク・ドライバがキューブと接続を共有できませんでした。

処置: 環境変数 ORACLE_HOME が正しく設定およびエクスポートされていることを確認してください。接続しようとしているインスタンスが実際に起動され、実行中であることを確認してください。

ORA-06255 NETNTT: リモート・プロセスの pid を読み込めません。

原因: NTT 通信リンクの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06256 NETNTT: リモートの fork が失敗しました。

原因: キューブの Oracle リスナー・プロセスがシャドウ・プロセスをフォークできませんでした。

処置: 接続しようとしているインスタンスに、別のシャドウ・プロセスを実行するのに十分なメモリーがない可能性があります。他のユーザーにログオフを依頼するか、または別のインスタンスに接続してください。

ORA-06257 NETNTT: シャドウ・プロセスにコマンド行を送信できません。

原因: NTT 通信リンクの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06258 NETNTT: コンテキスト領域を割り当てられません。

原因: 2 タスク・ドライバがデータ・バッファを割り当てられませんでした。

処置: ご使用のプログラムを実行するのに十分なメモリーがありません。他のプロセスを停止し、メモリーを開放してください。

ORA-06259 NETNTT: リモート・プロセスから読み込めません。

原因: NTT 通信リンクの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06260 NETNTT: リモート・プロセスに書き込めません。

原因: NTT 通信リンクの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06261 NETNTT: nrange() が失敗しました。

原因: 接続を確立中に NRANGE () の呼出しが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06262 NETNTT: nfconn() が失敗しました。

原因: 接続を確立中に NFCONN () の呼出しが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06263 NETNTT: pi_connect でメモリーが足りなくなりました。

原因: 2 タスク・ドライバがデータ・バッファを割り当てられませんでした。

処置: ご使用のプログラムを実行するのに十分なメモリーがありません。他のプロセスを停止し、メモリーを開放してください。

ORA-06264 NETNTT: データ・プロトコル・エラーが発生しました。

原因: NTT2 タスク・ドライバが予期しないメッセージ・タイプを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06265 NETNTT: break プロトコル・エラーが発生しました。

原因: NTT2 タスク・ドライバが予期しないメッセージ・タイプを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06266 NETNTT: 書き込み長が不良です。

原因: NTT2 タスク・ドライバが内部一貫性チェックで失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06267 NETNTT: 状態が不良です。

原因: NTT2 タスク・ドライバが内部一貫性チェックで失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06268 NETNTT: /etc/oratab を読み込みません。

原因: NTT2 タスク・ドライバが、/etc/oratab から構成情報を読み込みませんでした。

処置: /etc/oratab が存在し、読み込み可能であることを確認してください。ファイルの形式が無効な場合にこのエラーが発生することがあります。また、ドライバのメモリーが足りない場合もこのエラーが発生します。

ORA-06300 IPA: 切断に失敗しました。

原因: サーバーからの切断中に致命的なエラーが発生しました。これは、アクセス不可なメッセージ・キューによって発生した可能性があります。

処置: メッセージ・キューがない場合、IPACTL を使用して SQL*Net IPA サーバーを再起動してください。それ以外の場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06301 IPA: ドライバ・コンテキストを割り当てられません。

原因: メモリー・プールがなくなりました。

処置: 状況を確認し、使用中のプログラムのメモリー割当てを少なくするか、または使用中の INIT.ORA ファイルを調整して再試行してください。

ORA-06302 IPA: リモート・ホストに接続できません。

原因: 次のどれかです。

- 指定されたホストへの接続を反映するように定義された ADI サーバーがありません。
- リモート・ホストがローカル・システムに認識されていません。
- リモート・ホストの Oracle カーネルが、IPA ドライバで生成されていません。

処置: 前述の原因を順次確認し、実際の原因を取り除いてください。

ORA-06303 IPA: メッセージ送信エラーが発生しました。

原因: SQL*Net IPA ドライバが、メッセージ・キューにメッセージを書込めませんでした。

処置: メッセージ・キューが存在し、アクセス可能であることを確認してください。必要であれば、IPACTL を再実行してください。

ORA-06304 IPA: メッセージの受信エラーが発生しました。

原因: SQL*Net IPA ドライバが、メッセージ・キューからメッセージを読み込めませんでした。

処置: メッセージ・キューが存在し、アクセス可能であることを確認してください。必要であれば、IPACTL を再実行してください。

ORA-06305 IPA: メッセージ型が無効です。

原因: ユーザーと Oracle 間の通信の同期がとれていません。このメッセージは通常発行されません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06306 IPA: メッセージ書き込み長にエラーがあります。

原因: IPA ドライバがキューにメッセージを書き込もうとしましたが、キューには大きすぎます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06307 IPA: 接続をリセットできません。

原因: 接続のリセット中に致命的なエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06308 IPA: 接続が有効でなくなりました。

原因: 接続がすべて使用中です。

処置: 何人かのカレント・ユーザーがログオフしてから再実行してください。

ORA-06309 IPA: メッセージ・キューが使用できません。

原因: SQL*Net IPA サーバーが起動されていません。

処置: IPACTL を実行してください。

ORA-06310 IPA: 環境変数が設定されていません。

原因: 環境変数が正しく設定されていません。

処置: 確認して修正してください。

ORA-06311 IPA: サーバーの最大数に到達しました。

原因: サーバーの最大数に到達しました。

処置: サーバーをいったん停止してから、最大数を増やして再起動してください。データベース・リンクには、リンクごとに1つのサーバーが必要です。データベース・リンクをサポートするのに十分な数のサーバーを起動してください。

ORA-06312 IPA: 送信サービス名が無効です。

原因: 指定された送信サービス名が無効です。

処置: サービス名を調べて訂正してください。

ORA-06313 IPA: 共有メモリーを初期化できません。

原因: 共有メモリーが正しく設定されていません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06314 IPA: イベントを設定できません。

原因: 致命的なプロセス間通信エラーです。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06315 IPA: 接続文字列が無効です。

原因: 接続文字列が無効です。

処置: 確認して修正してください。

ORA-06316 IPA: データベース SID が無効です。

原因: SID がリモート側で認識されていません。

処置: データベースが存在していないか、実行されていないか、またはその SID 用に確保されているサーバーがありません。

ORA-06317 IPA: ローカル・ユーザー最大数を超えました。

原因: ローカル側で、SQL*Net IPA の同時ユーザーの最大数を超えました。

処置: 接続が使用可能になるまでお待ちください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06318 IPA: ローカルの接続最大数を超えました。

原因: ローカル側で、異なるホストに対して SQL*Net IPA が処理できる同時接続の最大数を超えました。

処置: 接続が使用可能になるまでお待ちください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06319 IPA: リモート・ユーザー最大数を超えました。

原因: リモート側で、SQL*Net IPA の同時ユーザーの最大数を超えました。

処置: 接続が使用可能になるまでお待ちください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06320 IPA: リモート接続最大数を超えました。

原因: リモート側で、異なるホストから SQL*Net IPA が処理できる同時接続の最大数を超えました。

処置: 接続が使用可能になるまでお待ちください。問題が繰り返される場合は、システム管理者に連絡してください。

ORA-06321 IPA: リモート・サイトに到達できません。

原因: リモート・サーバーに接続中に、タイムアウトしました。この原因として、リモート SQL*Net IPA ソフトウェアが実行されていない可能性があります。別の原因として、リモートの開始サービス名が不適切である可能性があります。

処置: リモートの SQL*Net ソフトウェアを確認し、起動してください。正しいサービス名で起動されていることを確認してください。

ORA-06322 IPA: 共有メモリーで致命的なエラーが発生しました。

原因: 共有メモリー操作で内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06323 IPA: イベント・エラーが発生しました。

原因: 致命的なプロセス間通信エラーです。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06400 NETCMN: デフォルトのホスト文字列が指定されていません。

原因: 構成にデフォルトのホスト文字列が指定されていません。また、ユーザーによって接続文字列が明示的に指定されていません。

処置: デフォルトの接続文字列を指定してシステムを再構成するか、または接続文字列を明示的に使用してください。

ORA-06401 NETCMN: ドライバの指定文字が無効です。

原因: ログイン（接続）文字列に無効なドライバ指定文字が含まれています。

処置: 文字列を修正し、再実行してください。

ORA-06402 NETCMN: ブレーク・メッセージ受信中にエラーが発生しました。

原因: ブレーク・メッセージの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-6403 メモリーが割り当てられません。

原因: システムが必要な仮想メモリを割り当てられませんでした。

処置: さらに多くのメモリーを再構成するか、負荷を減らすか、または再試行してください。

ORA-06404 NETCMN: ログイン（接続）文字列が無効です。

原因：ログイン文字列の構文エラーがあります。

処置：文字列を修正し、再実行してください。

ORA-06405 NETCMN: プロトコル・リセット・エラーが発生しました。

原因：ブレイク状態からリセットできません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06406 NETCMN: ブレイク・メッセージの送信中にエラーが発生しました。

原因：ブレイク・メッセージの送信中にエラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06407 NETCMN: break 処理環境が設定できません。

原因：受信のバンド外ブレイク・メッセージに対する非同期ハンドラの設定中にエラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06408 NETCMN: メッセージ書式が無効です。

原因：パートナからのメッセージに不正なヘッダーが含まれています。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-6413 接続がオープンしていません。

原因：接続を確立できません。

処置：診断プロシージャを使用して、問題を正確に確認してください。

ORA-06416 NETCMN: テスト時にエラーが発生しました。

原因：ネットワーク接続の I/O 状態のテスト中にエラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06419 NETCMN: サーバーは Oracle を開始できません。

原因：リモート・サーバーが、クライアントのかわりに Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置：リモート Oracle プログラムの許可が正しく設定されていることを確認してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-06420 NETCMN: SID の参照に失敗しました。

原因：リモート・ホストのサーバーで、ログイン（接続）文字列に指定されたデータベース SID が認識されませんでした。

処置：リモート・ホストの CONFIG.ORA または ORATAB ファイルに適切な SID エントリを追加してください（リモート・サーバーの再起動が必要です）。

ORA-06421 NETCMN: 読み込みデータでエラーが検出されました。

原因: チェックサムまたは CRC の再計算中にエラーが見つかりました。

処置: 通信ノードのハードウェア障害の可能性があります。システム管理者にすぐに連絡してください。

ORA-06422 NETCMN: データの送信中にエラーが発生しました。

原因: リモート・ホストにデータを送信できませんでした。

処置: リモート・ホストに再接続し、システム管理者に連絡してください。

ORA-06423 NETCMN: データの受信中にエラーが発生しました。

原因: リモート・ホストからデータを受信できませんでした。

処置: リモート・ホストに再接続し、システム管理者に連絡してください。

ORA-06430 ssaio: シールが一致しません。

原因: ファンクション・コールで無効な引数が使用されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06431 ssaio: ブロック番号が無効です。

原因: ファイル・ブロック番号が、ファイルの範囲内にありません。追加情報として、ブロック番号が戻されます。

処置: ブロック番号が正しいかどうかを確認してください。DBFSIZE を実行し、ブロック番号がその範囲にあることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06432 ssaio: バッファが割り当てられていません。

原因: I/O バッファが 2K 境界に割り当てられていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06433 ssaio: lseek エラーが発生したため要求されたブロックをシークできません。

原因: 追加情報として、ブロック番号が戻されます。

処置: 戻された追加情報をオペレーティング・システムの参照マニュアルで調べてください。ブロック番号が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06434 ssaio: 読み込みエラー、データベース・ファイルから要求されたブロックを読み込めません。

原因: 読み込みシステム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06435 ssaio: 書込みエラー、データベース・ファイルから要求されたブロックを書き込めません。

原因: 書込みシステム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06436 ssaio: パラメータが無効なため非同期 I/O は失敗しました。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06437 ssaio: 非同期書込みではデータベース・ファイルへ書き込めません。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06438 ssaio: 非同期読込みではデータベース・ファイルへ読み込めません。

原因: 非同期 I/O システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報にブロック番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06439 ssaio: 非同期書込みが返したバイト数が無効です。

原因: この書込みコールは、切り捨てられています。追加情報として、ブロック番号とバイト数が戻されます。

処置: 書き込まれたブロック番号とバイト数が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06440 ssaio: 非同期読込みが返したバイト数が無効です。

原因: この読込みコールは、切り捨てられています。追加情報として、ブロック番号とバイト数が戻されます。

処置: 読み込まれたブロック番号およびバイト数が正しいかどうかを確認してください。

ORA-06441 ssvwatev: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: Oracle プロセス ID、待機時間またはイベント ID のいずれかが無効です。

処置: 追加情報として、プロセス ID、時間、イベント ID が示されます。

ORA-06442 ssvwatev: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: ご使用のシステムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06443 ssvpstev: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: このルーチンに無効なイベント ID が渡されました。

処置: 追加情報として、イベント ID が示されます。

ORA-06444 ssvpstev: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: ご使用のシステムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06445 ssvpstevrg: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: イベント ID が無効か、または低および高イベント ID が存在しません。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。この情報には、イベント ID、低位限界および高位限界が示されます。

ORA-06446 ssvpstevrg: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: ご使用のシステムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06447 ssvpstp: ファンクション・コールへ渡されたパラメータが無効です。

原因: このルーチンに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。

処置: 追加情報として、プロセス ID が示されます。

ORA-06448 ssvpstp: 予期しないエラー番号で失敗しました。

原因: ご使用のシステムに問題がある可能性があります。エラー・ログを確認してください。

処置: 追加情報として、エラー番号が示されます。戻された追加情報をオペレーティング・システムのマニュアルで調べてください。

ORA-06449 I/O リストまたは sysvvendor がインストールされていません。

原因: Oracle は SYSVENDOR インタフェース (INIT.ORA パラメータ USE_SYSVENDOR=TRUE) を使用しようとしたましたが、UNIX カーネルにリンクされた Oracle SYSVENDOR インタフェースがありません。

処置: このインタフェースを使用しない場合、または Oracle が使用できるように、このインタフェースと UNIX カーネルをリンクしない場合は、INIT.ORA に USE_SYSVENDOR=FALSE を設定してください。

ORA-06500 PL/SQL: 領域エラーが発生しました。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。メモリーを使い果たしたか、または破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06501 PL/SQL: プログラム・エラーです。

原因: 内部エラーです。PL/SQL プログラムでエラーが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06502 PL/SQL: 数値または値のエラー: *string*

原因: 算術、数値、文字列、変換または制約エラーが発生しました。たとえば、NULL 値を NOT NULL で宣言した変数に割り当てようとした場合、または 99 より大きい整数を NUMBER(2) で宣言した変数に割り当てようとした場合にこのエラーが発生します。

処置: 値が制約違反をしないように、データ、操作方法または宣言方法を変更してください。

ORA-06503 PL/SQL: ファンクションが値なしで返されました。

原因: PL/SQL ファンクションのコールを行いましたが、RETURN 文が実行されませんでした。

処置: 適当な型の値が戻るように PL/SQL ファンクションを書き直してください。

ORA-06504 PL/SQL: Result Set 変数の型が返されたか、または問合せが一致しません。

原因: 問合せの列の数または型（あるいはその両方）が、Result Set 変数の宣言されている戻り型と一致していないか、2 つの Result Set 変数の宣言されている型が一致していません。

処置: プログラムの文または宣言を変更してください。変数が実行中に実際に参照している問合せを確認してください。

ORA-06505 PL/SQL: 変数には、連続メモリーが 32767 バイト以上必要です。

原因: 32767 バイトより大きいメモリーを必要とする制約付きの PL/SQL 変数が宣言されました。現行の PL/SQL では、32767 バイトより大きい連続メモリーの割当てをサポートしていません。

処置: 変数宣言の制約を減らしてください。それが不可能な場合は、データベースまたは各国キャラクタ・セットを、同じ制約に対して小さいメモリーしか必要としないように変更してください。注意: キャラクタ・セットを変更すると、すべての PL/SQL の実行に影響を与えます。

ORA-06508 PL/SQL: コールしているプログラム単位が見つかりません。

原因: 見つけられないストアド・プログラムをコールしようとしてしました。そのプログラムは削除されているか、変更されて互換性がなくなっているか、またはコンパイルしてエラーが発生している可能性があります。

処置: パッケージ本体など参照されているプログラムがすべて存在し、互換性があるかどうかを確認してください。

ORA-06509 PL/SQL: このパッケージに対して ICD ベクトルがありません。

原因: Oracle 製品に付属のパッケージとで実行可能製品とでバージョンが競合しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06510 ユーザー定義の例外が処理されませんでした。

原因: ユーザー定義の例外が PL/SQL によって発生しましたが、処理されませんでした。

処置: 例外の原因となった問題を訂正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、ご使用のアプリケーション管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-06511 PL/SQL: カーソルはすでにオープンしています。

原因: すでにオープンしているカーソルをオープンしようとしてしました。

処置: 再オープンする前に、カーソルをクローズしてください。

ORA-06512 string 行 string

原因: 通常、これはメッセージ・スタックの最後で、PL/SQL コードのどこで問題が発生したかを示します。

処置: 例外の原因となった問題を訂正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、ご使用のアプリケーション管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-06513 PL/SQL: PL/SQL 表の索引がホスト言語配列の有効範囲内にありません。

原因: PL/SQL 表をホスト言語配列にコピーしようとしてしました。しかし、表の索引が 1 より小さいかまたはホスト言語配列の最大サイズを超えています。PL/SQL 表をホスト言語配列にコピーする場合、索引 1 の表項目が配列の最初の要素に置かれ、索引 2 の項目が配列の 2 番目の要素の置かれます。表項目が割り当てられてない場合、ホスト言語配列の対応する要素は NULL に設定されます。

処置: ホスト言語配列のサイズを大きくするか、または PL/SQL 表のサイズを小さくしてください。また、1 より小さい索引値を使用していないことも確認してください。

ORA-06514 PL/SQL: サーバーはリモート・コールを処理できません。

原因: リモート・コールにはカーソルの変数である複数のパラメータがあります。これは、ご使用のサーバーのストアード・プロシージャでは処理できません。

処置: このサーバーのストアード・プロシージャに対するパラメータとしてカーソル変数を使用しないようにするか、またはこれをサポートするバージョンにサーバーをアップグレードしてください。

ORA-06515 PL/SQL: 未処理例外 string です。

原因: PL/SQL コードによって例外が発生しましたが、処理されませんでした。例外番号は、Oracle エラーの正当な範囲外です。

処置: 例外の原因となった問題を訂正するか、またはこの条件に対する例外ハンドラを作成してください。または、ご使用のアプリケーション管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-06516 PL/SQL: Probe パッケージが存在しないか、または無効です。

原因: Probe パッケージがロードされていないか、無効になってしまったことが原因で、PL/SQL をデバッグするために Oracle Server を初期化しようとする Probe 操作が完了しなかった可能性があります。

処置: DBA は、Probe パッケージをロードする必要があります。RDBMS で提供されている PBLOAD.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-06517 PL/SQL: Probe エラー - *string*

原因: 実行用に Probe 操作をサーバーへ渡しているときにエラーが発生しました。

処置: 組み込まれたエラー・メッセージのエントリを参照してください。

ORA-06518 PL/SQL: Probe バージョン *string* はバージョン *string* と互換性がありません。

原因: Probe のカレント・バージョンは、Oracle Server 上のバージョンと互換性がありません。

処置: マニュアルを参照して、このレベルの互換性がサポートされていることを確認してください。

ORA-06519 アクティブな自律トランザクションが検出され、ロールバックされました。

原因: 自律 PL/SQL ブロックから戻される前に、ブロック内で開始したすべての自律型トランザクションを完了（コミットまたはロールバック）する必要があります。そうでない場合は、アクティブな自律型トランザクションが暗黙的にロールバックされ、このエラーが発生します。

処置: 自律型 PL/SQL ブロックから戻される前に、アクティブな自律型トランザクションが明示的にコミットまたはロールバックされることを確認してください。

ORA-06520 PL/SQL: 外部ライブラリのロード中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL で外部ライブラリを動的ロード中にエラーが検出されました。

処置: スタックしたエラーがある場合は、そのメッセージを参照して詳細を確認してください。

ORA-06521 PL/SQL: 関数のマップ中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL で示された関数を動的にマップしているときにエラーが検出されました。

処置: スタックしたエラーがある場合は、そのメッセージを参照して詳細を確認してください。

ORA-06522 *string*

原因: ORA-06520 または ORA-06521 後に、システム固有のエラー文字列を伴うメッセージを表示する場合があります。

処置: このエラー文字列は、ORA-06520 または ORA-06521 のエラーの原因を示しています。

ORA-06523 引数が最大値を超えています。

原因: 外部ファンクションに渡す引数の値には上限があります。

処置: ポート固有のドキュメントを参照して、上限の計算方法を確認してください。

ORA-06524 オプション: *string* はサポートされていません。

原因: 指定されたオプションは、外部プロシージャ用にはサポートされていない機能です。

処置: 外部指定の構文を修正してください。

ORA-06525 CHAR または RAW データの長さが一致しません。

原因: 長さ変数で指定された長さは、正しい値ではありません。対応する長さ変数のない RAW として PL/SQL の INOUT、OUT または RETURN RAW 変数を渡すように、要求した可能性があります。長さ変数に設定した長さの値が、ORLVSTR または ORLRAW の長さと一致しない場合も、このエラーが発生します。

処置: 外部プロシージャ・コードを訂正して、長さ変数を正しく設定してください。

ORA-06526 PL/SQL ライブラリをロードできません。

原因: EXTERNAL 構文で参照されているライブラリを PL/SQL でインスタンス化できません。これは、重大なエラーです。通常は発生しません。

処置: この問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06527 外部プロシージャ SQLLIB エラー: *string*

原因: Pro* 外部プロシージャの実行中、SQLLIB でエラーが発生しました。

処置: メッセージ・テキストに、実際に発生した SQLLIB エラーが示されています。

ORA-06528 PL/SQL プロファイラの実行でエラーが発生しました。

原因: PL/SQL プロファイラ・プロシージャの実行中にエラーが発生しました。

処置: 詳細はスタックしたエラーを確認してください。

ORA-06529 バージョンの不一致 - PL/SQL プロファイラ

原因: PL/SQL プロファイラ・パッケージ (DBMSPB.SQL、PRVTPBP.PLB) が、プロファイラをインプリメントしているサーバーのコードのバージョンと一致していません。

処置: \$ORACLE_HOME/rdbms/admin にある PROFLOAD.SQL パッケージを実行して、正しいバージョンの PL/SQL プロファイラ・パッケージをロードしてください。

ORA-06530 参照しているコンポジットは初期化されていません。

原因: 初期化されていないオブジェクト、LOB またはその他のコンポジットを間接的に参照しました。

処置: 適切なコンストラクタを使用するかまたはオブジェクト全体を割り当てて、コンポジットを初期化してください。

ORA-06531 参照しているコレクションは初期化されていません。

原因: (初期化されたコレクションが必要な場合に) コレクションを初期化せずに、NESTED TABLE または VARRAY の要素またはメンバー・ファンクションを参照しました。

処置: 適切なコンストラクタを使用するかまたはオブジェクト全体を割り当てて、コレクションを初期化してください。

ORA-06532 サブスクリプトが有効範囲外です。

原因: サブスクリプトが VARRAY の限界を超えています。あるいは、VARRAY または NESTED TABLE に対してポジティブではありません。

処置: プログラムのロジックを確認して、必要があれば VARRAY の制限を上げてください。

ORA-06533 サブスクリプトが制限数を超えています。

原因: インリミット・サブスクリプトが VARRAY のカウントを超えています。または、NESTED TABLE に対して大きすぎます。

処置: プログラムのロジックを確認して、必要があれば明示的に拡張してください。

ORA-06534 トリガーのコンテキストでは逐次再使用可能パッケージ *string* にアクセスできません。

原因: トリガー・コンテキストで、逐次再使用可能パッケージにアクセスを試みました。このようなアクセスは、現在サポートされていません。

処置: プログラム・ロジックを調べて、トリガー・コンテキストにある逐次再使用可能パッケージ (プロシージャ、ファンクションまたは変数参照) に対する参照を削除してください。

ORA-06535 *string* で文の文字列が NULL または長さが 0 です。

原因: プログラムが、NULL または 0 の長さの動的文の文字列を使用しようとしてしました。

処置: プログラム・ロジックを調べて、動的文の文字列が正しく初期化されていることを確認してください。

ORA-06536 IN バインド変数が OUT の位置にバインドされました。

原因: プログラムが、OUT バインド変数を想定している文に IN バインド変数をその位置でバインドしようとしてしました。

処置: OUT または IN OUT バインド・モードが、バインド引数に指定されていることを確認してください。

ORA-06537 OUT バインド変数が IN の位置にバインドされました。

原因: プログラムが、IN バインド変数を想定している文に OUT バインド変数をその位置でバインドしようとした。

処置: IN または IN OUT バインド・モードが、バインド引数に指定されていることを確認してください。

ORA-06538 文が *string* RESTRICT_REFERENCES プラグマに違反しています。

原因: プログラムが、文を実行するモジュールに対して（プラグマ RESTRICT_REFERENCES ディレクティブで）指定された純正レベルを満たしていない動的文を実行しようとした。

処置: 動的文が、文を実行するモジュールに対して指定された純正レベルを満たしていることを確認してください。

ORA-06539 OPEN のターゲットは問合せでなければなりません。

原因: プログラムが、問合せでない動的文で OPEN カーソル操作を実行しようとした。

処置: カーソルの OPEN 操作が動的問合せ文で実行されていることを確認してください。

ORA-06540 PL/SQL: コンパイル・エラーです。

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。ただし、通常では、このメッセージは表示されません。また、このメッセージの後には PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示される PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06541 PL/SQL: コンパイル・エラー - コンパイルは中止されました。

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生したため、コンパイルが異常終了しましたが、このコンパイル単位がバックアップ格納域に書き込まれています。ただし、ORA-06545 とは異なり、通常このエラー・メッセージは表示されません。また、このメッセージの後には PLS-nnnnn エラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示される PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06544 PL/SQL: 内部エラーです。引数: [string], [string], [string], [string], [string], [string], [string], [string]

原因: PL/SQL 内部エラーが発生しました。

処置: このエラーをバグとして報告してください。最初の引数は内部エラー番号です。

ORA-06545 PL/SQL: コンパイル・エラー - コンパイルは中止されました。

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生したため、コンパイルが異常終了しました。このコンパイル単位はバックアップ格納域に書き込まれていません。ORA-06541の場合と異なり、付属する PLS-nnnnn エラー・メッセージとともにこのエラーは表示されません。

処置: 続いて表示される PLS-nnnnn エラー・メッセージを参照してください。

ORA-06546 不正なコンテキストで DDL 文が実行されました。

原因: 不正な PL/SQL コンテキストで DDL 文が動的に実行されました。

- PL/SQL で DDL の動的 OPEN カーソル。
- DDL の EXECUTE IMMEDIATE の実行で、USING 句にバインド変数が使用された。
- DDL の EXECUTE IMMEDIATE の実行で、INTO 句に事前定義変数が使用された。

処置: DDL 文の実行には、USING 句および INTO 句を含まない EXECUTE IMMEDIATE を使用してください。

ORA-06547 RETURNING 句は、INSERT、UPDATE または DELETE 文で使用します。

原因: RETURNING 句を含む EXECUTE IMMEDIATE は、動的 UPDATE、INSERT または DELETE 文を実行する場合にのみ使用します。

処置: EXECUTE IMMEDIATE の RETURNING 句は、INSERT、UPDATE または DELETE 文でのみ使用してください。その他の文については、USING 句を使用してください。

ORA-06550 行 *string*、列 *string:string*

原因: PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。行と列に対して示された数値は PL/SQL ブロック内においてエラーの発生した位置です。

処置: エラーについての情報は、次の PL/SQL メッセージを参照してください。

ORA-06551 PL/SQL: 例外は処理されませんでした。

ORA-06552 PL/SQL: *string*

ORA-06553 PLS-*string*: *string*

ORA-06554 PL/SQL を使用する前にパッケージ DBMS_STANDARD を作成しなければなりません。

原因: PL/SQL のパッケージ STANDARD に対する DBMS 固有の拡張機能が、パッケージ DBMS_STANDARD にあります。このパッケージは、PL/SQL を使用する前に作成する必要があります。

処置: パッケージ DBMS_STANDARD を作成してください。この PL/SQL ストアド・パッケージは、配布時に提供されます。

ORA-06555 この名前は現在ユーザー SYS によって予約されています。

原因: STANDARD、DBMS_STANDARD または DEBUG_IO という名前のパッケージを作成しようとしてしました。これらは現在ユーザー SYS によって予約されています。

処置: ご使用のパッケージに別の名前を選択してください。

ORA-06556 パイプが空です。unpack_message 要求を実行できません。

原因: パイプには何も項目がありません。

処置: 送信側と受信側でパイプの項目の数と型が同期がとれているかを確認してください。

ORA-06557 icd's をパイプするパラメータには NULL 値を使用できません。

原因: DBMS_PIPE パッケージから内部エラーがでました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06558 dbms_pipe パッケージのバッファがいっぱいです。これ以上の項目は使用できません。

原因: パイプ・バッファ・サイズが限界です。

処置: プログラムを検査して、パイプへの入出力の比率を分析してください。
RECEIVE_MESSAGE を実行してパイプから項目を取り出すか、またはそのパイプに対して PURGE を実行してパイプ全体を空にする必要があります。

ORA-06559 要求されたデータ型 *string* が無効です。実際のデータ型は *string* です。

原因: 送信側が、要求されたデータ型（パッケージ DBMS_PIPE）とは異なるデータ型をパイプ上に置きました。数値は次のとおりです。

- 6 - number
- 9 - char
- 12 - date

処置: 送信側と受信側でパイプの項目の数と型が同期がとれているかを確認してください。

ORA-06560 pos, string は、負数、またはバッファ・サイズ *string* よりも大きい値です。

原因: DBMS_PIPE パッケージから内部エラーがでました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06561 パッケージ DBMS_SQL ではこの文はサポートされていません。

原因: パッケージ DBMS_SQL で提供されているプロシージャ PARSE を使用して、サポートされていない文を解析しようとしてしました。

処置: サポートされているのは、SELECT、DELETE、INSERT、UPDATE、LOCK、BEGIN、DECLARE または << (PL/SQL ラベル・デリミタ) で始まる文のみです。

ORA-06562 外部の引数の型が列またはバインド変数の型に合致しません。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ COLUMN_VALUE または VARIABLE_VALUE をコールして、列またはバインド変数の値を取得しようとした。ただし、指定された外部引数の型が、DBMS_SQL パッケージの DEFINE_COLUMN プロシージャ（列定義の場合）、または BIND_VARIABLE プロシージャ（バインド変数をバインドする場合）をコールして以前定義した列またはバインド変数の型と異なっていました。

処置：プロシージャ COLUMN_VALUE または VARIABLE_VALUE をコールする場合に、正しい型の OUT 引数を渡してください。この場合の正しい型とは、列の定義またはバインド変数のバインド時に指定した型のことです。

ORA-06563 最上位レベルのプロシージャ / ファンクションを指定しましたが、2 次的な部分は指定できません。

原因：解決する名前に 3 つの部分 a、b、c を指定しましたが、a と b の部分はネストしたプロシージャを持たない最上位レベルのプロシージャまたはファンクションに解決されました。これは、最上位レベルのパッケージまたはプロシージャに対するシノニムである 2 パート名 a.b の場合も発生します。

処置：パッケージ、または最上位レベルのプロシージャ / ファンクション内でプロシージャ / ファンクションを指定してください。

ORA-06564 オブジェクト *string* は存在しません。

原因：指定されたオブジェクトが見つかりませんでした。存在していないか、アクセス許可がない可能性があります。

処置：オブジェクトを作成するか、オブジェクトへのアクセス許可を取得してください。

ORA-06565 ストアド・プロシージャ内から *string* は実行できません。

原因：指定されたプロシージャを、ストアド・プロシージャ、ファンクションまたはパッケージの内部から実行することができません。このファンクションは、PL/SQL の無名ブロックからしか使用できません。

処置：コールするストアド・プロシージャからプロシージャを削除してください。

ORA-06566 指定された行数が無効です。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ DEFINE_COLUMN に対するコールに指定された行数が、無効でした。指定カーソルに指定されている解析文の場合、すべての列に同じ行数を定義するので、DEFINE_COLUMN に対するすべてのコールに同じ行数を指定する必要があります。

処置：前に定義された列と同じ数を指定してください。

ORA-06567 指定されている値の数が無効です。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ BIND_VARIABLE に対するコールに指定されたバインド値の数が無効でした。指定カーソルに指定されている解析文の場合、す

すべてのバインド変数に同じ数の値をバインドする必要があります。そのため、EXECUTE を実行する場合、BIND_VARIABLE に対する前回のコールで、すべてのバインド変数に同じ数の値が指定されている必要があります。

処置: バインド変数すべてに同じ数の値がバインドされているかどうかを確認してください。

ORA-06568 廃止になった ICD プロシージャがコールされました。

原因: PL/SQL プログラムによって呼び出された ICD プロシージャは廃止されました。この PL/SQL プログラムは、RDBMS 旧リリース用である可能性があります。

処置: すべての PL/SQL プログラムが、最新のリリースの RDBMS にアップグレードされているかどうかを確認してください。README ファイルのアップグレード指示に従うか、または RDBMS で提供されている CATPROC.SQL を実行すると確認できます。

ORA-06569 BIND_ARRAY で結合されたコレクションに要素がありません。

原因: 要素が 0 個のコレクションが、パッケージ DBMS_SQL 内のプロシージャ BIND_ARRAY のコールでバインド変数にバインドされました。コレクションのバインドを実行するためには、コレクションに少なくとも 1 つの要素が含まれている必要があります。実行時に要素が 1 つもないと値がバインドされず、文を実行する意味がありません。

処置: バインドする要素をコレクションに入れて、バインド・コールをやり直してください。

ORA-06570 共有プール・オブジェクトが存在しないため、使用できません。

原因: 指定された共有プールの共有カーソルが見つかりません。このため、ピンできません。

処置: 正しい共有カーソル名が指定されているかどうかを確認してください。名前の文字列形式は 'HHHHHHHHH,SDDDDDDDDDDD' で、この場合、H は V\$SQLAREA の 'address' 列の 8 桁の 16 進数、D は 'HASH_VALUE' 列の 1 ~ 10 桁の 10 進数（オプションの先行符号付き）を表しています。コールするストアド・プロシージャからプロシージャを削除してください。

ORA-06571 ファンクション *string* が、データベースを更新しないという保証はありません。

原因: 次のどれかです。

- SQL 文が、データベースが更新されないようにするプラグマが含まれていないパッケージ化された PL/SQL ファンクションを参照しています。
- SQL 文が、データベースを更新する指示が含まれているスタンドアロン PL/SQL ファンクションを参照しています。

処置: 参照されたファンクションがパッケージ化された PL/SQL ファンクションの場合、必要なプラグマで PL/SQL ファンクションを再作成し、プラグマの引数リストに 'Write No Database State' (WNDS) 引数を指定してください。参照されたファンクションがスタンドアロン PL/SQL ファンクションの場合は、そのファンクションを使用しないでください。

ORA-06572 ファンクション *string* に出力引数が指定されています。

原因：SQL 文が、引数リストに OUT パラメータが含まれているパッケージ化された PL/SQL ファンクションまたはスタンドアロン PL/SQL ファンクションのどちらかを参照しています。SQL 文によって参照される PL/SQL ファンクションには、OUT パラメータが含まれてはいません。

処置：引数リストで OUT パラメータを使用せずに、PL/SQL ファンクションを再作成してください。

ORA-06573 ファンクション *string* はパッケージ状態を変更するので、ここでは使用できません。

原因：次のどれかです。

- SQL 文が、'Write no Package State' (WNPS) が指定されたプラグマを含んでいないパッケージ化された PL/SQL ファンクションを参照しています。
- SQL 文が、パッケージ状態を変更するスタンドアロン PL/SQL ファンクションを参照しています。SQL 文によって参照されるスタンドアロン PL/SQL ファンクションは、パッケージ状態を変更できません。

処置：ファンクションがパッケージ化された PL/SQL ファンクションの場合、ファンクションを再作成して、'Write no Package State' (WNPS) を含むプラグマを追加してください。ファンクションがスタンドアロン PL/SQL ファンクションの場合は、SQL 文からそのファンクションを削除してください。

ORA-06574 ファンクション *string* はパッケージ状態を参照するので、リモートで実行できません。

原因：次のどれかです。

- 'Write no Package State' (WNPS) 引数および 'Read no Package State' (RNPS) 引数を持つプラグマを含んでいないリモートのパッケージ化されたファンクション、またはリモート・マップされたローカルのパッケージ化されたファンクションが、パッケージ状態を参照します。
- リモートのスタンドアロン・ファンクションまたはリモート・マップされたローカルのスタンドアロン・ファンクションに、パッケージ変数を読み書きするパッケージ状態への参照が含まれています。SELECT リスト、INSERT 文の VALUES 句または UPDATE 文の SET 句で参照されるローカル・ファンクションのみがパッケージ状態を変更できます。

処置：ファンクションがパッケージ化されたファンクションの場合は、ファンクションを再作成して、'Write no Package State' (WNPS) および 'Read no Package State' (RNPS) 引数を含むプラグマを追加してください。ファンクションがスタンドアロン・ファンクションの場合は、このファンクションをコールしないでください。

ORA-06575 パッケージまたはファンクション *string* は無効な状態です。

原因：SQL 文が、無効な状態になっている PL/SQL ファンクションを参照しています。Oracle がファンクションをコンパイルしようとしたが、エラーを検出しました。

処置: SQL 文および PL/SQL ファンクションに構文エラーがないかどうか、参照されているオブジェクトに権限が正しく割り当てられているか、または権限が欠落していないかを確認してください。

ORA-06576 ファンクションまたはプロシージャが無効です。

原因: コールするファンクション (INTO 句が存在する場合) またはプロシージャ (文に INTO 句がない場合) が見つかりません。

処置: 文を変更して、ファンクションまたはプロシージャを起動してください。

ORA-06577 出力パラメータがバインド変数ではありません。

原因: ファンクションまたはプロシージャの IN/OUT または OUT パラメータに対応する引数、あるいは CALL 文のファンクションの戻り値は、バインド変数である必要があります。

処置: 引数をバインド変数に変更してください。

ORA-06578 出力パラメータのバインド変数が重複しています。

原因: ファンクションまたはプロシージャの IN/OUT または OUT パラメータに対応するバインド変数、あるいは CALL 文のファンクションの戻り値は、重複するバインド変数であってははいけません。

処置: バインド変数が一意になるように変更してください。

ORA-06580 メモリー内に大きな行を保持中にハッシュ結合でメモリーがなくなりました。

原因: ハッシュ結合で 1 つの行に対してスロットを 3 つ (それぞれのスロットのサイズ = `DB_BLOCK_SIZE × HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT`) 確保していました。行がそれぞれのスロット・サイズよりも大きい場合にこのエラーが発生します。

処置: 結合された行がスロットに入るように、`HASH_MULTIBLOCK_IO_COUNT` を増やしてください。`HASH_AREA_SIZE` も増やす必要があります。

ORA-06600 LU6.2 Driver: SNA ソフトウェアがロードされていません。

原因: SNA ソフトウェアが実行されていません。

処置: SNA ソフトウェアを起動し、再実行してください。

ORA-06601 LU6.2 Driver: データベース ID 文字列が無効です。

原因: データベース接続文字列が無効です。

処置: ドキュメントに定義されているように、有効なデータベース文字列を指定してください。

ORA-06602 LU6.2 Driver: コンテキスト領域を割り当てられません。

原因: コンテキスト領域障害です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06603 LU6.2 Driver: メモリー割当てでエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムがメモリーに対する要求を拒否しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06604 LU6.2 Driver: リモート LU にセッションを割り当てられません。

原因: システム・コールの割当てに失敗しました。

処置: SNA ソフトウェアが実行され、セッションが開放されていることを確認してください。このような場合は、ご使用の SNA 構成データのエラーを確認してください。無効なパラメータを入力した可能性があります。

ORA-06605 LU6.2 Driver: 予期しない行が戻されました。

原因: SNA ソフトウェアが、送信から受信へ予期せずに切替えを行いました。

処置: SNA 構成データ、特にセッションに関連したパラメータを確認してください。

ORA-06606 LU6.2 Driver: SNA から予期しない応答がありました。

原因: SNA コールのパラメータが予期しない値を戻しました。

処置: 問題を再現させて、エラー時のデータ・パラメータの値をデバッグして記録してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06607 LU6.2 Driver: 送信状態でリセットされました。

原因: 送信状態でリセットが発行されました。

処置: 必要であれば、詳細は SNA LOG データを確認してください。

ORA-06608 LU6.2 Driver: 受信状態でリセットされました。

原因: 受信状態でパートナーからのリセットが受信されました。パートナーが再割当てされた可能性があります。

処置: 必要であれば、詳細は SNA LOG データを確認してください。

ORA-06610 LU6.2 Driver: 割り当て解除に失敗しました。

原因: LU6.2 ドライバが正しく再割当てされませんでした。

処置: 再割当ての理由を確認してください。SNA LOG データを調べてください。

ORA-06611 LU6.2 LU6.2 Driver: 送信要求でエラーが発生しました。

ORA-06612 LU6.2 Driver: データの送信でエラーが発生しました。

ORA-06613 LU6.2 Driver: 受信および待機でエラーが発生しました。

ORA-06614 LU6.2 Driver: Receive Immediate でエラーが発生しました。

ORA-06615 LU6.2 Driver: 送信でエラーが発生しました。

ORA-06616 LU6.2 Driver: LU Attach に失敗しました。

原因: SQL*Net LU6.2 ドライバが、接続文字列に指定された LU に Attach できないか、またはデフォルトの LU に Attach できませんでした。

処置: 接続文字列に指定された LU 名、またはデフォルトの LU 名が (指定されていない場合)、正しく構成され、操作可能であることを確認してください。

ORA-06617 LU6.2 Driver: PU Attach に失敗しました。

ORA-06618 LU6.2 Driver: サブネットワークをアクティブにできませんでした。

ORA-06619 LU6.2 Driver: リモート・パートナーの活性化ができません。

ORA-06620 LU6.2 Driver: リモート・パートナーが無効です。

ORA-06621 LU6.2 Driver: 割り当てでエラーが発生しました。

ORA-06622 LU6.2 Driver: SNA に Attach できません。

原因: SQL*Net LU6.2 ドライバが、マシンの SNA ソフトウェアに Attach できませんでした。SNA ソフトウェアが操作可能でない可能性があります。

処置: SNA ソフトウェアの状態を調べ、操作可能であることを確認し、再実行してください。

ORA-06700 TLI Driver: ホストからのメッセージ・タイプが無効です。

原因: TLI が認識不可なメッセージ・タイプのメッセージを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06701 TLI Driver: 書き込まれたバイト数が無効です。

原因: TLI が明らかに成功のメッセージを送信しましたが、送信されたバイト数とドライバに提供されたバイト数が一致しませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06702 TLI Driver: コンテキスト領域を割り当てられません。

原因: TLI がコンテキスト領域のヒープ領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06703 TLI Driver: ブレーク・メッセージの送信に失敗しました。

原因: TLI が接続間のブレーク・メッセージの送信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06704 TLI Driver: ブレーク・メッセージの受信に失敗しました。

原因: TLI が予期していたブレーク・メッセージの受信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06705 TLI Driver: リモート・ノードが不明です。

原因: TLI が使用中のリモート・ホスト情報を見つけることができませんでした。

処置: ホスト名をコマンド行に正しく指定していることを確認してください。(ホスト名の太文字小文字の区別および綴りも確認してください。)

ORA-06706 TLI Driver: サービスが見つかりません。

原因: TLI が、指定したサービス名に対するサービス情報を見つけることができませんでした。

処置: コマンド行または環境変数 TLI_SERVER でサービス名を指定した場合、正しく指定されていることを確認してください。サービス名がプロトコルの SERVICES ファイルにない場合、システム管理者に追加を依頼してください。

ORA-06707 TLI Driver: 接続に失敗しました。

原因: リモート・サーバーが検出したエラーによって、TLI が SQL*Net TCP/IP サーバーへの接続の確立に失敗しました。このため、リモート・エラーを示す文字列が表示されます。

処置: 固有の原因および処置については、『SQL*Net TCP/IP ユーザーズ・ガイド』または『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。

ORA-06708 TLI Driver: メッセージの受信に失敗しました。

原因: TLI が、通信チャネルからのメッセージの受信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06709 TLI Driver: メッセージの送信に失敗しました。

原因: TLI が、通信チャネル間のメッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06710 TLI Driver: 割込みブレイク・メッセージ送信が失敗しました。

原因: TLI が、ユーザーからの割込みシグナルの処理中、ブレイク・メッセージの送信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06711 TLI Driver: バインド中にエラーが発生しました。

原因: TLI が通信チャネルへのネットワーク・アドレスの割当てに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06712 TLI Driver: アクセプト中にエラーが発生しました。

原因: TLI がクライアントからの通信要求のアクセプトに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06713 TLI Driver: 接続でエラーが発生しました。

原因: TLI がリモート・サーバーへのクライアントの接続に失敗しました。リモート・ホストへのネットワーク回線が切断している可能性があります。

処置: 他のネットワーク・ログイン・プログラムを使用し、リモート・ホストにアクセス可能であることを確認してください。

ORA-06720 TLI Driver: SID の参照に失敗しました。

原因: データベース・ログイン文字列で提供されたデータベース SID が、リモート・ホストで認識できませんでした。

処置: システム管理者に依頼して、リモート・ホストの ORATAB に適切な SID を追加してください。

ORA-06721 TLI Driver: クライアント要求が無効です。

原因: リモート TLI サーバーが未定義要求を受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06722 TLI Driver: 接続の設定に失敗しました。

原因: リモート TLI サーバーが接続要求を拒否しました。また、クライアントは、エラー・コードまたはメッセージを取り出すことができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06730 TLI Driver: クローン・デバイスをオープンできません。

原因: TLI が転送プロバイダに対応付けられたストリーム・クローン・デバイスのオープンに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06731 TLI Driver: t_call を割り当てられません。

原因: TLI がクライアントの接続情報に対して領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06732 TLI Driver: t_discon を割り当てられません。

原因: TLI がクライアントの切断情報に対して領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06733 TLI Driver: 接続の切離しに失敗しました。

原因: TLI が接続の切離し中に想定されている切断メッセージの受信に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06734 TLI Driver: 接続できません。

原因: TLI がリモート・サーバーへのクライアントの接続に失敗しました。

処置: リモート TLI サーバーが実行されていることを確認してください。

ORA-06735 TLI Driver: クライアントはエラー接続をクローズするのに失敗しました。

原因: TLI がエラーを受信した後に接続を正しくクローズすることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06736 TLI Driver: サーバーは稼働していません。

原因: TLI がリモート TLI サーバーへの接続試行中にタイムアウトしました。

処置: リモート TLI サーバーが、使用している転送プロバイダーに対する状態ユーティリティで実行されていることを確認してください。そうでない場合は、システム管理者に依頼して起動してください。

ORA-06737 TLI Driver: 接続に失敗しました。

原因: TLI がリモート TLI サーバーへの接続を確立できませんでした。

処置: リモート TLI サーバーが、使用している転送プロバイダーに対する状態ユーティリティで実行されていることを確認してください。

ORA-06741 TLI Driver: プロトコル・デバイスをオープンできません。

原因: TLI サーバーが転送プロバイダと対応付けられたストリーム・デバイスのオープンに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06742 TLI Driver: t_bind を割り当てられません。

原因: TLI が要求されたネットワークのアドレスに領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06743 TLI Driver: t_bind を割り当てられません。

原因: TLI サーバーが実際のネットワーク・アドレスに領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06744 TLI Driver: リスナーはバインドできません。

原因: TLI サーバーが接続をリスニングする正しいネットワーク・アドレスの割当てに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06745 TLI Driver: リスナーはすでに稼働しています。

原因: TLI サーバーが接続要求を待つネットワーク・アドレスが使用中です。サーバーがすでに実行されている可能性があります。

処置: TLI サーバーが実行されていないことを確認してください。サーバーが実行中でないにもかかわらずこのエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06746 TLI Driver: t_call を割り当てられません。

原因: TLI が TLI サーバーの接続情報に対する領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06747 TLI Driver: リスナー実行中にエラーが発生しました。

原因: TLI サーバーが、接続要求のリスニング中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06748 TLI Driver: t_discon を割り当てられません。

原因: TLI が TLI サーバーの切断情報に対する領域を割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06749 TLI Driver: オプションはネットワークを介して使用できません。

原因: 要求された TLI サーバー・コマンドは、サーバーが実行されている同じホストから発行される必要があります。

処置: リモート・ホストにログインし、再試行してください。

ORA-06750 TLI Driver: 同期化に失敗しました。

原因: TLI サーバーによって起動された Oracle プロセスが、継承する接続を同期化できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06751 TLI Driver: バインドされたアドレスが等しくありません。

原因: OSN チェック・サーバーのアドレスに障害があります。バインドされたサーバーのアドレスが、要求されたバインド・アドレスと異なります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06752 TLI Driver: シグナル設定中にエラーが発生しました。

原因: SIGACTION () へのコールがシステム・エラーで戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06753 TLI Driver: 名前からアドレスへのマッピングに失敗しました。

原因: SVR4 に対する NETDIR_GETBYNAME () コールが何らかの理由で失敗しました。.

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06754 TLI Driver: ローカル・ホスト・アドレスを取得できません。

原因: 接続するリモート・ホスト名が指定されておらず、ローカル・ホスト名が HOSTS ファイルから取り出すことができません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-06755 TLI Driver: 転送のエンドポイントをクローズできません。

原因: TLI サーバーが、Oracle プロセスへ渡された後の接続をクローズできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06756 TLI Driver: oratab をオープンできません。

原因: TLI サーバーが、リモートでアクセス可能なデータベースの位置を定義するために使用するファイルをオープンできませんでした。

処置: システム管理者に依頼して、ファイルが存在し適切な許可があることを確認してください。

ORA-06757 TLI Driver: サーバーが取得したコマンドは無効です。

原因: TLI サーバーが無効なコマンドを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06760 TLI Driver: 解放中に読み込みタイムアウトが発生しました。

原因: TLI が、通信チャネルのクローズ中に想定される切断メッセージを取り出すことができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06761 TLI Driver: 解放中に送信エラーが発生しました。

原因: TLI が通信チャネルをクローズする切断メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06762 TLI Driver: 解放中に読み込みエラーが発生しました。

原因: TLI が通信チャネルをクローズする際、想定される切断メッセージの受信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06763 TLI Driver: 切断の送信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が通信チャネルをクローズする切断メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06764 TLI Driver: 切断の読み込み中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、通信チャネルのクローズ中に想定される切断メッセージを取り出すことができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06765 TLI Driver: 解放中に受信待機エラーが発生しました。

原因: TLI が通信チャネルをクローズする際、切断メッセージの受信待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06766 TLI Driver: 解放中にクローズが失敗しました。

原因: TLI が、切断メッセージの受信後、通信チャネルのクローズに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06767 TLI Driver: 解放中に割当てが失敗しました。

原因: TLI が、通信チャネルのクローズ中、切断情報の領域を割り当てることができません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06770 TLI Driver: バージョンの送信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、バージョン情報の送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06771 TLI Driver: バージョンの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定されるバージョン情報の待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06772 TLI Driver: コマンドの送信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、コマンド・メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06773 TLI Driver: コマンドの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定されるコマンド・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06774 TLI Driver: ブレーク・モードの送信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、ブレーク・モード・メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06775 TLI Driver: ブレーク・モードの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定されるブレーク・モード・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06776 TLI Driver: 接続パラメータの送信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、接続パラメータの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06777 TLI Driver: 接続パラメータの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定される接続パラメータ・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06778 TLI Driver: 完了コードの送信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、完了ステータス・メッセージの送信中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06779 TLI Driver: 完了コードの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定される完了ステータス・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06780 TLI Driver: recv エラー・メッセージの受信中にエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定されるエラー・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06781 TLI Driver: ネゴシエーション・コード読み込みエラーが発生しました。

原因: TLI が、接続確立時、想定されるネゴシエーション・メッセージの待機中にエラーを見つけました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06790 TLI Driver: ポーリングに失敗しました。

原因: TLI が、受信する可能性のあるメッセージに対して通信チャンネルをポーリングできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06791 TLI Driver: ポーリング時にエラー・イベントが返されました。

原因: TLI が、受信する可能性のあるメッセージに対する通信チャンネルのポーリング中に、予期しないイベントを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06792 TLI Driver: サーバーは oracle を実行できません。

原因: リモート TLI サーバーが、クライアントにかわって Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラー・メッセージまたは番号を記録し、システム管理者に連絡してください。リモート Oracle プログラムの許可が適切に設定されていない可能性があります。

ORA-06793 TLI Driver: サーバーは新規のプロセスを作成できません。

原因: リモート TLI サーバーが、クライアントにかわって Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラー・メッセージまたは番号を記録し、システム管理者に連絡してください。リモート・ホストは、プロセス表が満杯であるために新規のプロセスを作成できない可能性があります。

ORA-06794 TLI Driver: シャドウ・プロセスはプロトコル情報をリカバリできません。

原因: Oracle プロセスが、プロトコル情報の記録を保存するためのメモリーの割当てに失敗したか、または何らかの理由でプロトコルが要求を拒否しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06800 TLI Driver: SQL*Net SPX クライアントは存在しないので再接続できません。

原因: クライアント・プロセスがシステムまたはユーザーによって中断され、サーバー・リスナー・プロセスとの接続を確立できませんでした。

処置: クライアントが終了した原因を確認し、接続を再試行してください。

ORA-06801 TLI Driver: SPX サーバーのリスナーは再接続に失敗しました。

原因: 不明なイベントがクライアントのリスニング・ソケットで発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06802 TLI Driver: /etc/network/yellowpages ファイルをオープンできません。

原因: /etc/network/yellowpages ファイルが存在していないか、またはそのファイルを TLI リスナー・プロセスで読み込むことができません。

処置: ファイルが存在し、読み込み可能であることを確認してください。サーバー・マシンのノード名、ネットワーク番号、イーサネット・アドレスおよびリスニング・ソケット番号がファイルにコード化されていることを確認してください。

ORA-06803 TLI Driver: IPX デバイス・ファイルをオープンできません。

原因: /dev/ipx ファイルが存在しないか、またはドライバがカーネルに正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06804 TLI Driver: 初期化時に IPX アドレスをバインドできません。

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06805 TLI Driver: SPX に対してデータグラム SAP パケットを送信できません。

原因: SAP パケット送信用のソケットのエンドポイントが、何らかの理由で破損しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06806 TLI Driver: SPX に対してプロトコル初期値化が完了できません。

原因: SPX/IPX プロトコルの初期化に失敗しました。

処置: 以前に報告されたエラーを確認し、正しい解決方法に従ってください。

ORA-06807 TLI Driver: イーサネット・デバイス・ドライバ・ファイルをオープンできません。

原因: ファイル /dev/eth が存在しないか、または参照するドライバをオープンできませんでした。

処置: Western Digital イーサネット・ドライバ用のシステムの実際のイーサネット・デバイス・ファイル（たとえば /dev/wd）を、/dev/eth ファイルにリンクする必要があります。リンクされている場合、ご使用のシステムで TCP/IP のインストールを完了し、接続をテストして、イーサネット・ドライバがインストールされていることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、サポートされているイーサネット・ドライバのリストを確認してください。

ORA-06808 TLI Driver: IPX ストリームとイーサネット・ストリームをリンクできません。

原因: イーサネット・ドライバがシステムに正しくインストールされていないか、またはイーサネット・ドライバがサポートされていません。

処置: ご使用のシステムで TCP/IP のインストールを完了し、接続をテストして、イーサネット・ドライバがインストールされていることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、サポートされているイーサネット・ドライバのリストを確認してください。

ORA-06809 TLI Driver: 初期化時に IPX イーサネットの SAP をクリアできません。

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06810 TLI Driver: 初期化時に IPX イーサネットの SAP を設定できません。

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06811 TLI Driver: 初期化時に IPX ネットワーク番号を設定できません。

原因: IPX ドライバが正しくインストールされていないか、または /etc/network/yellowpages ファイルでコード化されたネットワーク番号が無効です。

処置: yellowpages ファイルのネットワーク番号は、ご使用の Novell ファイル・サーバーの 4 バイトのネットワーク番号と一致する必要があります。これが正しく設定され

ている場合、Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06812 TLI Driver: イーサネット・ドライバのノード・アドレスを読み込めませんでした。

原因: イーサネット・ドライバが正しくインストールされていないか、またはこの操作がサポートされていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、サポートされているイーサネット・ドライバのリストを確認してください。

ORA-06813 TLI Driver: 設定されたイーサネット・アドレスは無効です。

原因: イーサネット・ドライバから読み込まれたノード・アドレスが、このサーバーの /etc/network/yellowpages ファイルでコード化された値と一致しません。

処置: ご使用の LAN カードの正しいイーサネット・ノード・アドレスを確認し、yellowpages ファイルにこの値を入力してください。

ORA-06814 TLI Driver: SPX デバイス・ファイルをオープンできません。

原因: /dev/nspxd ファイルが存在しないか、またはドライバがカーネルに正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06815 TLI Driver: SPX ストリームと IPX ストリームをリンクできません。

原因: SPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06816 TLI Driver: SPX SAP アドレスを設定できません。

原因: SPX ドライバが正しくインストールされていません。

処置: Oracle ルート・インストールを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06817 TLI Driver: Novell ネットワーク・アドレスを読み込めません。

原因: ファイル \$ORACLE_HOME/spx/address を読み書き用にオープンできませんでした。

処置: ORACLE_HOME が設定され、ORACLE_HOME の許可が読み込みおよび書込みであることを確認してください。このファイルが本意に削除されている場合、SPXCTL (ネット・オプション) を実行し、SQL*Net SPX に対する Novell ネットワーク番号を再設定してください。

ORA-06900 CMX: tus ディレクトリを読めません。

原因: ご使用のシステムで CMX が起動されていません。

処置: ご使用のシステムに CMX をインストールし、起動してください。

ORA-06901 CMX: ローカル・アプリケーションに割り当てられたローカル名がありません。

原因: ローカル・アプリケーション ORACMX に割り当てられたローカル名がありません。

処置: TNS ディレクトリに ORACMX 用の一意なローカル名を入力してください。

ORA-06902 CMX: cmx サブシステムに attach できません。

原因: CCP-xxxx が起動していません。

処置: 通信コントローラで CCP ソフトウェアを起動してください。

ORA-06903 CMX: リモート・アプリケーションの転送アドレスを読み込めません。

原因: リモート・アプリケーションが TNS ディレクトリに入力されていません。

処置: TNS ディレクトリにリモート・アプリケーションを入力してください。

ORA-06904 CMX: リモート・アプリケーションに使用できる転送アドレスがありません。

原因: リモート・アプリケーションにローカル名が割り当てられていません。

処置: リモート・アプリケーションにローカル名を割り当ててください。

ORA-06905 CMX: 接続エラーが発生しました。

原因: リモート・パートナがリスニングしていません。

処置: リモート・ノードにインストールされた CMX が実行中で、ORACMX がリモート・ホストで実行されていることを確認してください。

ORA-06906 CMX: CMX から最大パケット・サイズを取得できません。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06907 CMX: 接続確認中にエラーが発生しました。

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06908 CMX: ORACLE_SID の転送中にエラーが発生しました。

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06909 CMX: ORACLE_SID の認識中にエラーが発生しました。

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06910 CMX: リモート・マシンで Oracle プロセスを開始できません。

原因: Oracle プロセスが見つからないか、またはモードが間違っています (4751 である必要があります)。

処置: /etc/oratab を変更するか、モードを 4751 に設定してください。

ORA-06911 CMX: t_event が ERROR を返しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06912 CMX: datarq で書込みエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06913 CMX: 接続のリダイレクション中にエラーが発生しました。

原因: ORACMX が停止中か、またはユーザー・プロセスが異常終了しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06914 CMX: Oracle の起動中に予期しないイベントが発生しました。

原因: 接続順序の同期が取れていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06915 CMX: datarq に不明の t_event があります。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06916 CMX: データ読み込みでエラーが発生しました。(t_datain)

原因: リモート・パートナが異常終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06917 CMX: データ読み込みでエラーが発生しました (読み込まれたバイトが多すぎます)。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06918 CMX: 読み込みイベントの待機中に T_NOEVENT が発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06919 CMX: 書込み要求中にエラーが発生しました。(未知のイベント)

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06920 CMX: getbrkmsg データ型が無効です。

原因: 受信したパケットが破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06921 CMX: getdatmsg データ型が無効です。

原因: 受信したパケットが破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06922 CMX: 書込み長が無効です。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06923 CMX: break 条件が無効です。

原因: ブレーク・ハンドルの同期が取れていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06924 CMX: ブレーク・メッセージ長が無効です。

原因: 受信したパケットが破損しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06925 CMX: 接続要求中に切断されました。

原因: パートナが応答しません。

処置: パートナが実行中で、接続可能であることを確認してください。

ORA-06926 CMX: データ読み込み中に T_ERROR が発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06927 CMX: データ書込みが完了する前に T_DATAIN を受信しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06928 CMX: ORACLE_SID が無効です。

原因: ORACLE_SID がリモートの ORATAB に入力されていません。

処置: ORACLE_SID をリモートの ORATAB に追加してください。

ORA-06929 CMX: ORACLE_SID 送信中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06930 CMX: ORACLE_SID 確認中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06931 CMX: サーバーの read_properties 実行中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06932 CMX: ローカル名にエラーがあります。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06933 CMX: attach 中にエラーが発生しました。

原因: CMX の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06950 エラーはありませんでした。

原因: コード・ベースの SQL*Net AppleTalk エラーです。これはエラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-06951 OS コールでエラーが発生しました。

原因: AppleTalk API が VMS システム・サービスでエラーを受信しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06952 通信のリモート・エンドが forward-reset パケットを発行しました。

原因: ピア・プログラムが異常終了している可能性があります。

処置: ネットワーク問題を調べ、再試行してください。

ORA-06953 仮想メモリーが不足しています。

原因: 使用可能なメモリーが十分ではありません。

処置: VMS プロセス割当てまたは SYSGEN パラメータ（あるいはその両方）を確認してください。

ORA-06954 ファイル名が無効です。

原因：ファイル名にエラーがあります。

処置：サーバー出力ファイルのパス名、または SQL*Net Appletalk 論理名および記号を確認してください。

ORA-06955 データベース・サーバーの数が制限を超えました。

原因：データベース接続が多すぎます。

処置：構成ファイルの ATКСRV_MAXCON パラメータを確認してください。

ORA-06956 ローカル・ホスト名を取得できません。

原因：Appletalk ホスト名を取得できません。

処置：Appletalk 構成を確認してください。

ORA-06957 現在使用できる SID がありません。

原因：受信する SQL*Net 接続要求に、無効な SID 名が指定されています。

処置：接続文字列に正しい SID を指定して、再試行してください。

ORA-06958 構成ファイルへのアクセスに失敗しました。

原因：CONFIG.ATK にアクセスできません。

処置：ファイルの保護を確認してください。

ORA-06959 バッファ I/O 割当てが小さすぎます。

原因：バッファされる I/O 割当てを超えています。

処置：AUTHORIZE ユーティリティを使用して BIOLM を増やし、再試行してください。

ORA-06960 ログ・ファイルへのアクセスに失敗しました。

原因：SQL*Net Appletalk リスナーがログ・ファイルを作成できませんでした。

処置：ディレクトリのパスおよび保護を確認してください。

ORA-06961 行った操作の権限が不足しています。

原因：行った操作に対する十分な権限がありません。

処置：プロセス権限を確認し、再試行してください。

ORA-06970 X.25 Driver: リモート・ホストが不明です。

原因：ログイン（接続文字列）に指定されたホスト名が不明です。

処置：綴りを調べ、名前が X.25 HOST ファイルにあることを確認してください。

ORA-06971 X.25 Driver: データの受信でエラーが発生しました。

ORA-06972 X.25 Driver: データの送信でエラーが発生しました。

ORA-06973 X.25 Driver: バッファ・サイズが無効です。

原因: ログイン文字列に指定されたバッファ・サイズは 5 ～ 4096 の範囲内である必要があります。

処置: 有効なバッファ・サイズで再実行してください。

ORA-06974 X.25 Driver: SID の参照に失敗しました。

原因: リモート・ホストの SQL*Net X.25 サーバーから、ログイン（接続）文字列に指定されたデータベース SID が認識されませんでした。

処置: リモート・ホストの CONFIG.ORA ファイルに適切な SID エントリを追加してください（SQL*Net X.25 サーバーを再起動してください）。

ORA-06975 X.25 Driver: ホストへの接続に失敗しました。

原因: リモート・ホストへの接続に失敗しました。リモート・ホストの SQL*Net X.25 サーバーが起動されていないか、またはホスト自体が起動されていない可能性があります。

処置: リモート・ホストで、SQL*Net X.25 サーバー・プロセスを起動してください。

ORA-06976 X.25 Driver: エンドポイントの作成に失敗しました。

原因: プロセスのオープン・ファイルの割当てを超えている可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-06977 X.25 Driver: X.25 Level 2 で失敗しました。

原因: X.25 Level 2 が停止しています。X.25 リンクが機能していません。

処置: システム・チェックを実行し、X.25 ソフトウェアが機能していることを確認してください。ハードウェア・ベンダーに連絡してください。

ORA-06978 X.25 Driver: コールバック・アドレスが多すぎます。

原因: コールバック・アドレスがコールしたアドレスと同じである可能性があります。

処置: コールバック・アドレスおよびコールしたアドレスが異なることを確認してください。

ORA-06979 X.25 Driver: サーバーは oracle を起動できません。

原因: リモート X.25 サーバーが、クライアントにかわって Oracle プロセスを開始できませんでした。

処置: リモート Oracle プログラムの許可が正しく設定されていることを確認してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07200 slsid: oracle_sid が設定されていません。

原因: 環境変数 \$ (ORACLE_SID) が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_SID を設定してください。

ORA-07201 slhom: 環境設定で oracle_home 変数が設定されていません。

原因: 環境変数 \$ (ORACLE_HOME) が設定されていません。

処置: ORACLE_HOME を設定してください。

ORA-07202 sltln: sltln のパラメータが無効です。

原因: SLTLN 名前変換ルーチンのコールで、無効な引数を使用されました。入力または出力文字列が NULL または長さ 0 です。

処置: Oracle の内部エラーの可能性があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07203 sltln: 変換する環境変数が長すぎます。

原因: 長い環境変数を含む文字列が SLTLN に渡されました。SLTLN が受け入れる環境名は、30 文字以下です。

処置: 環境変数名を 30 文字より短くしてください。

ORA-07204 sltln: 出力バッファ領域不足のため名前の変換に失敗しました。

原因: SLTLN ルーチンでは名前を拡張するために最大長バッファが指定されています。このバッファが、オーバーフローしました。

処置: 内部エラーの可能性があります。sercose[0] に格納された出力バッファの長さを調べてください。パス名は、255 文字までです。

ORA-07205 slgtd: time エラーが発生したため、時間を取得できません。

原因: Time() システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07206 slgtd: gettimeofday エラーが発生したため、時間を取得できません。

原因: GETTIMEOFDAY() システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07207 sigpidu: プロセス ID 文字列が内部バッファでオーバーフローしました。

原因: SIGPIDU ルーチンでは、プロセス ID 文字列を保持するために最大長バッファが指定されています。このバッファが、オーバーフローしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07208 sfwfb: 使用済バッファをディスクヘフラッシュするのに失敗しました。

原因: FSYNC システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07209 sfofi: ファイル・サイズ制限を超えています。

原因: オープンしようとしたファイルのサイズがこのプロセスに与えられたオペレーティング・システムの制限を超えました。

処置: OSH を実行して、ファイル・サイズの制限を増やしてください。

ORA-07210 slcpu: getrusage エラーが発生したため CPU 時間を取得できません。

原因: GETRUSAGE システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07211 slgcs: gettimeofday エラーが発生したため wall clock を取得できません。

原因: GETTIMEOFDAY システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07212 slcpu: times エラーが発生したため CPU 時間を取得できません。

原因: Times システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07213 slgcs: times エラーが発生したため wall clock を取得できません。

原因: Times システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07214 slgunm: uname エラーが発生したためシステム情報を取得できません。

原因: UNAME システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07215 slsget: getrusage エラーが発生しました。

原因: GETRUSAGE システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07216 slghst: gethostname エラーが発生したため現ホスト名を取得できません。

原因: GETHOSTNAME システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07217 sltln: 環境変数の値を求めることができません。

原因: GETENV コールから NULL ポインタが戻されました。

処置: 環境変数を設定して、やり直してください。

ORA-07218 slkhst: ホスト操作が実行できません。

原因: UNIX system () コールに失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べてください。

ORA-07219 slspool: スプール引数をバッファに割り当てることができません。

原因: MALLOC がスプール引数を保持する領域の割当てに失敗しました。

処置: オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルで、戻された追加情報を確認してください。プロセスでヒープ領域が不足した可能性があります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07220 slspool: wait エラーが発生しました。

原因: スプール・ジョブの完了の待機中に、Wait にエラーが戻されました。スプール・プログラム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システム・リファレンス・マニュアルを参照してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07221 slspool: exec エラーが発生したためスプール・プログラムを起動できません。

原因: ラインプリンタ・スプール・コマンドの起動時に、Exec が失敗しました。デフォルトのラインプリンタ・コマンドまたは ORACLE_LPPROG が正しく設定されていない可能性があります。

処置: デフォルトのラインプリンタ・コマンドまたは ORACLE_LPPROG が正しく設定されているかどうかを調べてください。ORACLE_LPPROG に稼動しているラインプリンタ・スプールを設定してください。

ORA-07222 slspool: ラインプリンタ・スプール・コマンドがエラーで終了しました。

原因: ラインプリンタ・スプールが終了し、ゼロ以外の値を戻しました。ファイルのスプール中にエラーが発生した可能性があります。

処置: ラインプリンタ・スプールが稼動しているかどうかを確認してください。
ORACLE_LPPROG および ORACLE_LPARG が正しく設定されているかどうかを調べてください。終了戻り値から追加情報を調べてください。

ORA-07223 slspool: fork エラーが発生したためスプール・プロセスを実行できません。

原因: Fork システム・コールが失敗したため、追加プロセスを作成できませんでした。
リソース制限に達した可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。操作を再試行してください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07224 sfmfy: ファイル・サイズ制限の取得に失敗しました (エラー番号: *string*)。

原因: ULIMIT システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07225 sldext: 変換エラーが発生したためファイル名を拡張できません。

原因: 追加情報として、SLTLN からのエラーが戻されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-07226 rtneco: 端末モードを取得できません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07227 rtneco: noecho モードを設定できません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07228 rtecho: 端末を echo モードへ戻せません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07229 slcpuc: CPU 数の獲得でエラーが発生しました。

原因: MPCNTL システム・コールでエラーが発生しました。

処置: エラー番号を調べてください。システム管理者に連絡してください。

ORA-07230 slemcr: fopen エラーが発生したためファイルをオープンできません。

原因：FOPEN がファイルのオープンに失敗しました。

処置：オープンできなかったファイルを調べてください。そのファイルが存在し、アクセス可能かどうかを調べてください。

ORA-07231 slemcc: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因：ファンクション・コールで無効な引数を使用されました。取得できなかったファイル・ハンドルは SLEMCR です。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07232 slemcc: fclose エラーが発生しました。

原因：ファイルのクローズでエラーが発生しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置：システム管理者に連絡してください。

ORA-07233 slemcw: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因：ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。SLEMCR がファイル・ハンドルを獲得できませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07234 slemcw: ファイルのシーク・エラーが発生しました。

原因：ファイルの要求位置をシークできません。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。内部エラーの可能性があります。

処置：エラー・メッセージ・ファイルが存在しているかどうか調べてください。エラー・メッセージ・ファイルを再生成してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07235 slemcw: ファイルの fwrite エラーが発生しました。

原因：ファイルに項目を書き込めません。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。パーミッションの問題の可能性があります。

処置：操作を再試行してください。

ORA-07236 slemop: ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因：エラー・ファイルをオープンできません。パーミッションの問題の可能性があります。

処置：エラー・メッセージ・ファイルに対するパーミッションを調べてください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07237 slemcl: ファイル・ハンドルが無効です。シールが一致しません。

原因：ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。前の SLEMOP のコールでハンドルが獲得されませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07238 slemcl: ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: ファイルをクローズできません。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: システム管理者に連絡してください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07239 slemrd: ファイル・ハンドルが無効です。

原因: ファンクション・コールで無効なファイル・ハンドルが使用されました。SLEMOP のコールでハンドルが獲得されませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07240 slemrd: ファイルのシークでエラーが発生しました。

原因: ファイルの要求位置をシークできません。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: エラー・ファイルが存在しているかどうかを確認してください。デバイスの領域を調べてください。システム管理者に連絡してください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07241 slemrd: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルを読み込みません。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: エラー・ファイルが存在しているかどうかを調べてください。エラー・メッセージ・ファイルを再生成してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。エラー番号の追加情報を調べてください。

ORA-07242 slembf: 変換エラーが発生しました。エラーのファイル名は変換できません。

原因: 追加情報に SLTLN から戻されたエラーが表示されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-07243 sftget: バッファ・サイズ不足のため全行を読み込みません。

原因: 指定されたバッファが小さいため、FGETS コールは行の一部しか読み取りませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。追加情報として、指定されたバッファ・サイズが示されます。

ORA-07244 ssfccf: ファイル・サイズ制限を超えたためファイルの作成に失敗しました。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限を超えるファイルを作成しようとしてしました。

処置: OSH を実行して、ファイル・サイズの制限を増やしてください。

ORA-07245 sfccf: 最後のブロックに lseek および書き込みができません。

原因: 無効なデバイス・アドレスを移動して書き込もうとしました。

処置: エラー番号を確認してください。デバイス上の領域が不足している可能性があります。

ORA-07246 sfofi: オープン・エラー: データベース・ファイルをオープンできません。

原因: SFOFI からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07247 sfrfb: 読み込みエラー: データベース・ファイルから要求されたブロックを読み込めません。

原因: SFRFB からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07248 sfwfb: 書き込みエラー: データベース・ブロックを書き込めません。

原因: SFWFB からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07249 slsget: open エラーが発生したため /proc/pid をオープンできません。

原因: Open() からエラーが戻されました。

処置: /proc に正しい権限があるかどうかを調べてください。

ORA-07250 spcre: semget エラーが発生したためセマフォを取得できません。

原因: 最初のセマフォを取得しているときに、エラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。追加情報として、要求されたセマフォ数が示されます。

ORA-07251 spcre: semget エラーが発生したため 1 つもセマフォを割り当てられません。

原因: 1 つもセマフォを割り当てることができませんでした。すべて使用中か、またはセマフォを持つようにシステムが構成されていません。

処置: すべてのセマフォが使用中であるかどうかを調べてください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを調べてください。エラー番号を確認してください。

ORA-07252 spcre: semget エラーが発生したためセマフォを割り当てられません。

原因: SEMGET システム・コールからエラーが戻されました。リソース制限問題の可能性あります。

処置: エラー番号を確認してください。システムで十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。セマフォ・セットの破棄中にもエラーが発生すると、sercose[0]

がゼロ以外の値になります。この場合には、IPCRM を使用して、セマフォ・セットを削除してください。

ORA-07253 spdes: semctl エラーが発生したためセマフォを無効にできません。

原因: SEMCTL システム・コールからエラーが戻されました。

処置: セマフォ・セットを確認してください。これは、手動のクリーン・アップが必要になります。戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンス・マニュアルを参照してください。

ORA-07254 spdcr: ?/bin/oracle を拡張する際に変換エラーが発生しました。

原因: Oracle 実行可能ファイルの名前の変換中にエラーが発生しました。

処置: SLTLN から戻されたエラーの sercose[0] を確認してください。
\$(ORACLE_HOME) が正しく設定されていない可能性があります。

ORA-07255 spini: シグナル・ハンドラを設定できません。

原因: システムがシグナル・ハンドラの設定に失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07256 sptrap: 例外を取り込むためのシグナル・ハンドラを設定できません。

原因: システムが例外を取り込むためのシグナル・ハンドラの設定に失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07257 spdcr: プログラム名の拡張で変換エラーが発生しました。

原因: プログラム名 ora_PNAME_@ の拡張中にエラーが発生しました。この変換の結果は、Oracle プロセスの argv[0] に出力されます。

処置: sercose[0] にある SLTLN から戻されたエラーを確認してください。

ORA-07258 spdcr: fork エラーが発生したためプロセスを作成できません。

原因: 新しいプロセスの作成中にエラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。プロセス数のシステム制限を超えた可能性があります。

ORA-07259 spdcr: exec エラーが発生したためプロセスの起動が失敗しました。

原因: 起動直後に Oracle 分離プロセスが停止しました。Wait() は終了した子プロセスを示します。

処置: トレースまたはコア・ファイル用の ?/dbs ディレクトリを確認してください。エラー番号を確認してください。

ORA-07260 spdcr: wait エラーが発生しました。

原因: Wait システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07261 spdde: kill エラーが発生したためプロセスヘシグナルを送信できません。

原因: Kill システム・コールからエラーが戻されました。すでに実行中のプロセスは破棄される可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07262 sptpa: sptpa のコールに指定したプロセス ID が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07263 sptpa: kill エラーが発生しました。

原因: Kill システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。追加情報として、テストされたプロセス ID が示されます。

ORA-07264 spwat: semop エラーが発生したためセマフォを減らすことができません。

原因: SEMOP システム・コールからエラーが戻されました。セマフォ・セットが存在していない可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。セマフォ ID は `sercose[0]` に戻されます。セマフォ・セットが存在するかどうかを調べてください。このエラーの原因として、このプロセスの実行中に SHUTDOWN ABORT が行われた可能性があります。

ORA-07265 sppst: semop エラーが発生したためセマフォを増やすことができません。

原因: SEMOP システム・コールからエラーが戻されました。セマフォ・セットが存在していない可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。セマフォ ID は `sercose[0]` に戻されます。セマフォ・セットが存在するかどうかを確認してください。このエラーの原因として、このプロセスの実行中に SHUTDOWN ABORT が行われた可能性があります。

ORA-07266 sppst: sppst に渡されたプロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07267 spwat: プロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置: 追加情報として、無効なプロセス ID が示されます。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07268 szguns: getpwuid エラーが発生しました。

原因: GETPWUID() が、ユーザーの passwd ファイルでエントリを検索できませんでした。

処置: passwd ファイルにユーザーのエントリを追加してください。

ORA-07269 spdcr: デタッチ・プロセスが起動後すぐに停止しました。

原因: 分離プロセスは正常に実行されましたが、この直後に停止しました。追加情報によって終了コードおよび終了状態が示されます。

処置: プロセス終了の原因に関する情報の終了コードを確認してください。コア・ダンブまたはトレース・ファイルを確認してください。

ORA-07270 spalck: setitimer エラーが発生しました。インターバル・タイマーを設定できません。

原因: インターバル・タイマーの設定中にエラーが発生しました。ポートに問題がある可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07271 spwat: oracle プロセス番号が無効です。

原因: ファンクション・コールで無効な Oracle プロセス番号 (0) が使用されました。

処置: 内部エラーです。

ORA-07272 spwat: セマフォ・セット ID が無効です。

原因: SGA からフェッチされたセマフォ ID を有効な値で初期化できませんでした。追加情報として、セマフォ・セット索引および Oracle プロセス番号が戻されます。これは内部エラーです。

処置: セマフォ・セット索引を確認してください。Oracle プロセス番号を確認してください。

ORA-07273 sppst: セマフォ ID が無効です。

原因: SGA からフェッチされたセマフォ ID に無効な値がありました。追加情報として、セマフォ・セット索引および Oracle プロセス番号が戻されます。これは内部エラーです。

処置: セマフォ・セット索引を確認してください。Oracle プロセス番号を確認してください。

ORA-07274 spdcr: アクセス・エラーが発生したため oracle にアクセスできません。

原因: Oracle プログラムにアクセスできません。?/bin/oracle または \$ORABCKPRG が存在するか、および実行可能であるかどうかを調べてください。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。

ORA-07275 処理するシグナルを送信できません。

原因: Kill システム・コールからエラーが戻されました。存在していないプロセスにシグナルを送信している可能性があります。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-07276 /etc/group に dba グループが指定されていません。

原因: グループに dba ユーザーのための設定がありません。

処置: システム管理者に連絡してください。/ETC/GROUP に dba グループを設定してください。

ORA-07277 spdde: 引数として渡されたプロセス ID は無効です。

原因: 0 の PID が SPDDE に渡されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07278 splon: ops\$username がバッファ長を超えています。

原因: SPLON が、割り当てられたバッファ領域を超える OPS\$USERNAME ログインを構成しました。

処置: UNIX ユーザー名または Oracle ユーザー名を短くしてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-7279 spcre: semget エラーが発生したためセマフォを取得できません。

原因: 最初のセマフォを取得しているときに、エラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。システムがセマフォを持つように構成されているかどうかを確認してください。十分なセマフォが使用可能かどうかを確認してください。追加情報として、要求されたセマフォ数が示されます。

ORA-07280 slsget: プロセス情報を取得できません。

原因: IOCTL コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: エラー番号の追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07281 slsget: times エラーが発生したため CPU 時間を取得できません。

原因: Times システム・コールからエラーが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07282 sksaprd: 文字列のオーバーフローが発生しました。

原因: 内部バッファが大きくないため、アーカイブ制御文字列を保持することができません。

処置: 内部制限です。アーカイブ制御文字列を短くしてください。

ORA-07283 sksaprd: アーカイブ先のボリューム・サイズが無効です。

原因: 無効なボリューム・サイズが指定されました。

処置: アーカイブ制御文字列で有効なボリューム・サイズを指定してください。

ORA-07284 sksaprd: 指定されたボリューム・サイズは無効です。

原因: ボリューム・サイズ仕様部の後に数字ではないテキストがあります。

処置: 正しいアーカイブ制御文字列を入力してください。

ORA-07285 sksaprd: ボリューム・サイズはディスク・ファイルに指定できません。

原因: ボリューム・サイズがディスク・ファイル用に指定されました。

処置: ディスク・ファイルをアーカイブする場合、ボリューム・サイズを指定しないでください。

ORA-07286 sksagdi: デバイス情報が取得できません。

原因: ログのアーカイブ・デバイス上の STAT が失敗しました。

処置: 失敗の理由について戻された OSD エラーを確認してください。

ORA-07287 sksagdi: ログ・アーカイブ用にデバイスはサポートされていません。

原因: このデバイスへのログのアーカイブはサポートされていません。

処置: サポートされているデバイスへのログのアーカイブを試してください。

ORA-07290 sksagdi: アーカイブ先に指定されたディレクトリが存在しません。

原因: 指定されたパス名は、ディレクトリではありません。

処置: アーカイブ先のディレクトリが存在するかどうかを調べてください。

ORA-07303 ksmcsg: データベース・バッファ・サイズが無効です。

原因: データベース・バッファ・サイズはデータベース・ブロック・サイズの倍数で最大ブロック・サイズより小さくする必要があります。

処置: INIT.ORA の DB_BLOCK_SIZE パラメータが正しいことを確認してください。

ORA-07304 ksmcsg: 再実行バッファ・サイズが無効です。

原因: REDO バッファ・サイズはマシン・ブロック・サイズの倍数である必要があります。

処置: LOG_BUFFER INIT.ORA パラメータが正しく設定されていることを確認してください。

ORA-07305 ksmcsg: データベース・バッファ・サイズが無効です。

原因: データベースのバッファ・サイズは、使用する間接的なデータ・バッファに対する拡張キャッシュ・マッピング・サイズの倍数である必要があります。

処置: INIT.ORA の DB_BLOCK_SIZE パラメータが正しいか、または USE_INDIRECT_DATA_BUFFERS パラメータが使用禁止であるかどうかを確認してください。

ORA-07324 smpall: PGA 割り当て中に malloc エラーが発生しました。

原因: MALLOC ライブラリ・ルーチンからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。スワップ領域不足である可能性があります。

ORA-07327 smpdal: マッピングされていない PGA を削除しようとしてしました。

原因: PGA が作成されていないときに、SMPDAL がコールされました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07339 spcre: 最大セマフォ・セット数を超えました。

原因: 内部バッファが大きくないため、要求された数のセマフォ・セット識別子を入れることができません。

処置: 設定あたりのセマフォをより多くするためにオペレーティング・システムを再構築してください。

ORA-07345 データ・ファイル名に文字列 '..' は使用できません。

原因: 指定されたデータ・ファイル名に '..' が含まれています。

処置: データ・ファイル名を訂正して、操作を再試行してください。

ORA-07390 sftopn: 変換エラーが発生したため、ファイル名を変換できません。

原因: オープンするファイル名の拡張中にエラーが発生しました。追加情報として変換ルーチンで生成されたエラーが戻されます。

処置: 詳細は、追加エラー・コードを参照してください。

ORA-07391 sftopn: fopen エラーが発生したためテキスト・ファイルをオープンできません。

原因: FOPEN ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。

処置: 存在と権限を確認してください。

ORA-07392 sftcls: fclose エラーが発生したためテキスト・ファイルをクローズできません。

原因: FCLOSE ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。

処置: 内部エラーの可能性あります。

ORA-07400 slemtr: メッセージ・ファイルの変換された名前が長すぎます。

原因: メッセージ・ファイル用の名前が内部バッファをオーバーフローしています。

処置: メッセージ・ファイルの完全なパス名がディレクトリ階層の再編成によって短くなるように試してください。

ORA-07401 spttrap: ユーザー例外ハンドラをリストアできません。

原因: システムがユーザーの例外ハンドラのリストアに失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07402 sprst: ユーザー・シングル・ハンドラをリストアできません。

原因: システムがユーザーのシグナル・ハンドラのリストアに失敗しました。

処置: 失敗したシグナル番号のエラー番号および sercose[0] を確認してください。

ORA-07403 sfanfy: db_writers パラメータが無効です。

原因: INIT.ORA のパラメータ DB_WRITERS が、システムごとの最大値を超過しているか、0 未満の値になっています。

処置: INIT.ORA のパラメータ DB_WRITERS を変更してください。

ORA-07404 sfareq: 要求の完了を待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: 書き込みまたはクローズの完了を待機しているときに、マスター・データベース・ライターにタイム・アウトが発生しました。データベース・ライターの 1 つが実行を停止します。

処置: すべてのデータベース・ライター・トレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07406 slbtprd: 数字が無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換の不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07407 slbtprd: 指数が無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換の不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07408 slbtprd: バック 10 進数への変換中にオーバーフローが発生しました。

原因: 2 進数から 10 進数への変換の不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07409 slpdtb: バック 10 進数ニブルが無効です。

原因: 10 進数から 2 進数へ変換するという不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07410 slpdtb: 与えられたバッファに対して数値が大きすぎます。

原因: 10 進数から 2 進数へ変換するという不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07411 slgfn: 与えられたバッファに対してフルパス名が大きすぎます。

原因: 与えられたバッファが大きくないため、フルパス名を保持することができません。

処置: フルパス名の構成は実行できません。

ORA-07412 sfaslv: 非同期書込み配列でエントリを取得する際にエラーが発生しました。

原因: データベース・ライター・プロセスの一部が SGA の入力を位置付けできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07415 slpath: メモリー・バッファ割り当てに失敗しました。

原因: MALLOC() が ORACLE_PATH を格納するためのバッファの割り当てに失敗しました。

処置: システムのヒープ領域が不足しています。追加情報としてエラー番号が示されます。

ORA-07416 slpath: 出力バッファ領域不足のためパス名の解釈に失敗しました。

原因: SLPATH ルーチンの中に入れる名前を拡張するための最大長バッファを与られます。このバッファが、オーバーフローしました。内部エラーです。

処置: sercose[0] に格納された出力バッファ長と sercose[1] の構成後のパス名の長さを確認してください。

ORA-07417 sfareq: 1 つ以上の DBWR が使用できない状態です。

原因: 1 つ以上のデータベース・ライター・プロセスが実行されていません。

処置: データベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07418 sfareq: DBWR のタイミグ関数でエラーが発生しました。

原因: データベース・ライターがシステム・タイミグ関数を呼び出したときにエラーが発生しました。

処置: データベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07419 sfareq: DBWR のタイミグ関数でエラーが発生しました。

原因: データベース・ライターがシステム・タイミグ関数を呼び出したときにエラーが発生しました。

処置: データベース・ライターのトレース・ファイルを確認してください。データベースを停止して、ウォーム・スタートを試してください。

ORA-07425 sdpri: ダンプ・ファイル位置を変換中にエラー: *string* が発生しました。

原因: ダンプ・ファイルの位置を変換しているときに、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラー・コードを確認してください。

ORA-07426 spstp: dbs ディレクトリの位置を取得できません。

原因: DBS ディレクトリの位置を変換しているときに、Oracle エラーが発生しました。

処置: SLTLN が返したエラーの追加情報を確認してください。

ORA-07427 spstp: dbs ディレクトリへ変更できません。

原因: CHDIR システム・コールからエラーが戻されました。メモリーに問題がある可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラー・コードの追加情報を確認してください。

ORA-07431 フォークが失敗しました。

原因: サーバー・プロセスが、子プロセスをフォークできませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-07432 ネスト・スリープを実行できません。

原因: すでにスリープしているプロセスをスリープにしようとした。このプラットフォームはこの機能をサポートしていません。

処置: プロセスがスリープしていないときに SLEEP コマンドを試行してください。

ORA-07440 WMON プロセスがエラーで終了しました。

原因: 起動監視プロセスが停止しました。

処置: インスタンスをウォーム・スタートしてください。

ORA-07441 ファンクション・アドレスが *string* バイト境界で位置合せされていません。

原因: 無効な整列ファンクション・アドレスが指定されました。

処置: 正しく整列したファンクション・アドレスを使用してください。

ORA-07442 ファンクション・アドレスは *string* から *string* の範囲でなければなりません。

原因: 無効なファンクション・アドレスが指定されました。

処置: 有効なファンクション・アドレスを指定してください。

ORA-07443 ファンクション *string* が見つかりません。

原因: 無効なファンクション名が指定されました。

処置: 有効なファンクション名を指定してください。

ORA-07444 ファンクション・アドレス *string* が読み込みません。

原因: 無効なファンクション名 / アドレスが指定されました。

処置: 有効なファンクション名 / アドレスを指定してください。

ORA-07445 例外を検出しました。コア・ダンプ [*string*] [*string*] [*string*] [*string*] [*string*] [*string*]

原因: オペレーティング・システム例外が発生しました。これは、コア・ファイルを作成した結果です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07446 sdnfy: 値 '*string*' が無効です (パラメータ *string*)。

原因: 上記のパラメータの値として指定したディレクトリが使用できませんでした。

処置: 指定したディレクトリが、有効なディレクトリ / ファイルの指定かどうかを確認してください。

ORA-07447 ssarena: usinit が失敗しました。

原因: Oracle が共有アリーナ・ファイルの作成に失敗しました。

処置: SERCERRNO フィールドで障害の原因を判断してください。

ORA-07448 ssarena: 共有アリーナの最大数を超えました。

原因: Oracle は、許可以上の共有アリーナ・ファイルを作成しようとしてしました。

処置: INIT.ORA の MAX_ARENA の値を呼び出してください。

ORA-07449 sc: usnewlock が失敗しました。

原因: Oracle が共有アリーナ・ロックの取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認して、失敗の原因を判断してください。

ORA-07451 slskstat: ロード情報を取得できません。

原因: KSTAT ライブラリ・ルーチンがエラーを返しました。オペレーティング・システムに障害が起きている可能性があります。

処置: 詳細は、sercose[0] の結果コードを確認してください。

ORA-07452 指定されたリソース・マネージャ計画がデータ辞書に存在しません。

原因: 存在しないリソース・マネージャ・プランをロードしようとしてしました。

処置: データ・ディクショナリに存在するリソース・マネージャ・プランを使用してください。

ORA-07453 要求されたリソース・マネージャ計画スキーマに、OTHER_GROUPS が含まれていません。

原因: OTHER_GROUPS グループを含まないリソース・マネージャ・プラン・スキーマをロードしようとしてしました。

処置: OTHER_GROUPS グループを含むリソース・マネージャ・プラン・スキーマを使用してください。

ORA-07468 spwat: mset エラーが発生したためセマフォを設定できません。

原因: MSET ルーチンがエラーを返しました。セマフォが存在しない可能性があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。セマフォ番号は sercose[0] に返されています。

ORA-07469 sppst: mclear エラーが発生したためセマフォをクリアできません。

原因: MCLEAR ルーチンがエラーを返しました。セマフォが存在しない可能性があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。セマフォ番号は sercose[0] に返されています。

ORA-07470 snclget: クラスタ番号を取得できません。

原因: CLUSTER_STATUS システム・コールが、カレント・クラスタのステータス情報の取得に失敗しました。

処置: sercose[0] の結果コードを確認してください。オペレーティング・システム失敗の可能性があります。

ORA-07471 snclrd: sgadef.dbf ファイル名の変換に失敗しました。

原因: ?/dbs/sgadef@.dbf のファイル名を拡張できませんでした。

処置: \$(ORACLE_HOME) と (ORACLE_SID) が正しく設定されていることを確認してください。SLTLN から sercose[0] に戻されたエラーの数値を確認してください。

ORA-07472 snclrd: sgadef.dbf ファイルのオープン・エラーが発生しました。

原因: ?/dbs/sgadef@.dbf ファイルのオープンに失敗しました。

処置: エラー番号を確認してください。アクセス権に問題がある可能性があります。?
?/dbs/sgadef@.dbf ファイルが存在するかどうかを確認してください。

ORA-07473 snclrd: sgadef.dbf ファイルの読み込みエラーが発生しました。

原因: SGADef.DBF ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。ファイルが存在し、適切なサイズかどうかを調べてください。

ORA-07474 snclrd: sgadef.dbf ファイルのクローズ・エラーが発生しました。

原因: ファイル ?/dbs/sgadef@.dbf をクローズするときに、エラーが発生しました。

処置: エラー番号を確認してください。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

ORA-07475 slsget: 仮想記憶の統計情報を取得できません。

原因: VM_STATISTICS システム・コールが、仮想記憶の統計情報の取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。オペレーティング・システム失敗の可能性あります。

ORA-07476 slsget: マップされたメモリーの統計情報を取得できません。

原因: VM_MAPMEM システム・コールが、マップされたメモリーの統計情報取得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。オペレーティング・システム失敗の可能性あります。

ORA-07477 scgcmn: ロック・マネージャが初期化されていません。

原因: ロック・マネージャは、ロックを変換する前に初期化する必要があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07478 scgcmn: ロック状態を取得できません。

原因: LM_STAT_LOCK が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07479 scgcmn: ロックのオープンまたは変換ができません。

原因: LM_OPEN または LM_OPEN_CONVERT が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07480 snchmod: ?/dbs/sgalm.dbf の権限許可を変更できません。

原因: インスタンスの作成時に、SNLMINI が ?/dbs/sgalm.dbf に対する許可を変更できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07481 snlmatt: ロック・マネージャ・インスタンスを Attach できません。

原因: LM_ATTACH がロック・マネージャ・インスタンスの Attach に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07482 snlmini: ロック・マネージャ・インスタンスを作成できません。

原因: LM_CREATE がロック・マネージャ・インスタンスの作成に失敗しました。

処置: ?/dbs に対する許可を確認して、?/dbs/sgalm.dbf が存在する場合には削除して、再試行してください。

ORA-07483 snlkgget: ロックを変換または獲得できません。

原因: LM_CONVERT がロックの変換または獲得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07484 snlkput: ロックを変換または出力できません。

原因: LM_CONVERT がロック値の出力に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07485 scg_get_inst: インスタンス番号ロックをオープンできません。

原因: LM_OPEN が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07486 scg_get_inst: インスタンス番号ロックを変換または獲得できません。

原因: LM_CONVERT がロック値の獲得に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07487 scg_init_lm: ロック・マネージャ・インスタンスを作成できません。

原因: LM_CREATE が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07488 scgrcl: ロック・マネージャが初期化されていません。

原因: ロック・マネージャは、ロックを解放する前に初期化する必要があります。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07489 scgrcl: ロック状態を獲得できません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_STAT_LOCK が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07490 scgrcl: ロックを変換できません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_CONVERT が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07491 scgrcl: ロック要求を取り消せません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_CANCEL が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07492 scgrcl: ロックをクローズできません。

原因: ロックの解放または取消し時に、LM_CLOSE が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07493 scgrcl: ロック・マネージャでエラーが発生しました。

原因: ロックをリリースするときにエラーが発生しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07494 scgcm: 予期せぬエラーが発生しました。

原因: 未知または予期しないエラー・コードです。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07495 spwat: lm_wait が失敗しました。

原因: LM_WAIT が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07496 sppst: lm_post が失敗しました。

原因: LM_POST が失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。ロック・マネージャに障害が起きている可能性があります。

ORA-07497 sdpri: トレース・ファイル: *string* を作成できません (エラー番号: *string*)。

原因: 書込み中にトレース・ファイルが作成できません。

処置: ダンプ・ディレクトリが存在するかどうか、そのディレクトリが書込み可能かどうかを確認してください。

ORA-07498 spstp: /dev/resched をオープンできません。

原因: リスケジューリングするドライバ /dev/resched が見つからないか、あるいは正しく機能していません。

処置: AIX カーネルに Oracle リスケジュール・ドライバがインストールされているかどうかを確認してください。

ORA-07499 spglk: リスケジューリングできません。

原因：リスケジューリングするドライバ /dev/resched がオープンできません。これは発生してはならない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07500 ～ ORA-09857

ORA-07500 scglaa: \$cantim から予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$cantim が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07501 scgtoa: \$deq から予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$deq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07502 scgcmn: \$enq から予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$enq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07503 scgcmn: \$setimr から予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$setimr が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07504 scgcmn: \$hiber から予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$hiber が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07505 scggt: \$enq から親ロックの予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$enq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07506 scgsl: \$deq から予期しないロック ID: *string* に関する値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$deq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07507 scgcm: 予期しないロック・ステータス条件の値が戻りました。

原因: グローバルなロック・システム・サービスが、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージがある場合はそれを調べて、VMS ドキュメントを参照するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07508 scgfl: \$deq からすべて予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$deq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07509 scgfl: \$deq から予期しない親ロックの値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$deq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07510 scgbrm: \$getlki から予期しないロック ID: *string* に関する値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$getlki が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07511 sscggtl: \$enq から予期しないマスター終了ロックに対する値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$enq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07512 sscggtl: \$enq から予期しないクライアント終了ロックに対する値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$enq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07513 sscgctl: \$deq から予期しない終了ロックの取消に関する値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$deq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07514 scgcan: \$deq からロックの取消し中に予期しない値が戻りました。

原因: VMS システム・サービスの \$deq が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07534 scgingq: \$getlki lockid *string* で予期しない戻り値があります。

原因: VMS システム・サービスの \$getlki が、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07548 sftopn: オープンされているファイルが最大数に達しています。

原因: オープンされているテスト・ファイルが多すぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07549 sftopn: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07550 sftopn: \$CONNECT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CONNECT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07551 sftcls: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07552 sftget: \$GET に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GET に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07561 szprv: \$IDTOASC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$IDTOASC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07562 sldext: 拡張子は 3 文字でなければなりません。

原因: 拡張子が見つかりましたが、長さが不適切です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07563 sldext: \$PARSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07564 sldext: ファイル名、または拡張子にワイルドカードが含まれています。

原因: ファイル名にワイルド・カードが使用されました。

処置: 正しいファイル名を再入力してください。

ORA-07565 sldext: \$SEARCH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SEARCH に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07568 slspool: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07569 slspool: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07570 szrffc: \$IDTOASC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$IDTOASC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07571 szrffc: \$FIND_HELD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$FIND_HELD に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07572 szrffc: ロール名のバッファ領域が不足しています。

原因: OS ロール名が長すぎます。

処置: ロール名を正確な長さで再定義してください。

ORA-07573 slkhst: ホスト操作が実行できません。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$SPAWN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07574 szrfc: \$GETUAI に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07576 sspexst: \$GETJPIW に失敗しました。(プロセス ID: *string*)

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07577 認証ファイルにはそのようなユーザーは含まれていません。

原因: INTERNAL パスワード (たとえば DBA または OPER 権限) を設定しようとしたが、対応する VMS アカウント (ORA_sid_DBA または ORA_sid_OPER) がまだ作成されていません。

処置: VMS アカウントを ORA_sid_DBA または ORA_sid_OPER (あるいはその両方) に追加して、対応するパスワードを設定してください。

ORA-07578 szprv: \$FIND_HELD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$FIND_HELD に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07579 spini: \$DCLEXH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$DCLEXH に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07580 spstp: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07581 spstp: 予期しないプロセス名から SID を導出することはできません。

原因: バックグラウンド・プロセスで、無効な形式の名前が見つかりました。

処置: ジョブ名が変更されている場合は、リストアしてください。それ以外の場合は、内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07582 spstp: ORA_SID の値は間違っています。

原因: ORA_SID が存在し、6 文字より短い必要があります。

処置: SID の設定方法については、『VMS Installation Guide』を参照してください。

ORA-07584 spdcr: ORA_sid_(proc_)PQL\$_item の値は無効です。

原因: 分離プロセスの割当て制限の設定に使用された論理名に、無効な値（数値以外の値）があります。

処置: 論理名の値を確認して、エラーのある論理名を修正してください。その後再試行してください。

ORA-07585 spdcr: \$PARSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$PARSE に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07586 spdcr: \$SEARCH に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SEARCH に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07587 spdcr: \$CREPRC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CREPRC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07588 spdcr: \$GETJPIW はイメージ名の取得に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07589 spdde: システム ID が設定されていません。

原因: 論理名 ORA_SID が有効な値に変換できません。

処置: エラーのあるプロセスの ORA_SID 値を調べて、ORA_SID の不適切な設定の原因となるインストールまたはコマンド・プロシージャを訂正してください。

ORA-07590 spdde: \$DELP RC に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$DELP RC に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07591 spdde: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07592 sspgprv: 必要な権限を取得中にエラーが発生しました。

原因: 必要な権限の取得中に、エラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07593 ssprprv: 権限の解放でエラーが発生しました。

原因: 権限の解放中に、SYS\$SETPRV からエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07594 spiip: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07595 sppid: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07596 sptpa: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07597 spguns: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07598 spwat: \$SETIMR に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SETIMR に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07599 spwat: \$SCHDWK に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SCHDWK に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07600 slkmnm: \$GETSYIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETSYIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07601 spguno: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07602 spgto: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07605 szprv: \$ASCTOID に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$ASCTOID に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07606 szprv: \$CHKPRO に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHKPRO に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07607 szaud: \$SNDOPR に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$SNDOPR に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07608 szprv: \$GETUAI に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07609 szprv: \$HASH_PASSWORD に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$HASH_PASSWORD に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07610 \$GETJPIW は、ユーザーの MAC 権限の取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07612 \$GETUAI は、ユーザーのクリアランス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETUAI に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07613 \$GETJPIW は、ユーザーのプロセス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$GETJPIW に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07614 \$CHANGE_CLASS は、ユーザーのプロセス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07615 \$CHANGE_CLASS は、指定ファイル・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07616 \$CHANGE_CLASS は、指定デバイス・ラベルの取出しに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07617 \$FORMAT_CLASS は、バイナリ・ラベルの文字列への解釈に失敗しました。

原因: 指定されたバイナリ分類が無効なため、VMS システム・サービスの \$FORMAT_CLASS が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07618 \$IDTOASC は、秘密レベルの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースの秘密レベルの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07619 \$IDTOASC は、完全性レベルの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースの完全性レベルの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07620 smscre: データベース・ブロック・サイズは間違っています。

原因: パラメータ・ファイルに、無効なデータベース・ブロック・サイズが指定されています。このサイズは、正数で 512 の倍数であり、物理 I/O データ・サイズの最大値よりも小さなサイズである必要があります。

処置: これらの制限に合わせて、パラメータ・ファイルの DB_BLOCK_SIZE を変更してください。

ORA-07621 smscre: REDO ブロック・サイズは間違っています。

原因: パラメータ・ファイルに、無効な REDO ログ・バッファ・サイズが指定されています。このサイズは、正数で 512 の倍数である必要があります。

処置: これらの制限に合わせて、パラメータ・ファイルの LOG_BUFFER を変更してください。

ORA-07622 smscre: \$CREATE に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) バックアップ・ファイルの作成中に、VMS システム・サービスの \$CREATE が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07623 smscre: \$CRMPSC に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) の作成中に、VMS システム・サービスの \$CRMPSC が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07624 smsdes: \$DGBLSC に失敗しました。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) の削除中に、VMS システム・サービスの \$DGBLSC が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07625 smsget: \$MGBLSC に失敗しました。

原因：ログイン時、システム・グローバル領域（SGA）をマップしているときに、VMS システム・サービスの \$MGBLSC が失敗しました。ほとんどの場合、Oracle が起動していないことが原因です。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。Oracle が起動していない場合は、起動してください。

ORA-07626 smsget: SGA はすでにマップされています。

原因：ログオン時に SGA のマップに失敗しました。すでにマップされています。これは内部エラーです。

処置：プログラムを終了し再試行してください。このエラーはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07627 smsfre: \$CRETVA に失敗しました。

原因：ログオフ時にシステム・グローバル領域（SGA）をマップ解除しているときに、VMS システム・サービスの \$CRETVA が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07628 smsfre: SGA はマップされていません。

原因：ログオフ時に SGA のマップ解除に失敗しました。すでにマップ解除されています。これは内部エラーです。

処置：プログラムを終了し再試行してください。このエラーはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07629 smpall: \$EXPREG に失敗しました。

原因：プログラム・グローバル領域（PGA）の拡張中に、VMS システム・サービスの \$EXPREG が失敗しました。仮想メモリーでページ・カウントの割当て制限を超えると、このエラーが発生します。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07630 smpdal: \$DELTVA に失敗しました。

原因：ログオフ時にプログラム・グローバル領域（PGA）を削除しているときに、VMS システム・サービスの \$DELTVA が失敗しました。

処置：システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07631 smcacx: \$EXPREG に失敗しました。

原因：コンテキスト領域の作成または拡張中に、VMS システム・サービスの \$EXPREG が失敗しました。仮想メモリーでページ・カウントの割当て制限を超えると、このエラーが発生します。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07632 smsrcx: \$DELTVA に失敗しました。

原因: コンテキスト領域の削除中に、VMS システム・サービスの \$DELTVA が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07633 smsdbp: 保護値は間違っています。

原因: バッファ・デバッグ・ファンクションで無効な値が使用されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07634 smsdbp: \$CRETVA に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービスの \$CRETVA が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07635 smsdbp: \$SETPRT に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービスの \$SETPRT が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07636 smsdbp: \$MGBLSC に失敗しました。

原因: データベース・バッファのデバッグ機構に保護を設定しようとしたときに、VMS システム・サービスの \$MGBLSC が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07637 smsdbp: SGA の作成時に、バッファ保護オプションは指定されていません。

原因: バッファを保護モードに変更しようとしたましたが、SGA がバッファ保護デバッグ・オプションで作成されていませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07638 smsget: SGA パッド領域は、作成された SGA に十分な大きさではありません。

原因: SGA パッド領域の大きさが十分でないソフトウェアで、SGA のマップを試みました。

処置: より小さい SGA を作成するか、より大きいパッドをソフトウェアに再リンクしてください。

ORA-07639 smscre: SGA パッド領域は、十分な大きさではありません。(string バイト必要)

原因: SGA パッド領域の大きさが十分でないソフトウェアで、SGA を作成しようとした。

処置: より小さい SGA を作成するか、より大きいパッドをソフトウェアに再リンクしてください。

ORA-07640 smsget: SGA は有効ではありません。初期化中です。

原因: SGA の初期化中に SGA をマップしようとした。

処置: 初期化が完了してから、再試行してください。

ORA-07641 smscre: SGA にシステム・ページファイルを使用できません。

原因: システム・グローバル領域 (SGA) バックアップ・ファイルが、システム・ページファイルを使用して割り当てられませんでした。グローバル・ページのシステム全体の制限を超えています。

処置: VMS システム・パラメータ GBLPAGFIL を大きくするか、またはディスク・ファイルを SGA バックアップ・ファイルとして使用してください。

ORA-07642 smprtset: \$CMKRNL に失敗しました。

原因: メモリーの領域の保護を設定しようとしたが、\$CMKRNL システム・サービスからエラーが戻されました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07643 smsalo: SMSVAR は無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡して、INIT.ORA ファイルを送付してください。

ORA-07645 sszfsl: \$CHANGE_CLASS に失敗しました。

原因: ファイル・ラベルの設定中に、SEVMS サービス \$CHANGE_CLASS が失敗しました。

処置: システム・メッセージを調べて、SEVMS システム・ドキュメントを参照してください。

ORA-07646 sszfck: \$CREATE に失敗しました。

原因: ファイルの作成を試行中に、VMS システム・サービスの \$CREATE が失敗しました。

処置: システム・メッセージを調べて、VMS システム・ドキュメントを参照してください。

ORA-07647 sszfck: \$OPEN に失敗しました。

原因: ファイルの再オープン中に、VMS システム・サービスの \$OPEN が失敗しました。

処置: システム・メッセージを調べて、VMS システム・ドキュメントを参照してください。

ORA-07650 sigunc: \$GETJPIW に失敗しました。

原因: ログイン時にユーザーの端末デバイス名、ユーザー名、ユーザー・プログラム名、またはプロセス名を取得しようとしたが、VMS システム・サービスの \$GETJPIW が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07655 slsprom: \$TRNLOG に失敗しました。

原因: パスワードの要求で SYS\$INPUT の変換中に、VMS システム・サービスの \$TRNLOG が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07656 slsprom: \$GETDVI に失敗しました。

原因: パスワードの要求でデバイスの特徴を取得中に、VMS システム・サービスの \$GETDVI が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07657 slsprom: \$ASSIGN に失敗しました。

原因: パスワードの要求で、VMS システム・サービスの \$ASSIGN が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07658 slsprom: \$QIOW は読込みに失敗しました。

原因: パスワードの要求で、VMS システム・サービスの \$QIOW が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07665 ssrexhd: 再帰例外が見つかりました。string string string string string string

原因: Oracle 例外ハンドラの実行中に、VMS 例外が発生しました。メッセージに、信号番号、最初および 2 番目の信号指数、例外 PC および PSL、R0 が示されます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07670 \$IDTOASC は、秘密カテゴリの解釈に失敗しました。

原因: 秘密カテゴリの権限データベースの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07671 \$IDTOASC は、完全性カテゴリの解釈に失敗しました。

原因: 権限データベースの完全性カテゴリの文字列表現を検索中に、VMS システム・サービスの \$IDTOASC が失敗しました。

処置: 指定したバイナリ・ラベルが参照する権限データベースのエントリを削除してください。

ORA-07672 \$PARSE_CLASS は、文字列のバイナリ・ラベルへの解釈に失敗しました。

原因: 指定された文字列に有効な分類がなかったため、SEVMS システム・サービス \$PARSE_CLASS が失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、SEVMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07680 sou2os: 現在 Oracle への別コールが実行されています。

原因: Oracle 共有イメージ・エントリ・ポイントの呼出しが、共有イメージから発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07681 sou2os: Oracle を初期化中にエラーが発生しました。

原因: 共有イメージのディスパッチ・ベクターのセットアップ中に、エラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07682 sou2os: カーネル分散設定に失敗し、エラーが発生しました。

原因: Oracle 共有イメージ・エントリで、カーネル・モードのディスパッチが失敗しました。

処置: 共有イメージが CMKRNL 権限でインストールされていることを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07683 sou2os: \$SETPRV リセット・エラー

原因: Oracle 共有イメージ・イグジットでユーザー権限のリストア中に、VMS システム・サービスの \$SETPRV が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07684 sou2os: スーパーバイザ・スタックのリセット・エラー

原因: Oracle 共有イメージ・イグジットでスーパーバイザ・モード・スタックのリストア中に、VMS システム・サービスの \$SETSTK が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07685 sou2os: スーパーバイザ・スタックの設定エラー

原因: Oracle 共有イメージ・イグジットで Oracle スーパーバイザ・モード・スタックの設定中に、VMS システム・サービスの \$SETSTK が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07700 sksarch: 中断されました。

原因: ログのアーカイブが割り込まれました。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-07701 sksatln: 内部例外: 出力バッファは小さすぎます。

原因: 制御テキスト文字列の解析で、バッファがオーバーフローしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07702 アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。

原因: アーカイブ・テキストのデバイス・タイプを認識できません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07703 アーカイブ・テキストにエラーがあります: デバイス・タイプの後に '/' が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。デバイス・タイプ（ファイルまたはテープを指定する）の後には '/' が必要です。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07704 アーカイブ・テキストにエラーがあります: デバイス名の後に ':' が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。デバイス名の後には、':' が必要です。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07705 sksaprs: デバイス名のバッファは小さすぎます。

原因: デバイス名のバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07706 アーカイブ・テキストにエラーがあります: ディスク・ファイル名が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。ディスク・ファイル名がありません。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07707 アーカイブ・テキストにエラーがあります: テープ・ラベル名が必要です。

原因: ARCHIVE コマンドのアーカイブ制御テキストが無効です。テープ・ラベル名がありません。

処置: 正しい構文のテキストについては、『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

ORA-07708 sksaprs: テープ・ラベル名のバッファは小さすぎます。

原因: テープ・ラベルのバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07709 sksaprs: リモート・ホストへのアーカイブはできません。

原因: ユーザーが、DECnet を介してアーカイブにリモート・ディスクを指定しました。

処置: ディスクをローカル・ホストにアーカイブしてください。

ORA-07710 sksaprs: ファイル名のバッファは小さすぎます。

原因: ファイル名のバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07713 sksamtd: アーカイブ・デバイスがマウントできません。SYS\$MOUNT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの SYS\$MOUNT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07715 sksadtd: アーカイブ・デバイスがマウントできません。SYS\$DISMNT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの SYS\$DISMNT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07716 sksachk: ARCHIVE へのデバイス指定が無効です。

原因: VMS システム・サービスの SYS\$GETDVI に失敗しました。

処置: 有効なデバイスを ARCHIVE 制御文字列に指定してください。

ORA-07717 sksaalo: メモリー割当てに失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$GET_VM に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07718 sksafre: メモリー解放に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの LIB\$FREE_VM に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07721 scgcm: システムのエンキューを取得するのに OS リソースが不足しています。

原因: SYS\$ENQ の呼出しでエラーが戻されました。ロックの作成に必要なリソースが不足しています。これは、メッセージ SS\$_EXENQLM または SS\$_INSFMEM の後に発行されます。

処置: 必要なロックを作成できるように、リソースを解放してください。

ORA-07740 slemop: ハンドル・サイズは間違っています。(プログラミング・エラー)

原因: エラー・メッセージの読取りに使用した構造が一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07741 slemop: \$OPEN に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$OPEN に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07742 slemop: \$CONNECT に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CONNECT に失敗しました。

処置: システム・エラー・メッセージを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07743 slemop: エラー・ファイルの属性は間違っています。

原因: エラー・メッセージ・ファイルが不正な形式になっています。

処置: エラー・ファイルを変更する場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07744 slemcl: エラー・メッセージのファイル・ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07745 slemcl: \$CLOSE に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$CLOSE に失敗しました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07746 slemrd: エラー・メッセージのファイル・ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07747 slemrd: \$READ に失敗しました。

原因: VMS システム・サービスの \$READ に失敗しました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07750 slemcr: fopen に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイルの作成を行おうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07751 slemcr: malloc に失敗しました。

原因: 新規に作成されるメッセージ・ファイル用のキャッシュを割り当てようとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07753 slemcf: write 前の fseek に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を書き込む前に検索を行おうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07754 slemcf: fwrite に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素の書き込みを行おうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07755 slemcf: read の前の fseek に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素を読み込む前に検索を行おうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07756 slemcf: fread に失敗しました。

原因: メッセージ・ファイル・キャッシュ要素の読み込みを行おうとして失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07757 slemcc: ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07758 slemcw: ハンドルは無効です。

原因: ハンドルのパスされたシールが正しい値と一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07759 slemtr: 宛先は無効です。

原因: 関数に渡された宛先文字列が短すぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07760 slemtr: \$open に失敗しました。

原因: \$open サービスが失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07800 slbtpr: 数値は無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換の不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07801 slbtpr: 指数は無効です。

原因: 2 進数から 10 進数への変換の不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07802 slbtpr: パック 10 進数への変換中にオーバーフローしました。

原因: 2 進数から 10 進数への変換の不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07803 slpdtb: パック 10 進数の半バイトは無効です。

原因: 10 進数から 2 進数へ変換するという不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07804 slpdtb: 数値は大きすぎて供給バッファに入りません。

原因: 10 進数から 2 進数へ変換するという不可能な要求が行われました。

処置: この変換は実行できません。

ORA-07820 sspscn: SYS\$CRELNM に失敗しました。

原因: SYS\$CRELNM 関数からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07821 sspsdn: SYS\$DELLNM に失敗しました。

原因: SYS\$DELLNM 関数からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07822 sspscm: SYS\$CREMBX に失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスの作成を行おうとしたときに、SYS\$CREMBX 関数からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07823 sspsq: \$QIO に失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスの読み込みを行おうとしたときに、\$QIO からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07824 sspain: \$SETIMR に失敗しました。

原因: spin-watch タイマーのキューを行おうとしたときに、SYS\$SETIMR からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07825 sspsc: \$QIO は AST レベルで失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスの読み込みを行おうとしたときに、SYS\$QIO からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07826 sspscm: SYS\$GETDVIW に失敗しました。

原因: プロセス・ダンプ・メールボックスに関する情報の取得を行おうとしたときに、SYS\$GETDVIW からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07840 sllfop: LIB\$GET_VM に失敗しました。

原因: I/O ベクター用のメモリーの割当て中に LIB\$GET_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07841 sllfop: SYS\$OPEN に失敗しました。

原因: 読み込むデータ・ファイルをオープン中に SYS\$OPEN からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07842 sllfcl: SYS\$CLOSE に失敗しました。

原因: 入力データ・ファイルのクローズ中に SYS\$CLOSE からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07843 sllfcl: LIB\$FREE_VM に失敗しました。

原因: I/O ベクター用のメモリーの解放中に LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07844 sllfop: LIB\$GET_VM に失敗しました。

原因: データおよび索引バッファ用のメモリーの割当て中に LIB\$GET_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07845 sllfcl: LIB\$FREE_VM に失敗しました。

原因: データおよび索引バッファによって使用されていたメモリーの解放中に LIB\$FREE_VM からエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07846 sllfop: *string* バイトのレコードは、*string* バイトのユーザー・バッファには大きすぎます。

原因: ファイルの最長レコードが割当て可能な最大データ・バッファと合わせられません。

処置: より小さいレコードを持つように RMS ファイルを変更してください。

ORA-07847 sllfop: \$CONNECT に失敗しました。

原因: データ・ファイルをオープンしようとしている間に SYS\$CONNECT によってエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07848 sllfrb: \$GET に失敗しました。

原因: データ・ファイルを読み込もうとしている間に SYS\$GET によってエラーが戻されました。

処置: システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07849 sllfsk: \$GET に失敗しました。

原因：入力ファイルのレコードをスキップしようとしている間に SYS\$GET によってエラーが戻されました。

処置：システム・エラーを調べて、VMS ドキュメントを参照してください。

ORA-07850 sllfop: オプションは間違っています。

原因：Fixed= に無効なオプションが使用されています。その他のオプションについてはドキュメントで確認してください。

処置：ドキュメントを確認してください。

ORA-07860 osnsoi: 中断ハンドラを設定中にエラーが発生しました。

原因：制御中断ハンドラの設定中にエラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-07880 sdopnf: 内部エラーが発生しました。

原因：このプロセスによってオープンするすべてのファイルのリストが取得できませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08000 セッション順序番号リスト数が最大値を超えました。

原因：このセッションに対する順序親の状態オブジェクトがすべて使用されています。これは内部エラーです。

処置：このセッションを終了し、新しいセッションを開始してください。

ORA-08001 セッションあたりの順序数が最大値を超えました。

原因：セッションあたりの順序数が制限を超えました。

処置：INIT.ORA ファイルの sequence_cache_entries パラメータの値を増加してください。

ORA-08002 string.CURRVAL はこのセッションでは定義されていません。

原因：順序 NEXTVAL より先に順序 CURRVAL が選択されました。

処置：CURRVAL を選択する前に、順序から NEXTVAL を選択してください。

ORA-08003 順序 string.NEXTVAL が内部制限を超えました。

原因：一部のパラメータに不正な値が指定された状態で、順序が作成されました。正当な表示サイズを超えているので、NEXTVAL の計算はできません。

処置：有効制限内で順序番号に変更するか、順序番号を再作成してください。

ORA-08004 順序 string.NEXTVAL の string stringVALUE と矛盾しています。インスタンスシートできません。

原因：NEXTVAL のインスタンスシートが MAX/MINVALUE の 1 つに違反しました。

処置: 新しい値を要求できるように順序を変更してください。

ORA-08005 指定した行は存在しません。

原因: 指定した ROWID を含む行は、指定した表には存在しません。

処置: 表名の綴り間違いに対する問合せおよび ROWID を確認してください。

ORA-08006 指定した行は現在は存在しません。

原因: 指定した行は、操作が開始された後、他のユーザーによって削除されています。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-08008 別のインスタンスが USE_ROW_ENQUEUEES=*string* でマウントされています。

原因: 起動された共有インスタンスには、すでに稼働中のインスタンスと同じ USE_ROW_ENQUEUEES に対する値がありません。

処置: すべてのインスタンスの INIT.ORA ファイルがパラメータ USE_ROW_ENQUEUEES に対して同じ値を指定していることを確認してください。

ORA-08100 索引は無効なためトレース・ファイルを調べて診断してください。

原因: 引数索引の中で不一致が検出された索引を確認してください。

処置: トレース・ファイルをオラクル社カスタマ・サポート・センターに送付してください。

ORA-08101 索引キーは root dba *string* に存在せず dba *string* (*string*) に存在します。

原因: 内部エラーです。索引に不一致があります。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターに送付してください。

ORA-08102 索引キーは見つかりません (オブジェクト番号 *string*、dba *string* (*string*))。

原因: 内部エラーです。索引に不一致があります。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターに送付してください。

ORA-08103 オブジェクトはもう存在しません。

原因: 指定したオブジェクトは、操作が開始された後、他のユーザーによって削除されています。

処置: そのオブジェクトへの参照を取り除いてください。

ORA-08104 この索引オブジェクト *string* は、オンラインで (再) 作成中です。

原因: 索引が (再) 作成中か、またはオンラインでの (再) 作成からのリカバリを待機中です。

処置: オンラインでの索引作成またはリカバリの完了を待ってください。

ORA-08105 オンライン索引作成用の SMON クリーンアップをオフに切り替える Oracle イベントです。

原因: このイベントは、Oracle 開発者の監視下でのみ設定できます。

処置: デバッグのみ行ってください。

ORA-08106 ジャーナル表 *string.string* を作成できません。

原因: オンライン索引作成がジャーナル表を作成できません。

処置: 矛盾する表名を変更してください。

ORA-08108 この型の索引は、オンラインで作成または再作成できません。

原因: 標準の索引または IOT トップ・レベル索引のみがサポートされています。

処置: 索引の型を変更してください。

ORA-08109 nosort は、オンライン索引作成ではサポートされていないオプションです。

原因: オンライン索引作成では nosort を指定できません。

処置: 索引作成コマンドの nosort を削除してください。

ORA-08110 オンライン索引作成用の SMON クリーンアップをテストする Oracle イベントです。

原因: Oracle カーネルのテスト用です。

処置: このイベントを設定しないでください。(テスト用のみ)

ORA-08111 パーティション索引が全体として結合されていない可能性があります。

原因: ユーザーが ALTER INDEX COALESCE 文を使用して 1 つのパーティション索引を結合しようとしてしました。これは許可されていません。

処置: 索引を一度に (サブ) パーティションに結合します (ALTER INDEX MODIFY (sub) PARTITION COALESCE を使用します)。

ORA-08112 コンポジット・パーティションが全体として結合されていない可能性があります。

原因: 1 つのコンポジット・パーティションを結合しようとしてしました。

処置: 索引を一度にサブパーティションに結合します (ALTER INDEX MODIFY SUBPARTITION COALESCE を使用します)。

ORA-08113 コンポジット・パーティション索引は圧縮できません。

原因: ユーザーがコンポジット・パーティション索引を圧縮しようとしてしました。

処置: 圧縮されていないコンポジット・パーティション索引を作成してください。

ORA-08114 不正な索引は変更できません。

原因: 不正な索引を変更しようとしてしました。

処置: 不正な索引を削除してください。

ORA-08115 この索引型はオンライン（再）作成できません。

原因: オンラインがサポートしていない索引型を作成しようとしてしました。

処置: オフライン索引（再）作成コマンドを使用してください。

ORA-08116 オンライン索引作成をロック（S モード）するための十分な DML を取得できません。

原因: DML 共有ロックを許可せずに、索引をオンラインで作成しようとしてしました。

処置: ベース表での DML 共有ロックを許可してください。

ORA-08175 ディスクリット・トランザクション制約違反です (*string*)。

原因: 現在ディスクリット・トランザクションではサポートされていない機能を実行しようとしてしました。

処置: トランザクションをロールバックして、通常のトランザクションとして実行してください。

ORA-08176 一貫性読み込み失敗 ロールバック・データが使用できません。

原因: ロールバック・データを生成しない操作（索引作成、ダイレクト・ロードまたはディスクリット・トランザクション）によって変更されたデータが検出されました。

処置: 読み込み / 書き込みトランザクションの場合は、実行しようとした操作またはトランザクションを再試行してください。読み込み専用トランザクションを再起動してください。

ORA-08177 このトランザクションのアクセスを逐次化できません。

原因: この逐次化可能トランザクションの開始後に発生した操作によって変更されたデータが検出されました。

処置: 読み込み / 書き込みトランザクションの場合は、実行しようとした操作またはトランザクションを再試行してください。

ORA-08178 ユーザー INTERNAL に SERIALIZABLE 句の指定は無効です。

原因: ユーザー INTERNAL には、SERIALIZABLE モードはサポートされていません。

処置: 別のユーザーとして再接続し、SET TRANSACTION コマンドを再試行してください。

ORA-08179 平行性チェックに失敗しました。

原因: 特定のスナップショット後に発生した操作により変更されたデータが検出されました。ほとんどの場合、データ・ブロックの特定のキャッシュ・コピーが古いことを示しています。現在は内部的に使用されています。

処置: データ・ブロックのキャッシュ・コピーをリフレッシュし、操作を再試行してください。

ORA-08200 scggc: ロックをオープンできません。

原因: ロック・マネージャがロックのオープンに失敗しました。

処置: 使用可能なメモリーが十分にあることを確認して、操作を再試行してください。

ORA-08201 scggc: ロックを変換できません。

原因: ロック・マネージャがロックの変換に失敗しました。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-08202 scggc: ロックをクローズできません。

原因: ロック・マネージャでロックのクローズのエラーが発生しました。

処置: 追加情報として戻されたロック・マネージャの状態を確認してください。

ORA-08203 scggc: 未処理の変換要求を取消しできません。

原因: ロック・マネージャで変換要求の取消しのエラーが発生しました。

処置: 追加情報として戻されたロック・マネージャの状態を確認してください。

ORA-08204 scggc: 予期しないロック・マネージャ戻りコードが戻されました。

原因: ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: 追加情報として戻されたロック・マネージャの状態を確認してください。

ORA-08205 ora_addr: 環境に \$ORACLE_SID が設定されていません。

原因: 環境変数 ORACLE_SID が設定されていません。

処置: 環境変数 ORACLE_SID を設定してください。

ORA-08206 ora_addr: アドレス・ファイル名を変換できません。

原因: \$ORACLE_HOME/dbs/sgade\$ORACLE_SID.dbf を変換できません。

処置: ORACLE_HOME と ORACLE_SID が正しくセットされていることを確認してください。

ORA-08207 ora_addr: アドレス・ファイルをオープンできません。

原因: アドレス・ファイルをオープンできませんでした。

処置: Oracle が起動していることを確認してください。ファイル \$(ORACLE_HOME)/dbs/sgade\$(ORACLE_SID).dbf が存在し、適切な許可があるかどうかを確認してください。

ORA-08208 ora_addr: アドレス・ファイルを読み込めません。

原因: アドレス・ファイルを読み込めませんでした。

処置: ファイル \$(ORACLE_HOME)/dbs/sgade\$(ORACLE_SID).dbf が存在し、テキストの 1 行が含まれているかどうかを確認してください。

ORA-08209 scngrs: SCN がまだ初期化されていません。

原因: System Commit Number が初期化されていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08210 要求された I/O でエラーが発生しました。

原因: この操作で、Oracle が I/O エラーになる処理を要求しました。

処置: Oracle の通常の操作では発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08230 smscre: SGA の割当てに失敗しました。

原因: N_CORE システム・コールが失敗しました。メモリー不足の可能性があります。

処置: より少ないバッファ数を指定してください。INIT.ORA パラメータを確認してください。

ORA-08231 smscre: SGA に接続できません。

原因: プロセスが SGA に接続できません。リスナーが接続できないか、プロセスがリスナーと通信できない可能性があります。

処置: インスタンスが起動されていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08232 smsdes: SGA から切り離せません。

原因: リスナー・プロセスが停止した可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08233 smsdes: SGA の割当て解除ができません。

原因: SGA からの割当て解除で N_CORE システム・コールが失敗しました。

処置: 戻された NCX エラーを書き留め、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08234 smsget: インスタンス・リスナー・アドレスを獲得できません。

原因: インスタンス・リスナー・アドレスを SGADEF ファイルから読み込めません。

処置: \$ORACLE_HOME および ORACLE_SID の設定が正しいことを確認してください。追加情報として、ORA_ADDR からエラーが戻されます。

ORA-08235 smsget: このノードにはリスナーがありません。

原因: SGA に連結するプロセスが、インスタンスのリスナーと異なるノードにあります。

処置: \$ORACLE_HOME および ORACLE_SID の設定が正しいことを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08236 smsget: リスナーとサブキューブを共用できません。

原因: N_SHARE コールが失敗しました。リスナーが停止している可能性があります。

処置: リスナーが実行されているかどうか確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08237 smsget: SGA 領域がまだ作成されていません。

原因: 作成されていない SGA に連結しようとしてしました。

処置: インスタンスが起動されていることを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08238 smsfre: SGA から切り離せません。

原因: SGA からの割当て解除で N_CORE システム・コールが失敗しました。

処置: NCX エラーを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08240 snlmatt: パラレル・サーバーの名前が長すぎます。

原因: ロック・マネージャのアドレス・ファイルの名前が長すぎます。

処置: 短いパラレル・サーバー名を使用してください。

ORA-08241 snlmatt: ロック・マネージャに接続できません。

原因: ロック・マネージャの接続に失敗しました。実行されていない可能性があります。

処置: 追加情報として、ロック・マネージャのリターン・コードを参照してください。ロック・マネージャが実行されているかどうかを確認してください。

ORA-08242 snlmdet: ロック・マネージャから切り離せません。

原因: ロック・マネージャからの切離し中に、エラーが発生しました。

処置: 追加情報として、ロック・マネージャのリターン・コードを参照してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08260 ora_addr: ネーム・サーバーをオープンできませんでした。

原因: プロセスがネーム・サーバーに接続できませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08261 ora_addr: ネーム・サーバーで名前が見つかりませんでした。

原因: インスタンスのリスナー・ネーム・サーバーのエントリが見つかりませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08262 ora_addr: ORACLE_PSRV が定義されていません。

原因: パラレル・サーバー名 ORACLE_PSRV が未定義です。

処置: 環境変数 ORACLE_PSRV を設定して、再試行してください。

ORA-08263 ora_addr: リスナー・アドレスを解放できません。

原因: インスタンスのリスナー・ネーム・サーバーを解放できませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08264 ora_addr: ネーム・サーバーをクローズできません。

原因: ネーム・サーバーへの接続をクローズできませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08265 create_ora_addr: ネーム・サーバーをオープンできません。

原因: プロセスがネーム・サーバーに接続できませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08266 create_ora_addr: ネーム・サーバーで名前を登録できません。

原因: リスナーのアドレッシング情報が登録できませんでした。

処置: ネーム・サーバーが起動し、実行されていることを確認してください。追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。

ORA-08267 destroy_ora_addr: ネーム・サーバーをクローズできません。

原因: ネーム・サーバーへの接続をクローズできませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08268 create_ora_addr: ネーム・サーバーをクローズできません。

原因: ネーム・サーバーへの接続をクローズできませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08269 destroy_ora_addr: 名前を破棄できません。

原因: リスナーのアドレッシング情報を削除できませんでした。

処置: 追加情報として、ネーム・サーバーが戻した状態を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08270 sksachk: アーカイブ制御文字列が無効です。

原因: 指定されたアーカイブ制御文字列内に、アーカイブ・ファイルが作成できません。

処置: ボリュームが存在するかどうかを確認してください。

ORA-08271 sksabl: アーカイブ制御文字列に対してバッファ・サイズが十分ではありません。

原因: 指定されたアーカイブ文字列が、多くの文字に拡張されています。

処置: アーカイブ制御文字列の長さを短くしてください。

ORA-08274 環境変数に対してメモリが不足しています。

原因: メモリが不足しているため、要求された値を戻せません。

処置: メモリーの使用率を低くして再試行してください。

ORA-08275 環境変数が設定されていません。

原因: 要求された環境変数が設定されていません。

処置: 要求された変数名が正しいかどうかを確認してください。

ORA-08276 ネーム・サーバーに pid の入る容量がありません。

原因: バックグラウンド・プロセスの pid を格納できません。

処置: SHUTDOWN ABORT を実行して、データベースを再起動してください。

ORA-08277 環境変数を設定できません。

原因: メモリーが不足しているため、環境が拡張できません。

処置: メモリーの使用率を低くして再試行してください。

ORA-08278 CPU 統計を獲得できません。

原因: N_STAT が失敗したため、CPU 時間が取得できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08308 sllfop: ファイルをオープンできません。

原因: Oracle がファイルをオープンできませんでした。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08309 sllfop: ファイルに fsta を実行できません。

原因: Oracle は、オープンしているファイルの情報が取得できませんでした。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08310 sllfop: recsize の値が無効です。

原因: レコード・サイズに無効な値が指定されました。

処置: RECSIZE オプションに、0 より大きい値を指定してください。

ORA-08311 sllfop: maxrecsize のサイズが無効です。

原因: 最大レコード・サイズに無効な値が指定されました。

処置: MAXRECSIZE オプションに、0 より大きい値を指定してください。

ORA-08312 sllfop: 認識されていない処理オプションです。

原因: 認識されていない処理オプションが指定されました。

処置: 『Oracle for nCUBE 2 Installation and User's Guide』で有効なオプションで調べてください。

ORA-08313 sllfop: バッファの割当てができませんでした。

原因: ロード・バッファのメモリーが割り当てられませんでした。

処置: 最大レコード・サイズを小さくしてください。カレント・ノードで不要なプロセスを排除してから、SQL*Loader を実行してください。

ORA-08314 sllfcf: ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08315 sllfrb: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08316 sllfsk: ファイル内でのシークでエラーが発生しました。

原因: LSEEK システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08317 sllfsk: ファイル内でのシークでエラーが発生しました。

原因: LSEEK システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08318 sllfsk: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08319 sllfsk: ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 追加情報から戻された UNIX エラー番号を調べてください。

ORA-08320 scnget: scnset または scnfnfnd の前に scnget をコールしました。

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08321 scnmin: まだインプリメントされていません。

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08322 scnmin: バイアス・ロックのオープンまたは変換が失敗しました。

原因: LKMGR の呼出しが失敗したため、バイアス・ロックがオープンおよび変換できません。

処置: LKMGR が起動していることを確認してください。

ORA-08323 scnmin: バイアス・ロックのクローズが失敗しました。

原因: LKMGR の呼出しが失敗したため、バイアス・ロックがクローズできません。

処置: LKMGR が起動していることを確認してください。

ORA-08330 印刷はサポートされていません。

原因: ファイルが自動的にプリンタにスプールされました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-08331 待機操作のタイム・アウトが発生しました。

原因: Oracle がイベントの待機をタイム・アウトしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-08332 指定されたロールバック・セグメント番号 *string* は使用できません。

原因: ORA-01545 を参照してください。

処置: ORA-01545 を参照してください。また、開始するインスタンス数に十分なロールバック・セグメントが作成されているかどうかを確認してください。

ORA-08340 このコマンドは nCUBE には実行できません。使用されているスレッドは 1 つだけです。

原因: nCUBE プラットフォームで無効なコマンドが実行されました。

処置: このコマンドは発行する必要はありません。

ORA-08341 nCUBE では、このコマンドはインスタンス 1 からしか実行できません。

原因: インスタンス 1 にしか実行できないコマンドが発行されました。

処置: インスタンス 1 にログインし、コマンドを繰り返してください。

ORA-08342 srope: REDO サーバー接続をオープンできません。

原因: REDO サーバーへの接続を試行中にエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08343 srclose: REDO サーバー接続をクローズできません。

原因: REDO サーバー接続のクローズを試行中にエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08344 srapp: REDO サーバーへ REDO データを送信できません。

原因: REDO サーバーへの REDO の送信を試行中にエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システム固有のエラー・メッセージを参照して、処置を判断してください。

ORA-08362 scgcm: ロック・マネージャのメモリが不足しています。

原因: ロック・マネージャでメモリが不足しました。

処置: GC_FILES_TO_LOCKS および GC_ROLLBACK_LOCKS 初期化パラメータで指定されているロック数を少なくするか、ロック・マネージャの数を増やしてください。

ORA-08401 コンパイラ名: *string* が無効です。

原因: 無効なコンパイラ名 *comp_name* が UTL_PG 変換ルーチンに渡されました。

処置: 変換ルーチンをコールした PL/SQL コードのコンパイラ名パラメータを訂正してください。

ORA-08412 WMSGBSIZ にエラーがあります。WMSGBLK のサイズが警告メッセージに対して小さすぎます。

原因: WMSGBSIZ は警告メッセージ・ブロックの最大サイズです。1024 バイト～8K バイトにすることをお勧めします。

処置: 定義されている WMSGBLK のサイズを 1K～8K バイトにして、WMSGBSIZ を WMSGBLK のサイズに更新してください。

ORA-08413 *string* の FORMAT パラメータのコンパイラ型が無効です。

原因: 書式制御ブロックに、無効なコンパイラ型が定義されています。書式制御ブロックが無効です。

処置: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT でフォーマット・パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08414 *string* にエラーがあります。

原因：ファンクション・ルーチンがエラーを返しました。このルーチンは次のいずれかです。

- RAW_TO_NUMBER
- NUMBER_TO_RAW
- RAW_TO_NUMBER_FORMAT
- NUMBER_TO_RAW_FORMAT
- MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT
- MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT

処置：このメッセージの前のメッセージに、エラーの詳細が説明されています。それらのメッセージを確認して、適切な処置を決定してください。

ORA-08429 ロー・データのディスプレイ・タイプ・データに無効な数字があります。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに無効なデータが含まれていました。ピクチャ・マスク・パラメータは数字を指定しましたが、ロー・データからの該当する入力に有効な数字が含まれていませんでした。

処置：入力データまたはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を訂正してください。

ORA-08430 ロー・データに先行する記号がありません。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに先行記号がありませんでしたが、マスク・オプション・パラメータが先行記号を指定しました。

処置：入力ロー・データまたはマスク・オプションが一致するように訂正してください。

ORA-08431 ロー・データにピクチャで定義されているゼロがありません。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータにはゼロが含まれていますが、ロー・データからの該当する入力はゼロではありませんでした。

処置：入力データまたはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を訂正してください。

ORA-08432 ロー・データの浮動小数点データが無効です。

原因：UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・データに、無効な浮動小数点データが含まれています。

処置：入力ロー・データを訂正してください。

ORA-08433 ロー・データから数値への変換でピクチャ・タイプが無効です。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータには数字以外の文字が含まれていますが、数値データ型への変換が行われました。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08434 ロー・データの後続記号が無効です。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファには後続記号がありませんが、マスク・オプション・パラメータが後続記号を指定しました。

処置: 入力ロー・データまたはマスク・オプションが一致するように訂正してください。

ORA-08435 記号の先行が指定されているときに、ピクチャ・マスクに先行記号がありません。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力 MASK に先行記号がないのに、マスク・オプション・パラメータが先行記号を指定しました。

処置: 入力ロー・データまたはマスク・オプションが一致するように訂正してください。

ORA-08436 ロー・データに無効な記号桁があります。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファのピクチャ・マスクが記号を指定した位置に、無効な記号数字があります。

処置: 入力ロー・データまたはピクチャ・マスクが一致するように訂正してください。

ORA-08437 ピクチャ・マスクのピクチャ・タイプが無効です。

原因: UTL_PG NUMBER_TO_RAW 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータには数字以外の文字が含まれていますが、数値データ型への変換が行われました。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08440 ロー・バッファが小さすぎて、変換されたデータを保持できません。

原因: UTL_PG NUMBER_TO_RAW 変換ルーチンに渡された出力ロー・バッファのサイズが、ピクチャ・マスクに基づいた変換結果に十分な大きさではありませんでした。

処置: ロー・バッファ・サイズを、変換の結果全体を保持するのに必要なサイズまで大きくしてください。

ORA-08441 ピクチャ・マスクに閉じカッコがありません。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、閉じカッコがありませんでした。

処置: ピクチャ・マスクを訂正してください。

ORA-08443 マスク・オプションの BLANK WHEN ZERO 句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの BLANK WHEN ZERO 句で構文エラーが検出されました。有効な指定は、次のとおりです。

- BLANK ZERO
- BLANK ZEROS
- BLANK ZEROES
- BLANK WHEN ZERO
- BLANK WHEN ZEROS
- BLANK WHEN ZEROES

処置：マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08444 マスク・オプションの JUSTIFIED 句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの JUSTIFIED 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- JUST
- JUST RIGHT
- JUSTIFIED
- JUSTIFIED RIGHT

処置：マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08445 マスク・オプションの SIGN 句に構文エラーがあります。

原因：UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SIGN 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- SIGN LEADING
- SIGN LEADING SEPARATE
- SIGN LEADING SEPARATE CHARACTER
- SIGN TRAILING
- SIGN TRAILING SEPARATE
- SIGN TRAILING SEPARATE CHARACTER
- SIGN IS LEADING
- SIGN IS LEADING SEPARATE
- SIGN IS LEADING SEPARATE CHARACTER
- SIGN IS TRAILING

-
- SIGN IS TRAILING SEPARATE
 - SIGN IS TRAILING SEPARATE CHARACTER

処置: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08446 マスク・オプションの SYNCHRONIZED 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SYNCHRONIZED 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- SYNC
- SYNC LEFT
- SYNC RIGHT
- SYNCHRONIZED
- SYNCHRONIZED LEFT
- SYNCHRONIZED RIGHT

処置: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08447 マスク・オプションの USAGE 句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの USAGE 句で構文エラーが見つかりました。有効な指定は、次のとおりです。

- USAGE DISPLAY
- USAGE COMP
- USAGE COMP-3
- USAGE COMP-4
- USAGE COMPUTATIONAL
- USAGE COMPUTATIONAL-3
- USAGE COMPUTATIONAL-4
- USAGE IS DISPLAY
- USAGE IS COMP
- USAGE IS COMP-3
- USAGE IS COMP-4
- USAGE IS COMPUTATIONAL
- USAGE IS COMPUTATIONAL-3
- USAGE IS COMPUTATIONAL-4

処置: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08448 DECIMAL-POINT 環境句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された DECIMAL-POINT 環境句パラメータで構文エラーが見つかりました。有効な指定は、DECIMAL-POINT IS COMMA です。

処置: 環境句パラメータを訂正してください。

ORA-08449 ピクチャ・マスクに無効な数値シンボルがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、無効な数値シンボルが見つかりました。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08450 ピクチャ・マスクに CR の無効な指定があります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、接尾辞 CR が正しく指定されていませんでした。接尾辞 CR を指定できる位置は、ピクチャ・マスクの終わりのみです。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08451 ピクチャ・マスクに DB の無効な指定があります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータで、接尾辞 DB が正しく指定されていませんでした。接尾辞 DB を指定できる位置は、ピクチャ・マスクの終わりのみです。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08452 ピクチャ・マスクの E の指定はサポートされていません。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスク・パラメータに、浮動小数点指数記号「E」が指定されました。浮動小数点データ型は、UTL_PG 変換ルーチンでは現在サポートされていません。

処置: ピクチャ・マスクを訂正してください。必要であれば、データも訂正してください。

ORA-08453 ピクチャ・マスクに V シンボルが複数指定されています。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、複数の小数点標識「V」が含まれています。ピクチャ・マスクで使用できる小数点標識は1つのみです。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08454 ピクチャ・マスクに S シンボルが複数指定されています。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに、複数の演算符号標識「S」が含まれています。ピクチャ・マスクで使用できる演算符号標識は1つのみです。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータを訂正してください。

ORA-08455 CURRENCY SIGN 環境句に構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された CURRENCY SIGN 環境句パラメータで構文エラーが見つかりました。有効な指定は、CURRENCY SIGN IS *x* です。この *x* は有効な通貨記号です。

処置: 環境句パラメータを訂正してください。

ORA-08456 マスク・オプションに SIGN 句以外のピクチャ・マスクの記号がありません。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたピクチャ・マスクに「S」、「+」、「-」などの記号が含まれていませんが、マスク・オプション・パラメータには SIGN 句が含まれています。マスク・オプション・パラメータに SIGN 句が含まれている場合は、ピクチャ・マスク・パラメータに記号が必要です。

処置: ピクチャ・マスク・パラメータまたはマスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08457 SIGN 句の SEPARATE CHARACTER オプションに構文エラーがあります。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたマスク・オプション・パラメータの SIGN 句の SEPARATE CHARACTER オプションで、構文エラーが見つかりました。有効な指定は、SEPARATE、SEPARATE CHARACTER です。

処置: マスク・オプション・パラメータを訂正してください。

ORA-08458 フォーマット・パラメータが無効です。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたフォーマット・パラメータが無効でした。フォーマット・パラメータは、MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT のどちらかより前のコールで作成される必要があります。

処置: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT でフォーマット・パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08459 フォーマット・パラメータ長が無効です。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡されたフォーマット・パラメータの長さが正しくありませんでした。フォーマット・パラメータの長さは、2048 バイトである必要があります。

処置: MAKE_RAW_TO_NUMBER_FORMAT または MAKE_NUMBER_TO_RAW_FORMAT でフォーマット・パラメータが構成されているかどうか、このパラメータが PL/SQL プロシージャで誤って上書きされたり、修正されていないかどうかを確認してください。

ORA-08460 環境パラメータの環境句が無効です。

原因: UTL_PG 変換ルーチンに渡された環境パラメータに、サポートされていない環境句、または無効な環境句が含まれていました。CURRENCY SIGN 環境句および DECIMAL-POINT IS COMMA 環境句のみがサポートされています。

処置: 環境パラメータを訂正してください。

ORA-08462 ロー・バッファに無効な 10 進データがあります。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに無効なデータが含まれていました。

処置: 入力データを訂正してください。

ORA-08463 10 進数から Oracle の数値への変換でオーバーフローが発生しました。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER に渡された出力変数は、入力された 10 進数の変換結果である Oracle の数値を保持するのに十分な大きさではありませんでした。

処置: 入力 10 進数が有効なことで、出力変数が Oracle 番号値を保持できる大きさになっていることを確認してください。

ORA-08464 10 進のロー・データ入力が 42 桁を超えています。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファに 42 を超える桁が含まれていました。これは、Oracle の数値の最大サイズを超えています。

処置: 入力ロー・バッファを訂正してください。

ORA-08465 入力マスクに 32 文字を超える文字が含まれています。

原因: UTL_PG 数値変換ルーチンに渡された入力マスクに、32 を超える文字が含まれていました。

処置: 入力マスク・バッファを訂正してください。

ORA-08466 ロー・バッファ長 *string* が *string* には短すぎます。

原因: UTL_PG RAW_TO_NUMBER 変換ルーチンに渡された入力ロー・バッファが、長さ *string* バイト未満であるのに、ピクチャ・マスク・パラメータは、*string* バイトの入力データの変換を指定しました。

処置: 入力データまたはピクチャ・マスクが誤っています。該当する項目を訂正してください。

ORA-08467 Oracle 数値を *string* に変換中にエラーが発生しました。

原因: Oracle の数値を COBOL の型 (DISPLAY COMP-3 または文字変数) のいずれかに変換するときに、エラーが発生しました。Oracle の数値の書式が正しくありませんでした。

処置: 変換ルーチンの呼出しを修正してください。入力は、有効な Oracle 数値変数にしてください。

ORA-08468 マスク・オプション *string* はサポートされません。

原因: マスク・オプション句が UTL_PG 変換ルーチンに渡されましたが、UTL_PG でサポートされていません。句には次のいずれかを指定できます。

- USAGE IS POINTER

- USAGE IS INDEX
- USAGE IS COMP-1
- USAGE IS COMP-2 POINTER

処置: UTL_PG に対する PL/SQL コールのマスク・オプション・パラメータから句を削除してください。

ORA-08498 警告: ピクチャ・マスク '*string*' がピクチャ・マスク・オプション '*USAGE IS string*' を '*USAGE IS DISPLAY*' に上書きしました。

原因: ピクチャ・マスク USAGE オプションが、ピクチャ・マスクによって上書きされました。

処置: これは情報メッセージです。このメッセージは、USAGE オプションを変更してピクチャ・マスクと一致させると表示されなくなります。

ORA-08499 警告: ピクチャ・マスク・オプション '*string*' が UTL_PG によって無視されました。

原因: OCCUR、SYNC、その他のピクチャ・マスク・オプションは UTL_PG 数値変換ルーチンによって処理されませんでした。

処置: これは情報メッセージです。UTL_PG ルーチンに渡されるパラメータ・リストから不必要なピクチャ・マスク・オプションを取り除くと、このメッセージは表示されなくなります。

ORA-09200 sfccf: ファイルの作成中にエラーが発生しました。

原因: ディスク領域が不足している可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09201 sfcopy: ファイルのコピー中にエラーが発生しました。

原因: ブロック・サイズが一致していない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09202 sfifi: ファイルの識別中にエラーが発生しました。

原因: INIT.ORA ファイルで指定された DB_BLOCK_SIZE が正しくありません。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09203 sfofi: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: ファイル属性が変更されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09204 sfotf: テンポラリ・ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 無効なパスがファイルに指定されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09205 sfqio: ディスクの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09206 sfrfb: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09207 sfsrd: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09208 sftcls: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れている可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09209 sftget: ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09210 sftopn: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 無効なパスがファイルに指定されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09211 sfwfb: ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09212 sfwfbmt: ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09213 slgfn: ファイル名の作成中にエラーが発生しました。

原因: ファイル名が長すぎる可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09214 sfdone: I/O エラーが検出されました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09215 sfqio: IOCompletionRoutine でエラーが検出されました。

原因: ファイルが切り捨てられたか、壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09216 sdnfy: 値 '*string*' が正しくありません (パラメータ *string*)。

原因: 上記のパラメータの値として指定したディレクトリが使用できませんでした。

処置: 指定したディレクトリが、有効なディレクトリ / ファイルの指定かどうかを確認してください。

ORA-09217 sfsfs: ファイルのサイズ変更に失敗しました。

原因: ディスク領域が不足している可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09218 sfrfs: ファイル・サイズのリフレッシュに失敗しました。

原因: ファイルが壊れているか、切り捨てられています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09240 smpalo: PGA メモリーの割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09241 smsalo: SGA メモリーの割当て中にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09242 smscre: SGA の作成中にエラーが発生しました。

原因: SGA の作成中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09243 smsget: SGA との連結中にエラーが発生しました。

原因: SGA が作成されていません (データベースが起動していません)。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09244 smprset: メモリー保護の設定中にエラーが発生しました。

原因: メモリー保護の設定中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09245 smcstk: スタックの切換え中にエラーが発生しました。

原因: スタックの切換え中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09246 sfsmap: SGA をマップできません。

原因: SGA をマップできません。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09247 smsdes: SGA の破棄中にエラーが発生しました。

原因: SGA の破棄中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09260 sigpidu: プロセス ID の取得中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09261 spdcr: 連結解除 (バックグラウンド) プロセス作成中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09262 spdde: 連結解除 (バックグラウンド) プロセス終了中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09263 spini: プロセスの初期化中にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09264 sptpa: プロセスのフラグ化中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09265 spwat: プロセスの一時停止中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09266 spawn: Oracle プロセス起動時にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09270 szalloc: セキュリティ用のメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09271 szlon: ユーザー名検証中にエラーが発生しました。

原因: ユーザー名が長すぎる可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09272 リモート OS ログオンはできません。

原因: リモート OS ログインが試行されましたが、これは許可されていません

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09273 szrfc: ロール名検証中にエラーが発生しました。

原因: ロール名の検証中に、オペレーティング・システム・エラーが戻されました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09274 szrfc: ロール名のバッファ領域が不足しています。

原因: OS ロール名が長すぎます。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09280 sllfcf: ファイルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09281 sllfop: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: ファイルに無効なパス名が指定された可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09282 sllfrb: レコードの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09283 sllfsk: レコードのスキップ中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが壊れています。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09284 sllfop: 読み込みバッファを割り当てることができません。

原因: MALLOC() システム・コールからエラーが戻されました。システムのヒープ領域が不足している可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。

ORA-09285 sllfop: 不明な処理オプション。書式が正しくありません。

原因: パスされた処理オプションが不正確な形式になっています。

処置: 許される形式の IUG を調べてください。

ORA-09290 sksaalo: アーカイブ用のメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: メモリー不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09291 sksachk: アーカイブ先に指定されたデバイスが無効です。

原因: ディレクトリにアクセスできません。

処置: 有効なデバイスを ARCHIVE 制御文字列に指定してください。

ORA-09292 sksablñ: アーカイブ・ファイル名を作成できません。

原因: 無効なディレクトリまたは形式が指定されました。

処置: LOG_ARCHIVE_FORMAT に有効なディレクトリおよび INIT.ORA の LOG_ARCHIVE_FORMAT に有効な形式文字列を指定してください。

ORA-09293 sksasmo: コンソールにメッセージを送信できません。

原因: コンソール・オペレータにメッセージを送信しているときに、エラーが発生しました。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09300 osncon: 接続できないため DPMI を使用できません。

原因: DPMI の存在を検出できません。

処置: Windows を再起動して再試行してください。

ORA-09301 osncon: ローカル・カーネルは、標準モードでだけサポートされます。

原因: エンハンス・モードで、S: に接続しようとしてしました。

処置: Windows を標準モードで再起動してください。

ORA-09310 sclgt: ラッチの解放中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09311 slsleep: プロセスの一時停止中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09312 slspool: プリンタへのファイルのスプール中にエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09313 slsprom: ユーザーへのプロンプト表示でエラーが発生しました。

原因: リソース不足の可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09314 sltln: 論理名変換中にエラーが発生しました。

原因: 内部バッファがオーバーフローした可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09315 sql2tt: ORACLE_EXECUTABLE 変換中に 2 タスク・エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09316 szrpc: ロールのパスワードは検証できません。

原因: OS ロールは、このプラットフォームにサポートされていない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09317 szprv: 権限が不十分です。

原因: 指定されたパスワードが無効です。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09318 slkhst: オペレーティング・システムにホスト・アウトできません。

原因: コマンドに十分なメモリーがないか、またはホスト・アウトがこのプラットフォームにサポートされていない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09319 slgtd: 現在日付および時間を取得できません。

原因: システム時間の設定が不正な可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09320 szrfc: 有効な OS ロールのリストを取得できません。

原因: OS ロールは、このプラットフォームでサポートされていない可能性があります。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09321 slzdtb: ゾーン 10 進数をバイナリに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09322 slpdtb: パック 10 進数をバイナリに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09330 Oracle または Oracle DBA により、内部的にセッションが終了しました。

原因：異常切断されたクライアント・ワークステーションが原因で、Oracle が約 1 分後にそのセッションを終了しました。SHUTDOWN ABORT が実施される場合は、このメッセージはトレース・ファイルにも表示されます。

処置：処置は必要ありません。

ORA-09331 scgcan: LK_SYNC_CANCEL リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。それでもエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09332 scgcc: LK_CLOSE リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。それでもエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09333 scggc: LK_OPEN_CONVERT リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。それでもエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09334 scggc: LK_CONVERT リターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。それでもエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09335 scgcm: 完了プロシージャのリターン・コードを処理できません。

原因：無効なロック状態がロック・マネージャによって戻され、ロックに一貫性がない可能性があります。

処置：UTLLOCK.SQL スクリプトを使用して、ロック状態を確認してください。スクリプトに関する情報は『Oracle8i 管理者ガイド』を参照してください。それでもエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09340 指定された ORACLE_SID が無効か、または長すぎます。

原因: ORACLE_SID は最長でも、アルファベット 4 文字でなければなりません。

処置: 正しい形式で ORACLE_SID を指定してください。

ORA-09341 scumnt: データベースをマウントできません。

原因: 別のインスタンスが現在データベースをマウントしています。

処置: 後でもう一度実行してください。

ORA-09342 SHUTDOWN ABORT 中に分離プロセスが Oracle によって終了されました。

原因: ユーザーが SHUTDOWN ABORT を実行しました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-09344 spsig: スレッドの通知中にエラーが発生しました。

原因: この機能は実装されていない可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-09350 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域を割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09351 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバは共有メモリーを割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09352 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバは新規の ORACLE タスクを起動できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09353 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバはイベント・セマフォをオープンできません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09354 Windows32 ビットの 2 タスク・ドライバ: ORACLE タスクが予期せぬうちに終了しました。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09360 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域を割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09361 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域をロックできません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09362 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバはコンテキスト領域の割当てを解除できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09363: Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバのコンテキスト領域が無効です。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09364 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは隠しウィンドウを作成できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09365 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは隠しウィンドウを破棄できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09366 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは共有メモリーを割り当てられません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09367 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは共有メモリーの割当てを解除できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09368 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバは ORACLE を起動できません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09369 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバのインスタンス・ハンドルが正しくありません。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09370 Windows 3.1 の 2 タスク・ドライバの ORACLE タスクがタイム・アウトしました。

原因: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

処置: このメッセージに付随する OSD エラーを調べてください。

ORA-09700 sclin: 最大ラッチ数を超えました。

原因: Oracle が使用可能なラッチ数以上を使用しようとしています。

処置: 初期化パラメータ LATCH_PAGES を増加するか、または使用している共有メモリー量を削減してください。

ORA-09701 scnfy: 最大プロセス数を超えました。

原因: PROCESSES 初期化パラメータの値を超えています。

処置: PROCESSES パラメータを削減し、再起動してください。

ORA-09702 sem_acquire: ラッチ・セマフォの獲得に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの獲得に失敗しました。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-09703 sem_release: ラッチ・セマフォの解放に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの解放に失敗しました。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-09704 sstascre: テスト / 設定ページの作成中に ftok エラーが発生しました。

原因: FTOK() ライブラリ・コールが SSTASTCRE() で失敗しました。

処置: TASDEF@.DBF ファイルが存在するかどうかを確認してください。存在する場合には、システム障害の可能性があります。System V との互換性がない可能性があります。

ORA-09705 spcre: ラッチ・セマフォの初期化に失敗しました。

原因: ラッチのアクセスに使用されているセマフォの初期化に失敗しました。

処置: トレース・ファイルをエラーの再現についての情報とともに、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ送付してください。

ORA-09706 slsget: get_process_stats エラーが発生しました。

原因: get_process_stats システム・コールがエラーを戻しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: 戻された追加情報を調べてください。オペレーティング・システムのリファレンスを参照してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09708 soacon: ソケットのポートへのバインドに失敗しました。

原因: ソケットでバインド・システム・コールに失敗しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。接続を再試行してください。

ORA-09709 soacon: 接続の受け入れに失敗しました。

原因: ソケットでアクセプト・システム・コールに失敗しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。接続を再試行してください。

ORA-09710 soarcv: バッファがオーバーフローしました。

原因: 内部バッファが大きくないため、読み込まれたメッセージを保持することができません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09711 orasrv: archmon はすでに接続されています。

原因: archmon から orasrv への接続はすでに確立されています。

処置: 接続の試行を停止してください。

ORA-09712 orasrv: ログ・アーカイブはすでに接続されています。

原因: ログ・アーカイブから orasrv への接続はすでに確立されています。

処置: 接続の試行を停止してください。

ORA-09713 グローバル・ハードウェア・クロックの障害により、インスタンスが終了しました。

原因: Oracle のシステム変更番号の生成に使用されているグローバル・ハードウェア・クロックが失敗しました。

処置: グローバル・ハードウェア・クロックを調べてください。

ORA-09714 2 タスク・インタフェース: puname が取得できません。

原因: TXIPC ドライバが、PU の名前を取得できません。(オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。)

処置: PU に (一貫性のある) 名前が付いていることを確認してください。

ORA-09715 orasrv: puname が取得できません。

原因: ORASRVPU が PU の名前を取得できません (オペレーティング・システム・エラーの可能性)。

処置: PU に（一貫性のある）名前が付いていることを確認してください。

ORA-09716 kslcll: 流れ込み lmpport ラッチを固定できません。

原因: 1 つの Oracle プロセスが lmpport ラッチを保持したまま停止しました。

処置: Oracle ユーザー・プロセスをすべて終了（中断）してください。SHUTDOWN ABORT を実行し、Oracle RDBMS カーネルを再起動してください。

ORA-09717 osnsui: ユーザー・インタラプト・ハンドラの最大数を超過しました。

原因: ユーザー・インタラプト・ハンドラの内部制限数を超過しました

処置: 同時ログイン数を削減するか、またはユーザー・インタラプト・ハンドラの数
を削減してください。

ORA-09718 osnsui: ユーザー・インタラプト・ハンドラを設定できません。

原因: MALLOC() が空白の割り当てに失敗したので、ユーザー・インタラプト・ハン
ドラを保持できません。

処置: メモリー・リソース不足の可能性があります。

ORA-09719 osncui: 処理が無効です。

原因: osncui に渡されたハンドルは有効な範囲外です。

処置: 有効なハンドルを使用してください。

ORA-09740 slsget: 仮想メモリー領域の統計情報を取得できません。

原因: VM_REGION システム・コールが、仮想メモリー領域の統計表示取得に失敗し
ました。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。オペレーティング・シス
テム失敗の可能性があります。

ORA-09741 spwat: ポスト待機中にエラーが発生しました。

原因: MSG_RECEIVE システム・コールでエラーが戻されました。これは内部エラーで
す。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。ポート名は sercose[0] に
戻されます。

ORA-09742 sppst: ポスト中にエラーが発生しました。

原因: MSG_SEND システム・コールからエラーが戻されました。これは内部エラーで
す。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。ポート名は sercose[0] に
戻されます。

ORA-09743 smscre: 共有メモリーを Attach できません。

原因: MMAP または書込みシステム・コールからエラーが戻されました。これは内部
エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09744 smsget: mmap エラーが発生しました。

原因: mmap システム・コールからエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09745 smscre: vm_allocate エラーが発生したため共有メモリーを作成できません。

原因: システム・コール vm_allocate でのエラーです。SGA の単一の共有メモリー・セグメントとしての作成に失敗しました。

処置: SERCERRNO の結果コードを確認してください。SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-09746 smscre: 共有メモリーに付けられているアドレスが無効です。

原因: VM_ALLOCATE システム・コールが、SGA を不正な位置に連結しました。

処置: SGA 連結アドレスが有効かどうかを調べてください。

ORA-09747 pw_detachPorts: サーバーの pws_detach のコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_detach のコールに失敗しました。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09748 pws_look_up: fork に失敗しました。

原因: pws_look_up コールが (Oracle ヘルパー) プロセスを fork できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-09749 pws_look_up: ポートの参照に失敗しました。

原因: pws_look_up が (Oracle ヘルパー) へのポートを見つけられませんでした。

処置: (Oracle ヘルパー) サーバーが pws_look_up によって正しく起動されており、ネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを確認してください。

ORA-09750 pw_attachPorts: port_rename に失敗しました。

原因: port_rename システム・コールに失敗しました。内部エラーの可能性がります。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09751 pw_attachPorts: サーバーの pws_attach のコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_attach のコールに失敗しました。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09752 pw_attachPorts: port_allocate に失敗しました。

原因: port_allocate システム・コールに失敗しました。リソースを使い果たした可能性があります。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09753 spwat: プロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置: 追加情報として、無効なプロセス ID が示されます。

ORA-09754 sppst: sppst に渡されたプロセス番号が無効です。

原因: ファンクションに無効な Oracle プロセス ID が渡されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09755 osngpn: ポート割当てに失敗しました。

原因: PORT_ALLOCATE システム・コールが失敗しました。

処置: システム・リソースが不足している可能性があります。SERCERRNO のエラー・コードを調べてください。

ORA-09756 osnpns: ネーム・サーバーにポートが存在しません。

原因: osnpns が、ネーム・サーバーで指定された名前付きポートを検索できませんでした。

処置: SERCERRNO のエラー・コードを確認してください。シャドウ・プロセスおよびネットワーク・ネーム・サーバーが実行していることを確認してください。

ORA-09757 osniph: ポート割当てに失敗しました。

原因: PORT_ALLOCATE システム・コールが失敗しました。

処置: システム・リソースが不足している可能性があります。SERCERRNO のエラー・コードを調べてください。

ORA-09758 osniph: ネーム・サーバーのポートをチェックできません。

原因: NETNAME_CHECK_IN コールが失敗しました。

処置: SERCERRNO のエラー・コードを確認してください。ネットワーク・ネーム・サーバーが動作しているかどうか確認してください。

ORA-09759 osnsbt: 受信したメッセージが無効です。

原因: MSG_RECEIVE システム・コールに失敗したか、または不正なメッセージを受信しました。これは内部エラーです。

処置: SERCERRNO に戻されたエラー・コードを報告してください。

ORA-09760 osnpui: ブレーク・メッセージが送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09761 pw_destroyPorts: サーバーの pws_stop_instance のコールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_stop_instance のコールに失敗しました。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09762 sNeXT_instanceName: 変換エラーが発生しました。

原因: ORACLE_SID の値を変換している間に故障が発見されました。

処置: ORACLE_SID が定義されていること、および有効な長さであることを確認してください。

ORA-09763 osnmpx: Mach ポートの情報交換時に送受信エラーが発生しました。

原因: Mach ドライバが、接続の反対側とのポート情報の交換に失敗しました。MSG_SEND (sercose[0] == 1) または MSG_RECEIVE (sercose[0] == 2) のいずれかが失敗しました。

処置: SERCERRNO のリターン・コードを確認してください。両方の接続を確認してください。

ORA-09764 osnmop: Oracle 実行プログラムでアクセス・エラーが発生しました。

原因: Match ドライバが、Oracle 実行プログラムへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-09765 osnmop: fork に失敗しました。

原因: Match ドライバが、Oracle シャドウ・プロセスへ fork できませんでした。

処置: 別のプロセスをサポートするために十分なシステム・リソースがあるかどうかを検証してください。ユーザーまたはシステム・プロセス制限を超えているか、空いているメモリーまたはスワップ・スペースの量が一時的に不足しています。

ORA-09766 osnmop: バッファ割当てに失敗しました。

原因: Mach ドライバが十分な仮想メモリー・スペースをその I/O バッファに割り当てるのに失敗しました。

処置: 2 タスク・ドライバ・ホスト文字列の BUFFER_SIZE パラメータの値を削減してください。

ORA-09767 osnmfs: msg_send から無効なリターン・コードが返されました。

原因: Mach ドライバの送信バッファのフラッシュ中、msg_send システム・コールに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09768 osnmgetmsg: メッセージを読みません。

原因: Mach ドライバでメッセージを待機中、MSG_RECEIVE システム・コールで失敗コードが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09769 osnmbr: ブレーク・メッセージの読みができません。

原因: Mach ドライバが Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09770 pws_look_up: 変換に失敗しました。

原因: pws_look_up ルーチンが (Oracle ヘルパー) 実行可能プログラム名の変換に失敗しました。

処置: ORACLE_SID および \$ORACLE_HOME が設定されており、正しいことを確認してください。追加情報では、変換エラー・コードが表示されます。

ORA-09771 osnmwrtbrkmsg: msg_send から無効なリターン・コードが返されました。

原因: Mach ドライバ・ブレークの送信中、msg_send システム・コールに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09772 osnpmatbrkmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: Mach ドライバが認識不可能なタイプのメッセージを受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09773 osnmgetdatmsg: ホストからのメッセージのタイプが無効です。

原因: Mach ドライバが認識不可能なタイプのメッセージを受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09774 osnmui: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: Mach ドライバが Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09775 osnmrs: プロトコルエラーをリセットしました。

原因: Mach 2 タスク・ドライバが接続のリセットに失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09776 pws_look_up: (Oracle helper) 実行プログラムでアクセス・エラーが発生しました。

原因: pws_look_up コールが (Oracle ヘルパー) 実行プログラムにアクセスできませんでした。

処置: (Oracle ヘルパー) 実行プログラムおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-09777 osnpbr: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: パイプ・ドライバが Oracle シャドウ・プロセス・ブレーク・スレッドへブレーク・メッセージを送信できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09778 snyfyport: 通知ポートの割当てに失敗しました。

原因: ルーチンはタスクの通知するポートの割当てまたは設定に失敗しました。

処置: オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09779 snyGetPort: ポート割当てに失敗しました。

原因: PORT_ALLOCATE システム・コールが失敗しました。システム・リソースが空である可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラーの可能性あります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09786 sllfop: ファイルのオープン・エラーが発生しました。

原因: Open システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09787 sllfop: 処理オプションが認識されません。フォーマットが無効です。

原因: パスされた処理オプションが不正確な形式になっています。

処置: 許される形式の IUG を調べてください。

ORA-09788 sllfrb: ファイルを読み込みません。

原因: read システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09789 sllfsk: ファイルを読み込みません。

原因: read システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09790 sllfcf: ファイルをクローズできません。

原因: Close システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09791 slemdbf: ファイル名を変換できません。

原因: 追加情報に SLTLN から戻されたエラーが表示されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-09792 sllfop: 読み込みバッファを割り当てられません。

原因: MALLOC システム・コールからエラーが戻されました。システムのヒープ領域が不足している可能性があります。

処置: オペレーティング・システム・エラーの追加情報を調べてください。

ORA-09793 szguns: ユーザー名の長さがバッファ長を超えています。

原因: 調べようとしたユーザーの名前の長さがコールするルーチンから与えられたバッファのサイズより大きくなっています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09794 szrbuid: ロール名の長さがバッファ長を超えています。

原因: 調べようとしたロールの名前の長さが、コールするルーチンから与えられたバッファのサイズより大きくなっています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09795 szrbuid: ロール構造の malloc に失敗しました。

原因: ロール記述子を保持するために使用されている内部の構造体のためのメモリーの割当てに失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。

ORA-09796 szrbuid: ロール名の malloc に失敗しました。

原因: ロールの名前を保持するために使用されている内部のバッファのためのメモリーの割当てに失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。

ORA-09797 O/S の MAC 権限の取得に失敗しました。

原因: オペレーティング・システムはプロセスの権限を回復できません。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09798 ラベル比較に失敗しました。

原因: 2つのバイナリ・ラベルの比較が失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09799 ファイル・ラベルの検索に失敗しました。

原因: Oracle が、ファイルへ付加されるラベルを取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09800 プロセス重要度ラベルの検索に失敗しました。

原因: Oracle がプロセスの重要度ラベルの取得に失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09801 接続からユーザー ID を取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザー ID 番号を取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09802 バイナリ・ラベルから文字列への変換に失敗しました。

原因: Oracle がバイナリ・ラベルを文字列へ変換できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09803 文字列バッファの割当てに失敗しました。

原因: ラベルが取得されるファイル名を保持するために使用されるバッファの割当てに失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。Oracle が割り当てようとしたバイト数が「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09804 バイナリから Oracle へのクラス変換に失敗しました。

原因: Oracle がクラス・コンポーネントのバイナリ形式から Oracle 形式への変換に失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09805 数値から文字列へのカテゴリの変換に失敗しました。

原因: Oracle がカテゴリ番号を失敗した文字列表示対応へ変換できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。カテゴリ番号は「追加情報」フィールドに含まれています。

ORA-09806 ラベル文字列バッファの割当てに失敗しました。

原因: ラベルを保持するために使用されている一時バッファを割り当てできませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。Oracle が割り当てようとしたバイト数が「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09807 文字列からバイナリへのラベルの変換に失敗しました。

原因: Oracle がラベルの文字列表示をバイナリ形式へ変換できませんでした。

処置: 有効なラベルを再入力してください。

ORA-09808 ユーザー許可を取得できません。

原因: Oracle がユーザーの許可レベルを取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09809 接続からユーザーのグループ ID を取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザーのグループ ID 番号を取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09810 接続からプロセス ID を取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザーのプロセス ID 番号を取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09811 パッケージが初期化できません。

原因: Oracle がセキュリティ情報取得のために使用されているライブラリを初期化できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09812 接続からユーザー許可を取得できません。

原因: Oracle が SQL*Net 接続からユーザーのオペレーティング・システム・セッション許可を取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09813 ディレクトリの状態を取得できません。

原因: Oracle が、ディレクトリが複数レベルになっているかどうかを判別できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09814 ファイル名を拡張できません。

原因: Oracle が複数レベルのディレクトリに常駐するファイル名を拡張できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09815 ファイル名バッファがオーバーフローしました。

原因: 拡張された名前の保持に Oracle が使用しているバッファが小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09816 有効な権限を設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09817 監査ファイルへの書込みに失敗しました。

原因: Oracle が、監査証跡として使用されるファイルへのエントリの書込みに失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09818 数値が大きすぎます。

原因: Oracle が、コンポーネント文字列を数値に変換できませんでした。数値が、整数に使用できる最大値を超えています。「追加情報」フィールドは最大値を示しています。

処置: 文字列を修正し、変換をやり直してください。

ORA-09819 数値が最大値を超えています。

原因: コンポーネントに指定された数値が、このコンポーネントに使用できる最大値を超えています。

処置: コンポーネントの値を最大値より小さい値に変更し、変換をやり直してください。コンポーネントの最大値は、「追加情報」フィールドに示されます。

ORA-09820 文字列から数値表現へのクラス変換に失敗しました。

原因: Oracle が、クラス文字列を数値に変換できませんでした。文字列内の文字に、数値以外のものが含まれています。

処置: 文字列をすべて数値に変更するか、またはすべて数値以外の文字に変更して、変換をやり直してください。

ORA-09821 数値ラベルが無効です。

原因: Oracle 数値形式で指定されたラベルが有効ではありません。

処置: 有効なラベルを再入力してください。システムのコード化でコンポーネントに有効な数値を調べてください。

ORA-09822 監査ファイル名の変換に失敗しました。

原因: Oracle が AUDIT_TRAIL_DEST の初期化パラメータの値を変換できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09823 デバイス名が長すぎます。

原因: デバイス名が長すぎるので、内部バッファに入りません。追加情報フィールドに、デバイス名の長さが示されます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09824 allowmacaccess 権限を設定できません。

原因: ラベルの比較のために allowmacaccess 権限をオンにできませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。Oracle に allowmacaccess 権限がない場合には、CHPRIV (1M) を使用して、allowmacaccess 権限を \$ORACLE_HOME/bin/oracle にすでに存在する権限セットに追加してください。実行ファイルにすでに allowmacaccess 権限がある場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09825 allowmacaccess 権限を使用不可にできません。

原因: ラベルを比較後に Oracle は allowmacaccess 権限をオフにできませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09826 SCLIN: atomic ラッチを初期化できません。

原因: システム・コール atomic_op() からエラーが戻されました。

処置: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09827 SCLGT: atomic ラッチで不明なエラーが返されました。

原因: システム・コール ATOMIC_OP() から予期しないエラーが返されました。

処置: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09828 SCLFR: atomic ラッチでエラーが返されました。

原因: システム・コール ATOMIC_OP() から予期しないエラーが返されました。

処置: トレース・ファイルの追加情報を調べてください。

ORA-09829 pw_createPorts: サーバーの pws_start_instance コールに失敗しました。

原因: (Oracle ヘルパー) への pws_start_instance のコールに失敗しました。システム・リソースが空である可能性があります。

処置: サーバーがアクティブであることを確認してください。SERCERRNO に戻されたエラー・コードを調べて、サーバー・ログ・ファイルのエラー・メッセージを確認してください。

ORA-09830 snyAddPort: リモート・プロシージャ・コールの実行に失敗しました。

原因: MSG_RPC システム・コールでエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09831 snyStartThread: サーバー・ポート・セットの構築に失敗しました。

原因: ルーチンが、要求をリスニングするポート・セットの構築に失敗しました。オペレーティング・システム失敗の可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09832 infoCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: ルーチンが、フォーマットが無効な要求を受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09833 addCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: ルーチンが、フォーマットが無効な要求を受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09834 snyGetPortSet: ポート情報を集めることができません。

原因: PORT_STATUS システム・コールに失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09835 addCallback: セット内にすでにコールバック・ポートが存在します。

原因: コールバック・リストに追加されるポートは、すでにポート・セットに存在します。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09836 addCallback: コールバック・セットにポートをこれ以上追加できません。

原因: PORT_SET_ADD システム・コールに失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09837 addCallback: コールバック・リンクを追加割当てできません。

原因: MALLOC ライブラリ・コールが、コールバック・リンクの空間を割り当てられませんでした。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09838 removeCallback: コールバック・ポートを削除することができません。

原因: ポートの PORT_SET_REMOVE システム・コールに失敗しました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09839 removeCallback: コールバック・セットにはコールバック・ポートが存在しません。

原因: コールバック・リストから削除されるポートは、ポート・セットには存在しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09840 soacon: 名前の変換に失敗しました。

原因: SLTLN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ を変換できませんでした。

処置: この oratab の ORACLE_SID に指定された ORACLE_HOME が正しいかどうかを確認してください。

ORA-09841 soacon: 名前の変換に失敗しました。

原因: SLTLN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ を変換できませんでした。

処置: この ORATAB の ORACLE_SID に指定された ORACLE_HOME が正しいかどうかを確認してください。

ORA-09842 soacon: Archmon は Named Pipe を作成できません。

原因: MKNOD() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ の作成に失敗しました。

処置: 現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの書き込み権限を持っていない可能性があります。指定されたインスタンスの DBA グループの USERID のみが、その ORACLE_SID に対する Archmon を実行できます。ORACLE_HOME ディレクトリが ORATAB で正しいことを確認してください。

ORA-09843 soacon: Archmon は Named Pipe を作成できません。

原因: MKNOD() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ の作成に失敗しました。

処置: 現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの書き込み権限を持っていない可能性があります。指定されたインスタンスの dba グループの USERID のみが、その ORACLE_SID に対する Archmon を実行できます。ORACLE_HOME ディレクトリが ORATAB で正しいことを確認してください。

ORA-09844 soacon: Archmon は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ のオープンに失敗しました。

処置: Oracle の DBA のみが Archmon を実行できます。現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの所有者またはグループ検索権限を持っているかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09845 soacon: Archmon は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ のオープンに失敗しました。

処置: Oracle の DBA のみが Archmon を実行できます。現在のオペレーティング・システム・ログインが、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの所有者またはグループ検索権限を持っているかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09846 soacon: ARCH は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ のオープンに失敗しました。

処置: 現在データベースを実行しているオペレーティング・システムの USERID に、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの検索許可があるかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09847 soacon: ARCH は Named Pipe をオープンできません。

原因: OPEN() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ のオープンに失敗しました。

処置: 現在データベースを実行しているオペレーティング・システムの USERID に、ORACLE_HOME/dbs ディレクトリの検索許可があるかどうかを確認してください。オープンできるファイルの最大値を超えた可能性があります。

ORA-09848 soawrt: Named Pipe への書込みができません。

ORA-09849 soarcv: Named Pipe からの読み込みができません。

ORA-09850 soacon: Archmon は Named Pipe をロックできません。

原因: FCNTL() が Named Pipe ?/dbs/arch2mon_@ の書込みロックの設定に失敗しました。

処置: Archmon が、この ORACLE_SID の別の端末でアクティブでないことを確認してください。指定されたインスタンスに対して一度に許可されるのは、1 つの Archmon セッションのみです。

ORA-09851 soacon: Archmon は Named Pipe をロックできません。

原因: FCNTL() が Named Pipe ?/dbs/mon2arch_@ の読み込みロックの設定に失敗しました。

処置: Archmon が、この ORACLE_SID の別の端末でアクティブでないことを確認してください。指定されたインスタンスに対して一度に許可されるのは、1 つの Archmon セッションのみです。

ORA-09853 snyRemovePort: 要求からのリターン・コードが無効です。

原因: コールバック・セットからポートを削除するように要求されましたが、障害コードが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09854 snyPortInfo: 要求からのリターン・コードが無効です。

原因: コールバック・セットからポート情報を収集するように要求されましたが、障害コードが戻されました。オペレーティング・システム・エラーの可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09855 removeCallback: メッセージ・フォーマットが無効です。

原因: ルーチンが、フォーマットが無効な要求を受信しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09856 smpalo: PGA 割当て中に vm_allocate エラーが発生しました。

原因: vm_allocate システム・コールからエラーが戻りました。

処置: 戻されたエラーを確認してください。システム・リソースが不足している可能性があります。

ORA-09857 smprset: PGA のプロテクト中に vm_protect エラーが発生しました。

原因: vm_allocate システム・コールからエラーが戻りました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09870 ～ ORA-12299

ORA-09870 spini: 最大数オープン・ファイルの初期化に失敗しました。

原因: ULIMIT システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09871 TASDEF_NAME: ?/dbs/tasdef@.dbf の拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: テストおよび設定ページの作成中に、sltln(?/tasdef@.dbf) にエラーが発生しました。

処置: 詳細は、その他のリターン・エラーを確認してください。

ORA-09872 TASDEF_CREATE: ?/dbs/tasdef@.dbf の作成中に作成エラーが発生しました。

原因: TASDEF ファイルを作成しようとしているときに CREATE() が失敗しました。

処置: \$(ORACLE_HOME)/dbs ディレクトリ上の許可があることを確認してください。

ORA-09873 TASDEF_OPEN: tasdef@.dbf ファイルのオープン・エラーが発生しました。

原因: tasdef@.dbf ファイルをオープンできません。

処置: エラー番号を確認してください。アクセス権に問題がある可能性があります。tasdef@.dbf ファイルが存在するかどうかを調べてください。

ORA-09874 TASDEF_READ: tasdef@.dbf ファイルの読み込みができません。

原因: ?/dbs/tasdef@.dbf を読み込もうとしたときに、読み込みシステム・コールからエラーが戻されました。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。SGADEF ファイルは不正になっているか、Oracle バージョンとの互換性がない場合があります。

ORA-09875 TASDEF_WRITE: ?/dbs/tasdef@.dbf ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 書き込みコールに失敗しました。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。デバイス上の領域が不足している可能性があります。

ORA-09876 TASDEF_CLOSE: ?/dbs/tasdef@.dbf ファイルがクローズできません。

原因: Close システム・コールからエラーが戻されました。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。オペレーティング・システム失敗の可能性あります。

ORA-09877 sstascre: shmget エラーのため共有メモリー・セグメントが取得できません。

原因: shmget にエラーがあります。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09878 sstascre/sstasat: shmat エラーのため tas 書込みページが Attach できません。

原因: shmat にエラーがあります。

処置: エラー番号を確認してください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09879 sstascre/sstasat: shmat エラーのため tas 読み込みページが Attach できません。

原因: shmat にエラーがあります。

処置: エラー番号を確認してください。十分な共有メモリーがシステムで使用可能かどうかを調べてください。

ORA-09880 sstasfre/sstasdel: shmdt エラーのため tas 書込みページがデタッチできません。

原因: shmdt にエラーがあります。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。

ORA-09881 sstasfre/sstasdel: shmdt エラーのため tas 読み込みページの切離しができません。

原因: shmdt にエラーがあります。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。

ORA-09882 sstasfre/sstasdel: shmctl エラーのため tas shm ページが削除できません。

原因: shmctl にエラーがあります。

処置: 戻されたエラー番号を確認してください。

ORA-09883 2 タスク・インターフェイス: oratab ファイルが存在しません。

原因: oratab ファイルが存在しません。

処置: oratab ファイルを使用する前に Oracle をインストールするか、oratab ファイルを再作成してください。

ORA-09884 2 タスク・インタフェース: SID が現在の PU と一致しません。

原因: Oracle が構成されていない別の PU で Oracle を起動しようとしているか、ORATAB ファイルに、この SID に対するエントリがありません。

処置: 指定された PU (ORATAB ファイルを参照) で、この SID を使用して Oracle を起動してください。あるいは、SID で新しいデータベースをインストールしてください。

ORA-09885 osnTXtt: TXIPC チャンネルを作成できません。

原因: TXIPC ドライバが Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのパイプの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子が最大値を超えているか、システム・ファイル表が満杯な可能性があります。オペレーティング・システムのエラー・コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

ORA-09886 osnTXtt: txipc@.trc の拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: デバッグ・チャンネルの作成中に sltln(txipc@.trc) が失敗しました。

処置: 詳細は、その他のリターン・エラーを確認してください。

ORA-09887 osnTXtt: デバッグ・チャンネルの作成 / オープンに失敗しました。

ORA-09888 osnTXtt: txipc チャンネルの作成に失敗しました。

原因: TXIPC ドライバが Oracle シャドウ・プロセスとの 2 タスク通信のためのチャンネルの作成に失敗しました。

処置: 各ユーザーのオープン・ファイル記述子またはシステム・ファイル表のオペレーティング・システム・エラー・コードが最大値を超えている可能性があります。システム管理者に連絡してください。

ORA-09889 osnTXtt: Oracle の実行プログラムにアクセスできません。

原因: TXIPC ドライバが、Oracle 実行可能ファイルへアクセスできませんでした。

処置: Oracle 実行可能ファイルおよび \$ORACLE_HOME/bin パスの各コンポーネントに対する許可を確認してください。

ORA-09890 osnTXtt: malloc に失敗しました。

原因: TXIPX ドライバが十分なヒープ・スペースをそのコンテキスト領域バッファに割り当ててのに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09908 slkmnm: gethostname がエラー・コードを返しました。

原因: システム・コール GETHOSTNAME からエラーが戻されました。内部エラーの可能性もあります。

処置: GETHOSTNAME が別のコンテキストで正しく実行されるかどうかを確認してください。実行された場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09909 スクラッチ・バッファの malloc に失敗しました。

原因: 一時バッファに必要なメモリーが割り当てられません。追加情報フィールドに、Oracle が割り当てようとしたバイト数が示されます。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。システムのメモリーが足りない可能性があります。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09910 ユーザーの Oracle パスワード・ファイル・エントリがありません。

原因: Oracle パスワード・フィールドに、ユーザーのエントリがありません。

処置: データベース管理者に依頼して、ORAPASSWD を実行して、パスワード・エントリをインストールしてください。

ORA-09911 ユーザーのパスワードが無効です。

原因: ユーザーが入力したパスワードは無効です。

処置: 正しいパスワードを入力してください。

ORA-09912 名前バッファの malloc に失敗しました。

原因: Oracle は、DBA およびオペレータ・ユーザー名に使用する 1 つまたは両方のバッファ・メモリーが割り当てられませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。システムのメモリーが足りない可能性があります。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09913 ダミー名の malloc に失敗しました。

原因: Oracle は、ユーザー・パスワードの暗号化に使用するユーザー名のメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。システムのメモリーが足りない可能性があります。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09914 Oracle パスワード・ファイルをオープンできません。

原因: Oracle は、パスワード・ファイルをオープンして読み取ることができませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。エラーの数値が、ファイルが存在しないことを表している場合には、データベース管理者に依頼し、ORAPASSWD を実行してファイルを作成してください。十分な許可がないことを表している場合には、データベース管理者に依頼して、許可を変更してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09915 パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: Oracle がパスワードを暗号化できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09916 必要なパスワードが指定されていません。

原因：ユーザーが internal で接続を試みましたが、パスワードが指定されていません。

処置：internal で再度接続し、パスワードを指定してください。

ORA-09918 SQL*Net からユーザー権限を取得できません。

原因：Oracle が SQL*Net 接続からユーザーの権限を取り出すことができませんでした。

処置：UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09919 専用サーバーのラベルを設定できません。

原因：Oracle が、サーバー専用のラベルに必要な値を設定できませんでした。

処置：UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、Oracle の実行プログラムの権限を確認してください。少なくとも ALLOWMACACCESS 権限が必要です。

ORA-09920 接続から重要度ラベルを取得できません。

原因：Oracle が SQL*Net 接続からユーザーの重要度ラベルを取り出すことができませんでした。

処置：UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09921 接続から情報ラベルを取得できません。

原因：Oracle が SQL*Net 接続からユーザーの情報ラベルを取り出すことができませんでした。

処置：UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。また、「追加情報」フィールドで SQL*Net エラーを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09922 バックグラウンド・ログ・ディレクトリを正しく作成していないためプロセスを生成できません。

原因：バックグラウンド・プロセスのトレース・ファイルが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle がバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

処置：初期化パラメータ BACKGROUND_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次のすべての条件を満たしているかどうかを確認してください。

1. ディレクトリが存在する。

2. その名前が、ファイルではなく、ディレクトリを参照している。
3. Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09923 ユーザー・ログ・ディレクトリを正しく作成していないためプロセスを生成できません。

原因: 専用サーバー・プロセスのトレース・ファイルが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle がバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

処置: 初期化パラメータ USER_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次のすべての条件を満たしているかどうかを確認してください。

1. ディレクトリが存在する。
2. その名前が、ファイルではなく、ディレクトリを参照している。
3. Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09924 正しいコア・ダンプ・ディレクトリを作成しないためプロセス実行できません。

原因: 例外イベントで Oracle プロセスによって生成されるコア・ダンプが入るディレクトリが正しく作成されていないため、Oracle がバックグラウンド・プロセスを生成できませんでした。

処置: 初期化パラメータ CORE_DUMP_DEST に指定されたディレクトリを調べてください。次のすべての条件を満たしているかどうかを確認してください。

1. ディレクトリが存在する。
2. その名前が、ファイルではなく、ディレクトリを参照している。
3. Oracle ユーザーがそのディレクトリにアクセスし、書き込むことができる。

ORA-09925 監査証跡ファイルを作成できません。

原因: Oracle は、監査証跡レコードを格納するファイルを作成できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09926 サーバーの有効な権限を設定できません。

原因: 専用サーバーが、固有の権限セットを設定できませんでした。

処置: Oracle 実行可能プログラムに付与されている権限を確認してください。少なくとも ALLOWMACACCESS 権限が必要です。

ORA-09927 サーバーのラベルを設定できません。

原因: Oracle が、サーバーのラベルに新しい値を設定できませんでした。

処置: \$ORACLE_HOME/bin/oracle の権限を確認してください。
\$ORACLE_HOME/bin/oracle に ALLOWMACACCESS 権限が付与されているかどうかを確認してください。

ORA-09928 サーバーのラベルをリストアできません。

原因：Oracle は、サーバーのラベルをデータベースが拡張される前の値にリストアできませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09929 2 ラベルの GLB が無効です。

原因：2つのラベルに対する下限操作の結果、無効になりました。

処置：別の2つのラベルを使用して操作をやり直してください。システム・コード化ファイルを参照して、有効なラベルの値を調べてください。

ORA-09930 2 ラベルの LUB が無効です。

原因：2つのラベルに対する上限操作の結果、無効になりました。

処置：別の2つのラベルを使用して操作をやり直してください。システム・コード化ファイルを参照して、有効なラベルの値を調べてください。

ORA-09931 Oracle パスワード・ファイルがオープンできないので、読み込みできません。

原因：パスワード・ファイルをオープンして読み取ろうとしましたが、失敗しました。

処置：Oracle ユーザーがオープンできないファイルに対して権限が変更されていないかどうかを確認してください。

ORA-09932 Oracle パスワード・ファイルのクローズに失敗しました。

原因：パスワード・ファイルがクローズできませんでした。

処置：詳細は、UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09933 古いパスワード・ファイルの削除に失敗しました。

原因：古いパスワード・ファイルの削除に失敗しました。

処置：詳細は、UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09934 現行パスワード・ファイルの旧版へのリンクに失敗しました。

原因：古いパスワード・ファイルが保存されているため、Oracle はリンクを作成できませんでした。

処置：詳細は、UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09935 現行パスワード・ファイルのアンリンクに失敗しました。

原因：Oracle は、現行パスワード・ファイルの保存を完了できませんでした。

処置：詳細は、UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09936 Oracle パスワード・ファイルがオープンできないので、書き込みできません。

原因：Oracle がパスワード・ファイルを作成できませんでした。

処置：詳細は、UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-9937 Oracle パスワード・ファイルのモード変更 (chmod) に失敗しました。

原因: Oracle がパスワード・ファイルの読取り専用への変更に失敗しました。

処置: 詳細は、UNIX エラーの数値を調べてください。

ORA-09938 信号ハンドラの保存に失敗しました。

原因: Oracle は、選択された信号ハンドルの前の値を保存できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09939 信号ハンドラのリストアに失敗しました。

原因: Oracle は、選択された信号ハンドルの前の値をリストアできませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09940 Oracle パスワード・ファイルのヘッダーが壊れています。

原因: 1 つのパスワード・ファイルのヘッダーが、Oracle の予期した形式になっていませんでした。

処置: 両方のファイルのヘッダーを確認してください。ヘッダーの形式は、"FILE VERSION: N.N.N.N.N EXECUTABLE VERSION: N.N.N.N.N" でなければなりません。N は数値です。壊れているファイルを削除して、ORAPASSWD を再実行してください。

ORA-09941 Oracle パスワードまたは Installer のバージョンがファイルより古いです。

原因: 実行中の ORAPASSWD または Installer のバージョンが Oracle パスワード・ファイルのバージョンよりも古くなっています。ファイルのバージョンは、形式を変更したときに変更されるので、このエラーは、実行可能プログラムが、ファイル作成時と異なる形式を使用していることを意味しています。

処置: ファイルのバージョン以降の Installer または ORAPASSWD を実行してください。

ORA-9942 Oracle パスワード・ファイルのヘッダーの書込みに失敗しました。

原因: Oracle パスワード・ファイルのヘッダーに書き込もうとしましたが、エラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのエラー・コードを確認してください。ファイル・システムが満杯になっている可能性があります。

ORA-09943 パスワード・リスト・コンポーネントへのメモリー割当てに失敗しました。

原因: パスワード・ファイルのエントリ・リストの作成中に、Oracle が複数のコンポーネントにメモリーを割り当てました。割当ての 1 つが失敗しました。

処置: オペレーティング・システムのエラー・コードを確認してください。システムのメモリーが足りない可能性があります。

ORA-09944 パスワードのエントリが壊れています。

原因: Oracle パスワード・ファイルのエントリが、Oracle の予期した形式になっていませんでした。

処置: 壊れているファイルを削除して、ORAPASSWD を再実行してください。

ORA-09945 監査証跡ファイルの初期化ができません。

原因: Oracle が、監査証跡として使用されるファイルへのヘッダー情報の書込みに失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムにエラーが起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09946 バッファに対しファイル名が長すぎます。

原因: ファイル名を格納するバッファが、生成された名前には小さすぎると判別されました。トレース・ファイルまたは監査ファイルのいずれかの変換後の名前が、使用可能な最大値を超えている可能性があります。多くのポートでは、256 文字が最大値です。

処置: ファイル名を短くしてください。

ORA-09947 接続属性構造の割当てができません。

原因: Oracle が SQL*Net の接続から属性の保持に必要なメモリーを割り当てることができませんでした。「追加情報」フィールドに、Oracle が割当てようとしたバイト数が示されます。

処置: UNIX エラーの数値を確認してください。システムのメモリーが足りない可能性があります。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09948 プロセス情報ラベルの取出しが失敗しました。

原因: Oracle がプロセスの情報ラベルの取得に失敗しました。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09949 クライアント OS 権限を取得できません。

原因: Oracle がクライアント・プロセスのオペレーティング・システム権限を取得できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09950 サーバー OS 権限を取得できません。

原因: Oracle がオペレーティング・システムから権限を取得できませんでした。

処置: これは通常は発生しないエラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09951 ファイルを作成できません。

原因: Oracle がファイルを作成できませんでした。

処置: UNIX エラーの数値を確認して、オペレーティング・システムに障害が起きているかどうかを確認してください。エラーがない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09952 scgcmn: lk_open_convert が無効な値を戻しました: オープンに失敗しました。

原因: 分散ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09953 scggc: ロック変換の戻り値が無効です。

原因: 分散ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: ロック・マネージャのエラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09954 scgcc: ロック・クローズのコールバックへのリターン・ステータスが無効です。

原因: 分散ロック・マネージャが、予期しない値を戻しました。

処置: ロック・マネージャのエラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09955 scgcan: ロック取消し中のリターン・ステータスが無効です。

原因: DLM システム・サービス x から予期しない値が戻りました。

処置: システム・エラー・メッセージを確認して、分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09956 scgcm: 予期しないロック・ステータス条件の値が戻りました。

原因: グローバルなロック・システム・サービスが、予期せぬ値を戻しました。

処置: システム・エラー・メッセージがあれば確認してください。分散ロック・マネージャのドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09957 IMON に終了要求を送信できません。

原因：IMON への終了信号の送信に失敗しました。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09958 IMON: 同じ Oracle pid を持つプロセスが 2 つアクティブになっています。

原因：IMON プロセスが、サーバー・プロセスのエントリを追加できませんでした。別のアクティブなプロセスがスロットを占有しています。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09959 IMON: プロセスの削除に失敗しました。

原因：IMON プロセスが、プロセス ID 配列からサーバー・プロセスを削除できませんでした。プロセスのエントリが見つかりません。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09960 端末信号への信号ハンドラが確立できません。

原因：Oracle が、インスタンスのシャットダウンを通知する信号のハンドラをセットアップできませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09961 端末信号ハンドラをリストアできません。

原因：Oracle が、終了信号のハンドラに前の値を設定できませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-09962 scggrc で lk_group_create エラーが発生しました。

ORA-09963 scggra で lk_group_attach エラーが発生しました。

ORA-09964 scggrd で lk_group_detach エラーが発生しました。

ORA-09966 scumnt: ?/dbs/lk の拡張中に変換エラーが起きました。

原因：SCUMNT 内の SLTLN の障害です。

処置：詳細は、その他の戻されたエラーを確認してください。

ORA-09967 scumnt: ファイルを作成またはオープンできません。

原因：Open システム・コールからエラーが戻されました。

処置：エラー番号を確認してください。

ORA-09968 scumnt: ファイルをロックできません。

原因：ロック・ファイル・オペレーティング・システム・コールからエラーが戻されました。

処置：エラー番号を確認してください。

ORA-09969 scurls: ロック・ファイルをクローズできません。

原因: Close システム・コールからエラーが戻されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-09974 skxfidini: SDI チャネルの初期化でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルが正しく初期化できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09975 kxfspini: SDI プロセスの初期化でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルが連結できませんでした。

処置: SDI プロセス固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09976 skxfqadini: ポートの作成でエラーが発生しました。

原因: 通信エンド・ポイントが作成できませんでした。

処置: SDI ポート固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09977 skxfqhini: 接続でエラーが発生しました。

原因: プロセスが他のエンド・ポイントと交信できませんでした。

処置: SDI ポート固有の制限が正しく構成されているかどうかを確認してください。他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09978 skxfqhdel: 別のエンドポイントからの切離しでエラーが発生しました。

原因: 他のエンド・ポイントから正しく切り離されませんでした。

処置: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09979 skxfqhsnd: 別のエンドポイントへのメッセージの送信でエラーが発生しました。

原因: 既存のエンド・ポイントにメッセージが送信できませんでした。

処置: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09980 skxfqdrvc: 別のエンドポイントからのメッセージの受信でエラーが発生しました。

原因: メッセージの受信をしようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 他のノードがクラスタの一部であり、正しく機能しているかどうかを確認してください。他のノードのインスタンスおよびプロセスを確認してください。オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09981 skxfqddreg: SDI バッファ・プールへのページの追加でエラーが発生しました。

原因: SDI バッファ・プールへページを追加できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09982 skxfqddrg: SDI バッファ・プールからのページの除去でエラーが発生しました。

原因: SDI バッファ・プールへのページ指定を除去できませんでした。

処置: オペレーティング・システムのエラーを修正してから、再試行してください。

ORA-09983 skxfidsht: SDI チャネルの停止でエラーが発生しました。

原因: SDI チャネルを停止できませんでした。

処置: SDI ツールを使用して、SDI 永続リソースを調べてください。すべてのプロセスが正しく終了しているかどうか、インスタンスが安全にシャットダウンされているかどうかを調べてください。カレント・インスタンスに関連付けられている、残りの SDI チャネル ID を削除してください。

ORA-09984 SGA ファイル \$ORACLE_HOME/dbs/sgadef\$ORACLE_SID.dbf は存在しません。

原因: ファイルが存在しないか、アクセスできません。

処置: インスタンスを再起動して、SGA 定義ファイルを作成してください。

ORA-09985 SGA 定義ファイルを読み取ることができません。

原因: UNIX の Read() 操作に失敗しました。

処置: エラー番号を確認して、適切な処置を行ってください。

ORA-09986 SGA 定義ファイルから読み取ったバイト数が間違っています。

原因: struct SKGMSDEF サイズが、SGA ファイルから読み取ったバイト数と異なります。

処置: 2 つの struct 定義を比較して、これらのサイズと構造体が一致するように変更してください。

ORA-09987 READ-ONLY モードで SGA に付加できません。

原因: インスタンスが起動していないか、SGA セグメントが読取り可能ではありません。

処置: インスタンスが起動しているかどうか、SGA セグメントに読取り許可が設定されているかどうかを確認してください。

ORA-09988 SGA を切り離している間のエラーです。

原因: SKGMSDEF struct が壊れているか、セグメント・アドレスが修正されています。

処置: インスタンスを安全にシャットダウンし、SGA セグメントを再度マウントしてください。

ORA-09989 無効な skgmsdef struct ポインタを使用しようとしてしました。

原因: SKGMSDEF struct へのポインタが妥当性検査されていません。

処置: SKGMSDEF struct ポインタに有効な値を割当ててから、使用してください。

ORA-12000 スナップショット・ログが表 *string* に既に存在します。

原因: すでにスナップショット・ログがある表に対して、スナップショット・ログを作成しようとしてしました。各マスター表はスナップショット・ログを1つのみ持つことができます。

処置: 表に対するすべてのスナップショットは、その表に対する同一のスナップショット・ログを使用できます。既存のログを変更する必要がある場合は、ALTER SNAPSHOT LOG コマンドを使用するか、またはスナップショット・ログを削除してから再作成してください。

ORA-12001 ログを作れません。表 *string* には既にトリガーがあります。

原因: スナップショット・ログは、マスター表に対するトリガーで満杯です。トリガーは作成できません。

処置: スナップショット・ログを作成するには、マスターにあるカレント・トリガーを削除してください。

ORA-12002 表 *string.string* 上にスナップショット・ログがありません。

原因: マスター表上にスナップショット・ログがありません。

処置: ログを作成してください。

ORA-12003 スナップショット *string.string* が存在しません。

原因: 指定された所有者・名前のスナップショットが存在しません。

処置: 入力を調べるか、スナップショットを作成してください。

ORA-12004 REFRESH FAST がスナップショット *string.string* に使用できません。

原因: スナップショット・ログが存在しないか、使用できません。

処置: 表全体を再インスタンス化する REFRESH のみを使用してください。スナップショット・ログが存在し、スナップショットがスナップショット・ログを使用できる形式の場合、スナップショットが次回リフレッシュされるときから REFRESH FAST が使用できます。

ORA-12005 過去の時刻に自動リフレッシュをスケジュールできません。

原因: 過去の時間に対して、自動スナップショット・リフレッシュをスケジュールしようとしてしました。

処置: 将来の時間を選択してください。

ORA-12006 同じ user.name をもつスナップショットが既に存在します。

原因: 既存のスナップショットと同じ名前を持つスナップショットを作成しようとした。

処置: 別の名前を使用してスナップショットを作成するか、または既存のスナップショットを削除してください。

ORA-12007 スナップショット再利用パラメータが矛盾しています。

原因: CREATE SNAPSHOT .. または CREATE SNAPSHOT LOG ..REUSE コマンドの REUSE の直後に、矛盾したパラメータが指定されました。

処置: スタック上のその他のメッセージを参照して、問題を解決してください。

ORA-12008 スナップショット・リフレッシュ・パス内のエラー

原因: 表 SNAP\$_snapshot_name がビュー MVIEW\$_snapshot_name から行を読み取りました。ビューは、マスター表上のビューです（マスターはリモート・サイトにある可能性があります）。このパスになんらかのエラーがあると、リフレッシュ時にエラーが発生します。高速リフレッシュでは、表 :master_owner.MLOG\$_master も参照されます。

処置: スタック上のその他のメッセージを参照して、問題を解決してください。次のオブジェクトが存在することを確認してください。

SNAP\$_snapshot_name、MVIEW\$_snapshot_name、mowner.master@dblink、
mowner.MLOG\$_master@dblink

ORA-12009 スナップショットは LONG 列を含むことができません。

原因: LONG 列でスナップショットを作成しようとした。

処置: LONG 列ではスナップショットを作成しないでください。

ORA-12010 スナップショット・ログは SYS が所有する表上には作れません。

原因: CREATE SNAPSHOT LOG は表にトリガーを作成しようとしたが、トリガーは SYS 表上には作成できません。

処置: SYS 表上にはスナップショット・ログは作成できません。

ORA-12011 string ジョブの実行に失敗します。

原因: DBMS_IJOB.RUN でなんらかのエラーが検出されました。実行する必要がある 1 つ以上のジョブで、処置できないエラーが発生しました。

処置: ジョブが失敗した原因は、アラート・ログを参照してください。

ORA-12012 ジョブ string の自動実行エラー

原因: ある種のエラーが、ジョブの自動実行中に補捉されました。

処置: 実行が失敗した理由の詳細は、付随するエラーを参照してください。

ORA-12013 更新可能スナップショットは高速リフレッシュを行えるよう簡単なものでなければなりません。

原因: 更新可能スナップショット問合せに、結合、副問合せ、合併、CONNECT BY、ORDER BY または GROUP BY があります。

処置: スナップショットをより単純にしてください。結合が必要な場合は、複数の単純スナップショットを作成して、それらに対するビューを作成してください。

ORA-12014 表 *string* に主キー制約がありません。

原因: CREATE SNAPSHOT LOG コマンドが WITH PRIMARY KEY オプション付きで発行されましたが、マスター表には、主キー制約がないか使用不能です。

処置: WITH ROWID オプションのみを使用してコマンドを再発行してください。または、マスター表に主キー制約を作成してください。または、既存の主キー制約を使用可能にしてください。

ORA-12015 複合問合せから高速リフレッシュ・スナップショットは作成できません。

原因: 複合問合せでは、ROWID および主キー制約はサポートされていません。

処置: REFRESH FORCE または REFRESH COMPLETE オプションのみを使用してコマンドを再発行してください。または、単純スナップショットを作成してください。

ORA-12016 スナップショットに組み込まれていない主キー列があります。

原因: スナップショットをインスタンス化する問合せに、マスターの主キー制約の列全体が組み込まれていません。

処置: スナップショット問合せに、マスターの主キー列全体を組み込んでください。または、ROWID スナップショットを作成してください。

ORA-12017 主キー・スナップショット *string* は rowid スナップショットに変更できません。

原因: 主キー・スナップショットの ROWID スナップショットへの変換はサポートされていません。

処置: 新規にスナップショットを作成してください。または、スナップショットを削除してから再作成してください。

ORA-12018 *string.string* のコード生成中に次のエラーが発生しました。

原因: 示されたスナップショットのリフレッシュ操作は、エラーが原因で再生成されませんでした。続いて表示されるエラー・テキストを参照してください。

処置: 示された問題を訂正し、操作を繰り返してください。

ORA-12019 マスター表がリモート・オブジェクトに対してシノニムです。

原因: リモート・シノニムのスナップショットまたは、リモート・シノニムのスナップショット・ログはサポートされていません。

処置: リモート・シノニムにスナップショットまたはスナップショット・ログを作成しないでください。

ORA-12020 スナップショット *string* は登録されていません。

原因: 登録されていないスナップショットを抹消しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12021 スナップショット *string.string* が正しくありません。

原因: 示されたスナップショットは有効ではありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12022 *string.string* のスナップショット・ログにすでに rowid があります。

原因: 示された表のスナップショット・ログには、すでに ROWID 情報があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12023 スナップショット *string.string* に索引がありません。

原因: 指定された ROWID スナップショットには、基礎表の ROWID 列上に必要な索引がありません。

処置: スナップショットは破壊されています。スナップショットを削除し再作成してください。

ORA-12024 *string.string* のスナップショット・ログに主キー列がありません。

原因: 示された表のスナップショット・ログには、主キー情報がありません。

処置: ALTER SNAPSHOT コマンドを使用して、スナップショット・ログに主キーを追加してください。

ORA-12025 *string.string* のスナップショット・ログにはすでに主キーがあります。

原因: 示された表のスナップショット・ログには、すでに主キー列があります。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12026 フィルタ列が無効です。

原因: 指定されたフィルタ列のうち 1 つ以上が存在しません。または、指定されたフィルタ列のうち 1 つ以上が主キー列です。

処置: 指定されたフィルタ列がすべてマスター表に存在することを確認してください。また、フィルタ列のリストの中に主キー列が含まれていないことを確認してください。

ORA-12027 フィルタ列が重複しています。

原因: 指定されたフィルタ列のうち 1 つ以上が、すでにスナップショット・ログに記録されています。

処置: スナップショット・ログ表を記述し、すでにスナップショット・ログに記録されているフィルタ列を指定して SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12028 スナップショットの型がマスター・サイト *string* でサポートされていません。

原因: Oracle8 より前のマスター・サイトでは、高速リフレッシュを実行可能な主キーまたは副問合せスナップショットをサポートできません。

処置: ROWID スナップショットを作成してください。または、Oracle8 サイトからマスター表を使用してください。

ORA-12029 LOB 列はフィルタ列として使用できません。

原因: LOB 列はフィルタ列として使用できません。

処置: フィルタ列リストから LOB 列を取り除いて、コマンドを再試行してください。

ORA-12030 高速リフレッシュ・スナップショットを作成できません。

原因: スナップショット・ログが存在しません。または、スナップショット・ログに、高速リフレッシュを実行するためにスナップショットが必要とする情報が記録されていません。

処置: スナップショット・ログが存在し、必要な情報が記録されていることを確認してください。ROWID スナップショットでは、マスター表の ROWID が記録されている必要があります。主キー・スナップショットでは、マスター表の主キー列が記録されている必要があります。副問合せスナップショットでは、フィルタおよび主キー、ROWID の値がすべて記録されている必要があります。

ORA-12031 *string.string* のスナップショット・ログからは主キー列を使用できません。

原因: スナップショット・ログに記録された主キー列がありません。または、主キー列に関連するタイム・スタンプが前回のリフレッシュ時刻よりも最近です。

処置: 次の高速リフレッシュの前に、完全なりフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12032 *string.string* のスナップショット・ログからは rowid 列を使用できません。

原因: スナップショット・ログに記録された主キー列がありません。または、主キー列に関連するタイム・スタンプが前回のリフレッシュ時刻よりも最近です。

処置: 次の高速リフレッシュの前に、完全なりフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12033 *string.string* のスナップショット・ログからはフィルタ列を使用できません。

原因: スナップショット・ログに記録された主キー列がありません。または、主キー列に関連するタイム・スタンプが前回のリフレッシュ時刻よりも最近です。

処置: 次の高速リフレッシュの前に、完全なりフレッシュを実行する必要があります。

ORA-12034 *string.string* のスナップショット・ログが最終リフレッシュよりも新しいものです。

原因: スナップショット・ログが、最終リフレッシュ時刻よりも新しいものです。

処置: スナップショットの完全なりフレッシュを実行してから、別の高速リフレッシュを行ってください。

ORA-12035 *string.string* のスナップショット・ログを使用できませんでした。

原因: スナップショット・ログが存在しないか、使用できません。

処置: 表全体を再インスタンス化する REFRESH のみを使用してください。スナップショット・ログが存在し、スナップショットがスナップショット・ログを使用できる形式の場合、REFRESH FAST が使用できます。

ORA-12036 更新可能スナップショット・ログが空のリフレッシュ・スナップショットではない。

原因: 更新可能 ROWID スナップショットを主キー・スナップショットに変更する前に、更新可能スナップショット・ログを空にする必要があります。

処置: スナップショットのリフレッシュによって、更新可能スナップショット・ログが空になっていることを確認してから、更新可能 ROWID スナップショットを主キー・スナップショットに変換してください。

ORA-12037 エクスポート・フォーマットを識別できません。

原因: 未知のエクスポート・バージョンによってエクスポートされたスナップショットをインポートしようとしてしました。(たとえば、インポートするサイトよりも新しいリリースからエクスポートした場合)

処置: インポートするサイトが識別することのできるバージョンのエクスポートを使用して、ファイルを再エクスポートしてください。

ORA-12038 文字列リテラルの長さが正しくありません。

原因: スナップショットのインポート中に、破壊された情報または無効な情報が検出されました。

処置: エクスポート・ログ・ファイルが破壊されていないことを確認してください。また、エクスポート中にエラーが発生しなかったことを確認してください。問題が解決しない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12039 ローカル・ロールバック・セグメント *string* を使用できません。

原因: CREATE SNAPSHOT コマンドの中でローカル・ロールバック・セグメントが指定されましたが、自動リフレッシュ・パラメータが指定されませんでした。このため、スナップショットを自動的にリフレッシュするためのリフレッシュ・グループが作成されず、ローカル・ロールバック・セグメントを将来の使用のために登録できませんでした。

処置: 自動リフレッシュ・パラメータを指定して、リフレッシュ・グループを作成可能にするか、ローカル・ロールバック・セグメントを指定しないでください。

ORA-12040 マスター・ロールバック・セグメント・オプションがマスター・サイト *string* で非サポート。

原因: カレント・スナップショットのマスター・サイトでは、スナップショット操作で使用するロールバック・セグメントを指定できません。この機能は、Oracle8 以降のマスター・サイトでのみサポートされています。

処置: 今回の操作ではマスター・ロールバック・セグメントを指定しないか、あるいは新しいマスター・サイトを選択してください。

ORA-12041 索引構成表 *string.string* の ROWID を記録できません。

原因: 索引構成表に ROWID がありません。したがって、索引構成表の ROWID を記録するスナップショット・ログが作成できません。

処置: CREATE SNAPSHOT コマンドを使用している時は、WITH ROWID オプションを含めないでください。マスター表が索引構成表の場合に、ALTER SNAPSHOT コマンドを使用する時には、ADD ROWID オプションを含めないでください。

ORA-12042 シングル・プロセス・モードで *job_queue_processes* は変更できません。

原因: シングル・プロセス・モードには連結解除プロセスという概念がありません。このため、JOB_QUEUE_PROCESSES パラメータの値を変更できません。

処置: シングル・プロセス・モードで JOB_QUEUE_PROCESSES を設定しないでください。

ORA-12043 CREATE SNAPSHOT には無効なオプションです。

原因: 無効なオプションが CREATE SNAPSHOT 文で使用されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-12044 CREATE SNAPSHOT LOG には無効なオプションです。

原因: 無効なオプションが CREATE SNAPSHOT LOG 文で使用されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-12045 ALTER SNAPSHOT LOG には無効なオプションです。

原因: 無効なオプションが ALTER SNAPSHOT LOG 文で使用されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-12051 ON COMMIT 属性は他のオプションといっしょに使用できません。

原因: ON COMMIT リフレッシュ属性は、自動定期的リフレッシュなどのその他のリフレッシュ・オプションと共に使用できません。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-12052 マテリアライズド・ビュー *string.string* を高速リフレッシュできません。

原因: このマテリアライズド・ビューは、常に高速リフレッシュできるとは限りません。特定の表の ROWID が定義内で欠落しているか、外部結合の内部表が結合列に UNIQUE 制約を持っていません。

処置: FORCE または COMPLETE オプションを指定してください。作成中にこのエラーが発生した場合は、マテリアライズド・ビュー定義が変更された可能性があります。マテリアライズド・ビューのドキュメントを参照してください。

ORA-12053 これは有効なネストしたマテリアライズド・ビューではありません。

原因：このマテリアライズド・ビュー定義の FROM 句のオブジェクトのリストは、相互に依存しています。

処置：どのタイプのネストが有効であるかについては、ドキュメントを参照してください。

ORA-12054 マテリアライズド・ビューに ON COMMIT リフレッシュ属性を設定できません。

原因：マテリアライズド・ビューがコミット時にリフレッシュの条件を満たしていません。

処置：有効なオプションのみ指定してください。

ORA-12055 マテリアライズド・ビューの定義に既存の循環依存が含まれています。

原因：このスナップショット問合せ定義は、既存のマテリアライズド・ビューの循環依存を発生させます。

処置：マテリアライズド・ビューの問合せ定義を変更してください。

ORA-12056 REFRESH メソッドが無効です。

原因：NEVER REFRESH オプションは、次の条件では使用できません。

- スナップショットが更新可能である。
- スナップショットが ON COMMIT をリフレッシュしている。
- 自動リフレッシュ・オプションが指定されている。

処置：更新可能なスナップショットに対しては、REFRESH FORCE、REFRESH FAST または REFRESH COMPLETE を使用して SQL コマンドを再発行してください。読取り専用スナップショットに対しては、ON DEMAND を使用して SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12057 スナップショット *string.string* は無効で、リフレッシュを完了しなければなりません。

原因：スナップショットの状態が INVALID で、スナップショットが高速リフレッシュされない可能性があります。

処置：スナップショットの完全リフレッシュを実行してください。DBA_SNAPSHOTS、ALL_SNAPSHOTS または USER_SNAPSHOTS の STATUS 列の値を確認し、完全リフレッシュの後にスナップショットが VALID になっているかどうかを確認してください。

ORA-12058 スナップショットでは事前作成表を使用できません。

原因：スナップショットは事前作成表を使用できません。

処置：BUILD IMMEDIATE または BUILD DEFERRED を使用して SQL コマンドを再発行してください。

ORA-12059 事前作成表 *string.string* は存在しません。

原因: 指定した事前作成表は存在しません。

処置: BUILD IMMEDIATE または BUILD DEFERRED を使用して SQL コマンドを再発行するか、事前作成表が存在することを確認してください。

ORA-12060 事前作成表の形状が定義の間合せと一致しません。

原因: 事前作成表内の列の数または列の型がスナップショットの定義の間合せと一致しません。

処置: BUILD IMMEDIATE または BUILD DEFERRED を使用して SQL コマンドを再発行するか、事前作成表がスナップショットの定義の間合せと一致することを確認してください。

ORA-12061 ALTER SNAPSHOT オプションが無効です。

原因: 無効なオプションが ALTER SNAPSHOT 文で使用されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-12062 トランザクション *string* がサイト *string* から不正な順序を受け取りました。

原因: クライアント・サイトからのトランザクションが不正な順序を受け取りました。これは、1 つ以上のトランザクションが欠落していることを示します。

処置: クライアント・サイトのトランザクション・キューが有効で、破壊されていないことを確認してください。

ORA-12063 サイト *string* からはトランザクションを適用できません。

原因: クライアント・サイトからのカレント・トランザクションをマスター・サイトに適用できません。

処置: クライアント・サイトがまだ有効で、マスター・サイトから削除されていないことを確認してください。

ORA-12064 無効なリフレッシュ順序番号: *string*

原因: クライアント・サイトが無効なリフレッシュ順序でリフレッシュを実行しようとしています。

処置: 完全リフレッシュを実行し、リフレッシュ順序番号を同期化してください。

ORA-12065 不明なリフレッシュ・グループ識別子 *string*

原因: 指定したリフレッシュ・グループがマスター・サイトに存在しません。

処置: クライアント・サイトがまだ有効で、マスター・サイトから削除されていないことを確認してください。

ORA-12066 無効な CREATE SNAPSHOT コマンドです。

原因: レプリケーション API は、次に示すスナップショットのオプションおよび型をサポートしません。

-
- ROWID スナップショット
 - REFRESH ON COMMIT
 - ON PREBUILT TABLE
 - BUILD DEFERRED
 - NEVER REFRESH
 - ENABLE QUERY REWRITE

処置: REFRESH WITH PRIMARY KEY を使用して PRIMARY KEY スナップショットを作成するか、無効なオプションを削除してください。または、その両方を行ってください。

ORA-12067 空のリフレッシュ・グループは許可されません。

原因: インスタンスエートされているリフレッシュ・グループに、スナップショットが含まれていません。

処置: テンプレートを変更して、少なくとも 1 つのスナップショットを含めてください。

ORA-12068 スナップショット *string.string* 用の更新可能なスナップショット・ログが存在しません。

原因: 更新可能なスナップショットに、更新可能スナップショット・ログがありません。このスナップショット・ログは、スナップショットの更新を調べるために必要です。

処置: 更新可能スナップショット・ログを作成してください。

ORA-12069 オフライン・インスタンスーションには、無効なオブジェクトです。

原因: オフライン・インスタンスエートできるのは、スナップショットのみです。オフライン・インスタンスエートされているオブジェクトは、有効なスナップショットではありません。

処置: オブジェクトをテンプレートから削除するか、有効なスナップショットに置き換えてください。

ORA-12070 スナップショット *string.string* のオフライン・インスタンスエートができません。

原因: オフライン・インスタンスーションは、次のオプションを使用するスナップショットをサポートしません。

- ON PREBUILT TABLE
- BUILD DEFERRED

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-12071 *string.string* の定義問合せは、オフライン・インスタンスーションには無効です。

原因: オフライン・インスタンスーションには、次の制約を監視するためのスナップショットの定義問合せが必要です。

- 「SELECT *」は使用されません。問合せは、選択リストの各列を明示的に指定する必要があります。
- スナップショット・サイトがマスター・サイトへの接続に使用するデータベース・リンクが、問合せで参照されるマスター表ごとに組み込まれている必要があります。
- 参照されるマスター表は、すべてローカル・サイトに位置する必要があります。その他のサイトへは参照できません。

処置: スナップショットの定義問合せを変更してください。

ORA-12072 *string.string* に対する更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログ・データを作成できません。

原因: 更新可能マテリアライズド・ビューに、更新可能マテリアライズド・ビュー・ログがありません。このマテリアライズド・ビュー・ログは、マテリアライズド・ビューの更新を調べるために必要です。

処置: 更新可能マテリアライズド・ビュー・ログを作成してください。

ORA-12073 要求を処理できません。

原因: 間違った順序で要求され、要求を処理できません。

処置: 有効な要求で再試行してください。

ORA-12074 メモリー・アドレスが無効です。

原因: 無効なメモリー領域にアクセスしようとしてしました。

処置: 再接続し、コマンドを再試行してください。

ORA-12075 オブジェクトまたはフィールドが無効です。

原因: Java 仮想メモリー内の無効なフィールドまたはオブジェクトにアクセスしようとしてしました。

処置: 要求を再試行してください。

ORA-12076 しきい値が無効です。

原因: 結果セットのしきい値または LOB のしきい値はサポートされていません。

処置: しきい値を 64K 未満に指定してください。

ORA-12077 一時的に更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログがありません。

原因: 一時的に更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログが作成されなかったか、または削除されました。

処置: 一時的に更新可能なマテリアライズド・ビュー・ログを再作成してください。

警告: これによって、マテリアライズド・ビューが完全にリフレッシュされます。

ORA-12078 リフレッシュ・グループ ID *string* の高速リフレッシュに失敗しました。

原因: クライアント・メソッド REFRESH_REQ_RESULT を介して送信されたリフレッシュ結果セットは不明な値を戻します。

処置: リフレッシュ要求を再発行してください。

ORA-12079 スナップショット・オプションには、*string* 以上の COMPATIBLE パラメータが必要です。

原因: 次のスナップショットのオプションには、8.1 以上の互換性設定が必要です。

- ON COMMIT
- ON PREBUILT TABLE
- BUILD DEFERRED
- NEVER REFRESH
- ENABLE QUERY REWRITE

処置: 停止してから適切な互換性設定で再起動してください。

ORA-12081 表 *string.string* で更新操作は許可されません。

処置: 読取り専用のマテリアライズド・ビューを更新しようとしてしました。読取り専用のマテリアライズド・ビューを更新できるのは、Oracle のみです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12082 *string.string* は索引を編成できません。

原因: 索引構成のマテリアライズド集約ビューまたは索引構成の更新可能な ROWID マテリアライズド・ビューを作成しようとしてしました。これはサポートされません。

処置: 索引構成句なしでマテリアライズド・ビューを作成してください。

ORA-12083 *string.string* の削除には、DROP MATERIALIZED VIEW を使用する必要があります。

原因: DROP MATERIALIZED VIEW 以外のコマンドを使用して、マテリアライズド・ビューを削除しようとしてしました。

処置: DROP MATERIALIZED VIEW コマンドを使用してください。

ORA-12084 *string.string* の更新には、ALTER MATERIALIZED VIEW を使用する必要があります。

原因: ALTER MATERIALIZED VIEW 以外のコマンドを使用して、マテリアライズド・ビューを更新しようとしてしました。

処置： ALTER MATERIALIZED VIEW コマンドを使用してください。

ORA-12150 ～ ORA-12299

これらのメッセージについては、[第 25 章「Net8 メッセージ \(TNS\)」](#)のリスト（表示される接頭辞は ORA ですが、こちらの章で接頭辞 TNS のメッセージとしてリストしています）を参照してください。

ORA-12300 ～ ORA-12399

ORA-12315 ALTER DATABASE 文には無効なデータベース・リンクです。

原因：ALTER DATABASE 文で指定されたデータベース・リンク名が ROM: link ではありません。ALTER DATABASE 文を使用して 2 次データベースをマウントまたはオープンするときは、ROM: link を指定する必要があります。

処置：マウントまたはオープンするデータベースに有効な ROM: link を使用して ALTER DATABASE 文を再発行してください。有効な ROM: link が存在しない場合は、CREATE DATABASE LINK コマンドを使用して ROM: link を作成してください。ROM: link 型を使用してデータベース・リンクを作成する詳細は、Oracle セキュリティ関連製品のドキュメントを参照してください。

ORA-12316 データベース・リンク接続文字列の構文エラー

原因：CREATE DATABASE LINK 文の接続文字列に構文エラーがあります。

処置：データベース・リンクを削除し、有効な構文を使用してデータベース・リンクを再作成してください。CREATE DATABASE LINK 文の接続文字列部分の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-12317 データベース（リンク名 *string*）へのログオンが拒否されました。

原因：このエラーには、いくつかの原因があります。1 番目は、2 次データベースのユーザー名（オペレーティング・システム認証のかわりにデータベースを使用する場合はパスワードも）が 1 次データベースのユーザー名（およびパスワード）と同一でない場合です。2 番目は、2 次データベースのユーザー名が無効な（または作成されていない）場合です。3 番目は、データベース・リンク定義の接続文字列で指定されているユーザー名とパスワードの組合せが無効な（作成されていないまたは無効なパスワードが使用されている）場合です。

処置：1 番目の場合、1 次データベースで使用しているユーザー名と同一のユーザー名（データベース認証を使用する場合はパスワードも）を、2 次データベースが含むことを確認してください。通常は、Trusted Oracle のオペレーティング・システム認証を使用してください（オペレーティング・システム認証の利点の詳細は、Oracle セキュリティ関連製品のドキュメントを参照）。2 番目の場合、2 次データベースのユーザー名が作成

されていることを確認してください。3 番目の場合、接続文字列に指定されているユーザー名が、2 次データベースで作成されていることを確認してください。

ORA-12318 データベース（リンク名 *string*）はすでにマウント済みです。

原因： 自インスタンスですでにマウント済の 2 次データベースをマウントしようとしています。

処置： データベースはすでにマウントされているので、マウントする必要はありません。アクセスを確立するには、ALTER DATABASE *linkname* OPEN コマンドを使用してデータベースをオープンしてください。

ORA-12319 データベース（リンク名 *string*）はすでにオープンしています。

原因： すでにオープンしている 2 次データベースをオープンしようとしています。

処置： データベースはオープンしているのでアクセスを確立する必要はありません。

ORA-12321 データベース（リンク名 *string*）はオープンしていません。AUTO_MOUNTING=FALSE です。

原因： 自インスタンスがマウントしようとしている 2 次データベースがオープンしておらず、自動マウントは使用可能ではありません。

処置： OPEN オプションおよび MOUNT オプションとともに ALTER DATABASE *linkname* を使用して、2 次データベースを手動でマウントおよびオープンしてください。または、自インスタンスが 2 次データベースを自動的にマウントおよびオープンできるように、パラメータ・ファイルの AUTO_MOUNTING パラメータを TRUE に設定してください。

ORA-12322 データベース（リンク名 *string*）をマウントできません。

原因： このメッセージは、問題の原因を示すその他のエラー・メッセージとともに表示されます。

処置： ともに表示されるエラー・メッセージで説明されている手順に従って、問題を解決してください。

ORA-12323 データベース（リンク名 *string*）をオープンできません。

原因： このメッセージは、問題の原因を示すその他のエラー・メッセージとともに表示されます。

処置： ともに表示されるエラー・メッセージで説明されている手順に従って、問題を解決してください。

ORA-12324 プライベート・データベース・リンクでは ROM: リンク型を使用できません。

原因： プライベート・データベース・リンク上ではなく、パブリック・データベース・リンク上にはのみ ROM: link 型を指定できます。

処置: 2次データベースへのパブリック・データベース・リンクが存在するかどうかを確認してください。存在しない場合、かつ2次データベースにパブリック・アクセスを確立する場合、CREATE DATABASE LINK コマンドを使用して2次データベースにパブリック・データベース・リンクを作成してください。

ORA-12326 データベース *string* は即時クローズされます。操作できません。

原因: アクセスしようとしたデータベースがクローズしていたため、この操作は終了しました。

処置: データベースが再オープンされるまで待つか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-12329 データベース *string* はクローズしています。操作できません。

原因: アクセスしようとしたデータベースがクローズしていたため、この操作は終了しました。

処置: データベースが再オープンされるまで待つか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-12333 データベース (リンク名 *string*) はマウントされていません。

原因: マウントされていないデータベースをオープンしようとしてしました。

処置: ALTER DATABASE *linkname* MOUNT コマンドでデータベースをマウントし、それからデータベースを再オープンしてください。

ORA-12334 データベース (リンク名 *string*) はオープンしたままです。

原因: まだオープンしているデータベースをアンマウントしようとしてしました。

処置: ALTER DATABASE *linkname* CLOSE コマンドでデータベースをクローズし、それからデータベースを再アンマウントしてください。

ORA-12335 データベース (リンク名 *string*) はオープンしていません。

原因: オープンされていないデータベースをクローズしようとしてしました。

処置: データベースがクローズされています。そのデータベースをアンマウントできません。

ORA-12336 データベース (リンク名 *string*) にログインできません。

原因: 他のユーザーがマウントまたはアンマウントしているデータベースにログインしようとしてしました。

処置: データベースがマウント中またはオープン中かどうかを確認し、データベースが使用可能になれば、再度ログインしてください。

ORA-12341 最大オープン・マウント数を超えました。

原因: パラメータ・ファイルの OPEN_MOUNTS パラメータに指定されている数が最大数 (225) を超えました。

処置: 2 次データベースへのオープン・マウント数として可能な実際的な数に、このパラメータの値を変更してください。値は 255 未満である必要があります。

ORA-12342 オープン・マウント数が OPEN_MOUNTS パラメータで指定された制限を超えています。

原因: 現在のオープン・マウント数が、OPEN_MOUNTS パラメータに指定されている値を超えています。

処置: 2 次データベースへのオープン・マウント数として可能な最大値を設定できるように、OPEN_MOUNTS パラメータの値を増加してください。

ORA-12345 ユーザー *string* にはデータベース・リンク（リンク名 *string*）内の CREATE SESSION 権限がありません。

原因: このメッセージには、いくつかの原因が考えられます。1 番目は、指定された 2 次データベースのユーザー名に、CREATE SESSION システム権限が付与されていない場合です。2 番目は、データベース・リンク定義の接続文字列に指定されているユーザー名に、CREATE SESSION システム権限が付与されていない場合です。

処置: それぞれの原因によって処置も異なります。1 番目の場合、2 次データベースのユーザー名に CREATE SESSION システム権限が付与されているかどうか確認してください。2 番目の場合、データベース・リンク定義の接続文字列に指定されているユーザー名に 2 次データベースの CREATE SESSION システム権限が付与されているかどうか確認してください。

ORA-12350 現在削除中のデータベース・リンクはまだマウントされています。

原因: まだマウントまたはオープン（あるいはその両方）されている ROM: database link を削除しようとした。

処置: そのデータベースをクローズおよびアンマウントし、それから削除文を再発行してください。

ORA-12351 リモート・オブジェクト参照のあるリモート・オブジェクトを使用するビューは作成できません。

原因: 他のデータベースのオブジェクトを参照するリモート・オブジェクトを参照するビューを作成しようとした。作成しようとしたビューはリモート・オブジェクトを参照するので、そのオブジェクトは他のデータベースのオブジェクトを参照できません。

処置: 異なるオブジェクトを選択してビュー内を参照するか、または他のデータベースを参照しないようにリモート・オブジェクトを変更してください。

ORA-12352 オブジェクト *string.string@string* は無効です。

原因: 2 次データベースのオブジェクトを参照（コンパイル）しようとしたが、そのオブジェクトは無効であり、2 次データベース内にあるので、システムがオブジェクトを確認または再コンパイルできません。

処置: 2 次データベース内の無効なオブジェクトを手動で再コンパイルしてください。

ORA-12353 2 次保存オブジェクトはリモート・オブジェクトを参照できません。

原因：他のデータベース上のオブジェクトを参照するリモート・ビューから選択しようとしたか、リモート・プロシージャを実行しようとした。リモート・ビューまたはリモート・プロシージャは2次データベースにあるので、他のデータベースの参照はできません。

処置：異なるオブジェクトを選択して参照するか、リモート・ビューまたはリモート・プロシージャを変更して他のデータベースを参照しないようにしてください。

ORA-12354 2 次オブジェクトを削除しています。

原因：削除中の2次データベースのオブジェクト（たとえば、表またはビュー）にアクセスしようとした。

処置：操作をやり直してください。このメッセージが再度表示される場合、2次データベースからオブジェクトへアクセスを試行してください。内部エラーまたはトレース・ファイルを受け取った場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12400 ～ ORA-12699

ORA-12400 機能エラー操作への引数が無効です。

原因：機能エラー処理関数への引数が最大値の制限を超えているか、有効でない製品 / 機能を参照しています。

処置：有効な機能エラー処理パラメータ値を指定してください。

ORA-12401 ラベル文字列: *string* が無効です。

原因：方針アダプタは、ラベル文字列を方針に有効なバイナリ・ラベルに変換できませんでした。

処置：ラベル文字列の構文を修正してください。

ORA-12402 書式文字列: *string* が無効です。

原因：フォーマット文字列は、この方針アダプタではサポートされていません。

処置：フォーマット文字列の構文を修正してください。

ORA-12403 バイナリ・ラベルが無効です。

原因：方針アダプタは、バイナリ・ラベルを方針に有効なラベルに変換できませんでした。

処置：エラー・スタック上の追加メッセージを分析して、方針アダプタのドキュメントを調べてください。

ORA-12404 権限文字列: *string* が無効です。

原因：方針アダプタは、権限文字列を解釈できませんでした。

処置：方針アダプタがサポートしている権限文字列を指定してください。

ORA-12405 ラベル・リストが無効です。

原因：方針アダプタは、ラベル・リストが意図している使用方法には無効であると判断しました。

処置：そのラベル・リストの方針アダプタ制約を確認してください。

ORA-12406 未承認の SQL 文です。

原因: 方針アダプタは、要求された SQL 文を実行するデータベース・セッションを承認していません。

処置: ユーザーまたはプログラム・ユニットに、必要な方針アダプタ権限を付与してください。

ORA-12407 未承認の操作です。

原因: 方針アダプタは、要求された操作を実行するデータベース・セッションを承認していません。

処置: ユーザーまたはプログラム・ユニットに、必要な方針アダプタ権限を付与してください。

ORA-12408 ポリシー: *string* のポリシー名が無効です: *string*

原因: ポリシー・アダプタの名前が正しく指定されていません。

処置: 正しい名前を確認して、ポリシーを再作成してください。

ORA-12409 方針 *string* の起動に失敗しました。

原因: 方針アダプタの起動処理中にエラーが発生しました。方針で保護されたデータへのアクセスは禁止されています。

処置: アラート・ログで追加情報を確認して、方針アダプタのエラーを修正し、インスタンスを再起動してください。

ORA-12410 内部方針アダプタ・エラー: *string* エラー: *string*

原因: 方針アダプタで内部エラーが発生しました。

処置: 方針アダプタのドキュメントで詳細を確かめてください。

ORA-12411 ラベルの値が無効です。

原因: 指定した LBAC_LABEL 値は存在しません。

処置: 有効なラベルについては、ALL_LBAC_LABELS ビューを確認してください。

ORA-12412 方針パッケージ *string* が存在していません。

原因: この方針パッケージはインスタンスに存在しません。

処置: 方針パッケージの名前が正しいか、または必要な方針パッケージがインストールされているかを確認してください。

ORA-12413 ラベルが同じ方針に属していません。

原因: 比較されているラベルは、別の方針に属しています。

処置: 同じ方針に属するラベルのみを比較してください。

ORA-12414 内部 LBAC エラー: *string* エラー: *string*

原因: 内部 LBAC エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12415 バイナリ・ラベルの値が無効です。

原因: LBAC_BIN_LABEL 値は存在しません。

処置: 有効なラベルについては、DBA_LBAC_LABELS ビューを確認してください。

ORA-12416 方針 *string* が見つかりません。

原因: 指定された方針は、データベースに存在しません。

処置: 正しい方針名を入力して、方針を作成してください。

ORA-12417 データベース・オブジェクト *string* が見つかりません。

原因: 指定されたオブジェクトは、データベースにありません。

処置: データベース・オブジェクトの正しい名前を入力してください。

ORA-12418 ユーザー *string* が見つかりません。

原因: 指定されたユーザーは、データベースに存在しません。

処置: ユーザー名を修正して、ユーザーを作成してください。

ORA-12419 無効な方針範囲: *string*

原因: 指定された有効範囲はサポートされていません。

処置: DATABASE または APPLY の方針範囲を指定してください。

ORA-12420 必要なプロシージャとファンクションが方針パッケージ *string* にありません。

原因: 方針パッケージは、方針の施行に必要なプロシージャおよびファンクションのすべてを含んでいるわけではありません。

処置: 方針パッケージに必要なプロシージャおよびファンクションのリストについては、方針パッケージの開発用ドキュメントを参照してください。

ORA-12421 型 *string* (方針 *string* に対する) が見つかりません。

原因: 方針アダプタは方針列にはデータ型が必要ですが、このデータ型はデータベースに存在しません。

処置: 方針アダプタのドキュメントを確認して、必要なデータ型をデータベースに作成してください。

ORA-12422 方針の最大を超えました。

原因: 新しい方針を作成しようとしたますが、そのインスタンスにはすでに最大数の方針が作成されています。

処置: MAX_LABEL_POLICIES 初期化パラメータの値を増加して、サーバーを再起動してください。

ORA-12423 方針範囲が APPLY されていません。

原因: 表またはスキーマに方針を適用しようとしたが、方針は APPLY の有効範囲を指定して作成されていません。

処置: 方針を削除し、APPLY の有効範囲を指定して再作成してください。

ORA-12424 方針列 *string* は表 *string* にあります。

原因: 指定された表には、すでに方針列と同じ名前の列があります。

処置: 方針を適用する前に、表を再定義して列名を削除してください。

ORA-12425 方針を SYS または LBACSYS 表に適用できません。

原因: SYS または LBACSYS スキーマに方針を適用しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-12426 監査オプションが無効です。

原因: 指定されたオプションは、その方針に有効な監査オプションではありません。

処置: 正しい監査オプション、またはその方針に有効な権限を入力してください。

ORA-12427 引数 # *string* に対する入力値が無効です。

原因: 入力パラメータが正しく指定されませんでした。

処置: パラメータの値を修正してください。

ORA-12428 長さが長すぎます。

原因: データベース・オブジェクト名または文字列パラメータが最大長を超えています。

処置: パラメータの長さを修正してください。

ORA-12429 LBAC_LABEL_LIST 範囲を超えました。

原因: 指定した索引の値が 1 から 6 の間にありませんでした。

処置: LBAC_LABEL_LIST 操作の索引値を修正してください。

ORA-12430 権限番号が無効です。

原因: 指定した権限番号が 1 から 32 の間にありませんでした。

処置: LBAC_PRIVS 操作の権限番号を修正してください。

ORA-12431 監査アクションが無効です。

原因: 指定した監査アクションは有効な監査アクションではありません。

処置: 監査アクション番号を修正してください。

ORA-12432 LBAC エラー: *string*

原因: LBAC 保持でエラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージで示される問題を修正してください。

ORA-12433 サポートされない操作です。

原因: 指定された方針アダプタは、要求された操作をサポートしていません。

処置: 方針アダプタのドキュメントを調べて、サポートされているアクセス調整操作を判断してください。

ORA-12434 無効な監査タイプ: *string*

原因: 監査タイプは、BY ACCESS または BY SESSION にする必要があります。

処置: 監査タイプの値を修正してください。

ORA-12435 無効な監査完了: *string*

原因: 監査完了パラメータは、SUCCESSFUL または NOT SUCCESSFUL にする必要があります。

処置: 監査完了の値を修正してください。

ORA-12450 LBAC 初期化ファイルで LOB データ型は使用できません。

原因: 列または属性に LOB データ型を指定しようとしたましたが、LOB データ型は使用禁止になっています。

処置: LBAC 初期化ファイルを変更して、LOB 列および LOB 属性の作成を許可してください。

ORA-12466 DDL 操作は DBLOW で実行する必要があります。

原因: DDL 文を入力しましたが、有効な MLS ラベルが DBLOW ではありません。

処置: DBLOW で再接続するか、ユーザーまたはプログラム・ユニットに WRITEDOWN 権限および DBLOW のクリアランス最小値を付与してください。

ORA-12467 ROWLABEL にアクセスする権限が不十分です。

原因: ROWLABEL 列の値の挿入、更新または削除をしようとしたましたが、必要な MLS 権限がありません。

処置: 必要な MLS 権限をユーザーまたはプログラム・ユニットに付与してください。

ORA-12468 ROWLABEL の値がクリアランス範囲内にありません。

原因: ROWLABEL 列の値の挿入、更新または削除をしようとしたましたが、値がクリアランスの最小値より上ではないか、またはクリアランスの最大値より下ではありません。

処置: ROWLABEL の値を、ユーザーまたはプログラム・ユニットの有効なクリアランス範囲内で入力してください。

ORA-12469 有効なラベルを変更するには権限が不十分です。

原因: 有効なラベルを設定しようとしたが、このラベルを変更するために必要な MLS 権限がありません。

処置: 必要な MLS 権限をユーザーまたはプログラム・ユニットに付与してください。

ORA-12470 データベース・ラベルが初期化されていません。

原因: DBHIGH または DBLOW (あるいはその両方) が指定されていません。MLS で保護された表へのアクセスは許可されません。

処置: DBHIGH および DBLOW に値を設定して、データベース・インスタンスを再起動してください。

ORA-12471 リリース・カテゴリ *string* が定義されていません。

原因: DB ラベル管理表に定義されていないリリース・カテゴリを指定しました。

処置: データベースに定義されている認可されたリリース・カテゴリは、ALL_MLS_REL_CATS ビューで確認してください。

ORA-12472 記述カテゴリ *string* が定義されていません。

原因: DB ラベル管理表に定義されていない記述カテゴリを指定しました。

処置: データベースに定義されている認可された記述カテゴリは、ALL_MLS_DESC_CATS ビューで確認してください。

ORA-12473 分類レベル *string* が定義されていません。

原因: DB ラベル管理表に定義されていない分類レベルを指定しました。

処置: データベースに定義されている認可されたレベルは、ALL_MLS_LEVELS ビューで確認してください。

ORA-12474 DB ラベル定義が初期化されていません。

原因: ラベル定義を含む表が空であるか、存在しません。

処置: データベースにラベル定義を設定し、MLS 方針を再作成してください。

ORA-12475 MLS エラー: *string*

原因: MLS 方針保持でエラーが発生しました。

処置: メッセージで示される問題を修正してください。

ORA-12476 上限が最低のため、無効な OS ラベルになりました。

原因: ご使用のオペレーティング・システムでは無効な最小の上限 (LUB) ラベルを生成する操作を実行しようとした。

処置: 無効なラベル生成については、ご使用の OS のラベル管理のドキュメントを参照してください。

ORA-12477 下限が最高のため、無効な OS ラベルになりました。

原因：ご使用のオペレーティング・システムでは無効な最大の下限（GLB）ラベルを生成する操作を実行しようとした。

処置：無効なラベル生成については、ご使用の OS のラベル管理のドキュメントを参照してください。

ORA-12479 ファイル・ラベル *string* は DBHIGH *string* と等しい必要があります。

原因：データベース・ファイルの OS ラベルが DBHIGH と一致しません。DBHIGH が変更されたか、または OS ファイルがラベル変更されました。

処置：ラベルが DBHIGH に一致するようファイルをラベル変更するか、ファイルのラベルに一致するよう DBHIGH を変更してください。

ORA-12480 指定したクリアランス・ラベルは、有効なクリアランス範囲内にありません。

原因：認可されたクリアランス内ではないクリアランス範囲を指定しました。認可されたクリアランス内のクリアランス範囲のみ指定することができます。

処置：所有しているクリアランス範囲内のクリアランス・ラベルを指定してください。

ORA-12481 有効なラベルがプログラム単位のクリアランス範囲内にありません。

原因：プログラム・ユニットが起動したときに有効なラベルが、そのプログラム・ユニットに認可された範囲内にありません。

処置：プログラム・ユニットのクリアランス範囲を変更するか、または有効なクリアランスが認可されているセッションからプログラム・ユニットを起動してください。

ORA-12482 内部 MLS エラー: *string* エラー: *string*

原因：内部 MLS 方針エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12483 ラベルが OS システムの認可範囲内にありません。

原因：指定されたラベルは、OS のラベルの最大値より大きいか、または OS のラベルの最小値より小さいものです。

処置：ホスト OS の認可範囲内のラベルを使用してください。

ORA-12484 無効な OS ラベルです。

原因：指定されたラベルは、OS ホストのラベル定義ファイルに存在しません。

処置：OS ラベル管理ツールを使用して、ラベルを定義してください。

ORA-12485 新しい有効ラベルが有効クリアランス内にありません。

原因：有効なラベルに、有効な最小ラベルより小さいか、または有効な最大ラベルより大きい値を入力しようとした。

処置：最小ラベルと最大ラベルの間の値を入力してください。

ORA-12486 有効な最大ラベルと最小ラベルは変更できません。

原因: 有効な最小ラベルまたは有効な最大ラベルに値を入力しようとしたが、これらのラベルは変更できません。

処置: 有効な最小および最大ラベルには、NULL 値を入力してください。

ORA-12487 クリアランス・ラベルが DBHIGH と DBLOW の間にありません。

原因: クリアランス・ラベルに、DBHIGH より大きいか、または DBLOW より小さい値を入力しようとした。

処置: クリアランス・ラベルに、DBHIGH と DBLOW の間の値を入力してください。

ORA-12488 最大ラベルは最小ラベルに優るものではありません。

原因: クリアランス・ラベルに、最小ラベルと最大ラベルの間の上下関係を保たない値を入力しようとした。

処置: ラベルに、最小値と最大値の間の上下関係を保つ値を入力してください。

ORA-12489 デフォルト・ラベルがクリアランス範囲内にありません。

原因: デフォルト・ラベルに入ろうとしたが、値がクリアランスの最小値より上ではないか、またはクリアランスの最大値より下ではありません。

処置: デフォルト・ラベルにクリアランス範囲内の値を入力してください。

ORA-12490 DBHIGH は低くできません。

原因: DBHIGH に既存の DBHIGH より小さい値を入力しようとした。

処置: DBHIGH にこれまでより大きい値を入力してください。

ORA-12491 DBHIGH 値は DBLOW に優るものではありません。

原因: DBHIGH に DBLOW より小さい値を入力しようとした。

処置: DBHIGH に DBLOW より大きい値を入力してください。

ORA-12492 DBLOW は変更できません。

原因: DBLOW に初期値を設定した後で、これを変更しようとした。DBLOW は初期データベース生成後に 1 度のみ設定できます。

処置: DBLOW を変更するには、新しいデータベースを作成し、DBLOW に新しい値を設定して、この新しいデータベースに現在のデータをインポートする必要があります。

ORA-12493 MLS バイナリ・ラベルが無効です。

原因: MLS バイナリ・ラベルが無効な値を含んでいるか、正しいサイズではないか、使用可能でないレベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリを含んでいます。

処置: 有効な MLS ラベルは、DBA_MLS_LABELS ビューで確認してください。

ORA-12494 レベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリを挿入または削除できません。

原因: レベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリ定義を挿入または削除しようとした。

処置: ラベル定義が有効でなくなった場合は、無効であることを示す名前に変更してください。ラベルが文字列に変換されるときに、新しいラベル定義が使用されます。

ORA-12495 使用可能なレベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリを使用禁止にできません。

原因: これまで使用可能だったレベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリ定義を使用禁止にしようとした。使用可能なラベル定義は、いずれかのデータベース・ラベルに存在する可能性があるため、使用禁止にできません。

処置: ラベル定義が有効でなくなった場合は、無効であることを示す名前に変更してください。ラベルが文字列に変換されるときに、新しいラベル定義が使用されます。

ORA-12496 既存のレベル、カテゴリまたはリリース番号を変更できません。

原因: レベル、カテゴリまたはリリース・カテゴリに割り当てた番号を変更しようとした。

処置: 番号ではなく、文字列表現を変更してください。

ORA-12497 最大結合カテゴリが *string* を超えました。

原因: 記述カテゴリとリリース・カテゴリの合計が、MLS 方針がサポートする最大値を超えています。

処置: 合計して最大値を超えない値を入力してください。

ORA-12498 最大レベルが使用できる最大を超えました。

原因: 入力されたレベル数が、MLS 方針がサポートする数を超えました。

処置: MLS 方針のドキュメントを参照して、最大値を超えない数を入力してください。

ORA-12499 データベース・ラベル定義はすでに初期化済みです。

原因: MLS ラベル定義表には、すでにデータが入っています。

処置: レベルまたはカテゴリの数を変更するには、MLS ラベル変換ユーティリティを使用してください。

ORA-12500 ～ ORA-12699

これらのメッセージについては、[第 25 章「Net8 メッセージ \(TNS\)」](#) のリスト（表示される接頭辞は ORA ですが、こちらの章で接頭辞 TNS のメッセージとしてリストしています）を参照してください。

ORA-12700 ～ ORA-19399

ORA-12700 無効な NLS パラメータ値 (*string*) です。

原因: 無効な NLS 初期化パラメータを指定しました。

処置: パラメータの構文および綴りを調べてください。初期化パラメータ・ファイルに正しいパラメータを入力してください。

ORA-12701 不明な CREATE DATABASE キャラクタ・セットです。

原因: CREATE DATABASE コマンドに指定したキャラクタ・セットがシステムに存在しません。

処置: システムのキャラクタ・セットの詳細は、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。CREATE DATABASE コマンドに有効なキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-12702 無効な NLS パラメータ文字列が SQL 関数に使用されました。

原因: SQL 関数の NLS パラメータ文字列に無効なパラメータまたは値を入力しました。

処置: 関数の構文およびパラメータを調べてください。正しい構文および有効な値を使用してコマンドを再入力してください。

ORA-12703 このキャラクタ・セット変換はサポートされません。

原因: 2つのキャラクタ・セット間の変換に CONVERT 関数を使用しようとしたが、いずれか一方のキャラクタ・セットまたは両方のキャラクタ・セットが使用可能でないために、要求した変換は実行できません。

処置: CONVERT 関数にはシステムで使用可能なキャラクタ・セットを使用してください。

ORA-12704 キャラクタ・セットが一致しません。

原因: 次のいずれかです。

- 演算子または組込み関数の文字列オペランド (NLSPARAMS 引数以外) のキャラクタ・セットが同じではない。
- NLSPARAMS オペランドがデータベース・キャラクタ・セットと一致していない。

- データベース・キャラクタ・セット以外のキャラクタ・セットを含んだ文字列データが、その文字列データを予期していなかった組み込み関数に渡された。
- CHR() または CSCONVERT() の 2 番目の引数が CHAR_CS または NCHAR_CS ではない。
- INSERT 文の VALUES 句または UPDATE 文の SET 句の文字列式に含まれたキャラクタ・セットは、値を挿入する列のキャラクタ・セットと同じではない。
- 表を作成するときに DEFAULT 句に提供された値のキャラクタ・セットは、列に対して宣言されたキャラクタ・セットと同じではない。
- PL/SQL 関数の引数は、対応するパラメータのキャラクタ・セット要求に適合しない。

処置: NCHAR または NCHAR VARYING で宣言されている文字列は、CHAR または VARCHAR2 で宣言されている文字列との相互運用性はありません。TRANSLATE() 関数を使用してどちらかのキャラクタ・セットに明示的に変換してください。

ORA-12705 無効または不明な NLS パラメータ値が指定されました。

原因: 考えられる原因は 2 つあります。無効な NLS パラメータまたは値を指定して ALTER SESSION 文を発行しようとしたか、環境変数 NLS_LANG に無効な言語、地域またはキャラクタ・セットが含まれています。

処置: ALTER SESSION コマンドおよび NLS パラメータの構文を確認し、構文を訂正して文を再試行するか、または環境変数 NLS_LANG に正しい値を指定してください。ALTER SESSION コマンドの構文の詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-12706 この CREATE DATABASE キャラクタ・セットは許可されません。

原因: ASCII ベースのマシン上で EBCDIC ベースのキャラクタ・セット（またはその反対）を使用して、データベースを作成しようとした。これは許可されません。

処置: ハードウェアがサポートしている、ASCII ベースまたは EBCDIC ベースのどちらかのキャラクタ・セットを使用してデータベースを作成してください。サポートされているキャラクタ・セットのタイプの詳細は、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

ORA-12707 作成データベース NLS パラメータ *string* 取得中のエラーです。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12708 作成データベース NLS パラメータ *string* ロード中のエラーです。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12709 作成データベース・キャラクタ・セットをロード中のエラーです。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12710 CREATE CONTROLFILE のキャラクタ・セットが不明です。

原因: 制御ファイルが作成されたときに指定されたキャラクタ・セットが不明です。

処置: 認識されているキャラクタ・セットを指定してください。

ORA-12711 この CREATE CONTROLFILE のキャラクタ・セットは許可されていません。

原因: システム固有な ASCII ベースのマシン上で EBCDIC ベースのキャラクタ・セット（またはその逆）を使用して制御ファイルを作成することは許可されていません。

処置: マシンおよびキャラクタ・セットに対して正しい制御ファイルを作成してください。

ORA-12712 新規キャラクタ・セットは旧キャラクタ・セットのスーパーセットにしてください。

原因: ALTER DATABASE ...CHARACTER SET を実行する場合、新規キャラクタ・セットは旧キャラクタ・セットのスーパーセットにする必要があります。たとえば、WE8ISO8859P1 は WE8DEC のスーパーセットではありません。

処置: スーパーセットのキャラクタ・セットを指定してください。

ORA-12800 システムはビジーすぎてパラレル問合せを実行できません。

原因: システム上のロードは、高すぎてパラレル問合せを実行できません。

処置: 順番に再実行するか、またはシステム・ロードが軽減されるまで待ってください。

ORA-12801 パラレル問合せサーバー *string* にエラー信号が発生しました。

原因: パラレル問合せサーバーが例外状態に達しました。

処置: 次のエラー・メッセージを確認して、原因を調べてください。

ORA-12802 パラレル問合せサーバーはコーディネータとの接触を失いました。

原因: パラレル問合せサーバーがフォアグラウンド（コーディネータ）・プロセス / スレッドとの接触を失いました。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12803 パラレル問合せサーバーは他のサーバーとの接触を失いました。

原因: パラレル問合せサーバーが他のサーバーとの接触を失いました。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12804 パラレル問合せサーバーが停止したようです。

原因: パラレル問合せサーバー・スレッドに関するプロセス情報が見つかりません。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12805 パラレル問合せサーバーが突然停止しました。

原因: パラレル問合せサーバーが突然停止し、PMON がプロセスをクリアしました。

処置: システムに異常がないか確認してから、文を再発行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細はトレース・ファイルを参照してください。

ORA-12806 バックグラウンド・プロセスにエンキューを保持させられませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: このエラーは通常は発生しません。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12807 処理待ち行列はパラレル問合せメッセージを受信できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: このエラーは通常は発生しません。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12808 *string*_INSTANCES をインスタンス数 *string* より大きく設定できません。

原因: ALTER SYSTEM コマンドを使用して、使用可能なインスタンスの数より大きい値に SCAN_INSTANCES または CACHE_INSTANCES を設定しようとした。

処置: これに伴うメッセージを参照して現在許可されている最大値を確認するか、または SCAN_INSTANCES/CACHE_INSTANCES を ALL に設定してください。

ORA-12809 排他モードでマウントされた場合、*string*_INSTANCES は設定できません。

原因: データベースが排他モードでマウントされている間に、ALTER SYSTEM コマンドを使用して SCAN_INSTANCES または CACHE_INSTANCES を設定しようとした。

処置: SHARED または PARALLEL モードでマウントしている Oracle Parallel Server が実行されている場合にのみ SCAN_INSTANCES/CACHE_INSTANCES を設定できます。

ORA-12810 PARALLEL_MAX_SERVERS は *string* 以下でなければなりません。

原因: システムで許可されている最大値より高い値に PARALLEL_MAX_SERVERS パラメータを設定しようとした。

処置: PARALLEL_MAX_SERVERS を、同時に表示されるメッセージで指定されている最大値以下の値に設定し、再試行してください。

ORA-12811 PARALLEL_MIN_SERVERS は PARALLEL_MAX_SERVERS (string) 以下でなければなりません。

原因: PARALLEL_MAX_SERVERS より高い値に PARALLEL_MIN_SERVERS パラメータを設定しようとした。

処置: PARALLEL_MIN_SERVERS を、PARALLEL_MAX_SERVER (同時に表示されるメッセージで指定される) 以下の値に設定し、再試行してください。

ORA-12812 指定可能な PARALLEL または NOPARALLEL 句は 1 つだけです。

原因: PARALLEL が複数回指定されたか、NOPARALLEL が複数回指定されたか、または PARALLEL と NOPARALLEL の両方が、CREATE TABLE、CREATE CLUSTER または CREATE INDEX、あるいは ALTER TABLE 文か ALTER CLUSTER 文、あるいは RECOVER コマンドに指定されました。

処置: PARALLEL または NOPARALLEL 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-12813 PARALLEL または DEGREE の値は 0 より大きくなければなりません。

原因: PARALLEL 0 または DEGREE 0 が、CREATE TABLE、CREATE CLUSTER または CREATE INDEX、あるいは ALTER TABLE 文または ALTER CLUSTER 文に指定されました

処置: 並列度を 1 以上に指定してください。または PARALLEL 句に DEGREE を設定しないか、PARALLEL 句内の DEGREE DEFAULT を使用してデフォルトの並列度を指定してください。

ORA-12814 指定可能な CACHE または NOCACHE 句は 1 つだけです。

原因: CACHE が複数回指定されたか、NOCACHE が複数回指定されたか、または CACHE と NOCACHE の両方が、CREATE TABLE または CREATE CLUSTER、あるいは ALTER TABLE 文または ALTER CLUSTER 文に指定されました。

処置: CACHE または NOCACHE 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて削除してから、文を再発行してください。

ORA-12815 INSTANCES 値は 0 より大きくなければなりません。

原因: インスタンスの番号を指定している PARALLEL パラメータは、正の整数または DEFAULT でなければなりません。

処置: インスタンス全体に渡って並列性が必要な場合は、INSTANCES に対して正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12816 パラレル作成索引ファスト・パス操作

原因: パラレル作成索引ファスト・パス操作が設定されました。

処置: このイベントは、Oracle 開発者の監視下でのみ設定してください。

ORA-12817 パラレル問合せオプションは使用可能にしなければなりません。

原因: パラレル問合せオプション機能が起動されましたが、このオプションは使用不可能です。

処置: パラレル問合せオプションを使用可能にしてください。

ORA-12818 PARALLEL 句内に無効なオプションが使用されました。

原因: 認識できないオプションを PARALLEL 句内で使用しました。

処置: PARALLEL 句内に DEGREE {*n*|DEFAULT} および PARALLEL 句内の INSTANCE {*n*|DEFAULT} の任意の組合わせを指定してください。

ORA-12819 PARALLEL 句にオプションが欠落しています。

原因: PARALLEL 句を空に指定することはできません。

処置: PARALLEL 句内に DEGREE {*n*|DEFAULT} および PARALLEL 句内の INSTANCE {*n*|DEFAULT} の任意の組合わせを指定してください。

ORA-12820 無効な DEGREE 値です。

原因: PARALLEL 句内で無効な DEGREE 値が指定されました。

処置: PARALLEL 句内の DEGREE オプションに対し、正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12821 無効な INSTANCES 値です。

原因: PARALLEL 句内で無効な INSTANCES 値が指定されました。

処置: PARALLEL 句内の INSTANCES オプションに対し、正の整数または DEFAULT を指定してください。

ORA-12822 PARALLEL 句にオプションが重複しています。

原因: DEGREE または INSTANCE を 1 つの PARALLEL 句で複数回指定しました。

処置: 必要な PARALLEL 句オプションをそれぞれ 1 回のみ指定してください。

ORA-12823 デフォルトの度合いの並列性はここでは指定できません。

原因: PARALLEL キーワードが単独で使用されたか、または DEGREE DEFAULT が ALTER DATABASE RECOVER コマンドの PARALLEL 句で指定されました。

処置: 並列度を明示的に再指定してください。

ORA-12824 INSTANCES DEFAULT はここでは指定できません。

原因: INSTANCES DEFAULT が ALTER DATABASE RECOVER コマンドの PARALLEL 句で指定されました。

処置: INSTANCES 用に明示的に値を再指定するか、または単一のインスタンスをリカバリする場合は INSTANCES オプションを削除してください。

ORA-12825 ここでは明示的な度合いの並列性を指定しなければなりません。

原因: DEGREE オプションが ALTER DATABASE RECOVER コマンドに入っていないせん。

処置: 並列度を明示的に再指定してください。

ORA-12826 停止したパラレル問合せは消去されました。

原因: パラレル問合せサーバーはハングアップし、その後に終了されました。

処置: 問合せを再実行してください。エラーが続く場合は、トレース・ファイルに記録されている情報を確認のうえオラクル社カスタマ・サポート・センターへ連絡してください。

ORA-12827 使用可能なパラレル問合せスレーブが足りません。

原因: PARALLEL_MIN_PERCENT パラメータが指定され、最小限のスレーブを獲得できませんでした。

処置: より小さい PARALLEL_MIN_PERCENT を使用して問合せを再実行してください。または、いくつかの実行中の問合せが完了してスレーブが解放されるまで待ってください。

ORA-12828 リモート・サイトでパラレル・トランザクションは開始できません。

原因: 分散トランザクションのコーディネータ・サイトではないため、PDML トランザクションを起動できません。

処置: PDML をリモート・サイトで使用しないでください。

ORA-12829 デッドロック - ブロック : *string* (ファイル : *string*) で idl が同一のトランザクションにより占有されています。

原因: カレント・ブロック内のすべての idl が同じトランザクションによって占有されているため、パラレル文を実行できませんでした。

処置: ブロックの MAXTRANS の値を増やすか、文に対する並列度を減らしてください。文を再実行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、トレース・ファイルに記録されている情報を確認のうえオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-12830 パラレル INSERT/UPDATE/DELETE 実行後に COMMIT または ROLLBACK を発行してください。

原因: パラレル INSERT/UPDATE/DELETE 文を実行した後に、COMMIT または ROLLBACK 以外のコマンドが発行されました。

処置: COMMIT または ROLLBACK を実行してから、別の SQL コマンドを発行してください。

ORA-12831 APPEND ヒントをもつ INSERT の実行後に COMMIT または ROLLBACK を発行してください。

原因: APPEND ヒントを持つ INSERT 文を実行した後に、COMMIT または ROLLBACK 以外のコマンドが発行されました。

処置: COMMIT または ROLLBACK を実行してから、別の SQL コマンドを発行してください。

ORA-12832 指定されたインスタンスでスレーブを割り当てられなかったものがあります。

原因: グローバル v\$ 固定ビューの問合せを実行した後に、1 以上のインスタンスが問合せを処理するスレーブを割り当てられませんでした。

処置: ALTER SESSION SET ALLOW_PARTIAL_SN_RESULTS=TRUE 文を実行するか、各インスタンスのパラメータを確認して、正常に割り当てられたスレーブからの結果を戻してください。

ORA-12833 座標のインスタンスが PARALLEL_INSTANCE_GROUP のメンバーではありません。

原因: 座標のインスタンスは、この操作を実行する PARALLEL_INSTANCE_GROUP のメンバーでなければなりません。

処置: 座標のインスタンスをカレントの PARALLEL_INSTANCE_GROUP に追加するか、PARALLEL_INSTANCE_GROUP を変更してください。

ORA-12834 インスタンス・グループ名: *string* が長すぎます。 *string* 未満にしてください。

原因: インスタンス・グループ名が長すぎます。

処置: 名前を短くするか、インスタンス・グループを取り除いてください。

ORA-12835 OPS_ADMIN_GROUP にアクティブなインスタンスがありません。

原因: グローバル・ビューで問合せを実行するには、OPS_ADMIN_GROUP に 1 以上のインスタンスが存在していなければなりません。

処置: OPS_ADMIN_GROUP の値を変更してください。

ORA-12838 オブジェクトは、パラレルで変更された後は読み込み / 変更できません。

原因: 同じトランザクションの中で、読み込み文か変更文をパラレルまたはダイレクト・ロードで変更した後、表の上で追加しようとしてしました。これは許可されません。

処置: トランザクションを書き換えるか、または 2 つのトランザクションに分割してください。1 つには最初の変更を含め、もう 1 つにはパラレル変更操作を含めてください。

ORA-12839 オブジェクトは、変更された後はパラレルで変更できません。

原因: 同じトランザクションの中で、表が変更されてからパラレル変更操作を行おうとしてしました。これは許可されません。

処置: トランザクションを書き換えるか、または 2 つのトランザクションに分割してください。1 つには最初の変更を含め、もう 1 つにはパラレル変更操作を含めてください。

ORA-12840 パラレル/インサート・ダイレクト・ロード・トランザクションの後は、リモート表にアクセスできません。

原因：トランザクションの中で、PDML またはインサート・ダイレクト文が発行されたあとに分散アクセスを行おうとしました。

処置：先に PDML トランザクションをコミットまたはロールバックしてから、分散アクセスを実行してください。または、トランザクションの最初の PDML 文より前に分散アクセスを実行してください。

ORA-12841 1 トランザクション内で、セッションのパラレル DML 状態は変更できません。

原因：トランザクションが処理中です。

処置：トランザクションをコミットまたはロールバックして、再実行してください。

ORA-12842 パラレルで実行中にスキーマが変更されました。

原因：パラレルの処理解析フェーズ中にスキーマが変更されました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-12843 表の pdml ロックが適切に保持されていません。

原因：コーディネータがクラッシュしたか、またはスレーブが取得しようとしたパーティションのロックを解除しました。

処置：コーディネータまたは別のスレーブが異常終了したかどうか確認してください。またはロックが破壊されていないことを確認してください。PDML を再発行してください。

ORA-12980 SET UNUSED でチェックポイント・オプションは使用できません。

原因：SET UNUSED でチェックポイント・オプションを指定しようとした。

処置：チェックポイント・オプションを削除してください。

ORA-12981 オブジェクト型の表の列は削除できません。

原因：オブジェクト型の表の列を削除しようとした。

処置：これは許可されません。

ORA-12982 ネストされた表の列は削除できません。

原因：ネストされた表の列を削除しようとした。

処置：これは許可されません。

ORA-12983 表の列をすべて削除することはできません。

原因：表の列をすべて削除しようとした。

処置：列削除操作後、少なくとも 1 つの列が表に残っていることを確認してください。

ORA-12984 パーティション列は削除できません。

原因: パーティション・キーとして使用された列を削除しようとした。

処置: これは許可されません。

ORA-12985 表領域 *string* は読取り専用です。列は削除できません。

原因: 読込み専用の表領域のパーティション / サブパーティションの列を削除しようとした。

処置: 表領域を読込み / 書込みに設定し、文を再実行してください。

ORA-12986 列が部分的に削除された状態です。ALTER TABLE DROP COLUMNS CONTINUE を実行してください。

原因: 列が部分的に削除された状態で表にアクセスしようとした（つまり、列削除操作が割込みされました）。

処置: ALTER TABLE DROP COLUMNS CONTINUE を実行して列削除操作を完了してから、表にアクセスしてください。

ORA-12987 列の削除は他の操作と組み合わせることはできません。

原因: 列の削除を他の ALTER TABLE 操作と組み合わせようとした。

処置: 列の削除が ALTER TABLE に指定された唯一の操作であることを確認してください。

ORA-12988 SYS が所有する表の列は削除できません。

原因: システム表の列を削除しようとした。

処置: これは許可されません。

ORA-12989 チェックポイント間隔の値が正しくありません。

原因: 無効なチェックポイント間隔が文に指定されました。チェックポイント間隔は 0 から (2³¹-1) の間でなければなりません。

処置: チェックポイント間隔を訂正し、文を再実行してください。

ORA-12990 オプションの指定が重複しています。

原因: 文の中でオプションの指定が重複しています。

処置: 重複するオプションを削除して、文を再実行してください。

ORA-12991 列が複数列制約で参照されています。

原因: いくつかの制約に参照されている列を削除しようとした。

処置: 削除された列を参照している制約をすべて削除するか、または CASCADE CONSTRAINTS を文に指定してください。

ORA-12992 親キーの列は削除できません。

原因：親キーの列を削除しようとしてしました。

処置：親キーの列を参照している制約をすべて削除するか、または CASCADE CONSTRAINTS を文に指定してください。

ORA-12993 表領域 *string* はオフラインです。列は削除できません。

原因：オフラインの表領域のパーティション / サブパーティションの列を削除しようとしてしました。

処置：表領域をオンラインにして、文を再実行してください。

ORA-12994 列の削除オプションは 1 つの文で 1 回しか使用できません。

原因：列の削除オプションを 1 つの文で繰り返そうとしてしました。

処置：列の削除オプションを異なる文に分割して、文を再実行してください。

ORA-12995 部分的に削除された状態の列はありません。

原因：部分的に削除された列がないのに、DROP COLUMNS CONTINUE 文を実行しようとしてしました。

処置：この文を実行できません。

ORA-12996 システムで生成された仮想列は削除できません。

原因：システムで生成された仮想列を削除しようとしてしました。

処置：これは許可されません。

ORA-12997 索引構成表の主キー列は削除できません。

原因：索引構成表から主キーの列を削除しようとしてしました。

処置：これは許可されません。

ORA-13000 ディメンション数値が範囲外です。

原因：指定されたディメンションが 1 より小さいか HHCODE でコード化されたディメンション数値よりも大きくなっています。

処置：ディメンション数値が、1 から HHCODE でコード化されたディメンションの最大値の間であることを確認してください。

ORA-13001 ディメンション不一致エラー

原因：バイナリ HHCODE 操作に関連する 2 つの HHCODE のディメンション数値が一致しません。

処置：2 つの HHCODE のディメンション数値が一致していることを確認してください。

ORA-13002 指定されたレベルは範囲外です。

原因：指定されたレベルが 1 よりも小さいか、または HHCODE でコード化された最大レベルよりも大きくなっています。

処置: すべてのレベルが 1 から HHCODE でコード化された最大レベル番号の間であることを確認してください。

ORA-13003 ディメンションに指定された範囲が無効です。

原因: ディメンションに指定された範囲が無効です。

処置: 下限 (LB) が上限 (UB) よりも低いことを確認してください。

ORA-13004 指定されたバッファ・サイズが無効です。

原因: ファンクションのバッファ・サイズが無効です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13005 再帰的 HHCODE 関数エラー

原因: 再帰的にコールされる HHCODE 関数でエラーが発生しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13006 指定されたセル番号が無効です。

原因: セル識別子が 0 よりも小さいか、または $(2^{\text{ndim}} - 1)$ よりも大きくなっています。

処置: セル識別子が 0 から $(2^{\text{ndim}} - 1)$ の間であることを確認してください。

ORA-13007 無効な HEX 文字が検出されました。

原因: [0-9] または [A-Fa-f] の範囲にない文字が検出されました。

処置: 文字列のすべての文字が [0-9] または [A-Fa-f] の範囲内であることを確認してください。

ORA-13008 指定された日付書式に無効なコンポーネントが付いています。

原因: 指定された日付書式の一部が無効です。

処置: 日付書式が有効であることを確認してください。

ORA-13009 指定された日付ストリングが無効です。

原因: 指定された日付文字列に無効なコンポーネントがあるか、指定された書式文字列と一致しません。

処置: 日付文字列のコンポーネントが有効であり、日付文字列と書式文字列が一致することを確認してください。

ORA-13010 無効な引数の数が指定されました。

原因: SDO 関数に無効な引数の数が指定されました。

処置: ファンクション・コールの構文を確認してください。

ORA-13011 値が範囲外です。

原因: 指定されたディメンションの値が、そのディメンションに定義された範囲外です。

処置: コード化されるすべての値が、定義されたディメンションの範囲内にあることを確認してください。

ORA-13012 無効なウィンドウ型が指定されました。

原因: 無効なウィンドウ型が指定されました。

処置: 有効なウィンドウ型は、RANGE、PROXIMITY、POLYGON です。

ORA-13013 指定されたトポロジーは INTERIOR でも BOUNDARY でもありませんでした。

原因: 指定されたトポロジーが INTERIOR または BOUNDARY ではありませんでした。

処置: HHCODE のトポロジーの記述に INTERIOR または BOUNDARY が使用されていることを確認してください。

ORA-13014 範囲 (1 ～ 8) 外のトポロジー識別子が指定されました。

原因: 範囲 (1 ～ 8) 外のトポロジー識別子が指定されました。

処置: 範囲 (1 ～ 8) 内でトポロジーを指定してください。

ORA-13015 ウィンドウ定義が無効です。

原因: ウィンドウの定義に使用されている値の番号がウィンドウ型に対応していません。

処置: ウィンドウ定義に使用されている値の番号がウィンドウ型およびディメンション数に対して正しいことを確認してください。

ORA-13016 不正なパーティション定義です。

原因: パーティションの共通コードが正しくデコードされていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。これは内部エラーです。

ORA-13017 認識不能な行パーティション形状です。

原因: 2 次元ライン・パーティションの形状が判別できませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13018 不正な距離型です。

原因: 指定された距離型が無効です。

処置: サポートされている距離ファンクションは EUCLID と MANHATTAN のみです。

ORA-13019 座標が有効範囲外です。

原因: 頂点の座標が、指定されたディメンションの有効範囲外にあります。

処置: 頂点の座標を、指定された範囲内に再定義してください。

ORA-13020 座標が NULL です。

原因: 頂点の座標が NULL 値になっています。

処置: 頂点の座標を非 NULL 値に再定義してください。

ORA-13021 要素が連続していません。

原因: 形状要素を定義している座標が接続されていません。

処置: 形状要素の座標を再定義してください。

ORA-13022 多角形が自己交差しています。

原因: 多角形の形状要素を定義している座標が、セグメントの交差を表しています。

処置: 多角形の座標を再定義してください。

ORA-13023 内部要素が外部要素に影響しています。

原因: 形状オブジェクトの内部要素が、そのオブジェクトの外部要素に影響しています。

処置: 形状要素の座標を再定義してください。

ORA-13024 多角形のセグメントが 3 未満です。

原因: 多角形の形状要素を定義している座標が、セグメントが 3 未満であることを表しています。

処置: 多角形の座標を再定義してください。

ORA-13025 多角形が閉じていません。

原因: 多角形の形状要素を定義している座標が、開いた多角形を表しています。

処置: 多角形の座標を再定義してください。

ORA-13026 要素 *string.string.string* の要素タイプが不明です。

原因: *layer_SDOGEOM* 表の *SDO_ETYPE* 列が無効な形状要素型値を含んでいます。

処置: サポートされている *SDO_ETYPE* 値の 1 つを使用して、指定した形状要素の、*layer_SDOGEOM* 表内の形状要素型を再定義してください。 *SDO_ETYPE* および使用可能な値の説明は、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13027 *string* からディメンション定義を読み込めません。

原因: *layer_SDODIM* 表からディメンション定義を読み込むことに問題があります。

処置: *layer_SDODIM* 表が存在し、その表に適切な権限があることを確認してください。メッセージと一緒に他のエラーが表示されたら、それも対処してください。

ORA-13039 要素 *string.string.string* に対する空間索引の更新に失敗しました。

原因: 問題を示す別のエラーがこのメッセージに付随しています。

処置: これらのエラーを修正してください。別のエラーが表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13040 タイルの細分化に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: これに伴うエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13041 要素 *string.string.string* とタイルの比較に失敗しました。

原因: 生成されたタイルと指定された要素の間の空間的な関係が決定されません。これは内部エラーです。

処置: VALIDATE_GEOMETRY プロシージャを使用して形状を確認してください。プロシージャがエラーを戻さない場合、ORA-13041 に伴うエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13042 SDO_LEVEL と SDO_NUMTILES との組み合わせが無効です。

原因: *layer*_SDOLAYER 表からの SDO_LEVEL の値および SDO_NUMTILES の値の無効な組合せが読み込まれました。列が NULL になっていることが、最もありうる原因です。

処置: SDO_LEVEL 列および SDO_NUMTILES 列の組合せが『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』に記述されているような有効な整数値を含んでいるかを確認してください。再試行してください。

ORA-13043 <layer>_SDOLAYER 表からメタ・データの読み込みに失敗しました。

原因: *layer*_SDOLAYER 表を読み込む時にエラーが発生しました。

処置: このエラーは通常、以前のエラーの結果であり以前のエラーも報告されています。以前のエラーを処理し、現在の操作を再試行してください。以前のエラーが報告されていない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13044 指定されたタイル・サイズは最大解像度を超えています。

原因: 固定サイズの tessellation に指定されたタイル・サイズがレイヤー・メタ・データから計算された最大解像度を超えています。

処置: タイリング・レベル、タイル・サイズおよびタイル解像度の説明は、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。生成されたタイルが常に解像度の最大レベルのタイルと同じかそれより大きくなるようにタイリング・パラメータを設定してください。これは、形状オブジェクトより小さいタイルを使用するか、カレント・タイルより小さいタイル値を指定してください。

ORA-13045 互換性フラグが無効です。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13046 引数の数が無効です。

原因：SDO_GEOM 関数に無効な数の引数が指定されました。

処置：SDO_GEOM 関数の構文と意味については、Oracle Spatial Cartridge のドキュメントを参照してください。

ORA-13047 <layer>_SDOLAYER 表の縦座標数を確認できません。

原因：SDO_GEOM 関数が、SDO レイヤー *layer* の縦座標数を確認できませんでした。

処置：*layer*_SDOLAYER 表に列 SDO_ORDCNT に対して有効な値があることを確認してください。再試行してください。

ORA-13048 再帰的な SQL フェッチ・エラーです。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13049 <layer>_SDODIM の許容値を確認できません。

原因：SDO_GEOM 関数が SDO レイヤー *layer* の許容値を確認できませんでした。

処置：*layer*_SDODIM 表に列 SDO_TOLERANCE に対して有効な値があることを確認してください。

ORA-13050 空間オブジェクトを組み立てられません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13051 空間オブジェクトの初期化に失敗しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13052 形状 *string.string* の図形型はサポートされていません。

原因：*layer*_SDOGEOM 表の特定のインスタンスの形状タイプが Oracle Spatial Cartridge でサポートされている一連の形状タイプの中にありません。

処置：サポートされている形状タイプのリスト、および SDO スキーマを持つ、サポートされていない形状タイプの保存および検索の方法については、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13053 引数リストにある幾何学要素が最大数を超えました。

原因：SDO_GEOM 関数の引数リストで指定できる幾何学要素が最大値を超えました。

処置: 『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照して SDO_GEOM の構文を確認し、引数を減らして形状を記述してください。あるいは SDO_WINDOW パッケージの記述を参照して、表の中でオブジェクトを保存し、それを SDO_GEOM 関数のコールの引数として使用する方法を確認してください。

ORA-13054 再帰的な SQL 解析エラーです。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13055 Oracle オブジェクト *string* が指定した表にありません。

原因: 要求したオブジェクトが指定した表に存在しません。

処置: このエラーを報告した関数またはプロシージャの構文を確認し、オブジェクトが指定された表に実際に存在することを確認してください。再試行してください。

ORA-13108 空間表 *string* が見つかりません。

原因: 指定された空間表が存在しません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、表が登録されていることを確認してください。

ORA-13109 空間表 *string* が存在します。

原因: 指定された空間表が Spatial Data のデータ・ディクショナリに登録されています。

処置: 既存の表を Spatial Data Option のデータ・ディクショナリから削除するか、または別の名前を使用してください。

ORA-13110 空間表 *string* がパーティションされていません。

原因: 指定された空間表はパーティションに分割されていません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、高水位標が設定されていることを確認してください。

ORA-13111 空間表 *string* にパーティション・キーが未定義です。

原因: 指定された空間表にパーティション・キーが定義されていません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、表がパーティション化されていることを確認してください。

ORA-13112 無効なカウント・モード (*string*) です。

原因: 指定されたカウント・モードが無効です。

処置: カウント・モードを変更してください。有効なカウント・モードは ESTIMATE または EXACT です。

ORA-13113 Oracle 表 *string* が存在しません。

原因: 指定された Oracle 表が存在しません。

処置: Oracle のデータ・ディクショナリを調べて、表が存在していることを確認してください。

ORA-13114 表領域 *string* が見つかりません。

原因: 指定した表領域は存在しません。

処置: Oracle のデータ・ディクショナリを調べて、指定された表領域が存在し、その表領域にスペース割当制限が定義されていることを確認してください。

ORA-13115 表領域 *string* は既に割り当てられています。

原因: 指定された表領域はすでに空間表に割り当てられています。

処置: 別の表領域名を表に割り当ててください。

ORA-13116 表領域 *string* は表 *string* に割り振られていません。

原因: 指定された表領域が、指定された空間表に割り当てられていません。

処置: 表領域を空間表に割り当ててください。

ORA-13117 パーティション *string* が見つかりません。

原因: 指定したパーティションは存在しません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、パーティション名を確認してください。

ORA-13119 ソース表領域およびターゲット表領域が同一です。

原因: パーティションを移動しようとしたときに同じソース表領域とターゲット表領域が指定されました。

処置: パーティションを移動する場合は、別々のソース表領域とターゲット表領域を指定してください。

ORA-13121 子パーティションの作成に失敗しました。

原因: 子パーティションの作成に失敗しました。

処置: このエラーに伴う他のエラーを調べて、先にそれを訂正してください。

ORA-13122 子パーティション *string* が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13123 列 *string* は既に定義済みです。

原因: 指定された列は空間表ですでに定義されています。

処置: 別の列名を使用してください。

ORA-13124 列 *string* の列 ID を判別できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13125 パーティション・キーは既に設定済みです。

原因: 空間表にはパーティション・キーがすでに設定されています。

処置: パーティション・キーは空間表ごとに 1 つのみ指定できます。

ORA-13126 空間表 *string* のクラスを判別できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13127 ターゲット・パーティションの生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13128 現行のタイル表示レベルはユーザー指定のタイル表示レベルを超えています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13129 HHCODE 列 *string* が見つかりません。

原因: 指定された空間列が存在しません。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを調べて、指定された列が空間列であることを確認してください。

ORA-13135 空間表を変更できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13136 NULL 共通コードが生成されました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13137 表領域順序番号を生成できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13138 オブジェクト *string* の名前を判別できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13139 *string* の列定義を取得できませんでした。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13140 無効なターゲット型です。

原因: 指定されたターゲット型が無効です。

処置: 有効なターゲット型に置き換えてください。有効なターゲット型は TABLE または VIEW です。

ORA-13141 無効な RANGE ウィンドウ定義です。

原因: 指定された RANGE ウィンドウが正しく定義されていません。

処置: RANGE ウィンドウは、1 組の値としてそれぞれの次元の下限と上限を指定して定義してください (例 :lower_bound1,upper_bound1,lower_bound2,upper_bound2,...)。値は偶数個にしてください。

ORA-13142 無効な PROXIMITY ウィンドウ定義です。

原因: 指定された PROXIMITY ウィンドウが正しく定義されていません。

処置: PROXIMITY ウィンドウは、中心点と半径を指定して定義してください。中心点は ND の値で定義してください。値は ND+1 個にしてください。

ORA-13143 無効な POLYGON ウィンドウ定義です。

原因: 指定された POLYGON ウィンドウが正しく定義されていません。

処置: POLYGON ウィンドウは、多角形の頂点を表す N 組の値を指定して定義してください。値は偶数個にしてください。

ORA-13144 ターゲット表 *string* が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13145 範囲リストの生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13146 表置換変数 *string* を検索できませんでした。

原因: パーティション名の置換変数 *string* が SQL フィルタで見つかりませんでした。

処置: パーティション名の位置を示すため、置換変数 *string* は SQL フィルタ内になければなりません。

ORA-13147 MBR の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13148 SQL フィルタの生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13149 空間表 *string* の次の順序番号の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: メッセージを記録してからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13150 例外レコードの挿入に失敗しました。

原因: 例外表へのレコードの挿入操作に失敗しました。

処置: 報告された他のエラーをすべて修正してください。

ORA-13151 例外レコードの削除に失敗しました。

原因: 例外表へのレコードの削除操作に失敗しました。

処置: 報告された他のエラーをすべて修正してください。

ORA-13152 無効な HHCODE 型です。

原因: 指定された HHCODE 型が無効です。

処置: 有効な HHCODE 型に置き換えてください。有効な HHCODE 型は POINT および LINE です。

ORA-13153 高水位標の指定が正しくありません。

原因: 高水位標は 0（ゼロ）以上でなければなりません。

処置: 高水位標が（0 ゼロ）以上の整数であることを確認してください。

ORA-13154 精度の指定が正しくありません。

原因: 指定された精度が範囲外です。

処置: 0（ゼロ）以上の整数でなければなりません。

ORA-13155 次元の数の指定が正しくありません。

原因: 指定された次元番号が範囲外です。

処置: 次元番号は 1 から 32 の間でなければなりません。

ORA-13156 登録する表 *string.string* が空ではありません。

原因: 指定された表に行があります。

処置: 登録する表が空であることを確認してください。

ORA-13157 Oracle エラー ORAstring が *string* 中に発生しました。

原因: 表示された Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを修正してください。

ORA-13158 Oracle オブジェクト *string* がありません。

原因: 指定されたオブジェクトは存在しません。

処置: 指定されたオブジェクトが存在していることを確認してください。

ORA-13159 Oracle 表 *string* はすでに存在しています。

原因: 指定された表はすでに存在しています。

処置: 指定された表を削除してください。

ORA-13181 列 *string_SDOINDEX.SDO_CODE* の長さを確認できません。

原因: *layer_SDOINDEX* 表の中の *SDO_CODE* 列の長さを確認できません。

処置: *layer_SDOINDEX* 表が *SDO_CODE* と一緒に存在することを確認してください。
適切な権限が表にあることを確認してください。再試行してください。

ORA-13182 要素 *string.string.string* の読み込みに失敗しました。

原因: 指定された要素が *layer_SDOGEOM* 表から読み込めません。

処置: 指定された要素が表の中に存在していることを確認してください。再試行してください。

ORA-13183 形状 *string.string* の図形型はサポートされていません。

原因: *layer_SDOGEOM* 表の中の形状タイプがサポートされていません。

処置: 形状タイプをサポートされているタイプに変更してください。

ORA-13184 細分パッケージの初期化に失敗しました。

原因: 細分パッケージの初期化に失敗しました。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13185 初期 HHCODE の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13186 固定タイル・サイズの細分に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13187 細分化に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13188 セルのデコードに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13189 再帰的な SQL 解析に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13190 再帰的な SQL フェッチに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13191 SDO_ORDCNT 値の読み込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13192 要素行の数の読み込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13193 形状に対する空白の割当てに失敗しました。

原因: メモリー不足のため、データベースから形状を読み込めません。

処置: 形状を確認してください。戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13194 スーパーセルのデコードに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13195 最大タイル値の生成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 戻されたエラー・メッセージを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13196 要素 *string.string.string* 用スーパーセルの計算に失敗しました。

原因: 最小枠 HHCODE または形状のスーパーセルの計算ができませんでした。

処置: 別のエラーがこのエラーに伴う場合があります。別のエラーを訂正してください。また、形状が正確かどうかを確認してください。

ORA-13197 要素 *string.string.string* は有効範囲外です。

原因: Tessellation はこの要素にタイルを生成しませんでした。このエラーは、形状定義によって、形状が *layer_SDODIM* 表で定義されたドメイン外になると発生することがあります。

処置: 形状が有効で、定義されたドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13198 Spatial Cartridge エラー: *string*

原因: Spatial Cartridge ストアド・プロシージャに内部エラーがありました。

処置: エラー・メッセージ・テキストに、エラーの原因が明確に特定されない場合は、このエラーに先行するプロシージャ・コールまたはイベントの順序を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13199 *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13200 空間索引付けで内部エラー [*string*] が発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13201 CREATE INDEX 文のパラメータが正しくありません。

原因: 空間 CREATE INDEX 文のパラメータ句を解析しようとしている時にエラーが発生しました。

処置: 空間索引作成に必要なパラメータの数値、構文および意味については、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13202 SDO_INDEX_METADATA 表の作成またはデータ挿入でエラーが発生しました。

原因: SDO_INDEX_METADATA 表を作成中、またはその表にデータを挿入中にエラーが発生しました。

処置: カレント・ユーザーに CREATE TABLE 権限があり、デフォルトまたは指定された表領域にそのユーザーの十分な割当て領域があることを確認してください。

ORA-13203 USER_SDO_GEOM_METADATA 表の読み込みに失敗しました。

原因: USER_SDO_GEOM_METADATA 表を読み込み中にエラーが発生しました。

処置: USER_SDO_GEOM_METADATA に現在の形状表の項目があることを確認してください。

ORA-13204 空間索引表の作成時にエラーが発生しました。

原因: 空間索引表の作成時にエラーが発生しました。

処置: ユーザーがカレント・スキーマに表作成の権限を持ち、デフォルトまたは指定された表領域にそのユーザーの十分な割当て領域があることを確認してください。

ORA-13205 空間索引パラメータの解析中に内部エラーが発生しました。

原因: 索引パラメータの解析中に内部エラーが発生しました。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13206 空間索引の作成中に内部エラー [string] が発生しました。

原因: 空間索引の作成中に内部エラーが発生しました。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13207 [string] 演算子の使用方法が正しくありません。

原因: 指定された演算子を評価中にエラーが発生しました。

処置: パラメータおよび指定された演算子の戻り型を確認してください。

ORA-13208 [string] 演算子の評価で内部エラーが発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13209 SDO_INDEX_METADATA 表の読み込み中、内部エラーが発生しました。

原因: SDO_INDEX_METADATA 表を読み込み中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。このエラーおよび伴うエラー番号を記録してください。

ORA-13210 索引表にデータを挿入中、エラーが発生しました。

原因: 空間索引表にデータを挿入中にエラーが発生しました。考えられる原因は次のとおりです。

- 現在の表領域に十分な割当てがない。
- ユーザーに適切な権限がない。

処置: これに伴うエラー・メッセージを確認してください。

ORA-13211 ウィンドウ・オブジェクトの四本木分割時にエラーが発生しました。

原因: ウィンドウ・オブジェクトの四本木分割時に内部エラーが発生しました。

処置: VALIDATE_GEOMETRY プロシーダを使用して、ウィンドウ・オブジェクトの形状整合性を確認してください。

ORA-13212 四角形とウィンドウ・オブジェクトを比較できません。

原因: 生成された四角形と指定されたウィンドウ・オブジェクト間の空間的な関係が決定できません。

処置: これは内部エラーです。VALIDATE_GEOMETRY プロシーダを使用して形状を確認してください。プロシーダがエラーを戻さない場合、これに伴うエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13213 ウィンドウ・オブジェクトに空間索引を生成できません。

原因: このエラーとともに、この問題の本当の原因を示す別のエラーが表示されるはずです。

処置: これらのエラーを修正してください。別のエラーが表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13214 ウィンドウ・オブジェクトの supercell を計算できません。

原因: 最小枠タイル、または形状のスーパーセルの計算ができませんでした。

処置: 別のエラーがこのエラーに伴う場合があります。別のエラーを訂正してください。また、形状が正確かどうかを確認してください。

ORA-13215 ウィンドウ・オブジェクトが範囲外です。

原因：四本木分割によってこの形状にはタイルが生成されませんでした。このエラーは、形状定義によって、形状が SDO_GEOM_METADATA 表で定義されたドメイン外になると発生することがあります。

処置：形状が有効で、定義されたドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13216 空間索引を更新できません。

原因：問題を示す別のエラーがこのメッセージに付随しています。

処置：これらのエラーを修正してください。別のエラーが表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13217 ALTER INDEX 文のパラメータが正しくありません。

原因：空間 ALTER INDEX 文のパラメータ句を解析しようとしている時にエラーが発生しました。

処置：空間 ALTER INDEX コマンドの必要なパラメータの数値、構文および意味については、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13218 [string] 索引がサポートされる索引表の最大数に達しました。

原因：既存の空間索引表がすでに最大数に達したときに、ADD_INDEX パラメータが ALTER INDEX に渡されました。

処置：空間索引表の 1 つを削除してから、別の空間索引表を追加してください。

ORA-13219 空間索引表 [string] の作成に失敗しました。

原因：空間索引表の作成時にエラーが発生しました。

処置：索引のスキーマに指定された名前の表があります。索引作成はこの名前で空間索引表を作成しようとします。この表の名前を変えるか、または索引の名前を変えてください。

ORA-13220 四角形と形状を比較できません。

原因：生成された四角形と指定された形状間の空間的な関係が決定できません。

処置：これは内部エラーです。VALIDATE_GEOMETRY プロシージャを使用して形状を確認してください。プロシージャがエラーを戻さない場合、ORA-13220 に伴うエラーを記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13221 形状オブジェクトの形状型の値が正しくありません。

原因：形状オブジェクトの SDO_GTYPE 属性に無効な値があります。

処置：サポートされている SDO_GTYPE 値の 1 つを使用して、形状表に形状タイプを再定義してください。SDO_GTYPE および使用可能な値の説明は、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13222 *string* の形状の supercell を計算できません。

原因: 最小枠タイルまたは形状のスーパーセルの計算ができませんでした。

処置: 別のエラーがこのエラーに伴う場合があります。別のエラーを訂正してください。また、形状が正確かどうかを確認してください。

ORA-13223 SDO_GEOM_METADATA 表の *string* に対するエントリが重複しています。

原因: SDO_GEOM_METADATA 表内の指定された表および列値の組合せに、エントリが重複しています。

処置: 指定された表および形状列の名前が正しいことを確認してください。エントリは、表および形状列の組合せあたり 1 つのみです。

ORA-13224 指定した索引名は空間索引に対して長すぎます。

原因: 指定された索引名が、空間索引名でサポートされている長さより長くなりました。

処置: 索引名でサポートされている長さを確認し、索引名の長さを短くしてください。

ORA-13225 指定した索引表名は空間索引に対して長すぎます。

原因: 指定された空間索引表名が、サポートされている長さより長くなりました。

処置: 空間索引表名でサポートされている長さを確認し、索引表名の長さを短くしてください。

ORA-13226 空間索引がないとインタフェースはサポートされません。

原因: 形状表に空間索引がありません。

処置: 空間演算子で参照されている形状表に空間索引があることを確認してください。

ORA-13227 2 つの索引表の SDO_LEVEL 値が一致しません。

原因: 空間結合演算子で使用されている 2 つの空間索引表の SDO_LEVEL 値が一致しません。

処置: 2 つの互換性のある索引が、空間結合演算子で使用されていることを確認してください。索引に同じ SDO_LEVEL および SDO_NUMTILES 値がある場合、索引には互換性があります。

ORA-13228 型が無効なため、空間索引の作成に失敗しました。

原因: SDO_GEOMETRY ではない型の列に、空間索引を作成しようとしてしました。

処置: 空間索引が SDO_GEOMETRY 型の列に作成されることを確認してください。

ORA-13230 R ツリーの作成で、一時表 [*string*] の作成に失敗しました。

原因: 指定された一時表はすでに存在するか、または十分な表領域がありません。

処置: 一時表がすでに存在する場合は削除してください。カレント・ユーザーが CREATE TABLE 権限を持っていて、デフォルトまたは指定された表領域に十分な領域があることを確認してください。

ORA-13231 R ツリーの作成で、索引表 [string] の作成に失敗しました。

原因: 指定された索引表はすでに存在するか、または十分な表領域がありません。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

処置: 索引表がすでに存在する場合は削除してください。カレント・ユーザーが CREATE TABLE 権限を持っていて、デフォルトまたは指定された表領域に十分な領域があることを確認してください。

ORA-13232 R ツリーの作成で、メモリーの割当てに失敗しました。

原因: この機能には、バルク作成のために最小でも 64KB のメモリーが必要です。

処置: データの小さいサブセットの索引を作成してください。その後で、残りのデータにトランザクション挿入を使用します。

ORA-13233 R ツリーに対する順序番号 [string] の作成に失敗しました。

原因: 指定された順序番号は存在します。

処置: 順序オブジェクトを削除するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13234 R ツリー索引表 [string] のアクセスに失敗しました。

原因: 索引表は削除されたか破損しています。

処置: 索引を再構築するか、またはこれに伴うエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13236 R ツリーの処理で内部エラーが発生しました : [string]

原因: R ツリーの処理で内部エラーが発生しました。

処置: メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13237 R ツリーの同時更新で内部エラーが発生しました : [string]

原因: シリアライズ可能な分離レベルを使用したために、同時更新中に非一貫性が発生した可能性があります。

処置: ALTER SESSION を使用して分離レベルを READ COMMITTED に変更するか、メッセージ・テキストを確認してオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13239 n-d R ツリーの作成で、sdo_dimensionality が未指定です。

原因: ディメンション・パラメータの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: ドキュメントで有効な範囲を調べて、ディメンションをパラメータとして指定してください。

ORA-13240 問合せメンバーのディメンションより大きいディメンションが指定されました。

原因: 問合せメンバーの値が少なすぎるため、エラーが発生しました。

処置: ディメンションを指定しないか、問合せのディメンションを使用してください。

ORA-13241 データのディメンションに一致しないディメンションが指定されました。

原因: CREATE INDEX に指定されたディメンションが、データのディメンションと一致していないため、エラーが発生しました。

処置: そのディメンションをデータのディメンションに変更してください。

ORA-13242 n-d R ツリーの許容値の読み込みに失敗しました。

原因: USER_SDO_GEOM_METADATA 表に指定された表および列の情報の読み込みで、エラーが発生しました。

処置: 許容値を指定する適切な行を挿入してください。

ORA-13243 指定した演算子は n-d R ツリーに使用できません: [string]

原因: 現在、n-d R ツリーは SDO_FILTER 演算子のみをサポートしています。

処置: ドキュメントで SDO_FILTER の問合せ型パラメータについて調べるか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13249 string

原因: 拡張可能な空間索引のコンポーネントで内部エラーが発生しました。このメッセージのテキストは、他のサーバー・コンポーネントから取得されました。

処置: 正確なエラー・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13250 権限が不十分であるため、メタデータ表のエントリは変更できません。

原因: この操作を要求したユーザーに、参照された表に関する適切な権限がありませんでした。

処置: 指定された機能および形状表の名前が正しいことを確認し、カレント・ユーザーが少なくともこれらの表の SELECT 権限を持っていることを確認してください。

ORA-13251 メタデータ表のエントリ string が重複しています。

原因: 指定されたエントリがすでにメタデータ表に存在します。

処置: 指定された機能および形状表の名前が正しいことを確認してください。機能と形状表の対応付けは 1 回のみ登録されます。

ORA-13260 レイヤー表 string が存在しません。

原因: データ移行ソース表 layer_SDOGEOM が存在しません。

処置: 指定されたレイヤー名が正しく、対応する空間レイヤー表がカレント・スキーマに存在することを確認してください。

ORA-13261 形状表 *string* が存在しません。

原因: 指定された形状表がカレント・スキーマに存在しません。

処置: GID 値の SDO_GEOMETRY 型の列および NUMBER 型の列を持つ表を作成してください。

ORA-13262 形状列 *string* が表 *string* にありません。

原因: 指定された表に SDO_GEOMETRY 型の列がありません。

処置: 表を変更または再作成して、SDO_GEOMETRY 型の列および NUMBER 型の列が含まれるようにしてください。

ORA-13263 列 *string* (表 *string*) は SDO_GEOMETRY 型ではありません

原因: 形状を格納しようとした列は SDO_GEOMETRY 型ではありません。

処置: 列定義を変更して SDO_GEOMETRY 型にしてください。

ORA-13264 形状識別子列 *string* が表 *string* にありません。

原因: 指定された表に GID 列がありません。

処置: GID 列の名前が正しく指定され、指定された表に存在することを確認してください。

ORA-13265 形状識別子列 *string* (表 *string*) は NUMBER 型ではありません。

原因: GID 列は NUMBER 型ではありません。

処置: 表定義を変更して、形状識別子列 (GID) を含む列を NUMBER 型にしてください。

ORA-13266 表 *string* へのデータ挿入時にエラーが発生しました。

原因: OCI エラーが発生したか、現行の表領域でユーザーに十分な割当てがなかったか、またはロールバック・セグメントが小さすぎました。

処置: 問題の原因を示すその他のエラーメッセージがあるはずです。適切な処置を行って示された問題を訂正してください。

ORA-13267 レイヤー表 *string* のデータ読み込み時にエラーが発生しました。

原因: layer_SDOLAYER 表から形状データを読み込む時にエラーが発生しました。

処置: layer_SDOGEOM および layer_SDODIM が存在することを確認してください。存在していたら、指定されたレイヤーに VALIDATE_GEOMETRY を実行してください。

ORA-13268 user_SDO_GEOM_METADATAからのディメンションの取得でエラーが発生しました。

原因: 指定された形状表の SDO_GEOM_METADATA にエントリがありませんでした。

処置: 表 SDO_GEOM_METADATA が存在することを確認してください。存在する場合は、ソースの layer_SDODIM から取得されたディメンション情報と共に、宛先の形状表のエントリを挿入してください。

ORA-13269 形状表の処理時に内部エラー [string] が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13270 OCI エラーです。string

原因: レイヤーまたは形状表の処理中の OCI エラーです。

処置: 適切な対処手順によって、OCI 固有のエラーを修正してください。

ORA-13271 形状オブジェクトのメモリー割当て時にエラーが発生しました。

原因: 形状オブジェクトが使用できるメモリーが不足しています。

処置: カレント・セッション / プロセスが使用できるメモリーを増やしてください。

ORA-13272 形状オブジェクト string (表: string) が正しくありません。

原因: 指定されたオブジェクトが、VALIDATE_GEOMETRY が実行する形状整合性チェックに失敗しました。

処置: VALIDATE_GEOMETRY が実行する形状整合性チェックの情報については、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照し、必要に応じて形状定義を修正してください。

ORA-13273 ディメンション・メタデータ表 string が存在しません。

原因: layer_SDODIM 表が存在しません。

処置: 指定されたレイヤー名が正しく、カレント・スキーマに layer_SDODIM が存在することを確認してください。

ORA-13276 調整変換で内部エラー [string] が発生しました。

原因: OCI 内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13278 SRID のシステム固有の形式への変換に失敗しました。

原因: OCI 内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13281 WKT を取り出す SQL 文の実行に失敗しました。

原因: OCI 内部エラーか、または SRID が表エントリと一致していません。

処置: 有効な SRID が使用されていることを確認してください。

ORA-13282 調整変換の初期化に失敗しました。

原因: ソース、宛先座標システム WKT、または非互換座標システムの解析エラーです。

処置: WKT の表エントリに対する妥当性、および要求された変換の正当性を確認してください。

ORA-13283 格納するための変換で新規形状オブジェクトの取得に失敗しました。

原因: OCI 内部エラーです。

ORA-13284 格納するための変換で形状オブジェクトのコピーに失敗しました。

原因: OCI 内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13285 形状の調整変換でエラーが発生しました。

原因: 座標の組合せが変換 / 投影の有効範囲外です。

処置: 変換されるデータが、必要な変換 / 投影と一貫性があることを確認してください。

ORA-13287 不明な形状タイプは変換できません。

原因: 形状タイプ 0 以下の形状が変換対象に指定されました。1 以上の形状タイプのみ許可されます。

ORA-13288 点の調整変換でエラーが発生しました。

原因: 点の変換中に内部エラーが発生しました。

処置: これに伴うエラー・メッセージを確認してください。

ORA-13294 循環円弧を含む形状は変換できません。

原因: 歪みのない円弧の 3 点表現の変換は不可能です。

処置: 形状に円弧が含まれていないことを確認してください。

ORA-13300 単一の点の変換でエラーが発生しました。

原因: 低レベル座標変換エラー・トラップです。

処置: これに伴うエラー・メッセージを確認してください。

ORA-13303 表からの形状オブジェクトの取出しに失敗しました。

原因: OCI 内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13304 変換済み形状オブジェクトの表への挿入に失敗しました。

原因: OCI 内部エラーです。

処置: 正確なエラー・メッセージ・テキストを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13330 MASK が無効です。

原因: RELATE 関数に渡した MASK が無効です。

処置: MASK が NULL でないことを確認してください。サポートされている MASK のリストは、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13340 点形状の座標が複数定義されています。

原因: 点として指定された形状に座標が複数定義されています。

処置: 点の座標は 1 つのみです。この形状が点の集合、線または多角形を表す場合は、適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 値を設定してください。1 点のオブジェクトの場合は、関係のない座標を定義から削除してください。

ORA-13341 線形状の座標は最低 2 つ定義してください。

原因: 線として指定された形状に座標が 1 つしか定義されていません。

処置: 線は 2 つ以上の異なる座標で構成してください。形状定義を修正するか、この形状に適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13342 円弧形状の座標は最低 3 つ定義してください。

原因: 円弧として指定された形状に座標が 2 つ以下しか定義されていません。

処置: 円弧は 3 つ以上の異なる座標で構成してください。形状定義を修正するか、この形状に適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13343 ポリゴン形状の座標は最低 4 つ定義してください。

原因: ポリゴンとして指定された形状に座標が 3 つ以下しか定義されていません。

処置: ポリゴンは 4 つ以上の異なる座標で構成してください。形状定義を修正するか、この形状に適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13344 円弧ポリゴン形状の座標は、最低 5 つ定義してください。

原因: 円弧ポリゴンとして指定された形状に座標が 4 つ以下しか定義されていません。

処置: 円弧ポリゴンは 5 つ以上の異なる座標で構成してください。円弧ポリゴンは順序づけられた円弧の連続で構成され、各円弧は 3 つの座標を使用して表示してください。円弧は連続しているので、最初の円弧の終点は次の円弧の始点になり、繰り返す必要はありません。形状イメージ定義を修正するか、この形状イメージに適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13345 コンパウンド・ポリゴン形状の座標が5個未満です。

原因: コンパウンド・ポリゴンとして指定された形状に座標が5つ未満しか定義されていません。

処置: コンパウンド・ポリゴンは5つ以上の異なる座標で構成してください。コンパウンド・ポリゴンは少なくとも1つの円弧と1つの線で構成されます。各円弧は少なくとも3つの異なる座標、各線は少なくとも2つの異なる座標を使用して表示してください。形状定義を修正するか、この形状に適切な SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性を設定してください。

ORA-13346 円弧を定義する座標が同一線上にあります。

原因: 円弧の定義が無効です。円弧は同一直線上にない3つの座標を使用して定義されます。

処置: 定義または円弧を変更するか、SDO_ETYPE または SDO_GTYPE を線型に設定してください。

ORA-13347 円弧を定義する座標の中に同じ座標があります。

原因: 円弧を定義する3点の座標のうち、2点以上の座標が同じです。

処置: 円弧の定義を変更し、異なる3つの座標が使用されるようにしてください。

ORA-13348 ポリゴンの境界が閉じられていません。

原因: ポリゴンの境界が閉じられていません。

処置: 座標または形状の SDO_GTYPE または SDO_ETYPE 属性の定義を変更してください。

ORA-13349 ポリゴンの境界が自己交差しています。

原因: ポリゴンの境界自体が交差しています。

処置: オブジェクトの形状定義を修正してください。

ORA-13350 複合ポリゴンの輪に接点があります。

原因: 複合ポリゴンの内部または外部の輪に接点があります。

処置: 複合ポリゴンの輪に接点があってはなりません。オブジェクトの形状の記述を修正してください。

ORA-13351 複合ポリゴンの輪が重なっています。

原因: 複合ポリゴンの内部または外部の輪が重なっています。

処置: 複合ポリゴンの輪に接点があってはなりません。オブジェクトの形状の記述を修正してください。

ORA-13352 この座標で円を描くことはできません。

原因: 円を描く座標集合が正しくありません。

処置: 座標集合が実際に円周上の点を表していることを確認してください。

ORA-13353 ELEM_INFO_ARRAY が 3 つにグループ化されていません。

原因: SDO_GEOMETRY の ELEM_INFO_ARRAY に、必要とされているより多いまたは少ない要素があります。

処置: ELEM_INFO_ARRAY の要素の数が 3 で割り切れることを確認してください。

ORA-13354 ELEM_INFO_ARRAY に不正なオフセットがあります。

原因: SDO_GEOMETRY の ELEM_INFO_ARRAY にあるオフセット・フィールドが、SDO_ORDINATE_ARRAY にある無効な配列添字を参照しています。

処置: オフセットが SDO_ORDINATE_ARRAY にある有効な配列添字であることを確認してください。

ORA-13355 SDO_ORDINATE_ARRAY が、指定されたディメンション数でグループ化されていません。

原因: SDO_ORDINATE_ARRAY の要素数が、ユーザーが提供するディメンション数の倍数になっていません。

処置: ディメンション数が SDO_ORDINATE_ARRAY のデータ表現と一貫性があることを確認してください。

ORA-13356 座標内の隣接点が冗長です。

原因: 連続した座標に重複した点があります。

処置: 重複した点を削除してください。

ORA-13357 エクステント型に点が 2 つありません。

原因: エクステント型は点 2 つ（左下および右上）で表現されます。

処置: エクステント型には点が 2 つのみあることを確認してください。

ORA-13358 円型に点が 3 つありません。

原因: 円形は円周上の異なる 3 点で表現されます。

処置: 円型には点が 3 つのみあることを確認してください。

ORA-13359 エクステントに領域がありません。

原因: エクステントを表現している 2 点が同一です。

処置: エクステント型を記述している 2 点が異なっていることを確認してください。

ORA-13360 コンパウンド型に無効なサブタイプがあります。

原因: このサブタイプは指定された ETYPE 内では許可されていません。

処置: タイプの定義については、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13361 コンパウンド ETYPE に十分なサブエレメントがありません。

原因: コンパウンド型が、実際に定義されているよりも多いサブエレメントを宣言しました。

処置: サブエレメント数がコンパウンド型の宣言と一貫していることを確認してください。

ORA-13362 コンパウンド・ポリゴンのサブエレメントを切り離してください。

原因: コンパウンド・ポリゴンは閉じた領域を記述する必要があります。

処置: すべてのサブエレメントが接続されていることを確認してください。

ORA-13363 座標に有効な ETYPE がありません。

原因: 形状の ETYPE はどれもサポートされていません。

処置: 有効な ETYPE が少なくとも 1 つあることを確認してください。

ORA-13400 Oracle GeoImage 内部エラー , 引数: [string], [string], [string], [string], [string]

原因: これは Oracle GeoImage の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-13401 サポートされない形状イメージ形式です。

原因: この形状イメージ形式はサポートされていません。

処置: 形状イメージ形式が有効で、サポートされていることを確認してください。

ORA-13402 宛先が NULL です。

原因: 宛先に指定したオブジェクトが NULL です。

処置: 宛先に指定したオブジェクトが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13403 ソース形状が NULL です。

原因: ソース形状イメージが NULL 形状です。

処置: ソース形状イメージの形状が NULL ではないことを確認してください。

ORA-13404 ローカル・ソースではありません。

原因: データベースに格納されていない形状イメージを変更しようとしてしました。

処置: 変更するには、形状イメージをインポートしてください。

ORA-13405 ソースが NULL です。

原因: ソースに指定したオブジェクトが NULL です。

処置: ソースに指定したオブジェクトが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13406 サポートされないイメージ処理コマンド [*string*] です。

原因: 指定されたイメージ処理コマンドは、形状イメージではサポートされていません。

処置: Oracle GeoImage メソッドでサポートされたイメージ処理コマンドについては、Oracle *interMedia* のマニュアルを参照してください。

ORA-13407 認識できない領域型の修飾子 [*string*] です。

原因: 形状イメージ領域型の修飾子が無効です。

処置: 有効な領域型の修飾子（RASTER または MODEL）を使用してください。

ORA-13408 表名が NULL です。

原因: 表名パラメータが NULL です。

処置: 表名に使用されたパラメータが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13409 Oracle 表 *string* は存在しません。

原因: 指定した表が存在しません。

処置: 表名が有効で、表が存在していることを確認してください。

ORA-13410 列名が NULL です。

原因: 列名パラメータが NULL です。

処置: 列名に使用されたパラメータが NULL ではないことを確認してください。

ORA-13411 Oracle 列 *string* は存在しません。

原因: 指定した列が存在しません。

処置: 列名が有効で、列が存在していることを確認してください。

ORA-13412 ROWID が無効です。

原因: ROWID の値が有効ではありません。

処置: ROWID の値が有効であることを確認してください。

ORA-13413 初期化する形状イメージを選択できません。

原因: 表の形状イメージが選択できません。

処置: 形状イメージが表に存在していて、提供されたパラメータが有効であることを確認してください。

ORA-13414 形状イメージを含んだ表を更新できません。

原因: 形状イメージを含んだ表を更新できません。

処置: 表が存在し、有効であることを確認してください。

ORA-13415 無効なドメインです。

原因: 使用された SDO_DIMINFO の値が有効でないか、提供された SDO_GEOMETRY がドメインに定義されていません。

処置: SDO_DIMINFO の値が有効で、指定されたドメインの中に SDO_GEOMETRY が定義されていることを確認してください。

DRG-13416 無効な形状, 引数 [string]

原因: 使用された SDO_GEOMETRY の値が有効ではありません。

処置: SDO_GEOMETRY の値が有効であることを確認してください。有効な形状のリストは、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13417 モデル領域変換へのラスタが未定義です。

原因: 形状イメージに対応するモデル領域変換へのラスタが未定義です。

処置: 形状イメージ形式が有効で、この形式用にサポートされた操作であることを確認してください。

ORA-13418 ラスタ領域変換へのモデルが未定義です。

原因: 形状イメージに対応するラスタ領域変換へのモデルが未定義です。

処置: 形状イメージ形式が有効で、この形式用にサポートされた操作であることを確認してください。

ORA-13419 無効な緯度値です。

原因: 有効な範囲 (-90 ~ 90) 外の緯度値が使用されました。

処置: 形状イメージの形状定義がドメインの中にあることを確認してください。

ORA-13420 ラスタ領域変換へのモデルが無効です。

原因: 形状イメージに対応するラスタ領域変換へのモデルが有効でないか、計算に失敗しました。

処置: 変換がサポートされていて、形状イメージ形式が有効であることを確認してください。

ORA-13421 モデル領域変換へのラスタが無効です。

原因: 形状イメージに対応するモデル領域変換へのラスタが有効でないか、計算に失敗しました。

処置: 変換がサポートされていて、形状イメージ形式が有効であることを確認してください。

ORA-13422 ソースが初期化されていません。

原因: ソースに使用されている LOB が初期化されていません。

処置: ソースが正しく初期化されていることを確認してください。

ORA-13423 ソースが空です。

原因：ソースに使用されている LOB が空です。

処置：ソースが正しく初期化されていて、データがインポートされていることを確認してください。

ORA-13424 宛先が初期化されていません。

原因：宛先に使用されている LOB が初期化されていません。

処置：宛先が正しく初期化されていることを確認してください。

ORA-13425 宛先が空です。

原因：宛先に使用されている LOB が空です。

処置：宛先が正しく初期化されていて、データがインポートされていることを確認してください。

ORA-13426 サポートされないラスト始点です。

原因：指定されたラスト始点はサポートされていません。

処置：指定された始点がサポートされていることを確認してください。

ORA-13427 ラスタ始点が不明です。

原因：ラスタ始点に指定された値が有効ではありません。

処置：ラスタ始点を指定した値が有効で、サポートされていることを確認してください。

ORA-13428 ソースがありません。

原因：ソースが存在しないか、アクセスできません。

処置：ソース仕様が正しく、アクセス可能であることを確認してください。

ORA-13429 操作 *string* は形状イメージ型 *string* ではサポートされていません。

原因：指定された操作はこの形状イメージ型ではサポートされていません。

処置：操作がサポートされていることを確認してください。

ORA-13430 モデル調整システムはサポートされていません。

原因：調整システムの定義に指定されたモデルはサポートされていません。

処置：モデルの値が正しいことを確認してください。

ORA-13433 クロップ形状が NULL です。

原因：形状イメージのクロップに使用された形状が NULL です。

処置：クロップ操作に使用された形状が NULL ではないことを確認してください。

ORA-13442 無効なスケール・パラメータ [*string string*] です。

原因：スケール操作に使用されたパラメータが有効ではありません。

処置: スケールのパラメータが 1 以上であることを確認してください。

ORA-13443 認識できないスケール・モデル [string] です。

原因: スケール操作に使用されたスケール・モードが有効ではありません。

処置: 有効なスケール・モード修飾子のリストは、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

ORA-13451 サポートされない変換形式 [string] です。

原因: 変換に指定された形式が有効でないか、サポートされていません。

処置: 変換形式が有効であることを確認してください。

ORA-13461 無効なタグ / キー [string] です。

原因: タグまたはキーが有効ではありません。

処置: 形式バージョンがサポートされていて、形式が有効であることを確認してください。

ORA-13462 無効なタイ・ポイントです。

原因: いずれかのタイ・ポイントが有効ではありません。

処置: 使用されたタイ・ポイントが有効であることを確認してください（たとえば、すべてのラスタ・タイ・ポイント ≥ 0 など）。

ORA-13463 サポートされていない GeoTIFF 形状の定義です。

原因: 形状イメージの形状フットプリントの定義に使用されたキー / タグの組み合わせはサポートされていません。

処置: GeoTIFF 形式バージョンがサポートされていて、形式が有効であることを確認してください。

ORA-13464 サポートされていない変換です。

原因: 変換に指定された形式がサポートされていません。GeoTIFF では、限られた数のタグ / キー組み合わせのみが変換用にサポートされています。

処置: GeoTIFF 形式バージョンがサポートされていて、指定した形式への変換が可能であることを確認してください。

ORA-14000 LOCAL 句は 1 つだけしか指定できません。

原因: 2 つ以上の LOCAL 句が CREATE INDEX 文に含まれています。

処置: LOCAL オプションは 1 度のみ指定してください。

ORA-14001 LOCAL 句は前に指定した GLOBAL 句と矛盾します。

原因: GLOBAL 句と LOCAL 句を含んだ CREATE INDEX 文が発行されました。

処置: LOCAL 句および GLOBAL 句の両方を 1 度に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

ORA-14002 GLOBAL 句は1つだけしか指定できません。

原因: 2つ以上の GLOBAL 句が CREATE INDEX 文に含まれています。

処置: GLOBAL オプションは1度のみ指定してください。

ORA-14003 GLOBAL 句は前に指定した LOCAL 句と矛盾します。

原因: LOCAL 句と GLOBAL 句を含んだ CREATE INDEX 文が発行されました。

処置: GLOBAL 句および LOCAL 句の両方を1度に指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

ORA-14004 PARTITION キーワードがありません。

原因: キーワード PARTITION がありません。

処置: 不足しているキーワードを提供してください。

ORA-14005 RANGE キーワードがありません。

原因: キーワード RANGE がありません。

処置: 不足しているキーワードを提供してください。

ORA-14006 パーティション名が無効です。

原因: 期待された書式 *identifier* のパーティション名が存在しません。

処置: 正しいパーティション名を指定してください。

ORA-14007 LESS キーワードがありません。

原因: キーワード LESS がありません。

処置: 不足しているキーワードを提供してください。

ORA-14008 THAN キーワードがありません。

原因: キーワード THAN がありません。

処置: 不足しているキーワードを提供してください。

ORA-14009 パーティション・バウンドは LOCAL 索引パーティションに指定できません。

原因: LOCAL パーティション索引を作成するために CREATE INDEX 文を解析しているときに、パーティションの中の *partition_description* に VALUES LESS THAN 句がありました。LOCAL 索引はパーティション・バウンドをベース表から継承するため、VALUES LESS THAN 句は不正です。

処置: LOCAL 索引パーティションの記述から VALUES LESS THAN 句をすべて削除してください。

ORA-14010 この物理属性は索引パーティションに指定できません。

原因: 索引パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。レンジ・パーティションまたはコンポジット・レンジ・パーティションに対する

有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE です。ハッシュ・パーティションには TABLESPACE のみ指定できます。

処置: 索引パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14011 結果のパーティションに割り当てる名前は固有でなければなりません。

原因: 既存の表または索引パーティションを分割から生じたパーティションの名前が固有ではありません。

処置: 結果パーティションの名前を変更してください。結果パーティションの名前は、他のすべての表または索引のパーティション名と異なった、固有の名前にしてください。

ORA-14012 結果のパーティション名が既存のパーティション名と同じです。

原因: 既存の表または索引パーティションの分割から生じたパーティション名と、他の表または索引の既存パーティション名が同じです。

処置: 結果パーティションの名前を変更してください。結果パーティションの名前は、他のすべての表または索引のパーティション名と異なった、固有の名前にしてください。

ORA-14013 パーティション名が重複しています。

原因: 作成中の表または索引のパーティション名が一意ではありません。

処置: パーティションの名前を変更してください。パーティションの名前は、作成中の表または索引のパーティションの中で一意の名前にしてください。

ORA-14014 パーティション化列の最大数は 16 です。

原因: パーティション化列リストの中の列数が、許可された最大値 16 を超えています。

処置: 16 列を超えないように、パーティション化列リストを修正してください。

ORA-14015 パーティションの記述が多すぎます。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX のパーティション記述が多すぎます。最大パーティション数は 65535 です。

処置: 65535 を超えないようにパーティション数を減らしてください。

ORA-14016 LOCAL パーティション化索引の基礎表はパーティション化されていなければなりません。

原因: 非パーティション化表に対して LOCAL パーティション化索引を作成しようとしてしました。これは許可されていません。非パーティション化表を基礎にして作成できるのは、GLOBAL 索引（パーティション化およびそれ以外）のみです。

処置: 文を修正し、その文を再実行してください。

ORA-14017 パーティション・バウンド・リストの要素が多すぎます。

原因: パーティション・バウンド・リストの要素数が、パーティション化列数よりも多くなっています。

処置: パーティション・バウンド・リストの要素数が、表または索引のパーティション化列数と等しいことを確認してください。

ORA-14018 パーティション・バウンド・リストの要素が少なすぎます。

原因: パーティション・バウンド・リストの要素数が、パーティション化列数よりも少なくなっています。

処置: パーティション・バウンド・リストの要素数が、表または索引のパーティション化列数と等しいことを確認してください。

ORA-14019 パーティション・バウンドの要素は、文字列、日付時刻または間隔を示すリテラル、数値、または MAXVALUE の 1 つです。

原因: パーティション・バウンド・リストに無効なデータ型（番号、空でない文字列リテラル、日付時刻リテラル、間隔リテラル、MAXVALUE 以外）の要素が含まれています。

処置: パーティション・バウンド・リストの全要素が有効なデータ型であることを確認してください。

ORA-14020 この物理属性は表のパーティションに指定できません。

原因: 表パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。レンジ・パーティションまたはコンポジット・レンジ・パーティションに対する有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE、および PCTUSED です。ハッシュ・パーティションには TABLESPACE のみ指定できます。

処置: 表パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14021 MAXVALUE はすべての列に指定しなければなりません。

原因: GLOBAL 索引の最大（最後の）パーティションの VALUES LESS THAN 句で、MAXVALUE がすべての列に指定されなければなりません。

処置: GLOBAL 索引の最後のパーティション用の VALUES LESS THAN 句で、MAXVALUE をすべての列に対して指定してください。

ORA-14022 LOCAL パーティション化クラスタ索引の作成はサポートされていません。

原因: LOCAL パーティション化クラスタ索引を作成しようとしたますが、現在ではこの索引の作成は許可されていません。

処置: LOCAL および *partition_description*（存在する場合）を CREATE INDEX 文から削除してください。

ORA-14023 GLOBAL パーティション化クラスタ索引の作成はサポートされていません。

原因：GLOBAL パーティション化クラスタ索引を作成しようとしたが、現在ではこの索引の作成は許可されていません。

処置：PARTITION BY RANGE 句および *partition_description* を CREATE INDEX 文から削除してください。

ORA-14024 LOCAL 索引のパーティション数は基礎表のものと同じでなければなりません。

原因：作成しようとした LOCAL パーティション化索引のパーティション数が、基礎表のものと異なります。

処置：CREATE INDEX 文を修正し、正しいパーティション数を指定してください。

ORA-14025 PARTITION はスナップショットまたはスナップショット・ログに指定できません。

原因：スナップショットまたはスナップショット・ログ定義の解析時に、PARTITION オプションが検出されました。

処置：SNAPSHOT の定義に無効なオプションがないことを確認してください。

ORA-14026 PARTITION 句と CLUSTER 句が両方含まれています。

原因：表定義に PARTITION 句と CLUSTER 句の両方を定義することは許可されません。

処置：どちらか 1 つを削除してください。

ORA-14027 PARTITION 句は 1 つだけしか指定できません。

原因：2 つ以上の PARTITION 句が CREATE TABLE 文に含まれています。

処置：PARTITION オプションは 1 度のみ指定してください。

ORA-14028 AT キーワードがありません。

原因：AT キーワードがありません。

処置：不足しているキーワードを提供してください。

ORA-14029 GLOBAL パーティション索引の場合は同一キー索引でなければなりません。

原因：グローバル・パーティション索引のパーティション化列に、索引のキー列の接頭辞が含まれていません。

処置：作成中の GLOBAL パーティション索引に接頭辞があることを確認してから、操作を再試行してください。

ORA-14030 CREATE TABLE 文にパーティション列がありません。

原因：CREATE TABLE 文に指定されたパーティション列は、作成中の表のものではありません。

処置：パーティション列リストのすべての列が、現在作成している表の列であることを確認してください。

ORA-14031 パーティション列は LONG または LONG RAW 型にできません。

原因：ユーザーが指定したパーティション列が LONG または LONG RAW 型ですが、これは許可されていません。

処置：LONG または LONG RAW 型のパーティション列がないことを確認してください。

ORA-14032 パーティション番号 *string* のパーティション・バウンドが高すぎます。

原因：このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、上位バウンドが次のパーティションよりも高くなっています。これは許可されません。

処置：パーティション（ただし、最後のパーティションを除く）の上位バウンドが、次のパーティションの上位バウンドよりも低いことを確認してください。

ORA-14036 列に対するパーティション・バウンドが大きすぎます。

原因：パーティション・バウンド値が、対応するパーティション列よりも長くなっています。

処置：上位バウンド値の長さが、対応するパーティション列の長さを超えていないことを確認してください。

ORA-14037 パーティション *string* のパーティション・バウンドが高すぎます。

原因：このメッセージに表示された名前（ユーザーによって明示的に指定された名前）のパーティションでは、上位バウンドが次のパーティションよりも高くなっています。これは許可されません。

処置：パーティション（ただし、最後のパーティションを除く）の上位バウンドが、次のパーティションの上位バウンドよりも低いことを確認してください。

ORA-14038 GLOBAL パーティション索引の場合は同一キー索引でなければなりません。

原因：接頭辞がない GLOBAL パーティション索引を作成しようとしたますが、これは許可されません。

処置：接頭辞のない索引を作成する場合は、LOCAL として作成してください。そうでない場合は、キーまたはパーティション列（あるいはその両方）のリストを訂正し、索引に接頭辞を付けてください。再試行してください。

ORA-14039 パーティション列には UNIQUE 索引のキー列のサブセットを形成しなければなりません。

原因：作成しようとした UNIQUE パーティション索引では、パーティション列がキー列のサブセットを形成していません。これは許可されません。

処置：索引のパーティション列がキー列のサブセットを形成しない索引を作成する場合は、索引を非 UNIQUE として作成してください。そうでない場合は、索引のパーティション列がキー列のサブセットを形成するように、キーまたはパーティション列（あるいはその両方）のリストを訂正してください。

ORA-14041 結果のパーティションにパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ALTER {TABLE|INDEX} SPLIT PARTITION 文の解析時に、結果のパーティションの *partition_description* で VALUES LESS THAN 句が検出されましたが、これは許可されません。

処置: 既存の表または索引パーティションの分割から生じたパーティション記述から、VALUES LESS THAN 句を削除してください。

ORA-14042 移動、変更、再構築中のパーティションにパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ALTER {TABLE|INDEX} MODIFY PARTITION 文または ALTER TABLE MOVE PARTITION 文、ALTER INDEX REBUILD PARTITION 文の解析時に、移動、変更、再構築中のパーティションの新しい物理属性記述で VALUES LESS THAN 句が検出されましたが、これは許可されません。

処置: 移動、変更または再構築するパーティションの新しい属性記述から VALUES LESS THAN 句を取り除いてください。

ORA-14043 パーティションは1つだけしか追加できません。

原因: ALTER TABLE ADD PARTITION 文に2つ以上の追加パーティションの記述が含まれています。

処置: 文中のパーティション定義が1つのみであること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14044 パーティションは1つだけしか移動できません。

原因: ALTER TABLE MOVE PARTITION 文に2つ以上の移動するパーティションの記述が含まれています。

処置: 移動するパーティションが文中に1つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14045 パーティションは1つだけしか変更できません。

原因: ALTER TABLE|INDEX MODIFY PARTITION 文に2つ以上の変更するパーティションの記述が含まれています。

処置: 変更するパーティションが文中に1つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14046 パーティションが正確に2つの新規パーティションに分割されていません。

原因: ALTER TABLE|INDEX SPLIT PARTITION 文に、既存の表または索引パーティションを正確に2つに分割する新規パーティションの記述が含まれていません。

処置: 既存のパーティションを分割した2つのパーティションについて、正確に文に記述してください。

ORA-14047 ALTER TABLE | INDEX RENAME は他の操作に結合できません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で RENAME 操作を他の操作に結合しようとしたが、これは許可されません。

処置: RENAME 操作が ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。

ORA-14048 パーティション・メンテナンス操作は他の操作に結合できません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文でパーティション・メンテナンス操作（たとえば、MOVE PARTITION）を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）に結合しようとしたが、これは許可されません。

処置: パーティション・メンテナンス操作が、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。パーティションの処理、パーティション化された表 / 索引のデフォルトの属性、または表の改名（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と結合できます。

ORA-14049 ALTER TABLE MODIFY PARTITION のオプションが無効です。

原因: PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP、ALLOCATE EXTENT または DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが、レンジ・パーティションまたはコンポジット・レンジ・パーティションの ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文に指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14050 ALTER INDEX MODIFY PARTITION のオプションが無効です。

原因: ALTER INDEX MODIFY PARTITION 文に対して、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14051 ALTER SNAPSHOT オプションが無効です。

原因: ALTER SNAPSHOT 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、BACKUP 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14052 パーティション拡張表名の構文はこのコンテキストでは禁止されています。

原因: パーティション拡張表名の構文を使用できないコンテキスト（つまり、FROM 句または INSERT 文、DELETE 文、UPDATE 文以外）で使用しようとした

処置: 前述以外のコンテキストでは、パーティション拡張表名を使用しないでください。

ORA-14053 string を変更しようとした (string 文)。

原因: 特定のオブジェクト（たとえば表）の属性は作成時に指定されますが、ALTER 文を使用して変更できません。ユーザーがこのような属性の 1 つを指定しました。

処置: ALTER 文が、オブジェクトの作成後に変更可能な属性値にのみ新しい値を指定することを確認してください。

ORA-14054 ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION のオプションが無効です。

原因: 切り捨てられるパーティション名の後続に指定できるオプションは、DROP STORAGE または REUSE STORAGE です。

処置: ALTER TABLE TRUNCATE PARTITION とともに DROP STORAGE または REUSE STORAGE 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14055 ALTER INDEX REBUILD のキーワード REBUILD は<索引名>の後に指定しなければなりません。

原因: ALTER INDEX 文のキーワード REBUILD が索引属性（たとえば、INITRANS）の後に指定されています。

処置: 変更する索引名の直後にキーワード REBUILD が指定されているかを確認してください。

ORA-14056 パーティション番号 *string*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。

原因: このパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされる）のパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このパーティションの PCTUSED または PCTFREE（またはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引のデフォルト値が使用されます。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: パーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14057 パーティション *string*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。

原因: このパーティション名（ユーザーが明示的に指定）のパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このパーティションの PCTUSED または PCTFREE（またはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引のデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: パーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14058 パーティション番号 *string*: INITRANS 値は MAXTRANS 値よりも小さくなくてはなりません。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値より

も大きくなっています。このパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定した値、またはパーティション表またはパーティション索引のデフォルト値）が、MAXTRANS 値よりも大きくないことを確認してください。

ORA-14059 パーティション *string*: INITRANS 値は MAXTRANS 値よりも小さくなくてはなりません。

原因: このメッセージに表示されたパーティション名（ユーザーが明示的に指定）のパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値よりも大きくなっています。このパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルトの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定した値、またはパーティション表またはパーティション索引のデフォルト値）が、MAXTRANS 値よりも大きくないことを確認してください。

ORA-14060 表のパーティション列のデータ型またはデータ長は変更できません。

原因: ALTER TABLE 文で指定された表のパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。これは許可されていません。

処置: 表のパーティション列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14061 索引のパーティション列のデータ型またはデータ長は変更できません。

原因: ユーザーが ALTER TABLE 文を発行して、ALTER TABLE 文で指定された表について定義された索引のパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しようとした。これは許可されていません。

処置: 表のパーティション列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14062 読み込み専用の表領域に表のパーティションが1つ以上あります。

原因: ユーザーが ALTER TABLE 文を発行して、読み込み専用の表領域にパーティションが1つ以上ある表に対して、既存の VARCHAR2 型（または VARCHAR 型）の列を CHAR 型（または CHARACTER 型）の列に変更しようとしたか、既存の CHAR 型（または CHARACTER 型）の列の長さを増加しようとしたか、またはユーザー指定のデフォルトによって列を追加しようとした。これは許可されていません。

処置: 読み専用表領域にパーティションが1つ以上あるパーティション表に対して前述の操作を行わないでください。

ORA-14063 使用できない索引が一意 / 主制約キーに存在しています。

原因: 索引禁止状態とマークされた索引を持つ表の列に対して、主キー / 一意制約を追加または使用可能にしようとした。

処置: 既存の索引を削除するか、または ALTER INDEX REBUILD を使用して索引を再構築してください。

ORA-14064 使用できないパーティションのある索引が一意 / 主制約キーに存在しています。

原因: 索引禁止状態とマークされたパーティションが1つ以上ある索引を持つ表の列に対して、主キー / 一意制約を追加または使用可能にしようとした。

処置: 既存の索引を削除するか、または ALTER INDEX REBUILD PARTITION で使用できないパーティションを再構築してください。

ORA-14065 ALLOCATE STORAGE はパーティション化された表に指定できません。

原因: ユーザーが、パーティション化された表に対して発行された ALTER TABLE 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: 無効なオプションを取り除いてください。個々のパーティションに記憶領域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14066 パーティション化されていない表に対しては無効なオプションです。

原因: パーティション化されていない表で CREATE TABLE または ALTER TABLE コマンドを発行しようとしたが、コマンドにパーティション化された表でのみ有効なオプションがあります。そのようなオプションは、ENABLE ROW MOVEMENT および DISABLE ROW MOVEMENT です。

処置: コマンドから無効なオプションを削除してください。

ORA-14067 TABLESPACE_NUMBER の指定が重複しています。

原因: 表、索引または索引パーティションに対して、TABLESPACE_NUMBER 句が2つ以上指定されています。

処置: スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを訂正してください。

ORA-14068 TABLESPACE と TABLESPACE_NUMBER の両方は指定できません。

原因: 表、索引または索引パーティションに対して、TABLESPACE 句および TABLESPACE_NUMBER 句の両方が指定されています。

処置: スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを訂正してください。

ORA-14069 TABLESPACE_NUMBER の値が無効です。

原因: TABLESPACE_NUMBER の値が 0 から 0x7FFFFFFF までの整数ではありません。

処置: スレーブに送られた CREATE INDEX 文のコード生成テキストを訂正してください。

ORA-14070 パーティション化索引に対して、または REBUILD とともに指定できるオプションです。

原因: パーティション化索引に対してのみ、または非パーティション索引に対しては REBUILD と共に使用するときのみ有効なオプションを含む ALTER INDEX 文を発行しました。そのようなオプションは、PCTFREE、TABLESPACE、[NO]PARALLEL と INITIAL、FREELISTS、および STORAGE 句にある FREELIST GROUPS です。

処置: 不正なオプションを削除してください。

ORA-14071 制約に使われる索引に対しては無効なオプションです。

原因: 制約に使用される索引に対して、COMPRESS、NOCOMPRESS、PCTFREE、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、TABLESPACE、PARALLEL、NOPARALLEL、RECOVERABLE、UNRECOVERABLE、LOGGING、NOLOGGING、LOCAL、GLOBAL 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効な索引オプションの 1 つを選択してください。

ORA-14072 固定表は切り捨てられません。

原因: 固定表を切り捨てようとした。これは許可されていません。

処置: 切り捨てようとした表が固定表でないことを確認してください。

ORA-14073 ブートストラップ表またはクラスタは切り捨てられません。

原因: ブートストラップ表またはクラスタを切り捨てようとした。これは許可されていません。

処置: 切り捨てられた表（またはクラスタ）がブートストラップ表（またはクラスタ）でないことを確認してください。

ORA-14074 パーティション・バウンドは最終のものより上位に設定しなければなりません。

原因: ALTER TABLE ADD PARTITION 文で指定されたパーティション・バウンドが、表の最終パーティションのものより上位に設定されていません。

処置: 追加されたパーティションのパーティション・バウンドが表の最終パーティションのものより上位に設定されていることを確認してください。

ORA-14075 パーティション・メンテナンス操作はパーティション化された索引でだけ実行されます。

原因: ALTER INDEX パーティション・メンテナンス操作で指定された索引は、パーティション化されていません。したがって、パーティション・メンテナンス操作は無意味です。

処置: パーティション・メンテナンス操作を指定した ALTER INDEX 文に指定されている索引が、パーティション化された索引であることを確認してください。

ORA-14076 DROP/SPLIT PARTITION は LOCAL 索引パーティションには適用されません。

原因: LOCAL 索引パーティションを削除または分割しようとした。これは許可されていません。

処置: このような文で指定された索引が GLOBAL パーティション索引であることを確認してください。

ORA-14078 GLOBAL 索引の最高位パーティションは削除できません。

原因: GLOBAL 索引の最高位パーティションを削除しようとした。これは許可されていません。

処置: ALTER INDEX DROP PARTITION 文に指定されたパーティションが索引の最高位パーティションでないことを確認してください。

ORA-14079 Index Unusable とマークされたパーティションには無効なオプションです。

原因: 索引禁止状態とマークされた索引パーティションに対する ALTER INDEX MODIFY PARTITION 文が、STORAGE 句または DEALLOCATE SPACE 句（あるいはその両方）を含んでいます。これは許可されていません。

処置: 有効なオプションのみが指定されていることを確認してください。

ORA-14080 指定された上位バウンドでパーティションを分割できません。

原因: パーティションの分割に指定されたバウンドは、分割されるパーティションのバウンドよりも高いか、または分割の直前のパーティション・バウンドよりも低くなっています。

処置: パーティションを分割するバウンドは、分割されるパーティションのバウンドよりも低く、分割されるパーティションの直前のパーティションのパーティション・バウンドよりも高いことを確認してください。

ORA-14081 新規パーティション名は旧パーティション名と別でなければなりません。

原因: ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME PARTITION 文に指定された *new_partition_name* は、改名されるパーティション名と同一です。

処置: 新しいパーティション名は、指定された表または索引に存在するどのパーティション名（改名されるパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14082 新規パーティション名は他のオブジェクトのものと別でなければなりません。

原因: ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME PARTITION 文に指定された *new_partition_name* は、オブジェクトの既存パーティションの名前と同一です。

処置: 新しいパーティション名は、指定された表または索引に存在するどのパーティション名（改名されるパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14083 パーティション化された表の唯一のパーティションは削除できません。

原因: 表のパーティションが1つのみのときに、パーティションの削除コマンドを実行しました。

処置: 少なくとも1つのパーティションがあることを確認してください。すべてのパーティションを取り除くときは、表を削除してください。

ORA-14084 TABLESPACE DEFAULT が指定できるのは LOCAL 索引だけです。

原因: LOCAL 索引以外のオブジェクトに対して TABLESPACE DEFAULT を指定しようとしました。これは許可されていません。

処置: TABLESPACE DEFAULT 句なしで文を再実行してください。

ORA-14085 パーティション化された表に LONG データ型をもつ列は含められません。

原因: パーティション化された表を LONG データ型で作成しようとしたか、または LONG データ型の列をパーティション化された表に追加しようとした。

処置: パーティション化された表では LONG データ型はサポートされません。LONG 型の列なしで表を作成するか、または表を非パーティション表に変更してください。列を追加する場合は、LONG データ型を使用しないでください。データ型を LONG に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表でなければなりません。

ORA-14086 パーティション化された索引全体を再構築することはできません。

原因: ALTER INDEX REBUILD 文を使用してパーティション化された索引を再構築しようとした。これは許可されていません。

処置: (ALTER INDEX REBUILD PARTITION を使用して) 1 度に1パーティションずつ索引を再構築するか、または索引をいったん削除してから索引全体を再作成してください。

ORA-14094 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION のオプションが無効です。

原因: EXCHANGED される表の名前の後には [{INCLUDING|EXCLUDING} INDEXES][{WITH|WITHOUT} VALIDATION] が必要です。

処置: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION とともに INCLUDING INDEXES または EXCLUDING INDEXES 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14095 ALTER TABLE EXCHANGE はパーティション化、クラスタ化されてない表で実行されます。

原因: EXCHANGE 操作の表はクラスタ化またはパーティション化されています。

処置: パーティションが交換される表が、パーティション化された表またはクラスタ化された表でないことを確認してください。

ORA-14096 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の表の列の数は同じでなければなりません。

原因: EXCHANGE に指定された 2 つの表では、列の数が異なります。

処置: 2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14097 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の列型またはサイズが一致していません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で指定された表では、対応する列型またはサイズが異なります。

処置: 2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14098 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の表の索引が一致していません。

原因: EXCHANGE で指定された 2 つの表の索引が等しくありません。

処置: 2 つの表の各索引が次の規則に従っているかを確認してください。パーティション化されていない表のパーティション化されていない索引はすべて、パーティション化された表に同一の LOCAL 索引がなければなりません（その逆の場合も同様）。同一の索引とは、列の位置、型、サイズが同一の索引を意味します。

ORA-14099 表の中に指定されたパーティションに適さない列があります。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で指定されたパーティションに適さない行が、パーティション化されていない表の中で少なくとも 1 つあります。

処置: セグメント中のすべての行が、パーティションに適していることを確認してください。ALTER TABLE 操作を NO CHECKING オプション付きで実行してください。パーティションで ANALYZE table VALIDATE を実行して無効な行を検出し、削除してください。

ORA-14100 パーティション拡張表名はリモート・オブジェクトを参照できません。

原因: パーティション拡張表名の構文をリモート・オブジェクト名と一緒に使用しようとしていました。これは許可されていません。

処置: 文を修正し、その文を再実行してください。

ORA-14101 パーティション拡張表名はシノニムを参照できません。

原因: パーティション拡張表名の構文をシノニム名と一緒に使用しようとしていました。これは許可されていません。

処置: 文を修正し、その文を再実行してください。

ORA-14102 LOGGING または NOLOGGING 句は 1 つだけしか指定できません。

原因: LOGGING または NOLOGGING が複数回指定されました。または、LOGGING および NOLOGGING の両方が指定されました。

処置: LOGGING または NOLOGGING 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14103 LOGGING/NOLOGGING は RECOVERABLE/UNRECOVERABLE と結合できません。

原因: 文中に [NO]LOGGING 句と [UN]RECOVERABLE 句の両方が入っていますが、これは許可されません。

処置: 無効な句を削除してください。V8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。V9 では廃止される予定です。UNRECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14104 RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はパーティション化された表 / 索引に指定できません。

原因: パーティション化された表 / 索引の作成に使用された CREATE TABLE/INDEX 文に RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句が含まれています。これは許可されていません。

処置: 無効な句を取り除いてください。V8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。V9 では廃止される予定です。UNRECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14105 RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はこのコンテキストで指定できません。

原因: このコンテキストでは、RECOVERABLE/UNRECOVERABLE 句は無効です。

処置: 無効な句を取り除いてください。RECOVERABLE/UNRECOVERABLE は、パーティション化されていない表または索引を記述した CREATE TABLE/INDEX 文および ALTER INDEX REBUILD 文でのみ指定できます。V8 では [UN]RECOVERABLE を使用しないことをお勧めします。V9 では廃止される予定です。UNRECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、NOLOGGING オプション付きでオブジェクトを作成後、LOGGING を指定して ALTER してください。RECOVERABLE 句と同じ意味を実現するには、LOGGING オプション付きでオブジェクトを作成してください。

ORA-14106 LOGGING/NOLOGGING はクラスタ化された表に指定できません。

原因: クラスタ化された表が関与する CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文に LOGGING 句または NOLOGGING 句を指定しようとしました。

処置: 無効な句を取り除いてください。

ORA-14107 パーティション・オブジェクトにはパーティションの指定が必須です。

原因：パーティション名を指定するパラメータが見つかりません。パーティション化されていないオブジェクトに対してこのパラメータの指定は任意ですが、パーティション化されたオブジェクトに対しては必須です。

処置：不足しているパラメータを指定してください。

ORA-14108 パーティション拡張表名の構文が無効です。

原因：アクセスするパーティションは、必ずパーティション名を使用して指定しなければなりません。パーティション番号またはバインド変数を使用しようとした。

処置：文を修正して、この名前を使用しているパーティションを参照してください。

ORA-14109 パーティション拡張オブジェクト名が使用できるのは表だけです。

原因：表でないオブジェクトに対してパーティション拡張オブジェクト名を使用しようとした。

処置：表以外のオブジェクトでパーティション拡張名の構文を使用しないでください。

ORA-14110 パーティション列は ROWID 型にはできません。

原因：ユーザーが指定したパーティション列が ROWID 型ですが、これは許可されていません。

処置：どのパーティション列も ROWID 型でないことを確認してください。

ORA-14111 クラスタ化された表で GLOBAL パーティション索引の作成はサポートされていません。

原因：クラスタ化された表で GLOBAL パーティション索引を作成しようとしたが、これは現在では許可されていません。

処置：PARTITION BY RANGE() 句および *partition_list* を取り除き、GLOBAL 非パーティション索引をクラスタ化された表に作成してください。

ORA-14112 RECOVERABLE/UNRECOVERABLE はパーティションまたはサブパーティションに指定できません。

原因：RECOVERABLE または UNRECOVERABLE 句を含んだパーティションまたはサブパーティションの記述が CREATE TABLE/INDEX 文で検出されました。これは許可されていません。

処置：無効な句を取り除いてください。かわりに LOGGING または NOLOGGING を使用してください。

ORA-14113 パーティション化された表には LOB データ型をもつ列は含められません。

原因：パーティション化された表を LOB データ型で作成しようとしたか、または LOB データ型の列をパーティション化された表に追加しようとした。

処置: パーティション化された表では LOB データ型はサポートされません。LOB 型の列なしで表を作成するか、または表をパーティション化されていないものに変更してください。列を追加する場合は、LOB データ型を使用しないでください。データ型を LOB に変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表でなければなりません。

ORA-14114 パーティション化表には REF、ネスト化表、配列データ型をもつ列は含められません。

原因: パーティション表をオブジェクト・データ型（オブジェクト、REF、NESTED TABLE、配列）で作成しようとしたか、またはオブジェクト・データ型の列をパーティション表に追加しようとした。

処置: パーティション表ではオブジェクト・データ型はサポートされません。オブジェクトの列なしで表を作成するか、または表を非パーティション表に変更してください。列を追加する場合は、オブジェクト・データ型を使用しないでください。データ型をオブジェクトに変えるために列の属性を変更する場合、その表はパーティション化されていない表である必要があります。

ORA-14115 パーティション番号 *string* のパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: このメッセージに表示されたパーティション番号（パーティションは 1 から順に番号付けされます）のパーティションでは、上位バウンドのリニア・キー表現の長さが有効な限界値（4K）を超えています。

処置: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14116 パーティション *string* のパーティション・バウンドが長すぎます。

原因: このメッセージに表示された名前（ユーザーによって明示的に指定された名前）のパーティションでは、上位バウンドのリニア・キー表現の長さが有効な限界値（4K）を超えています。

処置: 長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14117 パーティションはオフライン化された表領域にあります。

原因: オフライン化された表領域にあるパーティション内のデータにアクセスしなければならない操作を実行しようとした。この種の操作には、索引定義を持った表または制約によって参照された表の表領域の削除などがあります。

処置: 操作を実行する前に、表領域をオンラインにしてください。

ORA-14118 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の CHECK 制約が一致しません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定された表では、対応する列の CHECK 制約が定義されています。

処置: 2 つの表のどの列にも CHECK 制約定義がないことを確認してください。

ORA-14119 指定されたパーティション・バウンドが長すぎます。

原因：追加する表パーティションの上位バウンド、または既存の表パーティションか索引パーティションを分割する上位バウンドのリニア・キー表現の長さが、有効な限界値 (4K) を超えています。

処置：長さが限界値を超えないようにパーティションの上位バウンドの表現を変更してください。

ORA-14120 DATE 列に対するパーティション・バウンドの指定が不完全です。

原因：DATE 列に対するパーティション・バウンドとしての日付を、完全に (つまり日、月および年 (世紀を含む)) 指定していない書式の日付表現を使用しようとしてしまった。この書式は、(TO_DATE() 機能を使用して) 明示的に指定されているか、または (NLS_DATE_FORMAT で) 暗示的に指定されている可能性があります。

処置：DATE 列に対するパーティション・バウンドで使用される日付書式が完全な日付仕様 (たとえば日、月および年 (世紀を含む)) をサポートすることを確認してください。NLS_DATE_FORMAT が完全な (つまり世紀を含む) 年の仕様をサポートしていない場合は、TO_DATE() (たとえば TO_DATE('01-01-1999', 'MM-DD-YYYY')) を使用して指定の日付を完全に表現してください。

ORA-14121 MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES は他の操作と組み合わせで指定できません。

原因：ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES を他の操作 (たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE) に組み合わせようとしてしまった。これは許可されません。

処置：MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES 操作が、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。パーティションの処理、パーティション表 / 索引のデフォルトの属性または表の改名 (ALTER TABLE RENAME) 以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14122 REVERSE と NOREVERSE 句は同時に指定できません。

原因：REVERSE と NOREVERSE の両方が CREATE INDEX 文に指定されました。

処置：REVERSE または NOREVERSE 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14123 NOREVERSE 句が重複しています。

原因：NOREVERSE が ALTER INDEX 文に 2 回以上指定されました。

処置：NOREVERSE 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14124 REVERSE 句が重複しています。

原因：REVERSE が ALTER INDEX または CREATE INDEX 文に 2 回以上指定されました。

処置：REVERSE 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて除去してから、文を再発行してください。

ORA-14125 REVERSE/NOREVERSE はこのコンテキストでは指定できません。

原因: このコンテキストでは、REVERSE/NOREVERSE 句は無効です。

処置: 無効な句を取り除いてください。REVERSE は、CREATE INDEX 文と ALTER INDEX REBUILD の索引（パーティション化された索引を作成する場合は、個々のパーティションの索引ではない）の属性として指定される可能性があります。NOREVERSE は、ALTER INDEX REBUILD 文でのみ指定できます。

ORA-14126 パーティション結果の説明後に続けられるのは <パラレル句> だけです。

原因: 表の分割や索引パーティションの分割から生じたパーティションの記述の後に、オプションのパラレル句が続いているかもしれません。これは、文全体に適応し、他の句が続くことはできません。

処置: ALTER TABLE/INDEX SPLIT PARTITION 文の、結果のパーティションの記述のカッコのついたリストの中に、すべてのパーティション属性があることを確認してください。

ORA-14128 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で FOREIGN KEY 制約が整合していません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定された表では、対応する列の FOREIGN KEY 制約が異なっています。

処置: 2つの表のどの列にも FOREIGN KEY 制約定義がないことを確認するか、2つの表の両方で FOREIGN KEY 制約を無効にしてください。再試行してください。

ORA-14129 表で UNIQUE 制約が使用可能なときは INCLUDING INDEXES を指定してください。

原因: 両方の表で一致する UNIQUE 制約は使用可能および有効ですが、INCLUDING INDEXES が ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION コマンドに指定されていません。

処置: 両方の表で一致する現在使用可能な UNIQUE 制約を使用不可にするか、または INCLUDING INDEXES オプションを使用していることを確認してください。

ORA-14130 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION の UNIQUE 制約が整合していません。

原因: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION コマンドで指定されている表の1つに UNIQUE 制約があり、一致する（キー列と相対する）制約が他の表で定義されていないか、または定義されています。ただし、これは使用可能または有効な（またはその両方）相対する最初の表で定義されているものとは異なります。

処置: ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION 文で指定されている表の1つで定義される各 UNIQUE 制約に対して、他の表で定義される一致する（キー列に相対した、および使用可能または有効な（またはその両方））制約があることを確認してください。UNIQUE 制約が使用可能な場合、パーティション表で定義されている UNIQUE 制約がローカル索引を使用することになります。

ORA-14131 UNIQUE 制約が有効になっている表が1つあります。

原因： ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION 文で参照されている表の1つが、その表で定義されている UNIQUE 制約を有効にしています。このため、EXCHANGE が進行できません。

処置： ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION 文で参照されている表で定義されている制約を無効にし、文を再実行してください。

ORA-14132 表は EXCHANGE で使用できません。

原因： ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION コマンドを発行しようとしたが、1つ以上の次のような理由のため、パーティション表でない表が EXCHANGE で使用できません。

- タイプ表である。
- ADT 列を含む。
- ネストされた表の列を含む。
- REF 列を含む。
- 配列の列を含む。
- 索引構成表である。
- LOB 列を含む。
- NESTED TABLE である。

処置： パーティション表が、前述の ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION | SUBPARTITION コマンドに対する制限事項のどれにも違反していないことを確認してください。

ORA-14133 ALTER TABLE MOVE は他の操作と組み合わせることはできません。

原因： ALTER TABLE MOVE 文を他の操作（たとえば、MODIFY）と組み合わせようとした。

処置： ALTER TABLE 文で指定されている操作は MOVE のみであることを確認してください。

ORA-14134 索引で DESC と REVERSE の両方は使用できません。

原因： DESC とマークされている索引列を使用して逆索引を作成しようとした。

処置： 逆索引で DESC を使用しないでください。ルールベースのオプティマイザは索引を逆方向に走査でき、標準逆索引に DESC とマークされている列のある逆索引をシュミレートさせます。

ORA-14135 LOB 列はパーティション化列として指定できません。

原因： BLOB または CLOB 型の列をパーティション化列またはサブパーティション化列として指定しようとした。

処置: BLOB または CLOB 型のパーティション化列またはサブパーティション化列がないことを確認してください。

ORA-14150 SUBPARTITION キーワードが足りません。

原因: キーワード SUBPARTITION がありません。

処置: 不足しているパラメータを指定してください。

ORA-14151 無効な表パーティション化メソッドです。

原因: 無効な表パーティション化メソッドが CREATE TABLE 文で指定されています。表は RANGE、HASH またはコンポジット・レンジ / ハッシュ (R+H) によってパーティション化されます。

処置: 有効なパーティション化メソッドの 1 つを指定してください。

ORA-14152 PARTITIONS 句で指定されたパーティション数が範囲外です。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX 文に含まれるパーティション数句が有効範囲外 (1-65535) でパーティション数を指定しました。

処置: パーティション数句で 1 から 65535 の間の数を指定してください。

ORA-14153 STORE IN または <パーティション説明> 句は同時に使用できません。

原因: STORE IN および *partition_description* 句の両方が CREATE TABLE | INDEX コマンドで指定されています。

処置: 無効な句を取り除いてください。

ORA-14154 STORE IN または <サブパーティション説明> 句は同時に使用できません。

原因: STORE IN および *subpartition_description* 句の両方が、CREATE TABLE | INDEX コマンド、またはコンポジット・レンジ・パーティション・オブジェクトの、ALTER TABLE ADD | SPLIT PARTITION または ALTER TABLE MERGE PARTITIONS コマンドで指定されています。

処置: 無効な句を取り除いてください。

ORA-14155 PARTITION または SUBPARTITION キーワードが足りません。

原因: PARTITION または SUBPARTITION キーワードが必要でしたが、両方とも指定されていません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14156 SUBPARTITION 句に指定されたサブパーティション数が範囲外です。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX 文に含まれるサブパーティション数句が有効範囲外 (1-65535) でサブパーティション数を指定しました。

処置: サブパーティション数句で 1 から 65535 の間の数を指定してください。

ORA-14157 サブパーティション名が正しくありません。

原因: 必要な書式 *identifier* のサブパーティション名が存在しません。

処置: 正しいサブパーティション名を指定してください。

ORA-14158 サブパーティションの記述が多すぎます。

原因: CREATE TABLE または CREATE INDEX のサブパーティション記述が多すぎます。最大サブパーティション数は 65535 です。

処置: 65535 を超えないようにサブパーティション数を減らしてください。

ORA-14159 サブパーティション名が重複しています。

原因: 作成中の表または索引のサブパーティション名が一意ではありません。

処置: サブパーティションの名前を変更してください。サブパーティションの名前は、作成中の表または索引のサブパーティションの中で一意の名前にしてください。

ORA-14160 この物理属性は表のサブパーティションに指定できません。

原因: 表のサブパーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。有効なオプションは TABLESPACE のみです。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14161 サブパーティション数: *string*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。

原因: このメッセージにサブパーティション番号（サブパーティションは 1 から順に番号付けされる）が表示されたサブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このサブパーティションの PCTUSED または PCTFREE（またはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されます。また、パーティション・レベルでの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: サブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14162 サブパーティション *string*: PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。

原因: このメッセージにサブパーティション名（ユーザーが明示的に指定します）が表示されたサブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えています。このサブパーティションの PCTUSED または PCTFREE（またはその両方）値が明示的に指定されていない場合は、パーティションレベルでのデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション・レベルでの PCTUSED 値または PCTFREE 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: サブパーティションの PCTUSED と PCTFREE の合計が 100 を超えていないことを確認してください。

ORA-14163 サブパーティション数 *string*: INITRANS の値が MAXTRANS の値を超えています。INITRANS の値が MAXTRANS の値を超えています。

原因: このメッセージに表示されたサブパーティション番号（サブパーティションは 1 から順に番号付けされる）のサブパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値よりも大きくなっています。このサブパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション・レベルでの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定されたか、またはパーティション・レベル、表レベル、索引レベルでのデフォルト値から作成された）が、MAXTRANS 値よりも大きくないことを確認してください。

ORA-14164 サブパーティション *string*: INITRANS の値が MAXTRANS の値を超えています。INITRANS の値が MAXTRANS の値を超えています。

原因: このメッセージに表示されたサブパーティション名（ユーザーが明示的に指定）のサブパーティションでは、INITRANS 値の方が MAXTRANS 値よりも大きくなっています。このサブパーティションの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が明示的に指定されなかった場合は、パーティション・レベルでのデフォルト値が使用されることに注意してください。また、パーティション・レベルでの INITRANS 値または MAXTRANS 値（あるいはその両方）が指定されていない場合は、パーティション表またはパーティション索引に対するデフォルト値が使用されます。これらの値も明示的に指定されていない場合は、システム・デフォルトが使用されます。

処置: INITRANS 値（明示的に指定されたか、またはパーティション・レベル、表レベル、索引レベルでのデフォルト値から作成された）が、MAXTRANS 値よりも大きくないことを確認してください。

ORA-14165 MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION は他の操作と組み合わせることはできません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文で MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES OF PARTITION を他の操作（たとえば、ADD PARTITION または PCTFREE）に組み合わせようとしたことが、これは許可されません。

処置: MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES 操作が、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文で指定されていることを確認してください。パーティションの処理、パーティション表 / 索引のデフォルトの属性または表の改名（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14166 INTO キーワードがありません。

原因: キーワード INTO がありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14167 移動できるサブパーティションは1つだけです。

原因: ALTER TABLE MOVE SUBPARTITION 文に2つ以上の移動できるサブパーティションの記述が含まれています。

処置: 移動できるサブパーティションが文中に1つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14168 変更できるサブパーティションは1つだけです。

原因: ALTER TABLE INDEX MODIFY SUBPARTITION 文に2つ以上の変更できるサブパーティションの記述が含まれています。

処置: 変更サブパーティションが文中に1つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14169 ALTER TABLE MODIFY SUBPARTITION のオプションが正しくありません。

原因: ALTER TABLE MODIFY SUBPARTITION 文に対して、PCTFREE、PCTUSED、INITRANS、MAXTRANS、STORAGE 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14170 CREATE TABLE INDEX で <パーティション説明> 句は指定できません。

原因: *partition_description* 句が指定されたのと同時に、ユーザーがデフォルトのパーティション記述の生成 (PARTITIONS *number_of_partitions* を介して) を要求しました。これは許可されていません。

処置: 無効な句を取り除いてください。

ORA-14171 CREATE ALTER TABLE で <サブパーティション説明> 句は指定できません。

原因: *subpartition_description* 句が指定されたのと同時に、ユーザーがデフォルトのサブパーティション記述の生成 (SUBPARTITIONS を介して) を要求しました。これは許可されていません。

処置: 無効な句を取り除いてください。

ORA-14172 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION のオプションが正しくありません。

原因: EXCHANGED された表の名前の後には [{INCLUDING|EXCLUDING} INDEX][{(WITH|WITHOUT) VALIDATION}] が必要です。

処置: ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION とともに INCLUDING INDEX または EXCLUDING INDEX 以外のオプションが指定されていないことを確認してください。

ORA-14173 サブパーティション拡張表名の構文に誤りがあります。

原因: アクセスするサブパーティションは、必ずサブパーティション名を使用して指定しなければなりません。パーティション番号またはバインド変数を使用しようとした。

処置: 文を修正して、この名前を使用しているサブパーティションを参照してください。

ORA-14174 COALESCE PARTITION|SUBPARTITION に続けられるのは、<パラレル句>だけです。

原因: ALTER TABLE COALESCE PARTITION|SUBPARTITION の後にオプションのパラレル句が続いています。どのパーティション / サブパーティション属性も指定できません。

処置: パーティション / サブパーティション属性が指定されていないことを確認してください。

ORA-14175 サブパーティションのメンテナンス操作は他の操作と組み合わせることはできません。

原因: ALTER TABLE または ALTER INDEX 文でサブパーティション・メンテナンス操作（たとえば、MOVE SUBPARTITION）を他の操作（たとえば、MODIFY PARTITION ADD SUBPARTITION または PCTFREE）と組み合わせようとしたが、これは許可されません。

処置: サブパーティション・メンテナンス操作は、ALTER TABLE 文または ALTER INDEX 文に指定された唯一の操作であることを確認してください。サブパーティションの処理、パーティション表 / 索引のデフォルトの属性または表の改名（ALTER TABLE RENAME）以外の操作は、他の操作と組み合わせることができます。

ORA-14176 この属性はハッシュ・パーティションには指定できません。

原因: HASH メソッドを使用してパーティション化された表のパーティションの物理属性の解析中に、無効なオプションが発生しました。このようなパーティションに対して有効なのは、TABLESPACE オプションのみです。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14183 TABLESPACE DEFAULT はコンポジット LOCAL 索引にだけ指定できます。

原因: レンジ / システム / ハッシュ・パーティション化 LOCAL 索引のオブジェクトのパーティションに対して TABLESPACE DEFAULT を指定しようとした。これは許可されていません。

処置: TABLESPACE DEFAULT を TABLESPACE *ts_name* に置き換えるか、または削除してください。

ORA-14185 指定した物理属性はこの索引パーティションに対しては無効です。

原因: ローカル索引パーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。レンジ・コンポジット・レンジ・パーティションに対する有効なオプションは、INITRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE、PCTFREE、PCTUSED、LOGGING および TABLESPACE です。ただし、ハッシュ・パーティションには TABLESPACE のみ指定でき、STORE IN () はコンポジット・レンジ・パーティション以外では許可されていません。

処置: 索引パーティションの物理属性リストから無効なオプションを削除してください。

ORA-14186 LOCAL 索引のサブパーティション数は基礎表のものと等しくなければなりません。

原因: 作成しようとした LOCAL サブパーティション化索引のパーティション数が、基礎表のものと異なります。

処置: CREATE INDEX 文を修正し、正しいサブパーティション数を指定してください。

ORA-14187 LOCAL 索引のパーティション化メソッドが基礎表のメソッドと矛盾しています。

原因: 基礎表を使用して、下位層の表と同一レベル・パーティション化されていない LOCAL パーティション化索引を作成しようとしてしました。パーティション化タイプが一致していません。

処置: CREATE INDEX 文を修正して、索引パーティション化メソッドがベース表のメソッドと一貫していることを確認してください。

ORA-14188 サブパーティション列は UNIQUE 索引のキー列のサブセットでなければなりません。

原因: 作成しようとした UNIQUE パーティション索引では、サブパーティション列がキー列のサブセットを形成していません。これは許可されません。

処置: 索引のサブパーティション列がキー列のサブセットを形成しない索引を作成した場合は、索引を非 UNIQUE として作成しなければなりません。そうでない場合は、索引のサブパーティション列がキー列のサブセットを形成するように、キーまたはサブパーティション列（あるいはその両方）のリストを訂正してください。

ORA-14189 この物理属性は索引サブパーティションには指定できません。

原因: 索引のサブパーティションの物理属性の解析時に、予期しないオプションが検出されました。有効なオプションは TABLESPACE のみです。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14190 ENABLE/DISABLE ROW MOVEMENT 句は 1 回しか指定できません。

原因: 次のいずれかです。

- ENABLE ROW MOVEMENT が 2 回以上指定された。
- DISABLE ROW MOVEMENT が 2 回以上指定された。
- ENABLE ROW MOVEMENT および DISABLE ROW MOVEMENT の両方が指定された。

処置: ENABLE ROW MOVEMENT または DISABLE ROW MOVEMENT 句を 1 つのみ残して余分な句をすべて除去してから、コマンドを再発行してください。

ORA-14191 ALLOCATE STORAGE は、コンボジット・レンジ・パーティション化オブジェクトには指定できません。

原因: ユーザーが、レンジ・パーティション化索引に対して発行された ALTER TABLE/ALTER INDEX 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: 無効なオプションを取り除いてください。個々のパーティションに記憶領域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE/INDEX MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14192 ハッシュ索引パーティションの物理索引属性は変更できません。

原因: ハッシュ・パーティション化索引の索引パーティションの INITRANS/MAXTRANS/LOGGING/STORAGE 句の 1 つを修正しようとした。

処置: 修正しようとした物理属性を削除してください。

ORA-14193 無効な ALTER INDEX MODIFY SUBPARTITION オプションです。

原因: ALTER INDEX MODIFY SUBPARTITION 文に対して、UNUSABLE、ALLOCATE EXTENT、DEALLOCATE UNUSED 以外のオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14194 再作成できるサブパーティションは 1 つだけです。

原因: ALTER INDEX REBUILD SUBPARTITION 文に 2 つ以上の再作成するサブパーティションの記述が含まれています。

処置: 再作成するサブパーティションが文中に 1 つのみ記述されていること、およびカンマが含まれていないことを確認してください。

ORA-14195 ALLOCATE STORAGE は、レンジ・パーティション化オブジェクトには指定できません。

原因: ユーザーが、レンジ・パーティション化索引に対して発行された ALTER TABLE/ALTER INDEX 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: 無効なオプションを取り除いてください。個々のパーティションに記憶領域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE/INDEX MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14251 指定したサブパーティションは存在しません。

原因: オブジェクトのサブパーティションが見つかりません。

処置: 正しいサブパーティション名を使用して再試行してください。

ORA-14252 ハッシュ・パーティションには ALTER TABLE MODIFY PARTITION オプションは無効です。

原因: ハッシュ・パーティションの ALTER TABLE MODIFY PARTITION で ALLOCATE EXTENT および DEALLOCATE UNUSED のみが指定されました。

処置: 有効なオプションのみ指定してください。

ORA-14253 表はコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: サブパーティションのメンテナンス操作 (ALTER TABLE EXCHANGE/MODIFY/MOVE/TRUNCATE SUBPARTITION または ALTER TABLE MODIFY PARTITION ADD/COALESCE SUBPARTITION コマンド) はコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されている必要があります。

処置: 表がコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14254 (コンポジット) レンジ・パーティション化表に ALLOCATE STORAGE は指定できません。

原因: ユーザーが、レンジまたはコンポジット・パーティション表に対して発行された ALTER TABLE 文に ALLOCATE STORAGE 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: 無効なオプションを取り除いてください。個々のパーティション / サブパーティションに記憶領域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION/SUBPARTITION 文で指定できます。コンポジット・パーティションのすべてのサブパーティションに記憶領域を追加する場合は、ALLOCATE STORAGE 句を ALTER TABLE MODIFY PARTITION 文で指定できます。

ORA-14255 表はレンジまたはコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE SPLIT/DROP PARTITION または ALTER TABLE MERGE PARTITIONS コマンドはレンジまたはコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化された表でのみ有効です。

処置: 表がコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14256 結果のパーティション記述が正しくありません。

原因: ユーザーが ALTER TABLE SPLIT PARTITION または ALTER TABLE MERGE PARTITIONS 文のパーティション記述に STORE-IN 句、SUBPARTITIONS 句、または *subpartition_description* 句 (またはこれらすべて) を指定しましたが、メンテナンス操作の表がコンポジット・レンジ・メソッドではありません。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除するか、または表がコンポジット・レンジ・メソッドであることを確認してください。

ORA-14257 レンジまたはハッシュ・パーティション以外のパーティションは移動できません。

原因: レンジまたはハッシュ・パーティション以外のパーティションを移動しようとしました。これは許可されていません。

処置: MOVE PARTITION はレンジまたはハッシュ・パーティションに対してのみ指定してください。

ORA-14258 パーティションの記述が正しくありません。

原因: ユーザーが ALTER TABLE ADD PARTITION 文に STORE-IN 句、SUBPARTITIONS 句または *subpartition_description* 句（またはこれらすべて）を指定しましたが、メンテナンス操作の表がコンポジット・レンジ・メソッドではありません。これは許可されていません。

処置: 無効な句を削除するか、または表がコンポジット・レンジ / ハッシュ・メソッドであることを確認してください。

ORA-14259 表はハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE COALESCE PARTITION はハッシュ・メソッドでパーティション化された表に対してのみ有効です。

処置: 表に対して有効な ALTER TABLE オプションを指定するか、または表がハッシュ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14260 指定した物理属性はこの索引パーティションに対しては無効です。

原因: ユーザーが INITRANS、MAXTRANS、STORAGE、PCTFREE、PCTUSED または [NO]LOGGING オプション（あるいはすべて）を ALTER TABLE ADD/MOVE PARTITION コマンドを介してハッシュ・パーティションに指定しました。これは許可されていません。TABLESPACE のみが指定できます。

処置: 無効なオプションを削除してください。

ORA-14261 このハッシュ・パーティションの追加時にパーティション・バウンドは指定できません。

原因: ハッシュ・パーティション化表にパーティションを追加（ALTER TABLE ADD PARTITION を介して）中に、ユーザーが VALUES LESS THAN 句を指定しました。これは許可されていません。

処置: VALUES LESS THAN 句を追加されたパーティションの記述から削除してください。

ORA-14262 新規サブパーティション名が旧サブパーティション名と同じです。

原因: ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME SUBPARTITION に指定された *new_subpartition_name* は、改名されたパーティションの名前と同一です。

処置: 新しいサブパーティション名が、与えられた表または索引に存在するどのサブパーティション名（改名されるサブパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14263 新規サブパーティション名がオブジェクトの他のサブパーティション名と同じです。

原因: ユーザーが入力した ALTER TABLE/INDEX RENAME SUBPARTITION 文に指定された新規サブパーティション名、オブジェクトの既存サブパーティションの名前と同一です。

処置: 新しいサブパーティション名が、与えられた表または索引に存在するどのサブパーティション名（改名されるサブパーティション名を含む）とも同じでないことを確認してください。

ORA-14264 表はコンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION 操作の表がコンポジット・メソッド以外のメソッドでパーティション化されています。

処置: 表がコンポジット・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14265 表のサブパーティション列のデータ型または長さは変更できません。

原因: ALTER TABLE 文で指定された表のサブパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。これは許可されていません。

処置: 表のサブパーティション列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14266 索引のサブパーティション列のデータ型または長さは変更できません。

原因: ALTER TABLE 文で指定された表で定義された索引のサブパーティション化に使用される列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を ALTER TABLE 文で変更しようとした。これは許可されていません。

処置: 索引のサブパーティション列のデータ型またはデータ長（あるいはその両方）を変更しないでください。

ORA-14267 (コンポジット) レンジ・パーティションの追加時に PARALLEL 句は指定できません。

原因: ユーザーが、レンジまたはコンポジット・レンジ・パーティションの PARALLEL 句を使用して ALTER TABLE ADD PARTITION 文を発行しました。これは許可されていません。

処置: PARALLEL 句を取り除いてください。

ORA-14268 パーティションのサブパーティション *string* がオフラインの表領域にあります。

原因: オフライン化された表領域にあるサブパーティション内のデータにアクセスしなければならない操作を実行しようとした。この種の操作には、索引定義を持った表または制約によって参照された表の表領域の削除などがあります。

処置: 操作を実行する前に、表領域をオンラインにしてください。

ORA-14269 レンジまたはハッシュ・パーティション以外のパーティションは交換できません。

原因: ユーザーがパーティションをパーティション化されていない表と交換しようとしたが、このパーティションはレンジまたはハッシュ・パーティションではありません。これは許可されていません。

処置: EXCHANGE PARTITION はレンジまたはハッシュ・パーティションに対してのみ指定します。

ORA-14270 表はレンジまたはハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE MODIFY PARTITION {UNUSABLE LOCAL INDEXES | REBUILD UNUSABLE LOCAL INDEXES} 文にある表がレンジまたはハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。これは許可されていません。

処置: 表がレンジまたはハッシュ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14271 表はコンポジット・レンジ/ハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。

原因: ALTER TABLE MODIFY SUBPARTITION {UNUSABLE LOCAL INDEXES | REBUILD UNUSABLE LOCAL INDEXES} 文にある表がコンポジット・レンジ/ハッシュ・メソッドでパーティション化されていません。これは許可されていません。

処置: 表がコンポジット・レンジ/ハッシュ・メソッドでパーティション化されていることを確認してください。

ORA-14272 再使用できるのは上限パーティションだけです。

原因: ユーザーが ALTER TABLE MERGE PARTITIONS 文で下限パーティションを結果のパーティションとして再使用しようとしました。これは許可されません。

処置: 上限パーティションを結果のパーティションとして使用するか、または新しいパーティション名を指定してください。

ORA-14273 下限パーティションを最初に指定してください。

原因: ユーザーが、ALTER TABLE MERGE PARTITIONS 文で下限パーティションの前に上限パーティションを指定しました。これは許可されません。

処置: 下限パーティションを指定してから、上限パーティションを指定してください。

ORA-14274 マージ対象のパーティションが隣接していません。

原因: ユーザーが互いに隣接していない2つのパーティションをマージしようとしました。これは許可されていません。

処置: 隣接している2つのパーティションを指定してください。

ORA-14275 下限パーティションは結果パーティションとして再使用できません。

原因: ユーザーがマージされているパーティションの下限パーティションを再使用しようとしました。これは許可されていません。

処置: 新しい結果パーティションの名前を指定するか、または上限パーティションのみを再利用してください。

ORA-14276 EXCHANGE SUBPARTITION の表は非パーティション、非クラスタ化表でなければなりません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 操作の表はクラスタ化またはパーティション化されています。

処置：サブパーティションを交換する表がパーティション化された表またはクラスタ化された表でないことを確認してください。

ORA-14277 EXCHANGE SUBPARTITION の 2 つの表の列数は同じでなければなりません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION に指定された 2 つの表では、列の数が異なります。

処置：2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14278 EXCHANGE SUBPARTITION の列型またはサイズは同じでなければなりません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で指定された表では、対応する列型またはサイズが異なります。

処置：2 つの表に含まれた列数が等しく、各列の型およびサイズが同じであることを確認してください。

ORA-14279 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION の 2 つの表の索引は同じでなければなりません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で指定された 2 つの表の索引が等しくありません。

処置：2 つの表の各索引が次の規則に従っているかを確認してください。パーティション化されていない表のパーティション化されていない索引はすべて、パーティション化された表に同一の LOCAL 索引がなければなりません（その逆の場合も同様）。同一の索引とは、列の位置、型、サイズが同一の索引を意味します。

ORA-14280 表の中に指定されたサブパーティションに適さない列があります。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で指定されたサブパーティションに適さない行が、パーティション化されていない表の中で少なくとも 1 つあります。

処置：セグメント中のすべての行が、サブパーティションに適していることを確認してください。ALTER TABLE 操作を NO CHECKING オプション付きで実行してください。パーティションで ANALYZE table VALIDATE を実行して無効な行を検出し、削除してください。

ORA-14281 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で CHECK 制約が整合していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 文で指定された表では、対応する列の CHECK 制約が定義されています。

処置：2 つの表のどの列にも CHECK 制約定義がないことを確認してください。

ORA-14282 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で FOREIGN KEY 制約が整合していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 文で指定された表では、対応する列の FOREIGN KEY 制約が異なっています。

処置：2つの表のどの列にも FOREIGN KEY 制約定義がないことを確認するか、2つの表の両方で FOREIGN KEY 制約を無効にしてください。再試行してください。

ORA-14283 ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION で UNIQUE 制約が整合していません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION コマンドで指定されている表の1つに UNIQUE 制約があり、一致する（キー列と相対する）制約が他の表で定義されていないか、または定義されています。ただし、これは使用可能または有効な（またはその両方）相対する最初の表で定義されているものとは異なります。

処置：ALTER TABLE EXCHANGE SUBPARTITION 文で指定されている表の1つで定義される各 UNIQUE 制約に対して、他の表で定義される一致する（キー列に相対した、および使用可能または有効な（またはその両方））制約があることを確認してください。UNIQUE 制約が使用可能な場合、パーティション表で定義されている UNIQUE 制約がローカル索引を使用することになります。

ORA-14284 表のサブパーティションが1つ以上読み専用表領域にあります。

原因：ユーザーが ALTER TABLE 文を発行して、読み専用表領域にパーティションが1つ以上ある表に対して、既存の VARCHAR2 型（または VARCHAR 型）の列を CHAR 型（または CHARACTER 型）の列に変更しようとしたか、既存の CHAR 型（または CHARACTER 型）の列の長さを増加しようとしたか、またはユーザー指定のデフォルトによって列を追加しようとした。これは許可されていません。

処置：読み専用表領域にサブパーティションが1つ以上あるパーティション表に対して前述の操作を行わないでください。

ORA-14285 このパーティション表に1つしかないパーティションに COALESCE できません。

原因：表にパーティションが1つのみある場合に COALESCE PARTITION コマンドが発行されました。これは許可されていません。

処置：少なくとも1つのパーティションがあることを確認してください。すべてのパーティションを取り除くときは、表を削除してください。

ORA-14286 この表パーティションに1つしかないサブパーティションに COALESCE できません。

原因：表にサブパーティションが1つのみある場合に COALESCE SUBPARTITION コマンドが発行されました。これは許可されていません。

処置：少なくとも1つのサブパーティションがあることを確認してください。すべてのサブパーティションを取り除くときは、パーティションを削除してください。

ORA-14287 コンポジット・レンジ・パーティション化索引のパーティションを再作成できません。

原因：コンポジット・レンジ・パーティション索引のパーティションを再作成しようとしました。これは許可されていません。

処置：索引パーティション、サブパーティションを一度に REBUILD してください。

ORA-14288 索引が Composit Range メソッドでパーティション化されていません。

原因：パーティションまたはサブパーティションのメンテナンス操作 (ALTER INDEX MODIFY [SUBPARTITION] DEFAULT ATTRIBUTES FOR PARTITION] または ALTER INDEX REBUILD SUBPARTITION コマンド) の索引は、コンポジット・レンジ・メソッドでパーティション化される必要があります。

処置：処置は必要ありません。

ORA-14289 使用できないコンポジット・レンジ・パーティション化表のローカル索引パーティションは作成できません。

原因：コンポジット・レンジ・パーティション化索引のパーティションを再作成しようとしました。これは許可されていません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-14290 ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION で PRIMARY KEY 制約が適合しません。

原因：ALTER TABLE EXCHANGE [SUB]PARTITION 文で指定された表では、対応する列の PRIMARY KEY 制約が異なっています。

処置：2つの表のどの列にも PRIMARY KEY 制約定義がないことを確認するか、2つの表の両方で PRIMARY KEY 制約を無効にしてください。再試行してください。

ORA-14291 コンポジット・パーティションとパーティション化されていない表は EXCHANGE できません。

原因：コンポジット・パーティションはパーティション化された表と交換することのみが可能です。

処置：交換される表がパーティション化されているか、または、交換されるパーティションがコンポジットでないことを確認してください。

ORA-14292 表のパーティション・タイプはコンポジット・パーティションのサブパーティション・タイプと一致している必要があります。

原因：パーティション化された表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティション・タイプはコンポジット・パーティションのサブパーティション・タイプと一致している必要があります。

処置：パーティション化された表のパーティション・タイプが、コンポジット・パーティションのサブパーティション・タイプと同じであることを確認してください。

ORA-14293 パーティション列の数がサブパーティション列の数と一致しません。

原因: パーティション化された表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティション列の数はコンポジット・パーティションのサブパーティション列の数と一致している必要があります。

処置: パーティション化された表のパーティション列数が、コンポジット・パーティションのサブパーティション列数と同じであることを確認してください。

ORA-14294 パーティションの数がサブパーティションの数と一致しません。

原因: パーティション化された表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティションの数はコンポジット・パーティションのサブパーティションの数と一致している必要があります。

処置: パーティション化された表のパーティション数が、コンポジット・パーティションのサブパーティション数と同じであることを確認してください。

ORA-14295 パーティション列とサブパーティション列で、列の型またはサイズが一致しません。

原因: パーティション化された表をコンポジット・パーティションと交換する場合、表のパーティション列のタイプおよびサイズは、コンポジット・パーティションのサブパーティション列のタイプおよびサイズと一致している必要があります。

処置: パーティション化された表のパーティション列のタイプおよびサイズが、コンポジット・パーティションのサブパーティション列のタイプおよびサイズと同じであることを確認してください。

ORA-14301 表レベルの属性はパーティション・レベルの属性よりも前に指定しなければなりません。

原因: ALTER TABLE ADD COLUMN 文を処理中に、LOB 列の表レベルの属性が LOB 列のパーティション・レベルの属性の処理後に検出されたか、または CREATE TABLE 文を処理中に、LOB 列の表レベルの属性がパーティション記述の処理後に検出されました。

処置: SQL 文を修正して、パーティション・レベルの属性またはパーティション記述の前に表レベルの属性を指定してください。その後、文を再実行してください。

ORA-14302 文に指定できるリストは、added-LOB-storage-clauses の 1 つだけです。

原因: ALTER TABLE ADD COLUMN 文を解析中、追加された LOB 記憶領域句の 1 つのリストが解析されましたが、追加された LOB 記憶領域句の別のリストが見つかりました。文に 2 つ以上の追加された LOB 記憶領域句リストが存在することはできません。追加された LOB 記憶領域句はすべて 1 つのリストに結合させる必要があります。

処置: 追加された LOB 記憶領域句のリストをすべて 1 つのリストに結合させ、文を再実行してください。

ORA-14303 パーティションまたはサブパーティションの順序が正しくありません。

原因: ALTER TABLE ADD COLUMN 文でのパーティションまたはサブパーティション記述の順序がパーティションまたはサブパーティションの DDL 順序と異なります。

処置: 追加された LOB 記憶領域句のパーティションまたはサブパーティションの順序をパーティションまたはサブパーティションの DDL 順序と同じになるように変更してください。その後、文を再実行してください。

ORA-14400 挿入されたパーティション・キーが最大パーティション・キーを超えています。

原因: 最後のパーティションの連結パーティション・バウンド・リストの許容値を超えている連結パーティション・キーを使用して、レコードを挿入しようとした。

処置: キーを挿入しないでください。または、キーを使用できるようなパーティションを追加してください。

ORA-14401 挿入されたパーティション・キーが指定されたパーティションの範囲外です。

原因: INSERT 文で指定されたパーティションは、2つの連結パーティション・バウンド・リストによって許容範囲が定められています。挿入レコードの連結パーティション・キーは、定められた範囲外にあります。

処置: キーを挿入しないでください。または別のパーティションにキーを挿入してください。

ORA-14402 パーティション・キー列を更新するとパーティションが変更されます。

原因: パーティション・キー列の値を UPDATE 文で更新しようとして、行が別のパーティションに移行されました。

処置: パーティション・キー列を UPDATE 文で更新しないか、または新パーティション・キーが旧パーティション・キーを含む範囲内にあることを確認してください。

ORA-14403 DML パーティション・ロック取得後にカーソルが無効になりました。

原因: INSERT 文、UPDATE 文、DELETE 文の実行時に、パーティション・ロック取得後にカーソルが無効になりました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-14404 パーティション化された表に異なる表領域のパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれていないパーティションを持った表が領域内に存在します。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったパーティションを持った表を見つけてください。そのような表を削除するか、パーティションを別の表領域に移動してください。

ORA-14405 パーティション化された索引に異なる表領域のパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれている表に対して定義された索引には、パーティションの一部が領域内に完全に含まれていないものがあります。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったパーティションを持った索引を見つけてください。そのような索引を削除するか、索引のパーティションを別の表領域に移動するか、索引の定義された表を見つけて削除（または移動）してください。

ORA-14406 更新されたパーティション・キーが最大パーティション・キーを超えています。

原因: 最後のパーティションの連結パーティション・バウンド・リストの許容値を超えている連結パーティション・キーを使用してレコードを更新しようとした。

処置: キーを更新しないでください。または、キーを使用できるようなパーティションを追加してください。

ORA-14407 パーティション表に異なる表領域のサブパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれていないサブパーティションを持った表が領域内に存在します。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったサブパーティションを持つ表を見つけてください。そのような表を削除するか、サブパーティションを別の表領域に移動してください。

ORA-14408 パーティション索引に異なる表領域のサブパーティションが含まれています。

原因: 表領域を削除しようとしたが、この表領域に完全に含まれている表に対して定義された索引には、サブパーティションが領域内に完全に含まれていないものがあります。

処置: 削除する表領域とその他の表領域にまたがったサブパーティションを持つ索引を見つけてください。そのような索引を削除するか、索引のパーティションを別の表領域に移動するか、索引の定義された表を見つけて削除（または移動）してください。

ORA-14409 挿入したパーティション・キーは、指定されたサブパーティションの範囲外です。

原因: INSERT 文で指定されたサブパーティションは、2つの連結サブパーティション・バウンド・リストによって許容範囲が定められています。挿入レコードの連結サブパーティション・キーは、定められた範囲外にあります。

処置: キーを挿入しないでください。または別のサブパーティションに挿入してください。

ORA-14450 すでに使用されているトランザクション一時表にアクセスしようとした。

原因: 同じセッションの同時実行トランザクションによってすでに移入されているトランザクション一時表にアクセスしようとした。

処置: 同時実行トランザクションがコミットまたは中止されるまではトランザクション一時表のアクセスを試行しないでください。

ORA-14451 この機能は一時表ではサポートされていません。

原因: IOT を作成し、物理属性を指定して、パーティションまたはパラレル句を指定しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-14452 すでに使用されている一時表で索引を作成または変更、削除しようとした。

原因: すでに使用されている一時表で索引を作成または変更、削除しようとした。

処置: セッション固有の一時表を使用しているセッションはすべて表を切り捨て、トランザクション固有の一時表を使用しているトランザクションはすべてトランザクションを終了してください。

ORA-14453 データがすでにバージされた一時表の LOB を使用しようとした。

原因: 表がトランザクション固有であるか、またはトランザクションがコミットまたは終了したためにデータが削除された一時表からの LOB を使用しようとした。表が切り捨てられたか、またはこの LOB を作成したセッションが終了しました。

処置: この LOB ロケータは無効であり、使用できません。

ORA-14454 参照整合性制約の一時表を参照しようとした。

原因: 参照整合性制約の一時表を参照しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置: トリガーを使用してください。

ORA-14455 一時表に参照整合性制約を作成しようとした。

原因: 一時表に参照整合性制約を作成しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置: トリガーを使用してください。

ORA-14456 一時表で索引は再作成できません。

原因: 一時表で索引を再作成しようとした。

処置: 索引データがセッション / トランザクションの最後で消失しました。

ORA-14457 一時表では VARRAY とネストされた表の列は禁止されています。

原因: 一時表で VARRAY または NESTED TABLE 列を作成しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置: 一時表にこれらのデータ型を指定しないでください。

ORA-14458 索引編成付きの一時表を作成しようとした。

原因: 索引編成付きの一時表を作成しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置: HEAP 編成および主キーを使用して表を作成します。

ORA-14459 GLOBAL キーワードがありません。

原因: 一時表を作成中にキーワード GLOBAL が見つかりません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-14500 LOCAL オプションにはパーティション名が必要です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14501 オブジェクトがパーティション化されていません。

原因: 表または索引がパーティション化されていません。無効な構文です。

処置: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14503 パーティション名は1つだけしか指定できません。

原因: 2つ以上のパーティション名が分析用に指定されました。

処置: パーティション名を1つ指定してください。

ORA-14504 分析用の構文はサポートされていません。

原因: パーティション / サブパーティション番号またはバインド変数が使用されました。

処置: 有効なパーティション / サブパーティション名を指定してください。

ORA-14505 LOCAL オプションはパーティション化された索引にだけ有効です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14506 LOCAL オプションにはパーティション化された索引が必須です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14507 パーティション不正。パーティション・バウンド内にはない列があります。

原因: 他のパーティション内に存在すべき行が、パーティション内に含まれています。
原因として、妥当性検査なしのパーティションの交換が考えられます。

処置: パーティションの中の適切でない行を削除してください。

ORA-14508 指定された VALIDATE INTO 表が見つかりません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはユーザーに適切な権限がありません。

処置: 使用する表を訂正してください。

ORA-14509: 指定された VALIDATE INTO 表のフォームが正しくありません。

原因: 指定した表に適切なフィールド定義がありません。

処置: 使用する表を訂正してください。詳細は UTLVALID.SQL を参照してください。

ORA-14510 VALIDATE INTO 句はパーティション化された表にだけ指定できます。

原因: パーティション化されていない表、クラスタまたは索引に対して、VALIDATE INTO が指定されました。

処置: 構文を正しく使用してください。

ORA-14511 この操作はパーティション・オブジェクトでは実行できません。

原因: パーティション表または索引で許可されていない操作を実行しようとした。

処置: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14512 この操作はクラスタ・オブジェクトでは実行できません。

原因: クラスタ表または索引で許可されていない操作を実行しようとした。

処置: 正しい構文でコマンドを再試行してください。

ORA-14513 指定したパーティション列はオブジェクト・データ型です。

原因: ユーザーが指定したパーティション列はオブジェクト・データ型（オブジェクト、REF、NESTED TABLE、配列）で、これは不正です。

処置: オブジェクト・データ型のパーティション列がないことを確認してください。

ORA-14514 サブパーティション名を指定しない LOCAL オプションは無効です。

原因: 指定された構文が不正です。

処置: コマンドを再試行してください。

ORA-14515 指定できるサブパーティション名は1つだけです。

原因: 2つ以上のサブパーティション名が分析用に指定されました。

処置: サブパーティション名を1つ指定してください。

ORA-14516 サブパーティションが壊れています。すべての行をサブパーティション・バウンドに入れることはできません。

原因: 他のサブパーティション内に存在すべき行が、サブパーティション内に含まれています。妥当性検査なしでサブパーティションが交換された可能性があります。

処置: サブパーティションの中の適切でない行を削除してください。

ORA-14517 索引のサブパーティション *string.string* は、使用不可状態です。

原因: ダイレクト・ロードまたは DDL 操作によって使用不可とマークされた索引のサブパーティションにアクセスしようとした。

処置: 使用不可の索引のサブパーティションを REBUILD してください。

ORA-14551 問合せの中で DML 操作を実行することはできません。

原因: DML 操作（挿入、更新、削除または更新選択）は問合せの中または PDML スレーブで実行できません。

処置: DML 操作が実行されていないことを確認するか、または自律型トランザクションを使用して問合せまたは PDML スレーブ内で DML 操作を実行してください。

ORA-14552 DDL を実行できません。問合せまたは DML 中で、コミットまたはロールバックしてください。

原因: DDL 操作（表やビューなどの作成）およびトランザクション制御文（コミット / ロールバックなど）は問合せまたは DML 文中で実行できません。

処置: 違反操作が実行されていないことを確認するか、または自律型トランザクションを使用して問合せ / DML 操作内でこの操作を実行してください。

ORA-14553 問い合わせの中で lob 書込み操作を実行することはできません。

原因: 問い合わせまたは PDML スレーブの中で LOB 書込み操作は実行できません。

処置: LOB 書込み操作が実行されていないことを確認するか、または自律型トランザクションを使用して問合せまたは PDML スレーブ内でこの操作を実行してください。

ORA-16000 データベースは読み専用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは読み専用アクセスでオープンされています。このエラーが発生する不適当な DML または DDL 文を使用するデータベースを変更しようとした。

処置: このデータベースを変更するためには、まずデータベースをシャット・ダウンしてから読書き両用アクセスで再オープンしてください。

ORA-16001 データベースは別のインスタンスで読み専用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは別のインスタンスによって読み専用アクセスでオープンされています。このインスタンスでは、データベースを読書き両用アクセスでオープンすることはできません。

処置: このインスタンスを読書き両用アクセスでオープンするか、または他のすべてのインスタンスをシャット・ダウンしてから読み専用アクセスで再オープンしてください。

ORA-16002 データベースは別のインスタンスで読書き両用アクセスでオープンされています。

原因: このデータベースは別のインスタンスによって読書き両用アクセスでオープンされています。このインスタンスでは、データベースを書込み専用アクセスでオープンすることはできません。

処置: このインスタンスを読み専用アクセスでオープンするか、または他のすべてのインスタンスをシャット・ダウンしてから読書き両用アクセスで再オープンしてください。

ORA-16003 スタンバイ・データベースは読み専用アクセスしかできません。

原因: 整合性を確認するには、スタンバイ・データベースは読み専用アクセスでのみオープンできます。

処置: READ ONLY を指定している ALTER DATABASE OPEN を再発行してください。

ORA-16004 バックアップ・データベースをリカバリしてください。

原因: 制御ファイルはリカバリが必要なバックアップ・データベース用で、このインスタンスを使用して読み専用アクセスにオープンできません。

処置: 必要なりカバリを実行し、読み専用アクセスに再オープンしてください。

ORA-16005 データベースをリカバリしてください。

原因: データベースのリカバリが必要なため、このインスタンスを使用してデータベースを読み専用アクセスにオープンできません。

処置: 必要なりカバリを実行し、読み専用アクセスに再オープンしてください。

ORA-16006 audit_trail の指定がデータベース・オープン・モードと矛盾します。

原因: AUDIT_TRAIL 初期化パラメータが "DB" (または TRUE) に設定されましたが、これは読み専用アクセスにオープンしているデータベースと互換性がありません。

処置: データベースが読み専用アクセスにオープンしている場合、AUDIT_TRAIL 初期化パラメータは "OS" または "NONE" (FALSE) にのみ設定できます。

ORA-16007 バックアップ制御ファイルのチェックポイントが無効です。

原因: 読み専用アクセスにオープンしているバックアップ制御ファイルに有効な制御ファイルのチェックポイントがありません。そのため、データベースが読み専用アクセスにオープンできません。

処置: まずデータベースを書き両用アクセスにオープンし、制御ファイルのチェックポイントを有効にしてください。その後、このデータベースを読み専用アクセスでオープンしてください。

ORA-16008 制御ファイルのチェックポイントが予測不能です。

原因: 読み専用アクセスでオープンしているデータベースの制御ファイルが CREATE CONTROLFILE から作成されました。そのため、制御ファイルのチェックポイントが計算不能でデータベースは読み専用アクセスでオープンできません。

処置: まずデータベースを書き両用アクセスにオープンし、制御ファイルのチェックポイントを有効にしてください。その後、このデータベースを読み専用アクセスでオープンしてください。

ORA-16009 リモート・アーカイブ・ログの宛先はスタンバイ・データベースでなければなりません。

原因: アーカイブ・ログの宛先のサービス名と関連のあるデータベースが要求されたスタンバイ・データベース以外のものでした。REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブが非スタンバイ・データベース・インスタンスに許可されていません。

処置: ARCHIVE LOG 処理を再試行する前に、互換性のある必須のスタンバイ・データベースの作成に必要な対処処置を取ってください。

ORA-16010 リモート・アーカイブ・ログの宛先データベースは更新のためにオープンされています。

原因: アーカイブ・ログの宛先サービス名と関連のあるデータベースが更新アクセスのためにオープンしています。更新アクセス用にオープンしているスタンバイ・データベースに対する REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブは許可されていません。

処置: スタンバイ宛先インスタンスを終了して読み込みアクセスに再オープンするか、または単にスタンバイ・インスタンスをマウントおよびオープンされないままにしておいてください。

ORA-16011 アーカイブ・ログのリモート・ファイル・サーバーがエラー状態です。

原因: 指定されたスタンバイ・データベース・サイトでのアーカイブ・ログのリモート・ファイル・サーバー (RFS) ・プロセスが回復不能なエラー状態になり、アーカイブ・ログ・データをこれ以上受け取れません。

処置: スタンバイ・データベース・サイトでこの問題を修正してください。

ORA-16012 アーカイブ・ログのスタンバイ・データベース識別子が一致しません。

原因: プライマリ・データベースとスタンバイ・データベースのデータベース識別子が一致しません。REDO ログ・ファイルのリモート・アーカイブが互換性のないスタンバイ・データベース・インスタンスに許可されていません。

処置: ARCHIVE LOG 処理を再試行する前に、互換性のある必須のスタンバイ・データベースの作成に必要な対処処置を取ってください。

ORA-16013 ログ *string*、順序番号 *string* はアーカイブ不要です。

原因: 指定された名前のファイルを手動でアーカイブしようとしたますが、そのファイルはアーカイブ不要です。そのファイルはすでにアーカイブされています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16014 ログ *string*、順序番号 *string* がアーカイブされていません。使用可能な宛先がありません。

原因: 名前で指定されたログをアーカイブしようとしたますが、アーカイブが失敗しました。指定されたアーカイブ・ログの宛先がないか、またはすべての宛先がエラーになったため、アーカイブが失敗しました。

処置: アーカイブ・ログの宛先が指定されていることを確認するか、または発生したエラーの修正に必要な処置を行ってください（またはその両方を行ってください）。

ORA-16015 ログ *string*、順序番号 *string* がアーカイブされていません。メディアのリカバリが使用禁止です。

原因: 名前で指定されたログをアーカイブしようとしたますが、アーカイブが失敗しました。スタンバイ・アーカイブ・ログの宛先が指定され、データベースがメディア・リカバリを使用できません。これは許可されていません。

処置: スタンバイ宛先を使用禁止にするか、またはメディア・リカバリを使用可能にして、再試行してください。

ORA-16016 スレッド *string*、順序番号 *string* のアーカイブ・ログが使用不可です。

原因: 連続スタンバイ・データベースのリカバリ操作が要求されたアーカイブ・ログ・ファイルを待機中にタイムアウトになりました。

処置: プライマリ・データベースが REDO ログをスタンバイ・リカバリ・データベース・サイトにアーカイブ中であることを確認し、RECOVER STANDBY DATABASE WAIT コマンドを再発行してください。

ORA-16017 主要アーカイブ先がないと LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST は使用できません。

原因: 主要アーカイブ先が明示的に NULL に設定されている時に、パラメータ LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が NULL でない値に設定されました。

処置: 主要アーカイブ先を有効な NULL 以外の値に設定してください。

ORA-16018 *string* は LOG_ARCHIVE_DEST_n と一緒に使用できません。

原因: 非互換性の原因は次のイベントのいずれかです。

- 初期化パラメータのフェッチ中に LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータを検出したときに、LOG_ARCHIVE_DEST or LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。
- 初期化パラメータのフェッチ中に LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータを検出したときに、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドが有効だった。
- ALTER SYSTEM コマンドが LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータ値の定義に使用されていたときに、LOG_ARCHIVE_DEST_n が使用されていた。

処置: 互換性のないパラメータ定義を排除してください。

ORA-16019 *string* は、LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST と一緒に使用できません。

原因: 非互換性の原因は次のイベントのいずれかです。

- 初期化パラメータのフェッチ中に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータを検出したときに、LOG_ARCHIVE_DEST or LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。
- 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータ値を定義するのに ALTER SYSTEM または ALTER SESSION コマンドを使用しようとしたときに、パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。
- 初期化パラメータのフェッチ中に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータを検出したときに、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドが有効だった。

- 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータ値を定義するのに ALTER SYSTEM または ALTER SESSION コマンドを使用しようとしたときに、ALTER SYSTEM ARCHIVE LOG START TO コマンドが有効でした。

処置: 互換性のないパラメータ定義を排除してください。

ORA-16020 宛先が LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST の指定を下回っています。

原因: 自動アーカイブが使用可能で、データベースで使用可能なアーカイブ・ログの宛先数が LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータ値を下回っています。

処置: ログ・アーカイブの宛先の設定を訂正するか、または LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST 値を低くしてください。

ORA-16021 セッション *string* の宛先は、セッション *string* と同じ宛先にはできません。

原因: ALTER SESSION を使用して、最初に指定されたアーカイブ・ログ・パラメータが宛先値を持つように変更しようとしたますが、この宛先値は、2 番目に指定されたアーカイブ・ログ・パラメータのセッション・レベルの宛先の値と重複します。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの 1 つに異なるセッションの宛先値を指定してください。

ORA-16022 LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が NULL ではないので、LOG_ARCHIVE_DEST は NULL にできません。

原因: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が NULL でないときに LOG_ARCHIVE_DEST パラメータを NULL に変更しようとした。

処置: パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST を NULL でない値に設定するか、またはパラメータ LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST を NULL に設定してください。

ORA-16023 システム *string* の宛先は、セッション *string* と同じ宛先にはできません。

原因: 最初に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータを変更しようとしたが、このパラメータは、2 番目に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータのセッション宛先値と重複する宛先を生成しました。このエラーは ALTER SYSTEM コマンドを使用して NULL でない値に設定した場合に発生します。または、関連するシステムの宛先値が重複として表示されるため、ALTER SESSION コマンドを使用して NULL 値に設定した場合に発生します。

処置: 最初に指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータに異なる宛先値を指定してください。

ORA-16024 パラメータ *string* を解析できません。

原因: 指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータの値が解析できません。このエラーの一般的な原因は等号の位置が間違っているか、オプションが認識できないか、またはオプションに要求されている値がないためです。

処置: LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16025 パラメータ *string* に、繰返しまたは競合するオプションが指定されています。

原因：指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータ値に繰返しオプションまたはほかのオプションと競合するオプションが指定されています。

処置：LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16026 パラメータ *string* に、無効な再オープン時間が指定されています。

原因：指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータの値に無効な数値を使用して REOPEN オプションが指定されています。有効な範囲は 0 から 65535 です。

処置：LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16027 パラメータ *string* に、宛先オプションがありません。

原因：指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータの値が宛先オプションを含むことができません。有効な宛先オプションは LOCATION または SERVICE です。

処置：LOG_ARCHIVE_DEST_n パラメータの値を修正してください。

ORA-16028 新しい *string* 句が LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST で必要な宛先を下回っている原因です。

原因：自動アーカイブが使用可能な状態で、指定された LOG_ARCHIVE_DEST_n または LOG_ARCHIVE_DEST_STATE_n パラメータ (n = 1...5) を LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST 値を下回るようにアーカイブ・ログの宛先数を少なくする値に変更しようとした。

処置：LOG_ARCHIVE_DEST_n または LOG_ARCHIVE_DEST_STATE_n パラメータに対して異なるオプションを選択するか、またはパラメータの値を少なくしてください。

ORA-16029 LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST を変更できません。アーカイブ・ログの宛先がありません。

原因：アーカイブ・ログの宛先がないときに LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータを変更しようとした。

処置：パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST, LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST または LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) を使用して、1 つ以上のアーカイブ・ログの宛先を定義してください。その後、パラメータ LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST の値を変更してください。

ORA-16030 セッション固有の変更には、LOG_ARCHIVE_DEST_n の宛先が必要です。

原因：非互換性の原因は次のようなイベントです。ALTER SESSION コマンドを使用して LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータを変更しようとしたときに、パラメータ LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用されていた。

処置：LOG_ARCHIVE_DEST_n (n = 1...5) パラメータを使用して LOG_ARCHIVE_DEST および LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータを置き換えてください。

ORA-16031 パラメータ *string* の宛先文字列が、制限である *string* 文字を超えています。

原因: 指定されたパラメータ値に長すぎる宛先文字列が指定されました。

処置: このエラー・メッセージで指定されている制限以下の長さの文字列を使用して指定されたパラメータの宛先値を置き換えてください。

ORA-16032 パラメータ *string* の宛先文字列を変換できません。

原因: 指定されたパラメータ値に変換できない宛先文字列が指定されました。

処置: 指定されたパラメータで有効な宛先文字列を使用してください。

ORA-16033 パラメータ *string* の宛先は、パラメータ *string* と同じ宛先にはできません。

原因: 最初に指定されたアーカイブ・ログ・パラメータが宛先値を持つように変更しようとしたが、この宛先値は、2 番目に指定されたアーカイブ・ログ・パラメータのシステム・レベルの宛先の値と重複します。

処置: アーカイブ・ログ・パラメータのうち 1 つの異なる値を指定してください。

ORA-16034 MANAGED リカバリで FROM パラメータは使用できません。

原因: FROM 'location' パラメータの使用は、MANAGED リカバリが指定されているときは許可されていません。

処置: 構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

ORA-16035 必須のキーワード *string* がありません。

原因: MANAGED リカバリが指定されているときに STANDBY DATABASE キーワードが要求されました。

処置: 構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

ORA-16036 MANAGED リカバリの CANCEL オプションは無効です。

原因: RECOVER MANAGED STANDBY DATABASE 文で CANCEL キーワードの後に IMMEDIATE 以外のモードが続いています。

処置: 何も指定しないかまたは CANCEL の後に IMMEDIATE を指定してください。

ORA-16037 継続中のリカバリ操作を取消すユーザー要求がありました。

原因: 継続中のスタンバイ・データベースのリカバリ操作が各ユーザー要求で取り消されました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16038 ログ *string*、順序番号 *string* をアーカイブできません。

原因: 指定された名前のファイルをアーカイブしようとしたが、そのファイルはアーカイブできません。次のエラー・メッセージを調べてそのエラーの原因を確認します。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-16039 RFS 要求のバージョンが一致しません。

原因: REDO ログをスタンバイ・サイトにアーカイブする要求がリモート・ファイル・サーバー (RFS) とスタンバイ・サイトで互換性がないために失敗しました。

処置: 互換性のある Oracle のバージョンがプライマリおよびすべてのスタンバイ・サイトで実行中であることを確認してください。

ORA-16040 スタンバイ宛先のアーカイブ・ログ・ファイルがロックされています。

原因: ターゲット・スタンバイ宛先のアーカイブ・ログ・ファイルが現在ロックされています。これはファイルが別のリモート・ファイル・サーバー (RFS) プロセスによってアーカイブされていることを示しています。

処置: プライマリ・データベースに定義されている、重複するスタンバイ宛先のアーカイブ・ログのサービス名を確認し、排除してください。

ORA-16041 リモート・ファイル・サーバーに重大なエラーが発生しました。

原因: スタンバイ宛先のアーカイブ・ログ・サイトのリモート・ファイル・サーバー (RFS) プロセスが使用禁止になるエラーを発生し、使用できません。これ以上スタンバイ・サイトにアーカイブすることはできません。

処置: このエラーに関する詳細は、スタンバイ・サイトにある適切な RFS トレース・ファイルを参照し、可能ならば対処措置を取ってください。

ORA-16042 継続リカバリ操作の即時取り消しをユーザーが要求しました。

原因: 継続中のスタンバイ・データベースのリカバリ操作が各ユーザー要求で即時取り消されました。カレント・アーカイブ・ログ・ファイルの処理が割り込みされたため、データベースが不安定な状態です。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-18000 アウトライン名が無効です。

原因: パーサーがアウトライン名を検出できないか、または無効なアウトライン名を検出しました。

処置: 有効なアウトライン名を指定して、コマンドを再発行してください。

ORA-18001 ALTER OUTLINE にオプションが指定されていません。

原因: パーサーがコマンドに句が指定されていないことを検出しました。

処置: 有効な ALTER OUTLINE 句を指定して、コマンドを再発行してください。

ORA-18002 指定したアウトラインは存在しません。

原因: 開始するアウトラインが存在しないか、またはタイミング・ウィンドウによって別のスレッドがアウトライン・ミッドストリームを削除または変更することが許可されました。

処置: アウトラインが存在することを確認し、再試行してください。

ORA-18003 この署名のアウトラインはすでに存在しています。

原因: 署名生成アルゴリズムが、長さ 16 バイトの署名を生成したため、どの署名も同一になる可能性はほとんどありません。このメッセージは通常は発生しません。

処置: 空白を追加してアウトラインを作成する文を再発行するか、または異なるカテゴリにアウトラインを作成してください。

ORA-18004 アウトラインはすでに存在しています。

原因: アウトラインは指定された名前ですでに存在しているか、または指定された SQL テキストに対してすでに存在しています。

処置: 別の名前で再試行してください。

ORA-18005 この操作には、アウトラインの作成権限が必要です。

原因: 実行しようとした操作には、アウトラインの作成権限が必要です。

処置: アウトラインの作成権限があることを確認し、操作を再試行してください。

ORA-18006 この操作には、アウトラインの削除権限が必要です。

原因: 実行しようとした操作には、アウトラインの削除権限が必要です。

処置: アウトラインの削除権限があることを確認し、操作を再試行してください。

ORA-18007 この操作には、アウトラインの変更権限が必要です。

原因: 実行しようとした操作には、アウトラインの変更権限が必要です。

処置: アウトラインの変更権限があることを確認し、操作を再試行してください。

ORA-18008 OUTLN スキーマが見つかりません。

原因: このスキーマを作成するデータベース作成スクリプトは実行できません。

処置: ログ・ファイルを再確認し、データベースの作成時に起こったことを調べてください。

ORA-18009 1 つ以上のアウトライン・システム表がありません。

原因: これらの表を作成するデータベース作成スクリプトが実行されていないか、またはユーザーが意図せずにこの表を削除しました。

処置: ログ・ファイルを再確認し、データベースの作成時に起こったことを調べてください。

ORA-18010 コマンドに必須のキーワード CATEGORY がありません。

原因: ユーザーが CATEGORY キーワードの指定に失敗しました。

処置: CATEGORY キーワードを含むコマンドを再実行してください。

ORA-19400 ～ ORA-24279

ORA-19400 オブジェクト SYS.string のシステム・タイプが競合します。

原因：システム・タイプの 1 つと同じ名前のオブジェクトが存在します。システム・タイプは正しく初期化されていません。

処置：競合するオブジェクトを削除して、移行を再実行してください。

ORA-19500 デバイス・ブロック・サイズ string が無効です。

原因：シーケンシャル I/O OSD から戻されたデバイス・ブロック・サイズが無効です。

処置：ブロック・サイズが Recovery Manager の ALLOCATE CHANNEL コマンドの PARMS オプションで設定されている場合、指定されたブロック・サイズは変更されています。PARMS オプションが ALLOCATE CHANNEL コマンドで指定されていなかった場合は、Oracle へ報告される内部エラーです。

ORA-19501 ファイル string の読み込みエラー。ブロック番号 string (ブロックサイズ =string)

原因：入力ファイルの読み込みエラーです。

処置：ファイルを確認してください。

ORA-19502 ファイル string 書き込みエラー。ブロック番号 string (ブロックサイズ =string)

原因：入力ファイルの書き込みエラーです。

処置：ファイルを確認してください。

ORA-19503 デバイス情報の取得不可。デバイス名 =string、タイプ =string、パラメータ =string

原因：デバイス情報を取得するコールからエラーが戻されました。

処置：デバイス名、デバイス・タイプおよびパラメータを確認してください。

ORA-19504 ファイル string の作成に失敗しました。

原因：ファイルを作成するためのコールからエラーが返されました。

処置：その他のメッセージおよびアクセス許可をチェックしてください。

ORA-19505 ファイル *string* の識別に失敗しました。

原因: ファイルを識別するためのコールからエラーが戻されました。

処置: その他のメッセージやファイルが存在しているかを確認してください。

ORA-19506 シーケンシャル・ファイルの作成失敗。ファイル名 *=string*、パラメータ *=string*

原因: シーケンシャル・ファイルを作成するためのコールからエラーが戻されました。

処置: その他のメッセージおよびアクセス許可を確認してください。

ORA-19507 シーケンシャル・ファイルの検索失敗。ハンドル *=string*、パラメータ *=string*

原因: シーケンシャル・ファイルを検索するためのコールからエラーが戻されました。

処置: その他のメッセージを確認し、ファイルが存在しているかを確認してください。

ORA-19508 ファイル *string* の削除に失敗しました。

原因: ファイルを削除するためのコールからエラーが戻されました。

処置: 追加メッセージを調べてください。

ORA-19509 シーケンシャル・ファイルの削除失敗。ハンドル *=string*、パラメータ *=string*

原因: シーケンシャル・ファイルを削除するためのコールからエラーが戻されました。

処置: 追加メッセージを調べてください。

ORA-19510 *string* ブロックのサイズ設定に失敗しました (ファイル *=string*、ブロックサイズ *=string*)。

原因: ファイルをサイズ変更するためのコールからエラーが戻されました。

処置: 追加メッセージを調べてください。

ORA-19511 *string*

原因: Recovery Manager と連携して、Oracle サーバーにリンクしてバックアップ / リストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェアでエラーが発生しました。

処置: メッセージ本文の情報でエラーが解決できない場合は、メディア管理ソフトウェアのベンダーに連絡してください。

ORA-19550 ディスパッチャ使用中にバックアップ / リストア関数は使用できません。

原因: マルチ・スレッド・サーバーでディスパッチャに接続中に、バックアップ / リストア関数を使用しようとしてしました。バックアップとリストアに使用されるデバイスは、シングル・プロセスに割り当てられている必要があるので、これは許可されません。

処置: インスタンスに直接接続してからバックアップまたはリストア関数を再実行してください。

ORA-19551 デバイスが使用中です。デバイス・タイプ: *string*、デバイス名: *string*

原因: 示されたデバイスは別のセッションに割り当てられているため、またはデバイス名が指定されていないため、または要求されたタイプのデバイスはすべて使用中のため、指示されたデバイスを割り当てられませんでした。

処置: 別のデバイスの割当てを試行するか、または必要なデバイスが使用中でなくなるまで待機してください。

ORA-19552 デバイス・タイプ *string* が無効です。

原因: 指示されたデバイス・タイプが無効です。

処置: 正しいデバイス・タイプを指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19553 デバイス名 *string* が無効です。

原因: 指示されたデバイス名が無効です。

処置: 正しいデバイス名を指定し、割当てを再試行してください。

ORA-19554 デバイスの割当て中にエラーが発生しました。デバイス・タイプ: *string*、デバイス名: *string*

原因: 指定されたデバイスを割り当てられませんでした。

処置: エラー原因の追求を支援する 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19555 LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータの値が無効です。

原因: パラメータ値 LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST は、有効な範囲で設定されていません。

処置: LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST パラメータに正しい値を設定してください。アーカイブ・ログ・パラメータの LOG_ARCHIVE_DEST または LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が使用中の場合は、パラメータ LOG_ARCHIVE_MIN_SUCCEED_DEST を 1 または 2 に設定してください。

ORA-19556 必須宛先である LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST が、現在遅延しています。

原因: 使用可能にするように要求されたとき、LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST のパラメータの宛先が遅延しました。LOG_ARCHIVE_DEST パラメータの ALTER SYSTEM コマンドが既存の LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの宛先と重複した宛先を定義したとき、宛先は自動的に遅延されます。

処置: LOG_ARCHIVE_DUPLEX_DEST パラメータの遅延値を変更してください。

ORA-19557 デバイス・エラーが発生しました。デバイス・タイプ: *string*、デバイス名: *string*

原因: プラットフォーム固有のデバイス・コードでエラーが発生しました。

処置: エラー原因の追求を支援する 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19558 デバイスの割当て解除でエラーが発生しました。

原因: 指定されたデバイスの割当てを解除できませんでした。

処置: エラー原因の追求を支援する 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19559 デバイス・コマンド: *string* の送信中にエラーが発生しました。

原因: 指示されたコマンドをセッション・デバイスに送信中に、エラーが発生しました。

処置: エラー原因の追求を支援する 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、割当てを再試行してください。

ORA-19560 デバイス制限 *string* は無効です。

原因: X\$DBMS_BACKUP_RESTORE.SETLIMIT へのコールで指定されたデバイス制限のタイプが無効です。

処置: 次の制限のうちの 1 つを使用してください。KBYTES、READRATE、または PARALLEL です。

ORA-19561 *string* には DISK チャネルが必要です。

原因: 試行されたコマンドでは、DISK デバイス・チャネルをセッションに割り当てる必要がありますが、DISK 以外のデバイスが検出されました。

処置: カレント・デバイスの割当てを解除し、DISK チャネルを割り当ててください。訂正後、コマンドを再試行してください。

ORA-19562 ファイル *string* が空です。

原因: 指示されたアーカイブ・ログまたは制御ファイル、データ・ファイルは、コピー、走査またはバックアップ操作中に空であることが検出されました。

処置: コピーまたはバックアップ操作に対して、正しいファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-19563 *string* ヘッダーの妥当性チェックでエラーが検出されました (ファイル *string*)

原因: コピーまたはバックアップ・セットに入れるためにファイルをオープンしたとき、または増分リストアのターゲットとして使用されたときに、ファイルはカレント・データベースに属する指定されたタイプ (データ・ファイル、アーカイブ・ログ、制御ファイル) の有効なファイル・ヘッダーを持たないことが検出されました。

処置: コピーまたはバックアップ操作に対して、正しいファイルが指定されていることを確認してください。

ORA-19564 *string* バイト (ブロック番号 *string*) 書き込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: エラー原因の追求を支援する 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを修正して、コピー、バックアップまたはリストア操作を再試行してください。

ORA-19565 シーケンシャル・デバイスへのコピー時は BACKUP_TAPE_IO_SLAVES は使用できません。

原因：シーケンシャル・デバイスへコピーを指定しようとしたますが、BACKUP_TAPE_IO_SLAVES 初期化パラメータが使用できません。

処置：INIT.ORA ファイルに BACKUP_TAPE_IO_SLAVES=TRUE を指定するか、シーケンシャル・デバイスへコピーを指定しないでください。

ORA-19566 破損ブロックの制限 *string* を超えています (ファイル *string*)。

原因：データ・ファイルのコピーまたはバックアップ操作のために指定されたデータ・ファイルの読取り中に、ユーザー指定の許容破損ブロック制限を超過しました。

処置：処置は必要ありません。コピーまたはバックアップ操作は失敗します。破損したブロックの詳細は、セッション・トレース・ファイル内にあります。

ORA-19567 バックアップまたはコピー中のため、ファイル *string* を縮小できません。

原因：ALTER 文で指示されたファイルの大きさを縮小しようとしたますが、そのファイルは現在バックアップ中またはコピー中です。

処置：バックアップまたはコピーが完了してから、サイズ変更を再試行してください。

ORA-19568 このセッションにはデバイスがすでに割り当てられています。

原因：デバイスが割り当てられている場合には、別のデバイスをセッションに割り当てることはできません。

処置：カレント・デバイスの割当てを解除してください。

ORA-19569 このセッションにデバイスが割り当てられていません。

原因：操作を実行するには、カレント・セッションにデバイスが割り当てられている必要がありますが、このセッションにはデバイスが割り当てられていません。

処置：デバイスを割り当てた後、操作を再試行してください。

ORA-19570 ファイル番号 *string* が 1 から *string* の有効範囲外です。

原因：コピー、バックアップまたはリストア操作に使用されたファイル番号は、カレント・データベースに対して有効ではありません。

処置：有効なファイル番号を指定してください。

ORA-19571 *string* RECID *string* のスタンプ *string* が制御ファイルに見つかりません。

原因：ファイルを記述したレコードが制御ファイルに見つからないため、コピーまたはバックアップ操作に指定された入力ファイルをオープンできませんでした。

処置：正しい RECID/ スタンプを指定して、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19572 ファイルはサイズ変更中のため、ファイル *string* を処理できません。

原因: コピーまたはバックアップ操作に指定された入力ファイルは、現在サイズの変更中であるため、オープンできませんでした。

処置: サイズ変更が完了するまで待機し、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19573 string エンキュー（データ・ファイル *string*）を取得できません。

原因: バックアップ、コピー、またはリストア操作で指定されたファイルのファイル・アクセス・エンキューを取得できませんでした。エンキュー型が「共有」と示された場合、そのファイルはバックアップまたはコピー用の入力ファイルです。型が「排他的」の場合、そのファイルはデータ・ファイルのコピーまたはリストア用の出力ファイルであり、現在アクティブなファイル・バージョンを上書きしようとしています。後者の場合、ファイルはオフラインであるか、またはデータベースがクローズされています。型が読取り専用の場合、データベースが NOARCHIVELOG モードにある間、このファイルをバックアップまたはコピーしようとしています。

処置: 競合操作が完了するまで待機し、コピーまたはバックアップを再試行してください。データベースが NOARCHIVELOG モードにある場合、バックアップされているすべてのファイルを正常にクローズする必要があります。

ORA-19574 出力ファイル名を指定してください。

原因: 指定されたタイプのコピーまたはリストアには、出力ファイル名が必要です。

処置: 出力ファイル名を指定して、コピーを再試行してください。

ORA-19575 予想されるブロック数は *string* ですが（ファイル *string*）、検出されたブロック数は *string* です。

原因: バックアップ、リストア、コピー、またはスキャン操作中に、指示されたファイルがファイル・ヘッダーで指示された分のブロックを含んでいませんでした。

処置: 入力コピーまたはバックアップ・ピースが破損している可能性があります。リストアしているファイルの他のバックアップまたはコピーが存在する場合は、破損ファイルをリカバリ・カタログから削除してから操作を再起動することができます。

ORA-19576 データ・ファイル *string* が制御ファイルに定義されていません。

原因: 指定されたファイル番号は、制御ファイルにありません。

処置: 正しいファイル番号を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19577 ファイル *string* がありません。

原因: copyDataFileCopy、restoreDataFileTo、または proxyRestoreDataFile 関数にファイル番号が指定されていますが、出力ファイル名が指定されていません。これは、出力ファイル名を制御ファイルから取得するという指示を表しています。しかし、制御ファイルのエントリによると、このファイルはデータ・ディクショナリに存在したファイルに対して作成されたものですが、最新の CREATE CONTROLFILE 文の実行時にファイル名が指定されませんでした。このため、制御ファイルの中のファイル名を復旧に使用することはできません。

処置: 出力ファイル名を指定するかまたは SQL RENAME コマンドを発行して、制御ファイルのこのファイルに有効な名前を入力してください。

ORA-19578 シーケンシャル・ファイルへのコピー中にボリュームの終了が見つかりました。バックアップ部分は未完了です。

原因: シーケンシャル・ファイルを多重化しているとき、ボリュームの終了 (EOV) 状態が検出されました。この状態は現在処理できません。

処置: バックアップの試行前に、バックアップ・ピースがこのボリュームに適していることを確認するか、多重化を使用禁止にしてください。

ORA-19580 *string* 会話がアクティブではありません。

原因: 会話が開始される前にバックアップまたはリストア操作を実行しようとしてしました。

処置: 会話を開始してから、操作を再試行してください。

ORA-19581 ファイル名が指定されていません。

原因: バックアップまたはリストア会話をファイル・ネーミング・フェーズからピース処理フェーズに進めようとしてしましたが、バックアップまたはリストア用のファイルが指定されていません。

処置: ファイルを指定してから、操作を再試行してください。

ORA-19583 エラーのため会話が終了しました。

原因: エラーが発生したため、カレント・バックアップまたはリストア会話が終了しました。

処置: 問題の原因の識別に役立つその他のエラー・メッセージが出力されます。エラーを訂正して、新たな会話を開始してください。

ORA-19584 ファイル *string* はすでに使用されています。

原因: 指定されたファイルは、コピー、リストアまたは削除操作のターゲットとして指定されたファイルであり、すでにデータベースによって使用中です。

処置: 別の名前を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19585 断片 *string* のボリューム・エンドが不完全です。

原因: 指示されたバックアップ・ピースの作成中、すべてのバックアップ・セット制御データがバックアップ・ピースに書き込まれる前にボリュームの終了 (EOV) 条件が検出されました。バックアップ・セットの制御データ量は、バックアップ・セットの全データ量に比べて非常に少ないので、媒体エラーの可能性が大了。

処置: より大きい断片の出力メディアで断片を再試行してください。

ORA-19586 制限 (*string* K バイト) が小さすぎるためピース・ディレクトリを保持できません。

原因: ユーザー指定の制限 (各バックアップ・ピースにつき K バイト) では、バックアップ・セット制御データの保持に不十分です。

処置: SETLIMIT プロシージャを使用して K バイト制限を増加し、操作を再試行してください。

ORA-19587 *string* バイト (ブロック番号 *string*) 読み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み中にエラーが発生しました。

処置: エラー原因の追求を支援する 1 つ以上のメッセージが表示されます。エラーを訂正して、コピー、バックアップまたはリストア操作を再試行してください。

ORA-19588 *string* RECID *string* のスタンプ *string* は無効になりました。

原因: 指示されたレコードは削除済としてマークされています。これは、別のコピーまたはリストアによってファイルが上書きされたか、または switchToCopy 操作によってコピーが消滅したことを意味します。

処置: コピーしたいファイル名が分かっている場合は、ファイル名を調べてから新規 RECID を指定するコピーを再試行してください。

ORA-19589 *string* はスナップショットまたはバックアップ制御ファイルではありません。

原因: バックアップまたはコピー操作のソースになっている制御ファイルは、スナップショットまたはバックアップ制御ファイルではありません。

処置: スナップショットまたはバックアップ制御ファイルの名前を指定してください。

ORA-19590 すでにアクティブな会話があります。

原因: バックアップまたはリストア会話を開始しようとしたましたが、このセッションではすでに別の会話がアクティブです。

処置: カレント会話を継続するか、または backupCancel か restoreCancel をコールしてカレント会話を終了してから新しい会話を開始してください。

ORA-19592 *string* 会話タイプが正しくありません。

原因: バックアップまたはリストアするファイルのタイプを指定しようとしたますが、そのファイルのタイプはカレント会話では処理できません。たとえば、アーカイブ・ログをデータ・ファイルのバックアップ・セットに入れることはできません。指定されたファイルは、バックアップまたはリストア操作に組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19593 データ・ファイル番号 *string* はすでに *string* として組み込まれています。

原因: このデータ・ファイルは、すでにバックアップまたはリストア会話への組込みが指定されています。バックアップまたはリストア会話では、データ・ファイルの 1 つのインスタンスしか処理できません。

処置: 処置は必要ありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19594 制御ファイルはすでに *string* として組み込まれています。

原因: この制御ファイルは、すでにバックアップまたはリストア会話への組み込みが指定されています。バックアップまたはリストア会話では、データ・ファイルの1つのインスタンスしか処理できません。

処置: 処置は必要ありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19595 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* はすでに *string* として組み込まれています。

原因: 指示されたアーカイブ・ログは、すでにこのバックアップ会話への組み込みが指定されています。バックアップ会話では、アーカイブ・ログの1つのコピーしか処理できません。

処置: 処置は必要ありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19596 スナップショット制御ファイルが作成されていません。

原因: スナップショット制御ファイルのバックアップ・セットへの組み込みを要求しようとしたが、このインスタンスのスナップショット制御ファイルが作成されていません。

処置: 別の制御ファイル名を指定するか、または `cfileMakeAndUseSnapshot` をコールしてスナップショット制御ファイルを作成してください。

ORA-19597 ファイル *string* のブロックサイズ *string* が設定されたブロックサイズ *string* と一致しません。

原因: バックアップ・セットに組み込むファイルが指定されましたが、指定されたファイルの論理ブロック・サイズがバックアップ・セットの残りのファイルのブロック・サイズと異なります。バックアップ・セットのすべてのファイルで、論理ブロック・サイズが同じでなければなりません。

処置: バックアップ・セットの残りのファイルと同じブロック・サイズのファイルを指定してください。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19598 増分バックアップには起動 SCN を指定しなければなりません。

原因: `backupDataFile` または `backupDataFileCopy` に対して、起動 SCN が指定されていません。カレント・バックアップ会話は増分バックアップ用であるため、すべてのデータ・ファイルに対してゼロ以外の SCN を指定する必要があります。

処置: 会話はまだアクティブです。ゼロ以外の SCN を持ったデータ・ファイルを指定し直してください。

ORA-19599 ブロック番号 *string* が破損しています (*string string*)。

原因: バックアップまたはコピー用に読み込まれている制御ファイル、アーカイブ・ログまたはバックアップ・ピースで破損ブロックが検出されました。制御ファイル、アーカイブ・ログまたはバックアップ・ピースの破損は許可されません。

処置: 処置は必要ありません。コピーまたはバックアップ操作は失敗します。バックアップ・セットの場合は、会話がまだアクティブであるため、ピースを再試行できます。

ORA-19600 入力ファイルは *string string* です (*string*)。

原因: このメッセージは、失敗したコピー操作の入力ファイルを識別します。ファイル番号と（名前が判別された場合は）ファイル名の両方が表示されます。

- データ・ファイルの場合、ファイル番号は DBA_DATA_FILES ビューに表示されるデータ・ファイルの絶対ファイル番号を参照します。
- データ・ファイルのコピーの場合、ファイル番号は、V\$DATAFILE_COPY ビューに表示されるコピーの制御ファイル・レコード番号を参照します。
- データ・ファイルのコピーの場合、ファイル番号は、V\$DATAFILE_COPY ビューの RECID 列に表示されるコピーの制御ファイル・レコード番号を参照します。
- アーカイブ・ログの場合、ファイル番号は、V\$ARCHIVED_LOG ビューの RECID 列に表示されるログの制御ファイル・レコード番号を参照します。

処置: エラー原因および解決策の追求を支援するその他のメッセージが表示されます。

ORA-19601 出力ファイルは *string string* です (*string*)。

原因: このメッセージは、失敗したコピー操作の出力ファイルを識別します。フィールドの詳細は、メッセージ 19600 を参照してください。新規データ・ファイルのコピーを作成している場合は、このメッセージの出力時に制御ファイルのレコード番号が判別できていないことがあります。その場合、レコード番号はゼロと表示されます。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19602 NOARCHIVELOG モードでアクティブ・ファイルのバックアップまたはコピーはできません。

原因: ファイルのコピーまたはバックアップが試行されましたが、そのファイルは正常にクローズされておらず、またデータベースは NOARCHIVELOG モードになっていました。リストアされたファイルが使用可能となるには REDO の適用が必要ですが、現在の REDO にはオンライン REDO ログの内容以上のものは保管されていないので、この操作は許可されません。

処置: 表領域をオフラインにして、データベースをクローズし、コピーまたはバックアップを再試行してください。

ORA-19604 会話ファイルの名前設定フェーズが終了しました。

原因: 最初のバックアップ・ピースが処理された後に、バックアップまたはリストアするファイルを指定するコールが行われました。

処置: 最初のバックアップ・ピースが処理された後に、バックアップまたはリストアの会話の途中で新たな処理ファイルを指定できません。ファイルを追加しなければならない場合は、新規会話を開始しなければなりません。

ORA-19605 入力ファイル名を指定してください。

原因: 制御ファイルのコピー操作に対して、入力ファイル名が指定されていません。

処置: 入力ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19606 スナップショット制御ファイルへのコピーまたはリストアはできません。

原因: 制御ファイルのコピーまたはリストア操作で、スナップショット制御ファイルの名前が出力ファイルとして指定されました。スナップショット制御ファイルをこの方法で上書することは許可されません。利用可能なその他の方法でスナップショット制御ファイルを作成してください。

処置: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。リストアの場合は、リストア会話がアクティブな状態なので、追加のファイルを指定できます。

ORA-19607 *string* はアクティブ制御ファイルです。

原因: 制御ファイルのコピー、リストアまたはバックアップで、INIT.ORA ファイルに指定された制御ファイル名を入力ファイルまたは出力ファイルとして指定しました。

処置: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。バックアップまたはリストア会話の場合は、会話がアクティブな状態なので、追加のファイルを指定できません。

ORA-19608 *string* はバックアップ断片ではありません。

原因: 指定されたファイルは、DBMS_BACKUP_RESTORE パッケージによって作成されたバックアップ断片ではありません。バックアップ断片の先頭ブロックが破壊されているか、またはこのファイルはバックアップ断片ではありません。

処置: 別のファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19609 *string* は異なるバックアップ・セットのものです。スタンプ *string*、件数 *string*

原因: 指定されたファイルは、現在処理中のバックアップ・セットのものではありません。このファイルは、異なるバックアップ・セットの部品です。このピースを含むセットは表示のとおりです。

処置: 正しいバックアップ・ピースを指定して、操作を再試行してください。

ORA-19610 ディレクトリ・ブロック *string* が破損しています。

原因: 指示されたディレクトリ・ブロックは、チェックサム妥当性検査で失敗しました。このバックアップ・ピースは使用できません。

処置: 同じバックアップ・ピースの別のコピーを供給するか、リストア会話を終了してください。

ORA-19611 バックアップ部分が不正です。予想されるのは *string* ですが *string* 検出されました。

原因: このバックアップ部分は、順序が不正です。

処置: 正しいバックアップ部分を指定してください。

ORA-19612 データ・ファイル *string* は *string* のためリストアされませんでした。

原因: 一部のデータ・ブロックがバックアップ・ピースに見つからなかったため、指示されたファイルをリストアできませんでした。

処置: リストア会話は引続きアクティブであるため、カレント・ピースを再処理する必要があります。カレント・ピースの再処理によって障害が解決されない場合は、リストア会話をキャンセルしてください。

ORA-19613 データ・ファイル *string* がバックアップ・セットにありません。

原因: 指示されたファイルがバックアップ・セットに存在しないため、ファイルをリストアできませんでした。ファイル番号がゼロの場合は、制御ファイルを参照します。

処置: このメッセージは、最初のバックアップ・ピースからディレクトリが読み取られ、リストアで指定された 1 つ以上のファイルが見つからなかったときに発行されます。リストアの会話は引続きアクティブですが、データが 1 つも読み取られていません。必要なすべてのファイルの入ったバックアップ・セットの最初のバックアップ・ピースを提供する必要があります。

ORA-19614 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* がバックアップ・セットにありません。

原因: 指示されたアーカイブ・ログ・ファイルのリストアを明示的に指定しましたが、このバックアップ・セットには含まれていません。

処置: このメッセージは、最初のバックアップ・ピースからディレクトリが読み取られ、リストアで指定された 1 つ以上のファイルが見つからなかったときに発行されます。リストアの会話は引続きアクティブですが、データが 1 つも読み取られていません。必要なすべてのファイルの入ったバックアップ・セットの最初のバックアップ・ピースを提供する必要があります。

ORA-19615 一部のファイルがバックアップ・セットにありません。

原因: リストアで指定された一部のファイルが、バックアップ・セットのディレクトリに存在しません。存在しない各ファイルごとに、メッセージ 19613 または 19614 が発行されます。

処置: メッセージ 19613 を参照してください。

ORA-19616 データベースがマウントされていないときは出力ファイル名を指定する必要があります。

原因: データ・ファイルのリストアに対してターゲット・ファイル名が指定されておらず、かつデータベースがマウントされていません。ターゲット・ファイル名が指定されていない場合は、データベースをマウントしてターゲット・ファイル名を制御ファイルから取得できるようにする必要があります。

処置: リストア会話がアクティブな状態です。ターゲット・ファイル名を指定せずにデータ・ファイルのリストアを実行する場合は、データベースをマウントしてから処理を続けてください。マウントせずに処理する場合は、データ・ファイルをリストアするすべてのコールでターゲット・ファイル名を指定する必要があります。

ORA-19617 ファイル *string* に異なるリセットログ・データがあります。

原因：指示されたファイルに入っているリセットログ・データは、すでにバックアップ・セットに組み込まれているアーカイブ・ログ・ファイルと異なります。バックアップ・セットのすべてのアーカイブ・ログ・ファイルは、同じリセットログ・データを持っている必要があります。

処置：リストア会話がアクティブな状態なので、バックアップ・セットに含まれるアーカイブ・ログ・ファイルの指定を継続できます。

ORA-19618 restoreValidate コール後にファイル名の指定はできません。

原因：バックアップ・セットからリストアするファイルを指定するコールが発行されましたが、以前に restoreValidate コールが発行されています。

処置：リストアするファイルを指定する場合は、会話を一度キャンセルしてから再び会話を開始してください。

ORA-19619 ファイル名指定後に restoreValidate はコールできません。

原因：restoreValidate がコールされましたが、すでに一部のファイルのリストアが指定されています。

処置：restoreValidate をコールしたい場合は、会話をいったんキャンセルしてから再開してください。

ORA-19621 アーカイブ・ログの範囲はすでに指定されています。

原因：ログの範囲は、すでに指定されています。SCN 範囲は会話ごとに 1 つのみ指定できます。

処置：リストアの会話は引続きアクティブであるため、必要な場合はスレッド及び順序番号によってログをさらに指定できます。

ORA-19622 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* は *string* のためリストアされませんでした。

原因：一部のデータ・ブロックがバックアップ・ピースに見つからなかったため、指示されたファイルをリストアできませんでした。

処置：リストア会話は引続きアクティブであるため、カレント・ピースを再処理する必要があります。カレント・ピースの再処理によって障害が解決されない場合は、リストア会話をキャンセルしてください。

ORA-19623 ファイル *string* がオープンしています。

原因：SwitchToCopy 操作でデータ・ファイルのコピーが指定されましたが、そのデータ・ファイルの親ファイルがオープンしています。

処置：所有する表領域をオフラインにするか、データベースをクローズしてから、操作を再試行してください。

ORA-19624 操作が失敗しました。再度実行してください。

原因: バックアップ、リストア、またはイメージ・コピーの操作が I/O エラーで失敗しました。I/O エラーの原因を修正できれば、操作を再度実行できます。

処置: Recovery Manager はこのメッセージを使用して操作を再試行するかどうか決定します。

ORA-19625 ファイル *string* の識別中にエラーが発生しました。

原因: コピーまたはバックアップ操作の入力として、または増分リストアのターゲットとして指定されたファイルは、Oracle ファイルとしては識別されません。このエラーには、オペレーティング・システム固有のエラーが伴い、問題を明確にします。

処置: 異なるファイルを指定して、操作を再試行してください。

ORA-19626 バックアップ・セット・タイプが *string* です。この会話では処理できません。

原因: バックアップ・セットのデータは、カレント会話と適合しません。

処置: カレント会話と一致したバックアップ・セットから最初のピースを提供するか、またはこのバックアップ・セットを処理できる新しいリストア会話を開始してください。

ORA-19627 制御ファイル・アプリケーション動作中はバックアップ断片を読込めません。

原因: この制御ファイルのリストアの会話では、データ・ファイルのチェックポイント・データを更新するために、1 つ以上の制御ファイルからオフラインの範囲情報を使用しています。このタイプの会話の動作中に、バックアップ・セットは使用されません。

処置: 会話はまだアクティブなので、制御ファイルをさらに適用できます。

ORA-19628 SCN の範囲が無効です。

原因: restoreRedoLogRange の開始 SCN が、終了 SCN よりも大きくなっています。

処置: 開始 SCN の値を終了 SCN 以下に指定してください。

ORA-19629 指定されたアーカイブ・ログの SCN 範囲にファイルがありません。

原因: このバックアップ・セットには、指定された範囲にファイルがありません。

処置: 正しい範囲にファイルが入っているバックアップ・セットを提供するか、または新規の会話を開始し、このバックアップ・セットからファイルが選択されるような範囲を指定してください。

ORA-19630 バックアップ断片コピー中にボリューム・エンドになりました。

原因: バックアップ断片をオペレーティング・システム固有のファイル・システムから出力デバイスにコピー中に、出力デバイスがボリューム・エンドになりました。

処置: コピーは失敗します。これは、バックアップ断片全体を保持するのに十分な大きさでないテープが使用された場合に発生します。

ORA-19631 アーカイブ・ログ・レコードにファイル名がありません。

原因：このアーカイブ・ログ・レコードは、以前の内容を保存せずにアクティブ・ログに切り替えられています。以前のログ・ファイルの内容は、失われています。

処置：ファイル名を含むアーカイブ・ログ・レコードの RECID を指定してください。固定ビュー V\$ARCHIVED_LOG を使用すれば、アーカイブ・ログを検査できます。

ORA-19632 指定されたファイル名が制御ファイルで検出されません。

原因：getFno に転送されたファイル名は、制御ファイルで見つかりません。

処置：有効なファイル名を指定してください。

ORA-19633 制御ファイル・レコード *string* がリカバリ・カタログと同期していません。

原因：deleteBackupPiece、deleteDataFilecopy、proxyDelete、または deleteArchivedLog のコールで削除されるファイルを記述した制御ファイルのレコード記述が、Recovery Manager から提供されたデータと一致しません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-19634 この関数にはファイル名が必須です。

原因：deletePiece、deleteDataFileCopy、deleteRedoLog、または proxyDelete に、fname またはハンドル・パラメータが指定されていません。

処置：これらの関数をコールするときは、fname パラメータまたはハンドル・パラメータを指定してください。

ORA-19635 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因：データ・ファイルのコピー操作に対して、指定された入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

処置：入力ファイル名と異なった出力ファイル名を指定してください。

ORA-19636 アーカイブ・ログ・スレッド *string* の順序番号 *string* はすでに組み込まれています。

原因：指示されたアーカイブ・ログは、すでにこのリストア会話への組込みが指定されています。リストア会話では、アーカイブ・ログの1つのコピーしか処理できません。

処置：処置は必要ありません。会話はまだアクティブなので、ファイルをさらに指定できます。

ORA-19637 DISK デバイス使用時には、backupPieceCreate にファイル名が必要です。

原因：現在セッション・デバイスはディスクに割り当てられているため、ファイル名が必要です。

処置：ファイル名を指定して、操作を再試行してください。

ORA-19638 ファイル *string* が最新ではないためこの増分バックアップは適用できません。

原因: 増分バックアップ用のターゲットのチェックポイントが、増分バックアップの起点よりも小さくなっています。このバックアップを適用した場合は、データ・ファイル・チェックポイントから増分バックアップの起点までのすべての変更が失われる可能性があります。

処置: 適用できるバックアップ・セットを供給してから操作を再試行してください。

ORA-19639 ファイル *string* はこの増分バックアップよりも新しいファイルです。

原因: 増分バックアップ用のターゲットのチェックポイントが、増分バックアップ・セット中のファイルのチェックポイントと等しいか、より大きくなっています。このバックアップでは、ターゲット・ファイルのチェックポイントを進めることができないので、適用する意义がありません。

処置: 適用できるバックアップ・セットを供給してから操作を再試行してください。

ORA-19640 データ・ファイルのチェックポイントは SCN *string*、タイム *string* です。

原因: このメッセージは、増分バックアップを取るには古すぎたデータ・ファイルのチェックポイント、または適用できなかった増分リストアのターゲットを示します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19641 バックアップ・データ・ファイルのチェックポイントは SCN *string*、タイム *string* です。

原因: このメッセージは、適用できなかった増分バックアップ・セット中のデータ・ファイルのチェックポイントを示します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19642 インクリメント起動 SCN は *string* です。

原因: このメッセージは、適用できなかった増分バックアップの起動 SCN を示します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19643 データ・ファイル *string*: インクリメント起動 SCN が新しすぎます。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN は、データ・ファイルのチェックポイント SCN よりも大きいので、数ブロックが欠如する可能性があります。

処置: インクリメント起動 SCN を小さく指定してください。

ORA-19644 データ・ファイル *string*: インクリメント起動 SCN がリセットログ SCN *string* 以前のものです。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN は、リセットログ SCN よりも小さくなっています。

処置: インクリメント起動 SCN を大きく指定してください。

ORA-19645 データ・ファイル *string*: インクリメント起動 SCN が作成 SCN *string* 以前のものです。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN は、データ・ファイル SCN よりも小さくなっています。

処置: インクリメント起動 SCN を大きく指定してください。

ORA-19646 データ・ファイル *string* のサイズを *string* から *string* へ変更できません。

原因: 指示されたファイルは、この増分バックアップを取る以前にサイズ変更されていますが、増分バックアップではファイルを新しいサイズに設定できませんでした。

処置: 失敗の原因を示したその他のメッセージを参照してください。

ORA-19647 INCREMENTAL が FALSE のときは、0（ゼロ）以外の LEVEL は指定できません。

原因: インクリメントが FALSE のとき、ゼロ以外の BACKUP_LEVEL で BackupSetDataFile がコールされました。

処置: インクリメントを TRUE に設定するか、または BACKUP_LEVEL をゼロに変更してください。

ORA-19648 データ・ファイル *string*: インクリメント起動 SCN がチェックポイント SCN と同じです。

原因: データ・ファイルの増分バックアップの起動時に指定されたインクリメント起動 SCN が、データ・ファイルのチェックポイント SCN と同じです。増分バックアップをデータ・ファイルに適用するには、データ・ファイルのチェックポイント SCN が、バックアップ・セットのインクリメント起動 SCN（SCN 値を含む）からバックアップ・セットのチェックポイント SCN（SCN 値を含まない）までの間になければなりません。このバックアップ・セットを適用できるデータ・ファイルは1つも存在しません。

処置: インクリメント起動 SCN を小さく指定してください。

ORA-19649 オフライン範囲レコードの RECID *string*、スタンプ *string* がファイル *string* に見つかりません。

原因: 指示された制御ファイル内に存在しない RECID/ スタンプを用いて applyOfflineRange をコールしました。指定された制御ファイルは、Recovery Manager が認識している制御ファイルと同じでない可能性があります。

処置: 制御ファイルのコピー内に存在するレコードの RECID/ スタンプを指定してください。

ORA-19650 オフライン範囲レコードの RECID *string*、スタンプ *string*（ファイル *string*）に SCN *string* があります。

原因: このメッセージは、指示されたファイル内の指示されたオフライン範囲レコードにあるオフライン・クリーン SCN を識別します。

処置: 他のエラー・メッセージを参照してください。

ORA-19651 データ・ファイル *string* にオフライン範囲レコードを適用不可。SCN が不一致です。

原因: データ・ファイルのチェックポイント SCN が、指定されたオフライン範囲レコードのオフライン・クリーン SCN と正確に一致しないかぎり、`applyOfflineRange` によってオフライン範囲レコードをターゲット・データ・ファイルに適用することはできません。

処置: オフライン範囲レコードのオフライン・クリーン SCN が、ターゲット・データ・ファイルのチェックポイントと一致するようにオフライン範囲レコードを指定してください。

ORA-19652 データ・ファイル *string* へのオフライン範囲レコード適用不可。ファイルがファジーです。

原因: `applyOfflineRange` コールのターゲット・データ・ファイルがファジーです。

処置: クリーンにクローズされたターゲット・データ・ファイルを指定してください。

ORA-19653 古いファイルの表示内容に切り換えられません。

原因: この制御ファイルがバックアップされる以前に削除されたデータ・ファイルのコピーを用いて `SwitchToCopy` をコールしました。

処置: リストアして以前の制御ファイルをマウントしてください。指定されたデータ・ファイルの作成以前にバックアップされた制御ファイルを使用することはできません。

ORA-19654 ファイルの表示内容を切り換えるには、バックアップ制御ファイルを使用。

原因: `switchToCopy` 操作によってデータ・ファイルの表示内容を切り換えようとしたが、現在マウントされている制御ファイルはバックアップ制御ファイルではありません。

処置: リストアしてバックアップ制御ファイルをマウントしてください。

ORA-19655 異なるリセットログ・データの表示内容に切り換えられません。

原因: `switchToCopy` 操作によってデータ・ファイルへの切換えが試行されましたが、そのデータ・ファイルのリセットログはデータベース・バージョンが異なります。

処置: ターゲット・データ・ファイルのコピーと同じデータベース・バージョンから取得されたバックアップ制御ファイルをリストアするか、または別のデータ・ファイル・コピーに切換えてください。

ORA-19656 オンライン・ログ *string* はバックアップ、コピー、削除できません。

原因: 指示されたログ・ファイルは、アクティブ・ログです。バックアップまたはコピー、削除できるのは、アーカイブ・ログのみです。

処置: 指示されているログ・ファイルは処理できません。別のファイルを選択してください。

ORA-19657 現行データ・ファイル *string* を検査できません。

原因: 検査しているファイルは、マウントされた現行データベースの一部です。

処置: 処置は必要ありません。そのファイルはすでにデータベースの一部になっています。

ORA-19658 *string* を検査できません。ファイルがリセットログと異なります。

原因: 検査しているログ・ファイルのリセットログ・データは、マウントされた現行制御ファイルのものと一致しません。

処置: 指示されたファイルは処理できません。別のファイルを検査してください。

ORA-19659 インクリメント・リストアではファイル *string* の以前のリセットログを進めません。

原因: この増分バックアップは指定したデータ・ファイルに適用できません。データ・ファイルは古い状態のデータベースのもので、そのチェックポイントも古いためカレント・データベースの再現では回復不可能です。

処置: この増分バックアップはこのデータ・ファイルに適用できません。データベースを RESETLOGS オプションでオープンできるよう、ファイルをリセットログ・システム変更番号 (SCN) にリカバリするには、増分リストアではなく REDO ログ・リカバリを使用してこのファイルのリカバリを継続してください。

ORA-19660 バックアップ設定のファイルに検証できないものがあります。

原因: バックアップ・セットのすべてのファイルを検証するリストア会話が行われました。メッセージ 19661 または 19662 に表示されているファイルは不正なブロックが見つかったため検証されませんでした。

処置: バックアップ・セットのダメージが回復できない場合、指示されたファイルはこのバックアップ・セットからリストアできません。

ORA-19661 データ・ファイル *string* は検証できません。

原因: 指示されたデータ・ファイルのいくつかのデータ・ブロックがバックアップ・セットにおいて不正です。

処置: バックアップ・セットのダメージが回復できない場合、指示されたデータ・ファイルはこのバックアップ・セットからリストアできません。

ORA-19662 アーカイブ・ログ・スレッド *string* (順序番号 *string*) は検証できません。

原因: 指示されたアーカイブ・ログのいくつかのデータ・ブロックがバックアップ・セットにおいて不正です。

処置: バックアップ・セットのダメージが回復できない場合、指示されたアーカイブ・ログはこのバックアップ・セットからリストアできません。

ORA-19663 現行のオフライン範囲をデータ・ファイル *string* に適用できません。

原因: カレント・オフライン範囲を指定されたデータ・ファイルに適用しようとしたが、データ・ファイルが、最新でないかオフライン範囲を適用する正しいシステム変更番号 (SCN) にありません。

処置: データ・ファイルが変更されないままです。

ORA-19664 ファイル・タイプ: *string*、ファイル名: *string*

原因: これはエラーの対象であるファイルを識別するメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。エラーの原因を説明するオラクルのメッセージが他にあります。

ORA-19665 ファイル・ヘッダーのサイズ *string* が実際のファイル・サイズ *string* と一致しません。

原因: ファイル・ヘッダーに示されているファイル・サイズがファイルの本当のサイズと一致しません。2つの異なるサイズが論理ブロックの単位に表示されています。

処置: このファイルは使用できません。切り捨てられた可能性があります。

ORA-19666 制御ファイルのインクリメント・リストアができません。

原因: 制御ファイルが増分リストア会話に含まれていました。

処置: 制御ファイルをリストアするには、制御ファイルを完全リストアする必要があります。

ORA-19667 データ・ファイル *string* のインクリメント・リストアができません。

原因: データ・ファイルのバックアップが全体バックアップです。

処置: データ・ファイルをリストアするには、データ・ファイルを完全リストアする必要があります。

ORA-19668 データ・ファイル *string* の全リストアができません。

原因: データ・ファイルのバックアップが増分バックアップです。

処置: データ・ファイルをリストアするには、データ・ファイルを増分リストアする必要があります。

ORA-19669 DISK チャネルでプロキシ・コピー機能は実行できません。

原因: プロキシ・コピー・プロシージャがコールされましたが、カレント・セッションのデバイスは DISK 型です。

処置: 非 DISK チャネルを割り当てて、操作を再試行してください。プロキシ・コピーには、このバックアップ / リストア機能をサポートするサード・パーティのメディア管理ソフトウェア製品が必要です。

ORA-19670 ファイル *string* はすでにリストア中です。

原因: プロキシ・リストア・ファンクションが、すでにこのファイルをリストアの宛先として名前を付けました。

処置: 別の名前を使用してください。Recovery Manager のジョブ中にこのメッセージが発生する場合、これは Recovery Manager 内の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合せてください。

ORA-19671 メディア管理ソフトウェアから無効なプロキシ・ハンドルが返りました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア中に、メディア管理ソフトウェアが無効なファイル・ハンドルを返しました。これは Oracle にリンクしてバックアップ / リストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェア内の内部エラーです。

処置: メディア管理ソフトウェア・ベンダーに連絡してください。

ORA-19672 メディア管理ソフトウェアから無効なファイル・ステータスが返りました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア中に、メディア管理ソフトウェアが無効なプロキシ・ステータスを返しました。これは Oracle にリンクしてバックアップ / リストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェア内の内部エラーです。

処置: メディア管理ソフトウェア・ベンダーに連絡してください。

ORA-19673 ファイル *string* のプロキシ・コピー中にエラーが発生しました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア処理において、このファイルをコピーしているときにエラーが発生しました。他のファイルは正常にコピーされた可能性があります。

処置: エラー・スタック上のその他のエラーに、このファイルが正常にコピーされなかった原因の説明があります。

ORA-19674 ファイル *string* はプロキシ・コピーですすでにバックアップ中です。

原因: Recovery Manager がプロキシ・コピーで指定のファイルをバックアップしようとしたますが、そのファイルはすでに他の Recovery Manager によってバックアップ中です。

処置: このファイルの他の Recovery Manager バックアップが完了するまで待って、バックアップを再試行してください。

ORA-19675 ファイル *string* がプロキシ・コピー中に変更されました。

原因: ファイルがオンラインにされたか、プロキシ・バックアップが進行中に変更されたかして、指定のファイルのプロキシ・バックアップに失敗しました。このファイルはオフラインだったか、バックアップ開始時に読取り専用であったため、ファイルはホット・バックアップ・モードへ変更されませんでした。したがって、バックアップ進行中のどの変更も許可されていません。

処置: このファイルのバックアップを再度行ってください。

ORA-19676 プロキシ・バックアップまたはリストア中に 1 つ以上のファイルでエラーが発生しました。

原因: プロキシ・バックアップまたはリストア処理において、いくつかのファイルを処理しているときにこのエラーが発生しました。エラー・メッセージが示されていないファイルは成功しています。

処置: 特定のファイルに関するメッセージを調べてそのエラーの原因を確認してください。

ORA-19700 デバイス・タイプが最大長 *string* を超えています。

原因: 指示されたデバイス・タイプが無効です。

処置: 正しいデバイス・タイプを指定し、割り当てを再試行してください。

ORA-19701 デバイス名が最大長 *string* を超えています。

原因: 指示されたデバイス名が無効です。

処置: 正しいデバイス名を指定し、割り当てを再試行してください。

ORA-19702 デバイス・パラメータが最大長 *string* を超えています。

原因: デバイス・パラメータがポート固有の最大長を超えています。

処置: パラメータを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-19703 デバイス・コマンド文字列が最大長 *string* を超えています。

原因: デバイス・コマンド文字列が最大長を超えています。

処置: コマンドを訂正して、操作を再試行してください。

ORA-19704 ファイル名が最大長 *string* を超えています。

原因: コピー、バックアップまたはリストア操作のパラメータとしてファイル名が指定されましたが、このオペレーティング・システムのファイル名の最大長を超えています。

処置: ファイル名を短くして操作を再試行してください。

ORA-19705 タグ値が最大文字数 *string* を超えています。

原因: バックアップまたはコピー操作中に提供されたタグ値が長すぎるため、ファイル・ヘッダーに収容できません。

処置: タグを短くして操作を再試行してください。

ORA-19706 SCN が無効です。

原因: 入力された SCN が正整数でないか、または大きすぎます。

処置: 入力 SCN をチェックし、有効な SCN であることを確認してください。

ORA-19707 レコード・ブロック番号 *string* が無効です。

原因: 入力された番号が負数であるか、または大きすぎます。

処置: 入力したレコード・ブロック番号をチェックし、データベース作成文の有効な番号句であることを確認してください。

ORA-19708 ログの宛先が最大文字数 *string* を超えています。

原因: リストア会話の起動時に指定されたログ・リストアの宛先が、ポート固有の最大長を超えています。

処置: 宛先を短くして操作を再試行してください。

ORA-19709 数値パラメータは負でない整数でなければなりません。

原因: X\$DBMS_BACKUP_RESTORE プロシージャへの数値パラメータが負であるか、または小数が入っています。

処置: 有効な数値パラメータを提供してください。

ORA-19720 OCI 番号を SCN に変換中、エラーが発生しました。

原因: これはおそらくエクスポート・ファイルなどの外部ファイルからの無効な SCN 番号によるものです。

処置: エラー・スタック上の他のエラーを参照して、問題の原因を調べてください。

ORA-19721 絶対ファイル番号 *string* (表領域 *string*) のデータ・ファイルが見つかりません。

原因: トランスポータブル・セットにあるべきデータ・ファイルの 1 つが見つかりません。

処置: データ・ファイルがインポート・コマンド・ライン・オプションまたはパラメータ・ファイルを介して指定されていることを確認してください。

ORA-19722 データ・ファイル *string* のバージョンが正しくありません。

原因: データ・ファイルのバージョンが正しくありません。希望するバージョンよりも多くのまたは少ない変更が含まれています。

処置: 正しいデータ・ファイルがトランスポートされているかどうかを確認してください。表領域が読取り専用である間にデータ・ファイルがコピーされていることを確認してください。

ORA-19723 読込み専用で差込まれたデータ・ファイル *string* を再作成できません。

原因: データ・ファイルは読取り専用でプラグインされます。再作成できません。

処置: かわりに、ALTER DATABASE RENAME FILE コマンドを使用してください。

ORA-19724 スナップショットが古すぎます。スナップショット時刻がファイル *string* の差込み時刻より前です。

原因: スナップショット SCN は、参照されたデータ・ファイルがデータベースへプラグインされる SCN の前にあります。

処置: 問合せを再試行してください。

ORA-19725 差込みエンキューを取得できません。

原因: 同時に発行された他の ALTER DATABASE RESET COMPATIBILITY コマンドがあり、この処理がプラグイン・エンキューを取得するのを妨げている可能性があります。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-19726 データ [string] (レベル string) は互換レベル string で実行中のデータベースに差込みません。

原因: トランスポータブル・セットのデータの中のいくつかには、データベースによって現在許可されているものより高い互換性レベルが必要です。四角のブラケットの中の文字列は、データに関連付けられた互換性型の名前です。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータの値を高くして、操作を再試行してください。

ORA-19727 データ [string] (レベル string) は Oracle string で実行中のデータベースに差込みません。

原因: トランスポータブル・セットのデータの中のいくつかには、Oracle 実行可能ファイルのリリース・レベルより高い互換性レベルが必要です。四角のブラケットの中の文字列は、データに関連付けられた互換性型の名前です。

処置: Oracle を更新して、操作を再試行してください。

ORA-19728 表 string とパーティション string (表 string) 間で、データ・オブジェクト番号が競合しています。

原因: 非パーティション表には、パーティション表のパーティションの1つと同じオブジェクト番号があります。この場合、パーティションのある表を交換できません。

処置: ALTER TABLE MOVE PARTITION コマンドで違反しているパーティションを移動し、そのパーティションが新しいデータ・オブジェクト番号を取得できるようにしてください。その後、操作を再試行してください。

ORA-19729 ファイル string はデータ・ファイルに差込まれた初期バージョンではありません。

原因: ファイルはデータ・ファイルにプラグされた初期バージョンではありません。

処置: データ・ファイルにプラグされた正しい初期バージョンを使用してください。

ORA-19730 オフラインの差込みデータ・ファイル string は変換できません。

原因: 表領域を読み書き可能にするために、読取り専用でプラグインされるデータ・ファイルを変換する必要があります。ファイルがオンラインである必要があります。

処置: データ・ファイルをオンラインにして操作を再試行してください。

ORA-19731 未検証の差込みデータファイル string への変更は適用できません。

原因: リカバリは制御ファイルの情報が参照するデータ・ファイルを検証できませんでした。このファイルの変更ベクトルを見つける前に、何らかの理由でリカバリはファイルを検証するファイル変換 REDO を見つけることができませんでした。メディア・リカバリで使用する制御ファイルが破損したか、正しくない可能性があります。

処置: 正しい制御ファイルを使用して、リカバリを続けてください。

ORA-19732 表領域 *string* のデータ・ファイル番号が正しくありません。

原因：参照された表領域のエクスポート・ファイルのデータ・ファイル番号が、予測されるものと異なります。多くの場合、ユーザーがそのエクスポート・ファイルを編集していることが原因です。

処置：正しいエクスポート・ファイルを使用して、操作を再試行してください。

ORA-19733 COMPATIBLE パラメータは、*string* 以上が必要です。

原因：COMPATIBLE 初期化パラメータは、操作ができるほど高くありません。コマンドを許可すると、データベースは現在の COMPATIBLE パラメータで指定されたリリースとの互換性がなくなります。

処置：シャットダウンし、互換性の高い設定値で再起動してください。

ORA-19734 SCN 作成エラー - 制御ファイルでは変換済みの差込みデータ・ファイルを期待しています。

原因：表領域をデータベースへプラグインするとき、表領域は始めは読取り専用です。表領域を最初に読み書き可能にすると、Oracle はプラグイン・データ・ファイル（新規作成の SCN を割り当てます）のヘッダーを変換します。このエラーは、ファイル・ヘッダーの SCN 作成が制御ファイルの SCN 作成と異なるときに発生します。プラグインされたデータ・ファイルの最初のバージョンである可能性があります。

処置：変換されたデータ・ファイルをリストアするか、またはデータ・ファイルのリカバリを続けてください。

ORA-19735 SCN 作成エラー - 制御ファイルでは初期の差込みデータ・ファイルを期待しています。

原因：表領域をデータベースへプラグインするとき、表領域は始めは読取り専用です。表領域を最初に読み書き可能にすると、Oracle はプラグイン・データ・ファイル（新規作成の SCN を割り当てます）のヘッダーを変換します。このエラーは、ファイル・ヘッダーの SCN 作成が制御ファイルの SCN 作成と異なるときに発生します。おそらく、変更されたデータ・ファイルであることが原因です。

処置：データ・ファイルにプラグインされた正しい初期バージョンをリストアするか、制御ファイルのリカバリを行うデータベース・リカバリを続けてください。

ORA-19736 異なる各国語キャラクタ・セットでは、データベースに表領域を作成できません。

原因：異なる各国語キャラクタ・セットを使用した、表領域のデータベースへのプラグインは、サポートされていません。

処置：インポート / エクスポートまたはアンロード / ロードを使用して、データを移動してください。

ORA-19999 skip_row 手順が呼び出されました。

原因：SKIP_ROW プロシージャがコールされ、このエラーが発生しました。

処置: SKIP_ROW は、トリガー内またはトリガーによって呼び出されたプロシージャ内でのみ、呼び出す必要があります。

ORA-20000 *string*

原因: このメッセージが発生する原因となったストアド・プロシージャ 'raise_application_error' がコールされました。

処置: エラー・メッセージの記述どおりに問題を訂正するか、または詳細をアプリケーション管理者やデータベース管理者に問い合わせてください。

ORA-21000 *stringstring* の RAISE_APPLICATION_ERROR に対するエラー引数が範囲外です。

原因: 許可された範囲にない番号を指定しようとした。

処置: -20000 から -20999（各値を含む）の範囲内のエラー番号を使用してください。

ORA-21001 *stringstring* の RAISE_SYSTEM_ERROR に対するエラー引数が範囲外です。

原因: 許可された範囲にない番号を指定しようとした。

処置: -23300 から -24299 または -29300 から -29399（各値を含む）の範囲内のエラー番号を使用してください。

ORA-21300 オブジェクト・オプションがインストールされていません。

原因: このサイトでは、オブジェクト・オプションがインストールされていません。したがって、オブジェクト・タイプおよびその他のオブジェクト機能を使用することはできません。

処置: オブジェクト・オプションをインストールしてください。オブジェクト・オプションは、Oracle Server 製品の一部ではないので、別個に購入しなくてはなりません。オブジェクト・オプションを購入する必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-21301 オブジェクト・モードで初期化されていません。

原因: この関数にはオブジェクト・モードで初期化された OCI プロセスが必要です。

処置: OCIInitialize() コールで OCI_OBJECT モードを指定してください。

ORA-21500 内部エラー・コード , 引数 :*[string],[string],[string],[string],[string],[string],[string],[string]*

原因: OCI Environment（クライアント・サイド）内部エラーの一括エラー番号です。OCI 環境で例外条件が検出されたことを示します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。第 1 の引数は内部エラー番号を示します。

ORA-21501 プログラムに必要なメモリーを割り当てることができません。

原因: オペレーティング・システムのメモリーが足りません。

処置: メモリーの量を増やしてプログラムが使用できるようにしてください。

ORA-21503 致命的エラーによりプログラムが終了しました。

原因: プログラムは回復不能なエラー状態にあります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-21520 データベース・サーバー・ドライバがインストールされていません。

原因: ユーザーが、オブジェクト・モードの OCI 環境でデータベース・サーバーにアクセスしようとしたが、データベース・サーバーのアクセスをサポートする必要なドライバがインストールされていないか、リンクされていません。

処置: データベース・サーバーに対応したドライバがインストール / リンクされているか、またサーバー・ドライバ表に入力されているかチェックしてください。

ORA-21521 OCI の最大接続数を超えています (オブジェクト・モードのみ)。

原因: ユーザーがオブジェクト・モードの OCI 環境でサポートできる最大接続数 (225) を超えています。

処置: 既存の接続と未使用の接続をいくつかクローズしてから、追加の接続をオープンしてください。

ORA-21522 OCI で無効な接続を使用しました (オブジェクト・モードのみ)。

原因: ユーザーが無効な接続または OCI 環境 (オブジェクト・モード) で終了された接続を使用したか、または終了した接続から取得した REF の参照を解除しようとした。

処置: 接続が存在し、かつ有効であることを確認してください。

ORA-21523 サーバーがサポートしていない機能です (オブジェクト・モードのみ)。

原因: サーバーがサポートしていない機能を使用しようとした。

処置: サーバーをアップグレードしてください。

ORA-21524 オブジェクト型が一致しません。

原因: オブジェクトのオブジェクト型が指定されたものと異なります。

処置: オブジェクト型をチェックし、修正してください。

ORA-21525 属性番号または (索引のコレクション要素) *string* が制約に違反しています。

原因: 属性番号またはコレクション要素の値が制約に違反しています。

処置: 属性値またはコレクション要素値を制約に合わせて変更してください。制約は属性またはコレクション要素のスキーマ情報の一部として指定されます。

ORA-21526 初期化に失敗しました。

原因: 初期化に失敗しました。これは NLS_DATE_FORMAT などの環境変数が無効な値に設定されていると起きることがあります。

処置: すべての NLS 環境変数が正しいことを確認してください。

ORA-21560 引数 *string* が NULL または無効、範囲外です。

原因: 引数の期待値は NULL 以外の有効な値ですが、転送された引数値は NULL または無効、範囲外です。このエラーはたとえば、LOB/FILE の定位置引数またはサイズ引数の値が 1 から (4GB-1) までの範囲外であるとき、または無効なオープン・モードでファイルをオープンしたときなどに発生します。

処置: プログラムをチェックし、NULL または無効、範囲外の引数値を転送しないよう、ルーチンの呼び側を訂正してください。

ORA-21600 パス式が長すぎます。

原因: ユーザーは長すぎるパス式を指定しました。パスは、オブジェクト内での属性の位置を指定するのに使用されます。このエラーは、パスの中間要素の 1 つが組込み型の属性を参照するとき発生します。したがって、OCI 関数はパスの残りの要素の処理を進めることができません。

処置: 属性を位置づけるために、正しいパスを渡してください。

ORA-21601 属性がオブジェクトではありません。

原因: 操作（オブジェクトのみに有効な操作）を組込み型の属性に実行しようとしてしました。そのような不正な操作の例として、NULL 構造体を動的に組込み型の属性に設定することがあげられます。

処置: 組込み型の属性にそのような操作を行わないでください。

ORA-21602 指定されたタイプ・コードがサポートされていません。

原因: 実行しようとした操作では、指定されたタイプ・コードがサポートされていません。

処置: この操作でサポートされた有効なタイプ・コード範囲を使用してください。

ORA-21603 プロパティ ID[*string*] は無効です。

原因: このプロパティ ID は無効です。

処置: 有効なプロパティ ID を指定してください。有効なプロパティ ID は、OCIObjectPropId で数え上げが可能です。

ORA-21604 プロパティ [*string*] は、一時または値のインスタンスのプロパティではありません。

原因: 永続オブジェクトのみに適応するプロパティを得ようとしてしました。

処置: 存続期間をチェックし、このプロパティは永続オブジェクトに取得してください。

ORA-21605 プロパティ [*string*] は、値インスタンスのプロパティではありません。

原因: 永続オブジェクトと一時オブジェクトのみに適応するプロパティを得ようとしてしました。

処置: 存続期間をチェックし、このプロパティは永続オブジェクトと一時オブジェクトに取得してください。

ORA-21606 このオブジェクトを解放できません。

原因：永続および使用済のオブジェクトを開放しようとしたが、OCI_OBJECTFREE_FORCE フラグが指定されていません。

処置：永続オブジェクトをフラッシュするか、OCI_OBJECTFREE_FORCE フラグを設定してください。

ORA-21607 メモリー・カートリッジ・サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因：ハンドルを初期化せずに使用しようとした。

処置：メモリー・カートリッジ・サービス・ハンドルを初期化してください。

ORA-21608 この関数には無効な継続期間です。

原因：この関数で有効でない存続期間を使用しようとした。

処置：有効な期間（以前に作成した存続期間または OCI_DURATION_STATEMENT または OCI_DURATION_SESSION）を使用してください。時間か外部プロシージャ期間を設定するには、OCIExtProcAllocCallMemory を使用してください。

ORA-21609 最初にメモリーを割り当ててから、サイズを変更してください。

原因：メモリーを確保せずにサイズを変更しようとした。

処置：メモリーをまず割り当ててから、サイズを変更してください。

ORA-21610 サイズ [string] が無効です。

原因：無効なサイズでサイズを変更しようとした。

処置：有効なサイズ（正の整数）で渡してください。

ORA-21611 キーの長さ [string] が無効です。

原因：無効なキーの長さを使用しようとした。

処置：キーの長さが無効です。有効な範囲は 0 から 64 です。

ORA-21612 キーはすでに使用されています。

原因：すでに使用されているキーを使用しようとした。

処置：まだ使用されていない新しいキーを使用してください。

ORA-21613 キーが存在しません。

原因：存在しないキーを使用しようとした。

処置：すでに存在するキーを使用してください。

ORA-21614 属性番号の制約違反です。 [string]

原因：属性の制約が違反しています。

処置：（属性）値を訂正して、制約を満たしてください。

ORA-21615 OTS（名前付きまたはシンプル）インスタンスのコピーに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: どの属性値も制約に違反していないことを確認してください。

ORA-21700 オブジェクトが存在しないか、削除マークが設定されています。

原因: 存在しないか削除のマークが設定されたオブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとした。存在しないか削除のマークが設定されたオブジェクトに対して、ピン、削除および更新などの操作は実行できません。

処置: 存在するオブジェクトを参照するために参照を再初期化するか、オブジェクトのマークを外してください。

ORA-21701 異なるサーバーにオブジェクトをフラッシュしようとした。

原因: 1つの関数コールで異なるサーバーにオブジェクトをフラッシュしようとした。それらのオブジェクトは、プログラムにより提供されるコールバック関数のコールによって取得されます。

処置: この操作は実行できません。

ORA-21702 オブジェクトが未インスタンス化またはキャッシュ内で逆インスタント化されています。

原因: オブジェクト・キャッシュにインスタンス化されていない一時オブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとした。インスタンス化されていない一時オブジェクトに適用できない操作には、この種のオブジェクトの削除またはピンなどがあります。

処置: オブジェクトをインスタンス化しないで操作が行われているか、また、オブジェクトの割当ての期限が切れた後にそのような操作が行われているか、コードを確認してください。

ORA-21703 変更されていないオブジェクトはフラッシュできません。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

処置: オブジェクトをフラッシュしないでください。

ORA-21704 フラッシュを実行しないとキャッシュまたは接続を終了できません。

原因: エラー・メッセージを参照してください。

処置: トランザクションをアボートまたはコミットしてから、キャッシュまたは接続を終了してください。

ORA-21705 サービス・コンテキストが無効です。

原因: 指定されたサービス・コンテキストが有効ではありません。

処置: サービス・コンテキストを確立してください。

ORA-21706 時間が存在しないか、または無効です。

原因: 指定された時間番号が有効ではありません。

処置: 時間を設定するか、または正しい定義済時間を使用してください。

ORA-21707 確保された時間は割当て時間を超えています。

原因: ユーザーが供給した確保された時間は割当て時間を超えています。これはピンまたはデフォルト・パラメータの設定などの操作に影響します。

処置: 確保継続時間を短くするか、NULL 継続時間を使用してください。

ORA-21708 一時オブジェクトで不適切な操作が行われました。

原因: 一時オブジェクトに対して、不適切な操作を実行しようとした。一時オブジェクトに適用できない操作には、フラッシュおよびロッキングなどがあります。

処置: 一時オブジェクトにそのような操作を実行しないでください。

ORA-21709 変更されているオブジェクトはリフレッシュできません。

原因: 削除、更新または挿入（新規）のマークが設定されたオブジェクトをリフレッシュしようとした。

処置: オブジェクトのマークを外してから、リフレッシュしてください。

PCC-21710 引数にはオブジェクトの有効なメモリー・アドレスが必要です。

原因: ユーザーが与えたオブジェクト・メモリー・アドレスが有効ではありません。不正なメモリー・アドレスをオブジェクトの有効なメモリー・アドレスを预期している関数へ渡した可能性があります。

処置: オブジェクトの有効なメモリー・アドレスを関数へ渡してください。

ORA-21779 時間がアクティブではありません。

原因: すでに終了した時間を使用しようとした。

処置: そのような操作は実行できません。

ORA-22053 オーバーフロー・エラーが発生しました。

原因: この操作の結果が Oracle の上限値を超えています。

処置: 入力値を下げて、結果が有効範囲内になるようにしてください。

ORA-22054 アンダーフロー・エラー

原因: この操作の結果は Oracle の下限値を下回っています。

処置: 入力値を上げて、結果が有効範囲内になるようにしてください。

ORA-22055 符号フラグ値 [string] が不明です。

原因: 使用される符号フラグが OCI_NUMBER_SIGNED または OCI_NUMBER_UNSIGNED ではありません。

処置: OCI_NUMBER_SIGNED または OCI_NUMBER_UNSIGNED のいずれかを符号フラグとして使用してください。

ORA-22056 値 [string] が 0（ゼロ）で除算されています。

原因: 指定された値が 0（ゼロ）で割られています。

処置: 除数値を 0 以外に変更してください。

ORA-22057 整数の長さ [string] が無効です。

原因: Oracle 数値へ変換（またはその逆）される整数の長さ（つまり、バイト数）が無効です。

処置: 1、2、4 または 8 バイト長の整数のみを使用してください。

ORA-22059 バッファ・サイズ [string] が小さすぎます。[string] が必要です。

原因: 結果テキスト文字列を保持するバッファが小さすぎます。

処置: 必要なサイズのバッファを提供してください。

ORA-22060 引数 [string] が無効か、または未初期化数値です。

原因: 無効または初期化されていない数値が渡されました。

処置: 有効な数値を使用してください。数値を初期化するには、OCINumberInit() をコールしてください。

ORA-22061 書式テキスト [string] が無効です。

原因: 文字を Oracle 数値に変換（またはその逆変換）するときに使用された数値フォーマット文字列が無効です。

処置: 『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』に説明されている有効なフォーマットを使用してください。

ORA-22062 入力文字列 [string] が無効です。

原因: 数値への変換に使用されたテキスト文字列が無効です。

処置: 『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』に説明されている有効な入力文字列を使用してください。

ORA-22063 負の値 [string] が符号なしで読み込まれました。

原因: 負数を符号なし整数に変換しようとしてしました。

処置: 符号付きの数値を変換するには、符号フラグ ORLTSB を使用してください。

ORA-22064 NLS パラメータ文字列 [string] が無効です。

原因: 文字を Oracle 数値に変換（またはその逆変換）するときに使用された NLS パラメータ文字列が無効です。

処置: 『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』に説明されている有効なフォーマットを使用してください。

ORA-22065 所定の書式の数値をテキストに変換するときにオーバーフローが発生しました。

原因: 与えられた文字列フォーマットに丸めると、オーバーフローが発生します。

処置: オーバーフローが発生しないように文字列フォーマットを変更してください。

ORA-22130 バッファ・サイズ [string] が必要サイズ [string] よりも小さいです。

原因: 16 進 REF 文字列が書き込まれるバッファが小さすぎます。

処置: 必要なサイズのバッファを提供してください。

ORA-22131 16 進の文字列長が 0（ゼロ）です。

原因: 指定される 16 進文字列がゼロより大きい必要があります。

処置: 0 より大きい長さを指定してください。

ORA-22132 16 進文字列が有効な REF に一致しません。

原因: 16 進文字列が無効です。

処置: OCIRefToHex() へのコールによって戻された有効な 16 進文字列を指定してください。

ORA-22140 与えられたサイズ [string] は、0 から [string] の範囲で指定しなければなりません。

原因: サイズ変更されたサイズは無効です。

処置: 与えられたサイズが要求された範囲内であることを確認してください。

ORA-22150 可変長配列が初期化されていません。

原因: 初期化されていない可変長配列に対して操作を行おうとしました。

処置: この関数をコールする前に、可変長配列を初期化してください。

ORA-22151 0（ゼロ）以外の可変長配列は、0（ゼロ）要素にサイズ変更できません。

原因: 0（ゼロ）以外の可変長配列を 0（ゼロ）要素にサイズ変更しようとしてしました。

処置: ゼロ以外のサイズを指定してください。

ORA-22152 接続先の可変長配列が初期化されていません。

原因: 割当ての右辺の可変長配列または結合の宛先配列が初期化されていません。

処置: この関数をコールする前に、宛先可変長配列は初期化してください。

ORA-22153 ソースの可変長配列が初期化されていません。

原因: 割当ての左辺の可変長配列または結合のソース配列が初期化されていません。

処置: この関数をコールする前に、宛先可変長配列は初期化してください。

ORA-22160 索引 [string] に要素が存在しません。

原因: 指定した索引でのコレクション要素が存在しません。

処置: 存在する要素の索引を指定してください。

ORA-22161 タイプ・コード *[string]* が無効です。

原因: 指定されたタイプ・コードが無効です。

処置: OCITypeCode で列挙されたタイプ・コードの 1 つを使用してください。

ORA-22162 索引 *[string]* の要素は削除されています。

原因: 存在しないコレクション要素を削除しようとした。

処置: この関数をコールする前に、要素が存在するかどうかを確認してください。

ORA-22163 コレクションの左側と右側が同一型ではありません。

原因: 左側と右側のコレクションのタイプが異なります。

処置: この関数の左辺と右辺に同じコレクション・タイプが転送されていることを確認してください。

ORA-22164 可変長配列に対して要素削除の操作はできません。

原因: 可変長配列の要素を削除しようとした。

処置: 関数をコールする前に、コレクションのタイプが可変長配列でないことを確認してください。

ORA-22165 与えられた索引 *[string]* は、0 から *[string]* の範囲内でなければなりません。

原因: 指定された索引が必要な範囲内ではありません。

処置: 与えられた索引が要求された範囲内であることを確認してください。

ORA-22166 コレクションが空です。

原因: 指定されたコレクションが空です。

処置: コレクションが空であるかどうかをテストしてから、この関数を呼び出してください。

ORA-22167 与えられた切捨てサイズ *[string]* は、*[string]* 以下でなければなりません。

原因: 与えられた切捨てサイズがカレント・コレクション・サイズを超えています。

処置: 指定されたサイズがコレクション・サイズ以下であることを確認して、この関数を再試行してください。

ORA-22275 指定した LOB ロケータは無効です。

原因: 次のいずれかです。

1. LOB ロケータが初期化されていない。
2. ロケータが BFILE 用だが、ルーチンは BLOB/CLOB/NCLOB ロケータを要求している。
3. ロケータが BLOB/CLOB/NCLOB だが、ルーチンは BFILE ロケータを要求している。

-
4. トリガー本体で LOB を更新しようとしたが、トリガー本体での LOB は読取り専用である。

処置: (1) の場合、変数ロケータを選択するか、または LOB ロケータを空に設定することにより、LOB ロケータを初期化してください。(2) および (3) の場合、正しいタイプのロケータをルーチンに移してください。(4) の場合、LOB 値を更新するトリガー本体コードを削除してください。

ORA-22276 LOB バッファリング用のロケータが無効です。

原因: 次のいずれかです。

1. ロケータはバッファリングに使用可能になっていない。
2. 更新済ロケータではなく、書込み / フラッシュ操作のために使用されている。

処置: (1) の場合、ロケータをバッファリングのために使用可能にしてください。(2) の場合、更新済ロケータのみが確実に LOB 更新操作に使用されるようにしてください。

ORA-22277 同一 LOB の変更には、2 つの異なるロケータを使用できません。

原因: LOB バッファが使用可能で、2 つの異なる LOB ロケータを使用して LOB を変更しようとしてしました。

処置: LOB バッファリングを使用するときは、1 つの LOB ロケータのみで LOB を変更してください。

ORA-22278 LOB は、その LOB バッファだけを使用して更新する必要があります。

原因: この LOB のために LOB バッファリングが可能となり、バッファ・プールの中に、この LOB のためのバッファが存在します。したがって、LOB バッファ以外の方法で LOB を更新することはできません。

処置: LOB バッファリングが可能となったロケータを使用して、LOB バッファにより LOB を更新してください。もし、この操作が必須の場合は、この LOB に関連したバッファは、必要なものとしてフラッシュされるか、または、バッファリングが不可能となるはずで、これが済んだら、再度コマンドを出してください。

ORA-22279 LOB バッファが使用可能な状態では、操作を実行できません。

原因: LOB バッファが使用可能な状態では、操作できません。

処置: この操作が必須の場合は、LOB バッファリングを使用すべきではありません。この場合は、入力 LOB ロケータに関連したバッファを必要なものとしてフラッシュし、入力 LOB ロケータ上でのバッファリングを不可能にした上で、再度コマンドを出してください。

ORA-22280 その操作に使用可能なバッファは、これ以上ありません。

原因: 次のどれかです。

1. バッファ・プールの中にあるバッファがすべて前の操作で使用された。
2. 前にバッファされた更新操作をせずに、LOB をフラッシュさせた。

処置: (1) の場合、LOB を更新するために使用されているロケータによって、LOB をフラッシュさせてください。(2) の場合、バッファをフラッシュさせる前に、バッファリング可能となったロケータによって、最初に LOB に書き込んでください。

ORA-22281 更新されたロケータでこの操作は実行できません。

原因: 入力ロケータがバッファリングを可能にし、しかも LOB バッファリング・サブシステムによって LOB 値を更新するために、その入力ロケータが使用されました。変更されたバッファは、書き込みが入力ロケータにより実行されたため、フラッシュされていません。したがって、入力ロケータは更新済ロケータとみなされます。更新済ロケータはコピー操作のソースになることはできません。LOB ごとに 1 つのロケータのみ、LOB バッファリング・サブシステムによって LOB 値を変更するために使用されることができます。

処置: 入力ロケータによって LOB バッファリング・サブシステムに行われた変更がサーバーに書き込まれるかどうかにより、変更書込みのためにバッファをフラッシュさせるか、または、変更を廃棄するためにロケータ上でのバッファリングを使用禁止にしてください。その後、再度コマンドを出してください。

ORA-22282 バッファ使用可能な LOB に対する断続的な追加はできません。

原因: バッファされた書込み操作は、LOB の終わりを過ぎた 1 バイトまたは 1 文字以上の入力オフセット値を保持しています。

処置: バッファされた書込み操作によって更新しようとしている LOB の長さより厳密に 1 文字または 1 バイト大きい入力オフセット値を明記してください。

ORA-22285 *string* 操作に対するディレクトリまたはファイルが存在しません。

原因: 存在しないディレクトリにアクセスしようとしたか、またはアクセスしようとしたファイルのディレクトリが存在しません。

処置: 指定したディレクトリに対応するシステム・オブジェクトがデータベース・ディクショナリに存在することを確認してください。または、ディレクトリ名が正しいことを確認してください。

ORA-22286 *string* 操作を実行するにはファイルまたはディレクトリの権限が不十分です。

原因: 操作を実行するために必要なディレクトリ別名またはファイルへのアクセス権限がありません。

処置: ディレクトリ別名またはファイルに必要な権限の付与について、データベース / システム管理者に相談してください。

ORA-22287 *string* 操作中に無効または修正されたディレクトリがあります。

原因: このディレクトリに初めてアクセスしている場合は、カレント操作で使用されたディレクトリ別名が無効です。以前にアクセスしている場合は、データベース管理者によってこのディレクトリが変更されています。

処置: このディレクトリに初めてアクセスしている場合は、有効なディレクトリ名を提供してください。このエラーが発生する以前に、このディレクトリ下でファイルのオープンに成功している場合は、いったんファイルをクローズしてから、データベース管理

者によって変更された有効なディレクトリ・エイリアスで操作を再試行してください。
Oracle ではディレクトリの変更を休止期間中にのみ行うことをお勧めします。

ORA-22288 ファイルまたは LOB の操作 *string* に失敗しました。 *string*

原因: ファイルまたは LOB に対して操作を実行できませんでした。

処置: 詳細は、エラー・スタックの次のエラー・メッセージを参照してください。また、ファイルまたは LOB が存在するかどうか、および指定された操作の実行のために必要な権限が設定されているかどうかを確認してください。エラーが持続する場合は、データベース管理者に報告してください。

ORA-22289 ファイルまたは LOB がオープンしていないので *string* 操作を実行できません。

原因: ファイルまたは LOB がオープンしていないので、必要な操作を実行できません。

処置: 現在の操作の前に、ファイルまたは LOB の正常なオープン操作を行ってください。

ORA-22290 オープン・ファイルまたは LOB が最大数を超えました。

原因: オープン・ファイルまたは LOB 数が最大限度に達しました。

処置: いくつかのオープン・ファイルまたは LOB をクローズしてから、オペレーションを再試行してください。

ORA-22291 トランザクションのコミット時点でオープン状態の LOB が存在します。

原因: トランザクションのコミット時点でオープン LOB を持つトランザクションをコミットしようとした。

処置: トランザクションをコミットする前に LOB をクローズしてください。

ORA-22292 LOB を読書きモードでオープンするにはトランザクションを開始してください。

原因: トランザクションを開始する前に、LOB を読書きモードでオープンしようとした。

処置: LOB を読書きモードでオープンする前にトランザクションを開始してください。トランザクションを開始する方法には、SQL DML または SELECT FOR UPDATE コマンドの発行が含まれます。LOB を読取り専用モードでオープンするには、トランザクションは必要ありません。

ORA-22293 LOB が同じトランザクションにオープンしています。

原因: このトランザクションですでにオープンしている LOB をオープンしようとした。

処置: LOB をクローズしてから、再オープンしてください。

ORA-22294 読取り専用モードでオープンしている LOB を更新することはできません。

原因: 読取り専用モードでオープンしている LOB へ書込みしようとしたか、更新しようとした。

処置: LOB をクローズして、それを読書きモードで再オープンしてから、LOB に書込みまたは更新してください。

ORA-22295 4000 バイトを超えるデータは、1 つの文で LOB および LONG 列にバインドできません。

原因: 同じ INSERT または UPDATE 文で、4000 バイトを超えるデータを LOB 列および LONG 列の両方にバインドしようとした。4000 バイトを超えるデータは、1 つの LONG 列または 1 つ以上の LOB 列のいずれかにバインドできますが、両方にバインドすることはできません。

処置: 4000 バイトを超えるデータは、1 つの LONG 列または 1 つ以上の LOB 列のいずれかにバインドしてください。両方にはバインドしないでください。

ORA-22303 型 *string.string* が見つかりません。

原因: タイプの情報を取得しようとしたが、そのタイプが見つかりません。

処置: スキーマが正しくて、型が正しく作成されていることを確認してください。

ORA-22304 入力タイプがオブジェクト型ではありません。

原因: オブジェクト型以外からスーパータイプの情報を取得しようとした。

処置: オブジェクト型でのみ渡してください。

ORA-22305 属性 / メソッド / パラメータ *string* が見つかりません。

原因: 指定された名前の型要素が型の中にありません。

処置: 型要素が存在するかどうか確認してください。

ORA-22306 型 *string.string* はすでに存在しています。

原因: すでに存在している型を作成しようとした。

処置: この前に作成された型が存在するかどうか確認してください。

ORA-22307 この操作はユーザー定義型でしか実行できません。

原因: ユーザー定義型でのみ許可されている操作を実行しようとした。型はユーザー定義型ではありません。

処置: ユーザー定義型のみが操作されていることを確認してください。

ORA-22309 *string* という名前の属性はすでに存在しています。

原因: 2 つ以上の属性が同一の名前を持つオブジェクトを作成しようとした。

処置: 属性名がすべて一意であることを確認してください。

ORA-22311 属性 *string* の型が存在しません。

原因: 属性の型が存在しません。

処置: この DDL トランザクションでは、タイプが 1 つも作成 / 変更されていません。DDL トランザクションを再実行して、属性タイプの作成を DDL トランザクションに追加してください。

ORA-22313 同一の型 *string* の 2 つのバージョンは使用できません。

原因: このタイプのバージョンが、アプリケーションとリンクされた別のライブラリで使用されている同タイプのバージョンと一致しません。アプリケーションで使用できるのは、1 タイプにつき 1 バージョンのみです。

処置: このアプリケーションとリンクされているライブラリを確認して、同タイプのバージョンを使用していることを確認してください。

ORA-22314 メソッド情報が ALTER TYPE 内で一致しません。

原因: メソッド数またはメソッドの署名が、オリジナルの型宣言のものと一致しません。型の不一致はサポートされません。

処置: メソッド署名が、前に宣言されたメソッドのためのものと同一のままであるか確認してください。既存メソッドを削除しないでください。

ORA-22315 型 *string* にはマップまたは順序関数がありません。

原因: 入力したタイプにはマップまたは順序関数が含まれていないので、値を戻せません。

処置: タイプにマップ関数または順序関数を挿入するか、このエラーをキャッチしてください。

ORA-22316 入力型がコレクション型ではありません。

原因: 名前のないコレクション型でコレクション型の情報を取得しようとした。

処置: 名前の付いたコレクション型を関数に使用してください。

ORA-22317 タイプ・コード *number* は数値型として有効ではありません。

原因: 使用しようとした数値のタイプ・コードが無効です。

処置: OCI_TYPECODE_SMALLINT、OCI_TYPECODE_INTEGER、OCI_TYPECODE_REAL、OCI_TYPECODE_DOUBLE、OCI_TYPECODE_FLOAT、OCI_TYPECODE_NUMBER または OCI_TYPECODE_DECIMAL のみを使用してください。

ORA-22318 入力型が配列型ではありません。

原因: 配列タイプ以外から要素数を取得しようとした。

処置: 配列である、名前の付いたコレクション型のみを転送してください。

ORA-22319 ALTER TYPE でタイプ属性情報が変更されました。

原因: タイプ属性情報は、タイプ変更時のオリジナルの型宣言のタイプ属性情報と一致しません。ALTER TYPE 中は属性を変更できません。新しいメソッドのみを追加できます。

処置: すべての型の変更が正しいことを確認してください。

ORA-22321 メソッドは結果を戻しません。

原因: メソッドに対して OCITypeResult() コールが行われましたが、メソッドからいっさい結果が戻されません。

処置: 正しいメソッド記述子が転送されているか、またはメソッドの作成が正しく行われているかを確認してください。

ORA-22369 string メソッドに無効なパラメータがあります。

原因: 無効なパラメータが SYS.RowType または SYS.RowSet のこのメソッドに渡されています。

処置: このメソッドに渡されているパラメータを確認し、パラメータが許可されていることを確認してください。

ORA-22370 string メソッドの使用方法が正しくありません。

原因: SYS.RowType または SYS.RowSet のこのメソッドが不適正に使用されています。

処置: 訂正方法については、ドキュメントを参照してください。

ORA-22600 処理できない 8.0.2 (ベータ) VARRAY データが見つかりました。

原因: Oracle8 (リリース 8.0.3 以上) が、Oracle8 リリース 8.0.2 (ベータ 2) によって作成および記憶された VARRAY データを見つけました。Oracle8 は、そのような VARRAY データを理解または処理できません。

処置: 表を削除するか、行を削除するか、または VARRAY 列を取り消すことによって、表から VARRAY データを削除してください。その後、VARRAY データを再挿入してください。この変換の自動操作に役立つスクリプトまたは Tool は提供されていません。

ORA-22601 pickler TDS コンテキスト [string] が初期化されていません。

原因: pickler TDS コンテキストを初期化しないで使用しようとしてしました。

処置: OCIPicklerTdsCtxInit を使用して、コンテキストを初期化してください。

ORA-22602 pickler TDS ハンドル [string] が正常に形成されていません。

原因: pickler TDS ハンドルを初期化または形成しないで使用しようとしてしました。

処置: 生成する前に、OCIPicklerTdsInit を使用してハンドルを初期化してください。また、OCIPicklerTdsGenerate を使用して、TDS を生成してから属性をアクセス可能にしてください。

ORA-22603 生成済の TDS ハンドルに属性は追加できません。

原因: 生成済の TDS に属性を追加しようとしてしました。

処置: まだ生成されていない初期化済 TDS ハンドルを使用してください。

ORA-22604 TDS ハンドルはすでに生成されています。

原因:すでに生成されている TDS ハンドルを生成しようとした。

処置: まだ生成されていない初期化済 TDS ハンドルを使用してください。

ORA-22605 FDO ハンドル [*string*] が初期化されていません。

原因: 初期化されていない FDO ハンドルを使用しようとした。

処置: OCIPicklerFdoInit を使用して、FDO ハンドルを初期化してください。

ORA-22606 pickler イメージ・ハンドル [*string*] が正しく形成されていません。

原因: イメージ・ハンドルを初期化または形成しないで使用しようとした。

処置: 生成する前に、OCIPicklerTdsInit を使用してハンドルを初期化してください。また、OCIPicklerImageGenerate を使用して、イメージを生成してから属性をアクセス可能にしてください。

ORA-22607 イメージ・ハンドルはすでに生成されています。

原因:すでに生成されているイメージ・ハンドルを生成しようとした。

処置: まだ生成されていない初期化済イメージ・ハンドルを使用してください。

ORA-22608 生成済のイメージ・ハンドルに属性は追加できません。

原因: 生成済のイメージに属性を追加しようとした。

処置: まだ生成されていない初期化済イメージ・ハンドルを使用してください。

ORA-22609 FDO の初期化中にエラー *string* が発生しました。

原因: FDO の初期化中にエラーが発生しました。

処置: 指定エラーに基づいた処置を行ってください。

ORA-22610 イメージ・ハンドルにスカラーを追加中にエラーが発生しました。

原因: イメージ・ハンドルにスカラー属性を追加中にエラーが発生しました。

処置: スカラーを追加する前にイメージ・ハンドルが初期化されていることを確認してください。

ORA-22611 TDS のバージョンが不明です。

原因: 無効な TDS ハンドルが渡されました。

処置: イメージ・ハンドルが有効な TDS を使用して初期化されていることを確認してください。

ORA-22612 TDS にコレクション TDS の記述がありません。

原因: コレクション構成 / アクセス・ルーチンがイメージにあります、TDS にコレクション TDS の記述がありません。

処置: イメージ・ハンドルでコレクション・ルーチンを起動する前に、コレクション TDS が使用されていることを確認してください。

ORA-22613 buflen がスカラーのサイズと一致しません。

原因: BUFLLEN が正しくありません。

処置: BUFLLEN が正しく、スカラーのサイズと一致していることを確認してください。

ORA-22614 イメージのコレクションを作成中にエラーが発生しました。

原因: コレクションを作成中にエラーが発生しました。

処置: イメージ・ハンドルが初期化されていて、OCIPicklerImageCollBegin がコールされてコレクションが開始されていることを確認してください。

ORA-22615 属性がコレクションではありません。

原因: コレクションでない属性でコレクション・ルーチンが起動されました。

処置: 属性がコレクションであることを確認してください。

ORA-22616 イメージが Oracle 8.1 の形式ではありません。

原因: 起動された関数は Oracle 8.1 のイメージにのみ適応します。

処置: イメージが Oracle 8.1 の形式であることを確認してください。

ORA-22617 イメージ・ハンドル・コレクションにアクセス中、エラーが発生しました。

原因: イメージ・ハンドル・コレクションにアクセス中、エラーが発生しました

処置: イメージが正しく初期化されていて、コレクションが正しい構造になっていることを確認してください。

ORA-22618 イメージ・ハンドルで属性が BAD NULL です。

原因: 問題の属性は NULL 埋込みイメージの属性の可能性があります。

処置: 属性番号が有効、NULL または NOT NULL であることを確認してください。

ORA-22619 すべてのコレクション要素はすでにアクセスされました。

原因: すべてのコレクション要素がすでにアクセスされた後に、コレクション要素にアクセスしようとしてしました。

処置: この関数を起動しないでください。

ORA-22620 値を保持するにはバッファ・サイズが小さすぎます。

原因: 値を保持するにはバッファ・サイズが小さすぎます。キャラクタ・セット変換中に発生する可能性が高いです。より大きなバッファが必要です。

処置: より大きなバッファに値を渡してください。クライアント・キャラクタ・セットのフォーマットがサーバーのフォーマットとは異なる場合、変換が 4X 拡張になる可能性があります。

ORA-22621 エージェントからオブジェクトを転送中、エラーが発生しました。

原因: エージェント側のピックラ・ルーチンからエラーが戻りました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-22800 ユーザー定義タイプが無効です。

原因: 不完全なタイプをコンストラクタとして使用しようとしてしました。

処置: 問合せで使用する前にタイプ定義を完了してください。

ORA-22801 オブジェクト行変数が無効です。

原因: 指定されたオブジェクト行変数が、名称分析解決の有効範囲内にありません。

処置: オブジェクト行変数の指定が正しいことを検証するか、有効範囲で参照できるオブジェクト行変数を使用してください。

ORA-22803 オブジェクト型に属性が含まれていません。

原因: 属性のないオブジェクト型の列またはコンストラクタを作成または指定しようとしてしました。このコンテキストでは、少なくとも 1 つ以上の属性を持ったオブジェクト型のみを使用できます。

処置: 有効なオブジェクト型を指定してください。

ORA-22804 オブジェクト表またはユーザー定義型の列でリモート操作は許可されません。

原因: オブジェクト型がオブジェクト、REF、NESTED TABLE または VARRAY のうちのどれかであるリモート・オブジェクト表またはリモート表の列に対して、問合せまたは DML 操作を実行しようとしてしました。

処置: 文中のリモート表の参照を削除してください。

ORA-22805 オブジェクト表またはネストされた表に NULL オブジェクトは挿入できません。

原因: オブジェクト表または NESTED TABLE に NULL オブジェクトを挿入しようとしてしました。

処置: NULL でないオブジェクトを表に挿入するか、または属性値 NULL のオブジェクトを挿入することを確認してください。

ORA-22806 オブジェクトまたは REF ではありません。

原因: オブジェクトでも REF でもない項目から属性を取り出そうとしてしました。

処置: オブジェクト型または REF 型の項目を使用して、操作を再試行してください。

ORA-22807 スカラー・タイプかコレクション・タイプか判別できません。

原因: 非スカラー（たとえば、オブジェクト・タイプ）項目の使用が無効です。

処置: 項目のデータ・タイプを変更して、操作を再試行してください。

ORA-22808 REF デリファレンスは使用できません。

原因: REF 項目のデリファレンスによって型の属性にアクセスしようとしてしました。

処置: その項目を、オブジェクト型の REF 項目のかわりにオブジェクト型にしてください。

ORA-22809 属性が存在しません。

原因: オブジェクト型の属性にアクセスしようとしたが、属性が存在しません。

処置: 属性の参照が有効であるかどうかを確認してください。再試行してください。

ORA-22810 REF デリファレンスでオブジェクト属性は変更できません。

原因: UPDATE 文で、REF 列のデリファレンスによってオブジェクトの属性を変更しようとした。

処置: REF の参照オブジェクトを含んだ表を更新するか、または REF 列をオブジェクト型の列に変更してください。

ORA-22812 ネストされた表の列の記憶表は参照できません。

原因: NESTED TABLE 列の記憶表へのアクセスは、このコンテキストでは許可されません。

処置: NESTED TABLE 列を含んだ親表に対して文を発行してください。

ORA-22813 オペランド値がシステム制限値を超えています。

原因: オブジェクトまたはコレクション値が大きすぎます。ソート・コンテキストで値のサイズが 30K を超えているか、または使用可能メモリーに対してサイズが大きすぎます。

処置: 別の値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22814 属性または要素の値がタイプで指定された値を超えています。

原因: オブジェクト・タイプの属性またはコレクション要素の値が、タイプ宣言で指定されたサイズを超えています。

処置: 別の値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22816 RETURNING 句ではサポートされていない機能です。

原因: 現在、RETURNING 句はオブジェクト型列、LONG 列、リモート表、副問合せでの INSERT および RETURNING 句の中の参照解除ではサポートされていません。

処置: 値を得るために異なる SELECT 文を使用してください。

ORA-22817 デフォルト句で副問合せは使用できません。

原因: 列のデフォルト句式に副問合せを使用しようとした。

処置: 副問合せをデフォルト句から削除してください。

ORA-22818 サブクエリー式はこの場所で許可されていません。

原因: 副問合せがサポートされていない場所で、使用されました。

処置: 副問合せのない文に書き直してください。

ORA-22819 入力値の有効範囲がターゲットの有効範囲に対応していません。

原因：予期した表と異なる表の有効範囲内の REF 値を操作しようとした。

処置：予期した表の有効範囲にある REF を使用し、操作を再試行してください。

ORA-22850 LOB 記憶領域オプションの指定が重複しています。

原因：LOB 記憶領域オプション (CHUNK、PCTVERSION、CACHE、NOCACHE、TABLESPACE、STORAGE、INDEX) が 2 度以上指定されています。

処置：LOB 記憶領域オプションはすべて 1 度のみ指定してください。

ORA-22851 CHUNK LOB 記憶領域オプションの値が無効です。

原因：CHUNK LOB 記憶領域オプションの値は整数でなければなりません。

処置：適切な整数値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22852 PCTVERSION LOB 記憶領域オプションの値が無効です。

原因：PCTVERSION LOB 記憶領域オプションの値は整数である必要があります。

処置：適切な整数値を選択して、操作を再試行してください。

ORA-22853 LOB 記憶領域オプションの指定が無効です。

原因：LOB 記憶領域オプションが指定されていません。

処置：LOB 記憶領域句の一部として、CHUNK、PCTVERSION、CACHE、NOCACHE、TABLESPACE、STORAGE、INDEX のうちの 1 つを指定してください。

ORA-22854 LOB 記憶領域索引のオプションが無効です。

原因：有効な LOB 記憶領域索引のオプションが指定されていません。

処置：LOB 記憶領域索引の一部として、(INITTRANS、MAXTRANS、TABLESPACE、STORAGE) のうちの 1 つを指定してください。

ORA-22855 LOB 記憶領域セグメントのオプション名が正しく指定されていません。

原因：列リストで、LOB 記憶領域セグメントのオプション名が複数列で指定されました。

処置：各列の LOB 記憶領域をオプション名のみで指定してください。

ORA-22856 オブジェクト表に列を追加できません。

原因：オブジェクト表に列を追加しようとした。オブジェクト表の定義はオブジェクト型がベースになっているので、列の追加によってオブジェクト表を変更できません。

処置：その他の属性で新規タイプを作成し、その新規タイプを使用してオブジェクト表を作成してください。新規オブジェクト表には、必要な列が含まれます。

ORA-22857 オブジェクト表の列を変更できません。

原因: 既存の列を変更してオブジェクト表を変更しようとした。オブジェクト表の定義はオブジェクト型に基づいているため、既存の列の変更によってオブジェクト表を変更できません。表定義は、対応する型と同期化されている必要があります。

処置: 必要な属性で新規タイプを作成し、その新規タイプを使用してオブジェクト表を作成してください。新規オブジェクト表には、必要な列が含まれます。

ORA-22858 データ型の変更が無効です。

原因: 列型をオブジェクト、REF、NESTED TABLE、VARRAY、または LOB 型に変更しようとした。

処置: 必要な型で新規の列を作成し、適切な型コンストラクタを使用してカレント列データを新規の型にコピーしてください。

ORA-22859 列の変更が無効です。

原因: オブジェクト、REF、VARRAY、NESTED TABLE、または LOB の列型を変更しようとした。

処置: 必要な型で新規の列を作成し、適切な型コンストラクタを使用してカレント列データを新規の型にコピーしてください。

ORA-22860 オブジェクト型が必要です。

原因: 非オブジェクト型を使用してオブジェクト表を作成しようとしたか、または非オブジェクト型への REF である列を作成しようとした。

処置: 表定義または列定義で有効なオブジェクト型を使用してください。

ORA-22861 ユーザー定義タイプが無効です。

原因: 存在しない型で列またはオブジェクト表を作成しようとした。

処置: 表定義または列定義で有効な型を指定してください。

ORA-22862 指定されたオブジェクト識別子が既存のオブジェクト識別子と一致しません。

原因: 型のオブジェクト識別子を指定しようとしたが、同名の不完全な型の既存識別子と一致しません。

処置: 正しいオブジェクト識別子を指定するか、または識別子を文から除外してください。

ORA-22863 データ型 *string.string* にシノニムは指定できません。

原因: データ型へのシノニムの指定はサポートされていません。

処置: データ型にシノニムを指定しないでください。

ORA-22864 LOB 索引は変更または削除できません。

原因: LOB 索引を変更または削除しようとした。

処置: システム定義の LOB 索引に直接操作を行わないでください。対応する LOB 列に操作を実行してください。

ORA-22865 列が複数指定されています。

原因: 複数の列を指定しようとしたますが、指定できるのは 1 つのみです。

処置: 単一の列を指定し、操作を再試行してください。

ORA-22866 デフォルトのキャラクタ・セットの幅が固定されていません。

原因: キャラクタ LOB が定義されましたが、デフォルトのキャラクタ・セットの幅が固定されていません。

処置: キャラクタ LOB を定義する前に、キャラクタ・セットの幅が固定されていることを確認してください。

ORA-22868 LOB がある表のセグメントが異なる表領域にあります。

原因: 削除しようとした表領域には、表の LOB 列のセグメントはありますが、表セグメントがありません。

処置: この表領域内に、表でないセグメントを持った LOB 列で表を検索してください。それらの表を削除してから、表領域の削除を再発行してください。

ORA-22869 型依存階層の深さが制限値を超えています。

原因: 深さが 1024 を超える型依存階層が作成されました。

処置: 型依存階層の深さを減らして、再作成してください。

ORA-22870 非オブジェクト型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようとしています。

原因: 非オブジェクト型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようしました。

処置: 最初に非オブジェクト型を削除し、それからオブジェクト型としてそれを再作成してください。

ORA-22871 不完全な型で ALTER TYPE with REPLACE オプションは使用できません。

原因: 不完全な型で ALTER TYPE with REPLACE オプションを実行しようしました。

処置: 元の型を完全に定義してから、ALTER TYPE with REPLACE オプションを使用してください。

ORA-22872 主キー・ベースのオブジェクト識別子をもつ表で OID INDEX 句は使用できません。

原因: 主キー・ベースのオブジェクト識別子を持つ表で OID INDEX を作成しようしました。

処置: OID INDEX 句を削除してください。

ORA-22873 主キー・ベースのオブジェクト表に主キーが指定されていません。

原因：主キーを指定しないで主キー・ベースのオブジェクト表を作成しようとした。

処置：主キーを指定し、操作を再試行してください。

ORA-22874 属性 *string* は型 *string* の一部ではありません。

原因：USER_DEFINED 句で指定された属性は REF 型の属性ではありません。

処置：USER_DEFINED 句で指定された名前が、REF 型の有効な属性の名前であることを確認してください。

ORA-22875 オブジェクト識別子が主キー・ベースのオブジェクト表の主キーは削除できません。

原因：主キー・ベースのオブジェクト識別子を持つオブジェクト表の主キーを削除しようとした。

処置：DROP PRIMARY KEY 句を削除してください。

ORA-22876 このユーザー定義型は許可されないか、またはこのコンテキストでは使用できません。

原因：許可されていないユーザー定義型を作成しようとしたか、表列を作成しようとしたか、またはサポートされていない型のデフォルト・コンストラクタを使用しようとした。

処置：このコンテキストで許可されている型であることを確認してください。

ORA-22877 LOB 列の HASH パーティションまたはサブパーティションに無効なオプションが指定されました。

原因：LOB パーティションまたはサブパーティションの物理属性の解析中に、1 つ以上の無効なオプションが見つかりました。LOB パーティションが HASH メソッドを使用してパーティション化された表にあるか、または LOB サブパーティションが HASH メソッドを使用してサブパーティション化された表にあります。HASH パーティションまたはサブパーティションに対して有効なオプションは、TABLESPACE のみです。

処置：無効なオプションを削除してください。

ORA-22878 重複する LOB パーティションまたはサブパーティションが指定されました。

原因：LOB 列にすでに指定されたパーティションまたはサブパーティションを指定しようとした。

処置：重複する指定を取り除いてください。

ORA-22879 パーティション表には LOB INDEX 句を使用できません。

原因：パーティション表の CREATE TABLE 文または ALTER TABLE 文に LOB INDEX 句を指定しようとした。

処置：LOB INDEX 句を削除してください。

ORA-22880 REF が無効です。

原因: アクセスした REF が無効です。

処置: REF を変更してから操作を再試行してください。

ORA-22881 REF が未結合です。

原因: REF に対応するオブジェクトにアクセスしましたが、対応するオブジェクトは存在しません。

処置: REF 値が参照しているオブジェクトが存在することを確認してください。

ORA-22882 オブジェクトの作成に失敗しました。

原因: データベースでオブジェクトを作成できません。

処置: オブジェクト表が存在し、オブジェクト・サイズが大きすぎないかを確認してください。再試行してください。

ORA-22883 オブジェクトの削除に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースから削除できませんでした。

処置: オブジェクト表が存在するかどうかを確認してください。再試行してください。

ORA-22884 オブジェクトの変更に失敗しました。

原因: オブジェクトをデータベースで変更できませんでした。

処置: オブジェクト表が存在し、オブジェクト・サイズが大きすぎないかを確認してください。再試行してください。

ORA-22885 非固定オブジェクトに対して REF は取得できません。

原因: オブジェクト表の中のオブジェクト以外の何かに対して、REF を取得しようしました。REF を取得できるのは、オブジェクト表の中のオブジェクトのみです。

処置: オブジェクト表から REF 値を取得するために問合せを書き直してください。

ORA-22886 対象表 *string* (スキーマ *string*) はオブジェクト表ではありません。

原因: REF 列に対して指定された対象表は、オブジェクト表ではありません。

処置: 対象表がオブジェクト表であることを確認してください。再試行してください。

ORA-22887 REF 列の型が対象表の列の型と一致しません。

原因: REF 列に指定された型と、対象表に指定された型が異なります。

処置: REF 列の型と対象表の型が同一であることを確認してください。

ORA-22888 REF 列に対する SCOPE 句の指定が重複しています。

原因: 1 つの REF 列に対して複数の SCOPE 句が指定されました。

処置: 重複した SCOPE 句を取り除いて操作を再試行してください。

ORA-22889 REF 値が対象表を示していません。

原因：対象表を参照しない REF 値を挿入しようとした。

処置：REF 値が対象表を参照していることを確認してください。

ORA-22890 REF 列の制約に対して制約名は指定できません。

原因：REF 列の制約に対して制約名を指定しようとした。

処置：制約名を削除して操作を再試行してください。

ORA-22891 REF 制約に列は複数指定できません。

原因：1 つの REF 制約で複数の列を指定しようとした。

処置：各列に対して別個の制約を指定して、操作を再試行してください。

ORA-22892 対象表 *string* がスキーマ *string* に存在しません。

原因：REF 列に対して指定された対象表が存在しません。

処置：対象表が存在することを確認して、操作を再試行してください。

ORA-22893 制約は REF 列にしか指定できません。

原因：指定された制約は、REF 以外の列に適用できません。

処置：制約を削除して操作を再試行してください。

ORA-22894 制約は、空ではない表の既存の有効範囲内にない REF 列には追加できません。

原因：1 つ以上の行を含む表で既存の有効範囲の REF 列に対して、制約を追加しようとした。

処置：制約指定を削除するか、または表を空にしてから制約を追加してください。

ORA-22895 参照表 *string* (スキーマ *string*) はオブジェクト表ではありません。

原因：REF 列に対して指定された参照表は、オブジェクト表ではありません。

処置：参照表がオブジェクト表であることを確認してください。再試行してください。

ORA-22896 REF 列 *string* に有効範囲制約と参照制約は同時に設定できません。

原因：REF 列に参照制約と有効範囲制約があります。参照制約は有効範囲制約を示しています。

処置：参照制約または有効範囲制約のいずれかを削除して、操作を再試行してください。

ORA-22897 ユーザー定義の REF 列 *string* に有効な範囲句が指定されていません。

原因：ユーザー定義の REF 列に有効範囲制約がありません。

処置：有効範囲制約をユーザー定義の REF 列に指定して、操作を再試行してください。

ORA-22898 *string* の既存の有効範囲句が参照制約に記載された表以外の表を指し示しています。

原因：参照整合性制約に記載された表が、REF 列の対象表と異なります。

処置：参照整合性制約の REF 列の対象表を指定し、操作を再試行してください。

ORA-22899 参照列に有効範囲と rowid 制約の両方は指定できません。

原因：REF 列に有効範囲および ROWID 制約の両方を指定しようとした。

処置：ROWID または有効範囲制約のいずれかを削除して、操作を再試行してください。

ORA-22900 THE 副問合せの SELECT リスト項目がコレクション型ではありません。

原因：THE 副問合せは NESTED TABLE または VARRAY 項目を SELECT する必要があります。

処置：副問合せを変更して、NESTED TABLE または VARRAY 項目を SELECT してください。

ORA-22901 ネストされた表、VARRAY、LOB 属性のいずれかとオブジェクト型の比較はできません。

原因：MAP または ORDER メソッドがないときに、NESTED TABLE、VARRAY、LOB 属性のいずれかとオブジェクト型を比較しようとした。

処置：オブジェクト型に MAP または ORDER メソッドを定義してください。

ORA-22902 CURSOR の式は使用できません。

原因：副問合せの CURSOR が許可されるのは、問合せのトップ・レベル SELECT リストでのみです。

処置：CURSOR 式を削除し、操作を再試行してください。

ORA-22903 MULTISSET の式は使用できません。

原因：MULTISSET の式は、NESTED TABLE または VARRAY 型への CAST の内部でのみ使用できます。

処置：MULTISSET (副問合せ) 式を NESTED TABLE または VARRAY 型への CAST の内部に入れてください。

ORA-22904 ネストされた表の列の参照は無効です。

原因：NESTED TABLE 列に対する参照が無効です。

処置：NESTED TABLE 列の無効な参照を取り除き、操作を再試行してください。

ORA-22905 ネストされていない表項目の行にはアクセスできません。

原因：項目の行にアクセスしようとしたが、その項目の型は解析時に不明であるか、または NESTED TABLE 項目ではありません。

処置：CAST を使用して、NESTED TABLE 型に項目をキャストしてください。

ORA-22906 式またはネストされた表のビュー列で DML は実行できません。

原因：式または NESTED TABLE ビュー列で DML を実行しようとしたますが、そのビュー列ではベース表の NESTED TABLE 列が必要です。

処置：DML で許可されているのはベース表の NESTED TABLE 列のみです。

ORA-22907 ネストされた表または VARRAY ではない型に対する CAST は無効です。

原因：NESTED TABLE または VARRAY ではない型に対して CAST しようとした。

処置：NESTED TABLE または VARRAY 型に対して CAST を再指定してください。

ORA-22908 NULL の表値を参照しています。

原因：THE 副問合せまたは NESTED TABLE 列の評価結果が NULL 値になりましたが、これは NULL 表インスタンスを暗示します。THE 副問合せまたは NESTED TABLE 列は、NULL でない 1 つの表インスタンスを示す必要があります。

処置：THE 副問合せまたは NESTED TABLE 列の評価結果が、NULL でない 1 つの表インスタンスになることを確認してください。THE 副問合せを挿入のターゲットにした INSERT 文のコンテキストで発生する場合は、空の NESTED TABLE コンストラクタを指定した親表の行の NESTED TABLE 列を更新することで空の NESTED TABLE インスタンスが作成されていることを確認してください。

ORA-22909 最大 VARRAY 制限を超えています。

原因：VARRAY の作成に使用された要素数の合計が、指定された VARRAY 制限を超えています。

処置：指定された制限値を超える要素数を VARRAY の作成に使用しないでください。

ORA-22910 ネストされた表にスキーマ名は指定できません。

原因：NESTED TABLE 列（または属性）記憶域句で、表名の修飾にスキーマ名が使用されています。

処置：スキーマ名の修飾子を削除して、NESTED TABLE 項目の記憶域句を再指定してください。デフォルトでは、NESTED TABLE 項目に対する記憶表は、NESTED TABLE を含んだ表と同じスキーマで作成されます。

ORA-22911 ネストされた表項目に対する記憶領域の指定が重複しています。

原因：NESTED TABLE 列に対する記憶域句が 2 度以上指定されています。

処置：重複した記憶領域指定を削除してください。

ORA-22912 指定された列または属性がネストされた表の型ではありません。

原因：列または属性の記憶域句が指定されていますが、NESTED TABLE 列または属性ではありません。

処置：有効な NESTED TABLE 列または属性を指定してください。

ORA-22913 ネストされた表の列または属性には表名を指定しなければなりません。

原因：NESTED TABLE 列または属性に記憶域句が指定されていません。

処置: NESTED TABLE 列または属性に NESTED TABLE 記憶域句を指定してください。

ORA-22914 ネストされた表の削除はサポートされていません。

原因: NESTED TABLE を削除しようとした。

処置: NESTED TABLE は明示的に削除できません。NESTED TABLE は、その表を含んでいる親表を削除することでのみ削除できます。

ORA-22915 ネストされた表は追加 / 変更列に変更できません。

原因: NESTED TABLE 列を追加または変更しようとした。NESTED TABLE で、列を追加または変更することはできません。

処置: NESTED TABLE 列の追加または変更を行うには、親表の NESTED TABLE 列を変更してください。

ORA-22916 ネストされたカーソルをもつ問合せで正確な取出しはできません。

原因: 問合せからカーソルが返される場合は、指定された問合せで正確な取出しはできません。

処置: 正確な取出しを使用しないでください。

ORA-22917 この列または属性に対する記憶域句の指定には VARRAY を使用します。

原因: VARRAY 列または属性に対する記憶域句の指定に VARRAY が使用されていません。

処置: 列の記憶域句の前に VARRAY を指定して、文を再送信してください。

ORA-22918 指定した列または属性が VARRAY 型ではありません。

原因: VARRAY 型ではない列または属性に VARRAY 記憶域句を定義しようとした。

処置: VARRAY 列または属性に VARRAY 記憶域句を指定してください。

ORA-22919 ぶら下がり REF エラー、または待機なしの要求に対するオブジェクトのロックに失敗しました。

原因: このエラーの原因は次のいずれかの可能性があります。REF に対応するオブジェクトが存在しないか、またはオブジェクトが別のユーザーによってロックされていて待機なし要求を持つそのロックが失敗しました。

処置: REF 値が既存のオブジェクトを参照しているか、または待機なしオプションを持つロック要求が発行されていることを確認してください。

ORA-22920 LOB 値を含む行がロックされていません。

原因: LOB 値を含む行は LOB 値を更新する前にロックされている必要があります。

処置: LOB 値を更新する前に、LOB 値を含む行をロックしてください。

ORA-22921 入力バッファの長さが要求された量よりも小さいです。

原因: バッファ長が不十分なため、要求されたデータを保持できません。

処置: 入力パラメータで指定したバイト数 / 文字数が、入力バッファ長パラメータで指定したバイト数よりも大きくなっていないことを確認してください。必要であれば、入力バッファに追加のスペースを割り当ててください。

ORA-22922 LOB 値が存在しません。

原因: 入力ロケータに関連付けられた LOB 値が存在しません。ロケータの情報が、既存の LOB を参照していません。

処置: SELECT 文を発行することによりロケータを再配置し、操作を再試行してください。

ORA-22923 ストリーム式 LOB 書込みで指定されたデータ量が 0 (ゼロ) です。

原因: ストリーミング・メカニズム（つまり、無制限の書き込み）によって LOB 値を書き込もうとしましたが、ストリームに対する入力データ量が 0 (ゼロ) として指定されていました。これは、ユーザーが 0 (ゼロ) バイトを LOB 値に書き込もうとしていることを意味しています。

処置: 0 (ゼロ) バイト以上の値を LOB 値に書き込んでください。

ORA-22924 スナップショットが古すぎます。

原因: 一貫した読込みを行うのに必要であった LOB 値のバージョンが、すでに別の書込み機能によって上書きされていました。

処置: バージョン・プールを拡大してください。

ORA-22925 LOB 値の最大許容サイズを超えています。

原因: LOB 値に書き込もうとしているデータ量が多すぎます。LOB サイズは、4GB までに制限されています。

処置: さらに小さい LOB オフセットで書き込みを開始するか、またはデータ量を少なくして LOB 値に書き込んでください。

ORA-22926 指定された切捨ての長さが現行の LOB 値の長さを超えています。

原因: LOB 値を切り捨てるための入力の長さが、現在の LOB 値の長さを超えています

処置: 指定された切捨ての長さよりも LOB 値の方が短いので、LOB 値を切り捨てる必要がない場合もあります。または、実際に LOB 値の切捨てが必要な場合は、切り捨てる長さを短くしてください。

ORA-22927 指定した LOB ロケータは無効です。

原因: 次のどれかです。

1. LOB ロケータが初期化されていない。
2. ロケータが BFILE 用だが、ルーチンは BLOB/CLOB/NCLOB ロケータを要求している。
3. ロケータが BLOB/CLOB/NCLOB だが、ルーチンは BFILE ロケータを要求している。

-
4. トリガー本体で LOB を更新しようとしたが、トリガー本体での LOB は読取り専用である。

処置: (1) の場合、変数ロケータを選択するか、または LOB ロケータを空に設定することにより、LOB ロケータを初期化してください。(2) および (3) の場合、正しいタイプのロケータをルーチンに移してください。(4) の場合、LOB 値を更新するトリガー本体コードを削除してください。

ORA-22928 ディレクトリにおける権限が無効です。

原因: ディレクトリに対して無効な権限を許可または取り消そうとしました。

処置: ディレクトリで付与または取消しができる権限は、CREATE、DELETE、READ および WRITE 権限のみです。その他の権限の付与または取消しは行わないでください。

ORA-22929 ディレクトリが無効か、または存在しません。

原因: 要求されたディレクトリ名は無効であるか、または存在しません。

処置: 有効な名前を指定してください。

ORA-22930 ディレクトリが存在しません。

原因: 存在しないディレクトリにアクセスしようとした。

処置: 名前が正しいかどうかを確認してください。

ORA-22950 MAP または ORDER メソッドのないオブジェクトは順序付けできません。

原因: 等式および不等式を除いたすべての比較演算に対して、オブジェクト型では MAP または ORDER メソッドが定義されている必要があります。

処置: オブジェクト型に MAP または ORDER メソッドを定義してください。

ORA-22951 ORDER メソッドから NULL が戻されました。

原因: 2 つのオブジェクト値の比較に使用された ORDER メソッドから NULL が戻されました。これは許可されていません。

処置: NULL を戻さないように ORDER メソッドを再定義してください。

ORA-22970 名前がオブジェクト・ビューと一致しません。

原因: 式がビュー名でないか、または指定された名前がオブジェクト・ビューに対応していません。

処置: 式をオブジェクト・ビュー名に置き換えてください。

ORA-22971 PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子に対するデータ型が無効です。

原因: オブジェクト・ビューの作成時に、PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子に対して許可されないデータ型が、WITH OBJECT OID 句の式で指定されました。

処置: 式を適切なスカラー・データ型の 1 つと置き換えてください。

ORA-22972 PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子で NULL 値は使用できません。

原因: PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子の構成値が NULL でした。

処置: MAKE_REF システム関数の式またはオブジェクト・ビューの WITH OBJECT OID 句の属性における式が NULL を評価しないことを確認してください。

ORA-22973 オブジェクト識別子のサイズが最大値を超えています。

原因: オブジェクト・ビューの PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子のサイズが、最大値の 65535 バイトを超えています。

処置: オブジェクト・ビューを作成するとき、WITH OBJECT OID 句に指定する PRIMARY KEY 属性を減少または小さくしてください。

ORA-22974 WITH OBJECT OID 句がありません。

原因: オブジェクト・ビューの作成時に、WITH OBJECT OID 句が指定されませんでした。

処置: WITH OBJECT OID 句を指定してください。

ORA-22975 このオブジェクト・ビューに対して PRIMARY KEY に基づいた REF は作成できません。

原因: MAKE_REF 関数で指定されたオブジェクト・ビューに、PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子がありません。このようなビューでは、PRIMARY KEY に基づいた REF を作成できません。

処置: MAKE_REF 関数の PRIMARY KEY に基づいたオブジェクト識別子を保持するオブジェクト・ビューを指定してください。

ORA-22976 MAKE_REF に対する引数の数が正しくありません。

原因: MAKE_REF に対する引数の数が、オブジェクト・ビューの PRIMARY KEY 属性の数と異なります。

処置: MAKE_REF に対して必要なすべての引数を指定してください。

ORA-22977 属性がないか、または無効です。

原因: WITH OBJECT OID 句の属性名がないか、または無効です。

処置: オブジェクト・ビューのオブジェクト型の有効な属性を指定してください。

ORA-22978 WITH OBJECT OID 句で使えるのは、単純な属性名だけです。

原因: WITH OBJECT OID 句でネストされた属性を指定しようとした。

処置: オブジェクト・ビューのオブジェクト型のトップ・レベル属性を指定してください。

ORA-22979 オブジェクト・ビュー REF またはユーザー定義 REF を挿入できません。

原因: オブジェクト・ビュー REF またはユーザー定義 REF を、REF 値を生成するシステムを格納する REF 列に挿入しようとした。

処置: 挿入しようとした REF が、オブジェクト・ビュー REF またはユーザー定義 REF でないことを確認してください。

ORA-22980 WITH OBJECT OID 句に一連の属性を指定してください。

原因: WITH OBJECT OID DEFAULT 句が使用されましたが、基盤となるビューまたは表に OID がありません。

処置: WITH OBJECT OID 句の属性を指定して、オブジェクト・ビューに対する主キー・ベースのオブジェクト識別子を作成してください。

ORA-22990 LOB ロケータは複数のトランザクションにまたがることはできません。

原因: あるトランザクションですでに選択されている LOB ロケータを別のトランザクションで使用できません。

処置: LOB ロケータを再選択して、操作を再試行してください。

ORA-22991 引数 *string* に割り当てられた領域が不足しています。

原因: 引数に割り当てられた領域よりも大きいデータが引数に戻されます。

処置: 引数に割り当てる領域を増加してください。

ORA-22992 リモート表から選択された LOB ロケータは使用できません。

原因: リモート LOB 列の参照はできません。

処置: リモート表での LOB への参照を削除してください。

ORA-22993 指定された入力量は実際のソース量を超えています。

原因:

1. LOB 書込みについて、受け取ったデータ量が送付表示された予想データ量と異なる。
2. LOB のコピーおよびファイルからのロードについて、明記された入力量がコピー / ロードされる以前に、ソースの終わりの LOB/FILE 値に到達した。

処置: (1) は、OCI の一定量方式メカニズムをポーリングまたはコールバック関数と一緒に使用した時に起こります。明記された量を送るため、またはどのようなデータ量でも送ることができるよう入力量として 0（ゼロ）をパスさせるために、コードを変更してください。(2) は、開始ソース・オフセットに与えられたソース LOB/FILE に対し、明記された入力量が大きすぎる場合に起こります。開始ソース・オフセットを減少させるか、またはコピー / ロードする量を減少させてください。

ORA-22994 ソース・オフセットがソース LOB の終わりを超えています。

原因: LOB COPY あるいは LOB LOADFROMFILE のソース・オフセットがソース LOB の終わりを超えています。

処置: LOB の長さを確認し、ソース・オフセットを調整してください。

ORA-22995 TABLESPACE DEFAULT オプションはこのコンテキストで無効です。

原因: TABLESPACE DEFAULT オプションは次のコンテキストの LOB 列にのみ指定できます。

- パーティション表の表レベル。
- コンポジット・パーティションのパーティション・レベル。

前述以外のコンテキストで TABLESPACE DEFAULT オプションを使用しようとしてしました。

処置: TABLESPACE DEFAULT オプションを削除してください。

ORA-22996 NEXT エクステント・サイズが LOB よりも小さいサイズです。

原因: NEXT エクステント・サイズが LOB チャンク・サイズよりも小さくなるように LOB セグメントを作成または変更しようとしてしました。

処置: LOB チャンク・サイズと同じまたはそれ以上のサイズの NEXT エクステント・サイズを指定してください。

ORA-22997 LOB として格納された VARRAY が表レベルで指定されていません。

原因: パーティション・メンテナンスまたは MOVE TABLE 文で、VARRAY 列をパーティション / サブパーティション・レベルで LOB として格納されるように指定しようとしてしました。しかし、この VARRAY 列は表の作成時に表レベルで LOB として格納されるように指定されていません。

処置: 表の作成時に、VARRAY 列を表レベルで LOB として格納されるように指定してください。表の作成時に表レベルで指定しない場合は、VARRAY 列をパーティション / サブパーティション・レベルで LOB として格納されるように指定しないでください。

ORA-23300 *string*

原因: このエラーが発生する原因となったストアド・プロシージャ 'RAISE_SYSTEM_ERROR' がコールされました。

処置: エラー・メッセージの記述どおりに問題を訂正するか、または詳細をアプリケーション管理者やデータベース管理者に問い合せてください。

ORA-23301 遅延 RPC 接続先モードの複合使用です。

原因: レプリケーション・カタログが決定した遅延 RPC の宛先が、同一トランザクションの他のメカニズムで決定された宛先と混在していました。

処置: 同一トランザクション内で宛先タイプを混在させないでください。

ORA-23302 アプリケーションが遅延 RPC 時に通信障害を提示しました。

原因: 遅延 RPC 中に、アプリケーションが通信障害を起こしました。

処置: 通信が復元されたら、アプリケーションを再試行してください。

ORA-23303 アプリケーションが遅延 RPC 時に一般例外を提示しました。

原因: 遅延 RPC 中に、アプリケーションが一般障害を起こしました

処置: アプリケーションによって判断してください。

ORA-23304 奇形の遅延 RPC です (引数 *string*、*string*、コール *string*、tid *string* 内)。

原因: カウント・パラメータ DBMS_DEFER.CALL によって決定された正しい数の引数を使用しないで、遅延 RPC が発行されました。

処置: 引数の数がカウントと必ず一致するようにしてください。

ORA-23305 内部遅延 RPC エラー: *string*

原因: 遅延 RPC で内部エラーが発生しました。

処置: このエラーとサポートのための情報を報告してください。

ORA-23306 スキーマ *string* が存在しません。

原因: スキーマ名が NULL であるか、綴りが間違っているか、またはスキーマがローカルに存在していません。

処置: スキーマを正しく指定するか、または CREATE USER を使用してスキーマを作成してください。

ORA-23307 レプリケートされたスキーマ *string* が既に存在します。

原因: 指定したデータベースは、指定したスキーマをすでにレプリケートしています。

処置: 別のスキーマまたは別のデータベースを選択してください。

ORA-23308 オブジェクト *string.string* が存在しないか、無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定したタイプが間違っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態のレプリケーション・オブジェクトとして存在していません。

処置: オブジェクトがデータベース内で有効であること、参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること (該当する場合) を確認してください。

ORA-23309 オブジェクト *string.string* (タイプ *string*) が存在します。

原因: 同一の名前領域にオブジェクトが存在し、それが別のタイプまたは形である可能性があります。または、同じオブジェクトが別のオブジェクト・グループに REPOBJECT としてすでに登録されています。

処置: 違反しているオブジェクトを SQL DROP コマンドを使用して削除するか、違反しているオブジェクトの登録を DBMS_REPCAT.DROP_MASTER_REPOBJECT() を使用して削除してください。または、RETRY や USE_EXISTING_OBJECT などのパラメータ boolean に TRUE を使用して要求を再度呼び出してください。

ORA-23310 オブジェクト・グループ *string.string* は停止していません。

原因: 要求した操作を行うには、オブジェクト・グループを中断する必要があります。

処置: REPGROUP の MASTERDEF で SUSPEND_MASTER_ACTIVITY を呼び出して、状態が quiesced に変わるまで待ち、元の要求を再試行してください。

ORA-23312 *string* によれば masterdef ではありません。

原因: グループ名が NULL であるか、綴りが間違っています。または、起動したデータベースあるいは指定されたデータベースが MASTERDEF ではないか、マスターのいずれかが起動データベースを MASTERDEF として認識していません。

処置: 指定したグループ名および MASTERDEF が両方とも正しい場合は、MASTERDEF に接続して要求を再試行するか、または RELOCATE_MASTERDEF を使用して（問題の）データベースに MASTERDEF を再配置してください。

ORA-23313 オブジェクト・グループ *string.string* は、*string* でマスター化されていません。

原因: グループ名が NULL であるか、または綴りが間違っています。または、起動したデータベースがマスターではないか、または起動データベースが指定されたデータベースをマスターとして認識していません。

処置: 指定したグループ名が正しい場合は、カレント・マスターに接続して要求を再試行し、ADD_MASTER_DATABASE を使用して起動データベースをマスターにしてください。または、起動データベースがスナップショット・サイトの場合は、SWITCH_SNAPSHOT_MASTER を使用してください。

ORA-23314 データベースは *string.string* のスナップショット・サイトではありません。

原因: 起動データベースが、指定されたオブジェクト・グループのスナップショット・データベースではありません。

処置: 必要なスナップショット・データベースに接続して要求を再試行するか、または CREATE_SNAPSHOT_REPSchema や CREATE_SNAPSHOT_REPGROUP を使用して、起動データベースをスナップショット・サイトにしてください。

ORA-23315 repcatlog バージョンまたは要求 *string* はバージョン *string* によりサポートされていません。

原因: 互換性のない REPCAT バージョンが使用されているか、または REPCATLOG レコードが破壊されています。

処置: 互換性のある REPCAT バージョンにマスターを変換するか、または要求を再試行してください。

ORA-23316 masterdef は *string* です。

原因: 要求された操作は masterdef サイトで許可されていません。

処置: masterdef を別のマスターに再配置して、操作を再試行してください。

ORA-23317 通信障害が起きました。

原因: リモート・データベースがアクセス不能です。

処置: リモート・データベースが動作していること、通信ネットワークが機能していること、該当するデータベース・リンクが存在することを確認してください。

ORA-23318 ddl 障害が起こりました。

原因: ユーザーが提供した DDL またはシステムが生成した DDL が正しく実行されませんでした。

処置: DDL、データベースの状態、REPCATLOG、ALL_ERRORS を調べて、障害が発生した原因を判断してください。

ORA-23319 パラメータ値 *string* が不適正です。

原因: 指定したパラメータ値が NULL であるか、綴りが間違っているか、またはサポートされていません。

処置: ドキュメントを参照して、状況に適したパラメータ値を使用してください。

ORA-23320 この要求は値 *string* および *string* のため失敗しました。

原因: REPCATLOG レコードの DDL レコードが欠落しているか、または REPCAT ビューに一貫性がありません。

処置: 要求を再試行するか、またはビューに一貫性を持たせてください。

ORA-23321 Pipename may not be null

原因: NULL のパイプ名を使用して DBMS_PIPE をコールしました。

処置: パイプ名を調べて、NULL でないパイプ名を使用して関数をコールしてください。

ORA-23322 Privilege error accessing pipe

原因: 他のユーザーに属している既存のパイプを作成しようとしたか、または使用権限がないパイプを削除しようとしたか。あるいは権限のないパイプからメッセージを取得しようとしたか、または権限のないパイプにメッセージを入れようとしたか。

処置: 異なるパイプ名を使用する必要があります。

ORA-23323 パラメータ長が遅延 RPC 制限を超えています。

原因: 遅延 RPC パラメータが、遅延 RPC の制限よりも長くなりました。この制限は、char/varchar2 パラメータの場合は 4000 バイトで、raw パラメータの場合は 2000 バイトです。

処置: より小さいパラメータを使用してください。

ORA-23324 エラー *string string* (エラー *string* をもつ) で DEFERROR 項目を作成中のエラーです。

原因: メッセージに表示されているエラー・コードおよびデータベースに対して DEFERROR 項目を作成しようとして、エラーが検出されました。

処置: エラーの原因を訂正してください。

ORA-23325 パラメータ型が *string* ではありません。

原因: 競合解消機能が、優先順位グループに指定されたタイプとは異なるタイプに指定されたか、または優先順位グループに指定されたタイプまたは関数がありません。あるいは DBMS_DEFER_SYS_QUERY がコールされて遅延 RPC パラメータを遅延 RPC キューから取り出しましたが、パラメータ・タイプが関数の戻り型と一致していません。

処置: パラメータ・タイプに対応する関数を使用してください。

ORA-23326 オブジェクト・グループ *string.string* は停止中です。

原因: オブジェクト・グループが通常の操作を再開する前に SUSPEND_MASTER_ACTIVITY がコールされたか、またはオブジェクト・グループが停止中に（遅延）RPC 操作を行おうとしました。

処置: SUSPEND_MASTER_ACTIVITY がコールされ RESUME_MASTER_ACTIVITY 要求が保留状態の場合は、完了するまで待ってから、SUSPEND_MASTER_ACTIVITY を再度呼び出してください。それ以外の場合は、RESUME_MASTER_ACTIVITY コールを使用して、データベース・アクティビティを再開してください。

ORA-23327 インポートされた遅延 rpc データが db をインポートする *string* と一致しません。

原因: 遅延 RPC の待ち行列が、インポートするデータベースとは異なるグローバル名またはオペレーティング・システムを持つデータベースからインポートされました。

処置: 遅延 RPC データのインポート先は、同一のグローバル名、ハードウェア、オペレーティング・システムを持つデータベースである必要があります。

ORA-23328 スナップショット・ベース表 *string.string* がマスター表 *string.string* と異なります。

原因: REPCAT によるスナップショットの作成時に、スナップショット・ベース表名がマスターのレプリケート表名と一致しませんでした。

処置: スナップショット DDL を変更して、マスターのレプリケート表名と同じベース表を使用してください。

ORA-23329 正常なユーザー提供 DDL ですが、スナップショット *string.string* がありません。

原因: スナップショット作成のユーザー提供 DDL は正常に実行されましたが、スナップショットが存在しません。

処置: 手動で DDL のバックアップをとり、DDL とスナップショットを一致させて再登録してください。

ORA-23330 列グループ *string* は既に存在します。

原因: 列グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

処置: レプリケート・オブジェクト・グループにまだ登録されていない列グループ名を使用してください。

ORA-23331 列グループ *string* は存在しません。

原因: 指定した列グループが NULL であるか、綴りが間違っているか、または登録されていません。

処置: 登録されている列グループを使用してください。

ORA-23332 グループ *string* は使用中です。削除できません。

原因: 指定した列グループまたは優先順位グループが、競合を回避するために使用されています。

処置: 削除する前に、DBMS_REPCAT プロシージャ DROP_UPDATE_RESOLUTION、DROP_DELETE_RESOLUTION、DROP_UNIQUE_RESOLUTION をコールして、その列グループまたは優先順位グループが使用されていない状態にしてください。

ORA-23333 列 *string* は既に列グループの一部です。

原因: その列がすでに列グループのメンバーであるのに、列グループに追加しようとしてしました。

処置: 列を別の列グループに追加する前に、既存の列グループからその列を削除してください。

ORA-23334 列 *string* は表または列グループ内に存在しません。

原因: 指定した列が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定した表または列グループの一部ではありません。

処置: 表または列グループのメンバーである列を使用してください。

ORA-23335 優先グループ *string* が既に存在します。

原因: 優先順位グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

処置: オブジェクト・グループにまだ登録されていない列グループ名を使用してください。

ORA-23336 優先グループ *string* が存在しません。

原因: 優先順位グループが、オブジェクト・グループにすでに登録されていました。

処置: オブジェクト・グループにまだ登録されていない優先順位グループ名を使用してください。

ORA-23337 優先順位または値が優先グループ *string* にありません。

原因: 指定した値または優先順位が、優先順位グループの一部として登録されていません。

処置: 優先順位グループの一部である別の値または優先順位を指定するか、または優先順位グループにその値を追加してください。

ORA-23338 優先順位または値が既に優先グループ *string* 内に存在します。

原因: 指定した値または優先順位が、すでに優先順位グループの一部として登録されています。

処置: 優先順位グループの一部でない別の値または優先順位を指定するか、または優先順位グループのその値を削除してください。

ORA-23339 競合解消情報が重複しています。

原因: 指定した列グループ、順序、競合タイプまたはパラメータ表名（あるいはその両方）、パラメータ列名、パラメータ順序番号の組合せは、すでに登録されています。

処置: その他の解決情報を追加する必要があるか確認して、新規の順序番号を指定してください。既存の情報を変更する場合は、最初にその既存の情報を削除する必要があります。

ORA-23340 解消方法 *string* が誤りです。

原因: 競合の解消方法が USER FUNCTION でない場合、または指定した解消方法が事前定義済の方法でない場合に、ユーザー・ファンクションが指定されています。

処置: 競合の解消方法が USER FUNCTION ではないのにユーザー・ファンクションが指定される場合は、USER FUNCTION として関数を再登録するか、または NULL のユーザー・ファンクションを指定してください。それ以外の場合は、ドキュメントに記載のあるサポートされた競合解消方法を指定してください。

ORA-23341 ユーザー関数が必須です。

原因: USER FUNCTION の方法として、NULL のユーザー・ファンクションが指定されました。

処置: ドキュメントに記載のあるユーザー・ファンクション指定に一致するユーザー・ファンクション名（たとえば、スキーマ.パッケージ.ファンクション）を指定するか、またはドキュメントに記載のあるサポートされた競合解消方法を指定してください。

ORA-23342 パラメータ列 *string* が無効です。

原因: パラメータ列名が NULL であるか、綴りが間違っているか、起動データベースがマスターでないか、または指定した競合解消方法のタイプが誤っています。

処置: 競合解消方法のタイプが正しい、指定された列グループのパラメータ列を指定してください。

ORA-23343 指定された競合解消情報の不一致。

原因: 列グループ、順序、競合タイプの指定された組合せは、登録されていません（たとえば、コメントを追加するため）。

処置: 登録されている列グループ、順序、競合タイプの組合せを指定してください。

ORA-23344 制約 (*string.string*) が存在しません。

原因: 一意性の競合の登録時に、指定された制約が NULL か、綴りが間違っているか、または存在していません。

処置: 指定の表に指定した制約を登録してください。

ORA-23345 表 *string.string* が統計表示収集用に登録されていません。

原因: 統計表示収集のために登録されなかった表に対して、競合解消統計収集を処理するプロシージャがコールされました。

処置: DBMS_REPCAT.REGISTER_STATISTICS をコールして、表を登録してください。

ORA-23346 表またはスナップショット *string* の主キーが未定義です。

原因: 制約または DBMS_REPCAT.SET_COLUMNS によって定義されている主キーのない表またはスナップショットに対してレプリケーション・サポートを生成しようとした。

処置: 表に対して、主キー制約を追加するかまたは DBMS_REPCAT.SET_COLUMNS を使用して主キーを定義してください。ROWID スナップショットに対しては、MIN_COMMUNICATION を FALSE に設定するか、または主キー・スナップショットを使用してください。

ORA-23347 データ型 *string* (列 *string* 表 *string*) はサポートされません。

原因: その表には REPCAT がサポートしていないデータ型の列があります。

処置: 表から列を削除するか、またはサポートされているデータ型を持つように列を変更してください。

ORA-23348 プロシージャ *string* をレプリケートできません。IN パラメータだけがサポートされます。

原因: OUT パラメータまたは IN OUT パラメータを持つプロシージャがあるパッケージに対してレプリケーション・サポートを生成しようとした。

処置: パッケージからプロシージャを削除するか、プロシージャから OUT パラメータまたは IN OUT パラメータを削除してください。

ORA-23349 各関数にレプリケーション・サポートを生成できません。

原因: パブリック関数のあるパッケージ、またはスタンドアロン関数に対してレプリケーション・サポートを生成しようとした。

処置: パッケージからパブリック関数を削除するか、または関数がプロシージャになるように変更してください。

ORA-23350 最大再帰コール数を超えました。

原因: 同じ行への同時更新によって競合が生じるため、表内の競合を解消しようとすると、通常このエラーが発生します。

処置: DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE_ERROR を使用して、DefError から遅延トランザクションを再実行してください。

ORA-23351 パラメータのデータ型 *string*（プロシージャ *string*）はサポートされていません。

原因：プロシージャに REPCAT がサポートしていないデータ型のパラメータがあります。

処置：プロシージャからパラメータを削除するか、またはサポートされているデータ型を持つようにパラメータを変更してください。

ORA-23352 遅延トランザクションの接続先が重複しています。

原因：DBMS_DEFER.CALL コール、前の DBMS_DEFER.TRANSACTION コール、または dbms_defer_sys.add_default_dest コールのいずれかの遅延トランザクションに対して、重複する接続先が指定されました。

処置：重複するエントリを削除してください。

ORA-23353 遅延 RPC キューには、オブジェクト・グループ *string.string* のエントリがあります。

原因：要求したアクションは、指定したオブジェクト・グループに対してキューが空になるまで実行できません。

処置：DBMS_DEFER_SYS.EXECUTE または DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN を使用して、キューを空にしてください。

ORA-23354 *string* に対する遅延 RPC の実行は使用禁止です。

原因：伝播が使用禁止のため、接続先で遅延 RPC を実行できません。

処置：DBMS_DEFER_SYS.ENABLE コールを使用して、遅延 RPC を実行可能にしてください。

ORA-23355 オブジェクト *string.string* はマスター・サイトにおいて存在しないか無効です。

原因：指定した名前が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定したタイプが間違っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態のレプリケート・オブジェクトとして存在していません。

処置：オブジェクトがマスター・データベース内で有効であること、ユーザーが参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23356 masterdef は masterdef を認識しないマスターを認識します。

原因：DROP_MASTER_REPGROUP がマスター・サイトで実行されましたが、そのマスターに対するマスター定義サイトで REMOVE_MASTER_DATABASES が実行されていない可能性があります。

処置：マスター定義サイトで REMOVE_MASTER_DATABASES を実行して適切なマスターを削除してください（関連エラー・メッセージを参照してください）。

ORA-23357 プロパゲータが存在しません。

原因: そのプロパゲータは存在しません。

処置: 新しいプロパゲータを登録してください。

ORA-23358 リモート・ユーザー名が無効です。

原因: ローカル・ユーザーが、データベース・リンクを介して接続されているリモート・ユーザーと一致しません。

処置: 識別されたデータベース・リンクの所有者と同じ接続先ユーザーへのデータベース・リンクを削除し、再作成してください。

ORA-23359 repcatlog レコードの ddl レコード作成中にエラーが発生しました。

原因: repcatlog レコード内の USERID が、接続されたユーザーの USERID と一致しません。

処置: 別のユーザーを指定して操作を再試行してください。

ORA-23360 マスター表 *string* にはスナップショットを 1 つだけ作成できます。

原因: 同じレプリケーション・グループ内のマスター表に 2 つ以上のスナップショットを作成しようとしてしました。

処置: これらのスナップショットは別のサイトの異なるレプリケーション・グループで作成してください。

ORA-23361 スナップショット *string* はマスター・サイトにおいて存在しません。

原因: スナップショットのオフライン・インスタンス用マスター・サイトにスナップショットが存在しません。

処置: 正しい手順でマスター・サイトの別のスキーマにスナップショットを作成してから、スナップショットのオフライン・インスタンス用の手順に従ってください。

ORA-23362 ユーザー名が無効です。

原因: 指定されたユーザーは存在しません。

処置: 有効なユーザー名を入力し、操作を再試行してください。

ORA-23363 マスターおよびスナップ・サイトにおいてスナップ・ベース表 *string* が一致しません。

原因: マスター・サイトのスナップショットの実表の名前がスナップショット・サイトの実表の名前と異なります。このエラーはスナップショットのオフライン・インスタンス中に発生します。

処置: 24 バイトより小さいスナップショット名を使用して、オフライン・インスタンスを再試行してください。

ORA-23364 機能は使用できません: アドバンス・レプリケーション

原因: このサイトではアドバンスト・レプリケーション機能が使用可能になっていません。したがって、更新できるスナップショット、遅延 RPC などのレプリケーション機能は使用できません。

処置: この機能は使用しないでください。アドバンスト・レプリケーション機能を購入しても使用できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23365 サイト *string* は存在しません。

原因: DIFFERENCES() ルーチンまたは RECTIFY() ルーチンのコール時に、引数 REFERENCE_SITE または引数 COMPARISON_SITE に指定されたサイトに、存在しているサイトの名前が指定されていません。

処置: 指定されたデータベース・サイトが実際に存在することを確認し、ルーチンを再実行してください。

ORA-23366 整数値 *string* は 1 以下です。

原因: ルーチン DIFFERENCES() に対する引数 MAX_MISSING の値は、1 以上である必要があります。ルーチン DIFFERENCES() とルーチン RECTIFY() に対する引数 COMMIT_ROWS の値は 1 以上である必要があります。

処置: これらの引数が 1 以上になるように整数値を選択してください。

ORA-23367 表 *string* には主キーが欠落しています。

原因: "differences()" ルーチンのコール時に引数 "oname1" または "oname2" に指定された表に、主キーまたは仮想主キー（対称型レプリケーションで DBMS_REPCAT パッケージを使用して定義される）がありません。

処置: 指定した表に主キーが定義されていることを確認してください。

ORA-23368 名前 *string* は NULL であることも空ストリングであることもできません。

原因: DIFFERENCES() または RECTIFY() に対する引数 SNAME1、SNAME2、ONAME1、ONAME2、MISSING_ROWS_SNAME、MISSING_ROWS_ONAME1、MISSING_ROWS_ONAME2 は、NULL または "（空の文字列）にできません。

処置: 引数を NULL 以外または空の文字列以外に変更してください。

ORA-23369 *string* 引数の値は NULL であってはなりません。

原因: DIFFERENCES() ルーチンに対する引数 MAX_MISSING は NULL にできません。

処置: MAX_MISSING に対して有効な値は 1 以上の整数です。

ORA-23370 表 *string* および表 *string* は形状が等価 (*string*) ではありません。

原因: 指定された表の形状が等価ではありません。つまり、列数、名前、データ型、およびデータ長が同じではない可能性があります。具体的には、問題はカッコに関するものであり、次のいずれかが原因です。列数が同じではない場合、異なる表にある同じ名

前の列のデータ型が異なる場合、varchar2 列と char 列の長さが同じではない場合、数値データ型の精度と桁が同じではない場合。

処置: 比較している 2 つの表の列数、列名、およびデータ型が同じであることを確認してください。

ORA-23371 列 *string* は表 *string* 内では不明な列です。

原因: DIFFERENCES() ルーチンに対する ARRAY_COLUMNS 引数（または COLUMN_LIST 引数）の列の中に指定された表の列に対応しないものがあります。

処置: ARRAY_COLUMNS または COLUMN_LIST のいずれかにおけるすべての列が指定された表の中にあることを確認してください。

ORA-23372 型 *string* (表 *string* 内) はサポートされません。

原因: 表比較ユーティリティ内にはサポートされていない型があります。

処置: 比較対象の表における列の型が対称型レプリケーションでサポートされている型であることを確認してください。

ORA-23373 オブジェクト・グループ *string.string* は存在しません。

原因: グループ名が NULL であるか、綴りが間違っているか、またはグループがローカルに存在していません。

処置: グループを正確に指定するか、または DBMS_REPCAT.CREATE_MASTER_REPGROUP() を使用してグループを作成してください。

ORA-23374 オブジェクト・グループ *string.string* はすでに存在しています。

原因: 指定したデータベースは、指定したオブジェクト・グループをすでにレプリケートしています。指定したサイトには同じ名前のマスター・グループがすでに存在するため、スナップショット・グループは作成できません。

処置: 別のファイル・グループまたは別のデータベースを選択してください。

ORA-23375 機能はデータベース・バージョン *string* と互換性がありません。

原因: 指定されたデータベースと互換性のない機能を使用されています。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータの値を設定するか、または値を大きくして必要な互換性レベルに合わせてください。

ORA-23376 ノード *string* はレプリケーション・バージョン *string* と互換性がありません。

原因: リモート・データベースと互換性のない機能を使用されています。

処置: リモート・データベースをアップグレードしてから操作を再試行してください。

ORA-23377 missing_rows_ename1 引数の名前 *string* が不正です。

原因: missing_rows_ename1 引数の名前として参照サイト表の名前を使用しようとしました。

処置: `missing_rows_ename1` 引数とは異なる名前で別個に作成した表を指定してください。別個に作成された表には、比較されている表の間の相違情報が入ります。

ORA-23378 接続修飾子 *string* は、オブジェクト・グループ *string.string* に対して無効です。

原因: 指定されたオブジェクト・グループのデータベース・リンクで使用される接続修飾子が、`CREATE_MASTER_REPGROUP` のグループに指定された修飾子と一致しません。

処置: 正しい接続修飾子を含むデータベース・リンクを使用または作成してください。

ORA-23379 接続修飾子 *string* が長すぎます。

原因: 接続修飾子を含むデータベース・リンクの最大長は 128 バイトです。

処置: 短い接続修飾子を使用するか、または、データベース・リンクの名前を短くしてください。

ORA-23380 伝播モード *string* が無効です。

原因: 指定された伝播は綴りが間違っているか、またはサポートされていません。スナップショット・サイトでは、同じマスター・オブジェクト・グループで、同じスナップショット・サイトにあるスナップショット・オブジェクト・グループは、すべて同じ伝播方法である必要があります。

処置: 有効な伝播モードについては、『Oracle8i レプリケーション・ガイド』を参照してください。また、スナップショット・サイトでは、同じマスター・オブジェクト・グループのスナップショット・オブジェクト・グループがすべて同じ伝播モードであることを確認してください。

ORA-23381 ベース・オブジェクト *string.string@string* 用の生成オブジェクトが存在しません。

原因: 指定されたベース・オブジェクト用にシステムが生成したオブジェクトが、指定されたサイトに存在しません。現在の操作では、ベース・オブジェクトには生成されたレプリケーション・サポートが必要です。

処置: ベース・オブジェクト用に生成されたレプリケーション・オブジェクトが存在し、指定されたサイトで有効であることを確認してください。生成されたオブジェクトが存在しない場合、`DBMS_REPCAT.GENERATE_REPLICATION_SUPPORT()` プロシージャをベース・オブジェクトのマスター定義サイト (`missing_rows_ename1` 引数) からコールする必要があります。別個に作成された表には、比較されている表の間の相違情報が入ります。

ORA-23382 スナップショット・レプリケーション・グループ *string* がサイト *string* に登録されていません。

原因: スナップショット `REPGROUP` は現在マスターに登録されていないので、登録を取り消すことはできません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-23383 スナップショット・レプリケーション・グループ *string.string* の登録（サイト *string*）に失敗しました。

原因：ローカル REPSHEMA 表への追加に失敗しました。

処置：処置は必要ありません。

ORA-23384 レプリケーション・パラレル・プッシュ引数 *string* が有効範囲外です。

原因：DBMS_DEFER_SYS.PUSH に対して指定された数値引数が無効です。

処置：引数値を修正して再試行してください。

ORA-23385 レプリケーション・パラレル・プッシュ *string* 引数が無効です。

原因：DBMS_DEFER_SYS.PUSH に対して指定された文字列引数が無効です。

処置：引数値を修正して再試行してください。

ORA-23386 レプリケーション・パラレル・プッシュでスレーブ処理を作成できません。

原因：パラレル・プッシュのスレーブ・プロセスを作成中にエラーが発生しました。

処置：PARALLEL_MAX_SERVERS 初期化パラメータが0（ゼロ）の場合は、パラメータを再構成して0（ゼロ）より大きくなるようにしてください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23387 レプリケーション・パラレル・プッシュでディキュー・エラーが発生しました。

原因：新しいキュー・バッチ番号を割り当てようとしたときに、遅延トランザクションのデキューに失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23388 レプリケーション・パラレル・プッシュ水位標でエラーが発生しました。

原因：SYSTEM.DEF\$_DESTINATION の高水位標を更新しようとしたときに、パラレル・プッシュでエラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23389 プロシージャ廃止。オブジェクトを削除して新規マスターを使って再作成してください。

原因：DBMS_REPCAT.SWITCH_SNAPSHOT_MASTER はサポートされなくなりました。

処置：オブジェクト・グループ内のオブジェクトを削除し、新しいマスターを使用してそれらを再作成してください。

ORA-23392 *string.string* に関係付けられているスナップショットが見つかりません。

原因：マスター・サイトから取得したトリガーまたは索引に関係付けられているスナップショットが見つかりません。

処置：スナップショットまたはマスター、マスター索引、トリガーがレプリケート・オブジェクトとして登録されていることを確認してください。

ORA-23393 ユーザーはすでにプロパゲータです。

原因: 指定されたユーザーはすでにカレント・プロパゲータです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-23394 プロパゲータが重複しています。

原因: 有効なプロパゲータが複数存在します。

処置: 重複しているプロパゲータのいずれかを登録抹消してください。

ORA-23395 オブジェクト *string.string* (型 *string*) が存在していないか、または無効です。

原因: 指定した名前が NULL であるか、綴りが間違っているか、指定したタイプが間違っているか、オブジェクトが有効なデータベース・オブジェクトとして存在していないか、オブジェクトが適切な状態のレプリケーション・オブジェクトとして存在していません。

処置: オブジェクトがデータベース内で有効であること、参照できること、ALL_REPOBJECT 内の有効なオブジェクトであること（該当する場合）を確認してください。

ORA-23396 データベース・リンク *string* が存在していないか、スケジュールされていません。

原因: データベース・リンクがレプリケーション・プロパゲータのスキーマに存在しないか、またはスケジュールされていません。

処置: データベース・リンクがデータベースに存在すること、およびアクセス可能なこと、実行がスケジュールされていることを確認してください。

ORA-23397 グローバル名 *string* がデータベース・リンク名 *string* と一致しません。

原因: リンクがアクセスするデータベースのグローバル名がローカル・ノードのデータベース・リンク名と一致しません。

処置: グローバル名が TRUE に設定されていること、およびリンク名がグローバル名と一致していることを確認してください。

ORA-23398 ユーザー名 *string* (データベース・リンク *string*) がローカル・ユーザー名 *string* と不一致です。

原因: ローカル・ノードのレプリケーション管理ユーザーのユーザー名と、データベース・リンクに対応するノードのユーザー名が異なります。対称型レプリケーションでは、2つのユーザーが同じであることが必要です。

処置: ローカル・ノードのレプリケーション管理ユーザーのユーザー ID と、データベース・リンクに対応するノードのユーザー ID が同じであることを確認してください。

ORA-23399 *string.string* に対するレプリケーション・サポートの生成が未完了です。

原因: 指定されたオブジェクトのレプリケーション・サポートが生成されていないか、生成プロセスが完了していません。

処置: そのオブジェクトに対してレプリケーション・サポートが生成されたことを確認してください。DBMS_REPCAT.GENERATE_REPLICATION_SUPPORT() を使用してオブジェクトのレプリケーション・サポートを生成してください。

ORA-23400 スナップショット名 *string* が無効です。

原因: DBMS_SNAPSHOT.REFRESH に指定されたスナップショットが、NULL かまたは綴りが間違っているか、書式が間違っています。

処置: DBMS_SNAPSHOT.REFRESH に有効なスナップショット名を指定してください。

ORA-23401 スナップショット *string.string* が存在しません。

原因: SYS.SNAP\$ またはその関連のビュー内に存在しないスナップショット名が DBMS_SNAPSHOT.REFRESH に指定されました。

処置: SYS.SNAP\$ または ALL_SNAPSHOTS、USER_SNAPSHOTS に存在しているスナップショット名を指定してください。

ORA-23402 遅延 txns により発生した対立のためリフレッシュが異常終了しました。

原因: スナップショットのマスターの DefError 表に、未解決の競合がロギングされています。

処置: マスター DefError 表内の競合を解消して、表が空になった後に再度リフレッシュしてください。または、REFRESH_AFTER_ERRORS を TRUE に設定してリフレッシュしてください。これによって、マスターの DEFERROR 表で競合があってもリフレッシュを続行できます。競合が発生しているにもかかわらず続行すると、(競合の解消後にリフレッシュが成功するまで) 更新可能なスナップショットの変更が、一時的に失われているように見える場合があります。

ORA-23403 リフレッシュ・グループ *string.string* が既に存在します。

原因: 同一名のグループがすでに SYS.RGROUP\$ にある場合は、別のリフレッシュ・グループを作成してください。

処置: 別のリフレッシュ・グループ名を選択してください。

ORA-23404 リフレッシュ・グループ *string.string* が存在しません。

原因: SYS.RGROUP\$ にないリフレッシュ・グループ名が指定されました。

処置: SYS.RGROUP\$ または DBS_RGROUP にあるリフレッシュ・グループ名を指定してください。

ORA-23405 リフレッシュ・グループ番号 *string* が存在しません。

原因: SYS.RGROUP\$ にないリフレッシュ・グループ番号が指定されました。

処置: SYS.RGROUP\$ または DBS_RGROUP にあるリフレッシュ・グループ番号を指定してください。

ORA-23406 ユーザー *string* に対する権限が不十分です。

原因: 呼出し側がスナップショットの所有者ではなく、ALTER ANY SNAPSHOT 権限を持っていません。

処置: スナップショットの所有者として、または ALTER ANY SNAPSHOT 権限を持つユーザーとして操作を実行してください。

ORA-23407 オブジェクト名 *string* は"スキーマ"."オブジェクト"または"オブジェクト"のような形状でなければなりません

原因: オブジェクト名（ロールバック・セグメント、スナップショット名、リフレッシュ・グループなど）が正しく指定されませんでした。

処置: オブジェクト名を正しく指定して（たとえば、"スキーマ"."オブジェクト"または"オブジェクト"）操作を再試行してください。

ORA-23408 このレプリケーション操作は複合構成でサポートされていません。

原因: オブジェクト・グループが V8 より前のノードでレプリケートされている場合、この操作はサポートされていません。

処置: レプリケート・オブジェクト・グループのすべてのノードが V8 であることを確認してください。

ORA-23409 未使用リフレッシュ・グループ番号を検索できませんでした。

原因: RGROUPSEQ 番号で定義されている 1000 の連続リフレッシュ・グループ番号が、SYS.RGROUP\$ の行によってすでに使用されていました。

処置: 有効な未使用範囲内に入るように順序番号を変更して、不必要なリフレッシュ・グループを破棄してください。

ORA-23410 スナップショット *string.string* は既にリフレッシュ・グループ内にあります。

原因: 同一名のスナップショットが、リフレッシュ・グループにすでに存在しています。

処置: カレント・リフレッシュ・グループからスナップショットを除去して、それを新しいリフレッシュ・グループに追加するか、またはこの 2 つのリフレッシュ・グループを結合して、1 つのリフレッシュ・グループにしてください。

ORA-23411 スナップショット *string.string* はリフレッシュ・グループ *string.string* 内にありません。

原因: 指定したスナップショットは、指定したリフレッシュ・グループに存在しません。

処置: 正しいスナップショット名とリフレッシュ・グループ名を使用して、再実行してください。

ORA-23412 マスター表の主キー列が変更されました。

原因: 主キー・スナップショットが作成された後に、マスター表の主キー制約が変更されました。

処置: 主キー・スナップショットを削除してから再作成してください。

ORA-23413 表 *string.string* にスナップショット・ログがありません。

原因: マスター表にスナップショット・ログが格納されていないので、高速リフレッシュを実行できません。

処置: CREATE SNAPSHOT LOG コマンドを使用してマスター表にスナップショット・ログを作成してください。

ORA-23414 *string.string* のスナップショット・ログに rowid 値が記録されていません。

原因: ROWID スナップショットが高速リフレッシュされていますが、スナップショット・ログは ROWID 情報を記録していません。

処置: CREATE SNAPSHOT LOG...ADD ROWID コマンドを使用して、スナップショット・ログへの ROWID 情報の記録を開始してください。

ORA-23415 *string.string* のスナップショット・ログに主キーが記録されていません。

原因: 主キー・スナップショットが高速リフレッシュされていますが、スナップショット・ログは主キー情報を記録していません。

処置: CREATE SNAPSHOT LOG...ADD PRIMARY KEY コマンドを使用して、スナップショット・ログへの主キー情報の記録を開始してください。

ORA-23416 表 *string.string* に主キー制約がありません。

原因: マスター表に主キー制約がありません。または、主キー制約が使用禁止になっていました。

処置: マスター表に主キー制約を作成するか、既存の制約を使用可能にしてください。

ORA-23417 不明なスナップショット・タイプ: *string* です。

原因: 不明なタイプまたはサポートされていないタイプのスナップショットに対して高速リフレッシュが実行されました。

処置: ALL_SNAPSHOTS を確認し、リフレッシュされたスナップショットが有効なスナップショットであることを確認してください。

ORA-23418 現在使用しているプロパゲータの登録は取り消せません。

原因: プロパゲータは、現在レプリケーション RPC の伝播に使用されています。

処置: レプリケーション RPC の伝播でアクティブなトランザクションがなくなってから、再試行してください。

ORA-23419 レプリケーション・サポート再生成後にマスター・アクティビティを再開してください。

原因: レプリケーション・サポートの再生成を必要とする表が、オブジェクト・グループ内にあります。

処置: ALL_REPOBJECTS ビューの GENERATION_STATUS 列を確認してください。オブジェクト・グループ内で「NEEDSGEN」ステータスになっているすべての表につい

てレプリケーション・サポートを再生成してください。マスター・アクティビティを再開してください。

ORA-23420 間隔は未来の時刻に評価されなければなりません。

原因: パラメータ INTERVAL は、SYSDATE よりも前の時刻の数値を求めています。

処置: SYSDATE よりも後の時刻の数値を求める式を選択してください。

ORA-23421 ジョブ番号 *string* はジョブ待ち行列内のジョブではありません。

原因: 指定したジョブ番号で呼出し側が参照できるジョブはありません。

処置: 呼出し側が参照できるジョブの番号を選択してください。

ORA-23422 Oracle Server は未使用ジョブ番号を生成できませんでした。

原因: 別のジョブを認識するのに使用されなかったジョブ番号を、Oracle Server が生成できませんでした。

処置: 操作を再試行してください。

ORA-23423 ジョブ番号 *string* が正数ではありません。

原因: 指定したジョブ番号は 1 未満です。

処置: 正の整数を選択してください。

ORA-23424 スナップショット *string.string* (*string*) は登録されていません。

原因: 指定したスナップショットは、このサイトに正常に登録されていません。

処置: マスター・サイトまたはスナップショット・サイトに、スナップショットを手動で登録してください。

ORA-23425 スナップショットの識別子 *string* が正しくありません。

原因: DBMS_SNAPSHOT.PURGE_SNAPSHOT_FROM_LOG に指定された引数が無効なスナップショット識別子であるか、この引数が Oracle 8 の高速リフレッシュ可能スナップショットを認識しないか、スナップショットがすでにパージされているかのいずれかです。

処置: スナップショットが Oracle 8 の高速リフレッシュ可能スナップショットである場合は、PURGE_SNAPSHOT_FROM_LOG に有効なスナップショット識別子を指定してください。

ORA-23426 遅延 RPC キューにはエントリ *string* があります。

原因: 要求したアクションは、指定したサイト / データベース・リンクに対してキューが空になるまで実行できません。

処置: DBMS_DEFER_SYS.PUSH、DBMS_DEFER_SYS.PURGE_QUEUE、または DBMS_DEFER_SYS.DELETE_TRAN を使用して、キューを空にしてください。

ORA-23427 遅延パージ・キュー引数 *string* は有効範囲にありません。

原因: DBMS_DEFER_SYS.PURGE_QUEUE に対して指定された数値引数が無効です。

処置: 引数値を修正して再試行してください。

ORA-23428 インスタンス番号 *string* に関連するジョブは実行されていません。

原因: ジョブが、実行中でないインスタンスに関連しています。

処置: ジョブ親和性に対する実行中のインスタンスを選択するか、またはパラメータを TRUE に設定してください。

ORA-23430 引数 *string* は NULL または空ストリングであってはなりません。

原因: 値を NULL または空の文字列を指定できない引数を呼出し側が指定しました。

処置: 指定された VARCHAR2 の値が NULL または空の文字列でないことを確認し、コールを再試行してください。

ORA-23431 誤った状態: *string*

原因: レプリケーション・オブジェクト・グループに対してルーチンが実行されましたが、このグループの状態が正しくありません。

処置: レプリケーション・オブジェクト・グループがエラー・メッセージに示されている状態にあるかどうかを確認してください。

ORA-23432 マスター・サイト *string* は既に存在します。

原因: すでにオブジェクト・グループの一部であるマスター・サイトのレプリケート・オブジェクト・グループをインスタンス化しようとしてしました。

処置: このサイトを追加しようとする場合、サイトはすでに存在しているので実行しないでください。そうでない場合、別のサイト名を選択し、ルーチンを再実行してください。

ORA-23433 誤ったマスター・サイト *string* に対して実行しています。

原因: ルーチンの引数で指定されているサイトと異なるサイトでルーチンを実行しようとしてしました。

処置: ルーチンの実行対象のサイトを正しく示すルーチンに対して、引数を指定してください。

ORA-23434 マスター・サイト *string* はオブジェクト・グループでは不明なマスター・サイトです。

原因: ルーチンの引数として指定されたサイト名は、まだレプリケーション・オブジェクト・グループに認識されていません。

処置: DBMS_OFFLINE_OG.BEGIN_INSTANTIATION() ルーチンを実行して、レプリケーション・オブジェクト・グループに新しいサイトを追加してください。

ORA-23435 LOB 列を含めた更新可能な ROWID スナップショットは作成できません。

原因: スナップショット・サイトからマスター・サイトに LOB データを伝播するには、レプリケートされた表に主キーが必要です。したがって、LOB 列を含む更新可能な ROWID スナップショットはサポートされません。

処置: ROWID スナップショットではなく、主キー・スナップショットを作成してください。スナップショットがすでにある場合には、ALTER SNAPSHOT DDL コマンドで主キー・スナップショットに変換できます。

ORA-23436 対象ユーザーにこのテンプレートは認可されていません。

原因: 指定したテンプレート認可は存在しません。

処置: ユーザー名の値を確認して、テンプレート名または AUTH_TEMPLATE_ID をリフレッシュして、DBA_REPCAT_USER_AUTHORIZATIONS ビューに有効な行が存在することを確認してください。

ORA-23437 対象ユーザーにこのテンプレートはすでに認可されています。

原因: 対象ユーザーは、指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレートの使用すでに認可されています。

処置: ユーザー名およびリフレッシュ・テンプレート名の値を確認するか、または DBA_REPCAT_USER_AUTHORIZATIONS ビューに問い合せて、正しい値がパラメータとして渡されたかを確認してください。

ORA-23438 リフレッシュ・グループ・テンプレートが存在しません。

原因: 指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレートが存在しません。

処置: DBA_REPCAT_REFRESH_TEMPLATES に問い合せて、リフレッシュ・グループ・テンプレートが存在しないことを検証してください。

ORA-23439 リフレッシュ・グループ・テンプレートはすでに存在しています。

原因: 指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレートはすでに存在します。

処置: DBA_REPCAT_REFRESH_TEMPLATES に問い合せて、リフレッシュ・グループ・テンプレートが存在することを検証してください。

ORA-23440 パブリック・テンプレートの値が正しくありません。

原因: パブリック・テンプレートのパラメータが Y、N または NULL ではありません。

処置: パブリック・テンプレートのパラメータの値を訂正してください。Y、N または NULL である必要があります。

ORA-23441 指定オブジェクトはリフレッシュ・グループ・テンプレートに存在しません。

原因: 指定されたオブジェクトが、リフレッシュ・グループ・テンプレートに存在しません。

処置: オブジェクト名およびオブジェクト型のパラメータを訂正してください。DBA_REPCAT_TEMPLATE_OBJECTS ビューを確認して、正しい名前およびオブジェクト型を検証してください。

ORA-23442 指定オブジェクトはリフレッシュ・グループ・テンプレートにすでに存在しています。

原因: 指定されたオブジェクトが、リフレッシュ・グループ・テンプレートにすでに存在しています。

処置: オブジェクト名およびオブジェクト型のパラメータを変更してください。
DBA_REPCAT_REMPLATE_OBJECTS ビューに問い合せて、正しい名前およびオブジェクト型を検証してください。

ORA-23443 テンプレート・パラメータが存在しません。

原因: 指定したテンプレート・パラメータは存在しません。

処置: テンプレート・パラメータ値を訂正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_PARMS ビューを使用して、リフレッシュ・グループ・テンプレート名およびパラメータ名を検証してください。

ORA-23444 テンプレート・パラメータが重複しています。

原因: テンプレート・パラメータが、指定されたリフレッシュ・グループ・テンプレート用にすでに存在しています。

処置: テンプレート・パラメータ値を訂正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_PARMS ビューを使用して、リフレッシュ・グループ・テンプレート名およびパラメータ名を検証してください。

ORA-23445 テンプレート・サイトが存在しません。

原因: サイト名、ユーザー名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたテンプレート・サイトが存在しません。

処置: 無効なパラメータを訂正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_SITES ビューを使用して、既存のテンプレート・サイトに問い合せてください。

ORA-23446 テンプレート・サイトが重複しています。

原因: サイト名、ユーザー名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたテンプレート・サイトがすでに存在します。

処置: 無効なパラメータを訂正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_TEMPLATE_SITES ビューを使用して、既存のテンプレート・サイトに問い合せてください。

ORA-23447 ユーザー・パラメータ値が存在しません。

原因: ユーザー名、パラメータ名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたユーザー・パラメータ値が存在しません。

処置: 無効なパラメータを訂正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_USER_PARM_VALUES ビューを使用して、既存のユーザー・パラメータを問い合せてください。

ORA-23448 ユーザー・パラメータ値が重複しています。

原因: ユーザー名、パラメータ名およびリフレッシュ・グループ・テンプレート名で指定されたユーザー・パラメータ値がすでに存在しています。

処置: 無効なパラメータを訂正して、プロシージャを再実行してください。
DBA_REPCAT_USER_PARM_VALUES ビューを使用して、既存のユーザー・パラメータを問い合わせてください。

ORA-23449 ユーザー名がデータベースに存在していません。

原因: ユーザー名のパラメータで指定されたユーザーが、データベースに存在しません。

処置: 無効なユーザー名を訂正するか、またはマスター・データベースにユーザーを作成してください。DBA_USERS ビューを使用して、有効なデータベース・ユーザーを選択してください。

ORA-23450 フレーバにはオブジェクト *string.string* がすでに含まれています。

原因: フレーバには指定されたオブジェクトがすでに含まれています。

処置: 指定されたオブジェクトが正しいことを確認してください。表オブジェクトの列すべてを追加するには、フレーバからオブジェクトを削除してから再度追加してください。

ORA-23451 フレーバ *string* はオブジェクト・グループ *string.string* にすでに定義されています。

原因: 指定されたオブジェクト・グループが、指定されたフレーバの（未公開の）定義をすでに含んでいます。

処置: フレーバ名の綴りを確認してください。必要とされる名前の公開されていないフレーバを確認してください。

ORA-23452 フレーバ *string*（オブジェクト・グループ *string.string*）はすでに公開されています。

原因: 指定されたオブジェクト・グループが、指定されたフレーバの（公開済の）定義をすでに含んでいます。

処置: フレーバ名の綴りを確認してください。

ORA-23453 要求した操作は最上位フレーバでサポートされていません。

原因: 最上位フレーバに NULL 名があり、そのフレーバは直接定義されていないか、または削除されていない可能性があります。

処置: 最上位フレーバ以外のフレーバの名前を指定するか、または DBMS_REPCAT ルーチンを使用して、暗黙的に最上位フレーバを変更してください。

ORA-23454 フレーバ *string* がオブジェクト・グループ *string.string* に対して定義されていません。

原因: 指定されたオブジェクト・グループが、指定されたフレーバの（公開済の）定義を含んでいません。

処置: フレーバ名の綴りを確認してください。フレーバが、オブジェクト・グループに対して定義されている（および公開済である）ことを確認してください。

ORA-23455 フレーバ *string* にはオブジェクト *string* が含まれています。

原因: 指定されたフレーバが、削除されるべきオブジェクトを含んでいます。

処置: フレーバを削除するか、または別のオブジェクトを選択して削除してください。

ORA-23456 フレーバ *string* に *string* は含まれていません。

原因: フレーバが、指定されたオブジェクト、列または属性を含んでいません。

処置: フレーバを削除するか、あるいは別のオブジェクト、列または属性を選択してください。

ORA-23457 無効なフレーバ ID *string*

原因: 指定されたフレーバ ID が無効です。

処置: このフレーバがインスタンスエートされたかどうかを確認してください。フレーバ ID が -2147483647 ~ 2147483647 の範囲外である場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-23458 フレーバ *string* は *string* で不適切です。

原因: 指定されたデータベースのフレーバが、正常な操作を妨げています。

処置: データベース・フレーバを変更するか、または別の操作を選択してください。

ORA-23459 フレーバ *string* には *string* が含まれなければなりません。

原因: フレーバが、指定されたオブジェクト、列、または属性を含んでいる必要があります。

処置: 別のデータベース・フレーバを選択するか、あるいはオブジェクト、列または属性が使用可能であることを確認してください。

ORA-23460 列 *string*（解決方法 *string - string.string.string*）の値がありません。

原因: 競合を解決する前に、解決に必要な値が使用不可能です。つまり競合を解決した後に、SQL の再試行に必要な値が使用不可能です。

処置: 適切なフレーバを定義して、競合解決のために、USER FLAVOR FUNCTION の使用可能ベクトルを介して、必要な値を提供してください。

ORA-23461 *string.string.string* に対する競合の解決に失敗しました。

ORA-23462 フレーバ *string* はサイト *string* で使用中です。

原因: 指定されたフレーバが指定されたサイトで使用中のために、そのフレーバを削除できませんでした。

処置: サイトのフレーバを変更するか、またはスナップショット・サイトの場合、登録を抹消してください。

ORA-23463 フレーバがオブジェクト *string.string* と競合します。

原因: 既存のフレーバが、競合する型のオブジェクトを含んでいます。

処置: オブジェクトの型を変更するか、または使用中でない場合、フレーバを削除してください。

ORA-23464 フレーバの列 *string* (*string.string*) が足りません。

原因: フレーバがオブジェクト・グループの列を含んでいますが、必要な列すべてではありません。

処置: フレーバ定義を変更して、必要な列をすべて入れてください。

ORA-23465 フレーバには列 *string* (*string.string*) がすでにあります。

原因: フレーバには、これから追加されるはずの列が存在しています。

処置: 指定された列が正しいことを確認してください。

ORA-23466 フレーバに不足しているオブジェクト *string.string* が要求です。

原因: フレーバに、存在しないオブジェクトが含まれています。

処置: 指定されたオブジェクト名が正しいかを確認して、必要ならば、オブジェクトを作成してください。

ORA-23467 フレーバにオブジェクト *string.string* が足りません。

原因: フレーバには、これから削除される指定のオブジェクトがありません。

処置: 指定されたオブジェクトが正しいことを確認してください。

ORA-23468 *string string* がありません。

原因: テンプレートには、指定されたキーを持つオブジェクトがありません。

処置: オブジェクトをテンプレートに追加してください。

ORA-23469 *string* はテンプレート間で異なります。

原因: 指定された列の値が、同じキー値に対する各テンプレートで異なります。

処置: 列の値を訂正して、テンプレートを同一にしてください。

ORA-23470 ステータスが無効です。

原因: ステータスは、DELETED、INSTALLING または INSTALLED である必要があります。それ以外のステータスは無効です。

処置: 指定されたステータス値が正しいことを確認してください。

ORA-23471 テンプレートへの権限が与えられていません。

原因: リフレッシュ・テンプレートがプライベートで、ユーザーにはテンプレートをインスタンスエートする権限がありません。

処置: ユーザーにテンプレートを使用する権限を与えてください。

ORA-23472 スナップショット *string.string* は自動的にリフレッシュされなければなりません。

原因: 非自動的リフレッシュは、指定されたスナップショットではサポートされていません。

処置: 使用中のリフレッシュ・プロシージャで、ATOMIC パラメータの値を FALSE に設定するか、または指定されたスナップショットをリフレッシュされるスナップショットの設定から削除してください。

ORA-23473 *string.string* 複製 RPC 処理は使用不可です。

原因: このオブジェクトを含むオブジェクト・グループの複製 RPC の処理は使用不可です。これは、エラー・キューの RPC を含んでいます。

処置: オブジェクト・グループがオフラインでインスタンスエートされているとき、複製 RPC の処理は使用不可です。オフライン・インスタンスエーションが完了するまで待機してください。

ORA-23474 レプリケーション・サポートの生成で、*string.string* の定義が変更されました。

原因: 指定された表にあるカレント列およびその列型が、レプリケーション・サポートが最後に生成されたときの列および列型と一致しません。

処置: 影響のあった表のレプリケーション・サポートを再作成してください。指定された表を持つフレーバすべての妥当性を確認してください。

ORA-23475 キー列 *string* の送信と比較が必要です。

原因: 指定された列がキー列であり、レプリケーション伝播中に送信および比較を必要とします。

処置: すべてのキー列が送信および比較されたことを確認してください。

ORA-23476 *string* から *string* にインポートできません。

原因: このオブジェクトは、異なるグローバル名を持つデータベースからインポートされました。

処置: 同一のグローバル名を持つデータベースのみに、このオブジェクトをインポートしてください。

ORA-23477 オブジェクト・グループ *string.string* の伝播モードを変更できません。

原因: スナップショット・オブジェクト・グループの伝播方法は、同じマスター・オブジェクト・グループの他のオブジェクト・グループとスナップショット・サイトを共有していない場合にのみ変更できます。

処置: ローカル・サイトに、同じマスター・オブジェクト・グループの他のスナップショット・オブジェクト・グループがないことを確認してください。

ORA-23478 オブジェクト・グループ *string* は、*string* ですすでにマスター化されています。

原因: ローカル・サイトに、グループ名は同じでマスター・サイトは異なるスナップショット・グループが1つ以上あります。

処置: ローカル・サイトの同じグループ名のスナップショット・グループが同じマスターを持つことを確認してください。

ORA-24000 値 *string* が無効です。*string* の形式は、[SCHEMA.]NAME でなければなりません。

原因: パラメータに無効な値が指定されました。

処置: フォーム [SCHEMA.]NAME の文字列を指定してください。

ORA-24001 QUEUE_TABLE を作成できません。*string* がすでに存在しています。

原因: このキュー表はすでにキューイング・システムに存在しています。

処置: DROP_QUEUE_TABLE() コマンドを使用して最初に表を削除するか、または別の表を指定してください。

ORA-24002 QUEUE_TABLE の *string* は存在しません。

原因: QUEUE_TABLE は存在しません。

処置: ユーザー・ビュー USER_QUEUE_TABLES を問い合せて、既存のキュー表を確認してください。

ORA-24003 キュー表の索引 *string* が、キュー表 *string* と不整合です。

原因: キュー表の索引が正常にインポートされていません。

処置: キュー表を使用する前に、キュー表の索引をインポートしてください。インポートが失敗した場合は、問題を訂正して、キュー表の索引のインポートを再試行してください。

ORA-24004 SORT_LIST の列名 *string* は無効です。ENQ_TIME または PRIORITY が必要です。

原因: SORT_LIST に無効な列名が指定されました。

処置: 有効な列名は ENQ_TIME および PRIORITY です。

ORA-24005 キュー表を削除するには DBMS_AQADM.DROP_QUEUE_TABLE を使用しなければなりません。

原因: キュー表に SQL の DROP TABLE コマンド使用しようとしたしましたが、DROP TABLE はキュー表ではサポートされていません。

処置: DROP TABLE コマンドのかわりに、DBMS_AQADM.DROP_QUEUE_TABLE プロシージャを使用してください。

ORA-24006 QUEUE を作成できません。string はすでに存在しています。

原因：作成が要求されたこのキューはすでに存在しています。

処置：別のキュー名を指定してください。ユーザーのスキーマに存在するすべてのキューを USER_QUEUES に問い合わせてください。

ORA-24007 値 string が無効です。MAX_RETRIES には負数ではない整数が必要です。

原因：MAX_RETRIES に無効な値が指定されました。

処置：負数ではない整数を指定してください。

ORA-24008 キュー表 string.string を最初に削除しなければなりません。

原因：クラスタ、表領域およびスキーマでキュー表を削除中に、エラーが検出されました

処置：DBMS_AQADM.DROP_QUEUE_TABLE プロシージャを使用して、指定されたキュー表をまず削除してから操作を再試行してください。

ORA-24009 値 string が無効。QUEUE_TYPE には NORMAL_QUEUE または EXCEPTION_QUEUE が必要です。

原因：キュー・タイプ・パラメータが無効です。

処置：標準キューに対する有効値は NORMAL_QUEUE で、例外キューに対する有効値は EXCEPTION_QUEUE です。

ORA-24010 QUEUE string は存在しません。

原因：指定したキューは存在しません。

処置：有効なキューを指定してください。USER_QUEUES にすべての有効なキューを問い合わせてください。

ORA-24011 QUEUE を削除できません。最初に string を停止する必要があります。

原因：キューが停止していません。つまり、エンキューまたはデキューがまだ使用可能です。

処置：STOP_QUEUE コマンドを使用してキューを停止してから、エンキューおよびデキューを使用禁止にしてください。

ORA-24012 QUEUE_TABLE を削除できません。string 内のキューの一部が削除されていません。

原因：キュー表に削除されていないキューが存在します。すべてのキューを削除する必要があります。

処置：DROP_QUEUE() コマンドを使用して、このキュー表に属するキューをすべて削除してください。削除する前にキューを適切に停止させてください。または、DROP_QUEUE_TABLE の FORCE オプションを使用してください。

ORA-24013 値 *string* が無効です。RETRY_DELAY には負数ではない値が必要です。

原因: RETRY_DELAY に負の値が指定されました。

処置: RETRY_DELAY に負以外の値を指定してください。

ORA-24014 値 *string* が無効です。RETENTION_TIME には FOREVER または非負数が必要です。

原因: キュー保持時間が指定されましたが、保持時間が 0（ゼロ）未満に指定されています。

処置: 保持時間には負以外の値または FOREVER を指定してください。または、保持時間を指定しないでください。

ORA-24015 QUEUE_TABLE を作成できません。QUEUE_PAYLOAD_TYPE *string.string* が存在しません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE 内に指定された QUEUE_PAYLOAD_TYPE が無効です。

処置: QUEUE_PAYLOAD_TYPE には、RAW またはデータベースにすでに存在するオブジェクト型が必要です。

ORA-24016 QUEUE_TABLE を作成できません。ユーザー *string* には QUEUE_PAYLOAD_TYPE *string.string* の実行権限がありません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE 内の QUEUE_PAYLOAD_TYPE に指定したオブジェクト型が無効です。

処置: キューに指定したオブジェクト型に対し、実行権限を所有していることを確認してください。

ORA-24017 QUEUE のエンキューを使用可能にできません。*string* は例外キューです。

原因: 例外キューに対してエンキューを使用可能にしようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24018 *string* の STOP_QUEUE に失敗しました。未解決のトランザクションが見つかりました。

原因: キューに未解決のトランザクションがあり、WAIT が FALSE に設定されていたため、キューの停止時に STOP_QUEUE が失敗しました。

処置: WAIT を TRUE に設定し、STOP_QUEUE を再試行してください。未解決のトランザクションがすべて完了するまで停止してください。

ORA-24019 *string* の識別子が長すぎます。*string* 文字以下にしてください。

原因: 指定された識別子が長すぎます。

処置: より短い識別子で再試行してください。

ORA-24020 DBMS_AQ_IMPORT_INTERNAL で内部エラーです。*string*

原因: パッケージで内部エラーが発生しました。DBMS_AQ_IMPORT_INTERNAL.

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24021 キュー表の定義が *string.string* にインポートされていません。

原因: キュー表が正しくインポートされなかったので、キュー定義が更新されていません。

処置: キュー表を再度インポートしてください。

ORA-24022 指定されたパラメータはキューに使用できません。

原因: このパラメータの組合せではキューが開始または停止しません。

処置: 処置は必要ありません。これは警告メッセージです。

ORA-24023 内部エラーが発生しました。DBMS_AQ_EXP_INTERNAL.*string* [*string*]

原因: 内部エラーが DBMS_AQ_EXP_INTERNAL パッケージで発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24024 内部エラーが発生しました。DBMS_AQ_IMP_INTERNAL.*string* [*string*]

原因: 内部エラーが DBMS_AQ_IMP_INTERNAL パッケージで発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24025 値 *string* が無効。QUEUE_PAYLOAD_TYPE には RAW またはオブジェクト型が必要です。

原因: QUEUE_PAYLOAD_TYPE パラメータの値が無効です。

処置: 有効なオブジェクト型または RAW を指定してください。

ORA-24031 値が無効です。 *string* には NULL でない値が必要です。

原因: パラメータが NULL です。

処置: パラメータに NULL 以外の値を指定してください。

ORA-24032 オブジェクト *string* が存在しています。キュー表 *string* の索引は作成できませんでした。

原因: Oracle AQ で、エラー・メッセージに指定した名前を使用して索引を作成しようとしてしました。同じ名前のオブジェクトが存在するため、指定したキュー表に対し、索引を作成できませんでした。

処置: エラー・メッセージに指定したオブジェクトを削除し、コマンドを再試行してください。別の名前のキュー表を選択することもできます。

ORA-24033 メッセージの受信者がいません。

原因: 複数のデキュー元に対して設定されているキューに対しエンキューが実行されましたが、コールに指定されている明示的な受信者も、このメッセージに対して受信者と判断されたキューのサブスクリバもどちらも存在しませんでした。

処置: エンキュー・コールの受信者のリストを渡すか、またはこのメッセージを受信するためにサブスクライバをキューに追加してください。

ORA-24034 アプリケーション *string* はすでにキュー *string* の利用者です。

原因: すでにキューのサブスクライバであるアプリケーション名を DBMS_AQ.SUBSCRIBE コールに指定しました。

処置: 別のアプリケーション名を選択し、コールを再試行してください。

ORA-24035 AQ エージェント *string* はキュー *string* への加入者ではありません。

原因: キューのサブスクライバではない AQ エージェントが指定されました。

処置: エージェントの名前および / またはアドレスを確認し、コールをやりなおしてください。

ORA-24036 キュー表に対して指定された SORT_ORDER 列 *string* が無効です。

原因: CREATE QUEUE TABLE コマンドが、TRANSACTIONAL に設定された MESSAGE_GROUPING および優先順位でないソート順序列を使用して発行されました。トランザクション別にグループ化されたキュー表では、優先順位列のみがソート順序に指定できます。

処置: CREATE QUEUE TABLE コマンドのソート順序リストを変更して、コールを再試行してください。

ORA-24037 QUEUE_NAME のスキーマ *string* は QUEUE_TABLE のスキーマ *string* と同じではありません。

原因: CREATE_QUEUE の QUEUE_NAME パラメータに指定したスキーマが、QUEUE_TABLE パラメータに指定したスキーマと同じ名前ではありません。

処置: QUEUE_NAME パラメータおよび QUEUE_TABLE パラメータに対して同じスキーマ名を使用し、コマンドを再試行してください。

ORA-24038 RETRY_DELAY と MAX_RETRIES は、8.0 互換の複数使用者のキューに使用できません。

原因: CREATE_QUEUE コマンドまたは ALTER_QUEUE コマンドが、0（ゼロ）でない RETRY_DELAY および複数のコンシューマに対して作成された QUEUE_TABLE、および 8.0 に設定された COMPATIBLE パラメータを使用して発行されました。

処置: RETRY_DELAY を 0（ゼロ）に指定するか、または DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを使用して、キュー表を 8.1 互換にアップグレードしてください。

ORA-24039 複数消費者用のキュー表にキュー *string* が作成されません。

原因: ADD_SUBSCRIBER、REMOVE_SUBSCRIBER または REMOVE_SUBSCRIBER プロシージャ、または空でない受信者リストの ENQUEUE が、複数のコンシューマに対して作成されていないキューに対し発行されました。

処置: 複数のコンシューマに対して作成されたキュー表にキューを作成し、コールを再試行してください。

ORA-24041 *QUEUE string* と *DESTINATION string* には伝搬スケジュールがあります。

原因: SCHEDULE_PROPAGATION が、キューと、すでに伝搬スケジュールのある宛先ペアに発行されました。

処置: UNSCHEDULE_PROPAGATION を発行し、既存のスケジュールを取り消し、SCHEDULE_PROPAGATION コールを再発行してください。

ORA-24042 *QUEUE string* と *DESTINATION string* には伝搬スケジュールがありません。

原因: UNSCHEDULE_PROPAGATION が、キューと、伝搬スケジュールのない宛先ペアに発行されました。

処置: 指定した QUEUE と DESTINATION のスペルを確認し、正しいスペルでコールを再発行してください。

ORA-24043 宛先 *string* には確保された名前が使用されています。AQ\$_ 接頭辞付きの名前は無効です。

原因: 確保されている名前を宛先に指定しようとしてしました。

処置: 別の値か NULL をローカル宛先に入力してください。再試行してください。

ORA-24044 ソース *string* と宛先 *string* のオブジェクト型が合致しません。

原因: メッセージの受信者のキューは、送信者のキューと違うオブジェクト構造になっています。メッセージが伝播できません。

処置: 受信者を送信者のキューのサブスクライバ・リストからはずすか、またはソース・キューのオブジェクト型に一致するオブジェクト型の宛先キューを作成してください。

ORA-24045 無効なエージェント・アドレス *string* - 書式は、[SCHEMA.]NAME[@DATABASE LINK] です。

原因: エージェント・アドレス・パラメータに無効な値が指定されました。

処置: [SCHEMA.]NAME[@DATABASE LINK] 書式の文字列を指定してください。

ORA-24046 プロトコル属性は将来使用する目的で確保されています。

原因: AQ エージェント・オブジェクト型のプロトコル属性は、将来使用する目的で確保されています。

処置: エージェント・オブジェクト型の中でプロトコル属性を指定しないでください。

ORA-24047 無効なエージェント名 *string* - エージェント名の書式は、NAME です。

原因: エージェント名パラメータに無効な値が指定されました。

処置: NAME 書式の文字列を指定してください。再試行してください。

ORA-24048 QUEUE_TABLE を作成できません。AQ オブジェクト型へのアクセス権がありません。

原因: CREATE_QUEUE_TABLE コマンドを発行しようとしたますが、そのコマンドを発行したユーザーには、内部 AQ オブジェクト型へのアクセス権がありません。

処置: DBMS_AQADM.GRANT_TYPE_ACCESS プロシージャを使用して、ユーザーに AQ オブジェクト型へのアクセス権を与えてください。

ORA-24049 エージェント名 *string* は無効です。接頭辞 AQ\$_ のある名前は無効です。

原因: エージェント名に確保されている接頭辞を使用しようとした。

処置: エージェント名に別の値を入力してください。操作を再試行してください。

ORA-24050 例外キュー *string* では加入者はサポートされません。

原因: ADD_SUBSCRIBER、ALTER_SUBSCRIBER または REMOVE_SUBSCRIBER プロシージャが、EXCEPTION_QUEUE として作成されたキューで発行されました。

処置: プロシージャに NORMAL_QUEUE を指定してください。

ORA-24051 REF または BFILE 属性をもつオブジェクト型ペイロードは伝播できません。

原因: エージェント型の NULL でないアドレス・フィールドで、ADD_SUBSCRIBER または ENQUEUE プロシージャが、REF または BFILE 属性を持つペイロードのキューに発行されました。REF または BFILE 属性を持つオブジェクト型ペイロードの伝播は、現在サポートされていません。

処置: エージェントが同一のキューからデキューできるように、NULL アドレス・フィールドでエージェントを指定してください。あるいはオブジェクト型定義を、REF または BFILE 属性を使用しないものと変更してください。

ORA-24052 LOB 属性を持つオブジェクト型ペイロードはリリース 8.0 に伝播できません。

原因: LOB 属性を持つメッセージの受信者が、Oracle の 8.0 リリースを使用していました。LOB 属性の伝播は、Oracle 8.1 以降のリリースでのみサポートされています。

処置: ターゲット・リリースを Oracle 8.1 にアップグレードして、再試行してください。あるいはオブジェクト型定義を、LOB 属性を使用しないものに變更してください。

ORA-24053 PRIMARY_INSTANCE および SECONDARY_INSTANCE は負数にできません。

原因: PRIMARY_INSTANCE および SECONDARY_INSTANCE のうちの 1 つが、負数です。

処置: PRIMARY_INSTANCE および SECONDARY_INSTANCE に、負数でない整数を指定してください。

ORA-24054 Oracle 8.0.3 リリース以前の宛先には伝播できません。

原因: メッセージの受信者が、Oracle 8.0.3 以前のリリースを使用していました。伝播は、Oracle 8.0.4 以降のリリースでのみサポートされています。

処置: ターゲット・リリースを Oracle 8.0.4 以降のリリースにアップグレードして、再試行してください。

ORA-24055 準備状態の伝播状態行は削除できません。

原因: 内部管理プロシージャを使用して、SYS.AQ\$_PROPAGATION_STATUS 表から準備状態の状態行を削除しようとした。

処置: 伝播が正常に完了するのを待って、操作を再試行してください。

ORA-24056 キュー *string* と宛先 *string* に内部矛盾があります。

原因: SYS.AQ\$_PROPAGATION_STATUS 表で使用されている順序番号が、指定されたキューおよび宛先に矛盾しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24057 キュー *string* に対してルール付きのサブスクライバは定義できません。

原因: ルール付きの ADD_SUBSCRIBER または ALTER_SUBSCRIBER プロシージャが、ルールベースのサブスクライバをサポートしていないキューで発行されました。ルールベースのサブスクライバは、Oracle 8.1 以降のリリースの互換性のあるキュー表を使用して作成された、NORMAL (常設) の複数のコンシューマ・キューに対してのみ現在サポートされています。

処置: Oracle 8.1 以降のリリースの互換性のあるキュー表に、NORMAL の複数コンシューマ・キューを作成してください。またはキューが NORMAL (常設) の複数コンシューマ・キューの場合、そのキュー表を Oracle 8.1 以降のリリースの互換性のあるキュー表に変換して、再試行してください。

ORA-24058 準備状態の伝播があるため、QUEUE_TABLE はダウングレードできません。

原因: 準備状態の伝播メッセージがあるとき、キュー表をダウングレードしようとした。

処置: 伝播が完了するのを待って、操作を再試行してください。

ORA-24059 DBMS_AQADM.*string* で無効な COMPATIBLE パラメータ設定 *string* が指定されました。

原因: DBMS_AQADM プロシージャで、無効な COMPATIBLE パラメータが指定されました。パラメータ設定は 8.x.y (x はリリース番号、y は更新番号) という形式である必要があります。

処置: 有効な COMPATIBLE パラメータ設定を指定して、操作を再試行してください。

ORA-24060 QUEUE_TABLE を変換できません。*string* はリリース *string* とすでに互換性があります。

原因: DBMS_AQADM プロシージャのソース・キュー表は、指定された COMPATIBLE パラメータ設定と互換性があります。

処置: 別の COMPATIBLE パラメータ設定を選択して、キュー表を要求された互換性のあるキュー表に変換してください。

ORA-24061 PRIMARY_INSTANCE が 0 のときは、SECONDARY_INSTANCE に 0 以外は指定できません。

原因：PRIMARY_INSTANCE が 0 のとき、SECONDARY_INSTANCE に 0 以外の値が指定されました。

処置：0 以外の PRIMARY_INSTANCE を指定してから、0 以外の SECONDARY_INSTANCE を指定してください。

ORA-24062 サブスクライバ表 *string* がキュー表 *string* と矛盾しています。

原因：サブスクライバ表が正常にインポートされていません。

処置：キュー表を使用する前に、サブスクライバ表をインポートしてください。インポートが失敗した場合は、問題を訂正して、サブスクライバ表のインポートを再試行してください。

ORA-24063 ルールベースのサブスクライバ付きのキューをもつ QUEUE_TABLE はダウングレードできません。

原因：ルールベースのサブスクライバを定義しているキューが存在するとき、キュー表をダウングレードしようとしてしました。

処置：このキュー表にあるすべてのキューのルールベース・サブスクライバを削除して、再試行してください。

ORA-24064 キュー *string*、宛先 *string* の伝播はすでに使用可能です。

原因：ENABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドが、伝播スケジュールがすでに使用可能なキューおよび宛先の組に対して発行されました。

処置：ENABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドを発行するとき、QUEUE および DESTINATION が正しいことを確認してください。

ORA-24065 キュー *string*、宛先 *string* の伝播はすでに使用禁止です。

原因：DISABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドが、伝播スケジュールがすでに使用禁止のキューおよび宛先の組に対して発行されました。

処置：DISABLE_SCHEDULE_PROPAGATION コマンドを発行するとき、QUEUE および DESTINATION が正しいことを確認してください。

ORA-24066 無効な権限が指定されました。

原因：無効な権限が、権限付与および権限取消しに指定されています。

処置：有効な権限を指定してください。

ORA-24067 キュー *string* で最大サブスクライバ数を超過しました。

原因：新規のサブスクライバを指定されたキューに追加しようとしてしましたが、このキューでサブスクライバの数が、キュー 1 つあたりに許可されているサブスクライバの最大数（1024）を超えています。

処置：既存のサブスクライバを削除してから、新規のサブスクライバを追加してください。

ORA-24068 キュー *string* を開始できません。キュー表 *string* は移行中です。

原因: 移行中のキュー表でキューを開始しようとした。

処置: キュー表の移行を完了して、操作を再試行してください。

ORA-24069 アップグレード中のキュー表 *string* はダウングレードできません。

原因: キュー表をダウングレードしようとしたが、キュー表をアップグレードする前のコマンドが、正常に終了していません。

処置: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを再実行して、キュー表のアップグレードを完了してください。それから、キュー表をダウングレードしてください。

ORA-24070 ダウングレード中のキュー表 *string* はアップグレードできません。

原因: キュー表をアップグレードしようとしたが、キュー表をダウングレードする前のコマンドが、正常に終了していません。

処置: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを再実行して、キュー表のダウングレードを完了してください。それから、キュー表をアップグレードしてください。

ORA-24071 操作 *string* は実行できません。キュー表 *string* が移行中です。

原因: 移行中のキュー表で操作を実行しようとした。

処置: キュー表の移行を完了して、操作を再試行してください。

ORA-24072 MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを実行することができません。所有キュー表が必要です。

原因: DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを使用してキュー表をアップグレードまたはダウングレードしようとしたが、そのプロシージャを実行するユーザーは、キューを所有していません。

処置: キュー表の所有者として再接続して、DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを実行してください。

ORA-24073 例外キュー *string.string* で、RETENTION_TIME は指定できません。

原因: 0 以外の RETENTION_TIME を指定して、例外キューを作成または変更しようとした。

処置: 例外キューに RETENTION_TIME パラメータのデフォルト値を使用してください。

ORA-24074 RETRY_DELAY と MAX_RETRIES は、例外キュー *string* に使用できません。

原因: CREATE_QUEUE または ALTER_QUEUE コマンドが、0 以外の RETRY_DELAY および例外キューを使用して発行されました

処置: 例外キューに RETRY_DELAY または MAX_RETRIES を指定しないでください。

ORA-24075 NULL のアドレスと NULL でないプロトコルでは、エージェントを指定できません。

原因: NULL のアドレスと NULL でないプロトコルを持つエージェントを使用して、ADD_SUBSCRIBER またはエンキューを、実行しようとした。

処置: NULL 以外のアドレスを指定するか、またはプロトコルを NULL に設定してください。

ORA-24076 操作 *string* (NON_PERSISTENT キュー *string.string* に対する) を実行できません。

原因: SCHEDULE_PROPAGATION、ALTER_QUEUE、LISTEN、DEQUEUE の操作のうち 1 つが、NON_PERSISTENT キューに発行されました。

処置: これらの操作に、NON_PERSISTENT キューを指定しないでください。

ORA-24077 EXCEPTION キュー *string.string* の伝播スケジュールを作成できません。

原因: EXCEPTION キューに SCHEDULE_PROPAGATION が発行されました。伝播スケジュールは、NORMAL キュー用にのみ作成できます。

処置: キューからのメッセージを伝播するには、キュー・タイプを NORMAL に指定してください。

ORA-24078 PRIMARY_INSTANCE が NULL の場合、NULL でない SECONDARY_INSTANCE は指定できません。

原因: PRIMARY_INSTANCE が NULL のとき、SECONDARY_INSTANCE に NULL 以外の値が指定されました。

処置: NULL 以外の PRIMARY_INSTANCE を指定してから、NULL 以外の SECONDARY_INSTANCE を指定してください。

ORA-24079 名前 *string* は無効です。 *string* に AQ\$_ 接頭辞付きの名前は使用できません。

原因: オブジェクト名に対して確保されている接頭辞を使用しようとした。

処置: このオブジェクトに別の名前を入力してください。操作を再試行してください。

ORA-24080 unschedule_propagation は、QUEUE *string* と DESTINATION *string* に対して保留されています。

原因: 伝播が非スケジュールされているキューおよび宛先の組に対して、伝播管理コマンドが発行されています。

処置: 保留中の非スケジュール要求がある伝播スケジュールに、伝播管理コマンドを発行しないでください。

ORA-24081 互換性があるパラメータは *string* 以降です。

原因: COMPATIBLE パラメータの値が十分に高くないため、操作が実行できませんでした。

処置: シャットダウンし、互換性の高い設定値で再起動してください。

ORA-24082 *QUEUE string* および *DESTINATION string* に対するスケジュールで、依然として伝播が続いている可能性があります。

原因: 伝播スケジュールを実行しているスナップショット・プロセスが、使用不可の伝播コマンドに応答しませんでした。

処置: 伝播スケジュールのジョブが終了していることを確認してください。

ORA-24083 *string* *QUEUE string* のリモート・サブスクライバを指定できません。

原因: NULL でないアドレス・フィールドを指定した ADD_SUBSCRIBER コールが、リモート・サブスクライバをサポートしていないキューで発行されました。NON_PERSISTENT キューでは、リモート・サブスクライバはサポートされていません。

処置: NULL のアドレス・フィールドを指定して、コールを再試行してください。

ORA-24084 エージェント *string* のアドレス・フィールドにある DBLINK 名は、最初の 24 バイトが一意ではありません。

原因: アドバンスド・キューイングでは、エージェントの DBLINK 名の最初の 24 バイトは一意である必要があります (8.0 互換キュー表の場合)。

処置: DBLINK 名の最初の 24 バイトが一意になるように指定するか、またはこの制約のない 8.1 互換キュー表に移行してください。

ORA-24100 ktz テスト・レイヤーでエラーが発生しました。

原因: トランザクション・レイヤー・テスト ICD にエラーがあります。

ORA-24120 無効な *string* パラメータが DBMS_REPAIR.*string* プロシージャに渡されました。

原因: 無効なパラメータが指定された DBMS_REPAIR プロシージャに渡されました。

処置: 有効なパラメータ値を指定するか、またはパラメータのデフォルトを使用してください。

ORA-24121 カスケードとブロック範囲の両方が DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT プロシージャに渡されました。

原因: カスケードとブロック範囲の両方が DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT のコールで指定されました。

処置: カスケードまたはブロック範囲のいずれかを使用するか、またはいずれも使用しないでください。

ORA-24122 ブロック範囲仕様部が無効です。

原因: 無効なブロック範囲が指定されました。

処置: BLOCK_START パラメータおよび BLOCK_END パラメータに正しい値を指定してください。

ORA-24123 機能 *string* はまだインプリメントされていません。

原因: 指定された機能を使用しようとしたますが、機能はまだ実装されていません。

処置: この機能は使用しないでください。

ORA-24124 無効な ACTION パラメータが DBMS_REPAIR.*string* プロシージャに渡されました。

原因: 無効な ACTION パラメータを指定しました。

処置: CREATE_ACTION、PURGE_ACTION または DROP_ACTION を ACTION パラメータに指定してください。

ORA-24125 オブジェクト *string.string* が変更されました。

原因: DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT が実行されていたために削除または切り捨てられたオブジェクトの破損ブロックを修正しようとした。

処置: DBMS_REPAIR.ADMIN_TABLES を使用して、修復された表を削除し、DBMS_REPAIR.CHECK_OBJECT を実行して、修正されるべき破損ブロックがあるかどうかを判断してください。

ORA-24126 無効な CASCADE_FLAG が DBMS_REPAIR.*string* プロシージャに渡されました。

原因: 表ではないオブジェクトに CASCADE_FLAG が指定されました。

処置: CASCADE_FLAG は表に対してのみ使用してください。

ORA-24127 TABLESPACE パラメータが CREATE_ACTION 以外のアクションとともに指定されました。

原因: TABLESPACE パラメータは CREATE_ACTION とともにのみ使用できます。

処置: CREATE_ACTION 以外のアクションを実行している場合は、TABLESPACE を指定しないでください。

ORA-24128 パーティション化されていないオブジェクトにパーティション名が指定されました。

原因: パーティション化されていないオブジェクトにパーティション名が指定されました。

処置: オブジェクトがパーティション化されている場合のみ、パーティション名を指定してください。

ORA-24129 表名 *string* が接頭辞 *string* で始まっていません。

原因: 接頭辞を指定せずに表名パラメータを渡そうとした。

処置: 有効な表名パラメータを渡してください。

ORA-24130 表 *string* が存在しません。

原因: 存在しないマップ表、修復表、または同期表を指定しようとした。

処置: 有効な表名パラメータを指定してください。

ORA-24131 表 *string* に正しくない列があります。

原因: 正しい定義を持たないマップ表、修復表または同期表を指定しようとした。

処置: 正しく作成された表を参照している表名を指定してください。

ORA-24132 表名 *string* が長すぎます。

原因: 30 文字を超える表名を指定しようとした。

処置: 有効な表名パラメータを指定してください。

ORA-24141 指定したルールセットは存在しません。

原因: ルールセットにアクセスまたは変更しようとしたが、ルールセットは存在しないため失敗しました。

処置: 存在するルールセットのみにアクセスまたは変更してください。

ORA-24142 ルールセット名が無効です。

原因: 無効な名前のルールセットを作成しようとした。ルールセット名は NULL および 26 文字以上にすることはできません。RULES_TABLE_NAME が指定されている場合は、ルールセット名は最大 30 文字にすることができます。

処置: 有効なルールセット名でルールセットを再作成してください。

ORA-24143 表名が無効です。

原因: 無効な表名でルールセットを作成しようとした。DATA_TABLE 名は NULL および 30 文字以上にすることはできません。指定された名前の表が存在する必要があります。

処置: 有効な表名でルールセットを再作成してください。

ORA-24144 ルール・エンジンの内部エラー。引数: [*string*], [*string*]

原因: ルール・エンジンで内部エラーが発生しました。このエラーは、ルール・エンジンが例外条件を検出したことを示しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。最初の引数はエラーで、2 番目の引数はパッケージです。

ORA-24270 *string* 表にこれらのパラメータに対する行がすでに存在しています。

原因: 指定された表内に新しい行を作成するコールが実行されました。その表には指定された値を持つ行がすでに存在します。

処置: 適切な API を使用して既存の行を削除するか、または行の作成に使用するパラメータを確認してください。

ORA-24271 変換タイプは T、S、M のいずれかでなければなりません。

原因: 変換タイプ・パラメータが T、S、M のいずれでもありません。T、S または M 以外の値が指定されました。

処置: 変換タイプを修正し、API コールを再実行してください。

ORA-24272 初期化の値は F または T でなければなりません。

原因: 初期化の値は F または T でなければなりません。F または T 以外の値が指定されました。

処置: 初期化値を修正し、API コールを再実行してください。

ORA-24273 変換タイプが T または S のときは変換テキストが必須です。

原因: 変換タイプに T または S が指定されている場合は、変換テキストを指定する必要があります。

処置: 変換テキストを指定し、API コールを再実行してください。

ORA-24274 string 表にこれらのパラメータに対する行が存在しません。

原因: 存在しない行を更新するコールが実行されました。または、表を作成するために指定された外部キー値が存在しません。

処置: 適切な API を使用して行を作成するか、または、新しい行の作成に使用するパラメータを確認して、指定されたすべての値が存在することを確認してください。

ORA-24275 関数 string パラメータ string が欠落しているか無効です。

原因: NULL、長さ 0、または無効な値を持つパラメータ *parmname* を使用して、関数 *pkgname.funcname* がコールされました。

処置: ドキュメントに指定されているデータ型および制限に準拠した値を提供するように、パラメータを訂正してください。

ORA-24276 関数 string の出力 string が最大値を超えました。

原因: 関数 *pkgname.funcname* が、許容される最大値を超える出力 *parmname* の値を算出しました。それぞれ有効な複数の入力パラメータが組み合わさって無効な結果を指定すると、このエラーが発生することがあります。たとえば、長さパラメータにコピー・パラメータを掛けたものが出力データ型の最大値を超える合計長になる場合などです。

処置: 入力値を訂正して、ドキュメントに指定された制限に準拠する結果を生成してください。

ORA-24277 string を実行する権限が不十分です。

原因: 指定されたプロシージャに対するアクセスは、特定の権限を与えられたユーザーに制限され、起動したユーザーにはこの権限がありません。

処置: ドキュメントを確認して、指定したプロシージャを実行するために必要な権限を確認してください。

ORA-24278 権限タイプが一致しません。

原因: 実行権限のようなオブジェクトに関する権限、またはライブラリ作成権のようなユーザーに対する権限が、ユーザーに付与できます。それらは、異なるタイプの権限です。ユーザー権限表にオブジェクト権限を挿入できません。その逆も同じです。

処置: 権限タイプが正しいことを確認してください。

ORA-24279 ライブラリを作成するには権限が不十分です。

原因: ユーザーがリモート・ライブラリ作成権限を持たずに、リモート・ライブラリを作成しようとした。

処置: ローカル・データベース管理者は、
DBMS_HS_EXTPROC.GRANT_CREATE_LIBRARY() を呼び出して、ライブラリ作成権限をリモート・ユーザーに付与する必要があります。

ORA-24280 ～ ORA-29249

ORA-24280 パラメータ *string* の入力値が無効です。

原因: パラメータの入力値に負の数、範囲外または NULL が指定されました。

処置: ドキュメントの記述に従って、入力値を有効かつ範囲内のものに修正してください。

ORA-24281 LOB パラメータ *string* の最大サイズを超えるアクセスは無効です。

原因: 位置パラメータまたはサイズ・パラメータの値が、LOB で許可されている 4GB の最大サイズを超えています。

処置: 合計が 4GB 以下になるように、量およびオフセットの入力値を修正してください。読み込みまたは書き込みループでエラーが発生する場合は、ループ条件またはオフセット増分値、あるいはその両方を確認してください。

ORA-24300 モードに不正な値です。

原因: 未定義のモード値が指定されました。

処置: 正しいモードが選択され、モードに対して有効な値が指定されていることを確認してください。

ORA-24301 NULL ホストが thread-safe ログオン内に指定されました。

原因: スレッド・セーフ環境で実行していましたが、HDA がログイン・コールで指定されませんでした。

処置: ログイン・ルーチンをコールするときに、HDA が NULL ではないことを確認してください。

ORA-24302 ホスト接続が別のスレッドで使用中です。

原因: 別のスレッドで使用中のホスト接続を使用しようとしてしました。

処置: 他のスレッドが完了するのを待ってからこの接続を使用してください。

ORA-24303 非遅延リンケージではサポートされないコールです。

原因: 遅延モード・リンクで排他的にサポートされているコールの1つが、クライアントが非遅延でリンクされるときに呼び出されました。

処置: 遅延モードのリンクでこのコールを使用してください。

ORA-24304 このコールでは許可されないデータタイプです。

原因: このデータ型のデータは、分割して送信したりフェッチすることはできません。

処置: 他のバインドを使用するか、またはこのデータ型にコールを定義してください。

ORA-24305 不正なバインドまたは定義コンテキストです。

原因: カーソルに対してコールが実行されましたが、これは無効です。

処置: このコールがこのカーソルに対して有効であることを確認してください。たとえば、適切なバインドおよび定義がこのカーソルに対して実行されている場合、GET PIECE INFORMATION および SET PIECE INFORMATION は有効です。

ORA-24306 piece には不正なバッファです。

原因: 長さが0（ゼロ）または NULL のバッファ・ポインタが指定されました。

処置: バッファがこのピースを指しているか、またはバッファの長さが0（ゼロ）でないことを確認してください。ピースが最後に挿入されるもので、その列に他にデータがない場合は、次のピース用のバッファ・ポインタまたはその長さを0（ゼロ）にできません。

ORA-24307 piece には無効な長さです。

原因: ピースの長さが最大サイズを超えています。

処置: このピースの長さ、その前のすべてのピースの長さの累積が、アプリケーションの要求値を超えていないことを確認してください。

ORA-24308 位置の定義が正しくありません。

原因: 属性を変更するコールが、存在しない位置に対して行われました。

処置: この位置に対する設定がされているかを確認してください。

ORA-24309 すでにサーバーに接続されています。

原因: 指定されたサーバー・ハンドルは、すでにサーバーに接続されています。

処置: サーバーから切断して、接続を確立するコールを再試行してください。

ORA-24310 NULL の接続文字列に長さが指定されました。

原因: 接続文字列は NULL ですが、それに対して長さが指定されました。

処置: 接続文字列が NULL の場合は、長さを0（ゼロ）に設定してください。

ORA-24311 メモリーの初期化に失敗しました。

原因: ユーザー・メモリーは初期化できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24312 ユーザー・メモリーの割当て用に指定されたパラメータが正しくありません。

原因: ユーザー・メモリーに無効なサイズまたは NULL ポインタが指定されました。

処置: ユーザー・メモリーに適切なサイズと有効なポインタを指定してください。

ORA-24313 ユーザーはすでに認証を取得しています。

原因: ユーザーは、このサービス・ハンドルですでに認証を取得しています。

処置: 別のユーザー用に使用する前に、サービス・コンテキストを終了してください。

ORA-24314 サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因: サーバー・コンテキストが存在しません。

処置: サービス・コンテキストにサーバー・コンテキストを構築してください。

ORA-24315 属性タイプが正しくありません。

原因: ハンドルに指定された属性タイプが正しくありません。

処置: 『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』の説明に従って、このハンドルに対して正しい属性を指定してください。

ORA-24316 ハンドル・タイプが正しくありません。

原因: 指定されたハンドル・タイプが正しくありません。

処置: 『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』の説明に従って、有効なハンドル・タイプを指定してください。

ORA-24317 ハンドルを使用する位置が異なって定義されています。

原因: 既存のハンドルが異なる位置で定義されました。

処置: 再定義するときには前回と同じ位置を指定してください。

ORA-24318 スカラー・データ型には使用できないコールです。

原因: このコールはオブジェクト型のみで使用できます。

処置: この変数のデータ型がオブジェクト型であることを確認してください。

ORA-24319 メモリーを割り当てられません。

原因: 診断プログラムを格納するためのメモリーを、プロセスが割り当てられませんでした。

処置: 他のプロセスを終了し、必要なメモリーを再要求してください。

ORA-24320 mutex を初期化できません。

原因: mutex の初期化に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24321 渡されたパラメータが矛盾しています。

原因: 3 つのメモリー・ファンクション・ポインタの 1 つが、NULL または NULL 以外です。

処置: すべてのメモリー・ファンクションが、NULL または NULL 以外で統一されていることを確認してください。

ORA-24322 初期化された mutex は削除できません。

原因: 初期化された mutex の削除に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24323 値が許可されていません。

原因: NULL または無効な値が必須パラメータに渡されました。

処置: すべての必須パラメータが、正しく初期設定されていることを確認してください。

ORA-24324 サービス・ハンドルが初期化されていません。

原因: 不適切なサービス・コンテキスト・ハンドルを使用しようとしてしました。

処置: サービス・コンテキスト・ハンドルのすべてのパラメータが初期化され、このコール用に設定されていることを確認してください。

ORA-24325 この OCI 操作は現在使用できません。

原因: 有効範囲外でコンテキスト・ハンドルを使用しようとしてしました。

処置: このコンテキスト・ハンドルが、他の OCI コール用のログイン・データ領域に変換されたサービス・コンテキスト・ハンドルに設定されていることを確認してください。ログイン・データ領域を使用するには、そのログイン・データ領域をサービス・コンテキストに再変換する必要があります。

ORA-24326 渡されたハンドルはすでに初期化されています。

原因: 初期化されたハンドルが渡されようとしてしました。

処置: ハンドルを取り出すために渡されたパラメータが、まだハンドルを指していないことを確認してください。

ORA-24327 ユーザーに認証を与える前に明示的に連結する必要があります。

原因: セッションを作成する前にサーバー・コンテキストを初期化する必要があります。

処置: サーバー・ハンドルを作成および初期化してください。

ORA-24328 属性値が正しくありません。

原因：渡された属性値が正しくありません。

処置：『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』の説明に従って、ハンドルに正しい属性値を指定してください。

ORA-24329 キャラクタ・セットの識別子が無効です。

原因：指定されたキャラクタ・セットの識別子は無効です。

処置：OCI コールで有効なキャラクタ・セットの識別子を指定してください。

ORA-24330 内部 OCI エラーが発生しました。

原因：内部 OCI エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24331 ユーザー・バッファが小さすぎます。

原因：出力データを格納するユーザー・バッファが小さすぎます。

処置：より大きなバッファを指定してください。

ORA-24332 オブジェクト型が無効です。

原因：記述コールで無効なオブジェクト型が要求されました。

処置：記述コールで有効なオブジェクト型を指定してください。

ORA-24333 繰返し数が 0（ゼロ）です。

原因：文の繰返し数が 0（ゼロ）に指定されています。

処置：この文を実行する回数を指定してください。

ORA-24334 この位置に対する記述子はありません。

原因：アプリケーションが、ハンドルから不正な位置の記述子を取得しようとした。

処置：ポジション番号を確認してください。

ORA-24335 1000 列以上はサポートされていません。

原因：列数がサポートされている最大数を超過しました。

処置：1000 未満の列数を指定してください。

ORA-24336 result set 記述子が無効です。

原因：result set 記述子は、有効なデータをフェッチしてからでないと文ハンドルに変換することはできません。

処置：記述子を文ハンドルに変換する前に、有効なデータをその記述子にフェッチしてください。

ORA-24337 文の処理が準備されません。

原因: 要求を準備する前に文を実行することはできません。

処置: 文を準備してからその文を実行してください。

ORA-24338 文の処理が実行されません。

原因: 文ハンドルを実行する前に、フェッチまたは記述が実行されようとしてしました。

処置: 文を実行してからデータをフェッチまたは記述してください。

ORA-24339 サーバーへの接続後にサーバー・グループ名を設定することはできません。

原因: サーバーへの接続後に、サーバー・ハンドルのサーバー・グループを設定しようとしてしました。一度サーバーへの接続が確立されると、サーバー・グループ名は設定できません。

処置: サーバー・ハンドルのサーバー・グループ名を設定してから、サーバーに接続してください。

ORA-24340 255 列以上はサポートされていません。

原因: 列数がサーバーでサポートされている最大数を超過しました。

処置: 操作を 255 列以下に制限してください。

ORA-24341 指定されたモードが無効です。

原因: スレッドが作成されていないクライアントに、OCI_ENV_NO_MUTEX モードが指定されました。

処置: OCI_ENV_NO_MUTEX は、プロセスの初期設定時に OCI_THREADED が指定された場合に指定できます。

ORA-24342 mutex を破棄できません。

原因: mutex の破棄に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24343 ユーザー定義コールバックでエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義コールバック関数の有効な戻り値は OCI_CONTINUE のみです。他の値が戻されるとこのエラーが発生します。

処置: ユーザー定義コールバック関数から、OCI_CONTINUE が戻されるようにしてください。

ORA-24344 正常に終了しましたが、コンパイル・エラーがあります。

原因: SQL または PL/SQL コンパイル・エラーが発生しました。

処置: エラー・コードとともに OCI_SUCCESS_WITH_INFO を戻してください。

ORA-24345 切捨てまたは NULL フェッチ・エラーが発生しました。

原因: 切捨てまたは NULL フェッチ・エラーが発生しました。

処置: バッファ・サイズを、戻りデータが格納できる大きさにしてください。

ORA-24346 バインディング変数がないと実行できません。

原因: バインドされている SQL 文のバインド変数がありません。

処置: すべての変数をバインドしてから、実行してください。

ORA-24347 警告: グループ関数に NULL の列があります。

原因: 集計関数が NULL 列を処理しました。

処置: OCI_SUCCESS_WITH_INFO が戻されます。

ORA-24348 Update または Delete に Where がありません。

原因: WHERE 句を指定せずに UPDATE または DELETE が実行されました。

処置: OCI_SUCCESS_WITH_INFO が戻されます。

ORA-24350 OCI コールは使用できません。

原因: 使用している OCI は外部プロシージャから許可されていません。

処置: 使用制限については、『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

ORA-24351 無効な日付が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールの 1 つに無効な日付が渡されました。

処置: 日付バインド値を確認して、それらを訂正してください。

ORA-24352 無効な COBOL 表示タイプが OCI コールに渡されました。

原因: 無効な COBOL 表示タイプが OCI コールの 1 つに渡されました。

処置: COBOL 表示タイプ・バインド値を確認し、それらを修正してください。

ORA-24353 ユーザー・バッファが小さすぎて COBOL 表示型を格納できません。

原因: COBOL 表示型にユーザーが提供したバッファが小さすぎるため、フェッチされた数値を収容できません。

処置: COBOL 表示型バッファの割当てを増やしてください。

ORA-24354 フェッチされた数値が大きすぎて COBOL 表示型バッファに格納できません。

原因: フェッチされた数値が表示できる範囲を超えています。

処置: データベース内の数値を確認してください。

ORA-24355 符号なしの表示型に負数を保存しようとしてしました。

原因: 負数を符号なしの表示型に変換しようとしてしました。

処置: データベース内の数値を確認するか、定義されているデータ型を変更してください。

ORA-24356 COBOL 表示型への変換中に内部エラーが発生しました。

原因: COBOL 表示型への変換中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24357 OCIDate への変換中に内部エラーが発生しました。

原因: OCIDate 型への変換中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24358 オブジェクト型または参照に対する OCIBindObject が起動していません。

原因: OCIBindObject が呼び出されなかった結果、オブジェクト型または参照に対するバインド指定が不完全になりました。

処置: すべてのオブジェクト型または参照に対して、OCIBindObject コールを呼び出してください。

ORA-24359 オブジェクト型または参照に対する OCIDefineObject が起動していません。

原因: OCIDefineObject が呼び出されなかった結果、オブジェクト型または参照に対するバインド指定が不完全になりました。

処置: すべてのオブジェクト型または参照に対して、OCIDefineObject コールを呼び出してください。

ORA-24360 オブジェクトのバインド / 定義に対する型記述子オブジェクトが指定されていません。

原因: 型記述子オブジェクトは、オブジェクト型バインドおよび定義にとって必須パラメータです。

処置: 有効な型記述子オブジェクトとともに、OCIBindObject() または OCIDefineObject() コールを呼び出してください。

ORA-24361 拡張バインド・コールを起動する前に基本バインド・コールが起動していません。

原因: 拡張バインド・コールを実行する前に、このバインド・ハンドルで、基本バインド・コールの 1 つが呼び出されませんでした。

処置: 基本バインド・コールを実行した後にのみ、このバインド・ハンドルで、拡張バインド・コールを呼び出してください。

ORA-24362 文字件数フラグの使用方法が適切ではありません。

原因：文字件数フラグを設定するときは、サーバー内のバッファの最大サイズを 0（ゼロ）以外に指定する必要があります。

処置：サーバー内のバッファの最大サイズには、0（ゼロ）以外の値を使用してください。

ORA-24363 文字数の計算が不当です。

原因：サーバーまたはクライアントのいずれかのキャラクタ・セットが可変幅である場合、バイト数ではなく文字数での計算は不当です。

処置：クライアントまたはサーバーのいずれかのキャラクタ・セットが可変幅である場合は、バインド・ハンドルに対して、OCI_ATTR_CHAR_COUNT 属性を使用しないでください。そのかわりに、OCI_ATTR_MAXDATA_SIZE を使用してください。

ORA-24364 ブランクの埋込中に内部エラーが発生しました。

原因：文字列データのブランクに埋込みをしようとしているときに、内部エラーが発生しました。通常、このエラーは発生しません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24365 文字変換にエラーが発生しました。

原因：ソース・データが、マルチバイト文字の中央で異常終了している場合、マルチバイト文字データの変換中、通常このエラーが発生します。

処置：すべてのマルチバイト文字データが、適切に終了していることを確認してください。

ORA-24366 移行可能なユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されています。

原因：これはユーザー認証中に発生します。移行可能なユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されています。

処置：サービス・ハンドルが、別のユーザーの認証に使用されているときは、移行可能なユーザー・ハンドルをサービス・ハンドルに設定しないでください。

ORA-24367 ユーザー・ハンドルがサービス・ハンドルに設定されていません。

原因：これは移行可能なユーザーの認証中に発生します。移行不可能なユーザー・ハンドルにサービス・ハンドルが設定されていません。

処置：サービス・ハンドルが、移行可能なユーザーの認証に使用されているときは、移行不可能なユーザー・ハンドルをサービス・ハンドルに設定しないでください。

ORA-24368 ハンドルの解放時に OCI mutex カウンタがゼロになっていません。

原因：内部 OCI エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24369 1 つ以上のバインド・ハンドルに、必要なコールバックが登録されていません。

原因: RETURNING 句の一部である 1 つ以上のバインド・ハンドルに対して、コールバックが登録されていません。

処置: RETURNING 句を持つ DML 文のデータを受け取るバインド・ハンドルのモードを、DATA_AT_EXEC に設定し、OCIBindDynamic を使用して、これらのバインド・ハンドルにコールバック関数を登録してください。

ORA-24370 試行された区分的操作は無効です。

原因: 区分的操作をサポートしないデータ型のデータが、ピース単位で送信またはフェッチされています。

処置: 区分的操作をサポートしないデータ型の OCI_ONE_PIECE には、必ず区分値を設定してください。

ORA-24371 データが大きすぎるため現行の事前取出しバッファに格納できません。

原因: 内部 OCI エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24372 記述対象のオブジェクトが無効です。

原因: 記述されるオブジェクトが無効です。それは、コンパイル・エラーまたは認可エラーのいずれかです。

処置: 記述されるオブジェクトを有効にしてください。

ORA-24373 トリガー文に無効な長さが指定されました。

原因: 文に対して指定された長さが、0（ゼロ）または大きすぎます。

処置: 文に有効な長さを指定してください。

ORA-24374 フェッチまたは実行してフェッチするまで、定義は実行されません。

原因: アプリケーションがフェッチ・コールを発行する前、または実行コール内に 0（ゼロ）以外の行カウントを指定してフェッチを呼び出す前に、フェッチされたデータの出力変数を定義していません。

処置: OCI 定義コールをフェッチする列に発行してください。

ORA-24375 V8 のサーバーにアクセスするときは、V6 の構文は使用できません。

原因: V6 構文は V8 サーバーではサポートされなくなりました。

処置: 構文を V7 以上の構文に変更してください。

ORA-24376 非環境ハンドルに対してユーザー・コールバックは登録 / 取得できません。

原因: 環境ハンドル以外のハンドルでユーザー・コールバックが登録または取得されようとしていました。

処置: ユーザー・コールバックを登録 / 取得するには、環境ハンドルを渡してください。

ORA-24377 OCI 関数コードが正しくありません。

原因: ユーザー・コールバックを登録または取得するのに無効な関数コードが使用されました。

処置: 有効な OCI 関数コードを指定してください。

ORA-24378 このコールにユーザー・コールバックは許可されていません。

原因: ユーザー・コールバックの登録を許可されていない OCI コールにユーザー・コールバックを登録しようとしました。

処置: この OCI コールにユーザー・コールバックを登録しないでください。

ORA-24379 ユーザー・コールバックの型が正しくありません。

原因: 無効なユーザー・コールバックの型が指定されました。

処置: 有効なユーザー・コールバックの型を指定してください。

ORA-24380 モード仕様部が無効です。

原因: OCIU* コールのモード・パラメータが無効です。

処置: 有効なモード・パラメータのみを使用してください。

ORA-24381 DML 配列にエラーがあります。

原因: 1 つ以上の行が DML 配列で失敗しました。

処置: エラー・ハンドルのエラー・スタックを参照してください。

ORA-24382 文ハンドルは既に実行または記述されています。

原因: 文ハンドルがすでに正常に実行または記述されています。

処置: OCI_PARSE_ONLY の前に OCISmtPrepare を再実行してください。

ORA-24383 IOT のオーバーフロー・セグメントは記述できません。

原因: OCIDescribeAny コールで指定されている名前が、IOT のオーバーフロー・セグメントを参照しました。

処置: OCIDescribeAny は、文書化されたオブジェクトのみを記述する場合に使用してください。

ORA-24384 アプリケーション・コンテキスト・サイズが初期化されていません。

原因: アプリケーション・コンテキストのサイズは、各コンテキスト要素を移入する前に、初期化する必要があります。

処置: OCI_ATTR_CTX_SIZE とともに OCIAttrSet を発行し、コンテキスト・サイズを初期化してください。

ORA-24385 アプリケーション・コンテキスト・サイズまたは索引が無効です。

原因: アプリケーション・コンテキストのサイズまたは索引は、0（ゼロ）以外で、負の数以外にする必要があります。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-24750 属性のサイズが正しくありません。

原因: トランザクション ID の属性のサイズが正しくありません。

処置: サイズ・パラメータが正しいことを確認してください。

ORA-24752 ローカル・トランザクションに OCI_TRANS_NEW フラグを指定しなければなりません。

原因: アプリケーションが、OCI_TRANS_NEW を使用せずにローカル・トランザクションを開始しようとした。

処置: ローカル・トランザクションを開始するときには、OCI_TRANS_NEW を使用してください。

ORA-24753 ローカル・トランザクションは連結解除できません。

原因: ローカル・トランザクションの連結解除が試行されました。

処置: ローカル・トランザクションは、コミットまたはロールバックしかできません。

ORA-24754 アクティブ・トランザクションと一緒に新規トランザクションを起動できません。

原因: アクティブ・トランザクションがあるときに新規トランザクションを開始しようとした。

処置: 新規トランザクションを開始する前に、既存のトランザクションをコミット、ロールバックまたは連結解除してください。

ORA-24755 OCI_TRANS_NOMIGRATE、OCI_TRANS_JOIN オプションはサポートされていません。

原因: これらのフラグは現在サポートされていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24756 トランザクションが存在しません。

原因: 無効なトランザクション識別子またはコンテキストが使用されました。またはトランザクションは完了しています。

処置: トランザクションが完了していない場合は、有効な識別子を指定してコールを再試行してください。

ORA-24757 トランザクション識別子が重複しています。

原因: 既存のトランザクションですでに使用されている識別子で、新規トランザクションを開始しようとした。

処置: 識別子が使用中でないことを確認してください。

ORA-24758 要求されたトランザクションには連結していません。

原因: 現行のトランザクション以外のトランザクションに対して、連結解除または完了が試行されました。

処置: トランザクション・コンテキストが、現行のトランザクションを参照していることを確認してください。

ORA-24759 トランザクション起動フラグが無効です。

原因: 無効なトランザクション起動フラグが渡されました。

処置: OCI_TRANS_NEW、OCI_TRANS_JOIN、OCI_TRANS_RESUME のいずれかの値が指定されていることを確認してください。

ORA-24760 分離レベル・フラグが無効です。

原因: 無効な分離レベル・フラグが渡されました。

処置: OCI_TRANS_READONLY、OCI_TRANS_READWRITE、OCI_TRANS_SERIALIZABLE の値のいずれか 1 つのみが使用されていることを確認してください。

ORA-24761 トランザクションがロールバックされました。

原因: アプリケーションがトランザクションのコミットを試行し、サーバーがそれをロールバックしました。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24762 予期せぬエラーのためサーバーに障害が発生しました。

原因: サーバー・コミット・プロトコルで内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24763 トランザクション操作を完了できません。

原因: セッションを指定されたトランザクションに切り換えられないので、今はコミットまたはロールバックを実行できません。

処置: 時間をおいてから操作を再実行してください。

ORA-24764 トランザクション・ブランチはヒューリスティックにコミットされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24765 トランザクション・ブランチはヒューリスティックにロール・バックされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24766 トランザクション・ブランチは部分的にコミットされ、異常終了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24767 トランザクションは読込み専用で、コミットされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-24768 サーバーでコミット・プロトコル・エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24769 アクティブ・トランザクションは無視できません。

原因: トランザクション識別子がアクティブ・トランザクションを参照しています。

処置: アクティブ・トランザクションの識別子が引数として渡されていないことを確認してください。

ORA-24770 準備完了状態のトランザクションは無視できません。

原因: トランザクション識別子が準備完了状態のトランザクションを参照しています。

処置: 準備完了状態のトランザクションの識別子が引数として渡されていないことを確認してください。

ORA-24771 ローカル・トランザクションは連結解除、準備、無視はできません。

原因: サービス・ハンドルにローカル・トランザクション・コンテキストが含まれています。

処置: トランザクション・コンテキストがローカル・トランザクションを参照していないことを確認してください。

ORA-24772 密結合と疎結合のブランチは一緒に処理できません。

原因: アプリケーションはグローバル・トランザクション識別子および誤ったオプションでトランザクションを開始しようとしました。

処置: グローバル・トランザクションのすべてのブランチが OCI_TRANS_TIGHT オプションまたは OCI_TRANS_LOOSE オプションで開始されていることを確認してください。アプリケーションが正しく、分散更新を使用している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24773 トランザクション・タイプのフラグが無効です。

原因: OCI_TRANS_TIGHT モードまたは OCI_TRANS_LOOSE モードが指定されませんでした。

処置: 正しいパラメータが使用されていることを確認してください。

ORA-24774 指定されたトランザクションに切り換えられません。

原因: コールで指定されたトランザクションが、別のユーザーによって作成されたトランザクションを参照しています。

処置: 切り換え可能にするために、トランザクションを同じ認証で作成してください。

ORA-24775 0 (ゼロ) 以外のロック値をもつトランザクションは準備またはコミットできません。

原因: 0 (ゼロ) 以外のロック値を持つトランザクションを連結解除しようとしてしました。

処置: ロック値を 0 (ゼロ) に設定してトランザクションを連結解除し、その後でトランザクションの準備またはコミットを試行してください。

ORA-24776 新規トランザクションを起動できません。

原因: セッションがすでに既存のトランザクションに連結されているときに、新規トランザクションを開始しようとしてしました。

処置: 現行のトランザクションを終了してから新規トランザクションを作成してください。

ORA-24777 移行できないデータベース・リンクの使用は許可されません。

原因: セッション間で移行可能である必要のあるトランザクションが、非マルチスレッド・サーバー・プロセスからリモート・データベースにアクセスしようとしてしました。

処置: ローカル・データベースで作業を実行するか、クライアントからリモート・データベースへの接続をオープンしてください。マルチスレッド・サーバー・オプションがインストールされている場合は、ディスパッチャを介して Oracle インスタンスに接続してください。

ORA-24778 接続をオープンできません。

原因: セッション自体がリモート・データベースへの接続をオープンしているときに、移行可能なトランザクションがリモート・データベースにアクセスしようとしてしました。

処置: セッション内の接続をクローズした後で、移行可能なトランザクションからリモート・データベースへのアクセスを試行してください。それでもエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24779 オープン・リモート・カーソルがある状態で連結は解除できません。

原因: リモート・カーソルがオープンしている状態で、移行可能なトランザクションが現在のセッションから連結解除しようとしてしました。

処置: 連結解除の前にすべてのオープン・リモート・カーソルを閉じてください。

ORA-24780 既存のトランザクション中にトランザクションはリカバリできません。

原因: 別のトランザクション中に、あるトランザクションをコミットまたはロールバックしようとした。また、処置が必要なそのトランザクションはリカバリ状態です (これは、そのトランザクションが長時間アイドル状態の場合に発生します)。

処置: 現行のトランザクションを連結解除し、操作を再試行してください。

ORA-24781 ブランチが同一のグローバル・トランザクションに属していません。

原因: kpotxmp() に渡された xid のリストに同一の gtrid がありません。

ORA-24801 OCI lob 関数のパラメータ値が無効です。

原因: OCI LOB 関数内のパラメータ値の 1 つが無効です。

処置: OCI LOB 関数コールのすべてのパラメータを確認し、それらが正しいことを確認してください。オフセットは 1 以上でなければなりません。

ORA-24802 ユーザー定義 lob 読み込みコールバックでエラーが発生しました。

原因: ユーザー定義 LOB read コールバック関数で有効な戻り値は OCI_CONTINUE のみです。他の値が戻されるとこのエラーが発生します。

処置: ユーザー定義 LOB read コールバック関数から、OCI_CONTINUE が戻されるか確認してください。

ORA-24803 lob read 関数のパラメータ値が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 通常、このエラーは発生しません。このエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24804 lob write 関数のパラメータ値が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 通常、このエラーは発生しません。このエラーが頻発する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24805 LOB のタイプが一致しません。

原因: LOB ロケータをコピーまたは追加するときは、コピーまたは追加元とコピーまたは追加先の両方の LOB ロケータが同じ型でなければなりません。

処置: コピーまたは追加の際には同じ型の LOB ロケータを渡してください。

ORA-24806 LOB のフォームが一致しません。

原因: LOB に対して読み込みまたは書き込みを行うときは、ユーザー・バッファのキャラクタ・セット・フォームが LOB のキャラクタ・セット・フォームと同じでなければなりません。

処置: 読み込みまたは書き込みに使用するバッファが LOB のバッファと同じフォームであることを確認してください。

ORA-24807 LOB のフォームが一致しません。

原因: LOB をコピーまたは追加するときは、コピーまたは追加元とコピーまたは追加先の両方の LOB ロケータが同じキャラクタ・セット・フォームでなければなりません。

処置: LOB をコピーまたは追加するときは、同じキャラクタ・セット・フォームのロケータを渡してください。

ORA-24808 ロブ・バッファリング使用時に、ロブ・データをストリーム式にはできません。

原因: LOB バッファリングが、入力 LOB ロケータに対して使用可能なとき、ポーリング・モードまたはコールバックを介して、LOB データをストリームしようとした。

処置: 少量の LOB データの読み込みまたは書き込みを行うとき、ストリーミングは不要なので、LOB バッファリングが役に立ちます。ストリーミングを使用しないように、OCILobRead/OCILobWrite コールを修正してください。データのストリーミングが必要な場合、LOB バッファリングは使用すべきではありません。この場合、必要に応じて入力 LOB ロケータに関連するバッファをフラッシュし、入力 LOB ロケータのバッファリングを使用禁止にし、OCILobRead/OCILobWrite コールを再発行してください。

ORA-24809 指定された量が多すぎるため LOB バッファに格納できません。

原因: バッファリングを使用するため、入力 LOB ロケータに LOB バッファリングが有効になっています。ただし、読み込みまたは書き込み用の LOB データの量は、LOB バッファが保持できるデータ量より大きくなります。

処置: 入力 LOB ロケータのバッファリングを使用禁止にして、コマンドを再発行するか、小さな量を渡してください。

ORA-24810 示された以上のデータを書き込もうとしています。

原因: LOB に書き込んでいる間、指定された以上のデータが供給されました。

処置: データがピースで書かれていたら、指定した以上のデータをピースで（累積的に）提供していないかどうか確認してください。

ORA-24811 指定よりも少ない書き込みデータしか与えられていません。

原因: LOB に書き込んでいる間、指定よりも少ないデータが与えられました。

処置: データがシングル・ピースで書かれていたら、指定されたバッファ長が十分に大きく、与えられるデータが入れられることを確認してください。データがピースで書かれていたら、すべてのデータが OCI_LAST_PIECE を指定する前に与えられていることを確認してください。

ORA-24812 UCS2 とのキャラクタ・セット変換に失敗しました。

原因: データベース・キャラクタ・セットが可変幅の場合、CLOB および NCLOB 値は暗黙的に UCS2 へまたは UCS2 から変換されます。この暗黙の変換が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24813 サポートされない LOB を送信または受信することはできません。

原因: ネットワークを介して LOB を送信しようとしたが、クライアントが送信した LOB をサーバーがサポートしていないか、サーバーが送信した LOB をクライアントがサポートしていません。このエラーは通常、クライアントおよびサーバーが異なるバージョンの Oracle を起動しているときに発生します。

処置: クライアントおよびサーバーの両方で、LOB をサポートする Oracle のバージョンを使用してください。

ORA-24850 共有サブシステムの起動に失敗しました。

原因: 共有モードで OCI を初期化しようとしている間に、共有サブシステムの起動で問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24851 共有サブシステムへの接続に失敗しました。

原因: 共有モードで OCI を初期化しようとしている間に、プロセスの共有サブシステムへの接続で問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24852 文の実行中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: 文の実行中に、サーバーからデスクライブ・データを受信している間に、内部プロトコル・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24853 共有サブシステムへの接続スレッドに失敗しました。

原因: 共有モードで OCI を初期化しようとしている間に、スレッドの共有サブシステムへの接続で問題が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-24900 コールで渡されたパラメータが無効か、またはサポート外です。

原因: OCI クライアント通知コールに渡されたモード・パラメータが正しくありません。

処置: OCI に渡されたモード・パラメータを修正してください。

ORA-24901 異なる環境に属するハンドルが OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡されたハンドルは同じ環境に属する必要があります。このエラーを戻したコールに、異なる環境に属するハンドルが渡されました。

処置: コールのハンドル・パラメータが同じ OCI 環境に属することを確認してください。

ORA-24902 添字名または添字ハンドルの添字名の長さが無効です。

原因: OCI コールに渡された添字ハンドルに適切な名前または名前の長さ属性がありません。

処置: OCIAttrSet() コールを使用して、その名前および名前の長さ属性を設定してください。

ORA-24903 無効な名前領域属性が OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡された添字ハンドルに適切な名前領域属性がありません。

処置: OCIAttrSet() コールを使用して、名前領域属性を設定してください。

ORA-24904 無効なコールバックが OCI コールに渡されました。

原因: OCI コールに渡された添字ハンドルに適切なコールバック属性がありません。

処置: OCIAttrSet() コールを使用して、コールバック属性を設定してください。

ORA-25000 トリガーの WHEN 句内のバインド変数の使用が無効です。

原因: トリガーの WHEN 句でバインド変数が使用されました。

処置: バインド変数を削除してください。表の列にアクセスするには (new/old).column_name を使用してください。

ORA-25001 このトリガー型はビューには作成できません。

原因: ビューで作成できるのは INSTEAD OF トリガーのみです。

処置: トリガー型を INSTEAD OF に変更してください。

ORA-25002 INSTEAD OF トリガーは表には作成できません。

原因: 表で作成できるのは BEFORE または AFTER トリガーのみです。

処置: トリガー型を BEFORE または AFTER に変更してください。

ORA-25003 トリガーのこの列型の NEW 値は変更できません。

原因: オブジェクト、REF、NESTED TABLE、VARRAY、またはサポートされていない LOB データ型の NEW トリガー変数を変更しようとしてしました。

処置: トリガー本体では NEW トリガー変数を変更しないでください。

ORA-25004 INSTEAD OF トリガーに WHEN 句は使用できません。

原因: INSTEAD OF トリガーに WHEN 句が指定されています。

処置: INSTEAD OF トリガーを作成するときは WHEN 句を削除してください。

ORA-25005 CREATE INSTEAD OF トリガーは読み専用ビューには作成できません。

原因: 読み専用オプションを使用して作成したビューに INSTEAD OF トリガーを作成しようとしてしました。ビューは INSTEAD OF トリガーを使用して更新できません。

処置: トリガーを作成しないでください。

ORA-25006 UPDATE OF 句にこの列は指定できません。

原因: UPDATE OF 句では許可されていない LOB や NESTED TABLE などのデータ型を持つ列にトリガーを作成しようとした。

処置: UPDATE OF 句を削除してください。

ORA-25007 WHEN 句に関数またはメソッドは使用できません。

原因: トリガーを作成するときに、WHEN 句には PL/SQL ファンクション・コールまたはメソッド呼出しを指定できません。

処置: WHEN 句からファンクション・コールまたはメソッド呼出しを削除してください。

ORA-25008 代替トリガーの LOB データ型が明示的に変換されていません。

原因: INSTEAD OF トリガーを使用してビューに対して挿入または更新を行うとき、LOB ビュー列の新しい値が別のデータ型です。

処置: LOB ビュー列の新しい値として LOB 値を指定してください。

ORA-25009 ネストされた表の句は、INSTEAD OF トリガーだけに使用できます。

原因: NESTED TABLE のトリガーは INSTEAD OF トリガーを使用しているビュー列でのみ作成されます。

処置: NESTED TABLE のトリガーを定義するには、NESTED TABLE のビュー列を使用してください。

ORA-25010 ネストされた表の句にネストされた表の列名は無効です。

原因: INSTEAD OF トリガーの NESTED TABLE 句で指定されている列名は、NESTED TABLE の列に対応しません。

処置: トリガーが定義される NESTED TABLE の列を指定してください。

ORA-25012 PARENT と NEW の値は同一にできません。

原因: 参照句が PARENT および OLD に対して同一の値を指定しています。

処置: PARENT または NEW の参照句を再指定してください。

ORA-25013 OLD と PARENT の値は同一にできません。

原因: 参照句が OLD および PARENT に対して同一の値を指定しています。

処置: OLD または PARENT の参照句を再指定してください。

ORA-25014 PARENT 参照変数の値は変更できません。

原因: PARENT 値は、読取り専用であるため変更できません。

処置: PARENT 変数を変更しないでください。

ORA-25015 このネストされた表のビュー列では DML を実行できません。

原因：INSTEAD OF トリガーを使用しない場合、DML は NESTED TABLE のビュー列に対して実行できません。

処置：NESTED TABLE のビュー列に INSTEAD OF トリガーを作成し、DML を実行してください。

ORA-25016 ネストされた表のビュー列に挿入する列リストを指定できません。

原因：NESTED TABLE のビュー列に挿入する列リストが指定できません。

処置：NESTED TABLE に挿入するためには、すべての列を指定してください。

ORA-25017 トリガーの前にある移動可能な行の NEW ROWID は参照できません。

原因：索引構成表または行が移動可能なパーティション表に定義されている BEFORE 行トリガーで NEW ROWID が参照されています。BEFORE 行更新トリガーで ROWID は、行の実際の値に依存するため計算できません。

処置：トリガー定義から NEW ROWID への参照を削除してください。

ORA-25100 TABLESPACE オプションは、ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因：REBUILD オプションを指定しない ALTER INDEX に対して TABLESPACE オプションが使用されました。

処置：INDEX REBUILD TABLESPACE 表領域名を使用してください。

ORA-25101 REBUILD オプション指定が重複しています。

原因：ALTER INDEX に対して REBUILD オプションが 2 回以上指定されています。

処置：オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-25102 PARALLEL オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因：REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して PARALLEL オプションが使用されました。

処置：ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25103 NOPARALLEL オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因：REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して NOPARALLEL オプションが使用されました。

処置：ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25104 UNRECOVERABLE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して UNRECOVERABLE オプションが使用されました。

処置: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25105 RECOVERABLE オプションは ALTER INDEX REBUILD と一緒にのみ使用できます。

原因: REBUILD オプションを指定しないで、ALTER INDEX に対して RECOVERABLE オプションが使用されました。

処置: ALTER INDEX REBUILD を使用してください。

ORA-25106 PARALLEL または NOPARALLEL 句の 1 つだけを指定できます。

原因: PARALLEL または NOPARALLEL が複数回指定されました。または、PARALLEL および NOPARALLEL の両方が ALTER INDEX REBUILD 文に指定されました。

処置: PARALLEL 句および NOPARALLEL 句のうちどちらかを残してすべて削除してください。

ORA-25107 TABLESPACE オプション指定が重複しています。

原因: ALTER INDEX REBUILD 文に対して TABLESPACE が 2 回以上指定されました。

処置: TABLESPACE 句を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25108 待機ロック名領域が制限文字数 *string* を超えています。

原因: スタンバイ・データベースのロック名領域が最大文字列長を超えています。

処置: 初期化パラメータ `_STANDBY_LOCK_NAME_SPACE` が、指定された文字数よりも少ない文字列になるように変更してください。

ORA-25109 待機ロック名領域に不正文字 *string* があります。

原因: スタンバイ・データベースに指定したロック名領域が無効です。スタンバイ・データベースのロック名領域に使用できる文字は、A ～ Z、0 ～ 9、'_'、'#'、'\$'、'!' および '@' のみです。

処置: 初期化パラメータ `_STANDBY_LOCK_NAME_SPACE` を有効な文字列に変更してください。

ORA-25110 NOSORT はビットマップ索引では使用できません。

原因: NOSORT オプションを使用してビットマップ索引を作成しようとした。

処置: CREATE BITMAP INDEX 文から NOSORT を削除してください。

ORA-25111 BITMAP クラスタ索引の作成はサポートされていません。

原因：クラスタ索引を BITMAP 属性で作成しようとした。

処置：CREATE INDEX 文から BITMAP を削除してください。

ORA-25112 BITMAP 索引列の最大数は 30 です。

原因：索引に指定された列が多すぎます。

処置：より少ない数の列で索引を作成してください。

ORA-25113 GLOBAL はビットマップ索引では使用できません。

原因：GLOBAL オプションを使用してビットマップ索引を作成しようとした。

処置：GLOBAL を CREATE BITMAP INDEX 文から削除するか、または表がパーティション化されている場合は LOCAL パーティション記述子を追加してください。必要ならば両方を行ってください。

ORA-25114 DUMP DATAFILE/TEMPFILE コマンドで指定したファイル番号は無効です。

原因：無効なファイル番号がデータ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルのダンプで使用されています。

処置：有効なファイル番号を指定してください。

ORA-25115 BLOCK オプション指定が重複しています。

原因：DUMP DATAFILE または TEMPFILE コマンドで BLOCK (MIN または MAX) が複数回指定されています。

処置：BLOCK オプションを 1 つのみ指定してください。

ORA-25116 DUMP DATAFILE/TEMPFILE コマンドで指定したブロック番号は無効です。

原因：データ・ファイルまたはテンポラリ・ファイルのダンプで使用されているブロック番号が無効です。

処置：有効なブロック番号を指定してください。

ORA-25117 MIN/MAX/Block Number のいずれかを使用してください。

原因：MIN または MAX 以外の値またはブロック番号が DUMP DATAFILE または TEMPFILE コマンドに入力されています。

処置：構文を修正してください。

ORA-25118 DUMP DATAFILE/TEMPFILE オプションは無効です。

原因：DUMP DATAFILE または TEMPFILE コマンドに無効なオプションが指定されています。

処置：構文を修正してください。

ORA-25119 LOGGING/NOLOGGING オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE に、LOGGING または NOLOGGING（あるいはその両方の）オプションが 2 回以上指定されました。

処置: ロギング指定を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25120 MINIMUM EXTENT オプションはすでに指定されています。

原因: CREATE TABLESPACE で、MINIMUM EXTENT オプションが 2 回以上指定されました。

処置: MINIMUM EXTENT 指定を 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25121 MINIMUM EXTENT 値が最大拡張サイズを超えています。

原因: CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE で、MINIMUM EXTENT オプションに指定された値が MAXIMUM EXTENT サイズを超えました。

処置: MINIMUM EXTENT オプションに指定されている値を減らしてください。

ORA-25122 パーティション化された表に使用できるのは LOCAL ビットマップ索引だけです。

原因: パーティション表にグローバル・ビットマップ索引を作成しようとした。

処置: かわりにローカル・ビットマップ索引を作成してください。

ORA-25123 名前に指定したコンポーネントが多すぎます。

原因: 名前に対して、可能な数以上のコンポーネントが指定されています。

処置: 操作に対して指定された名前を確認してください。

ORA-25124 データベース・リンク名は指定できません。

原因: 許可されていないときにデータベース・リンク名が指定されました。

処置: 操作に対して指定された名前を確認してください。

ORA-25125 BUFFER_POOL 記憶オプションは指定できません。

原因: BUFFER_POOL 記憶域オプションを指定しようとした。このオプションは、CREATE/ALTER TABLE/CLUSTER/INDEX 間でしか指定できません。

処置: このオプションを削除して、文を再実行してください。

ORA-25126 BUFFER_POOL に指定された名前が正しくありません。

原因: ユーザーが指定したバッファ・プール名が無効です。有効な名前は、KEEP、RECYCLE および DEFAULT のみです。

処置: 有効な名前を使用するか、または BUFFER_POOL 句を削除してください。

ORA-25127 NOT NULL 制約で RELY は指定できません。

原因: NOT NULL 制約に RELY を設定しようとした。

処置: NOT NULL 制約には NORELY のみを指定してください。

ORA-25128 制約 (*string.string*) が使用禁止および検査対象の表で挿入 / 更新 / 削除はできません。

原因: 使用禁止かつ有効な制約のある表に対して挿入、更新または削除しようとした。

処置: 制約の状態を変更してください。

ORA-25129 制約 (*string*) は変更できません。指定した制約は存在しません。

原因: この表には指定された制約がありません。

処置: この表にある制約を使用して再実行してください。

ORA-25130 主キーは変更できません。表に主キーが定義されていません。

原因: 表に定義されていない主キーを変更しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-25131 一意キー (*string*) は変更できません。表に一意キーが定義されていません。

原因: 表に定義されていない一意キーを変更しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-25132 ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION で UNIQUE 制約 (*string.string*) が使用禁止および検査対象です。

原因: パーティションおよび表に使用禁止かつ有効な UNIQUE 制約があり、パーティションの一意キーが表の他の内容と相互排他でない場合、ALTER TABLE EXCHANGE PARTITION を実行できません。

処置: 制約の状態を変更してください。

ORA-25133 SINGLE TABLE オプションの指定が重複しています。

原因: SINGLE TABLE オプションを 2 回以上指定しました。

処置: SINGLE TABLE オプションは 1 回のみ指定してください。

ORA-25134 キーワード TABLE が必要です。

原因: SINGLE TABLE オプションにキーワード TABLE がありません。

処置: コマンドのキーワード SINGLE の後にキーワード TABLE を置いてください。

ORA-25135 SINGLE TABLE オプションは使用できません。

原因: SINGLE TABLE オプションはハッシュ・クラスタに対してのみ有効です。

処置: SINGLE TABLE オプションを指定しないでください。

ORA-25136 このクラスタに格納できる表は 1 つだけです。

原因: SINGLE TABLE オプションを使用して作成したクラスタに 2 つ以上の表を格納しようとした。

処置: クラスタに 2 つ以上の表を格納しないでください。

ORA-25137 データ値が範囲外です。

原因: キャスト元からの値がキャスト先のサイズより大きくなっています。

処置: キャスト先のサイズを大きくしてください。

ORA-25138 *string* 初期化パラメータは廃止されています。

原因: 廃止された初期化パラメータが指定されています。

処置: システムは起動しますが、パラメータを調べてください。

ORA-25139 CREATE TEMPORARY TABLESPACE には無効なオプションです。

原因: 無効なオプションが指定されています。

処置: 有効なオプション (TEMPFILE、EXTENT MANAGEMENT LOCAL、UNIFORM) を 1 つ指定してください。

ORA-25140 *string* スペース・ポリシーを *string* のエクステント管理には指定できません。

原因: 無効なオプションが指定されています。

処置: LOCAL エクステント管理に UNIFORM または AUTOALLOCATE が指定されていて、DICTIONARY エクステント管理に UNIFORM または AUTOALLOCATE が指定されていないことを確認してください。

ORA-25141 EXTENT MANAGEMENT 句が無効です。

原因: EXTENT MANAGEMENT 句に無効なオプションが指定されました。

処置: 有効なオプション (UNIFORM SIZE、AUTOALLOCATE) を指定してください。

ORA-25142 デフォルト記憶域句が 2 度指定されました。

原因: デフォルト記憶域句が表領域作成に 2 度指定されました。

処置: 1 度のみ指定してください。

ORA-25143 デフォルト記憶域句が割当てポリシーと競合します。

原因: デフォルト記憶域句が、AUTOALLOCATE または UNIFORM ルールを使用した表領域に指定されました。

処置: 記憶域句を指定しないでください。

ORA-25144 CREATE TABLESPACE に TEMPORARY は無効なオプションです。

原因: 無効なオプションが指定されています。

処置: 有効なオプション (EXTENT MANAGEMENT DICTIONARY、USER) を 1 つ指定してください。

ORA-25145 割当てポリシーはすでに指定済みです。

原因：CREATE TABLESPACE で、割当てルールが 2 回以上（たとえば、AUTOALLOCATE および UNIFORM）指定されています。

処置：割当てルールを 1 つ残して他をすべて削除してください。

ORA-25146 EXTENT MANAGEMENT オプションはすでに指定済みです。

原因：CREATE TABLESPACE で、EXTENT MANAGEMENT オプションが 2 回以上指定されました。

処置：EXTENT MANAGEMENT 指定を 1 つのみ残して他をすべて削除してください。

ORA-25147 UNIFORM SIZE 値が最大エクステント・サイズを超えています。

原因：CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE で、UNIFORM SIZE オプションに指定された値が最大エクステント・サイズを超えました。

処置：UNIFORM SIZE オプションの値を減らしてください。

ORA-25148 ONLINE オプションは許可されません。

原因：索引構成表でない表に対する ALTER TABLE MOVE で ONLINE を指定しようとしました。ONLINE オプションは索引構成表にのみ現在サポートされています。

処置：コマンドから ONLINE オプションを削除してください。

ORA-25149 UROWID 型の列は索引付けできません。

原因：UROWID 型の列に索引を作成しようとしてしました。

処置：この列を索引列リストから削除してください。

ORA-25150 エクステント・パラメータを ALTERING することは許可されていません。

原因：自動割当てまたは均一エクステント割当てルールを持つ、表領域のセグメントのエクステント・パラメータを変更しようとしてしました。

処置：コマンドから適切なエクステントを削除してください。

ORA-25151 ロールバック・セグメントはこの表領域で作成できません。

原因：自動割当てエクステントの割当てルールを持つ表領域でロールバック・セグメントを作成しようとしてしました。

処置：ロールバック・セグメントに異なる表領域を指定してください。

ORA-25152 現在 TEMPFILE をドロップすることはできません。

原因：オンライン・ユーザーが使用している TEMPFILE を削除しようとしてしました。

処置：TEMPFILE がオフラインになったら、後でもう一度実行してください。

ORA-25153 一時的な表領域が空です。

原因：ファイルのない一時表領域の領域を使用しようとしてしました。

処置：ADD TEMPFILE コマンドを使用して表領域にファイルを追加してください。

ORA-25175 PRIMARY KEY 制約が見つかりません。

原因: この編成の表には PRIMARY KEY 制約を定義する必要があります。

処置: PRIMARY KEY を定義してください。

ORA-25176 主キーに記憶領域の指定はできません。

原因: この編成の表では、主キー制約に記憶域パラメータを定義できません。

処置: 主キーの記憶域指定を削除してください。

ORA-25177 UNRECOVERABLE オプションは指定できません。

原因: この編成の表では、主キーに UNRECOVERABLE オプションを指定できません。

処置: 主キーの UNRECOVERABLE オプションを削除してください。

ORA-25178 PCTTHRESHOLD 記憶領域オプションの指定が重複しています。

原因: 記憶域オプション PCTTHRESHOLD が 2 回以上指定されています。

処置: 記憶域オプションは、1 回のみ指定してください。

ORA-25179 PCTTHRESHOLD 記憶領域オプションの値が無効です。

原因: 指定する値は、正の整数でなければなりません。

処置: 適切な値を指定してください。

ORA-25180 PCTTHRESHOLD は特定の表編成にのみ有効です。

原因: PCTTHRESHOLD は、特定の編成を持つ表でのみ指定できます。

処置: PCTTHRESHOLD オプションを削除してください。

ORA-25181 NESTED INDEX に ON キーワードがありません。

原因: NESTED INDEX 列のネストを指定するには ON キーワードが必要です。

処置: ON キーワードを追加してください。

ORA-25182 機能は索引付き構成表に対して現在使用可能ではありません。

原因: 索引構成表で現在サポートされていない次の機能のうち、1 つ以上を使用しようとしました。

- LOB/BFILE/VARRAY 列付きの CREATE TABLE
- パーティション化 /PARALLEL/CREATE TABLE AS SELECT オプション
- ADD/MODIFY 列オプション付きの ALTER TABLE
- CREATE INDEX

処置: このリリースで使用禁止の機能は使用しないでください。

ORA-25183 索引構成表の最上位索引セグメントは異なる表領域にあります。

原因: 索引のみの表のオーバーフロー・セグメントのみを含み、最上位索引セグメントを含まない表領域を削除しようとした。

処置: 削除される表領域と他の表領域にまたがる索引構成表を検索してください。これらの表を削除してください。

ORA-25184 列名を指定してください。

原因: 索引構成表の索引セグメントに含める最後の列を指定する CREATE TABLE で要求された列名が存在しません。

処置: 構文で必須の列名を指定してください。

ORA-25185 最終列以外の索引列は INCLUDE 句に指定できません。

原因: 最終列以外の索引列名が INCLUDE 句の列として指定されました。

処置: INCLUDE 句には、索引構成表の主キー索引の一部でない列名、または主キーの最終キー列を指定してください。

ORA-25186 索引構成表に対して INCLUDING 句が OVERFLOW なしで指定されました。

原因: CREATE TABLE の INCLUDING 句は、(作成時に) OVERFLOW 句を持つ索引構成表でのみか、または OVERFLOW セグメントがすでに (更新時に) 存在する場合にのみ有効なオプションです。

処置: 索引構成表に OVERFLOW 句を指定してください。ALTER TABLE では、ADD OVERFLOW を最初に実行してください。

ORA-25187 指定された例外表のフォームが正しくありません。

原因: 指定した表に適切なフィールド定義がありません。

処置: 使用する表を修正してください。

ORA-25188 索引付き構成表に対する PRIMARY KEY 制約を削除 / 使用禁止 / 延期できません。

原因: 索引構成表の主キー制約を削除、使用禁止または延期しようとした。これは許可されていません。

処置: 索引のみの表で主キー制約を削除、使用禁止または延期しないでください。

ORA-25189 索引付き構成表に対する ALTER TABLE のオプションが無効です。

原因: 索引構成表の ALTER TABLE で、TABLESPACE、ALLOCATE/DEALLOCATE EXTENT、PCTFREE/PCTUSED オプションの 1 つまたは複数を索引構成表の最上位索引セグメントに入力しようとした。

処置: 不正なオプションを削除してください。

ORA-25190 索引付き構成表のメンテナンス操作は他の操作といっしょに実行できません。

原因：ALTER TABLE 文が、索引構成表のメンテナンス操作（たとえば物理属性の変更）を他の操作（たとえば ADD 制約）と結合しようとした。これは無効です。

処置：索引構成表のメンテナンス操作は、ALTER TABLE 文で指定される唯一の操作としてください。

ORA-25191 索引付き構成表のオーバーフロー表を参照できません。

原因：索引構成表のオーバーフロー表に、直接アクセスしようとした。

処置：指定したオーバーフロー表を含んだ親索引構成表に対して文を発行してください。

ORA-25192 索引付き構成表に対するオプションが無効です。

原因：[NO]CACHE、NO LOGGING、CLUSTER オプションのうち、1 つ以上を索引構成表に指定しようとした。

処置：不正なオプションを削除してください。

ORA-25193 単一列のキーに COMPRESS オプションは使用できません。

原因：単一列のキーに COMPRESS オプションを使用しようとした。

処置：COMPRESS オプションを削除してください。

ORA-25194 COMPRESS 接頭辞の長さが正しくありません。

原因：指定する値は、キー列の数より小さい正の整数でなければなりません。

処置：適切な値を指定してください。

ORA-25195 索引構成表の索引には無効なオプションです。

原因：BITMAP、REVERSE、PCTUSED オプションのうち、1 つ以上を索引構成表の索引に指定しようとした。

処置：適切なオプションを指定してください。

ORA-25196 ALTER TABLE MOVE のキーワード MOVE は表名の直後に指定してください。

原因：MOVE を 1 つ以上の ALTER オプションの後に指定しました。

処置：オプションの順序を変更してください。MOVE を最初に置か不正なオプションを削除してください。

ORA-25197 索引構成表にオーバーフロー・セグメントがすでに存在しています。

原因：オーバーフロー・セグメントがすでに存在する索引構成表にオーバーフロー・セグメントを追加しようとした。

処置：処置は必要ありません。

ORA-25198 索引構成表に対してサポートされているのはレンジ・パーティション化だけです。

原因: ハッシュ、システムまたはコンポジット・パーティション方法はサポートされていません。

処置: 異なるパーティション方法を選択してください。

ORA-25199 索引構成表のパーティション・キーは主キーのサブセットでなければなりません。

原因: 索引構成表の主キーのサブセットでないパーティション・キーを指定しようとしました。

処置: 異なるパーティション・キーを選択してください。

ORA-25200 *string* は無効な値です。QUEUE_NAME は [SCHEMA.]NAME でなければなりません。

原因: NULL パラメータが QUEUE_NAME に指定されました。

処置: NULL 以外のキュー名を指定してください。

ORA-25201 無効な値です。VISIBILITY は ON_COMMIT または IMMEDIATE でなければなりません。

原因: 無効値がパラメータ VISIBILITY に指定されました。

処置: ON_COMMIT または IMMEDIATE を指定してください。

ORA-25202 NULL は無効です。*string* には NULL 以外の値を指定してください。

原因: パラメータに対して NULL 値が指定されました。

処置: NULL 以外の値を指定してください。

ORA-25203 値 *string* は無効です。DELAY は非負数でなければなりません。

原因: 負の値または NULL が DELAY に指定されました。

処置: 負以外の整数を DELAY に指定してください。

ORA-25204 無効な値です。SEQUENCE_DEVIATION は BEFORE または TOP でなければなりません。

原因: 無効な SEQUENCE_DEVIATION が指定されました。

処置: オプションの BEFORE または TOP を指定してください。

ORA-25205 QUEUE *string.string* が存在しません。

原因: 指定したキューは存在しません。

処置: キューを作成してから、エンキューまたはデキューを指定してください。

ORA-25206 エンキューに失敗しました。例外キュー *string.string* へのエンキューはできません。

原因: 例外キューに対してエンキューを実行しようとした。

処置: 別のキューに対してエンキューを試行してください。

ORA-25207 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* にエンキューできません。

原因: エンキューがさらに実行されないようにするためにキューが停止しています。

処置: 管理操作によって最初にキューを使用可能にしてください。

ORA-25208 SEQUENCE_DEVIATION が BEFORE のときは RELATIVE_MSGID を指定してください。

原因: SEQUENCE_DEVIATION が BEFORE と指定されている場合は、相対メッセージ識別子を指定する必要があります。

処置: 既存の相対メッセージ識別子を指定するか、または SEQUENCE_DEVIATION を BEFORE に指定しないでください。

ORA-25209 値 *string* が無効です。EXPIRATION には非負数または NEVER が必要です。

原因: EXPIRATION が 0 (ゼロ) 未満か NULL です。

処置: EXPIRE_AFTER に有効な値 (0 (ゼロ) 以上または NEVER) を指定してください。

ORA-25210 RELATIVE_MSGID の値が無効です。この MSGID のメッセージがキューにありません。

原因: 指定された RELATIVE_MSGID と等しい MSGID を持つキューにメッセージがありません。

処置: 有効な RELATIVE_MSGID で再試行してください。

ORA-25211 シーケンス偏差オプション使用時に無効な DELAY が指定されました。

原因: エンキューで指定された DELAY が、任意の相対メッセージ ID を持つメッセージのディレイより大きくなっています。

処置: 任意の相対メッセージ ID を持つメッセージのディレイ以下になるように DELAY を設定してください。TOP オプションが使用される場合、ディレイはキューの中のすべてのメッセージのディレイ以下である必要があります。

ORA-25212 順序逸脱を使用中に無効な PRIORITY が指定されました。

原因: エンキューで指定された PRIORITY が、任意の相対メッセージ ID を持つメッセージの優先順位より小さくなっています。

処置: 任意の相対メッセージ ID を持つメッセージのディレイより小さくなるように PRIORITY を設定してください。TOP オプションが使用される場合、優先順位はキューの中のすべてのメッセージの優先順位より大きいまたは同じである必要があります。

ORA-25213 RELATIVE_MSGID で指定されたメッセージはデキューされました。

原因: SEQUENCE_DEVIATION の BEFORE オプションで、RELATIVE_MSGID フィールドによって指定されたメッセージは、デキューされました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-25215 ユーザー・データ型とキューの型が一致しません。

原因: 異なる型のオブジェクトに対して作成されたキューにオブジェクトをエンキューしようとした。

処置: 正しい型のオブジェクトを使用して、エンキューを再試行してください。

ORA-25216 受信者が無効です。NAME または ADDRESS のいずれかを指定しなければなりません。

原因: 受信者リストにある受信者の 1 つに対し、属性 (NAME および ADDRESS) の両方に NULL が指定されました。

処置: 受信者に対し、NULL 以外の NAME または ADDRESS を指定してください。

ORA-25217 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* の可視性は IMMEDIATE でなければなりません。

原因: 可視性に IMMEDIATE を設定せずに、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: 可視性に IMMEDIATE を設定してください。

ORA-25218 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* の遅延はゼロでなければなりません。

原因: 0 秒を超える遅延で、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: 遅延を 0 (ゼロ) に設定してください。

ORA-25219 エンキューに失敗しました。キュー *string.string* の順序逸脱は許可されません。

原因: SEQUENCE_DEVIATION が指定された状態で、非永続キューにエンキューしようとした。

処置: SEQUENCE_DEVIATION を指定しないでください。

ORA-25225 値: *string* は無効です。DEQUEUE_MODE は REMOVE、BROWSE、LOCKED のいずれかです。

原因: DEQUEUE_MODE に無効なパラメータが指定されました。

処置: REMOVE、BROWSE または LOCKED を指定してください。

ORA-25226 デキューに失敗しました。キュー *string.string* はデキューに使用できません。

原因: キューでデキューが使用可能にされていません。

処置: START_QUEUE を使用してキューを使用可能にしてください。

ORA-25228 *string.string* からメッセージをデキュー中に、タイムアウトまたはフェッチ終了になりました。

原因：ユーザー指定のデキュー待機時間が渡されたか、またはキューが最後まで到達したのにメッセージが取り出されませんでした。

処置：適切な WAIT_TIME または FIRST_MESSAGE オプションを使用してデキューを再試行してください。

ORA-25230 値 *string* は無効です。WAIT は非負数でなければなりません。

原因：負の値が WAIT に指定されました。

処置：負以外の値または FOREVER を指定してください。

ORA-25231 CONSUMER_NAME が未指定のためデキューできません。

原因：複数のユーザーに対して作成されたキューからデキューしようとしたが、CONSUMER_NAME がデキュー・オプションで未指定です。

処置：デキュー・オプションで CONSUMER_NAME を指定してください。

ORA-25232 メッセージに指定された受信者が重複しています。

原因：受信者パラメータにある重複するキュー・エージェントを使用してエンキューが実行されました。

処置：重複するキュー・エージェントを削除して、コールを再試行してください。

ORA-25233 NAVIGATION に指定されたパラメータが正しくありません。

原因：NAVIGATION に無効なパラメータが指定されました。

処置：FIRST_MESSAGE、NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のどれか 1 つを選択してください。基準を満たす最初のメッセージのデキューに FIRST_MESSAGE を、基準を満たす次のメッセージのデキューに NEXT_MESSAGE を、そして別のトランザクションによってエンキューされた一連のメッセージへの移動に NEXT_TRANSACTION を使用してください。

ORA-25234 NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションはキュー表 *string.string* には無効です。

原因：NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションが、トランザクションのグループ化用に作成されたのではないキュー表のキューから、デキューに使用されました。

処置：FIRST_MESSAGE か NEXT_MESSAGE のどちらかを、ナビゲーション・オプションに指定してください。トランザクションのグループ化を使用してメッセージをデキューする場合は、トランザクションのグループ化が使用可能なキュー表に、キューを新規作成してください。

ORA-25235 現行トランザクションの全メッセージが取り出されています。

原因：同じトランザクションに属するメッセージがないデキューで、NEXT_TRANSACTION ナビゲーション・オプションが使用されました。

処置: NEXT_TRANSACTION のナビゲーション・オプションを使用して、次に移動してください。FIRST_MESSAGE オプションを使用して、キューの先頭から再び開始することもできます。

ORA-25236 ユーザー・データ用のバッファが小さすぎます。

原因: Out パラメータ payload に使用される変数またはバッファが、デキューされるユーザー・データに対して小さすぎます。

処置: バッファのサイズ、または変数のサイズを大きくしてください。最大サイズは 32KB です。

ORA-25237 ナビゲーション・オプションの指定順序が正しくありません。

原因: すべてのメッセージをデキューした後に、NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のオプションが指定されました。

処置: FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用してデキュー位置をリセットし、次に NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION のオプションを指定してください。

ORA-25238 メッセージの宛先 *string* に指定した受信者が多すぎます。

原因: 指定された宛先（アドレス）の 32 より多い受信者に対してエンキューが実行されました。

処置: 受信者数を 32 以下に減らすか、コールを再試行してください。

ORA-25239 例外キュー *string.string* からデキューするときのメッセージ ID が指定されていません。

原因: デキュー・オプションにメッセージ ID を含めないで、リリース 8.0 互換の例外キューからデキューしようとしてしました。

処置: アプリケーションを確認し、キュー名が正しく指定されていることを確かめてください。キュー名が正しい場合は、リリース 8.0 互換の例外キューからデキューするときにメッセージ ID を指定してください。それ以外の場合は、DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE プロシージャを使用して、キューを含む QUEUE_TABLE をリリース 8.1 互換にアップグレードしてください。

ORA-25240 デキュー・オプションにメッセージ ID と相関 ID が指定されました。

原因: デキュー・オプションにメッセージ ID と相関 ID の両方を含めてデキューしようとしてしました。デキュー・オプションでできるのは、メッセージ ID と相関 ID のどちらか一方のみを指定すること、またはどちらの ID も指定しないことです。

処置: デキュー・メッセージでは、デキュー・オプションの中でメッセージ ID か相関 ID の一方のみを指定し、両方は指定しないでください。キューのソート順序の中でデキューする場合は、デキュー・オプションの中でメッセージ ID と相関 ID のどちらか一方を指定してください。

ORA-25241 FIRST_MESSAGE オプションが指定されていないと、相関 ID を *string* から *string* 変更できません。

原因: デキューの NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION オプションの使用中に、相関 ID を変更しようとした。

処置: 前のデキュー・コールとは異なる相関 ID を使用するには、FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用してデキュー位置をリセットしてください。

ORA-25242 FIRST_MESSAGE オプションが指定されていないと、サブスクライバ名を *string* から *string* へ変更できません。

原因: デキューの NEXT_MESSAGE または NEXT_TRANSACTION オプションの使用中に、サブスクライバ名を変更しようとした。

処置: 前のデキュー・コールとは異なるサブスクライバ名を使用するには、FIRST_MESSAGE ナビゲーション・オプションを使用してデキュー位置をリセットしてください。

ORA-25243 例外キュー *string.string* からデキューする場合、CONSUMER_NAME は指定できません。

原因: デキュー・オプションの CONSUMER_NAME を指定して、例外キューからデキューしようとした。CONSUMER_NAME は、複数のコンシューマに対して作成された標準キューからデキューしているときのみ指定できます。

処置: 例外キューからメッセージをデキューするには、デキュー・オプションのメッセージ ID のみを指定してください。

ORA-25244 デキューの索引キーが見つかりません、QUEUE *string*、ROWID *string*

原因: 内部エラーが発生しました。キュー表の索引に不一致がある可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。トレース・ファイルおよびエラーの再生についての情報が必要です。

ORA-25245 アドレスが単一使用者キューまたは例外キューの場合、エージェント名は指定できません。

原因: エージェント・アドレスが単一コンシューマ・キューまたは例外キューのときに、LISTEN コールのエージェントのエージェント名が指定されました。

処置: エージェント名を指定しないでください。

ORA-25246 リスニングに失敗しました。アドレス *string* は、8.0 形式の例外キューです。

原因: LISTEN コールのエージェント・リストに 8.0 形式の例外キューが指定されました。

処置: エージェント・リストで 8.0 形式の標準キューまたは 8.1 形式のキューを指定してください。

ORA-25247 *string* は指定したメッセージの受信者ではありません。

原因: デキュー・オプションで指定されたコンシューマ名がメッセージ ID が指定したメッセージの受信者ではありません。

処置: コンシューマ名が指定したエージェントが、メッセージ ID が指定したメッセージの受信者であることを確認してください。

ORA-25248 エージェント・リストに重複するエージェントが指定されました。

原因: LISTEN コールのエージェント・リストでエージェントが 2 回以上指定されました。

処置: 重複するエージェント指定を削除し、コールを再実行してください。

ORA-25249 デキューに失敗しました。キュー *string.string* のデキューは許可されません。

原因: 非永続キューからデキューしようとしてしました。

処置: 異なるキューからデキューしてください。

ORA-25250 そのメッセージに対してリモート受信者は指定できません。

原因: 非永続キューにエンキューされたメッセージの受信者がローカルでないアドレスを持っています。

処置: アドレス・フィールドを指定しないか、またはエンキューのターゲットのキューを指定してください。

ORA-25251 メッセージに対する最大受信者数を超過しました。

原因: メッセージあたりの最大受信者数 (1024) を超過した ENQUEUE コールを発行しようとしてしました。

処置: 受信者数を 1024 以下に減らすか、コールを再試行してください。

ORA-25252 リスニングに失敗しました。アドレス *string* は非永続キューです。

原因: LISTEN コールのエージェントのアドレスに非永続キューが指定されました。

処置: エージェントのアドレスに標準キューを指定して、LISTEN コールを再実行してください。

ORA-25253 リスニングに失敗しました。キュー *string.string* はデキューに使用できません。

原因: LISTEN コールのデキューに使用できないキューを指定しようとしてしました。

処置: START_QUEUE を使用してデキューを使用可能にし、LISTEN コールを再実行してください。

ORA-25254 メッセージ待ちの間に LISTEN のタイムアウトになりました。

原因: 指定された待機時間が経過し、エージェント・リストのどのエージェントにもメッセージがありませんでした。

処置: 適切なタイムアウトを使用して LISTEN コールを実行してください。

ORA-25255 不正な記述ストリング *string*。

原因: 不正な記述ストリングが OCI 登録で指定されました

処置: [CONSUMER:]SCHEMA.QUEUE 形式を使用して記述ストリングを指定してください。

ORA-25256 使用者は単一使用者キューまたは例外キューを指定できません。

原因: 単一コンシューマ・キューまたは例外キューのメッセージを登録中に、記述ストリングのコンシューマを指定しようとした。

処置: 記述ストリングのコンシューマを指定しないでください。

ORA-25257 使用者は複数使用者キューを指定する必要があります。

原因: 記述ストリングのコンシューマを指定しないで複数コンシューマ・キューに登録しようとした。

処置: 記述ストリングのコンシューマを指定してください。

ORA-25258 8.0 形式の例外キューに通知を登録できません。

原因: OCI 登録の記述ストリングの 8.0 形式の例外キューを指定しようとした。

処置: 標準キューまたは非永続キューを指定してください。

ORA-25259 エージェントのプロトコルを指定できません。

原因: ユーザーがエージェント・リストにあるエージェントにプロトコル属性を指定しました。

処置: エージェント・オブジェクト型のプロトコル属性を指定しないでください。

ORA-25261 JOB_QUEUE_PROCESSES は少なくとも 2 つ AQ プロパゲーションに必要となります。

原因: AQ プロパゲーションに対して不十分な JOB_QUEUE_PROCESSES の設定です。

処置: AQ プロパゲーションに対し、JOB_QUEUE_PROCESSES の数を少なくとも 2 つ設定してください。

ORA-25262 アドレスが複数使用者キューである場合、エージェント名を NULL にすることはできません。

原因: エージェント・アドレスが複数コンシューマ・キューのときに、LISTEN コールのエージェント名が指定されませんでした。

処置: エージェントに NULL 以外の名前を指定してください。

ORA-25263 キュー *string.string* にメッセージ ID *string* をもつメッセージはありません。

原因: 特定のメッセージ ID を使用してメッセージをデキューしようとしたが、キューにこのようなメッセージは存在しません。

処置: 有効なメッセージ ID を使用してデキューを再実行してください。

ORA-25276 指定した表はキュー表ではありません。

原因：無効なキュー表の名前が指定されました。

処置：表がキュー表の場合はディクショナリ・ビューを確認してください。

ORA-25277 リリース 8.0 互換キューでオブジェクト特権を付与または取消しすることができません。

原因：リリース 8.0 形式のキューのオブジェクト権限を付与または取り消そうとしました。

処置：オブジェクト権限を付与または取り消す前に、DBMS_AQADM.MIGRATE_QUEUE_TABLE を使用してリリース 8.0 互換キュー表をリリース 8.1 互換に変換してください。

ORA-25278 権限受領者名は NULL にできません。

原因：権限受領者パラメータを NULL に指定しようとしてしました。

処置：有効な権限受領者パラメータを指定してください。

ORA-25350 最大同時実行トランザクション・ブランチ数を超えました。

原因：同時実行トランザクション・ブランチ数の制限を超えました。

処置：初期化パラメータ TRANSACTIONS を増やしてからシステムを再起動してください。

ORA-25351 トランザクションは現在使用中です。

原因：トランザクションを別のセッションが現在使用しています。

処置：他のセッションに連結されているトランザクションには切り換えないでください。

ORA-25352 現在トランザクションはありません。

原因：ユーザー・セッションはどのトランザクションにも連結されていません。

処置：現行のトランザクションがないときは、連結解除をしないでください。

ORA-25353 ブランチに削除マークが設定されています。

原因：指定されたブランチに削除マークが設定されていますが、このブランチは別のセッションで使用されているためすぐには削除できません。割込みできない現在の操作が終わり次第削除されます。

処置：削除するブランチに処置は必要ありません。

ORA-25400 フェッチを再実行してください。

原因：この文で最後にフェッチが行われてから障害が発生しました。フェイルオーバーは、文を元の状態に戻してフェッチを継続することができました。

処置：これは内部的に使用されるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25401 フェッチを継続できません。

原因：この文で最後にフェッチが行われてから障害が発生しました。フェイルオーバーは、文を元の状態に戻してフェッチを継続することができませんでした。

処置：文を再実行して、最初からフェッチを始めてください。

ORA-25402 トランザクションをロール・バックしてください。

原因：この接続でトランザクションがアクティブだったときに障害が発生しました。

処置：クライアントはロールバックを行う必要があります。

ORA-25403 再接続できません。

原因：データベースへの接続が失われ、再接続に失敗しました。

処置：手動で再接続してください。

ORA-25404 インスタンスを失いました。

原因：プライマリ・インスタンスを失いました。

処置：これは内部的に使用されるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25405 トランザクションのステータスが不明です。

原因：トランザクションがコミットしようとしたときに障害が発生しました。フェイルオーバーはインスタンスの状態を自動的に判断できませんでした。

処置：ユーザーはトランザクションのステータスを手動で判断してください。

ORA-25406 接続アドレスを生成できません。

原因：フェイルオーバーがバックアップ・インスタンスのアドレスを生成できませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-25407 接続アドレスを終了しました。

原因：フェッチの実行中に接続が切断されました。

処置：これは内部的に使用されるエラー・メッセージであり、ユーザーに対して表示されることはありません。

ORA-25408 安全にコールを再実行することはできません。

原因：このコールを実行中に接続が切断されました。フェイルオーバー後に再実行するのは安全ではありません。

処置：コールの結果が行われたかどうかを確認し、次に希望する場合はそれを再実行してください。

ORA-25425 ロールバック中に接続が切断されました。

原因：ロールバックを発行中に接続が切断されました。

処置：トランザクションが外部的に調整されていない場合は、Oracle は暗黙のうちにロールバックを行うため、処置は必要ありません。それ以外の場合は、ROLLBACK FORCE が必要かどうかを判断するために、PENDING_TRANS\$ を調べてください。

ORA-25426 リモート・インスタンスでは共有 dblink はサポートされていません。

原因：バージョンが古いため共有データベース・リンク機能をサポートしていないリモート・インスタンスへの接続に、この機能が使用されました。

処置：このインスタンスに接続する必要がある場合は、標準のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-25436 指定したルールセットは存在しません。

原因：ルールセットにアクセスしようとしたましたが、参照されたルールセットは存在しません。

処置：USER_RULESETS にあるルールセットの正しい名前を調べてください。

ORA-25437 ルール *string* が存在しません。

原因：ルールにアクセスしようとしたましたが、参照されたルールは存在しないため失敗しました。

処置：USER_RULESETS にある、ルール記憶表のルールを調べてください。

ORA-25438 指定した表は存在しません。

原因：表のルールセットを定義しようとしたましたが、参照されたルールは存在しないため失敗しました。

処置：既存の表のルールセットのみを定義してください。

ORA-25440 ルールセットが重複しています。

原因：ルールセットを定義しようとしたましたが、同じスキーマに同じ名前のルールセットが存在するため失敗しました。

処置：別の名前でルールセットを定義してください。

ORA-25441 ルール *string* が重複しています。

原因：ルールを定義しようとしたましたが、同じルールセットに同じ名前のルールがすでに存在するため失敗しました。

処置：別の名前でルールを定義してください。

ORA-26000 パーティション・ロードが指定されたが、表 *string* がパーティション化されていません。

原因：SQL*Loader 制御ファイルには PARTITION 句が含まれていますが、ロードされた表はパーティション化されていません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルからパーティション指定を削除し、ロードを再試行してください。

ORA-26001 SORTED INDEXES に指定された索引 *string* が表 *string* に存在しません。

原因: SORTED INDEXES 句に存在しない索引が指定されました。

処置: SORTED INDEX に指定しないでください。

ORA-26002 表 *string* に索引が定義されています。

原因: 索引が定義されている表にパラレル・ロードが指定されました。

処置: 表に定義されている索引を削除するか、パラレル・ロードを使用しないか、または SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションを使用してください。

ORA-26003 パラレル・ロードは索引構成表 *string* をサポートしません。

原因: 索引構成表に対して、パラレル・ロードはサポートされていません。

処置: PARALLEL オプションを使用せずに、索引構成表をロードしてください。

ORA-26004 ダイレクト・パスを使ってロードされた表はクラスタ化できません。

原因: クラスタ化表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26007 INSERT オプションに対する表は空でなければなりません。表 *string* でエラーです。

原因: 空でない表の INSERT オプションを使用しようとしてしました。

処置: SQL*Plus から表を空にするか、REPLACE オプションを使用してください。

ORA-26008 NOT NULL 列 *string* に nullif 句があります。

原因: データベース内の NOT NULL 列に SQL*Loader の NULLIF 句が指定されています。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内の NULLIF 句を削除してください。

ORA-26009 NOT NULL 列 *string* に NULL に評価される defaultif 句があります。

原因: データベース内の NOT NULL 列に、NULL に評価される SQL*Loader の DEFAULTIF 句があります。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内の DEFAULTIF 句を削除してください。

ORA-26010 列 *string* (表 *string*) が NOT NULL なのでロードされていません。

原因: データベース内の NOT NULL 列がロードされていないため、すべての行が拒否されます。

処置: SQL*Loader 制御ファイル内の INTO TABLE 句に NOT NULL 列を指定することにより、列をロードしてください。

ORA-26011 **ダイレクト・パスを使用してロードされた表はオブジェクト表にはできません。**

原因: オブジェクト表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26012 **ダイレクト・パスを使用してロードされた表にはオブジェクト列を組み込みません。**

原因: オブジェクト列のある表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26013 **ダイレクト・パスを使用してロードされた表はネスト化できません。**

原因: NESTED TABLE をダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26014 **ダイレクト・パスを使用してロードされた表には REF 列を組み込みません。**

原因: REF 列のある表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26015 **ダイレクト・パスを使用してロードされた表には配列の列を組み込みません。**

原因: 配列の列がある表をダイレクト・パスを使用してロードしようとしてしました。

処置: 従来型パスを使用してください。

ORA-26016 **レコード *string*: 拒否 - 表 *string*、パーティション *string* でエラーが発生しました。**

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。違反している列は不明です。

ORA-26017 **グローバル索引はダイレクト・パス・パーティションのロードで使用できない (表 *string*)。**

原因: ダイレクト・パスが表の単一のパーティションをロードするときに、表に対してグローバル索引が定義されています。

処置: グローバル索引を指摘された表から削除し、操作を再試行してください。

ORA-26018 **列 *string* (表 *string*) が存在しません。**

原因: SQL*Loader 制御ファイルに指定された列が存在しません。

処置: 列が存在し、それに対する権限が付与されていることを確認してください。SQL*Loader 制御ファイルに誤りがある場合は修正してください。

ORA-26019 列 *string* (表 *string*、タイプ *string*) はダイレクト・パスでサポートされていません。

原因: 指定された SQL 列タイプ *string* の列は、ダイレクト・パス・ロードではサポートされていません。

処置: 列が NULL 値可能の場合は、それを制御ファイルの記述から削除してください。それから、NULL としてロードしてください。

ORA-26020 索引 *string.string* に *string* キーが正常にロードされました。

原因: 非パーティション索引情報がローダー・ログ・ファイルに出力されました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-26021 索引 *string.string*、パーティション *string* に *string* キーが正常にロードされました。

原因: パーティション索引情報がローダー・ログ・ファイルに出力されました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

ORA-26022 索引 *string.string* は次のエラーのため使用できません。

原因: このエラーの次に表示しているエラーのため、非パーティション索引で索引が使用不可になりました。

処置: エラーに応じて、索引を再構築するか、または削除してから再作成してください。

ORA-26023 索引 *string.string*、パーティション *string* は次のエラーのため使用できません。

原因: このエラーの次に表示しているエラーのため、パーティション索引のパーティションで索引が使用不可になりました。

処置: エラーに応じて、索引パーティションを再構築するか、または索引全体を削除してから再作成してください。

ORA-26024 SKIP_UNUSABLE_INDEXES が要求されたので、索引セグメントは最初は使用できません。

原因: ユーザーが SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションを要求しましたが、ロードの開始前に索引セグメントが使用できない状態にありました。

処置: これは情報メッセージです。ユーザーは索引または索引パーティションを再構築するか、または索引を再作成する必要があります。

ORA-26025 SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションが要求されました。

原因: ダイレクト・パス・ロードで索引メンテナンスのスキップが要求されました。

処置: ユーザーが索引メンテナンスのスキップを要求したため、リストされた索引は Index Unusable 状態になりました。索引または索引パーティションを再構築するか、または索引を削除または再作成してください。

ORA-26026 一意索引 *string.string* は最初は使用不可の状態です。

原因：一意索引が IU 状態にあります（一意索引では SKIP_UNUSABLE_INDEXES を使用して索引メンテナンスをスキップできません）。

処置：索引または索引パーティションを再構築するか、クライアントが SQL*Loader の場合は SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください。

ORA-26027 一意索引 *string.string*、パーティション *string* は最初は使用不可の状態です。

原因：一意索引のパーティションが IU 状態にあります（一意索引では SKIP_UNUSABLE_INDEXES を使用して索引メンテナンスをスキップできません）。

処置：索引または索引パーティションを再構築するか、クライアントが SQL*Loader の場合は SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください。

ORA-26028 索引 *string.string* は最初は使用不可の状態です。

原因：ダイレクト・パス・ロードの開始前に索引が IU 状態にあり、ローダーによってメンテナンスできません。

処置：索引を再構築または再作成してください。あるいは、SKIP_UNUSABLE_INDEXES または SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください（SQL*Loader の場合のみ）。

ORA-26029 索引 *string.string*、パーティション *string* は最初は使用不可の状態です。

原因：ダイレクト・パス・ロードの開始前に索引のパーティションが IU 状態にあり、ローダーによってメンテナンスできません。

処置：索引パーティションを再構築または再作成してください。あるいは、SKIP_UNUSABLE_INDEXES または SKIP_INDEX_MAINTENANCE を使用してください（SQL*Loader の場合のみ）。

ORA-26030 索引 *string.string* に次のエラーで使用不可になった *string* パーティションがあります。

原因：1 つ以上の索引パーティションに影響するパーティション索引で、このメッセージの次に表示されている論理索引エラーが発生しました。

処置：影響を受ける索引パーティションを再構築するか、または索引全体を削除してから再作成してください。

ORA-26031 索引メンテナンス・エラー。ロードを継続できません。

原因：ダイレクト・パス・ロードの索引メンテナンス・フェーズ中に索引エラーが発生しました。ロードを継続できません。このメッセージの次に表示されるエラー・メッセージを参照してください。

処置：この次に表示されるエラー・メッセージに対する処置を参照してください。

ORA-26032 索引 *string.string* のロードが *string* キーの後で異常終了しました。

原因: 索引構成表のダイレクト・ロード中に索引エラーが発生しました。ロードが異常終了しました。行はロードされませんでした。

処置: 上記キーの数値のすぐ後に続くキーを確認してください。このキーが、メッセージに記述されている索引問題の原因です。

ORA-26033 索引 *string.string*、行 *string* の評価中にエラーが発生しました。

原因: ファンクション索引の式を評価中にエラーが発生しました。

処置: 入力データがファンクション索引に対して有効であることを確認してください。

ORA-26034 可変長フィールドの長さ読み中に論理レコードの終わりを検出しました。

原因: 可変長フィールドの長さの読み中に、論理レコードの終わりに達しました。

処置: データが制御ファイルに正しく記述されていて、データ・ファイルのデータが制御ファイルの記述と一致しているか確認してください。

ORA-26035 レコード *string* は拒否されました - 表 *string*、サブパーティション *string* でエラーです。

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。違反している列は不明です。

ORA-26036 サブパーティションのロードが指定されましたが、表 *string* がサブパーティション化されていません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルには PARTITION 句が含まれていますが、ロードされた表はサブパーティション化されていません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルからサブパーティション指定を削除し、ロードを再試行してください。

ORA-26037 レコード *string* は拒否されました - 表 *string*、サブパーティション *string* でエラーです。

原因: 示されたレコードの挿入時に、Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラーを判別して、レコードを訂正してください。違反している列は不明です。

ORA-26038 文字長変数フィールドの数値エラー。

原因: VARCHARC または VARRAWC フィールドの部分件数を含む文字の変換中に、エラーが発生しました。

処置: フィールドのカウント部分が正しい値であることを確認してください。

ORA-26039 表 *string* に定義されたドメイン索引があります。

原因: ドメイン索引が定義されている表にダイレクト・パス・ロードが指定されました。

処置: 表に定義されたドメイン索引を削除するかまたは従来型パスを使用してください。

ORA-26040 データ・ブロックが NOLOGGING オプションを使用してロードされました。

原因: REDO 生成なしに NOLOGGING/UNRECOVERABLE オプションを使用してロードされたブロックのデータにアクセスしようとしました。

処置: ブロックを含んでいるオブジェクトを削除してください。

ORA-26041 DATETIME/INTERVAL データ型の変換エラーです。

原因: 列を DATETIME データ型から内部 DATETIME/CHARACTER データ型に変換することはできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26042 書式文字列を内部フォームに変換できません。

原因: DATETIME 書式文字列を DATETIME データ型処理用に内部書式に変換しようとしたが、失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26043 DATETIME/INTERVAL 処理のタイム・ゾーンを変換できません。

原因: 環境変数 ORA_STDZ で指定したタイム・ゾーンを内部書式に変換しようとしたが、失敗しました。

処置: ORA_STDZ の設定が正しいかどうかを確認してください。

ORA-26044 DATETIME/INTERVAL 参照日を取得できません。

原因: DATETIME/INTERVAL データ型のシステム参照日を取り出そうとしたが、失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26078 ファイル *string* はロードしているデータベースの一部ではありません。

原因: データベースの一部ではないパラレル・ロード・ファイルが指定されました。

処置: ファイル名およびパス名を修正してください。

ORA-26079 ファイル *string* は表 *string.string* の一部ではありません。

原因: ロードしている表の表領域内にないパラレル・ロード・ファイルが指定されました。

処置: 指定したパラレル・ロード・ファイルが、ロードされている表の表領域にあることを確認してください。

ORA-26080 ファイル *string* は表 *string.string* パーティション *string* の一部ではありません。

原因: ロードしている表（パーティション、サブパーティション）の表領域内にないパラレル・ロード・ファイルが指定されました。パーティション表がロードされている場合、ファイルはすべてのパーティションまたはサブパーティションの表領域にある必要があります（つまり、各（サブ）パーティションは同一の表領域にある必要があります）。

処置: 異なるパラレル・ロード・ファイルを指定するか、ファイルを1つも指定しないでください。

ORA-26081 ロード・ストリームの同期エラーです。

原因: 行ヘッダー・フラグ・バイトに、予期しない値が含まれています。これは、クライアントからサーバーへのロード・ストリームの生成または推進時にエラーが発生したことを示します。

処置: 通常、エラー処理時のアプリケーション・プログラミング・エラー、またはストリーム状況をリセットしなかったことが原因です。

ORA-26082 表 *string.string* でオーバーラップ・セグメントはロードできません。

原因: クライアント・アプリケーションが同一表に複数のダイレクト・パス・ロード処理を実行しようとしています、セグメントがオーバーラップしています。

処置: ロードしているパーティション名（ダイレクト・パス・コンテキストのサブネーム属性）を確認してください。表および同一表のパーティションをロードしていないことを確認してください。パーティション、および同一パーティション内のサブパーティションをロードしていないことを確認してください。

ORA-26083 サポートされないダイレクト・パス・ストリーム・バージョンです。

原因: 要求されたストリーム・バージョンは、サーバーでサポートされていません。

処置: ダイレクト・ストリームの VERSION 属性に、無効な値が設定されていないかどうかを確認してください。

ORA-26084 ダイレクト・パス・コンテキストはすでに終了済みです。

原因: OCIDirPathFinish がコールされた後に、OCIDirPathLoadStream 操作が実行されようとなりました。ダイレクト・パス処理が終了した後、データをロードすることはできません。

処置: プログラム・ロジックを確認し、OCIDirPathFinish の後で OCIDirPathLoadStream がコールされないことを確認してください。

ORA-26085 ダイレクト・パスの操作では、それ自体のトランザクションを開始する必要があります。

原因: すでに開始したトランザクション中に、ダイレクト・パス処理が行われようとなりました。

処置: トランザクションをコミットし、ダイレクト・パス処理を再実行する準備をしてください。

ORA-26086 ダイレクト・パスではトリガーがサポートされません。

原因: 使用可能なトリガーがある表でダイレクト・パス処理が行われようとしていました。

処置: その表のトリガーを使用不可にして、再実行してください。

ORA-26087 ダイレクト・パスでは、参照制約またはチェック制約がサポートされません。

原因: 使用可能な参照整合性制約またはチェック制約がある表でダイレクト・パス処理が行われようとしていました。

処置: その表の参照整合性制約またはチェック制約（あるいはその両方）を使用不可にして、再実行してください。

ORA-26088 スカラー列 *string* は、LOB 列の前に指定しなければなりません。

原因: すべてのスカラー列（LOB 列でも LONG 列でもない列）は、LOB 列を指定する前にダイレクト・パス API のクライアントによって指定される必要があります。

処置: LOB 列を指定する前にすべてのスカラー列を指定してください。

ORA-26089 LONG 列 *string* の指定位置は最後です。

原因: ダイレクト・パス API のクライアントがロードする LONG 列を指定しましたが、LONG 列の指定位置が最後ではありませんでした。

処置: LONG 列を最後に指定してください。

ORA-26090 行が部分状態になっています。

原因: ダイレクト・パス処理が終了するか、データ保存要求が行われましたが、その要求が行われる表に部分状態の行があります。セグメントの高水位標が移動される前に、行を終了する必要があります。

処置: 行を終了するか、またはダイレクト・パス処理を強制終了してください。

ORA-26091 要求されたダイレクト・パス操作はサポートされていません。

原因: サポートされていないダイレクト・パス処理が要求されました。

処置: この操作を使用しないでください。現在、UNLOAD はサポートされていません。

ORA-26092 LONG 型または LOB 型だけが部分となることができます。

原因: LONG または LOB でない列に OCI_DIRPATH_COL_PARTIAL フラグが対応付けられています。LONG 型または LOB 型の列のみがピース単位でロードできます

処置: 列に OCI_DIRPATH_COL_PARTIAL フラグを使用しないでください。

ORA-26093 ストリーム・オフセットは列配列にマップしません。

原因: ROW_COUNT 属性がダイレクト・パス・ストリーム・ハンドルから読み込まれ、最後に処理された列のストリーム・オフセットが列配列オフセットにマップしていませんでした。

処置: ストリームが列配列から発生していることを確認してください。

ORA-26094 ストリーム書式エラー：入力列のオーバーフロー

原因：入力ストリームが、ダイレクト・パス API のクライアントが指定した入力列より多い入力列のデータを含んでいました。

処置：ロードされているストリームが正しい表のものか確認してください。初期化シーケンスを調べてください。

ORA-26095 処理されないストリーム・データが存在します。

原因：サーバーが既存のストリーム・データを完全に処理する前により多くのストリーム・データを提供する OCIDirPathLoadStream がコールされたか、またはサーバーがストリーム・データを処理する時に OCIDirPathLoadStream がコールされました。

処置：一般的な原因として、ダイレクト・パス API のアプリケーション誤使用が考えられます。前のストリーム・データが処理される前にストリームが誤ってリセットされていないか、または OCIDirPathFinish が途中でコールされていないことを確認してください（つまり、Finish がコールされる前に、ストリームが送信され、エラーが発生し、そして LoadStream が残りのストリームを処理するためにコールされないことを確認してください）。

ORA-26096 転送サイズが行データに対して小さすぎます (number バイト必要)。

原因：指定されている転送バッファ・サイズまたはデフォルトの転送バッファ・サイズ（サイズを指定していない場合）が変換された行データの単一行を保持するには小さすぎます。

処置：ダイレクト・パス・コンテキストの転送バッファ・サイズ属性を大きく設定してください。

ORA-26097 列 *string* (型 *number* から型 *number* へ) に対する変換はサポートされていません。

原因：ダイレクト・パス API は要求された変換をサポートしていません。

処置：型が正しいかどうかを確認してください。

ORA-26098 ダイレクト・パス・コンテキストがまだ準備されていません。

原因：まだ準備されていないダイレクト・パス・コンテキストを使用して、ダイレクト・パス API 機能がコールされました。

処置：ダイレクト・パス・コンテキストで必要な属性がすべて設定され、ダイレクト・パス・コンテキストが OCIDirPathPrepare を使用して準備されていることを確認してください。

ORA-26099 ダイレクト・パス・コンテキストは既に準備されています。

原因：すでに準備されているコンテキストで OCIDirPathPrepare がコールされました。

処置：ダイレクト・パス・コンテキストを解除し、必要な属性を設定してから、OCIDirPathPrepare をコールしてください。

ORA-26100 未定義のエラーです。

原因: このエラーは定義されていません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-26101 ファイル・ヘッダーの表領域番号は *string* で、*string* (ファイル *string*) ではありません。

原因: ファイル・ヘッダー内の表領域番号が、制御ファイル内の表領域番号と一致していません。

処置: 制御ファイルが正しく移行されていることを確認してください。正しい制御ファイルとデータ・ファイルで再試行してください。

ORA-26102 ファイル・ヘッダーの相対ファイル番号は *string* で、*string* (ファイル *string*) ではありません。

原因: ファイル・ヘッダー内の相対ファイル番号が、制御ファイル内の相対ファイル番号と一致していません。

処置: 制御ファイルが正しく移行されていることを確認してください。正しい制御ファイルとデータ・ファイルで再試行してください。

ORA-26103 V6 または V7 のデータ・ファイルが制御ファイルの作成に使用されました。

原因: 参照ファイルのファイル・ヘッダーが V6 または V7 のフォーマットです。

処置: CREATE CONTROL FILE コマンドからファイルを削除するか、またはなんらかの方法でファイル・ヘッダーを V8 のフォーマットに移行してください。

ORA-26500 *string.string* のキャッシュ中にエラーが発生しました。

原因: オブジェクトのカatalogで使用できないレプリケーション情報をキャッシュしようとした。

処置: DBMS_REPUTIL.SYNC_UP_REP を使用してアプリケーション・Catalogの妥当性を検査するか、または DBMS_REPUTIL.MAKE_INTERNAL_PKG を使用して内部パッケージの妥当性を検査してください。

ORA-26501 RepAPI 操作が失敗しました。

原因: 外部 RepAPI 操作が失敗しました。

処置: 詳細エラー・メッセージを参照してください。

ORA-26502 エラー再表示

原因: 内部サービスが失敗し、エラーが表示されました。

処置: 詳細エラー・メッセージを参照してください。

ORA-26503 内部 RepAPI 操作がオブジェクト *string.string* で失敗しました。

原因: 予期しない内部 RepAPI の失敗が検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26504 操作がインプリメントされません。

原因: コール側がインプリメントされていない RepAPI 操作を要求しました。

処置: このコールは発行しないでください。

ORA-26505 予期せぬ内部的な NULL です。

原因: 内部バッファ制御構造体が NULL でした。

処置: RepAPI が使用できるメモリー・リソースが十分にあることを確認してください。

ORA-26506 NULL グローバル・コンテキスト

原因: 内部バッファ制御構造体が NULL でした。

処置: RepAPI が使用できるメモリー・リソースが十分にあることを確認してください。

ORA-26507 NULL マスター接続

原因: マスター接続ハンドルが無効であったか、または無効になりました。

処置: マスター接続が有効であることを確認してください。

ORA-26508 NULL スナップショット接続

原因: クライアント接続ハンドルが無効であったか、または無効になりました。

処置: クライアント接続が有効であることを確認してください。

ORA-26509 NULL スナップショット制御構造体

原因: 内部スナップショット制御構造体を取得できませんでした。

処置: 指定された所有者とユーザーが正しいことを確認してください。

ORA-26510 スナップショット名: *string* が最大長を超えています。最大長は *string* バイトです。

原因: 指定されたスナップショット名が長すぎます。

処置: スナップショット名を短くしてください。

ORA-26511 マスター表 *string.string* が見つかりません。

原因: 存在しないマスター表または無効なマスター表に対して RepAPI 操作を実行しようとした。

処置: マスター表オブジェクトが存在することを確認してください。

ORA-26512 トランザクションを *def\$error* へ進行するときにエラーが発生しました。

原因: マスター・サイトに DEF\$ERROR RPC を送信するときに予期しないエラーが発生しました。

処置: DBMS_DEFER パッケージが有効であり、RepAPI クライアントから実行可能であることを確認してください。必要に応じてローカル・サイトまたはマスター・サイトの管理者に問い合わせてください。

ORA-26513 進行エラー: マスター PROC. *string*\$RP.*string* が失敗しました (trans:*string* seq:*string*)。

原因: \$RP.rep_insert()、rep_update() または rep_delete() 関数の実行中にマスター・サイトで競合またはエラーが発生し、それがマスターの競合解消ロジックで処理されました。

処置: マスター・サイトのシステム管理者またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-26514 オブジェクト *string.string* が見つかりません。

原因: 指定されたオブジェクトが見つかりませんでした。

処置: 指定されたオブジェクトが存在し、有効であることを確認してください。

ORA-26515 *string.string* で使用可能なマスター・ログがありません。

原因: 指定されたマスター・ログが見つかりません。または、指定された表で使用可能ではありません。

処置: マスター・サイトでマスター・ログを作成するか、ログに問題がある場合はそれを修正してください。

ORA-26516 トランザクションの進行通知がありません。

原因: RepAPI は、最後の進行トランザクションがマスター・サイトによって正常にコミットされたことを確認できませんでした。

処置: ローカル・サイトとマスター・サイト間の通信リンクがまだ有効であることを確認してください。トランザクションがマスターでコミットされていない場合は、トランザクションを再送信してください。

ORA-26517 *string.string* のスナップショット制御項目が見つかりません。

原因: 指定されたスナップショット・カタログ制御レコードが見つかりませんでした。

処置: ローカル・スナップショット・カタログが有効であり、ローカル・スナップショットが正しく定義されていることを確認してください。

ORA-26518 進行待ち行列の同期エラーを検出しました。

原因: クライアントは、すでにマスター・サイトでコミットされているトランザクションを再進行しようとしていました。この問題は、一般にローカル・サイト・トランザクション順序機構の初期化または更新時にローカル・サイトでエラーが発生したことが原因です。

処置: RepAPI がマスター・サイトへ再進行しようとしているトランザクション・データがマスター表に存在し、有効であり、ローカル・サイトと一貫性のあることを確認してください。このエラーが発生する場合は、重複して識別されたトランザクションは無視され、ローカルの更新可能スナップショット・ログからバージされます。ローカル・サイトで新しいトランザクション識別子が正しく割り当てられ、一意でない値が意図せず生成されていないことを確認してください。

ORA-26519 割当て可能なメモリーがありません。

原因: RepAPI プロセスで利用できるメモリーが残されていません。このエラーは、RepAPI が新しい表バッファ領域を割り当てようとするときに発生することがあります。

処置: ヒープ・メモリーを解放するため 1 つまたは複数のローカル・アプリケーションをシャットダウンして、RepAPI を再試行してください。

ORA-26520 内部メモリー・エラー

原因: 内部メモリー・エラーが検出されました。

処置: その他のエラーが発生しているかどうかを確認してください。または、ローカル・アプリケーションがメモリー・サブシステムを破壊していないかどうかを判断してください。

ORA-26521 RPC 初期化エラー

原因: PL/SQL RPC の初期化中にエラーが発生しました。

処置: 呼び出すプロシージャが存在し、それがマスター・サイトで有効であり、RepAPI ユーザーから実行可能であることを確認してください。

ORA-26522 RPC 実行エラー

原因: PL/SQL RPC の実行中にエラーが発生しました。

処置: リモート・プロシージャからのエラー・メッセージを確認し、呼び出された RPC の実行を妨害している可能性のあるリモート・サイトの問題を修正してください。

ORA-26523 RPC 終了エラー

原因: PL/SQL RPC の終了中にエラーが発生しました。通常は、オープンされているカーソルをマスター・サイトがクローズできないこと、または RepAPI が内部メモリーの割当てを解除できないことが原因です。

処置: 最初にサーバー・サイドの問題を解決し、RepAPI のメモリー・サブシステムが破壊されているかどうかを判断してください。

ORA-26524 NLS サブシステムの初期化に失敗しました。(製品 =string、機能 =string)

原因: NLS 製品 / 機能エラー・メッセージ・ファイルが見つからないか、または正しく初期設定されていませんでした。

処置: エラー・メッセージのディレクトリとファイルが正しくインストールされていることを確認してください。

ORA-26525 string (@string) のセッション接続が失敗しました。

原因: 提供された接続文字列を使用して指定されたデータベースへの接続を確立できませんでした。

処置: ユーザー、パスワード、接続文字列、ネーム・サービス、ネットワーク、およびリモート・サイトのリスナー・プロセスが正しくインストールされ、動作していることを確認してください。

ORA-26526 *string.string* のスナップショット SQL DDL の解析 / 拡張が失敗しました。

原因: マスター Oracle サイトがクライアントの SQL スナップショット定義問合せを正しく解析できませんでした。

処置: スナップショット DDL SQL が、現在接続されている Oracle のバージョンと互換性があり、RepAPI SQL の制約または制限に違反していないことを確認してください。

ORA-26527 *string.string* に対するローカルの格納コールバックが INIT フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、*string.string* オブジェクトに対する INIT フェーズ中に失敗しました。

処置: クライアント・コールバックが参照しているオブジェクトが存在し、有効であることを確認してください。ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26528 *string.string* に対するローカルの格納コールバックが PROC フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、*string.string* オブジェクトに対する PROC フェーズ中に失敗しました。

処置: ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26529 *string.string* に対するローカルの格納コールバックが TERM フェーズで失敗しました。

原因: クライアント・コールバックが、*string.string* オブジェクトに対する TERM フェーズ中に失敗しました。

処置: ベンダー固有のコールバック・エラー・コードのリファレンスを参照し、ローカルな問題を診断してください。すべてのエラー状態を記録し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-26530 スナップショット・リフレッシュ制御リストを作成できません。

原因: スナップショット制御リストを組み立てられません。これは一般に、ローカル・スナップショット・カタログへのアクセス中にエラーが発生したことが原因です。

処置: 指摘されるスナップショットが正しく定義され、有効であることを確認してください。

ORA-26531 レプリケーション・パラレル・プッシュの障害リカバリ・テスト・イベントです。

原因: 原因はありません。

処置: パラレル・プッシュ・テスト用にサイト障害を想定したイベントです。

ORA-26532 レプリケーション・パラレル・プッシュでサイトの障害をシュミレートしました。

原因：ネットワークまたは接続先サイトの障害のシミュレーションを行うために、イベント 26531 を使用可能にしてパラレル・プッシュを実行するとこのエラーが呼び出されます。

処置：標準操作ではこのイベントを使用可能にしないでください。

ORA-26534 衝突：トランザクション ID *numberId* は無視されて除去されました。

原因：送信されたトランザクション ID は、以前にマスター・サイトで送信されコミットされたトランザクションの ID と競合しています。

処置：E_QUEUESYNC (26518) の処置の項を参照してください。

ORA-26535 *number* バイトの行キャッシュは、*rowsize=number* の表には十分ではありません。

原因：送信されたトランザクション ID は、以前にマスター・サイトで送信されコミットされたトランザクションの ID と競合しています。

処置：RepAPI 行バッファのサイズを増やすか、レプリケート表の幅を削減してください。

ORA-26536 遅延トランザクションによって発生した競合のためにリフレッシュが異常終了しました。

原因：スナップショットのマスター・サイトの DEFERROR 表に、未解決の競合がロギングされています。

処置：マスター DEFERROR 表内の競合を解消して、表が空になった後に再度リフレッシュしてください。あるいは、マスター・サイトの DEFERROR 表に競合がある場合でも、REFRESH_AFTER_ERRORS でリフレッシュしてください。競合が発生しているにもかかわらず続行すると、競合の解消後にリフレッシュが成功するまで、更新可能なスナップショットの変更が一時的に失われているように見える場合があります。

ORA-26563 この表の名前は変更できません。

原因：レプリケート表または更新可能スナップショット表、スナップショット・ログが作成されたスナップショットのマスター表を改名しようとした。

処置：必要に応じて、DBMS_REPCAT.DROP_MASTER_REPOBJECT を使用してレプリケート表の登録を抹消するか、推奨プロシージャを使用してスナップショットのマスター表を改名してください。

ORA-26564 *string* 引数が指定された型ではありません。

原因：ユーザーの示された引数番号に渡された型が、格納されている引数内の引数の型と一致しません。

処置：正しい型 (GET_XXX_ARG) のプロシージャを起動してください。

ORA-26565 型 DBMS_DEFER.CALL の呼出し前に <型>_ARG が呼び出されました。

原因: 遅延コールを開始する前に *type_ARG* プロシージャをユーザーが起動しました。

処置: 正しい順序でいくつかのプロシージャを起動してください。

ORA-26566 *string* への接続をオープンできません。

原因: 指定されたデータベース・リンクを使用して接続をオープンできませんでした。

処置: データベース・リンクが有効であり、リモート・マシンが稼動していることを確認してください。

ORA-26571 *string.string.string*: 引数 (*string*) の数がレプリケーション・カタログと合致しません。

原因: 引数の数がレプリケーション・カタログと合致していません。

処置: RPC コールの引数の合計数を調べてください。

ORA-26572 *string.string.string*: 引数 *string* がレプリケーション・カタログと合致しません。

原因: (RPC) コールが不正です。

処置: RPC コールの引数の合計数と各引数を調べてください。

ORA-26575 リモート・データベースはレプリケーション・パラレル伝播をサポートしません。

原因: リモート・データベースに Oracle 8.0 より低いバージョンが存在し、レプリケーション・パラレル伝播を認識しませんでした。

処置: シリアル伝播を使用するかまたはリモート・データベースを Oracle 8.0 以上にアップグレードしてください。

ORA-27000 skgfsbi: 記憶域サブシステム (SBT) レイヤーの初期化に失敗しました。

原因: sbtinit からエラーが返されました。追加情報にエラーが表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27001 デバイス・タイプがサポートされていません。

原因: 指定されたデバイス・タイプがこのプラットフォームでサポートされています。

処置: サポートされているデバイス・タイプの V\$BACKUP_DEVICE を確認してください。

ORA-27002 無効なデバイス構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーが発生しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27003 NOIO とともに割り当てられたデバイスのファイルをオープンできません。

原因: 内部エラーが発生しました。ファイルが NOIO オプションで割り当てられたデバイス上で作成中または検索中です。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27004 指定されたブロックサイズが無効です。

原因: 内部エラーが発生しました。指定されたブロック・サイズがファイルを作成するデバイスに対して正しくありません。追加情報に指定されたブロック・サイズ、およびエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27005 非同期がサポートされていないデバイスで非同期 I/O のファイルはオープンできません。

原因: 内部エラーが発生しました。非同期 I/O がサポートされていないデバイスで非同期 I/O のファイルをオープンしようとしています。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27006 sbtremove からエラーが戻されました。

原因: 追加情報に SBTREMOVE から戻されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27007 ファイルのオープンに失敗しました。

原因: SBTOPEN からエラーが返されました。追加情報に SBTOPEN から戻されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27008 無効なファイル構造で関数が呼び出されました。

原因: 内部エラーが発生しました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27009 skgfwrt: 読み込み用にオープンしたファイルに書き込みはできません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27010 skgfwrt: ファイルの書き込みに失敗しました。

原因: SBTWRITE からエラーが返されました。追加情報に SBTWRITE から戻されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27011 skgfrd: 書き込み用にオープンしたファイルから読み込みはできません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27012 skgfrd: ファイルの読み込みに失敗しました。

原因: SBTREAD からエラーが返されました。追加情報に SBTREAD から戻されたエラーとエラーが発生した関数が表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27013 skgfdel: オープンしているファイルは削除できません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27014 skgfpini: SS_UDMPDIR 拡張中に変換エラーが発生しました。

原因: SKGFPINI 内の SLTLN の障害です。

処置: 詳細は、その他のリターン・エラーを確認してください。

ORA-27015 skgfcls: ファイルのクローズに失敗しました。

原因: SBTCLOSE からエラーが返されました。追加情報に SBTCLOSE から戻されたエラーが表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27016 skgfcls: sbtinfo からエラーが戻されました。

原因: 追加情報に SBTINFO から返されたエラーが表示されます。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作していることを確認してください。

ORA-27017 skgfcls: sbtinfo から戻されたメディア・ハンドルが最大長 (SSTMXQMH) を超えています。

原因: メディア・ハンドル文字列の長さが SSTMXQMH を超えています。

処置: ベンダーの記憶域サブシステム製品が正常に動作しており、プラットフォーム制限 (SSTMXQMH) が最低 64 (SBTINFO に指定されている制限) であることを確認してください。追加情報に SBTINFO から戻されたメディア・ハンドル文字列の長さと制限 (SSTMXQMH) が表示されます。

ORA-27018 BLKSIZE が最小物理ブロック・サイズの倍数ではありません。

原因: ユーザーが定義した BLKSIZE (ブロッキング要素) が、このプラットフォームで許可されている最小ブロック・サイズの倍数ではありません。

処置: ユーザーが指定したブロッキング要素、および最小物理ブロック・サイズを示す ADDITIONAL INFORMATION メッセージが 2 回表示されます。最小ブロック・サイズの整数の倍数で BLKSIZE を指定してください。

ORA-27019 テープ・ファイル名の長さが制限 (SBTOPMXF) を超えています。

原因: 順次 I/O 関数に指定されたテープ・ファイル名の長さが長すぎます。

処置: 追加情報にエラーが発生した関数、指定されたファイル名の長さ、ファイル名の制限が表示されます。

ORA-27020 名前付きデバイスはサポートされていません。

原因: プラットフォームまたは指定されたデバイス・タイプでは、指定されたデバイスがサポートされません。

処置: デバイスの名前を指定しないでください。または指定されるデバイスをサポートするデバイス・タイプを使用してください。V\$BACKUP_DEVICE ビューを使用して、使用可能なデバイス・タイプと名前 (ある場合) を調べてください。

ORA-27021 シーケンシャル・ファイル・ハンドルを指定してください。

原因: SBTOPEN へ渡されるファイル名が未指定でした。

処置: ファイル名を指定して続行してください。バックアップの設定を Recovery Manager から作成する場合は、「書式」オプションを使用してバックアップ対象のハンドル名を指定してください。

ORA-27022 skgfsbi: メディア・マネージャにメモリー割当ができませんでした。

原因: Oracle にリンクしてバックアップおよびリストア・サービスを提供する、メディア管理ソフトウェアが要求するメモリーを割当てできませんでした。

処置: Oracle プロセスに使用可能な記憶容量を増やして、バックアップまたはリストアを再試行してください。

ORA-27023 skgfsbi: メディア・マネージャのプロトコル・エラーです。

原因: Oracle にリンクしてバックアップおよびリストア・サービスを提供するメディア管理ソフトウェアの関数ポインタ構造が、Oracle で使用できませんでした。メディア管理製品の内部エラーです。

処置: メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27024 skgfsbi: sbtinit2 からエラーが返りました。

原因: sbtinit2 からエラーが返されました。これはバックアップまたはリストア操作中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27025 skgfsbi: メディア・マネージャのコンテキスト領域サイズが無効です。

原因: メディア管理製品ソフトウェアには、許可される最大サイズよりも大きなコンテキスト領域サイズが必要です。メディア管理製品の内部エラーです。

処置: メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27026 skgfrls:sbtend からエラーが返りました。

原因: sbtend からエラーが返されました。これは、バックアップまたはリストア操作中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27027 sbtremove2 からエラーが返りました。

原因: sbtremove2 からエラーが返されました。これはバックアップ・ファイルを削除中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27028 skgfcrc: sbtbackup からエラーが返りました。

原因: sbtbackup からエラーが返されました。バックアップ操作中にバックアップ・ファイルを作成すると、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27029 skgfrtrv: sbtrestore からエラーが返りました。

原因: sbtrestore からエラーが返されました。リストア操作中にバックアップ・ファイルを取り出すと、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27030 skgfwrt: sbtwrite2 からエラーが返りました。

原因: sbtwrite2 からエラーが返されました。バックアップ操作中にバックアップ・ファイルを書込みすると、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27031 ミラー resilvering ファンクションはサポートされていません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27032 skgfrpini: ファイル・サイズの制限の取得に失敗しました。

原因: GETRLIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27033 skgfrpini: ファイル・サイズの制限の取得に失敗しました。

原因: ULIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27034 skgfrcre: ORACLE_SID の最大値を超えています。

原因: ORACLE_SID 文字列の文字が多すぎます。

処置: ORACLE_SID を改名して、システムに指定された最大文字数の文字列にしてください。

ORA-27035 論理ブロック・サイズが無効です。

原因: Oracle ファイルの論理ブロック・サイズは物理ブロック・サイズの倍数であり、最大値より小さい必要があります。

処置: 指定されたブロック・サイズが、追加情報として戻されます。初期化パラメータを確認してください。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます。

ORA-27036 変換エラーが発生しました。ファイル名を拡張できません。

原因: 追加情報に SLTLN/SLNRM エラーが表示され、エラーが発生した関数も表示されます。

処置: 追加情報を調べてください。

ORA-27037 ファイル・ステータスを取得できません。

原因: STAT システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27038 skgfrcre: ファイルが存在しています。

原因: データベース・ファイルを作成しようとしたますが、同じ名前のファイルがすでに存在します。

処置: 名前が正しいことを確認し、必要に応じ `reuse` を指定してください。

ORA-27039 ファイルの作成に失敗しました。ファイル・サイズが制限に達しています。

原因: プロセスのファイル・サイズ制限を超えるファイルを作成しようとした。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます。

処置: ファイル・サイズ制限を上げてください。

ORA-27040 skgfrcre: 作成エラーが発生しました。ファイルを作成できません。

原因: `create` システム・コールからエラーが返され、ファイルを作成できません。

処置: ファイル名およびアクセス権を確認してください。

ORA-27041 ファイルをオープンできません。

原因: `open` システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27042 要求を実行するには、領域または未使用のパーティションが小さすぎます。

原因: これは内部エラーです。ファイルが未使用のパーティションに対して大きすぎます。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27043 ファイルの先頭をシークできません。

原因: `seek` システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27044 ファイルのヘッダー・ブロックを書き込めません。

原因: `write` システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27045 ファイルをクローズできません。

原因: `close` システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27046 ファイル・サイズが論理ブロック・サイズの倍数ではありません。

原因: STAT が示したファイル・サイズが正しくありません。追加情報にエラーが発生した関数も表示されます

処置: ファイルが上書きまたは切り捨てられていないことを確認してください。

ORA-27047 ファイルのヘッダー・ブロックを読み込めません。

原因: read システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27048 skgfifi: ファイルのヘッダー情報が無効です。

原因: データベース・ファイルでないものをデータベース・ファイルとして使用しようとしている可能性があります。

処置: ファイルがデータベース・ファイルであることを確認してください。

ORA-27049 最終ブロックのシークおよび書込みができません。

原因: ファイルの最終ブロックのシークおよび書込みをしようとした。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27050 無効な FIB/IOV 構造で関数が呼び出されました。

原因: これは内部エラーです。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27052 ファイル・データをフラッシュできません。

原因: FSYNC システム・コールからエラーが返されました。追加情報にエラーが発生した関数が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27053 skgfifi: ファイル・ヘッダーのブロックサイズが論理ブロック・サイズの倍数ではない

原因: 論理ブロック・サイズが無効です。追加情報に論理ブロック・サイズおよびファイル・ヘッダーのブロック・サイズが表示されます。

処置: 異なるブロック・サイズを使用するか、またはファイルを再使用しないでください。

ORA-27056 skgfrdel: ファイルを削除できませんでした。

原因: unlink システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27057 skgfask: ファイルに対して非同期 I/O を実行できません。

原因: これは内部エラーです。非同期 I/O がサポートされていないファイルでは、非同期ベクトル I/O についての問合せが発生します。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27058 skgfask: 問合せパラメータが無効です。

原因: これは内部エラーです。無効な問合せが発生しています。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27059 skgfrsz: ファイル・サイズを削減できません。

原因: FTRUNCATE システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27060 skgfofi: ファイルに close-on-exec ビットを設定できません。

原因: FCNTL システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27061 skgfospo: 非同期 I/O の待機に失敗しました。

原因: AIOWAIT 関数からエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27062 skgfospo: 一時停止中の非同期 I/O が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。システムには、非同期 I/O がいくつか存在したはずですが、しかし、ブロック AIOWAIT は、I/O がもはや存在していないことを示しています。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27063 skgfospo: 読み込み / 書き込みのバイト数が正しくありません。

原因: AIOWAIT から戻された読み込み / 書き込みのバイト数が元の数と合致しません。追加情報にこれらの数値が両方とも表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27064 skgfdisp: ファイルに対して非同期 I/O を実行できません。

原因: これは内部エラーです。IOV に非同期 I/O をファイルで実行できないことが示されているときに、非同期 I/O を実行するように要求しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27065 skgfdisp: ファイルに対して非同期ベクトル I/O を実行できません。

原因: これは内部エラーです。IOV に非同期ベクトル I/O をファイルで実行できないことが示されているときに、非同期ベクトル I/O を実行するように要求しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27066 skgfdisp: ベクトル I/O のバッファ数が最大値を超えています。

原因: これは内部エラーです。ベクトル I/O のバッファ数が OSD が実現する最大値を超えています。追加情報にこれらの数値が両方とも表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27067 skgfdisp: バッファのサイズが無効です。

原因: これは内部エラーです。バッファ・サイズが 0 か、SSTIOMAX より大きいかまたは論理ブロック・サイズの倍数以外のいずれかです。追加情報にエラーが発生した関数とそのバッファ・サイズが表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27068 skgfdisp: バッファが正しく位置揃えされていません。

原因: これは内部エラーです。バッファが SSIOALIGN 境界に正しく位置揃えされていません。追加情報にエラーが発生した関数とそのバッファ・ポインタが表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27069 skgfdisp: ファイルの範囲外で I/O 処理を試みました。

原因: これは内部エラーです。読み込みまたは書き込みを行っているブロックの範囲がファイルの範囲外です。追加情報に、開始ブロック番号、I/O 内のブロック数、およびファイル内の最後の有効なブロックが表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27070 skgfdisp: 非同期の読み込み / 書き込みに失敗しました。

原因: AIOREAD/AIOWRITE システム・コールからエラーが返されました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27071 skgfdisp: ファイルの要求位置をシークできません。

原因: LSEEK システム・コールからエラーが返されました。追加情報にシークをしようとしたファイルのブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27072 skgfdisp: I/O エラーが発生しました。

原因: READ/WRITE/READV/WRITEV システム・コールからエラーが返されました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27073 skgfcfi: 非同期 I/O がこのファイルのデキュー用に残されています。

原因: これは内部エラーです。ファイルがクローズされます。しかしファイルへの非同期 I/O すべてがデキューされたわけではありません。追加情報にファイル上の未処置の I/O の数値が表示されます。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27074 skgfrofl: オープン・ファイルの制限を取得できません。

原因: GETRLIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27075 skgfrofl: SSTMOFRC 定数が大きすぎます。

原因: これは内部エラーです。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27076 skgfrofl: オープン・ファイル数の制限を設定できません。

原因: SETRLIMIT システム・コールからエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27077 skgfofi: オープンされているファイルが多すぎます。

原因: これは内部エラーです。SKGFOFI によってオープンされているファイルの数値が制限値に達しました。

処置: トレース・ファイルを調べて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27084 skgfgio: ファイル・ステータス・フラグを取得 / 設定できません。

原因: F_GETFL/F_SETFL フラグを持つシステム・コール FCNTL からエラーが返されました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27086 skgfglk: ファイルをロックできません。すでに使用されています。

原因: ファイルが別のプロセスにロックされています。このファイルは、データベース・インスタンスによって現在使用されています。

処置: どのデータベース・インスタンスが本来このファイルを所有しているか確認してください。

ORA-27087 skgfglk: 共有ロックを取得できません。ファイルが読み込み可能ではありません。

原因: 読み込みアクセス用にオープンされていないファイルに対して共有ロックが要求されました。

処置: 共有ロックを取得するには、ファイルを読み込み専用または書き込み専用でオープンしてください。

ORA-27088 skgfglk: ファイルの状態を取得できません。

原因: ファイルがオープンされていないかまたはファイル記述子が無効です。

処置: ファイルがオープンされていて記述子が有効なことを確認してください。

ORA-27089 skgfrlk: 通知ロックをリリースできません。

原因: ファイル・ロックのリリースが失敗しました。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27091 skgfgio: I/O をキューできません。

原因: read/write/readv/writev システム・コールからエラーが返されました。追加情報に I/O の開始ブロック番号が表示されます。

処置: エラー番号を確認してください。

ORA-27100 共有メモリー realm はすでに存在します。

原因: 重複しているインスタンスを起動しようとしたか、正しくシャットダウンされていないインスタンスを再起動しようとしてしました。

処置: 別のインスタンス名を使用するか、失敗したインスタンスの SGA をクリーン・アップしてください。

ORA-27101 共有メモリー realm は存在しません。

原因: 共有メモリー realm を確認できませんでした。

処置: 領域がアクセス可能であることを確認してください。

ORA-27102 メモリー不足です。

原因: メモリーが足りません。

処置: トレース・ファイルで詳細を確かめてください。

ORA-27103 内部エラー

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27120 共有メモリー・セグメントを取り消せません。

原因: SHMCTL() コールが失敗しました。

処置: セグメントの権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27121 共有メモリー・セグメントのサイズが確認できません。

原因: SHMCTL() コールが失敗しました。

処置: セグメントの権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27122 メモリーを保護できません。

原因: MPROTECT() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27123 共有メモリー・セグメントに連結できません。

原因: SHMAT() コールが失敗しました。

処置: セグメントの権限を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27124 共有メモリー・セグメントから連結解除できません。

原因: SHMDT() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27125 共有メモリー・セグメントを作成できません。

原因: SHMGET() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27126 コアにある共有メモリー・セグメントをロックできません。

原因: コア内で共有メモリー・セグメントをロックする権限が不十分です。

処置: 必要な権限でプロセスを実行していることを確認してください。

ORA-27127 共有メモリー・セグメントをロック解除できません。

原因: 共有メモリー・セグメントのロック解除をする権限が不十分です。

処置: 必要な権限でプロセスを実行していることを確認してください。

ORA-27128 ページ・サイズを確認できません。

原因: SYSCONF() コールが失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27141 ID 処理が無効です。

原因: 無効なプロセス ID を使用してプロセス操作をしようとした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27142 新規処理を作成できませんでした。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認してください。可能ならプロセス数を増加してください。

ORA-27143 OS システム・コールに障害が発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27144 処理の消去に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27145 要求された処理数に対するリソースが不十分です。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27146 通知 / 待機の初期化に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27147 通知 / 待機のリセットに失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27148 作成エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27149 割当てが有効範囲にありません。

原因: これは内部エラーです。型に対して大きすぎる変換が要求されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27150 保留中の ORADEBUG コール処理の通知に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27151 ID 文字列の処理を保持するにはバッファ・サイズが不十分です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27152 処理の通知に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27153 待機操作に失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27154 通知 / 待機の作成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。複数の通知 / 待機の作成を同時に実行しようとした。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27155 ファイルを実行できません。

原因: オペレーティング・システム・コールが失敗しました。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27156 情報の処理要求に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27190 skgfrd: sbtread2 からエラーが返りました。

原因: sbtread2 からエラーが返されました。リストア操作中にバックアップ・ファイルを読み込むと、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27191 sbtinfo2 からエラーが返りました。

原因: sbtinfo2 からエラーが返されました。メディア・マネージャ・カタログからバックアップ・ファイルの情報を取出し中に、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27192 skgfcfs: sbtclose2 からエラーが返りました - ファイルのクローズに失敗しました。

原因: sbtclose2 からエラーが返されました。バックアップまたはリストア操作中にバックアップ・ファイルをクローズすると、このエラーが発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27193 sbtinfo2 からボリューム・ラベルが返りませんでした。

原因: 作成されなかったバックアップ・ファイルのボリューム・ラベル情報を SBTINFO2 が返りませんでした。メディア管理製品の内部エラーです。

処置: メディア管理ベンダーに連絡してください。

ORA-27194 skgfdvcmnd: sbtcommand からエラーが返りました。

原因: sbtcommand からエラーが返されました。これは RMAN SEND コマンドを発行した場合に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27195 プロキシ・コピーはサポートされません。

原因: プロキシのバックアップまたはリストアをしようとしたますが、Oracle にインストールされているメディア管理ソフトウェアはプロキシ・コピーをサポートしていません。

処置: 非プロキシ・モードでバックアップを再実行するか、またはソフトウェアがプロキシ・コピーをサポートする場合は、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27196 skgfpbk: sbtpcbbackup からエラーが返りました。

原因: sbtpcbbackup からエラーが返されました。これはプロキシのバックアップを開始したときに発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27197 skgfprr: sbtpcrestore からエラーが返りました。

原因：sbtpcrestore からエラーが返されました。これはプロキシのリストアを開始したときに発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27198 skgfpvl: sbtpcvalidate からエラーが返りました。

原因：sbtpcvalidate からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27199 skgfpst: sbtpcstatus からエラーが返りました。

原因：sbtpcstatus からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27200 skgfpgo: sbtpcstart からエラーが返りました。

原因：sbtpcstart からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27201 skgfpcm: sbtpccommit からエラーが返りました。

原因：sbtpccommit からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27202 skgfpen: sbtpcend からエラーが返りました。

原因：sbtpcend からエラーが返されました。これは、プロキシのバックアップまたはリストア中に発生します。

処置：このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されます。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27203 skgfpqb: sbtpcquerybackup からエラーが返りました。

原因: sbtpcquerybackup からエラーが返されました。これはプロキシのバックアップ中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27204 skgfpqr: sbtpcqueryrestore からエラーが返りました。

原因: sbtpcqueryrestore からエラーが返されました。これは、プロキシのリストア中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27205 skgfpqn: sbtpccancel からエラーが返りました。

原因: sbtpccancel からエラーが返されました。これは、プロキシのリストア中に発生します。

処置: このエラーは Oracle にリンクしているメディア管理ソフトウェアから返されません。エラーの原因を説明するメッセージが他にあります。このエラーについては、通常、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

ORA-27206 要求されたファイルがメディア管理カタログにありません。

原因: Recovery Manager カatalogのメンテナンス・コマンドで使用されているバックアップ・ファイルがメディア管理カタログで見つかりませんでした。

処置: 別のファイル名を使用してコマンドを再試行してください。

ORA-27207 PARMS デバイスの構文エラー - カッコの組合せが不適当か、またはカッコがありません。

原因: ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。

処置: 正しい構文 ENV=(..) BLKSIZE=nnnn でコマンドを再試行してください。

ORA-27208 PARMS デバイスの構文エラー - 環境変数の値がありません。

原因: ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。

処置: 正しい構文 ENV=(var1=val1,var2=val2,..) でコマンドを再試行してください。

ORA-27209 PARMS デバイスの構文エラー - 不明なキーワードか、または「=」がありません。

原因: ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。サーバーが ENV または BLKSIZE を検索しようとしたましたが、不明なキーワードが検出されました。

処置: 正しい構文 ENV=(..) BLKSIZE=nnnn でコマンドを再試行してください。

ORA-27210 PARMS デバイスの構文エラー

原因: ユーザーが指定した PARMS 値の構文が正しくありません。

処置: 正しい構文 ENV=(.) BLKSIZE=nnnn でコマンドを再試行してください。

ORA-27300 OS システム依存操作: *string* がステータス: *string* で失敗しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27301 OS 失敗時メッセージ: *string*

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27302 *string* で障害が発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27303 追加情報: *string*

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27500 内部インスタンスの IPC エラーです。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーの可能性が高いです。

処置: その他の情報を確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27501 ポートの作成中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27502 シグナル・ハンドラの設定中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27504 ポートのネットワーク・アドレス問合せ中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27505 ポートの破棄中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27506 ポートへの接続中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27507 ポートの切断中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27508 メッセージの送信中に IPC エラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27509 メッセージの受信中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27510 要求完了待機中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27512 処理の転記中にエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システム・コール・エラーです。

処置: エラー番号を確認し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-27528 通信バッファに 0（ゼロ）サイズを割り当てることはできません。

原因: クライアントが長さ 0（ゼロ）のメッセージを割り当てようとしています。

処置: KGXPVALO() の使用方法については、KGXP.H を参照してください。

ORA-27529 0（ゼロ）バッファの通信バッファを割り当ててはできません。

原因：クライアントが長さ 0（ゼロ）のメッセージを割り当てようとしています。

処置：KGXPVALO() の使用方法については、KGXP.H を参照してください。

ORA-27530 NULL メモリーへのポインタの割当てを解除できません。

原因：クライアントが割当て解除で NULL ポインタを渡しています。

処置：KGXPVFRE() の使用方法については、KGXP.H を参照してください。

ORA-27531 無効なポートを破棄できません。

原因：ポートが無効です。

処置：ポートを再作成してください。

ORA-27532 IPC グローバル・ネーム・サービスはサポートされていません。

原因：KGXP で使用されたグローバル・ネーム・サービスがサポートされていません。

処置：別のネーム・サービスを使用するか、または現行のプロセス / スレッドを強制終了させてください。

ORA-27533 無効な接続識別子を破棄しようとしてしました。

原因：渡された接続識別子が無効です。

処置：接続識別子を確認するか、またはプロセス / スレッドを強制終了させてください。

ORA-27534 位置揃えされていないメッセージは送信できません。

原因：送信されているメッセージが必要な境界で位置揃えされていません。

処置：KGXPALSZ() マクロを使用してメッセージの位置揃えサイズを取得し、すべてのメッセージをこの境界で位置揃えしてください。

ORA-27535 最大ベクトル・メッセージ・サイズを超えています。

原因：最大ベクトル・サイズを超えるベクトル・メッセージを送信しようとしてしました。

処置：より小さなベクトル・サイズを使用してください。

ORA-27536 マルチキャスト・メッセージが正しい境界に割り当てられていません。

原因：マルチキャストするメッセージが必要な境界で位置揃えされていません。

処置：メッセージを正しく位置揃えしてください。

ORA-27537 位置揃えされていないバッファにメッセージを受信できません。

原因：受信のために転記されたメッセージが必要な境界で位置揃えされていません

処置：KGXPALSZ() マクロを使用してメッセージの位置揃えサイズを取得し、すべてのメッセージをこの境界で位置揃えしてください。

ORA-27538 フリー・プールに対する受入れハンドルの追加に失敗しました。

原因: フリー・プールに受入れハンドルを追加できませんでした。

処置: プロセスを終了してください。

ORA-27539 受入れハンドルのフリー・プールが空です。新規接続を受け入れられません。

原因: 受入れハンドルのフリー・プールが空です。

処置: 受入れハンドルをフリー・プールに追加してください。

ORA-27540 プロセス / スレッドにこれ以上通信チャネルを作成できません。すでに最大値です。

原因: 最大通信チャネルが、すでにこのプロセス / スレッドで使用されています。

処置: 不要な接続を破棄してください。

ORA-27541 リモート・ポートへの接続中に致命的なエラーが発生しました。

原因: リモート・アドレスが有効でないか、またはプロセスで障害が発生しました。

処置: すべての接続を破棄し、それらを再確立してください。

ORA-27542 受入れハンドルの待ち行列処理に失敗しました。

原因: OSD では、新しい着信接続要求を受け入れるために必要な記憶域の待ち行列処理を KGXP が行うことはできません。

処置: パラメータを確認し、正しい場合にはプロセスを強制終了させてください。

ORA-27543 未処理の要求は取り消せません。

原因: OSD は、未処理の要求を即時に取り消すことはできません。

処置: すべての接続をシャットダウンし、プロセスを強制終了させてください。

ORA-27544 メモリー・マップ通信はサポートされていません。

原因: プラットフォームがメモリー通信をサポートしていません。

処置: デフォルトの送受信を使用してください。

ORA-28000 アカウントがロックされています。

原因: 誤ったパスワードをプロファイル・パラメータ FAILED_LOGIN_ATTEMPTS で指定されている最大回数を超えて入力したか、またはデータベース管理者がアカウントをロックしました。

処置: PASSWORD_LOCK_TIME で指定された時間待機するか、またはデータベース管理者に連絡してください。

ORA-28001 パスワードが期限切れです。

原因: ユーザーのアカウントが期限切れであり、パスワードを変更する必要があります。

処置: パスワードを変更するか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-28002 パスワードは、*string* 日以内に期限切れになります。

原因：ユーザーのアカウントの期限切れが近いため、パスワードを変更する必要があります。

処置：パスワードを変更するか、データベース管理者に連絡してください。

ORA-28003 指定されたパスワードのパスワード照合に失敗しました。

原因：新規パスワードが要求される複雑度で指定されていないため、PASSWORD_VERIFY_FUNCTION が失敗しました。

処置：別のパスワードを入力してください。新規パスワードの選択の規則をデータベース管理者に問い合わせてください。

ORA-28004 PASSWORD_VERIFY_FUNCTION *string* に指定された関数の引数が無効です。

原因：パスワード照合関数に、必要な入出力引数の数値と型または戻り引数、あるいはその両方がありません。

処置：『Oracle Security Server ガイド』を確認し、パスワード照合関数の形式を検索してください。

ORA-28005 ログオン・フラグが無効です。

原因：コールの発行でフラグが正しく設定されていないか、または競合フラグが設定されています。

処置：適切なフラグを設定して関数をコールしてください。

ORA-28006 パラメータ *string* と *string* の値が矛盾します。

原因：パラメータ PASSWORD_REUSE_TIME と PASSWORD_REUSE_MAX の両方が設定できません。一方のパラメータが設定されているときは、もう一方のパラメータは無制限とする必要があります。

処置：1 つの値を明示的に UNLIMITED に設定してください。

ORA-28007 パスワードは再利用できません。

原因：指定された日数、または指定された回数だけ変更したパスワードは、再利用できません。

処置：指定された日数、または指定されたパスワード変更回数だけ使用されていないパスワードを試してください。CREATE PROFILE 文のパスワード・パラメータを参照してください。

ORA-28008 旧パスワードが正しくありません。

原因：システムに提供された旧パスワードが誤りです。そのため、旧パスワードを使用してユーザーが認証されません。

処置：認証に対して正しい旧パスワードを提供してください。

ORA-28009 sys への接続は sysdba または sysoper で行わなければなりません。

原因: connect sys/password は有効な構文ではなくなりました。

処置: connect sys/password as sysdba または connect sys/password as sysoper を試してください。

ORA-28010 外部またはグローバル・アカウントを失効させることができません。

原因: ユーザー・アカウントが IDENTIFIED EXTERNALLY または IDENTIFIED GLOBALLY として作成されている場合は、このアカウントを失効させることはできません。

処置: データベース・パスワードを持つユーザーのパスワードを失効させてみてください。

ORA-28011 アカウントはももなく期限切れです。ここでパスワードを変更してください。

原因: ユーザーのアカウントが期限切れになります。使用期限に制限はありません。

処置: パスワードを変更するか、または DBA に連絡してください。

ORA-28020 IDENTIFIED GLOBALLY がすでに指定されています。

原因: IDENTIFIED GLOBALLY 句が 2 回指定されました。

処置: IDENTIFIED GLOBALLY 句は 1 つだけ使用してください。

ORA-28021 グローバル・ロールは付与できません。

原因: 付与されたロールが IDENTIFIED GLOBALLY でした。グローバル・ロールはドメインの中央の認証局を介してのみ付与できます。

処置: ALTER ROLE を使用してロールのタイプを変更 (IDENTIFIED GLOBALLY からその他、IDENTIFIED BY パスワードなどへ) するか、中央の認証局を介してグローバル・ユーザーに割り当ててください。

ORA-28022 グローバル・ユーザーまたはロールに外部ロールは付与できません。

原因: 付与されたロールが IDENTIFIED EXTERNALLY でした。外部ロールはグローバル・ユーザーまたはグローバル・ロールに付与できません。

処置: ALTER ROLE を使用して付与されたロールのタイプを変更 (IDENTIFIED EXTERNALLY からその他、IDENTIFIED BY パスワードなどへ) するか、ALTER ROLE または ALTER USER を使用して権限受領者であるユーザーまたはロールのタイプを変更してください。

ORA-28023 先に他のユーザーへのこのロールの付与を取り消してください。

原因: IDENTIFIED GLOBALLY に変更されたロールが、1 つ以上の他のユーザーまたはロール、あるいはその両方に付与されています。グローバル・ロールは他のユーザーまたはロールに付与できません。

処置: REVOKE を使用して他のユーザーまたはロールから、最初にそのロールを取り消してください。

ORA-28024 このロール/ユーザーへの外部ロールの付与を取り消してください。

原因: IDENTIFIED GLOBALLY に変更されたユーザーまたはロールに外部ロールが直接付与されています。外部ロールをグローバルのユーザーまたはロールに付与できないので、これらを取り消す必要があります。

処置: REVOKE を使用して、変更されるユーザーまたはロールから外部ロールを取り消してください。

ORA-28025 外部名がないか、または NULL です。

原因: IDENTIFIED EXTERNALLY AS または IDENTIFIED GLOBALLY AS 句が有効な外部名で指定されました。

処置: 有効な外部名を提供してください。

ORA-28026 同じ外部名のユーザーがすでに存在しています。

原因: 作成または変更されるユーザーに指定された外部名が、すでに他のユーザー用に存在します。

処置: 外部名は他のユーザーと重複してはいけません。別の外部名を指定してください。

ORA-28027 権限データベース・リンクはグローバル・ユーザーが使用できます。

原因: グローバル・ユーザーのみが権限データベース・リンクを使用できます。

処置: ユーザーをグローバル・ユーザーに変更するか、または別のデータベース・リンクを使用してください。

ORA-28028 リモート・サーバーを確認できませんでした。

原因: 権限データベース・リンクのオープン中に、ネットワーク・セキュリティ・サービスを使用してリモート・サーバーが安全に確認されませんでした。追加のエラーが続きます。

処置: リモート・サーバーを正常に構成する方法は、ネットワーク・セキュリティ・サービス・ドキュメントを参照してください。

ORA-28029 ユーザー *string* はリモート・サーバーを使用できません。

原因: 権限データベース・リンクのオープン中に、カレント・グローバル・ユーザーとして接続するために必要な認証を持たないリモート・サーバーが見つかりました。サーバーがネットワーク・セキュリティ・サービスによって認証されていない可能性があります。または、ローカル・サーバーが DBMS_SECURITY_DOMAINS_ADMIN パッケージを使用してリモート・サーバーによるアクセスを制限している可能性があります。

処置: リモート・サーバーに正しい認証を付与して、特定のグローバル・ユーザーとして接続してください。そしてローカル・サーバーがアクセスを制限しないことを確認してください。

ORA-28030 LDAP ディレクトリ・サービスへアクセス中にサーバーに問題が発生しました。

原因: LDAP ディレクトリ・サービスにアクセスできません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-28035 認証用のセッション・キーを取得できません。

原因: クライアントおよびサーバーがログイン中に共有シークレットをネゴシエートできません。

処置: システム管理者に連絡してください。

ORA-28100 ポリシー関数スキーマ *string* が無効です。

原因: この関数に関連するポリシーがオブジェクトに追加された後、スキーマが削除されました。

処置: ポリシーを削除し、有効なユーザーが所有しているポリシー関数を使用してポリシーを再作成してください。またはユーザーを再作成し、新しいユーザーの下でポリシー関数を再作成してください。

ORA-28101 ポリシーがすでに存在しています。

原因: 同じオブジェクトの同じ名前のポリシーがすでに存在します。

処置: ポリシーがすでに追加されているかを確認するか、または異なるポリシー名を使用してください。

ORA-28102 ポリシーが存在しません。

原因: 存在しないポリシーを削除、使用可能またはリフレッシュしようとしてしました。

処置: ポリシー名の引数を訂正してください。

ORA-28103 SYS が所有するオブジェクトにポリシーは追加できません。

原因: ポリシーを SYS が所有する表またはビューに追加しようとしてしました。

処置: この操作は実行できません。

ORA-28104 ポリシー関数またはパッケージが正しくありません。

原因: ポリシーをインプリメントしている関数またはパッケージが存在しないか、またはエラーを伴って作成されました。

処置: 関数またはパッケージを修正してください。

ORA-28106 引数 *string* の入力値が正しくありません。

原因: 引数の入力値がないかまたは無効です。

処置: 入力値を修正してください。

ORA-28107 ポリシーは使用禁止です。

原因: 使用禁止のポリシーをフラッシュしようとしてしました。

処置: ポリシーが実行されることになっている場合は、使用可能にしてください。

ORA-28108 循環する行レベル・セキュリティ・ポリシーが検出されました。

原因: 同じオブジェクトのポリシーが互いに参照しています。

処置: ポリシーを削除してください。

ORA-28109 関連ポリシーの数が制限値 16 を超えています。

原因: 同じオブジェクトに関連するポリシーが多すぎます。

処置: 1 つ以上のポリシーを削除してください。またはポリシーのいくつかを 1 つに結合してください。

ORA-28110 ポリシー関数またはパッケージ *string.string* にエラーがあります。

原因: ポリシー関数が削除されたか、または無効です。

処置: 関数の定義を調べて、引数を訂正してください。または、有効な関数を使用してポリシーを再作成してください。

ORA-28111 権限が不十分であるため、ポリシー述語を評価できません。

原因: 述語に、ポリシー関数の所有者がアクセスする権限がないオブジェクトを含む副問合せがあります。

処置: ポリシー関数所有者に適切な権限を付与してください。

ORA-28112 ポリシー関数を実行できません。

原因: 実行中、ポリシー関数に 1 つ以上エラーがありました。

処置: トレース・ファイルを確認し、エラーを修正してください。

ORA-28113 ポリシー述語にエラーがあります。

原因: ポリシー関数が無効な述語を生成しました。

処置: 詳細なエラー情報はトレース・ファイルを調べてください。

ORA-28115 チェック付きポリシーのオプション違反です。

原因: ポリシー述語が更新された値で FALSE になりました。

処置: トレース・ファイルを確認し、エラーを修正してください。

ORA-28116 ダイレクト・パス・アクセスを行うには権限が不十分です。

原因: 権限が不十分なユーザーがファイングレイン・アクセス制御ルールを使用して表のダイレクト・パス・アクセスを行おうとしています。

処置: この操作の実行をデータベース管理者に依頼してください。エクスポート、インポートまたはロード時にルールを一時的に削除または使用不可にするために、ユーザーがセキュリティ管理者と共に作業できます。ただし、セキュリティと密接に関係するので、データベースのアクセスは十分注意して制御してください。

ORA-28117 整合性制約違反で、親レコードが見つかりません。

原因: 新しい外部キー値を持つ子レコードを更新 / 挿入しようとしたますが、対応する親行のファイングレイン・セキュリティのため、親行を表示できません。

処置: 更新した外部キー値を親行で表示できることを確認してください。

ORA-28150 プロキシではクライアントとしての接続は許可されません。

原因: プロキシ・ユーザーがクライアントとして接続しようとしたますが、プロキシに、クライアント・プロキシとして動作する権限がありません。

処置: ALTER USER...GRANT CONNECT コマンドを使用して、クライアントのプロキシとして動作する権限を与えてください。

ORA-28151 コマンドに複数のユーザー名が指定されました。

原因: 1 つ以上のユーザー名が ALTER USER コマンドに指定されました。

処置: 1 つのみのユーザー名でコマンドを再実行してください。

ORA-28152 プロキシ・ユーザー *string* は初期ロール *string* をクライアント *string* のために指定できません。

原因: プロキシ・ユーザーが初期ロールをクライアントに指定しようとしたますが、クライアントにはロールがありません。

処置: ロールを指定しないようにプロキシ・ユーザーを変更するか、またはロールをクライアントに付与してください。

ORA-28153 無効なクライアント初期ロールが指定されました。 *string*

原因: クライアントのプロキシとして接続するときに有効となる初期ロールとしてプロキシ・ユーザーが指定したロールは無効です。

処置: 有効なロールを指定するクライアントとして再接続してください。

ORA-28154 プロキシ・ユーザーはクライアント *string* として動作できません。

原因: プロキシ・ユーザーが持つことのできる権限を制限するために、プロキシ・ユーザーが権限のあるユーザーを認証することはできません。

処置: 文を再実行し、権限のあるユーザー以外のクライアントを指定してください。

ORA-28155 プロキシとして指定されたユーザー *string* は、実際はロールです。

原因: AUDIT operation BY proxy ON BEHALF OF client によって指定されたユーザーは、実際はロールです。

処置: 有効なプロキシ・ユーザーを使用して文を再実行してください。

ORA-28156 プロキシ・ユーザー *string* は、ロール *string* の設定は許可されません (クライアント *string*)。

原因: プロキシ・ユーザーにはクライアントのプロキシとしてロールを使用する権利は許可されていません。

処置: ALTER USER *client* GRANT CONNECT THROUGH PROXY コマンドを実行して、必要なロールを付与してください。

ORA-28157 プロキシ・ユーザー *string* は、ロール *string* の設定を禁止しています (クライアント *string*)。

原因: プロキシ・ユーザーは、ALTER USER *client* GRANT CONNECT THROUGH *proxy* WITH ALL ROLES EXCEPT *role* コマンドによってクライアントのプロキシとしてロールを使用することは禁止されています。

処置: ALTER USER *client* GRANT CONNECT THROUGH PROXY コマンドを実行して、必要なロールを付与してください。

ORA-28158 ALL キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28159 BEHALF キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28160 EXCEPT キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28161 ROLES キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28162 THROUGH キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: 不足しているキーワードを指定してください。

ORA-28163 GRANT はすでに指定済みです。

原因: GRANT 句が 2 回指定されました。

処置: GRAND 句は 1 つのみ使用してください。

ORA-28164 REVOKE はすでに指定済みです。

原因: REVOKE 句が 2 回指定されました。

処置: REVOKE 句は 1 つのみ使用してください。

ORA-28165 プロキシ *string* は、パスワードで保護されたロール *string* を指定できません (クライアント *string*)。

原因: プロキシ・ユーザーが、関連するパスワードを持つクライアントのためのロールをアクティブにしようとした。プロキシはパスワードを持たないので、ロールをアクティブにできません。

処置: 異なるロールをアクティブにするか、またはパスワードが必要ないようにロールを管理上の問題がないように変更してください。

ORA-28166 リストのロール名を複製します。

原因: ロール名がリストに 2 回以上指定されました。

処置: ロールを 1 回指定するコマンドを再試行してください。

ORA-28168 パスワードで保護されているロールに権限を付与しようとした。

原因: ALTER USER ...GRANT CONNECT コマンドが、パスワードで保護されているロールを、プロキシがクライアントのために実行するロールとして指定しようとした。

処置: パスワードを持たないロールを指定するか、またはパスワードが必要ないようにロールを変更してください。

ORA-28231 Obfuscation ツールキットへの入力が無効です。

原因: Obfuscation ツールキットに何も入力されていません。

処置: PL/SQL ファンクションに関連する入力項目が空でないことを確認してください。

ORA-28232 Obfuscation ツールキットに対する入力サイズが無効です。

原因: DES 暗号化 / 解読ルーチンに、8 バイトの倍数以外の値が入力されました。

処置: PL/SQL ファンクションに関連する入力項目が 8 バイトの倍数であることを確認してください。

ORA-28500 ORACLE から非 Oracle システムへの接続で次のメッセージが戻されました。

原因: 原因は次のメッセージで説明されます。

処置: 次のメッセージについては、非 Oracle システムのドキュメントを参照してください。

ORA-28501 異機種間データベース・リンクで通信エラーが発生しました。

原因: 予期しない通信障害が、非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクで発生しました。上記のメッセージの後に、接続された非 Oracle システムで生成された別のメッセージが続きます。

処置: 2 番目のエラー・メッセージの説明は、非 Oracle システムのドキュメントを参照してください。

ORA-28502 異機種間データベース・リンクで内部通信エラーが発生しました。

原因：Oracle の異機種間サービスへの内部通信エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28503 結合値を非 Oracle システム用の SQL テキストに変換できません。

原因：SQL 文が非 Oracle システムへの異機種間サービス・データベース・リンクの結合変数を使用しましたが、非 Oracle システムは結合変数をサポートしていません。

処置：結合変数を使用しないように、SQL 文を変更してください。

ORA-28504 異機種間データベース・リンクの ROWID キャッシュで ROWID が見つかりません。

原因：異機種間サービスの ROWID キャッシュが指定された ROWID に対応する項目を 1 つも保持していません。ROWID 項目が ROWID キャッシュで上書きされました。

処置：サーバー・データ・ディクショナリの初期化パラメータ ROWID_CACHE_SIZE の値を DBMS_HS PL/SQL パッケージを使用して増やし、異機種間サービスの ROWID キャッシュ・サイズを大きくしてください。

ORA-28505 string から Oracle 以外のシステム機能を取得できません。

原因：Oracle は、異機種間データベース・リンクを介して接続された非 Oracle システムの機能情報を取り出すことができませんでした。この機能情報は、HS_CLASS_CAPS または HS_INST_CAPS データ・ディクショナリ・ビューで表示できるデータ・ディクショナリ表に格納されているはずです。

処置：データベース管理者に連絡して、エラー・メッセージで表示されたサーバー・データ・ディクショナリ表を確認してください。表の内容が誤っている場合は、データベース管理者が FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) に対するデータ・ディクショナリの内容を、すべてリストアする必要があります。通常は、このクラスまたはインスタンス (あるいはその両方) に対する現行のデータ・ディクショナリの内容をすべて削除し、接続されているエージェントが新しいデータ・ディクショナリの内容をサーバーにアップロードするように、新しい接続を初期化すれば十分です。

ORA-28506 string (string に保存) に対するデータ・ディクショナリの変換で解析エラーが発生しました。

原因：Oracle データ・ディクショナリ表への参照または非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクのビュー名が変換できませんでした。ビュー HS_CLASS_DD を使用して表示される Oracle データ・ディクショナリ表にデータ・ディクショナリ変換に対して無効な SQL があります。

処置：エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28507 データ・ディクショナリ・ビュー string でエラーが発生しました。

原因：異機種間サービスの初期化パラメータ表が使用不可能か、またはその構造体 (列数または列型) が正しくありません。

処置: 異機種間サービスの初期化パラメータのビューのインストールが正しいことを確認してください。これらのビューが使用可能でない場合は、`$ORACLE_HOME/rdbms/admin` ディレクトリ内のスクリプト `CATHS.SQL` を実行したことを確認してください。

ORA-28508 無効な値 *string* が異機種間サービス初期化パラメータ *string* に指定されています。

原因: 非 Oracle システムへ接続しようとしたときに、指定された異機種間サービス初期化パラメータに無効な値がありました。

処置: 異機種間サービスのドキュメントを確認して有効な値を判別し、`DBMS_HS` パッケージ内の `PL/SQL` プロシージャを使用して `HS_INST_INIT` 内のパラメータを更新してください。

ORA-28509 非 Oracle システムへの接続を確立できません。

原因: 非 Oracle システムへのデータベース・リンクの初期化で、この非 Oracle システムの異機種間サービス・エージェント・プロセスへの接続が失敗しました。

処置: 次の箇所ですべて `Net8` サービス名定義を確認してください。

- `CREATE DATABASE LINK` 文の `USING` 句
- `TNSNAMES.ORA` ファイル
- Oracle Names Server

サービス名の不一致の理由として次のことが考えられます。

- `CREATE DATABASE LINK` 文の `USING` 句は、`TNSNAMES.ORA` ファイルまたは Oracle Names Server で定義されるサービス名と合致しなければなりません。
- サービス名定義のプロトコル固有の情報は、応答するリスナーのプロトコル固有定義と合致しなければなりません。
- サービス名定義 (`TNSNAMES.ORA` ファイルまたは Oracle Names Server にある) の `SID=` 名前が、応答するリスナーの `LISTENER.ORA` ファイルの値と合致しなければなりません。

ORA-28510 異機種間データベース・リンクの初期化に失敗しました。

原因: 非 Oracle システムへの異機種間データベース・リンクの初期化が、この非 Oracle システムのエージェントによって識別されたエラーにより失敗しました。

処置: 非 Oracle システムが稼動しており、エージェントの環境および初期化の値すべてが正常に設定されていることを確認してください。

ORA-28511 `SID=string` を使用する異機種間リモート・エージェントへの RPC 接続が失われました。

原因: 次の 1 つで致命的エラーが発生しました。

- Oracle サーバーとエージェント間の接続

- 異機種間サービスのリモート・エージェント自体
- 非 Oracle システムへの接続

このエラーは通信が正常に確立した後発生しました。

処置: ネットワークの問題とリモート・ホストのクラッシュを確認してください。問題はエージェントのソフトウェアにある可能性があります。エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28512 *string* からデータ・ディクショナリ変換を取得できません。

原因: Oracle は、異機種間データベース・リンクを介して接続された非 Oracle システムのデータ・ディクショナリ変換情報を取り出すことができませんでした。このデータ・ディクショナリ変換情報は、HS_CLASS_DD または HS_INST_DD データ・ディクショナリ・ビューで表示できるデータ・ディクショナリ表に格納されています。

処置: エラー・メッセージで表示されたサーバー・データ・ディクショナリ表の確認をデータベース管理者に依頼してください。表の内容が誤っている場合は、データベース管理者が FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) に対するデータ・ディクショナリの内容を、すべてリストアする必要があります。通常は、このクラスまたはインスタンス (あるいはその両方) に対する現行のデータ・ディクショナリの内容をすべて削除し、接続されているエージェントが新しいデータ・ディクショナリの内容をサーバーにアップロードするように、新しい接続を開始すれば十分です。

ORA-28513 異機種間リモート・エージェントで内部エラーが発生しました。

原因: 異機種間データベース・リンクをサポートしている Oracle リモート・エージェントで内部エラーが発生しました。

処置: エラーがどのように生成されたかをメモし、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28514 異機種間データベース・リンクの初期化でシステム日付を変換できませんでした。

原因: システム日付が取得できませんでした。

処置: Oracle Server のホスト・マシンおよびオペレーティング・システムが操作可能であることを確認してください。低レベルのシステム関数が失敗しなければ、このエラーは発生しません。

ORA-28515 *string* から外部オブジェクト定義を取得できません。

原因: Oracle は、分散外部プロシージャまたは非 Oracle システムのインスタンスに登録されたりモート・ライブラリの定義を取り出すことができませんでした。おそらく基本データ・ディクショナリ表が存在しないか、変形しているためです。

処置: Oracle Server の異機種間サービス・データ・ディクショナリが正しくインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHS.SQL スクリプトを実行してください。

ORA-28518 データ・ディクショナリ変換に不正な変換タイプがあります。

原因: Oracle Server のデータ・ディクショナリまたは異機種間サービス・エージェントからアップロードされたデータ・ディクショナリの内容での、データ・ディクショナリ変換定義が不正な変換タイプ・コードを指定しました。有効な値は、'T' または 't' が '変換' のため、'M' または 'm' が '模擬のため' です。エラー元の正確なデータ・ディクショナリ変換に関する情報は、Oracle インスタンスのトレース (.TRC) ファイルおよび Oracle インスタンスのアラート・ログに書き込まれています。このエラーは、異機種間サービス・エージェントがデータ・ディクショナリの内容を、サーバーからエージェントへの最初の接続で Oracle Server へアップロードしているときに発生します。

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28519 使用可能な異機種間データ・ディクショナリ変換がありません。

原因: Oracle Server のデータ・ディクショナリが、接続された非 Oracle システムのデータ・ディクショナリ変換を定義していません。また、自動自己登録 (データ・ディクショナリ・アップロード) が使用可能ではありません。

処置: この問題の解決はデータベース管理者に依頼してください。一番簡単に解決するには、Oracle Server の HS_AUTO_REGISTER 初期化パラメータを TRUE に設定して自動自己登録を使用可能にしてください。もう 1 つの解決方法は、エージェント・ベンダーが提供する SQL スクリプトを実行して異機種間サービスのデータ・ディクショナリを非 Oracle システム固有の情報にロードすることです。スクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28520 異種データ・ディクショナリ変換初期化中にエラーが発生しました。

原因: Oracle が、非 Oracle システムのインスタンスに対してデータ・ディクショナリ変換を取り出すことができませんでした。おそらく基礎を形成するデータ・ディクショナリ表が存在しないか、正しい形式ではないためです。

処置: Oracle Server の異機種間サービス・データ・ディクショナリが正しくインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHS.SQL スクリプトを実行してください。FDS_CLASS_NAME で指定されている接続されたエージェントが Oracle Server のカスタム・インストール・スクリプトを必要とする場合は、スクリプトが実行されていることを確認してください。両方のスクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28521 使用可能な異機種間機能情報がありません。

原因: Oracle Server のデータ・ディクショナリに、接続された非 Oracle システムの機能定義がありません。また、自動自己登録 (データ・ディクショナリ・アップロード) が使用可能ではありません。

処置: この問題の解決はデータベース管理者に依頼してください。一番簡単に解決するには、Oracle Server の HS_AUTO_REGISTER 初期化パラメータを TRUE に設定して自動自己登録を使用可能にしてください。もう 1 つの解決方法は、エージェント・ベンダーが提供する SQL スクリプトを実行して異機種間サービスのデータ・ディクショナリを非 Oracle システム固有の情報にロードすることです。スクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28522 異機種間機能初期化中にエラーが発生しました。

原因: Oracle が、非 Oracle システムのインスタンスに対して機能定義を取り出すことができませんでした。おそらく基礎を形成するデータ・ディクショナリ表が存在しないか、正しい形式ではないためです。

処置: Oracle Server の異機種間サービス・データ・ディクショナリが正しくインストールされていることを確認してください。異機種間サービス・データ・ディクショナリがインストールされていない場合は、\$ORACLE_HOME/rdbms/admin ディレクトリ内の CATHS.SQL スクリプトを実行してください。FDS_CLASS_NAME で指定されている接続されたエージェントが Oracle Server のカスタム・インストール・スクリプトを必要とする場合は、スクリプトが実行されていることを確認してください。両方のスクリプトが実行されてもエラーが続く場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28523 ORACLE と異機種間エージェントのバージョンに互換性がありません。

原因: データベース・リンクでの操作が非 Oracle システムに接続しようとしたが、非 Oracle システムの Oracle インスタンスとエージェント・プロセスに互換性がありません。

処置: データベース管理者に、Oracle インスタンスとエージェントの両方の構成を確認してもらってください。バージョンの非互換性の詳細情報は、Oracle インスタンスとエージェントのトレース (*.TRC) ファイルおよび Oracle インスタンスのアラート・ログにロギングされています。Oracle Server のどのリリースがサポートされているかをエージェントのドキュメントで確認してください。

ORA-28525 異機種間サービスのエラー・メッセージ・テキストを作成できません。

原因: 不正な引数がエラー・メッセージ作成ルーチンに渡されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28526 無効な記述情報が異機種間サービスに戻されました。

原因: 異機種間サービスが、異機種間サービス・エージェントから SELECT リスト、結合リスト、または格納プロシージャに対して無効な記述情報を受け取りました。これは、異機種間サービスの非 Oracle システム・エージェントに問題があることを示しています。

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28527 異機種間サービス・データ型のマップ中にエラーが発生しました。

原因: Oracle データ型を、非 Oracle データ型上でマップすることができなかったか、または非 Oracle データ型を、Oracle データ型にマップできませんでした。これらのマッピングは Oracle Server のデータ・ディクショナリの機能定義として定義されています。

処置: Oracle Server のデータ・ディクショナリが、接続された FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の正しい機能定義を使用して初期化されていることを確認してください。表の内容が誤っている場合は、データベース管理者が FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME (あるいはその両方) に対するデータ・ディクショナリの内容を、すべてリストアする必要があります。通常は、このクラスまたはインスタンス (あるいはその両方) に対する現行のデータ・ディクショナリの内容をすべて削除し、接続されているエージェントが新しいデータ・ディクショナリの内容をサーバーにアップロードするように、新しい接続を開始すれば十分です。それでもエラーが繰り返される場合は、エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28528 異機種間サービス・データ型の変換中にエラーが発生しました。

原因: Oracle データ型を非 Oracle データ型に変換できなかったか、または非 Oracle データ型を、Oracle データ型に変換できませんでした。変換の失敗の理由として次のことが考えられます

- オーバーフロー問題 (数値のケース)
- 長さ制限 (文字列のケース)
- 変換ルーチンに渡された無効な値

処置: エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。問題が Oracle と非 Oracle システム間のサイズの相違によるものである場合は、値の変換ができない可能性があります。

ORA-28529 Net8 サービス名定義のパラメータがないか、または無効です。

原因: TNSNAMES.ORA ファイルまたは Oracle Names Server のいずれかに格納されている Net8 サービス名定義内の異機種間サービス・パラメータが無効か、またはパラメータがありません。

処置: データベース管理者に依頼して、Net8 サービス定義が正しく完全であることを確認してください。Net8 サービス定義に組み込まれる正しい情報はエージェントのドキュメントに記載されています。

ORA-28530 NLS 言語 ID で異機種間サービス初期化エラーが発生しました。

原因: 異機種間サービスは NLS 言語 ID を初期化できません。Oracle Server および接続された非 Oracle システムの異機種間サービス・エージェントの両方に言語 ID がなければいけません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28533 異機種間サービスの強制ハンドルのエラーです。

原因：異機種間サービスが強制ハンドルのエラーを起こしました。エージェントの機能によっては、異機種間サービスは暗黙的な強制を含む SQL 文や、TO_CHAR、TO_NUMBER、TO_DATE といった強制関数を含む SQL 文について追加の処理を行う場合があります。この機能は、強制に関する機能が制御しています。これらの機能定義の 1 つでエラーが発生した場合に、異機種間サービスのロジックがこのエラーを知らせます。

処置：機能表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、データベース管理者が変更します。データベース管理者とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい一連の機能をインストールしてください。

ORA-28534 異機種間サービスの前処理エラーです。

原因：異機種間サービスが実行できる機能の 1 つとして、暗黙的な強制を含む SQL 文の一部、または TO_CHAR TO_NUMBER や TO_DATE のような明示的な強制関数を呼び出す SQL 文の一部を前処理する機能があります。たとえば、TO_DATE へのコールをバインド変数に変換したり、TO_DATE 関数コールを前評価して、結果の値をバインド値として Oracle 以外のシステムに渡したりすることができます。この動作は強制に関係のある機能が制御しています。機能の設定が間違っていた場合、前処理を行おうとすると異機種間サービスはエラーを発生します。その場合、エラーが通知されます。

処置：機能表の設定はエージェント・ベンダーが管理し、データベース管理者が変更します。データベース管理者とエージェント・ベンダーに連絡し、正しい一連の機能をインストールしてください。

ORA-28535 異機種間サービス・コンテキストが正しくありません。

原因：異機種間サービス・エージェントのドライバ・モジュールが、無効な異機種間サービス・コンテキスト値を使用して異機種間サービス・ルーチンを呼び出しました。これはドライバの論理エラーである可能性があります。

処置：エージェント・ベンダーのカスタマ・サポートに連絡してください。

ORA-28536 異機種間サービス初期化パラメータの処理時にエラーが発生しました。

原因：後述のエラー・メッセージが示しているエラーのため、Oracle Server のデータ・ディクショナリからの異機種間サービス初期化パラメータの処理がうまくできませんでした。

処置：サーバー・データ・ディクショナリ・ビュー、HS_CLASS_INIT、HS_INST_INIT、および HS_ALL_INITS を確認してください。後述のエラー・メッセージで示されるエラーが発生した状態を調べてください。

ORA-28550 パススルー SQL: カーソルが見つかりません。

原因：パススルー SQL 関数に渡された値またはカーソルとしてのプロシージャ・コールが、現在のオープン・カーソルを認識できませんでした。

処置：パススルー SQL OPEN_CURSOR コールで戻されたカーソル番号を使用してください。

ORA-28551 パススルー SQL: SQL 解析エラーが発生しました。

原因: 非 Oracle システムがパススルー SQL 文として提供されたテキストを拒否しました。

処置: パススルー SQL 解析コールに提供された SQL が、非 Oracle システムに受け入れられていることを確認してください。

ORA-28552 パススルー SQL: コール・フロー・エラーが発生しました。

原因: パススルー SQL 関数が無効な順序でコールされました。

処置: API コールの順序を変更して、マニュアルに記載されているフローと合致するようにプログラムを修正してください。

ORA-28553 パススルー SQL: バインド変数の位置が正しくありません。

原因: 現行の解析 SQL 文のバインド変数の位置を参照しているパススルー SQL 関数が無効なバインド変数の位置を提供しました。有効な値は 1 ～ n です。この場合、n は SQL テキストでバインド変数のプレース・ホルダーの数です。

処置: バインド変数の位置パラメータが、SQL テキストのプレース・ホルダーを表す正しい範囲にあることを確認してください。SQL テキストが、非 Oracle システムが必要とするバインド変数のプレース・ホルダーの正しい構文を使用していることを確認してください。

ORA-28554 パススルー SQL: カーソル数が範囲外です。

原因: オープン・カーソルの最大数を超過しました。

処置: パススルー SQL CLOSE_CURSOR 関数を使用してオープン・カーソルをクローズしてください。

ORA-28555 パススルー SQL: 必須パラメータがないか、または NULL です。

原因: NULL でないパラメータへ NULL 値が渡されようとしていました。

処置: パラメータに NULL でない値を使用してください。

ORA-28556 認証が不十分で表にアクセスできません。

原因: 問合せが、権限または権限列を持つ非 Oracle システムの表にアクセスしようとしていました。

処置: 非 Oracle システムのデータベース管理者に連絡してください。データベース管理者は、権限表または列へのアクセス許可を付与することができます。

ORA-28557 Oracle 以外のシステムへのデータベース・リンクで *string* が不明です。

原因: 異機種間サービス・データベース・リンクを通して非 Oracle システムへ接続しようとしたとき、この非 Oracle システムをサポートしているエージェントから FDS_CLASS_NAME または FDS_INST_NAME、あるいはその両方が戻りませんでした。Oracle ではこれらの名前で異機種間データベース・リンクが構成されることが必要です。

処置: データベース管理者に連絡して、接続の設定と異機種間サービスのエージェントを確認してください。

ORA-28558 Oracle 以外のシステムに対する HS_FDS_CONNECT_STRING が未定義です。

原因: 非 Oracle システムへのデータベース・リンクには、Oracle Server のデータ・ディクショナリ内に異機種間サービスに対する HS_FDS_CONNECT_STRING 初期化パラメータが必要です。このパラメータがないため接続は完了できませんでした。

処置: データベース管理者に連絡して、Oracle の異機種間サービス・データ・ディクショナリにある HS_FDS_CONNECT_STRING エントリの正確な設定を確認してください（Oracle8i 関連マニュアルの HS_INST_INITS ビューを参照してください）。SYS.DBMS_HS パッケージの PL/SQL プロシージャを使用して、FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の接続のためのエントリを作成または置換する必要がある場合があります。

ORA-28559 FDS_CLASS_NAME は *string*、FDS_INST_NAME は *string* です。

原因: 関連するエラーが別のメッセージで表示されます。また、このメッセージには補足情報が提供され、別のメッセージでレポートされたエラーの診断を支援します。FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME を使用して、Oracle データ・ディクショナリの表やビューの情報にアクセスし、データベース・リンク上の異機種間サービスの操作を非 Oracle データ・ストアに指示してください。

処置: FDS_CLASS_NAME および FDS_INST_NAME の値を使用して、必要に応じて Oracle データ・ディクショナリの内容を確認して、対応付けられたエラーの原因を診断してください。

ORA-28560 エージェント・プロセスの構成でエラーが発生しました。

原因: Oracle Server が、接続されたエージェント（異機種間サービスまたは内部プロシージャ）がサポートしていない関数を起動しました。その原因として、Net8 の設定が正しくなかったために不正なエージェントを使用した可能性があります。

処置: Net8 管理を次の方法で確認してください。

- TNSNAMES.ORA または Oracle Names Server を使用しているとき、Oracle Server からの接続が正しい SID を使用していることを確認してください。
- エージェントのホスト・マシン上の LISTENER.ORA を調べて、この SID がその (PROGRAM=...) 句で実行可能な正しいエージェントを参照していることを確認してください。

ORA-28561 Oracle 以外のシステムに日付書式を設定できません。

原因: 接続している非 Oracle システムで使用する日付書式を設定するために、異機種間サービス接続が初期化されました。

処置: Oracle データ・ディクショナリによって HS_NLS_DATE_FORMAT パラメータの値が適用される場合は、この値が非 Oracle システムの規則に従って正しくフォーマットされているかを確認してください。また、異機種間サービス・エージェントによって生成されるログまたはトレース・ファイルのその他の情報も確認してください。

ORA-28575 外部プロシージャ・エージェントへの RPC 接続をオープンできません。

原因: 外部プロシージャ・エージェントへのネットワーク接続の初期化に失敗しました。ネットワークの問題、不正なリスナー構成、または不正な転送コードが原因の可能性あります。

処置: LISTENER.ORA および TNSNAMES.ORA のリスナー構成、または Oracle Names Server を確認してください。

ORA-28576 外部プロシージャ・エージェントへの RPC 接続が失われました。

原因: 通信が正常に確立された後で、RPC ネットワーク接続、外部プロシージャ・エージェント、または起動された 3GL で致命的エラーが発生しました。

処置: 最初に、起動する 3GL コードを確認してください。このエラーは起動していた C ルーチンの異常終了の可能性が高いです。そうでない場合は、ネットワーク問題を確認してください。問題がわかったら修正してください。すべてのコンポーネントが正しいように見え、問題が解決しない場合は、転送コードの内部論理エラーの可能性あります。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28577 引数 *string* (外部プロシージャ *string*) はデータ型 *string* をサポートしていません。

原因: エージェントへの外部プロシージャ引数の転送時に、サポートされていないデータ型が検出されました。

処置: 外部プロシージャ引数としてサポートされているデータ型をマニュアルで確認してください。

ORA-28578 外部プロシージャからのコールバック中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因: ユーザーの 3GL ルーチンから Oracle Server に対してコールバックを実行しようとしたときに、内部プロトコル・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28579 外部プロシージャ・エージェントからのコールバック中にネットワーク・エラーが発生。

原因: ユーザーの 3GL ルーチンから Oracle Server に対してコールバックを実行しようとしたときに、内部ネットワーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28580 再帰的外部プロシージャはサポートされていません。

原因: ユーザーの 3GL ルーチン内のコールアウトによって、別の外部プロシージャが呼び出されました。

処置: コールバックで実行された SQL コードが、別の外部プロシージャを直接にコールしていないことを確認してください。または、外部プロシージャをコールするトリガーや、外部プロシージャをコールする PL/SQL プロシージャなど、別の外部プロシージャを間接的にコールしていないことを確認してください。

ORA-28581 再帰的外部プロシージャの実行中にプロトコル・エラーが発生しました。

原因：別の外部プロシージャのコールバックの結果として外部プロシージャが実行されようとしたときに、内部プロトコル・エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-28582 このエージェントへの直接接続は許可されていません。

原因：ユーザーまたはツールが、外部プロシージャ・エージェントまたは異機種間サービス・エージェントへの直接接続を確立しようとした。たとえば、
"SVRMGR> CONNECT SCOTT/TIGER@NETWORK_ALIAS" です。このタイプの接続は許可されていません。

処置：CONNECT 文を実行する場合、データベース・リンクまたはネットワークの別名が異機種間サービス・オプションまたは外部プロシージャ・エージェントを指していないことを確認してください。

ORA-28590 エージェント制御ユーティリティ：無効または不正な形式のコマンドです。

原因：ユーザーが、認識できないかまたは構文上不正なコマンドを発行しました。

処置：ドキュメントを参照し、コマンドの構文を修正してください。

ORA-28591 エージェント制御ユーティリティ：パラメータ・ファイルにアクセスできません。

原因：エージェント制御ユーティリティがパラメータ・ファイルにアクセスできませんでした。これは、ADMIN ディレクトリを見つけれなかったためか、ディレクトリの権限が正しく設定されていなかったためです。

処置：エージェント制御ユーティリティが、環境変数 AGTCTL_ADMIN または環境変数 TNS_ADMIN が指しているディレクトリにパラメータ・ファイルを置きます。これらの環境変数のうちの少なくとも 1 つが設定されていて、その変数がエージェントがアクセスしたディレクトリを指していることを確認してください。

ORA-28592 エージェント制御ユーティリティ：エージェント SID が設定されていません。

原因：エージェントはコマンドを処理する前に AGENT_SID パラメータの値を認識する必要があります。AGENT_SID の値がない場合、すべてのコマンドが失敗します。

処置：コマンド SET AGENT_SID *value* を発行し、その後、失敗したコマンドを再実行してください。

ORA-28593 エージェント制御ユーティリティ：コマンドがエラーで終了しました。

原因：コマンドの処理中にエラーが発生しました。いくつかの原因があります。エージェントが起動した後、SET または UNSET コマンドが発行されました。これは不正です。2 つのエージェントを同じ SID 値で起動しようとしたか、または起動していないエージェントを停止しようとした。

処置：SET または UNSET コマンドを発行するには、まず SHUTDOWN コマンドを発行してエージェントが停止していることを確認してください。

ORA-28594 エージェント制御ユーティリティ：パラメータ名が無効です。

原因：ユーザーが無効なエージェント・パラメータを設定しようとしたか、または設定を解除しようとした。

処置：ドキュメントを参照してパラメータ名を修正してください。

ORA-28601 [no]MINIMIZE オプションが正しくありません。

原因：ALTER TABLE *table_name* MINIMIZE RECORDS_PER_BLOCK または ALTER TABLE *table_name* NOMINIMIZE RECORDS_PER_BLOCK を入力しませんでした。

処置：正しい SQL コマンドを再入力してください。

ORA-28602 ビットマップ索引を含む表でこの文は使用できません。

原因：表がビットマップ索引を含み、ユーザーが RECORDS_PER_BLOCK を最小化しているかまたは指定しています。

処置：RECORDS_PER_BLOCK を変更する前にビットマップ索引をすべて削除してください。

ORA-28603 空の表でこの文は使用できません。

原因：表が空で、空の表では文が機能しません。

処置：データをロードした後に文を実行してください。

ORA-28605 ビットマップ索引は反転できません。

原因：逆ビットマップ索引を作成しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置：処置は必要ありません。

ORA-28611 ビットマップ索引が破損しています - 診断用のトレース・ファイルを参照してください。

原因：VALIDATE INDEX で、引数で指定された索引の中にビットマップ破壊が検出されました。

処置：このビットマップ索引を削除し、新しいビットマップ索引を作成してください。

ORA-28650 IOT の主索引は再構築できません。

原因：IOT-TOP で再構築される ALTER INDEX を発行しようとした。

処置：ALTER TABLE MOVE を使用して索引構成表を再構成してください。

ORA-28651 IOT の主索引に使用不可のマークは設定できません。

原因：ALTER INDEX を使用して、IOT-TOP に使用不可のマークをしようとした。

処置：UNUSABLE オプション指定を除去してください。

ORA-28652 桁溢れセグメント属性を指定できません。

原因: IOT の ALTER MOVE ONLINE の途中で、オプション OVERFLOW、PCTTHRESHOLD、INCLUDING のうち 1 つ以上を入力しようとした。

処置: 不正なオプションを削除してください。

ORA-28653 表は両方ともに索引編成でなければなりません。

原因: 非索引構成表 / パーティションを、それぞれパーティション / 表と交換しようとした。

処置: 非パーティション表およびパーティション表はともに索引構成にしてください。

ORA-28654 表とパーティションの桁溢れが合致しません。

原因: パーティション表 / 非パーティション表の 1 つにはオーバーフローのデータ・セグメントがあり、もう 1 つにはありません。

処置: 非パーティション表およびパーティション表に両方ともオーバーフローのデータ・セグメントがあるかまたは両方ともないことを確認してください。

ORA-28655 Alter 表に構文のオーバーフロー・エラーが追加されました。

原因: 構文エラーです。

処置: 構文を確認してください。

ORA-28656 不完全な属性指定

原因: 属性指定がすべてのパーティションで行われていません。

処置: 領域属性をすべてのパーティションに指定するかまたはどれにも指定しないでください。

ORA-28658 この操作は、索引構成表だけでサポートされます。

原因: 非索引構成表でいくつかの索引構成表固有の操作を実行しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-28659 COMPRESS は最初のオブジェクト・レベルで指定しなければなりません。

原因: COMPRESS を表レベルで指定せずにパーティション・レベルで指定しようとした。

処置: COMPRESS を表レベルで指定してください。ALTER TABLE xxx MODIFY DEFAULT ATTRIBUTES COMPRESS ... を使用してください。

ORA-28660 パーティション化索引構成表の全体は MOVE できません。

原因: パーティション索引構成表の全体を MOVE しようとした。型の不一致はサポートされません。

処置: パーティション索引構成表の全体を MOVE しようとししないでください。

ORA-28661 オブジェクトには COMPRESS 句がすでに指定されています。

原因：すでに COMPRESS 句がある索引構成表 / 索引に COMPRESS を指定しようとして
しました。この属性は作成時にのみ指定できます。

処置：すでに COMPRESS 句がある索引構成表 / 索引に COMPRESS を指定しないでく
ださい。

**ORA-28662 IOT 索引とオーバフロー・セグメントは、同じ LOGGING 属性を共有する必要
があります。**

原因：1つのセグメントに LOGGING を指定し、もう1つのセグメントに
NOLOGGING を指定しようとしてしました。

処置：両方のセグメントに同じ属性値を指定してください。

**ORA-28663 ALTER TABLE ADD OVERFLOW 文に LOGGING/NOLOGGING 属性は指定
できません。**

原因：ALTER TABLE ADD OVERFLOW 文に LOGGING を指定しようとしてしました。

処置：このコンテキストに LOGGING を指定しないでください。

ORA-29250 ～ ORA-30999

ORA-29250 DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで指定された索引が無効です。

原因：DBMS_SQL の BIND_ARRAY の呼出しで無効な索引が指定されました。索引が NULL または不適切な値である可能性があります。

処置：PL/SQL プログラムを変更して索引値を修正し、BIND_ARRAY の呼出しを再試行してください。

ORA-29251 DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで Index1 が Index2 の値を超えています。

原因：BIND_ARRAY の呼出しで、index1 の値が index2 の値を超えています。結合される表の要素は index1 以上かつ index2 以下の索引を持つので、これは正しくありません。

処置：2 つの索引の値を修正して、BIND_ARRAY の呼出しを再試行してください。

ORA-29252 DBMS_SQL.BIND_ARRAY の呼出しで、索引位置の要素がコレクションに含まれません。

原因：DBMS_SQL の BIND_ARRAY の呼出しで、結合表が両方の索引位置に要素を含んでいません。これは不正です。両方の索引位置が要素を含んでいる必要があります。つまり、tab.exists(index1) と tab.exists(index2) は、どちらも TRUE を戻す必要があります。

処置：2 つの索引か表の目次のどちらかを変更して、呼出しを再試行してください。

ORA-29253 プロシージャ DBMS_SQL.DEFINE_ARRAY に渡された COUNT 引数が無効です。

原因：パッケージ DBMS_SQL のプロシージャ DEFINE_ARRAY の呼出しで指定された count 引数の値が無効です。無効な値は負数および NULL です。引数は正整数でなければなりません。

処置：有効な引数だけが DEFINE_ARRAY に渡されるように PL/SQL プログラムを修正し、再試行してください。

ORA-29254 プロシージャ DBMS_SQL.DEFINE_ARRAY に渡された lower_bound 引数が無効です。

原因: プロシージャ DEFINE_ARRAY の呼出しで指定された LOWER_BOUND 引数の値が無効です。有効な値は、0（ゼロ）を含むすべての整数値（正および負）です。NULL 値は無効です。

処置: 有効な引数だけが DEFINE_ARRAY に渡されるように PL/SQL プログラムを修正し、再試行してください。

ORA-29255 カーソルに許可されない結合配列および定義配列が含まれています。

原因: このカーソルで DEFINE_ARRAY と BIND_ARRAY の両方がコールされました。これは不正です。1つのカーソルが配列結合と配列定義の両方を含むことはできません。この設定の方法は無意味です。配列定義は選択問合せから PL/SQL 表にデータを移動するために使用し、配列結合は PL/SQL 表を非選択問合せに結合するために使用します。

処置: 手元のカーソルの種類によって2つの関数のうち1つにだけ呼出しを実行するように PL/SQL プログラムを変更してください。

ORA-29256 カーソルに不正な標準定義および配列定義があります。

原因: このカーソルで DEFINE_ARRAY と DEFINE_COLUMN の両方がコールされました。これは不正です。1つのカーソルが標準定義と配列定義の両方を含むことはできません。この設定の方法は無意味です。配列定義は選択問合せから PL/SQL 表にデータを移動するために使用し、標準定義は選択問合せから PL/SQL 変数にデータを移動するために使用します。

処置: 手元の状況によって2つの関数のうち1つにだけ呼出しを実行するように PL/SQL プログラムを変更してください。

ORA-29300 表領域の Point-in-time リカバリで Oracle エラーが発生しました。

原因: DBMS_PITR パッケージで Oracle エラーが発生しました。

処置: エラーの説明は、エラー・メッセージのテキストを参照してください。

ORA-29301 DBMS_PITR パッケージ関数 / プロシージャの順序が正しくありません。

原因: DBMS_PITR パッケージ・ファンクション / プロシージャが不正な順序でコールされました。

処置: 正しい順序で表領域の Point-in-Time リカバリを再試行してください。

ORA-29302 データベースがクローンとしてオープンされていません。

原因: データベースがクローン・データベースとしてオープンされていませんでした。

処置: データベース・クローンをマウントし、データベースをオープンしてください。

ORA-29303 ユーザーがSYS でログインしていません。

原因: クローン・データベースで表領域の Point-in-Time リカバリを実行するために SYS ユーザーとしてログインしませんでした。

処置: SYS ユーザーでログインし、表領域の Point-in-Time リカバリを再試行してください。

ORA-29304 表領域 *string* は存在しません。

原因: 選択された表領域がデータベースに存在しません。

処置: V\$TABLESPACE で表領域のリストを確認し、有効な表領域を選択してください。

ORA-29305 表領域 *string* を Point-in-Time リカバリできません。

原因: 表領域を読取り専用に変更しようとしてしました。

処置: 表領域が SYSTEM であるか、またはオンライン・ロールバック・セグメントを持つかを確認してください。

ORA-29306 データ・ファイル *string* がオンラインではありません。

原因: 選択されたデータ・ファイルがオンラインではありません。

処置: データ・ファイルをオンラインにし、必要に応じて改名してください。

ORA-29307 データ・ファイル *string* で *string* エラーが発生しました。

原因: データ・ファイルが表領域の Point-in-Time リカバリ用に準備されていません。

処置: 表領域の正しい Point-in-Time リカバリ手順を確認してください。

ORA-29308 ビュー TS_PITR_CHECK で障害が発生しました。

原因: リカバリ・セットの境界を超える一部のオブジェクトが、表領域の Point-in-Time リカバリで許可されていませんでした。

処置: TS_PITR_CHECK を問い合せて、境界を超えるオブジェクトを解決してください。

ORA-29309 エクスポート・ダンプ・ファイルが異なるバージョンの DBMS_PITR パッケージで生成。

原因: DBMS_PITR のバージョンが、クローン・データベースのバージョンと異なります。

処置: クローン・データベースのバージョンと一致するバージョンの DBMS_PITR をロードしてください。

ORA-29310 データベースがオープンしていないか、またはクローンでオープンされています。

原因: データベースがオープンされていないか、またはクローン・データベースとしてオープンされていました。

処置: かわりに本番データベースをオープンしてください。

ORA-29311 エクスポート・ダンプ・ファイルはこのデータベースで生成されません。string が不一致です。

原因: エクスポート・ダンプ・ファイルが不正なデータベースにインポートされました。

処置: 正しい本番データベースをオープンし、インポートを再試行してください。

ORA-29312 データベースに互換性がありません (string string)。

原因: リカバリを実行するために Point-in-Time 表領域が選択されましたが、現行のデータベースは、Point-in-Time 表領域の作成に使用されたデータベースと互換性がありません。

処置: 別の Point-in-Time を選択し、操作を再試行してください。

ORA-29313 表領域 string は 2 回インポートできません。

原因: これは内部エラーです。

処置: データベース管理者に連絡してください。

ORA-29314 表領域 string は OFFLINE FOR RECOVER、READ ONLY のどちらでもありません。

原因: 表領域消去 SCN が 0 (ゼロ) または無効です。

処置: 表領域 OFFLINE FOR RECOVER を変更してください。

ORA-29315 表領域 string は再作成されています。

原因: 表領域を再作成する前に、Point-in-Time リカバリを実行しようとした。

処置: 異なるリカバリの時点を選択してください。

ORA-29316 データ・ファイル string が 2 回インポートされました。

原因: これは内部エラーです。

処置: データベース管理者に連絡してください。

ORA-29317 データ・ファイル string が存在しません。

原因: 指定されたデータ・ファイルが本番データベース内にありません。

処置: クローン・データベースからデータ・ファイルをコピーしてください。

ORA-29318 データ・ファイル string がオンラインです。

原因: データ・ファイルがオンラインです。

処置: データ・ファイルをオフラインにしてください。

ORA-29319 データ・ファイル *string* が正しくありません。

原因: 正しくないデータ・ファイルが本番データベースにコピーされています。エクスポート・ダンプ・ファイル内のデータ・ファイル情報が、本番データベースのデータ・ファイル内の情報と異なります。

処置: クローン・データベースから本番データベースにデータ・ファイルをコピーしてください。

ORA-29320 データ・ファイル・ヘッダーの読み込み中にエラーが発生しました。

原因: データ・ファイル・ヘッダーの読み込み中にエラーが発生しました。

処置: クローン・データベースから本番データベースにデータ・ファイルをコピーし、操作を再試行してください。

ORA-29321 適正時点から追加されたデータファイルが多すぎます。

原因: Point-in-Time 以降にリカバリ・セットに追加されたデータ・ファイルが多すぎます。Point-in-Time 以降に追加されたデータ・ファイル数は、100 以下であることが前提とされています。

処置: リカバリ・セットをより小さなサブセットに分割し、再試行してください。

ORA-29322 SCN 文字列サイズが長すぎます。最大サイズは 58 バイト / 文字です。

原因: SCN 文字列に指定した文字が多すぎます。

処置: 必要のない文字はすべて削除してください。48 ビット SCN の 16 進数および 10 進数表現の両方に必要な文字は 15 文字です。

ORA-29323 SET COMPATIBILITY コマンドは、8.0.0 以前のリリースでは使用できません。

原因: ローリング・リリース機能が最初に実現されたのは 8.0.3 です。

処置: 8.0.3 以降を指定してください。

ORA-29324 SET COMPATIBILITY のリリース文字列フォーマットが正しくありません。

原因: 8.x.x のフォームでなければなりません。

処置: 正しいフォーマットを使用してください。

ORA-29325 SET COMPATIBILITY のリリース番号が互換リリース番号と一致しません。

原因: 8.0.3 では、互換リリース番号と一致している必要があります。

処置: COMPATIBLE 初期化パラメータと一致するように指定してください。この場合、8.0.0 未満のリリース番号は使用できないので注意してください。

ORA-29326 指定された SET COMPATIBILITY のリリース番号は

***string.string.string.string.string* になりました。**

原因: 1 つまたはそれ以上のインスタンスが古いリリース番号を持っていました。

処置: リリースを指定した番号にロールするには、すべてのインスタンスが同じリリース番号かそれ以上のリリース番号に移行してください。

ORA-29327 サーバーとの対話時にサポートされないクライアント互換モードが使用されました。

原因: クライアント互換モードが、サーバーのバージョンを超えています。

処置: SET COMPATIBILITY コマンドを使用して、サーバーと同じリリース番号を指定してください。

ORA-29335 表領域 *string* は読み込み専用ではありません。

原因: 表領域は読み込み専用ではありません。

処置: 表領域を読み込み専用にして、操作を再試行してください。

ORA-29336 DBMS_PLUGTS からの内部エラー [*string*] [*string*] です。

原因: パッケージ DBMS_PLUGTS から内部エラーがでました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

ORA-29337 日付ファイル *string* のファイル・ヘッダーの検証に失敗しました。

原因: システムが参照されたデータ・ファイルのファイル・ヘッダーの検証に失敗しました。データ・ファイルが欠落している可能性があります。データ・ファイル・ヘッダーのコンテンツが、制御ファイルのコンテンツと一致していません。

処置: 参照されたデータ・ファイルが存在するかどうかを確認してください。有効な状態にあるかどうかを確認してください。

ORA-29338 データファイル *string* は、望ましい状態 (*string*、*string*) ではありません。

原因: 参照されたデータ・ファイルが、表領域のコピー操作に準備された状態ではありません。たとえば、データ・ファイルがオフラインである可能性があります。データ・ファイルは ONLINE で、READ ONLY または READ WRITE でなければなりません。

処置: データ・ファイルを要求された状態に置いてください。

ORA-29339 表領域のブロック・サイズ *string* がデータベースのブロック・サイズ *string* と一致していません。

原因: プラグ・インする表領域のブロック・サイズが、データベースのブロック・サイズと一致していません。表領域を異なるブロック・サイズでデータベースにプラグ・インすることはサポートされていません。

処置: 別の方法でデータを移動してください。

ORA-29340 エクスポート・ファイルが破損しているようです: [string] [string] [string]

原因: これは、破損したエクスポート・ファイルか、Oracle の内部エラーが原因です。

処置: トランスポータブル表領域に使用するエクスポート・ファイルが破損していないことを確認してください。それでもエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-29341 移送可能設定は自給式ではありません。

原因: 選択された表領域セットにあるオブジェクトの設定が自己完結型ではありません。

処置: 別のエクスポート・オプションを使用するか、違反を起こしたポインタを削除するか、別の表領域セットを選択してください。

ORA-29342 ユーザー *string* はデータベースに存在しません。

原因: 参照されたユーザーは、トランスポータブル・セットのデータの所有者の 1 人です。このユーザーはデータベースに存在しません。

処置: データベースにユーザーを作成するか、ユーザーを FROM_USER および TO_USER インポート・オプションを介して別のユーザーにマップしてください。

ORA-29343 ユーザー *string* (ユーザー *string* からマップされた) はデータベースに存在しません。

原因: 参照されたユーザーは、トランスポータブル・セットのデータの所有者の 1 人です。このユーザーはデータベースに存在しません。

処置: ユーザーを作成するか、元のユーザーを別のユーザーにマップしてください。

ORA-29344 所有者の妥当性チェックに失敗しました。所有者 *string* が一致しません。

原因: システムで参照された所有者の一致に失敗しました。これには次の 2 つの原因があります。

- このユーザーはトランスポータブル・セットにデータを所有していますが、TTS_OWNERS が指定されていると仮定して、インポート・コマンド行オプションの TTS_OWNERS リストに指定されていません。
- このユーザーは TTS_OWNER リストに指定されていますが、トランスポータブル・セットにどのデータも所有していません。

処置: 別の OWNER リストでインポートを再試行してください。

ORA-29345 異なるキャラクタ・セットを使用するとデータベースに表領域を差込めません。

原因: 異なるキャラクタ・セットを使用して、データベースに表領域を差し込むことはサポートされていません。

処置: インポート / エクスポートまたはアンロード / ロードを使用して、データを移動してください。

ORA-29346 表領域リストが無効です。

原因: 表領域リストが DBMS_TTS.TRANSPORT_SET_CHECK に指定されています。PL/SQL ルーチンが間違ったフォーマットです。

処置: 『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照して、正しいフォーマットを使用してください。

ORA-29347 表領域名の妥当性チェックに失敗しました。表領域 *string* が一致しません。

原因: システムが、参照された表領域の一致に失敗しました。これには次の 2 つの原因があります。

- この表領域はトランспортаブル・セットにありますますが、TABLESPACES が指定されていても、インポート・コマンド行オプションの TABLESPACES リストには指定されていません。
- この表領域は TABLESPACES リストにありますますが、トランспортаブル・セットにはありません。

処置: 正しい TABLESPACES リストで操作を再試行してください。

ORA-29348 プラグ・インする日付ファイルを指定する必要があります。

原因: プラグ・インするデータ・ファイルが指定されていません。

処置: インポート DATAFILES コマンド行オプション経由で、データ・ファイルを指定してください。

ORA-29349 表領域 *string* はすでに存在しています。

原因: すでに存在している表領域をプラグ・インしようとしてしました。

処置: 可能であれば、問題のある表領域を削除してください。または、別の方法（たとえば、インポート / エクスポート）でデータを移動してください。

ORA-29350 サーバー・バージョン *string* は、パッケージ *string*、バージョン *string* と互換性がありません。

ORA-29351 システムまたは一時表領域 *string* を移送できません。

原因: 参照された表領域が、システム表領域または一時表領域のいずれかです。

処置: この表領域をトランспортаブル・セットに含めないでください。

ORA-29352 イベント *string* は内部イベントではありません。

原因: DBMS_SYSTEM.WAIT_FOR_EVENT プロシージャが、内部イベントではないイベント名でコールされました。

処置: Action: X\$KSLED でイベント・リストを確認して、WAIT_FOR_EVENT プロシージャに渡されたイベント名パラメータを確認してください。

ORA-29355 NULL または無効な *string* 引数が指定されました。

原因: 名前付き引数が無効か、NULL として指定されました。

処置: NULL でない有効な引数を指定してください。

ORA-29356 MAX_ACTIVE_SESS_TARGET_P1 と PARALLEL_DEGREE_LIMIT_P1 はコンシューマ・グループを参照する指示にだけ指定できます。

原因: 上記のパラメータは、GROUP_OR_SUBPLAN 引数がリソース・プランであるパッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ

CREATE_PLAN_DIRECTIVE または UPDATE_PLAN_DIRECTIVE への引数として指定されました。

処置: コンシューマ・グループ・ディレクティブに対して、これらのパラメータのみを指定してください。

ORA-29357 オブジェクト *string* はすでに存在しています。

原因: パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN または CREATE_CONSUMER_GROUP への引数として指定された名前がすでに使用中です。

処置: 未使用の名前を指定してください。

ORA-29358 リソース計画 *string* が存在していません。

原因: 無効なプラン名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ UPDATE_PLAN への引数として指定されました。

処置: 既存のプラン名を指定してください。

ORA-29359 無効なメソッド名 *string* がリソース・プラン *string* に指定されました。

原因: 無効なメソッドが、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN または UPDATE_PLAN への引数として指定されました。

処置: 有効なメソッド名を指定してください。

ORA-29360 再試行してください。同時に行われている作業が多すぎます。

原因: ユーザーから、最初のコンシューマ・グループに対してのスイッチ・コンシューマ・グループ権限を取り消そうとしましたが、別のセッションで他のユーザーがこのユーザーを変更しています。

処置: 時間をおいてから操作を再実行してください。

ORA-29361 パーセント *string* が有効範囲である 0 から 100 の範囲外です。

原因: 無効なパーセント値が指定されました。

処置: パーセント値を 0 から 100 の間で指定してください。

ORA-29362 プラン・ディレクティブ *string*、*string* が存在しません。

原因: 存在しないプラン・ディレクティブが、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ UPDATE_PLAN_DIRECTIVE に対して指定されました。

処置: 既存のプラン・ディレクティブを指定してください。

ORA-29363 プラン・ディレクティブ *string*、*string* は必須であり、変更または削除できません。

原因: 必須のプラン・ディレクティブを変更しようとした。

処置: 必須のプラン・ディレクティブはリソース・マネージャから要求されて変更できないため、必須のプラン・ディレクティブを変更しないでください。

ORA-29364 プラン・ディレクティブ *string*、*string* はすでに存在しています。

原因: すでに存在しているプラン・ディレクティブを作成しようとした。

処置: 別の値を使用して作成操作を再試行してください。

ORA-29365 NULL または無効な GROUP_OR_SUBPLAN 引数が指定されました。

原因: NULL または無効な GROUP_OR_SUBPLAN が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE または UPDATE_PLAN_DIRECTIVE への引数として指定されました。

処置: NULL でない有効な引数を指定してください。

ORA-29366 無効な CONSUMER_GROUP 引数が指定されました。

原因: 無効なコンシューマ・グループ名が指定されました。

処置: NULL でない有効なコンシューマ・グループ名を指定してください。

ORA-29367 オブジェクト *string* は存在しません。

原因: 存在しないオブジェクト名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE への引数として指定されました。

処置: 有効なプランまたはコンシューマ・グループ名を指定してください。

ORA-29368 コンシューマ・グループ *string* が存在しません。

原因: 存在しないコンシューマ・グループ名が指定されました。

処置: 既存のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29369 無効なメソッド名 *string* がコンシューマ・グループ *string* に指定されました。

原因: 無効なメソッド名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_CONSUMER_GROUP または UPDATE_CONSUMER_GROUP への引数として指定されました。

処置: 有効なメソッド名を指定してください。

ORA-29370 保留領域はすでにアクティブです。

原因: すでにアクティブな保留領域をアクティブにしようとした。

処置: 保留領域がアクティブでなくなるまで待ってから、操作を再試行してください。

ORA-29371 保留領域がアクティブではありません。

原因: 保留領域を作成しないで変更しようとした。

処置: 変更する前に、プロシージャ CREATE_PENDING_AREA を起動してください。

ORA-29372 識別子 *string* が長すぎます。 *string* 文字未満でなければなりません。

原因: 30 文字より長い識別子を指定しようとした。

処置: 長さ 30 文字以下の識別子を使用してください。

ORA-29373 リソース・マネージャがオンになっていません。

原因: リソース・マネージャがオフの状態では、実行できない操作を実行しようとした。

処置: リソース・マネージャをオンにして、再度実行してください。

ORA-29374 リソース・プラン *string* (最上位計画 *string*) にプラン・ディレクティブがありません。

原因: プランが、孤立した保留領域またはスタンドアロンの保留領域に作成されました。

処置: 必要であれば、プラン・ディレクティブを作成してください。そうでない場合は、プランを削除してください。

ORA-29375 パーセント合計 *string* (レベル *string*)、プラン *string* が *string* を超過しています。

原因: 指定されたプラン、レベルのパーセント合計が 100 を超えています。

処置: レベルのパーセントを変更して、レベル合計を 100 にしてください。

ORA-29376 コンシューマ・グループ数 *string* (最上位計画 *string*) が *string* を超過しています。

原因: 指定された最上位計画のコンシューマ・グループ数が 32 を超過しています。

処置: 最上位計画を変更して、コンシューマ・グループ数を 32 以下にしてください。

ORA-29377 コンシューマ・グループ *string* は最上位計画 *string* の一部ではありません。

原因: OTHER_GROUPS が指定された最上位計画の一部として含まれていませんでした。各最上位計画には、組込みコンシューマ・グループ OTHER_GROUPS が必要です。

処置: 引数 GROUP_OR_SUBPLAN が最上位計画のどこかで OTHER_GROUPS である状態で、プラン・ディレクティブを作成してください。

ORA-29379 リソース・プラン *string* は最上位プラン *string* のループに関与しません。

原因: 最上位プランを検査中にループが発見されました。

処置: 指定されたプランを GROUP_OR_SUBPLAN として持つプランを確認し、ループを発生させるプラン・ディレクティブを削除してください。

ORA-29380 リソース計画 *string* は現在アクティブであり削除できません。

原因: 保留領域のアクティブな計画を削除しようとした。アクティブな計画は変更できません。

処置: 使用中でないときに計画を削除してください。

ORA-29381 計画 / コンシューマ・グループ *string* は、別の計画で参照されているので削除できません。

原因: 他の計画が参照している計画またはコンシューマ・グループを削除しようとした。

処置: 計画またはコンシューマ・グループを GROUP_OR_SUBPLAN として持つすべてのプラン・ディレクティブを削除し、この計画またはコンシューマ・グループを削除してください。

ORA-29382 保留領域の妥当性チェックに失敗しました。

原因: 保留領域で無効な変更を行おうとした。

処置: ドキュメントおよびこのエラーに続くエラー・メッセージを参照してください。

ORA-29383 最上位プラン *string* の全リーフはコンシューマ・グループでなければなりません。

原因: 指定された最上位プランを作成または変更しようとしたが、いくつかのプランがリーフとしてありました。

処置: 変更する必要があるプランまたはプラン・ディレクティブ（あるいはその両方）を識別するには、プラン・ディレクティブがないすべてのプランを参照してください。その後、全リーフがコンシューマ・グループになるように、最上位プランを変更してください。

ORA-29384 プラン *string* の子の数が *string* を超過しています。

原因: 指定されたプランを作成または変更しようとしたが、プランに 32 を超過する子ノードがあります。

処置: 指定されたプランが、32 以下の異なるノードを参照するかどうかを確認してください。

ORA-29385 *string* から *string* へのプラン・ディレクティブは作成できません。

原因: プランからそれ自体にプラン・ディレクティブを作成しようとした。

処置: パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ CREATE_PLAN_DIRECTIVE への引数 PLAN および GROUP_OR_SUBPLAN が異なっていることを確認してください。

ORA-29386 計画またはコンシューマ・グループ *string* は必須であり、削除または変更できません。

原因: 指定された必須計画またはコンシューマ・グループを削除または変更しようとした。

処置: 必須計画またはコンシューマ・グループを削除または変更しないでください。

ORA-29387 保留領域で最上位計画が見つかりません。

原因: VALIDATE_PENDING_AREA プロシージャが、意図した最上位計画がグループに関連しているか、最上位計画がないかのいずれかを発見しました。

処置: サブプランから意図した最上位計画までのすべてを確認してください。最上位計画に、それを参照しているプランがないことを確認してください。

ORA-29388 計画 / コンシューマ・グループ *string* は複数の最上位プランの一部です。

原因: プロシージャ DELETE_PLAN_CASCADE またはパッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER の一部として、複数の最上位プランの一部であるプランまたはコンシューマ・グループを含むサブツリーを削除しようとした。このようなプランまたはコンシューマ・グループ名は削除できません。

処置: プランまたはコンシューマ・グループの上位のユーザーを確認して、単に削除されているサブツリーを含む最上位プランの一部であることを確認してください。

ORA-29389 妥当性チェック中に発生したエラーが多すぎます。

原因: 妥当性チェック中に検出されたエラー数が多すぎます。

処置: 必要な処置を行っていくつかのエラーを取り除き、妥当性チェックを再試行してください。

ORA-29390 一部のリソース計画は最上位計画の一部ではありません。

原因: 最上位計画の一部でない保留領域にあるプランを作成または変更しようとした。

処置: これらの計画を削除して、妥当性チェックを再試行してください。

ORA-29391 *string* と *string* が、必須プラン・ディレクティブを作成するのに必要です。

原因: PLAN または GROUP_OR_SUBPLAN (あるいはその両方) が必須でない必須プラン・ディレクティブを作成しようとした。

処置: これらのオブジェクトを必須として再作成し、プラン・ディレクティブを作成してください。

ORA-29393 ユーザー *string* は存在しないか、またはログオンされていません。

原因: 無効なユーザー名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER のプロシージャ SET_INITIAL_CONSUMER_GROUP またはパッケージ DBMS_SYSTEM の SWITCH_CONSUMER_GROUP_FOR_USER への引数として指定されたか、指定されたユーザーがログインしていませんでした。

処置: 有効なユーザー名を指定してください。

ORA-29394 セッション ID *string* とシリアル番号 *string* が存在しません。

原因: 無効なセッション ID およびシリアル番号が、パッケージ DBMS_SYSTEM のプロシージャ SWITCH_CONSUMER_GROUP_FOR_SESS への引数として指定されました。

処置: ビュー V\$SESSION から有効な値を指定してください。

ORA-29395 初期のコンシューマ・グループを *string* に設定できません。

原因: ユーザーの最初のコンシューマ・グループを OTHER_GROUPS に設定しようとしてしました。

処置: OTHER_GROUPS はリソース・マネージャの内部使用のためのものです。別のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29396 グループを *string* に切替えてできません。

原因: ユーザーまたはセッションのコンシューマ・グループを OTHER_GROUPS に切り替えようとしてしました。

処置: OTHER_GROUPS はリソース・マネージャの内部使用のためのものです。別のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29397 *string* の切替え権限は権限付与 / 取消しできません。

原因: OTHER_GROUPS の切替え権限を付与または取消しようとしてしました。

処置: OTHER_GROUPS はリソース・マネージャの内部使用のためのものです。別のコンシューマ・グループを指定してください。

ORA-29398 無効な権限名が指定されました。

原因: 無効な権限名が、パッケージ DBMS_RESOURCE_MANAGER_PRIVS のプロシージャ GRANT_SYSTEM_PRIVILEGE または REVOKE_SYSTEM_PRIVILEGE への引数として指定されました。

処置: 有効な権限名を指定してください。

ORA-29399 ユーザー *string* には、コンシューマ・グループ *string* に切替える権限がありません。

原因: 指定されたユーザーの最初のコンシューマ・グループを設定しようとしてしましたが、ユーザーにはそのグループに切り替える権限がありません。

処置: コンシューマ・グループに切り替える権限をユーザーに付与して、最初のグループを設定してください。

ORA-29400 データ・カートリッジ・エラー *string* が発生しました。

原因: データ・カートリッジ外部プロシージャでエラーが発生しました。このメッセージの後に、データ・カートリッジ・エラーに関する詳細を記した 2 番目のメッセージが続きます。

処置: 2 番目のエラー・メッセージの説明に関しては、『Oracle8i データ・カートリッジ開発者ガイド』を参照してください。

ORA-29500 CREATE JAVA CLASS で NAMED キーワードは使用できません。

原因：NAMED キーワードが CREATE JAVA CLASS 文内に指定されました。NAMED キーワードは CREATE JAVA SOURCE または RESOURCE 文内でのみ有効です。

処置：CREATE JAVA CLASS 文から NAMED キーワードを削除してください。

ORA-29501 Java ソースまたはクラス、リソース名が無効または未指定です。

原因：Java ソース、クラスまたはリソースの要求された名前が無効または不明です。

処置：有効な名前を指定してください。

ORA-29502 CREATE JAVA RESOURCE には NAMED キーワードが必要です。

原因：Java リソースの名前が指定されていません。名前は NAMED キーワードとともに指定する必要があります。

処置：有効な名前を NAMED キーワードとともに指定してください。

ORA-29503 SCHEMA キーワードは NAMED キーワードと同時に使用できません。

原因：SCHEMA キーワードおよび NAMED キーワードは同じ CREATE JAVA コマンドと一緒に使用されましたが、CREATE JAVA コマンドで使用されるのは、いずれか 1 つのみです。

処置：NAMED または SCHEMA キーワードのいずれかを削除してください。

ORA-29504 スキーマ名が無効または指定されていません。

原因：要求されたスキーマ名が無効か、存在しません。

処置：有効なスキーマ名を指定してください。

ORA-29505 CREATE JAVA CLASS または RESOURCE で AS キーワードは使用できません。

原因：CREATE JAVA CLASS または RESOURCE で AS キーワードが使用されました。AS キーワードは CREATE JAVA SOURCE でのみ有効です。

処置：CREATE JAVA CLASS または RESOURCE で USING キーワードを使用してください。

ORA-29506 USING 句から作成された問合せが無効です。

原因：USING 句が有効な問合せを形成しませんでした。

処置：USING 句を修正してください。

ORA-29507 USING 句から作成された問合せの結果が 0 または複数行あります。

原因：USING 句は、どの値も戻さなかった問合せまたは複数の値を戻した問合せのいずれかを定義しました。

処置：USING 句を修正してください。

ORA-29508 USING 句から作成された問合せで型 *string* の値を選択できませんでした。

原因: USING 句は、USING キーワードに続く項目によって指定された型の値を選択する問合せを形成しませんでした。

処置: USING 句を修正してください。

ORA-29509 Java バイナリ・クラス定義を正しい形式で作成できません。

原因: バイナリ (Java クラス) 形式であると想定されるデータを使用する Java クラスを作成しようとした。データがこの形式にはないか、正しい形式ではありません。

処置: 定義データを修正してください。

ORA-29510 名前 *string.string* は既存のオブジェクトですでに使用されています。

原因: CREATE JAVA コマンドがすでに使用中の名前を使用して、ソース、クラスまたはリソース・オブジェクトを作成しようとした。

処置: 要求された名前を使用している既存のオブジェクトを削除するか、新しいオブジェクトに別の名前を使用してください。

ORA-29511 Java クラスを解決できません。

原因: CREATE AND RESOLVE NOFORCE JAVA CLASS コマンドが解決できない定義データを指定したか、参照されたクラスの解決に失敗しました。

処置: NOFORCE オプションを削除するか、解決に対する障害を削除してください。

ORA-29512 名前解決仕様を正しい形式で作成できません。

原因: ネーム・リゾルバが要求された形式 ((name_pattern, schema_name) ...) で指定されませんでした。

処置: 仕様を修正してください。

ORA-29513 参照クラス名が長すぎます。

原因: *number* を超える長さのクラス名を含む .class ファイルをインポートしようとした。参照クラス名が長すぎたため、.class ファイルはインポートできませんでした。

処置: .class ファイルの参照クラス名を短くしてください。

ORA-29514 クラス名に不正な文字が含まれています。

原因: サーバー・キャラクタ・セットに変換できない文字を含む .class ファイルをインポートしようとした。不正な文字があるため、.class ファイルはインポートできませんでした。

処置: .class ファイルの不正な文字を修正してください。

VOC-29515 ステータス *string* で Java コードから終了がコールされました。

原因: Java コードに java.lang.Runtime.exitInternal へのコールが含まれていました。

処置: 非ローカル終了が要求されない限り、このコールを含めないでください。

ORA-29516 Aurora アサーションでエラーが発生しました : *string*

原因: Aurora モジュール内で内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-29517 参照クラスの再帰的解決に失敗しました。

原因: 参照クラスの解決に失敗しました。

処置: 参照クラスのエラーを参照して、必要な処置を行ってエラーを修正してください。

ORA-29518 名前 *string* が Java クラスではないスキーマ *string* のオブジェクトに解決されました。

原因: 参照名が Java クラスでないオブジェクトに解決されました。

処置: ネーム・リゾルバを調整するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29519 名前 *string* がスキーマ *string* のシノニムを介して別の名前のクラスに解決されました。

原因: 参照名が、名前が参照名と一致しないクラスに変換したシノニムに解決されました。

処置: ネーム・リゾルバを調整するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29520 名前 *string* がアクセス不可のスキーマ *string* のクラスに解決されました。

原因: 参照クラスのアクセスに失敗しました。

処置: 認可またはネーム・リゾルバを調整してください。

ORA-29521 参照名 *string* が見つかりません。

原因: ネーム・リゾルバが、指示された名前のオブジェクトを発見できませんでした。

処置: ネーム・リゾルバを調整するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29522 参照名 *string.string* に対する認可エラーです。

原因: 指示された参照クラスの使用が認可されていないクラスを解決しようとした。

処置: 認可またはネーム・リゾルバを調整してください。

ORA-29523 不明な参照名による認可エラーです。

原因: 参照クラスの使用が認可されていないクラスを解決しようとした。参照クラスの名前を判断できませんでした。

処置: 認可またはネーム・リゾルバを調整してください。

ORA-29524 *string* のコールで引数の型が正しくありません。

原因: メソッドが互換性のない型の引数でコールされました。

処置: 呼出し元を調整してください。

ORA-29525 参照名が長すぎます: *string*

原因: 4000 文字を超える名前を参照するクラスを作成しようとしてしました。名前が長すぎるため、クラスが作成できませんでした。

処置: 定義を調整してください。

ORA-29526 Java クラス *string string* を作成しました。

原因: 情報メッセージです。エラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29527 Java ソース *string string* を作成しました。

原因: 情報メッセージです。エラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29528 トリガー *string* の Java コールが正しくありません。

原因: トリガーに指定された Java メソッドが存在しないか、使用中としてコールできません。

処置: トリガー定義を調整してください。

ORA-29529 関数またはメソッド・コール: *string* (トリガー *string*) が正しくありません。

原因: Java トリガー・コール式に指定された関数またはメソッドが解決できません。

処置: トリガー定義を調整してください。

ORA-29530: *string* の短縮名を作成できません。

原因: 短縮名変換表への挿入に失敗しました。

処置: 挿入を再試行してください。

ORA-29531 メソッド *string* はクラス *string* にはありません。

原因: Java クラスに存在しないメソッドを実行しようとしてしました。

処置: コールを調整するか、指定されたメソッドを作成してください。

ORA-29532 不明な Java 例外で Java コールが終了しました: *string*

原因: Java 例外またはエラーが通知され、Java コードによって解決できませんでした。

処置: この動作を意図していない場合、Java コードを変更してください。

ORA-29533 クラスまたはリソース *string* を上書きしようとしてしました (*string.string* の定義またはコンパイル中)。

原因: SQLJ ソースで定義されたクラスまたはリソースが、既存のオブジェクトと競合しています。

処置: 既存のオブジェクトを削除するか、SQLJ ソースを変更してください。

ORA-29534 参照オブジェクト *string.string* を解決できません。

原因：ネーム・リゾルバが、指示されたオブジェクトが参照されたが、解決できなかったと判断しました。

処置：参照クラスのネーム・リゾルバまたはアドレス解決問題を修正するか、そのソースのコンパイル問題を修正してください。

ORA-29535 ソースを再コンパイルしてください。

原因：現行のクラス・オブジェクトが無効だった理由は、コンパイル元のソース・オブジェクトとともに記録されます。

処置：ソース・オブジェクトでエラーを検査し、必要な対処措置を行ってください。

ORA-29536 ソースの形式が正しくありません: *string*

原因：定義されたクラスを判断するための解析を、適切に行えなかったテキストがある Java ソース・オブジェクトを作成しようとした。

処置：ソースのエラーを修正してください。

ORA-29537 クラスまたはリソースは直接作成または削除できません。

原因：既存の Java ソース・オブジェクトのコンパイルからの結果で確認されている Java クラスまたはリソースを作成または削除しようとした。

処置：ソースを処理してクラスまたはリソースを処理するか、ソースを変更して、クラスまたはリソースを定義しないようにしてください。

ORA-29538 Java がインストールされていません。

原因：Java がインストールされていないときに、Java コマンドを使用しようとした。

処置：Java をインストールするか、このコマンドを使用しないでください。

ORA-29539 Java システム・クラスはすでにインストールされています。

原因：Java システム・クラスがすでにインストールされているデータベースの CREATE JAVA SYSTEM コマンドを使用しようとした。

処置：CREATE OR REPLACE JAVA SYSTEM を使用してください。

ORA-29540 クラス *string* が存在しません。

原因：Java メソッド実行プログラムが、指示された名前のクラスを発見できませんでした。

処置：名前を修正するか、欠落している Java クラスを追加してください。

ORA-29541 クラス *string.string* を解決できません。

原因：以前および現在も正常にコンパイルまたは解決できない Java クラスのメソッドを実行しようとした。

処置：コールを調整するか、クラスを解決可能にしてください。

ORA-29542 クラス *string* はソース *string* ですすでに定義されています。

原因: 別の Java ソース・オブジェクトによってすでに定義されたクラスを定義する Java ソース・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: 古いソースを削除するか、新しいソースを変更してください。

ORA-29543 Java コマンド *string* はインプリメントされていません。

原因: まだインプリメントされていない Java コマンドを使用しようとしてしました。

処置: このコマンドは使用しないでください。

ORA-29544 型が無効です。

原因: Java エクスポートまたはインポートへのコールの型引数に、認識された値がありませんでした。

処置: 値を修正してください。

ORA-29545 クラスの形式が不正です: *string*

原因: Java ベリファイアによって拒否されたバイトコードがある Java クラスを作成しようとしてしました。

処置: 破損したクラス・ファイルから Java クラスを作成しようとした可能性があります。この場合、CREATE を正しいクラス・ファイルで再試行してください。また、このメッセージは、リゾルバにおいて "L" を使用した結果であるため、ベリファイアがいくつかのコードが正確かどうか確認できなかった可能性もあります。この場合、クラスをリゾルバで作成してください。

ORA-29546 リソースの形式が不正です: *string*

原因: Java ベリファイアによって拒否されたデータがある Java リソース・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置: データを修正してください。

ORA-29547 Java システム・クラスがありません: *string*

原因: まだ存在していないか、無効な Java システム・クラスを要求するコマンドを使用しようとしてしました。

処置: システム・クラスをロードするか、このコマンドを使用しないでください。

ORA-29548 Java システム・クラスからのレポート: *string*

原因: Java システム・クラスを使用するコマンドが Java システム・クラスによって報告されたエラーのために異常終了しました。

処置: 報告されたエラーを修正してください。

ORA-29549 クラス *string.string* が変更されました。Java のセッション状態は消去されました。

原因： 現行のセッションによって使用中のクラスが再定義または削除され、現行の Java セッション状態を無効にし、それを消去するように要求されました。

処置： 処置は必要ありません。

ORA-29550 Java のセッション状態は消去されました。

原因： 現行のセッションの Java 状態は一貫性がなくなり、消去されました。

処置： 処置は必要ありません。

ORA-29551 *string* を Unicode に変換できません。

原因： データベース・キャラクタ・セットで書かれた文字列は、Java で使用するために要求されたときに、Unicode に変換できませんでした。

処置： 文字列を訂正してください。

ORA-29552 証明の警告：*string*

原因： Java ベリファイアに警告を出させたバイトコードがある Java クラス・オブジェクトを作成しようとしてしました。

処置： 破損したクラス・ファイルから Java クラスを作成した可能性があります。この場合、CREATE を正しいクラス・ファイルで再試行してください。また、このメッセージは、リゾルバにおいて "-" を使用した結果であるため、ベリファイアがいくつかのコードが正確かどうか確認できなかった可能性もあります。この場合、クラスをリゾルバで作成してください。

ORA-29553 使用中のクラス：*string,string*

原因： 現行のコールで使用中の Java クラスを変更しようとしてしました。

処置： このコールで使用中のコードを修正してください。

ORA-29554 メモリー不足状態で Java が未処理です。

原因： このセッションで、リカバリできない Java のメモリー不足状態が発生しました。Java セッション状態は消去されました。

処置： 処置は必要ありません。

ORA-29555 ここでは Java のソース、クラスまたはリソースを使用できません。

原因： Java のソース、クラスまたはリソースが文中の不適切な位置に指定されています。

処置： 名前が正しいことを確認するか、または削除してください。

ORA-29701 Cluster Manager に接続できません。

原因: Cluster Manager (CM) への接続に失敗したか、または、時間切れです。

処置: CM が起動されていることを確認してください。CM が起動されていなければ、起動してからデータベースの起動を再試行してください。CM が停止しているか応答がない場合、Oracle および CM トレース・ファイルをエラー・チェックしてください。

ORA-29702 Cluster Group Service 操作でエラーが発生しました。

原因: CGS 操作を実行中に予期せぬエラーが発生しました。

処置: LMON プロセスがアクティブであることを検証してください。また、Oracle LMON トレース・ファイルをエラー・チェックしてください。

ORA-29703 DLM 操作でエラーが発生しました。

原因: DLM 操作を実行中に予期せぬエラーが発生しました。

処置: Oracle トレース・ファイルでエラーを確認してください。

ORA-29704 8.1.5 以前のリリースに ACTIVE_INSTANCE_COUNT は指定できません。

原因: クラスタ内のインスタンスの 1 つが Oracle 8.1.5 以下のリリースで実行中に、ACTIVE_INSTANCE_COUNT パラメータが指定されました。

処置: ACTIVE_INSTANCE_COUNT パラメータを指定せずに、インスタンスを再起動してください。または、すべてのインスタンスを Oracle 8.1.6 以上にアップグレードした後、パラメータを指定してください。

ORA-29705 ACTIVE_INSTANCE_COUNT は *string* で、他のインスタンスの値と互換性がありません。

原因: ACTIVE_INSTANCE_COUNT パラメータの値は、すべての Oracle Parallel Server インスタンスで同一である必要があります。

処置: すべてのインスタンスの初期化パラメータ・ファイルを確認し、ACTIVE_INSTANCE_COUNT パラメータの値が同じであることを確認してください。その後、インスタンスを再起動してください。

ORA-29706 パラメータ ACTIVE_INSTANCE_COUNT の値 *string* が正しくありません。

原因: 2 つのノードがアクティブ / スタンバイである Parallel Server 構成の場合、ACTIVE_INSTANCE_COUNT パラメータに 1 を設定する必要があります。また、スタンバイ・インスタンスが必要ない場合は、このパラメータにインスタンスの総数以上の値を設定する必要があります。

処置: 初期化パラメータ・ファイルを確認し、ACTIVE_INSTANCE_COUNT パラメータの値を修正してください。2 つのノードがアクティブ / スタンバイの Parallel Server 構成にする場合、この値には 1 を設定してください。そうでない場合、このパラメータには値を指定しないでください。

ORA-29800 オペレータの名前が正しくありません。

原因：オペレータに指定された名前が正しくありません。

処置：オペレータに正しい名前を指定してください。

ORA-29801 RETURN キーワードが足りません。

原因：RETURN キーワードが指定されていません。

処置：RETURN キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29802 CONTEXT キーワードが足りません。

原因：CONTEXT キーワードが指定されていません。

処置：CONTEXT キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29803 ANCILLARY キーワードが足りません。

原因：ANCILLARY キーワードが指定されていません。

処置：ANCILLARY キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29804 DATA キーワードが足りません。

原因：DATA キーワードが指定されていません。

処置：DATA キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-29805 COLUMN キーワードがありません。

原因：キーワード COLUMN が必要です。

処置：COLUMN キーワードを指定するか、別のオプションを指定してください。

ORA-29806 指定したバインディングが存在しません。

原因：指定されたオペレータ・バインディングが存在しません。

処置：指定されたオペレータ・バインディングが存在することを確認してください。

ORA-29807 指定したオペレータが存在しません。

原因：指定されたオペレータが存在しません。

処置：指定されたオペレータが存在することを確認してください。

ORA-29808 指定した主要オペレータ・バインディングが存在しません。

原因：主要オペレータに対して指定したバインディングが存在しません。

処置：主要オペレータに対して指定したバインディングが存在することを確認してください。

ORA-29809 依存するオブジェクトがあるオペレータは削除できません。

原因: 削除されているオペレータには、依存するオブジェクトがあります。

処置: まず依存するオブジェクトを削除してから DROP OPERATOR コマンドを発行するか、DROP OPERATOR のある FORCE オプションを指定してください。

ORA-29810 オペレータ権限が不十分です。

原因: ユーザーにはオペレータに指定された操作を実行する適切な権限がありません。

処置: 適切な権限をユーザーに付与し、文を再発行してください。

ORA-29811 STATISTICS キーワードが足りません。

原因: これは、ASSOCIATE コマンドがある有効なオプションではありません。

処置: ASSOCIATE コマンドの後に STATISTICS キーワードを指定してください。

ORA-29812 無効なオブジェクト名が指定されました。

原因: 指定した名前が無効です。

処置: 対応付けの定義が必要なオブジェクトの正しい名前を指定してください。

ORA-29813 関連文でサポートされていないオブジェクト型です。

原因: 指定したオブジェクト型は関連統計文でサポートされていません。

処置: 関連コマンドがある有効なオブジェクト型を使用してください。

ORA-29814 USING または DEFAULT キーワードを指定してください。

原因: USING または DEFAULT キーワードを指定してください。

処置: USING または DEFAULT キーワードを指定してください。

ORA-29815 対応付けられているオブジェクトがありません。

原因: 対応付けが定義されているオブジェクトがありません。

処置: 対応付けが定義されているオブジェクトがすべてあることを確認してください。

ORA-29816 対応付けを解除されているオブジェクトがありません。

原因: 対応付けを解除されているオブジェクトがありません。

処置: 対応付けの解除が必要なオブジェクトがあることを確認してください。

ORA-29817 非関連文でサポートされていないオプションです。

原因: 指定したオブジェクト型は非関連統計文でサポートされていません。

処置: 非関連コマンドでサポートされているオブジェクト型を使用してください。

ORA-29818 列名を正しく指定してください。

原因: 列名には表および列名が含まれなければなりません。

処置: 有効な列名を指定してください。

ORA-29819 デフォルト値は列に関連付けできません。

原因: DEFAULT 値を有効なオプションではない列に関連付けようとした。

処置: 有効なオプションを指定してください。

ORA-29820 統計型が存在しません。

原因: オブジェクトに対応付けされている統計型が存在しません。

処置: 統計関数を含む型が存在することを確認してください。

ORA-29821 指定した主要オペレータが存在しません。

原因: 指定した主要オペレータが存在しません。

処置: 主要オペレータおよび指定した署名を確認してください。

ORA-29822 オブジェクト型に選択性は指定できません。

原因: 選択性を許可されていない索引または索引型と関連付けようとした。

処置: 有効なオプションを指定してください。

ORA-29823 分析対象のオブジェクトは表ではありません。

原因: 分析対象のオブジェクトは表ではなく、サポートされていません。

処置: サポートされているオプションのみを指定してください。

ORA-29824 オペレータが正しくありません。

原因: このオペレータは無効です。

処置: オペレータを削除して再作成してください。

ORA-29825 索引型の名前が正しくありません。

原因: 索引型名または索引型スキーマ名に無効な文字があります。

処置: 名前に有効な文字があり、それが予約語でないことを検証してください。

ORA-29826 FOR キーワードが足りません。

原因: FOR キーワードを CREATE INDEXTYPE 文に提供する必要があります。

処置: FOR キーワードを使用して、関連するオペレータ情報を提供してください。

ORA-29827 USING キーワードが足りません。

原因: USING キーワードおよび対応するインプリメンテーションの詳細を提供する必要があります。

処置: USING キーワードおよび CREATE INDEXTYPE 文に関連するインプリメンテーションの詳細を提供してください。

ORA-29828 インプリメンテーション型の名前が正しくありません。

原因: インプリメンテーション型またはインプリメンテーション・スキーマ名が無効です。

処置: 名前に有効な文字があり、それが予約語でないことを検証してください。

ORA-29829 インプリメンテーション型が存在しません。

原因: USING 句で指定したインプリメンテーション型が見つかりませんでした。

処置: 型が存在するかどうか、ユーザーにこの型に対する EXECUTE 権限があるかどうかを確認してください。

ORA-29830 オペレータが存在しません。

原因: オペレータが見つかりませんでした。

処置: オペレータが存在し、ユーザーにこのオペレータに対する EXECUTE 権限があることを確認してください。

ORA-29831 オペレータ・バインディングが見つかりません。

原因: オペレータに対して指定したバインディングがオペレータ・スキーマ・オブジェクトから見つかりません。

処置: 指定したバインディングがあるオペレータが存在していることを確認してください。

ORA-29832 依存している索引がある索引型は削除または置換できません。

原因: 1 つ以上の索引が索引型に依存しています。

処置: 索引型自体を削除する前に索引型に依存する索引をすべて削除してください。

ORA-29833 索引型が存在しません。

原因: 指定した名前の索引型がありません。

処置: 索引型に対するパブリック・ビューを使用して、指定した名前の索引型が作成されたかどうかを確認してください。

ORA-29834 REF データ型はオペレータではサポートされません。

原因：ユーザーが、CREATE OPERATOR でサポートされていない REF データ型を指定しました。

処置：REF データ型のない CREATE OPERATOR 文を再発行してください。

ORA-29835 ODCIGETINTERFACES ルーチンから必要なインタフェースが返りません。

原因：ODCIGetInterfaces ルーチンによって戻された ODCIObjectList には、現行の使用に必要なインタフェースが含まれていません。

処置：ODCIGetInterfaces ルーチンから必要なインタフェースの名前が返ることを確認してください。

ORA-29836 参照オペレータの検証に失敗しました。

原因：参照されたオペレータの 1 つが、コンパイルできません。

処置：この索引型が参照するオペレータを再コンパイルしてください。
USER_INDEXTYPE_OPERATORS ビューを使用して、参照されたオペレータを確認してください。

ORA-29837 実現型を実行するには権限が不十分です。

原因：ユーザーには実現型を実行する権限がありません。

処置：実現型の所有者は適切な権限をユーザーに付与してください。

ORA-29838 オペレータを実行するには権限が不十分です。

原因：ユーザーにはオペレータの 1 つを実行する権限がありません。

処置：オペレータの所有者は適切な権限をユーザーに付与してください。

ORA-29839 索引型に対する実現型の検証に失敗しました。

原因：索引型の実現型は、コンパイルできません。

処置：この索引型に指定された実現型をコンパイルしてください。

ORA-29840 索引型とインプリメンテーション型は同じスキーマにはありません。

原因：索引型とインプリメンテーション型は別のスキーマにあります。

処置：索引型とインプリメンテーション型を同じスキーマに置いてください。

ORA-29850 ドメイン索引の作成では無効オプションです。

原因：ユーザーが ASC、DESC、SORT またはパラレル句、パーティション句または物理属性句などの無効オプションを指定しました。

処置：ドメイン索引の作成に有効な句を 1 つ選択してください。

ORA-29851 ドメイン索引は複数の列では作成できません。

原因: ユーザーが複数の列でドメイン索引を作成しようとしてしました。

処置: 単数の列にのみドメイン索引を作成してください。

ORA-29852 IS キーワードが足りません。

原因: IS キーワードはドメイン索引の索引作成文で指定する必要があります。

処置: IS キーワードを使用して、索引型名を指定してください。

ORA-29853 ドメイン索引の作成に UNIQUE キーワードは使用できません。

原因: ドメイン索引を UNIQUE 属性で作成しようとしてしました。

処置: CREATE INDEX 文から UNIQUE を削除してください。

ORA-29854 ドメイン索引の作成に BITMAP キーワードは使用できません。

原因: ドメイン索引を BITMAP 属性で作成しようとしてしました。

処置: CREATE INDEX 文から BITMAP を削除してください。

ORA-29855 ODCIINDEXCREATE ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexCreate ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29856 ODCIINDEXDROP ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexDrop ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29857 ドメイン索引および/または 2 次オブジェクトが表領域に存在します。

原因: 2 次オブジェクトまたはドメイン索引（あるいはその両方）を含む表領域を削除しようとしてしました。

処置: 表領域中のすべてのドメイン索引を削除してください。また、この表領域に 2 次オブジェクトを作成したドメイン索引を見つけ、それらを削除してください。その後、表領域を削除してください。

ORA-29858 ODCIINDEXALTER ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexAlter ルーチンの実行に失敗しました。

処置: ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29859 ODCIINDEXTRUNCATE ルーチンの実行でエラーが発生しました。

原因：ODCIIndexTruncate ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29860 ドメイン索引に LOADING のマークが設定されている表は切捨てできません。

原因：表に LOADING のマークが設定されているドメイン索引があります。

処置：進行中の索引 DDL が終了し、索引状態が LOADING 状態から変化するのを確認するために待ってください。または、LOADING のマークが設定されているドメイン索引を FORCE オプションで削除してください。

ORA-29861 ドメイン索引には LOADING/FAILED/UNUSABLE のマークが設定されていません。

原因：作成中のドメイン索引、失敗した ODCIIndexCreate によって FAILED のマークが設定されたドメイン索引または DDL 操作によって UNUSABLE のマークが設定されたドメイン索引へアクセスしようとした。

処置：指定されたドメイン索引に LOADING のマークが設定された場合、待ってください。FAILED のマークが設定された場合、その索引を削除してください。また、UNUSABLE のマークが設定された場合は、再作成してください。

ORA-29862 非ドメイン索引の削除で FORCE オプションは指定できません。

原因：DROP INDEX FORCE が非ドメイン索引に対して発行されました。

処置：FORCE オプションなしでコマンドを再発行してください。

ORA-29863 ODCIINDEXCREATE ルーチンの実行で警告が発行されました。

原因：警告が ODCIIndexCreate ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定のログ表を参照してください。

ORA-29864 LOADING/FAILED のマークが設定されているドメイン索引の分析はサポートされません。

原因：LOADING または FAILED のマークが設定されているドメイン索引を分析しようとした。

処置：索引に LOADING のマークが設定されている場合、分析を再試行する前に有効のマークが設定されるまで待ってください。索引に FAILED のマークが設定されている場合、それを削除するか、再作成して、分析を再試行してください。

ORA-29865 索引型が正しくありません。

原因：索引型が無効です。

処置：索引型を削除して再作成してください。

ORA-29866 索引構成表の列にドメイン索引は作成できません。

原因: 索引構成表の列にドメイン索引を作成しようとしてしました。

処置: 索引構成表の列にドメイン索引を作成しないでください。

ORA-29867 LONG 列にドメイン索引は作成できません。

原因: ユーザーは、LONG データ型の列にドメイン索引を作成しようとしてしました。

処置: LONG 列にドメイン索引を作成しないでください。

ORA-29868 LOADING のマークが設定されたドメイン索引で DDL は発行できません。

原因: LOADING 状態のドメイン索引に DROP/ALTER/TRUNCATE を発行しようとしてしました。

処置: 索引操作が終了するまで待つか、DROP INDEX FORCE を発行して索引を削除してください。

ORA-29869 ALTER は FAILED のマークが設定されたドメイン索引の REBUILD なしには発行できません。

原因: FAILED 状態のドメイン索引に ALTER を発行しようとしてしました。

処置: 表を切り捨てて索引に有効のマークを設定した後、ALTER INDEX を発行するか、ALTER INDEX REBUILD を実行して索引を再作成してください。

ORA-29870 指定したオプションはドメイン索引の変更時だけ有効です。

原因: 非ドメイン索引で ONLINE または PARAMETERS 句が指定されました。

処置: 変更に対して正しい構文がある文を再発行してください。

ORA-29871 ドメイン索引に対する変更オプションが無効です。

原因: ユーザーはドメイン索引の変更に対して無効なオプションを指定しました。

処置: 有効なオプションで変更文を再発行してください。

ORA-29872 PARAMETERS 句を指定したオプションと組み合わせることはできません。

原因: ユーザーがその他の変更索引オプションと PARAMETERS 句を組み合せました。

処置: 変更に対して正しい構文がある文を再発行してください。

ORA-29873 ODCIINDEXDROP ルーチンの実行で警告が発行されました。

原因: 警告が ODCIINDEXDROP ルーチンから戻されました。

処置: ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定の警告のログ表を参照してください。

ORA-29874 ODCIINDEXALTER ルーチンの実行で警告が発行されました。

原因：警告が ODCIINDEXALTER ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。詳細は、ユーザー指定の警告のログ表を参照してください。

ORA-29875 ODCIINDEXINSERT ルーチンの実行に失敗しました。

原因：ODCIINDEXINSERT ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29876 ODCIINDEXDELETE ルーチンの実行に失敗しました。

原因：ODCIINDEXDELETE ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29877 ODCIINDEXUPDATE ルーチンの実行に失敗しました。

原因：ODCIINDEXUPDATE ルーチンの実行に失敗しました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。

ORA-29878 ODCIINDEXTRUNCATE ルーチンの実行で警告が発行されました。

原因：警告が ODCIINDEXTRUNCATE ルーチンから戻されました。

処置：ルーチンが正しくコード化されていることを確認してください。詳細は、ユーザー定義の警告のログ表を参照してください。

ORA-29879 同じ索引型を使用して、列リスト上に複数のドメイン索引を作成できません。

原因：同一の索引型を使用して、同じ列リストに複数のドメイン索引を定義しようとしてしました。

処置：別の索引型が使用できるか、または他の列リストに索引を定義できるかどうかを確認してください。

ORA-29880 その列リストは、別のドメイン索引と索引型を使用してすでに索引付けされています。

原因：分割オペレータのない索引型を使用して、列リストに複数のドメイン索引を作成しようとしてしました。

処置：索引型のオペレータ・セットを非接続にできるかどうかを確認してください。

ORA-29881 索引型の検証に失敗しました。

原因: 索引型をコンパイルできません。

処置: ドメイン索引が参照する索引型をコンパイルしてください。

ORA-29882 索引型を実行するには権限が不十分です。

原因: ユーザーには索引型を実行する権限がありません。

処置: 索引型の所有者は適切な権限をユーザーに付与してください。

ORA-29883 列の式にドメイン索引は作成できません。

原因: ユーザーが列リストの式を指定しました。

処置: ドメイン索引には、列リストの単純列のみ指定してください。

ORA-29884 削除される列にドメイン索引が定義されました。

原因: ドメイン索引が存在する列に ALTER TABLE DROP COLUMN が発行されました。

処置: 列を削除する前に、ドメイン索引を削除してください。

ORA-29885 変更される列にドメイン索引が定義されました。

原因: ドメイン索引が存在する列に ALTER TABLE MODIFY COLUMN が発行されました。

処置: 列を変更する前に、ドメイン索引を削除してください。

ORA-29886 ドメイン索引ではサポートされない機能です。

原因: ドメイン索引ではサポートされない機能です。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-29887 ドメイン索引が表に定義されている場合、行の移動はサポートできません。

原因: ドメイン索引が定義された表に ALTER TABLE ENABLE ROW MOVEMENT が発行されました。

処置: 行を移動可能にする場合は、ドメイン索引を削除してコマンドを再発行してください。

ORA-29888 行移動が可能な表にドメイン索引は作成できません。

原因: 行移動が可能な表に CREATE DOMAIN INDEX 文が発行されました。

処置: 表での行移動を不可にし、CREATE DOMAIN INDEX 文を再発行してください。

ORA-29900 オペレータ・バインディングが存在しません。

原因: オペレータの現行の使用には、バインドが存在しません。

処置: オペレータ引数を変更して、既存のバインディングのいずれかを一致させるか、新しいバインディングをオペレータに追加してください。

ORA-29901 オペレータ・バインディングの基礎となる関数が存在しません。

原因: オペレータ・バインディングの基礎となる関数が存在しません。

処置: オペレータの起動に対応する関数が存在することを確認してください。

ORA-29902 ODCIIndexStart() ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexStart ルーチンの実行によってエラーが発生しました。

処置: 索引型コードによって表示されたメッセージを調べて、適切な解決方法を行ってください。

ORA-29903 ODCIIndexFetch() ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexFetch ルーチンの実行によってエラーが発生しました。

処置: 索引型コードによって表示されたメッセージを調べて、適切な解決方法を行ってください。

ORA-29904 ODCIIndexClose() ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIIndexClose ルーチンの実行によってエラーが発生しました。

処置: 索引型コードによって表示されたメッセージを調べて、適切な解決方法を行ってください。

ORA-29905 メソッド *string* が型 *string.string* にありません。

原因: 要求されたシグネチャがある必要なメソッドには指定した型がありません。

処置: 必要なメソッドを型に追加してください。

ORA-29906 索引型 *string.string* が存在しません。

原因: 索引型が存在しません。

処置: 索引型を作成してください。

ORA-29907 主起動で重複ラベルが見つかりました。

原因: ラベルと同じ番号のオペレータの主起動が複数あります。

処置: 主起動に固有ラベルを使用してください。

DRG-29908 副オペレータに対する主起動がありません。

原因: 副オペレータに対応する主起動がありません。

処置: 副オペレータと同じラベルがある主起動を追加してください。

ORA-29909 副オペレータのラベルがリテラル数値ではありません。

原因: 副オペレータの起動に使用されるラベルがリテラル数値ではありません。

処置: ラベルとしてリテラル数値を使用してください。

ORA-29910 無効なコールバック操作です。

原因: 無効なコールバック操作を見つけました。

処置: コールアウトから実行されたすべてのコールバックが文コンテキストで有効であることを確認してください。

ORA-29911 ODCIIndexStart() ルーチンから NULL のスキャン・コンテキストが戻りました。

原因: ODCIIndexStart() ルーチンから NULL のスキャン・コンテキストが戻りました。

処置: ODCIIndexStart() ルーチンから非 NULL のスキャン・コンテキストが戻ることを確認してください。

ORA-29925 *string* を実行できません。

原因: 指定された関数が存在しないか、適切なシグネチャがありません。

処置: 適切なシグネチャがある機能をインプリメントしてください。

ORA-29926 オブジェクトには関連付けがすでに定義されています。

原因: 関連付けが定義されているオブジェクトには、それに関連付けられている統計型がすでにあります。

処置: オブジェクトの関連付けを解除して、オブジェクトを関連付けてください。

ORA-29927 ODCIStatsCollect / ODCIStatsDelete ルーチンの実行中にエラーが発生しました。

原因: ODCIStatsCollect/ODCIStatsDelete 関数によってエラーが発生しています。

処置: ODCIStatsCollect/ODCIStatsDelete 機能を確認してください。

ORA-29928 デフォルト選択性の指定が重複しています。

原因: キーワード DEFAULT SELECTIVITY は一度しか指定できません。

処置: 重複するキーワードを削除してください。

ORA-29929 SCAN キーワードがありません。

原因: スキャン・コンテキストが指定されていません。

処置: SCAN キーワードを指定してください。

ORA-29930 INDEX CONTEXT 句のない COMPUTE ANCILLARY DATA が指定されました。

原因: WITH INDEX CONTEXT 句のない COMPUTE ANCILLARY DATA オプションが指定されました。

処置: WITH INDEX CONTEXT オプションを指定してください。

ORA-29931 指定した対応付けは存在しません。

原因: 対応付けの解除を指定された 1 つ以上のオブジェクトには定義された対応付けが存在しません。

処置: 定義された対応付けがあるオブジェクトを検証して、対応付け解除コマンドを再発行してください。

ORA-29932 削除されている型は統計型です。

原因: いくつかのオブジェクトが削除されている型の統計メソッドを定義しました。

処置: DISASSOCIATE コマンドを使用して関連する対応付けをまず削除し、その後 DROP コマンドを再試行するか、DROP TYPE コマンドで FORCE オプションを使用してください。

ORA-29933 対応付けを解除しているオブジェクトに、保存されたユーザー定義統計があります。

原因: 対応付けを解除しているオブジェクトに、収集されたいくつかのユーザー定義統計があります。

処置: ユーザー定義統計をまず削除してから、DISASSOCIATE コマンドを再発行するか、DISASSOCIATE で FORCE オプションを指定してください。

ORA-29934 対応付けに指定した索引はドメイン索引ではありません。

原因: ユーザーがドメイン索引でない索引で ASSOCIATE STATISTICS コマンドを発行しました。

処置: ドメイン索引でのみ ASSOCIATE STATISTICS WITH INDEXES コマンド発行してください。

ORA-29935 FROM キーワードがありません。

原因: FROM キーワードがありません。

処置: FROM キーワードを指定するか、SQL 文を確認してください。

ORA-30000 TRIM で切捨て仕様または文字式のどちらも指定されていません。

原因: FROM が TRIM 関数で指定されているため、切捨て仕様 (TRAILING、HEADING、BOTH) または切捨て文字のいずれか (あるいはその両方) を指定する必要があります。

処置: 切捨て仕様 (TRAILING、HEADING、BOTH) または切捨て文字のいずれか (あるいはその両方) を追加してください。

ORA-30001 切捨てセットの文字は1つでなければなりません。

原因: 切捨てセットに1文字より多いか、または少ない文字が含まれています。これは TRIM 関数では許可されていません。

処置: 切捨てセットの文字を1つにしてください。

ORA-30002 ここでは SYS_CONNECT_BY_PATH ファンクションを使用できません。

原因: SYS_CONNECT_BY_PATH ファンクションが SELECT リスト以外でコールされています。

処置: SELECT リスト以外の SYS_CONNECT_BY_PATH ファンクションのコールを削除してください。

ORA-30003 SYS_CONNECT_BY_PATH ファンクションのパラメータが正しくありません。

処置: 第2引数として空白以外の定数文字列を指定し、操作を再試行してください。

ORA-30004 SYS_CONNECT_BY_PATH ファンクションを使用する場合は、セパレータを列値の一部として使用できません。

処置: 他の列値で使用されていないセパレータを使用して、再試行してください。

ORA-30071 日時 / 間隔と文字列の間の変換は失敗します。

原因: 次のいずれかの理由によって、datetime/interval と文字列データ型の間の変換中にエラーが発生しました。

- バッファが小さすぎて、結果を保持できません。
- フォーマット文字列が正しくありません。

処置: 問題を修正して再試行してください。

ORA-30072 タイム・ゾーンの値が正しくありません。

原因: ALTER SESSION 文、環境変数 ORA_SDTZ または日時係数で使用するタイム・ゾーン文字列に指定した値が有効ではありません。

処置: 有効なタイム・ゾーン値を指定してください。

ORA-30073 無効な調整値です。

原因: 値が、ADJUST、NO_ADJUST、ANSI_DATE、ADJUST_WITH_ANSI_DATE のいずれでもありません。デフォルトは NO_ADJUST です。

処置: 残りの3つのうちのいずれかを設定してください。

ORA-30074 TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE での GLOBAL パーティション索引は許可されません。

原因: TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE での索引に GLOBAL パーティションが行われようとしていました。

処置: TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE での索引に GLOBAL パーティションはできません。

ORA-30075 TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE リテラルは CHECK 制約での指定が必要です。

原因: タイム・ゾーンを明示的に指定していないタイム・ゾーン列の有無に関係なく、タイムまたはタイムスタンプに制約が作成されようとしていました。

処置: タイム・ゾーン・リテラルのみを指定したタイムまたはタイムスタンプを使用してください。

ORA-30076 抽出ソースの抽出フィールドが正しくありません。

原因: 抽出ソースに指定した抽出フィールドが含まれていません。

処置: 抽出ソースに有効な抽出フィールドを指定してください。

ORA-30077 指定した日時型の間の計算が正しくありません。

原因: 指定した datetime 型間の計算ができません。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30078 パーティション・バウンドには TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE 定数が必要です。

原因: 書式に TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE 列のタイム・ゾーンが明示的に指定されていないタイム / タイムスタンプ式が使用されようとしていました。

処置: TIME/TIMESTAMP WITH TIME ZONE 定数を明示的に使用してください。

ORA-30081 日時 / 間隔の算術のデータ型が正しくありません。

原因: オペランドのデータ型は datetime/interval の算術に有効ではありません。

処置: datetime/interval の算術の有効なデータ型を指定してください。

ORA-30082 秒数または先行フィールドの精度を下げるには、日付時刻または間隔の列を空にする必要があります。

原因: 既存のデータを持つ datetime/interval の列が、秒数または先行フィールドの精度が下がるように変更されています。

処置: このような列でできるのは、精度を上げることのみです。

ORA-30083 間隔の値の式に構文エラーがあります。

原因: interval 値の式を解析中に構文エラーがありました。

処置: 構文を修正してください。

ORA-30084 タイム・ゾーン修飾子をもつ日時主キーには無効なデータ型です。

原因: タイム・ゾーン修飾子を指定するときは、datetime 主のデータ型は次のうちの 1 つである必要があります。TIME、TIME WITH TIME ZONE、TIMESTAMP、TIMESTAMP WITH TIME ZONE。

処置: 有効なデータ型を指定してください。

ORA-30085 オーバーラップ述語に構文エラーがあります。

原因: オーバーラップ述語を解析中に構文エラーがありました。

処置: 構文を修正してください。

ORA-30086 年月間隔の結果は日付時刻の減算には使用できません。

原因: datetime の減算の結果として年月間隔を指定しようとしてしました。

処置: この interval 型の SQL 標準の仕様が不明瞭なため、これは現在許可されていません。interval 日付への interval 型を秒に変更して、文を再発行してください。

ORA-30087 2 つの日付時刻値は加算できません。

原因: 2 つの datetime 値を加算しようとしてしました。

処置: この加算は許可されていません。

ORA-30088 日付時刻 / 間隔の精度が範囲外です。

原因: 指定した datetime/interval の精度が 0 ～ 9 の間の値ではありませんでした。

処置: datetime/interval の精度には 0 ～ 9 の間の値を使用してください。

ORA-30089 < 日時フィールド > が無効か、または指定されていません。

原因: 存在するはずの datetime フィールド (YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND) が見つからないか、interval 修飾子の終了フィールドに指定された datetime フィールドが、その開始フィールドより重要です。

処置: 有効な datetime フィールドを指定してください。

ORA-30100 内部エラー [number]

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エラーを報告してください。

ORA-30101 不明なパラメータ名です。string

原因: パラメータ名の綴りが間違っています。

処置: パラメータ名の綴りを訂正してください。

ORA-30102 *string* は *string* に対して有効な範囲内にありません。

原因: パラメータの値が有効範囲内にありません。

処置: このパラメータの有効値については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-30103 *string* は *string* に対して不正な整数基数です。

原因: 無効な整数基数の指定が見つかりました。

処置: 整数基数の指定は、d、h、D および H のみで行ってください。

ORA-30104 *string* は *string* に対して無効な整数です。

原因: 値が有効な整数ではありません。

処置: このパラメータに有効な整数のみを指定してください。

ORA-30105 *string* は *string* に対して無効なブール値です。

原因: 値が有効なブール値ではありません。

処置: 有効なブール値については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-30106 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは将来のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30107 パラメータ名の略称 *string* が一意ではありません。

原因: 指定された略称が一意ではありませんでした。

処置: より長い略称を使用して、パラメータ名を一意にしてください。

ORA-30108 位置パラメータの値 *string* が無効です。

原因: 無効な位置パラメータが入力されています。

処置: 無効な位置パラメータを削除してください。

ORA-30109 パラメータ・ファイル *string* をオープンできません。

原因: パラメータ・ファイルが存在しません。

処置: 適切なパラメータ・ファイルを作成してください。

ORA-30110 *string* で構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30111 値 *string* の右引用符がありません。

原因: 引用符付き文字列が開始されましたが、終了されていません。

処置: 正しい位置にクローズ引用符を置いてください。

ORA-30112 パラメータ *string* に複数の値を指定できません。

原因: 1つの値のみをとるパラメータに複数の値を指定しようとしてしました。

処置: このパラメータには複数の値を指定しないでください。

ORA-30113 ファイル *string* の処理中にエラーが発生しました。

原因: このファイルを処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

ORA-30114 コマンド行の処理中にエラーが発生しました。

原因: コマンド・ファイルの処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

ORA-30115 環境変数の処理中にエラーが発生しました。

原因: 環境変数の処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

ORA-30116 *string* に続く *string* で構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30117 入力の開始で *string* に構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30118 入力の終わりで *string* に構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

ORA-30119 *string* に対する有効な値が取得できません。

原因: このパラメータに有効な値が得られませんでした。

処置: アプリケーションを再実行し、有効な値を入力してください。

ORA-30120 *string* は *string* に対して無効な Oracle Number です。

原因: 値が有効な Oracle 番号ではありません。

処置: 有効な Oracle 番号については、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

ORA-30129 無効な関数の引数を受け取りました。

原因: 関数に無効な引数が渡されました。

処置: 関数コールを確認して、正しい引数が渡されるようにしてください。

ORA-30130 無効なパラメータ・キーの型を受け取りました。

原因：関数に無効なパラメータ・キー型が渡されました。

処置：関数コールのパラメータ・キー型を確認してください。

ORA-30131 設定しているキーの数が割当てを超えています。

原因：設定するパラメータ・キーの数が割当て数を超えています。

処置：設定するキーの数を減らすか、割当て数を増やしてください。

ORA-30132 無効なキー索引が渡されました。

原因：指定したキー索引がバウンド内にありませんでした。

処置：キー索引を変更して、バウンド内に入るようにしてください。

ORA-30133 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30135 OCI スレッド操作が失敗しました。

原因：OCI スレッド関数コールに失敗しました。

処置：関数コールを確認し、確実に正しいパラメータを渡して適切な処理をしてください。

ORA-30150 OCIFile 関数に無効な引数が渡されました。

原因：OCIFile 関数に無効な引数が渡されました。最も一般的な原因は、非 NULL ポインタが渡されるべきところに NULL ポインタが渡されたことです。

処置：引数として渡された値が有効かどうかを確認してください。NULL ポインタを確認してください。

ORA-30151 ファイルがすでに存在しています。

原因：OCI_FILE_EXCL フラグでファイルを開こうとしましたが、そのファイルはすでに存在しています。

処置：この場合、OCIFile がこの例外を投げたと考えられます。

ORA-30152 ファイルが存在しません。

原因：OCIFile 関数にはファイルが必要ですが、ファイルが存在しません。

処置：ファイルが存在するかを確認してください。

ORA-30153 無効なファイル・オブジェクトが OCIFile 関数に渡されました。

原因：OCIFile 関数に無効なファイル・オブジェクトが渡されました。

処置：ファイル・オブジェクトが有効なものであることを確認してください。必要であれば、OCIFileOpen をコールして、新しいファイル・オブジェクトを作成してください。

ORA-30154 OCIFileRead/Write のバッファとして指定されたメモリー・アドレスが無効です。

原因: 無効なメモリー・アドレスがバッファ・ポインタとして OCIFileRead/Write に渡されました。

処置: 必要なメモリーが割り当てられているかどうかを確認して、有効なメモリー・アドレスをバッファ・ポインタとして渡してください。

ORA-30155 OCIFile 関数コール中に I/O エラーが発生しました。

原因: システム・レベルで I/O エラーが発生しました。

処置: これはシステム・エラーで、処理はエラーによって異なります。

ORA-30156 ディスク領域不足です。

原因: 使用しているファイル・システムのディスクがいっぱいです。

処置: ディスク領域を増加してください。

ORA-30157 無効な引数がオペレーティング・システム・コールに渡されました。

原因: オペレーティング・システム・コールが無効な引数でコールされました。

処置: 渡された値を確認してください。問題が解決できない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30158 OCIFileWrite でファイルが最大許容サイズを超えました。

原因: ファイルに書き込む領域がありません。サイズが最大限度に達しました。

処置: 可能な場合、ファイルの最大サイズを上げてください。

ORA-30159 OCIFileOpen: ファイルを作成できないか、要求されたモードでオープンできません。

原因: ファイルが作成される OCIFileOpen で作成フラグが指定されましたが、作成できません。または、ファイルがすでに存在しているが、その権限が要求されたオープン・モードでのファイルのオープンを許可しません。

処置: ユーザーに指定されたファイルを作成する権限があるか、またファイルが存在する場合、その権限が要求されたオープン・モードを許可しているか確認してください。

ORA-30160 ファイルにアクセスできません。

原因: この関数は既存のファイルにアクセスできませんでした。

処置: ユーザーにファイルに要求される権限があることを確認してください。

ORA-30161 OCIFile 関数コール中にシステム・エラーが発生しました。

原因: OCIFile 関数実行中にシステム・エラーが発生しました。

処置: エラー・メッセージを調べ、解決してください。

ORA-30162 OCIFile コンテキストが初期化されていません。

原因：OCIFile 関数をコールする前に、関数 OCIFileInit をコールして、OCIFile コンテキストを初期化する必要があります。

処置：その他の OCIFile 関数をコールする前に、関数 OCIFileInit をコールしてください。

ORA-30163 スレッド・セーフティの初期化に失敗しました。

原因：SlgInit へのコールが OCIFileInit で失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30175 引数に無効な型があります。

原因：引数リストに無効な型の引数があります。

処置：引数に正しい型ラッパーを使用してください。

ORA-30176 書式文字列に無効な書式コードがあります。

原因：書式文字列に無効な書式コードがあります。

処置：無効な書式コードを有効な書式コードに置き換えてください。

ORA-30177 書式仕様部に無効なフラグがあります。

原因：書式仕様部に無効なフラグがあります。

処置：無効なフラグを有効なフラグに置き換えてください。

ORA-30178 書式仕様部に重複しているフラグがあります。

原因：書式仕様部に重複しているフラグがあります。

処置：重複するフラグを削除してください。

ORA-30179 書式コードに無効な引数索引があります。

原因：ゼロ (0)、または負の引数索引または索引が (の前にあります。

処置：無効な引数を有効な引数に置き換えてください。

ORA-30180 引数の索引が大きすぎます。

原因：引数の索引が指定された引数の実際の数を超えています。

処置：書式文字列を修正して、追加の引数を渡してください。

ORA-30181 引数の索引中の整数の直後に右括弧 ')' がありません。

原因：引数の索引に閉じカッコがありません。

処置：書式指定を修正してください。

ORA-30182 精度指定子が無効です。

原因: 有効な書式が後に続かないピリオドが、書式指定にあります

処置: 無効な精度指定子を有効な精度指定子に置き換えてください。

ORA-30183 フィールド幅指定子が無効です。

原因: 無効なフィールド幅指定が指定されました。

処置: 無効なフィールド幅を有効なフィールド幅に置き換えてください。

ORA-30184 引数型が書式コードと矛盾します。

原因: 書式コードに不正な引数の型が指定されました。

処置: 書式および引数を互換性のあるようにしてください。

ORA-30185 出力が大きすぎるためバッファに格納できません。

原因: バッファが出力文字列全体を保持できるほど大きくありません。

処置: 渡されたバッファのサイズおよび長さを修正してください。

ORA-30186 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは将来のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30187 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは将来のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30188 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは将来のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30189 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは将来のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30190 今後使用予定の予約番号。

原因: このメッセージは将来のために確保されています。

処置: 処置は必要ありません。

ORA-30191 引数リストが見つかりません。

原因: 引数リストが指定されていません。

処置: 引数リストを変更して、少なくともそれに OCIFormatEnd があるようにしてください。

ORA-30192 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30193 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30194 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30195 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30196 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30197 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30198 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30199 今後使用予定の予約番号。

原因：このメッセージは将来のために確保されています。

処置：処置は必要ありません。

ORA-30200 無効な NLS 項目が OCINlsGetInfo() に渡されました。

原因：この項目は NLS 項目にサポートされていません。

処置：OCINlsGetInfo() に渡される項目番号を修正してください。

ORA-30201 NLS データ・オブジェクトをロードできません。

原因：このエラーは、無効な NLS 環境設定により発生することがあります。

処置：ORA_NLS33 などの NLS 環境設定を確認してください。

ORA-30202 OCIMsg 関数に OCIMsgh への NULL ポインタが渡されました。

原因: NULL ポインタが渡されました。

処置: OCIMsgh ポインタの値を確認してください。

ORA-30203 メッセージ・ファイルをオープンできません。

原因: メッセージがシステムに存在していない可能性があります。

処置: 指定された製品および機能を確認してください。

ORA-30331 サマリーが存在しません。

原因: 存在しないサマリー名が指定されました。

処置: サマリー名の綴りを確認してください。

ORA-30332 コンテナ表は別のサマリーですすでに使用されています。

原因: 別のサマリーがこの表をコンテナ表として使用しています。

処置: このサマリーに別の表またはスナップショットをコンテナ表として選択してください。

ORA-30333 ディメンションが存在しません。

原因: ディメンション DDL 文に名付けられたディメンションが存在しません。

処置: ディメンション名の綴りを確認してください。

ORA-30334 ディメンション・レベル名が無効です。

原因: ディメンション DDL 文のレベル名は SQL 識別子のルールに準拠していません。

処置: 英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下でなるレベル名を使用してください。

ORA-30335 JOIN KEY 句はこの階層以外のレベルを参照します。

原因: ディメンション DDL 文の JOIN KEY 句の REFERENCES 部分で指定したレベル名は、JOIN KEY 句を含む階層のレベルを参照しません。

処置: レベル名の綴りを確認してください。

ORA-30336 指定した JOIN KEY に子はありません。

原因: ディメンション DDL 文の JOIN KEY 句の REFERENCES 部分に指定したレベルには子レベルがありません。

処置: JOIN KEY 句で参照されたレベル名の綴りを確認してください。参照するレベルが階層の最初のレベルである場合、JOIN KEY 句を指定する必要はありませんし、指定してはいけません。

ORA-30337 同じ親レベルに対して複数の JOIN KEY 句が指定されました。

原因: ディメンション階層に指定された親レベルに複数の JOIN KEY が指定されました。

処置: 各 JOIN KEY 句を階層で参照されたレベルと一致させてください。重複している JOIN KEY 句を排除してください。

ORA-30338 ディメンション階層名が無効です。

原因: 無効なディメンション階層名がディメンション DDL 文に指定されました。

処置: 名前が英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下でなっていることを確認してください。名前を所有者名で修飾している場合、所有者名がシステムの所有者名の要件と一致していることを確認してください。

ORA-30339 ディメンション属性名が無効です。

原因: 無効なディメンション属性名がディメンション DDL 文に指定されました。

処置: 名前が英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下でなっていることを確認してください。名前を所有者名で修飾している場合、所有者名がシステムの所有者名の要件と一致していることを確認してください。

ORA-30340 ディメンション名が無効です。

原因: 無効なディメンション名がディメンション DDL 文に指定されました。

処置: 名前が英文字で始まり、英文字、数字、アンダースコアからなり、30 文字以下でなっていることを確認してください。名前を所有者名で修飾している場合、所有者名がシステムの所有者名の要件と一致していることを確認してください。

ORA-30341 削除されたレベルに参照があります。

原因: レベルへの参照がディメンションに存在する間に、ディメンションのデフォルトまたは RESTRICT オプションを使用してレベルを削除しようとしました。参照がディメンション内の階層および属性で発生する可能性があります。

処置: まず削除する前にレベルへの参照をすべて削除するか、CASCADE オプションを DROP LEVEL 句で指定してください。

ORA-30342 このディメンションには参照レベルが定義されていません。

原因: ディメンション内に定義されなかったレベルへの参照が見つかりませんでした。

処置: レベル名の綴りを確認してください。

ORA-30343 レベル名がこのディメンション内で一意ではありません。

原因: 2 つ以上のレベルを同じ名前で作成しました。

処置: レベル名の綴りを確認してください。

ORA-30344 子の列数が親レベルの列数と異なります。

原因：JOIN KEY 句で指定した子の列数が指定した親レベルの列数と異なります。

処置：子の列と参照される親レベルの定義の列を確認して、矛盾を修正してください。

ORA-30345 循環的なディメンション階層です。

原因：循環がディメンション階層に見つかりました。

処置：複数発生するレベル名の階層を確認してください。

ORA-30346 階層名はディメンション内で一意でなければなりません。

原因：同じ名前がディメンションの複数の階層に使用されました。

処置：階層名の綴りを確認してください。

ORA-30347 列仕様部を修飾するには表名が必要です。

原因：列が表名によって修飾される必要がある列指定で、表名が省略されました。

処置：列を表名で修飾してください。

ORA-30348 ADD と DROP の両方は指定できません。

原因：1 つ以上の DROP 句がある同じ ALTER DIMENSION 文に、1 つ以上の ADD 句が発見されました。

処置：ADD 操作を 1 つの ALTER DIMENSION 文に、DROP 操作を別の文に分けてください。

ORA-30349 指定したディメンション階層が存在しません。

原因：ディメンション内に定義されていない階層名が見つかりました。

処置：階層名の綴りを確認してください。

ORA-30350 指定したディメンション属性が存在しません。

原因：ディメンション内に定義されていない属性名が見つかりました。

処置：属性名の綴りを確認してください。

ORA-30351 クエリー・リライトは、現在この式をサポートしていません。

原因：クエリー・リライトに現在サポートされていない複雑な式が指定されました。

処置：式をより単純にしてください。

ORA-30352 数値精度または文字列の長さが整合しません。

原因：SELECT 式は対応するコンテナ列と異なる数値精度または文字列の長さです。このため、クエリー・リライトは、非クエリー・リライトで取得した結果と同じ結果を保証できません。

処置：精度または文字列の長さの違いを修正、WITH REDUCED PRECISION オプションを指定、またはマテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用禁止にしてください。

ORA-30353 式はクエリー・リライトでサポートされていません。

原因：選択句が UID、USER、ROWNUM、SYSDATE、CURRENT_TIMESTAMP、MAXVALUE、順序番号、バインド変数、相関変数、セット結果、トリガー戻り変数、パラレル表キュー列、コレクション・イテレータなどを参照しました。

処置：無効な式を削除するか、マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用禁止にしてください。

ORA-30354 クエリー・リライトは SYS リレーションではできません。

原因：SYS リレーションが、クエリー・リライトがあるマテリアライズド・ビューの選択句で参照されました。

処置：選択句から SYS リレーションへの参照を削除するか、マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用禁止にしてください。

ORA-30355 マテリアライズド・ビュー・コンテナが存在しません。

原因：DROP TABLE コマンドが、マテリアライズド・ビュー・コンテナ表に対して直接発行されました。

処置：DROP MATERIALIZED VIEW コマンドを使用して、マテリアライズド・ビューの残されたメタデータをクリーン・アップしてください。次に、CREATE MATERIALIZED VIEW 文を使用して、マテリアライズド・ビューを再作成してください。その後、DROP TABLE コマンドではなく DROP MATERIALIZED VIEW コマンドを使用して、マテリアライズド・ビューを削除してください。

PLS-30356 指定したリフレッシュ・メソッドは、このコンテキストではサポートされていません。

原因：指定されたリフレッシュ・メソッドが現在サポートされていません。

処置：別のリフレッシュ・メソッドを指定するか、コンテキストを変更して、選択するリフレッシュ・メソッドをサポート可能にしてください。

ORA-30357 この PL/SQL 機能は、クエリー・リライトでサポートできません。

原因：文が、DETERMINISTIC のマークが設定されていないファンクションを参照しました。

処置：次の処理の 1 つを実行してください。

- PL/SQL ファンクションの使用を削除する。
- PL/SQL ファンクションに DETERMINISTIC のマークを設定する。
- マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用禁止にする。

入力引数値の指定されたセットの同じ結果値を常に戻す場合のみ、ファンクションに DETERMINISTIC とマークしてください。意味のある副次効果がある場合、ファンクションに DETERMINISTIC とマークしないでください。

ORA-30358 サマリー・ビューとマテリアライズド・ビューが同一のスキーマにありません。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30359 クエリー・リライトは、SYS マテリアライズド・ビューでサポートされていません。

原因: SYS スキーマのマテリアライズド・ビューで、REWRITE オプションを使用可能にしようとした。

処置: 別のスキーマにマテリアライズド・ビューを作成するか、REWRITE オプションを使用禁止にしてください。

ORA-30360 REF は、クエリー・リライトでサポートされていません。

原因: 文に REF オペレータが含まれました。リピータブルな動作は REF オペレータで保証できません。このため、クエリー・リライトは REF オペレータをサポートできません。

処置: REF オペレータへの参照を削除するか、マテリアライズド・ビューの REWRITE オプションを使用禁止にしてください。

ORA-30361 文字列型が不明です。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30362 ディメンション列は連続にできません。

原因: ディメンジョン文が、連続する列を参照しました。

処置: 連続への参照を削除してください。

ORA-30363 ディメンション列リスト内の列は、同一リレーション内になければなりません。

原因: ディメンジョン文に、すべての列が同一のリレーションからでない列リストが含まれました。

処置: 単一リレーションからの列のみを使用して列のリストを指定してください。

ORA-30364 このレベルには、別のレベルと同一の列セットがあります。

原因: レベル定義には、別のレベルと同一の列セットがあります。

処置: 重複しているレベル定義を排除してください。

ORA-30365 JOIN KEY 句左側のリレーションは右側と同じにはできません。

原因: JOIN KEY 句左側の子列のリレーションが右側の親レベルのものと同じでした。

処置: JOIN KEY 句を削除してください。子と親が同じリレーションにある場合、要求または許可されません。

ORA-30366 子の JOIN KEY 列が子のレベルと同じリレーション内にありません。

原因：JOIN KEY 句左側の子列のリレーションが子レベルのものと違いました。

処置：JOIN KEY 句に正しい子列を指定してください。

ORA-30367 JOIN KEY 句が必要です。

原因：JOIN KEY 句がディメンション文で省略されました。子レベルと親レベルが同じリレーションにない場合、JOIN KEY 句が必要です。

処置：JOIN KEY 句を指定して、子レベルのリレーションと親レベルのリレーションの結合方法を指定してください。

ORA-30368 ATTRIBUTE は別のリレーションにある列を判断できません。

原因：ディメンション文の ATTRIBUTE 句が、左側のレベルのものと異なるリレーションである右側の判断された列を指定しました。

処置：同じリレーション内にあるその他の列を機能的に判断するディメンション・レベルのみの属性を指定してください。

ORA-30369 列の最大数は 32 です。

原因：列のリストが、32 を超える列を使用して指定されました。

処置：32 以下の列を使用してリストを指定してください。

ORA-30370 オペレータの設定はこのコンテキストではサポートされていません。

原因：UNION、UNION ALL、INTERSECT または MINUS などのセット・オペレータが、マテリアライズド・ビュー定義などのサポートされていないコンテキストで発見されました。

処置：式を指定し直して、セット・オペレータを使用しないでください。

ORA-30371 列に 2 ディメンション以上のレベルを定義することはできません。

原因：別のディメンションでレベルを定義するためにすでに使用された後、列がレベルの定義に使用されました。

処置：ディメンション・レベルおよび階層を単一ディメンションに再編成して、列が別のディメンションでのレベルの定義に使用されないようにしてください。ディメンションに置けるレベルまたは階層の数に制限がありません。すべてのレベルが同じディメンションにあり、2 つのレベルに列の同一のセットが含まれない場合、列を使用していくつでもレベルを定義できます。

ORA-30372 細密アクセス・ポリシーがマテリアライズド・ビューと競合します。

原因：ファイングレイン・アクセス・コントロール・プロシージャが、NULL でないルールをマテリアライズド・ビューの問合せに適用しました。

処置: マテリアライズド・ビューを正しく動作させるには、問合せに有効なファイングレイン・アクセス・コントロール・プロシージャが、マテリアライズド・ビューの作成またはリフレッシュ中に NULL ルールを戻す必要があります。これは、マテリアライズド・ビューに対するリフレッシュ・プロシージャの作成者、所有者および実行者のユーザー名が、ユーザー書込みファイングレイン・アクセス・コントロール・プロシージャによってすべての NULL ルールを受け取ることによって可能になります。

ORA-30373 このコンテキストでは、オブジェクト・データ型はサポートされません。

原因: オブジェクト型が、マテリアライズド・ビュー定義などのサポートされていないコンテキストで発見されました。

処置: オブジェクトを使用しないように、式を指定し直してください。

ORA-30374 マテリアライズド・ビューはすでにリフレッシュ済みです。

原因: マテリアライズド・ビューがすでにリフレッシュ済みの場合、Oracle は ALTER MATERIALIZED VIEW <mv> RELY FRESH コマンドを無視して、このエラー・メッセージを発行します。

処置: 処置はありません。

ORA-30375 新規のマテリアライズド・ビューとはみなせません。

原因: マテリアライズド・ビューが無効または使用禁止の場合、ALTER MATERIALIZED VIEW <mv> CONSIDER FRESH コマンドを使用して、リフレッシュ済であると判断することができません。

処置: 処置はありません。

ORA-30430 リストに有効なサマリーが含まれていません。

原因: リストが空か、既存のサマリーの名前が含まれていません。

処置: リフレッシュに渡された名前のリストに、少なくとも 1 つの既存のサマリー・オブジェクトの名前が含まれていることを確認してください。

ORA-30431 リフレッシュ・メソッドは必ず ANY、INCREMENTAL または FORCE_FULL で、*string* ではありません。

原因: 無効なリフレッシュ・メソッドが指定されました。

処置: リフレッシュ・メソッドが 'ANY'、'INCREMENTAL' または 'FORCE_FULL' のいずれかであることを確認してください。

ORA-30432 サマリー *string.string* は無効な状態です。

原因: サマリーが INVALID 状態で、リフレッシュできません。

ORA-30433 *string.string* はサマリーではありません。

原因: そのようなサマリーがないため、リフレッシュできません。

処置: サマリーの正しい名前を検証してください。

ORA-30434 リフレッシュ・メソッドは、*string* ではなく、FC?AN の 1 つでなければなりません。

原因：無効なリフレッシュ・メソッドが指定されました。

処置：リフレッシュ・メソッドが 'FC?AN' の 1 つであることを確認してください。

ORA-30435 サマリーをリフレッシュするには、*job_queue_processes* がゼロ以外でなければなりません。

原因：サーバーは、0（ゼロ）を超えるパラメータ `JOB_QUEUE_PROCESSES` で始まる必要があります。

処置：`JOB_QUEUE_PROCESSES` の値を修正して、サーバー・インスタンスを再起動してください。

ORA-30436 名前付きパイプ *string* をオープンできません。

原因：システム・リソースが不十分なため、リフレッシュ・プロセスがジョブ・キュー・プロセスへの名前付きパイプをオープンできませんでした。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMS-30437 すべてのジョブ・キュー・プロセスの実行が停止しました。

原因：リフレッシュによって使用されるすべてのジョブ・キュー・プロセスの実行が、何らかの理由で停止しました。少なくとも 1 つのジョブ・キュー・プロセスが、サマリーをリフレッシュするために実行している必要があります。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30438 名前付きパイプ *string* にアクセスできません。

原因：リフレッシュ・プロセスは、パイプを正常にオープンした後に、ジョブ・キュー・プロセスへの名前付きパイプにアクセスできませんでした。通常、これは内部エラーまたはオペレーティング・システム・エラーの可能性があります。これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30439 *string.string* のリフレッシュに失敗しました (*string* のため)。

原因：リフレッシュ・ジョブ・キュー・プロセスでエラーが見つかり、報告しています。メッセージに続いて表示されるテキストは、エラーの原因を示しています。

処置：報告された原因によって、異なります。

ORA-30450 *refresh_after_errors* が TRUE でした、1 つ以上のエラーが発生しました。

原因：複数のサマリーのリフレッシュ中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

処置：`NUMBER_OF_FAILURES` パラメータが、障害の発生した数を戻します。各リフレッシュ操作のトレース・ログは各障害の詳細を説明します。

ORA-30451 内部エラー

原因: 内部エラーがサマリー・リフレッシュ・サブシステムによって検出され、リフレッシュ操作を強制終了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30452 COUNT(X) または SUM(X) がないと、AVG(X)、VARIANCE(X) または STDDEV(X) を計算できません。

原因: サマリーの増分リフレッシュには、段階的に AVG(X) をリフレッシュするために、COUNT(X) 列が必要です。STDDEV(X) または VARIANCE(X) をリフレッシュするためには、SUM(X) と COUNT(X) 列の両方が必要です。

処置: 増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30453 サマリーに対応する COUNT がない AVG が含まれています。

原因: AVG(X) があるサマリーの増分リフレッシュには、サマリー定義に含まれる COUNT(X) 列が必要です。

処置: 増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30454 サマリーに対応する SUM と COUNT がない STDDEV が含まれています。

原因: STDDEV(X) があるサマリーの増分リフレッシュには、サマリー定義に含まれる COUNT(X) および SUM(X) 列が必要です。

処置: 増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30455 サマリーに対応する SUM と COUNT がない VARIANCE が含まれています。

原因: VARIANCE(X) があるサマリーの増分リフレッシュには、サマリー定義に含まれる COUNT(X) および SUM(X) 列が必要です。

処置: 増分リフレッシュ機能が必要な場合、必要な列がサマリー定義の一部であることを確認してください。

ORA-30456 権限が不十分なため、*string.string* をリフレッシュできません。

原因: ユーザーにはサマリーをリフレッシュするために必要な権限が、1 つ以上不足しています。

処置: ユーザーに必要なすべての権限が付与されていることを確認してください。

ORA-30457 コンテナ内の管理されていない NOT NULL 列のために、*string.string* をリフレッシュできません

原因: サマリーのコンテナ・オブジェクトに、NULL を許可せず、列にデフォルト値を指定しない非管理状態の列が 1 つ以上含まれています。

処置: デフォルト値が、サマリー定義の一部ではないすべての NOT NULL 列に指定されていることを確認してください。

ORA-30458 *string.string* をリフレッシュできません、リフレッシュ・マスクは *string* となっています。

原因：段階的にリフレッシュできないサマリーを段階的にリフレッシュしようとした。

処置：サマリーを段階的にリフレッシュするかわりに、完全リフレッシュを使用してください。

ORA-30459 リフレッシュ・メソッドが NONE のため、*string.string* をリフレッシュできません。

原因：リフレッシュ・メソッドが NONE であるサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：リフレッシュ・サマリーが NONE (NEVER REFRESH) であるサマリーは、リフレッシュできません。サマリーを変更して、デフォルト・リフレッシュ・メソッドを NONE からその他の値に変更してください。

ORA-30460 UNUSABLE にマーク設定されているので、*string.string* をリフレッシュできません。

原因：UNUSABLE であるサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：サマリーが UNUSABLE である原因を判断し、再び使用可能にして、リフレッシュを再試行してください。

ORA-30461 *string.string* をリフレッシュできません。マークは DISABLED となっています。

原因：DISABLED であるサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：サマリーが DISABLED である原因を判断し、再び使用可能にして、リフレッシュを再試行してください。

ORA-30462 サポートされていないオペレータ： *string*

原因：サポートされていないオペレータを含むサマリーをリフレッシュしようとした。

処置：サマリーのすべての列が、リフレッシュ可能な式を含んでいることを確認してください。

ORA-30463 *string* はサマリーの詳細表ではありません。

原因：REFRESH_DEPENDENT に渡された表のリストに、少なくとも 1 つの無効な表が含まれています。この表はサマリーのディテール表でないため、REFRESH_DEPENDENT への無効な入力です。

処置：リストにあるすべての表の名前が正しいことを確認してください。

DBA-30464 サマリーはありません。

原因: REFRESH_ALL_MVIEWS へコールされましたが、サマリーがありません。REFRESH_ALL_MVIEWS をコールする前には、少なくとも 1 つのサマリーが必要です。

処置: 1 つ以上のサマリーを作成してください。

ORA-30475 機能は使用できません: *string*

原因: 指定された機能が使用可能ではありません。

処置: この機能は使用しないでください。

ORA-30476 PLAN_TABLE はユーザーのスキーマには存在しません。

原因: Estimate_Summary_Size は Oracle SQL の "EXPLAIN PLAN" コマンドを使用して、指定した選択句のカーディナリティを推定します。これには、ユーザーのスキーマに PLAN_TABLE と呼ばれる表が必要です。詳細は、『Oracle8i SQL リファレンス』を参照してください。

処置: EXPLAIN PLAN に記述されているように、PLAN_TABLE を作成してください。ほとんどのシステムでは、スクリプト UTLXPLAN.SQL がこの表を作成します。

ORA-30477 入力 select_clause の指定が正しくありません。

原因: Estimate_Summary_Size への入力選択句が正しく指定されず、コンパイルできません。

処置: 選択句の構文を調べてください。

ORA-30478 指定されたディメンションは存在しません。

原因: 検証される指定したオプションは存在しません。

処置: ディメンション名の綴りを確認してください。

ORA-30479 Summary Advisor エラーです. *string*

原因: サマリー・アドバイザー・パッケージでエラーが発生しました。このメッセージの後に、エラーの質に関する詳細を記した 2 番目のメッセージが続きます。

処置: 2 番目のエラー・メッセージの説明に関しては、サマリー・アドバイザーのドキュメントを参照してください。

ORA-30480 DISTINCT オプションは、GROUP BY CUBE または ROLLUP と一緒に使用できません。

ORA-30481 GROUPING 機能は、GROUP BY CUBE または ROLLUP を伴う場合だけサポートされます。

ORA-30482 このファンクションに DISTINCT オプションは使用できません。

ORA-30483 ここでウィンドウ・ファンクションは使用できません。

原因：ウィンドウ・ファンクションを使用できるのは、問合せの SELECT リストのみです。また、ウィンドウ・ファンクションを、他のウィンドウ・ファンクションまたはグループ・ファンクションの引数として使用することはできません。

ORA-30484 このファンクションのウィンドウ仕様部が欠落しています。

原因：すべてのウィンドウ・ファンクションには、<function>(<argument list>) OVER (<window specification>) のように、ウィンドウ仕様部を指定する必要があります。

ORA-30485 ウィンドウ仕様部で ORDER BY 式が欠落しています。

原因：このファンクションに必須の ORDER BY 式が指定されていないか、または ORDER BY 式が指定されていない集合グループがあります。

ORA-30486 ウィンドウ仕様部のウィンドウ集合グループが無効です。

原因：RANGE オプションを使用してウィンドウ仕様部を指定し、そのウィンドウ仕様部に複数の ORDER BY 式がある場合、集合グループに式を含めることはできません (集合グループに含めることができるのは、CURRENT ROW、UNBOUNDED PRECEDING または UNBOUNDED FOLLOWING のみです)。1 番目のエンド・ポイント (バウンド) を UNBOUNDED FOLLOWING に、2 番目のエンド・ポイントを UNBOUNDED PRECEDING にすることはできません。1 番目のエンド・ポイントが CURRENT ROW の場合、2 番目のエンド・ポイントは、CURRENT ROW または <expr>/UNBOUNDED FOLLOWING にすることができます。また、1 番目のエンド・ポイントが <expr> FOLLOWING の場合、2 番目のエンド・ポイントは、<expr>/UNBOUNDED FOLLOWING にすることができます。

ORA-30487 ここで ORDER BY は使用できません。

原因：DISTINCT ファンクションおよび RATIO_TO_REPORT で、ORDER BY を使用することはできません。

ORA-30488 NTILE の引数には、PARTITION BY の式のファンクションを指定してください。

原因：NTILE(N) では、N はパーティションの定数である必要があります。

ORA-30489 ROLLUP/CUBE の式リストは複数保持できません。

原因：GROUP BY 句に 2 つ以上の ROLLUP/CUBE 式リストがあります。

処置：1 つの副問合せが 1 つの ROLLUP/CUBE 式のみを保持するように、問合せを修正してください。

ORA-30490 GROUP BY ROLLUP または CUBE リストにあいまいな式があります。

原因: GROUP BY ROLLUP または CUBE リストにある式が、汎用の GROUP BY 式リストにある式と一致しています。

処置: 汎用の GROUP BY 式リスト、および ROLLUP または CUBE 式リストから、その式を削除してください。

ORA-30500 データベース・オープン・トリガーとサーバー・エラー・トリガーに、BEFORE 型は使用できません。

原因: データベースがオープンする前またはサーバーにエラーが発生する前に起動するトリガーを作成しようとしたが、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: データベースがオープンする前、またはサーバーにエラーが発生する前に起動するトリガーを作成しようとしないでください。

ORA-30501 インスタンス・シャットダウン・トリガーに AFTER 型は使用できません。

原因: インスタンス・シャットダウンの後に起動するトリガーを作成しようとしたが、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: インスタンス・シャットダウンの後に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30502 システム・トリガーに、実行タイミング・イベントとして INSERT、UPDATE または DELETE は使用できません。

原因: INSERT、UPDATE または DELETE 実行タイミング・イベントでシステム・トリガーを作成しようとしたが、システム・トリガーにはベース表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: INSERT、UPDATE または DELETE 実行タイミング・イベントでシステム・トリガーを作成しないでください。

ORA-30503 システム・トリガーに REFERENCING 句は使用できません。

原因: システム・トリガーで REFERENCING 句を使用しようとしたが、システム・トリガーにはベース表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: システム・トリガーで REFERENCING 句を使用しないでください。

ORA-30504 システム・トリガーに FOR EACH ROW 句は使用できません。

原因: システム・トリガーで FOR EACH ROW 句を使用しようとしたが、システム・トリガーにはベース表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: システム・トリガーで FOR EACH ROW 句を使用しないでください。

ORA-30505 システム・トリガーは、WHEN 句の列を参照しないでください。

原因: システム・トリガーで列を参照するために WHEN 句を使用しようとしたが、システム・トリガーにはベース表がないため、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: WHEN 句を適切な句に変更してください。

ORA-30506 システム・トリガーは表またはビューを基準にできません。

原因: 表またはビューでシステム・トリガーをベースにしようとした。

処置: この型のトリガーがベース・オブジェクトと互換性があることを確認してください。

ORA-30507 標準トリガーはスキーマまたはデータベースを基準にできません。

原因: スキーマまたはデータベースで標準トリガーをベースにしようとしたが、標準トリガーは表またはビューでのみベースにされます。

処置: この型のトリガーがベース・オブジェクトと互換性があることを確認してください。

ORA-30508 クライアント・ログオン・トリガーに BEFORE 型は使用できません。

原因: ログインする前に起動するトリガーを作成しようとした。この型のトリガーはサポートされていません。

処置: ログインする前に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30509 クライアント・ログオフ・トリガーに AFTER 型は使用できません。

原因: ログオフした後に起動するトリガーを作成しようとした。この型のトリガーはサポートされていません。

処置: ログオフした後に起動するトリガーを作成しないでください。

ORA-30510 システム・トリガーは SYS ユーザーのスキーマで定義できません。

原因: SYS ユーザーのスキーマでシステム・トリガーを定義しようとした。現在、この型のトリガーはサポートされていません。

処置: SYS ユーザーのスキーマでシステム・トリガーを作成しないでください。

ORA-30511 システム・トリガーによる、無効な DDL 操作。

原因: システム・トリガーで無効な DDL 操作を実行しようとした。ほとんどの DDL 操作は、システム・トリガーでは現在サポートされていません。現在サポートされている DDL 操作は、表操作と ALTER TRIGGER COMPILE 操作のみです。

処置: システム・トリガーの無効な DDL 操作を削除してください。

ORA-30512 同一トランザクション内で *string.string* を 2 回以上変更することはできません。

原因: 同一トランザクション内でオブジェクトを 2 回以上変更しようとした。このエラーは、通常同じオブジェクトの変更を試行するシステム・トリガーを起動する DDL 文によって発生します。また、操作間のコミットを発行しないで、同一トランザクション内のキュー表で 2 つ以上の DDL 操作を実行しようとするときも発生します。

処置: すでに変更されているオブジェクトを変更する可能性のあるシステム・トリガーを作成しないでください。また、同一トランザクション内のキュー表で 2 つ以上の DDL 操作を指定しないでください。

ORA-30513 INSTEAD OF 型のシステム・トリガーを作成できません。

原因: システム・イベントで作成できるのは BEFORE または AFTER トリガーのみです。

処置: トリガー型を BEFORE または AFTER に変更してください。

ORA-30514 システム・トリガーでは読取り専用で作成された表領域を変更できません。

原因: DDL 処理の一部として読取り専用で作成された表領域を BEFORE トリガーが変更しようとしています。

処置: 読取り専用として作成された表領域と同じ表領域にあるオブジェクトへの変更を行わないようにトリガーを修正するか、または、自律型トランザクションを使用して変更をコミットしてください。

ORA-30550 索引が無効なパッケージ / 仕様書 / 本体に依存しています。

原因: ファンクション索引が、無効で存在しないパッケージ / ファンクション指定の本体に依存しています。

処置: 索引が依存するすべてのパッケージ / ファンクションが存在し、有効であることを確認してください。

ORA-30551 この索引は存在しないパッケージ / 型の本体に依存しています。

原因: このファンクション索引は存在しないパッケージ / 型の本体に依存しています。

処置: パッケージ / 型の本体を作成してください。

ORA-30552 パッケージ / プロシージャ / 関数は変更できません。

原因: パッケージ / プロシージャ / ファンクションは DETERMINISTIC で、いくつかのオブジェクトはそれに依存しています。

処置: 変更しようとしているパッケージ / ファンクション / プロシージャに依存している他のオブジェクトを削除してください。

ORA-30553 関数が決定的なものではありません。

原因: 索引が定義されているファンクションは DETERMINISTIC なものではありません。

処置: 機能に DETERMINISTIC のマークを設定してください。

ORA-30554 ファンクション・ベース索引 *string.string* は使用できません。

原因: 索引が依存しているファンクションが変更されたため、使用不可のマークが設定されたファンクション索引にアクセスしようとした。

処置: 次の処理の 1 つを実行してください。

- DROP INDEX コマンドを使用して、指定した索引を削除する。
- ALTER INDEX REBUILD コマンドを使用して、指定した索引を再構築する。
- ALTER INDEX ENABLE コマンドを使用して、指定した索引を使用可能にする。
- ALTER INDEX UNUSABLE コマンドを使用して、指定した索引を使用可能にする。

ORA-30555 グローバル索引パーティション化キーが式になっています。

原因: 索引のパーティション化キーとして式を使用しようとした。

処置: 索引パーティション化キーとして式を使用しないでください。

ORA-30556 機能索引が変更を行う列に定義されています。

原因: ファンクション索引が定義されている列に対して、ALTER TABLE MODIFY COLUMN が発行されました

処置: 列を変更する前に、ファンクション索引を削除してください。

ORA-30560 SAMPLE オプションは索引構成表には使用できません。

ORA-30561 SAMPLE オプションは複数の表参照がある文には使用できません。

ORA-30562 SAMPLE パーセンテージは必ず範囲内 (0.000001 ~ 100) で指定してください。

ORA-30575 ConText オプションがインストールされていません。

原因: Oracle 実行可能プログラムには、リンクされている ConText オプションがありません。

処置: Oracle の正しいバージョンを入手してください。

ORA-30576 ConText オプションのディクショナリ・ロード・エラーです。

原因: ConText ディクショナリ表が壊れている可能性があります。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

ORA-30625 NULL SELF 引数のメソッド・ディスパッチは許可されていません。

原因: 型のメンバー・ファンクションは NULL SELF 引数で起動されています。

処置: メソッド起動を変更して、有効な自己引数を渡してください。

ORA-30726 参照する列のリストはここに指定できません。

原因: REF 列が関係する参照制約の参照する列リストを指定しようとした。

処置: 参照する列リスト指定を削除してください。

ORA-30727 REF 列の参照制約が重複しています。

原因: 複数の参照制約が単一の REF 列に対して指定されました。

処置: 重複した参照制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30728 最大列数を超えました。

原因：REF 列に参照制約を追加するには、追加の列を作成する必要があります。

処置：いくつかの列を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30729 最大列数を超えました。

原因：REF 列に有効範囲または参照制約を追加するには、ターゲット表のオブジェクト識別子が主キー・ベースの場合、追加の列を作成する必要があります。

処置：いくつかの列を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30730 ネストされた表の列には参照制約を使用できません。

原因：NESTED TABLE の列に参照制約を定義しようとしてしました。

処置：NESTED TABLE の列には参照制約を指定しないでください。

ORA-30731 ネストされた表の作成時には、ネストされた表の列に有効範囲制約を使用できません。

原因：NESTED TABLE の作成中に、NESTED TABLE の列に有効範囲制約を定義しようとしてしました。

処置：作成中は、NESTED TABLE の列に有効範囲制約を指定しないでください。そのかわりに、ALTER TABLE 文を使用して指定してください。

ORA-30732 表にユーザーが表示できる列がありません。

原因：ユーザーが表示できる列がないシステム表を問い合わせようとしてしました。

処置：ユーザーが表示できる列がないシステム表を問い合わせないでください。

ORA-30733 有効範囲内の参照列に rowid 制約は指定できません。

原因：有効範囲内の REF 列に ROWID 制約を指定しようとしてしました。

処置：ROWID 制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30734 rowid 付きの参照列に有効範囲制約は指定できません。

原因：ROWID 制約のある REF 列の有効範囲制約を指定しようとしてしました。

処置：有効範囲制約を削除して、操作を再試行してください。

ORA-30926 ソース表の永続的な一連の行を取得できません。

原因：永続的な一連の行は、DML アクティビティが大量であるか、WHERE 句が指定されていないために取得できません。

処置：WHERE 句が指定されていない文は削除して、DML を再発行してください。

第Ⅲ部

サーバー・ユーティリティ・メッセージ

第Ⅱ部には、次の章があります。

- 第 15 章「Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)」
- 第 16 章「エクスポート・メッセージ (EXP)」
- 第 17 章「インポート・メッセージ (IMP)」
- 第 18 章「パラメータ・メッセージ (LRM)」
- 第 19 章「パラメータ・メッセージ (LCD)」
- 第 20 章「BFILE 関連のメッセージ (LFI)」
- 第 21 章「PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)」
- 第 22 章「サマリー・アドバイザ・メッセージ (QSM)」
- 第 23 章「Recovery Manager メッセージ (RMAN)」
- 第 24 章「SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)」

Oracle Trace Collection Services メッセージ (EPC)

この章では、CLI、サービス、フォーマットおよびレポートを含む Oracle Trace Collection Services メッセージのエラーを記載します。

Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ

Oracle Trace についてオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡する場合、次の情報を用意してください。

- ご使用の Oracle Trace のバージョン。
- データベース・コレクションのエラーが発生した場合、そのデータベースのバージョン。
- Oracle Intelligent Agent のバージョン。
- ご使用のオペレーティング・システムおよびバージョン（クライアントとサーバーの両方）。
- エラー発生時に実行していた操作。つまり、エラー再生の手順。
- EPC_ERROR.LOG にログした場合に発生したエラーの詳細および Oracle Trace Manager のロギング・ウィンドウの情報。
- 構成情報（たとえば、1 つ以上の ORACLE_HOMES が存在するか、1 つ以上のデータベースが存在するか）。
- .cdf および .dat ファイルのコレクションは作成されたか。作成された場合、そのサイズ。

EPC-00000 ～ EPC-00358

EPC-00001 無効なイベント・フラグが渡されました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。エラーが返された場合、いくつかの低レベルのルーチンが、Oracle Trace コードに処理されなかった 1 の状態を戻した可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00002 無効な製品 ID が渡されました。

原因: 無効な製品 ID が渡されました。

処置: 1 ~ 999999 の間で有効な製品 ID を指定してください。

EPC-00003 無効な製品バージョンが渡されました。

原因: 無効な製品バージョン番号が渡されました。

処置: 製品バージョン番号の長さを 11 バイト以下で指定してください。

EPC-00004 無効な製品登録 ID が渡されました。

原因: 無効な製品 ID が渡されました。

処置: 製品登録 ID の長さを 256 バイト以下で指定してください。

EPC-00006 コレクションは使用禁止です。

原因: EPC_DISABLED の環境変数の使用によって、Oracle Trace データのコレクションは使用禁止にされています。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00007 製品バージョンが必要です。

原因: 製品バージョン番号が指定されていません。

処置: 製品バージョン番号を指定してください。

EPC-00008 この製品に対して epc_init ルーチンが 2 回コールされました。

原因: epc_init ルーチンが製品に対してすでにコールされています。

処置: コードを調べて、EPC_INIT ルーチンが 1 回以上コールされていないか、EPC_INIT ルーチンが正しい位置でコールされているかどうかを確認してください。

EPC-00014 製品番号が未指定です。

原因: 製品番号の引数が Oracle Trace API ルーチン（たとえば、EPC_EVENT ルーチン）に指定されませんでした。

処置: 製品番号を指定してください。

EPC-00015 メモリーが不十分です。

原因: メモリーの割当てに失敗しました。システムの使用可能なメモリーが不十分です。

処置: 実行しているプロセスを減らして、同様の Oracle Trace コレクションを実行してください。ご使用のメモリーが不十分の可能性あります。

EPC-00020 Oracle Trace がメモリーにアクセスできません。

原因：マップされたメモリー管理 .dat ファイルの 1 つが満杯になったときに、Oracle Trace は、そのファイルのサイズを拡張することができませんでした。これは、Windows NT の場合にだけ発行されます。その他のプラットフォームでは、ユーザーの処置がなくても、必要に応じてファイルは拡張されます。

処置：現在実行している Oracle Trace コレクションが終了するのを待って、*.dat ファイル上の領域を解放してください。Oracle Trace コレクションが実行されていない（および Oracle データベース・プロセスがファイルに接続されていない）場合、otrcrcref イメージを実行して、空の .dat ファイルを新たに作成してください。Otrccref を実行するときに、必要に応じてより大きいファイル・サイズを指定してください。たとえば、otrcrcref -f200 -c32 -r400 です。

EPC-00023 製品はデータを収集していません。

原因：コレクションはアクティブですが、指定されたインストルメント製品はコレクションの一部ではありません。

処置：コレクションに正しい製品バージョンが指定されたかを確認してください。

EPC-00030 コレクションが見つかりません。

原因：Oracle Trace の操作（たとえば、取消し）を実行したいコレクションが、現在 Oracle Trace Collection Services に認識されていません。

処置：存在するコレクションの名前を指定してください。

EPC-00035 レコード長が無効です。

原因：EPC_EVENT コールで無効のレコード長が見つかりました。

処置：EPC_EVENT コールで有効なレコード長については、『Oracle Enterprise Manager Trace ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

EPC-00036 無効なイベントが渡されました。

原因：無効なイベント番号が渡されました。

処置：有効なイベント番号を指定してください。

EPC-00037 イベント番号が無効です。

原因：イベントに対して 0 が指定されました。

処置：有効なイベント番号を指定してください。

EPC-00038 ハンドルが未指定です。

原因：NULL のハンドル引数が、START_EVENT または END_EVENT コール上で指定されました。

処置：コールのハンドル・アドレスを指定してください。

EPC-00039 指定されたイベントではデータを収集していません。

原因: 製品は収集していますが、イベントは収集していません。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00040 データ・コレクション・ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

原因: データがデータ・コレクション・ファイルに書き込めません。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00043 データ・ファイル・ロックの取得でエラーが発生しました。

原因: コレクション・データ・ファイルの更新での異常に高い競合によって、ファイルでの書き込みロックの取得が妨げられました。

処置: コレクションのプロセスが少ないときに、再試行してください。

EPC-00046 一般エラー・メッセージです。

原因: 通常、このエラーは基礎となるエラーの値がハンドルされた値の範囲外のとき、Oracle Trace Manager によって戻されます。異常な条件下では、原因不明のエラーの報告にも使用されます。

処置: EPC_ERROR.LOG ファイルにエラーがある場合、詳細を調べて、原因および処置の説明を参照してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00047 無効なコンテキスト値が渡されました。

原因: 無効なコンテキスト値が、Oracle Trace API ルーチン（たとえば、EPC_EVENT）に渡されました。

処置: API ルーチン・コールに有効なコンテキスト引数を指定してください。

EPC-00048 コンテキストが渡されませんでした。1 つは渡されるはずです。

原因: Oracle Trace API ルーチンにコンテキストが渡されませんでした。1 つは渡されるはずです。

処置: コンテキストを渡してください。

EPC-00049 thread_id が現行のスレッドではありません。

原因: 現行のスレッドにコンテキストが設定されていません。

処置: 現行のスレッドにコンテキストを設定してください。

EPC-00053 登録 ID はすでに存在しています。

原因: EPC_INIT コールで指定されたオプションの登録文字列が重複しています。

処置: インストルメント・コードを修正してください。

EPC-00054 製品の制限を超えています。

原因: コレクションごとに 5 つの製品という制限を超えています。

処置: 処置は必要ありません。ただし、最も古いコレクションへの接続を失います。

EPC-00055 データ・コレクション・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: データ・コレクション・ファイルをオープンしようとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: コレクション・ファイルの存在を検証して、ファイルの保護を確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00056 コレクション定義ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: コレクション定義ファイル (.cdf) をオープンしようとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: コレクションのコレクション定義ファイル (.cdf) の存在を検証し、ファイルの保護を確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00057 製品間項目番号が無効です。

原因: コール（たとえば、EPC_CF_VALUE コール）で無効な製品間項目番号が指定されました。

処置: 1 ～ 14 までの製品間番号を指定してください。

EPC-00058 epc_init コールが必要です。

原因: EPC_INIT コールが必要ですが、見つかりませんでした。

処置: コードを調べて、EPC_INIT が正しい位置でコールされているかどうかを確認してください。

EPC-00060 データ・コレクション・ファイルが必要です。

原因: データ・コレクション・ファイルが、たとえば EPC_COLLECT コールに、指定されませんでした。

処置: インストルメント・コードを確認してください。

EPC-00061 製品定義ファイルが必要です。

原因: 製品定義ファイル (.fdt) が、たとえば EPC_COLLECT コールに、指定されませんでした。

処置: インストルメント・コードを確認してください。

EPC-00062 コレクションはすでにアクティブです。

原因: 指定されたコレクションはすでにアクティブです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00063 製品定義ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: 指定された製品定義ファイル (.fdf) を読み込もうとしているときに、たとえば EPC_COLLECT コールで、エラーが発生しました。

処置: 製品定義ファイルの存在を検証し、ファイルの保護を確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00064 データ・コレクション・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: データ・コレクション・ファイル (.dcf) を作成しようとしているときにエラーが発生しました。

処置: Oracle Trace 管理 /cdf ディレクトリ上の保護設定を確認してください。また、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00065 コレクション定義ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: 指定されたコレクション定義ファイル (.cdf) を作成しようとしているときにエラーが発生しました。

処置: Oracle Trace 管理 /cdf ディレクトリ上の保護設定を確認してください。また、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00066 コレクション定義ファイルの書き込みでエラーが発生しました。

原因: 指定されたコレクション定義ファイル (.cdf) に書き込もうとしているときにエラーが発生しました。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00067 製品定義ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: 製品定義ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: 製品定義ファイル (.fdf) の存在を検証し、存在する場合は、ファイルの保護を確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00068 コレクション定義ファイル内にシーク・エラーがあります。

原因: コレクション定義ファイル (.cdf) でシーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00069 OS 名やバージョンなどのプラットフォーム / システム情報の取得でエラーが発生しました。

原因: オペレーティング・システムが確認されませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00070 ホスト名の取得でエラーが発生しました。ホストを識別できません。

原因: ホスト名が確認されませんでした。プラットフォーム固有のコールがホストの取得に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00071 無効な最大イベントが指定されました。

原因: 指定された最大イベントが無効です。

処置: 0 より大きく 128 より小さい最大イベントを指定してください。

EPC-00072 returned_eflags パラメータが必要です。

原因: 戻されたイベント・フラグ・パラメータが必要でしたが、EPC_INIT コール上では見つかりませんでした。

処置: EPC_INIT コールに必要な情報を指定してください。

EPC-00073 無効なオフセット値が指定されました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00075 ファイル名が必要です。

原因: ファイル名が必要でしたが、見つかりませんでした。たとえば、.fdf ファイル名はコレクションを起動するために必要です。

処置: ファイル名を指定してください。

EPC-00076 epc_init コールには predefined_eventflags パラメータが必要です。

原因: PREDEFINED_EVENTFLAGS パラメータが必要でしたが、NULL ポインタが EPC_INIT コール上で渡されました。

処置: EPC_INIT コールに必要な情報を指定してください。

EPC-00077 epc_init コールに無効なイベント・キー・オプション値が指定されました。

原因: EPC_INIT コール上で指定されたイベント・キー・オプションが無効です。

処置: EPC_INIT コールで有効なイベント・キー・オプション引数を指定してください。

EPC-00078 機能はまだインプリメントされていません。

原因: この機能はまだインプリメントされていません。

処置: この機能は使用しないでください。処置は必要ありません。

EPC-00080 ファイルの追加シークに失敗しました。

原因: ファイル I/O シークが、追加操作中にファイルの起動（または終了）に失敗しました。これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00081 追加書込みに失敗しました。

原因: ファイルの追加操作中、たとえばコレクション定義ファイル (.cdf) の作成中、ディスク領域を超えました。

処置: ディスク領域を増加してください。

EPC-00082 追加読込みに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00083 製品定義ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00084 ファイルのメモリー・マッピングに失敗しました。

原因: Oracle Trace Collection Services とその他のコンポーネント（たとえば、データベース・サーバー・バージョン）との間に不整合がある場合、このメッセージが表示されます。ファイルがローカルでマウントされたディスク・デバイスに位置していない場合、Oracle Trace 管理 .dat ファイルのメモリー・マッピングはエラーを生成することもあります。

処置: Oracle Trace のドキュメントを参照するか、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00085 メモリーのマッピング解除に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00086 メモリー・マッピングの前には、メモリー・マッピングが必要です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00087 CLI ジョブを開始しています。

原因: この条件は、Oracle Trace にかわって Oracle Intelligent Agent が実行した Oracle Trace CLI ジョブの開始を通知するために使用されます。これはエラーではありません。

処置: 処置は必要ありません。Oracle Server リリース 7.3.3 では、エラー・メッセージ「PRO ファイルにプロセス・レコードを割り当てられません。」が読み込まれます。これは EPC-00084 との論理積でよく発生します。

EPC-00088 文字列の書式設定パッケージに対するコールに失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00089 event_id の値が epc_init の max_event を超えています。

原因: EPC_EVENT コールで指定された EVENT_ID パラメータの値が、EPC_INIT コール上で事前に指定された最大値より大きいです。

処置: 有効な EVENT_ID を指定してください。

EPC-00090 バージョン・レコード書込みでエラーが発生しました。

原因: システムのディスク領域が不足している可能性があります。

処置: ORACLE_HOME が位置するドライブに、十分なディスク領域があることを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00094 システム・タイムスタンプ・コールが失敗しました。

原因: Oracle Trace はシステムのタイムスタンプを取得できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00095 登録 ID レコードの新規追加でエラーが発生しました。

原因: システムのディスク領域が不足している可能性があります。

処置: ORACLE_HOME が位置するドライブに、十分なディスク領域があることを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00096 登録 ID ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00097 登録 ID ファイルの新規作成でエラーが発生しました。

原因：ユーザーに、Oracle Trace 管理 .dat ファイルがあるディレクトリ（たとえば、\$ORACLE_HOME/otrace/admin）に対する書き込みアクセスがないか、有効なディスク領域が不足している可能性があります。

処置：ディレクトリに対するアクセス権を与えるか、空きディスク領域を追加してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00098 登録 ID レコードの削除でエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00099 登録 ID 詳細レコードの削除でエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00100 新規登録 ID 詳細レコードに対する空きスロットの検索でエラーが発生しました。

原因：システムのディスク領域が不足している可能性があります。

処置：ORACLE_HOME が位置するドライブに、十分なディスク領域があることを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00101 指定プロセスに対する主要登録 ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因：Oracle Trace が管理 REGID.DAT ファイルのオープンに失敗しました。

処置：ファイルが Oracle Trace 管理ディレクトリに存在するか、ファイルの保護がアクセスを許可しているかを検証してください。そうでない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00103 登録 ID コンテキストが無効です。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00104 登録 ID データが無効か、または整合性がとれていません。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00105 登録 ID 文字列が無効です (長すぎるなど)。

原因: 指定される登録 ID 文字列が無効です (長すぎるため)。

処置: 有効な登録 ID 文字列を指定してください。

EPC-00106 次の登録 ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00107 次の登録 ID レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00108 登録 ID ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace が管理 REGID.DAT ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ファイルが Oracle Trace 管理ディレクトリに存在するか、ファイルの保護がアクセスを許可しているかを検証してください。そうでない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00109 登録 ID レコードの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00110 登録 ID ファイル・ヘッダーの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00112 ファイルの extend_count パラメータの設定でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00113 新規コレクション・レコードを追加中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00114 コレクション・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00116 コレクションは collect.dat ファイル内にすでに存在します。

原因: コレクション名は Oracle Trace 管理 COLLECT.DAT ファイル内に存在し、すでに使用されています。コレクションが非アクティブの場合、このレコードは廃棄されます。

処置: 新しいコレクション名を指定するか、(すべてのプロセスが Oracle Trace 管理 .dat ファイルから分離したときに) otrccref イメージを実行して、Oracle Trace 管理 .dat ファイルを強制的にクリーン・アップさせてください。

EPC-00117 collect.dat ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: ユーザーに、Oracle Trace 管理 .dat ファイルがあるディレクトリ (たとえば、\$ORACLE_HOME/otrace/admin) に対する書き込みアクセスがないか、有効なディスク領域が不足しているか、またはインストールメント・プロセスが .dat ファイルにアクセスしたままになっている可能性があります。

処置: ディレクトリに対するアクセス権を与えるか、空きディスク領域を追加してください。Oracle Trace .dat ファイル（たとえば、データベース）を現在使用しているプロセスがないことを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00118 collect.dat レコードの削除でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00119 指定された collect.dat レコードの検索でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00120 collect.dat コンテキストが無効か、または未定義です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00121 コレクション名が無効か、または未定義です。

原因: 「コレクションの起動」などの Oracle Trace 操作では、ユーザー指定のコレクション名が必要ですが、指定されていません。

処置: コレクション名が指定されているかどうか確認してください。指定されている場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00122 次の collect.dat レコードの取得でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00123 collect.dat ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因：Oracle Trace Collection Services が、所定の位置（つまり、\$ORACLE_HOME/admin）の管理 collect.dat ファイルにアクセスできません。

処置：Oracle Trace 管理 collect.dat ファイルの存在を検証し、ファイルの保護の問題を確認してください。また、ディレクトリの保護、ORACLE_HOME の定義および Oracle Trace パラメータ設定も確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00124 collect.dat レコードの読み込みでエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00125 collect.dat ファイル・ヘッダーの読み込みでエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00126 collect.dat の extend_count の設定でエラーが発生しました。

原因：これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00133 CLI ジョブを完了しました。

原因：この条件は、Oracle Trace にかわって Oracle Intelligent Agent が実行した Oracle Trace CLI ジョブの完了を通知するために使用されます。これはエラーではありません。

処置：処置は必要ありません。

EPC-00146 ""

原因：Oracle Trace のコマンド行インタプリタ（CLI）に使用されました。通常の Oracle Trace ジョブの出力の一部が正常に実行されました。

処置：処置は必要ありません。

EPC-00147 ジョブ ID が指定されていません。

原因: CLI の開始および停止コレクションのユーザー指定のジョブ ID が指定されていません。または、Oracle Trace 内部エラーが発生しています。

処置: Oracle Trace CLI がジョブ ID 値の指定なしで実行された場合は、正しいコマンド行パラメータで再操作してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00148 コレクション状態: アクティブ

原因: これは、指定されたコレクションが存在し、アクティブであると想定した、Oracle Trace CLI の "チェック・コレクション" 操作の成功リターン状態です。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00149 コレクション状態: アクティブでない

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00150 コレクション状態: 未定義

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00151 コレクション定義ファイルとデータ・コレクション・ファイルが削除されました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00153 指定された CLI コマンドが無効か、または確定できません。

原因: Oracle Trace CLI に無効または不完全なコマンド動詞が指定されたか、コマンドがまったく使用されていません。

処置: 完全な CLI コマンド動詞、たとえば、"start"（およびその他の必要なコマンド行パラメータ）を指定し、コレクションを起動してください。

EPC-00155 制限の最大数を超過しています。

原因: CLI ユーザーが最大数より多い制限レコードを入力しました（最大数は現在 5 です）。

処置: CLI パラメータに渡される入力制限を減少させてください。

EPC-00156 ORACLE_HOME パラメータが指定されていません。

原因：環境変数 ORACLE_HOME が定義されていないままで Oracle Trace CLI から要求されます。

処置：ORACLE_HOME を定義して、CLI 関数を戻してください。

EPC-00157 コレクションを開始しました。

原因：これは通常のメッセージです。

処置：処置は必要ありません。

EPC-00158 コレクションが完了しました。

原因：これは通常のメッセージです。

処置：処置は必要ありません。

EPC-00159 ユーザー名またはパスワード（またはサービス名）が指定されていません。

原因：Oracle Trace データのフォーマットなど、Oracle データベースにアクセスする場合には、ユーザーは、有効なデータベース・アカウントのユーザー名、パスワード、データベース・サービス名を指定して、完全な Oracle データベース接続文字列を作成する必要があります。

処置：欠落している接続文字列コンポーネントを指定してください。

EPC-00160 コレクションの活動化でエラーが発生しました。

原因：regid.dat ファイルがコレクションの起動でアクセス不可の場合、Oracle Trace はコレクションを起動できません。これは内部エラーです。

処置：regid.dat ファイルがアクセスできるかを検証してください。それでもエラーが解決されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00163 ORACLE_HOME の変換でエラーが発生しました。

原因：環境変数 ORACLE_HOME の変換中にエラーが発生しました。

処置：ORACLE_HOME 定義および otrace/admin ディレクトリが存在し、アクセス可能かを確認してください。それでもエラーが解決されない場合は、データベース管理者 (DBA) に連絡してください。

EPC-00164 プロダクト管理ディレクトリ名変換でエラーが発生しました。

原因：Oracle Trace 管理ディレクトリへのパスを判断中に、エラーが発生しました。

処置：ORACLE_HOME 定義および otrace/admin ディレクトリが存在し、アクセス可能かを確認してください。それでもエラーが解決されない場合は、データベース管理者 (DBA) に連絡してください。

EPC-00166 コレクションの取消しでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00167 収集ファイルは限界に達しました。

原因: コレクションが開始されたときに指定された最大ファイル・サイズを超えています。

処置: 処置は必要ありません。将来のコレクションのために、最大ファイル・サイズを増加してください。

EPC-00169 コレクション定義ファイルの削除でエラーが発生しました。

原因: コレクションの .cdf ファイルを削除しようとするときにエラーが発生した場合、Oracle Trace CLI がこのエラーを通知します。多くの場合、ファイルが存在しない（つまり、すでに削除されている）か、ファイルの保護か、または Oracle Trace コレクションに貢献する 1 つ以上のプロセス（つまり、データベース・プロセス）がファイルを保持したままになっていることが原因です。

処置: ファイルの存在を検証し、必要であれば、保護を修正してください。オープンしたままのファイルがデータベース・プロセスにある場合、プロセスが次のデータベースの処置でファイルを解放するのを待ってください。

EPC-00170 コレクション・データ・ファイルの削除でエラーが発生しました。

原因: コレクション .dat ファイルを削除しようとするときにエラーが発生した場合、Oracle Trace CLI がこのエラーを通知します。多くの場合、ファイルが存在しない（つまり、すでに削除されている）か、ファイルの保護か、または Oracle Trace コレクションに貢献する 1 つ以上のプロセス（つまり、データベース・プロセス）がファイルを保持したままになっていることが原因です。

処置: ファイルの存在を検証し、必要であれば、保護を修正してください。オープンしたままのファイルがデータベース・プロセスにある場合、プロセスが次のデータベースの処置でファイルを解放するのを待ってください。

EPC-00172 パラメータの解析エラーです。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00173 コマンド行引数リストの解析に失敗しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00174 入力パラメータ・ファイルの解析に失敗しました。

原因: Oracle Trace CLI に不正な入力パラメータを指定した場合、このエラーが発生します。それ以外は、Oracle Trace の内部エラーです。

処置: CLI 入力パラメータを訂正してください。それでもエラーが解決されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00175 Oracle Trace の CLI otrccol イメージが見つからないか、または実行可能ではありません。

原因: Oracle Trace CLI イメージ otrccol が ORACLE_HOME/bin にないか、アクセスが拒否されました。

処置: イメージが存在する場合は、保護を設定して実行可能にしてください。存在しない場合は、システムの Oracle インストールの責任者に確認してください。複数の ORACLE_HOME 定義がある場合、正しい ORACLE_HOME が使用されているかを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00176 フォーマットを完了しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00177 フォーマットを開始しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00179 ユーザー・アクションまたは最大ファイル・サイズ（またはエラー）により、コレクションが停止しました。

原因: このメッセージは、ユーザーがスケジュールされた完了前に明示的にコレクションを停止したか、指定したファイル・サイズが最大に達したため（またはディスクが満杯になったため）コレクションが終了したか、またはその他のエラー条件が強制的にコレクションを停止したことを示します。

処置: ユーザーがコレクションを停止していない場合は、ディスクの使用を確認してください。INIT.ORA または Oracle Trace Manager の最大ファイル・サイズを確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00180 フォーマットしたデータの削除を開始しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00181 フォーマットしたデータの削除を完了しました。

原因: これは通常のメッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00182 OCI データベース・アクセスのエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace CLI データベースをアクセス中にエラーが発生しました。

処置: 追加の障害情報およびエラー・メッセージについては、EPC_ERROR.LOG ファイルを参照してください。問題が繰り返す場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00183 epcfctx パラメータが無効です。

原因: 無効な機能コンテキスト引数が、Oracle Trace API ルーチン（たとえば、EPC_EVENT）に渡されました。

処置: 機能コンテキスト引数を指定してください。

EPC-00184 コレクション定義ファイルのポインタが無効です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00185 ファイルのバージョンが現行の Oracle Trace バージョンではありません。

原因: Oracle Trace の非互換バージョンが作成したコレクション・ファイルにアクセスしようしました。

処置: Oracle Trace の正しいバージョンを使用して、コレクション・ファイルにアクセスしてください。

EPC-00186 コレクションの開始でエラーが発生しました。

原因: collect.dat ファイルで、コレクション状態をアクティブに設定中にエラーが発生しました。これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00189 アクティブ・コレクションの制限を超えています。

原因: この製品に対するコレクションの最大数を超えています。コレクションの現在の最大数は5です。

処置: 時間をおいてからコレクションを再実行してください。

EPC-00190 facility.dat ファイルのコンテキストが無効です。内部エラーです。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00191 製品レコードを facility.dat ファイルに追加中、エラーが発生しました。

原因: このインストールメント製品のレコードを FACILITY.DAT ファイルに追加中、エラーが発生しました。

処置: FACILITY.DAT ファイルの存在およびアクセスを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00192 facility.dat ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: OTRCCREF イメージを使用して FACILITY.DAT ファイルを作成中に、エラーが発生しました。

処置: Oracle Trace 管理ディレクトリが存在するか、アクセス可能か、または FACILITY.DAT ファイルが現在使用されていないかを検証してください。

EPC-00193 ファイル・エクステントを facility.dat ファイルに設定中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00194 facility.dat ファイルの製品レコードを更新中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00195 facility.dat ファイル内で次の製品レコードを検索中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00196 facility.dat ファイルからヘッダー・レコードを読み込み中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00197 facility.dat ファイルからの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00198 facility.dat ファイルから製品レコードを削除中、エラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00199 facility.dat ファイルのクローズでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00200 facility.dat ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: FACILITY.DAT ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: FACILITY.DAT ファイルがアクセス可能かを検証してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00220 項目が見つかりません。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。.cdf および .dat ファイルを使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00224 レポート・ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace が、レポート出力ファイル（たとえば、col_name*.txt）へのデータの書き込みに失敗しました。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00226 localtime() エラー

原因: Oracle Trace レポータが、日付のローカル表示に必要なサイズの判断に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00227 最初の製品登録 ID の検索で、シーク・エラーが発生しました。

原因: 最初の製品登録 ID を検索している間に Oracle Trace レポータでシーク・エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00228 一致する製品が見つかりません。

原因: Oracle Trace レポータが指定された製品の検索に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00229 イベント・レコードの前にイベント項目レコードがあります。

原因: Oracle Trace レポータはイベント・レコードの前の項目レコードを検索しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00230 イベント・レコードが見つかりません。

原因: Oracle Trace レポータがイベント・レコードの検索に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00233 *in-memory structure* を *routine* 内に割り当て中、エラーが発生しました。

原因: メモリー割当てエラーが発生しました。

処置: アプリケーションでのメモリーの使用状況を確認してください。それらに問題がない場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00234 メモリーを割当てできません。

原因: メモリー割当てエラー (calloc) が発生しました。

処置: アプリケーションでのメモリーの使用状況を確認してください。それらに問題がない場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00235 データ・コレクション・ファイル *filename.dat* が見つかりません。

原因: データ・ファイルが見つかりません。削除されて、もう存在していない可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00236 コレクション定義ファイル *filename.cdf* が見つかりません。

原因: コレクション定義ファイル (.cdf) が見つかりません。またはファイルの保護のため、アクセスできません。

処置: .cdf ファイルが存在しない場合、処置は必要ありません。.cdf ファイルが存在する場合は、ファイルの保護を検証してください。

EPC-00237 コレクション定義ファイル内に不明なレコードがあります。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00238 コレクション定義ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00239 *program-supplied string*

原因: これはエラーではありません。この情報は任意のテキスト文字列の出力に使用されます。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00240 挿入フィールド内の文字間調整が無効です。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00241 挿入フィールド内に整合性のエラーがあります。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル (.cdf) およびデータ・ファイル (.dat) を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00256 ファイル状況のチェックでエラーが発生しました。

原因: ファイル・サイズの判断に失敗しました。これは Oracle Trace の内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。.cdf および .dat ファイルを使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00257 読み込みエラーです。

原因: ファイルを読み込もうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合、これは Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00258 *filename* 内で書き込みエラーが発生しました。

原因: ファイルを書き込もうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合、これは Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00259 filename 内でシーク・エラーが発生しました。

原因: ファイルを読み込もうとしているときに Oracle Trace にエラーが発生しました。

処置: ファイルの保護が正しく、問題が繰り返し発生する場合、これは Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00260 ファイルの拡張でエラーが発生しました。

原因: Oracle Trace は、ファイルを拡張できませんでした。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうかを確認してください。

EPC-00261 filename 内でマップ読み込みエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00297 データ・コレクション・ファイル filename への書き込みでエラーが発生しました。

原因: データ・ファイルの保護に問題があるか、データ・ファイルが満杯です。

処置: 必要であれば、保護問題を訂正してください。それでもエラーが発生する場合は、これは、Oracle Trace の内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00306 ファイル filename には報告するデータがありません。

原因: これは、Oracle Trace レポータのエラーです。.dat ファイルに保護問題があるか、データを収集する処理が実行されていません。

処置: .dat ファイルの保護を確認してください。それ以外は、処置は必要ありません。

EPC-00307 Oracle のコミットでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00308 Oracle 文の実行でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00309 SQL statement の解析でエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace データをデータベースにフォーマットするときに、通常発生するエラーです。このエラーは、フォーマット表がデータベースに存在しないか、現行のフォーマット表の定義がフォーマット操作を実行する Oracle Trace イメージと同期していないことを示します。Oracle Trace のリリース 7.3.4 および 8.0.4（およびそれ以降）は、フォーマット表を自動的に記述するメタデータの作成および更新ができます。ただし、古いバージョンではできません。

処置: 必要であれば、Oracle Trace フォーマッタの SQL スクリプトを実行して、ターゲット・データベースにある Oracle Trace のフォーマット表の定義を更新してください。ただし、Oracle Trace の新しいバージョンが、すでにデータベースまたはデータベースのユーザー・アカウントにデータをフォーマットしている場合、フォーマットされたデータに対して、異なるデータベースまたはデータベースのユーザー・アカウント（あるいはその両方）を使用する必要がある場合があります。互換性のない古い Oracle Trace のバージョンは、フォーマット表が異なるため、これと同じデータベースまたはデータベースのユーザー・アカウントにはフォーマットできません。otrcfmt イメージの説明は、『Oracle Enterprise Manager Trace ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

EPC-00310 メッセージ・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: このエラーは、メッセージ・ファイル（たとえば、EPCUS.MSB ファイル）上に保護の問題があることを示します。

処置: メッセージ・ファイルの保護が正しいことを確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00314 データ・コレクション・ファイル本体の読み込みでエラーが発生しました。

原因: これは Oracle Trace の内部エラーです。このエラーは、通常発生しないエラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。コレクション定義ファイル（.cdf）およびデータ・ファイル（.dat）を使用可能にしてください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00319 必要なスケジュール・コレクションのユーザー情報がありません。

原因: コマンド行から Oracle Trace CLI を実行してコレクションを起動する場合、このエラーは必要な情報が CLI 入力パラメータ・ファイルに指定されていないことを示します。それ以外は、Oracle Trace の内部エラーです。通常は、戻されません。

処置: コマンド行モードで CLI を実行している場合は、CLI 入力パラメータ・ファイルを訂正してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00322 プロセス・レポート・ファイルの作成でエラーが発生しました。

原因: これは、プロセス・レポートが作成されないことを示します。ディスク領域または保護の問題の可能性があります。

処置: 十分なディスク領域があるかどうか、ファイルの保護が正しいかどうか確認してください。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。詳細は、15-1 ページの「[Oracle Trace についてのオラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せ](#)」を参照してください。

EPC-00337 使用方法: `command [-w[wid] -l[len] -P -p[pid] -h -a -d] input_file [output_dir]`

原因: Oracle Trace Report コマンドが不正に使用されています。

処置: 正しいパラメータを正しい順序で指定して、コマンドを再送信してください。

EPC-00342 データベースでコレクション ID の ID が見つかりません。-f オプションで再実行してください。

原因: Oracle Formatter は、データ・ファイルで指定されたコレクション ID を検索できませんでした。

処置: -f オプションを指定してフォーマットを再実行し、データ・ファイル全体をフォーマットしてください。

EPC-00343 使用方法: `formatter image [-f] [-p] [-c#] cdf_file [username [password [service]]]`

原因: これは無効なフォーマット・コマンドです。

処置: フォーマット・コマンドを再入力してください。

EPC-00344 フォーマットする新規データはありません。終了します。

原因: 新しいデータを含まないデータ・ファイルをフォーマットしようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00350 `collection_id` ID のフォーマットを強制終了しています。データベースから削除して、再フォーマットしてください。

原因: このメッセージには、いくつかの原因が考えられます。ユーザーがフォーマット操作を取り消した場合、このメッセージはエラー・メッセージではなく、単なる情報メッセージである場合があります。

処置: その他の基礎となるエラー・メッセージ（たとえば、フォーマットに指定したデータベース・サービス名の解決失敗）に対する EPC_ERROR.LOG を確認してください（これは、形式コードが実行しているローカル・ノードの TNSNAMES.ORA ファイルには、指定された形式データベースに対するエントリがないことを示します）。エラー・メッセージに指定されたコレクション ID が 0 未満の場合、形式データベースをアクセスしない限りフォーマット・プロセスを実行できません。フォーマット・コマンドを再実行し、f パラメータ（つまり、部分的ではなく完全フォーマット）を指定して、異常終了する前にフォーマットしたデータを再フォーマットしてください。

EPC-00351 ユーザーがフォーマットを取り消しました。

原因: Oracle Trace Format 操作は停止されました。

処置: 処置は必要ありません。

EPC-00352 このファイルはすでに存在します。別の名前を選択してください。

原因: 指定されたファイル名はすでに存在します。

処置: 新しいファイル名（コレクション名）を指定してください。

EPC-00357 同じ製品間項目に対して重複するコールバック・ルーチンを追加しようとした。

原因: 同じ製品間項目に対して重複するコールバック・ルーチンを追加しようとした。

処置: コードを訂正してください。

EPC-00358 存在しない製品間コールバック・ルーチンを削除しようとした。

原因: 存在しない製品間コールバック・ルーチンを削除しようとした。

処置: コードを訂正してください。

エクスポート・メッセージ (EXP)

この章では、エクスポート・ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』を参照してください。

EXP-00000 エラーが発生したためエクスポートを終了します。

原因: エクスポート・ユーティリティで Oracle エラーを検出しました。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00001 データ・フィールドを切り捨てました (列の長さ *number*, バッファ・サイズ *number*, 実際のサイズ *number*)。

原因: エクスポートは、データ・バッファ内の列に収められませんでした。

処置: 表示されたサイズ・パラメータと付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。(表の一部はすでにエクスポートされています。次の表からエクスポートが続行されます。)

EXP-00002 エクスポート・ファイルへ書き込み中にエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、おそらくデバイス・エラーのために、エクスポート・ファイルに書き出せませんでした。通常、このメッセージの次にオペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

処置: 適切な処置を行ってデバイスをリストアしてください。

EXP-00003 セグメントに対する領域定義がありません (*number,number*)。

原因: エクスポート・ユーティリティは、クラスタ、索引または表について領域定義を見つけられませんでした。

処置: 付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

EXP-00004 ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

処置: 有効なユーザー名 / パスワードを指定して再試行してください。

EXP-00005 ログオンに失敗しました。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードで繰り返しログインしようとしてしました。

処置: ユーティリティを停止した後、有効なユーザー名 / パスワードを指定してから再起動し、再試行してください。

EXP-00006 内部矛盾エラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティのデータ構造が壊れました。

処置: 付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

EXP-00007 ディクショナリには *string.string* に対する列がありません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データ・ディクショナリからうまく列の情報を収集できませんでした。表が削除されている可能性があります。

処置: エクスポート処理を再度実行して、このエラーが再発する場合には、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

EXP-00008 Oracle エラー *number* が発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、参照できる Oracle エラーを検出しました。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00009 *string* の表 *string* をエクスポートする権限がありません。

原因: 別のユーザーの表をエクスポートしようとしてしました。別のユーザーの表をエクスポートできるのは、データベース管理者のみです。

処置: エクスポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00010 *string* は正しいユーザー名ではありません。

原因: 指定されたユーザー名が無効です。

処置: ユーティリティを停止した後、有効なユーザー名を指定してから再起動し、再試行してください。

EXP-00011 *string.string* は存在しません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、指定された表を見つけられませんでした。

処置: 正しい表名を指定して再試行してください。

EXP-00012 *string* は正しいエクスポート・モードではありません。

原因：無効なエクスポート・モードが指定されました。

処置：有効なエクスポート・モードを指定して再試行してください。

EXP-00013 'Y','N',RETURN で応答してください（'!' で終了します。）。

原因：無効な応答が入力されました。

処置：メッセージ中に示された応答のいずれかを入力してください。

EXP-00014 行 *number* (表 *string*) でエラーが発生しました。

原因：エクスポート・ユーティリティは、行を取り出しているときに、Oracle エラーを検出しました。

処置：このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00015 行 *number* (表 *string*, 列 *string*, データ型 *number*) でエラーが発生しました。

原因：エクスポート・ユーティリティは、列を取り出している時または書き出している時に、Oracle エラーを検出しました。付随する Oracle メッセージを調べると、さらに情報を得ることができます。

処置：Oracle エラーを修正して再試行してください。

EXP-00016 デフォルト監査オプションの読み込み中に Oracle エラーが発生しました。

原因：エクスポート・ユーティリティは、デフォルト監査オプション（更新用オプション、削除用オプションなど）を読み込んでいる時に、Oracle エラーを検出しました。

処置：このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00017 機能 *string* が必要ですが、データベースにありません。

原因：入力したコマンドは、機能を指定する必要があります。機能がインストールされていないか、機能を記述する行が表 V\$OPTION にありません。

処置：メッセージに指定されている機能を含む Oracle を再インストールしてください。

EXP-00018 データ型 *number* (列 *string*, 表 *string.string*) はサポートされていません。

原因：エクスポート・ユーティリティは、参照されたデータ型をサポートしていません。

処置：条件に合うデータ型（CHAR、NUMBER、DATE、LONG または RAW）を使用して、再試行してください。

EXP-00019 パラメータ処理に失敗しました（EXP HELP=Y を入力するとヘルプ表示）。

原因：無効なコマンド行パラメータが指定されました。

処置：オンライン・ヘルプ画面で有効なパラメータ値を調べて、実行し直してください。

EXP-00020 サイズ *number* のメモリーの割当てに失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、必要なメモリーをうまく割り当てられませんでした。

処置: メモリーをとらないようにエクスポート・バッファ・サイズを削減するか、またはエクスポート・ユーティリティ用に実行時のメモリー・サイズを増やします。

EXP-00021 全データベース・モードでのみ増分エクスポートは実行可能です。

原因: 増分エクスポートを実行するときに、USER モードまたは TABLE モードが指定されました。

処置: 全データベース・モード (FULL=Y) を指定し、再試行してください。

EXP-00022 増分エクスポートの実行は SYS または SYSTEM でなければなりません。

原因: 増分エクスポートの実行に必要な権限がありません。増分エクスポートを実行できるのは、データベース管理者のみです。

処置: 増分エクスポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00023 全データベース・エクスポートの実行は DBA でなければなりません。

原因: 全データベース・エクスポートの実行に必要な権限がありません。データベース管理者のみが、全データベース・エクスポートを実行できます。

処置: 全データベース・エクスポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

EXP-00024 エクスポート・ビューがインストールされていないため DBA に連絡してください。

原因: 必要なエクスポート・ビューがインストールされていません。

処置: データベース管理者に、必要なエクスポート・ビューをインストールするよう依頼してください。

EXP-00025 ディクショナリに制約 *string.number* に対する列がありません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データ・ディクショナリから照会された制約に関する列の情報を、うまく収集できませんでした。この制約は変更された可能性があります。

処置: エクスポート処理を再度実行して、このエラーが再発する場合には、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターへ報告してください。

EXP-00026 競合するモードが指定されました。

原因: 競合するエクスポート・モードが指定されました。

処置: パラメータを1つだけ指定し、再試行してください。

EXP-00027 Oracle ブロック・サイズの計算に失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、Oracle ブロック・サイズをうまく計算することができませんでした。

処置: エクスポートの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

EXP-00028 書き込みのために *string* をオープンできません。

原因: エクスポート・ユーティリティは、書き込み用のエクスポート・ファイルをうまくオープンできませんでした。通常、このメッセージの次にオペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

処置: 適切な処置を行ってデバイスをリストアしてください。

EXP-00029 INCREMENTAL エクスポートモードと CONSISTENT エクスポートモードの両方を指定できません。

原因: CONSISTENT エクスポートと INCREMENTAL エクスポートの両方が指定されました。

処置: 処置は必要ありません。CONSISTENT モードは打ち切られました。

EXP-00030 読み込み中に予期しないファイルの終わり (eof) が見つかりました。

原因: ユーザー入力の読み込み中に EOF を検出しました。

処置: エクスポートする入力をリダイレクトするときに、エラーがないかどうかファイルを確認してください。

EXP-00031 配列サイズの範囲が無効です。配列サイズ *number* を使用してください。

原因: 指定した配列サイズの値が有効な範囲に入っていません。

処置: 処置は必要ありません。

EXP-00032 DBA 以外は他のユーザー・オブジェクトをエクスポートできません。

原因: データベース管理者のみが他のユーザーへエクスポートできます。非データベース管理者が owner= エクスポートではないユーザーを指定しようとしていました。

処置: データベース管理者にこの操作の実行を依頼してください。

EXP-00033 キャラクタ・セット環境が見つかりません。

原因: キャラクタ・セットの環境変数がなくなったか、または不正確に指定されました。

処置: キャラクタ・セットの環境変数が正確に指定され存在することを確認してください。

EXP-00034 ROWID でエラーが発生しました (ファイル #: *number*, ブロック #: *number*, スロット #: *number*)。

原因: エラーが発生した ROWID を識別しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

EXP-00035 QUERY パラメータは表モードのエクスポートに対してだけ有効です。

原因: エクスポート・コマンド内で QUERY パラメータを指定しましたが、表モード・エクスポートを実行していません。QUERY パラメータは、ユーザー・モード・エクスポート、全エクスポート、Point-in-Time リカバリ・エクスポートでは使用できません。

処置: 表に行のサブセットを選択したい場合は、表を表モード・エクスポートで別にエクスポートしなければなりません。エクスポート中に実行する表の名前および問合せを指定する表モード・エクスポート・コマンドを発行してください。

EXP-00036 オブジェクト *number* はディクショナリに存在していません。

原因: 指定されたオブジェクトがディクショナリ内にありません。オブジェクトはエクスポート中に削除された可能性があります。

処置: オブジェクトは存在しないので、処置は必要ありません。

EXP-00037 データベースのバージョンと互換のないビューをエクスポートします。

原因: エクスポート・ユーティリティは、データベース・バージョンより高いバージョンなので、互換性がありません。

処置: データベースと同じエクスポート・ユーティリティのバージョンを使用してください。

EXP-00038 clu\$ のハッシュ・クラスタ ID が無効です。

原因: clu\$ のファンクション ID は無効な数値です。clu\$ は壊れています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00039 エクスポート・ファイル *string* はディスク上になければなりません。

原因: プラットフォームによっては、エクスポートによってテープからファイルを読み取ることができます。エクスポート・ファイルの最初のファイルがディスクにセットされ、2 番目以降のファイルにテープ・デバイスが設定されている場合、このメッセージが表示されます。

処置: エクスポート・ファイルに正しいファイル名が指定されていることを確認してください。エクスポート・ファイルはすべてディスク上またはテープ上のいずれかにありますが、同時に両方にあってはいけないことに注意してください。

EXP-00040 ダンプ・ファイルとログ・ファイルは異なっていなければなりません。

原因: ダンプ・ファイルとログ・ファイルは同一ファイルであってはなりません。

処置: ダンプ・ファイルとログ・ファイルに対して異なるファイル名を指定して、操作を再試行してください。

EXP-00041 サーバーの *string* で行ったエクスポートはユーザーのキャラクタ・セット *string* と異なります。

原因: 指定された NLS_LANG/NLS_NCHAR パラメータは PROPS\$ に指定されたサーバーの値と互換性がありません。

処置: NLS_LANG/NLS_NCHAR のクライアント値をサーバーの値に変更し、操作をやり直してください。

EXP-00042 props\$ に NLS_CHARACTERSET/NLS_NCHAR_CHARACTERSET がありません。

原因: NLS_CHARACTERSET/NLS_NCHAR_CHARACTERSET の値が PROPS\$ 表に入力されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00043 列 *string* が *string* (表 *string*) である行に、無効なデータ・ディクショナリ情報が入っています。

原因: エクスポート・ユーティリティはデータ・ディクショナリから無効なデータを検索しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00044 Point-in-time リカバリまたはトランスポータブル表領域のインポートを実行するには、'AS SYSDBA' での接続が必要です。

原因: トランスポータブル表領域のインポートまたは Point-in-Time リカバリのインポートを実行する場合、ユーザーは「as SYSDBA」でログインする必要があります。

処置: トランスポータブル表領域のインポートまたは表領域の Point-in-Time リカバリのインポートを実行するように、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00045 Point-in-Time リカバリやトランスポータブル表領域に対する SYSTEM 表領域はエクスポートできません。

原因: SYSTEM 表領域は、リカバリ・セットまたはトランスポータブル表領域セットの一部にできません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00046 *string* という名前の表領域は存在しません。

原因: 指定された表領域がディクショナリに存在しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00047 表領域名がありません。

原因: 表領域名が入力されていません。

処置: 表領域名を指定してください。

EXP-00048 標準エクスポートでトランスポータブル表領域モードはサポートされません。

原因: このエクスポート・モードで、表領域オプションは指定できません。

処置: 表領域オプションは必ず Point-in-Time リカバリまたはトランスポータブル表領域オプション・セットとともに使用してください。

EXP-00049 *string* オプションには、Point-in-Time リカバリやトランスポータブル表領域のエクスポートとの互換性はありません。

原因: オプションには、Point-in-Time リカバリやトランスポータブル表領域のエクスポートとの互換性はありません。

処置: 表示オプションなしで、エクスポートを再試行してください。

EXP-00050 パーティション・エクスポート *string* はパーティション化されていない表 *string* では実行できません。

原因: パーティション・エクスポートで指定された表はパーティション表ではありません。

処置: 表モードを使用するか非パーティション表を指定してください。

EXP-00051 *string* - 指定したパーティションまたはサブパーティション名は、*string* 表にありません。

原因: 指定したパーティションまたはサブパーティション名が指定した表にありません。

処置: 正しい表、パーティションまたはサブパーティション名を指定したかを確認してください。

EXP-00052 行 *number* (パーティション *string*) でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、列を取り出しているときに、参照できる Oracle エラーを検出しました。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00053 表 *string* にネストされた表があるため QUERY を実行できません。

原因: 1 つまたは複数の NESTED TABLE を内部に持つ表で QUERY を指定しました。QUERY パラメータは、内部に NESTED TABLE を持つ表で指定することはできません。

処置: QUERY パラメータを指定せずに、表全体をエクスポートしてください。

EXP-00054 行 *number* (サブパーティション *string*) でエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ユーティリティは、列を取り出しているときに、参照できる Oracle エラーを検出しました。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

EXP-00055 *string.string* はエクスポート不可とマークされています。

原因: オブジェクトは NOEXP\$ 表でエクスポート不可とマークされています。

処置: データベース管理者に連絡してください。

EXP-00057 パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

原因: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

処置: エラー・メッセージを控えて、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

EXP-00058 *string* プロファイルのパスワード検証機能がありません。

原因: プロファイル用の機能が見つかりません。

処置: プロファイルが正しく作成されているかどうかを確認してください。

EXP-00059 オブジェクト・タイプ識別子を文字に変換中にエラーが発生しました。

原因: オブジェクト・タイプ識別子が無効な長さであるため変換できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00060 オブジェクト・タイプに複数の TYPE BODY があります。

原因: 1 個のオブジェクト・タイプに対して複数の TYPE BODY が検索されました。

処置: TYPE BODY を削除してください。削除できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00061 ネストされている表の外側の表の名前が見つかりません。

原因: 内部の NESTED TABLE のビット・マップ索引または使用可能後アクションのエクスポート中に、NTAB\$ 表を使用して外部の表の名前を見つけることができませんでした。

処置: 表が適切に定義されていることを検証してください。

EXP-00062 オブジェクト・タイプには無効な原始命令です。

原因: オブジェクト・タイプの SOURCE\$ の文では TYPE が見つかりませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00063 言語処理の変更中にエラーが発生しました。

原因: 言語処理を変更できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00064 *string* は内側にネストされている表でエクスポートできません。

原因: 内部の NESTED TABLE を、親表なしでエクスポートしようとしてしました。

処置: 内部の NESTED TABLE の親をエクスポートしてください。

EXP-00065 ダンプ・ファイルに LOB を書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 現行の LOB はダンプ・ファイルへ書き込めません。

処置: 書き込み失敗の原因を特定し、修正してください。

EXP-00066 オブジェクト・テーブル *string* にオブジェクト識別子の索引がありません。

原因: すべてのオブジェクト表にはオブジェクト識別子の索引がなければなりません
が、指定された表はオブジェクト識別子列に索引がありません。

処置: 型表を作成し直して、操作を再試行してください。

EXP-00067 表 *string* は従来型パスでエクスポートされます。

原因: ダイレクト・パスは、LOB、ファイル、またはオブジェクト・データ型を含む表
をエクスポートできません。また、従来型パスは指定された表のデータをエクスポート
するために使用されます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

EXP-00068 表領域 *string* はオフラインです。

原因: エクスポート・ユーティリティは、表領域のエクスポートに失敗しました（表領
域はオフライン）。

処置: 表領域をオンラインにして再エクスポートしてください。

EXP-00070 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

原因: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00071 QUERY パラメータはダイレクト・パスのエクスポートと互換性がありません。

原因: ダイレクト・パスのエクスポートの QUERY パラメータに値を指定しました。
QUERY パラメータはダイレクト・パスのエクスポートとともに使用することはできま
せん。

処置: DIRECT=N を持つエクスポート・コマンドを発行し直すか、コマンド行から
DIRECT パラメータを無視してください。

EXP-00072 エクスポート・ファイル *string* のクローズ中にエラーが発生しました。

原因: エクスポート・ファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00073 ダンプ・ファイルのサイズが小さすぎます。

原因: FILESIZE パラメータか VOLSIZE パラメータを指定しました。（プラットフォームが VOLSIZE パラメータをサポートしている場合）。しかし、パラメータの値が小さく
すぎて、エクスポート・ファイルとデータについてのヘッダー情報を保持できません。

処置: FILESIZE パラメータか VOLSIZE パラメータの値を増加してください。

EXP-00074 VOLSIZE の値を切り下げました。新しい値は *string* です。

原因: VOLSIZE パラメータは RECORDLENGTH の倍数でなければなりません。しか
し、VOLSIZE に指定された値はこの条件を満たしていません。VOLSIZE の値が端数を
切り捨てられ、ダンプ・ファイルに使用される RECORDLENGTH の倍数になりました。
た。

処置: 処置は必要ありません。VOLSIZE か RECORDLENGTH パラメータを変更し、メッセージを消すことができます。このファイルをインポートする時は、このメッセージが報告する VOLSIZE 値を指定してください。

EXP-00075 FILESIZE の値を切り下げました。新しい値は *string* です。

原因: FILESIZE パラメータは RECORDLENGTH の倍数でなければなりません。しかし、FILESIZE に指定された値はこの条件を満たしていません。FILESIZE の値が端数を切り捨てられ、ダンプ・ファイルに使用される RECORDLENGTH の倍数になりました。

処置: 処置は必要ありません。FILESIZE か RECORDLENGTH パラメータを変更し、メッセージを消すことができます。このファイルをインポートする時は、このメッセージが報告する FILESIZE 値を指定してください。

EXP-00076 テープ出力用のデバイスが複数指定されました。

原因: テープ・デバイスへのエクスポートを実行するときに、複数のファイル名が指定されました。EXPORT は同じデバイスを使用して、必要なテープ・ボリュームの数のファイルをすべて書き込みます。このため、エクスポート・ユーティリティは、テープに書き込むとき、FILE パラメータの値を 1 つのみ指定します。

処置: EXPORT コマンドを再入力し、FILE パラメータにテープ・デバイスを 1 つだけ指定してください。

EXP-00077 無制限のエクスポート・ファイル用の出力ファイルが複数指定されました。

原因: エクスポートを実行するときに複数のファイル名が指定され、FILESIZE パラメータに 0 の値も指定されました。FILESIZE がコマンド行に指定されていない場合、0 の値が使用されることに注意してください。FILESIZE を 0 としたときは、1 つのファイルのみが書込みされ、そのファイルにはサイズ制限がないことを意味しており、FILE パラメータに指定したその他のファイルは使用できません。

処置: 複数のファイルを書き込む場合には、FILESIZE を使用して EXPORT が各ファイルに書き込む最大バイト数を指定してください。サイズに制限のないファイル 1 つのみに書き込む場合には、EXPORT コマンドを再発行し、FILE パラメータにファイル名を 1 つだけ指定してください。

EXP-00078 索引 *string* に対するメタデータのエクスポート中にエラーが発生しました。索引の作成はスキップされます。

原因: ドメイン索引は、CREATE INDEX 文の前に、PL/SQL の無名のブロックを介してプライベート・メタデータをエクスポートします。索引に関連した実装タイプの ODCIIndexGetMetadata メソッドをコールしてエクスポートを実行します。このルーチン内で問題が発生しました。メタデータは索引の統合部分とみなされているため、CREATE INDEX 文がダンプ・ファイルへ書き込まれませんでした。

処置: 索引の実装タイプについては、開発者に連絡してください。Oracle 提供の索引（データ・カートリッジを介した）の場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00079 表 *string* のデータは保護されています。従来型パスでは表の一部だけをエクスポートできます。

原因: アクセス制御パッケージである DBMS_RLS に対して実行権限のないユーザーが、アクセス制御のある表をエクスポートしようとしてしました。表の所有者もアクセス制御を受けているため、すべての行をエクスポートできるわけではなく、参照できる行のみをエクスポートできます。また、表の統合を保つには、表をエクスポートするユーザーが、インポート時にセキュリティ・ルールで表を再作成する十分な権限を持つ必要があります。このため、データベース管理者がこの表のエクスポートを操作することをお勧めします。表の所有者に実行権限を付与しても、このセキュリティ・チェックを満たしますが、その他の暗黙のセキュリティがある可能性があります。表にオブジェクトがない場合は、ダイレクト・モードを使用できます。

処置: この表およびビューのエクスポートおよびインポートは、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00080 表 *string* のデータは保護されています。従来型モードを使用しています。

原因: アクセス制御パッケージである DBMS_RLS に対して実行権限のないユーザーが、アクセス制御可能な表を直接エクスポートしようとしてしました。かわりに従来型エクスポート・モードを使用しています。アクセス制御のために、一部の表のみしかエクスポートされないことに注意してください。

処置: この表およびビューのエクスポートおよびインポートは、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00081 表 / ビュー *string* に対するアクセス制御を非 DBA としてエクスポートしていません。

原因: 非 DBA ユーザーが、表とビューおよび関連するファイングレイン・アクセス・コントロール・ルールをエクスポートしようとしています。ユーザーは、表およびビューをインポートするときに、アクセス・コントロール・ルールを再作成するための十分な権限を持っていない可能性があります。このようなイベントによって、表またはビューのセキュリティ・モデルに不一致が生じる可能性があります。

処置: この表およびビューのエクスポートおよびインポートは、データベース管理者に依頼してください。

EXP-00082 無効な関数名が手続き型オブジェクト・サポートに渡されました: *string*

原因: 矛盾した内部エラーです。リストされた関数は、エクスポートのプロシージャ型オブジェクト・インタフェース指定に対するメソッドではありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00083 *string.string.string* をコール中に前の問題が発生しました。

原因：リストされたパッケージは、プロシージャ型操作に対するエクスポートおよびインポートをサポートします。前に表示されたエラーが、指定された関数のコール中に発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。ほとんどのパッケージは、Oracle 内部カートリッジまたはサーバー開発グループによって提供されています。パッケージ名は、サポートが、問題がある所有者を確認する手助けになります。

EXP-00084 予期しない DbmsJava エラー *number* がステップ *number* で発生しました。

原因：エラーが、DbmsJava プロシージャ・コールから戻されました。

処置：付随するメッセージを記録し、エクスポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

EXP-00085 *string.string.string* (オブジェクト *number*) をコール中に前の問題が発生しました。

原因：リストされたパッケージは、プロシージャ型オブジェクト (DDL がストアド・プロシージャによって提供されるものなど) に対するエクスポートおよびインポートをサポートします。前に表示されたエラーが、指定されたファンクションのコール中に発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。ほとんどのパッケージは、Oracle 内部カートリッジまたはサーバー開発グループによって提供されています。パッケージ名は、サポートが、問題がある所有者を確認する手助けになります。

EXP-00086 表 *string* の主キー参照はインポート時に無効になる可能性があります。

原因：指定された表には、インポート・データベースでは無効になる可能性のある主キー REF が含まれます。

処置：エクスポートおよびインポートを使用して、異なるキャラクタ・セットを持つデータベース間で主キー REF を移動させないでください。

EXP-00087 スキーマ / 表名の内部ハッシュ表で問題が発生しました。

原因：ハッシュ・テーブル・エントリに対するメモリーの割当てで、最も可能性のある問題です。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

EXP-00089 FILE_FORMAT 仕様部が無効です。

原因：FILE_FORMAT 仕様部に、"*string*" のインスタンスが含まれていませんでした。ワイルド・カード文字列は必須です。

処置：エラーを修正して、EXPORT コマンドを再入力してください。

EXP-00090 ビュー *string.string* は定義が切り捨てられたのでスキップされます。

原因：ビューのテキスト全体が抽出されたかどうかを判断するためのエクスポートができませんでした。保護するために、ビューはスキップされます。これは、ビュー定義の長さが 64000 バイトを超える場合にのみ起きます。

処置：手動でビューをエクスポートしてください。

インポート・メッセージ (IMP)

この章では、インポート・ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』を参照してください。

IMP-00000 エラーが発生したためインポートを終了します。

原因：インポート・ユーティリティで Oracle エラーを検出しました。

処置：このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00001 終了するには *string,string,RETURN* もしくは '!' のいずれかを入力してください。

原因：無効な応答が入力されました。

処置：メッセージ中に示された応答のいずれかを入力してください。

IMP-00002 読み込み用の *string* のオープンに失敗しました。

原因：インポート・ユーティリティは、読み込み用のエクスポート・ファイルのオープンに失敗しました。通常、このメッセージの次にオペレーティング・システムからのデバイス・メッセージが続きます。

処置：適切な処置を行ってデバイスをリストアしてください。

IMP-00003 Oracle エラー *number* が発生しました。

原因：インポート・ユーティリティは、参照された Oracle エラーを検出しました。

処置：このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00004 ユーザー名またはパスワードが無効です。

原因：無効なユーザー名またはパスワードが指定されました。

処置：有効なユーザー名 / パスワードを指定して再試行します。

IMP-00005 ログオンに失敗しました。

原因: 無効なユーザー名またはパスワードで繰り返しログオンしようとした。

処置: 有効なユーザー名またはパスワードを指定して再試行してください。

IMP-00006 サイズ *number* のメモリーの割当てに失敗しました。

原因: インポート・ユーティリティは、必要なメモリーの割当てに失敗しました。

処置: メモリーをとらないようにインポート・バッファ・サイズを削減するか、またはインポート用の実行時のメモリー・サイズを増やしてください。

IMP-00007 別のユーザーのアカウントにインポートを行うには DBA でなければなりません。

原因: 別のユーザーのアカウントにインポートするのに必要な権限がありません。データベース管理者だけが別のユーザー・アカウントにインポートできます。

処置: インポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

IMP-00008 エクスポート・ファイルで不明な文が見つかりました。 *string*

原因: インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルの文を認識できませんでした。エクスポート・ファイルが壊れたか、インポート内部エラーが発生した可能性があります。

処置: エクスポート・ファイルが不正な場合、新規のエクスポート・ファイルで再試行してください。そうでない場合には、インポート内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00009 エクスポート・ファイルの終りが異常です。

原因: このエクスポート・ファイルは、異常終了したエクスポート・セッションで作成された可能性があります。

処置: その場合には、エクスポートおよびインポートを実行し直してください。そうでない場合には、これをインポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告し、エラーの原因となったエクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00010 有効なエクスポート・ファイルではありません。ヘッダーは検証に失敗しました。

原因: エクスポート・ユーティリティによって生成されたファイルではないか、またはファイルが壊れたかのいずれかです。

処置: ファイルが実際にエクスポート・ユーティリティによって生成されたものである場合には、これをインポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00011 フォーマットされた表データは現在サポートされていません。

原因: フォーマットされた表データを含むエクスポート・ファイルをインポート処理しようとした。インポート・ユーティリティは、バイナリ表データを含むエクスポート・ファイルのみをサポートしています。

処置: バイナリ表データのみを含むエクスポート・ファイルを使用して、再試行してください。

IMP-00012 ヘッダーでのエクスポート・モード *character* が無効です。

原因: エクスポート・ファイル・ヘッダーに指定したエクスポート・モードは無効です。

処置: エクスポート・ファイルが壊れているかどうか確認してください。壊れていない場合には、これをインポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00013 DBA だけが別の DBA がエクスポートしたファイルをインポートできます。

原因: データベース管理者によって生成されたエクスポート・ファイルをインポートするのに必要な権限がありません。データベース管理者だけが、そうしたファイルをインポートできます。

処置: インポートの実行をデータベース管理者に依頼してください。

IMP-00014 オプション *string* が必要ですが、データベースにありません。

原因: 入力したコマンドには、指定されたオプションが必要です。オプションがインストールされていないか、またはオプションを記述する表 V\$OPTION にありません。

処置: メッセージで指定されたオプションと一緒に Oracle をインストールし直してください。

IMP-00015 オブジェクトが既に存在しているため次の文は失敗しました。

原因: オブジェクトがすでに存在しているため、インポート・ユーティリティはオブジェクトを作成できませんでした。

処置:すでに表が存在しているため表が作成されない場合でも、このようなエラーを無視して行をインポートするには、IGNORE=Y を指定してください。

IMP-00016 要求されたキャラクタ・セットの変換 (*number* から *number*) はサポートされていません。

原因: インポート・ユーティリティは、エクスポート・ファイルの文字形式をシステム固有の文字形式に変換できませんでした。

処置: エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットと突き合わせるため、NLS_LANG 環境変数を設定することによって、ユーザーのキャラクタ・セットを変更してください。

IMP-00017 次の文は、Oracle エラー: *number* で失敗しました。

原因: Oracle エラーが発生したために、インポート・ユーティリティはエクスポート・ファイルの文をうまく実行できませんでした。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00018 前の表の部分インポート完了: *number* 行インポートされました。

原因: Oracle エラーのために、表が部分的にしかインポートされませんでした。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00019 Oracle エラー *number* のために行は拒否されました。

原因: インポート・ユーティリティは、ある行をインポートしようとした時に、参照番号付きの Oracle エラーを検出しました。

処置: このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。

IMP-00020 LONG 列は列バッファ・サイズ (*number*) に対して大きすぎます。

原因: 列のバッファが小さすぎます。これは通常、LONG データをインポートするときに起こります。

処置: 入力バッファ・サイズを一度に 10,000 バイト増加してください（これは一例です）。バッファ・サイズが大きすぎると、同じような問題が発生する可能性があるため、この段階的な方法を行ってください。

IMP-00022 パラメータの処理に失敗しました (IMP HELP=Y を入力するとヘルプ表示)。

原因: 無効なコマンド行パラメータが指定されました。

処置: オンライン・ヘルプ画面で有効なパラメータ値を調べて、実行し直してください。

IMP-00023 インポート・ビューはインストールされていません。DBA に連絡してください。

原因: 必要なインポート・ビューがインストールされていません。

処置: データベース管理者に、必要なインポート・ビューをインストールするように依頼してください。

IMP-00024 モードは1つだけ (TABLES、FROMUSER または FULL) 指定できます。

原因: インポート指定の FULL=Y と矛盾するパラメータが指定されました。

処置: FULL=Y を指定しないで、再試行してください。

IMP-00025 DBA の EXP ファイルに対しては FROMUSER を TOUSER と共に指定してください。

原因：データベース管理者の EXP ファイルをインポートする時に、TOUSER パラメータを指定しただけで、FROMUSER パラメータを指定していません。

処置：どのユーザーのオブジェクトをインポートするかをインポート・ユーティリティが認識できるように、FROMUSER パラメータを指定してください。

IMP-00027 前の表の部分インポートのロールバックに失敗しました。

原因：インポート・ユーティリティは、部分インポートをロールバックしようとしている時に、Oracle エラーを検出しました。

処置：このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。次に Oracle にログインして、部分インポートがコミットされなかったことを確認してください。

IMP-00028 前の表の部分インポートがロールバックされました (*number* 行)。

原因：インポート・ユーティリティは、表をインポートしようとしている時に、Oracle エラーを検出しました。

処置：このドキュメントの ORA メッセージの章に記載されている付随する Oracle メッセージを調べ、適切な処置を行ってください。必要に応じて、表を再インポートしてください。

IMP-00029 所有者・表名 (*string*) ではなく FROMUSER を使用して所有者を限定してください。

原因：次の例に示すように、表名が所有者名で修飾されました。

```
IMP SYSTEM/MANAGER TABLES=(SCOTT.EMP)
```

これは許可されていません。

処置：次の例に示すように、FROMUSER パラメータを使用して表の所有者を指定してください。

```
IMP SYSTEM/MANAGER FROMUSER=SCOTT TABLES=(EMP, DEPT)
```

IMP-00030 書込み用のファイル *string* の作成に失敗しました。

原因：インポート・ユーティリティは、指定した書込み可能なファイルを作成できませんでした。

処置：ファイル名とファイル・システムを確認して、エラー元を探してください。

IMP-00031 FULL=Y を指定するか、あるいは引数 FROMUSER/TOUSER または TABLE を指定しなければなりません。

原因: データベース管理者は全インポートか部分インポートかを指定しませんでした。

処置: データベース管理者は、全インポートでない場合は、FROMUSER/TOUSER または TABLE 引数を指定してください。

IMP-00032 SQL 文はバッファ長を越えました。

原因: バッファは、読み込まれる SQL 文に対して小さすぎます。

処置: バッファを大きくして再実行してください。また、インポート・データ・ファイルが壊れる可能性もあります。

IMP-00033 警告: 表: *string* はエクスポート・ファイルにありません。

原因: 指定された表の名前がエクスポート・ファイルにありませんでした。

処置: 表の指定を修正してください。

IMP-00034 警告: FROMUSER: *string* はエクスポート・ファイルにありません。

原因: 指定された FROMUSER 名がエクスポート・ファイルにありませんでした。

処置: FROMUSER 指定を訂正してください。

IMP-00035 入力ファイル *string* はディスク上になければなりません。

原因: プラットフォームによっては、インポートによってテーブルからファイルを読み取ることができます。エクスポート・ファイルの最初のファイルがディスクにセットされ、2 番目以降のファイルにテーブル・デバイスが設定されている場合、このメッセージが表示されます。

処置: インポート・ファイルに正しいファイル名が指定されていることを確認してください。インポート・ファイルはすべてディスク上またはテーブル上のいずれかにありますが、同時に両方にあってはいけないことに注意してください。

IMP-00036 キャラクタ・セット環境が見つかりません。

原因: インポート・ユーティリティが認識しないキャラクタ・セットが環境変数に指定されました。

処置: コマンド行パラメータ CHARSET (リリース 6 の場合のみ) または環境変数 NLS_LANG に指定されたキャラクタ・セットの綴りが正しいことを確認してください。

IMP-00037 キャラクタ・セット・マーカが不明です。

原因: エクスポート・ファイルが壊れています。

処置: エクスポート・ファイルの壊れていないバージョンを入手してください。エクスポート・ファイルが壊れていない場合、インポート内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00038 環境文字セットのハンドルに変換できません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00039 VOLSIZE がエクスポート : *string* で使用されている値と一致しません。

原因：VOLSIZE に指定された値が、エクスポート・ファイルの作成中に指定された値に一致しません。

処置：指定した VOLSIZE 値が正しいと思われる場合は、正しいファイルをインポートに指定しているかどうかを確認してください。正しいファイルを指定していても、値が正しいかどうかが不確実な場合は、インポート・コマンドを実行し直してください。その場合、VOLSIZE=0 を指定してください。

IMP-00040 FILESIZE がエクスポート : *string* で使用されている値と一致しません。

原因：FILESIZE に指定された値が、エクスポート・ファイルの作成中に指定された値に一致しません。

処置：指定した FILESIZE 値が正しいと思われる場合は、正しいファイルをインポートに指定しているかどうかを確認してください。正しいファイルを指定していても、値が正しいかどうかが不確実な場合は、インポート・コマンドを実行し直してください。その場合、FILESIZE=0 を指定してください。

IMP-00041 警告：オブジェクト作成の際、コンパイル・エラーが発生しました。

原因：このエラーに従う SQL 文のオブジェクトは、コンパイル・エラーを伴って作成されました。ビューに対してこのエラーが発生した場合は、ビューのベース表が欠落していた可能性があります。

処置：これは警告メッセージです。そのオブジェクトは、使用前に再コンパイルしてください。

IMP-00042 CHARSET を使用しましたが、エクスポート・ファイルには既に特定のキャラクタ・セットがあります。

原因：ユーザーは、特定のキャラクタ・セットが、特定の埋込みキャラクタ・セット ID を持つエクスポート・ファイルの処理に使用されることを要求しました。正確なエクスポート・ファイルの ID を使用する必要があります。

処置：コマンド行から CHARSET キーワードを削除してください。

IMP-00043 エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットは矛盾しています。

原因：エクスポート・ファイルのキャラクタ・セットおよび環境変数のキャラクタ・セット（または CHARSET キーワードで指定されるキャラクタ・セット）は矛盾しています。たとえば、一方のキャラクタ・セットが ASCII ベースであり、他方は EBCDIC ベースのものである場合です。

処置：CHARSET キーワードで正しいキャラクタ・セットを指定してください。

IMP-00044 文に十分なメモリーを割り当てられません。

原因: インポート・ユーティリティは、指定された文を読み込んで実行するのに十分なメモリーの割当てができませんでした。

処置: バッファ・オプションの値をより大きく設定して、インポート・コマンドを再実行してください。

IMP-00045 VOLSIZ の値はエクスポート・ファイル *string* から使用します。

原因: IMPORT コマンド内で VOLSIZ パラメータが指定されていないか、または VOLSIZ=0 を指定し、0 以外の値の VOLSIZ でエクスポートが作成されました。インポート・ユーティリティはエクスポート・ファイルで指定された値を使用します。

処置: 処置は必要ありません。

IMP-00046 FILESIZE の値はエクスポート・ファイル *string* から使用します。

原因: IMPORT コマンド内で FILESIZE パラメータが指定されていないか、または FILESIZE=0 を指定し、エクスポート・ファイルは 0 以外の値の FILESIZE で作成されました。インポート・ユーティリティはエクスポート・ファイルで指定された値を使用します。

処置: 処置は必要ありません。

IMP-00047 予期しないファイル順序番号です。 *number* が必要ですが *number* が見つかりました。

原因: エクスポート・ファイル内のヘッダーが、複数のエクスポート・ファイルが書かれている順番を追跡するために使用されている順序番号を含んでいます。最初のエクスポート・ファイルは 1 番の順序番号、2 番目のファイルは 2 番というように割り当てられています。このメッセージは、予期されない番号がファイル・ヘッダーに見つかったときに表示されます。

処置: インポート・コマンドを再実行してください。ただし、エクスポート・ユーティリティがファイルを書いた順にファイルを指定してください。

IMP-00048 ファイル・ヘッダーが不一致です。

原因: 複数ファイル・エクスポートで、2 番目以降のファイルを確認する間に、インポートが最初のファイルの値に一致しないヘッダー・フィールドを見つけました。

処置: エクスポート・ユーティリティが作成したファイル名をチェックし、そのファイルを正しくインポート操作に指定したかどうかを確認してください。

IMP-00049 CHARSET に指定された言語が不明です。

原因: CHARSET オプションに示された言語が不明です。

処置: 認識されているキャラクタ・セットを使用してください。

IMP-00050 ダンプ・ファイルとログ・ファイルを同一のものにできません。

原因: 同一の名前がダンプ・ファイルとログ・ファイルに指定されました。

処置: ダンプ・ファイルとログ・ファイルに対して異なる名前を指定して、操作を再試行してください。

IMP-00051 ダンプ・ファイルをエクスポートしたダイレクト・パスには無効な列長が入っています。

原因: 列のピースの処理中に無効な列長が見つかりました。

処置: エクスポート・ファイルが壊れていないことを確認してください。または、インポート / エクスポート・ユーティリティの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告し、エクスポート・ファイルを送付してください。

IMP-00052 警告: サーバーとの空きリスト通信にイベントを設定できません。

原因: 現行のセッションにイベントを設定できません。

処置: インポートに失敗した場合、インポートするユーザーに ALTER SESSION PRIV を付与し、操作を再試行してください。

IMP-00053 インポート・モードがエクスポート・ダンプ・ファイルと互換性がありません。

原因: 指定されたインポート・オプションは Point-in-Time リカバリのダンプ・ファイルと互換性がありません。

処置: 適切なダンプ・ファイルを生成するか、Point-in-Time リカバリのインポート・モードを使用してください。

IMP-00054 Point-in-time リカバリまたはトランスポータブル表領域のインポートを実行するには、'AS SYSDBA' での接続が必要です。

原因: トランスポータブル表領域のインポートまたは Point-in-Time リカバリのインポートを実行する場合、ユーザーは「as SYSDBA」でログインする必要があります。

処置: トランスポータブル表領域のインポートまたは表領域の Point-in-Time リカバリのインポートを実行するように、データベース管理者に依頼してください。

IMP-00055 警告: エクスポート・ファイルでパーティションまたはサブパーティション *string:string* が見つかりません。

原因: 指定されたパーティションまたはサブパーティション名がエクスポート・ファイルにありませんでした。

処置: パーティション名およびサブパーティション名が表に属していることを確認してください。

IMP-00056 テープ入力用のデバイスが複数指定されました。

原因: テープ・デバイスからのインポートを実行中に、複数のファイル名が指定されました。インポート・ユーティリティは、要求されたテープ・ボリュームの番号に関係なく、すべてのテープを読み込むのに同じデバイスを使用します。このため、エクスポート・ユーティリティは、テープに書き込むとき、FILE パラメータの値を 1 つのみ指定します。

処置: インポート・コマンドを再入力してください。ただし、FILE パラメータにテープ・デバイスを 1 つのみ指定してください。

IMP-00057 警告: ダンプ・ファイルに表の全パーティション・データが含まれない可能性があります。

原因: この表モード・インポートに使用されたダンプ・ファイルは、エクスポートされた表に属する全データを含まない可能性があります。

処置: 必要な全データがエクスポートされたことを確認するか、パーティション・インポートを試行してください。

IMP-00059 パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

原因: パラメータ・マネージャの初期化に失敗しました。

処置: インポート・ユーティリティの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

IMP-00060 警告: 表 *string.string* をスキップ。オブジェクト型 *string.string* がないか別の識別子です。

原因: 表が必要とするオブジェクト型がターゲット・システムに存在していないか、または存在していても異なるオブジェクト識別子を持っています。

処置: ターゲット・システムに有効な識別子を持つオブジェクト型を作成してください。

IMP-00061 警告: オブジェクト型 *string.string* は、別の識別子ですすでに存在しています。

原因: オブジェクト型はすでにターゲット・システムに存在しますが異なる識別子を持つため作成できません。

処置: ターゲット・システムからこのオブジェクト型を削除して操作を再試行してください。

IMP-00062 警告: オブジェクト型 *string.string* のダンプ・ファイルの識別子が無効です。

原因: オブジェクト型の識別子を表す文字列がオブジェクト識別子に変換できません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00063 警告: 表 *string.string* をスキップ。オブジェクト型 *string.string* が作成不可か別の識別子です。

原因: 表で使用しているオブジェクト型の作成中にエラーが発生しました。

処置: インポート・ログを確認してオブジェクト型が作成できない理由を判断してください。オブジェクト型が異なるオブジェクト識別子ですすでに存在している場合、このオブジェクト型を削除してインポートを再試行してください。

IMP-00064 エクスポートにより、LOB の定義が切捨てられました。

原因: ダンプ・ファイルの作成でエクスポート・ユーティリティが LOB の全内容を書き込むことができませんでした。そのためインポート・ユーティリティは LOB の内容を再構成できません。現行の表のインポートの残りはスキップされます。

処置: エクスポートしたデータベースで無効な行を削除し、操作を再試行してください。

IMP-00065 オブジェクト内の lob をインポートで再作成できません。

原因: インポートしたオブジェクト内の LOB の再作成でエラーが発生しました。

処置: インポート・ユーティリティの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

IMP-00066 PROPS\$ に NLS_CHARACTERSET がありません。

原因: PROPS\$ に NLS_CHARACTERSET の値がありません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00067 サーバー文字セットのハンドルに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00068 各国の環境キャラクタ・セットが検索できません。

原因: インポート・ユーティリティが認識しない各国語キャラクタ・セットが環境変数に指定されました。

処置: 環境変数 NLS_NCHAR で指定された各国語キャラクタ・セットの綴りが正しいことを確認してください。

IMP-00069 各国の環境キャラクタ・セットのハンドルに変換できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00070 ダンプ・ファイル内の Lob の定義がデータベースと矛盾しています。

原因: ダンプ・ファイルの 1 行当たりの LOB の数が、挿入先の表の 1 行当たりの LOB の数と異なります。

処置: インポートする表をエクスポートした表の列の属性レイアウトと一致するように修正してください。

IMP-00071 インポートされた表と既存の表のオブジェクト識別子が一致しません。

原因: エクスポートしたオブジェクト表で使用されているオブジェクト識別子と異なるオブジェクト識別子で再作成された表にデータをインポートしようとした。この状況では、ダンプ・ファイルに含まれているこの表に対する REF も無効となります。

処置: インポートの前に問題のオブジェクト表を削除してください。

IMP-00072 警告: オブジェクト表のオブジェクト識別子が無効です。

原因: 表のオブジェクト識別子を表す文字列が内部オブジェクト識別子に変換できません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00073 FILE ロケータ *string string* はサーバーのキャラクタ・セットで *string string* に切捨てです。

原因: エクスポート・サーバーのキャラクタ・セットからインポート・サーバーのキャラクタ・セットへの変換で、ファイルの属性または列に対して指定されたディレクトリと名前の文字列が FILE 記述子内で許可されている最大文字列長を超えています。文字列はサポートされている最大長に切り捨てられます。

処置: ディレクトリの別名と外部ファイル名を、指定された FILE 列または属性の切り捨てられた名前と一致するように改名してください。

IMP-00074 ALL_CONSTRAINTS.BAD による制約フラグは 2000 年にはブレイクされます。

原因: 制約がデータベースに存在し、年を完全に指定せずに日付値を指定しています。こうした制約は西暦 2000 年にブレイクします。

処置: ALL_CONSTRAINTS に問い合わせ、不正とマークされた制約を修正してください。

IMP-00075 警告: ネストされた表に行の一部または重複する行が含まれている可能性があります。

原因: データの外部または外部の NESTED TABLE への挿入中にエラーが発生しました。エラーが外部表で発生した場合、行はまだ内部表に挿入されたままです。エラーが外部表で発生した場合、データはまだ外部表および内部表に挿入されたままです。この結果、重複した内部表または部分的論理行が発生する可能性があります。

処置: 表のデータを調べてください。不正な行または表全体を削除し、インポートを再実行してください。

IMP-00076 PROPS\$ に NLS_NCHAR_CHARACTERSET がありません。

原因： PROPS\$ に NLS_NCHAR_CHARACTERSET の値がありません。

処置： オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00077 サーバーの各国文字セットのハンドルに変換できません。

原因： これは内部エラーです。

処置： オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00078 FILE ロケータをサーバーのキャラクタ・セットにある *string string* に変換できません。

原因：

1. 現行のエクスポート・ダンプ・ファイルは、Oracle 8.0 の Beta-2 を使用して生成されました。
2. 表の列内に ADT の属性として表示されるファイルがありました。
3. エクスポート・サーバーのデータベースのキャラクタ・セットが、インポート・サーバーのデータベースのキャラクタ・セットと異なります。
4. ファイルのファイル名または別名がインポート・サーバーのキャラクタ・セットに変換されたとき、サイズが大きくなりました。

これらの条件にすべて当てはまる場合、文字列を変換すると列のデータが破損する可能性があります。インポートは変換を進めずに、文字列を古いキャラクタ・セットでファイルに残します。

処置： インポートの完了後、ディレクトリの別名と外部ファイル名を、ターゲット・データベースの本名と一致するように改名してください。

IMP-00079 警告：この表にある各国文字の設定データは不適切な場合があります。

原因： 8.0.2 エクスポート・ユーティリティでの問題のため、NCHAR および NVARCHAR2 列の各国文字データがエクスポート・サーバーのデータベース・キャラクタ・セットにあると不正に仮定され、エクスポート・クライアントのデータベース・キャラクタ・セットに変換されました。この変換が正しいのは、エクスポート・サーバーのデータベース・キャラクタ・セットがエクスポート・サーバーの各国語キャラクタ・セットと同じで、エクスポート・クライアントのデータベース・キャラクタ・セットがエクスポート・クライアントの各国語キャラクタ・セットと同じ場合です。これ以外の組合せはすべて不正です。このエクスポート・ダンプ・ファイルは 8.0.2 エクスポート・ユーティリティにより生成されたので、サーバー・キャラクタ・セットはその基準に合致しません。

処置： 各国文字データを調べてください。不正な場合、正しいデータでデータを更新してください。

IMP-00080 LONG 列または LONG コマンドの文字変換中にエラーが発生しました。

原因: LONG 列または LONG コマンドでのデータの個別文字変換中に、致命的な変換エラーが発生しました。文字の切捨てが発生したか、または無効なキャラクタ・セット・ハンドルが使用されました。

処置: 違うキャラクタ・セットでインポートを再試行してください。

IMP-00081 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

原因: 割り当てられていないメモリーを解放しようとしてしました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00082 ROWID を文字列形式から内部形式に変換中にエラーが発生しました。

原因: ROWID をエクスポート・ダンプ・ファイルから内部形式に変更しているときに、エラーが発生しました。

処置: インポート・ユーティリティの内部エラーとして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

IMP-00083 ダンプ・ファイルに増分エクスポートは含まれていません。

原因: 増分インポートが要求され、インポート・コマンドに指定された ダンプ・ファイルがユーザーか、表エクスポートのどちらかです。

処置: インポート・コマンドを再発行してください。その場合、増分エクスポートを含んだダンプ・ファイル名を指定してください。

IMP-00084 増分インポートをユーザーまたは表のインポートと混在しようとしてしました。

原因: 増分インポートが FROMUSER、TOUSER、または TABLE 修飾子で要求されました。増分インポートは、別の修飾子がいっしょに指定されていると実行できません。

処置: 実行するのは増分インポートか、全インポートか、ユーザー・インポートか、表インポートかを判断し、適切な修飾子でインポート・コマンドを作成し直してください。

IMP-00085 無制限のエクスポート・ファイル用の入力ファイルが複数指定されました。

原因: インポート中に、FILE パラメータに対して複数のファイル名が指定されましたが、エクスポート・ファイルのヘッダーは、エクスポート操作がファイルを 1 つのみ作成できたことを示しています。ユーザーが FILESIZE パラメータを 0（ゼロ）以外の値に指定したエクスポート操作で、エクスポート・ファイルが作成された場合のみ、インポート操作で複数のファイル名の指定が有効です。

処置: エクスポートが複数のファイルを含んでいると思われる場合、正しいファイルを指定しているかを確認してください。エクスポートが 1 つのファイルにのみあると思われる場合、インポート操作を再試行してください。ただし、FILE パラメータには値を 1 つのみ指定してください。

IMP-00086 TOID *string* がエクスポート・ファイルに見つかりません。

原因：インポート・ユーティリティは、TOID_NOVALIDATE パラメータで指定された型識別子を見つけませんでした。指定された型識別子は、エクスポート・ファイルに存在しません。

処置：TOID_NOVALIDATE パラメータを修正するか、または指定しないでください。

IMP-00087 スキーマ / 表名の内部ハッシュ表で問題が発生しました。

原因：ハッシュ表エントリに対するメモリーの割当てで、最も可能性のある問題です。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00088 索引 *string* に対するメタデータのインポート中に問題が発生しました。索引の作成はスキップされます。

原因：ドメイン索引は、CREATE INDEX 文の前に無名 PL/SQL ブロックを介してプライベート・メタデータをインポートします。この PL/SQL ブロックのうち 1 つが実行に失敗しました。メタデータは索引の整数部分と考えられるため、後続の CREATE INDEX 文はスキップされました。

処置：索引の実装タイプについては、開発者に連絡してください。Oracle 提供の索引（データ・カートリッジを介した）の場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMP-00089 表 / ビュー *string* に細かい粒度のアクセス制御ポリシーが再作成されていません。

原因：インポートしているユーザーが、インポート中の表 / ビューのアクセス・コントロール・ルールを再作成するのに失敗しました。そのルールを再作成するには、インポートを実行するユーザーに、DBMS_RLS パッケージの実行権限が必要です。

処置：この表およびビューのエクスポートおよびインポートの実行は、データベース管理者に依頼してください。

IMP-00090 予期しない DbmsJava エラー *number* がステップ *number* (*string* の作成中) で発生しました。

原因：エラーが、DbmsJava プロシージャ・コールから戻されました。

処置：付随するメッセージを記録し、インポートの内部エラーとしてオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

IMP-00091 次のファンクションおよびオブジェクトでエラー: *string* オブジェクトの残り PL/SQL ブロックはスキップ。

原因：名前付きのファンクションおよびプロシージャのオブジェクトに対して、DDL をインプリメントする PL/SQL ブロックを実行中にエラーが発生しました。プロシージャのオブジェクトとは、その DDL が標準の SQL 文としてではなく、ストアド・プロシージャとしてインプリメントされるオブジェクトです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。欠陥のあったパッケージ担当の開発グループが判断できる可能性があります。

IMP-00092 Java オブジェクト *string.string* はすでに存在します。このオブジェクトを作成できません。

原因：インポート・ユーティリティは、Java のソース、クラスまたはリソース・オブジェクトがすでに存在しているため、それらの作成に失敗しました。

処置：ターゲット・システムからこのオブジェクト型を削除して操作を再試行してください。

パラメータ・メッセージ (LRM)

LRM-00100 internal error [*number*]

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エラーを報告してください。

LRM-00101 不明なパラメータ名です。 *string*

原因: パラメータ名の綴りが間違っています。

処置: パラメータ名の綴りを訂正してください。

LRM-00102 *string* は *string* に対して有効な範囲内にありません。

原因: パラメータの値が有効範囲内にありません。

処置: このパラメータの有効値については、ドキュメントを参照してください。

LRM-00103 *string* は *string* に対して不正な整数基数です。

原因: 無効な整数基数の指定が見つかりました。

処置: 整数基数の指定は、d、h、D および H のみで行ってください。

LRM-00104 *string* は *string* に対して無効な整数です。

原因: 値が有効な整数ではありません。

処置: このパラメータに有効な整数のみを指定してください。

LRM-00105 *string* は *string* に対して無効なブール値です。

原因: 値が有効なブール値ではありません。

処置: 有効なブール値については、ドキュメントを参照してください。

LRM-00106 メモリー不足です。

原因: オペレーティング・システムのメモリーが足りません。

処置: メモリーの量を増やしてプログラムが使用できるようにしてください。

LRM-00107 パラメータ名の略称 *string* が一意ではありません。

原因: 指定された略称が一意ではありませんでした。

処置: より長い略称を使用して、パラメータ名を一意にしてください。

LRM-00108 位置パラメータ値 *string* が無効です。

原因: 無効な位置パラメータが入力されています。

処置: 無効な位置パラメータを削除してください。

LRM-00109 パラメータ・ファイル *string* をオープンできません。

原因: パラメータ・ファイルが存在しません。

処置: 適切なパラメータ・ファイルを作成してください。

LRM-00110 *string* で構文エラーが発生しました。

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00111 値 *string* の右引用符がありません。

原因: 引用符付き文字列が開始されましたが、終了されていません。

処置: 正しい位置にクローズ引用符を置いてください。

LRM-00112 パラメータ *string* に複数の値を指定できません。

原因: 1つの値のみをとるパラメータに複数の値を指定しようとしました。

処置: このパラメータには複数の値を指定しないでください。

LRM-00113 ファイル *string* の処理中にエラーが発生しました。

原因: このファイルを処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

LRM-00114 コマンド行の処理中にエラーが発生しました。

原因: コマンド・ファイルの処理中に問題が発生しました。

処置: 追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

LRM-00115 環境変数の処理中にエラーが発生しました。

原因：環境変数の処理中に問題が発生しました。

処置：追加のエラー・メッセージを調べ、その問題を修正してください。

LRM-00116 *string* に続く *string* で構文エラーが発生しました。

原因：構文エラーが検出されました。

処置：正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00117 入力の開始で *string* に構文エラーが発生しました。

原因：構文エラーが検出されました。

処置：正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00118 入力の終わりで *string* に構文エラーが発生しました。

原因：構文エラーが検出されました。

処置：正しい構文が使用されるように入力を変更してください。

LRM-00119 *string* に対する有効な値が取得できません。

原因：このパラメータに有効な値が得られませんでした。

処置：アプリケーションを再実行し、有効な値を入力してください。

LRM-00120 *string* は *string* に対して有効な OracleNUMBER 型ではありません。

原因：値が有効な Oracle 番号ではありません。

処置：有効な Oracle 番号の値については、ドキュメントを参照してください。

パラメータ・メッセージ (LCD)

LCD-00100 internal error, argument [*number*]

原因：内部エラーが発生しました。

処置：エラーが発生した状況および表示されたすべてのエラー・メッセージを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LCD-00111 値の範囲が無効です。 [*string*]

原因：パラメータの値が有効な範囲内にありません。

処置：有効な範囲を確認した後、新しい値を使用して再試行してください。

LCD-00112 整数の位取り指定 [*string*] は間違っています。

原因：指定された文字が無効です。

処置：有効な文字は 'd'、'h'、'D' および 'H' です。

LCD-00113 整数変換でエラーが発生しました。負の整数を検出しました。 [*string*]

原因：整数以外の数または負の整数が、整数パラメータに割り当てられました。

処置：有効な整数値を使用して再試行してください。

LCD-00114 ブール・パラメータの応答は間違っています。 [*string*]

原因：TRUE または FALSE 以外の値をブール・パラメータに割り当てようとしてしました。

処置：ブール・パラメータには TRUE または FALSE のみを使用してください。

LCD-00122 キーワード [*string*] は認識されませんでした。

原因：パラメータ名の綴りが間違っています。

処置：パラメータ名の綴りを訂正してください。

LCD-00128 位置パラメータ [string] の値は無効です。

原因: 無効な位置パラメータが入力されています。

処置: 無効な位置パラメータを削除してください。

LCD-00161 Oracle エラー（構文エラーの可能性あります）パラメータ [string]

原因: 構文エラーの可能性あります。追加メッセージが表示されます。

処置: エラーに表示されるパラメータを訂正してください。

LCD-00201 指定されたファイル [string] をオープンできません。

原因: 指定したファイルが存在しません。

処置: 適切なパラメータ・ファイルを作成してください。

LCD-00203 キーワード [string] が不足しています。

原因: 指定したキーワードを検索しましたが見つかりません。

処置: 等号 (=) およびパラメータ値が後に続くキーワードを追加してください。

LCD-00204 左カッコだけで、パラメータ [string] が指定されていません。

原因: パラメータ・リストが開始されましたが、パラメータが指定されていませんでした。

処置: 適切な値リストを追加して、パラメータ・リストをクローズしてください。

LCD-00205 カッコの指定が無効です。 [string]

原因: 片方が足りないか、余分の半端なカッコが見つかりました。

処置: 正しい数のカッコを指定した文を再試行してください。

LCD-00206 キーワード [string] の後に位置パラメータが入力されました。

原因: 等号 (=) が不足しています。

処置: すべてのキーワードの後には等号 (=) を続けてください。

LCD-00207 ネストになったカッコがあります。 [string]

原因: カッコは1組しか使用できません。

処置: ネストされたカッコを削除してください。

LCD-00208 値リストに予期しないキーワード [string] が指定されています。

原因: 値のかわりにキーワードがあります。

処置: 指定されたパラメータに適切な値を挿入してください。

LCD-00209 文字列の終りにキーワードが足りません。[string]

原因: 値を指定せずにキーワードを指定しました。

処置: そのキーワードに有効な値を指定してください。

LCD-00210 演算子 [string] の割当てが間違っています。

原因: 等号 (=) 以外の符号がキーワード値の割当てに使用されました。

処置: 等号 (=) のみを使用してください。

LCD-00211 区切り文字 [string] が間違っています。

原因: 値の間に無効な区切り記号が見つかりました。

処置: カンマまたは空白が有効な区切り記号です。

LCD-00212 [string] の右側の引用符がありません。

原因: パラメータの値の左側には引用符がありますが、右側にはありません。

処置: パラメータの値の両側に引用符を指定してください。

LCD-00215 パラメータ・ファイルのネスト・レベルが深すぎます。[string]

原因: パラメータ・ファイルのネスト・レベルの値が深すぎます。最大値は3です。

処置: 間接レベル値を3以下にしてください。

LCD-00217 ファイル・パラメータ [string] の処理中にエラーが発生しました。

原因: 指定されたファイル・パラメータの処理中にエラーが発生しました。

処置: その他のメッセージに詳細が表示されます。

LCD-00218 ファイル [string] でエラーが発生しました。

原因: 特定のファイルにエラーが発生しました。

処置: 固有のエラーについては、その他のメッセージを参照してください。

LCD-00219 ネストしたインクルード・ファイル [string] が大きすぎます。

原因: パラメータ・ファイルのサイズに制限があり、それを超えています。サイズ制限は8192バイトです。

処置: ファイルから文字を削除して、ファイルのサイズを小さくするか、ネストのレベルを変更してください。

BFILE 関連のメッセージ (LFI)

LFI-00002 メモリー不足です。 *string*

原因: ファイル I/O パッケージは、メモリーの動的割当ての試行に失敗しました。関数名は追加コメントに使用され、どこで、いつ、どうしてエラーが発生したのかを示します。

処置: 実行しているプログラムでより多くのメモリーを使用可能にするのに必要な処置を行ってください。

LFI-00003 内部例外コード。 *icode* = [*string*], [*string*].

原因: メッセージのパラメータによって示されます。最初の *string* は内部例外コードを示し、2 番目の文字列はその他の追加コメントを示します。

処置: 適切な開発グループに報告してください。

LFI-00004 *string* の呼出しができません。

原因: 関数の呼出しに失敗しました。このエラーは一般的なメッセージで、例外が特定の関数名で発生したことを示しています。これによって、クライアントは例外スタックを調べてトレース・ランタイム・コールの順序を知ることができます。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00005 *string* で一部メモリーの解放に失敗しました。

原因: 関数名での一部メモリーの解放の呼出しに失敗しました。

処置: 詳細については、付随するエラー・メッセージを参照し、オラクル社カスタマ・サポート・センターにすぐに連絡してください。

LFI-00006 関数 *string* のパラメータが無効です。

原因: 無効なパラメータで関数が呼び出されました。

処置: 関数の呼出しを確認し、確実に正しいパラメータを渡してください。

LFI-00007 NLSRTL のコールに失敗しました。string.

原因: LX コールが失敗しています。

処置: パラメータが正しいかどうかを確認してください。パラメータが有効な場合、適切なグループにすぐに連絡してください。

LFI-00008 SLTS の初期化 / 終了が、string で失敗しました。

原因: SLTS の呼出しが、関数 'string' で失敗しています。

処置: 適切な開発グループに連絡してください。

LFI-00100 操作を実行できません。ファイルが string でオープンされていません。

原因: 操作が行われたときに、ファイルが正常にオープンされていませんでした。

処置: 読み込み用ファイルが存在しているか、またはプログラムがファイルへの書き込みアクセス権を持っているかどうかを確認してください。ファイルが単にオープンされなかった可能性もあります。

LFI-00101 書き込みに失敗しました。ファイルを書き込めません。

原因: バッファの書き込み操作に失敗しました。無効なパラメータを渡した可能性があります。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00102 順次アクセス・ファイルではシークできません。

原因: 順次ファイル操作のために、ファイルがフラグ LFILFA_SEQ でオープンされました。ランダム・アクセス用に LFILFA_RANDOM フラグでオープンされたファイルのみで、シークを使用してください。

処置: ファイルがどのようにオープンされ、アクセスされたのかを調べ、2つの操作に一貫性があるようにしてください（つまり、両方の操作を順次またはランダムのいずれかにしてください）。

LFI-00103 シーク操作が失敗しました。

原因: バッファのシーク操作に失敗しました。不正なパラメータまたはフラグが原因である可能性があります。

処置: シーク・コマンドの構文を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00104 読み込み操作が失敗しました。

原因: バッファの読み込み操作に失敗しました。不正なパラメータまたはフラグが原因である可能性があります。

処置: 読み込みコマンドの構文を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00105 パスが追加できません。

原因：次のいずれかが原因です。

- 現行のパスが正しい形式ではありませんでした。
- ディレクトリが正しい形式ではありませんでした。
- 名前オブジェクトが正しく初期化されませんでした。

処置：現行のパスと新規ディレクトリの形式を確認してください。名前オブジェクトが正しく初期化されたことを確認してください。

LFI-00106 1 つのパス・オブジェクトが複数のパスを指しています。

原因：LFIPPTH() に渡されたパス・オブジェクトが、複数のパスを保持しています。

処置：LFIPPTH() で使用されるパス・オブジェクトが、パスを 1 つのみ保持することを確認してください。

LFI-00107 オープン操作で、ファイル [string][string] は存在しないことになっています。

原因：オープンに指定されたフラグは、ファイルが存在しないことを示しています。しかし、ファイルは存在します。

処置：ファイルに指定されたオプションが正しく、ファイルの存在を予期していないことを確認してください。その場合は、ファイルが存在する理由を検索してください。

LFI-00108 オープン操作で、ファイル [string][string] が存在することになっています。

原因：オープンに指定されたフラグは、ファイルが存在することを示しますが、ファイルが存在しません。

処置：ファイルに指定されたオプションが正しく、ファイルの存在を予期していることを確認してください。その場合は、ファイルが存在しない理由を検索してください。

LFI-00109 ファイル [string][string] をオープンできません。string。

原因：原因は次のいずれかです。

- プロセスに、ファイルのオープンに必要な適切なアクセス権がありません。
- ファイルはすでにオープンされています。

処置：適切なアクセス許可が割り当てられていることを確認してください。この条件が満たされており、それでもファイルがオープンできない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-00110 Buffer Manager を初期化できません。

原因：Buffer Manager の初期化ルーチンに失敗しました。その原因はメモリーを使い尽くしたためだと考えられます。

処置：詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00111 その他のフラグは固定長フォーマットでは使用できません。

原因: その他のオプションが固定長フォーマットで指定されています。

処置: その他のオプションをフラグから消去してください。

LFI-00113 標準ファイル・オブジェクト *string* を初期化できません。

原因: 標準ファイル・オブジェクトをオープンする呼出しに失敗しました。

処置: 詳細は根本的なエラーを確認してください。

LFI-00114 *string* での追加はできません。

原因: あるオプションを使用して追加しようとしてしました。

処置: フラグ・オプションを確認して、使用方法を検証してください。

LFI-00115 バッファを解放できません。

原因: バッファのフラッシュに失敗しました。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00116 操作 *string* ではファイルをクローズできません。

原因: ファイルのクローズ操作に失敗しました。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-00117 ファイルを改名できません。

原因: 改名操作に失敗しました。テンポラリ・ファイルでの操作によってファイルが保護される場合、改名が呼び出されます。

処置: プロセスが改名を実行するための正しいアクセス権を持っていることを確認してください。

LFI-00118 タイプを「不明」に変更できません。

原因: ファイルの拡張子を LFIEXUNK（不明）に変更するために、関数 LFICHTY() が呼び出されました。これは有効な操作ではありません。

処置: この操作を行う理由を確認してください。拡張子がすでに不明の場合は、必要ありません。拡張子を必要としない場合、拡張子型 LFIEXNONE を使用してください。

LFI-00119 未保護のファイルを強制終了できません。

原因: 保護ファイルとしてオープンされなかったファイルに、強制終了関数 LFIABT() が呼び出されました。このような強制終了は有効ではありません。

処置: 保護ファイルとしてファイルをオープンしようとしたのかを確認してください。

LFI-00120 ルート・ファイル名 *string* を解析できません。

原因: LFIMKNAM() に指定されたルート・ファイル名は、このプラットフォームが認識する形式ではありません。

処置: ファイル名の形式を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00121 オープン・タイプとして指定できるのは、REPLACE, PROT のいずれかです。

原因: 次の両方のオープン・タイプ・オプションが LFILINI() 関数 LFILOPTY_REPLACE または LFILOPTY_PROT に指定されました。

処置: オプションを 1 つのみ渡すように、いずれかのオプションを削除してください。

LFI-00122 削除できるのは、作成したファイルだけです。

原因: 削除ファイル・フラグが、このファイル操作で作成されていないファイルに指定されました。ファイルを削除する機能には移植性がありません。このパッケージで実行可能な削除は、Oracle がファイルを作成したときに削除することを認識している場合のみです。

処置: 作成したファイルのみを削除することができます。作成していないファイルを削除する必要がある場合、他の方法を見つけてください。

LFI-00123 順次アクセスとランダム・アクセスの両方は実行できません。

原因: ファイル・オブジェクト作成中に、LFILFA_SEQ (順次) および LFILFA_RANDOM (ランダム) フラグが指定されました。これは許可されていません。これらのうち 1 つのみが指定できます。

処置: どのようにファイルにアクセスしたいかを選択してください。ランダムを選択しても、再配置関数を使用せずに順次にアクセスできます。

LFI-00124 アクセス方法が指定されていません。デフォルトは順次アクセスです。

原因: ファイル・オブジェクト作成中に、LFILFA_SEQ (順次) も LFILFA_RANDOM (ランダム) も指定されませんでした。

処置: デフォルトは順次ですが、これを明示的に設定してください。

LFI-00125 ランダム・アクセスは固定長レコードのファイルでしか行えません。

原因: 固定長レコードに編成されていないファイルで、LFILFA_RANDOM フラグが指定されました。ランダム・アクセスは、固定長ファイルでのみ可能です。

処置: データの編成が可変長レコードにあり、ファイルにランダム・アクセスする必要があるのかどうかを判断してください。両方の条件に当てはまる場合は、ファイル全体または十分な量をバッファして、ランダム・アクセスのニーズを削除する必要があります。別のオプションとしては、ファイルをクローズおよび再スキャンすることもできますが、これは最適な解決策ではありません。

LFI-00126 レコード形式は「固定」または「可変」のいずれかです。

原因: ファイル・オブジェクト作成中に、LFILRF_FIXED (固定) および LFILRF_VAR (可変) が指定されました。所定のファイルには、これらのうち 1 つのみが指定できます。

処置: ファイルの編成方法を決定し、合致するオプションを選択してください。

LFI-00127 レコードの形式が指定されていません。デフォルトは可変です。

原因: レコード形式に、LFILRF_FIXED (固定) も LFILRF_VAR (可変) も指定されませんでした。それぞれのファイルには、どちらか一方を指定する必要があります。

処置: デフォルトは LFILRF_VAR ですが、ファイル・オブジェクト作成中に、これを明示的に設定してください。

LFI-00128 キャリッジ制御が有効なのは、標準ファイル・オブジェクトのみです。

原因: キャリッジ制御オプションが有効なのは標準ファイル・オブジェクト (LFISTDIN、LFISTDOUT、LFISTDERR) のみです。このオプションをその他のタイプのファイルに指定することはできません。

処置: レコード形式に、LFILRF_FIXED または LFILRF_VAR のいずれかに選択してください。

LFI-00129 入力専用ファイルで無効なオプション *string* が指定されました。

原因: ファイルは入力専用としてオープンされましたが、出力モード・オプション LFILRF_WR_ASIS または削除オプション LFLOPTY_DELETE が指定されました。

処置: ファイルのオープン方法を確認し、必要な変更を行ってください。

LFI-00130 出力専用ファイルで入力オプションが指定されました。

原因: ファイルは出力専用としてオープンされましたが、入力モード・オプション LFILRF_READ_NL または LFILRF_FORCE_NL が指定されました。

処置: ファイルのオープン方法を確認し、必要な変更を行ってください。

LFI-00131 オープン・タイプが指定されていません。

原因: ファイル・オブジェクトが、オープン・タイプ (つまり、LFILOPTY_INPUT、LFILOPTY_OUTPUT など) を指定せずに作成されました。

処置: ファイルへのアクセス方法を決定し、オープン・タイプのうち 1 つを指定してください。

LFI-00132 レコード長 *string* が *string* の最大長を超えています。

原因: ファイルに指定されたレコード長が、このプラットフォームでサポートされる最大長を超えています。

処置: レコード長を小さくしてください。

LFI-00133 作成するファイル *string* はすでに存在しています。

原因: ファイル・オブジェクトが、LFILOPTY_REPLACE を使用せずに LFILOPTY_OUTPUT で初期化されましたが、この名前のファイルはすでに存在しています。

処置: 適切なファイルを作成していることを確認してください。存在するファイルを上書きする場合、ファイル・オブジェクトを初期化するときに置換オプション LFILOPTY_REPLACE を指定してください。

LFI-00134 追加操作に関してはファイル保護はできません。

原因: LFILOPTY_APPEND オプションおよび LFILOPTY_PROT オプションの両方がファイルに指定されました。これは、オープン時にファイル全体をコピーする必要があるため、現在許可されていません。

処置: 追加操作に対してファイルの保護が必要であるかどうかを決定してください。必要であれば、追加する前にコピーを作成することを考えてください。

LFI-00135 テンポラリ・ファイルを削除できません。

原因: ファイルを保護するためにテンポラリ・ファイルが作成されています。テンポラリ・ファイルが必要でなくなったとき、LFI がそのファイルを削除しようとしたましたが削除できませんでした。

処置: 権限とテンポラリ・ファイルが作成されている場所を確認してください。

LFI-00136 オープンしたファイルのタイプは変更できません。

原因: オープンしたファイルに関数 LFICHTY() が呼び出されました。

処置: これはクライアント・コードのエラーです。この場合 LFICHTY() は使用できません。

LFI-00137 *string* は、*string* であるファイル・オブジェクトで実行できません。

原因: ある理由のため、ファイル・オブジェクトで LFI 操作を実行できません。

処置: 適切な対処法を取ってください。たとえば、操作の実行前にファイルをオープンしなければならない場合は、クライアント・コードがファイルを最初にオープンする必要があります。

LFI-00138 *string* は、*string* である名前オブジェクトで実行できません。

原因: ある理由のため、名前オブジェクトで LFI 操作を実行できません。

処置: 適切な対処法を取ってください。

LFI-00139 オプション *string* は、オプション *string* と同時に、*string* のコールで使用できません。

原因: このような関数コールでは、最初のオプションと 2 番目のオプションは同時に使用できません。

処置: コードを再確認して、必要なオプションを決定してください。

LFI-00140 入出力ファイルに、無効なオプション *string* が指定されています。

原因: ファイルが入出力用としてオープンされ、モード・オプション (LFILOPTY_DELETE または non-LFILOPTY_RANDOM) のいずれかが指定されました。

処置: ファイルのオープン方法を確認し、必要な変更を行ってください。

LFI-00141 操作 *string* でファイルを強制終了できません。

原因: 強制終了に失敗しました。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00142 既存のファイル [*string*][*string*] は Oracle が所有者ではないため削除できません。

原因: そのファイルは Oracle によって作成されていません。

処置: 所有者を Oracle に変更するか、Oracle にそのファイルを削除するアクセス権を付与してください。

LFI-00143 削除対象のファイル *string* が存在しません。

原因: 削除するファイルが存在しません。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-00144 ファイル [*string*][*string*] が存在しません。

原因: 指定したファイルが存在しません。

処置: ファイルの存在を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00145 ユーザー・バッファが小さすぎます。

原因: 渡されたバッファが十分な大きさではありません。

処置: もっと大きいバッファを割り当てて、操作を再試行してください。

LFI-00146 コピー操作で、ファイル *string.string* は存在しないことになっています。

原因: 宛先ファイルが存在しないと想定されていますが、存在します。

処置: そのファイルが存在する理由を調べてください。

LFI-00147 ファイル *string.string* が存在しません。

原因: 指定したファイルが存在しません。

処置: ファイルの存在を確認して、操作を再試行してください。

LFI-00148 *string* は、バイト・モードでオープンしたファイルでだけコールできます。

原因: バイト・モードのファイルにのみ使用するルーチンが、レコード・モードでオープンされたファイルにコールされました。

処置: この関数を使用するには、そのファイルをバイト・モードでオープンしてください。

LFI-00149 関数 *string* でハッシュ表を破棄するときにエラーが発生しました。

原因: キャッシュ・パス・オブジェクトが想定されていますが、存在しません。

処置: この関数を使用するには、パス・オブジェクトがキャッシュ・パス・オブジェクトである必要があります。

LFI-00150 関数 *string* でハッシュ表を作成するときにエラーが発生しました。

原因: ルーチンがパス・オブジェクト・ハッシュ表の作成に失敗しました。

処置: STARTSIZE 値が LHTQMAXSLOTS 値以下であることを確認してください。

LFI-00151 関数 *string* でハッシュ表へ挿入するときにエラーが発生しました。

原因: ルーチンがハッシュ表への挿入に失敗しました。

処置: メモリーの割当てが十分にあり、ハッシュ表が存在することを確認してください。

LFI-00152 読み込み操作（バイト・モード）が失敗しました。

原因: バイト・モードの読み込み操作が失敗しました。不適切なパラメータまたはフラグに原因があるか、あるいはファイルの終わりを越えて読み込もうとしている可能性があります。

処置: 読み込みコマンドの構文およびファイルのサイズを確認してください。

LFI-01000 ファイルに行を書き込めません。

原因: 書込み先のファイルがオープンされていないか、ファイルの終わりに達しています。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01001 ファイルに *string* バイトを書き込めません。

原因: 書込み先のファイルがオープンされていないか、ファイルの終わりに達しています。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01002 ファイルから行を読み込めません。

原因: 読み込み元のファイルが、オープンしていない可能性があります。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01003 ファイルから *string* バイトを読み込めません。

原因: 読み込み元のファイルが、オープンしていない可能性があります。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-01004 バッファを空にできません。

原因: バッファ・マネージャが、元のファイルへ書き込めない可能性があります。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01005 バッファの埋込みができません。

原因: バッファ・マネージャが、元のファイルから読み込めない可能性があります。

処置: 詳細は、付随するエラー・メッセージを参照してください。

LFI-01006 *string* で、ファイルが文字の途中で終了しています。

原因: 行が文字の途中で終了しています。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01007 関数 *string* で長すぎる行が見つかりました。

原因: 行の長さが最大長を超えています。

処置: 詳細は、根本的なエラーを確認してください。

LFI-01500 OSD 関数 *string* の呼出しでエラー状態が発生しました。

原因: OSD 関数のコールで、エラー状態が発生しました。malloc または free 関数の呼出しに失敗したとき、このメッセージが表示されます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01501 tmpnam() でテンポラリ・ファイル名を生成できません。

原因: オペレーティング・システムがテンポラリ・ファイル名を作成できませんでした。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01502 ベースとなるファイル名が存在しません。

原因: 解析されたファイル名にベースとなるファイルがありません。すべてパスであるか、または拡張子であるかのいずれかです。

処置: 渡されるファイル名が正しいかどうかを確認してください。

LFI-01503 ファイル名の生成で、最大ファイル名サイズを超えました。

原因: ファイル名の作成中に、新規ファイル名を保持するために割り当てられたバッファを超えました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01504 fseek() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 fseek() でエラー条件が戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01505 fclose() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 fclose() でエラー条件が戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01506 fflush() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、失敗しました。

原因: 関数 fflush() でエラー条件が戻されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01507 fwrite() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: ファイル・ポインタが NULL であるか、または書き込み用にオープンされていません。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01508 access() が失敗しました。

原因: access() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01509 fopen() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、失敗しました。

原因: fopen() の呼出しに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01510 fread() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: fread() の呼出しに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01511 unlink() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: unlink() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01512 stat() が失敗しました。

原因: stat() の呼出しに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01514 ftell() が *string* で失敗しました。

原因: ftell() 関数で、エラーが返されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01515 truncate() が失敗しました。

原因: truncate() 関数でエラー条件が返されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01516 read() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: read() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01517 open() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、失敗しました。

原因: open() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01518 write() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: write() の呼出しに失敗しました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01519 llseek() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 llseek() でエラーが返されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

LFI-01520 close() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 close() でエラー条件が返されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01521 fsync() が (OSD 戻り値 = *string*) となり、*string* で失敗しました。

原因: 関数 fsync() でエラー条件が返されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI-01522 opendir() が失敗しました。

原因: 関数 opendir() でエラー条件が返されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

LFI0-01523 rename() に失敗しました。

原因: 関数 rename() でエラー条件が返されました。

処置: 開発会社に連絡してください。

PL/SQL および FIPS メッセージ (PLS)

この章では、PL/SQL で出力されるメッセージを記載しています。PL/SQL の詳細は、『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

PLS-00102 ネストが深すぎるため、解析機能スタックがオーバーフローしました。

原因：PL/SQL 文の構文を調べる解析機能は、スタックと呼ばれるデータ構造を使用します。PL/SQL ブロック内のネストのレベル数が、スタックの容量を超えました。

処置：ブロック構造を再編成して、深いネスティングを行わないようにしてください。たとえば、最も下のレベルのサブブロックを、それより高いレベルに移動してください。

PLS-00103 *string*

原因：解析機能が発行するエラー・メッセージです。現在のコンテキストでは不適当なトークン（言語要素）を発見しました。

処置：エラー・メッセージに示されたトークンと前のトークンを調べてください。エラー・メッセージに記された行および列の番号は、誤りを含んでいる言語構造の末尾を示しています。

PLS-00104 プロシージャ *string* のコールでは、空の引数リストは省略してください。

原因：サブプログラム・コールで、サブプログラム名の後に空のパラメータ・リストがあります。たとえば、プロシージャ P が P() として呼び出されていました。これは許可されていません。

処置：空のパラメータ・リストを削除してください。前述の例では、プロシージャ・コールを P に変更してください。

PLS-00105 型 *string* の先送り宣言は 1 つしか許可されていません。

原因：複数の前方宣言は不要です。

処置：前方宣言の 1 つを除いて、残りをすべて削除してください。

PLS-00108 宣言単位は、単一の変数宣言でなければなりません。

原因: 宣言単位 (BEGIN...END を伴わないトップレベルの宣言ブロック) の確認中に、PL/SQL はある項目が複数宣言されているか、変数の宣言として認められない項目を検出しました。1つの表ではユニット・レベルで共通の変数宣言が許されます。TABLE を定義するために、DECLARE コンパイル・ユニットをコンパイルします。ただし、実行できるのは一度に1回のみです。

処置: 別々の宣言単位に変数を宣言してください。

PLS-00109 PRAGMA EXCEPTION_INIT に不明な例外名 *string* があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマで参照される例外名の宣言が、プラグマの有効範囲内にありません。

処置: 例外宣言の後にプラグマが続いていることと、同じ有効範囲内にあることを確認してください。

PLS-00110 バインド変数 *string* はこのコンテキストでは使用できません。

原因: 接頭辞としてコロンの付いた識別子であるバインド変数が、不適当なコンテキストで発見されました。

処置: コロンを削除するか、バインド変数を適当なオブジェクトで置き換えてください。

PLS-00111 コメントの中にファイルの終わり (EOF) があります。

原因: コメント開始文字 (/*) でコメントが始まりましたが、コメント終了文字 (*/) が発見される前に EOF に達しました。

処置: コメント開始文字を削除するか、コメント終了文字を追加してください。エラー・メッセージに付随する行番号と列番号は、コメント開始文字の前の最後の有効なトークンの先頭を指しています。

PLS-00112 引用された識別子の中に行の終わり (EOL) があります。

原因: 二重引用符で囲まれた識別子に始めの二重引用符 (") はありますが、終わりを示す二重引用符 (") が発見される前に EOL に達しました。

処置: 初めの二重引用符を削除するか、終わりを示す二重引用符を追加してください。エラー・メッセージに付随する行番号と列番号は、引用符で囲まれた識別子の先頭を示しています。

PLS-00113 END 識別子 *string* は、*string* (行 *string*、列 *string*) と一致しなければなりません。

原因: いくつかの言語構造 (ループ、ブロック、ファンクション、プロシージャなど) の終わりを示すキーワード END の後には、オプションとして構文の名前が置けます。たとえば、ループ L の定義の末尾には、END L と書けます。このエラーは、オプションの名前が言語構造に与えられた名前と一致しないときに発生します。通常は識別子の綴りが間違っているか、ブロック構造が不完全なときに起こります。

処置: END 識別子の綴りが言語構造に指定された名前と一致し、ブロック構造が正しいかどうかを確認してください。

PLS-00114 識別子 *string* が長すぎます。

原因: PL/SQL 変数の名前が 30 文字を超えています。正しい識別子（引用された識別子を含む）の長さは、最大で 30 文字です。文字列リテラルが、誤って、引用符ではなく二重引用符で囲まれている可能性があります。その場合、PL/SQL では引用された識別子とみなされます。

処置: 識別子を短くしてください。

PLS-00115 この PRAGMA は *string* の宣言の後に続かなければなりません。

原因: プラグマが未宣言の PL/SQL オブジェクトを参照しています。または、プラグマが参照の有効範囲の中にありません。識別子をプラグマの中で使用するには、その識別子を宣言する必要があります。前方参照は許可されません。

処置: 識別子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00116 表の式で where 句が重複しています。

原因: DELETE 文、SELECT 文または UPDATE 文の中で、複数の WHERE 句が発見されました。WHERE 句は、表の中の行が処理される条件を指定します。条件には、AND または OR で結合した複数の論理式を入れることができますが、文が含むことのできる WHERE 句は 1 つのみです。

処置: WHERE 句の 1 つを削除し、必要であれば AND または OR の論理式を使用してください。

PLS-00117 表の式で connect-by 句が重複しています。

原因: SELECT 文に複数の CONNECT BY 句が発見されました。CONNECT BY 句は、行を階層的な順序で戻すために使用される関係を定義します。関係には、関係演算子 (= や != など) で区切られた 2 つの式を入れることができますが、文が含むことのできる CONNECT BY 句は 1 つのみです。

処置: CONNECT BY 句の 1 つを削除し、必要であれば、関係演算子で式を分けてください。

PLS-00118 表の式で group-by 句が重複しています。

原因: SELECT 文に複数の GROUP BY 句が発見されました。GROUP BY 句は、選択された行の各グループの集計行を作成するために使用される列の式のリストを与えます。このリストには、カンマで区切られた複数の列式を入れることができますが、文が含むことのできる GROUP BY 句は 1 つのみです。

処置: GROUP BY 句の 1 つを削除し、必要であれば、列の式をカンマで分けてください。

PLS-00119 表の式で having 句が重複しています。

原因：SELECT 文に複数の HAVING 句が発見されました。HAVING 句は、(GROUP BY 句で作成された) 行のグループを結果に入れるときの条件を指定します。条件には、AND または OR で結合された複数の論理式を入れることができますが、文が含むことのできる HAVING 句は 1 つのみです。

処置：HAVING 句の 1 つを削除し、必要であれば AND または OR で論理式を分けてください。

PLS-00120 OPEN 文に不適当な引数があります。

原因：OPEN 文の CURSOR_NAME パラメータの綴りが間違っているか、パラメータが正しく宣言されたカーソルを参照していません。

処置：CURSOR_NAME パラメータの綴りを確かめてください。また、カーソルが正しく宣言されていることを確認してください。

PLS-00122 セパレータ string は、特定の組み込み関数でのみ使用できます。

原因：関数の引数が、カンマではなく USING で区切られていますが、この関数は組み込み関数ではないので USING は使用できません。

処置：引数リストを修正するか、または関数名を変更してください。

PLS-00123 プログラムが大きすぎます。

原因：PL/SQL は安定したトランザクション処理を実現することを重視して設計されています。こうした特殊な目的で設計した結果、PL/SQL コンパイラはブロック・サイズに制限を設けています。制限は PL/SQL ブロックの中の文の構成に依存します。この制限を超えるブロックがあると、エラーが発生します。

処置：最もよい解決方法は、定義するサブプログラムごとにプログラムをモジュール化し、Oracle データベースに格納する方法です。もう 1 つの解決方法は、プログラムを 2 つのサブブロックに分割することです。最初のブロックで、2 番目のブロックが必要としているデータを一時データベース表に INSERT します。2 番目のブロックで、その表からデータを SELECT してください。

PLS-00124 exception_init PRAGMA の第 1 引数は例外名でなければなりません。

原因：EXCEPTION_INIT プラグマに渡される第 1 引数が例外名ではありませんでした。この第 1 引数は正しく宣言された例外名である必要があります。

処置：第 1 引数を正しく宣言された例外名にしてください。

PLS-00125 型名が必要です。

原因：定数または変数を宣言するときに、データ型を指定しませんでした。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
pi CONSTANT := 3.14159; -- should be CONSTANT REAL := 3.14159
```

定数および変数には、すべてデータ型がある必要があり、データ型が記憶形式、制約および値の有効範囲を指定します。

処置: 型名を指定してください。

PLS-00126 Selector ALL は使用できません。

原因: システム権限または文オプションを指定するための ALL が SQL 文で使用されました。PL/SQL は、ALL ショートカットをサポートしません。

処置: SQL 文から ALL ショートカットを削除してください。

PLS-00127 PRAGMA *string* はサポートされていません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) は PL/SQL でサポートしているものの中にはありません。プラグマ名の綴りが間違っているか、またはプラグマの構文が間違っている可能性があります。

処置: プラグマの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00128 PRAGMA *string* の引数の数が正しくありません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡される引数 (実際のパラメータ) の数が誤っています。必要な引数が引数リストに入っていないか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2つのパラメータ間のカンマが欠落しています)。

処置: 必要な引数を指定するか、構文エラーを修正してください。

PLS-00129 PRAGMA INTERFACE では、第 1 引数は C でなければなりません。

原因: プラグマ INTERFACE に渡された最初の引数に C 以外のホスト言語が指定されました。現在、ホスト言語としてサポートされているのは C 言語のみです。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。最初のパラメータは C にしてください。

PLS-00130 PRAGMA *string* の第 1 引数にはプロシージャ / 関数 / パッケージ / カーソルが必要。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された最初の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされるサブプログラム、パッケージまたはカーソルの名前ではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00131 PRAGMA *string* の第 2 引数はプロシージャでなければなりません。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 2 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされるプロシージャの名前ではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 2 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00132 PRAGMA RESTRICT_REFERENCES では :*string* はサポートされていません。

原因: PRAGMA RESTRICT_REFERENCES に渡されたパラメータの 1 つは必要とされる WNDS、WNPS、RNDS または RNPS のいずれかではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: すべてのパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00133 PRAGMA *string* の第 1 引数には識別子または文字列リテラルが必要です。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された最初の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 最初のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00134 PRAGMA *string* の第 2 引数には識別子または文字列リテラルが必要です。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 2 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 2 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00135 PRAGMA *string* の第 3 引数には、識別子または文字列、リテラルが必要です。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 3 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 3 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00138 バイナリ型の精度は、8、16、32 のいずれかでなければなりません。

原因：符号付きまたは符号なしのバイナリ型に対して無効な精度が指定されました。

処置：8、16 または 32 のいずれかの精度を指定してください。

PLS-00139 サブプログラム式で外部 NAME 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 NAME 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 NAME 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00140 サブプログラム式で外部 LIBRARY 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 LIBRARY 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 LIBRARY 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00141 サブプログラム式で外部 PARAMETER STYLE 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 PARAMETER STYLE 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 PARAMETER STYLE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00142 サブプログラム式で外部 PARAMETER リスト指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 PARAMETER STYLE 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 PARAMETER STYLE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00143 サブプログラム式で外部 LANGUAGE 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 LANGUAGE 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 LANGUAGE 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00144 サブプログラム式で外部 CALLING STANDARD 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 CALLING STANDARD 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 CALLING STANDARD 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00145 サブプログラム式で外部 WITH CONTEXT 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 WITH CONTEXT 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 WITH CONTEXT 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00146 サブプログラム式で外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定が重複しています。

原因：サブプログラムに外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定が 2 つ見つかりました。

処置：外部 TRUSTED/UNTRUSTED 指定の 1 つを削除してください。

PLS-00147 LIBRARY ファイル指定の文字列が空です。

原因：LIBRARY ファイル指定に長さが 0 の文字列が見つかりました。

処置：LIBRARY ファイル指定に長さが 0 以外の文字列を指定してください。

PLS-00148 この型の PRAGMA はサブプログラムごとに 1 つしか使用できません。

原因: サブプログラムに PRAGMA RESTRICT_REFERENCES 指定が 2 つ見つかりました。

処置: PRAGMA RESTRICT_REFERENCES の 1 つを削除してください。

PLS-00150 INTEGER のはずですが、string となっています。

原因: このエラーは、PL/SQL 外部型 : [SIGNED | UNSIGNED] BINARY INTEGER (*precision*) を作成するときに発生します。これを参照できるのは、CREATE TYPE 文の中のみです。このような型は問合せ不能です。'INTEGER' 以外の型が指定されています。

処置: 別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00151 式または変数が PL/SQL に対して不正です : string

原因: PL/SQL に属していない型が使用されました。この型は、CREATE TYPE 文の中のみで参照できる問合せ不能なデータ型です。

処置: 別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00152 POINTER 型でできるのは、オブジェクト型の参照だけです。

原因: PL/SQL に属していない POINTER 型で参照できるのは、オブジェクト型のみです。この型は、CREATE TYPE 文の中のみで参照できる問合せ不能なデータ型です。

処置: 別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00153 string 型が使用できるのは、オブジェクト型属性としてだけです。

原因: POINTER または [SIGNED/UNSIGNED] BINARY INTEGER は、オブジェクト型の属性としてのみ使用できます。これらの型は、CREATE TYPE 文の中のみで参照できる問合せ不能なデータ型です。これらの外部 PL/SQL 型のどれかが、オブジェクト型ではありません。

処置: 別の型を使用して、操作を再試行してください。

PLS-00154 オブジェクト型に対しては MAP メソッド 1 つまたは ORDER メソッド 1 つのいずれかです。

原因: 複数の MAP または ORDER ファンクションが宣言されました。1 つのオブジェクト型に対して 1 つの MAP ファンクションまたは 1 つの ORDER ファンクションを指定できますが、両方を指定することはできません。

処置: 型の MAP または ORDER ファンクションを 1 つのみにしてください。

PLS-00155 MAP または ORDER メソッドとして指定できるのは関数だけです。

原因: MAP または ORDER メソッドのいずれかとしてメンバー・プロシージャが宣言されました。MAP または ORDER メソッドとなり得るのは、メンバー・ファンクションのみです。

処置: プロシージャをファンクションに変更してください。

PLS-00156 オブジェクト属性に対する NULL 制約はサポートされていません。

原因：オブジェクトの属性に NULL 制約が指定されました。型の不一致はサポートされません。

処置：制約を削除してください。

PLS-00157 AUTHID はスキーマ・レベルのプログラムでのみ許可されます。

原因：AUTHID 句がパッケージ内または型内のサブプログラムに指定されました。これらの句は、最上位のストアド・プロシージャ、パッケージおよび型でのみサポートされています。

処置：句を削除してください。

PLS-00158 AUTHID 句と SQL_NAME_RESOLVE 句は一致しなければなりません。

原因：AUTHID 句および SQL_NAME_RESOLVE 句には同じユーザー (CURRENT_USER または DEFINER のいずれか) を指定する必要があります。

処置：句を一致させてください。

PLS-00159 仕様部と本体の AUTHID/SQL_NAME_RESOLVE は一致しなければなりません。

原因：型およびパッケージの仕様部に対する AUTHID 句と本体の SQL_NAME_RESOLVE 句は一致 (CURRENT_USER または DEFINER のいずれか) する必要があります。

処置：句を一致させてください。

PLS-00160 AUTHID では CURRENT_USER または DEFINER を指定する必要があります。

原因：AUTHID に使用できるオプションは、CURRENT_USER および DEFINER の 2 つのみです。

処置：AUTHID 句が CURRENT_USER または DEFINER を指定するように修正してください。

PLS-00161 PRAGMA *string* の第 3 引数には識別子または文字列リテラルが必要です。

原因：プラグマに 4 番目の引数があるときに、名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 3 番目の引数 (実際のパラメータ) は、識別子または文字列リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置：3 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00162 PRAGMA *string* の第 4 引数には正の整数リテラルが必要です。

原因: 名前付きプラグマ (コンパイラ・ディレクティブ) に渡された 4 番目の引数 (実際のパラメータ) は、必要とされる数値リテラルではありませんでした。パラメータの綴りに間違いがあるか、またはプラグマの構文が誤っています (たとえば、2 つのパラメータの間にカンマが欠落しています)。

処置: 4 番目のパラメータの綴りを確かめ、正しい構文が使用されていたことを確認してください。

PLS-00164 このリリースではカーソルの副問合せはサポートされていません。

原因: この機能はまだインプリメントされていません。

処置: 処置は必要ありません。

PLS-00165 PL/SQL ではコール文はサポートされていません。

原因: PL/SQL ソース内で CALL 文が検出されました。

処置: 通常の PL/SQL ファンクションまたはプロシージャのコールを使用してください。

PLS-00201 識別子 *string* を宣言してください。

原因: 未宣言の変数、例外、プロシージャまたはその他の項目、あるいは権限が付与されていない項目またはロールを介してのみ権限が付与されている項目を参照しようとしました。

処置:

1. 参照される名前の綴りと宣言を確認してください。
2. 参照項目に対する宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。
3. 参照項目が宣言されていても、その項目を参照する権限がない場合には、セキュリティ上の理由によって、その項目が宣言されていないことのみが通知されます。
4. 参照項目が宣言されていて、その項目を参照する権限が付与されていると思われる場合には、権限を確認してください。ロールを介してのみ権限が付与されている場合には、これは予測され、文書化されているとおりの動作です。

ストアド・オブジェクト (パッケージ、プロシージャ、ファンクション、トリガー、ビューなど) はオブジェクト所有者のセキュリティ・ドメイン内で実行され、PUBLIC 以外のロールは有効化されません。この場合も、項目が宣言されなかったことのみが通知されます。

PLS-00202 型 *string* を宣言してください。

原因: 未定義の型を参照しようとしました。型指定子を宣言しなかったか、または型指定子が参照の有効範囲内にありませんでした。

処置: 型指定子の綴りと宣言を確かめてください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00203 関数 DECODE のコールには最低 3 つの非ブール引数が必要です。

原因：組込み関数 DECODE に渡された引数が 3 つ未満でした。DECODE は（ブール以外の）引数の変数値をとりますが、DECODE には少なくとも 3 つの引数を渡す必要があります。

処置：3 つ以上の引数を指定して、DECODE をコールしてください。

PLS-00204 関数または疑似列 *string* は SQL 文の中でしか使用できません。

原因：プロシージャ文で疑似列または禁止された関数が使用されています。SQL 疑似列 (CURRVAL、LEVEL、NEXTVAL、ROWID、ROWNUM) は、SQL 文でしか使用できません。同様に、DECODE、DUMP、VSIZE などの関数、および SQL グループ関数 (AVG、MIN、MAX、COUNT、SUM、STDDEV、VARIANCE) も SQL 文でしか使用できません。

処置：プロシージャ文から疑似列参照またはファンクション・コールを削除してください。または、プロシージャ文を SELECT INTO 文に置き換えてください。次に例を示します。

```
bonus := DECODE(rating, 1, 5000, 2, 2500, ...);
```

この文を次のように書き換えます。

```
SELECT DECODE(rating, 1, 5000, 2, 2500, ...) INTO bonus FROM dual;
```

PLS-00205 ここでは集合体は使用できません。

原因：集合体、すなわち (7788, 'SCOTT', 20) のようなカッコで囲んだ値のリストが、不適当なコンテキストで発見されました。

処置：集合体を削除するか、位置を変えてください。

PLS-00206 %%TYPE は変数または列、フィールド、属性に適用され、*string* には適用されません。

原因：%%TYPE データ型属性を使用して宣言されたオブジェクトが適切なクラスではありません。これは変数、列、レコード構成要素、サブプログラムの仮パラメータまたは値が代入できるその他のオブジェクトである必要があります。

処置：適切なクラスのオブジェクトを宣言するか、別の方法（たとえば、%ROWTYPE）でデータ型を定義してください。

PLS-00207 暗黙カーソル SQL に適用された識別子 *string* は正当なカーソルの属性ではありません。

原因：カーソル属性ではない識別子が識別子 SQL に適用されました。このエラーは、たとえばカーソル属性の綴りが間違っているときに発生します。

処置：カーソルの属性名の綴りを確認してください。属性が %NOTFOUND、%FOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN のいずれかであることを確認してください。

PLS-00208 識別子 *string* は正当なカーソルの属性ではありません。

原因: カーソル属性として宣言されていない識別子が、カーソルとして宣言されている識別子に適用されました。このエラーは、たとえばカーソル属性の綴りが間違っているときに発生します。

処置: カーソルの属性名の綴りを確認してください。属性が %NOTFOUND、%FOUND、%ROWCOUNT、%ISOPEN のいずれかであることを確認してください。

PLS-00209 表 *string* が FROM 句にありません。

原因: 問合せで、SELECT リストで参照されている表の名前が、FROM 句の中で指定されていません。

処置: 表名の綴りを確認し、SELECT リストの各列が FROM 句の表を参照していることを確認してから、問合せを再実行してください。

PLS-00210 この CASE 文には OTHERS 句が必要です。

原因: CASE 文の句で選択した式の型のすべての値が指定されていない場合には、CASE 文の最後の句として OTHERS 句を指定する必要があります。INTEGER（または NUMBER）型のすべての値を指定することはできません。したがって、キーワード CASE の後にある式が INTEGER（または NUMBER）型の場合は、必ず OTHERS 句が必要です。

処置: CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00211 CASE ラベルまたは範囲は、異なる WHEN 句で重複しないようにしてください。

原因: この CASE 文の複数の WHEN 句で同じ値が指定されました。CASE 文では 1 つの値を 1 つの WHEN 句でしか使用できません。

処置: CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00212 CASE 文のコンパイルに必要なメモリーを確保できません。

原因: CASE 文が大きすぎます。コンパイラの記憶域が足りないためこの文は処理できません。

処置: CASE 文は、リリース 1.x、2.x、3.x ではサポートされていないので、処置は必要ありません。

PLS-00213 パッケージ STANDARD にアクセスできません。

原因: PL/SQL コンパイラは、現行の Oracle データベースで STANDARD パッケージを見つけられませんでした。プログラムをコンパイルするためには、このパッケージが必要です。

処置: 現行の Oracle データベースでパッケージ STANDARD が使用可能かどうかを確認し、操作を再試行してください。

PLS-00214 BEGIN...END ブロックのネストが深すぎます。

原因：PL/SQL ブロックのネストのレベル数が多すぎます。メモリーなどのシステム・リソースの可用性に応じて、ブロックは最大 255 レベルまでネストできます。

処置：ブロック構造を再編成して、深いネスティングを行わないようにしてください。たとえば、最も下のレベルのサブブロックを、それより高いレベルに移動してください。

PLS-00215 文字列の長さは制約範囲内（1..32767）でなければなりません。

原因：文字変数を宣言するときに、有効な範囲外の長さを指定しました。たとえば、次の宣言は不正です。

```
flag CHAR(0);           -- illegal; zero length
name VARCHAR2(-10);    -- illegal; negative length
```

処置：1..32767 の範囲内になるように、長さ制約を変更してください。

PLS-00216 NUMBER 精度は制約範囲内（1..38）でなければなりません。

原因：有効な範囲外の精度で NUMBER 型変数を宣言しました。N NUMBER(800) や N NUMBER(123,10) などの宣言はサポートされません。

処置：1..38 の範囲内になるように、不正な NUMBER 精度制約を変更してください。

PLS-00217 NUMBER スケールは制約範囲内（-84..127）でなければなりません。

原因：有効な範囲外の精度で NUMBER 型変数を宣言しました。N NUMBER (10,345) や N NUMBER (10,-100) などの宣言はサポートされません。

処置：-84..127 の範囲内になるように、不正な NUMBER スケール制約を変更してください。

PLS-00218 NOT NULL で宣言した変数には初期割当てが必要です。

原因：一般に、宣言の中に初期化句がない変数は、自動的に NULL に初期化されます。NOT NULL 制約の付いた変数でこれが起こると非論理的なので、初期化句が必要です。

処置：初期化の句を変数宣言に追加してください。構文的に複雑すぎて初期化が指定できない場合は、ファンクション・コールを追加できます（将来のリリース）。

PLS-00219 ラベル *string* の参照が有効範囲外です。

原因：ブロックまたはループのラベルを使用して、宣言されていない変数またはラベルの有効範囲外の変数を修飾しようとしました（outer_block.date など）。変数名の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置：変数名の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00220 このコンテキストでは単純名を使用してください。

原因: A.B、A.B.C などの修飾名は、ここでは使用できません。

処置: A などの単純名を使用してください。

PLS-00221 *string* がプロシージャではないか、または未定義です。

原因: プロシージャとして参照されている識別子が宣言されていないか、または識別子が実際には別のオブジェクトを表しています（たとえば、ファンクションとして宣言されている）。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00222 この有効範囲内に、名前 *string* の関数は存在しません。

原因: ファンクションとして参照されている識別子が宣言されていないか、または識別子が実際には別のオブジェクトを表しています（たとえば、プロシージャとして宣言されている）。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00223 パラメータのないプロシージャ *string* が関数として使用されています。

原因: パラメータなしのファンクションとして参照されている識別子は、実際にはプロシージャを表しています。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。必要ならば識別子の宣言を変更するか、参照を変更して戻り値を不要にしてください。

PLS-00224 ここでは、オブジェクト *string* は関数または配列でなければなりません。

原因: ファンクションまたは配列として参照されている識別子が、この方法では参照できないオブジェクト（たとえば数値や日付）を実際には表しています。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00225 サブプログラムまたはカーソル *string* の参照が有効範囲外です。

原因: サブプログラムまたはカーソルが、宣言されていない変数か、サブプログラムまたはカーソルの有効範囲にない変数を参照しています。変数名の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置: 変数名の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00226 パッケージ *string* が変数の参照として使用されています。

原因: パッケージが式の中で変数またはファンクションとして参照されました。変数またはファンクションの名前の綴りが間違っているか、参照が完全に修飾されていません。たとえば、パッケージ `my_package` に格納されているファンクション `my_function` を呼び出すには、次のようにピリオド記号を使用する必要があります。

```
... my_package.my_function ...
```

処置: 変数またはファンクション名の綴りを修正するか、ドット表記法でパッケージ化された変数またはファンクションを参照してください。

PLS-00227 サブプログラムの仮パラメータ *string* はまだ参照できません。

原因: サブプログラムの仮パラメータを宣言したときに、1つのパラメータを使用して別のパラメータを初期化しようとした。

```
PROCEDURE my_proc (j NUMBER, k NUMBER := j) IS ...
```

1番目のパラメータは実行時まで値を持たないので、他のパラメータの初期化には使用できません。

処置: 不正な仮パラメータ参照を削除してください。

PLS-00228 LONG 型の変数は宣言できません。

原因: LONG 型の変数が宣言されました。LONG 型で宣言できるのは列のみです。

処置: 無効な変数定義を削除してください。

PLS-00229 SQL 式の中に属性の式があります。

原因: SQL 文で `SQL%NOTFOUND` などの属性式が使用されましたが、属性式はプロシージャ文でしか使用できません。

処置: このような制限では、属性式を変数に代入して、SQL 文においてその変数を使用してください。次に例を示します。

```
INSERT INTO audits VALUES (c1%ROWCOUNT, ...);
```

前述のような文は、次のような文に置き換えてください。

```
row_count := c1%ROWCOUNT;  
INSERT INTO audits VALUES (row_count, ...);
```

PLS-00230 OUT および IN OUT 仮パラメータにデフォルトの式がありません。

原因：プロシージャの仮パラメータを宣言したときに、OUT または IN OUT パラメータがデフォルト値に初期設定されました。

```
PROCEDURE calc_bonus (bonus OUT REAL := 00000, ...) IS ...
```

しかし、初期化できるのは IN パラメータのみです。

処置：不正なデフォルト式を削除してください。

PLS-00231 関数 *string* は SQL では使用できません。

原因：禁止されているファンクションが SQL 文で使用されました。SQLCODE や SQLERRM など、ファンクションのうちいくつかは、プロシージャ文でしか使用できません。

処置：SQL 文からファンクション・コールを削除してください。または、ファンクション・コールをローカル変数に置き換えてください。たとえば、次の文は無効です。

```
INSERT INTO errors VALUES (SQLCODE, SQLERRM);
```

ただし、SQLCODE および SQLERRM の値をローカル変数に割り当てて、その変数を SQL 文で次のように使用できます。

```
err_num := SQLCODE;
err_msg := SQLERRM;
INSERT INTO errors VALUES (err_num, err_msg);
```

PLS-00232 パッケージはネストできません。

原因：あるパッケージが別のパッケージ内で宣言されましたが、パッケージの宣言は、トップ・レベルでのみ許可されます。つまり、パッケージはネストできません。

処置：パッケージの外側にパッケージ宣言を移動してください。

PLS-00233 when 句で、関数名が例外名として使用されています。

原因：例外ハンドラ中の WHEN 句で、例外名のかわりにファンクション・コールが含まれています。例外ハンドラを適切に指定するためには、例外とこの例外が呼び出されたときに実行される一連の文を WHEN 句の後に指定する必要があります。

処置：WHEN 句の識別子の綴りを確認し、ファンクションを例外名に変更してください。

PLS-00234 PARAMETER STYLE SQL を PARAMATERS リストとともに指定できません。

原因：PARAMETER STYLE SQL と明示的な PARAMETERS リストの両方をサブプログラムで指定することはできません。デフォルトの PARAMETERS リスト型を指定するには PARAMETER STYLE GENERAL を使用してください。

処置：サブプログラム仕様を変更してください。

PLS-00235 このパラメータに対しては、指定した外部型は不適当です。

原因：パラメータを指定された外部パラメータ型に変換しようとして失敗しました。

処置：別の外部型またはパラメータ型を指定してください。

PLS-00236 *string* に対する外部型の指定が無効です。

原因：指定した外部型が、INDICATOR、LENGTH、MAXLEN、TDO、DURATION、CHARSETID または CHARSETFORM に対して無効です。

処置：『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』で確認して適切な外部型を指定してください。

PLS-00237 BY VALUE による標識または長さの指定が無効です。

原因：OUT または IN OUT モードで渡される標識または長さパラメータを持つ BY VALUE が指定されました。値によって渡すことができるのは IN モード・パラメータのみです。

処置：BY VALUE 指定を削除するか、IN モードに変更してください。

PLS-00238 外部パラメータ名 *string* は仮パラメータ・リストにありません。

原因：仮パラメータ・リスト内の名前と一致しない外部パラメータ名が指定されました。

処置：外部パラメータ名を修正してください。

PLS-00239 SQLCODE に対する外部型の指定が無効です。

原因：SQLCODE パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置：SQLCODE パラメータの指定を修正してください。

PLS-00240 RETURN 標識または長さ、tdo、時間に対して型指定が無効です。

原因：RETURN 標識、LENGTH、TDO または DURATION に対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置：RETURN パラメータの指定を修正してください。

PLS-00241 SQLSTATE に対する外部型の指定が無効です。

原因：SQLSTATE パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置：SQLSTATE パラメータの指定を修正してください。

PLS-00242 CONTEXT に対する外部型の指定が無効です。

原因：CONTEXT パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置：CONTEXT パラメータの指定を修正してください。

PLS-00243 SQLNAME に対する外部型の指定が無効です。

原因: SQLNAME パラメータに対して不適切な外部パラメータ型が指定されました。

処置: SQLNAME パラメータの指定を修正してください。

PLS-00244 外部関数の仮パラメータ・リストでの宣言が重複しています。

原因: FORMAL、INDICATOR、LENGTH、MAXLENGTH または CONTEXT のうち少なくとも 1 つが、複数回宣言されています。PL/SQL では、PARAMETERS 句で各仮パラメータに対して前述のいずれか 1 つの宣言しかできません。

処置: PARAMETERS 句を修正してください。

PLS-00245 「パラメータ」句での「仮」の使用は 1 度だけに限られます。

原因: PARAMETERS 句で仮パラメータが複数回宣言されています。PL/SQL では、PARAMETERS 句で仮パラメータは 1 回しか宣言できません。

処置: PARAMETERS 句を修正してください。

PLS-00246 PARAMETER STYLE はサポートされていません。

原因: 外部サブプログラム本体の中に PARAMETER STYLE 句があります。

処置: PARAMETER STYLE 句を削除してください。

PLS-00247 LIBRARY 名を指定してください。

原因: LIBRARY 名が外部サブプログラム本体から欠落しています。

処置: 外部サブプログラム本体に LIBRARY 名を指定してください。

PLS-00248 Library 構文が無効です。

原因: 入力された LIBRARY の構文が間違っています。

処置: LIBRARY の構文を修正して再コンパイルしてください。

PLS-00249 WITH CONTEXT 構文が無効です。

原因: WITH CONTEXT 句または PARAMETERS 句で CONTEXT が使用されました。これは無効です。

処置: PARAMETERS 句に CONTEXT を指定せずに WITH CONTEXT を使用しているどうかを確認してください。PARAMETERS 句は完全にする必要があります。WITH CONTEXT を指定する場合は、PARAMETERS 句（ある場合）で CONTEXT を参照する必要があります。

PLS-00250 パラメータ句での *string* の使用方法が正しくありません。

原因: PARAMETERS 句で MAXLEN、LENGTH、CHARSETID などのキーワードが不適切に使用されています。

処置: PL/SQL 仮パラメータや仮パラメータのモードで、MAXLEN、LENGTH、TDO、DURATION、CHARSETID、CHARSETFORM などのキーワードが使用できないと、このエラーが発生します。たとえば、MAXLEN は、PL/SQL 変数 CHAR または VARCHAR2 に対してのみ宣言でき、OUT または INOUT PL/SQL 変数に対してのみ使用できます。また、RETURN が PL/SQL PROCEDURE 用の PARAMETERS 句内で指定されました。次に例を示します。

```
CREATE PROCEDURE proc IS EXTERNAL NAME ... LIBRARY ... PARAMETERS (RETURN
INDICATOR SHORT, RETURN);
```

PLS-00251 関数の戻りを指定する RETURN は、パラメータ句の最後になければなりません。

原因: 関数の戻りを指定する RETURN は、PARAMETERS 句の最後にある必要があります。次に例を示します。次の例では、関数の戻りを指定する RETURN が PARAMETERS 句の最後にないため、エラーになっています。

```
FUNCTION myexternalfunc (var1 BINARY_INTEGER,
var2 BINARY_INTEGER)
RETURN BINARY_INTEGER IS EXTERNAL
NAME "myexternalfunc"
LIBRARY somelib
PARAMETERS (var1 LONG, var2 SHORT,
RETURN INT, RETURN INDICATOR SHORT);
```

正しい構文は、次のとおりです。関数の戻りを指定する RETURN は、PARAMETERS 句の最後にある必要があります。

```
FUNCTION myexternalfunc (var1 BINARY_INTEGER,
var2 BINARY_INTEGER)
RETURN BINARY_INTEGER IS EXTERNAL
NAME "myexternalfunc"
LIBRARY somelib
PARAMETERS (var1 LONG, var2 SHORT,
RETURN INDICATOR SHORT, RETURN INT);
```

処置: PARAMETERS 句の RETURN を修正してください。

PLS-00252 不正なパッケージ STANDARD のコピーが参照されました。

原因: データベースがオープンしているときに修正されたパッケージ・バージョンの STANDARD が参照されたか、データベースがクローズしているときにディスク内のバージョンが参照されました。SYS.X\$ パッケージ名を明示的に使用すると、このようなエラーになります。データベースをクローズしてコンパイルを始めても、コンパイルが完了する前に別のセッションがオープンすると、このようなエラーが発生します。別の原因として、ALTER DATABASE CLOSE の実行中に SVRMGRL を介して SET SERVEROUTPUT ON が行われた可能性があります。

処置: データベースがオープンしているときには、ディスク内のパッケージ・バージョンを使用し、データベースがクローズしているときには、修正済（プリロード）のパッケージ・バージョンを使用してください。適切なセットを使用してください。SYS.X\$ パッケージ名を明示的に指定する場合を除いて、間違ったセットを参照することはできません。また、ALTER DATABASE CLOSE を実行する前に必ず SET SERVEROUTPUT OFF を実行してください。

PLS-00253 仮パラメータ *string* はパラメータの句にありません。

原因: PARAMETERS 句に、仮パラメータ・リスト内に指定されたパラメータに一致するパラメータがありません。

処置: すべての仮パラメータに対して、一致するパラメータを PARAMETERS 句に指定してください。

PLS-00254 このコンテキストでは OUT および IN/OUT モードは使用できません。

原因: 実際のパラメータ・モード（OUT または IN/OUT）が、USING 句で正しく使用されていません。OPEN 文の USING 句では、IN モードのみ使用できます。

処置: USING 句のパラメータ・モードを適切なモードに変更してください。

PLS-00255 CALL 仕様部のパラメータにはデフォルト値を指定できません。

原因: CALL 仕様部の仮パラメータにはデフォルト値を指定できません。

処置: 仮パラメータ・リスト（仕様部または本体）のデフォルト値を削除し、再コンパイルしてください。

PLS-00256 *string* は有効な外部ライブラリではありません。

原因: EXTERNAL 句に指定された外部ライブラリ名が、有効な別名ライブラリではありません。

処置: 事前に宣言された有効な別名ライブラリの名前を指定してください。

PLS-00257 TYPE または PACKAGE 仕様部で EXTERNAL 句の使用方法が不正です。

原因: TYPE または PACKAGE 仕様部で EXTERNAL 句が検出されました。

処置: EXTERNAL 句を削除し、新しい CALL 仕様構文を使用してください。

PLS-00258 CALL 仕様部で制約されたデータ型は使用できません。

原因: C または Java の CALL 仕様部では、PL/SQL の仮パラメータ型に制約を指定できません。制約がある PL/SQL 型には、NATURAL、NATURALN、POSITIVE、POSITIVEN、SIGNTYPE、INTEGER、INT、SMALLINT、DECIMAL、NUMERIC および DEC があります。これには、POSITIVEN および NATURALN からの NOT NULL 制約も含まれます。

処置: PL/SQL の仮宣言には無制約型（NUMBER、BINARY_INTEGER または PLS_INTEGER）を使用してください。

PLS-00259 権限モデル (AUTHID) の指定が必要です。

原因: PL/SQL の PROCEDURE、FUNCTION、PACKAGE OR TYPE HAS CALL 仕様部の場合は、権限モデルの指定は必須です。

処置: 権限モデルを示す AUTHID 句を追加してください。

PLS-00260 日時 / 間隔の制約は範囲内 (0 .. 9) である必要があります。

原因: 日時 / 間隔変数または属性が有効範囲内にない制約で宣言されました。

処置: 無効な制約を変更してください。

PLS-00261 Java CALL 仕様部は、まだオブジェクト型のメソッドとして使用できません。

原因: Java でのインプリメントを宣言する CALL 仕様部が、オブジェクト型または不透明型のメソッドとして使用されています。この使用法はまだサポートされていません。

処置: Java 以外の言語を使用するメソッドをインプリメントしてください。PL/SQL メソッドのインプリメントは、スキーマ・レベルのプロシージャとして、またはパッケージ内で提供される CALL 仕様部を介して Java をコールできます。ただし、このような CALL 仕様部のターゲットは Java の静的メソッドのみです。

PLS-00302 コンポーネント *string* を宣言してください。

原因: コンポーネントへの参照で、コンポーネントが宣言されていません (たとえば、名前 A.B では B が A の構成要素です)。コンポーネントの綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれている可能性があります。

処置: コンポーネントの綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00303 修飾子 *string* を宣言してください。

原因: A.B というような名前では、A が修飾子で、B が修飾子の構成要素です。このエラーは、修飾子の宣言が発見できないときに起こります。修飾子の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で誤った位置に置かれている可能性があります。

処置: 修飾子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00304 コンパイル済みの仕様がいないため *string* の本体をコンパイルできません。

原因: パッケージ本体をコンパイルするために必要なコンパイル済のパッケージ仕様部が見つけれませんでした。次のような原因が考えられます。

- パッケージ名の綴りに誤りがある
- パッケージ仕様部が 1 度もコンパイルされていない
- コンパイル済のパッケージの仕様部にアクセスできない

パッケージ本体をコンパイルする前にパッケージ仕様部をコンパイルする必要があります。また、コンパイラがコンパイル済の仕様部にアクセスする必要があります。

処置: パッケージ名の綴りを確認してください。パッケージ本体をコンパイルする前にパッケージの仕様部をコンパイルしてください。また、コンパイラがコンパイル済の仕様部にアクセスできることを確認してください。

PLS-00305 *string* (行 *string*) の以前の使用方法が、この使用方法と競合します。

原因: カーソル、プロシージャ、ファンクションまたはパッケージの以前の宣言を検索しているときに、コンパイラが同じ有効範囲で同じ名前を持つ別のオブジェクトを発見しました。または、パッケージ仕様部と本体のサブプログラムのヘッダーが完全に一致していません。

処置: カーソル、プロシージャ、ファンクション、またはパッケージの名前の綴りを確認してください。また、同じ有効範囲の中で宣言されているすべての定数、変数、パラメータ、および例外の名前を確認してください。次に、重複する名前を持つオブジェクトを削除するか改名してください。またはパッケージ・サブプログラムのヘッダーを変更して、完全に一致させてください。

PLS-00306 *string* の呼出しで、引数の数または型が正しくありません。

原因: このエラーは、表示されたサブプログラムの呼出しが、そのサブプログラム名の宣言と一致しないときに発生します。サブプログラム名の綴りが間違っている、パラメータのデータ型が違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で間違った位置に置かれているなどの可能性があります。たとえば、組込みの平方根関数 SQRT を間違った名前呼び出ししたり、間違ったデータ型のパラメータを付けて呼び出した場合に、このエラーが発生します。

処置: サブプログラムの綴りと宣言を確認してください。また、コールが正しいこと、パラメータのデータ型が正しいこと、それが組込み関数でない場合は、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00307 このコールに一致する *string* が複数宣言されています。

原因: 宣言とコールが完全に一致せず、パラメータのデータ型の暗黙の変換が使用されると、複数の宣言がコールと一致するので、サブプログラム名の宣言が不明確になります。サブプログラム名の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で間違った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置: サブプログラムの綴りと宣言を確認してください。また、コールが正しいこと、パラメータのデータ型が正しいこと、それが組込み関数でない場合は、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00308 この構成は代入元としては使用できません。

原因: 構成体または式が、変数に代入できるような値を表していません。たとえば、データ型名 NUMBER は、X:=NUMBER のように代入文の右辺では使用できません。

処置: 無効な代入文を訂正してください。

PLS-00309 %%LAST 属性を適用する場合 *string* は数え上げ可能な型の変数でなければなりません。

原因："%LAST" 属性は、数え上げ可能な型（または数え上げ可能な型のサブタイプ）の変数として宣言された識別子に適用する必要があります。そのように宣言されていない識別子の後に "%LAST" が付けられていると、このエラーが発生します。

処置：%LAST 属性が数え上げ可能な型（または数え上げ可能な型のサブタイプ）の後で使用されていることを確認してください。

PLS-00310 %%ROWTYPE 属性の場合、*string* は表、カーソル、カーソル変数でなければなりません。

原因：%ROWTYPE 属性は、カーソル、カーソル変数またはデータベース表として宣言された識別子に適用する必要があります。そのように宣言されていないなんらかの識別子の後に %ROWTYPE が付けられていると、このエラーが発生します。

処置：宣言を変更するか、識別子に %ROWTYPE 属性を適用しないでください。

PLS-00311 *string* の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因：この識別子は、型が正しく定義されていないためにコンパイルできません。

処置：不正なデータ型の宣言を訂正してください。

PLS-00312 定位置パラメータ対応が名前指定対応に準じていません。

原因：パラメータのリストがサブプログラムまたはカーソルに渡されるときに、位置指定対応と名前指定対応の両方を使用する場合は、宣言された順序で、すべての位置指定対応を、すべての名前指定対応（順序は任意）の前に置く必要があります。

処置：この条件を満たすようにパラメータ・リストの順序を変えるか、名前指定対応のみを使用してください。

PLS-00313 この有効範囲内で *string* が宣言されていません。

原因：参照の有効範囲の中には、この識別子の宣言がありません。識別子の綴りが間違っている、宣言に誤りがある、または宣言がブロック構造の中で間違った位置に置かれているなどの可能性があります。

処置：識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00314 TABLE 宣言は PL/SQL ローカル変数として使用できません。

原因：プリコンパイルされたプログラムで、誤って埋込み PL/SQL ブロック内に DECLARE TABLE 文を使用しました。埋込み PL/SQL ブロックが、まだ存在しないデータベース表を参照した場合、プリコンパイラにその表がどのようなものであるかを知らせるために DECLARE TABLE 文を使用します。ただし、DECLARE TABLE 文はホスト・プログラムでのみ使用が許されています。

処置: 埋込み PL/SQL ブロックの外側に DECLARE TABLE 文を移動してください。
データベース表から選択されたデータの行全体、またはカーソルやカーソル変数から取り出されたデータの行全体を格納できる変数が必要な場合は、%ROWTYPE 属性を使用してください。

PLS-00315 現在 PL/SQL の TABLE 宣言には、binary_integer 索引を使用しなければなりません。

原因: PL/SQL 表宣言の INDEX BY 句で、BINARY_INTEGER 以外のデータ型が指定されています。PL/SQL 表は、1 つの列と 1 つの主キーを持つことができます。列はスカラ型であればどのデータ型でもかまいませんが、主キーは BINARY_INTEGER にする必要があります。

処置: データ型指定子を BINARY_INTEGER に変更してください。

PLS-00316 現在 PL/SQL の TABLE には、単一 binary_integer 索引を使用しなければなりません。

原因: PL/SQL 表宣言の INDEX BY 句で、コンポジット主キーが指定されました。PL/SQL 表の主キーは、単一で、名前なしの BINARY_INTEGER 型である必要があります。

処置: 無効な句を INDEX BY BINARY_INTEGER に変更してください。

PLS-00317 不完全な型 string が宣言リージョン内で完了していません。

原因: 不完全な型宣言が、宣言リージョン内で完了していません。

処置: 型を適切に完了させた後、操作を再試行してください。

PLS-00318 型 string の形式が誤っています。それは相互再帰的な非 REF 型です。

原因: 次のような型宣言

```
-- non-REF recursive type
type t is record (a t);
```

または

```
-- non-REF mutually dependent types
type t1;
type t2 is record (a t1);
type t1 is record (a t2);
```

が入力されました。

処置: 別の型を使用して、再帰を削除してください。

PLS-00319 IN または NOT IN 句の副問合せの列は 1 つでなければなりません。

原因： X IN (SELECT A,B ...) のような無効な式が使用されました。副問合せで [NOT]IN 句を使用するときは、集合のメンバーであるかどうかは調べられません。[NOT]IN 句内の式の数と副問合せの SELECT リスト内の式の数は一致する必要があります。したがって、前述の例では、副問合せで 1 つの列のみを指定する必要があります。

処置： 複数の列を選択しないように、副問合せを変更してください。

PLS-00320 この式の型の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因： 宣言の中で、変数またはカーソルの名前の綴りが間違っているか、宣言が前方参照を行っています。PL/SQL では前方参照ができません。変数またはカーソルは、他の文（他の宣言文も含む）で参照する前に宣言しておく必要があります。たとえば、次に示す dept_rec の宣言は、未宣言のカーソルを参照しているために例外を呼び出します。

```
DECLARE
dept_rec dept_cur%ROWTYPE;
CURSOR dept_cur IS SELECT ...
...
```

処置： 宣言内のすべての識別子の綴りを確認してください。必要な場合は、前方参照が起らないように宣言を移動してください。

PLS-00321 式 *string* は、代入文の左側の式としては不適切です。

原因： この式は値を代入できるような変数を表していません。たとえば、関数 SYSDATE は、次のように代入文の左辺では使用できません。

```
SYSDATE := '01-JAN-1990';
```

処置： 無効な代入文を訂正してください。

PLS-00322 定数 *string* の宣言には、初期割当てが必要です。

原因： 定数宣言に初期値の代入がありません。たとえば、次の宣言「:= 3.14159」は初期化の句です。

```
"pi constant number := 3.14159;"
```

処置： 必要な初期化割当てを指定して、定数の宣言を修正してください。

PLS-00323 パッケージ仕様部で未定義のサブプログラムまたはカーソル *string* が宣言されています。

原因： パッケージ仕様部にサブプログラム仕様部が置かれていましたが、対応するサブプログラム本体がパッケージ本体に置かれていません。パッケージ本体は、パッケージ仕様部をインプリメントします。したがって、パッケージ仕様部で宣言されているすべてのサブプログラムの宣言がパッケージ本体に含まれている必要があります。

処置： サブプログラム名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているサブプログラム本体をパッケージ本体に追加してください。

PLS-00324 カーソル属性は、非カーソル *string* には適用されません。

原因: カーソルの属性 (%FOUND、%NOTFOUND、%ROWS、%IS_OPEN など) がカーソルまたはカーソル変数として宣言されていない識別子の後にあると、このエラーが発生します。たとえば、`my_cur%FOUND` の変数名 `my_cur` がカーソルとして正しく宣言されていなかった場合や、変数宣言がブロック構造の中で正しい位置に置かれていなかった場合に発生します。

処置: 識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。

PLS-00325 このコンテキストでは、非正数リテラル *string* は使用できません。

原因: 整数 (小数点以下がない数値) が必要なコンテキストで、整数ではない数値リテラルが使用されました。

処置: 不適当なりテラルを整数リテラルに置き換えてください。

PLS-00326 IN 句には副問合せとして同じ数の式が必要です。

原因: IN 句の中の式の数が、対応する副問合せの SELECT リストの中の式の数と一致しません。たとえば、次の文は IN 句が式を 2 つ含み、副問合せの SELECT リストが式を 1 つしか含んでいないために不正な文になります。

```
... WHERE (ename, sal) IN (SELECT sal FROM emp);
```

処置: 各セットの式の数を確認し、数が一致するように式を訂正してください。

PLS-00327 *string* は、この SQL 有効範囲にありません。

原因: SQL 文で、有効範囲外のデータベース・オブジェクトに対して参照が行われました。参照されたオブジェクトの綴りが誤っているか、または次の例に示すように参照が混在している可能性があります。

```
CURSOR c1 IS SELECT dept.dname FROM emp;
```

処置: SQL 文のデータベース・オブジェクトの綴りがすべて正しいかどうか、すべての参照がカーソルの有効範囲内のオブジェクトに対して行われているかどうかを確認してください。

PLS-00328 サブプログラム本体が、*string* の先送り宣言に対して定義されていなければなりません。

原因: サブプログラム仕様部が宣言されましたが、対応するサブプログラム本体が定義されていません。サブプログラム仕様部と本体を 1 つの単位として記述してください。もう 1 つの解決方法は、仕様部を本体から分離することです。これは相互に再帰的なサブプログラムを定義したり、サブプログラムを 1 つのパッケージにグループ化する場合に必要です。

処置: サブプログラム名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているサブプログラム本体を指定してください。

PLS-00329 スキーマ・レベル型に、*string* に対する不正な参照が含まれています。

原因：スキーマ・レベルの型からそれ以外の型を参照しようとしてしました。

処置：無効な参照を置き換えて、操作を再試行してください。

PLS-00330 タイプ名またはサブタイプ名の使用方法に誤りがあります。

原因：定数、変数、式のかわりに、誤ってデータ型またはサブタイプ指定子が使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
IF emp_count > number THEN ... -- illegal; NUMBER is a datatype specifier
```

処置：データ型またはサブタイプ指定子を有効な定数、変数または式で置き換えてください。

PLS-00331 *string* に対する参照が正しくありません。

原因：次のいずれかです。

- ユーザー SYS のオブジェクトを不正な方法で使用するためのそのオブジェクトに対する無効な参照
- リモート・オブジェクト型に対する無効な参照

処置：参照を削除してください。

PLS-00332 *string* は、修飾名に対する有効な接頭辞ではありません。

原因：接頭辞が無効なため、修飾名が間違っています。

処置：参照を削除または変更してください。

PLS-00333 *string* は、このコンテキストにあるオブジェクト表の別名と一致しなければなりません。

原因：REF または VALUE コンテキストで現れる名前が、オブジェクト表の別名の参照を解決していません。

処置：

1. 有効範囲内にオブジェクト表がない場合には、REF または VALUE を削除してください。そうでない場合には、必要なオブジェクト表参照を指定してください。
2. 有効範囲内にオブジェクト表があり、その表を参照していない場合には、参照を追加してください。

PLS-00334 *string* が別名のない表またはビューと一致しています。

原因：別名のない表またはビューの名前が参照されました。

処置：参照をオブジェクト型の別名への参照で置き換えてください。

PLS-00335 パッケージ名が既存のオブジェクトと競合します。

原因: CREATE PACKAGE 文で、パッケージ（論理的に関連付けられている PL/SQL タイプ、オブジェクトおよびサブプログラムをグループ化するデータベース・オブジェクト）に、既存のデータベース・オブジェクトと同じ名前が指定されました。

処置: パッケージに固有の名前を付けてください。

PLS-00336 このコンテキストでは、オブジェクトのない表 *string* は不正です。

原因: オブジェクト表以外に、REF または VALUE 修飾子が指定されました。このコンテキストでは使用できません。

処置: 参照をオブジェクト型の別名への参照で置き換えてください。

PLS-00337 *string* と一致するオブジェクト表の別名が多すぎます。

原因: オブジェクト表の別名に対する参照があいまいです。同じ有効範囲内に、オブジェクト表の別名が少なくとも 2 つ存在します。

処置: 参照を 1 つのみ残すか、残りの別名を変更してください。

PLS-00338 *string* は、列または行の式として解決できません。

原因: 列または行式として解決できない名前が参照されました。これは、オブジェクト表を含む UPDATE または INSERT 文で発生します。

処置: UPDATE 文を列参照としてコーディングする場合には、そのように修正してください。行式としてコーディングする場合には、オブジェクト表の別名を参照するように変更してください。

PLS-00339 *string* が、REF または VALUE 修飾子のないオブジェクト表と一致しています。

原因: REF または VALUE 修飾子を指定せずにオブジェクト表名が指定されました。

処置: REF または VALUE 修飾子を付けてコーディングする場合には、修飾子を追加してください。列参照としてコーディングする場合には、適切に参照を変更してください。それ以外の場合には、参照を削除してください。

PLS-00341 カーソル *string* の宣言が不完全か、または形式が誤っています。

原因: カーソル宣言が間違っているか、またはカーソル宣言の中で参照されている識別子が正しく宣言されていません。既存のデータベース表または以前に宣言されたカーソルまたはカーソル変数を参照しない戻り型が指定されている可能性があります。たとえば、次のカーソル宣言は c1 が完全に定義されていないため無効となります。

```
CURSOR c1 RETURN c1%ROWTYPE IS SELECT ... -- illegal
```

この場合、戻り型は暗黙に決定されるので、指定する必要はありません。

処置: カーソル名およびカーソル宣言で参照している識別子の綴りと宣言を確認してください。また、宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることも確認してください。戻り型を指定する場合は、既存のデータベース表、以前に宣言されたカーソルまたはカーソル変数を参照することを確認してください。

PLS-00351 データベース *string* にログ・オンしていません。

原因: ログオンしないで Oracle データベースにアクセスしようとした。不正なユーザー名またはパスワードが入力された可能性があります。

処置: データベースにアクセスするには、綴りの正しいユーザー名およびパスワードを入力して、Oracle にログオンしてください。

PLS-00352 別のデータベース *string* にアクセスできません。

原因: 現行のローカルまたはリモート Oracle データベース以外のデータベース内のオブジェクトを参照しようとした。

処置: 参照を修正し、現行の Oracle データベース内のオブジェクトを参照するようにしてください。

PLS-00353 *string* はデータベースでユーザーを指定しなければなりません。

原因: ユーザー名の綴りが間違っている場合、またはユーザーがデータベースに存在しない場合に、このエラーが発生します。

処置: ユーザー名の綴りを確認し、そのユーザーが存在していることを確かめてください。

PLS-00354 ユーザー名は単純識別子でなければなりません。

原因: scott.accts などのように修飾されたユーザー名はこのコンテキストでは使用できません。

処置: scott などのような単純ユーザー名を指定してください。

PLS-00355 PL/SQL 表はこのコンテキストでは使用できません。

原因: 間違ったコンテキストで PL/SQL 表が参照されました（たとえば、リモート・リンクを使用）。

処置: PL/SQL 表の参照を削除するか、またはコンテキストを変更してください。

PLS-00356 *string* は、ユーザーがアクセスしている表名でなければなりません。

原因: ユーザーは表示された表にアクセスできません。このエラーは、表の名前またはユーザー名の綴りが間違っている場合、表やユーザーがデータベースに存在しない場合、ユーザーが必要な権限を与えられていない場合、表の名前がローカル変数またはループ・カウンタの名前と重複している場合に発生します。

処置: 表の名前とユーザー名の綴りを確かめてください。また、表とユーザーが存在すること、ユーザーが必要な権限を持っていること、表名がローカル変数またはループ・カウンタの名前と重複していないことも確認してください。

PLS-00357 表またはビュー、シーケンス参照 *string* は、このコンテキストでは使用できません。

原因: 表、ビューおよびシーケンスへの参照が不適当なコンテキストで発見されました。表参照は SQL 文の中か、変数宣言の中で %TYPE 属性、%ROWTYPE 属性と組み合わせないと使用できません。次にいくつかの正しい例を示します。

```
SELECT ename, emp.deptno, dname INTO my_ename, my_deptno, my_dept
FROM emp, dept WHERE emp.deptno = dept.deptno;
DECLARE
last_name emp.ename%TYPE;
dept_rec dept%ROWTYPE;
```

処置: 無効な参照を削除するか、位置を変えてください。

PLS-00358 列 *string* が複数の表にあります。修飾子を使用してください。

原因: その文は、同じ列名を持つ 2 つ以上の表を指定しているため、不明確です。たとえば、次の文は deptno が両方の表の列であるためにあいまいです。

```
SELECT deptno, loc INTO my_deptno, my_loc FROM emp, dept;
```

処置: 列参照があいまいにならないように、列名の前に表名 (たとえば emp.deptno) を付けてください。

PLS-00359 *string* の割当てターゲットにはコンポーネントが必要です。

原因: 割当てターゲットの宣言で、代入された値を格納するために必要なコンポーネントが欠落しています。たとえば、列値の行をレコードではなく変数に代入すると、このエラーが発生します。次に例を示します。

```
DECLARE
dept_rec dept%ROWTYPE;
my_deptno dept.deptno%TYPE;
... BEGIN SELECT deptno, dname, loc INTO my_deptno -- invalid
FROM dept WHERE ...
```

処置: 割当てターゲットとそのすべてのコンポーネントの綴りを確認してください。割当てターゲットが必要なコンポーネントとともに宣言されていることと、その宣言がブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。

PLS-00360 本体のないカーソル宣言には戻り型が必要です。

原因: カーソル宣言に、本体 (SELECT 文) がないか、戻り型がないかのいずれかです。カーソルの指定を本体から切り離す場合、次のように戻り型の入力が必要です。

```
CURSOR c1 RETURN emp%ROWTYPE;
```

処置: SELECT 文または戻り型をカーソル宣言に追加してください。

PLS-00361 IN カーソル *string* を OPEN できません。

原因：IN モードのカーソル・パラメータは変更できないので、オープンできません。

処置：カーソル・パラメータを IN OUT または OUT に変更してください。

PLS-00362 カーソルの戻り型が無効です。 *string* はレコード型でなければなりません。

原因：カーソルの指定または REF CURSOR 型の定義で、NUMBER、TABLE などの非レコード型が戻り型として指定されました。これは許可されていません。次の戻り値のみが許可されています。

- `record_type_name`
- `record_name%TYPE`
- `table_name%ROWTYPE`
- `cursor_name%ROWTYPE`
- `cursor_variable_name%ROWTYPE`

処置：前述の戻り型を指定するように、カーソルの指定または REF CURSOR 型定義を訂正してください。

PLS-00363 式 *string* は割当てターゲットとして使用できません。

原因：リテラル、定数、IN パラメータ、ループ・カウンタまたはファンクション・コールが、誤って割当てターゲットとして使用されました。たとえば、次の文は、割当てターゲットの 30 が定数なので不正な文です。

```
SELECT deptno INTO 30 FROM dept WHERE ... -- illegal
```

処置：正しい割当てターゲットを使用して、誤りのある文を修正してください。

PLS-00364 ループ索引変数 *string* の使用方法に誤りがあります。

原因：不適切なコンテキストでループ・カウンタへの参照が見つかりました。たとえば、次の文は無効です。ループ・カウンタがそれ自身の範囲式の中で終了値として使用されているからです。

```
FOR j IN 1 .. j LOOP ... -- illegal
```

処置：ループ・カウンタを参照しないように、ループの範囲式を変更してください。範囲式の中で、ループ・カウンタと同じ名前を持つ別の変数を参照する場合は、名前を変更するか、変数名をラベルで修飾してください。

PLS-00366 NOT NULL タイプのサブタイプは、同様に NOT NULL でなければなりません。

原因：サブタイプを NOT NULL として定義した後、NULL として定義されている別のサブタイプのベース型として使用しました。これは許可されていません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
DECLARE
SUBTYPE Weekday IS INTEGER NOT NULL;
SUBTYPE Weekend IS Weekday NULL; -- illegal
```

正しくは次のとおりです。

```
DECLARE
SUBTYPE Weekday IS INTEGER NOT NULL;
SUBTYPE Weekend IS Weekday;
```

処置: サブタイプ定義を訂正して、矛盾をなくしてください。

PLS-00367 例外名のない RAISE 文は、例外ハンドラの内部になければなりません。

原因: 例外ハンドラの外で、例外名が後に付いていない RAISE 文が発見されました。

処置: RAISE 文を削除するか、例外ハンドラに移すか、または例外名を追加してください。

PLS-00368 RAISE 文で、*string* は例外名でなければなりません。

原因: RAISE 文の中の識別子が正しい例外名ではありません。

処置: RAISE 文の中の識別子が例外として宣言されていることと、ブロック構造内の正しい位置に置かれていることを確認してください。PL/SQL 事前定義済例外の名前を使用している場合は、その名前の綴りを確認してください。

PLS-00369 例外ハンドラで、OTHERS は単独で使用されなければなりません。

原因: 次の形式の要素

```
WHEN excep1 OR OTHERS =>
```

が例外ハンドラの定義内で検出されました。OTHERS ハンドラは、ブロック内の最後の例外ハンドラとして単独で置く必要があります。

処置: OTHERS で表される識別子を削除するか、その識別子に別の例外ハンドラを作成してください。

PLS-00370 OTHERS ハンドラは、例外ハンドラのブロックの中で最後になければなりません。

原因: OTHERS ハンドラの後に、1 つ以上のハンドラがあります。しかし、OTHERS ハンドラは、名前が具体的に指定されているすべての例外用のハンドラとして機能するため、ブロックまたはサブプログラム内の一番最後に置く必要があります。

処置: 特定の例外ハンドラに続くように、OTHERS ハンドラを移動してください。

PLS-00371 宣言セクションでは、*string* の宣言は 1 回でなければなりません。

原因：ブロック、プロシージャまたはファンクションの宣言部分に矛盾する宣言があるため、識別子の参照が不明確です。識別子の宣言は、1 つの宣言部分で 1 回しか行えません。

処置：識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、識別子の宣言を 1 つ除いて、すべて削除してください。

PLS-00372 プロシージャでは、RETURN 文に式を入れることはできません。

原因：プロシージャ中の RETURN 文で式が使用されていますが、これは許されません。ファンクション中の RETURN 文では式を含んでいる必要があります。なぜならその値がファンクション識別子に代入されるからです。ただし、プロシージャ内では RETURN 文を使用してプロシージャの最後に処理が到達する前にその処理を終了させることができます。

処置：RETURN 文から式を削除するか、ファンクションとしてプロシージャを再定義してください。

PLS-00373 EXIT ラベル *string* は LOOP 文のラベルでなければなりません。

原因：EXIT 文内のラベルは、ループを参照しません。EXIT 文はラベルの指定は不要です。ただし、ラベルが指定されている (EXIT my_label など) 場合は、そのラベルは、ループ文を参照する必要があります。

処置：ラベル名の綴りが正しいかどうか、ラベル名がループ文を参照しているかどうか確認してください。

PLS-00374 無効な EXIT 文です。EXIT 文はラベル *string* のループ内になければなりません。

原因：EXIT 文はラベルの指定は不要です。ラベルが指定されている場合 (EXIT my_label など)、そのラベルによって指定されるループ内に EXIT 文がある必要があります。

処置：ラベル名の綴りが正しいかどうかを確認してください。必要であれば、ラベルが参照するループの内側に EXIT 文を移動してください。

PLS-00375 無効な GOTO 文です。この GOTO はラベル *string* に分岐できません。

原因：エラー・メッセージに記された行と列の番号は、一連の文を含む構成 (ループや例外ハンドラなど) の外側から、一連の文の内側のラベルに分岐している GOTO 文を示しています。このような分岐は許されません。

処置：文の順序内に GOTO 文を移動するか、ラベル付きの文を文の順序の外側に移動してください。

PLS-00376 無効な EXIT 文です。EXIT 文はループの内部になければなりません。

原因：ループ構文の外側に EXIT 文があります。EXIT 文はループを途中で終了するために使用されるので、必ずループの内側にある必要があります。

処置：EXIT 文を削除するか、ループの内側に入れてください。

PLS-00377 内部型 PLS_INTEGER は現行のリリースの PL/SQL には使用できません。

原因: 型名 INTEGER が宣言で使用されました。

処置: 使用しないでください。

PLS-00378 渡されたコンパイル・ユニットは、現行のリリースの PL/SQL では無効です。

原因: コンパイル・ユニットとは、コンパイラに渡される、PL/SQL ソース・コードが入ったファイルのことです。コンパイル・ユニットは、ブロック、宣言、文およびサブプログラムしか含むことができません。このエラーは、これ以外の言語構造がコンパイラに渡されたときに発生します。

処置: コンパイル・ユニットにブロック、宣言、文、サブプログラム以外のものがあるかどうかを調べてください。

PLS-00379 CASE 文は現在のリリースの PL/SQL では使用できません。

原因: コンパイル・ユニットに CASE 文が含まれています。しかし、現行のリリースの PL/SQL は CASE 文をサポートしていません。

処置: コンパイル・ユニットから CASE 文を削除してください。

PLS-00380 関数およびプロシージャは現行のリリースの PL/SQL では使用できません。

原因: コンパイル中のプログラムに FUNCTION または PROCEDURE の宣言が含まれています。

処置: 使用しないでください。

PLS-00381 列と、副問合せまたは INSERT 文の変数で、*string* の型が一致していません。

原因: 列と変数のデータ型が一致しません。この変数は副問合せまたは INSERT 文の中にあります。

処置: 列のデータ型に合うように、変数のデータ型を変更してください。

PLS-00382 式の型が正しくありません。

原因: 式のデータ型が、その式が検出されたコンテキストには正しくありません。

処置: 式のデータ型を変更してください。データ型の変換ファンクションも使用できます。

PLS-00383 IN または NOT IN 句で、*string* の型が一致していません。

原因: X NOT IN (SELECT Y ...) などの集合のメンバーシップの検査で、式 X と Y のデータ型が一致せず、この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要であるかが不明です。

処置: データ型が一致するように式を変更してください。SELECT リストでデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00384 UPDATE の SET 句で、*string* の型が一致していません。

原因：UPDATE 文の SET 句の等号の左側にある列が、等号の右側にある列、式または副問合せとデータ型が一致しません。この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要なのかは不明です。

処置：データ型が一致するように式を変更してください。SET 句でデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00385 SELECT...INTO 文で、*string* の型が一致していません。

原因：SELECT...INTO 文の INTO 句の左右にある式のデータ型が一致せず、この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要であるかが不明です。

処置：データ型が一致するように式を変更してください。SELECT リストでデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00386 FETCH カーソルと INTO 変数で、*string* の型が一致していません。

原因：FETCH 文の INTO リスト内の割当てターゲットが、カーソル宣言の SELECT リスト内の対応する列とデータ型が一致しません。この不一致を訂正するのに、どの暗黙変換が必要であるかが不明です。

処置：カーソル宣言を変更するか、代入先のデータ型を変更してください。カーソルに結び付けられている問合せの SELECT リストでデータ型変換ファンクションを使用することもできます。

PLS-00387 INTO 変数はデータベース・オブジェクトにできません。

原因：FETCH 文または SELECT 文の INTO リストに含まれる項目がデータベース・オブジェクトでした。INTO は出力値を代入するユーザー定義の変数のリストを与えます。このため、INTO リストではデータベース・オブジェクトが指定できません。

処置：INTO リスト項目の綴りを確認してください。必要ならば INTO リストから項目を削除するか、ユーザー定義の出力変数に置き換えてください。

PLS-00388 副問合せの列 *string* が未定義です。

原因：副問合せに、指定された表に対して定義されていない列名が含まれています。

処置：式を変更して、定義された列を指定します。

PLS-00389 このコンテキストでは、表またはビュー、別名の *string* は不適当です。

原因：通常（オブジェクト以外）の表に対応する表、ビューまたは別名 *name* が、不適切なコンテキストにあります。

処置：参照を削除するか、列参照としてコーディングする場合にはそのように修正してください。

PLS-00390 INSERT 文の列 *string* が未定義です。

原因：INSERT 文に定義されていない列名が含まれています。

処置：列名の綴りを確認し、定義済列のみを参照するように式を変更してください。

PLS-00391 UPDATE 文の列 *string* が未定義です。

原因: UPDATE 文が、更新される表またはビューで定義されていない列を参照しています。

処置: 列名の綴りを確認し、定義済列のみを参照するように文を修正してください。

PLS-00392 BETWEEN へ渡す引数の型が一致していません。

原因: X BETWEEN Y AND Z などの比較で、式 X、Y および Z のデータ型が一致せず、この不一致を解消するためにどの暗黙変換を行えばいいのかが不明です。

処置: データ型が一致するように式を変更してください。データ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00393 SELECT...INTO 文の列の数が正しくありません。

原因: SELECT...INTO 文で選択された列数が、INTO 句の変数の数と一致しません。

処置: SELECT リストの中の列の数か INTO 句の中の変数の数を変更して、両者が一致するようにしてください。

PLS-00394 FETCH 文の INTO リストの値の数が正しくありません。

原因: FETCH 文の INTO 句に含まれる変数の数が、カーソル宣言の列の数と一致しません。

処置: INTO 句の変数の数かカーソル宣言の列の数を変更して、両者が一致するようにしてください。

PLS-00395 INSERT 文の VALUES 句の値の数が正しくありません。

原因: INSERT 文の列の数が、VALUES 句の値の数と一致しません。たとえば、次の文は値 20 に対して列が指定されていないので不正です。

```
INSERT INTO emp (empno, ename) VALUES (7788, 'SCOTT', 20);
```

処置: 列リストの項目の数か VALUES リストの項目の数を変更して、両者が一致するようにしてください。

PLS-00396 INSERT 文の副問合せの列の数が正しくありません。

原因: INSERT 文の列の数が、副問合せの SELECT リストの列の数と一致しません。たとえば、次の文は col3 に対応する列が指定されていないので不正です。

```
INSERT INTO emp (ename, empno)
SELECT col1, col2, col3
FROM ...
```

処置: INSERT 文の列リストの項目数と SELECT リストの項目数が一致するように、変更してください。

PLS-00397 IN へ渡す引数の型が一致しません。

原因：X IN (Y,Z) などの集合のメンバーシップの検査で、式 X、Y および Z のデータ型が一致せず、この不一致を解消するためにどの暗黙変換を行えばいいのかが不明です。

処置：データ型が一致するように式を変更してください。データ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00398 UNION または INTERSECT、MINUS 式で、列の数が正しくありません。

原因：UNION 式、INTERSECT 式または MINUS 式の左右の SELECT 句で選択されている列の数が違います。たとえば、次の文は SELECT リストの含む項目数が等しくないで不正です。

```
CURSOR my_cur IS SELECT ename FROM emp
INTERSECT SELECT ename, empno FROM emp;
```

処置：項目数が一致するように、SELECT リストを変更してください。

PLS-00399 UNION または INTERSECT、MINUS 式で、列の型が一致していません。

原因：UNION 式、INTERSECT 式または MINUS 式の左右の SELECT リストで、データ型が一致しない列が少なくとも 1 つ選択されています。たとえば、次の文は定数 3 のデータ型が NUMBER であるのに対して、SYSDATE のデータ型は DATE なので不正です。

```
CURSOR my_cur IS SELECT 3 FROM emp
INTERSECT SELECT SYSDATE FROM emp;
```

処置：データ型に一致するように、SELECT リストを変更してください。1 つ以上の問合せの SELECT リストでデータ型変換ファンクションも使用できます。

PLS-00400 カーソル SELECT 文と戻り値との列数が異なります。

原因：カーソルの宣言で戻り型 (RETURN emp%ROWTYPE など) を指定しましたが、戻された列値の数が SELECT リストの項目の数と一致しません。

処置：カーソルの戻り型または SELECT リストを変更して両者の数が一致するようにしてください。

PLS-00401 カーソル SELECT 文と *string* にある戻り値との間で列の型が異っています。

原因：カーソルの宣言で戻り型 (RETURN emp%ROWTYPE など) を指定しましたが、戻された列値のデータ型が、対応する SELECT リストの項目のデータ型と異なっています。

処置：カーソルの戻り型または SELECT リストを変更して両者の型が一致するようにしてください。

PLS-00402 列名の重複を避けるためにはカーソルの SELECT リストに別名が必要です。

原因: 重複する列名を含む SELECT 文で SQL カーソルが宣言されています。この参照は、不明確です。

処置: SELECT リストで重複している列名を別名で置き換えてください。

PLS-00403 式 *string* は、SELECT/FETCH 文の INTO 部には記述できません。

原因: FETCH 文で、代入先が正しい形式の宣言された変数ではないために、INTO リストに含まれる代入先に値を代入できません。たとえば、'Jones' は文字列で、変数ではないため、次の代入は不正です。

```
FETCH my_cur INTO 'Jones';
```

処置: 代入先の綴りと宣言を確認してください。変数名の作成規則に従っていることを確認してください。

PLS-00404 CURRENT OF で使用するにはカーソル *string* を FOR UPDATE で宣言する必要があります。

原因: CURRENT OF cursor_name 句の使用は、cursor_name が FOR UPDATE 句で宣言された場合にのみ有効です。

処置: カーソルの定義に FOR UPDATE 句を追加するか、CURRENT OF cursor_name 句を使用しないようにしてください。

PLS-00405 このコンテキストで副問合せはできません。

原因: 不適当なコンテキストで副問合せが使用されました。次に例を示します。

```
if (SELECT deptno FROM emp WHERE ... ) = 20 then ...
```

副問合せは SQL 文でしか使用できません。

処置: 次のように、一時変数を使用しても同じ結果が得られます。

```
SELECT deptno INTO temp_var FROM emp WHERE ...;  
IF temp_var = 20 THEN ...
```

PLS-00406 副問合せの SELECT リストの長さは割当てターゲット数と一致しなければなりません。

原因: 問合せの SELECT リストの長さが、戻された値を受け取る代入先のリストの長さとは一致しません。たとえば、次の文は副問合せが 2 つの値を戻すのに対して、代入先が 1 つしかないのので不正です。

```
UPDATE emp SET ename =  
(SELECT ename, empno FROM emp WHERE ename = 'SMITH') ...
```

処置: 項目数が一致するように、リストの 1 つを変更してください。

PLS-00407 ここで '*' は使用できません。列リストが必要です。

原因: 列名のリストの省略形としてアスタリスク (*) が使用されました。しかし、このコンテキストでは列名は明示的な指定が必要です。

処置: アスタリスクを列名のリストで置き換えてください。

PLS-00408 INSERT または UPDATE で、重複する列 *string* は許可されません。

原因: UPDATE 文または INSERT 文に、重複する列名がある列リストが含まれています。

処置: 列名の綴りを確認し、重複がないようにしてください。

PLS-00409 INTO リスト内で重複する変数 *string* は許可されません。

原因: SELECT 文または FETCH 文では、INTO リストで同じ変数を 2 度指定できません。

処置: 変数のいずれかを INTO リストから削除してください。

PLS-00410 RECORD または TABLE、引数リスト内で重複するフィールドは許可されません。

原因: ユーザー定義レコードを宣言するときに、2 つのフィールドに同じ名前を指定しました。データベース表の列名と同様、ユーザー定義レコードのフィールド名は一意である必要があります。

処置: フィールド名の綴りを確認し、重複しているものがあれば削除してください。

PLS-00411 集合と副問合せの値数が一致しません。

原因: 形式 (集合) = (副問合せ) の文で、集合の値の数と副問合せの値の数が一致していません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
... WHERE (10,20,30) = (SELECT empno,deptno FROM emp WHERE...);
```

処置: 値の数が一致するように、集合と副問合せを変更してください。

PLS-00412 値のリストは、この関数またはプロシージャへの引数にはできません。

原因: カンマで区切ってカッコで囲んだ値リスト (すなわち集計) が間違ったコンテキストで使用されました。たとえば、次の使用方法是不正です。

```
WHERE (col1, col2) > (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

ただし、等号は、左側と右側の引数として、それぞれ値のリストと副問合せをとることができます。したがって、次の使用方法是有効です。

```
WHERE (col1, col2) = (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

処置: 式を修正してください。次に例を示します。

```
WHERE (col1, col2) > (SELECT col3, col4 FROM my_table ...)
```

前述の句は、次のように書き直すことができます。

```
WHERE col1 > (SELECT col3 FROM my_table ...) AND  
col2 > (SELECT col4 FROM my_table ...)
```

PLS-00413 CURRENT OF 句の識別子はカーソル名ではありません。

原因: CURRENT OF 句の識別子がカーソル以外のオブジェクトの名前です。

処置: 識別子の綴りを確認してください。それが DELETE 文または UPDATE 文のカーソルの名前であることと、FOR ループ変数の名前ではなく、カーソル自体の名前であることを確認してください。

PLS-00414 表に列 *string* がありません。

原因: 列の参照を修飾するために表の名前または別名が使用されましたが、表の中に列がありません。列が定義されていなかったか、列名の綴りが間違っています。

処置: 列が定義されているかどうか確認し、列名の綴りが正しいかどうかを調べてください。

PLS-00415 *string* は OUT パラメータなので関数では使用できません。

原因: ファンクションの指定で OUT または IN OUT 仮パラメータが使用されました。

処置: パラメータを IN パラメータに変更してください。

PLS-00416 DECODE の第 3 引数は NULL にできません。

原因: DECODE の 3 番目の引数が NULL になっています。

処置: 適切な型および値を指定した引数を入力してください。

PLS-00417 *string* は列として判別できません。

原因: SQL 文に指定されたデータベース表、ビューまたは列が存在しないか、表またはビューへのアクセスに必要な権限が付与されていません。

処置: 表（またはビュー）および列の名前の綴りを確認してください。また、その表および列が存在していることを確認してください。必要な場合は、アクセスするための権限をデータベース管理者に依頼してください。

PLS-00418 配列バインドの型は、PL/SQL 表の行の型と一致しなければなりません。

原因: ホスト配列は（たとえば Oracle プリコンパイラ・プログラムによって）、PL/SQL 表パラメータにバインドするため、PL/SQL サブプログラムに渡されました。ただし、配列要素のデータ型と PL/SQL 表の行に互換性がありません。したがって、バインドは失敗しました。

処置: データ型に互換性があるように、配列要素または PL/SQL 表の行のデータ型を変更してください。

PLS-00419 リモート属性への参照は許可されません。

原因: リモート・カーソル属性を参照しようとしたますが、これは許されません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
IF SQL%NOTFOUND@newyork THEN ...
```

処置: リモート・カーソル属性は参照しないでください。

PLS-00420 リモートでビルトイン・ルーチンをコールできません。

原因: 組み PL/SQL ファンクションをリモートでコールしようとしたますが、これは許されません。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
my_sqlerrm := SQLERRM@newyork;
```

または

```
INSERT INTO emp VALUES (my_empno, STANDARD.RTRIM@newyork(my_ename), ...);
```

処置: 組みファンクションは常にローカルで呼び出し、データベース・リンクは指定しないでください。

PLS-00421 シノニム定義のネストが深すぎます。シノニム内でループする可能性があります。

原因: 直接的または間接的に、シノニムがそれ自体によって定義され、循環定義を作成しました。あるいは、PL/SQL コンパイラが処理するには長すぎるシノニムの連鎖が定義されました。

処置: シノニムを再定義し、循環定義を削除してください。必要なら、シノニムの連鎖を短くしてください。

PLS-00422 このバインド変数にはバインド型用の PL/SQL 翻訳がありません。

原因: ホスト変数は（たとえば Oracle プリコンパイラ・プログラムによって）、バインドのため、PL/SQL に渡されました。ただし、そのデータ型は PL/SQL のデータ型と互換性がありません。したがって、バインドは失敗しました。

処置: PL/SQL データ型と互換性があるように、ホスト変数のデータ型を変更してください。

PLS-00423 ORDER BY 項目は、SELECT リスト式の数でなければなりません。

原因: UNION、INTERSECT または MINUS 集合演算子を使用する SELECT 文の ORDER BY 句で、列の列名が使用されました。これは許可されていません。このような場合、ORDER BY 句の中の式は、SELECT リスト項目の元の位置を示す符号なし整数である必要があります。

処置: ORDER BY 句の別名を、問題のある SELECT リストの起点になる符号なし整数に変更してください。

PLS-00424 デフォルトの RPC にはパッケージ状態を組み込みません。

原因: デフォルトのパラメータがパッケージ状態に依存する、リモート・サブプログラムを呼び出そうとしましたが、これは許されません。リモート・サブプログラムを呼び出すには、たとえ対応する仮パラメータがパッケージ状態に依存する場合であっても、実パラメータを明示的に渡す必要があります。

処置: それぞれの実パラメータを明示的に渡して、リモート・サブプログラムをコールしてください。

PLS-00425 SQL では、関数の引数と戻りの型は SQL の型でなければなりません。

原因: ストアド・ファンクションが SQL 文からコールされたときに、誤った型のパラメータが渡されました。SQL 文からコールできるようにするには、ストアド・ファンクションがいくつかの要件を満たしている必要があります。そのうちの 1 つは、引数が SQL のデータ型（たとえば、CHAR、DATE、NUMBER など）を持っていることです。どの引数も、SQL 以外の型（たとえば、BOOLEAN、TABLE、RECORD など）を持つことはできません。

処置: ファンクション・コールの引数が、すべて SQL データ型かどうか調べてください。

PLS-00427 STANDARD のバージョンが異なる場合、RPC デフォルトはビルトインを使用できません。

原因: デフォルトのパラメータ値が組み込み演算子を使用して計算されるリモート・サブプログラムをコールしようとしてしました。コール元のシステムが、コール先のシステムと異なるバージョンのパッケージ STANDARD を使用している場合、デフォルトの式は、単純な数値リテラルか文字リテラル、NULL、またはユーザー定義ファンクションへの直接コールのいずれかである必要があります。

処置: 実際のパラメータ値を明示的に指定して、リモート・サブプログラムをコールしてください。

PLS-00428 INTO 句はこの SELECT 文に入ります。

原因: SELECT INTO 文の INTO 句が省略されました。たとえば、コードが次のようになっている可能性があります。

```
SELECT deptno, dname, loc FROM dept WHERE ...
```

正しくは次のとおりです。

```
SELECT deptno, dname, loc INTO dept_rec FROM dept WHERE ...
```

PL/SQL では副問合せのみが INTO 句なしで書かれます。

処置: 必要な INTO 句を追加してください。

PLS-00429 RETURNING 句ではサポートされていない機能です。

原因：次のいずれかです。

- INTO 句と RETURNING 句は 1 つの文の中で併用することはできません。
- 現在、RETURNING 句は、オブジェクト型列、LONG 列、レコード、%rowtype、リモート表、および副問合せでの INSERT ではサポートされていません。

これは、ORA-28815 と同じです。

処置：値を得るために異なる SELECT 文を使用してください。

PLS-00430 このコンテキストで FORALL 反復変数 *string* は使用できません。

原因：FORALL 反復変数はサブスクリプトとしてのみ使用できます。式に直接または式の一部として使用できません。

処置：FORALL 変数はコレクション・サブスクリプトとしてのみ使用してください。

PLS-00431 バルク SQL 属性では単一の索引を使用しなければなりません。

原因：複数の索引がバルク SQL 属性へのアクセスに指定されました。

処置：整数データ型の単一の索引を使用してください。

PLS-00432 実装上の制約 SELECT 文では FORALL と BULK COLLECT INTO を共に使用できません。

原因：SELECT 文に FORALL および BULK COLLECT INTO 句の両方が含まれています。

処置：SELECT 文では FORALL および BULK COLLECT INTO をともに使用しないでください。

PLS-00433 パッケージ STANDARD が整合していません。

原因：PL/SQL コンパイラは、パッケージ STANDARD に存在するはずのエントリ（型宣言など）を見つけることができませんでした。

処置：現行の Oracle データベースで正しいバージョンのパッケージ STANDARD が使用可能かどうかを確認し、再コンパイルしてください。

PLS-00434 レコード・フィールドにサポートされない型があります：*string*

原因：レコード・フィールドに対してサポートされていない型を使用しようとしてしました。今回のリリースでは、レコード・フィールド内での SQL92 の日付時間型（時間、タイムスタンプ、タイムゾーン付きの時間、タイムゾーン付きのタイムスタンプ、月への間隔年および秒への間隔日）の使用はサポートされていません。

処置：レコード・フィールドにはサポートされた型のみを使用してください。

PLS-00435 BULK In-BIND のない DML 文は、FORALL 内で使用できません。

原因: FORALL 文内の DML 文 (SELECT/INSERT/DELETE/UPDATE) に、BULK IN-BIND 変数が含まれていません。

処置: FORALL 文内の DML 文 (SELECT/INSERT/DELETE/UPDATE) には、BULK IN-BIND 変数を指定してください。

PLS-00436 実装上の制約: BULK In-BIND 表でレコードのフィールドは参照できません。

原因: 実行時の table(bulk_index).field は、まだサポートされていません。

処置: かわりに、簡単な FORALL DML 文 (SELECT/INSERT/DELETE/UPDATE) で FOR ループを使用してください。

PLS-00437 FORALL バルク索引は *string* 句に使用できません。

原因: RETURNING table(bulk_index) はサポートされていません。

処置: かわりに、RETURNING BULK COLLECT を使用してください。

PLS-00438 LIMIT 句の値: *string* の使用は無効です。

原因: バルク・フェッチの LIMIT 句に指定されている評価値が適切ではありません。たとえば、バルク・フェッチの LIMIT 句は数値でなければならないため、次の式は無効です。

```
FETCH c1 BULK COLLECT INTO var_tab LIMIT '22333'; -- illegal
```

処置: 評価結果が数値になるように、LIMIT 句の式を変更してください。

PLS-00439 LIMIT 句は必ず BULK FETCH 内で使用してください。

原因: LIMIT 句が、バルク・フェッチ以外で使用されています。

処置: バルク・フェッチ以外では、LIMIT 句を使用しないでください。

PLS-00450 このプライベート型の変数は、ここで宣言できません。

原因: 他のコンパイル・ユニットで PRIVATE として宣言されている型が、変数宣言で使用されています。

処置: この型を PRIVATE 変数宣言で使用しないでください。

PLS-00451 リモート型は使用できません。

原因: 定数または変数が宣言されたときに、リモート・ライブラリ・ユニットに定義されているデータ型が指定されました。これは許可されていません。

処置: ローカルで定義していないデータ型は、指定しないでください。

PLS-00452 サブプログラム *string* が対応付けられたプラグマに違反しています。

原因：パッケージ仕様部に RESTRICT_REFERENCES プラグマをコーディングして純粋度を宣言しない限り、SQL 文からパッケージ・ファンクションをコールすることはできません。副作用を制御するために使用されるプラグマは、データベース表またはパブリック・パッケージ変数（あるいはその両方）へのパッケージ・ファンクションの読み込み / 書き込みアクセスを拒否するように PL/SQL コンパイラに指示します。プラグマに違反している SQL 文をコーディングすると、コンパイル・エラーが発生します。

処置：ファンクションの純粋度を高めるか、プラグマの制約を少なくしてください。

PLS-00453 オブジェクト表またはユーザー定義型の列でリモート操作は許可されません。

原因：リモート・オブジェクト表またはユーザー定義型の列への参照が発見されました。

処置：参照しないでください。

PLS-00454 句に復帰する場合、表の式はリモートまたは副問合せにはできません。

原因：リモート表や副問合せへの参照が RETURNING INTO 句を持つ SQL 文に発見されました。

処置：それへ参照しないか、後続の SELECT 文を使用してください。

PLS-00455 動的 SQL OPEN 文ではカーソル *string* は使用できません。

原因：RETURN 型を持つ REF CURSOR が動的にオープンされました。ただし、埋込み動的 OPEN 文でオープンできるのは、RETURN 型を持たない REF CURSOR のみです。

処置：RETURN 型を持たない REF CURSOR を定義し、この文で使用してください。

PLS-00456 項目 *string* はカーソルではありません。

原因：指定された変数はカーソルではないため、OPEN または FETCH できません。

処置：指定された変数の綴りと宣言を確かめてください。

PLS-00457 式は必ず SQL 型にしてください。

原因：USING 句または動的 RETURNING 句にある式の型が間違っています。USING 句または動的 RETURNING 句では、式の型が BOOLEAN、INDEX TABLE、RECORD などの SQL 以外の型であってはけません。

処置：式の型を SQL 型に変更してください。

PLS-00458 サブプログラム *string* は REPEATABLE サブプログラムからコールできません。

原因：サブプログラムが REPEATABLE ではなく、REPEATABLE サブプログラムから呼び出せません。

処置：呼出しまたは REPEATABLE を削除してください。

PLS-00459 この機能は REPEATABLE サブプログラムでは使用できません。

原因: 動的 SQL 文または自律型トランザクションの機能の 1 つが REPEATABLE サブプログラムで指定されました。

処置: 文または REPEATABLE を削除してください。

PLS-00460 REPEATABLE サブプログラム *string* は RNDS、WNDS、RNPS および WNPS でなければなりません。

原因: REPEATABLE サブプログラムは、データベース状態の読み込み (RNDS)、データベース状態の書き込み (WNDS) パッケージ状態の読み込み (RNPS) またはパッケージ状態の書き込み (WNPS) のいずれも実行できません。

処置: サブプログラムを RNDS、WNDS、RNPS および WNPS にするか、または REPEATABLE を削除してください。

PLS-00461 *string* の仕様部と本体の間で REPEATABLE 情報が一致していません。

原因: REPEATABLE がサブプログラムの仕様部で宣言されましたが、本体では宣言されていません。または、その逆です。

処置: 仕様部と本体の両方が REPEATABLE で宣言されていることを確認してください。

PLS-00462 ネストされたサブプログラム *string* は REPEATABLE でなければなりません。

原因: REPEATABLE サブプログラムのネストされたサブプログラムが、REPEATABLE として宣言されていません。サブプログラムが REPEATABLE の場合、このネストされたサブプログラムはすべて REPEATABLE として宣言する必要があります。

処置: ネストされたサブプログラムを REPEATABLE として宣言してください。

PLS-00483 例外 *string* は、このブロックの例外ハンドラで 1 度しか発生しない可能性があります。

原因: PL/SQL ブロックまたはサブプログラムの例外ハンドリング部で、同じ例外が 2 つの WHEN 句 (つまり 2 つの異なる例外ハンドラ) で指定されています。

処置: 例外への参照のうちのどちらかを削除してください。

PLS-00484 不要な例外 *string* と *string* が同一の例外ハンドラで発生する可能性があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマが使用され、異なる例外が同じ Oracle エラー番号に初期化されています。その後、同一の例外処理部内の別の例外ハンドルで参照されました。このような参照は競合します。

処置: 例外の 1 つを削除するか、例外を別の Oracle エラー番号に初期化してください。

PLS-00485 例外ハンドラでは、*string* は例外名でなければなりません。

原因: 例外ハンドラの WHEN 句に、例外として宣言されていない識別子が指定されています。WHEN 句では例外の名前しか使用できません。

処置: 例外名の綴りを確認し、例外が正しく宣言されているかどうか確認してください。

PLS-00486 選択リストはカッコで囲えません。

原因: SELECT 文で、SELECT リストが次のようにカッコで囲まれています。

```
SELECT (deptno, dname, loc) FROM dept INTO ...
```

これは SQL の構文規則に反しています。キーワード SELECT と FROM は SELECT リストの範囲を定めるので、カッコは必要ありません。

処置: SELECT リストを囲んでいるカッコを削除してください。

PLS-00487 変数 *string* への参照が無効です。

原因: 変数への参照がデータ型と矛盾しています。たとえば、次のようにスカラー変数を誤ってレコードとして参照した可能性があります。

```
DECLARE
CURSOR emp_cur IS SELECT empno, ename, sal FROM emp;
emp_rec emp_cur%ROWTYPE;
my_sal  NUMBER(7,2);
BEGIN
    ...    total_sal := total_sal + my_sal.sal;  -- invalid ...
```

処置: 変数名の綴りを確かめてください。変数が正しく宣言されたことと、宣言と参照のデータ型に矛盾がないことを確認してください。

PLS-00488 変数宣言が無効です。オブジェクト *string* は型またはサブタイプでなければなりません。

原因: 変数宣言の中の型指定子が正しい型またはサブタイプを示していません。たとえば、次のように、%TYPE 属性が宣言に追加されていない可能性があります。

```
DECLARE
my_sal  emp.sal%TYPE;
my_ename emp.ename;    -- missing %TYPE ...
```

定数または変数を宣言するときに、列のデータ型を自動的に与えるためには %TYPE 属性を使用してください。同様に、レコードの宣言で、行のデータ型を自動的に与えるときにも、%ROWTYPE 属性を使用してください。

処置: データ型指定子が正しい型を示していることを確認してください。必要ならば %TYPE 属性と %ROWTYPE 属性を使用してください。

PLS-00489 表参照が無効です。 *string* はこの式にある列でなければなりません。

原因: 問合せで SELECT リスト項目が FROM 句の表を参照しましたが、データベース列ではありませんでした。

処置: 列名の綴りを確かめ、SELECT リストの各列が FROM 句の表を参照していることを確認してから、問合せを再実行してください。

PLS-00490 文が不適切です。

原因: 文が想定されている箇所に、定数、変数、ファンクション・コール、不完全な文が使用されました。たとえば、式からファンクションをコールするかわりに、ファンクションが（プロシージャのように）文としてコールされた可能性があります。

処置: コマンド、識別子、演算子、デリミタ、終了記号が、完全で有効な PL/SQL 文を構成しているかどうか、文を調べてください。

PLS-00491 数値リテラルが必要です。

原因: 数値リテラルが必要な箇所に、定数または変数が使用されました。たとえば、コードが次のようになっていた可能性があります。

```
my_ename VARCHAR2(max_len);
```

正しくは次のとおりです。

```
my_ename VARCHAR2(15);
```

VARCHAR2 の変数の最大長を指定するときには、整数リテラルを使用する必要があります。

処置: 識別子を数値リテラルで置き換えてください。

PLS-00492 変数または定数の初期化が、同一パッケージ内に宣言した関数で参照されない可能性があります。

原因: パッケージ仕様部 p でファンクション f が宣言されている場合、同一パッケージ仕様部の変数宣言でそのファンクションは使用できません。これは循環インスタンス化の問題によるものです。パッケージ仕様部を完全にインスタンス化するために、変数を初期化する必要があります。変数を初期化するには、パッケージ本体中のファンクション本体のコードを実行する必要があります。そのためには、パッケージ本体をインスタンス化する必要があります。ただし、パッケージ仕様部が完全にインスタンス化されないとパッケージ本体はインスタンス化できません。

処置: 変数の初期化からファンクションに対する参照を削除してください。一般的に有効な方法は、パッケージ仕様部の変数宣言からパッケージ本体の初期化ブロックに変数の初期化を移動する方法です。

PLS-00493 ローカル・コンテキスト内のサーバー側オブジェクトまたは機能への参照が無効です。

原因: PL/SQL オブジェクトしか存在できないコンテキストで（ローカル・ファンクションのパラメータ・リスト内や、（ローカル）PL/SQL 表の索引としてなど）、サーバー側オブジェクトに対する参照（たとえば、表列）または関数（SUM、AVG、MIN、MAX などのグループ関数）が見つかりました。

処置: 違反している文を書き直すか、または（ローカル・ファンクション・コールが問題のコンテキストである場合には）ファンクションを非ローカルにしてください（パッケージ化されたまたはトップ・レベルの状態）。

PLS-00494 複数レコード・ターゲットへの強制はサポートされません。

原因：SELECT または FETCH の INTO リストで複数のレコード型ターゲットが指定されており、列型を INTO リストに一致させるためにレコードへの強制が必要です。これは型チェックでは正しいですが、まだサポートされていません。

処置：列型がすべて入る新しいレコード型を作成するか、各ソース列に INTO ターゲットのある SELECT をコーディングしてください。

PLS-00495 レコード・ターゲットを切離し後の SELECT...INTO 文で列数が多すぎます。

原因：型チェックで、SELECT または FETCH の中の列が、INTO リストのレコード内に収集されることが示されました。レコードはフィールド内にパーストされます。各列に対してレコード内のフィールドが足りません。

処置：INTO 句のレコード変数と列の数が一致するように、変更してください。

PLS-00496 レコード・ターゲットを切離し後の SELECT...INTO 文で列数が少なすぎます。

原因：型チェックで、SELECT または FETCH の中の列が、INTO リストのレコード内に収集されることが示されました。レコードはフィールド内にパーストされます。レコード内のすべてのフィールドを格納できるだけの列がありません。

処置：INTO 句のレコード変数と列の数が一致するように、変更してください。

PLS-00497 INTO リスト内で単一行と複数行 (BULK) は混在できません。

原因：次のどれかです。

- BULK 構文（たとえば、BULK COLLECT INTO）を使用してデータを取り出す場合、INTO リスト内のすべての変数の型は、対応する列の型のコレクションである必要があります。
- BULK を使用しない場合、INTO リストのすべての変数の型は、対応する列と互換性がある必要があります。

処置：すべての変数のデータ型が正しくなるように、INTO リストを変更してください。

PLS-00498 宣言する前の型の使用方法が無効です。

原因：コンパイル・ユニットの後の方で宣言される型の変数または定数が宣言されたか、またはコンパイル・ユニットの後の方で宣言される型を親とする型またはサブタイプが宣言されました。

処置：型の宣言が、変数 / 定数 / 型宣言の使用に先立って行われていることを確認してください。

PLS-00499 収集レコードへの強制はサポートされません。

原因：SELECT または FETCH で、列リストをレコードのコレクションである変数に強制する指定をしています。これは型チェックでは正しいですが、暗黙的なレイアウト変更が必要であるため、まだサポートされていません。

処置: 列の周囲にオブジェクト・コンストラクタのある SELECT を使用するか、INTO 変数としてオブジェクトのコレクションを使用してください。または、一度に 1 行ずつ各行をレコードに強制し、そのレコードが要素となるコレクションを作成します。または、コレクションのレコードを使用します。

PLS-00500 オペレータ・バインディングが無効です。

原因: オペレータ・バインディング関数が指定した有効範囲内で見つかりません。

処置: オペレータ・バインディング関数に、正しい数および型のパラメータを指定してください。または、オペレータ・バインディング関数を含むスキーマ、パッケージまたは型に正しい名前を指定してください。

PLS-00503 この関数からの復帰には RETURN < 値 > 文が必要です。

原因: 関数本体で、式が含まれていない RETURN 文が使用されました。プロシージャ内の RETURN 文は制御を呼出し元へ戻すだけなので、この文には式は含まれません。ただし、関数内の RETURN 文は式を含んでいる必要があります。これは、その値が関数識別子に代入されるためです。

処置: RETURN 文に式を追加してください。

PLS-00504 *string_BASE* 型は、STANDARD パッケージ外では使用されない可能性があります。

原因: 宣言で、誤って（たとえば）データ型 NUMBER_BASE が指定されました。CHAR_BASE、DATE_BASE、MLSLABEL_BASE および NUMBER_BASE のデータ型は内部でのみ使用されます。

処置: たとえば、NUMBER_BASE 型のかわりに NUMBER 型を指定してください。

PLS-00505 ユーザー定義型は、PL/SQL の表またはレコードとしてだけ定義されている可能性があります。

原因: TABLE または RECORD 以外の型を定義しようとしたましたが、PL/SQL の今回のリリースでは、ユーザー定義型のみが許可されています。たとえば、次の型定義は無効です。

```
TYPE Byte IS INTEGER(2); -- illegal
```

処置: 型定義を削除するか、TABLE または RECORD 型を指定するように型定義を修正してください。

PLS-00506 サブタイプ制約のあるユーザー定義は使用できません。

原因: 制約サブタイプを定義しようとしたましたが、PL/SQL の今回のリリースで許可されるのは、無制約サブタイプのみです。たとえば、次の型定義は無効です。

```
SUBTYPE Acronym IS VARCHAR2(5); -- illegal
```

処置: 無効な型制約を削除してください。

PLS-00507 PL/SQL 表には、コンポジット・フィールドを使用する表またはレコードを組み込めません。

原因：TABLE 型の定義で、ネストしたレコード型が要素型として指定されました。これは許可されていません。レコード内のすべてのフィールドは、スカラーである必要があります。

処置：TABLE 型定義を削除するか、ネストされたレコード型を単純なレコード型に置き換えてください。

PLS-00508 RETURN 文の式は型にできません。

原因：次の例に示すように、ユーザー定義関クションの RETURN 文で、式ではなくデータ型指定子が使用されました。RETURN 文と RETURN 句を混同しないでください。RETURN 文は、結果値にファンクション識別子を設定し、RETURN 句は結果値のデータ型を指定します。

```
FUNCTION credit-rating (acct_no NUMBER) RETURN BOOLEAN IS
BEGIN ... RETURN NUMBER; -- should be an expression
END;
```

処置：RETURN 文のデータ型指定子を適切な式で置き換えてください。

PLS-00509 実装上の制約：フィールドの選択前に戻しレコードを一時識別子に渡してください。

原因：1つのレコードまたは複数のレコードの PL/SQL 表を戻すパラメータなしのファンクションをコールするのに、誤った構文が使用されました。パラメータが必要で、レコードを戻すファンクションをコールするには、次の構文を使用してレコード内のフィールドを参照します。

```
function_name(parameters).field_name
```

ただし、PL/SQL では空のパラメータ・リストを使用できないため、前述の構文を使用してパラメータなしのファンクションはコールできません。つまり、次のような構文は無効です。

```
function_name().field_name -- illegal; empty parameter list
```

次のような構文も無効になるため、空のパラメータ・リストは削除できません。

```
function_name.field_name -- illegal; no parameter list
```

処置：ローカル・レコードまたはファンクションの結果を割り当てるレコードの PL/SQL 表を宣言して、そのフィールドを直接参照してください。

PLS-00510 浮動小数点が位取りできません。

原因: 次の例で示されているように、FLOAT 変数を宣言するときに、その精度と有効範囲が指定されました。

```
DECLARE
  Salary FLOAT(7,2);
```

ただし、次のように、FLOAT 変数の有効範囲は指定できません。指定できるのは精度のみです。

```
salary FLOAT(7);
```

処置: 宣言から有効範囲指定子を削除するか、NUMBER 変数を宣言してください。

PLS-00511 レコードを PL/SQL 表に組み込みません。

原因: RECORD 定義で、1つのフィールドが複数のレコードの PL/SQL 表として宣言されました。これは許可されていません。あるレコードが別のレコードの構成要素となることはあり得ますが（つまり、レコードをネストすることができる）、複数のレコードの PL/SQL 表が1つのレコードのコンポーネントとなることはあり得ません。

処置: フィールド宣言を削除するか、単純なレコード型を指定して宣言を修正してください。

PLS-00512 実装上の制限: *string*: リモート・パッケージ変数またはカーソルには直接アクセスできません。

原因: リモート・パッケージ変数またはカーソルを参照しようとしてしました。これは許可されていません。そのかわりとして、リモート・パッケージ変数またはカーソルの値を戻すファンクションをリモート・パッケージに追加してください。

処置: 無効な参照を削除してください。

PLS-00513 SQL からコールされた PL/SQL 関数には、有効な SQL 型の戻り値が必要です。

原因: SQL 文で、SQL で処理できない戻り型を持つ PL/SQL ファンクションがコールされました。たとえば、BOOLEAN 型、レコード、および索引付き表は SQL ではサポートされていないので、このような値を戻すファンクションは SQL からコールできません。

処置: 戻された型を変更し、操作を再試行してください。

PLS-00514 REF INTO 句を使用する INSERT 文には特定の型の表が必要です。

原因: INSERT 文に REF INTO 句が指定されています。これは、INTO 句に指定されている表がオブジェクト型である場合のみ有効です。

処置: REF INTO 句を削除して、操作を再試行してください。

PLS-00515 REF INTO 変数 *string* の型は、表の型への REF でなければなりません。

原因： REF INTO 句を指定した INSERT 文では、データ項目の型は INTO 句で使用する表の型の REF である必要があります。

処置： 適切な型の変数または列を使用してください。

PLS-00516 オブジェクト表と INSERT 文の変数 *string* の型が不一致です。

原因： 一定の型の表（オブジェクトの表）を操作する INSERT 文で、非集合値の型が表のオブジェクト型と一致していません。

処置： 適切な型の値を指定してください。

PLS-00517 選択リスト要素 *string* と副問合せの INSERT 文にある対応する表の列との間で型が不一致です。

原因： 副問合せを指定した INSERT 文で、SELECT リストの少なくとも 1 つの要素が、INTO 句の対応する表の列と型の互換性がありません。このエラーは、副問合せをターゲット表の構造と一致するように書き直す必要があることを示しています。

処置： SELECT リストの要素に互換性のある型を指定してください。

PLS-00518 この INSERT 文には、カッコで囲んだ LOV を含む VALUES 句が必要です。

原因： カッコで囲んだ SQL データ項目のリストを指定しないで VALUES 句が入力されました。明示的な列リストを指定したすべての INSERT 文では、VALUES 句の中にカッコで囲んだ SQL データ項目のリストを含める必要があります。次に例を示します。

```
INSERT INTO my_tab (a,b,c) VALUES (1,2,my_variable);
```

処置： 文を書き直して SQL データ項目のリストをカッコで囲んでください。

PLS-00519 この INSERT 文には、LOV ではなくオブジェクト型の式を含む VALUES 句が必要です。

原因： 一定の型の表を指定した INSERT 文で、オブジェクト型の項目が必要な箇所に集計が使用されています。

処置： 集計をオブジェクト・コンストラクタまたはその他のオブジェクト型の式に置き換えてください。

PLS-00520 MAP メソッドは、(オプションの) SELF 以外はパラメータなしの宣言でなければなりません。

原因： パラメータを指定して MAP メンバー・ファンクションが宣言されました。MAP メンバー・ファンクションで指定できるのは、デフォルトの SELF パラメータのみです。MAP メソッドを宣言する場合は、パラメータはいっさい指定できません。コンパイラによって SELF パラメータが追加されます。

処置： MAP メンバー・ファンクションからパラメータを削除してください。

PLS-00521 ORDER メソッドは、(オプションの) SELF に加え、1 つ以上のパラメータを使用して宣言する必要があります。

原因: ユーザー指定パラメータがないまま ORDER メンバー・ファンクションが宣言されました。ORDER メンバー・ファンクションには2つのパラメータがあります。1つはデフォルトの SELF パラメータで、これはコンパイラによって追加されます。もう1つのパラメータはユーザーが追加するもので、含まれるオブジェクト型と同じ型で ORDER メソッドを宣言する必要があります。

処置: パラメータの指定方法を調べて変更してください。

PLS-00522 MAP メソッドはスカラー型で戻る必要があります。

原因: MAP メンバー・ファンクションが、スカラー型以外の型を戻すように書かれています。

処置: スカラー型を戻すように MAP ファンクションを書き直してください。

PLS-00523 ORDER メソッドは INTEGER で戻る必要があります。

原因: ORDER メンバー・ファンクションが整数型以外の型を戻すように書かれています。

処置: 整数型を戻すように ORDER メソッドを書き直してください。

PLS-00524 ORDER メソッドのパラメータの型は、オブジェクト型に組み込まれている必要があります。

原因: ユーザー指定パラメータがないまま ORDER メンバー・ファンクションが宣言されました。ORDER メンバー・ファンクションには2つのパラメータがあります。1つはデフォルトの SELF パラメータで、これはコンパイラによって追加されます。もう1つのパラメータはユーザーが追加するもので、含まれるオブジェクト型と同じ型で ORDER メソッドを宣言する必要があります。

処置: パラメータの指定方法を調べて変更してください。

PLS-00525 SQL 文では、オブジェクトをマップまたは順序の関数を使用せずに等価比較だけできます。

原因: 関係比較用の MAP または ORDER ファンクションが指定されていません。MAP または ORDER ファンクションを指定しない場合、使用できるのは等値比較のみです。

処置: オブジェクトに MAP または ORDER ファンクションを指定してください。そうしない場合は、等値比較のみを使用するようにプログラムを変更してください。

PLS-00526 PL/SQL で MAP または ORDER 関数には比較オブジェクトが必要です。

原因: スタンドアロンの PL/SQL 内部で、MAP または ORDER ファンクションを指定せずにオブジェクトを比較しようとしてしました。

処置: MAP または ORDER ファンクションを指定して操作を再試行してください。

PLS-00527 MAP または ORDER 関数には、WNDS または WNPS、RNPS、RNDS を指定する PRAGMA RESTRICT_REFERENCES が必要です。

原因：PRAGMA RESTRICT_REFERENCES を指定していないか、または WNDS、WNPS、RNPS、RNDS のいずれか 1 つを指定していません。

処置：PRAGMA を追加または修正して、操作を再試行してください。

PLS-00528 ORDER 関数へのパラメータは、IN モードでなければなりません。

原因：ORDER ファンクションのパラメータを OUT または IN OUT モードとして宣言しました。

処置：IN モードのみを使用するようにパラメータを修正してください。

PLS-00529 INSERT 文に不正な列名 *string* があります（識別子でなければなりません）。

原因：INSERT 文で、識別子ではない列名を使用しようとしてしました。明示的な列リストを指定した INSERT 文では、列名は単純な識別子である必要があります。

処置：列名に単純な識別子を使用して、INSERT 文を書き直してください。

PLS-00530 オブジェクト型の属性に無効な型が使用されています：*string*

原因：オブジェクト型属性に、無効な型が使用されました。

処置：オブジェクト型属性に対してサポートされている型のみを使用してください。

PLS-00531 VARRAY または TABLE 型でサポートされない型です：*string*

原因：VARRAY または TABLE 型にサポートされていない型が使用されました。

処置：VARRAY または TABLE 型でサポートされている型のみを使用してください。

PLS-00532 REF のターゲットは、完全または不完全なオブジェクト型でなければなりません。

原因：REF のターゲットは、完全または不完全なオブジェクト型のみです。

処置：REF を使用する場合は、型を変更してください。そうでない場合は、REF を削除してください。

PLS-00533 non_queryable 型の表はサポートされません。

原因：問合せ不能な型の表が作成されました。このような型の表はサポートされません。

処置：問合せ不能な型を含むオブジェクト型を作成してください。次に、そのオブジェクト型で構成されている表を作成してください。

PLS-00534 表の型には、NESTED TABLE の型または VARRAY は組み込めません。

原因：ネストしたコレクション型を含む表型を定義しようとしたか、または（おそらくネストした）別の表型または VARRAY 型を持つオブジェクト表を定義しようとしてしました。

処置: 表定義に NESTED TABLE または VARRAY が含まれていないことを確認してください。

PLS-00535 VARRAY 型には、NESTED TABLE または VARRAY、LOB は組み込みません。

原因: ネストしたコレクション型または LOB を含む VARRAY 型を定義しようとしたか、あるいは、NESTED TABLE、VARRAY または LOB 型のいずれかのネストした属性を持つオブジェクト型の VARRAY 型を定義しようとした。

処置: ネストされたコレクション型、LOB、ネストされている属性を含んでいないかどうか、VARRAY 定義を調べてください。

PLS-00536 REF 変数によるナビゲーションは、PL/SQL でサポートされません。

原因: フォーム REFVAR.FIELD の式が入力されました。これは、このバージョンの PL/SQL ではサポートされません。

処置: このナビゲーションは、データベース・オブジェクトの場合のみサポートされません。REF 変数を使用すると、同じ型のデータベース列に挿入したり、そこから選択したりできます。ただし、REF 変数を介してナビゲーションはできません。ナビゲーションを削除してください。

PLS-00537 VARRAY には正数の制限が必要です。

原因: VARRAY 型が正数以外の制限で宣言されました。たとえば、VARRAY(0)。

処置: 正数の制限を指定して VARRAY を宣言し、操作を再試行してください。

PLS-00538 サブプログラムまたはカーソル *string* は、オブジェクト型指定で宣言されており、オブジェクト型本体での定義が必要です。

原因: 指定されたサブプログラムが、オブジェクト型の仕様部で宣言されていますが、オブジェクト型本体で定義されていません。

処置: オブジェクト型本体にサブプログラムを定義するか、仕様部から宣言を削除してください。

PLS-00539 サブプログラム *string* はオブジェクト型本体で宣言されており、オブジェクト型指定での定義が必要です。

原因: 指定されたサブプログラムが、オブジェクト型の本体で宣言されましたが、オブジェクト型の仕様部で定義されていません。カーソル本体は仕様部がなくても存在することに注意してください。

処置: オブジェクト型の仕様部にサブプログラムを宣言するか、本体から宣言を削除してください。

PLS-00540 オブジェクトはこのコンテキストでサポートされません。

原因: ローカル有効範囲（ファンクション、プロシージャまたは無名ブロック）の内側またはパッケージ有効範囲内でオブジェクトが宣言されましたが、これはサポートされていません。

処置: グローバルまたはデータベースの有効範囲内で型を宣言してください。

PLS-00541 指定したサイズまたは長さが大きすぎます。

原因: データ項目に指定されたサイズまたは長さが大きすぎます。

処置: 指定する値を小さくして、操作を再試行してください。

PLS-00542 CLOB および NCLOB は、サーバーの可変幅キャラクタ・セットを使用できません。

原因: 可変幅の文字セットが使用される埋込み CLOB または NCLOB 属性でサーバー型が作成されました。

処置: CLOB ではなく VARCHAR2 を使用するか、固定幅の文字セットを使用してください。

PLS-00543 PL/SQL 表には、NESTED TABLE の型または VARRAY を組み込めません。

原因: NESTED TABLE 型または VARRAY を含む PL/SQL 表を定義しようとしました。ネストされたコレクション型はサポートされていません。

処置: 表から NESTED TABLE 型または VARRAY を削除して、再試行してください。

PLS-00546 SELF は REF パラメータとして宣言できません。

原因: メンバー・ファンクションまたはプロシージャに対し、SELF が REF パラメータとして宣言されました。SELF は REF としてサポートされていません。

処置: 値パラメータとして SELF を再度宣言してください。

PLS-00548 オペレータの使用方法が無効です。

原因: オペレータ名が修飾子として使用されているか、SQL コンテキストの外側にあります。

処置: オペレータ名を修飾子として使用しないか、SQL 句内に入れてください。

PLS-00550 キャラクタ・セット仕様部は、この型にできません。

原因: 必要のない型でキャラクタ・セット仕様部が作成されました。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、型を変更してください。

PLS-00551 キャラクタ・セット ANY_CS は、サブプログラム・パラメータだけで使用できます。

原因: キャラクタ・セット ANY_CS が指定されましたが、これは無効です。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00552 フレキシブル・キャラクタ・セットは、コンポーネント要素で使用できません。

原因: ANY_CS または %CHARSET が ANY_CS パラメータへの参照に使用されましたが、このパラメータは CHAR、VARCHAR2 または CLOB 型ではありません。ANY_CS または %CHARSET は、レコードのフィールド、オブジェクト、コレクションの要素などには使用できません。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00553 キャラクタ・セット名が認識されません。

原因: キャラクタ・セット仕様部に、認識できない名前があります。

処置: キャラクタ・セット仕様部を削除するか、変更してください。

PLS-00554 キャラクタ・セットはすでに判別されています。

原因: 冗長なまたは矛盾しているキャラクタ・セットが指定されました。

処置: CHARACTER SET の仕様部を削除するか、指定されたキャラクタ・セットを変更してください。

PLS-00555 SQL オペレータではデフォルトの式は使用できません。

原因: デフォルトの式が SQL オペレータに指定されています。

処置: オペレータからデフォルトの式を削除してください。

PLS-00560 キャラクタ・セットが一致しません。

原因: このコンテキストに間違ったキャラクタ・セットを含む式が使用されました。

処置: TRANSLATE(... USING ...) を使用するか、またはロジックを再度考えて式を調整してください。

PLS-00561 パラメータ *string* の値でキャラクタ・セットが一致しません。

原因: 不適切なキャラクタ・セットを含む式が使用されました。実際の引数でキャラクタ・セットが矛盾しています。デフォルトの引数値が使用される場合、同じキャラクタ・セットを指定する必要がある実際の引数が矛盾している可能性があります。

処置: TRANSLATE(... USING ...) を使用するか、またはキャラクタ・セットを変更して式を調整してください。

PLS-00562 関数は型を戻さなければなりません。

原因: 現在の関数は、データ型以外のものを戻すように定義されています。

処置: 関数がデータ型を戻すように修正してください。

PLS-00563 CAST 式の使用方法が正しくありません。

原因: CAST (PL/SQL 内の) が DML 有効範囲の外側で使用されました。

処置: DML 文の外側で CAST を使用しないでください。

PLS-00564 lob 引数は、リモート・コールで許可されません。

原因: LOB 引数がリモート・コールで使用されているか、引数が OUT か、または非プロシージャへの引数です。

処置: 内部 SYS\$LOB_REPLICATION を使用しない限り、LOB をリモートで使用しないでください。

PLS-00565 *string* は、潜在的な REF ターゲット（オブジェクト型）として完了する必要があります。

原因： REF 依存性の潜在的なターゲットになる不完全なライブラリ・ユニットは、REF 依存性のターゲットの候補になるように、完成する必要があります（このライブラリ・ユニットで REF 依存性を持つライブラリ・ユニットになるため）。REF ターゲットの候補には、完全なオブジェクト型と不完全なオブジェクト型があります。このエラーは、REF ターゲットの候補以外のものとして REF ターゲットの候補を完成させようとすると、発生します。

処置： このライブラリ・ユニットに別の名前を使用するか、元の不完全なライブラリ・ユニットを削除してください。

PLS-00566 型名 *string* は制約付きにできません。

原因： LOB、DATE、BOOLEAN、ROWID または MLSLABEL 型が長さで制約を受けました。次に例を示します。

```
X BLOB(5);
```

処置： 制約を削除してください。

PLS-00567 NOT NULL 制約付きの仮パラメータに NULL は渡せません。

原因： NULL を NOT NULL 制約付きのパラメータに渡そうとしました。

処置： かわりに NOT NULL 式を渡してください。

PLS-00568 ネストされていない表項目の行にはアクセスできません。

原因： 非 NESTED TABLE から TABLE 式を使用しようとしてしました。

処置： 正しいパラメータを渡してください。

PLS-00569 数値のオーバーフローまたはアンダーフローです。

原因： 定数リテラルが大きすぎるかまたは小さすぎて、Oracle 番号を格納できません。

処置： リテラルの値を変更してください。

PLS-00570 MULTISSET 式と CAST 式の列数が異なります。

原因： MULTISSET で戻されたコレクション内の列数が CAST 型の列数と一致しません。次に例を示します。

```
create type tab_obj as object (n number);
create type tab1 as table of tab_obj;
create table tab2 (col1 number, col2 number);
select CAST(MULTISSET(select col1, col2 from tab2) as tab1) from tab2;
```

処置： 列数が一致していることを確認してください。

PLS-00571 クライアント側でデータベース・リンク経由のアクセス方法がまだサポートされていません。

原因: クライアント側でリモート・リンクが使用されています。

処置: サーバー側でシンボリック・リンクをコールするダミー関数を作成するか、またはクライアント側でのリモート・リンクがインプリメントされるまで待ってください。

PLS-00572 不適切な制約フォームが使用されています。

原因: 番号型には範囲を指定できません。ユーザー定義の集計型および整数型には位取りまたは精度を指定できません。たとえば、"x number(5,3)" は有効ですが、"x number range 1..10" は無効です。

処置: 制約を削除してください。

PLS-00573 アンカー型宣言のスケールまたは精度、範囲は制約できません。

原因: %TYPE または %ROWTYPE で宣言された変数には、位取り、精度または範囲の制約を指定できません。たとえば、x y%TYPE(10) は無効です。"NOT NULL" または矛盾していない CHARACTER SET 制約は、アンカー型宣言に追加できます。

処置: 制約を削除するか、アンカー型のかわりに型名を使用してください。

PLS-00580 スーパータイプはオブジェクト型でなければなりません。

原因: オブジェクト型を宣言してスーパータイプを指定しようとしたましたが、指定したスーパータイプ自体がオブジェクト型ではありませんでした。オブジェクト型はその他のオブジェクト型からのみ継承できます。

処置: スーパータイプの指定を削除するか、オブジェクト型を参照するように変更してください。宣言が正しい場合は、スーパータイプが正しくコンパイルされたかどうかを確認してください。

PLS-00581 不透明型に対して継承はサポートされていません。

原因: スーパータイプで不透明型を宣言しようとした。

処置: スーパータイプの指定を削除してください。

PLS-00582 不透明型では属性の宣言はできません。

原因: 不透明型で属性を宣言しようとした。

処置: 属性の宣言を削除してください。

PLS-00583 不透明型が固定長の場合、サイズを指定しなければなりません。

原因: 明示的なサイズを指定しないで、固定長の不透明型を宣言しようとした。

処置: 明示的なサイズを指定するか、宣言を可変長に変更してください。

PLS-00584 不透明型のサイズは 1 から 4000 バイトの間でなければなりません。

原因：不透明型の明示的なサイズを指定しようとしたますが、指定したサイズは有効な範囲外でした。

処置：明示的なサイズを 1 ～ 4000 バイトの範囲内の値に変更するか、宣言を明示的なサイズを指定しない可変長に変更してください。

PLS-00585 不透明型に対して宣言されたサポート・ライブラリはライブラリではありません。

原因：不透明型のサポート・ライブラリを名前を付けようとしたますが、ライブラリではないオブジェクトを参照する名前でした。

処置：宣言を変更して有効なライブラリの名前を付けてください。

PLS-00586 静的メソッドでは SELF と名づけられたパラメータは宣言できません。

原因：静的メソッドを宣言した場合にパラメータに SELF と名前を付けようとした。SELF はメソッド内のパラメータ名として予約されており、メソッドが適用されるオブジェクト・インスタンスを保持します。静的メソッドは特定のオブジェクト・インスタンスには適用されないため、SELF という名前のパラメータは静的メソッドでは許可されません。

処置：宣言でのパラメータ名を変更してください。

PLS-00587 インスタンス値では静的メソッドを起動できません。

原因：メソッド起動の名前の修飾子として、型名ではなくオブジェクト・インスタンス値を使用しようとしたますが、静的メソッドをコールする場合に修飾子として使用できるのは型名のみです。

処置：メソッドが静的な場合にメソッド名を修飾するには、オブジェクト・インスタンス値ではなく型名を使用してください。

PLS-00588 未修飾のインスタンス属性参照はメンバー・メソッドだけで使用可能です。

原因：オブジェクト・インスタンス属性の名前を、静的メソッドの本体または別の属性の初期化デフォルト値でしようとした。インスタンス属性が、値を指定する特定のオブジェクト・インスタンスで修飾されていない場合、インスタンス属性がメンバー・メソッド内部にあるときのみインスタンス属性に名前を付けることができます。

処置：属性参照をオブジェクト値の名前で修飾するか、メソッドを静的メソッドではなくメンバー・メソッドに変更してください。

PLS-00589 オブジェクト型 *string* に属性がありません。

原因：非 ADT 型の表が定義されています。

処置：表の型は ADT 型のみ有効です。

PLS-00590 現在、EXTENDS はサポートされていません。

原因：別の型から継承する型を宣言しようとした。

処置：EXTENDS 句を削除してください。

PLS-00591 この機能はクライアント側のプログラムではサポートされていません。

原因: 次のいずれかの機能が間違ったコンテキストで使用されました。

- プラグマ AUTONOMOUS_TRANS
- 動的 SQL 文 (たとえば, EXECUTE IMMEDIATE)
- バルク・バインド

前述の機能はサーバー側のプログラム内でのみ使用できます。クライアント側のプログラムでは使用できません。

処置: これを削除するか、またはこの機能を実行するサブプログラムをサーバー側に定義して、クライアントからそのサブプログラムをコールしてください。

PLS-00592 オブジェクト表の型はオブジェクト型でなければなりません。

原因: 非オブジェクト型の一定の型の表が定義されました。

処置: 非オブジェクト型をオブジェクト型に置き換えてください。

PLS-00593 本体のパラメータ *string* のデフォルト値は *spec* のデフォルト値と一致しなければなりません。

原因: パッケージ本体に含まれるサブプログラム本体のパラメータのデフォルト値が、対応するパッケージ仕様部にある関連するサブプログラム仕様部のデフォルト値と一致しません。

処置: 本体にあるパラメータのデフォルト値を仕様部のデフォルト値と一致するように変更してください。

PLS-00594 SELF パラメータは、IN または IN OUT でなければ宣言できません。

原因: SELF パラメータが OUT パラメータとして宣言されました。

処置: SELF パラメータを IN または IN OUT パラメータのいずれかで宣言してください。

PLS-00595 このコンテキストで TABLE 演算子は使用できません。

原因: TABLE 演算子が SELECT または CAST 文の引数として使用されました。

処置: SELECT リスト項目または CAST 演算子の引数から TABLE 演算子を削除してください。TABLE 演算子が FROM 句内でのみ指定されていることを確認してください。

PLS-00597 INTO リスト内の式 *string* の型が正しくありません。

原因: この例外は、次のエラーが原因で発生します。

- OPEN または RETURNING 文の INTO 句内の式は、有効な SQL データ型および PL/SQL の RECORD データ型のいずれでもない。
- レコードのコレクションが、OPEN または RETURNING 文の INTO 句で使用されている。

- レコードまたはレコードのコレクションが、BULK COLLECT INTO で使用されている。

処置: INTO 句では正確なデータ型の式を使用してください。

PLS-00598 NULL を含むオブジェクトは *string* を使用して比較できません。

原因: オブジェクトは、関係演算子を使用して NULL と比較されます。

処置: IS NULL 比較演算子を使用してください。

PLS-00599 SAMPLE パーセンテージは必ず範囲内 (0.000001 ~ 100) で指定してください。

原因: パーセンテージの数値が範囲内 (0.000001 ~ 100) にありません。

処置: パーセンテージの数値は、範囲内 (0.000001 ~ 100) で指定してください。

PLS-00600 SAMPLE はリモート・オブジェクトに適用できません。

原因: リモート・オブジェクトへ適用する SAMPLE は、サポートされていません。

処置: リモート・オブジェクトに SAMPLE は使用しないでください。

PLS-00601 パーティション拡張オブジェクト名は、必ず表とともに使用されます。

原因: 表でないオブジェクトに対してパーティション拡張オブジェクト名を使用しようとした。

処置: 表以外のオブジェクトでパーティション拡張名の構文を使用しないでください。

PLS-00602 CUBE と ROLLUP は、GROUP BY 句にのみ使用します。

原因: GROUP BY 句以外でキーワード CUBE または ROLLUP を使用しようとした。

処置: GROUP BY 句以外では、キーワード CUBE または ROLLUP を使用しないでください。

PLS-00603 GROUPING 関数は GROUP BY CUBE または ROLLUP を伴う場合のみサポートされます。

原因: GROUP BY CUBE または GROUP BY ROLLUP を指定しないで、グループ関数を使用しようとした。

処置: グループ関数を使用するときは、必ず GROUP BY CUBE または GROUP BY ROLLUP を指定してください。

PLS-00604 ここで集計関数は使用できません。

原因: AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM、STDDEV、VARIANCE のいずれかの関数が、WHERE 句または GROUP BY 句で使用されています。

処置: WHERE 句または GROUP BY 句からその関数を削除してください。かわりに、その関数を副問合せまたは HAVING 句に指定することで、希望の結果が得られます。

PLS-00605 設定演算子は MULTISET 演算子への引数として使用できません。

原因: MULTISET 演算子の引数である副問合せで、設定演算子が使用されています。

処置: MULTISET 演算子の引数である副問合せで設定演算子が使用されないように、SQL 文を書き直してください。

PLS-00700 PRAGMA EXCEPTION_INIT *string* は、同一の宣言部分でその例外宣言の後に続く必要があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマがその例外として同じブロックに宣言されています。この 2 つは同じブロック内に正しい順序で宣言されている必要があります、プラグマ宣言が例外宣言の後になくてもなりません。

処置: プラグマが参照する例外宣言の直後に、EXCEPTION_INIT プラグマを置いてください。

PLS-00701 PRAGMA EXCEPTION_INIT の無効な ORACLE エラー番号 *string* です。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡されたエラー番号が範囲内にありません。エラー番号は、Oracle エラーの場合は -9999 から -1 の間である必要があります。ただし -100 は除きます。ユーザー定義エラーの場合は -20000 ~ -20999 の範囲である必要があります。

処置: 正しいエラー番号を使用してください。

PLS-00702 PRAGMA EXCEPTION_INIT への第 2 引数は数値リテラルでなければなりません。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマの 2 番目の引数が数値リテラルではありません（たとえば、変数）。2 番目の引数は数値リテラルで、Oracle エラーの場合は -9999 ~ -1 の範囲である必要があります。ただし -100 は除きます。ユーザー定義エラーの場合は -20000 ~ -20999 の範囲である必要があります。

処置: 2 番目の引数に正しいエラー番号を使用してください。

PLS-00703 リストに名前付き引数のインスタンスが複数あります。

原因: サブプログラム・コールで 2 つ以上の実パラメータが同じ仮パラメータを参照しています。

処置: 重複している実パラメータを削除してください。

PLS-00704 *string* は例外として宣言する必要があります。

原因: EXCEPTION_INIT プラグマに渡された EXCEPTION_NAME パラメータの綴りが間違っているか、正しく宣言された例外を参照していません。または、プラグマの位置が間違っています。例外宣言の後の同一宣言節に置く必要があります。

処置: EXCEPTION_NAME パラメータの綴りを確かめてください。次に例外宣言を確認し、例外名とキーワード EXCEPTION が正しい綴りになっていることを確認してください。また、例外宣言の後の同一宣言節にプラグマが置かれていることも確認してください。

PLS-00705 例外 *string* は戻り型を必要とする式で使用されます。

原因：式で例外が参照されています。例外には名前がありますが、値はありません。したがって、式に対して値を与えることはありません。たとえば、次の RETURN 文は無効です。

```
FUNCTION credit_limit (cust_no INTEGER) RETURN NUMBER IS
    limit          NUMBER;
    over_limit     EXCEPTION;
    ...            BEGIN
    ...
    RETURN over_limit; -- illegal
END;
```

処置：式の識別子の綴りを調べて、例外を参照しないように式を書き換えてください。

PLS-00706 例外 *string* は、選択したコンポーネントの接頭辞として使用できません。

原因：コンポーネントへの参照を修飾するために、例外名が誤って使用されました。たとえば、レコード内のフィールドを指定するのに、ドット表記法が使用されたときに、レコード名ではなく例外名がコーディングされた可能性があります。

処置：有効な接頭辞（たとえば、パッケージ、レコード、スキーマなどの名前）を使用して、コンポーネント参照を書き換えてください。

PLS-00707 サポートされない構成または内部エラー [*string*] です。

原因：実行時では、これは内部エラーです。コンパイル時に発生した場合は次のいずれかの問題を示します。

- パラメータ型を持つリモート・サブプログラムまたはコール側のサイトでサポートしていないデフォルトの式に対してコールが行われました。
- プロシージャを格納しているデータベースに対して不完全なアップグレードまたはダウングレードが行われました。STANDARD.SQL のような誤ったバージョンのシステム・パッケージがインストールされたことが考えられます。
- コンパイラ・エラーが検出されました。このような場合には、有効な PL/SQL 構文がコンパイルできません。

処置：内部エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告するか、問題に応じて、次のいずれかの処置を行ってください。

- パラメータ型を使用するためのアプリケーションのロジックと、ローカル・サイトおよびリモート・サイトの両方でサポートされているデフォルトの式を修正してください。
- インストールするシステム・パッケージのバージョンがすべて正しいものであるか確認して、アップグレードまたはダウングレードを正しく完了してください。

- 有効な構文エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。エラー・メッセージとともに行番号や列番号が表示されている場合、手掛りを見つけるのに役立つことがあります。たとえば、エラーを避けるために、エラーのある行を記録するようにします。

PLS-00708 プラグマ *string* はパッケージ仕様部で宣言する必要があります。

原因: 指定されたプラグマがパッケージ仕様部で宣言されていません。たとえば、プラグマ RESTRICT_REFERENCES はパッケージ仕様部で宣言されている必要があります。

処置: 位置の異なるプラグマを削除するか、または位置を変更してください。

PLS-00709 プラグマ *string* はパッケージ仕様部および本体で宣言する必要があります。

原因: 指定されたプラグマは、パッケージ仕様部で宣言されていますが、パッケージ本体では宣言されていません。あるいはその逆です。

処置: プラグマのないパッケージ宣言部分にプラグマを追加してください。

PLS-00710 ここでは PRAGMA AUTONOMOUS_TRANSACTION の宣言はできません。

原因: PRAGMA が不適切なコンテキストで宣言されました。PRAGMA はプロシージャ、ファンクションまたは最上位の無名ブロックの宣言節で宣言する必要があります。

処置: 位置の異なるプラグマを削除するか、または位置を変更してください。

PLS-00711 PRAGMA AUTONOMOUS_TRANSACTION は、2 度宣言できません。

原因: 同じブロックで PRAGMA が 2 度宣言されました。

処置: 重複した PRAGMA 宣言を削除してください。

PLS-00712 サブプログラム *string* のオプションが無効です。

原因: オプション DETERMINISTIC または PARALLEL_ENABLE を使用できるのは、PACKAGE または TYPE 仕様部の最上位のサブプログラムまたはサブプログラム宣言のみです。たとえば、PACKAGE または TYPE 本体でこれらのオプションが使用されると、このエラーが発生します。

処置: オプションを削除してください。

PLS-00751 PACKAGE SYS_STUB_FOR_PURITY_ANALYSIS が見つかりません。

原因: システム・パッケージ SYS_STUB_FOR_PURITY_ANALYSIS が Oracle データベース内にない場合、最上位のサブプログラム（ファンクションまたはプロシージャ）は作成できません。

処置: データベースにパッケージがあることを確認し、再度作成してください。

PLS-00801 内部エラー [*string*]

原因: これは、コンパイルまたは実行時に発生する内部エラーの総称です。最初のパラメータは、内部エラー番号です。

処置: このエラーは、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PLS-00900 単位 *string* の本体が見つかりません。

原因: 実行時に、プログラム・ユニットの本体が見つかりませんでした。次の2つの理由が考えられます。

- ユニット 'a' がモジュール 'b' をコールした場合に、'b' の仕様部が存在し、本体が存在しなかったことが考えられます。この場合には、仕様部が存在するのでコンパイル時にエラーは発生しません。
- SQL 文などの適切なコンテキストの外部でシーケンスを参照している場合、このエラーが発生する可能性があります。この場合、順序参照の仕様部は見つかりませんが、次のように SQL 文の外側の順序を参照するコードを実際に行うことは有効ではありません。

```
i := seq.nextval;
```

処置: 最初の理由でエラーが発生している場合には、参照されているオブジェクトの本体を作成してください。2番目の理由によってこのエラーが発生している場合には、シーケンスを SQL 文の中に移動してください。たとえば、`i := seq.nextval;` は次のように置き換えることができます。

```
select seq.nextval into temp from dual; i := temp;
```

PLS-00901 列 *string* (表 *string*) のデータ型はサポートされません。

原因: データベースの表の列が、現在のリリースの PL/SQL ではサポートされていないデータ型になっています。

処置: 問題のある列を表から削除するか、必要な列を別の表にコピーしてください。

PLS-00902 READ-ONLY バインド変数が OUT または IN-OUT コンテキストで使用されています。

原因: 更新できないホスト変数が、更新が可能なコンテキストで使用されました。

処置: コンテキストを調べて、ホスト変数の使用を変更するか、ホスト変数の値を PL/SQL ローカル変数に割り当ててローカル変数を使用してください。

PLS-00904 オブジェクト *string* にアクセスするには権限が不十分です。

原因: 必要な権限を持っていないデータベース・オブジェクトを操作しようとしてしました。たとえば、SELECT 権限のみが付与されている表を UPDATE しようとした場合に、このエラーは発生します。

処置: データベース管理者に依頼して操作を実行するか、必要な権限を取得してください。

PLS-00905 オブジェクト *string* が無効です。

原因: 無効なパッケージ仕様部またはストアド・サブプログラムが参照されました。パッケージ仕様部やストアド・サブプログラムは、それらが最後にコンパイルされた後に、ソース・コードやそれらが参照しているデータベース・オブジェクトが変更、削除されると無効になってしまいます。

処置: パッケージ仕様部またはストアド・サブプログラムを無効にしている原因を探し、Oracle がエラーなしで再コンパイルできるようにしてください。

PLS-00906 コンパイルは不可能です。

原因: 稼働環境に問題があるため、PL/SQL コンパイラが正しく機能しません。たとえば、そのエラー・メッセージ・ファイルがアクセス不能である可能性があります。

処置: PL/SQL の稼働環境を調べ、コンパイラが必要なファイルすべてにアクセスできるようにしてください。

PLS-00907 ライブラリ単位 *string* (参照先 *string*) をロードできません。

原因: PL/SQL は、以前に使用可能であったライブラリ・ユニットを見つけてロードすることができませんでした。このエラーは、存在しないまたは無効な別のライブラリ・ユニットを参照するユニットをロードしようとした場合に発生します。

処置: 必要なライブラリ・ユニットを用意してください。

PLS-00908 格納された形式 *string* は、このリリースでサポートされません。

原因: PL/SQL は、格納されている形式のライブラリ・ユニットを認識できませんでした。今回のバージョンでは認識できない新しい PL/SQL または古い PL/SQL のバージョンを使用して、コンパイルまたはシュリンク・ラップされています。

処置: 今回のバージョンの PL/SQL に合わせて、ライブラリ・ユニットを再コンパイルしてください。

PLS-00909 オブジェクト *string* が未宣言か、またはオブジェクト *string* にアクセスする権限が不十分です。

原因: 演算子宣言からのオブジェクトが宣言されていないか、または宣言されたオブジェクトにアクセスする権限が不十分です。

処置: オブジェクトを宣言するか、オブジェクトにアクセスするための権限をデータベース管理者に要請してください。

PLS-00950 このバージョンでは、この SQL 文で PL/SQL 表を使用できません。

原因: SQL 文で、PL/SQL 表への参照が正しくありません。たとえば、次のような参照が行われた可能性があります。PL/SQL 表の属性はプロシージャ形式の文でのみ使用できます。

```
SELECT ename_tab.COUNT INTO name_count WHERE ...
```

処置: 間違った参照を SQL 文から削除してください。

PLS-00951 機能 *string* は、このリリースでサポートされません。

原因: インポートされたライブラリ・ユニットの中に、PL/SQL が認識できないユニットがありました。そのユニットは、このバージョンでは認識できない新しい機能または古い機能を使用しています。

処置: インポートされたライブラリ・ユニットをこのバージョンの PL/SQL で再コンパイルし、サポートされていない機能を探してください。

PLS-00960 このリリースで RPC は、スキーマ・レベルを使うユーザー定義型の変数を使用できません。

原因: スキーマ・レベルのユーザー定義型か、またはこのような型を再帰的に使用する型は、RPC では使用できません。次に例を示します。

```
create type foo as object (...)  
create package my_pack is  
type my_tab is table of foo;  
-- on a remote server:  
x my_pack.my_tab@rpc; -- illegal attempt to use type my_tab
```

処置: RPC コールには PL/SQL 定義型のみを使用してください。このようなデータを RPC 内で動かすためには、エレメント・ワイズ・コピーのトップレベル・タイプへの余分なコードをローカル・タイプに追加する必要があるかも知れません。

PLS-00989 レコードまたはオブジェクト、収集のカーソル変数は、このリリースでサポートされません。

原因: レコード、オブジェクトまたはコレクションで、カーソル変数が入力されました。これは、今回のバージョンの PL/SQL ではサポートされていません。

処置: スタンドアロンのカーソル変数またはパラメータ（あるいはその両方）を使用して、アプリケーションを書き換えるか、レコードで使用する場合には、PL/SQL 2.3 を使用してください。

PLS-00990 カーソル変数の索引表は許可されていません。

原因: カーソル変数を使用して PL/SQL 索引表を作成しようとした。

処置: スタンドアロンのカーソル変数またはプロシージャ・パラメータ、レコードおよびグループの PL/SQL 索引表を使用して、アプリケーションを書き換えてください。

PLS-00992 カーソル変数を FETCH できません。

原因: カーソル変数からフェッチを実行しようとした。

処置: PL/SQL 2.3 にアップグレードしてください。このリリースでは、このような制約はありません。あるいは、OCI または FETCH 用のプリコンパイラを使用して、アプリケーションを書き換えてください。

PLS-00993 カーソル変数を RPC 引数または結果として渡せません。

原因: リモート・サブプログラムとの間でカーソル変数の受渡しが行われましたが、これは許可されていません。たとえば、カーソル変数のオープンにリモート・プロシージャを使用することはできません。リモート・サブプログラムはカーソル変数の値を戻せないためです。

処置: ローカル・データベースを参照するように、サブプログラムの呼出しを変更してください。

PLS-00994 カーソル変数をパッケージの一部として宣言できません。

原因: パッケージ仕様部でカーソル変数が宣言されましたが、これは許可されていません。REF CURSOR 型は PL/SQL ブロック、サブプログラム、パッケージで定義できますが、カーソル変数を宣言できるのは、ブロックまたはサブプログラム内のみです。

処置: カーソル変数の宣言を PL/SQL ブロックまたはサブプログラムの中に移動してください。

PLS-00995 未処理例外番号: *string*

原因: ハンドラが見つからないため、例外が発生しました。呼び出された例外を処理するハンドラが見つからない場合は、PL/SQL はホスト環境に未処理例外を戻します。メッセージに埋め込まれている数値は Oracle のエラー・コードで、このマニュアルに記載されています。

処置: 例外が発生した条件を修正し、適切な例外ハンドラを作成するか、別のハンドラを使用してください。カレント・ブロックに適切なハンドラがある場合に、宣言または例外ハンドラで例外が発生し、囲みブロックに即座に波及しました。

PLS-00996 メモリー不足

原因: メモリー不足で、PL/SQL からの要求が処理できません。

処置: PL/SQL 表の正しい行を参照しているかどうか、プログラムの再帰度が深すぎないかどうかを調べてください。

PLS-00997 このベータ・バージョンでは、カーソル戻り型は使用できません。

原因: 今回のバージョンでは使用できません。

処置: 使用しないでください。

PLS-01400 '||' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で '||' トークンを使用できません。これは、plsql.y の "CAT_" への "binary_add_op" 変換に相当します。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01401 長さ 18 文字を超える識別子

原因: ANSI の文法では、長さ 18 文字を超える識別子は使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01402 引用された識別子の使用

原因: 引用された識別子の使用は PL/SQL の拡張機能で、ANSI の文法では使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01403 コメント・デリミタ /* */

原因: C スタイルのコメント ('/' および '*' 文字で始まる) は ANSI の文法ではありません。ANSI に準拠するには、コメントの前に ANSI のコメント導入部 '--' が必要です。また、コメントには改行を含むことができません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01404 ANSI 識別子は、文字および数字、アンダースコア文字だけで構成できます。

原因: ANSI 識別子は、文字、数字およびアンダースコア文字のみで構成できます。PL/SQL では識別子に '#' および '\$' を使用できますが、これらは ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01405 ANSI 文法では、指数表記で示す数値データには大文字の E を使用する必要があります。

原因: ANSI の文法では、指数を表す数値データは、大文字の E で表現する必要があります。たとえば、3.45E-6 は ANSI ですが、3.45e-6 は ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01406 ANSI 文法のキーワード (PL/SQL ではキーワードでない) と思われる識別子が見つかりました。

原因: ANSI 文法のキーワード (PL/SQL ではキーワードでない) と思われる識別子が見つかりました。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01407 識別子 CHAR または CHARACTER、INTEGER の 1 つがプログラマによって再定義されました。

原因: 識別子 CHAR、CHARACTER または INTEGER (すべて ANSI キーワード) の 1 つがプログラマによって再定義されました。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01408 '&' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で '&' トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01409 'PRIOR_' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で 'PRIOR_' トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01410 'MOD' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で 'MOD' トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-1411 'REM' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で 'REM' トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-1412 'EXP' トークンの使用

原因: ANSI の文法では、式で 'EXP' トークンを使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01413 NULL の式の使用

原因: ANSI の文法では、NULL の式は使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01414 修飾した式をここで使用

原因: ANSI の文法では、修飾した式をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01415 集合体値をここで使用

原因: ANSI の文法では、集合値をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01416 <id> (<value>...) をここで使用

原因: ANSI の文法では、*id (value...)* をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01417 %%attribute の使用

原因: ANSI の文法では、%%attribute 値をここで使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01418 副問合せは ANSI 文法の集合演算子に組み込みません。

原因：副問合せは ANSI 文法の集合演算子に組み込みません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01419 副問合せには、その選択リストに '*' または正確にカラムが 1 つが必要です。

原因：ANSI の文法では、副問合せには、その SELECT リストに '*' または正確にカラムが 1 つが必要です。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01420 INTERSECT および MINUS 集合演算子は ANSI ではありません。

原因：INTERSECT および MINUS 集合演算子は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01421 FOR UPDATE 句

原因：ANSI の文法では、FOR UPDATE 句を使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01422 別名

原因：ANSI の文法では、別名を使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01423 集合句右側の副問合せ

原因：ANSI の文法では、集合句の右側で副問合せを使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01424 句が ANSI の順序ではありません。

原因：ANSI では、表の式の句に対して順序が指定されています。PL/SQL では指定されていません。ANSI の順序では、次のようになります。

1. FROM 句
2. WHERE 句
3. GROUP-BY 句
4. PL/SQL では、FROM 句を最初に指定する必要がありますが、その後の句は（非 ANSI の CONNECT-BY 句を含めて）任意の順序で指定することができます。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01425 Connect-by 句

原因：ANSI では、Connect-by 句を使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01450 この < 値式 > には標準化されていないデータ型が含まれています。

原因: この値式には標準化されていないデータ型が含まれています。X3H2 の 4.2 項「Data types」では、"A non-null value is either a character string or a number." と示されています。STANDARD にある多くの組込み関数は、プラグマの方法によってこの警告とともにフラグ化されます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01451 これら < 値式 > のデータ型は、比較可能でなければなりません。

原因: これら値式のデータ型は、比較可能である必要があります。X3H2 の 4.2 項「Data types」では、"A character string and a number are not comparable values." と示されています。STANDARD にある多くの組込み関数は、プラグマの方法によってこの警告とともにフラグ化されます。この警告はデータ型の強制関数に対して出されます。たとえば、非準拠のデータ型を組合せ可能にするために Oracle SQL に挿入された `TO_CHAR(number)` などです。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01452 この関数は ANSI 標準の部分ではありません。

原因: この関数は ANSI 標準の部分ではありません。この警告によって、ANSI 仕様に記述されていない POWER などの関数がフラグ化されます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01453 このプロシージャは ANSI 標準の部分ではありません。

原因: このプロシージャは ANSI 標準の部分ではありません。この警告によって、ANSI 仕様に記述されていない STOP などのプロシージャがフラグ化されます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01454 CHAR データ型の値を使用する演算子がありません。

原因: CHAR データ型の値を使用する演算子がありません。X3H2 の 5.9 項「value_expression」の syntax rule 3 では、"If the data type of a *primary* is character string, then the *value_expression* shall not include any operators." と示されています。この警告は、CHAR 引数を取る STDBASE にある多くの関数に対して発生します。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01455 IS NULL と IS NOT NULL 述語は、列指定だけに定義されます。

原因: IS NULL および IS NOT NULL 述語は、列指定のみに定義され、その他の式には定義されません。5.15 項「null_predicate」には、述語「x IS NULL」の x は列である必要があり、その他の種類の式であってはならないことが示されています。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01456 名前の長さは 3 より大きくできません。

原因: 名前の長さは 3 より大きくできません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01458 UPDATE 文の集合句には、長さ 1 の列名が必要です。

原因：UPDATE 文の集合句には、長さ 1 の列名が必要です。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01460 リモート・ホストのオブジェクトにはアクセスできません。

原因：リモート・ホストのオブジェクトにはアクセスできません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01463 STDDEV は規格セットの関数ではありません。

原因：STDDEV は規格セットの関数ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01464 VARIANCE は規格セットの関数ではありません。

原因：VARIANCE は規格セットの関数ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01466 NULL 文字列は使用できません。

原因：NULL 文字列は使用できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01467 副問合せでない場合、IN 述語の値リストには value_specifications だけを組み合わせ必要があります。

原因：副問合せでない場合、IN 述語の値リストには value_specifications のみを組み合わせ必要があります（つまり、リテラル、および PL/SQL または埋込み変数）。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01468 like 述語の第 1 引数は、文字列型の列でなければなりません。

原因：like 述語の第 1 引数は、文字列型の列である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01469 ANSI 標準ではレコードを許可しません。

原因：ANSI 標準ではレコードを許可しません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01470 like 述語のエスケープ文字は、リテラルまたは CHAR 型の変数でなければなりません。

原因：like 述語のエスケープ文字は、リテラルまたは CHAR 型の変数である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01471 DISTINCT キーワードは COUNT(DISTINCT sim_expr) で記述しなければなりません。

原因: DISTINCT キーワードは COUNT(DISTINCT sim_expr) で記述する必要があります。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01472 集合関数指定に DISTINCT がある場合、式は column_specification でなければなりません。

原因: 集合関数指定に DISTINCT がある場合、式は column_specification である必要があります。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01473 != または ~= に代わる <> の使用

原因: != または ~= のかわりに <> が使用されています。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01474 ANY の使用は ANSI ではありません。

原因: comparison_predicate および quantified_predicate の結合によって、sim_expr = ANY_ sim_expr などが指定されている可能性があります。これは、カーネルによって受け入れられます。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01500 ビューの定義に共用体は使用できません。

原因: ビューの定義に共用体は使用できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01501 CREATE TABLE 文のオプションは ANSI ではありません。

原因: CREATE TABLE は表の構造の定義のみ行えます。SPACE__name、PCTFREE__numeric_literal または cluster はいずれも ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01502 制約名と制約状態は ANSI ではありません。

原因: 制約名および制約状態は ANSI ではありません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01503 SET 句の式に set 関数は挿入できません。

原因: SET 句の式に set 関数は挿入できません。

処置: 詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01504 CREATE TABLE 文の AS フェーズの使用は ANSI ではありません。

原因：CREATE TABLE は表の構造の定義のみ行えます。CREATE TABLE 文の AS フェーズの使用は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01505 ALTER は ANSI ではありません。

原因：ALTER は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01506 CREATE INDEX は ANSI ではありません。

原因：CREATE INDEX は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01507 DROP は ANSI ではありません。

原因：DROP は ANSI ではありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01701 ROLLBACK WORK 文の構文が正しくありません。

原因：ROLLBACK WORK 文の構文が正しくありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01702 COMMIT WORK 文の構文が正しくありません。

原因：COMMIT WORK 文の構文が正しくありません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01703 CLOSE 文のカーソル名は長さ 1 でなければなりません。

原因：CLOSE 文のカーソル名は長さ 1 である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01704 ソート句の式は、ASC または DESC オプションを使用する列指定または符号なしの整数でなければなりません。

原因：ソート句の式は、ASC または DESC オプションが後に続く、列指定または符号なしの整数のみです。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01705 カーソル仕様部に UNION または ORDER_BY がある場合、カーソルで指定される表は更新不可能です。

原因：カーソル仕様部に UNION または ORDER_BY がある場合、カーソルで指定される表は更新不可能です。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01707 位置付け DELETE または UPDATE 文では、表はカーソル仕様部で定義しなければなりません。

原因：位置付け DELETE または UPDATE 文では、削除または更新された表はカーソル仕様部で定義する必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01708 検索 DELETE または UPDATE、INSERT では、検索条件の副問合せの FROM 句に表は使用されません。

原因：検索 DELETE、UPDATE または INSERT 文では、検索条件の副問合せのいずれにも FROM 句に表は使用されません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01709 INSERT 文の値リストが副問合せでなく値リストで指定された場合は、値指定でなければなりません。

原因：INSERT 文では、INSERT 文の値リストが副問合せでなく値リストで指定された場合は、値指定である必要があります。つまり、コンパウンド式または列参照であってはけません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01710 位置付け DELETE または UPDATE 文では、カーソル名の長さは 1 でなければなりません。

原因：位置付け DELETE または UPDATE 文では、カーソル名の長さは 1 である必要があります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01711 SELECT 文に ORDER_BY または HAVING、GROUP_BY 句を挿入できません。

原因：SELECT 文に ORDER_BY、HAVING または GROUP_BY 句を挿入できません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01712 ANSI では INDICATORS として変数をバインドできません。

原因：ANSI では INDICATORS として変数をバインドできません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01713 型の制約が一致しません。

原因：型の制約が一致しません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01714 ANSI では、ここにリテラルでない列名が入ります。

原因：ANSI では、ここにリテラルでない列名が入ります。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01715 ANSI では SAVEPOINT をアクセプトしません。

原因：ANSI では SAVEPOINT をアクセプトしません。

処置：詳細は、ANSI ドキュメントの ANSI X3.135-1992 を参照してください。

PLS-01900 文字から数値への変換エラー。

原因：文字列の数値への変換に失敗しました。

処置：数値の変数に割り当てられたすべての文字列に、有効な数値解釈値が指定されていることを確認してください。

PLS-01901 ホスト・バインド配列が小さ過ぎます。

原因：配列が小さすぎるため、PL/SQL はデータをホスト配列に転送できませんでした。

処置：ホスト配列のサイズを大きくしてください。

PLS-01902 16 進から RAW への変換エラー。

原因：16 進文字列から RAW への変換に失敗しました。

処置：変換する 16 進変数が有効な 16 進値を含んでいることを確認してください。

PLS-01903 整数以外の数値はエラーです。

原因：SQLERRM() が整数以外の値でコールされました。

処置：SQLERRM() が整数値でコールされることを確認してください。

PLS-01904: 索引表のキー値が NULL です。

原因：NULL キー値で索引表に PL/SQL 索引を作成しようとしてしました。

処置：索引表への PL/SQL 索引の作成に使用されるキー値が NULL でないことを確認してください。

PLS-01905: 文字列バッファが小さ過ぎます。

原因：文字列をソースから宛先へ移動中にエラーが発生しました。このエラーは、たとえば 10 文字の文字列を 1 文字のバッファへ移動しようとするとき発生します。このエラーの原因は、常に明らかであるとは限りません。たとえば、次のような場合にエラーが発生します。

```
a varchar2(1);  
b number;  
b := 10;  
a := b;
```

数値の 10 が文字列の 10 に暗黙に変換され、これが変数 a に割り当てられた 1 文字分のバッファに格納できないため、エラーが発生します。

処置：まず、バッファ・サイズが一致しない文字列の代入文を探してください。見つからなかった場合、次に前述の例のような暗黙変換のケースを考えてください。

PLS-01906 RAW 変数の長さが長すぎます。

原因：コピーまたは代入する RAW 変数の長さが長すぎるため、宛先に格納できませんでした。

処置：RAW 変数の長さが正しいことを確認してください。

PLS-01907 数値の精度が大きすぎます。

原因：コピーまたは代入する数値の小数点の左側にある桁が多すぎて、宛先に格納できません。つまり、数値の精度が一致していません。たとえば、次のように文字列を数値に代入しようとする、このエラーが発生します。

```
a varchar2(4);  
b number(1,1);  
a := '10.1';  
b := a;
```

処置：まず、明示的な数値の精度値の不一致を調べてください。見つからなかった場合、次に、バインド中の変換を含めて、その他の型の数値への暗黙変換を考えてください。

PLS-01908 RETURNING INTO バッファが小さすぎます。

原因：PL/SQL によって、RETURNING INTO 句のあるサーバー側の DML が、戻されるデータを保持するために十分な大きさのバッファを使用していないことが判断されました。

処置：RETURNING INTO 句のバッファのサイズを増やしてください。

サマリー・アドバイザー・メッセージ (QSM)

QSM-00501 サマリー・アドバイザー環境の初期化ができません。

原因: サマリー・アドバイザーの外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00502 OCI エラー

原因: OCI コールバック・ルーチンでエラーが報告されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00503 メモリー不足です。

原因: サマリー・アドバイザーは、必要なメモリーの割当てに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00504 内部エラー

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00505 構文エラー

原因: 構文エラーが発生しました。

処置: 可能であれば構文エラーを訂正するか、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

QSM-00506 ファクト表が見つかりません。

原因: ファクト・フィルタが指定されていません。また、ウェアハウスにファクト表がありません。ファクト表は、データ・ウェアハウスの1つ以上のディメンション表に対する外部キー制約を持つ表です。

処置: 次を確認してください。

- ファクト・フィルタが正しく指定されている。

- 適切な制約が存在している。
- ユーザーが表へのアクセス権限を持っている。

QSM-00507 ディメンションが見つかりません。

原因：データベースにディメンションがありません。

処置：現行のウェアハウスにディメンションを作成してください。

QSM-00508 統計表示がテーブル/列にありません。

原因：システム・メタデータが、1 つ以上の表または列に統計を含んでいません。アドバイザには、すべてのファクト表のカーディナリティおよびデータ・ウェアハウスにあるすべてのディメンションのレベル・キーのカーディナリティが必要です。

処置：ウェアハウスにある表およびサマリーで ANALYZE を実行し、統計を収集してください。

QSM-00509 無効なパラメータ

原因：指定されたパラメータの値が無効です。

処置：適切な範囲内の値を指定してください。

QSM-00510 統計表示がサマリーにありません。

原因：システム・メタデータが、1 つ以上のサマリーに統計を含んでいません。アドバイザには、データ・ウェアハウスにあるすべてのサマリーのカーディナリティが必要です。

処置：ウェアハウスにある表およびサマリーで ANALYZE を実行し、統計を収集してください。

QSM-00511 無効なファクト表がファクト・フィルタで指定されています。

原因：ファクト・フィルタに指定された表は有効なファクト表ではありません。ファクト表には、データ・ウェアハウスの 1 つ以上のディメンション表に対する外部キー制約が必要です。

処置：次のことを確認してください。

- ファクト・フィルタが正しく指定されている。
- 適切な制約が存在している。
- ユーザーが表へのアクセス権限を持っている。

QSM-00512 無効なサマリーがリテンション・リストに指定されています。

原因：リテンション・リストに指定されたサマリーが無効です。

処置：次のことを確認してください。

- サマリー名の綴り
- サマリー名が有効であるか
- ユーザーにサマリー名へのアクセス権限があるか

QSM-00513 ワークロード表が1つまたは両方ありません。

原因：ワークロード表の一方または両方が欠落しています。ユーザー・スキーマに存在すべき2つのワークロード表は、V_192216243_F_5_E_14_8_1 および V_192216243_F_5_E_15_8_1 です。前者は WORK\$_IDEAL_MVIEW にマップされ、後者は WORK\$_MVIEW_USAGE にマップされます。データ・コレクション・ファイル (ORACLESM.DAT) がユーザーによってフォーマットされる場合に、ワークロード表は Oracle Trace Formatter によって作成されます。

処置：Formatter が正常にデータ・コレクションを書式化したか確認してください。他の表が作成されても、V_192216243_F_5_E_14_8_1 (つまり WORK\$_IDEAL_MVIEW) は作成されない場合があります。多くの場合 MVIEW リライトを起動するために必要な初期化パラメータが有効でない可能性があります。MVIEW リライトに対して設定する必要がある初期化パラメータすべてのドキュメントを確認してください。その他の要因として、GROUP BY 問合せがデータの収集中に発行されなかった可能性があります。その場合、Trace コレクションを長時間実行し、データ・ウェアハウスで発行される問合せの代理オブジェクト・サンプルを取得してください。

Recovery Manager メッセージ (RMAN)

Recovery Manager の詳細は、『Oracle8i Recovery Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』および『Oracle8i バックアップおよびリカバリ・ガイド』を参照してください。

RMAN-00550 解析機能パッケージのロードに失敗しました。

原因：LPMLOADPKG() でエラーが返されました。

処置：このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-00551 解析機能の初期化に失敗しました。

原因：解析機能パッケージの初期化ルーチンでエラーが返されました。

処置：このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-00552 コマンド行引数に構文エラーがあります。

原因：RMAN に入力された引数が解析できないか、または引数がまったく入力されていません。

処置：このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-00553 内部 Recovery Manager パッケージのロードに失敗しました。

原因：LPMLOADPKG() でエラーが返されました。

処置：このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-00554 内部 Recovery Manager パッケージの初期化に失敗しました。

原因: 内部パッケージの初期化ルーチンでエラーが返されました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-00555 ターゲット・データベース接続文字列を指定する必要があります。

原因: TARGET パラメータが指定されていません。

処置: 必要なパラメータを入力してください。

RMAN-00556 CMDFILE *string* をオープンできませんでした。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名が正しく指定されていること、ファイルが存在していること、および RMAN を実行するユーザーにファイルの読取り権限があることを確認してください。

RMAN-00557 MSGLOG *string* をオープンできませんでした。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名が正しく指定されていること、ファイルが存在していること、および RMAN を実行するユーザーにファイルの書き込み権限があることを確認してください。

RMAN-00558 入力コマンド解析中にエラーが見つかりました。

原因: 解析機能で構文エラーが見つかりました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-00562 ユーザー名が長すぎます。

原因: このユーザー名は、ユーザー名に許される最大長を超えています。

処置: ユーザー名を修正してください。

RMAN-00563 パスワードが長すぎます。

原因: このパスワードは、パスワードに許される最大長を超えています。

処置: パスワードを修正してください。

RMAN-00564 ホスト・データが長すぎます。

原因: SQL*Net ホストの接続文字列が許される最大長を超えています。

処置: ホストの文字列を修正してください。

RMAN-00565 入力ファイルが読み込めません。

原因: STDIN または CMDFILE からの読み込み試行中にエラーが発生しました。

処置: CMDFILE が読み取り可能であることを確認してください。CMDFILE は、1 レコードにつき 1 行のテキスト・ファイルでなければなりません。

RMAN-00566 TRACE string をオープンできませんでした。

原因: ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

処置: ファイル名が正しく指定されていること、そして RMAN を実行するユーザーにファイルの書き込み権限があることを確認してください。

RMAN-00567 Recovery Manager で印刷できなかったエラー・メッセージがあります。

原因: エラー・メッセージ・スタックの印刷試行中に、エラーが発生しました。

処置: 関連するエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-00568 ユーザーによる割込みを受け取りました。

原因: Control-C (^C) または ATTN がユーザーにより入力されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-00569 =====ERROR MESSAGE STACK FOLLOWS =====

原因: このメッセージはエラー・メッセージに先行します。

処置: エラーは最後から順に印刷されます。正しく解釈するには、一番下から上に向かって読んでください。

RMAN-00570 ** ファイル終り **

原因: インライン CMDFILE の終わりに達しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-00571

=====

RMAN-00572 dbms_pipe 入力を待機しています。

原因: このメッセージは、PIPE オプションが指定されたときのみ表示されます。

処置: パイプに RMAN 入力をエンキューしてください。

RMAN-00573 dbms_pipe.next_item_time から不明なタイプのコードが戻りました : *number*

原因: 内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-00574 dbms_pipe の読み込み / 書き込みエラーのため、RMAN を強制終了しています。

原因: DBMS_PIPE へ送信中の入出力とともに RMAN が実行されました。パイプからの読み込みまたはパイプへの書き込み中に、エラーが発生しました。エラーの詳細の説明の後に、このエラーが表示されます。

処置: RMAN の強制終了。先行して発生したエラーの原因 / 処置を参照してください。

RMAN-00575 dbms_pipe に書き込もうとしてタイムアウトになりました。

原因: RMAN が DBMS_PIPE モードで実行されています。

DBMS_PIPE.SEND_MESSAGE をコール中に、タイムアウトが発生しました。これは、パイプが満杯のとき、およびメッセージをデキューするプロセスがないときに発生します。これは、通常、RMAN と交信していたプロセスの終了で発生します。

処置: RMAN が異常終了します。

RMAN-00600 internal error, arguments [*string*] [*string*] [*string*] [*string*] [*string*]

原因: Recovery Manager で内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-00601 fatal error in recovery manager

原因: 致命的なエラーが発生しました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-01006 解析中にエラー信号が出されました。

原因: 解析中にエラー信号が出されました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

RMAN-01007 行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*

原因: これは構文エラーが検出された行と列を示す情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-01008 不良識別子は次のとおりでした: *string*

原因: これは構文エラーの原因となった識別子トークンを示す情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-02000 メッセージ・ファイルのバージョンが正しくありません（メッセージ番号 *number* は見つかりません）

原因： RMANXX.MSB ファイルは正しいバージョンではありません。

処置： インストールが正しく行われていることを確認してください。RMAN バイナリ（使用しているオペレーティング・システムで呼び方は異なりますが、実行可能なロード・モジュールのこと）および RMANXX.MSB ファイルは、必ず同じバージョン、リリース、パッチ・レベルである必要があります。

RMAN-02001 句読点記号 *string* が認識できません。

原因： 不当な句読点記号が見つかりました。

処置： 無効な文字を削除してください。

RMAN-02002 入力ファイルの終了部分が不正です。

原因： おそらく引用符付き文字列の右引用符が入力されていないことが原因です。

処置： 入力を修正してください。

RMAN-02003 文字：*string* が認識できません。

原因： 英字、数字、句読点以外の入力文字が見つかりました。

処置： 文字を削除してください。

RMAN-02004 引用符付き文字列が長すぎます。

原因： 2000 バイトより長い引用符付き文字列が見つかりました。

処置： このエラーは、右引用符の欠落で発生することがあります。そうであれば欠落している引用符を追加し、そうでない場合は文字列を短くしてください。

RMAN-02005 トークンが長すぎます。

原因： 1000 バイトより長いトークンが見つかりました。

処置： トークンは空白または句読点で分ける必要があります。欠落している空白または句読点を追加するか、またはトークンを短くしてください。

RMAN-02006 スクリプト行が長すぎます。

原因： 500 バイトより長い行が見つかりました。

処置： その行を短い行に分けてください。

RMAN-03000 Recovery Manager のコンパイラ・コンポーネントの初期化に失敗しました。

原因： このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上示されます。

処置： 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03001 Recovery Manager のコマンド・シーケンサ・コンポーネントの初期化に失敗しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03002 コマンドのコンパイル中に障害が発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03003 コマンドはまだインプリメントされていません: *string*

原因: コマンドは、現在のリリースにインプリメントされていません。

処置: このコマンドは使用しないでください。

RMAN-03004 コマンドの実行中に致命的なエラーが発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03005 RMAN-*nnnnn*: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03006 コマンド *:string* を実行中に例外が発生しました。エラーはリトライできません。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-3007 コマンド *:string* を実行中に例外が発生しました。エラーはリトライできます。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが 1 つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。エラーが修正できる場合は、RETRY コマンドを使用して障害の起きた操作を再試行できます。

RMAN-03008 リカバリ・カタログの自動再同期を実行中にエラーが発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03010 ライブラリ・キャッシュの事前ロード中に致命的なエラーが発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03012 コマンドのコンパイル中に致命的なエラーが発生しました。

原因: コマンドのコンパイル中に致命的エラーが発生しました。

処置: このメッセージの後には、障害の原因を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-03013 コマンド・タイプ: *string*

原因: RMAN-03012 とともに表示される情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03014 リカバリ・カタログの暗示的再同期に失敗しました。

原因: このメッセージの後には、障害の原因を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-03015 スクリプト *string* を格納中にエラーが発生しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03017 スクリプト * *string* を格納中に再帰が検出されました。

原因: 格納されたスクリプトが自身をコールしています。または別のスクリプトをコールしており、それは自身をコールしています。

処置: 再帰を削除してください。

RMAN-03018 非同期 RPC は正常に作動しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03019 非同期 RPC が作動していません。

原因: RPCTEST コマンドは、RPC が非同期に実行していないと判断しました。かわりに、RPC はブロックしています。これは、非ブロック化 UPI をサポートしない SQL*Net ドライバを使用することにより引き起こされます。

処置: 違う SQL*Net ドライバの使用を試行してください。

RMAN-03020 非同期 RPC テストには 1 分かかります。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03021 実行スクリプト: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03022 コンパイル・コマンド: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03023 実行コマンド: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03024 リカバリ・カタログの暗示的完全再同期を実施します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03025 リカバリ・カタログの暗示的部分再同期を実施します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03026 エラーのリカバリ チャネル・リソースをリリースしています。

原因: エラーが発見され、RMAN がチャネルをクリーン・アップしています。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-03027 保管されたスクリプト: *string* を印刷しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03028 致命的なエラー・コード: *number*

原因: これは情報メッセージです。エラー 3012 に先行します。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03029 エコー・オン

原因: SET ECHO ON コマンドが発行されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03030 エコー・オフ

原因: SET ECHO OFF コマンドが発行されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03099 ユーザー要求でジョブが取り消されました。

原因: ユーザーが現行のジョブに割り込みました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-03999 日付の変換中に Oracle エラーが発生しました。ORA-*nnnnn*: *string*

原因: 日付の変換中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04000 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: メモリーの割当て要求を満たすことができません。

処置: RMAN に使用可能な記憶容量を増やしてください。

RMAN-04001 ヒープの初期化に失敗しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示す他のエラー・メッセージが1つ以上示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-04002 ociapi に失敗しました。ORA-*string*

原因: OCI プロセス・レベルの初期化に失敗しました。

処置: 通常、このエラーは発生しません。

RMAN-04003 ociinit に失敗しました。

原因: OCIEnvInit へのコールは失敗しました。

処置: このエラーは通常は発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04004 リカバリ・カタログ・データベース: *string* でのエラー

原因: リカバリ・カタログ・データベースでエラーが発生しました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04005 ターゲット・データベース: *string* でのエラー

原因: ターゲット・データベースでエラーが発生しました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04006 補助データベース: *string* からのエラーです。

原因: クローン・データベースまたは重複しているデータベースでエラーが発生しました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04007 リカバリ・カタログ・データベース: *string* からの警告です。

原因: リカバリ・カタログ・データベースで警告が出されました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04008 ターゲット・データベース: *string* からの警告です。

原因: ターゲット・データベースで警告が出されました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04009 補助データベース: *string* からの警告です。

原因: クローン・データベースまたは重複しているデータベースで警告が出されました。

処置: 障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04010 ターゲット・データベースのパスワード:

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-04011 リカバリ・カタログ・データベースのパスワード:

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-04012 補助データベースのパスワード：

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-04013 起動前に接続する必要があります。

原因：起動前に接続する必要があります。

処置：接続して、コマンドを再度実行してください。

RMAN-04014 起動に失敗しました：string

原因：データベースの起動に障害があります。

処置：障害の原因はエラー・メッセージに表示されます。障害の原因を修正して、STARTUP コマンドを再度実行してください。

RMAN-04015 string へのターゲット・データベース・キャラクタ・セットの設定でエラーが発生しました。

原因：ターゲット・データベースでセッション・キャラクタ・セット中に、エラーが発生しました。

処置：このエラーは通常は発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-04016 OCI エラー・ハンドルを取得できませんでした。

原因：OCI レイヤーの初期化中に、エラーが発生しました。

処置：このエラーは通常は発生しません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-05000 データ・ファイル string には SET AUXNAME が必要です。

原因：次のいずれかです。

- 補助データベースにマウントされた制御ファイルが、このデータ・ファイルのエントリを持っていないので、ファイル名変換は不可能です。
- COPY DATAFILE TO AUXNAME コマンドが発行されましたが、このデータ・ファイルには補助名が設定されていません。

処置：SET AUXNAME コマンドを使用して、ファイル名を指定してください。そのファイル名はリストア先として補助データベースを使用できるものです。

RMAN-05001 補助ファイル名 *string* がターゲット・データベースで使用されるファイルと競合します。

原因: RMAN が指定されたファイル名の補助データベースで、リストア先としての使用を試行していますが、この名前はターゲット・データベースにすでに存在します。

処置: SET AUXNAME コマンドを使用して、ターゲット・データベースに使用されているファイル名と矛盾しない名前をデータ・ファイルに指定してください。

RMAN-05002 Point-in-Time 表領域リカバリを取消しています。

原因: 前に検出されたエラーが対処措置を要求したエラーとして発行されました。

処置: エラー条件を解決し、RECOVER コマンドを再発行してください。

RMAN-05003 表領域 *string* に対して point-in-time リカバリは行えません。

原因: SYSTEM 表領域またはロールバック・セグメントを含む表領域は、Point-in-Time リカバリで許可されていません。

処置: 指定された表領域をリカバリ・セットから削除し、操作を再試行してください。

RMAN-05004 ターゲット・データベースのログ・モードは NOARCHIVELOG です。

原因: TSPITR を NOARCHIVELOG モードのデータベースに適用しようとしてしました。

処置: 必要なアーカイブ・ログ・ファイルすべてが TSPITR で使用可能な場合、ターゲット・データベース・ログ・モードを ARCHIVELOG に変更し、TSPITR 操作を再試行してください。そうでない場合、TSPITR はこのデータベースに適用できません。

RMAN-05005 再作成した表領域 *string* に対して Point-in-Time リカバリは許可されません。

原因: 要求された表領域は再作成され、Point-in-Time リカバリでは許可されません。

処置: 指定された表領域をリカバリ・セットから削除し、操作を再試行してください。

**RMAN-05500 DUPLICATE コマンドの発行時には、補助データベースがマウントされてい
てはなりません。**

原因: DUPLICATE コマンドが発行されましたが、補助データベースがマウントされています。

処置: 補助データベースをアンマウントしてください。

RMAN-05501 ターゲット・データベースの複製を強制終了します。

原因: 前に検出されたエラーが、対処措置を要求しています。

処置: エラー条件を解決し、DUPLICATE TARGET DATABASE コマンドを再発行してください

RMAN-05502 DUPLICATE コマンドの発行時には、ターゲット・データベースがマウントされていなければなりません。

原因：DUPLICATE コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベース制御ファイルがマウントされていません。

処置：Enterprise Manager または Server Manager を通して ALTER DATABASE MOUNT を発行することによって、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-05503 このコマンドを実行するには、1 つ以上の補助チャネルの割当てが必要です。

原因：補助チャネルが割り当てられていません。

処置：補助チャネルを割り当ててください。

RMAN-05504 2 つ以上の REDO ログ・ファイルまたはグループをこのコマンドに指定する必要があります。

原因：REDO ログ・ファイルまたはグループが、1 つしか指定されていません。

処置：少なくともあともう 1 つ、REDO ログ・ファイルまたはグループを追加指定してください。

RMAN-05505 *string* の補助ファイル名の変換で、*string* の最大長を超過しています。

原因：指定されたファイル名を補助データベースで 사용되는名前に変換するとき、変換された名前がファイル名の許容最大長を超えています。

処置：初期化パラメータ DB_FILE_NAME_CONVERT を変更して、有効なファイル名に変換してください。

RMAN-05506 繰り返しの実行中にエラーが発生しました。

原因：このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06000 Recovery Manager ライブラリ・ファイル *string* をオープンできませんでした。

原因：RECOVER.BSQ ファイルをオープンできません。

処置：ファイルが正しくインストールされていること、および RMAN を実行するユーザーにファイルを読み込む認可レベルがあることを確認してください。

RMAN-06001 ジョブ・ステップ・ライブラリの解析中にエラーが発生しました。

原因：RECOVER.BSQ の解析中に構文エラーが見つかりました。

処置：ファイルの正しいバージョンがインストールされていること、およびいかなる修正も行われていないことを確認してください。

RMAN-06002 リカバリ・カタログに接続されていない場合、コマンドは使用できません。

原因: リカバリ・カタログ接続文字列が入力されている場合にのみ許可されているコマンドを使用しようとした。

処置: コマンドの使用を避けるか、または RMAN を再起動して、RCVCAT パラメータでリカバリ・カタログ接続文字列を入力してください。

RMAN-06003 ターゲット・データベース: *string* での Oracle エラー

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06004 リカバリ・カタログ・データベース: *string* での Oracle エラー

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06005 ターゲット・データベース: *string* (DBID=*string*) に接続しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06006 ターゲット・データベース: *string* (マウントされていません) に接続されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06007 ターゲット・データベースのマウント、db_name の init.ora での設定がされていません。

原因: ターゲット・データベースは制御ファイルをマウントしておらず、その INIT.ORA ファイルに DB_NAME パラメータが指定されていません。

処置: ターゲット・データベースをマウントするか、またはその INIT.ORA ファイルに DB_NAME パラメータを追加してインスタンスを再起動してください。

RMAN-06008 リカバリ・カタログ・データベースに接続されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06009 リカバリ・カタログに代えてターゲット・データベース制御ファイルを使用しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06010 データファイル: *string* を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのデータ・ファイルを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。ファイル名が正しく入力されていることを確認してください。データ・ファイルを最近追加した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06011 指定されたレベル: *number* は無効です。

原因: 無効な増分バックアップ・レベルが指定されました。

処置: 増分バックアップ・レベルは0～8の間で指定してください。

RMAN-06012 チャンネル *string* は割り当てられていません。

原因: まだ割り当てられていないチャンネル識別子に、RELEASE または SETLIMIT コマンドが見つかりました。

処置: チャンネル識別子を修正するか、または ALLOCATE CHANNEL コマンドを追加してください。

RMAN-06013 チャンネル識別子が重複しています: *string*

原因: チャンネルをリリースする前にチャンネル識別子が再利用されました。

処置: RELEASE CHANNEL コマンドを追加してください。

RMAN-06014 コマンドはまだインプリメントされていません: *string*

原因: ベータ・リリースにはコマンドがインプリメントされていません。

処置: このコマンドの使用を避けてください。

RMAN-06015 データファイル・コピー名: *string* を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのデータ・ファイル・コピー名を検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。ファイル名が正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不可能なときにデータ・ファイルのコピーを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06016 バックアップ・オペランドが重複して指定されています: *string*

原因: 指定されたオペランドは、同じバックアップ指定子またはバックアップ・コマンドで複数指定されています。

処置: 重複したオペランドを削除してください。

RMAN-06017 解析機能の初期化に失敗しました。

原因: 解析機能パッケージの初期化ルーチンでエラーが返されました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-06018 バックアップ指定: *string* でオペランドが重複して指定されています。

原因: 1つのバックアップ指定に複数のバックアップ指定オペランドが指定されています。

処置: 重複したオペランドを削除してください。

RMAN-06019 表領域名 *string* を変換できませんでした。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこの表領域名を検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。表領域が正しく入力されていることを確認してください。表領域を最近追加した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06020 補助データベースに接続されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06021 FROM DATAFILECOPY/BACKUPSET はアーカイブ・ログについては指定できません。

原因: FROM DATAFILECOPY/BACKUPSET オプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルのリストアにのみ適用されます。

処置: このオプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルのリストアにのみ使用してください。

RMAN-06022 FROM TAG オプションはアーカイブログについては指定できません。

原因: FROM TAG オプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルのリストアにのみ適用されます。

処置: このオプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルのリストアにのみ使用してください。

RMAN-06023 データファイル *number* をリストアするためのバックアップまたはコピーが見つかりません。

原因: このファイルのバックアップまたはコピーが見つからないため、データ・ファイル、表領域、またはデータベースをリストアできません。このファイルのバックアップまたはコピーは存在しますが、ユーザーのリストア・オペランドで指定されている基準を満たしていないことが考えられます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ 6026 を参照してください。

RMAN-06024 制御ファイルをリストアするためのバックアップまたはコピーが見つかりません。

原因: 制御ファイルのバックアップまたはコピーが見つからないため、制御ファイルをリストアできません。このファイルのバックアップまたはコピーは存在しますが、ユーザーのリストア・オペランドで指定されている基準を満たしていないことが考えられます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ 6026 を参照してください。

RMAN-06025 ログ・スレッド *number*、*seq number*、*scn string* をリストアするためのバックアップが見つかりません。

原因: このアーカイブ・ログのバックアップが見つからないため、アーカイブ・ログをリストアできません。このファイルのバックアップは存在しますが、ユーザーのリストア・オペランドで指定されている基準を満たしていないことが考えられます。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ 6026 を参照してください。

RMAN-06026 ターゲットで見つからないものがあります - リストアを強制終了します。

原因: リストアに指定されたファイルで見つからないものがあります。どのファイルが見つからないかを示すために、メッセージ 6023、6024 または 6025 が発行されます。ファイルをリストアできない一般的な理由として、Recovery Manager で確認されているファイルのバックアップまたはコピーがない、RESTORE コマンドで指定されている基準を満たすバックアップまたはコピーがない、あるいは作成されているがカタログ化されていないデータ・ファイルのコピーがあるなどが考えられます。

処置: Recovery Manager LIST コマンドを使用して Recovery Manager で確認されているバックアップおよびコピーを表示できます。そのリストからリストアするファイルを選択してください。

RMAN-06027 指定に一致するアーカイブログが見つかりません。

原因: アーカイブ・ログのレコード指定子が、リカバリ・カタログのどのアーカイブ・ログとも一致しません。

処置: 異なるアーカイブ・ログのレコード指定子でコマンドを再発行してください。RMAN LIST コマンドを使用して Recovery Manager で確認されているアーカイブ・ログをすべて表示できます。

RMAN-06028 リストア指定: *string* でオペランドが重複して指定されています。

原因: CHANNEL、TAG、FROM、PARMS、VALIDATE または CHECK READONLY オプションが、リストア・コマンドで、あるいはリストア指定の 1 つで、複数回指定されています。

処置: コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06029 制御ファイルを組み込めるのは、データファイル・バックアップ集合内だけです。

原因: INCLUDE CURRENT CONTROLFILE オプションがアーカイブ・ログのバックアップ・セットに指定されました。

処置: このオプションは、データ・ファイル・バックアップ・セットにのみ使用してください。

RMAN-06030 DELETE INPUT オプションはデータファイル・バックアップ集合では使用不可です。

原因: 現行の制御ファイルまたはデータ・ファイルを含むバックアップに対して、DELETE INPUT オプションが指定されました。

処置: オプションを削除してコマンドを再発行してください。

RMAN-06031 データベース・キーワードを変換できませんでした。

原因: DBMS_RCVMAN のコール時にエラーを受け取りました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06032 COPY コマンドの実行には最低 1 チャンネルの TYPE DISK を割り当てる必要があります。

原因: TYPE DISK のチャンネルが割り当てられていません。

処置: TYPE DISK のチャンネルを割り当てて、コマンドを再発行してください。

RMAN-06033 チャンネル *string* は割り当てられていません。

原因: RMAN コマンドは指定のチャンネルを要求しますが、その要求されたチャンネルは割り当てられていません。

処置: チャンネルを割り当てるか、またはチャンネル識別子を修正してください。

RMAN-06034 このコマンドの実行には最低 1 つのチャンネルを割り振る必要があります。

原因: チャンネルが割り当てられていません。

処置: チャンネルを割り当ててください。

RMAN-06035 recover.bsq のバージョンが違います。正しくは *string* ですが、実際は *string* でした。

原因: RECOVER.BSQ ファイルは RMAN 実行可能ファイルと互換性がありません。

処置: RECOVER.BSQ の正しいバージョンをインストールしてください。

RMAN-06036 データファイル *number* はすでにファイル *string* にリストアされています。

原因: SET NEWNAME コマンドが発行されて、元のデータ・ファイル以外の位置にデータ・ファイルがリストアされました。Recovery Manager でファイルのリストアに最適な候補は同じ名前のデータ・ファイル・コピーであると判断されました。そのためファイルはすでにリストア済で、処置は必要ありません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06037 増分バックアップ機能がインプリメントされていません。

原因: データ・ファイル・コピーの増分バックアップが要求されました。

処置: 増分レベルを 0 に変更するか、全体バックアップを要求してください。

RMAN-06038 リカバリ・カタログ・パッケージでエラーが検出されました。

原因: DBMS_RCVMAN の呼出しでエラーが返されました。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

RMAN-06039 データファイル *number* に対して SET NEWNAME コマンドが発行されていません。

原因: SWITCH コマンドがデータ・ファイルに指定されましたが、切替え先が指定されおらず、そのデータ・ファイルに対して事前に SET NEWNAME コマンドも発行されていません。SET NEWNAME コマンドが発行されていない場合は、切替え先のファイルを明示的に指定する必要があります。

処置: SWITCH コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06040 制御ファイルはすでにファイル *string* にリストアされています。

原因: リストアに最適な候補である制御ファイルは、RESTORE (制御ファイル) コマンドで名前を付けられたものであるため、処置は必要ありません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06041 ファイル: *number* からファイル *number* のコピーへの切替えができません。

原因: データ・ファイルを、違うデータ・ファイルのコピーに切り替えようとした。

処置: SWITCH コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06042 TAG オプションはアーカイブログ・バックアップ集合ではサポートしません。

原因: TAG オプションが入力されましたが、このタイプのバックアップには適用されません。

処置: TAG オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06043 TAG オプションはアーカイブログ、現行制御ファイル・コピーではサポートしません。

原因: TAG オプションが入力されましたが、このタイプのバックアップには適用されません。

処置: TAG オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06044 コピー指定: *string* でオペランドが重複して指定されています。

原因: 同じコピー指定で複数のオペランドを指定しています。

処置: 重複オペランドを削除してください。

RMAN-06045 LEVEL オプションはアーカイブログ、現行制御ファイル・コピーではサポートしません。

原因: LEVEL オプションが入力されましたが、このタイプのバックアップには適用されません。

処置: LEVEL オペランドを削除してコマンドを再入力してください。

RMAN-06046 アーカイブログ名: *string*

原因: アーカイブ・ログ名をそのリカバリ・カタログ RECID/ タイムスタンプに変換する際に、エラーが発生しました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06047 コピーからのリストアを指定したデータファイル *number* が重複しています。

原因: このデータ・ファイルは、同じリストア・コマンドで複数回指定されています。

処置: RESTORE コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06048 コピーからのリストア指定をした制御ファイルが重複しています。

原因: 制御ファイルが同じ RESTORE コマンドで複数回指定されています。

処置: RESTORE コマンドを修正して再発行してください。

RMAN-06049 バックアップ (バックアップ集合 ...) がまだインプリメントされていません。

原因: BACKUP BACKUPSET コマンドが入力されました。このコマンドはまだインプリメントされていません。

処置: 別のコマンドを入力してください。

RMAN-06050 アーカイブログ・スレッド *number* 順序 *number* は、ファイル *string* としてディスクにあります。

原因: リストアするように (明示的に、または範囲指定を使用して) 要求されたアーカイブ・ログは、すでにディスクに存在しているため、リストアする必要がありません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06051 DELETE INPUT オプションはまだインプリメントされていません。

原因: このオプションはバックアップ指定で指定されました。

処置: DELETE INPUT オプションを削除してください。

RMAN-06052 データファイル *number* の親バックアップまたはコピーが見つかりません。

原因: レベル 1 以上での増分バックアップで、このデータ・ファイルの親バックアップまたはコピーが見つかりませんでした。レベル 0 のデータ・ファイルのバックアップは、自動的に行われます。

処置: これは情報メッセージです。

RMAN-06053 ログが見つからないためメディアのリカバリができません。

原因: このメッセージには欠落ログを識別する別のメッセージが続きます。メディアのリカバリの実行にはログが必要ですが、ログがディスクになく、そのログを含むバックアップが使用不能です。

処置: そのログを含むバックアップが使用可能かどうかを判断してください。可能であれば、CHANGE コマンドを使用してバックアップ・セットを使用可能にし、コマンドを再試行してください。そうでない場合は、欠落ログまでの Point-in-Time リカバリしかありません。

RMAN-06054 メディアのリカバリが不明なログ (スレッド *string*、*scn*: *string*) を要求しています。

原因: リカバリ・カタログまたは制御ファイルに存在が記録されていないログが、メディアのリカバリで要求されています。

処置: ログのコピーが使用可能であれば、それを CATALOG コマンドでリカバリ・カタログまたは制御ファイル (あるいはその両方) に追加し、RECOVER コマンドを再試行してください。そうでない場合は、欠落ログまでの Point-in-Time リカバリしかありません。

RMAN-06055 ログ順序 *string*、スレッド: *string* が見つかりませんでした。

原因: メディアのリカバリの開始時にディスクにあったログ、またはバックアップ・セットからリストアされているはずのログが見つかりません。

処置: Recovery Manager のメッセージ・ログを確認し、ログが前のジョブ・ステップでリストアされたことを確認してください。リストアされていれば、V\$ARCHIVED_LOG ビューを確認し、ログが制御ファイルにリストアされていることを確認してください。リストアされていれば、ログがディスクに存在し、読み込み可能なことを確認してください。ログがリストアされていないか、またはリストアされているがログのレコードが V\$ARCHIVED_LOG に存在していない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-06056 データファイル *number* にアクセスできませんでした。

原因: データ・ファイルが読み込めないか、またはヘッダーが無効であるため、バックアップは処理できません。

処置: データ・ファイルをアクセス可能にするか、スキップしてください。

RMAN-06066 RECOVER コマンドの発行時は、ターゲット・データベースのマウントが必要です。

原因：RECOVER コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベース制御ファイルがマウントされていません。

処置：Enterprise Manager または Server Manager を通して ALTER DATABASE MOUNT を発行することによって、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06067 バックアップまたは作成した制御ファイルには、RECOVER DATABASE が必要です。

原因：制御ファイルがバックアップからリストアされたか、または ALTER DATABASE CREATE CONTROLFILE を通して作成されました。

処置：RECOVER DATABASE コマンドを使用してリカバリを実行してください。

RMAN-06068 データファイルが見つからないため、リカバリが異常終了しました。

原因：このエラーは、メッセージ RMAN-06094 で示されるインスタンス 1 つ以上に付随します。

処置：メッセージ RMAN-06094 を参照してください。

RMAN-06069 制御ファイルにデータファイル *string* のファイル名がありません。

原因：バックアップ制御ファイルのメディアのリカバリは、このデータ・ファイルを制御ファイルに追加しましたが、安全でないためにファイル名は設定していません。

処置：データ・ファイルがディスクにある場合は、ALTER DATABASE RENAME を発行して制御ファイルを修正してください。そうでない場合は、RESTORE でデータ・ファイルをリストアし、SWITCH を使用してそれを制御ファイルに対して識別してください。このデータ・ファイルを含む表領域が削除される場合は、SKIP 句を指定した RECOVER コマンドを再発行し、この表領域のリカバリをスキップしてください。

RMAN-06070 DBWR でデータファイル *string* を識別できませんでした。

原因：DBWR が指定されたデータ・ファイルを見つけることができません。

処置：ご使用のデータ・ファイルの場所を確認してください。

RMAN-06071 データファイル *string* をオープンできませんでした。

原因：このデータ・ファイルをオープンしようとしてエラーが見つかりました。

処置：データ・ファイルが存在し、かつアクセス可能であることを確認してください。

RMAN-06072 データファイル *string* のファイル・ヘッダーを読み込み中に I/O エラーが発生しました。

原因：I/O エラーが発生しました。

処置：RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行し、RECOVER コマンドを再試行してください。

RMAN-06073 データファイル *string* のファイル・ヘッダーが破損しています。

原因: Oracle がファイル・ヘッダーで破損を検出しました。メディア障害が発生している可能性があります。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行し、RECOVER コマンドを再試行してください。

RMAN-06074 ファイル *string* は Oracle データファイルではありません。

原因: ファイル・ヘッダーは、このファイルがデータ・ファイルでないことを示しています。ファイルは上書きされたか壊れている可能性があります。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行し、RECOVER コマンドを再試行してください。

RMAN-06075 データファイル *string* はこのデータベースには属していません。

原因: ファイル・ヘッダーが、このファイルが他の Oracle データベースに属していることを示しています。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルを新しい位置にリストアし、SWITCH を実行し、RECOVER コマンドを再試行してください。

RMAN-06076 データファイル *string* に不正なデータファイルが含まれています。

原因: データ・ファイル・ヘッダーが、ファイルが異なるデータ・ファイル番号を含むことを示しています。

処置: RESTORE コマンドでデータ・ファイルをリストアし、RECOVER コマンドを再試行してください。

RMAN-06077 データファイル *string* は制御ファイルのバージョンと異なるバージョンです。

原因: このデータ・ファイルへの制御ファイル入力で、このデータ・ファイルの別のバージョンが指定されています。表領域の削除時に、データ・ファイルの異なるバージョンが存在可能で、同じデータ・ファイル番号を再利用する新規の表領域が作成されます。

処置: データ・ファイルが正しい場合、SWITCH コマンドを使用して制御ファイルを修正してください。そうでない場合は、RESTORE コマンドでこのデータ・ファイルの正しいバージョンをリストアし、RECOVER コマンドを再試行してください。

RMAN-06078 制御ファイルがデータファイル *string* より古いバージョンです。

原因: 制御ファイルはこのデータ・ファイルよりも古いようですが、バックアップ制御ファイルとしてマークされていません。これは制御ファイルが旧バージョンと置換されていることを示しています。このエラーは、Recovery Manager または ALTER DATABASE BACKUP CONTROLFILE コマンドを通して作成されたバックアップ制御ファイルがリストアされるときには発生しません。このような制御ファイルは、バックアップとしてマークされているためです。

処置: 制御ファイルをリストアし、RECOVER DATABASE を実行してください。

RMAN-06079 リカバリを実行するには、データベースがマウントされていなければなりません。

原因: RECOVER コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースがマウントされていません。

処置: ALTER DATABASE MOUNT を発行してください。

RMAN-06080 データファイル *string* に対して SWITCH が必要です。

原因: このデータ・ファイルの制御ファイル・レコードは、古いデータ・ファイルのインカンネーション用です。

処置: RECOVER を実行する前に、SWITCH コマンドを発行して、制御ファイルを更新してください。

RMAN-06081 データファイル *string*、コード *string* のファイル・ヘッダーを読み込み中にエラーが起きました。

原因: このデータ・ファイルについて問い合わせたときに、X\$KCVFH は HXERR 列にこのコードを戻しました。

処置: データ・ファイルが存在し、読み込み可能であることを確認してください。Recovery Manager の最新リリースでは、より有益なエラー・メッセージが戻されます。Recovery Manager の新バージョンがない場合、オラクル社のカスタマ・サポートに連絡してください。

RMAN-06082 データファイル・コピー・タグ *string* があいまいです。

原因: このタグは、異なるデータ・ファイルに属する複数のデータ・ファイル・コピーを参照しています。

処置: タグではなくファイル名でデータ・ファイル・コピーを指定してください。

RMAN-06083 格納スクリプト *string* をロード中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログ・データベースによってエラーが返されました。このエラーは問題の原因を説明しています。

処置: 問題を修正して、再試行してください。

RMAN-06084 REPLICATE の発行時にはターゲット・データベースはマウントできません。

原因: REPLICATE コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースがすでにマウントされています。

処置: Enterprise Manager または Server Manager を通して ALTER DATABASE CLOSE および ALTER DATABASE DISMOUNT を発行することで、ターゲット・データベースの制御ファイルをアンマウントしてください。

RMAN-06085 データ・ファイル *string* のリストアには、SET NEWNAME コマンドを使用しなければなりません。

原因: このデータ・ファイルに対する RESTORE コマンドで、このデータ・ファイルに対する宛先名が見つかりませんでした。

処置: RESTORE コマンドの前に SET NEWNAME コマンドを追加して、このファイルのリストア先を指定してください。

RMAN-06086 オフライン・ファイルのスキップは、データファイル・バックアップ集合内だけです。

原因: SKIP OFFLINE オプションがアーカイブ・ログのバックアップ・セットに指定されました。

処置: このオプションは、データ・ファイル・バックアップ・セットにのみ使用してください。

RMAN-06087 読み専用ファイルのスキップは、データファイル・バックアップ集合内だけです。

原因: SKIP READONLY オプションがアーカイブ・ログのバックアップ・セットに指定されました。

処置: このオプションは、データ・ファイル・バックアップ・セットにのみ使用してください。

RMAN-06088 データファイル・コピー *string* が見つからない、またはカタログと非同期です。

原因: 指示ファイルが見つからないか、または見つかってもしリカバリ・カタログで考えられていたファイルと異なります。Recovery Manager 外の操作でファイルが変更されたか、または Recovery Manager がターゲット・データベースと再同期されていない可能性があります。

処置: ファイルを再カタログして、操作をやり直してください。

RMAN-06089 アーカイブログ *string* が見つからない、またはカタログと非同期です。

原因: 指示ファイルが見つからないか、または見つかってもしリカバリ・カタログで考えられていたファイルと異なります。Recovery Manager 外の操作でファイルが変更されたか、または Recovery Manager がターゲット・データベースと再同期されていない可能性があります。

処置: ファイルを再カタログして、操作をやり直してください。

RMAN-06090 制御ファイル・コピー *string* を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこの制御ファイル・コピーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。ファイル名が正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不能であるのに制御ファイルのコピーを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新する必要があります。

RMAN-06091 メンテナンスに対してチャンネルが割り当てられていません。

原因: メンテナンス・チャンネルを要求するコマンドが入力されていますが、メンテナンス・チャンネルは割り当てられていません。

処置: バックアップ・ピースを削除する前、あるいは CROSSCHECK コマンドまたは DELETE EXPIRED コマンドを使用する前に、ALLOCATE CHANNEL FOR MAINTENANCE を使用してください。

RMAN-06092 バックアップ断片を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのバックアップ・ピースを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。名前または キーが正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不能であるのにバックアップ・ピースを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新する必要があります。

RMAN-06093 リカバリ・カタログに古いバージョンのデータファイル *string* が含まれています。

原因: このデータ・ファイル番号が削除され、再利用されました。ターゲット・データベースでマウントされた制御ファイルにはデータ・ファイルの新しいバージョンが含まれていますが、リカバリ・カタログは古いバージョンについての情報だけを含んでいます。

処置: RESYNC コマンドを発行してリカバリ・カタログを更新し、失敗したコマンドを再発行してください。それでもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-06094 データファイル *string* をリストアする必要があります。

原因: RECOVER コマンドが発行され、リカバリ・カタログはこのデータ・ファイルがリカバリの一部と示していますが、このデータ・ファイルは制御ファイルにリストされておらず、ディスクにも見つかりません。

処置: RECOVER コマンド（あれば）に指定された同じ UNTIL 句を使用して、このデータ・ファイルに RESTORE コマンドを発行し、RECOVER を再発行してください。

RMAN-06095 データファイル *string* のリカバリにはバックアップ制御ファイルのリストアが必要です。

原因: ターゲット・データベースによって現在マウントされている制御ファイルは、リカバリする Point-in-Time に適しているとリカバリ・カタログで示されているデータ・ファイルのインカネーションよりも、新しいデータ・ファイルを含んでいます。

処置: 失敗した RECOVER コマンドで指定された同じ UNTIL 句を使用して、制御ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。制御ファイルがリストアできない場合は、CREATE CONTROLFILE コマンドを発行してください。

RMAN-06096 データファイル *string* の新規名を有効にするために SWITCH コマンドが必要です。

原因: SET NEWNAME がこのデータ・ファイルに発行されましたが、RECOVER コマンドの前に SWITCH コマンドが発行されていません。

処置: SWITCH コマンドを発行して、RECOVER を実行する前に新規名を有効にしてください。

RMAN-06097 障害の発生した SQL 文のテキストは *string* です。

原因: これは、メッセージ 6003 またはメッセージ 6004 に付随する情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06098 BACKUP コマンドの発行時は、ターゲット・データベースのマウントが必要です。

原因: BACKUP コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベース制御ファイルがマウントされていません。

処置: Enterprise Manager または Server Manager を通して ALTER DATABASE MOUNT を発行することによって、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06099 ソース・ファイル *string* でエラーが発生しました。行: *number*

原因: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

RMAN-06100 データファイル *number* のバックアップまたはコピーをリストアするチャンネルがありません。

原因: このファイルのバックアップが、リストア用に割り当てられていないデバイス・タイプに存在するため、データ・ファイル、表領域、またはデータベースをリストアできません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ 6026 を参照してください。

RMAN-06101 制御ファイルのバックアップまたはコピーをリストアするチャンネルがありません。

原因: このファイルのバックアップが、リストア用に割り当てられていないデバイス・タイプに存在するため、制御ファイルをリストアできません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ 6026 を参照してください。

RMAN-06102 ログ・スレッド *number seq number scn string* のバックアップ、コピーリストア用チャンネルがありません。

原因: このファイルのバックアップが、リストア用に割り当てられていないデバイス・タイプに存在するため、アーカイブ・ログをリストアできません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。詳細は、メッセージ 6026 を参照してください。

RMAN-06103 REPORT コマンド: *string* で修飾子が重複しています。

原因: REPORT 修飾子リストにこの修飾子が複数回指定されています。

処置: 重複した修飾子を削除してください。

RMAN-06104 データファイル *number* に対するクローン名が設定されていません。

原因: このメッセージは、SET CLONENAME FOR *datafile* TO NULL コマンドに応答して発行されます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06105 LIST コマンド: *string* で修飾子が重複しています。

原因: LIST 修飾子リストにこの修飾子が複数回指定されています。

処置: 重複した修飾子を削除してください。

RMAN-06106 このコマンドには、ターゲット・データベースのマウントが必要です。

原因: ターゲット・データベースのマウントを必要とするコマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースがマウントされていません。

処置: Enterprise Manager または Server Manager を通して ALTER DATABASE MOUNT を発行することによって、ターゲット・データベースの制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06107 警告 - 制御ファイルが REPORT NEED BACKUP DAYS に対して現行のものではありません。

原因: REPORT NEED BACKUP DAYS コマンドで、実際は必要なくても、ファイルのバックアップが必要と報告される場合があります。これは、現行の制御ファイルがマウントされない限り、ファイルの現行のオンライン・ステータスを確認できないためです。

処置: 処置は必要ありませんが、できれば現行の制御ファイルをマウントし、最も正確な REPORT 出力を入手してください。

RMAN-06108 データファイル・コピーが使用不可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06109 アーカイブログが使用不可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06110 制御ファイル・コピーが使用不可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06111 バックアップ断片が使用不可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06112 データファイル・コピーが使用可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06113 アーカイブログが使用可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06114 制御ファイル・コピーが使用可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06115 バックアップ断片が使用可に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06116 データファイル・コピーがディスクにありません。リターン・コード *string*

原因: CHANGE DATAFILECOPY AVAILABLE コマンドは発行されましたが、データ・ファイル・コピーがディスクにありません。

処置: ホストからデータ・ファイル・コピーを含む領域が削除された場合、その領域をリストアしてコマンドを再試行してください。データ・ファイル・コピーが永久に削除される場合、このデータ・ファイルに対して CHANGE DATAFILECOPY DELETE コマンドを発行してください。

RMAN-06117 アーカイブ・ログがディスクにありません。リターン・コード *string*

原因: CHANGE ARCHIVELOG AVAILABLE コマンドは発行されましたが、アーカイブ・ログがディスクにありません。

処置: ホストからアーカイブ・ログを含む領域が削除された場合、その領域をリストアしてコマンドを再試行してください。アーカイブ・ログが永久に削除される場合、このアーカイブ・ログに対して CHANGE ARCHIVELOG DELETE コマンドを発行してください。

RMAN-06118 制御ファイル・コピーがディスクにありません。リターン・コード *string*

原因: CHANGE CONTROLFILECOPY AVAILABLE コマンドは発行されましたが、制御ファイル・コピーがディスクにありません。

処置: ホストから制御ファイル・コピーを含む領域が削除された場合、その領域をリストアしてコマンドを再試行してください。制御ファイル・コピーが永久に削除される場合、このデータ・ファイルに対して CHANGE CONTROLFILECOPY DELETE コマンドを発行してください。

RMAN-06119 データファイル・コピーがカタログ除去されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06120 アーカイブログがカタログ除去されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06121 制御ファイル・コピーがカタログ除去されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06122 BACKUPSET/BACKUPPIECE に CHANGE .. UNCATALOG は使用できません。

原因: CHANGE BACKUPPIECE/BACKUPSET .. UNCATALOG コマンドが入力されました。バックアップ・ピースで UNCATALOG 演算子はサポートされていません。

処置: かわりに、CHANGE BACKUPPIECE/BACKUPSET .. DELETE を使用してください。

RMAN-06123 CHANGE AVAILABLE/UNAVAILABLE/UNCATALOG はリカバリ・カタログなしでは使用できません。

原因: リカバリ・カタログ・データベースへの接続を要求するコマンドが使用されました。ご使用のバックアップ・リポジトリがターゲット・データベース制御ファイルのとき、コマンドは使用できません。

処置: リカバリ・カタログ・データベースが使用可能な場合、リカバリ・カタログに接続して、コマンドを再試行してください。そうでない場合、別のコマンドを入力してください。

RMAN-06124 データファイル・コピー・キー *number* を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログでこのデータ・ファイル・コピー・キーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-06125 アーカイブログ・キー *number* を検索中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログでこのアーカイブ・ログ・キーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-06126 オフライン・ファイル *string* をスキップします。

原因: このファイルはオフラインの状態で SKIP OFFLINE オプションが指定されたので、バックアップ・セットには組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06127 読み込み専用ファイル *string* をスキップします。

原因: このファイルは、読み取り専用で SKIP READONLY オプションが指定されたために、バックアップ・セットには組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06128 アクセス不可ファイル *string* をスキップします。

原因: このファイルは読み込みできず、SKIP INACCESSIBLE オプションが指定されたためにバックアップ・セットには組み込まれません。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06129 確保されているチャンネル ID: *string* が無効です。

原因: このチャンネル ID は無効です。DELETE および DEFAULT は確保されているチャンネル名であり、ユーザーが指定できない場合があります。

処置: 違うチャンネル ID を指定してください。

RMAN-06130 スナップショット制御ファイル名は *string* に設定されています。

原因: スナップショット制御ファイル名が設定されていないため、RMAN ではこれをデフォルト値に設定しました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06131 SKIP OFFLINE/READONLY は現行制御ファイルにしか使用できません。

原因: SKIP OFFLINE および SKIP READONLY オプションは、ターゲット・データベース制御ファイルが現行である場合にのみ許可されています。ターゲット制御ファイルが現行でない場合は、データ・ファイルのオフライン / 読み取り専用ステータスは取得できません。

処置: SKIP オプションを削除するか、またはターゲット・データベースに現行の制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06132 データ・ファイル *string* は制御ファイルに記述されていないためバックアップできません。

原因: このデータ・ファイルを含むバックアップ・コマンドが発行されましたが、データ・ファイルが制御ファイルにリストされていません。制御ファイルは、現行のものではありません（バックアップまたは作成済の制御ファイルです）。

処置: 制御ファイルをリカバリして現行のものにし、バックアップ・コマンドを再試行してください。

RMAN-06133 リカバリ・カタログにデータファイル *string* の古いデータが含まれている可能性があります。

原因: RESTORE UNTIL が発行されましたが、リカバリ・カタログが、制御ファイルにリストされているよりも古いデータ・ファイルを選択しました。

処置: リカバリ・カタログがデータ・ファイルに正しいデータを持っている場合は、同じ UNTIL 句を使用してバックアップ制御ファイルをリストアし、データ・ファイルのリストアを再試行してください。そうでない場合には、制御ファイルにリストされたデータ・ファイルのバックアップをリストアしてください。

RMAN-06134 ホスト・コマンドが完了しました。

原因: オペレーティング・システム・コマンドが完了しました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-06135 ホスト・コマンド: *string* の実行中にエラーが発生しました。

原因: ホスト・コマンドで、0 でないリターン・コードが戻されました。

処置: 無効なコマンドを修正してください。

RMAN-06136 補助データベース: *string* からの Oracle エラーです。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-06137 REPORT SCHEMA AT TIME にはリカバリ・カタログが必要です。

原因: REPORT SCHEMA *at_clause* コマンドが発行されましたが、リカバリ・カタログ・データベースがありません。

処置: リカバリ・カタログを使用していない場合、*at_clause* のない REPORT SCHEMA コマンドを発行してください。

RMAN-06138 制御ファイルがマウントされません - REPORT コマンドに AT 句の指定が必要です。

原因: *at_clause* のない REPORT SCHEMA が発行されましたが、リカバリ・カタログがありません。制御ファイルがターゲット・データベースでマウントされていないので、データベースを構成しているファイルの現行リストの情報を取得する場所がありません。

処置: リカバリ・カタログを使用するか、ターゲット・データベースで制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06139 警告 - REPORT SCHEMA に対する制御ファイルが最新ではありません。

原因: *at_clause* のない REPORT SCHEMA が発行されましたが、リカバリ・カタログがありません。ターゲット・データベースでマウントされた制御ファイルが現行のものでないので、データ・ファイルの現行リストの情報は現行のものでない可能性があります。

処置: リカバリ・カタログを使用するか、現行の制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06140 LIST INCARNATION で TAG オプションは指定できません。

原因: TAG オプションが LIST INCARNATION で指定されました。データベース・インカーネーションと関連する TAG がないので、これは許可されません。

処置: TAG オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06141 ARCHIVELOG リストで TAG オプションは指定できません。

原因: TAG オプションが ARCHIVELOG リストで指定されました。アーカイブ・ログ・コピーまたはバックアップ・セットと関連する TAG がないので、これは許可されません。

処置: TAG オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06142 DEVICE TYPE を指定できるのは、LIST BACKUP だけです。

原因: LIST COPY、LIST INCARNATION、CROSSCHECK または DELETE EXPIRED コマンドで DEVICE TYPE オプションが指定されました。異なるタイプのデバイスに常駐できるのはバックアップ・セットのみであり、CROSSCHECK および DELETE EXPIRED コマンドは、ALLOCATE CHANNEL FOR MAINTENANCE/DELETE コマンドで指定されるデバイスと同じタイプを使用する必要があるため、これは許可されません。

処置: DEVICE TYPE オプションを削除して、コマンドを再実行してください。

RMAN-06143 LIKE を指定できるのは、LIST COPY だけです。

原因: LIKE オプションが、リスト BACKUP または INCARNATION コマンドで指定されました。LIKE オペランドでテストされる可能性があるのはデータ・ファイルまたはアーカイブ・ログのコピーのみなので、これは許可されません。

処置: LIKE オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06144 FROM または UNTIL は、LIST INCARNATION には指定できません。

原因: FROM または UNTIL オプションが LIST INCARNATION で指定されました。データベース・インカーネーションと関連する時間がないので、これは許可されません。

処置: FROM または UNTIL オプションを削除して、LIST コマンドを再実行してください。

RMAN-06145 制御ファイルが最新ではありません - 古いリストでは不完全です。

原因: CHANGE または REPORT コマンドは、余分で削除される可能性のあるバックアップのリストを計算する必要があります。マウントされている制御ファイルが現行でない場合は、最後の OPEN RESETLOGS 以来オフラインになっているファイルに、問題のないバックアップが存在するかどうかを判断するのが不可能な場合があります。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。廃棄されたバックアップの完全なレポートを確実にするために、現行の制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06146 ファイル *number* に対する変更がオフライン SCN を超えて見つかりました。

原因: CHANGE または REPORT コマンドは、余分で削除される可能性のあるバックアップのリストを計算する必要があります。ターゲット・データベース制御ファイルでオフラインで表示されているファイルに、バックアップが見つかりませんでした。しかし、ファイルがオフラインになったとき、バックアップは SCN を超えた変更を含みます。ターゲット・データベース制御ファイルが実際には現行のものでなく、古い制御ファイルのリストアされたコピーなので、この可能性は十分あります。

処置: 現行の制御ファイルまたはバックアップ制御ファイルをマウントしてください。

RMAN-06147 古いバックアップはありません。

原因: CHANGE または REPORT コマンドは、指定された廃棄基準を満たすファイルを見つけられませんでした。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06148 冗長件数は 0（ゼロ）より大きくなければなりません。

原因: CHANGE または REPORT OBSOLETE コマンドに指定された REDUNDANCY オペランドが 0 でした。

処置: REDUNDANCY オペランドの値を 1 以上に指定してください。

RMAN-06149 SET AUXNAME に対するリカバリ・カタログが必要です。

原因: SET AUXNAME コマンドが発行されましたが、リカバリ・カタログ・データベースがありません。

処置: リカバリ・カタログが存在する場合、Recovery Manager の起動時に RCVCAT オプションを指定してください。そうでない場合には、SET AUXNAME コマンドが使用されない可能性があります。

RMAN-06150 データファイル *number* の補助名が設定されました: *string*

原因: このメッセージは、SET AUXNAME コマンドに応答して発行されます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06151 データ・ファイル *string* の作成 (scn: *string*)

原因: これは情報メッセージです。これは別のメッセージとともに表示されるはずはです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06152 バックアップ断片または集合に対して CHANGE VALIDATE はサポートされません。

原因: CHANGE VALIDATE コマンドがバックアップ・ピースで実行されない可能性があります。

処置: CHANGE VALIDATE コマンドは、データ・ファイル・コピーおよびアーカイブ・ログでのみ実行される可能性があります。バックアップ・セットの内容を検証するには、VALIDATE BACKUPSET コマンドを使用してください。ただし、RMAN RUN コマンドの内部で使用してください。

RMAN-06153 データ・ファイルのコピーで妥当性チェックに失敗しました。

原因: CHANGE DATAFILE COPY VALIDATE コマンドが、データ・ファイル・コピーが見つからないか、または同じデータを含まないことを発見したので、このレコードがリカバリ・カタログから削除されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06154 データ・ファイルのコピーで妥当性チェックが正常に終了しました。

原因: CHANGE DATAFILE COPY VALIDATE コマンドが、データ・ファイル・コピーがリカバリ・カタログのデータと一致することを発見しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06155 制御ファイルのコピーで妥当性チェックに失敗しました。

原因: CHANGE CONTROLFILECOPYCOPY VALIDATE コマンドが、制御ファイル・コピーが見つからないか、または同じデータを含まないことを発見したので、このレコードがリカバリ・カタログから削除されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06156 制御ファイルのコピーで妥当性チェックが正常に終了しました。

原因: CHANGE CONTROLFILECOPY VALIDATE コマンドが、制御ファイル・コピーがリカバリ・カタログと一致することを発見しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06157 アーカイブログの妥当性チェックに失敗しました。

原因: CHANGE ARCHIVELOG VALIDATE コマンドが、アーカイブ・ログが見つからないか、または同じデータを含まないことを発見したので、このレコードがリカバリ・カタログから削除されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06158 アーカイブログの妥当性チェックが正常に終了しました。

原因: CHANGE ARCHIVED LOG VALIDATE コマンドが、アーカイブ・ログがリカバリ・カタログと一致することを発見しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06159 バックアップ集合の参照中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのバックアップ・セットを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。確実に、キーを正しく入力してください。リカバリ・カタログが使用不能であるときにバックアップ・セットを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06160 バックアップ集合キー: *number* に対するバックアップ部分がありません。

原因: 要求されたバックアップ・セットに対するバックアップ部分が、リカバリ・カタログ、またはターゲット・データベース制御ファイルで見つかりませんでした。

処置: 既存のバックアップ・セットを指定してください。

RMAN-06161 補助ファイル名: *string* の検査中にエラーが発生しました。

原因: このエラーの後には、原因を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: 補助ファイル名が SET AUXNAME コマンド経由で無効な場合、修正してください。

RMAN-06162 SQL 文: *string*

原因: これは SQL コマンドに実行されようとしている SQL 文です。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06163 リカバリできないデータファイルがあります。RECOVER コマンドを強制終了します。

原因: このメッセージは、1 つ以上の 6162 または 6164 メッセージの次に表示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを参照してください。

RMAN-06164 データファイル *number* のリカバリに割り当てる必要なタイプのチャンネルがありません。

原因: 増分バックアップ・セットまたはアーカイブ・ログ・セットが割り当てられていないデバイス・タイプに存在するので、RECOVER コマンドを処理できません。

処置: LIST コマンドを使用して、どのデバイス・タイプが必要なのかを判断し、そのタイプのチャンネルを割り当ててください。

RMAN-06165 データファイル *string* は復旧には古すぎます。より新しいもので復旧してください。

原因: データ・ファイルのリカバリに必要なアーカイブ・ログまたは増分バックアップ・セット（あるいはその両方）がありませんが、データ・ファイルの最新のバックアップがあるので、リカバリは可能です。

処置: データ・ファイルの RESTORE コマンドを発行して、RECOVER コマンドを再発行してください。

RMAN-06166 データファイル *string* をリカバリできません。

原因: データ・ファイルのリカバリに必要な増分バックアップまたはアーカイブ REDO ログが見つかりません。リカバリ可能な全体バックアップまたはデータ・ファイルのコピーも存在しません。

処置: LIST コマンドを使用して、使用可能にできるバックアップ・セットまたはデータ・ファイル・コピーがあるかどうか調べてください。これらのファイルやコピーがない場合には、データ・ファイルはリカバリできません。全体またはデータ・ファイルのコピーがある場合には、Point-in-Time リカバリを行うことができます。

RMAN-06167 すでに接続されています。

原因: CONNECT コマンドが発行されましたが、指定されたデータベースにはすでに RMAN が接続しています。

処置: RMAN には DISCONNECT コマンドがありません。別のインスタンスに接続するには、RMAN を終了して、再起動してください。

RMAN-06168 このタグのバックアップ部分が見つかりません: *string*

原因: バックアップ・リストの一部を指定するためにタグが使用されていますが、このタグのバックアップ・ピースが見つかりません。

処置: タグの指定が正しいかどうかを確認してください。

RMAN-06169 データファイル *string* のファイル・ヘッダーを読み込めません。エラー理由: *string*

原因: 指定されたデータ・ファイルにアクセスできません。理由コードは、次のとおりです。

- 1 - 制御ファイルにファイル名がない。
- 2 - ファイルがオフラインである。
- 3 - ファイルが検証されていない。
- 4 - DBWR がファイルを見つけられない。
- 5 - ファイルがオープンできない。
- 6 - 読取り時の I/O エラー。
- 7 - ファイル・ヘッダーが壊れている。
- 8 - ファイルがデータ・ファイルでない。
- 9 - ファイルがこのデータベースに属していない。
- 10 - ファイル番号が正しくない。
- 12 - ファイルのバージョンが正しくない。
- 15 - 制御ファイルが現行のものでない。

処置: エラーが訂正できる場合には、訂正して操作をやり直してください。バックアップ時にこのエラーを無視する場合には、SKIP オプションを使用してください。

RMAN-06170 レコード ID *string*、スタンプ *string* データファイル *string* のオフライン範囲でコントロールファイルのコピーが見つかりません。

原因: 指定されたデータ・ファイルのリカバリにはこのオフライン範囲が必要ですが、オフライン範囲レコードが現行の制御ファイルよりも古く、レコードの制御ファイルのコピーにアクセスできません。オフライン範囲を含むコントロール・ファイルのコピーが、少なくとも 1 つリカバリ・カタログにあり、使用可能な状態です。

処置: コントロール・ファイルのコピーの名前すべてに対して

RC_CONTROLFILE_COPY ビューを問い合わせ、

CHANGE CONTROLFILECOPY... VALIDATE; コマンドを発行してください。その後で、RECOVER コマンドを再発行してください。

RMAN-06171 ターゲットのデータベースに接続されていません。

原因: コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースとの接続が確立されていませんでした。

処置: CONNECT TARGET コマンドを発行して、ターゲットのデータベースに接続してください。

RMAN-06172 リカバリ・カタログ・データベースに接続されていません。

原因: コマンドが発行されましたが、リカバリ・カタログ・データベースとの接続が確立されていませんでした。

処置: CONNECT RCVCAT コマンドを発行して、リカバリ・カタログ・データベースに接続してください。リカバリ・カタログがない場合には、RMAN を起動するときに NOCATALOG オプションを使用してください。

RMAN-06173 補助リストア時に、データファイル *string* に対する SET NEWNAME コマンドが発行されていません。

原因: 制御ファイルに補助型が指定されましたが、データ・ファイルに SET NEWNAME コマンドが発行されていません。

処置: リカバリ・セットの各データ・ファイルに SET NEWNAME コマンドを発行してください。

RMAN-06174 補助データベースに接続されていません。

原因: 補助コマンドが発行されましたが、補助データベースとの接続が確立されていませんでした。

処置: CONNECT AUXILIARY コマンドを発行して、補助データベースに接続してください。

RMAN-06175 スクリプト : *string* は削除されました。

原因: DELETE SCRIPT コマンドが実行されました。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06176 リカバリは不要です。全ファイルが読み込み専用またはオフラインです。

原因: リカバリするファイルすべてがオフラインまたは読取り専用なので、RECOVER DATABASE コマンドはどのファイルもリカバリする必要ありません。これは、SKIP 句がシステムの表領域を含むときのみ発生します。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06177 リストアを実行されませんでした。全ファイルが読み込み専用またはオフライン、またはすでにリストア済みです。

原因: リストアされているファイルすべてがオフラインであるか、読み取り専用であるか、またはすでに正しい位置にリストアされているので、RESTORE コマンドはどのファイルもリストアする必要がありません。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06178 ファイルがオフラインのため、データ・ファイル *number* は処理されません。

原因: 望ましい Point-in-Time ではオフライン・クリーンなので、RESTORE DATABASE または RECOVER DATABASE コマンドは指定されたデータ・ファイルの処理を省略しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06179 ファイルが読み取り専用のため、データ・ファイル *number* は処理されません。

原因: 望ましい Point-in-Time ではオフライン・クリーンなので、RESTORE DATABASE または RECOVER DATABASE コマンドは指定されたデータ・ファイルの処理を省略しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06180 増分バックアップには Oracle8 Enterprise Edition が必要です。

原因: INCREMENTAL LEVEL > 0 で BACKUP コマンドが指定されました。

処置: FULL または INCREMENTAL LEVEL = 0 を使用してください。

RMAN-06181 複数チャネルには Oracle8 Enterprise Edition が必要です。

原因: ジョブに 2 つ以上のチャネルを割り当てようとしています。

処置: 1 つの ALLOCATE CHANNEL コマンド以外のすべてを削除してください。

RMAN-06182 アーカイブログが SETSIZE を超えています: スレッド *string seqstring string*

原因: BACKUP ARCHIVELOG コマンドが設定した SETSIZE オペランドが小さすぎます。指定したアーカイブ・ログのサイズは、SETSIZE が許可するサイズを超えています。

処置: SETSIZE の制限を増やしてください。

RMAN-06183 データファイルまたはデータファイル・コピーが SETSIZE を超えています: ファイル番号 *string string*

原因: 指定した BACKUP DATAFILE (コピー) コマンドが設定した SETSIZE オペランドが小さすぎます。指定したデータ・ファイルのサイズは、SETSIZE が許可するサイズを超えています。

処置: SETSIZE の制限を増やしてください。

RMAN-06184 バックアップ指定子内のオブジェクトが重複しています。: *string string*

原因: BACKUP コマンドが、同じデータ・ファイルまたはデータ・ファイルのコピーを複数回指定しています。

処置: 重複を排除してください。

RMAN-06185 Recovery Manager が *string* データベースに不適合です :RMAN *number.number.number* ~ *number.number.number* が必要です。

原因: Recovery Manager のこのバージョンが、このデータベースまたはこのデータベースにインストールされている DBMS_BACKUP_RESTORE パッケージと不適合です。

処置: データベースが前のバージョンからアップグレードされた場合、CATXXXX.SQL スクリプトが正常に実行されることを確認してください。必要に応じて、DBMSBKRS.SQL および PRVTBKRS.PLB を再インストールしてください。そうでない場合、エラー・メッセージで指定された範囲内で、RMAN のバージョンを使用してください。

RMAN-06186 PL/SQL パッケージ *string.string* バージョン *string* (*string* データベース内) は旧式です。

原因: 指定された PL/SQL パッケージのバージョンは古すぎて、Recovery Manager (RMAN) のこのバージョンとは動作できません。

処置: このデータベースが RCVCAT の場合、UPGRADE CATALOG コマンドを使用して、リカバリ・カタログを最新のバージョンにアップグレードできます。データベースが TARGET または AUXILIARY の場合、このデータベースをアップグレードするか、または RMAN の古いバージョンを使用する必要があります。

RMAN-06187 制御ファイルのコピー *string* が見つからないか、またはカタログと同期していません。

原因: 指示ファイルが見つからないか、または見つかったりリカバリ・カタログで考えられていたファイルと異なります。Recovery Manager 外の操作でファイルが変更されたか、または Recovery Manager がターゲット・データベースと再同期されてない可能性があります。

処置: ファイルを再カタログして、操作をやり直してください。

RMAN-06188 ターゲット・データベースに接続しているときにコマンドは使用できません。

原因: ターゲット・データベースに接続がないときのみ使用できるコマンドが、発行されようとしています。

処置: そのコマンドの使用を避けるか、または RMAN を再起動して、ターゲット・データベースに接続する前にコマンドを使用してください。

RMAN-06189 現行の DBID *number* はマウントしたターゲット・データベース (*number*) と一致しません。

原因: SET DBID が使用され、RMAN が接続しているデータベースの DBID と一致しない DBID を設定しました。

処置: 現行の操作がデータベースをコピーするリストアの場合、データベースをマウントしないでください。そうでない場合、SET DBID コマンドの使用を避けるか、または RMAN を再起動してください。

RMAN-06190 PL/SQL パッケージ *string.string* バージョン *string* (*string* データベース内) は最新ではありません。

原因: RMAN は、指定されたパッケージの古いバージョンを検出しました。RMAN は下位互換モードで実行します。

処置: 処置は必要ありませんが、下位互換モードで実行する、特定の機能およびエラー修正が使用できない場合があります。データベースが RCVCAT の場合、UPGRADE CATALOG コマンドを使用して、リカバリ・カタログを最新のバージョンにアップグレードできます。データベースが TARGET または AUXILIARY の場合、このデータベースをアップグレードするか、または RMAN の古いバージョンを使用する必要があります。ターゲット・データベースまたは補助データベースをアップグレードするために実行する必要のあるファイルは、DBMSRMAN.SQL および PRVTRMAN.PLB です。

RMAN-06191 PL/SQL パッケージ *string.string* バージョン *string* (*string* データベース内) は最新すぎます。

原因: RMAN は、指定されたパッケージで互換性のないバージョンを検出しました。

処置: Recovery Manager の新しいバージョンを使用してください。メッセージ 6439 で最低限必要な Recovery Manager のバージョンを表示します。

RMAN-06193 ターゲット・データベースに接続しました (起動していません)。

原因: 他の RMAN コマンドを発行する前に、データベースを起動する必要があります。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06194 ターゲット・データベースのインスタンスが起動していません。

原因: ターゲット・データベースのインスタンスの起動を要求するコマンドが発行されました。

処置: STARTUP コマンドを発行して、そのインスタンスを起動してください。

RMAN-06195 補助データベースが起動されていません。

原因: 補助データベースのインスタンスの起動を要求するコマンドが発行されました。

処置: STARTUP AUXILIARY コマンドを発行してください。

RMAN-06196 Oracle インスタンスが起動されました。

原因: 正常に STARTUP コマンドの実行を完了しました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06200 アーカイブ・ログのコピー・リスト

原因: RMAN-06203 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06201 キー Thrd Seq S 完了時刻 名前

原因: RMAN-06203 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06202 -----

原因: RMAN-06203 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06203 string string string string string string

原因: このメッセージは、LIST COPY OF ARCHIVELOG コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。次のフィールドが各アーカイブ・ログに表示されます。

- **キー:** リカバリ・カタログでこのアーカイブ・ログを識別している一意キー。この値は、CHANGE コマンドで使用でき、ログの状態を変更します。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、このフィールドは 0 (ゼロ) です。

- **Thrd:** ログのスレッド番号。

- **Seq:** ログのスレッド内での順序番号。

- **S:** これはファイルの状態です。使用される値は次のとおりです。

- * A - 使用可能 (Available)
- * U - 使用不可能 (Unavailable)
- * D - 削除 (Deleted Status)

ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、"U" は使用されません。

- **完了時刻:** ログがアーカイブまたはコピーされた日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付形式で印刷されます。

- **名前:** ログのファイル名。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06205 制御ファイルのコピー・リスト

RMAN-06206 キー S 完了時刻 Ckp SCN Ckp 時刻 名前

RMAN-06207 -----

RMAN-06208 string string string string string string

原因: このメッセージは、LIST COPY OF に応答して発行されます。

処置: 処置はありません。

RMAN-06210 データファイルのコピー・リスト

原因: RMAN-06213 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06211 キー File S 完了時刻 Ckp SCN Ckp 時刻 名前

原因: RMAN-06213 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06212 -----

原因: RMAN-06213 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06213 string string string string string string string

原因: このメッセージは、LIST COPY OF DATABASE/TABLESPACE/DATAFILE コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。次のフィールドは各データ・ファイル・コピーに表示されます。

- **キー:** リカバリ・カタログでこのデータ・ファイル・コピーを識別している一意キー。この値は、CHANGE コマンドで使用でき、コピーの状態を変更します。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用された場合、このフィールドは制御ファイルでこのコピーを一意に識別します。
- **File:** このファイルのコピー元のファイル番号。
- **S:** これはファイルの状態です。使用される値は次のとおりです。
 - * A - 使用可能 (Available)
 - * U - 使用不可能 (Unavailable)
 - * D - 削除 (Deleted Status)

ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、'U' は使用されません。

- **完了時刻**: データ・ファイル・コピーが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付形式で印刷されます。
- **Ckp SCN**: データ・ファイル・コピーのチェックポイント SCN。ファイルは、この SCN を過ぎる前に行われた変更すべてを含みます。
- **Ckp 時刻**: 最後にチェックポイントを通過したファイルの時刻。
- **名前**: データ・ファイル・コピーのファイル名。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06220 アーカイブ・ログ挿入リスト

原因: RMAN-06223 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06221 Thrd Seq 完了時刻

原因: RMAN-06223 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06222 -----

原因: RMAN-06223 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06223 string string string string string string

原因: このメッセージは、LIST BACKUP OF ARCHIVELOG コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。レポートに含まれるには、バックアップ・セットの完全なコピーが最低 1 つは必要になります。DEVICE TYPE オプションがレポート・コマンドに指定されている場合、リストはその指定デバイスにあるバックアップ・セットのみを含みます。そうでない場合、リストは使用可能なバックアップ・セットをすべて含みます。次のフィールドは、バックアップ・セットにある各アーカイブ・ログに表示されます。

- **キー**: リカバリ・カタログでこのバックアップ・セットを識別している一意キー。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、このフィールドは、ターゲット・データベースの制御ファイルでこのバックアップ・セットを識別する一意の識別子です。
- **Thrd**: ログのスレッド番号。
- **Seq**: ログのスレッド内での順序番号。
- **完了時刻**: バックアップ・セットが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付形式で印刷されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06230 バックアップ集合リスト

原因: RMAN-06233 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06231 キー Recid スタンプ LV 集合スタンプ 集合件数 完了時刻

原因: RMAN-06233 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06232 -----

原因: RMAN-06233 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06233 string string string string string string string

原因: このメッセージは、LIST BACKUP OF DATABASE/TABLESPACE/DATAFILE コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。レポートに含まれるには、バックアップ・セットの完全なコピーが最低 1 つは必要になります。DEVICE TYPE オプションがレポート・コマンドに指定されている場合、リストはその指定デバイスにあるバックアップ・セットのみを含みます。そうでない場合、リストは使用可能なバックアップ・セットをすべて含みます。次のフィールドは、バックアップ・セットにある各データ・ファイルに表示されます。

- **キー:** リカバリ・カタログでこのバックアップ・セットを識別している一意キー。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用されている場合、このフィールドは、ターゲット・データベースの制御ファイルでこのバックアップ・セットを識別する一意の識別子です。
- **File:** バックアップされたファイルのファイル番号。
- **Type:** バックアップの型。使用される値は次のとおりです。
 - * Full: 全体（または増分レベルが 0（ゼロ）の）バックアップ
 - * Incremental: 増分バックアップ
 - * Cumulative: 累積増分バックアップ
- **LV:** 増分バックアップ・レベル。
- **完了時刻:** バックアップ・セットが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付形式で印刷されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06234 バックアップ断片リスト

RMAN-06235 キー Pc# Cp# ステータス 完了時刻 断片名

RMAN-06236 -----

RMAN-06237 *string string string string string string*

RMAN-06238 データファイル挿入リスト

RMAN-06239 ファイル名 LV 型 Ckp SCN Ckp 時刻

RMAN-06240 -----

RMAN-06241 *string string string string string string*

RMAN-06242 制御ファイル挿入リスト

RMAN-06243 Ckp SCN Ckp 時刻

RMAN-06244 -----

RMAN-06245 *string string*

RMAN-06246 データベース再現リスト

原因: RMAN-06249 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06247 DB キー Inc キー DB 名 DB ID CUR リセット SCN リセット時刻

原因: RMAN-06249 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06248 -----

原因: RMAN-06249 を参照してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06249 *string string string string string string string*

原因: このメッセージは、LIST INCARNATION OF DATABASE コマンドに応答して発行されます。次のフィールドは、リカバリ・カタログで登録した各データベースに表示されます。

- DB キー: リカバリ・カタログでこのデータベースを識別している一意キー。
- Inc キー: リカバリ・カタログでこのデータベースのインカネーションを識別している一意キー。
- DB 名: データベースの名前。
- DB ID: データベースの ID。これは、たとえデータベース名が変更されても、データベースの存続期間中は変更されない番号です。
- CUR: これがこのデータベースのインカネーションである場合、'YES' で、そうでない場合は 'NO' です。
- リセット SCN: 最新リセットログ操作の SCN。

- **リセット時刻**: 最新リセットログ操作の時刻。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06250 リカバリ不能な操作のためバックアップの必要なファイルの一覧

原因: RMAN-06253 を参照してください。

処置: RMAN-06253 を参照してください。

RMAN-06251 File 必要なバックアップの型 名前

原因: RMAN-06253 を参照してください。

処置: RMAN-06253 を参照してください。

RMAN-06252 -----

原因: RMAN-06253 を参照してください。

処置: RMAN-06253 を参照してください。

RMAN-06253 string string string

原因: このファイルに、記録されない ('create table unrecoverable' のような) 変更が発生しました。ファイルの最新バックアップは、その変更を含んでいません。

処置: このファイルのバックアップを行ってください。バックアップする前にこのファイルが消失した場合、記録されていない変更も消失します。このメッセージは、全体バックアップが必要かどうか、または増分バックアップが十分であるかどうかを示しています。

RMAN-06260 リカバリ時に *number* より多いインクリメントを要するファイルの一覧

原因: RMAN-06263 を参照してください。

処置: RMAN-06263 を参照してください。

RMAN-06261 File インクリメント 名前

原因: RMAN-06263 を参照してください。

処置: RMAN-06263 を参照してください。

RMAN-06262 -----

原因: RMAN-06263 を参照してください。

処置: RMAN-06263 を参照してください。

RMAN-06263 string string string

原因: このメッセージは、リカバリ時に指定より多い数の増分バックアップを使用するファイルのために、REPORT NEED BACKUP INCREMENTAL コマンドに応答して発行されます。

処置: このデータ・ファイルのリカバリ時に使用される増分バックアップの数を減らすため、このファイルの全体バックアップをここで新たに行ってください。

RMAN-06270 リカバリに *number* より多い日数のアーカイブログが必要なファイルの一覧

原因：RMAN-06273 を参照してください。

処置：RMAN-06273 を参照してください。

RMAN-06271 File 日数 名前

原因：RMAN-06273 を参照してください。

処置：RMAN-06273 を参照してください。

RMAN-06272 -----

原因：RMAN-06273 を参照してください。

処置：RMAN-06273 を参照してください。

RMAN-06273 *string string string*

原因：このメッセージは、リカバリに指定より多い日数のアーカイブ・ログを必要とするファイルのために、REPORT NEED BACKUP DAYS コマンドに応答して発行されません。

処置：このデータ・ファイルのリカバリに必要なログ・ファイルの数を減らすために、全体バックアップまたは増分バックアップをここで新たに行ってください。

RMAN-06280 古いバックアップおよびコピーのレポート

原因：RMAN-06285 を参照してください。

処置：RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06281 タイプ キー 完了時刻 ファイル名 / ハンドル

原因：RMAN-06285 を参照してください。

処置：RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06282 -----

原因：RMAN-06285 を参照してください。

処置：RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06283 データファイル・コピー *string string string*

原因：RMAN-06285 を参照してください。

処置：RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06284 バックアップ集合 *string string*

原因：RMAN-06285 を参照してください。

処置：RMAN-06285 を参照してください。

RMAN-06285 バックアップ部分 *string string*

原因: このメッセージは、REPORT OBSOLETE コマンドに応答して発行されます。REPORT コマンドで指定された冗長レベルを超えているので、リストされた各ファイルは廃棄されます。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06286 プロキシ・コピー *string string string*

原因: このメッセージは、REPORT OBSOLETE コマンドに応答して発行されます。REPORT コマンドで指定された冗レベルを超えているので、リストされた各ファイルは廃棄されます。

RMAN-06290 データベース・スキーマのレポート

原因: RMAN-06293 を参照してください。

処置: RMAN-06293 を参照してください。

RMAN-06291 ファイル キロバイト 表領域 RB segs 名前

原因: RMAN-06293 を参照してください。

処置: RMAN-06293 を参照してください。

RMAN-06292 -----

原因: RMAN-06293 を参照してください。

処置: RMAN-06293 を参照してください。

RMAN-06293 *string string string string string*

原因: このメッセージは、REPORT SCHEMA コマンドに応答して発行されます。レポートには、指示された時刻のデータベースの物理スキーマが表示されます。次のフィールドは、各データ・ファイルに表示されます。

- **ファイル:** ファイル番号。
- **キロバイト:** ファイルのサイズ。
- **表領域:** このファイルに含まれる表領域の名前。
- **RB segs:** このファイルがロールバック・セグメントを含む表領域の一部である場合 YES で、そうでない場合は NO です。
- **名前:** ファイル名。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06300 Report of files with less than *number* redundant backups

原因: RMAN-06303 を参照してください。

処置: RMAN-06303 を参照してください。

RMAN-06301 File #bkps Name

原因: RMAN-06303 を参照してください。

処置: RMAN-06303 を参照してください。

RMAN-06302 -----

原因: RMAN-06303 を参照してください。

処置: RMAN-06303 を参照してください。

RMAN-06303 string string string

原因: このメッセージは、リカバリに使用されるバックアップが指定数より少ないファイルに対して REPORT NEED BACKUP REDUNDANCY コマンドが使用されるときに発行されます。

処置: リストされたファイルの別のバックアップを行ってください。

RMAN-06310 プロキシ・コピーのリスト

原因: RMAN-06313 を参照してください。

処置: RMAN-06313 を参照してください。

RMAN-06311 キー ファイル S 完了時刻 Ckp SCN Ckp 時刻 ハンドル

原因: RMAN-06313 を参照してください。

処置: RMAN-06313 を参照してください。

RMAN-06312 -----

原因: RMAN-06313 を参照してください。

処置: RMAN-06313 を参照してください。

RMAN-06313 string string string string string string string

原因: このメッセージは、PROXY オプションでいくつかのバックアップが行われたときに、LIST BACKUP DATABASE/TABLESPACE/DATAFILE コマンドに応答して発行されます。リカバリ・カタログが使用中の場合、リカバリ・カタログから情報が取り出され、そうでない場合、ターゲット・データベース制御ファイルから情報が取り出されます。次のフィールドは、各プロキシ・データ・ファイル・バックアップに表示されます。

- **キー:** リカバリ・カタログでこのプロキシのバックアップを識別している一意キー。この値は CHANGE コマンドで使用され、そのステータスを変更します。ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用された場合、このフィールドは制御ファイルでこのコピーを一意に識別します。
- **ファイル:** このファイルのコピー元のファイル番号。
- **S:** これはファイルの状態です。使用される値は次のとおりです。

* A - 使用可能 (Available)

- * U - 使用不可能 (Unavailable)
- * D - 削除 (Deleted)
- * X - 無効 (Expired)

ターゲット・データベースの制御ファイルがリカバリ・カタログとして使用された場合、ステータス 'U' は使用されません。

- **完了時刻**: バックアップが作成された日付および時刻。この列は、NLS_DATE_FORMAT 環境変数で上書きされない場合、既定の Oracle 日付形式で印刷されます。
- **Ckp SCN**: バックアップのチェックポイント SCN。ファイルは、この SCN を過ぎる前に行われた変更すべてを含みます。
- **Ckp 時刻**: 最後にチェックポイントを通過したファイルの時刻。
- **ハンドル**: プロキシのバックアップのメディア・マネージャ・ハンドル。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06400 データベースがオープンしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06401 データベースは既に起動しています。

原因: FORCE オプションを使用せずに STARTUP コマンドが発行されましたが、ターゲット・データベースはすでに起動しています。

処置: データベースを再起動する場合、FORCE オプションを使用してください。

RMAN-06402 Oracle インスタンスのシャットダウン。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06403 完全に認可されたセッションを取得することができません。

原因: このエラーの最も可能性の高い原因として、RMAN が以前に接続していたデータベースの 1 つが起動していないか、シャットダウンしています。他のエラー・メッセージは、どのデータベースに問題があるのかを確実に識別します。

処置: 問題のあるデータベースを起動してください。

RMAN-06404 データベースがディスマウントされました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06405 データベースが閉じました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06406 アーカイブ・ログを削除しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06408 リカバリ・カタログがバージョン *string* にアップグレードされました。

原因: これは UPGRADE CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。アップグレードされたリカバリ・カタログ・スキーマのバージョンを示しています。リカバリ・カタログ・スキーマは Oracle の各リリースとともに変更されないために、このバージョン番号は、ご使用の RMAN 実行ファイルまたはターゲット・データベースの番号を表していない可能性があることに注意してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06409 LIST BACKUP OF ARCHIVELOG で LIKE 句はサポートされません。

原因: サポートされない LIST BACKUP OF ARCHIVELOG LIKE が使用されました。

処置: コマンドから LIKE 句を削除してください。

RMAN-06410 チャンネルが割り当てられている時には、コマンドを使用することはできません。

原因: チャンネルが割り当てられないときのみ使用できるコマンドが、発行されようとしています。

処置: そのコマンドを使用しないか、またはチャンネルの割当て解除をして、チャンネルが割り当てられないときにそのコマンドを使用してください。

RMAN-06411 (1-4) : *number* の範囲に二重設定があります。

原因: 無効な値に二重設定しようとしています。

処置: 指定された範囲内の値を使用してください。

RMAN-06412 プロキシ・コピー・チャンネルが見つかりません。

原因: プロキシ・コピーが起動されましたが、割り当てられたチャンネルはプロキシ・コピーをサポートしていません。これは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアがプロキシ・コピーをサポートしないか、または割当てチャンネルすべてが DISK 型で、プロキシ・コピーをサポートしないことが原因である可能性があります。

処置: これがバックアップの場合、DISK 型でないチャンネルを割り当てるか、または PROXY オプションを使用しないでください。これがリストアの場合、プロキシのバックアップを作成するのと同じ型のチャンネルが割り当てられましたが、現在はプロキシ・コピーをサポートしません。プロキシ・コピーがターゲット・データベースのメディア管理ソフトウェアでサポートされなくなった場合、バックアップがこれ以降のリストアで使用されないように、CROSSCHECK または CHANGE コマンドを使用してください。

RMAN-06413 チャンネル *string* は、プロキシ・コピーをサポートしません。

原因: このバックアップまたはリストアに指定されたチャンネルは、プロキシ・コピーをサポートしません。これは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアがプロキシ・コピーをサポートしないか、またはチャンネルが DISK 型で、プロキシ・コピーをサポートしないことが原因である可能性があります。

処置: これがバックアップの場合、DISK 型でないチャンネルを割り当てるか、または PROXY オプションを使用しないでください。これがリストアの場合、プロキシのバックアップを作成するのと同じ型のチャンネルが割り当てられましたが、現在はプロキシ・コピーをサポートしません。プロキシ・コピーがターゲット・データベースのメディア管理ソフトウェアでサポートされなくなった場合、バックアップがこれ以降のリストアで使用されないように、CROSSCHECK コマンドを使用してください。

RMAN-06414 ターゲット・データベース COMPATIBLE オプションは、プロキシ・コピーをサポートしません。

原因: PROXY が指定され、ターゲット・データベースがプロキシ・コピーをサポートするメディア・マネージャを使用していますが、プロキシのバックアップを作成するにはターゲット・データベースの COMPATIBLE 初期化パラメータは 8.1.0 以上である必要があります。データベースが COMPATIBLE パラメータで指定された以前のリリースにダウングレードされる場合、そのデータベースはプロキシのバックアップをリストアできなくなります。

処置: プロキシでないバックアップを行うか、またはターゲット・データベースの COMPATIBLE パラメータを変更してください。

RMAN-06415 ファイル *string* は、プロキシ・バックアップができません。

原因: PROXY オプションが指定されましたが、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアは、プロキシ・コピーを使用している指定されたファイルをバックアップできません。PROXY ONLY が指定された場合、バックアップは強制終了されます。PROXY が指定された場合、このファイルはプロキシでないバックアップ・セットに置かれます。

処置: ONLY オプションを削除してファイルを標準のバックアップ・セットに置くか、またはメディア管理ソフトウェアがこのファイルのプロキシ・コピーをサポートする必要があると思われる場合、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

RMAN-06416 PROXY ONLY が指定され、ファイルの中にはプロキシ・コピーのできないものがあります。

原因：PROXY ONLY が指定され、バックアップすべきいくつかのファイルは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアでバックアップできません。メッセージ 6415 がプロキシ・コピーできない各ファイルに表示されます。

処置：ONLY オプションを削除してファイルを標準のバックアップ・セットに置くか、またはメディア管理ソフトウェアがこのファイルのプロキシ・コピーをサポートする必要があると思われる場合、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。

RMAN-06417 アーカイブ・ログのプロキシ・バックアップはサポートされていません。

原因：BACKUP PROXY ARCHIVELOG コマンドが入力されました。アーカイブ・ログのプロキシのバックアップはまだサポートされていません。

処置：別のコマンドを入力してください。

RMAN-06418 プロキシの増分バックアップでレベル >0 はサポートされていません。

原因：レベルが 0（ゼロ）でない増分バックアップに PROXY が指定されました。プロキシのバックアップは完全またはレベルが 0（ゼロ）のバックアップである必要があります。

処置：どちらか 1 つを削除してください。

RMAN-06419 ファイル *string* は、ハンドル *string* からプロキシをリストアすることができません。

原因：ターゲット・データベースで使用するメディア管理ソフトウェアは、このファイルを指定されたバックアップ・ハンドルからリストアできないことを示しています。

処置：メディア管理ソフトウェアのドキュメントを参照して、この制限事項が存在する理由を見つけ出すか、またはメディア管理製品のベンダーに連絡してください。

RMAN-06420 ファイルの中には、プロキシ・リストアができないものがあります。- リストアの異常終了。

原因：リストアされるべきファイルのいくつかは、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアではリストアできません。メッセージ 6419 がリストアできない各ファイルに表示されます。

処置：メディア管理ソフトウェアがこれらのファイルのプロキシ・コピーをサポートする必要があると思われる場合、メディア管理製品のベンダーに連絡してください。RESTORE コマンドがこれらのプロキシのバックアップからのリストアを試行しないようにするには、CROSSCHECK または CHANGE コマンドを使用して、カタログからプロキシ・コピーを削除してください。

RMAN-06421 コマンドをチャンネル *string* へ送信

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-06422 SEND コマンドのチャンネルが見つかりません。

原因: 指定された名前またはデバイス型で、チャンネルが見つかりませんでした。チャンネルの識別子が指定されない場合、チャンネルは割り当てられません。

処置: 別のチャンネル型を指定するか、または要求にあった型のチャンネルを割り当ててください。

RMAN-06423 要求制限 *number* は、ベンダー制限 *number* を超過しています。

原因: バックアップ・ピースのサイズを設定するために SETLIMIT CHANNEL コマンドが使用されましたが、ターゲット・データベースに使用されるメディア管理ソフトウェアは、その大きさのバックアップ・ピースを作成できません。

処置: バックアップ・ピースの制限を小さく指定してください。

RMAN-06424 プロキシ・コピーを検索中にエラーが起きました。

原因: リカバリ・カタログまたはターゲット・データベース制御ファイルでこのプロキシ・コピーを検索中に、エラーが発生しました。

処置: このエラーの後には、障害の理由を説明するその他のエラー・メッセージが示されます。名前またはキーが正しく入力されていることを確認してください。リカバリ・カタログが使用不能時にプロキシ・コピーを作成した場合は、RESYNC CATALOG を実行してリカバリ・カタログを更新してください。

RMAN-06425 < データ・ファイルのパス名は、利用できません。 >

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06426 RECOVERY_CATALOG_OWNER ロールをユーザー *string* に付与する必要があります。

原因: CREATE CATALOG または UPGRADE CATALOG コマンドが使用されましたが、RCV CAT の接続文字列にあるユーザー ID は、DEFAULT ロールとして付与された RECOVERY_CATALOG_OWNER ロールを所持できません。

処置: RECOVERY_CATALOG_OWNER ロールをリカバリ・カタログの所有者に付与してください。

RMAN-06427 リカバリ・カタログはすでに存在します。

原因: リカバリ・カタログがすでに存在する場合、CREATE CATALOG コマンドは使用できません。

処置: UPGRADE CATALOG コマンドを使用して、既存のバックアップ・データを紛失しないで、ご使用のリカバリ・カタログを最新リリースにアップグレードしてください。既存のリカバリ・カタログを削除するには、DROP CATALOG コマンドを使用してください。

RMAN-06428 リカバリ・カタログがインストールされていません。

原因: リカバリ・カタログ・データベースへの接続が行われましたが、リカバリ・カタログの表およびビューはまだインストールされていません。

処置: リカバリ・カタログ所有者のユーザー ID を正しく入力しなかった場合、間違ったユーザー ID を修正し、リカバリ・カタログに再接続してください。このリカバリ・カタログの所有者のユーザー ID で Recovery Manager に初めて署名した場合、CREATE CATALOG コマンドを使用してリカバリ・カタログ・スキーマを作成してください。

RMAN-06429 *string* データベースはこの RMAN バージョンとの互換性がありません。

原因: 指定されたデータベースは、Recovery Manager (RMAN) のこのバージョンとの互換性がありません。エラーの原因の詳細を記した他のメッセージも表示されました。

処置: 他のメッセージを参照してください。データベースが RCVCAT の場合、問題を修正するために、CREATE CATALOG または UPGRADE CATALOG コマンドを使用できる可能性があります。データベースが TARGET または AUXILIARY の場合、ターゲット・データベースをアップグレードするか、または RMAN 実行ファイルの新しいバージョンを使用してください。

RMAN-06430 リカバリ・カタログのユーザー ID を SYS にすることはできません。

原因: リカバリ・カタログが SYS というユーザー ID に接続されました。リカバリ・カタログを SYS 以外のユーザー ID で作成する必要があります。

処置: RCVCAT の接続文字列に別のユーザー ID を指定してください。

RMAN-06431 リカバリ・カタログが作成されました。

原因: これは CREATE CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06432 リカバリ・カタログが削除されました。

原因: これは DROP CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06433 リカバリ・カタログのインストール中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログ・データベースでインストール中にエラーが発生しました。別のエラー・メッセージがサーバーのエラー・メッセージを表示しています。

処置: リカバリ・カタログのインストールで発生する障害の最も一般的な理由は、次のとおりです。

- リカバリ・カタログ・データベースの領域不足: さらに領域を割り当て、DROP CATALOG コマンドを使用して部分的にインストールされたりリカバリ・カタログを削除し、コマンドを再試行してください。

-
- オブジェクトがすでに存在している：これはリカバリ・カタログの部分的インストールによるものです。DROP CATALOG コマンドを使用して部分的にインストールされたりリカバリ・カタログを削除し、コマンドを再実行してください。

RMAN-06434 リカバリ・カタログの削除中になんらかのエラーが発生しました。

原因：リカバリ・カタログを削除中に、リカバリ・カタログからなんらかのエラーが発生しました。

処置：エラーを修正して、コマンドを再実行してください。Recovery Manager が一般的なエラーを阻止および無視することに注意してください。そのエラーとは、「オブジェクトが見つかりません」のような、部分的にインストールされたりリカバリ・カタログを削除中に発生する可能性のあるエラーです。リカバリ・カタログを削除中には、深刻なエラーのみが表示されます。

RMAN-06435 リカバリ・カタログの所有者は *string* です。

原因：これは、UPGRADE CATALOG および DROP CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-06436 DROP CATALOG コマンドを再入力して、カタログの削除を確認してください。

原因：DROP CATALOG コマンドは、データベースのバックアップすべてを使用不可能にしてリカバリ・カタログを削除するので、十分注意が必要です。これが実際に希望する動作なのかを確認するために、コマンドを 2 回入力する必要があります。

処置：リカバリ・カタログの削除を希望する場合、DROP CATALOG コマンドを再入力してください。

RMAN-06437 カatalogを削除できません - RMAN よりもCatalogの方が最新です。

原因：DROP CATALOG コマンドは入力されましたが、リカバリ・カタログは Recovery Manager (RMAN) の最新バージョンで作成されました。RMAN のこのバージョンは全体のリカバリ・カタログを削除できない可能性があります。

処置：リカバリ・カタログを最近作成またはアップグレードした RMAN のバージョンを使用してください。

RMAN-06438 *string* データベースのパッケージ DBMS_RCVMAN を実行中にエラーが発生しました。

原因：Recovery Manager は、このデータベースの SYS スキーマのパッケージ DBMS_RCVMAN を必要としています。このパッケージは通常データベース作成中にインストールされます。

処置：パッケージを再作成するには、DBMSRMAN.SQL および PRVTRMNS.PLB ファイルを実行してください。

RMAN-06439 このパッケージで作業するには、RMAN をバージョン *string* にアップグレードする必要があります。

原因: このメッセージは、メッセージ 6191 に指定されたパッケージを使用するよう要求された Recovery Manager の最低限必要なバージョンを表示しています。

処置: このパッケージでは、RMAN の最新バージョンを使用してください。

RMAN-06441 カタログをアップグレードできません - カタログの方が RMAN よりも最新です。

原因: リカバリ・カタログは、すでに Recovery Manager のこのバージョンよりも大きいバージョン・レベルです。UPGRADE CATALOG コマンドは必要ありません。

処置: さらに新しい Recovery Manager にアップグレードするか、または現行のバージョンをそのまま使用してください。リカバリ・カタログが新しすぎて Recovery Manager のこのバージョンで作業できない場合、メッセージ 6191 が発行されます。

RMAN-06442 UPGRADE CATALOG コマンドを再入力して、カタログの更新を確認してください。

原因: UPGRADE CATALOG コマンドはリカバリ・カタログ・スキーマを変更します。リカバリ・カタログは、Recovery Manager (RMAN) の古いバージョンと互換性があるように設計されていますが、アップグレードすることによって RMAN の古いバージョンのサポートを削除する可能性があります。

処置: リカバリ・カタログをアップグレードする場合、UPGRADE CATALOG コマンドを再入力してください。このリカバリ・カタログで RMAN の古いバージョンを使用する場合、互換性の問題はありません。リカバリ・カタログで RMAN の古いバージョンをそのまま使用する予定もある場合、アップグレードする前に、『Oracle8i 移行ガイド』またはカレントの Oracle リリースの移行ガイドを参照して、リカバリ・カタログの現行バージョンのアップグレードが、古いバージョンのサポートを削除するかを判断してください。

RMAN-06443 リカバリ・カタログのアップグレード中にエラーが発生しました。

原因: リカバリ・カタログをアップグレード中に、エラーが発生しました。

処置: エラーを修正して、コマンドを再実行してください。Recovery Manager は一般的なエラーを阻止および無視することに注意してください。そのエラーとは、「列はすでに存在します」のような、リカバリ・カタログがすでに部分的にアップグレードされた場合に発生する可能性のあるエラーです。リカバリ・カタログをアップグレード中には、深刻なエラーのみが表示されます。

RMAN-06444 *string* の作成でコンパイル・エラーが発生しました。

原因: CREATE CATALOG または UPGRADE CATALOG コマンドを発行中に、PL/SQL のコンパイル・エラーのため、指定された PL/SQL のパッケージ仕様部または本体を作成できませんでした。

処置: リカバリ・カタログに使用される PL/SQL パッケージは、RECOVER.BSQ ライブラリにあり、変更すべきではありません。RECOVER.BSQ ファイルが変更または破損していないことを確認して、このエラーが繰り返される場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。リカバリ・カタログの所有者に連絡し、USER_ERRORS ビューを検索して、コンパイル・エラーの詳細を検索してください。

RMAN-06445 NOCATALOG が使用された後はリカバリ・カタログに接続できません。

原因: ユーザーが NOCATALOG オプションをすでに指定した後で、CONNECT CATALOG コマンドが使用されました。

処置: リカバリ・カタログを使用する場合、RMAN を再起動させてください。

RMAN-06446 プロキシ・コピーが使用禁止に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06447 プロキシ・コピーが使用可能に変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06448 プロキシ・コピーがカタログ除去されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06449 プロキシ・コピーが削除されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06450 プロキシ・コピーが相互チェックされました: *string* が検出されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06451 プロキシ・コピー・ハンドル =*string* recid=*string* stamp=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06452 *string* パッケージはバージョン *string* にアップグレードされました。

原因: これは UPGRADE CATALOG コマンドで発行された情報メッセージです。このメッセージは、指定されたパッケージのアップグレード先のバージョンを示しています。リカバリ・カタログ・パッケージは Oracle の各リリースとともに変更されないために、このバージョン番号は、ご使用の RMAN 実行ファイルまたはターゲット・データベースの番号を表さない可能性があることに注意してください。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-06453 RECOVERABLE はデータファイル・オブジェクトだけで使用できます。

原因: RECOVERABLE を OF CONTROLFILE または OF ARCHIVELOG と一緒に使用しようとした。

処置: RECOVERABLE キーワードを削除して、文を再実行してください。

RMAN-06454 二重バックアップには Oracle8 Enterprise Edition が必要です。

原因: SET DUPLEX コマンドが指定されました。

処置: SET DUPLEX コマンドを削除してください。

RMAN-06455 値: *string.string.string* の互換性が無効: *string* から *string* の間です。

原因: 互換性に、指定した値を設定できません。

処置: 要求された範囲で値を設定してください。

RMAN-06456 *string.string.string* に互換性が設定されました。

原因: これは情報メッセージです。

RMAN-06457 UNTIL scn (*string*) はアーカイブ・ログ (*string*) の前回 scn より前です。

原因: UNTIL scn は、前回のアーカイブ・ログの最後の scn より多くすることはできません。

処置: UNTIL scn を確認してください。

RMAN-07000 実行レイヤーの初期化に失敗しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

RMAN-07001 チャンネル *string* をオープンできませんでした。

原因: ALLOCATE CHANNEL コマンドを処理できません。

処置: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-07003 コマンド実行時にリカバリ不能なエラーが発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

RMAN-07004 チャンネル *string* でコマンドを実行中に未処理例外が発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

RMAN-07005 チャンネルのクリーンアップ中にエラーが発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

RMAN-07006 チャンネル *string* でクリーンアップ中に未処理例外が発生しました。

原因: このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが表示されます。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

RMAN-07007 *number* を超えるチャンネルは割り当てられません。

原因: RMAN チャンネルの最大数を超過しました。チャンネルが1つ RMAN に確保されていることに注意してください。

処置: 割り当てるチャンネル数を削減してください。1つのジョブにもっと多くのチャンネルを持つ必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-07008 バックアップ・ピース *string* が見つかりません。

原因: AUTOLOCATE が有効になっており、割り当てられているチャンネルからはアクセスできないバックアップ・セットが1つ以上ありました。

処置: クラスタの別のノードに、追加チャンネルを割り当ててください。

RMAN-07009 一部のバックアップ・ピースが見つからなかったため、リストアは異常終了しました。

原因: AUTOLOCATE が有効になっており、割り当てられているチャンネルからはアクセスできないバックアップ・セットが1つ以上ありました。

処置: クラスタの別のノードに、追加チャンネルを割り当ててください。

RMAN-08000 チャンネル *string*: データ・ファイル: *string* をコピーしました。

原因: データ・ファイルのコピー操作は正常に完了しました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

RMAN-08001 リストア未完了

原因: バックアップ・ピースはすべて正常に適用されましたが、X\$DBMS_BACKUP_RESTORE がリストアの対話が完了していないことを示しています。通常、これはバックアップ・セットが破損データを含むことを意味します。

処置: 可能ならば、ファイルを違うバックアップ・セットからリストアしてください。
Recovery Manager の CHANGE BACKUPPIECE UNAVAILABLE を使用して、
Recovery Manager が破損バックアップ・ピースからのリストアを試みることを防ぐことができます。

RMAN-08002 リカバリ・カタログの完全再同期を開始します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08003 リカバリ・カタログの部分再同期を開始します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08004 完全再同期完了

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08005 部分再同期完了

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08006 データベースがリカバリ・カタログに登録されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08007 チャンネル *string*: データファイル *string* のデータファイル・コピーをコピーしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08008 チャンネル *string:string* データファイル・バックアップ集合を開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08009 チャンネル *string*: アーカイブログ・バックアップ集合を開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08010 チャンネル *string*: バックアップ集合にデータファイルを挿入しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08011 現行の制御ファイルをバックアップ集合に挿入しています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08012 バックアップ集合に制御ファイル・コピーを挿入しています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08013 チャンネル *string*: 一部分 : *string* が作成されました。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08014 チャンネル *string*: バックアップ集合にアーカイブログを挿入しています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08015 データファイル *string* はデータファイル・コピーに切り替えられました。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08016 チャンネル *string*: データファイル・バックアップ集合の復旧を開始しています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08017 チャンネル *string*: デフォルトの宛先へのアーカイブログの復旧を開始しています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08018 チャンネル *string*: ユーザー指定の宛先へのアーカイブログの復旧を開始しています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08019 チャンネル *string*: データ・ファイル : *string* をリストアしています。

原因：これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-08021 チャネル *string*: 制御ファイルをリストアしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08022 チャネル *string*: アーカイブログをリストアしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08023 チャネル *string*: バックアップ部分: *string* がリストアされました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08024 チャネル *string*: リストア完了

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08025 チャネル *string*: 制御ファイル・コピーをコピーしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08026 チャネル *string*: アーカイブログをコピーしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08027 チャネル *string*: 現行の制御ファイルをコピーしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08028 チャネル *string*: 現行の制御ファイルのコピーに失敗しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08029 スナップショット制御ファイル名はデフォルト値: *string* に設定されています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08030 チャネル: *string* が割り当てられました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08031 チャンネル: *string* をリリースしました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08032 チャンネル *string*: レコード ID *string*、スタンプ *string* がリカバリ・カタログに一致していません。

原因: コピーまたはバックアップ・データベース用のソース・ファイルを識別するレコードには、リカバリ・カタログに格納されているものと同じデータは含まれていません。

処置: 完全再同期を実行して、操作を再試行してください。それでも問題が続く場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-08033 チャンネル *string*: データファイル *string* のコピーをバックアップセットに挿入しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08034 完全再同期をスキップしました。ターゲット・データベースがマウントされていません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08035 部分再同期をスキップしました。ターゲット・データベースがマウントされていません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08036 チャンネル *string:string string* に対する制御ファイル・レコードを作成できませんでした。

原因: このファイルを識別するレコードはすでにターゲット・データベース制御ファイルになく、レコード作成時にファイル検査を何度も試みましたが失敗しました。これは、このファイル型についての情報を保持する制御ファイルの循環再利用セクションが小さすぎ、使用可能となる前にレコードを上書きしてしまうその他のデータベース・アクティビティがあるために生じます。

処置: このファイル型（エラー・メッセージで示されたように、データ・ファイル・コピーまたはアーカイブ・ログ）の制御ファイルの環境再利用セクションのサイズ、または CONTROL_FILE_RECORD_KEEP_TIME 初期化パラメータの増加を試行してください。これらの処置がいずれも効果がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

RMAN-08037 チャンネル *string*: 予期せぬ妥当性チェック・リターン・コード: *string* です。

原因: これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-08039 チャンネル *string*: インクリメント・データファイル・バックアップセット復旧開始。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08040 完全再同期はスキップ - 制御ファイルは現行 / バックアップではありません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08041 部分再同期はスキップ - 制御ファイルは現行 / バックアップではありません。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08050 データファイル・コピーがカタログに入りました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08051 アーカイブログがカタログに入りました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08052 制御ファイル・コピーがカタログに入りました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08054 メディアのリカバリを開始します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08055 メディアのリカバリが完了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08056 変更がないため、データファイル *string* をスキップしています。

原因: このデータ・ファイルのチェックポイントは、前のバックアップ以降進んでいません。そのため、新しい増分バックアップは不要です。

処置: これは情報メッセージです。

RMAN-08057 チャンネル *string*: 全ファイルがスキップされたので、バックアップは取り消されました。

原因: この増分バックアップ・セットに対する全データ・ファイルがスキップされたため、バックアップ・セットは作成されません。

処置: これは情報メッセージです。

RMAN-08058 制御ファイルをレプリケートしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08059 メディアのリカバリが失敗しました。

RMAN-08060 アーカイブログが見つかりません。

RMAN-08066 データベースがリカバリ・カタログの表示 *string* にリセットされました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08070 データファイル・コピーを削除しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08071 チャンネル *string*: アーカイブログを削除しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08072 制御ファイル・コピーを削除しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08073 バックアップ断片を削除しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08074 相互チェックされたバックアップ・ピース *:string* であることが判明しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08085 スクリプト *string* を作成しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08086 スクリプト *string* を置換しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08087 チャネル *string*: バックアップ集合の妥当性チェックを開始しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08088 データファイル *string* にオフライン範囲が適用されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08089 チャネル *string*: バックアップ・セットからリストアするためにデータ・ファイルを指定します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08090 チャネル *string*: プロキシ・データ・ファイルのリストアを開始します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08091 チャネル *string*: プロキシ・バックアップのためにデータ・ファイルを指定します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08092 チャネル *string*: プロキシ・バックアップのために、データファイル *string* のデータ・ファイル・コピーを指定します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08093 プロキシ・バックアップのために、現行の制御ファイルを指定します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08094 チャンネル *string*: プロキシリストアのために、データ・ファイルを指定します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08095 チャンネル *string*: 一部分 *string* が *string* コピー作成されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08096 チャンネル *string*: データファイル・バックアップ集合の妥当性チェックを開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08097 チャンネル *string*: アーカイブ・ログ・バックアップ集合の妥当性チェックを開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08098 チャンネル *string*: 妥当性チェックが完了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08100 チャンネル *string*: プロキシの妥当性チェックを開始しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08101 チャンネル *string*: プロキシの妥当性チェックが完了しました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08102 チャンネル *string*: 見つかったバックアップ一部分: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08103 チャンネル *string*: 見つからなかったバックアップ一部分: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08500 チャンネル *string:sid=string devtype=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08501 出力ファイル名 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08502 set_count=*string* set_stamp=*string* creation_time=*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08503 部分ハンドル *=string* コメント *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08504 入力アーカイブログ・スレッド *=string* 順序 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08505 出力ファイル名 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08506 入力ファイル名 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08507 入力データファイル・コピー・レコード ID=*string* スタンプ *=string* ファイル名 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08508 アーカイブログ宛先 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08509 データファイル *string* のリストア先: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08510 アーカイブログ・スレッド *=string* 順序 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08511 部分ハンドル *=string* タグ *=string* パラメータ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08512 スナップショット制御ファイル・エンキューを待っています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08513 データファイル・コピー・ファイル名 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08514 アーカイブログ・ファイル名 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08515 アーカイブログ・ファイル名 *=string* スレッド ID=*string* 順序 *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08516 制御ファイル・コピー・ファイル名 *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08517 バックアップ部分ハンドル *=string* レコード ID=*string* スタンプ *=string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08518 チャネル *string*: 制御ファイルのコピー: *string* をスキャンしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08519 チャネル *string*: データ・ファイルのコピー: *string* をスキャンしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08520 チャネル *string*: アーカイブログ: *string* をスキャンしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08521 オフライン範囲 レコード ID=*string* スタンプ =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08522 入力データ・ファイル fno=*string* 名前 =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08523 データ・ファイル *string* を *string* へリストア

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08524 入力制御ファイルコピー名 =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08525 バックアップ・セットが完了しました、経過時間: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08526 チャネル *string*: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08527 チャネル *string*:*string* プロキシ・データ・ファイルのバックアップを、*string* に開始します。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08528 チャンネル *string*: プロキシ・コピーが完了しました、経過時間: *string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08529 プロキシ・ファイル・ハンドル =*string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-08531 チャンネル *string*: メディア管理カタログでプロキシ・コピー: *string* は *string* です。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

RMAN-10000 ターゲット・データベース接続文字列 *string* の解析中にエラーが発生しました。

原因: 無効なターゲット接続文字列が入力されました。

処置: 有効な接続文字列を指定してジョブを再実行してください。

RMAN-10001 リカバリ・カタログ接続文字列 *string* の解析中にエラーが発生しました。

原因: 無効なりカバリ・カタログ接続文字列が入力されました。

処置: 有効な接続文字列を指定してジョブを再実行してください。

RMAN-10002 Oracle エラー: *string*

原因: この Oracle エラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: 続いて表示されるエラー・メッセージを確認してください。

RMAN-10003 接続文字列 *string* でのターゲット・データベースに接続できませんでした。

原因: Recovery Manager でターゲット・データベースへ接続できません。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: ターゲット・データベースが開始済で、接続文字列が有効なことを確認してください。

RMAN-10004 接続文字列: *string* でリカバリ・カタログに接続できませんでした。

原因: Recovery Manager でリカバリ・カタログへ接続できません。

処置: リカバリ・カタログが開始済で、接続文字列が有効なことを確認してください。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-10005 カーソルのオープン時にエラーが発生しました。

原因：カーソルのオープン時にエラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10006 SQL 文: *string* の実行時にエラーが発生しました。

原因：表示されている SQL 文の実行中にエラー・メッセージを受け取りました。

処置：関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10007 カーソルのクローズ時にエラーが発生しました。

原因：カーソルのクローズ時にエラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10008 チャネル・コンテキストを作成できませんでした。

原因：チャネル・コンテキストの作成時にエラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：関連する Oracle エラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10009 Oracle からのログオフ時にエラーが発生しました。

原因：Oracle からの切離し中にエラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-10010 RPC の完了チェック時にエラーが発生しました。

原因：リモート・プロシージャ・コール完了の確認中に Recovery Manager のチャネル・コンテキストにエラーが発生しました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10011 RPC *number* のポーリング中に同期化エラーが発生しました。処置 =*string*

原因: Recovery Manager でリモート・プロシージャ・コールとの適切な同期化ができません。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10012 KGU エラー: *string*

原因: KGU サブシステムの初期化中にエラーが発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10013 PL/SQL の初期化中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL サブシステムの初期化中にエラーが発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10014 PL/SQL エラー: *number* が行: *number*、列: *number* で発生しました: *string*

原因: PL/SQL エラーです。

処置: このメッセージのテキストは PL/SQL サブシステムによって発行されます。

RMAN-10015 PL/SQL プログラムのコンパイル中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL プログラムのコンパイル中にエラーが発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10016 PL/SQL のランタイム・コンテキストの作成時にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL のランタイム・コンテキストの作成中にエラーが発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10017 チャネル・コンテキストの初期化中にエラーが発生しました。

原因: チャネル・コンテキストの初期化中にエラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置: その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10018 チャネル・コンテキストのクリーン・アップ中にエラーが発生しました。

原因: チャネル・コンテキストのステップ間クリーン・アップ中にエラーを受け取りました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10020 Recovery Manager の実行レイヤーを初期化中にエラーが発生しました。

原因：ジョブ実行の準備で、Recovery Manager 実行レイヤーの初期化中にエラーを受け取りました。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10022 システム依存の休眠ルーチンでエラーが発生しました。

原因：リモート RPC の完了待ちでエラーを受け取りました。このエラーはシステム依存の休眠ルーチンで発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10023 認識できないパッケージに対して、RPC が行われました。

原因：Recovery Manager の内部 RPC ルーターで認識できないパッケージ名を受け取りました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10024 RPC ポーリングをセットアップ中にエラーが発生しました。

原因：Recovery Manager で RPC 完了のテストに必要な RPC ポーリング・コンテキストを作成できません。このメッセージの後には、エラーの原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

処置：その他のエラー・メッセージに修正可能な状態が示されている場合は修正を実行し、そうでない場合はオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10025 イベントに対して接続がすでに登録されています。

原因：Recovery Manager では RPC 完了をテストするためのターゲット・データベース接続を使用可能にできません。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10026 ネットワーク・エラー *number-number* が接続登録中に発生しました。

原因：RPC 完了をテストするためのターゲット・データベース接続の登録中に、ネットワーク・エラーが発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置：メッセージ番号は SQL*Net レイヤーによって発行されます。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10027 ネットワーク・レイヤー・コンテキストの位置が確認できませんでした。

原因：RPC 完了をテストするためのターゲット・データベース接続の登録中に、Recovery Manager は必要なコンテキスト領域を検出できませんでした。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10028 リモート RPC 中にネットワーク・エラー *number-number* が発生しました。

原因: リモート RPC の完了待ちでネットワーク・エラーが発生しました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: メッセージ番号は SQL*Net レイヤーによって発行されます。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10029 PL/SQL の実行で予期せぬリターン・コード *number* が返されました。

原因: あるチャネル・プログラムの実行中に、PL/SQL によって予期しないリターン・コードが返されました。これは通常は発行されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10030 RPC コールの起動がチャネル *string* で失敗しました。

原因: ターゲット・データベース・インスタンスへの RPC が発行されましたが、タイムアウト 5 回以内の起動は確認されませんでした。

処置: このエラーの後に、障害の明確な原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-10031 ORA-*number* が発生しました。発生箇所 *string.string* に対するコール。

原因: ターゲット・データベースまたはリカバリ・カタログ・データベースに対する RPC でエラーが検出されました。

処置: このエラーの後に、エラーが発生したサーバーからのエラー・メッセージが示されます。

RMAN-10032 ジョブ・ステップ *number: string* の実行中に未処理例外が発生しました。

原因: ジョブ・ステップ中に未処理の PL/SQL 例外が発生しました。

処置: このエラーの後に例外を記述したエラー・メッセージが示されます。

RMAN-10033 ジョブ・ステップ *number: string* のコンパイル中にエラーが発生しました。

原因: PL/SQL はジョブ・ステップのコンパイル中に問題を検出しました。

処置: このエラー・メッセージの後に例外を記述したエラー・メッセージが示されます。

RMAN-10034 ジョブ・ステップ *number* の実行中に未処理例外が発生しました。エラー内容は不明です。

原因: PL/SQL でジョブ・ステップの実行中に未処理例外が検出されましたが、この詳細は入手できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-10035 RPC で例外が発生しました : *string*

原因: リモート・パッケージのコールで例外が発生しました。

処置: 例外に問題の原因が示されています。

RMAN-10036 RPC コールはチャンネル *string* で OK です。

原因：これは情報メッセージです。メッセージ 10030 の後に表示されます。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-10037 チャンネル *string* で変則 RPC が検出されました。upinblt=*number*

原因：これはデバッグ・メッセージであり、無視できます。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-10038 チャンネル *string* に対するデータベース・セッションが予期せず終了しました。

原因：このチャンネルのデータベース接続は、存在なくなっています。外部的手段によってセッションが終了されたか、内部エラーによってチャンネルが終了しました。

処置：セッションが終了した理由の詳細を、Oracle トレース・ファイルで確認してください。

RMAN-10039 チャンネル *string* で、RPC 完了のポーリング中にエラーが発生しました。

原因：このエラーは、ポーリング・エラーの原因となる他のエラーに付随するものです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-11000 リカバリ・メッセージ・ファイルにメッセージ番号 *number* が見つかりません。

原因：Recovery Manager メッセージ・ファイルが現行のものではありません。

処置：Recovery Manager エラー・メッセージ・ファイルが現行のもので、正しい位置にインストールされていることを確認してください。

RMAN-11001 Oracle エラー : *string*

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-11002 ターゲット・データベースに対してカーソルをオープンできませんでした。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-11003 SQL 文 : *string* の解析 / 実行中に障害が発生しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-11004 二重にする時は、書式に %%c が必要です。

原因：SET_DUPLEX=ON が指定されましたが、%c は書式の一部ではありませんでした。

処置：%c を書式に入れるか、または %U を使用してください。

RMAN-20000 ジョブ・ステップが異常終了しました。

原因: ジョブ・ステップでエラーが見つかり、リカバリできません。

処置: このエラーの後に問題の原因を示すその他のエラー・メッセージが示されます。

RMAN-20001 リカバリ・カタログにターゲット・データベースが見つかりません。

原因: リカバリ・カタログにターゲット・データベースが見つかりません。

処置: ターゲット・データベースがリカバリ・カタログに登録済であることを確認してください。

RMAN-20002 ターゲット・データベースはリカバリ・カタログにすでに登録されています。

原因: ターゲット・データベースがリカバリ・カタログにすでに登録されています。

処置: ターゲット・データベースが実際に登録されている場合は、それを再度登録する必要はありません。リカバリ・カタログでは、全データベースが他と重複しない DBID を持つことが必須であることに注意してください。既存のデータベースからファイルをコピーすることで、新しいデータベースを作成する場合は、元のデータベースと同じ DBID を持つことになるため、同じリカバリ・カタログには登録できません。

RMAN-20003 リカバリ・カタログにターゲット・データベースの表示が見つかりませんでした。

原因: ターゲット・データベースの RESETLOGS CHANGE 番号または時刻（あるいはその両方）が、リカバリ・カタログのどのデータベース表示とも一致しません。

処置: resetlogs オプションを指定してターゲット・データベースをオープンした場合は、RESET DATABASE を使用して新しい表示を登録してください。

RMAN-20004 ターゲット・データベース名がリカバリ・カタログの名前と一致しません。

原因: ターゲット・データベースの名前がリカバリ・カタログに格納されたものと一致しません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20005 ターゲット・データベース名があいまいです。

原因: リカバリ・カタログの 2 つ以上のデータベースが、インスタンスの DB_NAME 初期化パラメータと一致しますが、ターゲット・データベースがマウントされていません。そのため RMAN はその DBID を入手できません。

処置: ターゲット・データベースをマウントしてから操作を再試行してください。

RMAN-20006 ターゲット・データベース名が見つかりません。

原因: ターゲット・データベース・インスタンスが開始されていない、または DB_NAME 初期化パラメータの値が設定されていません。

処置: インスタンスを開始して DB_NAME パラメータの値が設定されていることを確認してください。

RMAN-20007 ターゲット・データベース ID が見つかりません。

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20008 データベース表示キーが見つかりません。

原因：データベース表示キーが指定されていません。

処置：有効なデータベース表示キーを指定してください。

RMAN-20009 データベース表示はすでに登録されています。

原因：このデータベースの表示は、すでにリカバリ・カタログに登録されています。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

RMAN-20010 データベース表示が見つかりません。

原因：データベース表示が、リカバリ・カタログのどのデータベース表示とも一致しません。

処置：有効なデータベース表示キーを指定してください。

RMAN-20011 ターゲット・データベース表示がリカバリカタログにある現行のものと異なります。

原因：RESETLOGS CHANGE 番号およびマウントされたターゲット・データベース制御ファイルの時刻と一致するデータベース表示は、そのデータベースの現行の表示ではありません。

処置：RESET DATABASE TO INCARNATION キーを使用して古い表示を現行のものにした場合は、バックアップからその表示と一致したターゲット・データベースをリストアし、マウントしてください。RMAN を使用して制御ファイルをリストアする前に、STARTUP NOMOUNT の実行が必要となります。そうでない場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION キーを使用して、リカバリ・カタログで意図した再現を現行にしてください。

RMAN-20020 データベース表示が設定されていません。

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20021 データベースが設定されていません。

原因：内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20029 スナップショット制御ファイルを作成できません。

原因：スナップショット制御ファイルを必要とする別の操作が進行中です。

処置：必要ならば再試行してください。

RMAN-20030 再同期進行中です。

原因: 再同期が進行中は、このプロシージャをコールしません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20031 再同期が開始されていません。

原因: このプロシージャは再同期でのみコールされます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20032 チェックポイントの変更番号が小さすぎます。

原因: チェックポイントの変更番号が前の再同期より小さいか、またはチェックポイントの番号が NULL です。

処置: 正しい制御ファイルが使用されているかを確認してください。

RMAN-20033 制御ファイル順序番号が小さすぎます。

原因: 制御ファイルの順序番号が前の再同期より小さいです。

処置: 正しい制御ファイルが使用されているかを確認してください。

RMAN-20034 再同期は必要ありません。

原因: 制御ファイルは前の再同期から変更されていません。

処置: リカバリ・カタログが同期なので、処置は必要ありません。

RMAN-20035 高レコード ID が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20036 レコード順序が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20037 最終レコード ID が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20040 表領域の再同期が開始されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20041 表領域の再同期が完了していません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20042 表領域作成の変更番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20043 表領域作成の作成時刻が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20044 表領域名が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20050 データファイル再同期が開始されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20051 データファイル再同期が完了していません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20052 データファイル作成 SCN が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20053 データファイル作成時刻が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20054 データファイル ts# が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20061 スレッドの再同期が開始されていません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20070 ログ履歴の順序番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20071 ログ履歴の低 SCN が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20080 アーカイブログ名が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20085 オフライン範囲ファイル番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20086 オフライン範囲 offline_scn が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20087 オフライン範囲 online_scn が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20090 バックアップ集合タイプが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20091 バックアップ集合レベルが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20092 バックアップ集合の完了時刻が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20093 バックアップ断片番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20094 バックアップ集合が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20095 バックアップ/コピー制御ファイルのチェックポイント SCN が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20096 バックアップ/コピー・データファイルのファイル番号が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20097 バックアップ/コピー・データファイルの作成 SCN が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20098 バックアップ REDO ログの低 SCN が無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20100 ステータスが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20101 データファイル・コピーが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20102 アーカイブログが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20103 制御ファイル・コピーが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20104 バックアップ断片が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20105 データ・ファイルが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20106 プロキシ・コピーが欠落しています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20200 リストア・ソースが無効です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20201 データファイルがリカバリ・カタログにありません。

原因: リカバリ・カタログにこのデータ・ファイルが見つかりません。

処置: データ・ファイル名が正しく、リカバリ・カタログは最新であることを確認してください。

RMAN-20202 表領域がリカバリ・カタログにありません。

原因: リカバリ・カタログに、この表領域が見つかりません。

処置: 表領域名が正しく、リカバリ・カタログは最新であることを確認してください。

RMAN-20203 変換中です。

原因: 名前変換中は、このプロシージャをコールしません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20204 変換が開始されていません。

原因: getDatafile プロシージャは translateTablespace の前にコールされます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20205 UNTIL 句が不完全です。

原因: 順序番号が NULL です。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20206 ログ順序がリカバリ・カタログにありません。

原因: このログ順序は、現行のデータベース・インカーネーションのログ履歴には存在しません。

処置: THREAD と LOGSEQ を確認してください。現行のデータベース・インカーネーション前のログ順序番号に、データベースをリカバリする必要がある場合は、最初に RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを使用してください。

RMAN-20207 UNTIL TIME が RESETLOGS 時刻より前になっています。

原因: UNTIL TIME は、データベース作成時刻または RESETLOGS 時刻より後である必要があります。

処置: UNTIL TIME を確認してください。データベースを古いインカネーションにリストアする必要がある場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを使用してください。

RMAN-20208 UNTIL CHANGE が RESETLOGS 変更より前になっています。

原因: UNTIL CHANGE はデータベース RESETLOGS 変更より後である必要があります。

処置: UNTIL CHANGE を確認してください。データベースを古いインカネーションにリストアする必要がある場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを使用してください。

RMAN-20209 データファイル名が重複しています。

原因: 2つのデータ・ファイルが同じ名前を持っています。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20210 アーカイブログ範囲が無効です。スレッド番号が NULL です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20211 FROM TIME が RESETLOGS 時刻より前になっています。

原因: FROM TIME は、データベース作成時刻または RESETLOGS 時刻より後である必要があります。

処置: FROM TIME を確認してください。データベースを古いインカネーションにリストアする必要がある場合は、RESET DATABASE TO INCARNATION コマンドを使用してください。

RMAN-20215 バックアップ・セットが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20216 バックアップ断片が見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20217 データファイルがデータベースに所属していません。

原因: データ・ファイルが存在しないか、または UNTIL TIME/SCN で存在しませんでした。これは、リストア・データベースまたは表領域の内部エラーです。

処置: データ・ファイルの名前または番号を確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20218 データ・ファイルがリカバリ・カタログにありません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20220 制御ファイル・コピーがリカバリ・カタログにありません。

原因: この制御ファイルがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: ファイル名を確認してください。

RMAN-20221 制御ファイル・コピー名があいまいです。

原因: リカバリ・カタログの複数の制御ファイル・コピーが、この名前と一致しています。

処置: 制御ファイル・コピーのキーを使用して、一意にデータ・ファイル・コピーを指定してください。

RMAN-20222 データファイル名がリカバリ・カタログに見つからない、またはあいまいです。

原因: 指定されたデータ・ファイル名が、現行のターゲット・データベースに含まれているデータ・ファイルの名前でないか、または UNTIL 句が指定され、そのファイル名が、現行のデータ・ファイルとは異なるデータ・ファイルのファイル名でした。

処置: データ・ファイル番号を使用して、必要なデータ・ファイルを RESTORE または RECOVER に指定してください。

RMAN-20230 データファイル・コピーがリカバリ・カタログにありません。

原因: このデータ・ファイルがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: データ・ファイル・コピーの名前またはキーを確認してください。

RMAN-20231 データファイル・コピー名があいまいです。

原因: リカバリ・カタログの複数の制御ファイル・コピーがこの名前と一致しています。

処置: データ・ファイル・コピーのキーを使用して、一意にデータ・ファイル・コピーを指定してください。

RMAN-20232 タグがリカバリ・カタログのどのデータファイル・コピーとも一致しません。

原因: このタグは、リカバリ・カタログのどのデータ・ファイル・コピーとも一致しません。

処置: タグを確認してください。

RMAN-20240 アーカイブログがリカバリ・カタログに見つかりません。

原因: このアーカイブ・ログがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: アーカイブ・ログの名前またはキーを確認してください。

RMAN-20241 アーカイブログ名があいまいです。

原因: リカバリ・カタログの複数のアーカイブ・ログが、この名前と一致しています。

処置: アーカイブ・ログ・キーを使用してアーカイブ・ログを一意に指定してください。

RMAN-20242 指定がリカバリ・カタログのどのアーカイブログとも一致しません。

原因: このアーカイブ・ログ範囲にアーカイブ・ログが見つかりません。

処置: アーカイブ・ログの指定子を確認してください。

RMAN-20250 オフライン範囲がリカバリ・カタログに見つかりません。

原因: このオフラインが、リカバリ・カタログに見つかりません。

処置: リカバリ・カタログが、現行のものであることを確認してください。

RMAN-20260 バックアップ断片がリカバリ・カタログに見つかりません。

原因: このバックアップ・ピースがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: バックアップ・ピースのハンドルまたはキーを確認してください。

RMAN-20261 バックアップ部分ハンドルがあいまいです。

原因: リカバリ・カタログの複数のバックアップ・ピースが、このハンドルと一致しています。

処置: バックアップ・ピース・キーを使用して、バックアップ・ピースを一意に指定してください。

RMAN-20270 増分バックアップ・レベルが無効です。

原因: 不当な増分バックアップ・レベルが要求されました。

処置: 有効な増分バックアップ・レベルは1～4です。有効なレベルを指定してください。

RMAN-20271 インクリメント累積オプションが無効です。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20272 増分バックアップに対する親バックアップが見つかりません。

原因: 増分バックアップの親として使用できるバックアップまたはコピーが、リカバリ・カタログが見つかりません。

処置: 最初に、データ・ファイルのレベル 0 のバックアップまたはコピーを実行してください。

RMAN-20280 デバイスのタイプが多すぎます。

原因: 9 つ以上のデバイス・タイプが割り当てられました。

処置: ジョブが異なるデバイス・タイプを最大 8 つしか割り当てていないことを確認してください。

RMAN-20298 DBMS_RCVCAT パッケージにリカバリ・カタログとの互換性がありません。

原因: リカバリ・カタログ表のバージョンは、DBMS_RCVCAT パッケージのこのバージョンと動作しません。

処置: リカバリ・カタログのパッケージとスキーマが、正しくインストールされていることを確認してください。リカバリ・カタログ表およびパッケージを最新バージョンにアップグレードするために、UPGRADE CATALOG コマンドを使用できます。

RMAN-20299 DBMS_RCVMAN パッケージにリカバリ・カタログとの互換性がありません。

原因: リカバリ・カタログ表のバージョンは、DBMS_RCVMAN パッケージのこのバージョンと動作しません。

処置: リカバリ・カタログのパッケージとスキーマが、正しくインストールされていることを確認してください。リカバリ・カタログ表およびパッケージを最新バージョンにアップグレードするために、UPGRADE CATALOG コマンドを使用できます。

RMAN-20300 リカバリ・カタログなしの操作はサポートされていません。

原因: リカバリ・カタログを必要とする操作が要求されましたが、リカバリ・カタログが使用されていません。

処置: リカバリ・カタログが使用可能であれば RMAN を再起動し、RCVCAT パラメータを通してリカバリ・カタログ・データベースに対する接続文字列を指定してください。

RMAN-20310 リカバリ・カタログにプロキシ・コピーが見つかりません。

原因: このプロキシ・コピーがリカバリ・カタログにないか、または削除とマークされています。

処置: データ・ファイル・コピーのハンドルまたはキーを確認してください。

RMAN-20311 あいまいなプロキシ・コピー・ハンドル

原因: リカバリ・カタログの複数のプロキシ・コピーが、このハンドルと一致しています。

処置: プロキシ・コピーのキーを使用して、一意にプロキシ・コピーを指定してください。

RMAN-20312 ambiguous proxy copy recid

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

RMAN-20400 格納スクリプトが見つかりません。

原因: 見つからないスクリプト名が CREATE SCRIPT または DELETE SCRIPT で指定されました。

処置: スクリプト名を確認してください。

RMAN-20401 スクリプトはすでに存在しています。

原因: CREATE SCRIPT が発行されましたが、この名前のスクリプトはすでに存在しています。

処置: 別の名前を使用するか、または REPLACE SCRIPT を使用してください。

RMAN-20500 メディアのリカバリが強制終了しました。

RMAN-20501 親データベースの実体から再実行ログは適用できません。

原因: データ・ファイルの RESTORE または RECOVER が要求されましたが、データ・ファイルのリカバリには、最新の OPEN RESETLOGS より前に生成された REDO ログを適用する必要があります。

処置: 現行のデータベース・インカネーションからの全体バックアップまたはデータ・ファイル・コピーが存在する場合は、AVAILABLE とマークされており、正しいデバイス・タイプのチャネルが割り当てられていることを確認してください。指定されている場合は、FROM BACKUPSET、FROM DATAFILECOPY または FROM TAG オペランドの削除の必要がある場合があります。

SQL*Loader メッセージ (SQL*Loader)

この章では、SQL*Loader ユーティリティで出力されるメッセージを記載します。このユーティリティの詳細は、『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』を参照してください。

SQL*Loader-00100 コマンド行の構文エラーが発生しました。

原因：このエラーの考えられる原因には、位置引数がキーワード引数の後にある、キーワードの綴りが正しくない、カッコや引用符が正しく対応していない、演算子 '=' と引数の間に空白があるなどがあります。

処置：コマンドの構文と綴りを調べて、再試行してください。

SQL*Loader-00101 ユーザー名 / パスワードの引数が無効です。

原因：コマンド行で指定したユーザー名 / パスワード引数が認識されませんでした。ユーザー名 / パスワードが想定されている位置に別の引数（キーワードによって識別されない）がある可能性があります。このエラーは、綴りの間違いが原因で発生することもあります。パスワードがある場合は、パスワードをスラッシュ (/) で区切る必要があります。スラッシュとユーザー名またはパスワードとの間にスペースを入れることはできません。スペースを入れると、SQL*Loader はそのスペースを複数の引数とみなします。

処置：引数がキーワードなしで指定されている場合は、コマンド行の最初の引数である、ユーザー名 / パスワード引数の形式を調べてください。

SQL*Loader-00102 コマンド行で指定した制御ファイル名が無効です。

原因：コマンド行で指定した制御ファイル名が認識されませんでした。綴りが間違っていたか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。原因の 1 つとして、ユーザー名とパスワードとの間にスペースがあった可能性があります。前述のエラー 101 を参照してください。

処置：コマンド行の引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00103 コマンド行で指定したログ・ファイル名が無効です。

原因：コマンド行で指定したログ・ファイル名が認識されませんでした。綴りが間違っていたか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：コマンド行の引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00104 コマンド行で指定した不良ファイル名が無効です。

原因：コマンド行で指定した不良ファイル名が認識されませんでした。綴りが間違っていたか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：間違いを訂正してください。

SQL*Loader-00105 コマンド行で指定したデータ・ファイル名が無効です。

原因：コマンド行で指定したデータ・ファイル名が認識されませんでした。綴りが間違っていたか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：コマンド行の引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00106 コマンド行で指定した廃棄ファイル名が無効です。

原因：コマンド行で指定した廃棄ファイル名が認識されませんでした。綴りが間違っていたか、その位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があった可能性があります。

処置：コマンド行の引数の綴りと位置を確認してください。

SQL*Loader-00107 廃棄レコード件数の最大数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00108 ロードする論理レコード数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00109 読み飛ばされる論理レコード数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00110 エラーの最大数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00111 バインド配列またはデータ保管の行数が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00112 バインド配列サイズの最大長が無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00113 SILENT モード・オプションが無効です。

原因：SILENT コマンド行引数とともに指定したオプションが正しくありません。正しいオプションは、ALL、ERROR、FEEDBACK、HEADER のいずれかです。引数の綴りが間違っているか、別の引数（キーワードによって認識されない）がこの場所にある可能性があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00114 OPTIONS 文でエラーが発生しました。

原因：OPTIONS 句を使用して SQL*Loader 制御ファイルに指定したコマンド行オプションが誤っていることが判明しました。

処置：SQL*Loader 制御ファイルの OPTION 句の書式を確認してください。

SQL*Loader-00115 ダイレクト・パス・オプションが無効です。

原因：コマンド行引数 DIRECT には TRUE または FALSE のみが許されます。引数の綴りが間違っているか、別の引数（キーワードによって認識されない）がこの場所にある可能性があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00116 パスワードの入力要求時にエラーが発生しました。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00118 Invalid parallel load option

原因: パラレル・ロードに使用されたコマンド行の引数が誤っています。

処置: TRUE または FALSE のみをパラレル・ロード・オプションの値として使用してください。

SQL*Loader-00119 Invalid parallel file (data file) name on command line

原因: パラレル・ファイルに入力されたコマンド行引数が誤っています。

処置: コマンド行引数を確認して、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00121 Invalid skip_unusable_indexes option

原因: SKIP_UNUSABLE_INDEXES のコマンド行引数が誤っています。

処置: TRUE または FALSE のみを SKIP_UNUSABLE_INDEXES オプションの値として使用してください。

SQL*Loader-00122 Invalid skip_index_maintenance option

原因: SKIP_INDEX_MAINTENANCE のコマンド行引数が誤っています。

処置: TRUE または FALSE のみを SKIP_INDEX_MAINTENANCE オプションの値として使用してください。(注意: ダイレクト・ロードのときのみ)。

SQL*Loader-00123 specified value for bindsize (number) less than readsize (number)

原因: BINDSIZE に指定されたコマンド行引数が、READSIZE の値以下でした。

処置: 処置は必要ありません。SQL*Loader は、自動的に BINDSIZE の値を READSIZE の値に合わせます。

SQL*Loader-00124 specified value for readsize (number) less than bindsize (number)

原因: READSIZE に指定されたコマンド行引数が、BINDSIZE の値以下でした。

処置: 処置は必要ありません。SQL*Loader は、自動的に READSIZE の値を BINDSIZE の値に合わせます。

SQL*Loader-00125 readsize に指定した値 (number) が max_record_size (number) よりも小さくなっています。

原因: 読み込みサイズに指定されたコマンド行引数が、MAX_RECORD_SIZE の値以下でした。

処置: 処置は必要ありません。SQL*Loader は、自動的に読み込みサイズの値を MAX_RECORD_SIZE の値に合わせます。

SQL*Loader-00126 無効な読み込みサイズ

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00127 最大レコード・サイズが無効です。

原因：引数の値が不適切であるか、またはその位置に別の引数（キーワードによって識別されない）があります。

処置：入力を変更して、ロードをもう一度行ってください。

SQL*Loader-00200 FORMAT 句は指定できません。テキスト・ファイルだけです。

原因：SQL*Loader は SQL/DS FORMAT 句をサポートしていません。

処置：SQL*Loader 制御ファイルから FORMAT コマンドを削除して、それをコメント・アウトしてください。

SQL*Loader-00250 SQL*Loader は作業データ・セットを使用できません。

原因：SQL*Loader 制御ファイルに WRKDDN 文が記述されています。SQL*Loader はこれを無視します。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

SQL*Loader-00251 SQL*Loader はソート・デバイスを使用できません。

原因：SQL*Loader 制御ファイルに SORTDEVT 文が記述されています。SQL*Loader はこれを無視します。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

SQL*Loader-00252 SQL*Loader はソート・データ・セットを使用できません。

原因：SQL*Loader 制御ファイルに SORTDEVT 文が記述されています。SQL*Loader はこれを無視します。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

SQL*Loader-00253 DB2 パーティション番号は意味がないので無視しました。

原因：SQL*Loader 制御ファイルに PART 文が記述されています。SQL*Loader はこれを無視します。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

SQL*Loader-00254 複数のデータ・ファイルに DISCARDFILE 指定をすることはできません。

原因：制御ファイルに複数の INFILE 文が含まれていて、DISCARDFILE 文が RESUME 句の下にありました。

処置：DISCARDFILE 文を RESUME 句の上に移動させて、DISCARDFILE 文が INFILE 文の 1 つと隣り合わせになるようにしてください。

SQL*Loader-00255 SQL*Loader はエラー・リカバリ用のログ・ファイルを使いません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルに LOG 文が記述されています。SQL*Loader はこれを見捨てます。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00256 SORTED INDEXES はダイレクト・パスでしか使用できません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルに SORTED_INDEXES 文が含まれていますが、ダイレクト・パス・ロードでは使用されませんでした。

処置: コマンド行に DIRECT=TRUE でダイレクト・パス・ロードを指定して、SQL*Loader 制御ファイルからその文を削除するか、またはそれをコメント行にしてください。

SQL*Loader-00257 TERMINATED BY EOF オプションと ENCLOSED BY オプションは併記できません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルのフィールドの説明には、TERMINATED BY EOF および ENCLOSED BY オプションがあります。これらのオプションは相互に排他的です。

処置: これらの句のいずれかまたは両方を削除してください。

SQL*Loader-00258 SORTED INDEXES の最大数 *number* を超えています。(表 *string*)

原因: SORTED INDEX 句で指定された索引が多すぎます。メッセージ中の数値は許される索引の最大数を示します。

処置: SORTED INDEX 句に指定する索引数を少なくするか、ダイレクト・パス・ロードではなく、従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00259 表 *string* について DDL 共有ロックを排他モードに変更できません。

原因: このエラーは、他のユーザーによって表に解析ロックがかけられている状態で発生します。たとえば、他のユーザーが表に対して SELECT 文を実行しているときなどです。解析ロックはすぐに解除されます。

処置: 解析ロックが解除されてから再試行するか、従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00260 TERMINATED BY EOF オプションは、LOBFILE オプションがある場合だけ使用できます。

原因: TERMINATED BY EOF オプションは、データを説明するデータが LOBFILE からロードされたときのみ使用できます。それを表レベルで指定することはできません。また、標準データ・ファイルのデータに対して指定できません。

処置: TERMINATED BY に正しいオプションが指定されたかを検証し、TERMINATED BY オプションが正しいフィールドに指定されたかを検証してください。

SQL*Loader-00261 RAW フィールドに TERMINATED BY は使用できません。

原因：TERMINATED BY オプションは、データ・ファイルの RAW 型データのロードには使用できません。ただし、LOBFILE から RAW データをロードするときは例外です。その場合には、TERMINATED BY EOF オプションの指定ができます。

処置：SQL*Loader 制御ファイルの RAW フィールドから TERMINATED BY オプションを削除してください。

SQL*Loader-00262 PIECED キーワード (列 *string*) はダイレクト・パスでしか使用できません。

原因：PIECED キーワードは、従来型パス・ロードでは使用できません。

処置：PIECED キーワードを削除するか、ダイレクト・パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00263 PIECED 列 *string* は、表 *string* で最後に指定しなければならない列です。

原因：最後の列ではない列が PIECED として指定されました。

処置：PIECED キーワードを削除するか、またはその列を最後に配置してください。

SQL*Loader-00264 ファイル・モード・トークン *string* が解析されましたが無視されました。

原因：古いファイル・モード・トークンが SQL*Loader 制御ファイルで使用されました。SQL*Loader のリリース 1.1 では、ファイル処理オプション文字列は、STREAM、RECORD、FIXED、VARIABLE などのキーワードの制御ではなく、ファイル処理の制御に使用されます。

処置：処置は必要ありません。これは情報メッセージです。キーワードを削除すると、データ・ファイルの処理方法を変更しなくても、このメッセージは表示されなくなります。

SQL*Loader-00265 デフォルトのキャラクタ・セット名を取得できません。

原因：SQL*Loader がその環境用のデフォルトのキャラクタ・セット名を取得できませんでした。

処置：CHARACTERSET キーワードを持つキャラクタ・セット名を指定してください。

SQL*Loader-00266 *string* に対してキャラクタ・セット・ハンドルを取得できません。

原因：SQL*Loader が、指定されたキャラクタ・セットに対してキャラクタ・セット・ハンドルを検索できませんでした。

処置：キャラクタ・セット名を訂正してください。

SQL*Loader-00267 制御ファイルは最初のデータ・ファイルでなければなりません。

原因：INFILE "*" 句を使用するデータが含まれていると SQL*Loader 制御ファイルが指定されますが、他のデータ・ファイルが最初に指定されました。

処置：INFILE "*" 句を移動し、SQL*Loader 制御ファイル中のデータが先頭に指定されるように変更してください。

SQL*Loader-00268 UNRECOVERABLE キーワードはダイレクト・パスでしか使用できません。

原因：UNRECOVERABLE キーワードは、ダイレクト・パス・ロードでしか指定できません。

処置：ダイレクト・パス・ロードを使用するか、キーワードを削除してください（従来型パス・ロードは常にリカバリ可能です）。

SQL*Loader-00269 NULL 文字列は比較テキスト句には使用できません。

原因：句が NULL 文字列と比較されています。

処置：句が少なくとも 1 つの文字と比較されるように変更してください。

SQL*Loader-00270 TERMINATED BY EOF は、CHAR または RAW のデータ型に対してのみ有効です。

原因：SQL*Loader 制御ファイルのフィールドの説明が、データ型が RAW または CHAR ではないときに、TERMINATED BY EOF オプションを使用しました。

処置：SQL*Loader 制御ファイルを変更して、TERMINATED BY EOF 句を削除するか、フィールドのデータ型を CHAR または RAW に変更してください。

SQL*Loader-00271 パラレル・ロードではありません。表レベル OPTIONS 文は無視されました。

原因：表レベル OPTIONS 文が、非パラレル・ロードに指定されています。

処置：SQL*Loader 制御ファイルから OPTIONS 文を削除してください。

SQL*Loader-00272 表レベル OPTIONS 文は無視されました。

原因：パラレル・ロード・オプションでは、コマンド行に指定されたファイルは、SQL*Loader 制御ファイル内で指定されたファイルを上書きします。

処置：SQL*Loader 制御ファイルから OPTIONS 文を削除してください。

SQL*Loader-00273 READBUFFERS はダイレクト・パスにのみ使用されます。

原因：READBUFFERS の指定がダイレクト・パスの一部として入力されませんでした。

処置：ダイレクト・パスを使用するか、SQL*Loader 制御ファイルから READBUFFERS 指定を削除してください。

SQL*Loader-00274 少なくとも 2 つの読取りバッファを指定しなければなりません。

原因：バッファが 1 つしか指定されていません。

処置：SQL*Loader 制御ファイルの READBUFFERS 文には少なくとも 2 つの読取りバッファを指定してください。

SQL*Loader-00275 制御ファイル内にデータが入っていますが、"INFILE *" が指定されていません。

原因：INFILE 指定が SQL*Loader 制御ファイルに入力されませんでした。

処置：SQL*Loader 制御ファイル内のデータを読み込む場合には、SQL*Loader 制御ファイルに INFILE * を指定してください。

SQL*Loader-00276 ローカル格納オプションでグローバル格納オプションを上書きします。

原因：格納句が表レベルのオプション文で指定され、グローバルのオプション文でも指定されています。表レベルのオプションは、グローバルのオプションに優先します。これは警告メッセージです。

処置：表レベルのオプション文が必要なければ削除してください。

SQL*Loader-00277 ローカルのファイル指定でグローバルのファイル指定を上書きします。

原因：ファイル名が表レベルのオプション文で指定され、グローバルのオプション文でも指定されています。表レベルのオプションは、グローバルのオプションに優先します。これは警告メッセージです。

処置：表レベルのオプション文が必要なければ削除してください。

SQL*Loader-00278 パラレル・ロードに対するファイルの指定が無効です。

原因：パラレル・ロードを実行するために使用するファイル名が正しく入力されていません。

処置：ファイル名を修正し、パラレル・ローダーを再度起動してください。

SQL*Loader-00279 パラレル・ロードが指定されている場合、APPEND モードだけが有効です。

原因：パラレル・ロードが指定されている場合、APPEND モードのみが有効です。

処置：APPEND キーワードを使用するように SQL*Loader 制御ファイルを変更して、パラレル・ローダーを再度起動してください。

SQL*Loader-00280 表 *string* は、一時表です。

原因：SQL*Loader ユーティリティは一時表をロードしません。SQL*Loader が一時表をロードした場合は、ロード終了後にデータが消失するので注意してください。

処置：データを非一時表にロードしてください。

SQL*Loader-00281 警告：パラレル・モードの ROWS パラメータは無視されました。

原因：ROWS パラメータを使用した保存ポイントの指定は、パラレル・ロードではサポートされていません。

処置：コマンド行引数から ROWS パラメータを削除するか、または非パラレル・ダイレクト・ロードを指定して保存ポイントを実行してください。

SQL*Loader-00282 キャラクタ・セット ID (*number*) のキャラクタ・セット・ハンドルが見つかりません。

原因: SQL*Loader が、指定されたキャラクタ・セット ID のキャラクタ・セット・ハンドルを見つけられませんでした。

処置: キャラクタ・セット ID をデータベース・サーバーから取得しましたが、SQL*Loader クライアントは指定されたキャラクタ・セット ID の情報を持っていません。クライアント側とサーバー側の NLS データが一致するようにしてください。

SQL*Loader-00283 INFILE * に関してファイル処理文字列 *string* は無視されます。

原因: SQL*Loader 制御ファイルが、オプションのファイル処理文字列とともにロード・データ・ファイルに INFILE * を指定しました。これは、データのレコード形式が SQL*Loader 制御ファイルのレコード形式と同じであると SQLLDR が予期するため、ファイル処理文字列が無視されることを警告するメッセージです。

処置: SQL*Loader 制御ファイルのデータが同じファイル内のその他のデータと同じ形式である場合、処置は必要ありません。ファイル処理文字列を削除すれば、このエラー・メッセージは表示されません。SQL*Loader 制御ファイルのデータのレコード形式が異なる場合、データを別のファイルにコピーして、INFILE 句のそのファイル名を使用してください。

SQL*Loader-00284 警告: 入力データ・ファイル *string* が複数回指定されました

原因: 同一の入力データ・ファイルが複数回ロードされました。これは、INFILE キーワードが構文のロード文の中で間違った位置に指定された場合に起きます。これによって、デフォルトで最初にロードされたデータ・ファイルのファイル名が、DAT という拡張子またはファイル・タイプの制御ファイルの名前になります。

処置: INFILE キーワードが、BADFILE/BADDN/DISCARDFILE/DISCARDDN/DISCARDS のいずれかの後に指定されていないことを確認してください。

SQL*Loader-00285 CHAR(0) は従来型パスでのみ使用できます。

原因: CHAR(0) を指定できるのは、従来型パス・ロードのみです。

処置: 従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00286 BOUNDFILLER キーワードは従来型パスでのみ使用できます。

原因: BOUNDFILLER キーワードを指定できるのは、従来型パス・ロードのみです。

処置: 従来型パス・ロードを使用するか、またはそのキーワードを削除してください。

SQL*Loader-00287 制御ファイル名が指定されていません。

原因: 制御プロンプトに、制御ファイル名が指定されていません。

処置: プロンプトまたはコマンド行から、有効な制御ファイル名を指定してください。

SQL*Loader-00303 16 進数が予想される場所で、16 進以外の文字が見つかりました。

原因：16 進文字列で 16 進以外の文字が検出されました。

処置：その文字を 16 進文字に変更してください。

SQL*Loader-00304 英数字以外の不適切な文字があります。

原因：SQL*Loader 制御ファイルには、SQL*Loader が認識できない英数字以外の文字の組合せが含まれています。たとえば、!= の組合せは「等しくない」と認識されますが、=! の組合せは無効です。

処置：制御ファイルから認識できない文字を削除してください。

SQL*Loader-00305 複数のファイルの終わり (eof) を示す文字が複数見つかりました。

原因：制御ファイルの中にファイルの終わり (eof) を示す文字が複数あります。

処置：余分なファイルの終わり文字を削除してください。

SQL*Loader-00306 トークンは最大長 *number* 文字を超えています。

原因：SQL*Loader 制御ファイルの中で、許容最大長を超える単一文字または文字の組合せ (トークン) が見つかりました。使用できる最大値が示されます。このエラーは、スペースが欠落しているため、複数のトークンが結合されて発生する場合があります。

処置：正しい SQL*Loader 制御ファイルが実行されているかどうかを確認してください。トークンが結合されている場合は分離するか、トークンを短くしてください。

SQL*Loader-00307 警告：長さ *number* と *number* (列 *string*、表 *string* で指定) が矛盾しています。

原因：SQL*Loader 制御ファイルで指定した列に、2 つの異なったフィールド長を指定しています。フィールド長の指定方法は、次の 3 通りがあります。

- POSITION キーワードで指定する：POSITION(1:3)
- 長さ指定子で指定する：CHAR(6)
- データ型の暗黙的な長さで決まる：INTEGER

競合はこれらのうち、どの 2 つの間でも発生する可能性があります (3 つ全部の間でも発生しますが、その場合も 2 つのみが示されます)。よくある例として、数値データにおいて外部形式 (EXTERNAL 数値型) を指定すべきところに INTEGER 型を指定してしまう場合があります。また、文字データからなる外部形式の場合も、バイナリ・データを含んだ非常に長いものであるため注意する必要があります。

処置：SQL*Loader はいずれかの長さしか使用しないので、処置は必要ありません。表記述セクションにある見出し "Len" のログ・ファイルを確認して、どの長さが使用されたかを確認してください。SQL*Loader 制御ファイルを調整して、長さ指定の方法を同じにすると、警告は表示されなくなります。

SQL*Loader-00308 列名 *string* のオプションの SQL 文字列は二重引用符で囲みます。

原因: 二重引用符で囲まれていない SQL 文字列があります。

処置: SQL 文字列は単一引用符ではなく、二重引用符で囲んでください。

SQL*Loader-00309 *string* フィールド仕様部の一部として使用できる SQL 文字列はありません。

原因: 特定のフィールド型では、SQL 文字列をそのフィールド仕様部（たとえば、LOB 列に対応するフィールドなど）の一部として使用できません。これは制約に違反しており、修正する必要があります。

処置: SQL 文字列をそのフィールド仕様部から削除してください。

SQL*Loader-00350 *number* 行に構文エラーが発生しました。

原因: *number* は、エラーが発生した SQL*Loader 制御ファイル内の行を示します。このメッセージの後には、次の形式のメッセージが表示されます。

str1 を予想しましたが、str2 が見つかりました。

ここで、str1 は、SQL*Loader が SQL*Loader 制御ファイル内に存在すると予想した内容で、str2 は実際に見つかったものです。次に SQL*Loader は、SQL*Loader 制御ファイルからエラーの起こった行を表示し、行のどの場所でエラーが起こったかを、累乗記号 (^) またはアスタリスク (*) で示します。次に例を示します。

SQL*Loader-350: 28 行に構文エラーが発生しました。
列名を予想しましたが、キーワード CHAR が見つかりました。
col3 は ''' で囲まれており、CHAR は ''' で囲まれています。

処置: DDL 構文を『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』の構文図と比較し、必要な修正をしてください。

SQL*Loader-00401 フィールドの終了位置 *number* は開始位置 *number* 以上でなければなりません。

原因: 指定されたフィールドに、終了値が開始値より小さい (START:END) 句が含まれています。

処置: 終了値が開始値以上になるように、その句を変更してください。

SQL*Loader-00402 列 *string* 指定から長さを決定することができません。

原因: 指定したデータ型は暗黙の長さ（たとえば、外部数値または RAW データ型）を持っておらず、デリミタとともに指定されていません。長さが指定されていないので、POSITION 句から長さは判別できません。

処置: POSITION 句が指定されている場合は、終わり位置を追加すると、長さ指定が作成されます。この句は次のような書式になっています。

POSITION (start:end)

次のように、長さをデータ型の後に指定することもできます。

INTEGER EXTERNAL (6)

最後に、デリミタとともにフィールドを指定したり、暗黙の長さを持つデータ型にデータ型を変更できます。

SQL*Loader-00403 参照した列 *string* が表 *string* の中に存在しません。

原因：指定した列が指定した表に存在しません。

処置：列名または表名を訂正してください。

SQL*Loader-00404 列 *string* が INTO TABLE ブロック *string* の中に複数個存在します。

原因：指定した列が、1つの INTO TABLE 文の中に複数回指定されています。

処置：関係のない列指定を削除してください。

SQL*Loader-00405 オプションの囲みデリミタには終了デリミタが必要です：列 *string*、表 *string*

原因：指定された列は、オプションの囲みデリミタで指定されていますが、終了デリミタで指定されていません。終了デリミタが存在する場合は、囲みデリミタはオプションにしかできません。

処置：終了デリミタを指定するか、または囲みデリミタを非オプションにしてください。

SQL*Loader-00406 データの一部をロードするときは、ALL を指定できません。

原因：生成されるデータのみがロードされる場合、ロード数を指定します。これによって SQL*Loader はロードを途中で停止できます。

処置：ロード数を指定してください。

SQL*Loader-00407 データがすべて生成された後で、ロード数を ALL に指定できません。

原因：データをすべて生成する場合は、スキップ数を指定できません。

処置：スキップ数の指定を削除してください。

SQL*Loader-00408 物理レコードのスタックがオーバー・フローしました。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00409 継続ロードにおけるスキップ数はロード・レベルでなく表レベルで行います。

原因：コマンド行または OPTION 文から SKIP パラメータが指定されましたが、ロードの継続が CONTINUE_LOAD で指定されています。複数の表のダイレクト・ロードが中断された場合は、個々の表に異なった数のレコードがロードされた可能性があります。したがって、ロードを続行する場合は、スキップするレコード数を表ごとに指定する必要があります。この場合、CONTINUE_LOAD を指定して、各表でスキップさせるレコード数は対応する INTO TABLE 文で指定します。詳細は 410 番と 411 番のエラー・メッセージを参照してください。

処置：ログ・ファイルを調べて、それぞれの表にスキップするレコードの適切な数を判断し、継続ロードのそれぞれの表に INTO TABLE 文で、または通常ロードのコマンド行 SKIP パラメータで、この数を指定してください。

SQL*Loader-00410 スキップ数は表レベルでなく、ロード・レベルで行います。

原因：通常の（継続でない）ロードで、INTO TABLE 文に SKIP 句が指定されていません。LOAD DATA で始まる通常のロードにおいては、表ごとにスキップするレコード数を指定できません。ロード全体にスキップ数を指定する場合は、コマンド行から SKIP パラメータを使用するか、OPTION 句によって指定します。複数の表に異なったレコード数をロードさせるなど、表レベルでロードする必要がある場合は（ダイレクト・ロードのみ可能ですが）、CONTINUE_LOAD 文を使用することができます。詳細は 409 番と 411 番のエラー・メッセージを参照してください。

処置：ロードが倍数表、ダイレクト・パス・ロードでない場合は、SKIP 句を INTO TABLE 文からコマンド行または OPTIONS 句に移動してください。複数の表へロードする場合は、CONTINUE_LOAD でロードの継続を指定してください。

SQL*Loader-00411 ダイレクト・パス・ロードのみ継続できます。

原因：ロードの継続が CONTINUE_LOAD を指定し、かつ DIRECT=FALSE の状態で実行されました。CONTINUE_LOAD はダイレクト・パス・ロードでのみ使用可能で、すでに複数の表に対して異なったレコード数のデータがロードされているとき継続処理を行うためのものです。詳細は 409 番と 410 番のエラー・メッセージを参照してください。

処置：CONTINUE_LOAD が必要ならば、ダイレクト・ロードを指定して、それぞれの INTO TABLE 文にスキップするレコード数を置いてください。CONTINUE_LOAD を使用しないで済む場合は、コマンド行または OPTIONS 句でスキップするレコード数を指定し、CONTINUE_LOAD のかわりに LOAD DATA を使用してください。

SQL*Loader-00412 表 *string* に最大値 *number* より多い列が指定されています。

原因：データベースで表に対して許される列数を超過して列が指定されました。

処置：関係のない列を削除してください。

SQL*Loader-00413 フィラー・フィールド *string* (表 *string*) に NULLIF または DEFAULTIF 句が指定されています。

原因: SQL*Loader 制御ファイル内で、指定された FILLER フィールドに NULLIF または DEFAULTIF 句が指定されました。これらのオプションは FILLER フィールドに指定できません。

処置: フィールドの定義から NULLIF または DEFAULTIF 句を削除してください。

SQL*Loader-00414 表 *string* にロードする列がありません。

原因: 表にロードするフィールドがデータ・ファイルにありません。すべてのフィールドが、FILLER フィールドとして識別された可能性があります。

処置: FILLER の属性がフィールドに正しく設定されたか検証してください。

SQL*Loader-00415 列 *string* (表 *string*) は、SDF または LOBFILE のオブジェクトにはできず、使用もできません。

原因: 指定された列は、2 次データ・ファイル (SDF) または LOBFILE 句のターゲットとして識別されます。ただし、列は SDF または LOBFILE から値を取得します。フィールド名が SDF または LOBFILE 句で指定された場合、そのフィールドには SDF または LOBFILE 句が存在できません。

処置: SQL*Loader 制御ファイルの SDF および LOBFILE 句が正しいフィールドを指定したか検証してください。また、SDF および LOBFILE 句が正しいフィールドに指定されたかも検証してください。

SQL*Loader-00416 フィールド *string* (表 *string*) の SDF 句は、存在しないフィールドを参照しています。

原因: フィールドの 2 次データ・ファイル句が、SQL*Loader 制御ファイルの表定義に存在しないフィールドを指定しました。

処置: 2 次データ・ファイルの定義を検証して、それが対象フィールドを指定するか確認してください。

SQL*Loader-00417 SQL 文字列 (列 *string*) はダイレクト・パスでは使用できません。

原因: SQL 文字列はダイレクト・パスでは省略されるので使用できません。

処置: SQL 文字列を削除するか、従来型パスを使用してください。

SQL*Loader-00418 列 *string* に対するデータ・ファイルのデータ型が正しくありません

原因: 列に指定されたデータ・ファイルのデータ型は、列のロードに使用できません。このメッセージは、特殊な機能でのロードが必要な列に対して表示されます。たとえば、BFILE 列は、制御ファイルの BFILE ディレクティブを経由してのみ、REF フィールドにロードできます。SQL*Loader 制御ファイルの REF フィールドに対しても同様です。REF 列は SQL*Loader 制御ファイルの REF データ型でのみロードされます。

処置: データベースの列のデータ型を判断し、ドキュメントを確認して、その型の列のロードに使用する正しいメカニズムを指定してください。

SQL*Loader-00419 varray のロード時に、列 *string* のデータ型はサポートされません。

原因: 列に対する SQL*Loader 制御ファイルのデータ型を使用して、VARRAY のデータをロードすることはできません。

処置: 別のデータ型を使用してください。

SQL*Loader-00420 列 *string* (表 *string*) に対してサポートされていないデータ型変換が要求されました。

原因: データをロードする前に、列には別の型に変換されたデータが必要です。

SQLLDR では、要求された変換を行うことはできません。

処置: 列に正しいデータ型が指定されたか検証してください。

SQL*Loader-00421 データの変換でエラーが発生しました。

原因: 行を拒否する原因の 1 つとして、このメッセージが表示されます。SQLLDR ユーティリティは、列のデータをデータ・ファイルのデータ型からデータベースの列のデータ型に変換しようとしていました。このメッセージの後には、変換エラーを説明する別のメッセージが続きます。

処置: データを変換できるように、データ・ファイルのデータを訂正してください。

SQL*Loader-00422 固定要素数 *number* (列 *string*) が最大数 *number* を超えています。

原因: 表の VARRAY 列に指定された要素数が、VARRAY 列の型の許容最大要素数を超えています。

処置: その型の許容要素数を増加するか、データ・ファイルから不要な要素を削除してください。

SQL*Loader-00423 要素数が、列に対して許可される最大数を超えています。

原因: データ・ファイルから VARRAY を作成中、SQL*Loader が列に許可される以上の VARRAY 要素を見つけました。

処置: 前のエラー・メッセージには、不正なデータを持つ列の名前および行数が含まれています。

SQL*Loader-00424 表 *string* は、コレクション・フィールド *string* を不正に参照しています。

原因: 表の WHEN、OID または SID 句はコレクション内で宣言されたフィールドを参照します。

処置: SID または OID 句の値を持つデータを、コレクションの定義の外に移動してください。

SQL*Loader-00425 列 *string* は、コレクション・フィールド *string* を不正に参照しています。

原因: NULLIF や BFILE 句など列の句は、コレクション内で宣言されたフィールドを参照します。

処置: SID または OID 句の値を持つデータを、コレクションの定義の外に移動してください。

SQL*Loader-00426 VARRAY *string* で要素数は、varray に対するデータに従います。

原因: VARRAY フィールドの COUNT 句は、VARRAY の要素数が別のデータ・フィールドに格納されていることを示します。しかし、そのデータ・フィールドは、データ・ファイルの VARRAY データより後に指定されています。SQL*Loader は VARRAY の要素数を知るために件数のフィールドを確認する必要があります。そのため、件数のフィールドは VARRAY のデータよりも前にある必要があります。

処置: データ・ファイルのコレクション・データの前になるように、件数のフィールドを移動してください。

SQL*Loader-00427 フィールド条件は、非スカラー・フィールドまたは LOB フィールドである *string* を参照しています。

原因: フィールド条件は、NESTED TABLE、VARRAY、列のオブジェクト、LOB または BILE フィールドのいずれかを参照しています。その他のフィールドには、これらの型のフィールドを参照できません。

処置: NULLIF、DEFAULTIF または WHEN 句を訂正して、非 LOB スカラー・データ・フィールドのみを参照するようにしてください。

SQL*Loader-00428 フィールド *string* の件数が、文字フィールドまたは整数フィールドに格納されていません。

原因: 件数のフィールドの句は、別のフィールドを参照しますが、参照されたフィールドは文字または整数のデータ型ではありません。

処置: フィールドの件数を変更して、整数または文字形式に件数を持つデータ・フィールドを参照するようにしてください。

SQL*Loader-00429 varray に指定した要素数が少なすぎます。

原因: COUNT ディレクティブが VARRAY に対して指定されましたが、見つかった要素数が COUNT ディレクティブの指定以下です。

処置: 件数が要素数に一致するように、データを訂正してください。

SQL*Loader-00430 ネストされた表で NULL は使用できません。

原因: NESTED TABLE の行が NULL に設定されました。NESTED TABLE は NULL フィールドを持つことができません。

処置: NESTED TABLE に NULL 行がないように、データを訂正してください。

SQL*Loader-00431 ネストされた表の列 *string* に不正な NULLIF 句または DEFAULTIF 句が指定されました。

原因: NESTED TABLE の行は、NULL に設定できません。NESTED TABLE を形成する行を定義する要素に、NULLIF 句が指定されると、SQLLDR がこのエラーを表示します。また、DEFAULTIF 句が、名前の付いた型の要素に指定された場合も、このエラーが表示されます。これは、DEFAULTIF が TRUE と評価すると、SQLLDR が NULL に名前付きの型を設定するためです。

処置: 有効な句のみを使用してください。

SQL*Loader-00432 変換したデータが大きすぎます。

原因: このメッセージの前のメッセージに、行および列が表示されます。入力ファイルのデータ型から、データベースの列のデータ型に変換するのに十分な領域がない場合、このメッセージが表示されます。

処置: データベース・フィールドに合うように、データを変更してください。

SQL*Loader-00433 列オブジェクト *string* (表 *string*) の属性が見つかりません。

原因: 制御ファイルで名前が付けられた列オブジェクトの属性がロードされていません。これは、制御ファイルの列オブジェクトの定義にあるすべてのフィールドが、FILLER フィールドとして作成されている場合に起きます。

処置: 列オブジェクトにロードする属性を指定するか、または制御ファイルから列オブジェクトを削除してください。

SQL*Loader-00440 REF の有効範囲として無効な表が指定されました。

原因: REF ディレクティブの一部が、表名または REF が参照する表の名前を含む別のフィールド名を指定します。

処置: 参照する表の名前を正しく指定してください。

SQL*Loader-00456 *number* 個の要素の後、コレクションの終わりが見つかりました (*number* 個の要素の検索時)。

原因: VARRAY または NESTED TABLE の列に件数の値が指定され、行の数が、指定された行の数以下です。

処置: フィールドの件数の値が正しいか、コレクションに欠落したデータがないかを検証してください。

SQL*Loader-00457 比較テキストは CONTINUEIF LAST では *number* ではなく 1 文字でなければなりません。

原因: 比較するテキストが長すぎます。1 文字にする必要があります。

処置: 比較するテキストを 1 文字に削減してください。

SQL*Loader-00458 CONTINUEIF LAST で比較するテキスト *string* でホワイトスペースは許されません。

原因: 比較するテキストが空白文字（ブランクやタブ）になっています。

処置: 比較するテキストを空白文字以外に変更してください。

SQL*Loader-00459 列 (*string*) で順序の数値をフェッチ中にエラーが発生しました。

原因: 順次列で数値以外の値を取り出そうとしました。

処置: 順次列のデータが数値であることを確認して、再試行してください。

SQL*Loader-00460 列 (*string*)、使用フォーム (*number*) が、(*number*) のキャラクタ・セット ID と一致しません。

原因: 使用フォームを持つ列が、同じ使用フォームを持つ前の列と同じキャラクタ・セット ID を持っていません。

処置: これは発生してはならないエラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、ロードされている表の DDL、SQL*Loader の制御ファイルに関する情報を提供してください。

SQL*Loader-00461 列 *string* のデータ型は、ダイレクト・パスでのロードがサポートされていません。

原因: 指定した列のデータ型は、ダイレクト・パスではロードできない型です。

処置: データ型が、従来型パスでサポートされる場合は、それを使用して表をロードしてください。

SQL*Loader-00462 表 *string*、列 *string*、行 *number* への LOB の挿入でエラーが発生しました。

原因: 行に LOB を書き込もうとしている間に、エラーが発生しました。行は表に残留し、LOB 列は NULL に設定されます。別の LOB 列のロードは継続します。

処置: このメッセージの次に LOB を格納できなかった理由を説明するもう 1 つのメッセージが続きます。別のユーティリティまたはプログラムからの LOB の格納を試みる場合、このメッセージからの情報を使用して、データ・ファイルにあった LOB のデータを見つけることができます。

SQL*Loader-00463 LOB の SDF は *string* です。

原因: このメッセージは、エラーが発生したとき、LOB の移入に使用する 2 次データ・ファイルを示します。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00464 LOB のファイル開始オフセットは *string* です。

原因: このメッセージは、エラーが発生したとき書き込まれた LOB の起動を含む、2 次データ・ファイルへのオフセットを示します。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00465 *string* 疑似命令の引数は *number* 個ですが、*number* 個あります。

原因: COUNT() や BFILE() などのディレクティブが、制御ファイルに指定されました。そのディレクティブは固定数の引数を指定しますが、SQL*Loader 制御ファイルには異なる数の引数があります。

処置: ディレクティブが正しい数の引数を含むように、SQL*Loader 制御ファイルを訂正してください。

SQL*Loader-00466 列 *string* が表 *stirng* にありません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルが、存在しない表の列を指定しました。

処置: 表の列の名前を確認してください。

SQL*Loader-00467 属性 *string* は表 *string* の型 *string* に存在しません。

原因: SQL*Loader 制御ファイルが、指定された型には存在しない属性を指定しました。その型を持つ表も、エラー・メッセージで示されます。

処置: SQL*Loader 制御ファイルで、正しいスキーマの正しい表が指定されているかを検証してください。また、列名の綴りが正しいかも検証してください。

SQL*Loader-00468 OID 指示語は引数を 1 つ予測し、*number* を検出しました。

原因: 複数の引数が OID 句に指定されました。

処置: OID に使用する値を含むフィールドの名前を指定してください。表の OID がユーザー定義の場合は、制御ファイルで OID 句を使用しないでください。

SQL*Loader-00469 SID 指示語は引数を 1 つ予測し、*number* を検出しました。

原因: 複数の引数が SID 句に指定されました。

処置: SID 句で SID に使用する値を含むフィールドの名前のみを指定してください。

SQL*Loader-00470 表 *string* にはシステム生成の OID がありません。

原因: OID 句を表に指定しましたが、表がオブジェクト表ではないか、またはオブジェクト表であるが、行の OID が生成されたシステムではないかのいずれかです。

処置: 正しい表をロードしているかを検証してください。ロードしている場合、この表に OID 句を指定する必要はありません。表がオブジェクト表で、システムが OID を生成し、表の各行に割り当てる OID を指定する場合にのみ、OID を使用してください。

SQL*Loader-00471 OID 句には CONSTANT 引数があります。

原因: OID 句の引数として CONSTANT を指定しました。OID は一意である必要があるため、CONSTANT を指定できません。

処置: FILLER フィールドの各行に OID を格納して、その FILLER フィールドの名前を引数として指定してください。

SQL*Loader-00472 コレクションには、FILLER フィールドでない仕様部を1つだけ包含できます。

原因：複数の FILLER フィールドでない仕様部が、コレクション・フィールドのメンバー・フィールド・リストで見つかりました。

処置：『Oracle8i ユーティリティ・ガイド』の正しい構文を参照してください。特定のコレクションを形成する複数の属性がある場合、これは、COLUMN OBJECT のフィールド指定の構文を使用して指定されるオブジェクト型のコレクションです。

SQL*Loader-00473 コレクションはネストできません。

原因：1つのコレクション型のフィールド説明を別のフィールドにネストできません。

処置：コレクションが SQL*Loader 制御ファイルでネストされるかを検証してください。間違いを訂正してください。

SQL*Loader-00474 列 *string*、表 *string*、行 *number* の動的ファイルに値が設定されていません。

原因：指定した列のデータが、動的 LOBFILE または 2 次データ・ファイルにあります。このフィールドのデータを持つファイルの名前があるフィールドが設定されていないか、NULL のとき、このメッセージが戻されます。これは、データ・ファイルのレコードが、SQL*Loader 制御ファイルによって記述された形式と一致しないためです。

処置：データ・ファイルまたは SQL*Loader 制御ファイルのエラーを訂正してください。

SQL*Loader-00475 動的ファイル名のフィールドは、*string* (表 *string*) です。

原因：このメッセージは、474 番のメッセージの後、常に表示されます。

SQL*Loader-00476 コレクションの要素数が設定されていないか、NULL または 0 (ゼロ) が使用されています。

原因：このメッセージは、問題のある列および行を指定するメッセージに続いて表示されます。このメッセージは、前のメッセージのコレクション・フィールドが、別のフィールドに格納されたコレクションに要素数を持っていることを示します。件数を含むフィールドが値を持っていないか、NULL に設定される場合に、このメッセージが表示されます。その場合、SQL*Loader は 0 を要素数として使用します。

処置：0 がコレクションに対する要素数ではない場合、データ・ファイルのデータを訂正してください。

SQL*Loader-00477 フィールド *string* の REF 疑似命令には、少なくとも引数が2つ必要です。

原因：SQL*Loader 制御ファイルに、フィールドの REF ディレクティブがありますが、ディレクティブに供給される引数が1つしかありません。REF ディレクティブには、常に2つ以上の引数が必要です。

処置：REF ディレクティブに足りない引数を供給してください。REF が有効範囲付きであっても、REF ディレクティブには、常に表名を指定する必要があります。

SQL*Loader-00478 LOBFILE または SDF のファイル名が欠落しているため、継続できません。

原因: LOBFILE または 2 次データ・ファイル名が欠落しているか、カレント行の NULL になっています。SQL*Loader が、次の行への LOB の取得方法を判断できないため、ロードを継続できません。

処置: LOBFILE および 2 次データ・ファイル名を含むすべてのフィールドに有効値が存在するように、データ・ファイルを訂正してください。

SQL*Loader-00479 列 *string* の REF 疑似命令の引数は *number* 個ですが、*number* 個ありません。

原因: 列の REF ディレクティブにある引数の数が間違っています。

処置: REF の引数の正しい数を指定してください。REF ディレクティブには常に表名が必要であることに注意してください。また、主キーの REF には、主キーの各フィールドに 1 つの引数が必要であることに注意してください。

SQL*Loader-00500 ファイル *string* がオープンできません。

原因: SQL*Loader が、指定されたファイルをオープンできませんでした。

処置: ログ・ファイルに記録されたオペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00501 ファイル *string* を読み込めません。

原因: SQL*Loader が、指定されたファイルを読み込めませんでした。

処置: ログ・ファイルに記録されたこのメッセージに続く、オペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00502 ファイル *string* をオープンできません (フィールド *string*、表 *string*)。

原因: LOBFILE または 2 次データ・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: オープンが失敗した理由の詳細のメッセージに続く、オペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。正しい名前が、LOBFILE または 2 次データ・ファイルに指定されたかどうかを検証してください。

SQL*Loader-00503 ファイル *string* に対して拡張子を追加中にエラーが発生しました。

原因: SQL*Loader がデフォルトの拡張子を追加して、ファイル名を作成できませんでした。指定したファイル名が長すぎるか、ファイル名に無効な文字が含まれている可能性があります。

処置: 指定したファイル名を確認してください。

SQL*Loader-00504 ファイル *string* のレコードを読み飛ばし中にエラーが発生しました。

原因: SQL*Loader が、ファイルをオープンできなかったか、ファイルからの読込みに失敗しました。

処置: ファイルが想定されている位置にあること、および読込みアクセス権が付与されていることを確認してください。

SQL*Loader-00505 LOBFILE 読み込みエラー。

原因：2 次データ・ファイルの読み込みに失敗しました。

処置：詳細は、このメッセージに続く、オペレーティング・システムのエラー・メッセージを確認してください。

SQL*Loader-00506 形式エラー *number* が、SDF または LOBFILE *string* の読み込み（列 *string*、表 *string*）で発生しました。

原因：指定された LOBFILE または SDF ファイルのレコード形式が間違っています。

処置：ファイルのレコード形式の問題を修正してください。

SQL*Loader-00507 SDF または LOBFILE *string* の読み込み（列 *string*、表 *string*）で予期しない EOF になりました。

原因：カレント行のデータが見つかる前に、2 次データ・ファイルまたは LOBFILE のファイルの終わりに達しました。

処置：ファイルが LOBFILE の場合、フィールドに正しいデータ型が指定されたかを確認してください。ファイルが 2 次データ・ファイルの場合、レコード形式が

SQL*Loader 制御ファイルで、正しく指定されたかを確認してください。

SQL*Loader-00508 データ・ファイル *string* のレコード・フォーマットにエラーがあります。

原因：データ・ファイルで見つかったデータが、SQL*Loader 制御ファイルのレコード形式に対応していません。

処置：データ・ファイルのすべてのレコードが、SQL*Loader 制御ファイルに記述されている形式と一致するかを検証してください。

SQL*Loader-00509 システム・エラー *string*

原因：操作中に、プラットフォーム固有のエラーが戻されました。このメッセージは、エラーの内容を表示するときに使用されます。

SQL*Loader-00510 ファイル *string* の物理レコードが最大長 *number* を超えています。

原因：データ・ファイル内の物理レコードが長すぎます。

処置：CONCATENATE または CONTINUEIF を使用してください。物理レコードを分割してください。

SQL*Loader-00511 read 関数を初期化できません。

原因：SQL*Loader が、read 関数を初期化できませんでした。

処置：詳細は、ログ・ファイル内のこのメッセージ下のエラーを確認してください。

SQL*Loader-00512 読み込みバッファを解放できません。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00513 ファイル *string* をクローズできません。

原因: SQL*Loader が、指定されたファイルをクローズできませんでした。

処置: 詳細は、ログ・ファイル内のこのメッセージ下のエラーを確認してください。

SQL*Loader-00514 経過時間の取得に失敗しました。

原因: SQL*Loader が、システムからの経過時間の取得に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00515 CPU 時間の取得に失敗しました。

原因: SQL*Loader が、システムからの CPU 時間の取得に失敗しました。

処置: 処置は必要ありません。

SQL*Loader-00516 制御ファイル *string* の内容が空です。

原因: 指定されたファイルの内容が空でした。

処置: 意図したファイルが参照され、そのファイルが空ではないかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00517 ファイル名 *string* の分解に失敗しました。

原因: SQL*Loader が、ファイル名を複数の部分に分解できませんでした。

処置: ファイル名に無効な文字が含まれていないかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00518 ファイル名 *string* の再構成に失敗しました。

原因: SQL*Loader が、複数の部分を再構成してファイル名を作成できませんでした。

処置: ファイル名に無効な文字が含まれていないかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00520 ファイル (*string*) で Ifimknam に失敗しました。

原因: LFI が、ファイルの名前オブジェクト作成に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00521 ファイル (*string*) で Ifilini に失敗しました。

原因: LFI が、ファイルのファイル・オブジェクトの作成または初期化に失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00522 ファイル (*string*) で Ifiopn に失敗しました。

原因: LFI がファイルのオープンに失敗しました。

処置: オペレーティング・システムのエラーまたはメモリーの問題（あるいはその両方）を確認してください。

SQL*Loader-00523 エラー *number* が、ファイル *string* への書き込み中に発生しました。

原因: 指定したファイルに書き込めませんでした。

処置: 次の点を確認してください。

- ファイルが指定された位置に常駐している。
- そのファイルへの書き込み権限がある。
- ディスク領域が十分ある。
- ディスクの割当て制限を超過していない。

これらの条件がすべて満たされている場合は、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00524 データ・ファイル (*string*) の終わりで不完全なレコードが見つかりました。

原因: 指示されたデータ・ファイルの終わりで、不完全なレコードが見つかりました。

処置: データ・ファイルの最後のレコードが完全で、正しい終了文字を持っているかを確認してください。また、固定長レコードが使用中の場合、1つのレコードに対するプラットフォーム固有の長さを超えるレコードがないかを検証してください。

SQL*Loader-00525 OCI リターン状態: 成功。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00526 OCI リターン状態: 成功 (戻り情報あり)。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00527 OCI リターン状態: データがありません。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00528 OCI リターン状態: エラー。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00529 OCI リターン状態: 無効なハンドル。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00530 OCI リターン状態: データが必要です。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00531 OCI リターン状態: 実行中。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00532 OCI リターン状態: 継続。

原因: OCI コールによって戻された状態コードが表示されます。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00533 OCI リターン状態: 不明、値は *number*

原因: 不明の状態が OCI コールによって戻されました。

処置: 詳細は、前後のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00550 正常に終了しました。

SQL*Loader-00551 内部エラー: slf の初期化エラーです。

原因: ファイル I/O コンポーネントを初期化しようとしているときに、内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00552 ファイルをオープンする権限がありません。

原因: ファイルをオープンする権限が SQL*Loader にありません。

処置: 正しいファイルが指定されているかどうか、ファイルに適切な権限が与えられているかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00553 ファイルが見つかりません。

原因: 指定したファイルが見つかりません。

処置: 正しい名前が指定されているかどうか、そのファイルが指定した場所にあるかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00554 ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: ファイルをオープンしようとしているときに、エラーが発生しました。他に考えられる原因はありません。

処置: そのファイルがアクセス可能かどうかを確認してください。

SQL*Loader-00555 認識できない処理オプションです。

原因: ファイルに指定した処理オプションは、認識できません。

処置: ファイルに指定した処理オプションの構文が、SQL*Loader を実行中のプラットフォームで有効かどうかを確認してください。

SQL*Loader-00556 読み込みバッファを割り当てできません。

原因: 読み込みバッファを割り当てようとしたことが、失敗しました。

処置: 可能な場合は、読み込みバッファのサイズを小さくしてください。

SQL*Loader-00557 メモリーを割り当てできません。

原因: ファイルへの I/O を追跡するためのメモリーを割り当てようとしたことが、失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00558 ローダーへのリンクに SKIP パラメータを使用しようとした。

原因: リンク・ファイル・プロセッサに SKIP パラメータが指定されました。

処置: このような場合に SKIP パラメータは使用しないでください。

SQL*Loader-00559 ファイル *string* のクローズでエラーが発生しました。

原因: ファイルのクローズ中に、エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00560 ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

原因: ファイルの読み込み中に、エラーが発生しました。

処置: ファイルがまだアクセス可能かどうかを確認してください。

SQL*Loader-00561 ファイルの終わりです。

原因: ファイルの終わりに到達しました。

SQL*Loader-00562 レコードが大きすぎます。

原因: ファイルのレコードが読み込みバッファのサイズを超えています。

処置: ファイルが破損していないかどうかを確認してください。破損していなければ、読み込みバッファのサイズを大きくしてください。

SQL*Loader-00563 VAR レコードの長さが正しくありません。

原因: VAR レコードの長さ部分に、数値以外のデータが含まれています。

処置: ファイル内のそのデータを修正してください。

SQL*Loader-00564 レコード・デリミタに不正な 16 進数が指定されました。

原因: ファイルに対するレコード・デリミタを含む 16 進リテラルに、有効な 16 進文字列が含まれていません。

処置: そのファイルに対する処理オプションに指定されている 16 進数の値が正しいかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00565 スキップで予定外のエラーが発生しました。

原因: レコードをスキップしようとしているときに、予定外のエラーが発生しました。

処置: このメッセージの後には、このエラー固有の情報を示す別のエラーが表示されます。

SQL*Loader-00600 *number* のバインド・サイズは、1 行を保持するために *number* バイト増加しました。

原因: 単一行を格納するために必要な領域が、指定されたバインド・サイズを超えています。バインド・サイズに使用されている値は、より大きいサイズの領域を処理できるように増加します。

処置: 処置は必要ありません。このエラー・メッセージの新しい値がバインド・サイズに指定されると、このメッセージは表示されなくなります。

SQL*Loader-00601 INSERT オプションに対する表は空でなければなりません。表 *string* でエラーです。

原因: INSERT オプションで、空ではない表がロードされています。

処置: REPLACE キーワードを使用して古い表を空にしてから、その位置に新しいデータを格納してください。APPEND キーワードを使用して表の内容には手をつけずに、新しいデータを追加してください。

SQL*Loader-00602 最大変換長 *number* (列 *string*) がバインド配列に対して大きすぎます。

原因: この列は、指定されたキャラクタ・セット変換を実行できず、システムの連続したメモリー領域に格納されたままになっています。

処置: もっと短いデータ列を指定するか、またはキャラクタ・セット変換を除去してください。

SQL*Loader-00603 最大長 *number* (列 *string*) がバインド配列に対して大きすぎます。

原因: 指定された列をシステムの連続したメモリー領域に格納できません。

処置: もっと短いデータ列を指定してください。

SQL*Loader-00604 コミットの実行時にエラーが発生しました。

原因: 変更点をデータベースにコミットしようとしたときにエラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイル中のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00605 データに依存しない Oracle エラーが発生し、ロードが停止しました。

原因: データに関係なくエラーが発生しました。たとえば、領域不足の場合などです。この時点より後のデータは拒否されるため、ロードは停止します（このエラーがデータに依存していた場合は、残りの行は正常にロードされるはずです）。

処置: 詳細は、ログ・ファイル中のメッセージを参照してください。

SQL*Loader-00606 INTO TABLE 句のオブジェクト *string* はローカル表ではありません。

原因：SQL*Loader 制御ファイル内の INTO TABLE 句で指定されているシノニムは、データベース・リンクを介してリモート・オブジェクトを指定しています。既存のローカル表に使用されるシノニムのみが、INTO TABLE 句で指定できます。

処置：ローカルを表名またはローカル表に使用されるシノニムを、INTO TABLE 句で完全に指定してください。表はすでに存在している必要があります。

SQL*Loader-00607 INSERT オプションのパーティションが空ではありません (表 *string*、パーティション *string*)。

原因：空でないパーティションに対して INSERT オプションを使用しようとした。

処置：パーティションを空にするか、REPLACE または TRUNCATE オプションを使用してください。

SQL*Loader-00608 INSERT オプションのサブパーティションが空ではありません (表 *string*、サブパーティション *string*)。

原因：空でないサブパーティションに対して INSERT オプションを使用しようとした。

処置：サブパーティションを空にするか、REPLACE または TRUNCATE オプションを使用してください。

SQL*Loader-00620 左側の囲み文字が見つかりません。

原因：必須の左囲みデリミタがありません。カレント・フィールドの左囲みデリミタが欠落しているか、または前のフィールドの同一の右デリミタが欠落しています。

処置：不足しているデリミタを指定してください。

SQL*Loader-00621 データ・ファイルのフィールドが最大長を超えています。

原因：フィールドが、許される最大長を超えました。最大長は SQL*Loader 制御ファイルで指定されている長さ、または長さが指定されていないデリミタで区切ることができるフィールドに関しては、対応するデータベースの列 (char および varchar 列) の最大長になります。

処置：欠落しているデリミタを調べてください。またはフィールドを短縮してください。必要ならば、両方を行ってください。

SQL*Loader-00622 論理レコードが終了する前に列が見つかりませんでした。(TRAILING NULLCOLS を使用)

原因：指定したすべてのフィールドが検出される前に、論理レコードが終了しました。

処置：欠落フィールドを NULL でロードする場合は、TRAILING NULLCOLS 句を使用してください。または、データを訂正してください。

SQL*Loader-00623 二番目の囲み文字列がありません。

原因: 右側の囲みデリミタが検出される前に、レコードの論理的終了または LOBFILE の終わりに達しました。

処置: データ・ファイルを訂正して、欠落しているデリミタを入れてください。

SQL*Loader-00624 TERMINATED と ENCLOSED フィールドに続く終了記号がありません。

原因: 囲みフィールドが終了した後に終了デリミタがありませんでした。

処置: 欠落している終了デリミタを入れてください。

SQL*Loader-00625 制御ファイル内でマルチバイト・キャラクタ・エラーが発生しました。

原因: SQL*Loader 制御ファイル内で、不完全なマルチバイト・キャラクタ文字列が検出されました。

処置: SQL*Loader 制御ファイルを編集して、すべてのマルチバイト・キャラクタ・データが有効であるかどうかを確認してください。

SQL*Loader-00626 キャラクタ・セット変換バッファが溢れました。

原因: データ・ファイル・キャラクタ・セットからクライアント・キャラクタ・セットへの変換には、変換バッファに割り当てられていたものより多くの領域が必要でした。変換バッファのサイズは、VARCHAR2 列の最大サイズによって制限されます。

処置: 入力レコードが拒否されました。データが列に収まりません。

SQL*Loader-00627 キャラクタ・セット変換グラフは使用不可です。

原因: データ・ファイル・キャラクタ・セットからクライアント・キャラクタ・セットへの変換は、変換グラフが使用不可なために失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。NLSRTL インストールを確認してください。

SQL*Loader-00628 キャラクタ・セット変換エラーです。

原因: キャラクタ・セット変換エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。NLSRTL インストールを確認してください。エラーが出力される再現可能なテスト・ケースを提供してください。

SQL*Loader-00640 可変長フィールドが切り捨てられました。

原因: 可変長フィールドの終わりになる前に、論理レコードの終わりに達しました。それぞれの可変長フィールドの長さはフィールドに埋め込まれているので、SQL*Loader はこの後にもデータが続くことを認識しています。

処置: データを調べて不注意による切捨てを確認し、ログ・ファイルに対する SQL*Loader 制御ファイル指定を検証してください。フィールドが誤った場所で起動している可能性があります。

SQL*Loader-00641 ゾーン 10 進数のニブルが無効です。

原因: ゾーン 10 進数のそれぞれのバイト (文字) は 2 つのニブル (4 ビット) から構成されています。ニブルには適性な値が入っている必要があります。

処置: ログ・ファイルに対する SQL*Loader 制御ファイルの指定を確認し、フィールド位置を正しく指定してください。また、フィールドの内容も確認してください。

SQL*Loader-00642 フィールド相対開始位置の方が絶対終了位置よりも大きいです。

原因: POSITION (*+n;y) として指定されたフィールドが、絶対位置 y の後に発生しています。

処置: デリミタが欠落していないことと、n と y の値が正しいことを確認してください。

SQL*Loader-00643 表 *string* に対して INSERT 文の実行中にエラーが発生しました。

原因: 表にデータを入力中に、致命的なエラーが発生しました。

処置: 詳細は、次のエラー・メッセージを参照してください。いずれかの列に SQL 文字列を指定した場合、文字列が正しいかを検証してください。特に、カッコおよび引用符が正しく使用されているかを検証してください。別の形式エラーです。

SQL*Loader-00644 可変長フィールドの長さの読み込み中に論理レコードの終わりを検出しました。

原因: 可変長フィールドの長さの読み込み中に、論理レコードの終わりに達しました。

処置: SQL*Loader 制御ファイルがデータを正しく記述しているか、データ・ファイルのデータが SQL*Loader 制御ファイルの説明と一致するかを検証してください。

SQL*Loader-00645 文字長変換フィールドの数値エラー。

原因: VARCHARC または VARRAWC フィールドの部分件数を含む文字の変換中に、エラーが発生しました。

処置: 列に対する部分件数の値が正しいかを検証してください。

SQL*Loader-00700 Out of memory while performing essential allocations [*number*]

原因: SQL*Loader は必要なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: オペレーティング・システムとプロセス・メモリーを確認してください。可能であれば、SQL*Loader に使用可能なメモリーを増やしてください。増やせない場合は、メモリーが使用できるまで待ってください。

SQL*Loader-00702 Internal error - *string*

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: メッセージを控えて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00703 Internal error: argument *number*

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: メッセージとエラー番号を控えて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00704 Internal error: string [*number*]

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: メッセージとエラー番号を控えて、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00705 Internal error

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00706 Bad argument to ulerr [*number*].

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00707 Sql*Loader exiting with return code=[*number*].

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00708 内部エラー: 不明な状態 *string* が sllf レイヤーから戻りました。

原因: sllf レイヤーへのコールによって、不明な状態が戻されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00901 Oracle にログオン中にエラーが発生しました。

原因: ダイレクト・パス・ロード・モードで Oracle にログインしようとしてしました。

処置: インスタンスが起動されていることを確認してください。詳細は、ログ・ファイルに記録されたこのメッセージ下の Oracle メッセージを参照してください。

SQL*Loader-00902 カーソルのオープンでエラー *number* が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: ログ・ファイル内の Oracle メッセージを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL*Loader-00903 バージョン *number. number. number. number. number* 以降の Oracle で、ダイレクト・パスが使用可能です。

原因: 互換性のないデータベースでダイレクト・パス・ロード・モードを使用しています。

処置: 指定されたバージョンにデータベースをアップグレードするか、従来型パス・ロードを使用してください。

SQL*Loader-00904 データベース V5 にリンクした後ダイレクト・パスは使用できません。

原因: データベース・バージョン 5 に SQL*Loader がリンクした後、ダイレクト・パスが使用されています。

処置: 従来型パスを使用してください。

SQL*Loader-00905 *upi* での SQL 文解析でエラー *number* が発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00906 *upi* での SQL 文実行でエラー *number* が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00908 表 *string* のロックが Oracle エラー *number* のために失敗しました。

原因: SQL*Loader が DML で表の排他ロックを実行できませんでした。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。
USER_OBJECTS というカタログ・ビュー中の表のオブジェクト番号を調べてください。
SQL*DBA MONITOR LOCK コマンドを使用して、すべてのプロセスの一覧と未済のロックの状態を見ることができます。表をロックしているプロセスを確認してください。続いて、MONITOR PROCESS コマンドを使用して、Oracle プロセスとしてログインし、ロックを保持しているユーザーを調べ、その表へのアクセスをやめてもらうか、またはそのユーザーの処理が終了するのを待って再試行してください。

SQL*Loader-00909 ダイレクト・パスでローダーのビューは SYS でロードされる必要があります。

原因: ダイレクト・パス・ロードに必要なデータベース・ビューが存在しません。

処置: 『Oracle8i 管理者ガイド』には、必要なビューをロードするためにユーザー SYS として必要なスクリプトを実行する方法について説明してあります。

SQL*Loader-00910 *upi* の入力変数のバインドでエラー *number* が発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00911 upi の出力変数の定義でエラー *number* が発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00913 SELECT 文 (upi) でのフェッチ結果でエラー *number* が発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00914 表 *string* を排他モードでロックしようとしてエラーが発生しました。

原因: 指定した表をダイレクト・パス・ロード・モードでロックすることはできません。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。必要な権限が付与されていることを確認してください。

SQL*Loader-00915 カーソルのクローズでエラー *number* が発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00916 同質性の検査でエラーが発生しました。

原因: データベースのフロントエンドおよびバックエンドが別個のハードウェア・システム上にある場合にダイレクト・パス・ロードを行うには、相手のシステムが自分のシステムと同一である必要があります。このエラーは SQL*Loader がシステム間の違いを検出した場合に出力され、これが解決されないとダイレクト・ロードは正常に実行されません。

処置: 従来型パス・ロードをこの構成に使用してください。

SQL*Loader-00918 使用する SQL*Loader では、SYS ユーザーでカタログをロードしなければなりません。

原因: カタログがロードされていません。

処置: ユーザー SYS としてログオンし、Oracle のカタログおよびスクリプト ULVIEW.SQL 内にあるビューをロードしてください。

SQL*Loader-00919 upi フェッチの実行中にエラー *number* が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。

SQL*Loader-00924 *string*

SQL*Loader-00925 *string* 実行時にエラーが発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。参照している表または列がアクセス不可能である可能性があります。

SQL*Loader-00926 *string* (表 *string*) の作業中に OCI エラーが発生しました。

原因: OCI エラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。参照している表または列がアクセス不可能である可能性があります。

SQL*Loader-00927 表 *string* が存在しません。

原因: SQL*Loader は該当する名前の表を見つけられませんでした。指定した表が存在しない可能性があります。システムによっては、必要な権限が付与されていない場合にも、このメッセージが表示されることがあります。

処置: 表が存在していて、表名の綴りに間違いがないことと、その表に対する必要な権限が付与されていることを確認してください。

SQL*Loader-00929 表 *string* に対する Insert 文の解析でエラーが発生しました。

原因: 表の挿入文の解析でエラーが発生しました。

処置: 使用されたすべての SQL 文字列を確認してください。

SQL*Loader-00930 表 *string*、列 *string* に対する Insert 文の解析でエラーが発生しました。

原因: 指定された列に対する INSERT 文の解析でエラーが発生しました。

処置: 詳細は、ログ・ファイルに記録されたメッセージを確認してください。この列に SQL 文字列が使用されているときは、その文字列を確認してください。

SQL*Loader-00931 列 *string* (表 *string*) に対する変数をバインディング中に OCI エラーが発生しました。

原因: OCI エラーが発生しました。

処置: 詳細は、エラーを確認してください。この列に対する SQL 文字列に問題がある可能性があります。

SQL*Loader-00932 表 *string* を切捨てに失敗しました。

原因: 表の切捨てを試みましたが、失敗しました。

処置: 詳細は、次のエラーを確認してください。参照制約による切捨ては起きないはずです。

SQL*Loader-00933 指定したファイル *string* は、データベースにありません。

原因: 表をロードしようとして指定したファイル名は、データベースにはありません。

処置: 有効なデータ・ファイルを指定してください。

SQL*Loader-00934 データ・ファイル *string* (表 *string*) は無効です。

原因: 表が常駐している表領域の一部ではない表をロードするのに、データ・ファイル名が指定されました。

処置: 有効なデータ・ファイルを指定してください。

SQL*Loader-00935 パラレル・ロードに必要なオプションの検査中にエラーが発生しました。

原因: 必要なオプションが見つからないかまたは無効だったため、エラーが発生しました。

処置: 付随する Oracle メッセージの記述に従って問題を訂正してください。

SQL*Loader-00936 表 *string*、パーティション / サブパーティション *string* をロックできません (Oracle エラー *number*)。

原因: ロードは必要なパーティション / サブパーティションをロックできませんでした。

処置: ロックの保持者に解放を依頼するか、操作を再試行してください。

SQL*Loader-00937 パラレル・ロードが要求されましたが、*string* ではトリガーまたは制約を使用可能にしています。

原因: パラレル・ダイレクト・ロードの要求を行いましたが、ロードするオブジェクトに使用可能な制約 (確認、参照用) または使用可能なトリガー、あるいはその両方があります。

処置: 使用可能になっている制約またはトリガー (あるいはその両方) を使用禁止にして、パラレル・ダイレクト・ロードを再試行してください。

SQL*Loader-00938 パーティション・ロードが要求されましたが、*string* ではトリガーまたは制約を使用可能にしています。

原因: シングル・パーティションのダイレクト・ロードの要求を行いましたが、ロードするオブジェクトに使用可能な制約 (確認、参照用) または使用可能なトリガー、あるいはその両方があります。

処置: 使用可能になっている制約またはトリガー (あるいはその両方) を使用禁止にして、パラレル・ダイレクト・ロードを再試行してください。

SQL*Loader-00939 *string* (表 *string*、パーティション *string*) の作業中に OCI エラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、次のエラーを確認してください。参照している表またはパーティションがアクセス不能である可能性があります。

SQL*Loader-00940 NCHAR バインド属性 (列 *string*、表 *string*) を設定中に UPI エラーが発生しました。

原因: NCHAR 列の CHARSETFORM 属性を設定中に、エラーが発生しました。

処置: これは内部エラーです。オラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

SQL*Loader-00941 表 *string* の記述中にエラーが発生しました。

原因: 指定された表で SELECT リストの DESCRIBE を実行中に、エラーが発生しました。このエラーに続くエラーを確認してください。

処置: SQL*Loader 制御ファイルで指定された表名、およびすべての列名が正しいことを確認してください。

SQL*Loader-00942 パーティション *string* は、表 *string* の一部ではありません。

原因: 指定されたパーティションが、指定された表の一部ではありません。

処置: 指定されたパーティションが正しいかどうか、指定された表のパーティションかどうか確認してください。

SQL*Loader-00943 指定されたデータ・ファイル *string* が表 *string* のパーティション *string* にありません。

原因: 指定されたデータ・ファイルが、指定されたパーティションの表領域にあります。パーティション表で FILE= キーワードを使用したために、このエラーが発生しました。パーティション表のパーティションをすべてロードするときは、パーティションは同じ表領域にする必要があります。パーティションを 1 つロードするときは、ロードされるパーティションの表領域は、指定されたデータ・ファイルが常駐する表領域と同じである必要があります。

処置: FILE= キーワードを介して指定されたデータ・ファイルが、ロードされるパーティションの表領域にあることを確認してください。

SQL*Loader-00944 表 *string* に対して文の挿入の準備中にエラーが発生しました。

原因: 表の挿入文に対する OCISstmtPrepare へのコールでエラーが戻されました。

処置: OCISstmtPrepare によって戻されたエラーの詳細は、次のメッセージを参照してください。SQL*Loader 制御ファイル内で指定されたすべての SQL 文字列に対する構文が正しいことを確認してください。

SQL*Loader-00945 ダイレクト・パスに対するレコード・サイズ *number* が大きすぎます。

原因: データ・ファイルの最大レコード・サイズが、ダイレクト・パスがサポートする最大サイズ (65535) より大きいです。

処置: 従来型パスを使用して、データ・ファイルをロードしてください。

SQL*Loader-00946 *string* 中に OCI エラーが発生しました (表 *string*、サブパーティション *string*)。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細は、次のエラーを確認してください。参照している表またはサブパーティションがアクセス不能である可能性があります。

SQL*Loader-00947 サブパーティション・ロードが要求されましたが、*string* ではトリガーまたは制約を使用可能にしています。

原因: 1つのサブパーティションのダイレクト・ロードが要求されましたが、ロードするオブジェクトに使用可能な制約（確認、参照用）または使用可能なトリガー（あるいはその両方）があります。

処置: 使用可能になっている制約またはトリガー（あるいはその両方）を使用禁止にして、パラレル・ダイレクト・ロードを再試行してください。

SQL*Loader-00948 サブパーティション *string* は、表 *string* の一部ではありません。

原因: 指定されたサブパーティションが、指定された表の一部ではありません。

処置: サブパーティションおよび表名を確認してください。

SQL*Loader-00949 指定したデータ・ファイル *string* は正しくありません（表 *string*、サブパーティション *string*）。

原因: 指定されたデータ・ファイルが、指定されたサブパーティションの表領域にありません。サブパーティション表で FILE= キーワードを使用したために、このエラーが発生しました。サブパーティション表のサブパーティションをすべてロードするときは、サブパーティションは同じ表領域にする必要があります。サブパーティションを1つロードするときは、ロードされるサブパーティションの表領域は、指定されたデータ・ファイルが常駐する表領域と同じにする必要があります。

処置: サブパーティションを1つロードするとき、ロードされるサブパーティションの表領域が、指定されたデータ・ファイルが常駐する表領域と同じであることを確認してください。

SQL*Loader-00950 2 タスク間でのデータ構造体の受渡しでエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00951 once/load 初期化呼び出し時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00952 once/data ファイル初期化呼び出し時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00953 2 タスク間でのバッファ読み込みでエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00954 2 タスク間での索引のバッファ読み込みでエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00955 列配列の構築でブロック・フォーマッタのエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00956 once/data ファイル終了呼び出し時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00957 2 タスク間で文字列の受渡し時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00958 データ再配置でスタック・アドレスのポップ時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00959 2 タスク間でのバッファの受渡し時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00961 once/load 終了呼び出し時にエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00962 Ctl-C ハンドラの設定でエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00963 Ctl-C ハンドラの解除でエラーが発生しました。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00965 エラー *number* が発生したため、制約 *string* を表 *string* に対して適用できません。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00966 エラー *number* が発生したため、全てのトリガーを表 *string* に対して適用できません。

原因: これはヘッダー・メッセージです。

処置: 詳細はエラーを確認してください。

SQL*Loader-00969 カーネル・サイトでファイル名解釈の実行中にエラーが発生しました。

原因: パラレル・ロードに指定されたファイルが、有効なデータベース・ファイルではない可能性があります。

処置: 有効なデータベース・ファイルを指定してください。

SQL*Loader-02050 マルチバイト・キャラクタでエラーが発生しました。

原因: POSITION によって指定されたテキスト、または改行で終了したテキストが無効です。

処置: SQL*Loader 制御ファイルまたはデータ・ファイルを編集して、列の配置を修正してください。

第IV部

ネットワーク・メッセージ

第IV部には、次の章があります。

- 第25章「Net8 メッセージ (TNS)」
- 第26章「Oracle Names Client メッセージ (NNC)」
- 第27章「Oracle Names Server メッセージ (NNO)」
- 第28章「Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)」
- 第29章「Oracle Names Server ネットワークのプレゼンテーション層メッセージ (NPL)」
- 第30章「External Naming メッセージ (NNF)」
- 第31章「簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)」
- 第32章「リモート操作メッセージ (NCR)」
- 第33章「ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)」

ネットワーク・トピックの詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle8i Net8 管理者ガイド』
- 『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』

Net8 メッセージ (TNS)

TNS-00001 INTCTL: 端末からコマンド行を獲得するときにエラーが発生しました。

原因: 端末からの標準入力接続が不正です。

処置: 通常ユーザーには表示されません。INTCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00002 INTCTL: Interchange を起動中にエラーが発生しました。

原因: Interchange を起動できませんでした。

処置: Interchange 構成ファイル (INTCHG.ORA、TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA) にエラーがないか確認し、指定された ADDRESS を使用しているプロセスが他にないことを確認してください。エラーが繰り返される場合は、Interchange コンポーネントでトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を判断してください。問題が解決したら、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-00003 INTCTL:Interchange に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因: Interchange に不正なコマンドが送信されたか、または Interchange が応答していません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: Interchange に送信されたコマンドが有効であることを検証してください。INTCTL STATUS コマンドを使用して、Interchange が実行中であることも確認してください。必要に応じて、INTCTL START コマンドを使用して Interchange を起動してください。

TNS-00004 INTCTL: Navigator を起動中にエラーが発生しました。

原因: Navigator を起動できませんでした。

処置: Navigator (NAVGAIR) の実行ファイルが、プラットフォームの Oracle 実行可能ディレクトリに存在することを調べてください。構成ファイル TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA を調べて、エラーを見つけてください。エラーが続く場合は、Interchange コンポーネントでトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を判断してください。問題が解決したら、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-00005 INTCTL: Navigator に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因：Navigator が応答していません。Navigator が実行中でないか、または別のプロセスが応答しています。

処置：Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Navigator が実行中であることを確認してください。TNSNAMES.ORA、TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA 構成ファイルに、正しいアドレスがリストされていることを確認してください。

TNS-00006 INTCTL: HOST 変数が定義されていません。

原因：HOST 変数が設定されませんでした。

処置：HOST 変数を正しく設定し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00007 INTCTL: ホストが不明です。

原因：ポインタ・ホストに不明なホスト名が設定されています。

処置：ポインタ・ホストを正しく設定し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00008 INTCTL: 接続先 Navigator に接続できません。

原因：Navigator との接続を正しく確立できませんでした。指定された Navigator が実行中でないか、または Navigator アドレスが不正である可能性があります。

処置：Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Navigator が実行中であることを確認してください。必要に応じて、Interchange Control Utility の START コマンドを使用して、Navigator を起動してください。実行中でもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00009 INTCTL: Connection Manager に接続できません。

原因：Connection Manager との接続を正しく確立できませんでした。指定された Connection Manager (Interchange) が実行中ではないか、または Connection Manager のアドレスが不正である可能性があります。

処置：Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることを確認してください。必要に応じて、Interchange Control Utility の START コマンドを使用して、Connection Manager を起動してください。実行中でもエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00010 NS コンテキストをフラッシュ中にエラーが発生しました。

原因：NS の内部エラー。接続が失われた可能性があります。

処置：接続が正しく確立されていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00011 INTCTL: Connection Manager を起動中にエラーが発生しました。

原因：Connection Manager を起動できませんでした。

処置: 実行可能ファイルが、標準の Oracle 実行可能領域に存在することを確認してください。構成ファイル INTCHG.ORA にエラーがないか確認し、他に TNSNET.ORA で指定されている Connection Manager の ADDRESS を使用しているプロセスがないことを確認してください。Connection Manager のトレースをオンにして、エラーの発生理由を判断できます。トレースをオンにする方法については、『Oracle MultiProtocol Interchange 管理者ガイド』を参照してください。

TNS-00012 INTCTL: Connection Manager の要求を処理中にエラーが発生しました。

原因: 不正なコマンドが Connection Manager に送信されたか、または Connection Manager が応答していません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: TNSNAMES.ORA、TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA 構成ファイルに、正しいアドレスがリストされていることを確認してください。Interchange Control Utility の STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00013 INTCTL: NS 切断コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続のクローズ中に、エラーが発生しました。

処置: 使用されているネットワーク・プロトコルが、マシンに正しくインストールされていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00014 INTCTL: 端末入力チャネルをオープン中にエラーが発生しました。

原因: 標準端末入力をオープンできませんでした。これは内部エラーです。

処置: 通常ユーザーには表示されません。INTCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00015 INTCTL: 端末入力チャネルをクローズ中にエラーが発生しました。

原因: 端末入力チャネルをクローズできませんでした。これは内部エラーです。

処置: 通常ユーザーには表示されません。INTCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00016 INTCTL: NS 送信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00017 INTCTL: NS 受信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00018 INTCTL: TNS_ADMIN が定義されていません。

原因: TNS_ADMIN ポインタが正しく設定されていません。

処置: 処置は必要ありません。違うネットワーク環境を使用する場合のみ、TNS_ADMIN を設定してください。

TNS-00019 INTCTL: 各国語インタフェースの初期化中にエラーが発生しました。

原因: メッセージ・ファイルは見つかりませんでした。

処置: Oracle 環境が設定されており、メッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

TNS-00020 INTCTL: TNSNAV.ORA に NAVIGATOR_DATA がありません。

原因: TNSNAV.ORA には NAVIGATOR_DATA コンポーネントがありません。

処置: Navigator に ADDRESS を定義し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00021 INTCTL: INTCHG.ORA に INTERCHANGE_DATA がありません。

原因: INTCHG.ORA には INTERCHANGE_DATA コンポーネントがありません。

処置: Connection Manager に正しいデータを定義し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00022 INTCTL: INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME がありません。

原因: INTCHG.ORA には CMANAGER_NAME コンポーネントがありません。

処置: CMANAGER_NAME に名前を定義し、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00023 INTCTL: config ファイルに ADDRESS が見つかりません。

原因: 構成ファイルには ADDRESS/ADDRESS_LIST コンポーネントがありません。

処置: TNSNET.ORA ファイルに Connection Manager の ADDRESS を定義し、TNSNAV.ORA ファイルの Navigator の ADDRESS を確認して、INTCTL プログラムを再起動してください。

TNS-00024 INTCTL: Connection Manager のアドレスを取得する Navigator に接続できません。

原因: Navigator が実行中ではありません。

処置: Navigator でステータス要求を行って Navigator が実行中であることを検証してください (Interchange Control Utility のコマンド STATUS を使用してください)。必要に応じて、Interchange Control Utility を使用して Navigator を起動してください。ネッ

トワークが正しく構成されていることを検証してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00025 INTCTL:Oracle 環境が正しくセットアップされていません。

原因：Oracle 環境が正しく設定されていません。

処置：Oracle 環境の設定方法に関する情報については、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。修正して、INTCTL を再実行してください。Oracle 環境に、正しいディレクトリが含まれていることを確認してください。

TNS-00026 INTCTL: TNS_ADMIN ディレクトリを設定し、それを使用中です。

原因：環境変数 TNS_ADMIN が正しく設定されています。INTCTL は TNS_ADMIN ディレクトリを使用します。これは、情報メッセージです。

処置：TNS_ADMIN ディレクトリではなくデフォルト・ディレクトリを使用する場合は、TNS_ADMIN を再設定し再実行してください。

TNS-00027 INTCTL: Navigator 名 / アドレスを解決できません。

原因：アドレス定義に対する Navigator の名前がありません。

処置：TNSNAMES.ORA ファイルを調べて、それが指定された名前の定義を含むことを確認してください。

TNS-00028 INTCTL: Connection Manager 名 / アドレスが不明です。

原因：Connection Manager の名前には Navigator が認識する定義がないか、または TNSNAMES.ORA ファイルで使用可能な名前 / アドレスではありません。INTCHG.ORA ファイルで名前が不正である可能性もあります。

処置：Connection Manager の名前が、Navigator に読み込まれる TNSNET.ORA ファイルにあるか、または TNSNAMES.ORA ファイルにあることを検証してください。INTCHG.ORA が正しいことを確認してください。

TNS-00031 INTCTL: 内部 NT エラーです。

原因：インストールされたプロトコル・アダプタに問題が発生しました。

処置：通常ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00032 INTCTL: 内部 NS エラーです。

原因：TNS に問題が発生しました。

処置：通常ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00033 INTCTL: 内部 NL エラーです。

原因: 内部 TNS モジュール NL の問題です。

処置: 通常ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00034 INTCTL: 内部 NR エラーです。

原因: 内部 Interchange ルーチンの問題です。

処置: 通常ユーザーには表示されません。INTCTL を再起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00035 INTCTL: 完全ファイル名を作成中にエラーが発生しました。

原因: ファイルまたは環境変数へのパス名が不正なため、ファイル名のフルパスを作成中に問題が発生しました。検索されたファイルは、TNSNAMES.ORA、TNSNAV.ORA、INTCHG.ORA および Navigator と Connection Manager のエラー・ファイルを含みます。

処置: 環境変数がすべて正しく定義され、構成ファイルがすべて正しい場所に存在することを確認してください。

TNS-00036 INTCTL: Navigator または Connection Manager のエラー・ファイル読み込みエラー。

原因: Navigator または Connection Manager が起動に失敗したときに生成したエラー・ファイルを読み込むときに、問題が発生しました。

処置: 標準ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリの権限がすべて適切であることを確認してください。

TNS-00037 INTCTL: Navigator/Connection Manager のエラー・ファイルのオープンエラー。

原因: Navigator または Connection Manager が起動に失敗したときのエラー・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリの権限がすべて適切であることを確認してください。

TNS-00038 INTCTL: アドレスまたはコマンド文字列の構成に不備があります。

原因: Navigator または Connection Manager のどちらかにメッセージを送信しようとして、受け入れられない文字列が検出されました。Navigator または Connection Manager のいずれかに指定されたアドレスが、正しく記述されていない可能性があります。

処置: 構成ファイル（TNSNAMES.ORA、TNSNAV.ORA または TNSNET.ORA）のアドレス文字列をすべて調べ、形式が正しいことを確認してください。可能であれば、

ファイルを再生成してください。すべてに問題がなければ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00039 INTCTL: プロセスを生成中にエラーが発生しました。

原因: 内部オペレーティング・システム依存の問題のため、プロセスを生成中にエラーが検出されました。マシン・リソースが制限されている可能性があります。

処置: コマンドを再実行してください。Interchange を実行できる権限および検索パスの現行の設定を確認してください。必要に応じて、その他のアプリケーションを終了してマシン・リソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00040 INTCTL: トレース・コンテキストの初期化に失敗しましたが、続行中です。

原因: INTCHG.ORA のエラーのため、ユーザーの権限が不正であるため、またはファイルが存在しないために、指定されたトレース・ファイルのオープン中に問題が発生しました。

処置: 構成ファイルの権限を確認し、確実にすべてが正しい場所に存在するようにしてください。

TNS-00041 INTCTL:Navigator はすでに実行されています。開始操作は取り消されました。

原因: Navigator はすでに実行されており、同じアドレスでリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Navigator はすでに実行されています。

TNS-00042 INTCTL: CMANAGER はすでに実行されています。開始操作は取り消されました。

原因: Connection Manager はすでに実行されており、同じアドレスでリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Connection Manager はすでに実行されています。

TNS-00043: CMANAGER は接続されたままですが、それでも停止しますか (y/n) ?

原因: 停止しようとしている CMANAGER は接続されたままです。これは確認メッセージです。

処置: y または n を押して、応答してください。y を押すと、アクティブなデータベース接続は削除されます。これは通常お薦めしません。

TNS-00044 INTCTL:Connection Manager とコンタクトするには INTCHG.ORA ファイルが必要です。

原因: 正しいディレクトリに INTCHG.ORA が存在しないのに、デフォルトの Connection Manager (Interchange) とコンタクトしようとしてしました。

処置: INTCHG.ORA ファイルを作成してください。このファイルが正しいディレクトリにあり、コンタクトする Connection Manager の正しい名前を含んでいることを確認してください。

TNS-00045 INTCTL: そのアドレスでは Navigator とコンタクトできません。

原因: 応答しないアドレスで、Navigator とコンタクトしようとした。

処置: TNSNAV.ORA ファイルでそのアドレスを確認してください。Navigator が、実際にそのアドレスでリスニングしていることを確認してください。

TNS-00046 INTCTL: そのアドレスでは CMANAGER とコンタクトできません。

原因: 応答しないアドレスで、CMANAGER とコンタクトしようとした。

処置: TNSNET.ORA ファイルに、そのアドレスが含まれていることを確認してください。INTCTL STATUS コマンドを使用して、CMANAGER が実際にそのアドレスでリスニングしていることも確認してください。必要に応じて、INTCTL START コマンドを使用して Connection Manager を起動してください。

TNS-00060 INTCTL: 不適切なコマンド: リモート Interchange で使用できるのは STATUS のみです。

原因: 存在しないコマンドが入力されました、またはリモート Interchange に STATUS 以外の要求がされました。

処置: INTCTL コマンドのリストについては、『Oracle MultiProtocol Interchange 管理者ガイド』を調べてください。有効なコマンドのリストについては、HELP とタイプしてください。

TNS-00061 INTCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: トレース・レベルの指定が必要です。

原因: トレース・レベルが指定されませんでした。

処置: トレース・レベルを指定して、コマンドを再試行してください。

TNS-00062 INTCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: ヘルプ表示は help/h/? とタイプします。

原因: 無効なコマンドが入力されました。

処置: 有効なコマンドのリストについては、『Oracle MultiProtocol Interchange 管理者ガイド』を調べるか、HELP とタイプしてください。

TNS-00063 INTCTL: パッファに対するメモリーの割当てに失敗しました。

原因: INTCTL が内部パッファ用のメモリー割当てに失敗しました。

処置: マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確実にしてください。必要であれば、実行するプログラム数を少なくして、メモリーを解放して、再試行してください。

TNS-00064 INTCTL: INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME が見つかりませんでした。

原因: INTCTL は INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME パラメータを見つけることができませんでした。

処置: INTCHG.ORA ファイルが正しい構造になっているかを確認してください。

TNS-00065 INTCTL: コマンドはリモートでは実行できません。

原因: status および version 以外のコマンドがリモートから実行されました。

処置: status および version 以外のコマンドを実行する必要がある場合には、Interchange マシンで INTCTL を実行してください。

TNS-00070 INTCTL 使用方法: [intctl]< コマンド >< プロセス名 >[引数]

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00071 < コマンド > は次の 1 つです:

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00072 * start - < プロセス名 > を起動します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00073 * stop/abort - < プロセス名 > を停止します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00074 * status - < プロセス名 > から統計表示を取得します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00075 注意: 引数フィールドにコンポーネント名を指定して

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00076 リモート・コンポーネントのステータス情報を

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00077 獲得することもできます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00078 * log_on - ログを ON にする < プロセス名 > を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00079 * log_off- ログを OFF にする<プロセス名> を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00080 * force_log - ステータスをダンプする<プロセス名> を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00081 * trace_on - トレースを ON にする<プロセス名> を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00082 注意: 引数フィールドでトレース・レベル (USER または

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00083 ADMIN) を指定する必要があります。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00084 * trace_off- プロセスを OFF にする<プロセス名> を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00085 * reread - パラメータ・ファイルを再読み込みする<プロセス名> を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00086 * reload - TNSNET.ORA を再ロードする Navigator を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00087 * version - バージョン番号を表示する<プロセス名> を尋ねます。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00088 * exit - Interchange コントローラを終了します。

原因: INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00089 < プロセス名 > は、Interchange または CMANAGER、Navigator のいずれかです。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00090 * Interchange - Interchange に尋ねます。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00091 * Navigator (または navgatr) - Navigator にだけ尋ねます。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00092 * CMANAGER (または intlsnr) - Cmanager にだけ尋ねます。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00093 引数は、status または trace_on の場合だけ指定します。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00094 * status では - 引数はリモート < プロセス名 > と見なされます。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00095 * trace_on では - 引数はトレース・レベルとみなされます。

原因：INTCTL で表示されたヘルプ・メッセージ。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00100 メモリーを割り当てられません。

原因：マシン上のメモリー不足です。

処置：メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

TNS-00101 ファイル操作エラーです。

原因：特定のファイルに読み込みまたは書き込みアクセス中に、エラーが発生しました。

処置：ログおよびトレース・ファイルの位置に対して、オペレーティング・システム・アクセスがあるかどうか調べてください。

TNS-00102 キーワード値のバインディング操作エラーです。

原因：このメッセージは通常ユーザーには表示されません。メモリー不足の可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00103 パラメータ・ファイルのロード・エラーです。

原因: パラメータ・ファイル・プロセスに失敗しました。

処置: Interchange に必要なパラメータ・ファイル (TNSNAV.ORA、TNSNET.ORA および INTCHG.ORA) がすべて存在するかどうかを確認してください。これらのファイルが存在し、正しく構成されている場合には、トレースをオンにして、操作を繰り返してください。トレースが完了したら、トレースをオフにしてください。トレース・ファイルでパラメータ・ロード・プロセスでのエラーを調べてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00104 データ・ストリームのオープン/アクセス・エラーです。

原因: Interchange のログまたはトレース・ファイルのデータ・ストリームがオープンまたはアクセスできません。

処置: Oracle ファイルおよびディレクトリに対する読取り / 書込み許可を確認してください。

TNS-00105 トレースを初期化できません。

原因: INTCHG.ORA ファイルが正しく構成されていません。指定されたトレース・パラメータを調べてください。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00106 ログ・ファイルのオープンに失敗しました。

原因: アクセスまたは書込み許可が取得できないため、ログ・ファイルが作成できません。

処置: ログ・ファイルのディレクトリが存在するかどうか、アクセス可能かどうかを調べてください。

TNS-00107 TNS グローバル・データを初期化できません。

原因: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00108 TNS_ADMIN が定義されていません。

原因: TNS_ADMIN ポインタが設定されていません。

処置: TNS_ADMIN ポインタを設定してから、アプリケーションを実行してください。

TNS-00109 メッセージを印刷できません。メモリー不足です。

原因: メモリー不足のためメッセージの出力に失敗しました。通常、ユーザーには表示されません。

処置: マシンのリソースを増やしてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00110 TNSNET.ORA ファイルからネットワークを初期化できません。

原因: ネットワーク・ファイルのネットワーク情報が不十分です。

処置: 少なくとも 1 つの Interchange が TNSNET.ORA に定義されるように、ネットワーク構成データを修正してください。

TNS-00111 ファイルから構成データの取得に失敗しました。

原因: ネットワーク・ファイル TNSNET.ORA または TNSNAV.ORA の構成情報が不十分です。

処置: TNSNET.ORA および TNSNAV.ORA が正しいかどうか調べてください。

TNS-00112 構成ファイル名の検索に失敗しました。

原因: 指定された構成ファイル名が正しくありません。

処置: 構成ファイルが存在するかどうか確認してください。

TNS-00113 エラー・ログファイルのオープンに失敗しました。

原因: Navigator または Connection Manager の起動時に、ログ・ファイルがオープンできませんでした。読取りまたは書き込み許可に問題があるか、ディレクトリが存在しません。

処置: 標準エラー・ディレクトリを作成するか、ディレクトリが存在する場合には、Interchange 実行プロセスが書き込めるように設定してください。

TNS-00114 内部エラー - アドレスの割当てが実施されませんでした。

原因: これは内部エラーです。このエラーは通常は発生しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00115 ポンプのグローバル・バッファを割り振れません。

原因: メモリー不足のため、ポンプ・バッファを割り振れません。

処置: INTCHG.ORA の PUMP_BUFFERS の数を少なくしてください。

TNS-00116 ポンプの初期配分に失敗しました。

原因: 新しいポンプに接続を割り当てているときに、エラーが発生しました。このエラーは、マシン・リソース不足が原因で発生することがあります。

処置: 接続を再試行してください。このような障害が発生した場合、ポンプをリカバリする必要があります。マシン・リソースに問題がある場合には、リソースを追加するか、アクティブなアプリケーションをいくつかシャットダウンしてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00117 内部エラー - ポンプにデータが渡されませんでした。

原因: これは内部エラーです。予想されたデータが渡されていません。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00119 INTCHG.ORA に PUMP_CONNECTIONS がありません。

原因: INTCHG.ORA に PUMP_CONNECTIONS パラメータが指定されていません。

処置: PUMP_CONNECTIONS パラメータを INTCHG.ORA に追加してください。

TNS-00120 INTCHG.ORA に PUMPS がありません。

原因: PUMPS パラメータが指定されていません。

処置: 適切な数の PUMPS を INTCHG.ORA に追加してください。

TNS-00121 INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME がありません。

原因: CMANAGER_NAME パラメータが指定されていません。

処置: INTCHG.ORA に CMANAGER_NAME パラメータを定義してください。その Interchange で TNSNET.ORA に使用された CMANAGER_NAME パラメータと一致させる必要があります。

TNS-00122 TNSNET.ORA ファイルに ADDRESS がありません。

原因: ADDRESS または ADDRESS_LIST パラメータが TNSNET.ORA で指定されていません。

処置: TNSNET.ORA ファイルで Connection Manager に有効な ADDRESS のセットを定義してください。

TNS-00123 構成された ADDRESS ではリスニングを実施できません。

原因: 別のプロセスがすでにこのアドレスでリスニングしているか、または ADDRESS が正しく定義されていません。

処置: TNSNET.ORA で (Connection Manager に) 定義された ADDRESS を調べて、エラーを見つけてください。別のプログラムがそのアドレスを使用していないことを検証してください。

TNS-00124 内部エラー - 空のアドレスは作成できません。

原因: これは内部エラーです。このエラーは通常は発生しません。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00125 TNSNET.ORA の Interchange 番号の取得に失敗しました。

原因: TNSNET.ORA ファイルでエラーが発生しました。

処置: TNSNET.ORA の内容と出力されたエラーを確認してください。構成ファイルを再生成してください。

TNS-00126 TNSNET.ORA に Connection Manager 名およびアドレスがありません。

原因：INTCHG.ORA で指定されている Interchange 名が TNSNET.ORA ファイルに定義されていません。

処置：Connection Manager 名 1 つおよびアドレス・セットを、ネットワーク内の各 Interchange に定義してください。構成ファイルを再生成してください。

TNS-00127 TNSNET.ORA に Connection Manager 名がありません。

原因：1 つまたは複数の Connection Manager がありません。

処置：Connection Manager 名を TNSNET.ORA に定義してください。TNSNET.ORA を再生成してください。

TNS-00128 TNSNET.ORA に COMMUNITY がありません。

原因：1 つまたは複数の ADDRESS に、COMMUNITY が割り当てられていません。

処置：すべてのアドレスが TNSNET.ORA で定義された COMMUNITY を持つことを確実にしてください。

TNS-00129 内部エラー - コミュニティの新規作成に失敗しました。

原因：これは内部エラーです。このエラーは通常は発生しません。マシンにリソース制限の問題がある可能性があります。

処置：Interchange を停止して、再起動してください。可能であれば、マシンに使用可能なメモリーを増やしてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00130 Interchange の内部アドレスの作成に失敗しました。

原因：TNSNET.ORA のリストされたアドレスの 1 つにエラーがあります。

処置：このファイルの Interchange 定義のエラーを調べてください。

TNS-00131 TNSNET.ORA の COMMUNITY_COST_LIST に COMMUNITY がありません。

原因：TNSNET.ORA の COMMUNITY_COST_LIST 内に、COMMUNITY のキーワード - 値の組合せがありません。

処置：COMMUNITY 名および対応する COMMUNITY_COST_LIST の COST でコミュニティを定義してください。

TNS-00132 COST 値にはゼロより大きい整数が必要です。

原因：コミュニティが COST 値ゼロで TNSNET.ORA に定義されました。

処置：ゼロより大きい代替値を割り当ててください。

TNS-00133 TNSNAV.ORA に LOCAL_COMMUNITIES フィールドがありません。

原因：TNSNAV.ORA ファイルが正しく構成されていません。

処置: LOCAL_COMMUNITIES フィールドを正しく TNSNAV.ORA に定義してください。

TNS-00134 TNSNAV.ORA で、Navigator のアドレスに COMMUNITY コンポーネントがありません。

原因: Navigator の指定されたアドレスに COMMUNITY 名がありません。

処置: NAVIGATOR_ADDRESSES フィールドのアドレスすべてが、TNSNAV.ORA ファイルの COMMUNITY エントリを持っていることを確実にしてください。

TNS-00135 TNS エラー・メッセージ・ファイルがありません。

原因: エラー・メッセージ・ファイルがありません。

処置: Oracle 環境がプラットフォームに正しく設定され、正しいエラー・メッセージ・ファイルを含むメッセージ・ディレクトリがあることを確実にしてください。

TNS-00136 TNS エラー・メッセージの製品 / 機能が登録されませんでした。

原因: エラー・メッセージ・ファイルのエラーです。

処置: Oracle 環境がプラットフォームに正しく設定され、正しいエラー・メッセージ・ファイルを含むメッセージ・ディレクトリがあることを確実にしてください。

TNS-00137 TNS エラー・メッセージ・ファイルの登録に失敗しました。

原因: TNS エラー・メッセージ・ファイルがありません。

処置: Oracle 環境がプラットフォームに正しく設定され、正しいエラー・メッセージ・ファイルを含むメッセージ・ディレクトリがあることを確実にしてください。

TNS-00138 ORACLE 実行ディレクトリの検索に失敗しました。

原因: Oracle 環境が正しく設定されていません。

処置: Oracle 環境が正しく設定され、エラー・メッセージが正しい位置にあるかを確認してください。

TNS-00139 内部 - Interchange リスナから渡されたデータは不完全な形式です。

原因: Interchange で内部エラーが発生しました。

処置: INTCTL VERSION コマンドを使用して、Interchange 製品の互換性のあるコンポーネントを使用していることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00140 指定された Interchange は、ネットワーク表で見つかりません。

原因: 制御要求に指定された Interchange が見つかりませんでした。

処置: 指定された Interchange が TNSNET.ORA にあることを確認してください。

TNS-00141 ファイル・ストリーム情報の取得に失敗しました。

原因: ファイル・ストリーム・パッケージでエラーが発生しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00142 TNSNAV.ORA のコミュニティが不適当です。

原因: TNSNAV.ORA の LOCAL_COMMUNITIES エントリのコミュニティが、NAVIGATOR_ADDRESSES エントリのすべてのコミュニティと一致しません。

処置: NAVIGATOR_ADDRESSES のすべてのコミュニティが、LOCAL_COMMUNITIES コンポーネントのコミュニティと一致することを確認してください。

TNS-00143 TNSNAV.ORA にある PREFERRED_CMANAGERS 登録が不適当です。

原因: Connection Manager に使用される TNSNAV.ORA に、PREFERRED_CMANAGERS エントリがあります。PREFERRED_NAVIGATORS エントリがあるのは、Interchange の TNSNAV.ORA のみである必要があります。

処置: TNSNAV.ORA から PREFERRED_CMANAGERS エントリを削除して PREFERRED_NAVIGATORS エントリをなくすか、または、Interchange の TNSNAV.ORA のみにエントリが存在するようにしてください。

TNS-00144 INTCHG.ORA で指定されている PUMP_CONNECTIONS 値が大きすぎます。

原因: INTCHG.ORA で指定されている PUMP_CONNECTIONS の数が大きすぎて、このプラットフォームではサポートできません。

処置: PUMP_CONNECTIONS 数の最大値については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

TNS-00145 INTCHG.ORA で指定されている PUMPS 値が大きすぎます。

原因: INTCHG.ORA で指定されている PUMPS の数が大きすぎて、このプラットフォームではサポートできません。

処置: PUMPS 数の最大値については、オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

TNS-00146 内部 -- ポンプの範囲内でデータ要求を再試行してください。

原因: ポンプからデータを受け取るために用意されたデータ領域が小さすぎます。

処置: 大きなバッファを指定して操作を再試行してください。

TNS-00147 あらかじめ生成されているポンプの開始に失敗しました。

原因: Connection Manager が、起動時にポンプを開始できませんでした。

処置: 構成パラメータをすべて調べて、正しいことを確認してください。トレースをオンにして、失敗が発生した領域を判別してください。

TNS-00200 コンテキストで nsanswer を実行できません。結果 =string

原因: サービスのリクエストが異常終了したか、またはオプションの折衝に失敗した可能性があります。

処置: 再度接続を試みてください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00201 応答接続データを読み込みできません :string:

原因: 形式が不正な接続データが Interchange リスナーに送信されました。

処置: 問題が繰り返される場合は、Interchange を使用するアプリケーションを調べてください（アプリケーションがクローズまたはクラッシュしている可能性があります）。問題が見つけれられない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00202 リダイレクト・コールに失敗しました:オリジナル:string リダイレクト:string

原因: これは内部エラーです。ポンプまたはその他の Interchange リスナーにコールをリダイレクトできませんでした。原因としては、不十分なネットワークまたはマシン・リソースが考えられます。

処置: リソースを追加するか、実行しているアプリケーションをいくつかクローズして、リソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00203 intlsnr でトレースを開始できません。

原因: Interchange リスナーにトレースを設定中に失敗しました。

処置: Network トレース・ディレクトリのファイル権限を調べ、トレース・ファイル名およびディレクトリが INTCHG.ORA に指定されている場合は、それらが正しいことを確認してください。

TNS-00204 intlsnr でトレースを開始しました。

原因: 内部メッセージ。トレース開始に成功しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00205 intlsnr でトレースが OFF に切り換わりました。

原因: 内部メッセージ。Interchange リスナーのトレースをオフにしました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00206 Interchange のステータス情報:string:

原因: Interchange からステータス要求のヘッダーとして戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00207 アップ時間: number 日 number 時 number 分 number 秒

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00208 ログイン:string

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00209 トレース: *string*

原因: ステータス要求 Interchange の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00210 使用可能ポンプ数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00211 アクティブ・ポンプ数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00212 開始済ポンプ数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00213 使用可能な接続数: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00214 使用中の接続数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00215 正常接続数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00216 接続障害数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00217 データのバイト数合計: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00218 カレント・バイト / 秒: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00219 ポンプ方針: *string*

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00220 ポンプ内訳 -----

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00221 ポンプ 接続 合計データ バイト / 秒

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00222 -----

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00223 *numbernumbernumbernumber*

原因: ステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00224 これ以上接続できません。

原因: INTCHG.ORA に設定されている接続数よりも多く、Interchange に接続しようとしています。

処置: Interchange がビジーでなくなるまで待機するか、または INTCHG.ORA の許可される接続数を変更して Interchange を再起動してください。

TNS-00225 ポンプへの接続を配分できません。

原因: 実行可能ポンプが見つからないか、またはマシンで現在実行しているプロセスが多すぎるために、ポンプを開始できません。

処置: マシンのプロセス数を削減するか、またはマシンのリソースを増加してください。

TNS-00226 ポンプ *number* とコンタクトできず、ブロードキャスト・メッセージ *string* を送信できません。

原因: ポンプをコールできません。

処置: 処置は必要ありません。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00227 ポンプとコンタクト不能。Connection Manager でポンプ休止が宣言されました。

原因：ポンプが親なしプロセスになりました。プロトコル・アダプタが正しく作動していないか、マシンのネットワーク・リソースが使用され過ぎています。

処置：このエラーは致命的ではありません。親なしポンプが作動し続ける可能性があります。Interchange を再起動してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00228 ポンプ・データの検索中に障害が発生しました。

原因：ポンプから渡されたデータの内部問題です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00229 コール中のエラー：メッセージを送達できません。:string:stringstringstring

原因：コールの宛先が使用不可です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00230 新規ポンプ・プロセスを開始不能。stringstring プロトコル・アダプタ・エラー：number

原因：新しいプロセスを作成できません。マシンにプロセスが多すぎる可能性があります。

処置：Interchange マシンでその他のアプリケーションを終了して、マシンのリソースを解放してください。問題が繰り返される場合は、マシンにメモリーがさらに必要である可能性があります。マシンにリソースが十分にあるにもかかわらず、問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問合せってください。

TNS-00231 ポンプは稼動中です。

原因：ポンプのログ・メッセージが Interchange listener に送信されました。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00232 接続を設定できません。

原因：エラー・ログ・メッセージがポンプから送信され、コール文字列のエラーによって接続の初期化が失敗したことを示しています。ネットワークの問題かリソースの制限です。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00233 接続先のエラーで Interchange はコンタクト確立に失敗しました。stringstringstring

原因：ポンプの宛先の呼出しに失敗しました。

処置：宛先を確認してください。

TNS-00234 コール失敗の接続データ: コール・データ =string 受取りデータ =:string:

原因: エラー 00233 を補足する接続データ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00235 接続を強制終了中: プロトコル・アダプタ・エラー

:string;number,numberstring;number,number

原因: 接続時間が長すぎるか、またはその他のネットワーク・エラーのため、ポンプが接続を強制終了しています。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00236 トレースの初期化に失敗しました。

原因: ポンプがトレースの初期化に失敗しました。

処置: INTCHG.ORA が正しく構成されていることを確認してください。

TNS-00237 接続の拒否に失敗しました。

原因: ポンプでエラーが発生する前に、接続が異常終了した可能性があります。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00238 ポンプ *number* @: *string*:

原因: すべてのポンプ・ログ・メッセージに付加されたメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00239 Connection Manager は停止しています。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00240 Connection Manager: ログインは ON です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00241 Connection Manager: ログインは OFF です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00242 Connection Manager: トレースは ON です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00243 Connection Manager: トレースは OFF です。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00244 Connection Manager: 要求に失敗しました。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00245 Connection Manager: ログ・ファイルのオープンに失敗しました。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00246 Connection Manager: トレースの開始に失敗しました。

原因: Interchange から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00247 TNSNET.ORA ファイルからの構成データをメモリーに割当てできません。

原因: ナビゲータは、TNSNET.ORA 構成ファイルのための十分なメモリー割当てに失敗しました。

処置: Interchange の実行に使用可能なマシン・リソースを増加するか、またはマシンからその他の実行中のアプリケーションを削除してください。

TNS-00248 ファイル: *string* から情報を取得できません。:NR エラー: *number* で終了します。

原因: TNSNAV.ORA の構成が不正か、または指定されたアドレスが別のアプリケーションに使用されています。

処置: TNSNAV.ORA ファイルの構文を調べてください。必要であれば、新しいアドレスを割り当ててください。

TNS-00249 ファイル: *string* からネットワーク構成データを読みみできません。エラー: *string*

原因: ネットワーク構成ファイル TNSNET.ORA がないか、またはその構成が不正です。

処置: TNSNET.ORA が正しく構成されているかを確認してください。

TNS-00250 Navigator はすでに起動しています。

原因: Navigator 起動時のログ・ファイルへのメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00251 nstest で障害が発生しました。

原因: 内部エラーのため、nstest 操作に失敗しました。

処置: 問題が繰り返される場合は、ネットワークの問題か、またはマシンのリソース制限がある可能性があります。これらが問題の原因ではないときは、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00252 ルート要求をハンドルできません。 *string*

原因: 要求されたコマンドが存在しません。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00253 ファイル *string* からのネットワーク構成データ読み込みでエラーが発生しました。

エラー: *string*

原因: TNSNET.ORA の構成が不正か、または存在しません。

処置: TNSNET.ORA が正しく構成されているか確認してください。

TNS-00254 Navigator は停止しています。

原因: Navigator が停止していることを確認したときに、Interchange 制御プログラムに送信されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00255 ログをクローズし、Navigator を停止しています。

原因: Navigator が停止している場合のログ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00256 Navigator のステータス :

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00257 正常終了した要求件数 : *number*

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00258 失敗した要求件数 : *number*

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00259 使用禁止 Interchange リスト :

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00260 -----

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00261 Interchange 名 コミュニティ・リンク ダウン時間残 (秒)

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00262 *stringstringnumber*

原因: Navigator ステータス・メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00263 Navigator: 要求に失敗しました。

原因: 要求に失敗したときの、Navigator からの応答。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00264 Navigator: 構成データの再ロードに失敗しました。

原因: ネットワーク構成の再ロードに失敗した時に、Interchange 制御プログラムに送信されるメッセージ。TNSNET.ORA の構成が不正か、またはファイルがありません。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00265 Navigator: ネットワーク構成データを再ロードしました。

原因: ネットワークの再ロードに成功した時に、Interchange 制御プログラムに送信されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00266 Navigator: 不明な要求です。

原因: Navigator に認識されない要求を送信しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00267 Navigator: 内部エラーです。

原因: このエラーは、Navigator に認識されない要求を送信した場合に生成されるエラーです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00268 ON

原因: メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00269 OFF

原因: メッセージの一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00270 *string*: 端末エラー *string*

原因: 起動が失敗したときに、実行可能なエラー・ファイルに出力されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00271 Connection Manager

原因: Connection Manager 名。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00272 Navigator

原因: Navigator に対する名前。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00273 Navigator: ログインは ON です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00274 Navigator: ログインは OFF です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00275 Navigator: トレースは ON です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00276 Navigator: トレースは OFF です。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00277 Navigator: 要求に失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00278 Navigator: ログ・ファイルのオープンに失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00279 Navigator: トレースの開始に失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00280 最大平均バイト / 秒: *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00281 Connection Manager: ログの出力を強制しました。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00282 Connection Manager: ログの強制に失敗しました。ロギングは OFF です。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00283 TNS アドレスに続くリスニング:

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00284 Imm 最大平均バイト / 秒 : *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00285 平均接続時間 (秒) : *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00286 最大接続時間 (秒) : *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00287 最小接続時間 (秒) : *number*

原因: Connection Manager に対するステータス要求の一部。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00288 Navigator: Interchange を使用禁止にできませんでした。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00289 Navigator: Interchange を使用禁止にしました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00290 Navigator: Interchange を使用可能にできませんでした。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00291 Navigator: Interchange を使用可能にしました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00292 ログ・ファイル名: *string*

原因: 制御プログラムに戻されたログ・ファイル名を示すメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00293 トレース・ファイル名: *string*

原因: 制御プログラムに戻されたトレース・ファイル名を示すメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00294 Connection Manager: セキュリティは使用可能です。Interchange を停止できません。

原因: Connection Manager がセキュリティで保護されていることを示す、制御プログラムに戻されたメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00295 Navigator セキュリティは使用可能です。Navigator を停止できません。

原因: Navigator がセキュリティで保護されていることを示す、制御プログラムに戻されたメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00296 停止可能: *string*

原因: プログラムを停止できるかどうかを示す、制御プログラムに戻されたメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00297 ログイン・レベル: *string*

原因: プログラムを停止できるかどうかを示す、制御プログラムに戻されたメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00298 Navigator への要求: *string*

原因: Navigator に対する要求のログ・エントリ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00299 Navigator からの応答: *string*

原因: Navigator に対する要求のログ・エントリ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00300 *Interchange を使用禁止にしています: string**

原因: Interchange を使用禁止にするログ・エントリ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00301 *Interchange を使用可能にしています: string**

原因: Interchange を使用可能にするログ・エントリ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00302 Connection Manager: 不明な要求です。

原因: Interchange 制御プログラムから送信された要求が不明です。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00303 Connection Manager: パラメータ・データを再読み込みしました。

原因: 制御マネージャから制御プログラムに送信された、パラメータ・データが読み込まれたことを示す要求。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00304 Connection Manager のステータス情報:

原因: Interchange からステータス要求のヘッダーとして戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00305 Navigator は無効な / 不明なトレース・レベルに直面しました。

原因: Navigator から戻された、無効なトレース・レベルを示すメッセージ。

処置: 正しいトレース・レベルで要求を再試行してください。

TNS-00306 Connection Manager は無効な / 不明なトレース・レベルに直面しました。

原因: Connection Manager から戻された、無効なトレース・レベルを示すメッセージ。

処置: 正しいトレース・レベルで要求を再試行してください。

TNS-00307 Navigator: パラメータ・データを再読み込みしました。

原因: パラメータ・データが読み込まれたことを示す、Navigator から制御プログラムに送信された要求。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00308 Navigator: パラメータ・データを再読み込み中、ログのオープンに失敗しました。

原因: パラメータ・データの再読み込み後ログ・ファイルを再オープンできなかったことを示す、Navigator から制御プログラムに送信された要求。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00309 Connection Manager: パラメータ・データを再読み込み中、ログのオープンに失敗。

原因: パラメータ・データの再読み込み後ログ・ファイルを再オープンできなかったことを示す、Connection Manager から制御プログラムに送信された要求。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00310 Navigator: パラメータ・データを再読み込み後、トレースの開始に失敗しました。

原因: Navigator から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00311 Connection Manager: パラメータ・データを再読み込み後、トレースの開始に失敗。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00312 Connection Manager: バージョン情報の取得に失敗しました。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00313 Navigator: バージョン情報の取得に失敗しました。

原因: Connection Manager から制御プログラムに戻されるメッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00314 プロトコル・アダプタ・エラー : *number,number*

原因: メッセージ 00233 とともに示されるプロトコル・アダプタ・エラー。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00315 ポンプ・データ取得用の広範な接続データ領域の割当てに失敗しました : *number*

原因: ポンプの統計情報取得に十分な領域を割り当てられませんでした。領域を無視して、操作を続行します。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00316 ポンプのデータ・バッファを使い果たしました。

原因: ポンプにデータ・バッファが少なすぎるため、Interchange はリソースが制限されています。

処置: 問題が繰り返される場合（つまり、ログ・メッセージが多数ある場合）は、INTCHG.ORA のパラメータ PUMP_BUFFERS の値を増加して、ポンプ・バッファの数を増やしてください。それから停止して Interchange を再起動し、変更を有効にしてください。

TNS-00317 Connection Manager とのコンタクトに失敗しました。

原因：Connection Manager が実行されていません。

処置：Connection Manager を起動して、再試行してください。

TNS-00501 メモリーの割当てができません。

原因：要求されたアクティビティを稼動する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-00502 無効な引数です。

原因：内部機能が無効パラメータを受信しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00503 不適当な ADDRESS パラメータです。

原因：プロトコル・アダプタのパラメータの無効なセットが指定されました。

処置：TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを確認してください。トレースをオンにして、トレース・ファイルに指定されたアドレスを調べ、綴りまたはエラーを確認してください。完了したら、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-00504 サポートされない操作です。

原因：内部機能が、(このマシン上で) サポートされていない操作の実行要求を受信しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00505 操作タイムアウトです。

原因：要求された操作はタイムアウト期限内に完了できませんでした。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-00506 この操作を行うとカレント・プロセスがブロックされます。

原因：内部操作がカレント・プロセスをブロックしているときに、ユーザーが操作の非ブロック化を要求したため、操作は開始されませんでした。これは情報メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

TNS-00507 接続をクローズしました。

原因: 標準のファイル終り条件に達したため、パートナーが切断されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-00508 そのようなプロトコル・アダプタはありません。

原因: この接続に要求されたプロトコル・アダプタは存在しません。

処置: プロトコル・アダプタをインストールするか、使用可能なプロトコル・アダプタを使用してください。正しいプロトコルが構成ファイルにリストされていることを確認してください。

TNS-00509 バッファが桁溢れしました。

原因: バッファに対してデータが多すぎます。

処置: より大きな受信バッファまたはより小さな送信バッファで、再実行してください。

TNS-00510 内部制限を超えました。

原因: 多数のファイルまたはソケットが同時にオープンしています（または、その他のリソースが使い果たされました）。

処置: 詳細については、操作をトレースしてプロトコルの詳細を参照してください。

TNS-00511 リスナーがありません。

原因: アプリケーションが指定されたアドレスでリスニングしていないか、またはアプリケーションが適当なタイミングで接続要求をサービスできないので、接続要求を完了できませんでした。

処置: 指定された接続先アドレスが、リスナーの使用するアドレスの1つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイル（または接続が Interchange を介している場合には、TNSNAV.ORA）を比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

TNS-00512 そのアドレスはすでに使用中です。

原因: 指定されたリスナー・アドレスがすでに使用されています。

処置: 未使用のアドレスでリスナーを起動してください。

TNS-00513 接続先ホストに到達できません。

原因: リモート・パーティとは接続できません。

処置: ネットワーク・ドライバが機能していて、ネットワークが稼動しているかどうかを確認してください。

TNS-00514 コンテキストの待機/テスト関数が異なります。

原因: 2つのプロトコル・アダプタに、矛盾する wait/test 関数があります。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00515 接続に失敗しました。ターゲット・ホストまたはオブジェクトが存在しません。

原因: 指定されたアドレスが有効でないか、接続先のプログラムがありません。

処置: ADDRESS パラメータが正しく入力されていることを確認してください。ノード名のパラメータが正しくない可能性があります。サーバーの実行可能プログラムが存在しているかどうかを確認してください。"oracle" が欠落している可能性があります。

TNS-00516 許可されません。

原因: ユーザーが要求した操作を実行するには、権限が不足しています。

処置: 必要な権限を取得して、再試行してください。

TNS-00517 コンタクトがなくなりました。

原因: 相手側と通信が不意に失われました。

処置: 異常終了したパートナ・アプリケーションを調べてください。

TNS-00518 読み込みまたは書込みが不完全です。

原因: データの受信あるいは送信に失敗しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00519 オペレーティング・システムのリソース割当て制限を超えました。

原因: カレント・ユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超過しました。

処置: より多くのオペレーティング・システムのリソースを獲得するか、異なる機能を実行してください。

TNS-00520 構文エラーです。

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

処置: 接続記述子の構文が正しいかどうかを確認してください。

TNS-00521 キーワードが欠落しています。

原因: 指定された接続記述子に 1 つ以上の TNS キーワードがありません。

処置: 構文を確認して、必須キーワードがすべて指定されているかどうかを確認してください。

TNS-00522 操作が中断されました。

原因：内部操作が割り込まれ、操作を完了できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00523 前の操作はビジーでした。

原因：要求されたリソースがビジーであるため、試行された操作が正常に完了できませんでした。

処置：操作を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00524 カレント操作が進行中です。

原因：内部操作が進行中ですが、まもなく終了します。

処置：処置は必要ありません。操作が終了するのをお待ちください。

TNS-00525 操作するには権限が不十分です。

原因：ユーザーに十分な権限がなかったため、オペレーティング・システムが操作の完了に失敗しました。

処置：プラットフォーム固有の権限を確認してください。

TNS-00526 発呼者がいません（偽の非同期イベントです）。

原因：これは内部エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-00527 プロトコル・アダプタがロード不能です。

原因：一部のプラットフォーム（OS/2 など）上ではプロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ（あるいは DLL）が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーは戻されます。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ（あるいは DLL）の名前が記述されています。

TNS-00528 プロトコル・アダプタがロードされませんでした。

原因：一部のプラットフォーム（OS/2 など）上ではプロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ（あるいは DLL）がロードされていない場合、このエラーは戻されます。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ（あるいは DLL）の名前が記述されています。

TNS-00530 プロトコル・アダプタ・エラーです。

原因：一般的なプロトコル・アダプタ・エラーが発生しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-00532 以前から待機中の非同期操作はありません。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00533 接続が解除済みか、またはまだ接続されていません。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00534 接続所有権の子への権限付与に失敗しました。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00535 切断メッセージの送信または受信に失敗しました。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00536 不適切な状態で接続が登録されました。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00537 プロトコル・アダプタ表の索引は有効範囲を逸脱しています。

原因：内部プロトコル・アダプタ・エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00539 ネットワークまたはプロトコル・サービスはダウンしています。

原因: ノードのネットワーク・サービスまたはノードからのネットワーク・サービスが実行されていないか、または実行を停止されました。

処置: このプラットフォームで、ネットワークまたはプロトコル・サービスを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00540 SSL プロトコル・アダプタに障害があります。

原因: SSL プロトコル・アダプタにエラーが発生しました。

処置: 多くの場合、このエラーは、より意味のある ORA- エラーとの組合せでのみ表示されます。

TNS-00541 基礎となる移送がありません。

原因: SSL プロトコル・アダプタは、データの移送に使用するプロトコルのアダプタを検索できませんでした。

処置: 多くの場合、基礎となる移送は TCP です。TCP/IP Net8 アダプタがインストールされていることを確認してください。

TNS-00542 SSL ハンド・シェイクに失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタは、もう 1 つのプロセスに接続できませんでした。

処置: このエラーは、ピア・プロセスの終了を含む様々な問題によって発生する可能性があります。Net8 トレースを使用可能にし、再接続してください。トレース・ファイルで、問題の原因について手がかりが得られます。

TNS-00543 内部エラー

原因: SSL プロトコル・アダプタに予期しないエラーが発生しました。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00544 サポートされない操作です。

原因: SSL アダプタは、指定されたコマンドを実行できません。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00545 パラメータの取出しに失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタは、何らかの理由で、構成パラメータを取出しできませんでした。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00546 制御に失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタは、コマンドを実行できませんでした。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00547 ユーザー情報の取出しに失敗しました。

原因: SSL プロトコル・アダプタは、リモート・ユーザーに関する情報の取出しできませんでした。

処置: エラー・スタックの最初のエラーを調べてください。エラーの詳細な説明があります。

TNS-00548 クライアント認証パラメータに指定した値はブールではありません。

原因: SSL クライアント認証の使用を指定するパラメータの値が、ブール値ではありません。

処置: そのパラメータに正しい値を指定してください。

TNS-00549 SSL バージョンに指定した値が無効です。

原因: SSL のバージョンに指定された値は有効ではありません。

処置: SSL のバージョンに有効な値を指定してください。

TNS-00550 切断エラーです。

原因: 基礎となる移送の切断時に、SSL プロトコル・アダプタにエラーが発生しました。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現した場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00551 基礎となる移送接続に失敗しました。

原因: SSL アダプタによって使用されている、基礎となる移送のアダプタで、接続に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、再接続してください。接続に失敗した場合は、トレース・ファイルを調べて原因を判断してください。

TNS-00552 無効な Cipher Suites が指定されました。

原因: SSL の暗号仕様が指定されましたが、無効です。

処置: 正しい Cipher Suite を指定してください。

TNS-00553 読み込みに失敗しました。

原因: SSL アダプタが、接続先からのデータの読取りに失敗しました。

処置: 詳細は、sqlnet.log の内容を調べてください。Net8 トレースを使用可能にし、再接続してください。接続に失敗した場合は、トレース・ファイルを調べて原因を判断してください。

TNS-00554 書込みに失敗しました。

原因: SSL アダプタが、接続先へのデータの送信に失敗しました。

処置: 詳細は、sqlnet.log の内容を調べてください。Net8 トレースを使用可能にし、再接続してください。接続に失敗した場合は、トレース・ファイルを調べて原因を判断してください。

TNS-00555 Wallet リソース・ロケータにディレクトリが指定されていません。

原因: Wallet の取出しに使用されるファイルが指定されましたが、Wallet のディレクトリが指定されていません。

処置: Wallet が存在するディレクトリを指定してください。

TNS-00556 Wallet の取出しにメソッドが指定されていません。

原因: Wallet のリソース・ロケータが指定されましたが、Wallet の取出しにメソッドが指定されていません。

処置: Wallet の取出しに使用するメソッドを指定してください。

TNS-00557 Wallet の検索メソッドはサポートされていません。

原因: Wallet の取出しに指定されたメソッドは、サポートされていません。現在、Wallet の取出しには、FILE のみサポートされています。

処置: Wallet の取出しメソッドに、FILE を指定してください。

TNS-00558 委任ログインに失敗しました。

原因: 委任で指定したユーザー名、パスワードまたはプロファイル（あるいはその両方）の認証に失敗しました。

処置: ユーザー名、パスワードまたはプロファイル名に、正しい値を指定してください。プロンプトに何も表示されない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00559 委任証明書のロードに失敗しました。

原因: 指定された委任証明書の妥当性チェックをしようとしてエラーが発生しました。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが繰り返される場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-00560 委任証明書からの名前の抽出に失敗しました。

原因: 委任証明書から名前を抽出しようとしてエラーが発生しました。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。Net8 トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが繰り返される場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01020 リスナーのステータス

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01021 -----

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01022 別名 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01023 バージョン *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01024 トレース・レベル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01025 セキュリティ *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01026 開始日 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01027 トレース・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01028 ログ・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01029 サービスのサマリー ...

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01030 リスナーはサービスをサポートしていません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01033 パラメータ・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01034 アップ時間 *number* 日 *number* 時 *number* 分 *number* 秒

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01036 *string* 確立 :*string* 拒否 : *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01037 *string* 確立 :*string* 拒否 : *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01038 *string* 確立 :*string* 拒否 :*string* カレント :*string* 最大 :*string* 状態 :*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01039 *string* には、*string* 件のサービス・ハンドラがあります。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01040 SNMP *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01041 *string* - パラメータ *string* を *string* に設定しました。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01042 カレント・リスナーは、*string* です。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01043 *string* のパスワードが変更されました。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01044 *string* (登録済み) には、*string* 件のサービス・ハンドラがあります。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01045 *string* (未登録) には、*string* 件のサービス・ハンドラがあります。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01046 *string* 個の構成パラメータを保存しました。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01047 旧パラメータ・ファイル *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01048 *string* に対して保存すべき変更はありません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01049 *string* (*string*) には、*string* サービス・ハンドラがあります。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01050 *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01052 コマンドは正常に終了しました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01053 *string* に接続しています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01054 リスナーに正常にコンタクトされました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01055 リスナーを正常に停止しました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01057 プログラム名: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01058 引数: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01059 環境: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01060 パスワードはすでに設定されています: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01061 パスワードは設定されていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01062 データベース・サブエージェントはすでに実行されています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01063 データベース・サブエージェントは起動されていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01064: リスナー構成の変更は永続的ではありません。

原因: チェック・ポイントが LISTENER.ORA でオフにされた状態でリスナーが再起動すると、リスナーへの構成変更は表示されません。

処置: LISTENER.ORA を編集し、USE_CKPFIL_LISTENER=true を設定してください。

TNS-01065 ロー・モードは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01066 プレゼンテーション: *string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01067 サービス表示モードは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01070 *string* を起動しています。お待ちください ...

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01071 *string* は、*string* に設定されました。

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01072 *string* で起動しました。

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01073 リスニングしています: *string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01074 リスニングが試行されました: *string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01075 ログ・ファイルがオープンされました: *string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01076 *トレース・ファイルがオープンされました : string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01077 *パラメータ・ファイルがオープンされました : string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01078 *名前参照ファイルがオープンされました : string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01079 *配分が試行されました : string*

原因: リスナー開始メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01090 *リスニングしていません : string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01093 *string * string * number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01094 *string * number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01095 *string * string * string * number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01096 *string * string * string * string * string * number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01097 *TIMESTAMP * CONNECT DATA [* PROTOCOL INFO] * EVENT [* SID] * RETURN CODE*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01098 **TIMESTAMP * TYPE * COMMAND * CONNECT INFO * CLIENT ADDR *
PROTOCOL STACK * EFFECTS * ERROR**

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01099 *string * string * string * string * string * string * string * string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01100 **リスナーの起動を試行中に、TNS によってエラー: *number* が戻されました。**

原因: LSNRCTL がリスナーの起動に使用する Bequeath (BEQ) メカニズムに、失敗しました。

処置: BEQ ドライバがインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合、戻される NSERROR コードは 12538 (NSENODRIVER) です。これを修正するには、Net8 を再インストールし、インストール時に、BEQ ドライバが選択されていることを確認してください。これが問題でない場合は、実行可能 TNSLSNR がプラットフォームの ORACLE 環境で必要な場所に見つからないことが原因です。LSNRCTL によって表示される実行可能 TNSLSNR のフル・パス名が正しいことを検証してください。

TNS-01101 **サービス名 *string* が見つかりません。**

原因: サービス名が名前参照で解決できませんでした。

処置: LSNRCTL に指定されたリスナー名またはサービス名が、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA で定義された正しい名前およびアドレスであることを検証してください。

TNS-01102 **コンタクトした TNS アプリケーションは、リスナーではありません。**

原因: 別の TNS アプリケーション (Interchange など) がコンタクトされたアドレスでリスニングしています。コンタクトされたアドレスで別の TNS アプリケーションがリスニングしており、戻されたデータ形式が適切でない可能性があります。

処置: LSNRCTL に指定されたリスナー名またはサービス名が、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA で定義された正しい名前およびアドレスであることを検証してください。

TNS-01103 **プロトコル固有のコンポーネント・アドレスが正しく指定されていません。**

原因: リスナーとのコンタクトに使用された ADDRESS が、正しく指定されていません。このエラーが発生するのは、アドレスがリスナーの宛先の指定に失敗するからです。アドレスの形式は正しいのですが (たとえばカッコが欠落していない)、プロトコル固有のコンポーネントがありません。たとえば、これは、HOST コンポーネントが TCP/IP アドレス文字列から欠落している時に発生するエラーです。

処置: LISTENER.ORA の ADDRESS を編集して、要求されたプロトコル固有のキーワードを含めてください。違うプロトコル・アダプタに要求されたキーワードに関する情報については、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。

TNS-01106 リスナー名 *string* を使用するリスナーは、すでに起動されています。

原因: 別のリスナーが、指定された ADDRESS の 1 つですでにリスニングしています。

処置: このリスナーを起動する前に、そのリスナー名で指定された前のリスナーを停止してください。

TNS-01107 有効なトレース・レベルが指定されませんでした。

原因: LSNRCTL トレース・コマンドへの有効なトレース・レベルの指定に失敗しました。

処置: OFF、USER、または ADMIN のうち 1 つを指定してください。詳細情報については、"LSNRCTL help trace" とタイプしてください。

TNS-01108 リスナー・パスワードの指示に失敗しました。

原因: パスワードが TTY を介して入力されていません。

処置: リスナー・パスワードを TTY デバイスに入力してください。

TNS-01109 リスナー・パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: 不明瞭なパスワードが入力された可能性があります。

処置: 有効な ASCII 文字を使用して、リスナー・パスワードを再入力してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01110 不適当 - パスワードは変更されていません。

原因: 新規パスワードと再入力されたパスワードが異なります。

処置: リスナー・パスワードを再入力して、新規パスワードと再入力された新規パスワードが同じであることを確認してください。

TNS-01111 ログ・ステータスは、ON または OFF のどちらかです。

原因: LSNRCTL log_status コマンドへのログ・ステータスの指定に失敗しました。

処置: ON または OFF のどちらかを指定してください。詳細情報については、"LSNRCTL help set log_status" とタイプしてください。

TNS-01112 「プラグおよび再生」は ON または OFF のどちらかです。

原因: LSNRCTL use_plugandplay コマンドへの有効な値の指定に失敗しました。

処置: ON または OFF のどちらかを指定してください。詳細情報については、"LSNRCTL help set use_plugandplay" とタイプしてください。

TNS-01113 save_config_on_stop は ON または OFF のどちらかです。

原因：LSNRCTL save_config_on_stop コマンドへの有効な値の指定に、失敗しました。

処置：ON または OFF のどちらかを指定してください。詳細情報については、
"LSNRCTL help set save_config_on_stop" とタイプしてください。

TNS-01150 指定されたリスナー名のアドレスが正しくありません。

原因：リスナーがリスニングしようとしたアドレスには、構文エラーがあります。

処置：LSNRCTL に指定されたリスナー名またはサービス名については、アドレスまたは接続記述子の形式が正しいことを確認してください。リスナー名は LISTENER.ORA にあります。また、サービス名 TNSNAMES.ORA を使用してリスナーにアクセスできません。

TNS-01151 LISTENER.ORA にリスナー名 *string* はありません。

原因：リスナーが、指定されたリスナー名を見つけられませんでした。

処置：リスニングする有効なアドレスが、LISTENER.ORA でリスナー名に指定されていることを確認してください。

TNS-01152 リスナー名 *string* に指定されたアドレスではすべて失敗しました。

原因：リスナーは指定されたアドレスでのリスニングに失敗しました。

処置：別のアプリケーションが指定されたアドレスでリスニングしていないこと、または適切なプロトコル・アダプタがインストールされていることを確認してください。詳細情報を得るためには、トレースをオンにして再実行してください。

TNS-01154 サポートされない旧式の SID が検出されました。

原因：SID の 1 つが廃止された形式で指定されました。

処置：以下の形式の行の LISTENER.ORA を確認してください。

```
sid = (SID=(ORACLE_HOME=oracle_home))
```

または

```
sid = (SID_DESC=(ORACLE_HOME=oracle_home))
```

この形式はサポートされていません。『Oracle8i Net8 管理者ガイド』に記述されている SID_LIST_listener_name 形式を使用してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER = (SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (ORACLE_HOME=oracle_home)))
```

TNS-01155 LISTENER.ORA に指定された SID_LIST_string パラメータが正しくありません。

原因：LISTENER.ORA の SID_LIST_listener_name にエラーがあります。

処置: このパラメータが、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』で記述されているように指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER = (SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (ORACLE_HOME=oracle_
home)))
```

TNS-01156 PRESPAWN_DESC の PROTOCOL または TIMEOUT、POOL_SIZE パラメータが欠落 / 不適切。

原因: 各 SID_DESC の PRESPAWN_DESC が、要求されたフィールドを待っていません。

処置: PRESPAWN_DESC に要求されたパラメータが、各 SID_DESC に指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER = (SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (PRESPAWN_
MAX=5) (ORACLE_HOME=oracle_home) (PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=tcp) (POOL_
SIZE=10) (TIMEOUT=30))))
```

LISTENER.ORA ファイルにこれらのパラメータを追加または修正してください。

TNS-01157 アドレス *number* だけでリスニングできます - *string* は無視されます。

原因: リスニングに指定されたアドレスが多すぎます。

処置: リスニングするアドレス数を削減し、別のリスナーを使用して残ったアドレスをリスニングしてください。

TNS-01158 内部的な接続制限に達しました。ディスパッチャにより接続が防止されています。

原因: 内部 SQL*Net 接続リストが満杯です。リスナーに接続されているディスパッチャが多すぎます。そのため、これ以上ディスパッチャを接続できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01159 内部的な接続制限にすでに達しています。リスナーはシャットダウンされました。

原因: 内部 SQL*Net 接続リストが満杯です。リスナーが多くの SQL*Net 接続に使用されるよう構成されています。

処置: リスナーに接続されたリスニング・アドレスまたはサービスの数を削減してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01167 コマンド *string* はコンタクトしているリスナーではサポートされません。

原因: リスナーはコマンドを認識しません。

処置: LSNRCTL の新しいバージョンが旧リスナーとコンタクトする時、このエラーが発生します。このコマンドをどうしても実行する必要がある場合は、リスナーをアップグレードしてください。

TNS-01168 メモリーの割当てができません。

原因: 要求されたアクティビティを稼動する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-01169 リスナーでパスワードは認識されません。

原因: リスナーのセキュリティ機能により、意図した操作が防止されています。

処置: リスナーの停止のようなコマンドは、データベース管理者によってのみ実行されるよう意図されています。クライアントは、リスナーのステータスおよびリスナー・ソフトウェアのバージョンを取得するためにのみ LSNRCTL を使用できます。クライアントが試行したコマンドが適切でない可能性があります。データベース管理者がコマンドを試行している場合は、LSNRCTL プロンプトから、LISTENER.ORA の `PASSWORDS_listener_name` エントリの適切なパスワードの 1 つとともに "set password" コマンドを使用してください。パスワードがわからない場合は、不適切なコマンドの実行を試行していることになります。

TNS-01170 アドレス: *string* のイベント検出は中止されました。

原因: 指定されたアドレスのイベント検出メカニズムから、エラーが戻されました。

処置: 今後このアドレスでイベントを検出しようとしても、失敗します。リスナーはこのリスニング・アドレスの割当てを解除し、このアドレスではもう接続を受け入れられません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01171 ディスパッチャ: *string* のイベント検出は中止されました。

原因: 指定されたアドレスのイベント検出メカニズムから、エラーが戻されました。

処置: 今後このディスパッチャでイベントを検出しようとしても、失敗します。リスナーはディスパッチャを割当て解除し、接続はこのディスパッチャにはリダイレクトされません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01172 全リスニング・アドレスが割当て解除され、リスナーはシャットダウン済みです。

原因: イベント検出メカニズムが中止されたので、その結果全リスニング・アドレスが削除されました。

処置: エラー 01170 が発生し、全リスニング・アドレスが割当て解除されました。全リスニング・アドレスが削除されたので、このリスナーにはこれ以上接続が確立されませ

ん。そのため、シャットダウンします。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-01173 SID_DESC の PRESPAWN_MAX パラメータが欠落または不適切です。

原因：各 SID_DESC の PRESPAWN_MAX が要求されたフィールドを持っていません。

処置：SID_DESC に要求されたパラメータが、各 SID_DESC に指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER = (SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (PRESPAWN_MAX=15) (ORACLE_HOME=oracle_home) (PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=tcp) (POOL_SIZE=10) (TIMEOUT=30))))
```

LISTENER.ORA ファイルでこれらのパラメータを追加または修正してください。

TNS-01174 各 PRESPAWN_DESC の POOL_SIZE 合計が PRESPAWN_MAX を超過しています。

原因：PRESPAWN_MAX の最小値は POOL_SIZE 合計である必要があります。

処置：PRESPAWN_DESC に要求されたパラメータが、各 SID_DESC に指定されていることを確認してください。次に例を示します。

```
SID_LIST_LISTENER = (SID_LIST=(SID_DESC=(SID_NAME=sid) (PRESPAWN_MAX=15) (ORACLE_HOME=oracle_home) (PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=tcp) (POOL_SIZE=10) (TIMEOUT=30)) (PRESPAWN_DESC=(PROTOCOL=ipc) (POOL_SIZE=5) (TIMEOUT=15))))
```

LISTENER.ORA ファイルでこれらのパラメータを追加または修正してください。

TNS-01175 パスワードが変更されませんでした。

原因：新規のパスワードを設定できません。

処置：新規のパスワードの ASCII 文字が有効であることを確認してください。パスワードの設定を再試行してください。

TNS-01176 新規パラメータ値をロード中にエラーが発生しました。

原因：パラメータに無効な値が指定されました。

処置：パラメータ値が有効であることを確認してください。パラメータの有効な値については、ドキュメントを参照してください。

TNS-01177 ログ・ステータスは OFF。ログ・ファイル/ディレクトリは変更されていません。

原因：ログ・ファイルを変更するには、ログ・ステータスを ON に設定する必要があります。

処置: コマンド・セット `log_status ON` を使用して、リスナーのログ・ステータスを ON に設定してください。

TNS-01178 トレース・レベルはゼロ (0)。トレース・ファイル/ディレクトリは未変更です。

原因: トレース・ファイル / ディレクトリを変更するには、トレース・レベルを設定する必要があります。

処置: コマンド・セット `trc_level ON` を使用して、トレース・レベルを設定してください。

TNS-01179 インスタンス・クラス *string* をリスナーがロードできません。

原因: インスタンスが、リスナーに使用できないクラスを登録しようとした。

処置: LISTENER.ORA またはインスタンス構成、およびプラットフォーム固有のドキュメントを参照し、このプラットフォームのリスナーに使用可能なインスタンス・クラスを検索してください。

TNS-01180 ディレクトリ・サーバーでリスナー・オブジェクト *string* が欠落しています。

原因: リスナーが、指定されたリスナー・オブジェクトを見つけられませんでした。

処置: リスナー・オブジェクトがディレクトリ・サーバーにあることを確認してください。

TNS-01200 リスナーは `suid` ルートでなくてはなりません。

原因: 実行可能 TNSLSNR の所有者権限が不正です。

処置: データベース管理者またはシステム管理者に連絡し、ファイルの所有者を SUID ルートに変更して、リスナーを再起動してください。プロセスを開始したユーザーが所有者を要求するので、この処置が必要になります。

TNS-01201 リスナーでは、実行可能な *string* (SID *string*) を検索できません。

原因: 実行可能な Oracle 専用サーバー・プロセスが見つかりませんでした。

処置: LISTENER.ORA の適切な SID_DESC を調べて、ORACLE_HOME コンポーネントが有効な位置にポイントしていることを確認してください。このコンポーネントが設定されていない場合は、環境変数 ORACLE_HOME の値を確認してください。

TNS-01202 SID_DESC の DBA_GROUP で指定される DBA グループ (*string*) がありません。

原因: 指定された DBA グループが `/etc/group` から欠落しています。

処置: LISTENER.ORA の SID_DESC で DBA_GROUP パラメータを確認し、このパラメータが `/etc/group` で有効なエントリを持っていることを検証してください。

TNS-01203 SID_DESC の DEFAULT_USER_ACCOUNT で指定されるアカウント (*string*) がありません。

原因: 非特権オペレーティング・システム・アカウントが /etc/passwd から欠落しています。

処置: LISTENER.ORA の SID_DESC で DEFAULT_USER_ACCOUNT に設定されているパラメータを確認し、このパラメータが /etc/passwd で有効なエントリを持っていることを検証してください。これは、接続するクライアントにデータベース権限があるか、またはこのマシンに存在しない場合に、Oracle シャドウ・プロセスが起動に使用するアカウントです。

TNS-01204 非特権アカウント (*string*) は、DBA グループ (*string*) にあります。

原因: 非特権アカウントには DBA 権限があります。LISTENER.ORA の SID_DESC で DEFAULT_USER_ACCOUNT で指定される非特権アカウントは、SID_DESC の DBA_GROUP で指定される DBA グループのメンバーです。OPS\$ ログインのセキュリティ違反のため、非特権アカウントは DBA グループに所属できません。

処置: 非特権アカウントを DBA グループから削除してください。

TNS-01300 *string* でエラーが発生しました。

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01301 TNS エラーです。構造体:

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01302 nr エラーです。コード : *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01303 ns メイン・エラーです。コード : *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01304 ns 二次エラーです。コード : *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01305 nt メイン・エラーです。コード : *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01306 nt 二次エラーです。コード: *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01307 nt OS エラーです。コード: *number*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01400 インスタンス *string* には *number* 個のハンドラがあります。

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01401 クラス: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01402 TYPE: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01403 ロード: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01404 最大ロード: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01405 ホスト: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01406 ID: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01407 状態: *string* **合計ハンドラ:** *string* **関連ハンドラ:** *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: ありません。

TNS-01409 インスタンス *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: ありません。

TNS-01410 サービス *string* には *number* 個のインスタンスがあります。

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01415 エンドポイント・サマリーをリスニングしています ...

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: ありません。

TNS-01420 プレゼンテーション: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-01421 セッション: *string*

原因: リスナー・ロギング・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-02401 *gdbname string* が長すぎます。 *number* 文字までです。

原因: GBNAMES またはドメイン名が長すぎます。

処置: LISTENER.ORA の GBNAMES パラメータを確認して、短くしてください。

TNS-02402 TNSNAMES.ORA の CLBGNAME パラメータが不正です。

原因: TNSNAMES.ORA の CLBGNAME パラメータが不正です。

処置: CLBGNAME のパラメータ書式を調べて修正してください。TNSNAMES.ORA ファイルがあることを確認してください。

TNS-02403 TNSNAMES.ORA に、別名 *string* が不正、または別名が提示されていません。

原因: TNSNAMES.ORA に必要な別名が見つかりません。または、正しい書式ではありません。

処置: TNSNAMES.ORA の別名を調べ、正しい書式であることを確認してください。

TNS-02404 サービス *string* に、ローカル・ハンドラは含まれていません。

原因: リスナーはリダイレクトに適したハンドラを見つけることができませんでした。

処置: このノードに、ハンドラが少なくとも1つあることを確認してください。

TNS-02405 GMS コールに失敗しました。GMS ログをチェックしてください。

原因: リスナーによる GMS コールが失敗しました。

処置: GMS が起動していることを確認してください。詳細情報は、GMS クライアント・トレース・ファイルを参照してください。

TNS-02501 認証: これ以上ロールはありません。

原因: プロセスが認証サービスからロールを取り出そうとしましたが、使用可能なロールはありません。

処置: 処置は必要ありません。このエラーは内部で使用され、イベントの標準コースに表示されます。

TNS-02502 認証: 初期化関数を検索できません。

原因: 存在しないため、ネイティブ認証サービスは指定されたサービスの初期化関数をコールできませんでした。

処置: このサービス・アダプタが Oracle 製品のサービスである場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問合せてください。これは発生してはならないエラーです。そうでない場合には、使用されるサービスの初期化関数を追加してください。

TNS-02503 パラメータの検索に失敗しました。

原因: ネイティブ・サービス・レイヤーが、構成ファイルからパラメータを取り出せませんでした。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02504 パラメータ件数の検索に失敗しました。

原因: ネイティブ・サービス・レイヤーが、構成パラメータに指定された引数の数を判断できませんでした。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02505 認証: NULL のコンテキスト・ポインタが指定されました。

原因: NAU_INI() 関数に使用するコンテキストへのポインタとして NULL ポインタが渡されました。

処置: NAU_INI() に、コンテキスト構造体へのポインタを指定してコールしてください。

TNS-02506 認証: 型の文字列がありません。

原因: 認証コンテキスト構造体には、使用されている認証サービスを記述する文字列がありません。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02507 暗号化: アルゴリズムがインストールされていません。

原因: アルゴリズムを選択した後、サーバーはアルゴリズム表でその索引を見つけられませんでした。アルゴリズムは（間接的に）そのリストから選択されたものなので、このエラーは起こり得ません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02508 暗号化: サーバーの折衝応答にエラーがあります。

原因: サーバーの折衝応答がエラーでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02509 認証: プロセス状態が無効です。

原因: プロセスが実行している状態が、有効な値のいずれとも一致しません。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02510 無効な数値データ型です。

原因: 受け取られた数値データ型が、有効な値の数値データ型と一致しません。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02511 データ型が無効です。

原因: 受け取られた、または送信されるデータ型が、正しい値のいずれとも一致しません。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02512 無効なステータスを受け取りました。

原因: プロセスが、値を不明なステータス・フラグとして受け取りました。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02513 要求されたデータ型は、検索された型と一致しません。

原因: サービスが、その他のプロセスから送信されたセグメントのタイプと一致しないタイプのデータを要求しました。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02514 無効なパケットを受け取りました。

原因: プロセスが、ネイティブ・サービス・レイヤーが受け取るものではないデータ・パケットを受け取りました。

処置: 可能であれば、トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。また、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02515 暗号化 / 暗号チェックサム : 不明な制御型です。

原因: 暗号化または暗号チェックサム・アルゴリズム "control" 関数がコールされましたが、それに指定された "type" 引数を認識しませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02516 使用可能なデータがありません。

原因: ネイティブ・サービスがデータを取出そうとしましたが、受取り可能なデータがありませんでした。

処置: このエラーは、通常データ・ストリームの終了を通知するのに使用されるので、ユーザーには表示されません。エラーが表示される場合は、トレースを使用可能にして問題を再現させ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問合せってください。

TNS-02517 要求されたサイズより小さいキーです。

原因: ネゴシエーションによって戻されたキーが、(暗号化または暗号チェックサムの) サービスで要求されたサイズより小さくなっています。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。エラーが繰り返される場合は、トレースを使用可能にして問題を再現させ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問合せってください。

TNS-02518 キーの折衝エラーです。

原因: 接続の両側が暗号化または暗号チェックサム・キーをネゴシエーションしているときに、エラーが発生しました。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。エラーが繰り返される場合は、トレースを使用可能にして問題を再現させ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問合せってください。

TNS-02519 適切なキー折衝パラメータがありません。

原因: 暗号化または暗号チェックサムのどちらかで要求されたキー・サイズに使用できる適切なキー折衝パラメータがありません。

処置: このエラーは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にして問題を再現させ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問合せてください。

TNS-02520 暗号化 / 暗号チェックサム :Diffie-Hellman シードがありません。

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルに、"sqlnet.crypto_seed" パラメータがありません。

処置: 次の行を SQLNET.ORA に追加してください。

```
sqlnet.crypto_seed = "randomly-chosen text"
```

TNS-02521 暗号化 / 暗号チェックサム :Diffie-Hellman シードが小さすぎます。

原因: SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルの "sqlnet.crypto_seed" パラメータが小さすぎます。

処置: パラメータに無作為選択テキストをさらに追加してください。

TNS-02524 認証: 権限チェックに失敗しました。

原因: SQL*Net 認証サービスが、ユーザーに特定のデータベース権限があることを検証しようとした時、エラーが発生しました。

処置: このエラーは通常は発生しません。トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02525 暗号化 / 暗号チェックサム: 自己検査に失敗しました。

原因: アクティブな暗号化またはチェックサム・アルゴリズムのテストの実行中に、ANO 暗号化 / 暗号チェックサム・サービスがエラーを検出しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-02526 サーバー・プロキシ・タイプがクライアント・タイプと一致しません。

原因: サーバーで選択された認証タイプが、クライアントで選択されたタイプと一致しません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-03501 OK

原因: 操作が正しく完了しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-03502 引数が足りません。使用方法: tnsping <アドレス> [<件数>]

原因: 要求されたコマンド行引数がいくつかありません。

処置: 正しい引数を指定して、コマンドを再入力してください。

TNS-03503 NL を初期化できません。

原因：ネットワーク・ライブラリを初期化できませんでした。これは、通常は表示されない内部エラーです。

処置：アプリケーションの実行に使用できるメモリーがあり、オペレーティング・システムにその他の問題がないことを確実にし、コマンドを再試行してください。

TNS-03504 サービス名が長すぎます。

原因：ping しようとしているサービス名が長すぎます。

処置：正しいサービス名を指定して、コマンドを再入力してください。

TNS-03505 名前の決定に失敗しました。

原因：入力したサービス名が、TNSNAMES.ORA、Oracle Names Server、またはネイティブ・ネーミング・サービスで見つかりませんでした。

処置：サービス名を正しく入力したことを検証してください。名前がネットワーク構成に正しく入力されたことを確実にする必要があります。

TNS-03506 アドレス・バインディングの作成に失敗しました。

原因：TNSPING ユーティリティが要求されたアドレスまたはサービス名を見つけましたが、使用したところ、内部エラーを受け取りました。これは、通常は表示されない内部エラーです。

処置：アプリケーションの実行に使用できるメモリーがあり、オペレーティング・システムにその他の問題がないことを確実にし、コマンドを再試行してください。

TNS-03507 ADDRESS キーワードの検索に失敗しました。

原因：TNS アドレスには ADDRESS キーワードがありませんでした。

処置：TNS アドレスをコマンド行に入力した場合は、構文が正しいことを確認してください。サービス名をコマンド行に入力した場合は、アドレスは誤った情報を含んでいません。情報が正しく入力されたことを検証する必要があります。

TNS-03508 アドレス文字列の作成に失敗しました。

原因：アドレスの生成中に、TNSPING ユーティリティが内部エラーを受け取りました。これは、通常は表示されない内部エラーです。

処置：アプリケーションの実行に使用できるメモリーがあり、オペレーティング・システムにその他の問題がないことを確実にし、コマンドを再試行してください。

TNS-03509 OK (*number* ミリ秒)

原因：操作が時間内に正常に完了しました。

処置：処置は必要ありません。

TNS-03510 I/O エラーで失敗しました。

原因: リソース不足または尚早なウィンドウの終了のため、I/O 操作に失敗しました。これは、通常は表示されない内部エラーです。

処置: I/O 操作が完了してから、TNSPING ウィンドウをクローズしてください。

TNS-03601 ルート情報の収集に失敗しました。

原因: ルートが接続できなかったか、または SQL*Net のサポートされていないバージョンを検出しました。

処置: すべてのノードの SQL*Net がバージョン 2.3 以降であることを確認してください。

TNS-03602 引数が足りません。使用方法: tcroute <アドレス>

原因: 要求されたコマンド行引数が不足しています。

処置: 正しい引数を指定して、コマンドを再入力してください。

TNS-03603 SQL*Net の 2.3 以前のバージョンのノードに直面しました。

原因: SQL*Net の 2.3 よりも前のバージョンはすべて TRCROUTE をサポートしていません。

処置: TRCROUTE に応答していないノードを検索してください。

TNS-04001 CMCTL: 端末からコマンド行を取得中にエラーが発生しました。

原因: 端末からの標準入力接続が不正です。

処置: 通常ユーザーには表示されません。CMCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04002 CMCTL:Connection Manager を起動中にエラーが発生しました。

原因: Connection Manager を起動できませんでした。

処置: Connection Manager 構成ファイルを参照してエラーを見つけ、別のプログラムが指定された ADDRESS を使用していないことを確認してください。エラーが続く場合は、Connection Manager でトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を判断してください。問題が解決したら、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-04003 CMCTL:Connection Manager に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因: 不正なコマンドが Connection Manager に送信されたか、または Connection Manager が応答していません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: Connection Manager に送信されたコマンドが有効であることを検証してください。CMCTL STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることも確認してください。必要に応じて、CMCTL START コマンドを使用して Connection Manager を起動してください。

TNS-04004 CMCTL: Connection Manager Admin を起動中にエラーが発生しました。

原因: Connection Manager Admin を起動できませんでした。

処置: 実行可能な Connection Manager Admin (CMADMIN) が、Oracle ホーム・ディレクトリに存在することを確認してください。エラーが続く場合は、Connection Manager Admin のトレースをオンにし、トレース・ファイルを調べて問題の原因を判断してください。問題が解決したら、確実にトレースをオフにしてください。

TNS-04005 CMCTL: Connection Manager Admin に要求を送信中にエラーが発生しました。

原因: Connection Manager Admin が応答していないか、実行されていません。

処置: CMCTL STATUS コマンドを使用して、Connection Manager Admin が実行中であることを確認してください。必要に応じて、CMCTL START コマンドを使用して Connection Manager Admin を起動してください。

TNS-04006 CMCTL: ホスト変数が定義されていません。

原因: ホスト変数が設定されませんでした。

処置: ホスト変数を正しく設定し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04007 CMCTL: 不明なホストです。

原因: ポインタ・ホストに不明なホスト名が設定されています。

処置: ポインタ・ホストを正しく設定し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04008 CMCTL: Connection Manager にコンタクトできませんでした。

原因: Connection Manager への接続が正しく確立できませんでした。指定された Connection Manager が実行されていない可能性があります。

処置: STATUS コマンドを使用して、Connection Manager が実行中であることを確認してください。必要に応じて、START コマンドを使用して Connection Manager を起動してください。実行中であるのにエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04009 CMCTL: Connection Manager Admin にコンタクトできませんでした。

原因: Connection Manager Admin への接続が正しく確立できませんでした。指定された Connection Manager Admin が実行されていない可能性があります。

処置: STATUS コマンドを使用して、Connection Manager Admin が実行していることを確認してください。必要に応じて、START コマンドを使用して Connection Manager Admin を起動してください。実行中であるのにエラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04010 NS コンテキストをフラッシュ中にエラーが発生しました。

原因: NS の内部エラー。接続が失われた可能性があります。

処置: 接続が正しく確立されていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04011 CMCTL: NS 切断コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続のクローズ中に、エラーが発生しました。

処置: 使用するネットワーク・プロトコルが、マシンに正しくインストールされていることを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04012 CMCTL: 端末入力チャネルをオープン中にエラーが発生しました。

原因: 標準端末入力をオープンできませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: CMCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04013 CMCTL: 端末入力チャネルのクローズ中にエラーが発生しました。

原因: 端末入力チャネルをクローズできませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: CMCTL プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04014 CMCTL: NS 送信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04015 CMCTL: NS 受信コマンドを実行中にエラーが発生しました。

原因: 内部 NS エラーです。接続が失われた可能性があります。

処置: エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04016 CMCTL: 各国語インタフェースの初期化でエラーが発生しました。

原因: メッセージ・ファイルは見つかりませんでした。

処置: Oracle 環境が設定され、メッセージ・ファイルが正しい位置にあることを確認してください。

TNS-04017 CMCTL: CMAN.ORA で Connection Manager データが欠落しています。

原因: CMAN.ORA に Connection Manager データがありません。

処置: Connection Manager に正しいデータを定義し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04018 CMCTL: cman.ora で Connection Manager 名: *string* が欠落しています。

原因: CMAN.ORA に CMANAGER_NAME コンポーネントがありません。

処置: CMANAGER_NAME に名前を定義し、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04019 CMCTL: config ファイルでアドレスが欠落しています。

原因: 構成ファイルに ADDRESS/ADDRESS_LIST コンポーネントがありません。

処置: CMAN.ORA ファイルに Connection Manager の ADDRESS を定義して、CMCTL プログラムを再起動してください。

TNS-04020 CMCTL: Connection Manager Admin にコンタクトできません。

原因: Connection Manager Admin が実行されていません。

処置: Connection Manager Admin でステータス要求を実施して、Connection Manager Admin が実行中であることを検証してください。必要に応じて、START コマンドを使用して Connection Manager Admin を起動してください。

TNS-04021 CMCTL: ORACLE 環境が正しく設定されていません。

原因: Oracle 環境が正しく設定されていません。

処置: Oracle 環境の設定方法に関する情報については、プラットフォームのオペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルを参照してください。修正して、CMCTL を再実行してください。Oracle 環境に、正しいディレクトリが含まれていることを確認してください。

TNS-04022 CMCTL: Connection Manager 名 / アドレスを解決できませんでした。

原因: アドレス定義に対する Connection Manager 名がありません。

処置: TNSNAMES.ORA ファイルを調べて、指定された名前の定義が含まれていることを確認してください。

TNS-04023 CMCTL: Connection Manager Admin 名 / アドレスを解決できませんでした。

原因: アドレス定義に対する Connection Manager Admin 名がありません。

処置: TNSNAMES.ORA ファイルを調べて、指定された名前の定義が含まれていることを確認してください。

TNS-04031 CMCTL: 内部 NT エラーです。

原因: インストールされたプロトコル・アダプタへのインタフェースで、問題が発生しました。

処置: 通常ユーザーには表示されません。CMCTL を起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04032 CMCTL: 内部 NS エラーです。

原因: TNS とのインタフェースで、問題が発生しました。

処置: 通常ユーザーには表示されません。再度 CMCTL を起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04033 CMCTL: 内部 NL エラーです。

原因: 内部 TNS モジュール NL の問題です。

処置: 通常ユーザーには表示されません。再度 CMCTL を起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04034 CMCTL: 内部 NFP エラーです。

原因: 内部 Connection Manager に問題が発生しました。

処置: 通常ユーザーには表示されません。再度 CMCTL を起動してください。エラーが繰り返される場合は、製品のインストールを確認してください。製品のインストールが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04035 CMCTL: 全ファイル名を組立て中にエラーが発生しました。

原因: ファイルまたは環境変数へのパス名が不正なため、ファイル名のフルパスを作成中に問題が発生しました。検索されたファイルは、CMAN.ORA および Connection Manager と Connection Manager Admin のエラー・ファイルを含みます。

処置: 環境変数がすべて正しく定義され、構成ファイルがすべて正しい場所に存在することを確認してください。

TNS-04036 CMCTL: Connection Manager のエラー・ファイルからの読み込みエラーです。

原因: Connection Manager または Connection Manager Admin が起動に失敗したときに生成したエラー・ファイルを読み込むときに、問題が発生しました。

処置: 標準ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリの権限がすべて適切であることを確認してください。

TNS-04037 CMCTL: Connection Manager エラー・ファイルのオープン・エラーです。

原因: Connection Manager または Connection Manager Admin が起動に失敗したときのエラー・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: ネットワーク・エラー・ディレクトリが存在し、ディレクトリの権限がすべて適切であることを確認してください。

TNS-04038 CMCTL: アドレスまたはコマンド文字列の形式が不完全です。

原因: Connection Manager または Connection Manager Admin のどちらかにメッセージを送信しようとして、受け入れられない文字列が検出されました。Connection Manager または Connection Manager Admin のどちらかに指定されたアドレスが、正しく作成されていない可能性があります。

処置: 構成ファイル (TNSNAMES.ORA) のアドレス文字列をすべて調べ、形式が正しいことを確認してください。すべてに問題がなければ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04039 CMCTL: 処理を生成中にエラーが発生しました。

原因: 内部オペレーティング・システム依存の問題のため、処理を生成中にエラーが検出されました。マシン・リソースが制限されている可能性があります。

処置: コマンドを再実行してください。実行可能な Connection Manager (CMADMIN, CMGW) の許可、および検索パスの現行の設定を確認してください。必要に応じて、その他のアプリケーションを終了してマシン・リソースを解放してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04040 CMCTL: トレース・コンテキストの初期化に失敗しました - それでも継続します。

原因: CMAN.ORA のエラーのため、ユーザーの権限が不正であるため、またはファイルが存在しないために、指定されたトレース・ファイルのオープン中に問題が発生しました。

処置: 構成ファイルの権限を確認し、確実にすべてが正しい場所に存在するようにしてください。

TNS-04041 CMCTL: Connection Manager はすでに実行中です。起動操作は取り消されました。

原因: Connection Manager はすでに実行されており、同じアドレスにリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Connection Manager はすでに実行されています。

TNS-04042 CMCTL: Connection Manager Admin はすでに実行中。起動操作は取り消されました。

原因: Connection Manager Admin はすでに実行されており、同じアドレスにリスニングしています。

処置: 処置は必要ありません。Connection Manager Admin はすでに実行されています。

TNS-04043 CMCTL: Connection Manager にはアクティブな接続があります。それでも停止しますか (y/n) ?

原因: 停止しようとしている Connection Manager は接続されたままです。これは確認メッセージです。

処置: y または n を入力して、応答してください。y で応答すると、アクティブなデータベース接続は削除されます。これは通常、お薦めしません。

TNS-04044 CMCTL: Connection Manager にコンタクトするには CMAN.ORA ファイルが必要です。

原因: 正しいディレクトリに CMAN.ORA が存在しないのに、デフォルトの Connection Manager とコンタクトしようとした。

処置: CMAN.ORA ファイルを作成してください。CMAN.ORA ファイルが正しいディレクトリにあり、コンタクトする Connection Manager の正しい名前を含んでいることを確認してください。

TNS-04045 CMCTL: そのアドレスでは Connection Manager にコンタクトできませんでした。

原因: 応答しないアドレスで、Connection Manager とコンタクトしようとした。

処置: Connection Manager が実際にそのアドレスでリスニングしていることを確認してください。

TNS-04046 CMCTL: そのアドレスでは Connection Manager Admin にコンタクトできません。

原因: 応答しないアドレスで、Connection Manager Admin とコンタクトしようとした。

処置: Connection Manager Admin が実際にそのアドレスでリスニングしていることを確認してください。

TNS-04047 CMCTL: Connection Manager Admin の IPC アドレスを作成できませんでした。

原因: 応答していない IPC アドレスを使用して、Connection Manager Admin とコンタクトしようとした。

処置: Connection Manager Admin が実行されているかどうかを確認してください。

TNS-04060 CMCTL: 不正コマンド: リモート Connection Manager では STATUS コマンドのみ可。

原因: 存在しないコマンドが入力されました、またはリモート Connection Manager に STATUS 以外の要求がされました。

処置: CMCTL コマンドのリストについては、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を確認してください。有効なコマンドのリストについては、HELP とタイプしてください。

TNS-04061 CMCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: トレース・レベルの指定が必要です。

原因: トレース・レベルが指定されませんでした。

処置: トレース・レベルを指定して、コマンドを再試行してください。

TNS-04062 CMCTL: 不正なコマンドまたは構文エラー: ヘルプ表示は help/h/? を入力します。

原因: 無効なコマンドが入力されました。

処置: 有効なコマンドのリストについては、『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を確認するか、または HELP とタイプしてください。

TNS-04063 CMCTL: バッファ用のメモリー割当てに失敗しました。

原因: CMCTL が内部バッファ用のメモリー割当てに失敗しました。

処置: マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確実にしてください。必要であれば、実行するプログラム数を少なくして、メモリーを解放して、再試行してください。

TNS-04064 CMCTL: CMAN.ORA で CMANAGER_NAME の検索に失敗しました。

原因: CMCTL は、CMAN.ORA で CMANAGER_NAME の検索に失敗しました。

処置: CMAN.ORA ファイルが正しい構造になっているかを確認してください。

TNS-04065 CMCTL: コマンドはリモートで実行できません。

原因: status および version 以外のコマンドがリモートから実行されました。

処置: status および version 以外のコマンドを実行する必要がある場合には、Connection Manager マシンで CMCTL を実行する必要があります。

TNS-04070 CMCTL 使用方法: [cmctl]< コマンド > < プロセス名 > [引数]

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04071 < コマンド > は次の 1 つです:

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04072 * start - < プロセス名 > を起動します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04073 * stop - < プロセス名 > を停止します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04074 * status - < プロセス名 > からステータスを取得します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04075 * status - < プロセス名 > から統計情報を取得します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04076 * version- CMCTL 制御プログラムのバージョンを取得します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04077 * exit - CMCTL 制御プログラムを終了します。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04078 < プロセス名 > は、cman、cm プロセスまたは adm プロセスの 1 つです。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04079 * cman - Connection Manager (cman と adm 両方) に尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04080 * cm - Connection Manager プロセスだけに尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04081 * adm - Connection Manager Admin プロセスだけに尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04082 * log_on - ログを ON にする < プロセス名 > を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04083 * log_off - ログを OFF にする < プロセス名 > を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04084 * trace_on - トレースを ON にするプロセス名を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

**TNS-04085 注意: 引数フィールドでトレース・レベル (USER または
TNS-04086 ADMIN) を指定する必要があります。**

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04087 * trace_off - トレースを OFF にする<プロセス名>を尋ねます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04088 [引数] は trace_on だけです。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04089 * trace_on では - 引数はトレース・レベルと見なされます。

原因: CMCTL が表示するヘルプ・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04090 string

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: ありません。

TNS-04119 CMAN でパスワードの暗号化に失敗しました。

原因: 誤ったパスワードが入力された可能性があります。

処置: 有効な ASCII 文字を使用して、CMAN パスワードを再入力してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04120 現在の CMAN は string です。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04121 コマンドは正常に完了しました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04122 CMAN の状態 実行していません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04123 ADMIN の状態 実行していません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04124 現在の表示モードは string です。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04125 コマンドは不成功でした。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04126 *string* のバージョン *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04127 *string* に接続しています。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04128 *string* の状態

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04129 起動時間 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04130 現在の状態 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04131 *string* を起動しています:お待ちください ...

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04132 CMAN の統計

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04133 処理した接続数の合計 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04134 現在アクティブなりレー数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04135 最大アクティブ・リレー数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04136 最大リレー数を超えたために拒否された合計数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04137 拒否された接続の合計数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04139 CMAN のプロファイル

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04140 MAXIMUM_RELAYS =*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04141 RELAY_STATISTICS = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04142 AUTHENTICATION_LEVEL =*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04143 LOG_LEVEL = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04144 SHOW_TNS_INFO = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04145 ANSWER_TIMEOUT = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04146 MAXIMUM_CONNECT_DATA = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04147 USE_ASYNC_CALL = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04148 TRACING= *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04149 TRACE_DIRECTORY=*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04150 MAX_FREELIST_BUFFERS = *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04151 REMOTE_ADMIN =*string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04152 リレー情報

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04153 リレー番号 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04154 ソース *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04155 宛先 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04156 IN バイト数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04157 IN パケット数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04158 IN DCD プロープ数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04159 OUT バイト数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04160 OUT パケット数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04161 OUT DCD プロープ数 *string*

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04162 アドレス・リスト

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04163 アクティブ・リレー

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04164 ルール・リスト

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04165 リレーはアクティブではありません。

原因: 制御プログラム・ステータス・メッセージ。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-04201 Trace Assistant 使用エラー: ファイル名がありません。

原因: トレース・ファイル名の引数がありません。

処置: このツールの最後のコマンド行引数にトレース・ファイル名を設定してください。

TNS-04202 Trace Assistant 使用エラー: 引数が不十分です。

原因: ファイル名またはオプション引数がありません。

処置: 正しい数のコマンド行引数を設定してください。

TNS-04203 Trace Assistant 使用エラー: オプションが無効です。

原因: 指定されたオプションが無効です。

処置: このツールの有効なオプションを確認してください。

TNS-04204 Trace Assistant 内部エラー: トレース・ファイルをオープンできません。

原因: 指定されたトレース・ファイルが存在しないか、このユーザーはアクセスできません。

処置: 綴りおよびトレース・ファイルのアクセス権を確認してください。

TNS-04205 Trace Assistant 内部エラー: メモリーのエラーです。

原因: メモリーに問題がある可能性があります。

処置: システムの使用可能なメモリー量を確認してください。

TNS-04206 Trace Assistant 内部エラー: パケット・タイプのエラーです。

原因: trcAsst の読み込んだパケット・タイプが無効です。

処置: 使用中のトレース・ファイルが壊れていないことを確認してください。トレース・ファイルに予期しない文字が含まれておらず、正常であれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、トレース・ファイルを準備してください。

TNS-04207 Trace Assistant 内部エラー: パケット長のエラーです。

原因: デコードしているパケットが壊れています。

処置: 使用中のトレース・ファイルが壊れていないことを確認してください。トレース・ファイルに予期しない文字が含まれておらず、正常であれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、トレース・ファイルを準備してください。

TNS-04208 Trace Assistant 内部エラー：重大なエラーです。

原因：重大な内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04209 Trace Assistant 内部エラー：型のエラーです。

原因：内部のタイプ・エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04210 Trace Assistant 内部エラー：ファイルの終わりです。

原因：ファイルが短すぎます。トレース・ファイルが切り捨てられている可能性があります。このトレース・ファイルはデコードできません。

処置：別のトレース・ファイルを生成してください。

TNS-04211 Trace Assistant 内部エラー：中心部のエラーです。

原因：内部システムのエラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04212 Trace Assistant 内部エラー：NACOM の型エラーです。

原因：ネットワーク認証情報をデコードできません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-04231 Trace Assistant 警告：Oracle Trace の形式とみなされます。

原因：このトレース・ファイルは、Network トレース・ファイルではありません。デフォルト形式（Oracle Trace）とみなされます。

処置：処置は必要ありません。

TNS-04232 Trace Assistant 警告：すべての行を取出せません。

原因：Trace Assistant は行のデータすべてを取り出せません。

処置：処置は必要ありません。

TNS-04233 Trace Assistant 警告：パケットの長さを超えてしまいます。

原因：パケットの長さを超えて読み込もうとしました。トレース・ファイルが壊れています。

処置：処置は必要ありません。

TNS-04234 Trace Assistant 警告：TTC はデコードされません。

原因：Trace Assistant が、TTC データをデコードするために必要な情報を持っていません。古いトレース・ファイルまたはトレース・ファイルが認識しないプラットフォームからのものである可能性があります。

処置：処置は必要ありません。

TNS-04235 Trace Assistant 警告: TTC プロトコルが不明です。

原因: Trace Assistant が、TTC プロトコルの認識できない点に到達しました。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12150 TNS: データを送信できません。

原因: データを送信できません。接続が切断された可能性があります。

処置: 再度接続してください。エラーが繰り返される場合は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。

TNS-12151 TNS: ネットワーク・レイヤーから不正なパケット型を受信しました。

原因: これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12152 TNS: ブレーク・メッセージを送信できません。

原因: ブレーク・メッセージを送信できません。接続が切断された可能性があります。

処置: 再度接続してください。エラーが繰り返す場合は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。

TNS-12153 TNS: 接続されていません。

原因: 現在、リモート・ホストに接続していません。

処置: 再度接続してください。

TNS-12154 TNS: サービス名を解決できませんでした。

原因: 指定されたサービスの名前が、TNSNAMES.ORA ファイル内で正しく定義されていません。

処置: 次の点を確認し、エラーを修正してください。

- TNSNAMES.ORA ファイルが、適切な位置に存在し、アクセスできることを確認してください。必須の名前および位置についての詳細を調べるには、オペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。
- TNSNAMES.ORA ファイルの中にサービス名があることを確認し、必要ならそれを追加してください。
- ファイル内に構文エラーがないかどうかを確認してください。特に一致しないカッコあるいは文字を捜してください。TNSNAMES.ORA ファイル内にエラーがあると、利用できなくなります。『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。可能であれば、Oracle Network Manager を使用して、構成ファイルを再作成してください。

TNS-12155 TNS: NSWMARKER パケットで不正なデータ型を受信しました。

原因: ブレーク・ハンドル中に内部エラーが発生しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12156 TNS: 不正確な状態から行をリセットしようとしてしました。

原因: ブレーク・ハンドル中の内部エラーです。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12157 TNS: ネットワーク通信の内部エラー。

原因: ネットワーク通信中に内部エラーが発生しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12158 TNS: パラメータ・サブシステムを初期化できませんでした。

原因: パラメータ・ファイルが見つかりません。

処置: 有効で、読取り可能なパラメータ・ファイルがあるかどうかを確認してください。

TNS-12159 TNS: トレース・ファイルは書込み禁止です。

原因: 生成されるトレース・ファイルを、このユーザーは書き込むことができません。

処置: ユーザーがトレース・ファイルを書き込むディレクトリに書き込み許可がない場合、データベース管理者に連絡して適切な許可を得るか、SQLNET.ORA 内の TRACE_DIRECTORY_CLIENT を使用して、書込み可能なディレクトリを指定してください。

TNS-12160 TNS: 内部エラー: エラーの数値が不正です。

原因: 不正なエラーがサブシステムにレポートされました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12161 TNS: 内部エラー: データの一部を受信しました。

原因: 接続が終了した可能性があります。

処置: 接続して再実行してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12162 TNS: 指定されたサービス名は正しくありません。

原因: TNSNAMES.ORA 内のサービスの名前に対応する接続記述子が誤って指定されています。

処置: 接続記述子内に構文エラーがないことを確認してください。特に一致しないカッコあるいは文字を搜してください。TNSNAMES.ORA ファイル内にエラーがあると、利用できなくなります。『Oracle8i Net8 管理者ガイド』を参照してください。

TNS-12163 TNS: 接続記述子が長すぎます。

原因: TNSNAMES.ORA 内のサービスの名前に対応する接続記述子が長すぎます。

処置: 接続記述子の最大長は 512 バイトであり、この制限を超えました。より短い接続記述子を使用してください。それが不可能な場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12164 TNS: Sqlnet.fdf ファイルがありません。

原因: \$ORACLE_HOME/network/admin に SQLNET.FDF ファイルがありません。

処置: SQLNET.FDF ファイルは、Oracle Trace を行うために必須です。\$ORACLE_HOME/network/admin 内に SQLNET.FDF ファイルをインストールするか、ORA ファイルのトレースをオフにしてください。

TNS-12165 TNS: スワップ領域にトレース・ファイルを書き込もうとしました。

原因: Oracle Trace がトレース情報をユーザーのスワップ領域に書くことができません。

処置: Oracle Trace がスワップ領域内にトレース情報を書くことができないので、トレースを使用禁止にするか、トレース・ファイルをディスクの他の領域にリダイレクトしてください。

TNS-12166 TNS: クライアントは HO エージェントに接続できません。

原因: NV string に DESCRIPTION/HO が含まれています。

処置: 統合サーバーから HO エージェントをコールします。

TNS-12168 TNS: ディレクトリ・サーバーに接続できません。

原因: LDAP ベースのディレクトリ・サーバーを使用するように構成されています。

処置: ディレクトリ・サーバーを起動するか、LOCAL への構成を変更してください。

TNS-12196 TNS: TNS からエラーを受信しました。

原因: ナビゲーション・レイヤーが、TNS からエラーを受け取りました。

処置: エラー・ログファイルを参照して、TNS エラーを調べてください。

TNS-12197 TNS: キーワード値宛先展開エラー

原因: ナビゲーション・レイヤーが、キーワードの値を調べようとしてエラーを受け取りました。

処置: 接続コマンドの構文を調べてください。

TNS-12198 TNS: 接続先へのパスが見つかりませんでした。

原因: Interchange を介して接続先へのパスをナビゲートできませんでした。このエラーは、アドレスの文字列内に無効なコミュニティがあるか、アドレスに使用不可のプロトコルがあるか、構成ファイルが正しいアドレスをもっていないか、Interchange が停止している場合に発生します。

処置: 要求された接続先を得るために必要な Interchange が実行されているかどうか、追加の接続に使用できる容量があるかどうかを確認してください。また、使用するアドレスに、正しいコミュニティおよびプロトコルが指定されているかどうかを確認してください。

TNS-12200 TNS: メモリーを割り当てられませんでした。

原因: マシン上のメモリー不足です。

処置: Interchange を実行している時は、マシンを再構成して記憶領域を増やすか、実行するアプリケーションを減らしてください。

TNS-12201 TNS: 接続バッファが小さすぎます。

原因: アプリケーションが提供する TNS 接続バッファが小さすぎるため送信するデータを取り出せません。

処置: より大きい接続バッファを設定してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12202 TNS: 内部ナビゲーション・エラー。

原因: 内部ナビゲーション・エラーです。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12203 TNS: 接続先に接続できません。

原因: 無効な TNS アドレスを指定したか、接続先がリスニングしていません。このエラーは、基礎を形成するネットワーク通信の問題でも発生します。

処置: コマンド行に入力したサービスの名前が正しいか確認してください。リスナーがリモート・ノードで実行していること、および TNSNAMES.ORA 内で指定された ADDRESS パラメータが正しいことを確認してください。最後に、接続に必要な Interchange がすべて実行されていることを確認してください。

TNS-12204 TNS: 受信データはアプリケーションから拒否されました。

原因: Interchange または Connection Manager を使用しているアプリケーションが、リスナーでの接続を拒否しました。

処置: 接続先のアプリケーション・リスナーが正常に機能していることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12205 TNS: 障害アドレスを取得できませんでした。

原因: 内部ナビゲーション・エラーです。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12206 TNS: ナビゲーション中に TNS エラーを受信しました。

原因: 予期しない TNS エラーによる内部ナビゲーションのエラーです。

処置: ログファイルを参照して、TNS エラーを検索してください。必要なら、トレースをオンにして操作を繰り返してください。

TNS-12207 TNS: ナビゲーションを実行できません。

原因: ナビゲーション・ファイル TNSNAV.ORA が正しく構成されていません。

処置: アプリケーション・マシン上の TNSNAV.ORA ファイルの構文を確認し、それが正しいコミュニティをリストしていることを検証してください。

TNS-12208 TNS: TNSNAV.ORA ファイルが見つかりませんでした。

原因: 入力した Oracle 環境が正しく設定されていないか、あるいはファイルが存在しません。

処置: Oracle 環境が、プラットフォーム上に適切に設定されていること、および TNSNAV.ORA ファイルが提示されていることを確認してください。

TNS-12209 TNS: 初期化されていないグローバル変数が見つかりました。

原因: アプリケーション・コール・ナビゲーション・ルーチンにあるグローバル変数が、正しく構成されていません。使用可能な TNSNAV.ORA ファイルがないか、欠落しています。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12210 TNS: ナビゲータ・データを検索中にエラーが発生しました。

原因: アプリケーション・コール・ナビゲーション・ルーチンが持つ TNSNAV.ORA ファイルが正しく構成されていません。

処置: TNSNAV.ORA ファイルの構文を調べてください。

TNS-12211 TNS: TNSNAV.ORA では PREFERRED_CMANAGERS 項目が必要です。

原因：TNSNAV.ORA で PREFERRED_CMANAGERS が定義されていません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS エントリを TNSNAV.ORA に追加してください。

TNS-12212 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが不完全です。

原因：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内にバインディングする PREFERRED_CMANAGERS が、指定された CMANAGER_NAME を持っていません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS のバインディングの一部として、CMANAGER_NAME を定義してください。Oracle Network Manager を使用すると、このエラーは解決されます。

TNS-12213 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS バインディングが不完全です。

原因：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS バインディングに、指定された ADDRESS がありません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS バインディングの一部として ADDRESS を定義してください。

TNS-12214 TNS: TNSNAV.ORA にローカル・コミュニティ項目がありません。

原因：TNSNAV.ORA 内に LOCAL_COMMUNITIES 項目がありません。

処置：TNSNAV.ORA のノードに LOCAL_COMMUNITIES を定義してください。

TNS-12215 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_NAVIGATORS アドレスが不正です。

原因：PREFERRED_NAVIGATORS 項目のアドレス・バインディングが正しく入力されていません。

処置：PREFERRED_NAVIGATORS 項目を確認し、TNSNAV.ORA に追加してください。

TNS-12216 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS アドレスが不正です。

原因：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS 項目のアドレス・バインディングが正しく入力されていません。

処置：PREFERRED_CMANAGERS バインディングの一部として ADDRESS を定義してください。

TNS-12217 TNS: TNSNAV.ORA の PREFERRED_CMANAGERS にコンタクトできませんでした。

原因：PREFERRED_CMANAGERS エントリに構文エラーがあるか、指定したアドレスが間違っているか、また Connection Manager が使用できません。

処置：クライアントの TNSNAV.ORA ファイル内の PREFERRED_CMANAGERS 項目を確認して修正するか、ネットワーク管理者に連絡して、指定された Connection Managers が使用可能かどうかを調べてください。INTCTL STATUS コマンドで Interchange がアクティブになっているかどうかを確認してください。

TNS-12218 TNS: ネットワーク構成のデータは受け入れられません。

原因: ネットワーク構成のデータの構成が不十分です。たとえば、クライアントの TNSNAV.ORA ファイルの PREFERRED_CMANAGERS 項目に、間違った CMANAGER_NAME がある可能性があります。または、Navigator の Interchange 停止時間パラメータ (TIMEOUT_INTERVAL) が、INTCHG.ORA 内で 0 (ゼロ) に設定されている可能性があります。

処置: TNSNAV.ORA の項目および Interchange 構成ファイルを調べて、訂正してください。必要に応じて、ネットワーク管理者に連絡して、指定された Interchange (Connection Managers) が使用可能で、適切に構成されているかどうかを調べてください。必要に応じて、Oracle Network Manager を使用して構成ファイルを生成してください。

TNS-12219 TNS: ADDRESS_LIST 内のアドレスにコミュニティ名がありません。

原因: このエラーは、ADDRESS_LIST の一部の ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがなく、他の ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがある場合に発生します。

処置: 使用している接続記述子のすべての ADDRESS に COMMUNITY コンポーネントがあるか、またはすべてにないことを確認してください。

TNS-12221 TNS: ADDRESS パラメータが不正です。

原因: プロトコル・アダプタのパラメータの無効なセットが指定されました。このエラーは、プロトコルのトランスポートと接続できない場合に戻されます。

処置: 指定されたプロトコルを使用して、宛先に接続できるかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを確認してください。有効な ADDRESS パラメータの形式は、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システムに固有の Oracle マニュアルを参照してください。トランスポート・レイヤー (DECnet オブジェクト名など) で名前を解決するプロトコルが適切に構成されていないか、名前の綴りが間違っている場合、このエラーが発生しやすくなります。

TNS-12222 TNS: そのようなプロトコル・アダプタはありません。

原因: 要求されたプロトコル・アダプタ ((PROTOCOL = ..) の TNS アドレス内のキーワード値の組み合わせ) が見つかりません。指定されたアドレスの表記が正しい場合、プロトコル・アダプタはインストールされていません。

処置: プロトコル・アダプタをインストールするか、表記上のエラーを修正してください。注意: 指定されたアドレスが、サービス名を解決した結果から導出された場合、該当するファイル (たとえば、TNSNAMES.ORA、LISTENER.ORA または TNSNET.ORA) 内のアドレスを確認してください。

TNS-12223 TNS: 内部制限を超えました。

原因: 同時にオープンする TNS 接続が多すぎます。

処置: 接続のクローズを待って、再試行してください。

TNS-12224 TNS: リスナーがありません。

原因: リスナーが実行されていないので、接続要求が完了できませんでした。

処置: 指定された接続先アドレスが、リスナーの使用するアドレスの1つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイルを比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

TNS-12225 TNS: 接続先ホストに到達できません。

原因: リモート・パーティとは接続できません。

処置: ネットワーク・ドライバが機能していて、ネットワークが稼動しているかどうかを確認してください。

TNS-12226 TNS: オペレーティング・システム・リソース割当て制限を超えました。

原因: カレント・ユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超過しました。

処置: より多くのオペレーティング・システムのリソースを獲得するか、異なる機能を実行してください。

TNS-12227 TNS: 構文エラー

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

処置: TNSNAMES.ORA の接続記述子の構文を調べてください。

TNS-12228 TNS: プロトコル・アダプタがロード不能です。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーは戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードできなかった共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前が記述されています。

TNS-12229 TNS: Interchange にはこれ以上使用可能な接続はありません。

原因: 必要な宛先へのパスに含まれる Interchange には、このコールにこれ以上使用できる接続はありません。

処置: Interchange がビジーでないときにやり直すか、ネットワーク管理者に連絡して、使用している Interchange を調べ、その Interchange に使用可能な接続数を増加してください。

TNS-12230 TNS: この接続中に重大なネットワーク・エラーが起きました。

原因: 宛先の呼出し中に物理的なネットワーク・エラーが発生して、宛先との接続に失敗した場合に戻されます。

処置: ネットワーク・サービスが修復された後でやり直すか、問題をネットワーク管理者に報告してください。

TNS-12231 TNS: 接続先に接続できません。

原因: このエラーは、宛先への可能な接続の検索に失敗した場合に戻されます。

処置: 問題を修復するために、ネットワーク管理者に問題を報告してください。

TNS-12232 TNS: 接続先へのパスがありません。

原因: このエラーは、宛先への可能なパスを検索できない場合に戻されます。

処置: ネットワーク管理者に問題を報告してください。

TNS-12233 TNS: 接続の受入れに失敗しました。

原因: このエラーは、Interchange が、リダイレクトの失敗が原因で接続を受け入れられなかった場合に戻されます。

処置: Interchange の問題を分離するために、ネットワーク管理者に問題を報告してください。

TNS-12234 TNS: 接続先にリダイレクトしました。

原因: このエラーは、この Interchange が正しいゲートウェイではなく、接続先へのパスにしたがって他のゲートウェイに接続をリダイレクトする必要があると判断された場合に報告されます。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12235: TNS: 接続先へのリダイレクトに失敗しました。

原因: このエラーは、接続先へのパスにしたがって別の Interchange への接続のリダイレクトに失敗した場合に報告されます。

処置: ネットワーク管理者に問題を報告してください。

TNS-12236 TNS: プロトコル・アダプタがロードされませんでした。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) がロードされていない場合、このエラーは戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前が記述されています。

TNS-12500 TNS: リスナーが専用サーバー・プロセスの起動に失敗しました。

原因: 専用サーバープロセスの起動に失敗しました。実行可能なものが検索できないか、環境が間違っていて設定された可能性があります。

処置: ADMIN レベルでトレースをオンにして、操作をやり直してください。Oracle Server の実行可能プログラムがあり、実行権限が与えられているかどうかを確認してください。Oracle 環境が、LISTENER.ORA 内に正しく設定されていることを確認してください。コールされている Oracle プロトコル・アダプタは、ローカル・ハード・ドライブ上にインストールされていない可能性があります。正しいプロトコル・アダプタが

正常にリンクされているかどうかを確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12502 TNS: リスナーがクライアントから CONNECT_DATA を受信していません。

原因：リスナーへ CONNECT_DATA が渡されていません。

処置：TNSNAMES.ORA から解決したサービス名に、接続記述子の CONNECT_DATA コンポーネントがあることを確認してください。

TNS-12504 TNS: リスナーは CONNECT_DATA の SID を取得できませんでした。

原因：CONNECT_DATA から SID が失われていました。

処置：TNSNAMES.ORA のサービス名に対応する接続記述子に CONNECT_DATA の SID コンポーネントがあるかどうかを調べてください。

TNS-12505 TNS: リスナーは接続記述子にある SID を解決できませんでした。

原因：CONNECT_DATA の SID が、リスナーのテーブルで見つかりませんでした。

処置：指定された SID が正しいかどうか確認してください。現在リスナーに登録されている SID は、"LSNRCTL SERVICES *listener name*" と入力すると取得できます。これらの SID は TNSNAMES.ORA 内の SID_NAME、または INIT.ORA 内の DB_NAME に対応します。

TNS-12509 TNS: リスナーはサービス・ハンドラへのクライアントのリダイレクトに失敗しました。

原因：ディスパッチャが不意に終了しました。

処置：再接続してください。同じエラーが発生する場合は、データベース管理者に連絡して、この SID のディスパッチャの状態を確認してください。問題が繰り返される場合は、リスナー内のトレースをオンにして、リダイレクトによる TNS エラーかどうかを判断してください。

TNS-12510 TNS: テンポラリ・データベースには要求を処理するリソースがありません。

原因：ディスパッチャが他の要求の処理でビジーです。

処置：データベース管理者に連絡して、この SID をサービスするディスパッチャ数を増加してください。

TNS-12511 TNS: サービス・ハンドラが見つかりましたが、接続を受け入れられません。

原因：ディスパッチャが他の要求の処理でビジーか、または一時的にビジーであることをリスナーに通知しました。

処置：接続を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、データベース管理者に依頼してディスパッチャ数を増加してください。

TNS-12512 TNS: サービス・ハンドラは見つかりましたが、リダイレクト・アドレスが未登録です。

原因: ディスパッチャが起動した直後で、クライアントがリダイレクトするアドレスをまだ登録していません。

処置: 再接続してください。エラーが繰り返される場合は、データベース管理者に依頼してディスパッチャ数を増加してください。

TNS-12513 TNS: サービス・ハンドラは見つかりましたが、別のプロトコル用に登録されています。

原因: このサービスに登録されているディスパッチャは、クライアントのものとは異なるネットワーク・プロトコルを用いて、リスナーに接続されます。

処置: データベース管理者に連絡して、使用するプロトコルのディスパッチャを登録してください。

TNS-12514 TNS: リスナーは接続記述子にある SERVICE_NAME を解決できませんでした。

原因: CONNECT_DATA の SERVICE_NAME が、リスナーの表に見つかりませんでした。

処置: 指定された SERVICE_NAME が正しいかどうか確認してください。

TNS-12515 TNS: リスナーはこのプレゼンテーションに対するハンドラを検索できませんでした。

原因: リスナーが認識するサービス・ハンドラは、接続するクライアントが必要とするプレゼンテーション・プロトコルをサポートするものとして登録されていません。

処置: 宛先サービスがプレゼンテーション・プロトコルを受け入れるように構成されていることを確認してください。

TNS-12516 TNS: リスナーは、一致するプロトコル・スタックが使用可能なハンドラを検出できませんでした。

原因: SERVICE_NAME を認識するインスタンスが、クライアントのプロトコル・スタック（プロトコル、プレゼンテーションおよびセッション）をサポートしていません。

処置: 要求されたインスタンスが実行中で、サービス・ハンドラ（ディスパッチャなど）が正しく設定され、要求されたプロトコルおよびプレゼンテーションをサポートしていることを確認してください。

TNS-12517 TNS: ダイレクト・ハンドオフをサポートするサービス・ハンドラをリスナーで検出できませんでした。

原因: サービス・ハンドラが、このクライアント接続に必要なダイレクト・ハンドオフをサポートするものとして登録されていません。

処置: インスタンスがダイレクト・ハンドオフに対して正しく構成され、Net8 でのダイレクト・ハンドオフをサポートする Oracle のバージョンであることを確認してください。

TNS-12518 TNS: リスナーはクライアント接続をハンドオフできません。

原因：クライアント接続を別のプロセスにハンドオフするプロセスが失敗しました。

処置：トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。リスナーおよびデータベース・インスタンスが、ダイレクト・ハンドオフに対して正しく構成されていることを確認してください。問題が繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12519 TNS: 適切なサービス・ハンドラが見つかりません。

原因：リスナーが、クライアント接続に適した利用可能なサービス・ハンドラを見つけられませんでした。

処置："lsnrctl services" を実行し、インスタンスがリスナーに登録され、接続を受け入れていることを確認してください。

TNS-12520 TNS: リスナーは、要求したサーバー・タイプに使用可能なハンドラを検出できませんでした

原因：要求されたタイプのサーバー（専用または共用）に認識される使用可能なサービス・ハンドラで、クライアント接続に適切なものはありません。

処置："lsnrctl services" を実行し、インスタンスがリスナーに登録され、適切なハンドラが接続を受け入れていることを確認してください。

TNS-12521 TNS: リスナーは接続記述子で指定した INSTANCE_NAME を解決できませんでした。

原因：CONNECT_DATA の INSTANCE_NAME が、リスナーの表に見つかりませんでした。

処置：指定された INSTANCE_NAME が正しいかどうか確認してください。

TNS-12531 TNS: メモリーを割当てできません。

原因：要求されたアクティビティを稼動する十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：TNS 用のリソースを解放するか、マシン上にメモリーを追加してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-12532 TNS: 引数が無効です。

原因：内部機能が無効パラメータを受信しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12533 TNS: ADDRESS パラメータが不正です。

原因：プロトコル・アダプタのパラメータの無効なセットが指定されました。このエラーは、プロトコルのトランスポートと接続できない場合に戻されます。

処置: 指定されたプロトコルを使用して、宛先に接続できるかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA の ADDRESS セクション内のパラメータを確認してください。有効な ADDRESS パラメータの形式は、ご使用のプラットフォームのオペレーティング・システムに固有の Oracle マニュアルを参照してください。トランスポート・レイヤー (DECnet オブジェクト名など) で名前を解決するプロトコルが適切に構成されていないか、名前の綴りが間違っている場合、このエラーが発生しやすくなります。

TNS-12534 TNS: サポートされない操作です。

原因: 内部機能が、(このマシン上で) サポートされていない操作の実行要求を受信しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12535 TNS: 操作はタイムアウトしました。

原因: 要求された接続は、LISTENER.ORA 内の CONNECT_TIMEOUT パラメータに指定されたタイムアウト時間内に完了できませんでした。このエラーは TNSLSNR から戻されます。

処置: CONNECT_TIMEOUT を、無制限待機を意味する 0 に再構成するか、CONNECT_TIMEOUT をより高い値に再構成してください。あるいは、タイムアウトが長すぎる場合には、トレースをオンにして詳細を調べてください。

TNS-12536 TNS: この操作を行うと現行プロセスがブロックされます。

原因: 内部操作がカレント・プロセスをブロックしているときに、ユーザーが操作の非ブロック化を要求したため、操作は開始されませんでした。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12537 TNS: 接続がクローズされました。

原因: ファイル終り条件に達したため、パートナが切断されました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

TNS-12538 TNS: そのようなプロトコル・アダプタはありません。

原因: 要求されたプロトコル・アダプタ ((PROTOCOL=..)) の TNS アドレス内のキーワード値の組み合わせ) が見つかりません。指定されたアドレスの表記が正しい場合、プロトコル・アダプタはインストールされていません。

処置: プロトコル・アダプタをインストールするか、表記上のエラーを修正してください。注意: 指定されたアドレスが、サービス名を解決した結果から導出された場合、該当するファイル (たとえば、TNSNAMES.ORA、LISTENER.ORA または TNSNET.ORA) 内のアドレスを確認してください。

TNS-12539 TNS: バッファは上位または下位が桁溢れしました。

原因: 受信データのバッファが小さすぎるか、送信データのバッファが大きすぎます。

処置: この制限 (CONNECT DATA に対応付けられる) は、通常はユーザーには表示されません。詳細を調べるには、トレースをオンにして操作をやり直し、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合せてください。

TNS-12540 TNS: 内部制限を超えました。

原因: 同時にオープンする TNS 接続が多すぎます。

処置: 接続のクローズを待って、再試行してください。

TNS-12541 TNS: リスナーがありません。

原因: リスナーが実行されていないので、接続要求が完了できませんでした。

処置: 指定された接続先アドレスが、リスナーの使用するアドレスの 1 つと一致しているかどうかを確認してください。TNSNAMES.ORA 項目と該当する LISTENER.ORA ファイルを比較してください。リモート・マシン上のリスナーを開始してください。

TNS-12542 TNS: アドレスがすでに使用中です。

原因: 指定されたリスナー・アドレスがすでに使用されています。

処置: 一意アドレスでリスナーを開始してください。

TNS-12543 TNS: 接続先ホストに到達できません。

原因: リモート・パーティと接続できません。

処置: ネットワーク・ドライバが機能していて、ネットワークが稼動しているかどうかを確認してください。

TNS-12544 TNS: コンテキストの待機 / テスト関数が異なります。

原因: 2 つのプロトコル・アダプタに、矛盾する wait/test 関数があります。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12545 接続に失敗しました。ターゲット・ホストまたはオブジェクトが存在しません。

原因: 指定されたアドレスが有効でないか、接続先のプログラムがありません。

処置: ADDRESS パラメータが正しく入力されていることを確認してください。ノード名のパラメータが正しくない可能性があります。サーバーの実行可能プログラムが存在しているかどうかを確認してください。"oracle" が欠落している可能性があります。プロトコルが TCP/IP である場合は、TNSNAMES.ORA ファイルを編集して、ホスト名を IP アドレスに変更して、再試行してください。

TNS-12546 TNS: 許可が拒否されました。

原因: ユーザーが要求した操作を実行するには、権限が不足しています。

処置: 必要な権限を取得して、再試行してください。

TNS-12547: TNS: 接続を失いました。

原因: プロセスの起動中に、パートナが消失しました。

処置: 異常終了したパートナ・アプリケーションを調べてください。Interchange の場合、マシンの負荷が高くなると、このエラーが発生する可能性があります。

TNS-12548 TNS: 読み込みまたは書き込みが不完全です。

原因: データの受信あるいは送信に失敗しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12549 TNS: オペレーティング・システム・リソース割当て制限を超えました。

原因: カレント・ユーザーが、オペレーティング・システム内に割り当てられたリソースを超過しました。

処置: より多くのオペレーティング・システムのリソースを獲得するか、異なる機能を実行してください。

TNS-12550 TNS: 構文エラー

原因: 指定された接続記述子に不正な構文があります。

処置: TNSNAMES.ORA の接続記述子の構文を調べてください。

TNS-12551 TNS: キーワードがありません。

原因: 指定された接続記述子に 1 つ以上の TNS キーワードがありません。

処置: 構文を確認して、必須キーワードがすべて指定されているかどうかを確認してください。

TNS-12552 TNS: 操作が中断されました。

原因: 内部操作が割り込まれ、操作を完了できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12554 TNS: カレント操作はまだ進行中です。

原因: 内部操作がまだ進行中です。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12555 TNS: 許可が拒否されました。

原因: ユーザーが要求した操作を実行するには、権限が不足しています。

処置: 必要な権限を取得して、再試行してください。

TNS-12556 TNS: 発呼者がいません。

原因: TNS が受信接続要求を検出しましたが、発呼者がいませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12557 TNS: プロトコル・アダプタがロード不能です。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) が欠落しているか、サポートしているライブラリが欠落している場合に、このエラーは戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードできなかった共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前が記述されています。

TNS-12558 TNS: プロトコル・アダプタがロードされませんでした。

原因: プラットフォーム (OS/2 など) によっては、プロトコル・アダプタが実行時にロードされます。プロトコル・アダプタの共有ライブラリ (あるいは DLL) がロードされていない場合、このエラーは戻されます。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。トレース・ファイルには、ロードされていない共有ライブラリ (あるいは DLL) の名前が記述されています。

TNS-12560 TNS: プロトコル・アダプタ・エラー

原因: 一般的なプロトコル・アダプタ・エラーが発生しました。

処置: 使用しているアドレスを調べて、正しいプロトコルが指定されているかどうか確認してください。このエラーを報告する前に、エラー・スタックを調べて下位レベルの通信エラーを確認してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。操作が完了したら、トレースをオフにしてください。

TNS-12561 TNS: 不明なエラーです。

原因: 一般的なプロトコル・エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-12562 TNS: 不正なグローバル・ハンドルです。

原因: コール側から TNS に無効な 'gbh' 引数が渡されました。システムが古いライブラリにリンクされている可能性があります。これは内部エラーです。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12564: TNS: 接続が拒否されました。

原因: リモート・ユーザー（または TNS ソフトウェア）によって接続要求が拒否されました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。

TNS-12566 TNS: プロトコル・エラー

原因: 予期しない TNS プロトコル・エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12569 TNS: パケット・チェックサムに失敗しました。

原因: 受信したデータが送信したデータと異なります。

処置: トランザクションを再試行してください。エラーが繰り返される場合は、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。

TNS-12570 TNS: パケット読取り機に障害が発生しました。

原因: データ受信中にエラーが発生しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12571 TNS: パケットの書込み機に障害が発生しました。

原因: データ送信中にエラーが発生しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12574 TNS: リダイレクションが拒否されました。

原因: リダイレクションが必要なときに、コール側がリダイレクションを要求しなかったため、接続要求が失敗しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12582 TNS: 無効な操作です。

原因: 内部機能が無効な要求を受信しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12583 TNS: 読取り機がありません。

原因: 送信操作が要求されましたが、パートナがすでに切り離されています。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12585 TNS: データが切捨てられました。

原因: ユーザーの要求を満たすにはデータが不足しているため、受信操作が完了しませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12589 TNS: 接続は継承可能ではありません。

原因: プロトコル・プロバイダがサポートしないため、あるプロセスから他のプロセスへ接続を継承できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12590 TNS: I/O バッファがありません。

原因: 使用可能なバッファがないため、I/O 操作の実行に失敗しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12591 TNS: イベント信号障害

原因: TNS ソフトウェアは、イベント発生 of の信号を発することができません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12592 TNS: パケットが不正です。

原因: 不正なフォームのパケットが TNS ソフトウェアによって発見されました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12593 TNS: 登録済み接続がありません。

原因: イベント通知の接続が登録されていないため、ネットワーク・イベント・アクティビティが要求できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12595 TNS: 確認がありません。

原因: TNS がリモート・パートナから要求された確認を得られません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12596 TNS: 内部的に矛盾があります。

原因: TNS が内部の矛盾を検出しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12597 TNS: 接続記述子がすでに使用中です。

原因: 接続記述子の使用が無効です。これは内部エラーです。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12598 TNS: バナー登録に失敗しました。

原因: Oracle サーバーでの製品バナーの登録に失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現する場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12599 TNS: 暗号チェックサムが不適当です。

原因: 受信したデータが送信したデータと異なります。

処置: トランザクションを再試行してください。エラーが再現する場合は、物理的な接続の整合性を確認し、修正してください。

TNS-12600 TNS: 文字列のオープンに失敗しました。

原因: Oracle NLS 書式内の文字列の作成に失敗しました。これは内部エラーです。

処置: トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが繰り返される場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12601 TNS: 情報フラグのチェックに失敗しました。

原因: 接続のネゴシエーションの前のプロセスで設定される TNS 情報フラグが、ネゴシエーション完了後も存在しません。これは内部エラーです。

処置: トレースを使用可能にし、エラーを再現させてください。エラーが再現する場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12616 TNS: イベント信号がありません。

原因: TNS ソフトウェアは、イベント信号を有効にすることができません。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12618 TNS: バージョンに互換性がありません。

原因: 2つのマシンが、互換性のない TNS のバージョンで実行されています。

処置: バージョン番号を確認して、バージョンの低い方のマシンをアップグレードしてください。

TNS-12619 TNS: 要求されたサービスに権限付与できません。

原因: 要求されたサービスが、ローカル TNS ソフトウェアから提供されなかったため、接続要求が失敗しました。

処置: 必要であれば、サービス要件を少なくして再度実行してください。

TNS-12620 TNS: 要求された特性は不可能です

原因: 要求されたトランスポート特性が、リモート TNS ソフトウェアによってサポートされなかったため、接続要求が失敗しました。

処置: 必要であれば、サービス要件を少なくして再度実行してください。

TNS-12622 TNS: イベント通知の型が不同です。

原因： イベント通知のタイプが既存の登録と矛盾するため、イベント通知の接続が登録されませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置： 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12623 TNS: この状態での操作は不適当です。

原因： 接続は半二重方式です。全二重方式の接続操作が行われました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置： 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12624 TNS: 接続はすでに登録済みです。

原因： すでに登録されているため、イベント通知の接続が登録されませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置： 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12625 TNS: 引数が欠落しています。

原因： 引数が欠落しているため、操作に失敗しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置： 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12626 TNS: イベント型が不正です。

原因： イベントのタイプが不明なため、イベント通知の接続が登録できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置： 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12628 TNS: イベントのコールバックがありません。

原因： 非同期コールバックが使用不可のため、イベント通知の接続が登録できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置： 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12629 TNS: イベント・テストがありません。

原因: イベントをテストする機能が使用不可のため、イベント通知の接続が登録できませんでした。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12630 固有サービス操作がサポートされていません。

原因: ユーザーによって要求された操作は、ネイティブ・サービス・コンポーネントによってサポートされていません。

処置: 操作がサポートされている場合には、内部エラーの可能性あります。

TNS-12631 ユーザー名の検索に失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザー名の取出しに失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、どのルーチンが失敗しているかを判断してください。

TNS-12632 ロール・フェッチに失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザー・ロールの1つの取出しに失敗しました。

処置: トレースを使用可能にして、どのルーチンが失敗しているかを判断してください。

TNS-12633 共用認証サービスがありません。

原因: ユーザーの指定した認証サービス・リストは、プロセスによってサポートされているものと合致しません。

処置: 他のリストを指定するか、要求されたサービスと実行可能ファイルを再リンクしてください。

TNS-12634 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: プロセスがメモリーを割当てられませんでした。

処置: 他のプロセスを終了し、必要なメモリーを再要求してください。

TNS-12635 使用可能な認証アダプタがありません。

原因: 実行可能ファイルが認証サービス・アダプタにリンクされていませんが、認証が必要かどうかを指定する SQLNET.ORA パラメータに TRUE が設定されています。

処置: パラメータを無効にするか、サービス・アダプタと実行可能ファイルを再リンクしてください。

TNS-12636 パケット送信に失敗しました。

原因: プロセスが、他のプロセスにパケットを送信できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。

1. 送信先のプロセスが終了している。
2. 送信先のプロセスが実行中のマシンが停止した。
3. その他の通信エラーが発生した。

処置: 原因が明らかでない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

TNS-12637 パケット受信に失敗しました。

原因: プロセスが、他のプロセスからパケットを受信できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。

1. 送信先のプロセスが終了している。
2. 送信先のプロセスが実行中のマシンが停止した。
3. その他の通信エラーが発生した。

処置: 原因が明らかでない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

TNS-12638 資格証明の取出しに失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザーの資格証明の取出しに失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。

TNS-12639 認証サービスの折衝に失敗しました。

原因: クライアントがサポートしている認証サービスのタイプとサーバーが使用している認証サービスのタイプが一致していません。

処置: 考えられる解決方法は次のとおりです。

- 使用するサービスを指定する SQLNET.ORA のエントリを変更する。
- サーバーがサポートする認証サービス・アダプタの1つでクライアントに再リンクする。
- クライアントがサポートする認証サービス・アダプタの1つでサーバーに再リンクする。
- クライアントおよびサーバーの両方の認証を無効にする。

TNS-12640 認証アダプタの初期化に失敗しました。

原因: サービスの認証表エントリに指定された機能が失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。

TNS-12641 認証サービスが初期化に失敗しました。

原因: 初期化中に、認証サービスが失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。

TNS-12642 セッション・キーがありません。

原因：使用されている認証サービスがセッション・キーを使用していないため、プロセスに対応するセッション・キーがありません。

処置：セッション・キーが必要である場合には、他の認証サービスを使用してください。

TNS-12643 クライアントがサーバーから内部エラーを受信しました。

原因：クライアント・プロセスが、SQL*Net ネイティブ・サービスの内部エラーが発生したことを示すエラーをサーバーから受信しました。

処置：両方のプロセスのトレースをオンにして、問題を再現してください。問題が再現したら、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12644 認証サービスの初期化に失敗しました。

原因：ルーチンが認証アダプタ初期化の呼出しに失敗しました。

処置：トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。メモリー不足が原因である可能性があります。

TNS-12645 パラメータが存在しません。

原因：値が必要な SQLNET.ORA パラメータがありません。

処置：パラメータ・ファイルのパラメータを設定してください。

TNS-12646 ブール・パラメータに無効な値が指定されました。

原因：パラメータに、TRUE/FALSE または ON/OFF 以外の値が設定されました。

処置：パラメータの値を修正してください。

TNS-12647 認証が必要です。

原因：認証が必要かどうかを制御するパラメータに TRUE が設定されましたが、実行可能ファイルにリンクしている認証サービスがありません。

処置：認証サービス・アダプタと実行可能ファイルを再リンクするか、パラメータを無効にしてください。

TNS-12648 暗号化またはデータ整合性のアルゴリズム・リストが空です。

原因：SQL*Net list-of-algorithms パラメータが空（たとえば、"（）"）でした。

処置：リストを変更して、インストールされたアルゴリズムの少なくとも1つを指定してください。すべてのインストールされたアルゴリズムが該当する場合には、リスト全体を削除してください。

TNS-12649 不明な暗号化またはデータ整合性のアルゴリズムです。

原因：SQL*Net list-of-algorithms パラメータに承認されていないアルゴリズム名が含まれています。

処置: アルゴリズム名を削除するか、綴りの間違いを修正するか、あるいは欠落しているアルゴリズムのドライバをインストールしてください。

TNS-12650 共通の暗号化またはデータ整合性アルゴリズムがありません。

原因: クライアントとサーバーに、共通の暗号化またはデータ整合性（あるいはその両方）のアルゴリズムがありません。

処置: オーバーラップするアルゴリズムのセットを選択してください。サーバー・リストにクライアントのアルゴリズムを選択して追加するか、その逆を行ってください。

TNS-12651 暗号化またはデータ整合性アルゴリズムが受諾不能です。

原因: サーバーが暗号化またはデータの整合性に使用するために選択したアルゴリズムは、クライアントに認められる選択ではありません。これは、内部エラー、ネットワーク・データの送信エラー、または送信データが誤って書き換えられたことによるものです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、操作をやり直してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください

TNS-12652 文字列が切り捨てられました。

原因: 文字列に十分なメモリーが割り当てられていないため、切り捨てられます。

処置: 文字列を切り捨てても問題のない場合は、エラーにはなりません。そうでない場合には、より大きなバッファでエラーを通知したルーチンを再度コールしてください。

TNS-12653 認証制御機能に障害が発生しました。

原因: 認証サービス・ドライバによって利用される制御関数が失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。

TNS-12654 認証変換に失敗しました。

原因: 認証サービスが、ユーザーの資格証明を特定の書式から Oracle 形式に変換できませんでした。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。

TNS-12655 パスワード・チェックに失敗しました。

原因: 使用中の認証サービスが、指定されたパスワードを検証できません。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。

TNS-12656 暗号チェックサムが不適当です。

原因: 受入れデータの packets で受信した暗号のチェックサムが、受信の終わりで計算したチェックサムと合致しませんでした。Packets が書き換えられたか、あるいは通信上で壊れた可能性があります。

処置: データの壊れたソースを探してください。間違って書き換えられている可能性があります。

TNS-12657 アルゴリズムがインストールされていません。

原因: サービスのアルゴリズムがインストールされていないのに、接続で、そのサービス（暗号またはチェックサムどちらか）の使用が要求されました。

処置: そのサービスの "ON" 要件を削除してください。

TNS-12658 ANO サービスが必要ですが、TNS バージョンには互換性がありません。

原因: 前のバージョンの TNS を実行しているクライアント・プロセスが接続を試みましたが、サーバー・プロセスで ANO サービス（認証、暗号化など）が必要だったため、接続に失敗しました。

処置: コールする実行可能ファイルを再リンクして接続を再試行するか、サーバー側で使用されるサービス要件を削除してください。

TNS-12659 他のプロセスからエラーを受信しました。

原因: 接続の反対側のプロセスのサービスから 1 つ以上のエラーを受け取りました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。サーバーが生成するエラーはクライアント側では意味がなく、またクライアントが生成するエラーはサーバー側では意味がないため、エラーは直接戻されません。

TNS-12660 暗号化または暗号チェックサム・パラメータに互換性がありません。

原因: 接続の一方が、暗号化または暗号チェックサムに "REQUIRED" を指定していますが、もう一方は、"REJECTED" を指定しています。

処置: 暗号化または暗号チェックサムが必須でない場合には、"REQUIRED" 側を "REQUESTED" に変更してください。そうでない場合には、"REJECTED" 側を "ACCEPTED" に変更してください。

TNS-12661 使用されているプロトコル認証。

原因: SQL*Net 認証サービスは、使用中の SQL*Net 通信プロトコルがユーザーの ID を認証するのに利用できるか判断しました。

処置: このエラーは、認証サービスと SQL*Net セッション・レイヤーの間で情報を通信するためにのみ使用され、通常ユーザーには表示されません。エラーが表示された場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12662 プロキシ・チケットの検索に失敗しました。

原因: SQL*Net に使用される認証アダプタが、データベース・リンクの認証に必要な資格証明の取出しに失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。

TNS-12663 クライアントに必要なサービスがサーバーで使用可能ではありません。

原因: サーバー・プロセスで必要なサービスが、クライアント・プロセスで使用できませんでした。

処置: クライアントに必要なサービスを使用できるようにサーバーを構成してください (最も望ましい解決策です)。または、クライアントの構成ファイルから要件を削除してください (安全性が最も低い方法です)。

TNS-12664 サーバーに必要なサービスがクライアントで使用可能ではありません。

原因: クライアント・プロセスに必要なサービスが、サーバー・プロセスで使用できませんでした。

処置: サーバーに必要なサービスを使用できるようにクライアントを構成してください (最も望ましい解決策です)。または、サーバーの構成ファイルから要件を削除してください (安全性が最も低い方法です)。

TNS-12665 NLS 文字列のオープンに失敗しました。

原因: ネイティブ・サービスが、各国語サポート・コンポーネントで使用できる文字列を作成できません。

処置: 各国語サポート・コンポーネントが適切かどうかを確認してください。適切な場合は、トレースを使用可能にして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問題を報告してください。

TNS-12666 専用サーバー: アウトバウンド・トランスポートのプロトコルがインバウンドと異なります。

原因: 専用サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるアウトバウンド接続に、インバウンド接続と異なるプロトコルが指定されています。SQL*Net は、専用サーバーとの接続で使用するプロトコルと異なるプロトコルを使用するプロキシ接続を認証できません。

処置: インバウンド接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを、SQL*Net 接続文字列またはアウトバウンド接続の別名に指定してください。

TNS-12667 共有サーバー: アウトバウンド・トランスポート・プロトコルがインバウンドと異なります。

原因: 共有サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるアウトバウンド接続に、インバウンド接続と異なるプロトコルが指定されています。SQL*Net は、共有サーバーとの接続で使用するプロトコルと異なるプロトコルを使用するプロキシ接続を認証できません。

処置: インバウンド接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを、SQL*Net 接続文字列またはアウトバウンド接続の別名に指定してください。

TNS-12668 専用サーバー: アウトバウンド・プロトコルがプロキシ接続をサポートしていません。

原因: 専用サーバー (データベース・リンク) から外部的に同一視されるプロキシ接続の実行に、プロキシ接続をサポートしないプロトコルが指定されました。

処置: SQL*Net 接続文字列あるいは外部認証プロキシ接続をサポートする接続を使用する別名にプロトコルを指定してください。注意: SQL*Net の制限のため、プロキシ接続

では、クライアントからサーバーへの接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを使用する必要があります。

TNS-12669 共有サーバー：アウトバウンド・プロトコルがプロキシ接続をサポートしていません。

原因：共有サーバー（データベース・リンク）から外部的に同一視されるプロキシ接続の実行に、プロキシ接続をサポートしないプロトコルが指定されました。

処置：SQL*Net 接続文字列あるいは外部認証プロキシ接続をサポートする接続を使用する別名にプロトコルを指定してください。注意：SQL*Net の制限のため、プロキシ接続では、クライアントからサーバーへの接続に使用するプロトコルと同じプロトコルを使用する必要があります。

TNS-12670 ロール・パスワードが正しくありません。

原因：ロールに指定されたパスワードは、認証サービスによって、有効と認められませんでした。

処置：正しいパスワードを指定してください。

TNS-12671 共有サーバー：アダプタがコンテキストの保存に失敗しました。

原因：マルチスレッド・サーバーを介してプロキシ接続（データベース・リンク）に必要なデータを保存するときに、認証サービスのアダプタが失敗しました。

処置：トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。原因が明らかにならない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12672 データベースのログオンに失敗しました。

原因：使用中の認証サービス・アダプタが、ユーザーのログインを検証しているときにエラーを検出しました。

処置：トレースを使用可能にし、アダプタが検出したエラーの原因を調べてください。

TNS-12673 専用サーバー：コンテキストが保存されていません。

原因：専用サーバーからプロキシ接続（データベース・リンク）としてマークされましたが、インバウンド・コンテキストが存在しません。

処置：このエラーは、通常はユーザーに表示されません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12674 共有サーバー：プロキシ・コンテキストが保存されていません。

原因：共有サーバーからプロキシ接続（データベース・リンク）としてマークされましたが、インバウンド・コンテキストが存在しません。

処置：このエラーは、通常はユーザーに表示されません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12675 外部ユーザー名は使用できません。

原因：使用中の認証サービスが Oracle サーバーのユーザーの外部名を戻しませんでした。これは、まだ外部ユーザー名がサービスに使用できないためです。

処置：これは単なる情報メッセージであり、通常はユーザーに表示されません。エラーが表示されたら、オラクル社カスタマ・サポート・センターへ連絡してください。

TNS-12676 サーバーはクライアントから内部エラーを受信しました。

原因：サーバー・プロセスが、SQL*Net ネイティブ・サービスの内部エラーが発生したことを示すエラーをクライアントから受信しました。

処置：両方のプロセスのトレースをオンにして、問題を再現してください。再現する場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12677 認証サービスはデータベース・リンクでサポートされません。

原因：プロキシ接続（データベース・リンク）によって使用される認証サービスが、認証メカニズムのリストからクライアントが使用するアダプタを見つけることができませんでした。

処置：データベース・リンクに使用されるクライアントとサーバーで共有する認証アダプタを指定してください。

TNS-12678 認証は使用禁止になっていますが必要です。

原因：SQL*Net 認証を使用禁止にするかどうかを制御する構成パラメータが、両方とも TRUE に設定されています。

処置：パラメータは両方とも FALSE に設定してください。

TNS-12679 他のプロセスで固有サービスが使用禁止になっていますが必要です。

原因：リモート・プロセスはネイティブ・サービスを使用禁止にしましたが、ローカル・プロセスは要求しています。

処置：リモート・プロセス上のネイティブ・サービスを使用可能にするか、それらをローカルで使用禁止にしてください。

TNS-12680 固有のサービスが使用禁止になっていますが必要です。

原因：プロセスはネイティブ・サービスを使用禁止にしましたが、少なくとも 1 つのサービスが要求されています。

処置：ネイティブ・サービスを使用可能にするか、使用可能なサービスが要求されないように構成ファイルを変更してください。

TNS-12681 ログインに失敗しました：SecurID カードに PIN コードがありません。

原因：Oracle へのログインに使用された SecurID カードには、PIN コードが割り当てられていません。

処置：Security Dynamics 提供のプログラムの 1 つを使用して、カードに PIN コードを割り当ててください。

TNS-12682 ログインに失敗しました：SecurID カードは次の PRN モードにあります。

原因： SecurID カードと SecurID サーバーの同期が取れていません。サーバーは、カードを再度同期化するために、次のカードコードを必要としています。

処置： Security Dynamics 提供のプログラムの 1 つを使用して、SecurID カードを再度同期化してください。

TNS-12683 暗号化 / 暗号チェックサム：Diffie-Hellman シードがありません。

原因： SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルに、"sqlnet.crypto_seed" パラメータがありません。

処置： 次の行を SQLNET.ORA に追加してください。

```
sqlnet.crypto_seed = "randomly-chosen text"
```

TNS-12684 暗号化 / 暗号チェックサム：Diffie-Hellman シードが小さすぎます。

原因： SQL*Net の SQLNET.ORA パラメータ・ファイルの "sqlnet.crypto_seed" パラメータが小さすぎます。

処置： Net8 Assistant を使用するなどして、パラメータに無作為選択テキストをさらに追加してください。

TNS-12685 リモートに必要な固有サービスが、ローカルにありません。

原因： リモート・サービスではネイティブ・サービスが要求されましたが、ネイティブ・サービスはローカルでは使用禁止になっています。

処置： ネイティブ・サービスをローカルで使用可能にするか、ネイティブ・サービスが要求されないように、リモート・ホスト上の構成パラメータを変更してください。

TNS-12686 サービスに指定されたコマンドが無効です。

原因： 存在しない操作がネイティブ・サービスに指定されました。これはプログラム・エラーであり、通常はユーザーに表示されません。

処置： オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TNS-12687 データベース・リンクに失敗しました：資格証明が期限切れになりました。

原因： 要求されたデータベース・リンクでユーザーの認証に使用された資格証明が期限切れになりました。

処置： 資格証明を新しくしてください。方法については、ご使用の Network Authentication Adapter のドキュメントを参照してください。

TNS-12688 ログインに失敗しました：SecurID サーバーが新規 PIN コードを拒否しました。

原因： Secur ID サーバーが PIN コードを拒否する原因には、次のようなものが考えられます。

- ユーザーに自分の PIN コードを構成する権限がない場合

-
- PIN コードが長すぎるか短すぎる場合
有効な PIN コードの構成は、4 文字から 8 文字までです。
 - PIN コードに英数字以外の文字が含まれている場合

処置: 操作をやり直して、上の要件を満たす PIN コードを使用しているかどうかを確認してください。問題が繰り返される場合は、接続の Oracle Server 側のトレースをオンにし、トレース・ファイルでエラーの原因を調べてください。

TNS-12689 サーバー認証が必要ですが、サポートされません。

原因: この接続でサーバー認証が必要になりましたが、接続の両側によってサポートされていません。

処置: 接続の両側に正しいバージョンの Secure Network Service があることを確認してください。また認証アダプタがサーバー認証をサポートすることを確認してください。

TNS-12690 サーバー認証に失敗しました。ログインは取り消されました。

原因: サーバー認証が必要になりましたが、サーバーの資格証明がクライアントによって無効になっていました。

処置: サーバーに有効な設定の資格証明があることを確認してください。この方法については、それぞれのドキュメントの認証アダプタを参照してください。

TNS-12696 暗号化オプションの両方がオンになっています。ログインできません。

原因: ASO 暗号化オプションおよび暗号化オプションがオンになっている保護プロトコル・アダプタが使用されました。

処置: 可能であれば、ASO 暗号化オプションまたはプロトコル・アダプタ暗号化オプションをオフにしてください。この方法については、『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。

TNS-12699 固有サービスの内部エラーです。

原因: ネイティブ・サービスで内部エラーが発生しました。

処置: トレースを使用可能にし、エラーの原因を調べてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Oracle Names Client メッセージ (NNC)

NNC-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNC-00001 最大数の接続が既にオープンされています。

原因：使用可能なすべてのネーム・サービス接続で要求を処理しています。

処置：ネーム・サーバーの実行中に問題が発生した場合、
NAMES.MAX_OPEN_CONNECTIONS の値を増やしてください。クライアント・プログラムで問題が発生した場合、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00002 ストリーム *string* のリスニングでエラーが発生しました。

原因：ネーム・サーバーが指定されたアドレスでリスニングすることを要求されましたが、失敗しました。アドレスが違っているか、インストールされていない SQL*Net プロトコル・アダプタを使用したためです。

処置：アドレスが正しいフォームで指定され、システムにインストールされているプロトコル・アダプタを使用していることを確認してください。

NNC-00003 ストリーム *string* のオープンでエラーが発生しました。

原因：ネーム・サーバーまたはクライアント・プログラムで他のサーバーへの接続をオープンしようとして失敗しました。サーバーが停止しているか、そのサーバーへのネットワーク経路が機能していないためと考えられます。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置：接続先サーバーが正しいアドレスを使用してリスニングしていることと、2つのエンド・ポイント間にネットワーク接続があることを確認してください。

NNC-00004 接続が無効です。

原因：ネーム・サーバーまたはクライアント・プログラムから他のサーバーへの接続にエラーがあります。サーバーが停止しているかそのサーバーへのネットワーク経路が機

能していないためと考えられます。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置: 接続先サーバーが正しいアドレス上で実行中およびリスニング中であり、2つのエンド・ポイント間にネットワーク接続があることを確認してください。

NNC-00005 ストリーム・サブシステムを初期化できません。

原因: ネーム・サービス・ストリーム・サブシステムが起動できません。TNS エラー・メッセージ・ファイルが見つからない可能性があります。

処置: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあるかを確認してください。

NNC-00050 メッセージ・フォーマット・エラーです。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースから不正なネーム・サーバーのメッセージが受信されました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00051 メッセージ内容エラーです。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースから不正なネーム・サーバーのメッセージが受信されました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00052 クライアントとサーバー・プロトコルのバージョンが非互換です。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースがプロトコルのバージョンに互換性がないネーム・サーバーのメッセージを受信しました。このエラーは、クライアントとサーバーが様々なバージョンのプロトコルで通信しようとしている場合に発生します。

処置: クライアントおよびサーバーの古いソフトウェアを互換性のある新しいソフトウェアにアップグレードしてください。

NNC-00053 メッセージの送受信中に ASN.1 エラーが発生しました。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバー・プログラム・インタフェースがメッセージを送るか受け取ろうとしましたが、ASN.1 エラーのために失敗しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00400 メモリーが足りません。

原因: プログラム・インタフェースのメモリーが足りません。

処置: メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

NNC-00401 プログラム・インタフェース初期化に失敗しました。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを初期化できません。おそらく TNS またはネーム・サーバーのエラー・メッセージのファイルが見つからないためであると考えられます。

処置: SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあるかを確認してください。

NNC-00402 プログラム・インタフェース初期化解除に失敗しました。

原因: 内部機能によるネーム・サーバーのプログラム・インタフェースの初期化解除中に内部エラーが発生しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00403 プログラム・インタフェースが初期化されていません。

原因: 内部機能がまだ初期化されていないネーム・サービスのプログラム・インタフェースを初期化解除しようとしてしました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00404 供給されたバッファ・サイズ *string* が最小値 *string* より小さいです。

原因: 呼出側からネーム・サーバー・プログラム・インタフェースに与えられたメモリー・バッファがインタフェースの要求より小さすぎます。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00405 ネットワーク障害が発生しました。

原因: クライアント・プログラムとネーム・サーバー間のネットワーク接続に障害が発生しました。サーバーが停止しているか、サーバーへのネットワーク経路が機能を停止しているためと考えられます。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置: ネーム・サーバー管理者に連絡し、接続先サーバーが、使用しているアドレス上で実行中およびリスニング中であり、2つのエンド・ポイント間にネットワーク接続があることを確認してください。

NNC-00406 名前 *string* がありません。

原因: 存在していないグローバル名に関連している情報を要求しました。

処置: 存在するグローバル名を使用し失敗した操作を再試行してください。

NNC-00407 名前要求の別名ループです。

原因: グローバル名に関連する情報を取り出そうとするとときにネーム・サービスが別名ループを発見しました。別名ループは、別名 X が、他の別名 Y を指すとき、その Y がデータを含むグローバル名を指さずに、X を指し返している場合に起こります。

処置: ネーム・サーバーの管理者に連絡し、別名ループを調査および修正してもらってください。

NNC-00408 名前 *string* はありますが必要なデータがありません。

原因: グローバル名に関連した情報を要求しました。名前は存在しますが、必要な情報のタイプが含まれていません。

処置: 必要な名前が含まれているタイプを使用して、失敗した操作を再試行してください。

NNC-00409 一時名前サービスは使用できません。

原因: クライアントの要求を処理できるネーム・サーバーがないか、ネーム・サーバーが一時的にクライアントの要求を処理できません。この状態は通常一時的なもので、プログラム・インタフェースがネーム・サーバー要求を発行したが必要なサーバーから適時に応答が返ってこなかった場合に発生します。このような遅れは、一時的にネットワークやネーム・サーバーの負荷が大きい場合に発生します。

処置: 操作を再試行してください。エラーが続く場合、クライアントおよび必要なネーム・サーバー間のネットワークが接続されていることを確認し、ネーム・サーバーが実行されていることを確認してネーム・サーバーの管理者に連絡してください。

NNC-00410 サーバー・アドレス・リストが無効です。

原因: SQLNET.ORA 内の NAMES.PREFERRED_SERVERS パラメータの形式が間違っています。

処置: アドレス・リストが正しい形式になっているかを確認してください。

NNC-00411 デフォルト・ゾーン名 *string* が無効です。

原因: SQLNET.ORA の NAMES.DEFAULT_DOMAIN パラメータが無効です。

処置: パラメータの値が有効なグローバル名であることを確認してください。グローバル名に使用できる文字については、ドキュメントを参照してください。

NNC-00412 名前: *string* が無効です。

原因: 無効なグローバル名がネーム・サーバー・プログラム・インタフェースに処理するように与えられました。

処置: 有効なドメイン名を与えてください。エラーの原因が内部機能による場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00413 一般障害が発生しました。

原因: 他の特定された状況には該当しないネーム・サーバー・プログラム・インタフェース・エラーが発生しました。このエラーの後に通常、より特定された低レベルの情報が表示されます。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00414 名前 - 値文字列 *string* が無効です。

原因: 無効な名前 - 値をバインディングする文字列値がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、文字列引数をバインディングする有効な名前 - 値で、失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00415 セクション識別子 *string* が無効です。 *string* から *string* の間に設定してください。

原因: 内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを呼び出しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00416 ユーザ・コールバック・ファンクションがエラー番号 *string* を返しました。

原因: 内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを呼び出しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00417 名前 *string* があります。

原因: 呼出し側がすでに存在する名前を新しいグローバル名として作成しようとしています。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、まだ存在していない名前で失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00418 子がいるので、名前 *string* を変更できません。

原因: 呼出し側でグローバル名の削除または名前の変更を試みましたが、ネーム・スペースでこの名前の下に子の名前があるので変更できません。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、リーフ・ノードの名前で失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00419 認可サーバーに到達できません。

原因: 操作を受け取ったサーバーが要求に指定された名前を所有せず、その名前を所有するサーバーの位置が確認できないため、ネーム・サーバー要求が処理できません。このエラーは通常一時的なもので、要求を受け取るサーバーと要求の最終的な接続先サーバー間の経路が切断されているか、または最終的な接続先が停止しているために発生します。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。エラーは通常一時的なものであるため、通常は失敗した操作を再試行することで解決します。エラーが繰り返される場合は、失敗した操作を処理できるネーム・サーバーが停止しているか、またはアクセスできない状態である可能性があります。ネーム・サーバーの管理者に連絡し、サイトのネーム・サーバーが実行中であり、正しく構成されていることを確認してください。

NNC-00420 操作できません。

原因: 操作を受け取ったサーバーがそれを処理することが許可されていないため、ネーム・サーバー要求が処理できません。問題が発生するのは、通常管理者がなんらかの理由で特定のサーバーで要求処理を使用禁止したためと考えられます。

処置: ネーム・サーバー管理者に連絡し、要求の処理ができなくなっている理由を調べてください。

NNC-00421 修正の指定 *string* が無効です。 *string* から *string* の間に設定してください。

原因: 内部機能が、無効な引数でネーム・サーバーのプログラム・インタフェースを呼び出しました。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00422 データ型名 *string* が無効です。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なデータ型名を渡しました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している時以外では、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な型の名前で、失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00423: データ項目構文コード *string* が無効です。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なデータ型コードを渡しました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な型の名前で、失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00424 アドレス *string* が無効です。

原因: ネーム・サーバーのプログラム・インタフェースへ無効なアドレス値を渡しました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効なアドレス引数で、失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00425: メタデータ違反です。

原因: 呼出し側が、ネーム・サーバー変更要求を発行しましたが、データ型メタデータ制約に違反するので、その要求は処理されません。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、データ型のメタデータ制約を違反しないで操作してください。典型的な制約違反の例には、新規データ項目をすでに別名情報を持つ名前に追加しようとする、または別名情報をすでにその他のデータを持つ名前に追加しようとする、データ項目を間違った構文を持つ他の項目で置換しようとするなどがあります。制御プログラム外でエラーが発生する場合、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00426 データ型が無効です。

原因: 呼出し側でデータ項目を作成しようとしたますが、そのデータ項目の型が存在しないので作成できません。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、現在のデータ型で、操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00427 サーバーがこのバージョンのプロトコルをサポートしていません。

原因: ネーム・サーバーまたはネーム・サーバーのプログラム・インタフェースがプロトコルのバージョンに互換性がないネーム・サーバーのメッセージを受信しました。このエラーは、クライアントとサーバーが様々なバージョンのプロトコルで通信しようとしている場合に発生します。

処置: クライアントおよびサーバーの古いソフトウェアを互換性のある新しいソフトウェアにアップグレードしてください。

NNC-00428 meta-data データ項目が無効です。

原因: 無効なメタデータ・データ項目がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効なメタデータ引数で、失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00429 8 進数文字列リテラル *string* が無効です。

原因: 無効な 8 進数文字列がネーム・サーバーのプログラム・インタフェースに渡されました。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、有効な 8 進数文字列引数で失敗した操作を再試行してください。別の方法として、トレースをオンにして失敗した操作を再実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00430 データベースにアクセスできません。

原因: データベースが異なるネーム・サーバー間の一貫性のために使用されるとき、なんらかの変更操作はキャッシュのみでなくデータベースもまた変更します。その時、そのデータベースが使用不可能であると、このエラーが発生します。

処置: ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除き、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用するときにエラーが発生する場合、データベースが使用可能なことを確認してから操作を再試行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNC-00431 NS のアドレスが現行のアドレスのいずれとも一致しません。

原因：ドメインを委任するとき、ネーム・サーバーのアドレスはクライアントによって渡されます。ネーム・サーバーがすでに存在する場合、対応付けられたアドレスがすでにあります。そのため、クライアントによって渡されたアドレスはすでにあるアドレスの 1 つと一致している必要があります。一致しない場合、エラーが発生します。

処置：ネーム・サーバーの制御プログラムを使用している場合を除いて、通常ユーザーには表示されません。制御プログラムを使用している時にエラーが発生する場合、ネーム・サーバーの既存のアドレスの 1 つを渡すか新しいネーム・サーバーにドメインを委任するかのどちらかにしてください。

NNL-00500 警告：string パラメータ値は無効です。string に設定します。

原因：指定されたパラメータ値が無効です。

処置：パラメータ値が正しい形式かを確認してください。ブール・パラメータ値に対する有効な値は TRUE、FALSE、YES、NO、ON および OFF です。

NNL-00501 警告：string パラメータ値は number から number の間で設定しなければなりません。number に設定します。

原因：指定したパラメータ値が無効または有効な範囲境界値を超えています。

処置：エラー・テキストで示されたパラメータ値が有効な最小値から最大値の間の数値であることを確認してください。

Oracle Names Server メッセージ (NNO)

NNO-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00050 構成データに重大なエラーがあります。サーバーが稼働しません。

原因：サーバーの構成データに問題があるため、サーバーが起動できません。

処置：ログ・ファイルにある、前回のエラー・メッセージに、シャットダウンの実際の要因が記述されています。この問題は、ネットワーク上に複数の管理リージョンがあり、委任ポイントが正確でない場合に頻繁に起こります。Oracle Names のドキュメントでリージョン委任に関する項を参照して、その指示に従ってください。

NNO-00051 ドメイン数 *number* が最大数 *number* を超えました。最初の *number* がロードされます。

原因：サーバーの構成に、そのサーバーでサポートできるドメイン数より多いドメインが含まれています。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00052 ドメイン記述リストが無効です。

原因：サーバーの構成に、無効なドメイン記述リストが含まれています。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00053 ドメイン *string* の記述が重複しています。

原因：サーバーの構成で、ドメイン記述リストの中に重複したドメインの記述がありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00054 ドメイン名 *string* が無効です。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な名前がありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00055 ドメインの最小合計 *string* が無効です。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な最小 TTL がありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00056 警告: ドメインの最小 TTL は *number* から *number* の間です。 *number* 秒に設定してください。

原因: サーバーの構成で、ドメイン記述に無効な最小 TTL がありました。このエラーは致命的ではありません。サーバーは、自動的に TTL をデフォルト値にセットします。この値は、通常の使用では標準的な値です。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00057 トポロジ・データのロードと検査を行っています。

原因: 正常なサーバーの起動で、ログ・ファイルに情報メッセージが書き込まれました。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00058 構成データベースからトポロジ・データをロードできません。

原因: 構成データベースからサーバーのトポロジ・データをロードしようとして、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

処置: データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00059 トポロジ・チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00060 チェックポイント・ファイル *string* からサーバー・トポロジをロードしています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して、最新のトポロジ・チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00061 ドメイン: *string* にデータをロードしています。

原因: サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00062 構成データベースからドメイン・データをロードできません。

原因: 構成データベースからサーバーのドメイン・データをロードしようとして、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

処置: データベースが稼働しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00063 ドメイン・チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00064 チェックポイント・ファイル *string* からドメイン・データをロードしています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して、最新のドメイン・チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00065 チェックポイント・ファイル *string* からキャッシュ・データをロードしています。

原因: サーバーが正常に起動されているときに、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00066 サーバーは、管理領域の再ロード・チェックを *number* 秒後に行ないます。

原因: この情報メッセージは、Net8 Assistant または Oracle Names 制御プログラムがサーバーに再ロード要求を送信するときにログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00067 サーバーの再ロード・チェックのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信された再ロード要求を停止するときにログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00068 警告: 管理領域の再ロード・チェックが失敗しました。次のチェックは *number* 秒後に行われます。

原因: この警告は、サーバーが構成データが変更されていないかどうかを調べるために構成データベースに接続しようとして失敗したときに、発行されます。サーバーは、再ロード・チェックを自動的に再発行し、連続 3 日間接続に失敗すると、再発行を停止します。

処置: データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。

NNO-00069 警告: 管理領域の再ロード・チェックの失敗が多すぎるため、チェックは使用不可になりました。

原因: この警告は、サーバーが連続して 3 日間構成データベースに接続できない場合に発行されます。サーバーは、再ロード・チェックを使用不可にします。再ロード・チェックは、Net8 Assistant または Oracle Names 制御プログラムで再び使用可能にすることができます。

処置: データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかも確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00070 管理領域が変更されています。ドメイン・データを再ロードしています。

原因: この情報メッセージは、サーバーの構成データが変更され、サーバーが新しい構成を構成データベースから再ロードしたときにログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00080 ドメイン *string* は、親が既に委任されているので、委任できません。

原因：内部委任エラーが発生しました。委任は、Net8 Assistant によって制御されます。Net8 Assistant は、正しい委任ルールを施行します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00081 ドメイン *string* にネーム・サーバーがありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Net8 Assistant は、Oracle Names サーバーを正しく構成するようになる必要があります。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00082 ドメイン *string* に自分の名前 *string* がネーム・サーバーとしてありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Net8 Assistant は、Oracle Names サーバーを正しく構成するようになる必要があります。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00083 ドメイン *string* サーバー *string* にアドレスがありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Net8 Assistant は、Oracle Names サーバーを正しく構成するようになる必要があります。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00084 ドメイン *string* は認証ドメイン・リストにありません。

原因：内部構成エラーが発生しました。Net8 Assistant は、Oracle Names サーバーを正しく構成するようになる必要があります。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00104 行 *string* 構文エラーです。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに構文エラーがありました。このメッセージは、サーバーの内部チェックポイント・ファイルが壊れている場合にも表示されます。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00105 行 *string*: 名前 *string* は無効です。データは無視されました。

原因：サーバーのドメイン・データに無効なグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00106 行 *string*:TTL *string* は無効です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効な TTL がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00107 行 *string*: 古いチェックポイント・データは無視されます。

原因: この情報メッセージは、サーバー起動時にサーバーのキャッシュ・チェックポイント・ファイルに古くなったキャッシュ・データが見つかった場合に表示されます。このメッセージは、通常のサーバー起動処理の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00108 行 *number*: *number* 秒の TTL はドメイン最小値 *number* より小さいです。最小値を使用します。

原因: サーバーのドメイン・データに無効な TTL 値がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00109 行 *string*: データ型名 *string* は無効です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なデータ型名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00110 行 *string*: データ型 *string* が不明です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに不明なデータ型名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00111 行 *string*: データ型 *string* の構文 *string* は *string* です。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なデータ型構文がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00112 行 *string*: データ型 *string* が重複しています。無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに重複したレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00113 行 *string*: 別名データが既に存在しています。他のデータはすべて無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに、同じグローバル名を持つ別名および別名以外のデータがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00114 行 *string*: 別のデータが存在します。別名データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに、同じグローバル名を持つ別名および別名以外のデータがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00115 行 *string*: 単一値のデータ型 *string* です。他のインスタンスは無視されました。

原因: 名前および型が同じレコードが複数見つかりましたが、この型は1つの名前には1つのレコードしか許可しません。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00116 行 *string*: データ型 *string* はここでは使用できません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データにデータ型が無効なレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00117 行 *string*: データ型がありません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データにデータ型がないレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00118 行 *string*: データ長 *string* が最長 *string* を超えています。データは無視されました。

原因: 内部制限を超えた長さのレコードが見つかりました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00119 行 *string*: サーバー名 *string* に対し権限がありません。データは無視されました。

原因: サーバーのドメイン・データに認証のないグローバル名がありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00120 行 *string*: トポロジ名 *string* はここでは、使用できません。

原因: サーバーのドメイン・データに無効なレコードがありました。問題のレコードはロードされませんが、サーバーはデータのロードを継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00150 警告: ヒント・リストが無効です。ヒントはロードされません。

原因: サーバーの構成に、無効なヒント記述リストが含まれています。サーバーは処理を継続しますが、ヒントはロードされません。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00151 警告: ドメイン *string* に対するヒントを無視します。サーバーは認証があります。

原因: サーバーの構成に、サーバーの管理リージョンのドメインに対するヒントが含まれています。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00152 警告: ヒント数 *number* が最大数 *number* を超えました。最初の *number* がロードされます。

原因: サーバーのヒント・リストにヒントが多すぎます。サーバーは、指定された最大数のヒントをロードし、残りのヒントは無視して処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00153 警告: ヒント・ドメイン *number* の名前 *string* が無効です。ヒント・ドメインは無視されます。

原因: サーバーの構成で、ヒント・ドメインに無効な名前がありました。ドメインは無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00154 警告: ヒント *number* のサーバー名 *string* が無効です。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、ヒントに無効なサーバー名がありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00155 警告: ヒント *number* にアドレスがありません。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、サーバーのアドレスがないヒントがありました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00156 警告: ヒント *number* のアドレス長 *number* が最大長 *number* を超えています。ヒントは無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレスの長さが内部制限を超えているヒントが見つかりました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00157 警告: ヒント *number* に無効なアドレスがあります。ヒントは無視されました。

原因: サーバーの構成で、アドレスが無効なヒントが見つかりました。ヒントは無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00158 警告: ヒント・ドメイン数 *number* が最大数 *number* を超えています。最初の *number* のみロード。

原因: サーバーのヒント・ドメイン・リストが長すぎます。サーバーは、指定された最大数のヒント・ドメインをロードし、残りのヒント・ドメインは無視して処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00159 警告: ヒント・ドメイン *number* 名前 *string* は重複しているので無視されます。

原因: サーバーのヒント・ドメイン・リストに重複したドメインが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00160 警告: ヒント・サーバー *string* は重複しているので無視されます。

原因: サーバーのヒント・サーバー・リストに重複したサーバーが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00250 管理領域の記述が無効です。

原因: サーバーの起動時に無効な管理リージョン記述が見つかりました。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理リージョン記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00251 管理領域パラメータ *string* がありません。

原因: サーバーの管理リージョン記述に必要なパラメータがありません。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理リージョン記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00252 管理領域パラメータ *string* の値 *string* が無効です。

原因: サーバーの管理リージョン記述に無効なパラメータがあります。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理リージョン記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00253 管理領域パラメータ *string* の長さ *string* が最大長 *string* を超えています。

原因: サーバーの管理リージョン記述に長さが内部制限を超えているパラメータがあります。このエラーが発生すると、サーバーの起動は中止されます。管理リージョン記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があ

ります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00254 警告: パラメータ *string* の値は *number* から *number* までです。 *number* 秒に設定します。

原因: サーバーの管理リージョン記述に無効な値を持つパラメータがあります。値は、多くのアプリケーションに適したデフォルト値に設定され、サーバーは処理を継続します。管理リージョン記述は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに格納されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.ADMIN_REGION パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00255 ROS を初期化できません。

原因: サーバーの起動時に ROS が初期化できませんでした。このエラーにより、サーバーは停止しました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00256 管理領域 *string* を使用します。

原因: これは、サーバーの起動時に表示される情報メッセージです。後で管理者が診断に使用できるように、管理リージョンの名前を表示します。このメッセージは、通常のサーバー起動処理の一部です。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00257 警告: 構成データベースからシリアル番号を取得できません。

原因: 構成データベースのシリアル番号を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。多くの場合、このエラーはサーバーの構成が NETADMIN プログラムからエクスポートされていないために発生します。また、このエラーは、サーバーが構成データベースにアクセスできない場合にも発生します。このエラーがサーバーの起動時に発生すると、サーバーはシャットダウンします。このエラーがサーバーの操作中（再ロード可能かどうか調べるために定期的にシリアル番号をチェックしているとき）に発生すると、サーバーは一時的な障害が起きたと判断して、しばらくしてから操作を繰り返します。連続 3 日間失敗すると、サーバーは別のエラーを記録し、シリアル番号のロード操作を停止します。

処置: まず、NETADMIN プログラムがこのネーム・サーバーのサーバー構成をエクスポートしているかどうかを確認してください。次に、データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。また Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるのかも確認してください。サーバーの起動時にエラーが発生した場合、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定すると、チェック

ポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動させることができます。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00258 構成データベースから構成をロードできません。

原因：構成データベースからサーバーの構成をロードしているときに、エラーが発生しました。詳しい情報がある場合には、このエラーの下に表示されます。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

処置：データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00259 構成表がインストールされていないか、アクセスできません。

原因：構成データベースが正しくインストールされていません。

処置：Net8 Assistant とそのデータベースが正しくインストールされているかどうかを確認してください。

NNO-00260 チェックポイント・ファイル *string* から構成データをロードしています。

原因：NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して、最新の構成チェックポイント・ファイルがサーバーにロードされると、この情報メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00261 構成チェックポイント・ファイル名を作成できません。

原因：サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00262 警告: チェックポイント・ファイル *string* に書き込めません。

原因：指定されたチェックポイント・ファイルに書き込むことができません。この問題は、ファイル・システムの保護設定が原因で発生します。このエラーは致命的ではありませんが、この場合、チェックポイント・データが作成されません。構成データベースが次のサーバー起動時に使用できない場合、チェックポイント・データがないと、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを使用して、サーバーを強制的に起動させることができません。

処置：サーバーに、エラー・メッセージに示されたファイルに対する書き込み権限があるかどうかを確認してください。

NNO-00263 構成データベースでエラーが発生しました。

原因: 構成データベースへのアクセス中に、エラーが発生しました。データベースが使用できない場合、またはデータベースとの SQL*Net 接続が切断されている場合にも、このエラーは発生します。

処置: データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00264 構成データベース問合せがデータを戻しませんでした。

原因: 構成データベースからデータをフェッチしようとしたましたが、データが見つかりませんでした。

処置: このエラーは、より具体的なエラーの次に示されます。問題の原因は、そのエラーを調べてください。

NNO-00265 警告: チェックポイント・ファイルからデータをロードできません。

原因: チェックポイント・データを使用してサーバーを起動しようとしたますが、チェックポイント・データが読み込めませんでした。エラー・スタック上のこの後のエラーに、問題についての詳しい説明があります。

処置: エラー・メッセージに示されたファイルが存在するかどうか、サーバーに、そのファイルに対する読取り権限があるかどうかを確認してください。

NNO-00266 構成データベースで文書 *string* が見つかりません。

原因: 構成データベースからサーバーの構成 ID を取得しようとして、エラーが発生しました。このエラーは、サーバーが構成データベースにアクセスできない場合に発生します。このエラーが発生すると、サーバーはシャットダウンします。

処置: データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle Names サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00267 警告: サーバー: *string* に対する構成データが構成データベースにありません。

原因: 構成データベースに正しく接続できましたが、このサーバー名に関連する構成情報が見つかりませんでした。名前は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに指定されています。多くの場合、このエラーはサーバーの構成が NETADMIN プログラムからエクスポートされていないために発生します。

処置: NETADMIN プログラムがこのネーム・サーバーのサーバー構成をエクスポートしているかどうかを確認してください。

NNO-00268 警告: 構成データベースは使用されておらず、代わりにチェックポイント・データが使用されています。

原因: NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定して構成データベースにアクセスせずに、チェックポイント・データを使用してサーバーを起動すると、この情報メッセージが表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00269 構成データベースのバージョンは *string* ですが、サーバーには最低、バージョン *string* が必要です。

原因: データベースのバージョンが正しくないため、サーバーは指定された構成データベースを使用できません。

処置: Net8 Assistant 提供のドキュメント変換ユーティリティを実行して、ネットワークを再度エクスポートしてください。変換ユーティリティは、古いドキュメントをネーム・サーバーが認識できるバージョンにアップグレードします。

NNO-00270 Oracle エラー *string*

原因: 構成データベースへのアクセス中に Oracle エラーが発生しました。データベースが使用できない場合、またはデータベースとの SQL*Net 接続が切断されている場合にも、このエラーは発生します。

処置: データベースが稼動しているかどうか、Net8 Assistant で指定されているデータベース名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle ネーム・サーバーとデータベースの間に SQL*Net 接続が可能であるかどうかを確認してください。チェックポイント・データを使用してサーバーを強制的に起動する場合には、NAMES.NO_REGION_DATABASE パラメータを TRUE に設定し、サーバーを起動してください。チェックポイント・データが使用できない場合には、サーバーはシャットダウンします。

NNO-00271 警告: names.ora 領域のバージョンが *string* ですが、ネットワーク定義のバージョンは *string* です。

原因: NAMES.ORA のリージョン記述がネットワーク定義と同期が取れていません。

処置: ネットワーク定義を使用してネーム・サーバーが実行できれば、処置は必要ありません。安全のため、ネットワーク定義と一貫性があるように NAMES.ORA を更新しておいてください。

NNO-00300 リスナー・アドレスが指定されていません。1 つ以上必要です。

原因: サーバーの構成でリスニング・アドレスが指定されていません。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00301 *number* 秒後にサーバーが停止します。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムから停止要求を受け取るときにログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00302 サーバーが停止しました。

原因：この情報メッセージは、サーバーが停止すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00303 サーバー *string* が起動しました。プロセス ID は: *number* です。

原因：この情報メッセージは、サーバーが正常に起動すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00304 リスナー・アドレス *string* の長さ *string* が最大長 *string* を超えています。

原因：サーバーのリスニング・アドレスの中に、長さが内部制限を超えているものがあります。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00305 トレース・レベルが *number* から *number* に変更されました。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してトレース・レベルを変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00306 サーバーの停止までのカウントダウンは異常終了しました。

原因：この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信された停止要求を停止するときにログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00307 サーバー名 *string* が無効です。

原因：サーバーの名前が無効です。名前は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに指定されています。

処置：NAMES.ORA の NAMES.SERVER_NAME パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者は、このファイルを編集できますが、これを行うとエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00308 *number* 秒後にサーバーが再起動します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムから再起動要求を受け取るときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00309 サーバーを再起動しています。

原因: この情報メッセージは、サーバーが再起動すると、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00310 サーバーの再起動までのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信された再起動要求を停止するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00311 リスナー・アドレスのリストが無効です。

原因: サーバーの構成に無効なリスニング・アドレスのリストがありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00312 リスナー・アドレス *string* が無効です。

原因: サーバーの構成に無効なリスニング・アドレスがありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00313 サーバーのパスワード長 *string* が最大長 *string* を超えています。

原因: サーバーのパスワードの長さが内部制限を超えています。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00314 トレース・レベルを *number* から *number* に変更中にエラーが発生しました。レベルは変更されません。

原因: Oracle Names 制御プログラムの要求に応答して、トレース・レベルを変更しようとしたときに、エラーが発生しました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00315 サーバーはアドレス *string* でリスナーを実行しています。

原因: この情報メッセージは、サーバーの起動中に、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00316 統計カウンタのリセットが使用不可です。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタのリセットを使用不可にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00317 統計カウンタのリセット間隔を *number* 秒に変更しました。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタのリセット間隔を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00318 次の統計カウンタのリセットを上書きします。 *number* 秒後にリセットします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタをリセットするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00320 サーバー名パラメータがありません。

原因: NAMES.SERVER_NAME パラメータが見つかりません。名前は、サーバーの NAMES.ORA 構成ファイルに指定されています。

処置: NAMES.ORA の NAMES.SERVER_NAME パラメータが正しいかどうかを確認してください。NAMES.ORA ファイルは、Net8 Assistant によって自動的に生成されます。管理者はこのファイルを編集できますが、その場合はエラーが発生する可能性があります。ファイルが変更されていない場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00321 統計カウンタのダンプが使用不可です。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計のダンプを使用不可にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00322 統計カウンタのダンプ間隔を *number* 秒に変更しました。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタのダンプ間隔を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00323 次の統計カウンタのダンプを上書きします。 *number* 秒後にダンプを実行します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタをダンプするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00326 サーバーの統計カウンタのダンプが続きます。

原因: この情報メッセージは、統計カウンタのダンプの開始時にログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージの後には一連のサーバーの統計が表示され、最後にダンプの終了を示す別の情報メッセージが表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00327 サーバーの統計カウンタのダンプが終了します。

原因: この情報メッセージは、統計カウンタのダンプの終了時にログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージの前には一連のサーバーの統計が表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00328 サーバーが統計カウンタを 0 にリセットします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して統計カウンタを 0 にリセットするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00329 *number* 秒でサーバーに config ファイルが保存されます。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して構成を構成ファイルに保存するときにログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00330 サーバーに config ファイル *string* が保存されました。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して構成を構成ファイルに保存するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00331 新規の値 *string*(: *string*) の config 保管表への保存時にエラーが発生しました。

原因: この情報メッセージは、セット処理が実行され、その変更の保存先である config 保管表に保存できない場合に、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00600 警告: フォワーダ数 *number* が最大数 *number* を超えています。最初の *number* をロードします。

原因: サーバーの構成で、デフォルトのフォワーダが多すぎます。サーバーは、指定された最大値のフォワーダをロードしますが、残りのフォワーダは無視して処理を続けます。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00601 警告: フォワーダはありません。DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードは無視されます。

原因: サーバーの構成でDEFAULT-FORWARDERS-ONLYモードが使用可能になっていましたが、デフォルトのフォワーダがありませんでした。サーバーは要求を無視し、処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00602 警告: フォワーダ *number* に無効なアドレスがあります。フォワーダは無視されます。

原因: デフォルト・フォワーダ・リストの中に、アドレスが無効なフォワーダがありました。フォワーダ定義は無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00603 すべての要求処理を可能にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求を処理可能にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00604 すべての要求処理を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求を処理禁止にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00605 変更要求を使用可能にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して変更要求を処理可能にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00606 変更要求を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して変更要求を処理禁止にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00607 サーバーはデフォルト・フォワーダのみに転送します。

原因: この情報メッセージは、サーバーの構成で DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードが使用可能なときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00608 受取ったメッセージが壊れています。

原因: サーバーが破損したメッセージを受け取りました。要求は無視されます。

処置: 一時的なネットワーク上の問題により、要求が破損しています。破損したメッセージを多く受取った場合には、トレースをオンにして、詳しい情報を入手してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00609 警告: フォワード *number* のアドレス長 *:number* が最大長 *:number* を超えています。フォワードは無視されます。

原因: サーバーの構成で、アドレスの長さが内部制限を超えているフォワードが見つかりました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00610 名前 *string* を含む別名でループが発生している可能性があります。

原因: サーバーは、指定された名前を含む別名ループを検出しました。ある別名 "X" が他の別名 "Y" を指していて、それがアドレスや他のネーム・サーバーのデータではなく、"X" を指していると、別名ループが発生します。このループには複数のホップが含まれている場合もありますが、基本的には同じです。管理者がネットワーク・データの入力を間違えたり、ある管理リージョンの別名が他の管理リージョンのデータを指している場合に、ループが発生します。

処置: Oracle Names 制御プログラムを使用して、指定された名前を問い合わせてください。制御プログラムは別名パスを記述するので、この情報を使用して、正しくない名前および間違ったデータのある管理リージョンを探してください。

NNO-00611 要求の転送を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求を転送禁止にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00612 要求の転送を使用可能にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して要求を転送可能にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00613 システム問合せの FORWARDING-DESIRED を使用不可にします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで FORWARDING-DESIRED 属性を使用禁止にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00614 システム問合せの FORWARDING-DESIRED を使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで FORWARDING-DESIRED 属性を使用可能にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00615 DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードを使用不可にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に
応答して DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードを使用禁止にするときに、ログ・ファ
イルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00616 DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードを使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に
応答して DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードを使用可能にするときに、ログ・ファ
イルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00617 システム問合せの AUTHORITY-REQUIRED を使用可能にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで AUTHORITY-REQUIRED
属性を使用可能にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、
Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00618 システム問合せの AUTHORITY-REQUIRED を使用不可にします。

原因：この情報メッセージは、サーバーが生成する問合せで AUTHORITY-REQUIRED
属性を使用禁止にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、
Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置：処置は必要ありません。

**NNO-00622 警告:名前:stringの自動リフレッシュの失敗が多すぎます。問合せは時間切れ
です。**

原因：自動リフレッシュ問合せが発行されて、連続して3日間エラーが戻されると、自
動リフレッシュ・キューから問合せが削除され、警告がログに書き込まれます。この問
合せは、Oracle Names 制御プログラムから再起動することができます。

処置：このメッセージの前に出された数値の警告が、失敗した問合せを示しています。
Oracle Names 制御プログラムを使用して、失敗した問合せを調べてください。問合せ
を要求されたサーバーが稼動しているかどうか、問合せを発行したサーバーと要求され
たサーバーの間でネットワーク接続が確立しているかどうかを確認してください。

NNO-00623 自動リフレッシュ再試行間隔を *number* 秒に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して自動リフレッシュの再試行間隔を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00624 自動リフレッシュ時間切れ期間を *number* 秒に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して自動リフレッシュの有効期間を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00625 名前 *string* タイプ *string* の自動リフレッシュを上書きします。 *number* 秒後にリフレッシュを実行します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが次の自動リフレッシュ問合せの発行時間を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。このメッセージは、Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00626 DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードを使用可能にできません。デフォルトのフォワーダがありません。

原因: Oracle Names 制御プログラムが、DEFAULT FORWARDERS-ONLY モードを使用可能にするために要求を発行しましたが、サーバーにデフォルトのフォワーダがないため、要求は無視されました。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00627 名前 *string* タイプ *string* の自動リフレッシュを取り消します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して自動リフレッシュ・キューから問合せを削除するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00628 問合せ当りの最大再転送を *number* に設定します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して再転送の最大数を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00629 警告: フォワーダ・リストが無効です。デフォルト・フォワーダがロードされていません。

原因: サーバーの構成に、無効なフォワーダ記述リストが含まれています。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00630 要求処理遅延を *number* 秒に設定します。

原因：この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答して人工的な要求処理の遅延を設定するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置：処置は必要ありません。

NNO-00631 警告: フォワーダ: *number* の名前: *string* が無効です。フォワーダは無視されます。

原因：サーバーの構成で、サーバー名が無効なフォワーダ記述がありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00632 警告: フォワーダ: *number* にアドレスがありません。フォワーダは無視されます。

原因：サーバーの構成で、アドレスのないフォワーダ記述がありました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00633 サーバー *string* を含む致命的委任ループが発生しています。

原因：要求の先送り中に、致命的な委任ループが検出されました。サーバーのトポロジ・データで要求自身への先送りが指定されていると、ループが発生します。このエラーが発生すると、サーバーはすぐにシャットダウンします。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00634 認証名 *string* を受け取りましたが、既に認証があります。

原因：サーバー "X" が別のサーバー "Y" から認証データを受取りましたが、サーバー "X" は、そのデータの認証をすでに持っていました。サーバー "X" が要求されたデータの認証を持っている場合には、要求を別のサーバーに先送りしないので、このような状況は発生しません。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：詳細は、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00635 警告: 重複したフォワーダ: *string* を無視します。

原因：サーバーのデフォルト・フォワーダ・リストに重複したサーバーが見つかりました。重複は無視され、サーバーは処理を継続します。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00700 警告: キャッシュをチェックポイントできません。 *number* 秒後に再試行します。

原因: 通常の定期的なキャッシュ・チェックポイントができません。キャッシュ・チェックポイント・ファイルに書き込めない可能性があります。サーバーの起動時に、キャッシュ・チェックポイント・ファイルの名前が情報メッセージとして示されます。

処置: キャッシュ・チェックポイント・ファイルに対する書込み権限がサーバーにあり、ファイルに書き込むのに十分なディスク容量があるかどうかを確認してください。

NNO-00701 警告: チェックポイント・ファイル名を作成できません。チェックポイントは使用不可です。

原因: サーバーは、システム依存のファイル名を作成できませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、サーバーを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00702 キャッシュ・チェックポイントは使用不可です。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュ・チェックポイントを使用不可にするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00703 チェックポイント間隔を *number* 秒に変更します。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュ・チェックポイント間隔を変更するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00705 警告: チェックポイント・ファイル: *string* をオープンできません。使用不可です。

原因: 指定されたチェックポイント・ファイルがオープンできないため、書き込めません。この問題は、ファイル・システムの保護設定が原因で発生します。このエラーは致命的ではありませんが、この場合、キャッシュはチェックポイントされません。

処置: エラー・メッセージに示されたファイルに対する書込み権限がサーバーにあるかどうかを確認してください。

NNO-00706 次のキャッシュ・チェックポイントを上書きします。 *number* 秒後にチェックします。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に応答してキャッシュをチェックポイントするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00707 サーバーのキャッシュは *number* 秒後にフラッシュされます。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に
応答してキャッシュをフラッシュするときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00708 キャッシュ・フラッシュのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信
されたキャッシュ・フラッシュ要求を停止するときに、ログ・ファイルに書き込まれま
す。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00709 キャッシュ・チェックポイント・ファイル *string* の削除が失敗しました。

原因: サーバーがキャッシュのフラッシュ（キャッシュ・チェックポイント・ファイル
の削除）を試みました。ファイルの削除に失敗しましたが、キャッシュ・フラッシュの
残りの処理が行われました。後続のエラーに、削除に失敗した理由が示されます。

処置: キャッシュ・フラッシュ操作の後にキャッシュ・チェックポイント操作（この操
作でファイルが再作成されます）を行わずに、再度キャッシュ・フラッシュを行うと、
このエラーが発生します。最初にキャッシュ・ファイルが削除されるので、次の操作で
削除しようとするとうエラーが発生します。このような場合、致命的なエラーではな
いので、メッセージを無視してもかまいません。ただし、サーバーにファイルの削除権限
がないためにエラーが発生している場合には、サーバーがファイルを削除できるように
ファイル・システムの権限を変更してください。

NNO-00710 サーバーのキャッシュは *number* 秒後にトレース・ファイルにダンプされます。

原因: この情報メッセージは、サーバーが Oracle Names 制御プログラムからの要求に
応答してトレース・ファイルにキャッシュをダンプするときに、ログ・ファイルに書き
込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00711 キャッシュ・ダンプのカウントダウンは異常終了しました。

原因: この情報メッセージは、Oracle Names 制御プログラムが事前にサーバーに送信
されたキャッシュ・ダンプ要求を停止するときに、ログ・ファイルに書き込まれます。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00712 警告: グループ *string* キャッシュ・ポイントチェックが失敗しました。

原因: 通常の定期的なキャッシュ・チェックポイントができません。キャッシュ・
チェックポイント・ファイルに書き込めない可能性があります。サーバーの起動時に、
キャッシュ・チェックポイント・ファイルの名前が情報メッセージとして示されます。

処置: キャッシュ・チェックポイント・ファイルに対する書き込み権限がサーバーに
あり、ファイルに書き込むのに十分なディスク容量があるかどうかを確認してください。

NNO-00800 エラー: 構成データベースからバージョンを読み込めません。

原因: リージョン・データベース・バージョンに対する問合せに失敗しました。データベースがシャットダウンされているか、または表が NAMES.ORA に指定したスキーマ内に存在しません。

処置: それに応じてアクセス問題を修正してください。

NNO-00801 エラー: OCI_SUCCESS_WITH_INFO

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に、OCI から診断情報が戻されました。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00802 エラー: OCI_NEED_DATA

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に、サーバーが十分な OCI インタフェースへのデータを戻しませんでした。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00803 エラー: OCI_INVALID_HANDLE

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に、サーバーが無効なハンドルで OCI をコールしました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00804 エラー: OCI_STILL_EXECUTE

原因: サーバーとデータベース間の OCI 操作が進行中です。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00805 エラー: OCI_CONTINUE

原因: このメッセージは通常表示されません。

処置: 処置は必要ありません。

NNO-00806 エラー: OCI_ERROR *string*

原因: リージョン・データベースへのアクセス中に OCI エラーが発生しました。詳細はログ・ファイルに書き込まれます。

処置: ログ・ファイル内の適切なエントリを見つけて、可能な場合は障害の原因を修正してください。もしそうでなければ、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNO-00807 エラー: OCI_NO_DATA

原因: このメッセージは通常表示されません。

処置: 処置は必要ありません。

Oracle Names 制御ユーティリティ・メッセージ (NNL)

NNL-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00001 要求引数 *string* は無効です。

原因：ユーザーが無効な要求コマンド引数を入力しました。

処置：有効な引数を指定してください。

NNL-00002 要求引数 *string* はこの操作で使用できません。

原因：ユーザーが特定の要求コマンドでは有効でない要求コマンド引数を指定しました。

処置：有効な引数を指定してください。

NNL-00003 メモリーが足りません。

原因：プログラムのメモリーが足りません。

処置：マシンの使用可能なメモリー量を確認し、この実行に十分なメモリーがあることを確実にしてください。必要であれば、実行するプログラム数を少なくしてメモリーを解放して、再試行してください。

NNL-00004 コマンド引数 *string* が無効です。

原因：ユーザーが無効なコマンド引数を入力しました。

処置：有効な引数を指定してください。

NNL-00005 サーバーが設定されていません。まず、"SET SERVER" コマンドを使用してサーバーを設定してください。

原因：デフォルト管理の Oracle Names Server を最初に設定する必要があるコマンドを発行しようとしてしました。

処置: SET SERVER コマンドを使用してデフォルト・サーバーを設定し、コマンドを再発行してください。あるいは、コマンドが許可すれば、特定のサーバー名で再発行してください。そうすれば制御プログラムがデフォルトを使用する必要はありません。

NNL-00006 タイムアウトが発生しました。サーバーが応答しません。

原因: 制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、適時に応答がありませんでした。制御プログラムとサーバー間のネットワーク接続が不正であるか、サーバーに非常に大きな負荷がかかっているか、または制御プログラムとサーバー間に重大なネットワークの遅延がある可能性があります。後者は特に WAN に当てはまります。

処置: コマンドを再発行してください。失敗し続ける場合、管理されているサーバーが正しく稼動しており、サーバーと制御プログラム間のネットワーク接続が正しく作動していることを調べてください。

NNL-00007 サーバーの応答でエラーが発生しました。

原因: 制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、サーバーがエラーで応答しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00008 サーバーが要求を認識しません。

原因: 制御プログラムは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、サーバーが要求を認識できませんでした。

処置: サーバーおよび制御プログラムが異なるバージョンの場合、交信できません。バージョンの互換性の制約は、ドキュメントを確認してください。サーバーが制御プログラムと互換性がある場合には、トレースをオンにして詳細を表示し、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00009 サーバー・パスワードの暗号化に失敗しました。

原因: 制御プログラムが SET PASSWORD コマンドまたは NAMESCTL.SERVER_PASSWORD 構成パラメータで指定されたサーバー・パスワードを暗号化しようとして失敗しました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00010 サーバー *string* のアドレス取得中にエラーが発生しました。

原因: 制御プログラムがサーバー名を対応するアドレスに変換しようとしたことが、失敗しました。このエラーの原因は多数考えられます。制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステムの 特定の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリを含む必要があります。ユーザーが SET

SERVER コマンドで管理するサーバーを変更した場合、新規サーバーが稼動している必要があり、アドレスを解決できるか、またはアドレスを解決できる別のサーバーに要求を転送できる必要があります。あるいは、有効なネーム・サーバー名を持つ TNSNAMES.ORA ファイルがシステム固有の正しい位置に存在する必要があります。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00011 *string* という名前のサーバーはありません。

原因: ユーザーが SET SERVER 要求を発行しましたが、現在、管理されている Oracle Names Server はその名前をアドレスに変換できませんでした。あるいは、ユーザーが制御プログラム要求を特定のサーバーに発行しましたが、サーバーの名前はアドレスに変換できませんでした。どちらの問題も通常サーバーのタイプミスによって発生します。

処置: 有効なサーバー名を指定して、要求を再発行してください。

NNL-00012 *string* は無効です (値 *string*)。

原因: 最初の引数はデータ型で、二番目は値です。ユーザーは指定された型に対して無効なデータ値を受け渡しました。

処置: 正しいデータを使用して、失敗した操作をやり直してください。

NNL-00013 実行されませんでした。入力されたパスワードに対する許可はありません。

原因: ユーザーは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、この要求で渡されたパスワードが正しくありませんでした。

処置: 制御プログラムによってサーバーに送られるパスワードがそのサーバーに対して正しいことを確認してください。SET PASSWORD 制御プログラムのコマンドで新しいパスワードを設定できます。

NNL-00014 データ型 *string* は不明です。

原因: 不明なデータ型を含むネーム・サーバー要求が発行されました。

処置: サーバーには型情報がないにもかかわらず、失敗した要求に反応してそれを自動的にフェッチした可能性があります。失敗した要求を再発行してください。その間サーバーが適切なデータ型情報をフェッチした場合、エラーは消滅します。エラーが持続する場合、データ型が無効である可能性があります。

NNL-00015 型 *string* に *string* 構文がありますが、テキスト表現がありません。

原因: すべてのデータ型構文がテキストとして表現されるわけではありません。このメッセージは、ユーザーが非テキスト表示の型にネーム・サーバー要求を発行したことを示しています。

処置: テキスト表現の構文を持つデータ型で操作を再発行してください。

NNL-00016 サーバーを起動できません。プログラムのディレクトリ名を取得中にエラーが発生しました。

原因：ユーザーが起動要求を発行しましたが、サーバー実行モジュールがあるディレクトリ名を検索できなかったため、制御プログラムはサーバーを起動できませんでした。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00017 サーバーを起動できません。プログラム *string* がありません。

原因：ユーザーが起動要求を発行しましたが、サーバー実行モジュールを検索できなかったため、制御プログラムはサーバーを起動できませんでした。

処置：システムの Oracle 実行モジュール・ディレクトリにサーバー実行モジュールが存在することを確認してください。

NNL-00018 警告：デフォルトのネーム・サーバーにコンタクトできません。

原因：起動中に、制御プログラムがそのデフォルト・ネーム・サーバーに交信できませんでした。このエラーの原因はいくつか考えられます。制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステム固有の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリを含む必要があります。優先サーバー・リストの最初のサーバーが移動しており、制御プログラムとそのサーバー間にネットワーク接続性がある必要があります。

処置：以上の条件を満たしていることを確認してください。それでも制御プログラムがそのデフォルト・サーバーに交信できない場合、トレースをオンにして制御プログラムを再起動してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00019 警告：サーバーが要求を変更したか、無視しました。

原因：ユーザーは Oracle Names Server に要求を発行しましたが、要求がなんらかの形で変更されました。通常は、ユーザーが無効な引数を指定したために、サーバーが要求を無視したか、または無効な引数を適切なデフォルトと置換した場合が考えられます。

処置：制御プログラムを使用して、変更する値の現在の状態を確認してください。サーバーのログ・ファイルが問題の確かな原因についての情報を含んでいる可能性もあります。操作を正しい引数で再発行してください。

NNL-00020 警告：TNSNAMES.ORA ファイルが存在せず、SQLNET.ORA には優先ネーム・サーバーが指定されていません。

原因：制御プログラムが TNSNAMES.ORA ファイルを検索できず、デフォルト・ネーム・サーバーを SQLNET.ORA で検索できませんでした。制御プログラムはこの状態でも操作しますが、デフォルト・サーバーを設定するまでは名前を解決できません。さらに、サーバーの設定には TNS アドレスを使用する必要があります。

処置：制御プログラムの SQLNET.ORA ファイルはシステム固有の正しい位置に存在し、制御プログラムで読み込み可能である必要があります。ファイルは有効なネーム・サーバー・アドレスを持つ NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリを含む必要があります。

ます。優先サーバー・リストの最初のサーバーが稼動しており、制御プログラムとそのサーバー間にネットワーク接続性がある必要があります。あるいは、有効なネーム・サーバー情報を持つ TNSNAMES.ORA ファイルがシステム固有の正しい位置に存在する必要があります。

NNL-00022 *string* から *string* へトレース・レベルを変更中にエラーが発生し、レベル変更は無視されました。

原因：制御プログラムのローカル・トレース・レベルを変更しようとしたが、レベルの変更中に、プログラムがエラーを表示しました。通常は、(トレース・レベルを OFF から別のものに変更して)トレースを初めてとるとき、そのトレース・ファイルが制御プログラムから書込み不可能になっている場合に問題となります。

処置：トレース・ファイルが書込み可能であることを調べてください。トレース・ファイル名は、ドキュメントを参照してください。

NNL-00023 SET コマンドに引数がありません。

原因：引数なしに SET コマンドを発行しようとした。

処置：有効な引数を SET コマンドに指定してください。

NNL-00024 警告: SQLNET.ORA に優先ネーム・サーバーがありません。

原因：制御プログラムが SQLNET.ORA で優先ネーム・サーバーを検索できず、そのためデフォルト・サーバーに接続できません。

処置：SQLNET.ORA ファイルに有効な NAMES.PREFERRED_SERVERS エントリがあることを確認してください。

NNL-00035 ファイル *string* またはネストされた IFILE が見つかりません。

原因：TNSFILE からのロードにエラーがあります。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00036 レコードがロードされませんでした。

原因：ロード可能なデータがありません。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00037 エラー *number* がパラメータ表の順序に発生しました。

原因：表から次の名前を取り出しているときに、NL パラメータ・システムからエラーが報告されました。これは、通常ユーザーには表示されない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNL-00038 識別名の構文エラーです。

原因：指定された識別名が正しくありません。

処置：有効な識別名を指定してください。

NNL-00039 RR がありません。

原因: オブジェクトには、LDAP オブジェクトにマップされた関連 RR がありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00040 識別名がバッファ長: *string* を超えています。

原因: ドメイン名から導出される識別名が長すぎます。

処置: オブジェクトを短い名前のドメインに移動するか、または LDAP オブジェクトを更新してください。

NNL-00041 オブジェクト *string* がドメイン *string* にありません。

原因: オブジェクトには、LDAP オブジェクトにマップされた関連 RR がありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00042 LDAP でバインドに失敗しました: *number, string*

原因: LDAP_BIND の呼出しに失敗して、表示されている番号の設定を戻しました。

処置: ユーザー名およびパスワードのパラメータ、または定義を修正してください。

NNL-00043 LDAP でオープンに失敗しました。

原因: LDAP サーバーにコンタクトできません。

処置: 接続情報を修正するか、またはサーバーを使用可能にしてください。

NNL-00044 サポートされないデータ型 *string* はマップされません。

原因: ONames データ型は、LDAP 属性にマップされません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センター・センターに連絡してください。

NNL-00045 LDAP サーバー用ホストが未指定です。

原因: LDAP のオープンで、ホストが未指定でコア・ダンプします。

処置: '-h' オプションを使用して、適切なホスト名を指定してください。

NNL-00046 名前 *string* は DN テンプレートの限界を超えています。

原因: DN テンプレートで指定された以上のドメインが、名前に指定されています。

処置: テンプレートにフィールドを追加するか、または別のダンプ操作で、サブドメインを移行してください。

NNL-00047 LDAP の変更でエラーが返されました: *number, string*

原因: LDAP が失敗し、コードを戻しました。

処置: エラーの意味については、LDAP ドキュメントを参照してください。

NNL-00048 ファイル・オープン・エラー: *string*

原因: LDAP のオープンで、ホストが未指定でコア・ダンプします。

処置: '-h' オプションを使用して、適切なホスト名を指定してください。

NNL-00049 *string* の出力は *string* に名前変更できません。

原因: 書き込み中にトレース・ファイルが作成できません。

処置: 指定されたファイルがコマンド実行前に作成できることを確認してください。またはテンポラリ・ファイル自体を使用してください。

NNL-00201 *string* で停止します。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00202 現在停止はスケジュールされていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00203 スケジュールされている停止が *string* で行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00204 停止は取り消されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00205 *string* で再ロード・チェックが行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00206 現在再ロード・チェックはスケジュールされていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00207 スケジュールされている再ロード・チェックが *string* で行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00208 再ロード・チェックが取り消されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00209 現在、キャッシュ・チェックポイント間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00210 現在、キャッシュ・チェックポイントは使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00211 現在、キャッシュ・チェックポイント間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00212 現在、キャッシュ・チェックポイントは使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00213 索引番号で指定されたエントリがありません。"SHOW SYSTEM_QUERIES"を試してください。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00214 指定された索引番号の次の自動リフレッシュは *string* 後に行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00215 スケジュールされている指定索引番号の次の自動リフレッシュは *string* 後に行なわれます。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00216 指定された索引番号の自動リフレッシュは使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00217 コントローラは *number* 秒スリープしています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00218 後続の余分なテキスト *string* は無視します。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00219 現在、統計カウンタのログ間隔は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00220 現在、統計カウンタのログは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00221 現在、統計カウンタのログ間隔は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00222 現在、統計カウンタのログは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00223 次の統計カウンタは *string* でログインされます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00224 スケジュールされている統計カウンタは *string* でログインされます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00225 現在、ネーム・サーバー *string* を管理しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00226 現在の要求処理遅延は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00227 現在、要求処理遅延は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00228 現在、要求処理遅延は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00229 現在、要求処理遅延は使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00230 現在、コントローラ NOCONFIRM モードは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00231 現在、コントローラ NOCONFIRM モードは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00232 現在、自動リフレッシュの失敗再試行間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00233 現在、自動リフレッシュの失敗再試行間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00234 現在、自動リフレッシュの失敗再試行期限切れ期間は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00235 現在、自動リフレッシュの失敗再試行期限切れ期間は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00236 現在、統計カウンタの再設定間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00237 現在、統計カウンタの再設定は使用不可です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00238 現在、統計カウンタの再設定間隔は *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00239 現在、統計カウンタの再設定は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00240 *string* を起動しています ...

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00241 現在、変更要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00242 現在、変更要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00243 現在、変更要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00244 現在、変更要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00245 現在、一般要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00246 現在、一般要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00247 現在、一般要求処理は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00248 現在、一般要求処理は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00249 現在、DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードは使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00250 現在、DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モードは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00251 現在、DEFAULT-FORWARDER-ONLY モードは使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00252 現在、DEFAULT-FORWARDER-ONLY モードは使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00253 現在、サーバー生成要求は転送を要求しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00254 現在、サーバー生成要求は転送を要求していません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00255 現在、サーバー生成要求は転送を要求しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00256 現在、サーバー生成要求は転送を要求していません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00257 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00258 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要ではありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00259 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00260 現在、サーバー生成要求には認証の回答が必要ではありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00261 現在、転送要求は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00262 現在、転送要求は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00263 現在、転送要求は使用可能です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00264 現在、転送要求は使用不可です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00266 往復時間は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00267 アドレスは *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00268 ネーム・サーバーのパスワードを入力：

原因：ユーザーが SET PASSWORD を発行した後の、パスワードを要求するプロンプトです。

処置：他人に見られないようにパスワードを入力してください。

NNL-00270 現在のデフォルト・ドメインは *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00271 現在のデフォルト・ドメインは *string* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00272 次のパスでキャッシュから名前 *string* は削除されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00273 サーバーは正常に起動されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00274 サーバーは起動されませんでした。エラーは次のとおりです。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00275 現在、トレース・レベルは *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00276 現在、トレース・レベルは *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00277 現在、要求が再転送される最大回数は *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00278 現在、要求が再転送される最大回数は *number* です。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00279 *string* で再起動が発生しました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00280 現在、再起動はスケジュールされていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00281 *string* でスケジュールされた再起動が発生しました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00282 再起動が取り消されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00283 *string* で次のキャッシュ・チェックポイントが発生します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00284 *string* でスケジュールされたキャッシュ・チェックポイントが発生します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00285 サーバーの待ち行列に入っているシステム問合せはありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00286 サーバーはどのドメインも所有していません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00287 *string* でキャッシュ・フラッシュが発生します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00288 現在、キャッシュ・フラッシュはスケジュールされていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00289 *string* でスケジュールされたキャッシュ・フラッシュが発生します。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00290 キャッシュ・フラッシュが取り消されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00291 *string* で統計カウンタが次に再設定されます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00292 スケジュールされた統計カウンタは *string* で再設定されます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00293 コントローラのトレース・レベルが変更されていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00294 エントリが見つかりません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00295 現在、コントローラのローカル・トレース・レベルは *number* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00296 コントローラのローカル・トレース・レベルは *number* から *number* に変更されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00297 *string* でキャッシュはトレース・ファイルにダンプされました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00298 現在スケジュールされているキャッシュ・ダンプはありません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00299 スケジュールされたサーバー・キャッシュ・ダンプが *string* で発生しました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00300 サーバー・キャッシュ・ダンプが取り消されました。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00301 サーバーが停止中です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00302 サーバーが再起動中です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00303 再ロードのためにサーバーがチェック中です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00304 サーバーはキャッシュをフラッシュしています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00305 サーバーは統計をログ・ファイルにダンプしています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00306 サーバーは統計カウンタをすべてゼロに設定しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00307 サーバーはキャッシュのチェックポイントを実行しています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00308 サーバーは統計をトレース・ファイルにダンプしています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00309 指定した索引番号の次の自動リフレッシュは直ちに実行されます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00340 トレース・ファイル名は現在は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00341 トレース・ファイル名は現在は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00342 ログファイル名は現在は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00343 ログファイル名は現在は *string* です。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00344 Save_config_on_stop は現在オンです。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00345 Save_config_on_stop は現在オフです。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00346 Save_config_on_stop は現在オンです。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00347 Save_config_on_stop は現在オフです。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00348 config ファイルは現在サーバーに保存されています。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00349 構成は *string* に保存されます。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00350 config ファイルの保存は現在スケジュールされていません。

原因：制御プログラムの一般メッセージです。

処置：処置は必要ありません。

NNL-00351 スケジュールされた構成は *string* で起こるように保存されています。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00352 config ファイルの保存が取り消されました。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00353 許可されていません。

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00400 応答の状況:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00401 認証応答: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00402 認証サーバー: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00403 応答数: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00404 TTL: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00405 フォワード情報:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00406 正規化された名前: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00407 別名変換:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00408 応答:

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00409 データ型は *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00410 平均応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00411 最小応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00412 要求数: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00413 合計応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00414 最大応答時間: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00415 名前: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00416 最終タイムスタンプ: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00417 識別名: *string*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00418 マップ済み属性: *number*

原因: 制御プログラムの一般メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00500 サーバーからのドメイン情報を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00501 set|show log_stats_interval [<seconds>] [<server_list>]: サーバーの統計カウンタのログ間隔を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00502 サーバーが統計カウンタを次にダンプする時間を表示、設定、取り消します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00503 repeat<number> <command> [<args>]: コマンドの <number> 回数を報告します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00505 log_stats [<server_list>]: Name Server 統計表示をログ・ファイルへ書き込みます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00506 reset_stats [<server_list>]: Name Server 統計表示をリセットします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00507 自動リフレッシュ問合せが次に実行する時間を表示、設定、取り消します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00508 show system_queries [<server_list>]: システム問合せ情報を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00509 `set|show cache_checkpoint_interval [<seconds>] [<server_list>]`: キャッシュ・チェックポイント間隔を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00510 既存の名前ヘデータ・レコードを追加します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00511 サーバーのシステム問合せ認可用件を表示または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00512 サーバーの自動リフレッシュ制限時間を表示または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00513 サーバーの自動リフレッシュ失敗の再試行間隔を表示または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00514 デフォルト TTL で新規に名前を作成します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00515 名前とそのデータを削除します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00516 サーバーのステータスをすべて表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00517 既存の名前のデータ項目を挿入 / 置換します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00518 サーバーが要求を再フォワードできる最大回数を表示、または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00519 変更要求の処理を表示、使用可能、使用不可にします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00520 既存の名前の TTL を変更します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00521 サーバーのシステム問合せのフォワード要件を表示、または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00522 値または型によって名前からデータ項目を削除します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00523 既存の名前を改名します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00524 データ項目を他のデータ項目に置き換えます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00525 サーバーのデフォルト・フォワード・ステータスを表示、または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00526 非標準実行ファイルとオプションの引数を使用してサーバーを起動します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00527 サーバーが次にキャッシュのチェックポイントを実行する時間を表示、設定、取り消します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00528 [set] password <password> : 後続のコールのためにパスワードを設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00529 set|show default_domain [<domain_name>]: 現行のデフォルト・ドメインを設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00530 quit|exit: 名前制御プログラムを終了します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00531 flush_name <name>: 権威サーバーへのルートに沿ってキャッシュから名前を削除します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00532 set|show forwarding_available [on|off] [<server_list>]: サーバー要求の転送を使用可能 / 禁止を表示するようにします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00533 ping [<server_list>]: 1 つ以上の Name Server を ping します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00534 query <name> [<type>]: 必要な名前と RR タイプを問い合わせます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00535 reload [<server_list>]: 変更がある場合にサーバー・キャッシュ・データを再ロードします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00536 set|show requests_enabled [on|off] [<server_list>]: サーバー要求の処理を使用可能 / 禁止を表示するようにします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00537 set|show server [<server_name>]: 現在管理されているサーバーを設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00538 stop|shutdown [<server_list>]: 1 つ以上の Name Server を停止します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00539 start|startup [<args>]: オプションの引数を使って Name Server を起動します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00540 [show] status [<server_list>]: サーバーのステータス・サマリーを表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00541 set|show trace_level [<level>] [<server_list>]: サーバーのトレース・レベルを設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00542 restart [<server_list>]: 1 つ以上の Name Server を再起動します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00543 [show] version [<server_list>]: 1 つ以上の Name Server の名前とバージョンを表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00544 操作統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00545 問合せ要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00546 削除要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00547 改名要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00548 更新要求統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00549 ストリーム使用統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00550 flush [<server_list>]: 1 つ以上のサーバーのキャッシュをフラッシュします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00551 キャッシュ統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00553 フォワード統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00555 メタ・データ統計を表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00556 set|show reset_stats_interval [<seconds>] [<server_list>]: サーバー統計カウンタのリセット間隔を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00557 コントローラを N 秒間スリープさせます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00558 **set|show namesctl_trace_level**: コントローラのトレース・レベルを設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00559 次にキャッシュをトレース・ファイルにダンプする時間を表示、設定、取り消します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00560 サーバーの要求処理の遅延を表示、または設定します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00561 **register <name> [-t<type>] [-d<address>] [-h<hostname>] [-l<listener_name>]**: Oracle Names でオブジェクトを登録します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00562 **unregister <name> [-d<address>] [-l<listener_name>]**: Oracle Names を使ってオブジェクトを登録解除します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00563 **timed_query [<timestamp>]**: Name Server のキャッシュ内のすべてのオブジェクトを問い合わせます。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00565 **set trace_file_name [<filename>] [<server_list>]**: サーバーのトレース・ファイル名を設定または表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00566 **set|show log_file_name [<filename>] [<server_list>]**: ログ・ファイル名またはサーバーを設定あるいは表示します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00567 **reorder_ns [<server_address>]**: 強化表示ファイルを生成します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00568 delegate_domain <domain_name> <NS_name> <NS_Addr>: 所定のドメインを所定のネームサーバーに委任します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00569 domain_hint <domain_name> <NS_name> <NS_Addr>: 所定のドメインにネームサーバーのヒントを提供します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00570 save_config [<server_list>]: サーバーの構成をパラメータ・ファイルに保存。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00571 set|show save_config_on_stop [<on>|<off>]

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00572 set|show save_config_interval [<seconds>] [<server_list>]: 次回の config 保存時間を設定。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00573 load_tnsnames [<ファイル>, ...]: tnsnames を ONames にロードします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00574 dump_tnsnames: ONames のアドレスを tnsnames ファイルにダンプします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00575 list_objects: ドメインまたはサブツリー内の全オブジェクトをリストします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00576 list_delegated: リージョンまたはサブツリー内の代表的なドメインをすべてリストします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00577 **list_domains**: リージョンまたはサブツリー内の認可されたドメインをリストします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00578 **dump_ldap**: リージョンまたはドメイン内のデータを LDAP にダンプします。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00579 **_scan**: 所定の型に一致するオブジェクトまたはレコードを検索します。

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00580 **register_ns**: *<name server> <address> <domain>*

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00581 **unregister_ns**: *<name server> <domain>*

原因: 制御プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00800 **受信した問合せ要求数**: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00801 **受信した問合せ数、ANY 型**: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00802 **受信した問合せ、ADDRESS 型**: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00803 **受信した問合せ、ALIAS 型**: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00804 **受信した問合せ、META-DATA 型**: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00805 受信した問合せ、NAME-SERVER 型 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00806 受信した問合せ、RELATED-INFO 型 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00807 受信した問合せ、SOA 型 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00808 受信した問合せ、すべてのユーザー定義型 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00809 受信した問合せ、複数の型 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00810 受信した問合せ、型なし : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00811 再高速問合せ処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00812 再低速問合せ処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00813 平均問合せ処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00814 問合せ処理合計時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00830 受信した削除要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00831 削除の拒否、名前がリーフ名でない : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00832 削除の拒否、名前がトポロジ名である : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00833 最高速削除処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00834 最低速削除処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00835 平均削除処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00836 削除処理合計時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00850 受信した改名要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00851 改名拒否、名前がリーフ名でない : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00852 改名拒否、名前がトポロジ名でない : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00853 改名拒否、新規名が既に存在する : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00854 最高速改名処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00855 最低速改名処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00856 平均改名処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00857 改名処理合計時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00870 受信した更新要求数 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00871 更新の拒否、名前がトポロジ名でない : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00872 更新の拒否、データがトポロジ・データでない : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00873 最高速更新処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00874 最低速更新処理時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00875 平均更新処理時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00876 更新処理合計時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00890 受信メッセージ数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00891 受信した壊れたメッセージ数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00892 受信した重複要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00893 受信した類似要求数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00894 要求の拒否、権限不足 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00895 要求の拒否、処理不能 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00896 要求の拒否、変更不能 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00897 送信したメッセージ数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00898 送信した応答数 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00899 送信した OK 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00900 送信した NO SUCH NAME 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00901 送信した CONTENT ERROR 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00902 送信した ALIAS LOOP 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00903 送信した SERVER FAILURE 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00904 送信した NAME EXISTS 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00905 送信した NOT AUTHORITY 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00906 送信した NOT A LEAF NAME 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00907 送信した NOT ALLOWED 応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00908 送信した UNKNOWN TYPE 応答 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00909 送信した META VIOLATION 応答 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00910 送信した VERSION SKEW 応答 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00911 無効なエラー・コードで送信された応答 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00912 別名ループの検出 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00913 送信したサーバー生成要求 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00914 サーバー問合せのフォワードが必要 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00915 サーバー問合せの許可が必要 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00916 使用可能な変更要求 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00917 遅延処理の人為的要求 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00918 サーバー再起動までの時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00919 サーバー停止までの時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00920 次回の config ファイル保存までの時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00930 要求の拒否、データ型不明 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00931 要求の拒否、キャッシュ・メタ・データなし : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00932 要求の拒否、型の構文が無効 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00933 要求の拒否、OTHER-DATA 違反 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00934 要求の拒否、ALIAS-EXISTS 違反 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00935 要求の拒否、SINGLE-VALUE 違反 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00936 要求の拒否、DATA-EXISTS 違反 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00950 キャッシュ・ルックアップ要求 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00951 ルックアップで作成された名前 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00952 キャッシュ・ルックアップ障害 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00953 キャッシュ・ルックアップ完全一致 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00954 ハッシュ表が作成された : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00955 ハッシュ表が拡張された : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00956 ハッシュ表が解放された : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00957 名前ノードが作成された : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00958 名前ノードが解放された : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00959 トレース・ファイルへのキャッシュ・ダンプまでの時間 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-00960 キャッシュ・フラッシュまでの時間: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00961 キャッシュ・チェックポイント: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00962 キャッシュ・チェックポイント障害: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00963 タイムアウト、名前 TTL 期限切れ: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00970 システム問合せ索引番号: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00971 問合せ ID: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00972 次に実行される問合せ: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00973 問合せ状態: *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00974 名前: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00975 希望データ型: *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00980 フォワード障害 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00981 タイムアウト、サーバー応答なし : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00982 フォワード失敗、サーバーが見つからない : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00983 名前からヒントへの変換 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00984 名前からヒントへの変換の失敗 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00985 参照を使用して再転送された要求数 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00986 再転送された期限切れ要求数 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00987 認証応答 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00988 非認証 NACK の受信 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00989 TTL なしで受信したオブジェクト数 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00990 DEFAULT-FORWARDERS-ONLY モード :*string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00991 1 要求あたりの再転送最大回数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00992 自動リフレッシュ失敗の再試行間隔 :*string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00993 自動リフレッシュ失敗の再試行期限 :*string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00994 受信した応答数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00995 受信した不一致応答数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00996 受信した OK 応答数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00997 受信した NO SUCH NAME 応答数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00998 受信した CONTENT ERROR 応答数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-00999 受信した ALIAS LOOP 応答数 :*number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01000 受信した SERVER FAILURE 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01001 受信した NAME EXISTS 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-1002 受信した NOT AUTHORITY 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01003 受信した NON LEAF 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-1004 受信した NOT ALLOWED 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01005 受信した UNKNOWN TYPE 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01006 受信した META VIOLATION 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01007 受信した VERSION SKEW 応答数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01008 Outbound メッセージ・コンテキスト割当て : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01009 Outbound メッセージ・コンテキスト解放 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01010 割当てられた転送コンテキスト数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01011 解放されたコンテキスト数 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01030 ドメイン索引番号 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01031 名前 : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01032 最小 TTL : *string*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01040 サーバーのデータ・ストリームのオープン : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01041 データ・ストリームのオープン失敗 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01042 サーバーのデータ・ストリームの応答 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01043 データ・ストリームの応答失敗 : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01044 データ・ストリーム読み込みエラー : *number*

原因 : 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置 : 処置は必要ありません。

NNL-01045 データ・ストリーム書込みエラー : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01050 バージョン・バナーは *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01051 サーバー名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01052 サーバー実行時間 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01053 使用可能な要求処理 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01054 使用可能な転送要求 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01055 要求の受信 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01056 要求のフォワード : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01057 キャッシュした外部データ項目 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01058 再ロードで次にチェックされる領域データ : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01059 領域データの再ロードチェック失敗 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01060 次にチェックポイントが実行されるキャッシュ : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01061 キャッシュ・チェックポイント間隔 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01062 キャッシュ・チェックポイント・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01063 次に再設定される統計カウンタ : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01064 統計カウンタの再設定間隔 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01065 次にログインされる統計カウンタ : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01066 統計カウンタのログイン間隔 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01067 トレース・レベル : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01068 トレース・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01069 ログ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01070 システム・パラメータ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01071 コマンド行パラメータ・ファイル名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01072 管理領域名 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01073 管理領域の記述 : *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01074 ApplTable 索引 : *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-1075 コンタクト *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01076 操作状態 *number*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

NNL-01077 停止時に構成を保存 *string*

原因: 制御プログラムの統計情報の記述です。

処置: 処置は必要ありません。

Oracle Names Server ネットワークの プレゼンテーション層メッセージ (NPL)

NPL-00000 正常に完了しました。

原因: 操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

NPL-00410 入力された ASN.1 値が大きすぎて (*string* 8 進) ローカルに格納できません。

原因: 構造が大きすぎるため ASN.1 プロトコル・エンジンは ASN.1 構造をホスト表現に変換することができません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00411 入力された ASN.1 NULL コード化でゼロでない長さ: *string* があります。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00412 入力された ASN.1 BOOLEAN コード化で長さ: *string* が無効です。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00413 入力された ASN.1 コード化の長さが *string* で、*string* が使用できる最大長です。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは処理するには大きすぎる不正な ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00414 入力された ASN.1 タイプ・タグが最大の 16383 を超えています。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは不正な ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00415 サポートされていない ASN.1 INDEFINITE-LENGTH コード化を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00416 無効な ASN.1 コード化長 *string* を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00417 最長 *string* より長い ASN.1 長 (8 進) を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00418 無効な形式の ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは破損した ASN.1 構造を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00419 副識別子が大きすぎる ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因: ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NPL-00420 副識別子が 256 より大きい ASN.1 オブジェクト識別子を受信しました。

原因：ASN.1 プロトコル・エンジンは実装がサポートされていないため処理できない ASN.1 コード化を受信しました。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

External Naming メッセージ (NNF)

NNF-00000 正常に完了しました。

原因: 操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00001 TNS アドレスではありません。

原因: アドレスの読み込み中に、ネーム・サービスがアドレスではないレコードを戻しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-00002 ファンクション・コールに渡された値が無効です。

原因: インタフェース・ファンクションに無効な値が渡されました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-00003 指定アダプタ *string* は存在していません。

原因: 要求されたネーム・サービス・アダプタは、現在のアダプタ表にありません。

処置: アダプタの綴りを確認してください。このプラットフォームでアダプタが実行可能かどうか、アダプタが、実行可能ファイルにリンクされたアダプタ表にコンパイルされているかどうかを調べてください。

NNF-00004 *string* ではこの操作はサポートされていません。

原因: 要求された操作は、このアダプタではサポートされていません。

処置: 読取り専用のネーム・サービスに対する書込みなど、実行された操作が制限されていないかどうかを確認してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-00005 機能がインプリメントされていません。

原因: この操作は、このインプリメンテーションではサポートされていません。

処置: このエラーが本リリースで発生している場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。そうでない場合には、リリース・ノートでこのリリースに制限がないかどうかを調べてください。

NNF-00100 メモリーの割当てに失敗しました。

NNF-00101 ディレクトリに接続できませんでした。

NNF-00102 初期化に失敗しました。

NNF-00103 初期化されていません。

NNF-00104 認可に失敗しました。

NNF-00105 操作がタイムアウトしました。

NNF-00106 登録が見つかりません。

NNF-00107 パッファが小さすぎます。

NNF-00108 許可されません。

NNF-00109 属性がありません。

NNF-00110 値がありません。

NNF-00501 現行の指定ネイティブ・アダプタを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00502 最後の問合せで取り出された情報を表示します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00503 内部パッファのサイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00504 名前サービス操作の制御フラグを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00505 次の変更操作に使用される現行データを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00506 TNSNAMES.ORA ファイルで見つかったアドレスを DCE CDS にロードします。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00507 名前とその属性をすべて削除します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00508 現行のデフォルト・ドメインを表示または削除します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00509 指定のファイルで見つかったアドレスを現行のアダプタにロードします。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00510 名前の内容を変更します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00511 名前に対応付けられているアドレスをディレクトリ・パスを介して取り出します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00512 現行のアダプタに従って未修飾の名前を修飾します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00513 現行のアダプタで名前を問い合わせます。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00514 プログラムを終了します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00515 現行のアダプタで名前を変更します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00516 次の変更操作に使用される置換データを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00517 名前が現行のアダプタで有効であることを検証します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00518 show_entry で使用される検索パスを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00519 エントリ（アドレス、プロファイルなど）のコンテンツを表示。8.1+NNFG API を対象。使用方法: show_entry< 名前 >< 型 >

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00520 エントリ更新。8.1+NNFG API.update_entry< 名前 ><c,a,r,d>[型]< 属性 >< 値 >

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00521 認証情報を表示または設定。使用方法: set authinfo< 型 >[パラメータ]

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00531 内部アドレス・バッファ・サイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00532 内部名前バッファ・サイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00533 内部 cname バッファ・サイズを表示または設定します。

原因: テスト・プログラムのヘルプ・テキストです。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-00540 名前 string の挿入が失敗しました。

原因: ネイティブ・サービスに名前が挿入できませんでした。

処置: 名前がネイティブ・ネーム・スペースにないかどうか、そのネーム・スペースに適切なアクセス権限が設定されているかどうかを調べてください。

NNF-01001 ds_initialize: ワークスペース初期化に失敗しました。

原因: DS_INITIALIZE() によって設定された DCE 作業領域が初期化できませんでした。

処置: このプラットフォームに DS_INITIALIZE() コールを正常に行うために必要な条件があるかどうか（たとえば、メモリーが十分かどうか）を調べてください。このプログラムを別の作業領域のユーザーが使用していないかどうかを確認してください。詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01002 DCE が構成ファイルをオープンできません。

原因: DCE 構成ファイルにアクセスできません。

処置: このプラットフォームに DCE 構成ファイルがあるかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。UNIX において、このファイルは DCE_CF.DB です。DCE_CF_GET_CELL_NAME() に対するコールが成功するかどうかを確認してください。

NNF-01003 DCE がセル名を検出できません。

原因: DCE 構成ファイル内にセル名がありません。

処置: このマシンに DCE セルが構成されているかどうかを確認してください。DCE 構成ファイルが壊れていないかどうか確認してください。UNIX において、このファイルは DCE_CF.DB です。DCE_CF_GET_CELL_NAME() に対するコールが成功するかどうかを確認してください。

NNF-01004 DCE が未定義のエラー *string* を戻しました。

原因: DCE コールが、この DCE コールで可能なステータス値のインプリメンテーション・リストにないステータスを戻しました。

処置: このプラットフォームの DCE リリースが、この Oracle アプリケーションでサポートされていないリリースかどうかを調べてください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01005 内部 XOM クラス違反です。

原因: DCE XOM が、DCE ドキュメントのクラス定義と矛盾するステータスを戻しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01006 属性 *string* は使用できません。

原因: DCE 属性に変換できない属性が挿入コールで使用されました。

処置: 別の属性を使用するか、変換を DCE に挿入してください。

NNF-01007 DCE LONG 文字列はサポートされていません。

原因: 問合せで XOM OM_S_LONG_STRING があるオブジェクトが戻されました。現在のインプリメントでは、このようなオブジェクトはサポートされません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01008 XDS 属性の構文 string は Oracle Names 構文 string に対して無効です。

原因: XDS オブジェクトに指定した構文が、OracleNames 構文と異なります。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-01009 未知の DCE クラスです。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01010 DCE 問題コード number が XDS クラス string と一致しません。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01011 DCE が OS エラーを報告しました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01012 DCE の全体セキュリティが失敗しました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01100 DS_C_COMMUNICATIONS_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01101: DS_C_LIBRARY_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01102 DS_C_NAME_ERROR (一致 *string*)

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01103 DS_C_SECURITY_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01104 DS_C_SERVICE_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01105 DS_C_SYSTEM_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01106 DS_C_UPDATE_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01107 DS_C_ATTRIBUTE_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01108 DS_C_ABANDON_FAILED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01109 DS_C_ATTRIBUTE_ERROR (オブジェクト名 *string*)

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01110 未知のクラスです。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01500 xds コールが正常に実行されました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01501 ADMIN_LIMIT_EXCEEDED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01502 AFFECTS_MULTIPLE_DSAS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01503 ALIAS_DEREFERENCING_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01504 ALIAS_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01505 ATTRIBUTE_OR_VALUE_EXISTS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01506 BAD_ARGUMENT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01507 BAD_CLASS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01508 BAD_CONTEXT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01509 BAD_NAME

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01510 BAD_SESSION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01511 BAD_WORKSPACE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01512 BUSY

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01513 CANNOT_ABANDON

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01514 CHAINING_REQUIRED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01515 COMMUNICATIONS_PROBLEM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01516 CONSTRAINT_VIOLATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01517 DIT_ERROR

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01518 ENTRY_EXISTS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01519 INAPPROP_AUTHENTICATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01520 INAPPROP_MATCHING

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01521 INSUFFICIENT_ACCESS_RIGHTS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01522 INVALID_ATTRIBUTE_SYNTAX

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01523 INVALID_ATTRIBUTE_VALUE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01524 INVALID_CREDENTIALS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01525 INVALID_REF

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01526 INVALID_SIGNATURE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01527 LOOP_DETECTED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01528 MISCELLANEOUS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01529 MISSING_TYPE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01530 MIXED_SYNCHRONOUS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01531 NAMING_VIOLATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01532 NO_INFO

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01533 NO_SUCH_ATTRIBUTE_OR_VALUE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01534 NO_SUCH_OBJECT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01535 NO_SUCH_OPERATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01536 NOT_ALLOWED_ON_NON_LEAF

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01537 NOT_ALLOWED_ON_RDN

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01538 NOT_SUPPORTED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01539 OBJECT_CLASS_MOD_PROHIB

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01540 OBJECT_CLASS_VIOLATION

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01541 OUT_OF_SCOPE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01542 PROTECTION_REQUIRED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01543 TIME_LIMIT_EXCEEDED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01544 TOO_LATE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01545 TOO_MANY_OPERATIONS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01546 TOO_MANY_SESSIONS

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01547 UNABLE_TO_PROCEED

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01548 UNAVAILABLE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01549 UNAVAILABLE_CRIT_EXT

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01550 UNDEFINED_ATTRIBUTE_TYPE

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01551 UNWILLING_TO_PERFORM

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01590 DS エラー・オブジェクトの操作中に XOM エラーが発生しました。

原因: 未知の XDS クラスが見つかったため、DCE XDS エラーが発生しました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、失敗した XDS/XOM ルーチンの詳細とエラー・コードが表示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01600 xom コールが正常に実行されました。

原因: 操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

NNF-01601 ENCODING_INVALID

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01602 FUNCTION_DECLINED

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01603 FUNCTION_INTERRUPTED

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01604 MEMORY_INSUFFICIENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01605 NETWORK_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01606 NO_SUCH_CLASS

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01607 NO_SUCH_EXCLUSION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01608 NO_SUCH_MODIFICATION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01609 NO_SUCH_OBJECT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01610 NO_SUCH_RULES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01611 NO_SUCH_SYNTAX

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01612 NO_SUCH_TYPE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01613 NO_SUCH_WORKSPACE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01614 NOT_AN_ENCODING

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01615 NOT_CONCRETE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01616 NOT_PRESENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01617 NOT_PRIVATE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01618 NOT_THE_SERVICES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01619 PERMANENT_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01620 POINTER_INVALID

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01621 SYSTEM_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01622 TEMPORARY_ERROR

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01623 TOO_MANY_VALUES

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01624 VALUES_NOT_ADJACENT

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01625 WRONG_VALUE_LENGTH

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01626 WRONG_VALUE_MAKEUP

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01627 WRONG_VALUE_NUMBER

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01628 WRONG_VALUE_POSITION

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01629 WRONG_VALUE_SYNTAX

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01630 WRONG_VALUE_TYPE

原因: DCE XDS/XOM ルーチンがエラーを見つけました。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。トレースをオンにすると、前述のエラー・コードで失敗した XDS/XOM ルーチンが示されます。この情報を使用して DCE ドキュメントでエラーを探してください。

NNF-01901 名前パラメータ *string* がありません。名前は解決されません。

原因: 指定された TNS 別名が CDS にありません。

処置: DCELOAD を使用して名前を挿入して、操作を再度実行してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02001 NIS クライアント・エラー文字列: *string*

原因: NIS (YP) ファンクションに対する呼出しが失敗しました。このメッセージには、戻された NIS エラー・コードのテキストが含まれます。

処置: これは、別のエラーの一部として戻される場合のみ表示されます。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02002 NIS 値がアダプター・スキーマ: *string* に従っていません。

原因: NIS アダプタに使用されるマップの値は、内部フォーマット規則の特定のセットに準拠する必要があります。戻された値は、これらの規則に準拠していませんでした。

処置: これは、ユーザー独自のマップを作成しようとしなければ表示されません。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-02003 未知の NIS エラー・コード: *string*

原因: NIS (YP) ファンクションから戻されたエラー・コードは、このプログラムが予期したリストにありません。

処置: このプラットフォームの YP ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーを連絡してください。

NNF-02004 NIS マップ *string* が存在しません。

原因：要求された属性が存在しません。

処置：属性が未使用の場合には処置は必要ありません。そうでなければ、属性を追加し、NIS (YP) マップを再ロードしてください。

NNF-02005 NIS キー *string* はマップ *string* 内に存在していません。

原因：要求された名前が見つかりません。

処置：名前が未使用の場合には処置は必要ありません。そうでなければ、名前を追加し、NIS (YP) マップを再ロードしてください。

NNF-03002 未知の BIND エラー・コード: *string*

原因：BIND (DNS) 問合せ応答のリターン・コードが、RFC 1035 にリストされている値に準拠していません。

処置：このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーを連絡してください。

NNF-03003 サーバーの応答を解析中に形式エラーが発生しました。

原因：BIND (DNS) API から戻された問合せ応答パケットが、RFC 1035 にリストされている形式に準拠していません。

処置：このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーを連絡してください。

NNF-03004 DNS クラスが一致しません。(*string*)

原因：問合せ応答パケットの戻したクラスが、インタフェースの予期したクラスと異なっています。

処置：このプラットフォームの BIND ファンクションで生成されたエラーかどうかを確認してください。オラクル社カスタマ・サポート・センターにエラーを連絡してください。

NNF-04000 ファイルは正常に変換されました。

原因：要求された変換が実行されました。

処置：通常の状態です。処置は必要ありません。

NNF-04001 入力ファイルの変換中にエラーが発生しました。

原因：変換プログラムで変換できない行が入力ファイルにあります。

処置：入力ファイルの構文が正しいかどうかを確認してください。

NNF-04002 出力ファイルがすでに存在しています。

原因：カレント・ディレクトリに古い出力ファイルが存在しています。

処置: 既存のファイルを削除して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04003 入力ファイル内のエントリが長すぎます。

原因: MAKEDBM プログラムでは、マップ・ファイルのエントリは、1017 文字までです。したがって、変換ツールは、1017 文字より長い TNS アドレスを処理できません。

処置: 問題のあるエントリの長さを短くしてください。

NNF-04004 入力ファイルに無効な文字列があります。

原因: 入力ファイルに無効な行があります。

処置: 入力ファイルの構文が正しいかどうかを確認してください。

NNF-04005 入力ファイルをオープンできません。

原因: 入力ファイルは見つかりませんでした。

処置: 正しい入力ファイルを使用して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04006 出力ファイルを作成できません。

原因: カレントの作業ディレクトリに出力ファイルが作成できません。

処置: カレント・ディレクトリの権限を変更して、変換ツールを再起動してください。

NNF-04007 入力ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

原因: 入力ファイルの読取り中に問題が発生しました。入力ファイルの途中で予期しない EOF が存在するとこのエラーが発生します。

処置: ファイルが壊れていないかどうか、入力ファイルの構文が正しいかどうか確認してください。

NNF-04008 出力ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: 出力ファイルの書き込み中にエラーが発生しました。

処置: 使用可能なディスク領域を確認してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NNF-04009 指定方法: tns2nis <ファイル名>

原因: 変換ツールが正しく起動されていません。ファイル名は TNSNAMES.ORA または NATIVE.ORA のいずれかでなければなりません。

処置: 正しいパラメータを指定して、変換ツールを再起動してください。

簡易ネットワーク管理プロトコル・メッセージ (NMP)

NMP-00000 正常に完了しました。

原因：操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置：処置は必要ありません。

NMP-00001 値が大きすぎます。

原因：SNMP プログラム・インタフェースが受け取った値が大きすぎて処理できません。このエラーは通常、問題の原因を記述する他のエラーとともに表示されます。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00002 SNMP 変数の名前が無効です。

原因：要求する変数名の 1 つまたは複数が存在していないため、SNMP 要求は処理されません。このエラーは通常ユーザーには表示されませんが、トレース・ファイルには記録されます。トレース・ファイルにおいてはソフト・エラーとして記録されますが、これは正常な状態です。

処置：このエラーは、管理サーバーがバージョンの非互換等から制御プログラムによって要求される操作をサポートしていないことを示します。詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが継続し、トレース・ファイル内のソフト・エラーとして発生しているのではない場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00003 SNMP 変数の値が無効です。

原因：SNMP プログラム・インタフェースはサポートされていないデータ型の変数値を受け取りました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP-TNS ゲートウェイを経由して Oracle サービスに要求を送信した場合、このエラーが発生して、サービスは要求を理解できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが持続し、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NMP-00004 SNMP 変数は読取り専用です。

原因: リモート・サーバー上の変数値を変更しようとしたが、その変数は読取り専用です。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。

処置: 読取り専用の変数は変更しないようにしてください。

NMP-00005 一般 SNMP エラーです。

原因: 他の特定された状況には該当しない SNMP のエラーが発生しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP-TNS ゲートウェイを経由して Oracle サービスに要求を送信した場合、このエラーが発生して、サービスは要求を理解できません。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが持続し、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NMP-00006 SNMP コンテキストが初期化されていません。

原因: 内部機能が初期化されていない SNMP ハンドルを使用しようとした。

処置: 詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NMP-00007 I/O 障害が発生しました。

原因: SNMP プログラム・インタフェースが SNMP 要求の送信または受信しようとしたが、ある種のネットワーク障害のため不可能でした。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。この問題は通常、制御プログラムがサービスと交信しようとして、サービスが予期せず終了したとき、または制御プログラムとサービス間のネットワークに問題が発生したときに発生します。

処置: 問題の管理プラットフォームが、正しいバージョン番号で SNMP 要求を送信しているか確認してください。エラーが持続し、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle サービスに送信するときに発生している場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NMP-00008 SNMP メッセージのバージョンが無効です。バージョン 0 が必要です。

原因: SNMP プログラム・インタフェースは不正なバージョン番号のプロトコル要求を受信しました。標準 SNMP ネットワーク・モニターが、SNMP-TNS ゲートウェイを経由して Oracle サービスに無効な形式の要求を送信した場合、エラーが発生します。

処置: 問題の管理プラットフォームが、正しいバージョン番号で SNMP 要求を送信しているか確認してください。エラーが持続し、Oracle 制御プログラムが要求を Oracle

サービスに送信するときに発生している場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NMP-00009 SNMP 初期化障害が発生しました。

原因：SNMP プログラム・インタフェースは、エラー・メッセージ・ファイルが存在しないか、またはパラメータ表に不正な形式の SNMP.COMMUNITIES パラメータ値が存在するときは初期化されません。

処置：SQL*Net が正しくインストールされ、すべてのメッセージ・ファイルが正しい位置にあるかどうかを確認してください。トレースをオンにしてパラメータ表のロードに失敗していないか確認してください。

NMP-00010 メモリーが足りません。

原因：プログラム・インタフェースのメモリーが足りません。

処置：メモリーを追加するか、または実行するプロセスを減らしてください。

NMP-00011 内部 SNMP プログラム・インタフェース・エラーです。

原因：SNMP プログラム・インタフェース内で内部エラーが発生しました。このエラーは通常、より詳細に問題を記述するエラーの下に表示されます。このメッセージは通常ユーザーには表示されません。

処置：詳細を調べるには、トレースをオンにして、失敗した操作をやり直してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

リモート操作メッセージ (NCR)

NCR-00001 NCR: メモリーを割り当てられませんでした。

原因: スワップ領域またはシステム・メモリーの量が不足しています。

処置: スワップ領域またはシステム・メモリーの量を増やしてください。

NCR-00002 NCR: 使用方法が無効です。

原因: ファンクションのパラメータが無効です。

処置: ファンクション・コールを確認してください。

NCR-00003 NCR: 初期化が失敗しました。

原因: スワップ領域またはシステム・メモリーの量が不足しています。

処置: スワップ領域またはシステム・メモリーの量を増やしてください。

NCR-01003 NCRS: 読み込みエラーです。

原因: 入力デバイスからのデータの読み込みに失敗しました。

処置: 詳細は、入力デバイス・ドライバのリターン・コードを参照してください。

NCR-01004 NCRS: 書き込みエラーです。

原因: 出力デバイスへのデータの書き込みに失敗しました。

処置: 詳細は、出力デバイス・ドライバのリターン・コードを参照してください。

NCR-01005 NCRS: 出力バッファをフラッシュできませんでした。

原因: 出力バッファ内のデータの出力デバイスへの書き込みに失敗しました。

処置: 詳細は、出力デバイス・ドライバのリターン・コードを参照してください。

NCR-01006 NCRS: データ・バッファのオーバーフローが発生しました。

原因: 指定されたデータ・バッファ外のデータを読み込もう、または書き込もうとしました。

処置: データ・バッファ・サイズを確認してください。

NCR-01007 NCRS: この操作は指定のモードではサポートされていません。

原因: 現在のモードではサポートされていない操作を実行しようとした。

処置: モードおよびサポートされている操作のリストのドキュメントを参照してください。

NCR-01008 NCRS: トランスポート・パラメータを取得できませんでした。

原因: トランスポート・レイヤーのパラメータを識別できませんでした。

処置: 詳細は、トランスポート・レイヤーのリターン・コードを参照してください。

NCR-01009 NCRS: レコード処理エラーです。

原因: 無効なレコードを見つけたか、最後のレコードを越えて読み込もうとしました。

処置: レコード処理方法の説明は、ドキュメントを参照してください。

NCR-01010 NCRS: ネットワーク・アドレスの長さが無効です。

原因: ネットワーク・アドレスのサイズが0（ゼロ）に設定されています。

処置: 有効なネットワーク・アドレスのサイズについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-01011 NCRS: メッセージの送信に失敗しました。

原因: ネットワーク・メッセージの送信に失敗しました。

処置: 詳細は、ネットワーク・インタフェースのリターン・コードを参照してください。

NCR-01012 NCRS: メッセージの受信に失敗しました。

原因: ネットワーク・メッセージの受信に失敗しました。

処置: 詳細は、ネットワーク・インタフェースのリターン・コードを参照してください。

NCR-01013 NCRS: 無効な接続タイプです。

原因: 接続タイプがストリームまたはメッセージ以外のものです。

処置: 接続タイプの説明は、ドキュメントを参照してください。

NCR-01018 NCRS: 暗号化が失敗しました。

原因: データの暗号化ができません。

処置: 詳細は、SNS ドキュメントを参照してください。

NCR-01019 NCRS: チェックサムが失敗しました。

原因: データにチェックサムの追加ができません。

処置: 詳細は、SNS ドキュメントを参照してください。

NCR-01020 NCRS: 操作はブロックします。

原因: トランスポート接続がブロック化されていないため、読み込みまたは書き込みをせずに I/O 操作が戻されました。正常に実行するには、ブロック化が必要です。

処置: このエラーは、ソフト・エラーです。操作を再試行してください。

NCR-02003 NCRF: フォーマット・インタプリタに渡されたタイプが無効です。

原因: フォーマット・インタプリタはデータを与えられましたが、それを認識しませんでした。

処置: タイプ・コールバック・ルーチンまたはタイプ・コンテキスト構造からインタプリタに戻されたタイプを確認してください。

NCR-02004 NCRF: フォーマット・インタプリタ・タイプ・コンテキストが無効です。

原因: フォーマット・インタプリタに無効なタイプ・コンテキストが与えられました。

処置: このエラーは通常、集計が適切に記述されなかったときに発生します。たとえば、コンテキスト内の NCRF_END_STRUCT_DATA_TYPE の宣言は、相補的な NCRF_STRUCT_DATA_TYPE がなければ無効です。

NCR-02005 NCRF: セッション・モードが無効です。

原因: データ・フォーマット・レイヤーが、GET、PUT または FREE 以外のセッション・モードを受信しました。

処置: 処置は必要ありません。

NCR-02006 NCRF: 無効な浮動小数点表現を受信しました。

原因: データ・フォーマット・レイヤーは浮動小数点表現を受信しましたが、それを認識しませんでした。

処置: エラーになった受信フォーマット記述子を確認してください。

NCR-02007 NCRF: 無効なフォーマット記述子を受信しました。

原因: データ・フォーマット・レイヤーが、形式が不正なフォーマット記述子を受信しました。後続のデータがフォーマットされませんでした。

処置: リモート・ホストから受信したデータの整合性を確認してください。

NCR-02008 NCRF: フォーマット・インタプリタでストリームの処理中にエラーが発生しました。

原因: インタプリタが NCRF_STREAM_DATA_TYPE を処理中にエラーが発生しました。

処置: データの整合性またはストリームの存在を確認してください。

NCR-02009 NCRF: トレース・ファイルをオープンできません。

原因: トレース・ファイルのオープンに失敗しました。

処置: 有効なファイル名であること、ユーザーが書き込みアクセス権を持っていることを確認してください。

NCR-03002 NCRO: コンテキストの最大数に達しました。

原因: すべてのコンテキスト・スロットが使用中であるため、コール・コンテキストもしくはサービス・コンテキストの作成に失敗しました。

処置: 必要のなくなったコンテキストを破棄して、コンテキスト・スロットを解放してください。または、コンテキスト・スロットを多く持つ NCRO を構築してください。

NCR-03003 NCRO: 予期されていないメッセージです。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージが予期しないタイプです。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03004 NCRO: 未定義のメッセージです。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージが未定義タイプです。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03005 NCRO: 孤立したメッセージです。

原因: サービス接続から読み込まれたメッセージは、すでに存在しないコール・コンテキストのためのものです。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03006 NCRO: 無効な操作です。

原因: コール・コンテキストでの操作が無効です。たとえば、IN 引数を持つことを定義されていないプロシージャに、IN 引数を送信しようとした場合このエラーが発生します。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03007 NCRO: コンテキストは使用中です。

原因: サービス / コール・コンテストが前の操作を実行中のため、試行した操作が失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-03008 NCRO: コールが拒否されました。

原因: サーバーがプロシージャ ID を拒否したため、リモート・プロシージャの実行に失敗しました。

処置: プロシージャ ID が間違ってる場合、正しいものを送信してください。接続したサーバーが間違っている場合、正しいサーバーに接続してください。

NCR-03009 NCRO: プロトコルのバージョンが一致しません。

原因: クライアント / サーバー NCRO レイヤーは互換性のないバージョン・レベルです。

処置: 最新の NCRO バージョンにアップグレードしてください。

NCR-03010 NCRO: 転送コールバック・エラーです。

原因: アプリケーション転送コールバック関数が "FAILED" の状態を戻しました。

処置: 転送コールバック関数をデバッグしてください。

NCR-03012 NCRO: セッション・モードが無効です。

原因: セッション・コンテキストが無効状態のため、試行した操作が失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03013 NCRO: サポートされていない操作です。

原因: リモート・アプリケーションの NCRO バージョン・レベルとは互換性がないため、試行した操作はこのサービス接続ではサポートされません。

処置: 最新の NCR ライブラリをリモート・アプリケーションにリンクしてください。

NCR-03014 NCRO: トランスポート・アドレスが正しくありません。

原因: トランスポート・アドレス記述子 (バインド・コンテキストに含まれている) が無効のため、サービス・コンテキストが作成できません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: トランスポート・アドレス記述子を正しく初期化してください。

NCR-03015 NCRO: トランスポート・アドレスがありません。

原因: トランスポート・アドレスが (バインド・コンテキスト内で) 提供されず、またトランスポート・プロトコルがデータグラムを使用しているため、サービス・コンテキストが作成できません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: トランスポート・アドレスを提供してください。

NCR-03016 NCRO: メッセージのアドレスが正しくありません。

原因: サービス接続から読み取られたメッセージが持つアドレス情報が正しくありません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03017 NCRO: トランスポート・タイプ RSLV はサポートされていません。

原因: トランスポート・タイプ RSLV のサポートは構築されていません。

処置: NCR ライブラリを NCR_USE_RSLV を定義して再コンパイルしてください。

NCR-03018 NCRO: RSLV 接続を確立できませんでした。

原因: RSLV 接続の確立が失敗しました。これは通常、名前の解決が失敗したか、解決した TNS アドレスが間違っているためです。

処置: 名前が TNSNAMES.ORA 内にあり、正しい TNS アドレスに設定されていることを確認してください。

NCR-03019 NCRO: スレッド・サポートを初期化できません。

原因: コア・スレッド・パッケージを初期化しようとしたが失敗しました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-03020 NCRO: コール・コンテキストが無効です。

原因: コール・コンテキストが無効です。

処置: コール・コンテキストが破棄されています。ブレークを受信した可能性があります。

NCR-03021 NCRO: インバンド・ラインをリセットしてください。

原因: Oracle パートナが、ブレークを受信後、インバンド・ラインのリセットを要求しています。

処置: インバンド・ラインをリセットしてください。

NCR-03022 NCRO: ブレークを送信できません。

原因: サイドバンド・チャネルを使用してブレークを送信しようとしたとき、エラーが発生しました。

処置: サイドバンド・ブレークのサポートについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-03023 NCRO: ブレークを受信できません。

原因: サイドバンド・チャネルを使用してブレークを受信しようとしたとき、エラーが発生しました。

処置: サイドバンド・ブレークのサポートについては、ドキュメントを参照してください。

NCR-03024 NCRO: 伝送タイプ LIST はサポートされていません。

原因: トランスポート・タイプ LIST のサポートは構築されていません。

処置: NCR ライブラリを NCR_USE_LIST を定義して再コンパイルしてください。

NCR-03025 NCRO: LIST 接続の確立に失敗しました。

原因: LIST 接続の確立に失敗しました。これは通常次のどれかを示します。

- アドレス・リスト構文エラー
- 指定されたアドレスへの接続の失敗

処置: アドレス・リスト構文を確認し、指定されたアドレスごとにリスナー・プロセスがあることを確認してください。

NCR-03026 NCRO: 結果バッファのオーバーフローが生じました。

原因: 保持しておく結果を格納する結果バッファが小さすぎます。

処置: 結果バッファを拡張して再実行してください。

NCR-03027 NCRO: リモート・サービス・セッションが設定されていません。

原因: Sender-makes-right には、リモート FID が必要です。

処置: Send Make の Right オプションを使用する前に、リモート・セッションを設定してください。

NCR-03028 NCRO: パートナが sender-makes-right の要求を拒否しました。

原因: カレント・サイドで Sender-makes-right が要求されましたが、サーバーに拒否されました。

処置: サーバー側を確認し、SMR が拒否された原因を調べてください。

NCR-04002 NCRR: インタフェース記述子が無効です。

原因: インタフェース記述子が無効であるため、インタフェースの登録が失敗しました。

処置: NCRRRI_REGISTER_INTERFACE コールに渡されたインタフェース記述子を確認してください。

NCR-04003 NCRR: インタフェースは存在します。

原因: インタフェースはすでに存在しているため、インタフェースの登録が失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: 新規インタフェースを登録して旧インタフェースを破棄するか、旧インタフェースの置換えを指示してください。

NCR-04004 NCRR: インタフェース・インスタンス・ハンドルが無効です。

原因: インスタンス・ハンドルが無効なため、サービス登録 API コールが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04005 NCRR: プロシージャ・ハンドルが無効です。

原因: プロシージャ・ハンドルが無効なため、プロシージャ / オブジェクト登録が失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04006 NCRR: 引数記述子が無効です。

原因: 引数記述子が無効なため、プロシージャ登録が失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04007 NCR: オブジェクト・ハンドルが無効です。

原因: オブジェクト・ハンドルが無効なため（たとえば、オブジェクト・ハンドルが存在しない）、サービス登録 API コールが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04008 NCR: プロシージャは存在します。

原因: このインタフェースにプロシージャがすでに存在するため、リモート・プロシージャの登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: 新規プロシージャを登録して旧プロシージャを破棄するか、旧プロシージャの置換えを指示してください。

NCR-04009 NCR: オブジェクトは存在します。

原因: インタフェースにオブジェクトがすでに存在するため、オブジェクトの登録に失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: 新規オブジェクトを登録して旧オブジェクトを破棄するか、旧オブジェクトの置換えを指示してください。

NCR-04010 NCR: Oracle Names Server と連絡が取れません。

原因: サービス・エクスポートもしくはサービス・インポートが Names Server との連絡に失敗しました。

処置: Oracle Names 構成が正しいことを確認してください。それでもうまくいかない場合、Names トレースをオンにして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NCR-04011 NCR: Oracle Names のエラー。

原因: Names Server との通信中に、サービス・エクスポートもしくはサービス・インポートが失敗しました。

処置: Names トレースをオンにして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NCR-04012 NCR: アドレス記述子が無効です。

原因: アドレス記述子が無効なため、NCRREL_EXPORT_INTERFACE コールが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04013 NCR: 認可が十分ではありません。

原因: 認証が十分でないため、Names Server 操作が失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04014 NCR: インスタンス名が無効です。

原因: インスタンス名が無効なため、サービス・エクスポートもしくはサービス・インポートが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04015 NCR: インタフェース名が無効です。

原因: インタフェース名が無効なため、サービス・エクスポートもしくはサービス・インポートが失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04016 NCR: 最後のインタフェース・インスタンス・ハンドルです。

原因: 渡されたインスタンス・ハンドルが、リストの最後のインスタンス・ハンドルです。これは、リストの終わりに達したことを示す情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

NCR-04017 NCR: インタフェース・インスタンス・ハンドルが見つかりません。

原因: インスタンス名に対応するインスタンス・ハンドルが見つかりませんでした。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04018 NCR: TNS アドレス・リストを作成できません。

原因: インタフェース・インスタンス・リストから TNS アドレス・リストを作成できません。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04019 NCR: インタフェースまたはインスタンス名はすでに存在しています。

原因: ネーム・サーバーに名前がすでに存在するため、サービス・エクスポートは失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04020 NCR: インタフェースまたはインスタンス名は存在しません。

原因: ネーム・サーバーに名前が存在しないため、サービスの削除または問合せは失敗しました。

処置: Names トレースをオンにして、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

NCR-04021 NCR: ピックラのエラー。

原因: ピックラのエラーのため、サービス・エクスポートまたは問合せに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NCR-04022 NCR: プロシージャ記述子が無効です。

原因: プロシージャ記述子が無効なため、プロシージャ登録が失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

NCR-04023 NCR: オブジェクト記述子が無効です。

原因: オブジェクト記述子が無効なため、オブジェクト登録が失敗しました。これはアプリケーションのエラーです。

処置: そのアプリケーションをデバッグして修正してください。

ネットワーク・セキュリティ・メッセージ (NZE)

NZE-28750 不明なエラーが発生しました。

原因: 不明なタイプの Oracle Security Server エラーが発生しました。このエラーは、通常はアプリケーションから参照できません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28751 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: システム・メモリーを使い果たしたため、メモリーの割当てに失敗しました。

処置: 他のプロセスを終了してメモリーを解放するか、またはシステムにメモリーを追加してください。

NZE-28752 データ・ソースの初期化に失敗しました。

原因: データ・ソースの初期化に失敗しました。

処置: エラーの正確な原因を判別するために、Net8 トレースを使用可能にしてください。このエラーは、多くの場合、システム・リソースが使い果たされていることが原因で発生します。

NZE-28753 データ・ソースの使用終了に失敗しました。

原因: データ・ソースの使用終了に失敗しました。

処置: エラーの正確な原因を判別するために、Net8 トレースを使用可能にしてください。このエラーは、メモリーまたはディスクの破壊が原因である可能性があります。

NZE-28754 オブジェクトの保管に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28755 オブジェクトの検索に失敗しました。

原因: ファイルまたはデータベースからの情報の検索に失敗しました。

処置: データ・ソースが存在することを確認してください。または、検索対象の情報が正しいことを確認してください。

NZE-28756 コールバックでメモリーの割当てに失敗しました。

原因: 呼出し元が提供した関数でメモリーの割当てに失敗しました。

処置: このエラーは、システム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

NZE-28757 0（ゼロ）バイトのメモリーを割り当てようとしてしました。

原因: これ以上メモリーがありません。

処置: このエラーは、システム・メモリーが使い果たされていることが原因である可能性があります。

NZE-28758 メモリーの解放に失敗しました。

原因: メモリー断片部分の解放に失敗しました。アプリケーションまたは Oracle Security Server ライブラリ内のメモリーが破壊されている可能性があります。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、操作が失敗した理由を判断してください。

NZE-28759 ファイルのオープンに失敗しました。

原因: 指定されたファイルのオープンに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、オープンできなかったファイルの名前とその理由を判断してください。

NZE-28760 リストの作成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28761 要素の作成に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28762 要素の追加に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28763 パラメータ・タイプが無効です。

原因: SQLNET.ORA 内のパラメータにエラーがある可能性があります。

処置: SQLNET.ORA ファイルでこのパラメータ値を確認してください。

NZE-28764 構成パラメータの検索に失敗しました。

原因: 構成パラメータの検索に失敗しました。

処置: 必要な構成パラメータを提供してください。

NZE-28765 データ・メソッド・リストが存在しません。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28766 データ・ソースの使用終了に失敗しました。

原因: データ・ソースの使用を終了しようとしたときにエラーが発生しました。システム・エラーの可能性があります。

処置: トレースを使用可能にし、厳密なエラーは何かを判断してください。

NZE-28767 バージョン番号が無効です。

原因: ファイルのバージョン番号が正しくありません。

NZE-28768 マジック番号が正しくありません。

原因: データ・ファイルに無効なマジック番号が指定されました。

処置: ディスクが破壊されているか、または他のプロセスがファイルを上書きした可能性があります。トレースを使用可能にし、厳密なエラーは何かを判断してください。

NZE-28769 指定されたメソッドが存在しません。

原因: 構成ファイルに指定されているデータ・アクセス・メソッドはサポートされていません。

処置: サポートされているメソッドを指定してください。サポートされているタイプは Oracle Security Server のドキュメントで調べてください。

NZE-28770 データ・ソースはすでに初期化されています。

原因: 呼出し元は、すでに初期化されているデータ・ソースを初期化しようとした。

処置: これはプログラミング・エラーです。アプリケーションは、データ・ソースを 2 回以上初期化してはなりません。

NZE-28771 データ・ソースはまだ初期化されていません。

原因: 呼出し元は、まだ初期化されていないデータ・ソースを使用しようとした。これはプログラミング・エラーです。アプリケーションは必ずデータ・ソースを初期化する必要があります。

処置: このエラーを修正してください。

NZE-28772 無効なファイル ID です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28773 マジック番号およびバージョン番号の書込みに失敗しました。

原因: マジック番号とバージョン番号の書込みに失敗しました。

処置: このエラーは、通常はディスク領域が使い果たされたために発生します。

NZE-28774 ディスクへのファイルの書込みに失敗しました。

原因: ファイルの出力に失敗しました。

処置: このエラーは、通常はディスク領域が使い果たされたために発生します。

NZE-28775 ファイルのクローズに失敗しました。

原因: データ・アクセス・メソッドで使用するファイルのクローズに失敗しました。

処置: このエラーは、通常はメモリーの破壊やシステム・エラーなどを示しています。トレースを使用可能にし、厳密なエラーは何かをトレース・ファイルで調べてください。

NZE-28776 供給された出力バッファが小さすぎます。

原因: 関数から戻されるデータが大きすぎるため、供給されているバッファに入りきりません。

処置: より大きなバッファを使用してルーチンを再度コールしてください。

NZE-28777 バインディングの作成に失敗しました。

原因: パラメータ値の解析で使用するバインディングの作成に失敗しました。このエラーは、たとえば必要な位置に右かっこがないなど、パラメータ値の形式に誤りがあること、またはシステム・メモリーが使い果たされていることが原因の可能性がありま

処置: パラメータが正しい形式で指定されていることを確認してください。形式が正しい場合は、プロセスを終了してシステム・メモリーを解放するか、メモリーを追加してください。

NZE-28778 指定されたパラメータの形式が正しくありません。

原因: 構成パラメータが正しい形式で指定されていません。

処置: このパラメータの正しい形式は、Oracle Security Server のドキュメントで調べてください。

NZE-28779 パラメータにデータ・アクセス・メソッドが指定されていません。

原因: パラメータ値にデータ・アクセス用のメソッドが指定されていませんでした。

処置: パラメータ・メソッドを指定してください。このデータ型でサポートされるデータ・アクセス・メソッドは、Oracle Security Server のドキュメントで調べてください。

NZE-28780 パラメータにより指定されたメソッドが無効です。

原因: パラメータ値で指定されたデータ・アクセス・メソッドはサポートされていません。

処置: データ・アクセス・メソッドを指定してください。このデータ型でサポートされるデータ・アクセス・メソッドは、Oracle Security Server のドキュメントで調べてください。

NZE-28781 パラメータにメソッド・データが指定されていません。

原因: 指定されたアクセス・メソッドで使用するパラメータにデータが指定されていません。

処置: アクセス・メソッド用に指定する必要があるデータは、Oracle Security Server のドキュメントで調べてください。

NZE-28782 データ・ソースが割り当てられていません。

原因: データ・ソースにメモリーが割り当てられていません。

処置: アプリケーションは、データ・ソースの初期化関数をコールする必要があります。

NZE-28783 無効なパラメータです。

原因: 構成ファイル内のパラメータ名と一致しません。

処置: SQLNET.ORA ファイル内のパラメータを確認してください。

NZE-28784 ファイル名の変換に失敗しました。

原因: Oracle 形式から固有形式へのファイル名の変換に失敗しました。

処置: 正しい名前を指定してください。正しいファイル名形式は、Oracle のドキュメントで調べてください。

NZE-28785 パラメータが存在しません。

原因: 構成パラメータがパラメータ・ファイルに存在しません。

処置: 必要なパラメータを提供してください。

NZE-28786 暗号化されたプライベート・キーの解読に失敗しました。

原因: 不正なパスワードが暗号解読に使用されました。

処置: 正しいパスワードを入力してください。

NZE-28787 プライベート・キーの暗号化に失敗しました。

原因: SQLNET.ORA 内の MKWALLET のパラメータにエラーがある可能性があります。

処置: SQLNET.ORA ファイルを確認してください。また、トレースをオンにして、MKTOKEN.TRC ファイルでその他のエラーを確認してください。

NZE-28788 ユーザーが無効な情報を入力したか、または不明なエラーが発生しました。

原因: プロンプトに対するユーザーの入力が正しくありません。または、不明なエラーです。

処置: 正しい入力を提供するか、またはトレースを使用可能にしてトレース・ファイルでエラーを確認してください。

NZE-28789 名前タイプが見つかりません。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28790 NLS 文字列のオープンに失敗しました。

原因: NLS サブシステムが使用する文字列のオープンに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28791 証明の照合に失敗しました。

原因: ユーザーが指定した認証の照合に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28792 PL/SQL の操作でエラーが発生しました。

原因: Oracle Security Server が実行しようとした PL/SQL 操作に失敗しました。これは内部エラーです。

処置: Net8 を使用可能にし、操作を再試行してください。オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28793 変数の結合に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28794 データ型の属性初期化に失敗しました。

原因: データ型の属性の初期化に失敗しました。

処置: トレースを使用可能にし、正確なエラーを調べてください。このエラーは、システム・リソースを使い果たしたことが原因の可能性があります。

NZE-28795 属性データ型の使用終了に失敗しました。

原因: 属性データ型サブシステムの使用終了に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28796 アクセス・メソッドがサポートされていません。

原因: データのアクセスに指定されたメソッドはサポートされていません。

処置: サポートされているアクセス・メソッドを使用してください。

NZE-28797 データ型が無効です。

原因: キーに指定された型はサポートされていません。

処置: キー型を修正してください。

NZE-28798 結合するサブキーの数がキーの数と一致しません。

原因: 結合するためにアプリケーションから渡されたキーの数が、キーの作成に使用される数と一致しません。これは内部プログラミング例外です。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28799 共有メモリーの割当てに失敗しました。

原因: 共有サーバーに関連する操作で使用する共有メモリーの割当てに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。このエラーは、Oracle Server で供給されているメモリー・ヒープが使い果たされたことが原因で発生する可能性があります。

NZE-28800 オープンに失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のオープンに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28801 無効なオブジェクト型です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28802 指定されたモードが無効です。

原因: 構成ファイルに指定されているモードまたはデータ・ソースが正しくありません。

処置: SQLNET.ORA ファイルでメソッド・パラメータを確認してください。あるいは、Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28803 入出力操作に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）へのアクセスに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28804 クローズに失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）のクローズに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28805 検索に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）からの情報の検索に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28806 保存に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）の書込みに失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28807 更新に失敗しました。

原因: データ・ソース（ファイルまたはデータベース）の更新に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28808 メソッド情報の検索に失敗しました。

原因: メソッド（ファイル / データベース）情報の検索に失敗しました。

処置: SQLNET.ORA ファイルでメソッド構成パラメータを確認してください。あるいは、Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28809 削除に失敗しました。

原因: データ・ソースからの情報の削除に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28810 作成に失敗しました。

原因: キー記述子の作成に失敗しました。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、厳密なエラーを判断してください。

NZE-28811 無効なアクセス記述子です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28812 レコード操作に失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28813 無効なレコード型です。

原因: これは内部エラーです。

処置: 処置は必要ありません。

NZE-28814 Oracle 形式から固有形式への数値変換に失敗しました。

原因: Oracle 形式で指定された数値を固有形式に変換できませんでした。これは内部プログラミング例外です。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、トレース・ファイルを提供してください。

NZE-28815 固有形式から Oracle 形式への数値変換に失敗しました。

原因: 固有形式で指定された数値を Oracle と移植性のある形式に変換することに失敗しました。これは内部プログラミング例外です。

処置: Net8 トレースを使用可能にし、問題を再現させてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、トレース・ファイルを提供してください。

NZE-28816 パスワードが渡されていません。

原因: 要求されたパスワードが PL/SQL ファンクションに渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28817 PL/SQL 関数からエラーが戻されました。

原因: PL/SQL ファンクションから予期しないエラーが戻されました。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28818 パッケージ・コンテキストが渡されていません。

原因: セキュリティ・パッケージの状態を保持するコンテキストが、それを必要としているファンクションまたはプロシージャに渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28819 識別名が渡されていません。

原因: ユーザーの識別名が PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに提供されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28820 状態が渡されていません。

原因: 署名または暗号解読 / 暗号化のどちらかの状態が PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28821 入力バッファが渡されていません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャが期待したバッファに渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28822 シードがありません。

原因: PL/SQL のシード初期化関数にシードが指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28823 バイト数が指定されていません。

原因: 発生する乱数のバイト数が PL/SQL 乱数発生ルーチンへ指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28824 暗号化 / 暗号解読 / 署名の状態が正しくありません。

原因: PL/SQL の暗号化、暗号読解、または署名のプロシージャまたは関数に無効な状態が渡されています。

処置: 正しい状態値を指定してください。

NZE-28825 暗号エンジン関数が指定されていません。

原因: 暗号エンジン関数が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28826 暗号エンジン関数が正しくありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに不正な暗号エンジン関数が渡されています。

処置: 正しいエンジン関数を指定してください。

NZE-28827 暗号タイプが正しくありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに不正な暗号タイプが渡されています。

処置: 正しい暗号タイプを指定してください。

NZE-28828 身元証明タイプが正しくありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに不正な身元証明タイプが渡されています。

処置: 正しい身元証明タイプを指定してください。

NZE-28829 暗号タイプが指定されていません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに暗号タイプが渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28830 身元証明タイプが指定されていません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに身元証明タイプが渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28831 データ単位フォーマットが渡されていません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャにデータ単位フォーマットが渡されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28832 データ単位フォーマットが正しくありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに不正なデータ単位フォーマットが渡されています。

処置: データ単位フォーマットを指定してください。

NZE-28833 十分な情報が提供されていません。

原因: PL/SQL ファンクションに十分な情報（通常パラメータ）が提供されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28834 バッファが小さすぎます。

原因: PL/SQL が Oracle Security Server Toolkit 関数に提供しているバッファが、戻されるデータには小さすぎます。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28835 身元証明記述子がないか、または小さすぎます。

原因: PL/SQL ファンクションまたは記述子に渡された身元証明記述子が提供されていないか、サイズが正しくありません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28836 Wallet がオープンしていません。

原因: 使用される Wallet がまだオープンしていません。

処置: Wallet をオープンする関数をコールしてください。

NZE-28837 Wallet 記述子がありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに Wallet 記述子が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28838 身元証明記述子がありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに身元証明記述子が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28839 Persona 記述子がありません。

原因: PL/SQL ファンクションまたはプロシージャに Persona 記述子が指定されていません。これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28840 Wallet はすでにオープンしています。

原因: すでにオープンしている Wallet をオープンしようとしてしました。これはプログラミング・エラーです。Wallet をオープンするのは一度のみです。

処置: このエラーを修正してください。

NZE-28841 この操作はサポートされていません。

原因: サポートされていない操作を実行しようとしてしました。これはプログラミング・エラーです。

処置: このエラーを修正してください。

NZE-28854 メモリーの割当てに失敗しました。

原因: システム・メモリーを使い果たしたため、メモリーの割当てに失敗しました。

処置: 他のプロセスを終了してメモリーを解放するか、またはシステムにメモリーを追加してください。

NZE-28855 サポートされない SSL 操作です。

原因: たとえば、不明な暗号の指定、またはバージョンの不正などのような、サポートされていない操作をしようとしてしました。

処置: 正しい値を指定してください。

NZE-28856 オーバーフロー・エラーが発生しました。

原因: SSL ハンドシェイク中に、バッファのオーバーフローが発生しました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28857 不明な SSL エラーです。

原因: 不明な SSL エラーが発生しました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28858 SSL プロトコル・エラーです。

原因: 2つのプロセス間の SSL ハンドシェイク中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28859 SSL で折衝に失敗しました。

原因: SSL プロトコルの一部として、2つのプロセス間での折衝中にエラーが発生しました。このエラーは、両プロセスの接続で共通の Cipher Suite がサポートされていない場合か、または両方の SSL バージョンが非互換である場合に発生します。

処置: 共通にサポートしている Cipher Suite および互換性のある SSL バージョンで、それぞれのプロセスを構成し、再接続してください。

NZE-28860 重大な SSL エラーです。

原因: SSL 接続中にエラーが発生しました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28861 SSL 接続が封鎖されます。

原因: これは情報メッセージです。このエラーがユーザーに報告されることはありません。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28862 SSL 接続に失敗しました。

原因: このエラーは、片側の接続が何らかの理由で失敗した場合に発生します。たとえば、プロセスが終了している可能性があります。

処置: 接続を再試行してください。

NZE-28863 SSL セッションが見つかりません。

原因: これは情報メッセージです。指定されたセッションが存在しないことを示しています。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28864 SSL 接続はクローズしました。

原因: これは情報メッセージです。エラーがなく接続が終了したことを示します。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28865 SSL 接続に失敗しました。

原因: 基礎となる移送のエラーまたは接続先のプロセスの予期しない終了のため SSL 接続が失敗しています。

処置: トレースを使用可能にし、再接続してください。トレースの出力では、障害が発生した原因が示されます。

NZE-28866 無効な証明のコード化です。

原因: 現在の証明には、認識できないフィールドがあります。

処置: 証明が正しいことを検証してください。正しい場合は、トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28867 整数の値が大きすぎます。

原因: 現在の証明には、値が大きすぎる整数フィールドがあります。

処置: 証明が正しいことを検証してください。正しい場合は、トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-28868 証明連鎖のチェックに失敗しました。

原因: リモート・プロセスによる証明連鎖のチェックが失敗しました。このエラーは、次のような問題によって発生することがあります。

1. 証明の 1 つが時間切れです。
2. 証明の認証局が、トラスト・ポイントで認識されませんでした。
3. 証明のシグネチャが検証できませんでした。

処置: 次のことを確認してください。

1. Wallet にインストールされているすべての証明が使用可能であること。
2. 必要な証明がすべて Wallet にロードされていること。
3. すべての証明に、有効なシグネチャがあること。

NZE-28869 証明が期限切れです。

原因: クライアントまたはサーバーの認証に使用された証明が期限切れです。

処置: 期限の切れていない証明を使用して、再接続してください。

NZE-28870 名前の比較に失敗しました。

原因: 2 つの証明に含まれる名前の比較に失敗しました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28871 証明連鎖が不完全です。

原因: 証明連鎖が不完全です。つまり、連鎖が自己署名のルート証明で終わっていません。

処置: ルートとして指定された証明が自己署名であることを確認してください。

NZE-28872 証明の形式が無効です。

原因: 他のプロセスによる証明は、X.509v3 標準に適合していません。

処置: 標準に適合した証明で、接続を再試行してください。

NZE-28873 パラメータが無効です。

原因: ファンクションに NULL パラメータが指定されました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28874 SSL: I/O クローズ - goodbye kiss をオーバーライドします。

原因: これは情報メッセージです。指定されたセッションが存在しないことを示しています。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28875 SSL: サーバー・ゲートの暗号セットを使用します。

原因: このエラーは内部ステータス標識として使用されており、実際のエラーではありません。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28876 Internet Explorer の SGC エラーです。

原因: Microsoft の Internet Explorer から送信された証明の処理でエラーが発生しました。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28879 プロトコル側の設定がありません。

原因: アプリケーションが SSL 接続のために資格証明をしようとしたましたが、プロセスがクライアントなのかサーバーなのかが事前に示されていません。

処置: このメッセージは通常ユーザーには表示されません。トレースを使用可能にし、再接続してください。エラーが繰り返される場合は、オラクル社カスタマ・サポートに連絡してください。

NZE-28884 無効な Cipher Suite です。

原因: アプリケーションが、Cipher Suite を文字列表現に変換しようとしたましたが、その値が認識されている Cipher Suite に対応していません。

処置: Cipher Suite に正しい値を指定してください。ただし、このエラーが Net8 SSL プロトコル・アダプタによって戻された場合（それはありえないことであるため）、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

NZE-29228 出力のバイト数を計算できませんでした。

原因: 暗号エンジンがアルゴリズムについて混乱しています。

処置: 暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29229 ヘッダーで検出されたマジック番号が期待値と一致しません。

原因: 入力 TDU が破壊されているか、または正しく使用されていません。

処置: TDU が最初から使用されていることを確認してください。可能なら、生成時の TDU のサイズと使用しようとしたサイズを比較してください。

NZE-29230 メッセージ・ヘッダーのヘッダー長が不十分です。

原因: 入力 TDU が破壊されているか、または正しく使用されていません。

処置: TDU が最初から使用されていることを確認してください。可能なら、生成時の TDU のサイズと使用しようとしたサイズを比較してください。

NZE-29231 暗号エンジンの初期化に失敗しました。

原因: 暗号エンジンの初期化中に、なんらかのエラーが発生しました。このエラーの原因には、メモリーの不足や、乱数発生ルーチンをシードしようとしたことなどがあります。

処置: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていること、およびスワップ領域が使い尽くされていないことを確認してください。

NZE-29232 暗号エンジン・キーの初期化に失敗しました。

原因: 暗号化用のキーの初期化中になんらかのエラーが発生しました。このエラーの原因には、メモリーの不足や、不正な引数の受渡しなどがあります。

処置: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていること、および暗号関数に正しいパラメータが使用されていることを確認してください。

NZE-29233 キー・オブジェクトをコード化できませんでした。

原因: キー・オブジェクトが破壊されているか、またはサポートされないタイプです。

処置: コード化ルーチンに渡されているキー・オブジェクトを確認してください。

NZE-29234 キー・オブジェクトがコード化されませんでした。

原因: コード化が破壊されているか、またはキー・オブジェクトではありません。

処置: 復号化ルーチンに渡されたコード化およびパラメータを確認してください。

NZE-29235 キー情報を取得できませんでした。

原因: キーが破壊されているか、またはサポートされない型です。

処置: 暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29236 ランダム・ナンバー・ジェネレータがシードを受け入れません。

原因: 暗号エンジンがメモリーを使い尽くした可能性があります。

処置: 実行可能ファイルが互換性のあるライブラリ・バージョンとリンクされていることを確認してください。

NZE-29237 暗号エンジンでアルゴリズムを終了できませんでした。

原因：暗号エンジンが、アルゴリズムの適用を正しく完了するために必要な情報を持っていません。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29238 暗号エンジンでアルゴリズムを適用できませんでした。

原因：暗号エンジンが、アルゴリズムを正しく適用するために必要な情報を持っていません。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29239 暗号エンジンでアルゴリズムを初期化できませんでした。

原因：暗号エンジンが、アルゴリズムを正しく初期化するために必要な情報を持っていません。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29240 暗号エンジンでアルゴリズムを認識できません。

原因：アプリケーションが間違ったパラメータを渡している可能性があります。

処置：暗号関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29241 バッファ・ブロックにさらに領域が必要ですが、長さが固定されています。

原因：アプリケーションは、その操作には短かすぎる出力バッファを事前割当てし、必要に応じてバッファを拡張しないことを指定しました。

処置：より大きなバッファを事前割当てするか、Toolkit が必要に応じて出力バッファを拡張できるようにしてください。

NZE-29242 非対称キーが短すぎてデータに使用できません。

原因：非対称キーは、暗号化に使用されるデータよりも少なくとも 11 バイト長くなければなりません。

処置：より長い非対称キーを使用するか、またはデータをより小さな断片に分割してください。

NZE-29243 使用しているキーのタイプが Toolkit に認識されません。

原因：アプリケーションが間違ったパラメータを渡している可能性があります。

処置：Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29245 使用している関数が Toolkit に認識されません。

原因：アプリケーションが間違ったパラメータを渡している可能性があります。

処置：Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29246 Toolkit で tdu を解析できませんでした。

原因：tdu が壊れている可能性があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29247 オープンする前に Toolkit オブジェクトが使用されました。

原因: 一部の Toolkit オブジェクトは、使用する前にオープンする必要があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29248 認識されない WRL がウォレットのオープンに使用されました。

原因: WRL は、特定の型セットを持ち、正しくフォーマットされている必要があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

NZE-29249 暗号関数に渡された状態が認識されません。

原因: アプリケーションが間違ったパラメータを渡している可能性があります。

処置: Toolkit 関数で使用されているパラメータを確認してください。

第 V 部

プリコンパイラ・メッセージ

第V部には、次の章があります。

- 第 34 章「SQL*Module メッセージ (MOD)」
- 第 35 章「オブジェクト型トランスレータ型 ファイル・メッセージ (O2F)」
- 第 36 章「オブジェクト型トランスレータ 初期化メッセージ (O2I)」
- 第 37 章「オブジェクト型トランスレータ 解析解除メッセージ (O2U)」
- 第 38 章「Pro*COBOL メッセージ (PCB)」
- 第 39 章「PCF FIPS メッセージ (PCF)」
- 第 40 章「Pro* メッセージ (PCC)」
- 第 41 章「プリプロセッサ (PCC)」
- 第 42 章「プリプロセッサ (PCC)」
- 第 43 章「パーサー・メッセージ (PCC)」
- 第 44 章「Pro*C/C++ メッセージ (PCC)」
- 第 45 章「コマンド行メッセージ (PCC)」
- 第 46 章「SQL ランタイム・メッセージ (SQL)」

これらの章では、Oracle プリコンパイラの実行時に発生する可能性のあるメッセージを列挙します。さらに Oracle ランタイム・ライブラリが SQLCA に戻す可能性のあるメッセージも列挙します。各エラーごとに、考えられる原因と正しい処置を記載します。Oracle プリコンパイラからは様々な警告メッセージおよびエラー・メッセージが発行されます。たとえば、次のようなメッセージ・コードおよびメッセージ文が表示されます。

PCC-U-00036: 入力ファイル名が指定されていません。

このエラー・コードは接頭辞、重大度コード、順序番号から構成されています。接頭辞 PCC は、このメッセージが Oracle プリコンパイラ バージョン 1、または Oracle Pro*C/C++ プリコンパイラ リリース 8.1 によって発行されたことを表します。接頭辞 PCB は、このメッセージが Oracle Pro*COBOL プリコンパイラ リリース 1.8 あるいは 8.1 によって発行されたことを表します。重大度コードは 4 種類あります。次の表にその意味が示されています。

コード	意味
W	警告 - エラーですが、コンパイル可能な出力ファイルを作成します。
S	重大なエラー - エラーを無視して出力ファイルを作成します。ただし、この出力ファイルはコンパイルできないことがあります。
F	致命的なエラー - 内部的な問題が起きたり、メモリーなどのリソースが使用できなかったり、不足しているため、出力ファイルは作成されません。
U	回復不能なエラー - 入力要件を満たしていないため、出力ファイルは作成されません。
I	情報のみ - エラーまたは警告は見つかりませんでした。情報メッセージは、FIPS フラグ付のみに使用されます。

SQL*Module メッセージ (MOD)

MOD-00001 ファイル *string* をオープンできません。

原因: SQL*Module は内部的に使用するテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。ディスク領域が不足しているか、ファイルが多すぎるか、または出力ディレクトリが読取り専用に保護されている可能性があります。

処置: 十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていること（システム管理者に問い合わせてください）、ディレクトリ保護がオープン・ファイルへの書き込みを許可していることを確認してください。

MOD-00002 列 *number*、行 *number*（ファイル *string*）に無効な構文があります。

原因: SQL 文に構文エラーが存在するか、またはこの文がモジュール・ファイル内で正しく終了していません。

処置: SQL 文の構文を修正してください。入力ファイルの最後でエラーが発生した場合は、最後の SQL 文が正しく終了していることを確認してください。

MOD-00003 列 *number*、行 *number*（ファイル *string*）に無効な SQL 識別子があります。

原因: SQL 識別子の記号が無効です。

処置: 文の構文および識別子の綴りを調べて、予約語を使用していないことを確認してください。必要に応じて、モジュール・ファイルの宣言文で識別子を定義してください。

MOD-00004 行 *number*（ファイル *string*）にサポートされないデータ型があります。

原因: モジュール・ファイルのプロシージャ定義で定義したホスト変数が、サポートしていないデータ型であるか、またはサポートしている範囲外のスケールまたは精度です。

処置: サポートされているデータ型を使用してホスト変数を再定義してください。数値変数のスケールおよび精度が受入れ可能な範囲内であることを確認してください。

MOD-00005 列 *number*、行 *number*（ファイル *string*）に無効な include file 名があります。

MOD-00006 列 *number*、行 *number* (ファイル *string*) に無効なホスト変数があります。

原因: SQL 文で使用するホスト変数が、プロシージャ定義で定義されていないか、またはサポートされていないデータ型です。

処置: サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数をモジュール・ファイルのプロシージャ定義で宣言してください。

MOD-00007 行 *number* (ファイル *string*) でカーソルをオープンできません。

原因: SQL 文の構文が不完全です。モジュール・コンパイラはホスト言語を想定しているのにそれ以外のものがあります。

処置: 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

MOD-00008 include file *string* をオープンできません (行 *number*、ファイル *string*)。

MOD-00009 入力ファイル *string* をオープンできません。

原因: SQL*Module が INAME オプションで指定した入力ファイルをオープンできません。このエラーの原因としては、次のことが考えられます。

- 指定したファイルが存在しない。
- ファイルは存在しますが、指定されたパス以外のディレクトリ内にある。
- ファイルを読み込むための権限またはアクセス権がない。

処置: ファイルの読み込みに必要な権限が与えられているかどうかを確認してください。名前およびディレクトリ階層が正しく指定されているかを確認してください。コンパイラを再実行してください。

MOD-00010 リスト・ファイル *string* をオープンできません。

原因: SQL*Module がリスト出力ファイルを作成できません。このエラーは通常、カレント・ディレクトリまたは LNAME オプション用に指定したディレクトリに対する書き込み権限がない場合に発生します。また、名前またはディレクトリ・パスが不適当であったり、パス上にディレクトリが存在しない場合にも発生します。

処置: 指定されているパスおよびファイルに権限があるかどうかを確認してください。LNAME オプションが使用されていない場合には、カレント・ディレクトリに対する権限も確認してください。

MOD-00011 出力ファイル *string* をオープンできません。

原因: SQL*Module が仕様ファイルや出力コード・ファイルのような出力ファイルを生成できません。このエラーは通常、カレント・ディレクトリか、ONAME または SNAME オプション用に指定されているディレクトリに対して、書き込み権限がない場合に発生します。また、名前またはディレクトリ・パスが無効不当であったり、パス上にディレクトリが存在しない場合にも発生します。

処置: 指定されているパスおよびファイルに書き込み権限があるかどうか確認してください。ONAME または SNAME オプションを使用していない場合は、カレント・ディレクトリに対する権限を確認してください。

MOD-00012 行 *number* (ファイル *string*) で文を解析できません。

原因: モジュール言語ファイル内に構文エラーがあります。次に SQL 文の例を示します。

```
SELECT ename INTO :name FROM emp WHERE ...
```

たとえば、この SQL 文がモジュール・プロシージャ内にある場合、このメッセージが表示されます。このメッセージは、意味的なエラーをトリガーするものではありません。詳細は、MOD-00075 を参照してください。

処置: 構文エラーを修正し、再コンパイルしてください。

MOD-00013 *string* のはずでしたが、*string* でした (行 *number*、ファイル *string*)。

原因: SQL 文の構文が誤っています。モジュール・コンパイラは予想外のトークンまたは不適切なトークンを見つけました。

処置: 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

MOD-00014 行 *number* (ファイル *string*) でバインド変数を取得できません。

原因: モジュール・コンパイラは、SQL 文内で使用している入力ホスト変数 (バインド変数) に関する情報を見つけられませんでした。

処置: 入力ホスト変数をモジュール・ファイルのプロシージャ定義で宣言し、SQL 文で正しく使用していることを確認してください。

MOD-00015 ORACLE エラー: *string*

原因: このメッセージは、バインド変数のモードに対して値が無効である、といった内部エラーによって発行されます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00016 領域不足 - *number* バイトを割当てられません。

原因: SQL*Module が SQL*Module の実行用に、または必要な処理の実行用に、十分なメモリーを割り当てられませんでした。

処置: あまり重要でないプロセスを削除して、SQL*Module を再実行してください。オペレーティング・システムによっては、プロセスが割り当てられるメモリー量に割当て制限がある場合があります。システム管理者に問い合わせてください。必要に応じて、マシンのメモリーを増やしてください。

MOD-00017 *string:string/string* で Oracle に接続できません。Oracle エラー番号: *number*

原因: 指定したデータベース接続またはユーザー名、パスワードが間違っていました。このメッセージは、コマンド行の指定の間違い、またはモジュール AUTHORIZATION 句内のユーザー名またはパスワード (あるいはその両方) の指定の間違いによって起こることがあります。

処置: このマニュアルの ORA メッセージの章でエラー番号を探して、障害に関する情報を参照してください。識別子を修正し、SQL*Module を再実行してください。

MOD-00018 Oracle から切断できません。

原因: Oracle が停止されたため、モジュールがログオフしようとしている間に Oracle の接続エラーが発生しました。

処置: Oracle が使用可能であることを確認してください。その後、再実行してください。

MOD-00019 標識変数 *string* の型または長さが正しくありません (行 *number*、ファイル *string*)。

原因: 標識変数をプロシージャ定義内で 2 バイトの整数として宣言していません。標識変数は 2 バイトの整数として定義しなければなりません。

処置: 標識変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

MOD-00020 オプション *string* は EXEC ORACLE OPTION として有効ではありません。

原因: プリコンパイラ・オプションを EXEC ORACLE 文内にインラインで指定しました。オプションの中にはコマンド行からしか指定できないものもあります。たとえば、INAME をインラインで指定できません。

処置: EXEC ORACLE 文ではなく、コマンド行にプリコンパイラ・オプションを再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで (オプションを指定しないで) プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

MOD-00021 オプション *string* はあいまいです。

原因: モジュール・コマンド行オプション名の使用があいまいです。

処置: 完全なオプション名または明確な略称を再指定してください。モジュール・オプションをオンラインで参照するには、オペレーティング・システムのプロンプトで (オプションを指定しないで) MODADA コマンドを入力してください。

MOD-00022 オペランド *string* は、オプション *string* に対して無効です。

原因: モジュール・オプションに対して指定された値が誤っています。その値はこのモジュール・オプションに対して不適切です。

処置: 適切なオプション値を再指定してください。

MOD-00023 オプション *string* は無効です。

原因: モジュール・コンパイラは無効なモジュール・オプション名を見つけました。次のような原因が考えられます。

- オプション名の綴りが誤っている。
- 指定したオプションが存在しない。
- オプション名と値の間の等号 (=) が欠落しているか、等号の前後に空白が入っている。

処置: オプションが存在するかどうか、オプション名の綴りが正しいかどうかを確認してください。モジュール・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティ

ング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）MODADA コマンドを入力してください。オプション名と値の間の等号があることを確認してください。

MOD-00024 オプション *string* に対するオペランドがありません。

原因：モジュール・オプションに値が指定されていません。または、値が欠落しているか、等号の前後に空白があります。

処置：各オプションに値が指定され、等号の前後に空白がないことを確認してください。

MOD-00025 アクセス・モジュールを作成できません。

原因：モジュールがモジュール・オプションで指定された出力ファイルをオープンできませんでした。

処置：ファイルに対する検索パスが正しいかどうかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

MOD-00026 ホスト言語が指定されていません。

原因：ホスト言語名がモジュール・ファイルの LANGUAGE 句に指定されていません。

処置：LANGUAGE 句に Ada（大文字および小文字の区別はありません）を指定してください。

MOD-00027 入力ファイル名が指定されていません。

原因：STORE_PACKAGE=YES オプションが入力されましたが、INAME オプションを使用した入力ファイルが指定されませんでした。

処置：コマンド行で INAME を使用してください。

MOD-00028 この SQL 文で配列ホスト変数は無効です。

原因：SQL 文で使用するホスト変数が、プロシージャ定義で宣言されていないか、またはサポートされていないデータ型です。

処置：サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数をプロシージャ定義内で宣言してください。

MOD-00029 VARCHAR *string* (*number*) は 65533 を超えています（行 *number*/ ファイル *string*）。

原因：VARCHAR ホスト変数に宣言したサイズが、モジュールの制限である 65533 バイトを超えています。

処置：それぞれの VARCHAR 変数のサイズが 65533 バイトを超えていないか、宣言を調べてください。

MOD-00030 CURSOR と STATEMENT の両方に AT 句があります (行 *number*、ファイル *string*)。

原因: 2 つの AT 句が同じ SQL 文に属していて、一方は DECLARE STATEMENT 文にあり、もう一方は DECLARE CURSOR 文にあります。AT 句は DECLARE STATEMENT、または DECLARE CURSOR のいずれかに指定できますが、この両方には指定できません。

処置: いずれかの文から AT 句を削除してください。

MOD-00031 行 *number*、列 *number* でエラーが発生しました。PLS-*number: string*

原因: SQL 文または PL/SQL ブロックで、モジュールがエラーを検出しました。

処置: 表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または PL/SQL ブロックを修正してください。

MOD-00032 構文が無効です。PL/SQL を実行できません。(行 *number*、ファイル *string*)。

原因: モジュールが SQL 文を想定しているときに、PL/SQL ブロックを見つけました。

処置: PL/SQL ブロックを、SQL 構文を使用した文に置き換えてください。

MOD-00033 IRECLEN の値を超過しました (行 *number* ファイル *string*)。

原因: 入力ファイルの読み込み中に、モジュールが IRECLEN よりも長い行を検出しました。

処置: この入力行を短くするか、またはコマンド行でより長い IRECLEN を指定します。

MOD-00034 *string* を実行するには認可が不十分です。

原因: MODADA コンパイラを実行する認証またはライセンスの期限が切れました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00035 *string* への認可が期限切れになります。

原因: MODADA プリコンパイラを実行する認証またはライセンスが期限切れになります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00036 内部プログラミング例外が発生しました。

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00037 SQL 文または PL/SQL ブロックの終わりが見つかりません。

原因: SQL 文または PL/SQL ブロックの最後にモジュールが想定していた文終了記号以外のものがありました。このエラーは、モジュール・ファイルにタブが埋め込まれている場合に発生する可能性があります。

処置: ソース・コードにタブが埋め込まれている場合には、タブを空白で置き換えてください。また、文の構文を確認し、SQL 文に終了記号があることを確認してください。

MOD-00038 出力言語が Ada の場合は、モジュール名が必要です。

原因: モジュール・ソース・ファイルに MODULE 句が指定されなかったか、モジュールの名前が指定されませんでした。

処置: モジュール・ファイル内でモジュール名を指定してください。

MOD-00039 仕様部ファイル *string* をオープンできません。

原因: SQL*Module が仕様部（ヘッダー）出力ファイルを作成できません。このエラーは通常、カレント・ディレクトリまたは SNAME オプション用に指定したディレクトリに対する書き込み権限がない場合に発生します。また、名前やディレクトリ・パスが不当であったり、パス上にディレクトリが存在しなかったり、またはディスクやファイル・システムが満杯の場合にも起こります。

処置: 指定されているパスおよびファイルに書き込み権限があるかどうかを確認してください。SNAME オプションが使用されていない場合には、カレント・ディレクトリに対する書き込み権限も確認してください。ディスクまたはファイル・システムに空きがあることを確認してください。

MOD-00040 出力言語が未指定です。コンパイルは強制終了されました。

原因: LANGUAGE 句がモジュール・ソース・ファイルに指定されていません。

処置: モジュール・ファイル内で LANGUAGE 句を指定してください。

MOD-00041 行 *number*、列 *number* に ANSI 違反があります。:*string*

原因: FIPS=YES が指定されていて、モジュール・コードの一部が ANSI SQL92 エントリ・レベル標準に準拠していません。

処置: FIPS=NO（デフォルト）を指定するか、コードを修正してください。

MOD-00042 カーソル *string* は 2 度以上宣言できません。

原因: メッセージに示されているカーソルが、モジュール・ファイル内で複数回宣言されました。

処置: （モジュール・ファイル内だけでなくアプリケーション全体で）各カーソル名が一意であることを確認してください。

MOD-00043 プロシージャ *string* は 2 度以上宣言できません。

原因: プロシージャ名 X が、モジュール・ファイル内で複数回宣言されました。

処置: （モジュール・ファイル内だけでなくアプリケーション全体で）各プロシージャ名が一意であることを確認してください。

MOD-00044 パラメータ *string* は、プロシージャ *string* で 2 度以上宣言できません。

原因: メッセージ内で指定されたプロシージャにおいて、他のパラメータ名として使用されている名前がパラメータ名として宣言されています。

処置: プロシージャ内の各パラメータ名が一意であることを確認してください。

MOD-00045 文字列の長さ *number* は無効です。

原因: CHAR[n] ホスト変数に対して、2 文字未満の長さが指定されました。その長さは少なくとも 2 文字でなければなりません。

処置: 少なくとも 2 文字以上の長さが指定されるように、宣言を修正してください。

MOD-00046 カーソル *string* は未宣言です。

原因: モジュール・ファイル内で、まだ宣言されていないカーソルに対して、OPEN、FETCH または CLOSE を実行しようとしてしました。

処置: モジュール・ファイルに適切なカーソル宣言を挿入してください。カーソルに対して動作を行う前にファイル内でカーソル宣言を行う必要があります。

MOD-00047 カーソル *string* に対するオープン文はすでに存在しています。

原因: このモジュール内に、指定されたカーソルに対する OPEN コマンドを含むプロシージャが複数あります。

処置: 複数ある必要はないので OPEN コマンドを 1 つ削除してください。

MOD-00048 カーソル *string* はオープンされていません。

原因: このメッセージで示されたカーソルに対する OPEN コマンドがモジュール内に存在しません。

処置: OPEN コマンドを追加するか、カーソルが必要なければ削除してください。

MOD-00049 PL/SQL を初期化できません。

原因: このメッセージは、通常、SQL*Module がモジュールの AUTHORIZATION 句または USERID オプションを付けてコマンド行上で記述されるユーザー名およびパスワードを使用して、データベースに接続できない時に出力されます。

処置: Net8 を使用して接続している場合は、リスナー・プロセスが実行中であることと、AUTHORIZATION 句内またはコマンド行上で指定されたサービス名が TNSNAMES.ORA ファイル内にあることを確認してください。接続パラメータが正しいにもかかわらず、この問題が繰り返し発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00050 仮パラメータ *string* はプロシージャ *string* では使用されません。

原因: プロシージャ内で宣言された仮パラメータが使用されていません。

処置: パラメータ宣言を削除するか、パラメータをプロシージャ内で使用してください。

MOD-00051 パラメータ *string* に対して無効な参照モードが指定されました。

原因: このパラメータのモードは無効です。モードは、IN、OUT または IN OUT のいずれかである必要があります。

処置: 参照モードを IN、OUT または IN OUT の適切なものに修正してください。

MOD-00052 STORE_PACKAGE データベースが接続ホストと一致しません。

原因：モジュールがデータベースのパッケージを格納できません。

MOD-00053 重複してるマクロ定義は一致しません。

MOD-00054 参照 *string* は無効なカーソル参照です。

原因：宣言されていないカーソルを OPEN しようとしてしました。

処置：カーソルを宣言するか、カーソルへの間違った参照を削除してください。

MOD-00055 プリプロセッサ疑似命令が解釈されていません。

MOD-00056 配列結合は 0（ゼロ）より大きくなければなりません。

原因：不正な配列索引が指定されています、

処置：索引が 0（ゼロ）を超えるように、配列索引を再指定してください。

MOD-00057 マクロの引数リストが見つかりません。

MOD-00058 マクロの起動にある引数の数が正しくありません。

MOD-00059 INTO 変数 *string* が仮パラメータとしてリストされていません。

原因：SELECT 文内の INTO 句の対象は、プロシージャのパラメータではありません。

処置：プロシージャのパラメータ・リスト内で正しいデータ型を使用してパラメータを宣言してください。

MOD-00060 パッケージの仕様部のコンパイルで PL/SQL エラーが発生しました。

原因：SQL*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズ中に意味的なエラーが起きました。

処置：データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報は、OUTPUT=PACKAGE で SQL*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード仕様ファイル（拡張子 .pks）を確認してください。詳細は、『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

MOD-00061 パッケージの本体のコンパイルで PL/SQL エラーが発生しました。

原因：SQL*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズ中に意味的なエラーが起きました。

処置：データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細情報については、OUTPUT=PACKAGE で SQL*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード・ファイル（拡張子 .pkb）を確認してください。詳細は、『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

MOD-00062 標識のホスト変数を認識できません。

原因：標識変数として使用されたホスト変数が宣言されていません。

処置：ホスト変数を宣言するか、可能な場合は、SQL 文から標識変数を削除してください。

MOD-00063 プロシージャ *string*、パラメータ *string*: 無効なインタフェース型 *string* です。

原因: インタフェース・プロシージャ (スタブ) ファイル生成時、被参照ストアド・パッケージまたはストアド・プロシージャ内の WITH INTERFACE PROCEDURE 句が、無効なデータ型を持つパラメータを含んでいます。

処置: データ型を修正してください。WITH INTERFACE 句内のデータ型は、PL/SQL データ型ではなく、SQL のデータ型である必要があります。

MOD-00064 プロシージャ *string*: インタフェースに余分なパラメータ *string* があります。

原因: ストアド・パッケージまたはストアド・プロシージャの WITH INTERFACE 句で未使用パラメータが宣言されています。

処置: パッケージの WITH INTERFACE 句を修正してください。

MOD-00065 プロシージャ *string* に対するインタフェース定義がありません。

原因: 1 つまたは複数のプロシージャの WITH INTERFACE 句を含まないパッケージに対してスタブを生成しようとした。

処置: パッケージ仕様部に WITH INTERFACE 句を追加してください。

MOD-00066 データベースからパッケージ *string* をロードできません。

原因: PNAME オプションを使用して指定したパッケージ名が正しくないか、または SQL*Module が必要なデータベース・スキーマにアクセスできませんでした。

処置: 指定したパッケージが存在していて、有効な状態かどうかを確認してください。このスキーマに対する USER_OBJECTS 表の STATUS 列を調べ、パッケージが有効であるかどうかを確認してください。

MOD-00067 パッケージ名が必要ですが、指定されていません。

原因: オプションと値、RPC_GENERATE=YES と STORE_PACKAGE=YES は指定されましたが、PNAME オプションを使用するパッケージ名が指定されていません。

処置: PNAME オプションを追加してください。

MOD-00068 システム構成ファイルが見つからないか、またはオープンできません。

原因: これは警告メッセージです。SQL*Module がシステム構成ファイルを見つけられないか、ファイルをオープンできません。システム構成ファイルの格納場所は、システム固有です。使用しているシステム上での格納場所については、オペレーティング・システム固有のドキュメントを参照してください。

処置: ファイルが存在するかどうか、そのファイルに読取り許可または適切なアクセス権限が設定されているかどうかを確認してください。この警告メッセージが出力されないようにするには、空きであってもシステム構成ファイルが存在していなければなりません。

MOD-00069 パッケージの格納時に ORACLE エラー *number* が発生しました。

原因: SQL*Module が障害データベースにパッケージを格納しようとした。

処置: このマニュアルでこのエラー番号を探し、問題を解決してください。

MOD-00070 プロシージャ *string* インタフェースには *string* に対する宣言がありません。

原因： WITH INTERFACE 句内に標識変数が指定されていますが、対応する主変数が宣言されていません。

処置： WITH INTERFACE 句を修正してください。標識変数を削除するか、ホスト変数を宣言してください。

MOD-00071 PNAME オプションが必要ですが設定されていません。

原因： データベースに格納されたパッケージの名前が指定されていません。これはストア・パッケージからスタブを生成するのに必要です。

処置： データベースに格納されたパッケージの名前を指定してください。

MOD-00072 PNAME オプションが指定されていますが、意味がありません。

原因： 必要がないときに、PNAME オプションが使用されました。PNAME オプションは、RPC_GENERATE および STORE_PACKAGE のいずれかまたはその両方を指定する場合のみ必要です。

処置： コマンド行を修正してください。

MOD-00073 INAME オプションが指定されていますが、意味がありません。

原因： 必要がないときに、INAME オプションが使用されました。たとえば、RPC_GENERATE=YES および PNAME オプションの指定時には、INAME は必要ありません。

処置： INAME オプションを使用しないでください。

MOD-00074 ONAME オプションが指定されていますが、意味がありません。

原因： 必要がないときに、ONAME オプションが使用されました。たとえば、RPC_GENERATE=NO および STORE_PACKAGE=YES 指定時、または OUTPUT 値リストに CODE 値が含まれていない場合は、ONAME オプションは必要ありません。

処置： ONAME オプションを使用しないでください。

MOD-00075 行 *number* でエラーが発生しました。PLS-*number*: *string*

原因： SQL*Module 実行時、PL/SQL 解析フェーズ中に意味的なエラーが起きました。

処置： データベース・オブジェクトがすべて有効であることを確認してください。詳細については、OUTPUT=PACKAGE で SQL*Module を再実行し、出力 PL/SQL コード・ファイル (拡張子 .pkb) を確認してください。詳細は、『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

MOD-00076 行 *number* に ANSI 違反があります。PLS-*number*: *string*

原因： FIPS=YES が指定されていて、モジュール・コードの一部が ANSI SQL92 エントリ・レベル標準に準拠していません。

処置： FIPS=NO (デフォルト) を指定するか、コードを修正してください。

MOD-00077 SQLCODE または SQLSTATE など、必須のステータス・パラメータがありません。

原因: すべてのパラメータ定義にステータス・パラメータ SQLCODE または SQLSTATE (あるいは、その両方) を入れてください。

処置: SQLCODE または SQLSTATE を入れてください。

MOD-00078 格納されたパッケージからスタブを生成する場合は、ユーザーの指定が必要です。

原因: USERID の指定がないので、SQL*Module は、サーバーに接続してストアド・パッケージからスタブ (インタフェース・プロシージャ・ファイル) を生成できません。

処置: (デフォルト・データベースへの接続時以外は) サービス名、ユーザー名およびパスワードを指定してください。この操作は、コマンド行上または構成ファイル内で行ってください。

MOD-00079 RPC=yes の場合は SQLCHECK は必ず SEMANTICS でなければなりません。

原因: スタブ・ファイルの作成時は SQLCHECK=SYNTAX (または SQLCHECK=NONE) を指定できません。

処置: コマンド行または構成ファイルから SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE 指定を削除してください。

MOD-00080 格納されたパッケージ・ソースの抽出でエラーが発生しました。

原因: コマンド行上または構成ファイル内で OUTPUT=PACKAGE が要求されましたが、指定された名前のパッケージがスキーマ内に存在しないか、INVALID のマークが付けられています。

処置: 名前指定したパッケージが存在し、有効であることを確認してください。

MOD-00081 代入に失敗しました。

原因: SQL*Module への入力の一部がエラーまたは警告状態を起こしました。このメッセージはいつも特定のエラー・メッセージまたは警告メッセージの後に出力されます。

処置: このメッセージに対する処置の必要はありません。前出のエラーを直してください。

MOD-00082 [パッケージ本体をコンパイルしています ...]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00083 [パッケージ本体がコンパイルされました]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00084 [パッケージ仕様部をコンパイルしています ...]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00085 [パッケージ仕様部がコンパイルされました]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00086 エラー: ユーザー名をインストールできません。強制終了されました ...

原因: ユーザー名はサーバーによって拒否されました。

処置: ユーザー名が有効な場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00087 [パッケージをデータベースに格納しています]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00088 その機能はまだインプリメントされていません。

原因: SQL*Module がコンパイルできるが、まだインプリメントされていない機能を使用している SQL 文がありました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

MOD-00089 プロシージャ *string: string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00090 カーソル *string: string*

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00091 [格納されたパッケージへの RPC コールを生成しています ...]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00092 [RPC コールの生成が完了しました。]

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

MOD-00093 SNAME オプションが指定されていますが、これは意味を持ちません。

原因: 必要がないときに、SNAME オプションが使用されました。たとえば、OUTPUT オプションの値リストに値 SPECIFICATION がなければ、SNAME オプションは必要ありません。

処置: SNAME オプションを使用しないでください。

MOD-00094 PNAME オプションのエクステンションが指定されていますが、これは意味を持ちません。

原因: PNAME オプションの値にファイル名拡張子が含まれていました。パッケージはデータベース・オブジェクトであり、ファイルではありません。

処置: 拡張子を削除してください。

MOD-00095 データ型 *string* はこのホスト言語に対して無効です。

原因: ホスト言語に対してサポートされていないデータ型が使用されました。たとえば、データ型 NUMERIC は、Ada および C に対してサポートされていません。

処置: 各ホスト言語においてサポートされるデータ型については、各言語のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

MOD-00096 LNAME オプションが指定されていますが、これは意味を持ちません。

原因: OUTPUT オプション・リストに値 LIST が含まれていません。

処置: OUTPUT オプションの値リストに LIST を追加してください。

MOD-00097 このホスト言語にはインタフェース付きの指定が必要です。

原因: PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部に WITH INTERFACE 句が含まれていませんでした。現在は、PL/SQL ファンクションまたはパッケージへのコールを作成するために、MODADA に WITH INTERFACE 句が存在している必要があります。

処置: WITH INTERFACE 句を含めるために PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部を修正してください。または、WITH INTERFACE 句を持つ PL/SQL パッケージまたはファンクションの仕様部を使用し、元の PL/SQL パッケージをコールさせてください。

MOD-00098 bind=late の場合だけ、インタフェース付きがデフォルトになります。

原因: WITH INTERFACE 句を持たない PL/SQL パッケージまたはファンクションへのコールの作成中に、コマンド行オプション "bind=early" が指定されました。

処置: コマンド行オプションを "bind=late" に変更するか、PL/SQL 仕様部に WITH INTERFACE 句を追加してください（エラー 00097 の処置を参照）。

MOD-00099 モジュールを保存する場合 (store=yes)、型 *string* は無効です。

原因: モジュールに含まれている型と等しい PL/SQL 型が、現在はありません。その型はデータベースへは格納できません。

処置: コマンド行オプションを STORE=NO に設定するか、または無効な型を含むプロシージャを別のモジュールへ移動し、そのモジュールを STORE=NO でコンパイルしてください。

MOD-00100 複数の *string* パラメータがプロシージャ *string* にあります。

MOD-00101 配列 *string* が *string* で一致しません: 最小サイズ (*number*) が使用されました。

MOD-00102 配列パラメータ *string* は、*string* で IN と OUT の両方のモードがあります。

MOD-00103 配列サイズ *number* (行 *number*) は、*number* から *number* の境界を超えています。

MOD-00104 このホスト言語で配列パラメータはサポートされません。

MOD-00105 プロシージャ *string* には、IN と OUT の両方の配列があります。

MOD-00106 配列に WHERE CURRENT 句は使用できません。

オブジェクト型トランスレータ型 ファイル・メッセージ (O2F)

O2F-00301 INTYPE ファイルからの読み込み試行中にエラーが発生しました。

原因: INTYPE ファイルからの読み込み試行中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00302 メモリーを割り当てられません。

原因: OTT がメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00303 INTYPE ファイルが指定されていません。

原因: 必須オプションの INTYPE が指定されていません。

処置: OTT が変換する型の名前を含むファイルの名前に INTYPE オプションを設定してください。INTYPE オプションはコマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

O2F-00304 INTYPE のファイル名が無効です。

原因: 指定された INTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

処置: INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00305 INTYPE ファイルを読み込みでオープン中にエラーが発生しました。

原因: INTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: INTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルへのアクセス権があることを確認してください。

O2F-00306 INTYPE ファイルをクローズできません。

原因：INTYPE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00307 INTYPE ファイルを読み込めません。

原因：INTYPE ファイルの最初のトークンが読み込めませんでした。INTYPE ファイルから読み込もうとしたときに、オペレーティング・システム・エラーが発生したか、または INTYPE ファイルの行がすべて空白行またはコメント行です。

処置：エディタで INTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上の型指定が含まれていることを確認してください。

O2F-00308 INTYPE ファイルにタイプ指定がありません。

原因：INTYPE ファイルに型指定がないか、または前に発生したエラーが原因で、最初の型指定を読み込むことができません。

処置：前に発生したエラーをすべて修正してください。INTYPE ファイルに 1 つ以上の型指定があることを確認してください。

O2F-00309 ユーザー定義型の名前が無効か、または指定されていません。

原因：ユーザー定義型の名前は、型指定の先頭にあるキーワード TYPE に続けて指定する必要があります。有効な型名が見つかりません。

処置：構文上、型指定が正しいかどうか、型名の綴りが正しいかどうかを確認してください。

O2F-00310 識別子名が無効か、または指定されていません。

原因：AS の後ろに C または C++ の有効な識別子が必要ですが、それが見つかりません。

処置：先頭が数字で始まらない英文字、数字およびアンダースコアからなる C または C++ の有効な識別子を使用してください。

O2F-00311 ファイル名が無効か、または指定されていません。

原因：有効なファイル名が必要ですが、それが見つかりません。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいファイル名を使用してください。

O2F-00312 型バージョンの文字列が無効か、または指定されていません。

原因：型バージョン名が必要ですが、それが見つかりません。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しいバージョン名を使用してください。

O2F-00313 属性名が無効か、または指定されていません。

原因：INTYPE ファイル内に属性名が必要ですが、それが見つかりません。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。正しい属性名を使用してください。

O2F-00314 INTYPE ファイルに AS がありません。

原因：INTYPE ファイルの構文は不正です。

処置：TYPE ファイル構文が正しいことを確認してください。

O2F-00315 タイプの属性がタイプ指定に 2 回記述されています。

原因：ユーザー定義タイプの属性が INTYPE ファイルの型指定に 2 回記述されています。2 番目の指定は無視されます。

処置：いずれかの属性を削除してください。

O2F-00316 タイプ指定の最後で予期せぬトークンが検出されました。

原因：INTYPE ファイルに構文エラーがあります。

処置：ドキュメントを参照して、INTYPE ファイルの型指定が構文的に正しいことを確認してください。

O2F-00317 ERRTYPE ファイルを書込みでオープン中にエラーが発生しました。

原因：書込み用の ERRTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：ERRTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ERRTYPE ファイルの作成または更新ができるか試し、ファイルへの書込み権限があることを確認してください。

O2F-00318 OUTTYPE ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

原因：OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：オペレーティング・システムのファイル書込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2F-00319 OUTTYPE ファイルが指定されていません。

原因：必須オプションの OUTTYPE が指定されていません。

処置：OTT によって生成された TYPE ファイルの書込み先のファイル名を OUTTYPE オプションに設定してください。OUTTYPE オプションはコマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

O2F-00320 OUTTYPE ファイルのファイル名が無効です。

原因：指定された OUTTYPE ファイル名は構文的に正しくありません。

処置：OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00321 OUTTYPE を書込みでオープン中にエラーが発生しました。

原因: OUTTYPE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: OUTTYPE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。オペレーティング・システムのファイルをオープンする権限があることを確認してください。

O2F-00322 OUTTYPE ファイルをクローズできません。

原因: OUTTYPE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: エディタで OUTTYPE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2F-00323 OTT の機能 O2F で内部エラーが発生しました。

原因: OTT の O2F コンポーネントで内部 OTT エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00324 データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換不可能。

原因: 型、属性またはメソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

処置: 名前は最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットは、プラットフォームに依存した方法で指定されます。UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 NLS_LANG を設定することによって指定されます。コンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。コンパイラのキャラクタ・セット自体はそのようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

O2F-00325 名前の文字に正当な識別子の文字がありません。

原因: データベース・エンティティの名前として使用されている文字を英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

処置: INTYPE ファイルの名前については明示的な変換を指定してください。

O2F-00326 この名前の文字に不正な識別子の文字があります。

原因: データベース・エンティティ名の 1 つ以上の文字を、英文字、アンダースコア、数字などの C または C++ の識別子で使用する文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

処置: 名前の綴りが正しく、名前の最後が空白、行の終わりまたは等号 ("=") で終わっているかどうかを確認してください。変換された名前にアンダースコアを追加して使用するか、INTYPE ファイルの名前に対して明示的な変換を指定してください。

O2F-00327 CASE オプションの値が無効です。

原因: INTYPE ファイルで CASE オプションに指定された値は無効です。

処置: CASE オプションに指定した値を、SAME、LOWER、UPPER または OPPOSITE のいずれかの有効な値に変更してください。

O2F-00328 INITFUNC 名が無効です。

原因: INTYPE ファイルで INITFUNC オプションに指定された関数名は C または C++ の有効な識別子ではありません。

処置: INITFUNC 関数の名前を C または C++ の有効な識別子に変更してください。この名前は INTYPE ファイル内で与えられるか、コマンド行上で与えられるか、あるいは INITFILE 名から導出されます。

O2F-00329 型またはオプションを指定してください。

原因: INTYPE ファイル内に型指定またはオプション指定が必要ですが、見つかりません。

処置: INTYPE ファイルに構文エラーがないことを確認してください。型指定またはオプション指定を記述してください。型指定はワード TYPE で開始してください。オプション指定はワード CASE、INITFILE または INITFUNC で開始してください。

O2F-00330 名前が 265 バイトを超えています。

原因: INTYPE ファイルにある名前の長さが 265 バイトを超えています。

処置: 265 バイトより短い名前を選択してください。

O2F-00331 INTYPE ファイルに構文上正しくない名前があります。

原因: INTYPE ファイルで使用している名前に構文エラーが発生しました。

処置: 名前が引用符で囲まれている場合は、左の引用符と右の引用符の両方があることを確認してください。ピリオド（スキーマ名と型名を分ける）が表示される場合は、スキーマ名および型名の両方があることを確認してください。

O2F-00332 ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクは設定できません。

原因: ユーザー定義型の名前にデータベース・リンクが設定されています。この機能はサポートされていません。

処置: OTT が接続するデータベースに、ユーザー定義型を宣言してください。

O2F-00333 INTYPE ファイルに、キーワードが必要な場所に予期せぬトークンがあります。

原因: INTYPE ファイル内に TYPE などのキーワードが必要ですが、誤ったまたは綴りの正しくないキーワードが見つかりました。

処置: 型指定がドキュメントに記述されている構文に準拠していることを検証してください。キーワードの綴りが正しいことを確認してください。

O2F-00334 INTYPE ファイルにユーザー定義型が複数記述されています。

原因: 複数の型指定に同じ名前のユーザー定義型が記述されています。重複した型名指定は無視されます。

処置: 単一の型指定についての情報（すべての型名および属性名）をすべて調べて、重複している型指定を削除してください。

O2F-00335 OTT の O2F コンポーネントで内部エラーが発生しました。

原因: データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。OTT のコンポーネント O2F で内部エラーが発生しました。

処置: INTYPE ファイルに、処理する型をリストしてください。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00336 サブシステムでレポートされたエラー

原因: データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。データベースへのアクセス時にサブシステムでエラーが発生しました。

処置: サブシステムからレポートされたエラー・メッセージから、その原因を調べてください。INTYPE ファイルに、処理する型をリストしてください。

O2F-00337 スキーマが見つからないか、またはスキーマに型が見つかりません。

原因: データベース・スキーマのすべての型に対して宣言を生成するように要求しました。スキーマが見つからないか、スキーマにユーザー定義型が見つからないか、または Oracle に接続できません。

処置: OTT のログイン / パスワード文字列が指定され、Oracle データベースが OTT で接続可能かどうかを確認してください。データベースの USER_TYPES 表に少なくとも 1 行が含まれていることを確認してください。

O2F-00338 パッケージ名が見つからないか、または不適切です。

原因: IN、PACKAGE または IN PACKAGE の後に、有効な Java パッケージ名が必要ですが、それが見つかりません。

処置: 有効な Java パッケージ名を使用してください。

O2F-00339 CODE オプションの値が無効です。

原因: INTYPE ファイルで CODE オプションに指定された値は無効です。

処置: CODE オプションに指定した値を、C、ANSI_C、KR_C、JAVA、NATIVE_JAVA または ORACLE_JAVA の有効な値のいずれかに変更してください。

O2F-00340 名前が NULL です。

原因: 名前の長さが 0（ゼロ）文字です。

処置: このエラーがユーザーに報告されることはありません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2F-00341 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。

原因: このエラーの原因は報告されていません。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

オブジェクト型トランスレータ 初期化メッセージ (O2I)

O2I-00101 USERID パラメータの値が無効です。

原因：USERID パラメータに入力された値は、無効なユーザー名 / パスワード [@ データベース名] 文字列です。

処置：データベースの接続時に使用する USERID オプションは、ユーザー名 / パスワードまたはユーザー名 / パスワード @ データベース名の正しい組合せに設定してください。OPS\$ アカウントがある場合は、USERID オプションを省略できます。その場合 OTT は、OPS\$ ユーザー名のユーザー ID を使用してデータベースに接続してください。USERID オプションは、コマンド行または CONFIG ファイルでも指定できます。

O2I-00102 Oracle に接続できません。

原因：OTT が与えられたユーザー名およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。USERID オプション値が誤っています。または、USERID が入力されていない場合は、ユーザー ID の OPS\$ ユーザー名が受け入れられません。

処置：カレントのユーザー名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。Oracle に接続する別のプログラムを実行し、そのユーザー名およびパスワードを使用して接続できるかどうかを検証してください。

O2I-00103 INTYPE ファイルで、同じ HFILE ファイルを 2 つのファイル名で参照しています。

原因：同じ HFILE ファイルを参照するのに 2 つの異なるファイル名が INTYPE ファイルで使用されているか、またはコマンド行と INTYPE ファイルで同じ HFILE を参照するのに異なるファイル名が使用されています。

処置：HFILE ファイルは一貫して同じファイル名で参照してください。

O2I-00110 OTT のコンポーネント O2I で内部エラーが発生しました。

原因：OTT の O2I コンポーネントで内部 OTT エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00111 メモリーを割り当てられません。

原因: OTT がメモリーを割り当てることができませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00112 HFILE ファイルに書き込みできません。

原因: OUTTYPE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのファイル書き込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00113 HFILE ファイルが指定されていません。

原因: OTT によって生成される C の宣言の書き込み先の HFILE ファイルが指定されていません。

処置: コマンド行または CONFIG ファイルでグローバルな HFILE オプションを指定してください。型を記述する INTYPE ファイルのエントリで別の HFILE を指定することによって、特定の型に別の HFILE を選択している可能性があります。INTYPE ファイルの各エントリで HFILE を指定しており、HFILE のすべての型がそこに記述されている型の宣言しか必要としない場合、グローバルな HFILE オプションは省略できます。OTT の前の起動で生成された INTYPE ファイルはこれらの条件を満たしています。

O2I-00114 HFILE ファイル名が無効です。

原因: 構文が正しくない HFILE ファイル名が指定されました。

処置: HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00115 HFILE ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

原因: 書き込み用の HFILE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: HFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込み権限があることを確認してください。

O2I-00116 HFILE ファイルをクローズできません。

原因: HFILE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: HFILE を作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00117 内部エラー: コンポーネント O2U のメッセージ・ファイルがありません。

原因: 内部 OTT コンポーネント O2U 用のメッセージ・ファイルが見つかりません。OTT が正しくインストールされていない可能性があります。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00118 ユーザー定義のこの型はデータベース内で見つかりません。

原因: INTYPE ファイルで指定されたユーザー定義型がデータベース内で見つかりません。

処置: 型の名前の綴りが正しいことを確認してください。この型が実際にデータベースで宣言されていることを確認してください。

O2I-00119 サブシステムでレポートされた警告:

原因: OTT によって起動されたサブシステムで警告がレポートされました。その警告は「サブシステムでレポートされた警告」メッセージの後に続いて表示されます。

処置: サブシステムからレポートされた警告から、その原因を調べてください。

O2I-00120 サブシステムでレポートされたエラー

原因: OTT によって起動されたサブシステムでエラーがレポートされました。そのエラーは「サブシステムでレポートされたエラー」メッセージの後に続いて表示されます。

処置: サブシステムからレポートされたエラー・メッセージから、その原因を調べてください。

O2I-00121 CODE オプションに対する値が指定されていません。

原因: コマンド行または構成ファイルに、必要な CODE オプションが指定されていません。

処置: コマンド行または構成ファイルで CODE オプションを指定してください。現在、コード・オプションの値は、CODE=ANSI_C、CODE=KR_C および CODE=C がサポートされています。

O2I-00122 INITFILE ファイルのファイル名が無効です。

原因: INITFILE ファイルで指定されたファイル名は構文的に正しくありません。

処置: INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00123 INITFILE ファイルをクローズできません。

原因: INITFILE ファイルのクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: エディタで INITFILE ファイルをオープンできるか試し、ファイルにアクセスできることを確認してください。

O2I-00124 書込み用に INITFILE ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

原因: 書込み用の INITFILE ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: INITFILE ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。INITFILE を作成または更新できるか試し、ファイルへの書込み権限があることを確認してください。

O2I-00125 INITFILE ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

原因: INITFILE ファイルへの書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのファイル書き込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00126 SCHEMA_NAMES=FROM_INTYPE の場合は INTYPE ファイルを指定する必要があります。

原因: オプション SCHEMA_NAMES=FROM_INTYPE は、INTYPE ファイルに指定されているように OUTTYPE ファイルにスキーマ名を書込むように要求していますが、INTYPE ファイルが指定されていません。

処置: INTYPE ファイルの名前を指定するか、SCHEMA_NAMES オプションに ALWAYS または IF_NEEDED を指定してください。

O2I-00127 INITFUNC 名が無効です。

原因: INITFUNC 関数の名前が C または C++ の有効な識別子ではありません。

処置: INITFUNC 関数の名前を C または C++ の有効な識別子に変更してください。この名前は INTYPE ファイル内で与えられるか、コマンド行上で与えられるか、あるいは INITFILE 名から導出されます。

O2I-00128 Java ファイルに書き込めません。

原因: Java ソース・ファイルに書き込み中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: オペレーティング・システムのファイル書き込み権限があることを確認してください。また、使用可能なディスク領域があることを確認してください。

O2I-00129 指定された Java ファイルはありません。

原因: OTT によって生成される Java の宣言の書き込み先のファイルが指定されていません。

処置: Java ファイルはそれを宣言したクラスの名前に基づいて命名されるため、このメッセージが表示されることはありません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2I-00130 Java ファイル名が無効です。

原因: 構文が正しくない Java ファイル名が指定されました。

処置: Java ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。

O2I-00131 Java ファイルのオープンでエラーが発生しました。

原因: 書き込み用の Java ファイルのオープン中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置: ファイル名の綴りが正しいことを確認してください。ファイルを作成または更新できるか試し、ファイルへの書き込み権限があることを確認してください。

O2I-00132 Java ファイルをクローズできません。

原因：Java ファイルをクローズ中に、オペレーティング・システムにエラーが発生しました。

処置：Java ファイルを作成または更新できるか試し、ファイルにアクセスできるかどうかを確認してください。

O2I-00133 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。

原因：このエラーの原因は報告されていません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

オブジェクト型トランスレータ 解析解除メッセージ (O2U)

O2U-00200 OTT の機能 O2U で内部エラーが発生しました。

原因：OTT の O2U 機能で内部 OTT エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00201 関数 o2upt() への引数が正しくありません。

原因：関数 o2upt() へ無効な引数が渡されました。これは通常発生しない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00202 無効なデータが関数に渡されました。

原因：無効な値をもつ引数が関数 o2upt() に渡されました。これは通常発生しない内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00203 宣言される型はオブジェクト型か名前付きコレクション型でなければなりません。

原因：OTT がサポートしていない型のコードを生成するよう要求されました。Java コードを生成する場合、OTT はオブジェクト型のコードのみを生成します。C の宣言を生成する場合、OTT はオブジェクト型および名前付きコレクション型の宣言のみを生成します。

処置：OTT に組み込み型を宣言するように、または Java コードを生成している場合に名前付きコレクション型を宣言するように要求している可能性があります。このような型の宣言の生成を OTT に要求しないでください。

O2U-00204 データベースのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットに変換不可能。

原因: 型、属性またはメソッドの名前が、OTT の起動時に有効であったクライアントのキャラクタ・セットから、コンパイラのキャラクタ・セット（一般的には ASCII または EBCDIC）に変換できません。

処置: 名前は最初にデータベースのキャラクタ・セットからクライアントのキャラクタ・セットへ変換され、次にクライアントのキャラクタ・セットからコンパイラのキャラクタ・セットへ変換されます。クライアントのキャラクタ・セットはプラットフォームに依存した方法で指定されます（UNIX プラットフォームでは、クライアントのキャラクタ・セットは環境変数 `NLS_LANG` を設定することによって指定されます）。INTYPE ファイルのキャラクタ・セットを含み、かつコンパイラのキャラクタ・セットに変換できるクライアントのキャラクタ・セットを使用してください。データベースのキャラクタ・セットは、このようなキャラクタ・セットの 1 つです。クライアントのキャラクタ・セットに正常に変換できなかったデータベース・オブジェクトの名前については、INTYPE ファイルでシノニムを指定してください。

O2U-00205 型の名前に正当な識別子の文字がありません。

原因: ユーザー定義型の名前として使用されている文字はすべて、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。

処置: INTYPE ファイルの型名については明示的な変換を指定してください。

O2U-00206 型の名前の文字で不正な識別子の文字があります。

原因: ユーザー定義型の名前で 1 つ以上の文字が、英文字、アンダースコア、または数字などの C または C++ の識別子で 사용되는文字に変換できません。変換できない文字はアンダースコアに置き換えられました。

処置: INTYPE ファイルの型名については明示的な変換を指定するか、変換された型名にアンダースコアを追加して使用してください。

O2U-00207 属性名に正当な識別子の文字がありません。

原因: 型の属性名の文字が、英文字やアンダースコアなどの C または C++ の識別子の開始文字に変換できません。問題のある属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で明らかに不正なデータ・メンバー名がないか調べてください。

処置: INTYPE ファイルで属性名に対して明示的な変換を指定してください。

O2U-00208 属性名の 1 つまたは複数の文字が正当な識別子文字ではありませんでした。

原因: C または C++ の有効な識別子の文字に変換できない文字が属性名に 1 つ以上含まれている場合、変換できない文字はアンダースコアに置き換えられます。問題のある属性または属性を確認するには、この型に対して生成された宣言で、元の属性名にない余分なアンダースコアを含むデータ・メンバー名がないか調べてください。

処置: INTYPE ファイルの問題のある属性については明示的な変換を指定するか、変換された属性名にアンダースコアを追加して使用してください。

O2U-00209 変換する属性名または関数名が見つかりません。

原因：変換が要求された属性名または関数名は、現在の型の属性名または関数名ではありません。

処置：名前の綴りが正しく、現在の型で定義された属性名または関数名であることを確認してください。

O2U-00210 メモリーを割り当てられません。

原因：OTT がメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

O2U-00211 属性のない型が変換されました。

原因：OTT が属性のない型を変換しました。対応する C 型は構成要素のない構造体で、C では有効ではありません。型の作成中のエラーによりデータベース内に無効な型が生成される可能性があります。不完全な型は、互いに参照する型の作成時に一時的に使用される可能性があります。

処置：データベースに対応する型を再作成し、OTT を再実行してください。

O2U-00212 使用可能なメッセージのないエラーが発生しました。

原因：このエラーの原因は報告されていません。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Pro*COBOL メッセージ (PCB)

Pro*COBOL の詳細は、『Oracle8i Pro*COBOL プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCB-00001 *string*

原因: これはコマンド行プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

処置: 表示されたエラーを修正してください。

PCB-00002 コマンド行プロセッサで重大なエラーが見つかりました。

原因: コマンド行プロセッサが重大なエラーを検出しました。

処置: すべてのコマンド行オプションが正しく指定されていることを確認した後、使用したすべてのオプションと構成ファイルの全アカウントを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCB-00003 DBMS オプションの値は、指定した MODE オプションの値に対して無効です。

原因: MODE={ANSI14|ANSI13} のときに DBMS=V7 または V8 が指定されたか、MODE=ANSI のときに DBMS=V6 が指定されました。これらのオプション設定には互換性がありません。DBMS オプションは Oracle プリコンパイラのリリース 1.5 より前では無効であることに注意してください。

処置: DBMS=V7 または V8 では、MODE={ANSI14 | ANSI13}ではなく、MODE={ANSI | ORACLE} を指定してください。DBMS=V6 の場合は、MODE=ANSIではなく MODE={ANSI14|ANSI13|ORACLE} を指定してください。ただし、推奨値は MODE=ORACLE です。

PCB-00004 UNSAFE_NULL=YES は DBMS=V7 または V8、および MODE=ORACLE と共に使用しなければなりません。

原因: UNSAFE_NULL=YES オプションが DBMS=V6 または DBMS=NATIVE (デフォルト) とともに使用されたか、または MODE=ANSI/ANSI14/ANSI13 とともに使用されました。

処置: UNSAFE_NULL=YES を使用する場合は、DBMS=V7 または V8、および MODE=ORACLE (デフォルト) を指定してください。または、UNSAFE_NULL=YES を使用しないでください。

PCB-00005 コマンド行でオプションが NLS_LOCAL=YES のとき MODE=ANSI である必要があります。

原因: MODE=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES を使用しました。NLS_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を指定する必要があります。

処置: NLS_LOCAL=YES の他に、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を設定するか、または NLS_LOCAL=YES は設定しないでください。

PCB-00006 ユーザー ID は SQLCHECK=FULL のときだけ使用されます、ユーザー ID は無視されました。

原因: SQLCHECK={SYNTAX|NONE} のときに、USERID オプションが指定されました。これは不要です。

処置: USERID オプションは、SQLCHECK=SEMANTICS の場合にのみ指定してください。

PCB-00007 *string*

原因: これはコマンド行プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

処置: 表示されたエラーを修正してください。

PCB-00008 埋込み PL/SQL で SQLCHECK=SEMANTICS (FULL) が指定されていません。

原因: SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE オプションが有効なときにプリコンパイラが埋込み PL/SQL ブロックを解析しようとしてしました。SQLCHECK=SEMANTICS を指定している場合にのみ、PL/SQL ブロックを解析できます。

処置: PL/SQL ブロックを削除するか、SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

PCB-00009 EXEC SQL 文の後で、MAXLITERAL の変更はできません。

原因: EXEC SQL、EXEC TOOLS または EXEC IAF 文の後のインライン EXEC ORACLE OPTION 文で MAXLITERAL オプションが使用されました。これは許可されていません。

処置: MAXLITERAL オプションは、コマンド行または入力ソース・ファイルの先頭にある EXEC ORACLE OPTION 文でのみ使用してください。

PCB-00010 EXEC ORACLE 文にある SQLCHECK 値がコマンド行の値を超えています。

原因: SQLCHECK オプションがインラインで入力され、コマンド行に指定した (あるいはデフォルトで受け入れられた) レベルよりも高いチェック・レベルで指定されました。これは許可されていません。たとえば、コマンド行に SQLCHECK={SYNTAX|LIMITED} を指定すると、SQLCHECK={SEMANTICS|FULL}

をインラインで指定できません。これは情報メッセージです。プリコンパイラはインライン値を無視して処理を続けます。

処置: EXEC ORACLE 文を修正するか、コマンド行のチェック・レベルを低くしてください。

PCB-00011 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE を使用してください。

原因: V6 との互換性はサポートされていません。プリコンパイラは、DBMS=NATIVE が指定されたものとしてプリコンパイルします。

処置: 指定した DBMS オプションの値を、V6 から別の値に変更してください。

PCB-00012 オプション TYPE_CODE=ANSI の場合、コマンド行オプション DYNAMIC=ANSI が必要です。

原因: DYNAMIC=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション TYPE_CODE=ANSI が使用されました。TYPE_CODE=ANSI の場合、プリコンパイラ・オプション DYNAMIC=ANSI を指定する必要があります。

処置: TYPE_CODE=ANSI に加え、プリコンパイラ・オプション DYNAMIC=ANSI を設定するか、または TYPE_CODE=ANSI は設定しないでください。

PCB-00100 テンポラリ・ファイル *string* を再オープンできません。

原因: プリコンパイラはテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

PCB-00101 システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。

原因: プリコンパイラがシステム構成ファイルをオープンできませんでした。システム構成ファイルが存在しないか、ディレクトリが正しくありません。

処置: システム構成ファイルが正しいディレクトリにあるかどうかを確認してください。システム構成ファイルの配置は、Oracle インストール・ドキュメントで確認してください。デフォルト・オプションを指定した PCCCOB.CFG の新しいコピーを適切なディレクトリに置いてください。

PCB-00102 入力ファイル名の長さが最大長を超えています。

原因: 指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムではファイル名の最大長が決まっています。

処置: 各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

PCB-00104 入力ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラが INAME プリコンパイラ・オプションで指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00105 挿入されたファイル名 *string* は、*number* 文字の名前制限を超えています。

原因: 指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムではファイル名の最大長が決まっています。

処置: 各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

PCB-00106 INCLUDE ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラは INCLUDE 文で指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に多く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00108 リスト・ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラが INAME プリコンパイラ・オプションで指定されたリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に多く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。リスト・ファイルが必要ない場合は、コマンド行に LTYPE=NONE を指定してください。

PCB-00109 生成されたソース・ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラが ONAME プリコンパイラ・オプションで指定された出力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があ

り、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00110 テンポラリ・ファイル *string* をオープンできません。

原因：プリコンパイラはテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 同じ名前のファイルがすでに存在し、ロックされている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置：ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルをロックされていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合わせてください）。

PCB-00200 PIC N または PIC G 変数 *string* は同等化できません。

原因：PIC N/G 変数、暗黙の VARCHAR グループ項目（基本項目として PIC N/G を使用）またはグループ項目（基本項目として PIC N/G を使用）が EXEC SQL VAR 文で使用されました。これは許可されていません。

処置：EXEC SQL VAR 文で PIC N 変数を使用しないでください。EXEC SQL VAR 文を使用して Oracle の型に同等化する場合は、PIC N 変数ではなく PIC X 変数を使用してください。

PCB-00201 標識変数 *string* はグループ項目ではありません。

原因：ホスト変数は表を含むグループ項目です。この種類のホスト変数と同時に使用する標識変数は、グループ項目ホスト変数の表と対応する標識の表のグループ項目でなければなりません。

処置：標識変数を標識表のグループ項目になるように変更してください。

PCB-00202 標識変数 *string* はグループ項目または表ではありません。

原因：ホスト変数はグループ項目です。この種類のホスト変数とともに使用する標識変数は、標識変数の表またはグループ項目でなければなりません。

処置：グループ項目または標識変数の表を使用してください。

PCB-00203 ネストされたグループ項目 *string* はサポートされていません。

原因：ホスト変数として使用されている変数は、他のグループ項目を含むグループ項目です。

処置：ホスト変数として使用されているグループ項目からすべてのグループ項目を削除してください。

PCB-00204 グループ項目は INTO または VALUES 句以外でできません。

原因：グループ項目ホスト変数が INTO または VALUES 句以外で使用されました。グループ項目ホスト変数は、INTO または VALUES 句でのみ使用できます。

処置：グループ項目ホスト変数を INTO または VALUES 句以外で使わないでください。

PCB-00205 NLS_LOCAL=YES のとき、PL/SQL で PIC N または PIC G 変数は使用できません。

原因：プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES が使用されているときに、埋込み PL/SQL ブロックで PIC N または PIC G 変数が使用されました。この状態では PIC N または PIC G 変数はサポートされていません。

処置：PL/SQL ブロック内に PIC N または PIC G 変数を使わないでください。プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=NO を使用してください。

PCB-00206 NLS_LOCAL=YES のとき、PL/SQL で引用符リテラルの N は使用できません。

原因：プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES が使用されているときに、"N" リテラル（フォーム N'...' のリテラル）が PL/SQL ブロック内で使用されています。この状態では N リテラルはサポートされていません。

処置：通常のリテラル（"N" のないリテラル）を PL/SQL ブロック内で使用するか、プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=NO を使用してください。

PCB-00207 NLS_LOCAL=YES のとき、PIC N または PIC G 表変数は使用できません。

原因：OCCURS 句を使用して、PIC N 変数が宣言されました。NLS_LOCAL=YES のとき、PIC N 変数の表はサポートされていません。

処置：OCCURS 句を使用せず PIC N 変数を宣言してください。または、SQL 文で PIC N 変数を使わないでください。

PCB-00208 ホスト変数 *string* の型が正しくありません。

原因：SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックに、サポートされていないデータ型の変数が使用されています。

処置：サポートされているデータ型のホスト変数を使用してください。

PCB-00209 ホスト変数 *string* に対してスケールはサポートされていません。

原因：SQL 文または埋込み PL/SQL でスケールをサポートしていない形式の変数が使用されました。次の形式はスケールをサポートしていません。

```
PIC S9(n) COMP  
PIC S9(n) COMP-4  
PIC S9(n) COMP-5  
PIC S9(n) BINARY  
PIC 9(n) COMP
```

処置：スケールを削除するか、スケールをサポートするデータ型を使用してください。

PCB-00210 PIC G および PIC N 変数 *string* では DISPLAY-1 だけ可能です。

原因: USAGE 句で DISPLAY-1 を指定し、PICTURE 句で PIC G または PIC N を指定しないで宣言された変数が、SQL 文で使用されました。

処置: DISPLAY-1 を DISPLAY に置き換えるか、PICTURE 句を PIC N または PIC G を使用するように変更してください。

PCB-00211 VARYING は PIC N または PIC G 変数 *string* でサポートされていません。

原因: キーワード VARYING が PIC N 変数宣言で使用されました。

処置: 変数宣言からキーワード VARYING を削除してください。PIC N VARCHAR 変数を宣言する場合は、次の例にあるように、プリコンパイラ・オプション VARCHAR=YES を指定して、変数を暗黙の VARCHAR グループ項目として宣言してください。

```
EXEC SQL BEGIN
DECLARE SECTION END-EXEC.
...
      01  ENAME.
          05  ENAME-LEN  PIC S9(4) COMP.
          05  ENAME-ARR  PIC N(20) .
...
EXEC SQL END DECLARE
SECTION END-EXEC.
```

PCB-00212 PICTURE 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。

原因: PIC 句および COMP-1 または COMP-2 で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: PIC 句を削除するか、変数宣言で COMP-1 または COMP-2 以外のデータ型を使用してください。

PCB-00214 JUSTIFIED 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。

原因: JUSTIFIED 句を指定して宣言した変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: 変数宣言から JUSTIFIED 句を削除してください。

PCB-00215 OCCURS TO TIMES 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。

原因: TO TIMES 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: 変数宣言から TO TIMES 副次句を削除してください。

PCB-00216 OCCURS ASCENDING/DESCENDING は *string* に対して使用できません。

原因: ASCENDING または DESCENDING KEY IS 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: 変数宣言から ASCENDING または DESCENDING KEY IS 副次句を削除してください。

PCB-00217 OCCURS INDEXED 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。

原因: OCCURS INDEXED 句を指定して宣言した変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: 変数宣言から OCCURS INDEXED 句を削除してください。

PCB-00218 RENAMEs 句はホスト変数 *string* に対して使用できません。

原因: RENAMEs 句を指定して宣言した変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: 宣言から RENAMEs 句を削除してください。

PCB-00219 EXEC SQL VAR 文で指定したサイズは無効です。

原因: 指定されたデータ型に無効なサイズが指定されました。

処置: 指定された型に有効なサイズを指定してください。

PCB-00220 EXEC SQL VAR 文で指定したスケールは無効です。

原因: 指定されたデータ型に無効なスケールが指定されました。

処置: 指定された型に有効なスケールを指定してください。

PCB-00221 ホスト変数 *string* に OCCURS DEPENDING ON 句は使用できません。

原因: DEPENDING ON 副次句を指定した OCCURS 句で宣言された変数が、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックで使用されました。

処置: 変数宣言から DEPENDING ON 副次句を削除してください。

PCB-00222 ホスト変数 *string* のサイズが最大サイズを超えています。

原因: 既存のプラットフォームで許可されているものよりも大きい *n* を指定した PIC S9 (*n*) で宣言した変数が、埋込み SQL 文で使用されました。32 ビット・マシンでは、*n* は 9 を超えることはできません。64 ビット・マシンでは、*n* は 18 を超えることはできません。

処置: PICTURE 句で小さい値を指定し、使用しているプラットフォームの最大許容サイズを超えないようにするか、または COMP-3 を使用してください。

PCB-00223 変数 *string* が宣言されていません。

原因: SQL 文で使われる変数が宣言されていないか、名前の綴りが間違っています。または、オプションで DECLARE_SECTION=YES を指定した場合に、宣言が DECLARE SECTION にありませんでした。

処置: 変数の宣言を追加するかまたは修正してください。

PCB-00224 変数 *string* への参照が不明瞭です。

原因: 同じ名前の変数が複数個あり、指定された修飾子がどの変数を参照するのか判別するのに不十分です。

処置: 変数参照で明確な修飾子を使用してください。

PCB-00225 SQL 識別子 *string* が宣言されていません。

原因: 記述子、文またはカーソルの名称を宣言していないか、またはその綴りが間違っています。あるいは、別のタイプの SQL 識別子として宣言されています。

処置: 記述子、文またはカーソルの宣言を追加するかまたは修正してください。

PCB-00226 SQL 識別子 *string* はすでに定義されています。

原因: SQL 識別子（カーソル名、文名など）がすでに別の方法で定義されています。

処置: このような名前を使用するには、別の名前を使用してください。

PCB-00227 標準変数 *string* が宣言されていません。

原因: SQL 文で使用している標識変数が宣言節内で宣言されていないか、または綴りが間違っています。

処置: 標識変数の宣言を追加するかまたは修正してください。

PCB-00228 グループ項目変数 *string* が無効です。

原因: SQL 文で使用できないグループ項目変数が使用されたか、名前の綴りが間違っています。

処置: グループ項目変数の宣言または SQL 文での使用を修正してください。

PCB-00229 標準変数 *string* の型または長さが誤りです。

原因: 標識変数を宣言節内で 2 バイトの整数として宣言していません。標識変数は 2 バイトの整数として定義する必要があります。

処置: 標識変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

PCB-00230 標識表のサイズはホスト変数より大きくなければなりません。

原因: ホスト変数配列が、より小さいディメンションで宣言された標識配列とともに使用されました。次に例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
01 EMP-NUM          OCCURS 4 TIMES PIC S9(4) COMP.  
01 EMP-NUM-IND      OCCURS 2 TIMES PIC S9(4) COMP.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.  
...  
SELECT ... INTO EMP-NUM:EMP-NUM-IND ...
```

処置: 標識配列のサイズを大きくしてください。

PCB-00231 ホスト変数名と indicator 変数名が一致してはいけません。

原因：1つの EXEC SQL 文内で、indicator 変数名がホスト変数の名前と同一です。ホスト変数の名前とそれに対応付けた indicator 変数名は異なっている必要があります。さらに、indicator 変数はホスト変数としては使用できません。

処置：ホストまたは indicator 変数を変更してください。

PCB-00232 SELECT 文では表を入力バインド変数として使用できません。

原因：ホスト表を SELECT-INTO 文の WHERE 句内または SELECT-INTO 文の SELECT リストで使用しています。

処置：表を使用しないように SELECT 文を修正するか、またはカーソルを使用してください。

PCB-00233 INTO/USING 句の表サイズが一致しません。最小値: *number*

原因：INTO/USING 句内の表変数のサイズが、処理された行数に対して小さすぎます。

処置：表示された最小サイズ以上になるように INTO/USING 句内のすべての表変数を宣言してください。

PCB-00234 FOR 句の変数 *string* の型が無効です。

原因：FOR 句内のカウント変数のデータ型に誤りがあります。このデータ型は NUMBER 型または LONG 型（あるいは NUMBER 型または LONG 型と互換性のあるもの）でなければなりません。

処置：宣言を調べて、カウント変数のデータ型が NUMBER または LONG（あるいは、互換性のある Oracle またはホスト言語データ型）かどうかを確認してください。

PCB-00235 INTO/USING 句の表サイズが一致しません。最小値: *number*

原因：動的 EXECUTE 文の INTO/USING 句内の表変数サイズが ARRAYLEN...EXECUTE されましたが、他のホスト変数は ARRAYLEN...EXECUTE されておらず、1次元の表または標準の表ではないホスト変数でもありません。次に例を示します。

```
01 X PIC X(10) OCCURS 10.  
01 Y PIC S9(4) COMP OCCURS 10.  
01 Z PIC S9(4) COMP. ... EXEC SQL ARRAYLEN X (DIM) EXECUTE END-EXEC.  
... EXEC SQL EXECUTE S1 USING :X, :Y END-EXEC. <-- error EXEC SQL  
EXECUTE S1 USING :X, :Z END-EXEC. <-- ok
```

警告ではなく、エラーであるという点において、このエラーは PCB-00233 とは異なることに注意してください。

処置：INTO/USING 句のすべての表変数または1次元である必要がある ARRAYLEN...EXECUTE されていないホスト変数を ARRAYLEN...EXECUTE してください。

PCB-00236 PIC N/G 変数を使用できません。NLS_NCHAR が未設定か、設定が正しくありません。

原因: ホスト変数として PIC N または PIC G 変数を使用するには、環境変数の NLS_LANG および NLS_NCHAR の両方を正しい値で設定する必要があります。次のいずれの問題が発生すると、Pro*COBOL が PIC N および PIC G 変数をホスト変数として使用できません。

- NLS_LANG および NLS_NCHAR のいずれか、または両方がまったく設定されていない。
- NLS_LANG が有効な言語、地域または文字セットで設定されていない。
- NLS_NCHAR が、有効な NCHAR 文字列に設定されていない。
- NLS_NCHAR で指定した文字セットが、固定幅の文字セットではない。
Pro*COBOL は、PIC N または PIC G ホスト変数に対して、固定幅の文字セットのみを使用できます。

処置: 環境変数 NLS_NCHAR を有効な固定幅の文字セット名に設定してください。
NLS_LANG を有効な言語、地域または文字セットで設定してください。

PCB-00237 string の宣言では、レベル番号が 48 を超えることはできません。

原因: レベル番号が 49 以上の VARYING または SQL-CURSOR 宣言が発生しました。

処置: レベルを 48 以下に変更してください。

PCB-00238 この表グループ項目のホスト変数は、表を要素にできません。

原因: 表であり、かつ表である要素を持つグループ項目が SQL 文で使用されました。

処置: OCCURS 句をグループ項目の要素から削除してください。

PCB-00239 表グループ項目の標識は、表またはグループ項目を要素にできません。

原因: 表であり、かつ標識として使用されるグループ項目に、表またはグループ項目である要素があります。

処置: 標識における NESTED TABLE またはグループ項目が要素項目となるように変更してください。

PCB-00240 このホスト変数を含むグループ項目には、表を使用できません。

原因: OCCURS 句でグループ項目に属する基本項目が参照されました。これは許可されていません。

処置: グループ項目の表の要素ではない項目に使用された基本項目を変更してください。

PCB-00241 ここではホスト変数が必要です。

原因: 動的 SQL 文の COUNT 項目はホスト変数である必要がありますが、ホスト変数が使用されていません。

処置: 動的 SQL 文の COUNT 項目にホスト変数を使用してください。

PCB-00242 ここではホスト変数または真数値定数が必要です。

原因：動的 SQL 文のこの項目は、ホスト変数または真数値（整数）定数である必要がありますが、定数が使用されていません。

処置：動的 SQL 文の項目を変更し、ホスト変数または真数値定数を使用してください。

PCB-00300: ホスト変数のデータ型は ANSI string でサポートされていません。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、VARCHAR などのポインタまたは非標準型データ型が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
01 USERNAME          PIC X(10) VARYING.  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。

PCB-00301 Non-ANSI 機能の使用は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、NON-ANSI 機能が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準型の場合は、この機能を使用しないでください。

PCB-00302 この文は ANSI ではサポートされません。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、PREPARE などの非標準 SQL 文が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL PREPARE SQL-STMT FROM :HV END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準型の場合は、非標準文を使用しないでください。

PCB-00303 動的 SQL と PL/SQL は、ANSI SQL への Oracle 拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、動的 SQL または埋込み PL/SQL が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL EXECUTE BEGIN SELECT ... END; END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、動的 SQL または埋込み PL/SQL を使用しないでください。

PCB-00304 WHENEVER 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、NOTFOUND、STOP、RAISE または DO などの非準拠キーワードが WHENEVER 文に使用されました。(ただし、NOT FOUND は ANSI 準拠です)。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR STOP END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠キーワードを使用しないでください。

PCB-00305 COMMIT 文と ROLLBACK 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、パラメータ RELEASE、COMMIT または FORCE が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ROLLBACK RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠パラメータを使用しないでください。

PCB-00306 CREATE FUNCTION/PROCEDURE/PACKAGE/TRIGGER は、Oracle 拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、次のいずれかの文が使用されました。

- CREATE FUNCTION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PACKAGE
- CREATE TRIGGER

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

PCB-00307 DROP TABLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、DROP TABLE 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、DROP 文を使用しないでください。

PCB-00308 FOR 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、FOR 句が表処理 SQL 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL FOR :LIMIT INSERT INTO EMP (EMPNO, JOB, DEPTNO)
VALUES (:EMPNUM, :JOB, :DEPTNO) END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、FOR 句を使用しないでください。

PCB-00309 CONNECT 文は、Oracle 依存処理系です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、CONNECT 文が Oracle にログオンするために使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL CONNECT:USERNAME IDENTIFIED BY:PSSWORD END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、CONNECT 文を使用せずに AUTO_CONNECT コマンド行オプションを指定してください。

PCB-00310 AT 句は Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、SQL 文で AT *db_name* 句が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL AT oracle3 COMMIT RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、AT *db_name* 句を使用しないでください。

PCB-00311 データ型の同等化は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、EXEC SQL VAR 文が使用されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、EXEC SQL VAR 文を使用しないでください。

PCB-00312 ここにはキーワード WORK が必要です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、キーワード WORK が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL COMMIT WORK RELEASE END-EXEC.
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、キーワード WORK を使用しないでください。

PCB-00313 TO SAVEPOINT 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、TO SAVEPOINT *save_id* 句が ROLLBACK 文で使用されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、TO SAVEPOINT 句を使用しないでください。

PCB-00314 DECLARE DATABASE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、DECLARE DATABASE 文が使用されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00315 DECLARE TABLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、DECLARE TABLE 文が使用されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00316 SQL FORMS 文は、Oracle 拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、次のいずれかの文が使用されました。

- EXEC IAF GET
- EXEC IAF PUT
- EXEC TOOLS GET
- EXEC TOOLS SET

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

PCB-00317 グループ項目のホスト変数は、Oracle 拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数としてグループ項目の変数が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、グループ項目をホスト変数として使用しないでください。

PCB-00318 ARRAYLEN は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ARRAYLEN 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00319 EXEC ORACLE 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、EXEC ORACLE 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00320 VARYING ホスト変数 *string* は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、VARYING 型で宣言された変数が SQL 文に使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00321 暗黙の VARCHAR ホスト変数は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、暗黙的な VARCHAR 変数が SQL 文で使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00322 EXEC SQL LOB 文は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、EXEC SQL LOB 文が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、この文を使用しないでください。

PCB-00400 *string*

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 適切な処置を行い、示されたエラーを修正してください。

PCB-00401 文字列が正しく終了していません。

原因: 文字列が適切な引用符またはアポストロフィで文字列が終了していません。

処置: 文字列が正しく終了していること、および行継続の構文が正しいことを確認してください。

PCB-00402 擬似テキストが正常に終了していません。

原因: 擬似テキストのブロックが、"==" で正しく終了していませんでした。

処置: 適切な位置に "==" を付けて擬似テキストを終了してください。

PCB-00403 EXEC 文は領域 A からは開始できません。

原因: EXEC 文が領域 A (列 12 より前) で始まっています。

処置: EXEC 文を右に移動し、領域 B (列 12 以降) で始まるようにしてください。

PCB-00404 *string*

原因: 構文エラーが検出されました。

処置: 適切な処置を行い、示されたエラーを修正してください。

PCB-00500 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されないで、THREADS=YES オプションが要求されました。

処置: 必要な (SQL_CONTEXT 型の) コンテキスト変数が、実行可能な SQL 文の前で宣言、割当ておよび使用されているか確認してください。

PCB-00501 実行時コンテキスト変数 *string* の型が正しくありません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文で参照される実行時コンテキスト変数の型が SQL_CONTEXT ではありません。

処置: SQL_CONTEXT 型の実行時コンテキスト変数を宣言してください。

PCB-00502 この文は THREADS=YES を指定した場合のみ使用可能です。

原因: THREADS オプションが NO と設定されているが、EXEC SQL ENABLE THREADS が使用されました。

処置: オプション THREADS=YES を指定するか、またはソース・コードから EXEC ENABLE THREADS 文または EXEC SQL CONTEXT 文を削除してください。

PCB-00525 ここで AT 句は使用できません。

原因: 明示的 AT 句が ALLOCATE 文または FETCH/CLOSE 文 (SQL_CURSOR 宣言を使用) と同時に使用されました。

処置: AT 句の指定を削除してください。

PCB-00550 *string* で Oracle にログオンできません。Oracle エラー番号: *number*

原因: プリコンパイラは、指定されたユーザー名およびパスワードで Oracle にログオンできませんでした。ログオンしようとしたときに表示された番号の Oracle エラーが発生しました。

処置: 示された Oracle データベースのエラー・メッセージを探して、適切な処置を行ってください。

PCB-00551 SQLCA はすでに挿入されています。

原因: SQLCA がすでに組み込まれた後で、プリコンパイラは SQLCA 文の組み込みを検出しました。SQLCA は一度しか組み込めません。

処置: 重複した組み込み SQLCA 文を削除してください。

PCB-00552 SQLCA と SQLCODE 変数は、両方使用できません。

原因: SQLCA が組み込まれ、SQLCODE 変数が宣言されました。SQLCODE 変数に対する参照はあいまいで COBOL コンパイラ・エラーを引き起こす可能性があるので、これは許可されていません。

処置: SQLCA 変数または SQLCODE 変数のいずれかを使用してください。SQLCA の組み込みまたは SQLCODE 変数宣言のいずれかを削除してください。

PCB-00553 この文に FOR 句は使えません。

原因: FOR 句が SELECT、LOB または DEALLOCATE DESCRIPTOR 文で使用されました。FOR 句はこれらの文で使用できません。SELECT 文の場合、SELECT を実行して最後のループから戻されたデータは、前のループで戻されたデータを上書きします。

処置: FOR 句を文から削除してください。ホスト言語構造を使用して、文を反復して実行してください。

PCB-00554 Mode=ANSI で WHENEVER SQLWARNING 文を使うとき、SQLCA が必要です。

原因: MODE={ANSI|ANSI14} の場合に、SQLCA を宣言せずに WHENEVER SQLWARNING 文を使用しようとしていました。MODE={ANSI|ANSI14} の場合には、SQLCA の宣言は任意ですが、WHENEVER SQLWARNING 文を使用するには、SQLCA を宣言する必要があります。

処置: プログラムから WHENEVER SQLWARNING 文をすべて削除するか、SQLCA をハードコーディングして宣言するか、INCLUDE 文でプログラムにコピーしてください。

PCB-00555 WHERE CURRENT OF 句で定義するカーソルには FOR UPDATE 句も必要です。

原因: MODE=ORACLE の場合、WHERE CURRENT OF 句で定義されたカーソルには FOR UPDATE 句が必要です。

処置: カーソル定義を修正してください。

PCB-00556 リカバリ不能なエラー。前のエラーを修正して再事前コンパイルしてください。

原因: 致命的な解析エラーまたはトークン・スタック・オーバーフローが検出されました。

処置: 解析エラーの原因となっている構文エラーを修正してください。

PCB-00557 USING 句は、PREPARED の動的な文でだけ使用できます。

原因: OPEN カーソル文で USING 句が使用され、カーソル宣言が PREPARE された文に対するものでなかったため、重大な意味エラーが発生しました。正しい順序は、次のとおりです。

```
EXEC SQL prepare sv from :sel_stmt END-EXEC.  
EXEC SQL declare csv cursor for sv END-EXEC.  
EXEC SQL open csv USING :hv1, :hv2 END-EXEC.
```

処置: SQL 文および DECLARE CURSOR 文で PREPARE 文を使用してください。

PCB-00558 EXEC SQL VAR 文で無効な外部データ型が指定されました。

原因: 無効な外部データ型が EXEC SQL VAR 文で指定されました。

処置: 有効な外部データ型を指定してください。

PCB-00575 PLS-number: string

原因: 示された PL/SQL エラー・メッセージからエラー条件を調べてください。

処置: 表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを修正してください。

PCB-00576 PLS-number: string

原因: 埋込み SQL 文または PL/SQL ブロックで、プリコンパイラがエラーを検出しました。

処置: 表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを修正してください。

PCB-00577 SQL 文内でホスト表を宣言した ARRAYLEN 文を使用しても無視されます。

原因: ARRAYLEN は PL/SQL でのみ有効です。

処置: 適切な表タイプを使用してください。

PCB-00578 変数 string は表である必要があります。

原因: ARRAYLEN 文に、以前宣言したホスト配列の名前が指定されませんでした。ARRAYLEN 文での最初のホスト変数は表である必要があります。2 番目のホスト変数には 4 バイトの整数で配列を指定します。正しい構文は次のとおりです。

```
EXEC SQL ARRAYLEN HTABLE (DIM) END-EXEC.
```

ARRAYLEN 文は、HOST_TABLE および要素数の宣言より後ろにある必要があります。

処置: ARRAYLEN 文の両方の識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているホスト配列名を指定します。

PCB-00579 *string* に対する ARRAYLEN 文の長さの変数型が無効です。

原因: ARRAYLEN 文に有効な表の要素数が指定されませんでした。表の要素数は、リテラルや式ではなく、以前に宣言した 4 バイトの整数型ホスト変数を使用して指定する必要があります。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ARRAYLEN ETABLE (25) END-EXEC. -- illegal dimension
```

処置: 有効な表の要素数を指定してください。ARRAYLEN 文で使用する場合は、必要に応じて、4 バイトの整数型ホスト変数を宣言してください。

PCB-00580 以前に使用したホスト変数 *string* では異なる識別子を使用されています。

原因: PL/SQL 文内で、ホスト変数に異なる 2 つの標識変数を使用されているか、インスタンスのある標識変数とインスタンスのない標識変数を使用されています。

処置: ホスト変数に対する参照をすべて変更して、すべてのホスト変数が同じ標識変数を使用するか、または標識変数を使用しないように設定してください。

PCB-00581 *string* は、ホスト変数と識別子の両方で使用されました。

原因: PL/SQL 文内で、同じ変数がホスト変数と標識変数の両方として使用されています。

処置: ホスト変数および標識変数に異なる変数を使用してください。

PCB-00600 EXEC IAF 文で標識変数は使用できません。

原因: ホスト変数と対応付けられている標識変数を、ユーザー・イグジットの EXEC IAF 文 (GET や PUT など) で使用できません。

処置: 標識変数を排除してください。可能であれば (たとえば Forms V4 などのように)、EXEC TOOLS 文を使用してください。EXEC TOOLS 文では、標識変数を許可しています。EXEC IAF および EXEC TOOLS 文の詳細は、『Oracle8i Pro*COBOL プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCB-00603 EXEC TOOLS MESSAGE 文で使用するホスト変数がキャラクタ・タイプではありません。

原因: EXEC TOOLS MESSAGE 文にメッセージを指定するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

処置: CHAR 型のホスト変数に対してメッセージを宣言してください。

PCB-00625 この属性では標準変数は必要ありません。

原因: LOB DESCRIBE で、標準変数を必要としない LOB 属性の取出し中に、標準変数がホスト変数とともに使用されました。

処置: 標準変数を削除してください。

PCB-00626 LOB の型が一致しません。

原因: 型が一致していない LOB の間で、LOB 操作を実行しようとした。たとえば、LOB を別の LOB に ASSIGN している場合、LOB は両方とも同じ型である必要があります。同じ型でない場合、このエラーとなります。

処置: 同じ型の LOB 間で機能するように、LOB 操作を修正してください。指定の操作を実行する LOB 文で使用される LOB のうちの 1 つを、再宣言する必要があります。

PCB-00627 ホスト変数がキャラクタ・タイプではありません。

原因: 指定されたホスト変数が、必要なキャラクタ・タイプとして宣言されませんでした。この場合、いくつかの可能なキャラクタ・タイプの 1 つが受け入れられます。しかしホスト変数型は、そのいずれにも一致しませんでした。

処置: 許可されているキャラクタ・タイプの 1 つを使用して、問題のあるホスト変数を再宣言してください。

PCB-00628 バッファ型が LOB の型と一致しません。

原因: このエラーは、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- LOB 型と一致しない型のバッファへ LOB から読み込もうとした。
- バッファ型と一致しない型の LOB へバッファを書き込もうとした。

処置: LOB 型およびバッファ型が指定された操作と互換性を持つように、LOB 型またはバッファ型のいずれかを変更してください。

PCB-00629 ホスト変数が内部 LOB 型ではありません。

原因: 指定されたホスト変数が内部 LOB として宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB は内部 LOB 型です。

処置: 内部 LOB 型の 1 つを使用して、ホスト変数を再宣言します。

PCB-00630 ホスト変数が LOB 型ではありません。

原因: 指定されたホスト変数は、内部 LOB 型または外部 LOB 型のいずれにも宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB は内部 LOB 型です。BFILE は外部 LOB 型です。

処置: 内部 LOB 型または外部 LOB 型を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCB-00631 ホスト変数が外部 LOB ではありません。

原因: 指定されたホスト変数は、外部 LOB 型として宣言されませんでした。BFILE は外部 LOB 型です。

処置: 外部 LOB 型 (BFILE) を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCB-00632 READ WRITE モードで外部 LOB をオープンできません。

原因: BFILE を READ WRITE モードでオープンしようとした。書込み可能な BFILE は現在サポートされていないため、この操作にはエラーであるとみなされます。

処置: READ WRITE モードを使用して、BFILE をオープンしないでください。BFILE は READ ONLY モードでのみオープンできます。

PCB-00633 ホスト変数と属性の組合わせが無効です。

原因: LOB DESCRIBE のホスト変数および属性の組合わせが無効でした。この場合、ホスト変数に問題がある可能性があります。たとえば、ホスト変数が宣言されていない場合、このエラーが発生します。

処置: 通常、さらに明確なその他のエラーが出力されます。いくつかの問題またはすべての問題を修正すると、このエラーを解決できます。

PCB-00635 この属性は内部 LOB 型に対してだけ有効です。

原因: LOB が内部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置: LOB DESCRIBE の LOB ホスト変数を内部 LOB として宣言された変数と置き換えてください。

PCB-00636 この属性は外部 LOB 型に対してだけ有効です。

原因: LOB が外部 LOB 型 (BFILE) でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置: 外部 LOB 型 (BFILE) ホスト変数を LOB DESCRIBE 文で使用してください。

PCB-00637 ホスト変数が正しい 2 進整数ではありません。

原因: ホスト変数が、受入れ可能な正しい 2 進整数型として宣言されないように指定されました。一般に、このエラーが発生すると、符号ありまたは符号なしの整数型が必要です。浮動小数点または正確でない数値型は、エラーがあるとみなされます。

処置: 問題のあるホスト変数を、正しい 2 進整数型を使用して宣言された変数に置き換えてください。

PCB-00638 この属性は内部または外部 LOB 型に対してだけ有効です。

原因: 指定されたソースが内部または外部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性に対して要求されました。

処置: LOB DESCRIBE 文で LOB ホスト変数を使用してください。

PCB-00639 LOB WRITE APPEND では宛先オフセットを指定できません。

原因: 宛先オフセットが LOB WRITE APPEND 文で指定されました。宛先オフセットは LOB の終わりとみなされるので、明示的な宛先オフセットを指定するとエラーになります。

処置: LOB WRITE APPEND 文から宛先オフセットを削除してください。

PCB-00700 この文は DYNAMIC=ANSI を指定しないと使用できません。

原因: DYNAMIC=ANSI を指定しないで、次の文のいずれかが使用されました。

- EXEC SQL ALLOCATE/DEALLOCATE/GET/SET DESCRIPTOR

-
- EXEC SQL DESCRIBE OUTPUT/INPUT ...USING ... *descriptor_name*
 - EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
 - EXEC SQL EXECUTE ...USING... *descriptor_name*
 - EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
 - EXEC SQL EXECUTE ...USING... *descriptor_name*
 - SCROLL in DECLARE CURSOR
 - EXEC SQL FETCH *orientation* (*orientation* は NEXT、PRIOR、FIRST、LAST、ABSOLUTE または RELATIVE のいずれか)

処置: DYNAMIC=ANSI を指定するか、前述の文を削除してください。

PCB-00701 MAX OCCURRENCES は 1 から 65535 の間でなければなりません。

原因: EXEC SQL ALLOCATE DESCRIPTOR 文の WITH MAX 句で指定された値が、1 未満の値または 65535 を超える値でした。

処置: 値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

PCB-00702 項目番号が範囲外です。

原因: EXEC SQL GET/SET DESCRIPTOR 文の VALUES 句で指定された値が、1 未満の値または 65535 を超える値でした。

処置: 値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

PCB-00901 Pro*COBOL の内部エラー条件が見つかりました。(コード = *number*)

原因: Pro*COBOL は、内部データ構造に異常条件を検出しました。このエラー・メッセージは、通常は表示されません。オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡し、エラーを報告してください。

処置: 報告されている他のエラーを修正してください。修正後も、内部エラーが存在する場合は、条件が検出されたソース・コード部分を調べて、なんらかの方法で変更を試みてください。これによって内部エラー条件が軽減される可能性があります。

PCB-00902 メッセージ・ファイルを読み込めません (機能 PCB)。

原因: Pro*COBOL は、メッセージ・テキストが入ったメッセージ・ファイルにアクセスできませんでした。このファイルは壊れている可能性があります。

処置: Pro*COBOL メッセージ・ファイルの再インストールについては、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合せてください。

PCB-00903 Pro*COBOL で、その解析機能を初期化できません。

原因: Pro*COBOL は、メッセージ・テキストが入ったメッセージ・ファイルにアクセスできませんでした。このファイルは壊れている可能性があります。

処置: Pro*COBOL メッセージ・ファイルの再インストールについては、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合せてください。

PCF FIPS メッセージ (PCF)

この章では、プリコンパイラ・コマンド行オプション FIPS=YES を指定するとき、および ANSI/ISO 埋込み SQL 標準への Oracle 拡張機能を使用するときに生成されるメッセージを列挙します。コードを標準に準拠させる場合は、メッセージ中に記述されている Oracle 拡張機能は使用しないでください。

PCF-00251 SQLCODE は使用すべきでない機能です。

PCF-00252 SQL 内での C プリプロセッサの使用

PCF-00253 AT 句の使用

PCF-00254 FOR 句の使用

PCF-00255 CONNECT 文の使用

PCF-00256 SQLCODE は非標準値を戻します

PCF-00257 COMMIT の後にはキーワード WORK が必要です。

PCF-00258 ROLLBACK の後にはキーワード WORK が必要です。

PCF-00259 TO SAVEPOINT 句の使用

PCF-00260 RELEASE 句の使用

PCF-00261 動的 SQL の使用

PCF-00262 PL/SQL の使用

PCF-00263 WHENEVER 句内の SQLWARN の使用

PCF-00264 WHENEVER 句内の NOTFOUND の使用

PCF-00265 COMMIT と COMMENT 句の使用

PCF-00266 WHENEVER 句内の STOP の使用

PCF-00267 FORCE TRANSACTION 句の使用

PCF-00268 WHENEVER 句内の DO の使用

PCF-00269 DECLARE TABLE 文の使用

PCF-00270 DECLARE DATABASE 文の使用

PCF-00271 EXEC SQL INCLUDE の使用

PCF-00272 データ型同値化の使用

PCF-00273 SQL FORMS 文の使用

PCF-00274 EXEC ORACLE 文の使用
PCF-00275 データ型が無効です。
PCF-00276 DROP TABLE 文の使用
PCF-00277 非 ANSI 機能の使用
PCF-00278 ALLOCATE 文の使用
PCF-00279 PL/SQL オブジェクト作成のための CREATE の使用
PCF-00280 OBJECT Navigational Interface の使用
PCF-00281 LOB 文の使用
PCF-00282 COLLECTION 文の使用

Pro* メッセージ (PCC)

PCC-00001 ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラは内部的に使用するためのテンポラリ・ファイルをオープンできませんでした。ディスク領域が不足しているか、オープンするファイルが多すぎるか、または出力ディレクトリは読取り専用に保護されている可能性があります。

処置: 十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていること（システム管理者に問い合わせてください）、ディレクトリ保護がオープン・ファイルへの書き込みを許可していることを確認してください。

PCC-00002 構文が無効です（列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*）。

原因: EXEC 文に構文エラーがあるか、または文が正しく終了していません。

処置: EXEC 文の構文を修正してください。入力ファイルの最後でエラーが発生した場合は、最後の EXEC 文が正しく終了していることを確認してください。

PCC-00003 SQL 識別子が無効です（列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*）。

原因: 条件付きプリコンパイル文（EXEC ORACLE IFDEF など）内の記号に誤りがあります。または、SQL の記述子、文またはカーソルの名前に誤りがあるかまたは正しく宣言されていません。

処置: 文の構文および識別子の綴りを調べて、予約語を使用していないことを確認してください。必要に応じて、エラーのある行の前の変数宣言または DECLARE 文に記述子を定義してください。

PCC-00004 対応していない IF/ELSE/ENDIF ブロックがあります（行 *number*, ファイル *string*）。

原因: EXEC ORACLE IFDEF 文と一致しない EXEC ORACLE ELSE 文または EXEC ORACLE ENDIF 文があります。

処置: 欠落している EXEC ORACLE IFDEF 文を追加するか、または EXEC ORACLE ELSE または EXEC ORACLE ENDIF 文を削除または移動してください。

PCC-00005 サポートされていないデータ型があります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言節で定義したホスト変数がサポートしていないデータ型であるか、またはサポートされている範囲外の位取りまたは精度です。

処置: サポートされているデータ型を使用してホスト変数を再定義してください。数値変数の位取りおよび精度が受入れ可能な範囲内であることを確認してください。

PCC-00007 WHENEVER 条件が無効です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQLERROR、SQLWARNING または NOT FOUND 以外の状態を EXEC SQL WHENEVER 文で指定したか、またはこれらのいずれかを指定しているのに綴りが間違っています。

処置: WHENEVER 条件の綴りを修正するか、またはホスト言語の IF 文を使用して特殊な条件をテストしてください。

PCC-00008 WHENEVER アクションが無効です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 次のいずれかの原因が考えられます。

- CONTINUE、DO、GOTO または STOP 以外のアクションを EXEC SQL WHENEVER 文で指定した。
- 指定したアクションの 1 つに綴りの誤りがある。
- ホスト言語がこのアクションを許可していない (STOP は Pro*Pascal プログラムでは無効です)。
- GOTO ラベルが誤っている。

処置: 指定された WHENEVER アクションがホスト言語で許可されているかどうかを確認してください。必要に応じて、WHENEVER アクションの綴りを修正するか、または GOTO ラベルを修正してください。

PCC-00009 ホスト変数が無効です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC SQL 文で使用されているホスト変数が、宣言節で宣言されていないか、サポートされていないデータ型です。

処置: サポートされているデータ型を指定していることを確認し、ホスト変数を宣言節内に宣言してください。

PCC-00010 文の位置が正しくありません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC 文がホスト・プログラム内の正しい位置にありません。たとえば、宣言節内に DML 文がある場合などです。Pro*COBOL プログラムであれば、宣言節が WORKING-STORAGE または LINKAGE SECTION 外にある可能性があります。

処置: この文を削除するか、または位置を変更してください。

PCC-00011 すでに declare section 内です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言節内に BEGIN DECLARE SECTION 文が見つかりました。

処置: 余分の BEGIN DECLARE SECTION 文を削除してください。

PCC-00012 declare section 内ではありません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: BEGIN DECLARE SECTION 文と一致しない END DECLARE SECTION 文が見つかりました。BEGIN_DECLARE_SECTION 文が欠落しているか、綴りが間違っているか、または END DECLARE SECTION 文が余分であるかのいずれかです。

処置: BEGIN DECLARE SECTION 文を追加または修正するか、余分な END DECLARE SECTION 文を削除してください。

PCC-00013 include ファイル *string* をオープンできません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは INCLUDE 文で指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいか確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。さらにディスク領域が十分にあり、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることを確認してください (システム管理者に問い合せて確認してください)。

PCC-00014 SQL 識別子 *string* が宣言されていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 記述子、文またはカーソルの名前が宣言されていないか、またはその綴りが間違っています。

処置: 記述子、文またはカーソルの宣言を追加するかまたは修正してください。

PCC-00015 不明なホスト言語構文は無視されました (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言節内にホスト変数を定義するために使用しているホスト言語の構文に誤りがあります。

処置: 構文および綴りを調べ、宣言を修正してください。

PCC-00016 カーソルをオープンできません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 文の構文が誤っています。プリコンパイラはホスト言語を想定しているのにそれ以外のものがあります。

処置: 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

PCC-00017 文を解析できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 配列の宣言に構文エラーがあります。プリコンパイラは右大カッコ (]) を想定しているのにそれ以外のものがあります。

処置: 構文を調べて、配列宣言を修正してください。

PCC-00018 *string* が必要ですが、*string* が見つかりました (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 文の構文が誤っています。プリコンパイラは予想外の不適切なトークンを見つけました。

処置: 構文および綴りを調べ、SQL 文を修正してください。

PCC-00019 バインド変数を取得できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは、SQL 文内で使用している入力ホスト変数 (バインド変数) に関する情報を見つけられませんでした。

処置: 入力ホスト変数が宣言節で宣言され、SQL 文で正しく使用されていることを確認してください。

PCC-00020 定義変数を取得できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは SQL 文内で使用している出力ホスト変数 (定義変数) に関する情報を見つけられませんでした。

処置: 出力ホスト変数が宣言節で宣言され、SQL 文で正しく使用されていることを確認してください。

PCC-00021 Oracle エラーが発生しました: *string*

原因: Oracle エラーが発生しました。

処置: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されているメッセージを参照してください。

PCC-00022: 領域が足りません。 *number* バイトを割り当てられません。

原因: プリコンパイラ・プロセスがメモリーを使い果たしました。

処置: このプロセスにより多くのメモリーを割り当ててください。その後再実行してください。

PCC-00023: Oracle からログオフできません。

原因: Oracle がシャットダウンされたため、プリコンパイラがログオフしようとしている間に Oracle の接続エラーが発生しました。

処置: Oracle が使用可能であることを確認してください。その後、再実行してください。

PCC-00024 標識変数 *string* の型または長さが正しくありません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 標識変数を宣言節内で 2 バイトの整数として宣言していません。標識変数は 2 バイトの整数として定義する必要があります。

処置: 標識変数を 2 バイトの整数として再定義してください。

PCC-00025 標識変数 *string* は宣言されていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 文で使用している標識変数が宣言節内で宣言されていないか、または綴りが間違っています。

処置: 標識変数の宣言を追加するかまたは修正してください。

PCC-00026 ホスト変数 *string* は無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 文で使用しているホスト変数が正しく宣言されていません。次のような原因が考えられます。

- 宣言節で宣言されていない。
- そのデータ型がサポートされていない。
- 名前の綴りが間違っている。
- COBOL グループの項目になっている。Pro*COBOL の場合、SQL 文で許可されているのは基本項目のみ。

処置: ホスト変数の宣言を追加または修正してください。

PCC-00027 SQL 識別子 *string* が重複して宣言されています (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: SQL 記述子、文またはカーソルの名前が再宣言されました (2 回宣言されました)。

処置: この識別子の綴りを調べ、必要に応じて余分な宣言を削除してください。

PCC-00028 オプション *string* は正しい EXEC ORACLE オプションではありません。

原因: プリコンパイラ・オプションを EXEC ORACLE 文内にインラインで指定しました。オプションの中にはコマンド行からしか指定できないものもあります。たとえば、INAME はインラインで指定できません。

処置: EXEC ORACLE 文ではなく、コマンド行にプリコンパイラ・オプションを再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティング・システムのプロンプトで (オプションを指定しないで) プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

PCC-00029 オプション *string* があいまいです。

原因: プリコンパイラ・オプションの名前をあいまいに短縮して指定しました。たとえば、MAX= は MAXLITERAL または MAXOPENCURSORS とみなされる場合があります。

処置: 完全なオプション名または明確な略称を再指定してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティング・システムのプロンプトで (オプションを指定しないで) プリコンパイラ・コマンドを入力してください。

PCC-00031 オプション *string* に無効な値が指定されています。

原因: 値の綴りが間違っている（たとえば、LTYPE=HORT）または値が範囲外であるために（たとえば、PAGELEN=-55）、プリコンパイラ・オプションに無効な値が指定されています。

処置: 綴りが正しいかどうかおよび値が有効な範囲内であることを確認してください。

PCC-00032 オプション *string* が無効です。

原因: プリコンパイラが無効なプリコンパイラ・オプション名を見つけました。次のような原因が考えられます。

- オプション名の綴りが誤っている。
- 指定したオプションが存在しない。
- オプション名と値の間の等号 (=) が欠落しているか、等号の前後に空白が入っている。

処置: オプションが存在するかどうか、オプション名の綴りが正しいかどうかを確認してください。プリコンパイラ・オプションをオンラインで参照するためには、オペレーティング・システムのプロンプトで（オプションを指定しないで）プリコンパイラ・コマンドを入力してください。オプション名と値の間に等号があることを確認してください。

PCC-00033 オプション *string* にオペランドがありません。

原因: プリコンパイラ・オプションに値が指定されていません。または、値が欠落しているか、等号の前後に空白があります（LTYPE=SHORT のように）。

処置: 各オプションに値が指定され、等号の前後に空白がないことを確認してください。

PCC-00036 入力ファイル名が指定されていません。

原因: コマンド行で入力ファイルを指定しませんでした。

処置: INAME コマンド行オプションを使用して入力ファイルを指定します。

PCC-00037 *string* で Oracle にログオンできません。Oracle エラー番号: *number*

原因: プリコンパイラは指定されたユーザー名およびパスワードで ORACLE ヘログオンできませんでした。ログオンしようとしたときに、示された番号の Oracle エラーが発生しました。

処置: このマニュアルの ORA メッセージの章に記載されているメッセージを参照してください。

PCC-00038 カーソルをオープンできません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。アプリケーションが SQL 文の意味上または構文上の確認を必要としておらず、PL/SQL を使用しない場合は、コマンド行に SQLCHECK=NONE を指定してください。

PCC-00039 入力ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラが INAME プリコンパイラ・オプションで指定された入力ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。さらに十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることを確認してください(システム管理者に問い合せてください)。

PCC-00040 リスト・ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラが、LNAME プリコンパイラ・オプションで指定したリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。また、十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に多く設定されていることも確認してください(システム管理者に問い合せてください)。リスト・ファイルが必要ない場合は、コマンド行に LTYPE=NONE を指定してください。

PCC-00041 出力ファイル *string* をオープンできません。

原因: プリコンパイラが ONAME プリコンパイラ・オプションで指定したリスト・ファイルをオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイル名の綴りが誤っている。
- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルが存在するか、ファイルに対する検索パスが正しいかを確認してください。また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかを調べてください。さらに十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることを確認します（システム管理者に問い合せてください）。

PCC-00042 mode=ANSI と WHENEVER SQLWARNING が指定されている場合は EXEC SQL INCLUDE SQLCA を実行しなければなりません。

原因: MODE={ANSI|ANSI14} の場合に、SQLCA を指定宣言せずに WHENEVER SQLWARNING 文を使用しようとしてしました。MODE={ANSI|ANSI14} の場合には、SQLCA の宣言は任意ですが、WHENEVER SQLWARNING 文を使用するには、SQLCA を宣言する必要があります。

処置: プログラムから WHENEVER SQLWARNING 文をすべて削除するか、SQLCA を静的に宣言するか、INCLUDE 文でプログラムにコピーしてください。

PCC-00044 INTO/USING 句の配列サイズが不適切です。最小値: *string* (*number:number*)

原因: INTO/USING 句内の配列変数のサイズが処理された行数に対して小さすぎます。

処置: 最低でも表示された最小サイズを持つように INTO/USING 句内のすべての配列変数を宣言してください。

PCC-00045 不適当な *string* 句があります (行 *number*, ファイル *string*)。無視されました。

原因: EXEC SQL 文の最後に位置が間違っている句があります（たとえば、SELECT 文の最後にある AT 句）。FOR 句内で指定した処理に誤りがあります（たとえば、FOR :loop INTO...）。

処置: この文の構文を調べ、位置が間違っている場合はその句の位置を変え、句に誤りがある場合はそれを修正してください。

PCC-00047 行 *number*、ファイル *string* の付近から始まるコメントまたは文字定数が未終了です。

原因: 文字列定数で終端引用符が欠落しているか、またはコメントで終了デリミタが欠落しています。

処置: すべてのコメントが区切られていて、すべての文字定数が引用符で囲まれていることを確認してください。

PCC-00050 プログラム単位終了行 *number* に記述子を生成できません。ファイル *string*

原因: プリコンパイラが、コンパイル・ユニットの記述子を生成できませんでした。このエラーは、次のいずれかが原因で発生することがあります。

- 存在しない、または正しくインプリメントされていない宣言節。
- ソース・ファイルの先頭付近、または END DECLARE SECTION 文の直前にある検出されなかった構文エラー。

処置: 宣言節が正しくインプリメントされているかどうかを確認してください。次に、コンパイル・ユニットの先頭および END DECLARE SECTION 文の前で構文エラーの確認を行い、適切に修正してください。

PCC-00051 VARCHAR *string* のサイズが 65533 を超えています (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 宣言された VARCHAR ホスト変数のサイズがプリコンパイラの制限である 65533 バイトを超えています。

処置: 宣言節を調べて、それぞれの VARCHAR 変数のサイズが 65533 バイトの制限値を超えていないかどうかを確認してください。

PCC-00053 FOR 変数列 *string* のデータ型が無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: FOR 句内のカウント変数のデータ型に誤りがあります。このデータ型は NUMBER 型または LONG 型（あるいは NUMBER 型または LONG 型と互換性のあるもの）である必要があります。

処置: 宣言を調べて、カウント変数のデータ型が NUMBER または LONG（あるいは、互換性のある Oracle またはホスト言語データ型）かどうかを確認してください。

PCC-00054 文の終わりがが必要です (列 *number*, 行 *number*, ファイル *string*)。

原因: プリコンパイラは EXEC 文の最後に文終了記号を想定しているのに、それ以外のものがありました。このエラーは、ソース・コードにタブが埋め込まれていた場合に発生することがあります（プリコンパイラには、1 つのタブがいくつの空白を表しているかを認識する方法がないため）。

処置: ソース・コードにタブが埋め込まれている場合には、タブを空白で置き換えてください。また、文の構文を調べ、EXEC 文に文終了記号があることを確認してください。各埋込み CREATE {FUNCTION | PROCEDURE | PACKAGE} 文および埋込み PL/SQL ブロックでは、文終了記号が END-EXEC であることを確認してください。

PCC-00055 配列: *string* はバインド変数として無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: ホスト配列を SELECT 文の WHERE 句内でバインド（入力）変数として使用しています。これは許可されていません。

処置: ホスト配列を削除するか、またはホスト配列を単純なホスト変数で置き換えてください。

PCC-00056 FOR 句は SELECT 文中で使用できません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: FOR 句が SELECT 文とともに使用されました。これは、SELECT の実行で最後のループから戻されたデータが、前のループで戻されたデータを上書きするため、許可されません。

処置: SELECT 文から FOR 句を削除して、ホスト言語構造を使用し、反復して SELECT 文を実行してください。

PCC-00060 CURSOR と STATEMENT の両方に AT 句があります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: 2 つの AT 句が同じ SQL 文に属していて、一方は DECLARE STATEMENT 文にあり、もう一方は DECLARE CURSOR 文にあります。AT 句は DECLARE STATEMENT、または DECLARE CURSOR のいずれかに指定できますが、この両方とともに指定はできません。

処置: いずれかの文から AT 句を削除してください。

PCC-00061 構文エラーが発生しました。(行 *number*, 列 *number*, PLS-number: *string*

原因: 埋込み SQL 文または PL/SQL ブロックで、プリコンパイラがエラーを検出しました。

処置: 表示されている PL/SQL エラー・メッセージを参照して、SQL 文または埋込み PL/SQL ブロックを修正してください。

PCC-00062 埋込み PL/SQL で SQLCHECK=SEMANTICS (FULL) が指定されていません。

原因: SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=NONE オプションが有効なときにプリコンパイラが PL/SQL ブロックを解析しようとしてしました。SQLCHECK=SEMANTICS を指定している場合にのみ、PL/SQL ブロックを解析できます。

処置: PL/SQL ブロックを削除するか、SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

PCC-00063 eof: *string* が文終了子の前で検出されました (行 *number*!)。

原因: PL/SQL ブロックの解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

処置: PL/SQL ブロックに適切な文の終了記号 (;) またはブロックの終わりを示す文 (END;) を追加してください。

PCC-00064 複数のホスト変数が同一の標識変数に対応しています。

原因: EXEC SQL 文内のホスト変数の複数のオカレンスが、異なる標識変数に対応付けられています。これは許可されていません。

処置: ホスト変数の各オカレンスが同一の標識変数に対応付けられるように、標識変数を改名してください。

PCC-00065 Userid が指定されていません。

原因：SQLCHECK=SEMANTICS オプションが指定されましたが、コマンド行で USERID オプションが指定されていません。

処置：USER ID= ユーザー名 / パスワードを指定するか、プロンプトが表示されたら ユーザー名およびパスワードを入力してください。または SQLCHECK={SYNTAX|NONE} を指定してください。

PCC-00066 Userid は SQLCHECK = FULL のときのみ使用。userid は無視されます。

原因：SQLCHECK={SYNTAX|NONE} のときに、USERID オプションが指定されました。これは不要です。

処置：USERID オプションは、SQLCHECK=SEMANTICS の場合にのみ指定してください。

PCC-00067 IRECLLEN の値を超過しました (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：入力ファイルの読み込み中に、プリコンパイラが IRECLLEN よりも長い行を検出しました。

処置：この入力行を短くするか、またはコマンド行でより長い IRECLLEN を指定します。

PCC-00068 ホスト変数名と indicator 変数名が一致してはいけません。

原因：1 つの EXEC SQL 文内で、標識変数の名前がホスト変数の名前と同一です。ホスト変数の名前とそれに対応付けた標識変数の名前は異なっている必要があります。また、標識変数はホスト変数としては使用できません。

処置：ホストまたは標識変数の名前を変更してください。

PCC-00069 ホスト変数 *string* のデータ型はサポートされていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：ホスト変数のデータ型がサポートされていません。サポートされているデータ型については、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください

処置：サポートされているデータ型を指定して宣言節内にホスト変数を再定義します。

PCC-00070 SQL 文: *string* で、構文または指数値が無効です。

原因：プリコンパイラが科学表記法で指定した数値を解析中に構文エラーを見つけました。プリコンパイラは指数標識 (E) の後に符号付きの整数を想定していますが、別のものが見つかりました。

処置：数値を正しく再フォーマットしてください。

PCC-00071 メッセージ・ファイルをオープンできません。

原因：プリコンパイラはプリコンパイラによって発行されるメッセージが含まれているメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。これは、オープンしているファイルが多すぎるか、またはプリコンパイラのインストールに問題がある場合に発生する可能性があります。

処置: オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることを確認してください (システム管理者に問い合わせてください)。それ以外は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-00072 入力ファイル名の長さが最大長を超えています。

原因: 指定したファイル名が最大長を超えています。一部のオペレーティング・システムではファイル名の最大長が決まっています。

処置: 各プラットフォームでファイル名に使用できる長さ以下のファイル名を使用してください。

PCC-00073 カーソルが宣言されましたがオープンされませんでした (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: カーソルが宣言されましたが、OPEN 文で参照されませんでした。これは、情報メッセージです。

処置: カーソル宣言を削除するか、カーソルの OPEN 文をコーディングしてください。

PCC-00075 標識変数の前に ":" が必要です。

原因: 標識変数の前に必要なコロンがありません。

処置: 問題となっている標識変数の前にコロンを付けてください。

PCC-00076 DISPLAY タイプは SIGN LEADING SEPARATE である必要があります。

原因: このメッセージは、Pro*COBOL によってのみ発行されます。DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE は、Pro*COBOL でサポートする唯一の DISPLAY タイプです。

処置: 変数宣言の綴りを確認します。必要に応じて、サポートされていない DISPLAY タイプへの参照を削除します。

PCC-00077 WHENEVER 文の数値ラベルのコロンは無効です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、数値 WHENEVER...GOTO ラベルの前にコロンが付いています。たとえば、コードは次のようになっている可能性があります。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR GOTO :99;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、英数字 (数字ではない) の WHENEVER ...GOTO ラベルの前にはコロンを付けられます。

PCC-00078 FIPS 警告: SQL 識別子が無効です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数に次のいずれかの名前が指定されました。

- 18 文字よりも長い名前
- 英文字以外で始まる名前

- アンダースコアが連続するまたは最後にアンダースコアがある名前

次の Pro*C の例では、ホスト変数名が 19 文字のため、準拠していません。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
int department_location:  -- not ANSI/ISO compliant  
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、ホスト変数名は、18 文字以下の長さで、英文字で始まり、連続したアンダースコアや末尾にアンダースコアを含まないように変更してください。

PCC-00079 WHENEVER 文のラベルにはコロンが必要です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、英数字の WHENEVER...GOTO ラベルの前にコロンが付いていません。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER NOT FOUND GOTO NO_MORE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、英数字（数字ではない）の WHENEVER ...GOTO ラベルの前にはコロンを付けてください。

PCC-00080: TYPE 識別子は既に TYPEd されています。

原因: EXEC SQL TYPE 文で TYPE されている識別子は、前の EXEC SQL TYPE 文ですでに宣言されています。指定された識別子は、1 つの EXEC SQL TYPE 文にのみ宣言できます。

処置: 識別子の綴りを確認してください。各 EXEC SQL TYPE 文で異なる識別子を使用するか、EXEC SQL TYPE 文のいずれか 1 つを削除してください。

PCC-00081 このデータ型での位取り (Scale) 指定は無効です。

原因: EXEC SQL VAR または EXEC SQL TYPE 文で参照される Oracle 外部データ型には、位取り指定は認められません。

処置: 精度の指定を確認し、位取り指定を削除します。

PCC-00082 長さ位取り (Scale) 指定では整数を使用します。

原因: 長さまたは位取りの指定に、浮動小数点数または数字以外が使用されました。整数のみを使用できます。

処置: 長さまたは位取りの指定（またはその両方）を修正または削除してください。

PCC-00083 CREATE 文でのバインドと変数宣言は無効です。

原因: ホスト変数は CREATE 文では使用できません。CREATE 文の作成が実行時まで認識できない場合は、この CREATE 文の実行には動的 SQL 文を使用する必要があります。

す。プログラムは実行時に CREATE 文を受け入れるか、または作成し、それをホスト文字列に格納して実行します。

処置: CREATE 文を修正するか、または削除してください。

PCC-00085 ファイル *string* への書き込み中にエラーが発生しました。

原因: プリコンパイラは指定された出力ファイルへの書き込みを行えませんでした。次のような原因が考えられます。

- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- 別のユーザーがそのファイルをロックしている。
- ディスク領域が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

処置: ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうか、そのファイルを他のユーザーがロックしていないかどうか調べてください。さらに十分なディスク領域があり、オープン・ファイルの制限が十分に大きく設定されていることを確認します(システム管理者に問い合わせてください)。

PCC-00086 ソース・ファイル *string* の長さがゼロです。

原因: コマンド行で指定したソース・ファイルにはコードがありません。したがって、プリコンパイラは何も処理できません。

処置: 埋込み SQL 文を含む有効なソース・ファイルを指定してください。

PCC-00087 EXEC SQL TYPE 文は、現ホスト言語で使用できません。

原因: ユーザー定義のデータ型の同等化をサポートしていないホスト言語で EXEC SQL TYPE 文を使用しました。この機能は Pro*C と Pro*Pascal でのみ使用可能です。

処置: 無効な EXEC SQL TYPE 文を削除してください。

PCC-00088 ユーザー定義データ型の識別子を使用してください。

原因: EXEC SQL TYPE 文のユーザー定義データ型名が欠落しているか、綴りが間違っているか、予約語であるか、ホスト言語の有効な識別子でないか、またはその言語におけるベース・データ型と矛盾します。

処置: ユーザー定義データ型名の綴りを確認してください。必要に応じて、有効なユーザー定義データ型を宣言してください。ユーザー定義データ型の同等化は Pro*C と Pro*Pascal でのみ使用可能です。

PCC-00089 ORACLE TYPE 指定が無効です。

原因: EXEC SQL TYPE または EXE SQL VAR 文において Oracle 外部データ型名が欠落しているか、綴りが間違っています。

処置: 外部データ型名の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているデータ型名を指定してください。

PCC-00090 DECIMAL データ型で精度 / 位取り指定が必要です。

原因：EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文で、Oracle 外部データ型 DECIMAL に対して精度および位取り（またはそのどちらか）の指定が省略されました。

処置：EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文に、精度および位取り（またはそのどちらか）の指定を追加してください。

PCC-00091 この ORACLE データ型では、TYPE 文に書式指定が必要です。

原因：EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文の Oracle 外部データ型に対して、長さ、精度および位取り（または、そのいずれか）の指定が省略されました。

処置：EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文に、外部データ型の長さ、精度および位取り（または、そのいずれか）の指定を追加してください。

PCC-00092 長さ / 位取りは、指定されたデータ型には無効です。

原因：EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文の Oracle 外部データ型に対して、無効な長さまたは位取りが指定されました。

処置：外部データ型に適応できるだけの十分な長さが指定されていることを確認してください。位取りを指定する場合は、-84 ~ 99 の範囲内にあることを確認してください。

PCC-00093 オプションが無効なため無視しました。

原因：プリコンパイラは以前のバージョンまたは異なるホスト言語において（現在のバージョンまたはホスト言語ではなく）、使用可能なオプションを検出しました。

処置：そのオプション指定を削除してください。

PCC-00094 char[n] データ型では、配列のサイズは 2 以上でなければなりません。

原因：MODE={ANSI|ANSI14} のときに、char[n] ホスト変数に対して 2 文字未満の長さが指定されたか、char 単純変数が指定されました。MODE={ANSI|ANSI14} のとき、その長さは少なくとも 2 文字である必要があります。このメッセージは Pro*C プリコンパイラによってのみ出力されます。

処置：少なくとも 2 文字以上の長さが指定されるように、宣言を修正してください。

PCC-00095 PROGRAM または SUBROUTINE, FUNCTION, BLOCK DATA 文が欠落しています。

原因：FORTRAN ソース・ファイルには少なくとも 1 つの PROGRAM、SUBROUTINE、FUNCTION または BLOCK DATA 文が必要です。それらはプリコンパイラがルーチンまたはコンパイル単位の始まりを検出するために使用します。

処置：ソース・ファイルにこれらの文のいずれかを追加します。

PCC-00096 MODE=ANSI14 では配列の FETCH は認められません。

原因：MODE=ANSI14 のときに、配列の SELECT または FETCH しようとしてしました。MODE=ANSI14 のときは、配列の操作は行えません。

処置: MODE=ANSI14 を指定する場合には、配列インタフェースを使用せずに、ホスト言語のループに SELECT または FETCH 文を指定してください。

PCC-00097 COBOL と PL/I でのみ DECIMAL、DISPLAY 型を使用できます。

原因: Pro*COBOL または Pro*PL/I 以外の Oracle プリコンパイラで、EXEC SQL VAR 文または EXEC SQL TYPE 文で DECIMAL および DISPLAY 外部データ型が使用されました。これらの外部データ型は、Pro*COBOL および Pro*PL/I でしか使用できません。

処置: EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文から DECIMAL または DISPLAY 外部データ型への参照を削除してください。

PCC-00098 現コンテキストでの位取り (Scale) 指定は無効です。

原因: Pro*C、Pro*FORTRAN または Pro*Pascal などのプログラムの場合、現行の文脈では EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文に位取りを指定できません。

処置: EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文から位取り指定を削除してください。

PCC-00099 長さの指定は ROWID または DATE、MLSLABEL 型では使用できません。

原因: EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文に、外部データ型 ROWID、DATE または MLSLABEL の長さが指定されました。これらの文は固定長タイプであるため、この指定は不要です。

処置: EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR 文から長さの指定を削除してください。

PCC-00100 非整数ラベルは無効です (ANSI)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、整数でない WHENEVER...GOTO ラベルが Pro*Pascal プログラム内にありました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER NOT FOUND GOTO quit;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、Pro*Pascal プログラムでは整数の WHENEVER... GOTO ラベルのみ使用してください。

PCC-00101 小文字 'e' は浮動小数点指定として正しくありません (ANSI)。

原因: ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、科学表記法で小文字の 'e' が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
maxnum = 10e38;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、科学表記法には大文字の 'E' を使用してください。

PCC-00102 FOR UPDATE は ORACLE の拡張機能です。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、カーソル宣言で FOR UPDATE OF 句が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL DECLARE emp_cursor CURSOR FOR SELECT ENAME, SAL FROM EMP WHERE  
DEPTNO = :dept_number FOR UPDATE OF SAL;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、FOR UPDATE OF 句を使用しないでください。

PCC-00103 AT 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、SQL 文で AT *db_name* 句が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL AT oracle3 COMMIT RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、AT *db_name* 句を使用しないでください。

PCC-00104 FOR 句は、Oracle 拡張機能の 1 つです。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、FOR 句が配列処理 SQL 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL FOR :limit INSERT INTO EMP (EMPNO, JOB, DEPTNO) VALUES (:emp_  
number, :job_title, :dept_number);
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、FOR 句を使用しないでください。

PCC-00105 ここにはキーワード WORK が必要です (ANSI)。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、キーワード WORK が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL COMMIT WORK RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、キーワード WORK を使用しないでください。

PCC-00106 RELEASE は COMMIT や ROLLBACK 文に対する ORACLE の拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、パラメータ RELEASE が COMMIT または ROLLBACK 文で使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ROLLBACK RELEASE;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合、パラメータ RELEASE を使用しないでください。

PCC-00107 CONNECT 文は Oracle 依存処理系です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ORACLE へのログオンに CONNECT 文が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL CONNECT :username IDENTIFIED BY :password;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、CONNECT 文を使用せずに AUTO_CONNECT コマンド行オプションを指定してください。

PCC-00108 この文は ANSI ではサポートされません。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、PREPARE などの非準拠 SQL 文が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL PREPARE sql_statement FROM :sql_string;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、非準拠文を使用しないでください。

PCC-00109 動的 SQL と PL/SQL は、ANSI SQL への Oracle 拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、動的 SQL または埋込み PL/SQL が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL EXECUTE BEGIN SELECT ... END; END-EXEC;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、動的 SQL または埋込み PL/SQL を使用しないでください。

PCC-00110 WHENEVER 文に対して Oracle 拡張機能が使用されました。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、NOTFOUND、STOP、RAISE または DO などの非標準キーワードが WHENEVER 文に使用されました。(ただし、NOT FOUND は ANSI 標準です)。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL WHENEVER SQLERROR STOP;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合、非標準キーワードを使用しないでください。

PCC-00111 EXEC ORACLE 文にある SQLCHECK 値がコマンド行の値を超えています。

原因：SQLCHECK オプションがインラインで入力され、コマンド行に指定した（あるいはデフォルトで受け入れられた）レベルよりも高いチェック・レベルで指定されました。これは許可されていません。たとえば、コマンド行に SQLCHECK=SYNTAX を指定すると、SQLCHECK={SEMANTICS|FULL} をインラインで指定できません。

処置：EXEC ORACLE 文を修正するか、コマンド行のチェック・レベルを低くしてください。

PCC-00112 データ型がサポートされていません (ANSI)。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、VARCHAR などのポインタまたは非標準データ型が使用されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
VARCHAR username [20];  
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 標準の場合、ポインタまたは非標準データ型を使用しないでください。

PCC-00113 DBMS オプションの値は、指定した MODE オプションの値に対して無効です。

原因：MODE={ANSI14|ANSI13} のときに DBMS=V7 が指定されたか、または MODE=ANSI のときに DBMS=V6 が指定されました。これらのオプション設定には互換性がありません。DBMS オプションは Oracle プリコンパイラのリリース 1.5 より前では無効であることに注意してください。

処置：DBMS=V7 では、MODE={ANSI14|ANSI13} ではなく、MODE={ANSI|ORACLE} を指定してください。DBMS=V6 の場合は、MODE=ANSI ではなく MODE={ANSI14|ANSI13|ORACLE} を指定してください。ただし、推奨値は MODE=ORACLE です。

PCC-00114 EXEC SQL VAR 文での VARxxx 型にはサイズ指定が必要です。

原因：EXEC SQL VAR 文で、長さのない VARCHAR または VARRAW 外部データ型が指定されました。他の型とは異なり、VARCHAR および VARRAW には、データ・フィールドの最大長を指定する必要があります。

処置：EXEC SQL VAR 文に長さの指定を追加してください。

PCC-00115 ここでは配列が必要です。

原因：ARRAYLEN 文に、以前宣言したホスト配列の名前が指定されませんでした。ARRAYLEN 文での最初のホスト変数は配列である必要があります。2 番目のホスト変数には 4 バイトの整数で配列を指定します。正しい構文は次のとおりです。

```
EXEC SQL ARRAYLEN host_array (dimension);
```

宣言節内の ARRAYLEN 文は、*host_array* および *dimension* の宣言の後に指定する必要があります。

処置：ARRAYLEN 文の両方の識別子の綴りを確認してください。必要に応じて、欠落しているホスト配列名を指定してください。

PCC-00116 配列は既に ARRAYLEN 文で指定されています。

原因：2 つの異なる ARRAYLEN 文に、同じホスト配列が指定されました。指定されたホスト配列は、複数の ARRAYLEN 文に指定できません。

処置：両方の ARRAYLEN 文のホスト配列名の綴りを確認してください。異なるホスト配列名を参照するよう一方のホスト配列名を修正するか、または一方の ARRAYLEN 文を削除してください。

PCC-00117 ARRAYLEN サイズ変数が無効です。

原因：ARRAYLEN 文に有効な配列数が指定されませんでした。配列数は、リテラルや式ではなく、以前に宣言した 4 バイトの整数型ホスト変数を使用して指定する必要があります。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC SQL ARRAYLEN ename_array (25); -- illegal dimension
```

処置：有効な配列数を指定してください。ARRAYLEN 文で使用する場合は、必要に応じて、4 バイトの整数型ホスト変数を宣言してください。

PCC-00118 ANSI SQL でホスト変数の初期化はサポートしていません。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ホスト変数がその宣言内で初期化されました。次に Pro*C の例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;  
int dept-number = 20; --not ANSI/ISO-compliant  
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
```

この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、宣言内でホスト変数を初期化しないでください。

PCC-00119 INTO 句の const 変数が変更されます。

原因: 型指定子 "const" とともに宣言した変数が、INTO 句で使用されました。この変数は、INTO 句で変更および使用できません。

処置: INTO 句の識別子の綴りがすべて正しいかどうかを確認してください。必要に応じて、ホスト変数宣言から "const" を除去するか、または別のホスト変数を使用してください。

PCC-00120 コードの生成中にファイル I/O エラーが発生しました。

原因: コード生成中にファイル I/O エラーが発生しました。このエラーは、ディスク領域不足が原因で発生することがあります。

処置: 十分なディスク領域があることを確認してください。

PCC-00121 VARCHAR 型ポインタの配列はサポートされません。

原因: 許可されていないポインタの配列が宣言されました。ただし、スカラー型のポインタは許可されています。Pro*C で、char[n] 変数および varchar[n] 変数のポインタを、CHAR または VARCHAR のポインタとして（長さを指定しないで）宣言しました。

処置: 宣言を修正するか、または削除してください。

PCC-00122 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因: コマンド行で、INAME と ONAME に同じパス名が指定されました。INAME はプリコンパイラ入力ファイルを指定し、ONAME はプリコンパイラ出力ファイルを指定します。

処置: パス名またはファイル名のどちらかを変更してください。

PCC-00123 VARCHAR の宣言が 1 行に納まっていません。

原因: Pro*C プログラムの場合、VARCHAR 宣言が 2 行以上になることは許可されていません。

処置: 宣言が 1 行になるように修正してください。

PCC-00124 COMMON_NAME オプションは PROGRAM やサブルーチンの開始位置より前です。

原因: FORTRAN プログラム、サブルーチンまたはファンクションで、PROGRAM 文、SUBROUTINE 文または FUNCTION 文の後に、プリコンパイラ・オプション COMMON_NAME を誤って指定しました。COMMON_NAME をインラインで指定する場合は、その EXEC ORACLE OPTION 文が PROGRAM 文、SUBROUTINE 文、FUNCTION 文の前にある必要があります。

処置: EXEC ORACLE OPTION 文の位置を変更するか、コマンド行で COMMON_NAME を指定してください。

PCC-00126 システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。

原因: プリコンパイラは、システム構成ファイル（事前設定コマンド行オプションが指定されているテキスト・ファイルで、プリコンパイラがデフォルトで使用する）を検出またはオープンできませんでした。次のような原因が考えられます。

- 指定したファイルが存在しない。
- 指定したファイルへの検索パスが誤っている。
- ファイルのアクセス権限が不十分である。
- オープンしているファイルが多すぎる。

このメッセージは、警告にすぎません。システム構成ファイルがなくても処理は続行されます。

処置: ファイルが存在するかどうか、ファイルに対する検索パスが正しいかどうか、また、ファイルに対する十分なアクセス権限が付与されているかどうかを確認してください。また、オープン・ファイルの制限が十分に高く設定されていることも確認してください（システム管理者に問い合せてください）。

PCC-00127 *string*

原因: これはコマンド行プロセッサの一般的なエラー・メッセージです。

処置: 表示されたエラーを修正してください。

PCC-00128 コマンド行プロセッサで重大なエラーが見つかりました。

原因: コマンド行プロセッサが重大なエラーを検出しました。

処置: すべてのコマンド行オプションが正しく指定されていることを確認した後、使用したすべてのオプションと構成ファイルの全アカウントを確認して、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-00129 オプション: *string* が必要です。

原因: 必要なコマンド行オプションが欠落しています。たとえば、入力ファイル名を指定する INAME オプションが欠落している可能性があります。

処置: 必要なコマンド行オプションを指定してください。

PCC-00132 標識配列サイズは、ホスト変数のものより小さくできません。

原因: ホスト変数配列が、より小さい数で宣言された標識配列とともに使用されました。次に例を示します。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION;
int    dept_no[20];
short dept_no_ind[10];
EXEC SQL END DECLARE SECTION;
... SELECT ... INTO dept_no:dept_no_ind ...
```

処置: 標識配列のサイズを大きくしてください。

PCC-00133 コマンド行でオプションが NLS_LOCAL=YES のとき MODE=ANSI である必要があります。

原因：MODE=ANSI を指定しないで、プリコンパイラ・オプション NLS_LOCAL=YES を使用しました。NLS_LOCAL=YES を使用する場合は、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を指定する必要があります。

処置：NLS_LOCAL=YES の他に、プリコンパイラ・オプション MODE=ANSI を設定するか、または NLS_LOCAL=YES は設定しないでください。

PCC-00135 Result Set Cursor の使用は標準 SQL ではありません。

原因：ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、Oracle Result Set Cursor が使用されました。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置：処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、Result Set Cursor を使用しないでください。

PCC-00136 SQL_CURSOR 宣言部が無効です。

原因：SQL_CURSOR ホスト変数が配列として宣言されたか、または Pro*COBOL の場合に、SQL_CURSOR 宣言に対して PICTURE 句が指定されました。Pro*FORTRAN の場合は、SQL_CURSOR 宣言に対する長さ指定（つまり "n"）が行われました。このような使用方法是サポートされていません。

処置：SQL_CURSOR 変数が配列として宣言されていないかどうかを確認してください。Pro*COBOL の場合には、SQL_CURSOR に PICTURE 句が指定されていないことを確認してください。Pro*FORTRAN では、SQL_CURSOR に対する長さ指定（つまり、"n"）がないことを確認してください。

PCC-00137 SQL カーソル・ホスト変数の指定が無効です。

原因：SQL_CURSOR 変数が INTO 句または WHERE 句で使用されました。SQL_CURSOR 変数は、通常のカーソル識別子、または PL/SQL ブロックではカーソルが通常使用される場所でのみ使用できます。

処置：INTO 句または WHERE 句から SQL カーソル変数参照を削除するか、INTO 句または WHERE 句に別の型のホスト変数を使用してください。

PCC-00138 Result Set Cursors はこのプリコンパイラではインプリメントされていません。

原因：ホスト変数をカーソルの参照として参照しようとしてしました。カーソル変数が Pro*Pascal または Pro*PL/I に実装されていません。

処置：標準 SQL のカーソルを使用するように、ホスト言語コードを修正してください。

PCC-00139 EXEC SQL 文の後で、MAXLITERAL の変更はできません。

原因：EXEC SQL、EXEC TOOLS または EXEC IAF 文の後のインライン EXEC ORACLE OPTION 文で MAXLITERAL オプションが使用されました。これは許可されていません。

処置: MAXLITERAL オプションは、コマンド行または入力ソース・ファイルの先頭にある EXEC ORACLE OPTION 文でのみ使用してください。

PCC-00140 CREATE FUNCTION/PROCEDURE/PACKAGE/TRIGGER は Oracle 拡張機能です。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には次のいずれかの文が使用されました。

- CREATE FUNCTION
- CREATE PROCEDURE
- CREATE PACKAGE
- CREATE TRIGGER

これらの文は、ANSI/ISO SQL 標準への Oracle 拡張機能です。この情報メッセージは、FIPS=YES のときに FIPS フラガーによって発行されます。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、これらの文を使用しないでください。

PCC-00141 Thread Safety はこのプリコンパイラではインプリメントされていません。

原因: CONTEXT SQL 文を使用しようとした。Thread Safety 機能が Pro*Pascal、Pro*PL/I または Pro*C 1.x にはインプリメントされていません。

処置: コンテキストを使用しないように、ホスト言語コードを修正してください。

PCC-00142 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されないで、THREADS=YES オプションが要求されました。

処置: 必要な (SQL_CONTEXT 型の) コンテキスト変数が、実行可能な SQL 文の前で宣言、割振りおよび使用されているかどうかを確認してください。

PCC-00143 ランタイム・コンテキスト変数の型が正しくありません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文で参照される実行時コンテキスト変数の型が SQL_CONTEXT ではありません。

処置: SQL_CONTEXT 型の実行時コンテキスト変数を宣言してください。

PCC-00144 UNSAFE_NULL=YES は DBMS=V7 かつ MODE=ORACLE を指定して使用しなければなりません。

原因: UNSAFE_NULL=YES オプションが DBMS=V6 または DBMS=NATIVE (デフォルト) とともに使用されたか、または MODE=ANSI/ANSI14/ANSI13 とともに使用されました。

処置: UNSAFE_NULL=YES を使用する場合は、DBMS=V7 および MODE=ORACLE (デフォルト) を指定してください。または、UNSAFE_NULL=YES を使用しないでください。

PCC-00145 この文は THREADS=YES を指定した場合のみ使用可能です。

原因：THREADS オプションに NO が設定されているときに、EXEC SQL ENABLE THREADS または EXEC SQL CONTEXT 文が使用されました。

処置：オプション THREADS=YES を指定するか、またはソース・コードから EXEC SQL ENABLE THREADS 文または EXEC SQL CONTEXT 文を削除してください。

PCC-00146 ホスト・オプションの値が間違っています。無視されました。

原因：コマンド行ホスト・オプションを使用して、無効なホスト言語が指定されました。ホスト・オプションの有効値は Pro* 言語固有です。たとえば、PROFOR の場合、有効値は FORTRAN のみです。PROCOB の場合、有効値は COBOL および COB74 のみです。

処置：ホスト・オプションで、有効なホスト言語を指定してください。

PCC-00147 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE を使用してください。

原因：V6 との互換性はサポートされていません。プリコンパイラは、DBMS=NATIVE が指定されたものとしてプリコンパイルします。

処置：指定した DBMS オプションの値を、V6 から別の値に変更してください。

PCC-01000 Pro*COBOL の実行は認可されていません。

原因：Pro*COBOL コンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01001 Pro*COBOL 認可期間は間もなく満了します。

原因：Pro*COBOL プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01002 標識領域内の文字 *character* は無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：Pro*COBOL プリコンパイラ・プログラムで、標識領域には空白、ハイフン (-)、アスタリスク (*)、スラッシュ (/) または文字 "D" のみ使用できますが、それ以外の文字が見つかりました。

処置：不適切な文字を削除するかまたは置き換えてください。FORMAT=ANSI オプションを指定している場合は、列 7 の行の終わりを確認してください。

PCC-01003 継続行が無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因：Pro*COBOL プログラムで、継続行が継続文字以外は完全に空白です。

処置：空の継続行を削除するか、または置き換えてください。

PCC-01004 EXEC 文の途中でファイルが終了しました。

原因：Pro*COBOL 入力ファイルで、最後の EXEC 文が正しく終了していません。

処置: 最後の EXEC 文を END-EXEC で終了してください。

PCC-01005 PROCEDURE DIVISION が見つかりません。

原因: プリコンパイラは、Pro*COBOL に PROCEDURE DIVISION ヘッダーを見つけれませんでした。次のような原因が考えられます。

- ヘッダーにキーワードが欠落しているか、キーワードの綴りに誤りがあります。
- REMARKS セクションにアポストロフィがあります（プリコンパイラがアポストロフィを文字列リテラルの開始とみなしました）。
- WORKING-STORAGE セクションのリテラルにリテラルの終わりのアポストロフィが不足しています。
- FORMAT オプションに間違った値を指定しました。

処置: PROCEDURE DIVISION ヘッダーが適切な位置にあって綴りが正しいこと、REMARKS セクションにアポストロフィがないこと、WORKING-STORAGE SECTION のすべてのリテラルが終了されていること、FORMAT オプションに正しい値が指定されていることを確認してください。

PCC-01006 EXEC 文を領域 A 内で始めることはできません（行 *number*, ファイル *string*）。

原因: Pro*COBOL プログラムでは、EXEC 文が領域 B で始まる必要がありますが、プリコンパイラは領域 A 内で始まる文を見つけました。

処置: この文を領域 B で始まるように右側に移動してください。

PCC-01007 WORKING-STORAGE SECTION が見つかりません。

原因: キーワードが欠落しているか綴りが間違っている、または FORMAT オプションに誤った値が指定されているため、プリコンパイラが Pro*COBOL プログラムの WORKING-STORAGE SECTION ヘッダーを検索できませんでした。

処置: WORKING-STORAGE SECTION ヘッダーが適切な位置にあり、綴りが正しいことおよび FORMAT オプションに正しい値が指定されていることを確認してください。

PCC-01008 DECLARE セクションで複数のエレメント・レコードは宣言できません。

原因: COBOL コンパイラの中には、CALL 文でグループ項目をパラメータとして引き渡すことができないものがあります（COBOL コンパイラのユーザーズ・ガイドを参照してください）。このようなコンパイラを使用している場合は、DECLARE セクション内のグループ項目には 1 つの要素項目のみ含むことができます。

処置: 各ホスト変数に独自のグループ項目を割り当ててください。

PCC-01009 SQL 文の終わりには ELSE またはピリオドを使用します（HOST=COB74）。

原因: Pro*COBOL プログラムでは、同一の文内で EXEC SQL 文の後に別の文が続きます。COBOL-74 の文では EXEC SQL 文は最後の文である必要があるため、キーワードの ELSE またはピリオドで終了する必要があります。

処置: プログラム・ロジックを変更して、文内の最後に EXEC SQL 文があるようにしてください。

PCC-01010 文字リテラル中に無効な NULL 文字が存在します。

原因: 文字列リテラル中で NULL 文字 (バイナリのゼロ) が見つかりました。これは Pro*COBOL では許可されていません。

処置: 文字列リテラルから NULL を削除してください。

PCC-01011 USAGE IS BINARY 句は、同じ行で、"." で終了しなければなりません。

原因: USAGE IS BINARY 句を終了させるピリオドは、USAGE 句と同じ行に存在する必要があります。このメッセージは、COMP-5 が BINARY に代用されている Pro*COBOL の COMP5=YES コマンド行オプションをサポートするオペレーティング・システムでのみ発生します。

処置: USAGE IS BINARY 句を終了させるピリオドが USAGE 句と同じ行にあることを確認してください。

PCC-01012 DATA DIVISION が見つかりません。

原因: Pro*COBOL プリコンパイラが、入力ソース・ファイルの DATA DIVISION を検索しませんでした。Pro*COBOL アプリケーションには、DATA DIVISION が必要です。

処置: 入力ソース・ファイルに DATA DIVISION を追加してください。

PCC-01013 PIC N 配列変数: *string* (行 *number*, ファイル *string*) の使用が無効です。

原因: OCCURS 句を使用して、PIC N 変数が宣言されました。PIC N 変数の表は、Pro*COBOL プリコンパイラによってサポートされていません。

処置: OCCURS 句を使用せず PIC N 変数を宣言してください。または、SQL 文で PIC N 変数を使用しない場合には、宣言節の外側で宣言してください。

PCC-01014 PIC N PICTURE 句で "VARYING" はサポートされていません。

原因: キーワード VARYING が PIC N 変数宣言で使用されました。

処置: 変数宣言からキーワード VARYING を削除してください。PIC N VARCHAR 変数を宣言する場合は、次の例にあるように、プリコンパイラ・オプション VARCHAR=YES を指定して、変数を暗黙の VARCHAR グループ項目として宣言してください。

```
EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION END-EXEC.  
...  
01 ENAME.  
    05 ENAME-LEN  PIC S9(4) COMP.  
    05 ENAME-ARR  PIC N(20).  
...  
EXEC SQL END DECLARE SECTION END-EXEC.
```

PCC-01015 PIC N 変数 *string* を等価にできません。

原因: PIC N 変数または暗黙の VARCHAR グループ項目 (基本項目として PIC N 変数を使用) が EXEC SQL VAR 文で使用されました。これは許可されていません。

処置: EXEC SQL VAR 文で PIC N 変数を使用しないでください。EXEC SQL VAR 文を使用して Oracle の型に同等化する場合は、PIC N 変数ではなく PIC X 変数を使用してください。

PCC-01016 "N" 文字リテラルは、埋込み PL/SQL でサポートされません。

原因: "N" 文字リテラルが PL/SQL ブロック内で使用されました。

処置: PL/SQL ブロックから "N" 文字リテラルを削除してください。

PCC-1017 SQLCA と SQLCODE 変数は、両方使用できません。

原因: SQLCA が組み込まれ、SQLCODE 変数が宣言されました。SQLCODE 変数に対する参照はあいまいで COBOL コンパイラ・エラーを引き起こす可能性があるため、これは許可されていません。

処置: SQLCA または SQLCODE 変数のいずれかを使用してください。または、SQLCA の組込みまたは SQLCODE 変数宣言のいずれかを削除してください。

PCC-01018 変換バッファ・サイズが指定できるのはキャラクタ・タイプだけです。

原因: CONVBUFSZ 句が EXEC SQL VAR 文で使用されましたが、変数が文字型ではありません。

処置: EXEC SQL VAR 文から CONVBUFSZ 句を削除してください。

PCC-01019 変換バッファ・サイズが無効です。

原因: CONVBUFSZ 句に指定するサイズは、1 ～ 32765 の範囲内の整数である必要があります。指定されたサイズが整数でないか、範囲外の値が指定されています。

処置: 1 ～ 32765 の範囲内の整数を指定してください。

PCC-01100 Pro*FORTRAN の実行は認可されていません。

原因: Pro*FORTRAN プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01101 Pro*FORTRAN 認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*FORTRAN プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-1102 ラベルが無効です (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: Pro*FORTRAN プリコンパイラは列 1 ～ 6 の無効な FORTRAN 文ラベルを見つけました。

処置: 文ラベルを修正または削除してください。

PCC-01200 Pro*C の実行は認可されていません。

原因: Pro*C プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01201 Pro*C 認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*C プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01202 識別子 *string* は 31 文字に切り捨てられました。

原因: ホスト識別子 (たとえばホスト変数など) がプリコンパイラの許可する最大長 (31 文字) に切捨てられました。これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

PCC-01300 Pro*PL/I の実行は認可されていません。

原因: Pro*PL/I プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01301 Pro*PL/I の認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*PL/I プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01400 Pro*Pascal の実行は認可されていません。

原因: Pro*Pascal プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01401 Pro*Pascal の認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*Pascal プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01500 Pro*Ada の実行は認可されていません。

原因: Pro*Ada プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが満了しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01501 Pro*Ada の認可期間は間もなく満了します。

原因: Pro*Ada プリコンパイラを実行する権限またはライセンスが間もなく満了します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-01510 *string* に Package または Procedure、Function の文がありません。

原因: すべての Ada ソース・ファイルには Package、Procedure または Function の文が存在する必要があります。プリコンパイラは 1 つも検出できませんでした。

処置: ソース・ファイルに適切な文を追加し、Pro*Ada を再実行してください。

PCC-01511 識別子 (行 *number*, ファイル *string*) がファイル *string* で生成されたコードに対して長すぎます。

原因: ホスト・プログラムで使用している識別子が長すぎるため、プリコンパイラで生成するコード長がソース行での制限を超えています。

処置: 識別子を短くするか、または ORECLEN オプションを使用して許可される行の長さを増やしてください。

PCC-01512 ファイル *string* への無効な EXEC SQL INCLUDE があります (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: EXEC SQL INCLUDE 文は Pro*Ada では許可されていません。

処置: 必要なソース・テキストを直接 Pro*Ada ファイルに埋め込んでください。"with" コンテキスト句を使用して、必要なパッケージを組み込んでください。

PCC-01513 FIPS 警告: データ型がサポートされていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、ANSI/ISO 標準タイプ以外でホスト変数が宣言されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、ANSI/ISO 標準タイプののみを使用してください。

PCC-01515 FIPS 警告: ホスト変数: *string* が宣言されていません (行 *number*, ファイル *string*)。

原因: ANSI/ISO 標準への Oracle 拡張機能が使用されました。具体的には、宣言節外でホスト変数が宣言されました。

処置: 処置は必要ありません。ただし、ANSI/ISO 準拠の場合は、宣言節内にホスト変数を宣言してください。

プリプロセッサ (PCC)

PCC-02010 文字列リテラルのスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因：SQL 文の文字列は引用符で区切る必要がありますが、正しく終了されていません。

処置：すべての文字列が区切られていることを確かめてください。

PCC-02011 識別子が 128 文字を超えているのが見つかりました (切捨て済)。

原因：プリコンパイラが長すぎる識別子を発見しました。

処置：識別子を短くしてください。SQL の識別子は 18 文字に制限されています。

PCC-02012 文字定数に合致する引用符が見つかりません。

原因：引用符付き文字定数が終了されませんでした。

処置：文字定数を終了させてください。

PCC-02013 不明なエスケープ・シークエンスがあります。

原因：プリコンパイラが文字列リテラル内で処理できないエスケープ・シークエンスを発見しました。このエラーは、シフトインまたはシフトアウト・エスケープ・シークエンスを含むマルチバイト文字列を使用している場合に発生することがあります。

処置：文字列を修正してください。

PCC-02014 構文エラー (行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*) :

原因：プリコンパイラが C または埋込み SQL 構文にエラーを発見しました。このメッセージの後に詳細なエラー・メッセージが続いています。

処置：構文エラーを修正してください。

PCC-02015 挿入ファイルをオープンできません。

原因：#include 文または EXEC SQL INCLUDE 文を使用して指定したヘッダー・ファイルをプリコンパイラがオープンできませんでした。このエラーは、ファイル指定が不正確であったり、ファイルあるいはパス内の 1 つまたは複数のディレクトリに対する読取り権限や読取りアクセス権が付与されなかった場合に発生することがあります。

処置: ファイルの指定が正しいかどうか、ファイルが存在するかどうか、また、読み取るファイルに対して読取り権限があるかどうかを確認してください。

PCC-02016 挿入ファイルのパス名が長すぎます。

原因: インクルード・ファイルのパス名が 80 文字の最大長を超えています。

処置: インクルード・ファイルを移動するか、環境変数または論理パスを作成してパス名を短くしてください。

PCC-02017 出力ファイルをオープンできません。

原因: プリコンパイラが出力ファイルをオープンできませんでした。このファイルは生成コード出力ファイル (.c ファイル) またはリスト・ファイルのどちらかです。このメッセージは、様々な原因で発生する可能性があります。次に例を示します。

- 指定した出力ファイルのパス名に、存在しないディレクトリが含まれている。
- ファイル・システムまたはディスクが満杯であるため、オペレーティング・システム・エラーが発生した。
- パス内の指定したディレクトリ（複数の場合もある）に対する書込み権限がない。

処置: 前述のエラーの原因を調査して、修正してください。

PCC-02018 コメントのスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因: C コードまたは埋込み SQL 文の中の C コメントが終了していません。

処置: 終わっていないコメントを見つけて「*/」で終了させてください。

PCC-02019 プリプロセッサの警告（行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*）:

原因: プリコンパイラがプリプロセッサのパスを実行中に、警告が発生しました。このメッセージの後にさらに詳細なエラー・メッセージが出力されます。

処置: 続いて表示されるメッセージで指定される処置に従って、条件を修正してください。

PCC-02020 プリプロセッサのエラー（行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*）:

原因: プリコンパイラがプリプロセス・フェーズにあるとき、エラーが発生しました。このメッセージの後にさらに詳細なエラー・メッセージが出力されます。

処置: 続いて表示されるメッセージで指定される処置に従って、エラーを修正してください。

PCC-02021 文字列リテラルのスキャン中に改行が見つかりました。

原因: 文字列定数が、次のように改行文字を含んでいます。

```
char x[] = "Hello world";
```

処置: 改行文字を削除してください。

PCC-02022 SQL 文のスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因: EXEC SQL 文の解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

処置: 文終了記号 (;) を追加するか、または EXEC SQL 文を終了してください。

PCC-02023 PL/SQL 文のスキャン中にファイルの終りが見つかりました。

原因: PL/SQL 文 (EXEC SQL EXECUTE ...) の解析中に、プリコンパイラがファイルの終わりを検出しました。

処置: PL/SQL 文を終了してください。

プリプロセッサ (PCC)

PCC-02100 PL/SQL を初期化できません。

原因：プリコンパイラが Oracle に接続しましたが、PL/SQL エンジンを実動できませんでした。このエラーは、プロシージャ・オプションがない、以前のリリースの Oracle7 が使用されると、発生する場合があります。

処置：PL/SQL を使用するには、Oracle7 のより新しいリリースにアップグレードしてください。

PCC-02101 入力ファイルをオープンできません。

原因：プリコンパイラが入力ファイルをオープンできませんでした。これは INAME= オプションで指定された .pc ファイルです。つまり、ファイルが存在しないか、パス名にディレクトリを正しく指定しなかったか、プリコンパイラを実行しているユーザーがファイルに対する読み込み権限がないことを示します。また、このメッセージはオペレーティング・システムのエラーが原因で出力される場合もあります。たとえば、マウントされていないファイル・システムやディスクの入出力エラーがこのエラーの原因となります。

処置：ファイルの読み込み権限があり、フルパス名が正しく指定されたことを確認してください。オペレーティング・システム固有の問題を確認してください。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

PCC-02102 C プリプロセッサ処理を実行中に致命エラーが発生しました。

原因：プリコンパイラは、より詳細なメッセージの後にこのメッセージを発行します。

処置：前のメッセージで指定された問題を修正してください。

PCC-02103 パスワード：

原因：パスワードを入力しないで、コマンド行にユーザー名を入力しました。次に例を示します。

```
proc sqlcheck=full iname=sample1.pc userid=scott
```

処置：コマンド行を再入力して、パスワードを入力するかまたはプロンプトが表示されたらパスワードを指定してください。

PCC-02104 Oracle に接続できません。

原因: プリコンパイラは、指定されたユーザー名およびパスワード、場合によってはデータベース・リンクで Oracle に接続できませんでした。これはプリコンパイラ・メッセージであって、実行時メッセージでないことに注意してください。このメッセージは、コマンド行または構成ファイルの USERID オプション値が不正であることを示します。

処置: カレントのユーザー名およびパスワードが正しいかどうかを確認してください。SQL*DBA または SQL*Plus を実行し、そのユーザー名とパスワードを使用して接続できることを確認してください。

PCC-02105 リスト・ファイルをオープンできません。

原因: プリコンパイラがリスト・ファイルをオープンできませんでした。このメッセージは、様々な原因で発生する可能性があります。次に例を示します。

- 指定したリスト・ファイルのパス名に、存在しないディレクトリが含まれている。
- ファイル・システムまたはディスクが満杯であるため、オペレーティング・システム・エラーが発生した。
- 指定したディレクトリへの書き込み権限がない。

処置: 前述のエラーの原因を調査して、修正してください。

PCC-02106 ユーザー ID は SQLCHECK = FULL のときのみ使用。ユーザー ID は無視されます。

原因: コマンド行で USERID オプションが指定されましたが、SQLCHECK が FULL または SEMANTICS ではありませんでした。SQLCHECK=FULL または SQLCHECK=SEMANTICS でない限り、USERID は無効です。これは単なる警告メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

PCC-02107 CODE = CPP のときは PARSE = FULL は指定できません。

原因: コマンド行で PARSE=FULL オプションおよび CODE=CPP オプションの両方が指定されました。PARSE=FULL オプションは、C 解析機能を起動します。C 解析機能は、CODE=CPP オプションの指定によりプリコンパイラで生成される C++ 構文を認識しません。

処置: CODE=CPP オプションが指定される場合は、PARSE オプションを NONE または PARTIAL のどちらかに設定してください。

PCC-02108 MODE=ORACLE で DBMS=V7 または V8 の場合に、UNSAFE_NULL=YES が指定できます。

原因: UNSAFE_NULL=YES がコマンド行に指定されましたが、MODE が ORACLE でないか、または DBMS が V7 または V8 ではありませんでした。

処置: UNSAFE_NULL=YES を使用する時には、MODE=ORACLE および DBMS=V7 または V8 を指定してください。

PCC-02109 SQLCHECK=NONE はサポートされません。SYNTAX を使用します。

原因：SQLCHECK=NONE がコマンド行に指定されましたが、そのオプションは、サポートされていません。SQLCHECK=SYNTAX がかわりに使用されました。

処置：これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、SQLCHECK=SYNTAX または SQLCHECK=SEMANTICS を指定してください。

PCC-02110 DBMS=V6_CHAR は使用不可。CHAR_MAP=VARCHAR2、DBMS=V7 を使用してください。

原因：DBMS=V6_CHAR がコマンド行に指定されましたが、そのオプションはサポートされていません。CHAR_MAP=VARCHAR2 および DBMS=V7 オプションがかわりに使用されました。

処置：これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、CHAR_MAP=VARCHAR2、および必要に応じて、DBMS=V7 を指定してください。

PCC-02111 CHAR_MAP オプションは無視されました。DBMS=V6 では CHAR_MAP=VARCHAR2 のみ使用可

原因：DBMS=V6 が指定され、さらに VARCHAR2 以外の値の CHAR_MAP が指定されました。CHAR_MAP 値は無視されました。

処置：これは単なる警告メッセージです。この警告を回避するには、DBMS=V6 以外の DBMS 値を指定するか、または CHAR_MAP=VARCHAR2 を使用してください。

PCC-02112 OBJECTS オプションは無視されました。OBJECTS=YES は DBMS=V6、V7 では使用不可です。

原因：Pro*C コマンド行で OBJECTS=YES が指定されましたが、DBMS オプション値が無効です。

処置：これは単なる警告メッセージです。OBJECTS=YES に対して、この警告を回避するには、V8 データベースで DBMS=V8 または DBMS=NATIVE を使用してください。

PCC-02113 DBMS=V6 は現在サポートしていません。DBMS=NATIVE、CHAR_MAP=VARCHAR2 を使用してください。

原因：コマンド行で DBMS=V6 が指定されましたが、このオプション値はサポートされていません。オプション DBMS=NATIVE および CHAR_MAP=VARCHAR2 がかわりに使用されました。

処置：プログラムをチェックして、V6 の動作に依存していないことを確認してください。DBMS=V6 指定の影響については、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02114 コマンド行引数 MODE=ANSI は、DBMS=V6 と一緒に使用できません。

原因：Oracle バージョン 6 での特定の操作（文字の比較など）の方法は、ANSI/ISO SQL 標準に 100% 準拠していません。DBMS=V6 オプションまたは DBMS=V6_CHAR オプションを使用した V6 の方法が要求されている場合は、MODE=ANSI によるプリコンパイルは許可されません。

処置: V6 オプションで ANSI モードを使用しないでください。

PCC-02115 書き込むための出力ファイルをオープンできません。

原因: 書込みで、出力データ・ファイルがオープン（または作成）できなかったヘッダー・ファイルをプリコンパイルしようとした。

処置: ディレクトリの適切な権限、および可能なファイル・オブジェクト（データ・ファイルがすでに存在している場合）を調べて、書込み権限が付与されているかどうかを確認してください。

PCC-02116 HEADER オプションを使用してファイル拡張子を指定する必要があります。

原因: 生成されたデータ・ファイルを作成するときに、使用する拡張子の名前を指定せずに、ヘッダー・ファイルをプリコンパイルしようとした。

処置: HEADER オプションを使用して、プリコンパイルされたヘッダーのデータ・ファイルを作成するときに、使用するファイル拡張子の名前を指定してください。

パーサー・メッセージ (PCC)

PCC-02200 不明な句読点の順序が見つかりました。

原因: このエラーは、プリコンパイラ解析機能が不正確な識別子またはキーワードを検出したことを示します。

処置: 構文を修正してください。

PCC-02201 構文エラーが見つかりました。

原因: この一般メッセージの後に、エラーの詳細を示す 1 つ以上の詳細なメッセージが続きます。

処置: 処置は必要ありません。次のメッセージで示されるエラーを修正してください。

PCC-02202 typedef 名が付けられていません。

原因: プリコンパイラ解析機能が、型指定の後に名前のない TYPEDEF 文を発見しました。次に例を示します。

```
typedef int;
```

処置: 構文を修正してください。

PCC-02203 予期しないときにファイルの終りが見つかりました。

原因: たとえば、一致しない '{' および '(' のように、一般的な構文エラーの発生時に解析機能がこのメッセージを出力することがあります。

処置: 構文を修正してください。

PCC-02204 EXEC SQL INCLUDE は、挿入ファイルからは使用できません。

原因: EXEC SQL INCLUDE 文はネストできません。また、#include 文を使用して組み込まれたファイルに EXEC SQL INCLUDE 文は置けません。

処置: ネストされた組込み文が必要ないように、プログラムをコーディングし直してください。

PCC-02205 解析機能エラー（行: *number*、列: *number*、ファイル: *string*）:

原因: プリコンパイラ解析機能が、C コードまたは SQL コードの構文エラーを検出しました。さらに詳細なメッセージが続きます。

処置: このメッセージに対する処置の必要はありません。続きのメッセージに対する適切な処置を行ってください。

PCC-02206 DDL 文で、ホスト変数は使用できません。

原因: データ定義言語文ではホスト変数を使用できません。たとえば、次のような文は

```
CREATE TABLE :table_name (c1 char(10));
```

CREATE TABLE 文の表名をホスト変数で表現できないため無効となります。

処置: 実行時にデータベース・オブジェクト（表、ビューおよび列など）の名前を作成するには、動的 SQL を使用してください。動的 SQL の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02207 マクロ名が無効です。

原因: プリコンパイラ解析機能が、対応付けられているマクロ名を持たない #define 文を検出しました。次に例を示します。

```
#define
```

処置: 構文を修正してください。

PCC-02208 #include 文でファイル名が指定されていません。

原因: プリコンパイラ解析機能が、対応付けられているファイル名を持たない #include 文を検出しました。次に例を示します。

```
#include
```

処置: #include 文で適切なファイル名を指定するか、または構文を修正してください。

PCC-02209 マクロ起動の引数の数が無効です。

原因: ソースのマクロ起動に、#define 行のマクロ定義と同じ引数の数値がありません。

処置: マクロ参照またはマクロ定義を修正してください。

PCC-02210 C++ の句読点シーケンスをサポートしていません。

原因: C++ 句読点シーケンスは、ProC/C++ プリコンパイラによってサポートされていません。

処置: 句読点シーケンスを使用しないように C++ コードを修正し、再プリコンパイルしてください。

Pro*C/C++ メッセージ (PCC)

Pro*C/C++ の詳細は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02301 読み込み用の入力ファイルを再オープンできません。

原因：プリコンパイラの意味分析フェーズで、入力ファイルを再オープンして出力コードを生成できませんでした。

処置：プリコンパイルの途中で入力ファイルとディレクトリの保護および権限が変更されていないか確かめてください。

PCC-02302 コード生成用の出力ファイル *string* をオープンできません。

原因：Pro*C がコード生成に必要なテンポラリ・ファイルの一方または両方ともオープンできませんでした。プリコンパイラを実行しているユーザーに、カレント・ディレクトリの書き込み権限（または適切な権限（あるいはその両方））が必要です。

処置：権限があり、プリコンパイルするディレクトリでファイルを作成できることを確認してください。

PCC-02303 挿入ファイルをオープンできません。

原因：プリコンパイラが、#INCLUDE プリプロセッサ・ディレクティブまたは EXEC SQL INCLUDE 文を使用して指定されたヘッダー・ファイルをオープンできませんでした。このエラーは、ファイル指定が不正確であったり、ファイルまたはパス内の 1 つまたは複数のディレクトリに対する読み込み権限や読み込みアクセス権が付与されなかった場合に発生することがあります。

処置：ファイルの指定が正しいかどうか、ファイルが存在するかどうか、さらに読み取るファイルに対して読取り権限があるかどうかを確認してください。

PCC-02304 C 機能の宣言が無効です。

原因：C 関数が無効な構文を使用して宣言されました。

処置：C プログラミング・マニュアルを調べて、宣言を修正してください。

PCC-02305 新旧スタイルの C 機能宣言の混合が正しくありません。

原因: 従来のスタイル (K&R スタイル) または新しい (ANSI) スタイルの関数宣言を使用して、すべての C 関数を宣言する必要があります。この 2 つのスタイルを混在させることはできません。

処置: 一貫した関数の宣言スタイルを採用してください。

PCC-02306 C 機能の名前が正しくありません。

原因: 有効な C 識別子でない名前 で C 関数が宣言されました。

処置: すべての関数名に有効な C 識別子を使用してください。

PCC-02307 訂正はシングル・パラメータのときだけ使用できます。

原因: 次の構文を使用して、関数を宣言または定義できます。

```
int func1(void)
```

関数がパラメータを持たないことを示すために、この場合、void を 1 度のみ使用できます。

処置: 関数定義または宣言で余分な void を削除してください。

PCC-02308 この機能宣言には識別子が必要です。

原因: ANSI_C で書かれた関数定義には、すべてのパラメータに名前と型の両方が必要です。

処置: 関数定義を書き換えて、各パラメータの名前を含むようにしてください。

PCC-02309 仮パラメータの宣言が正しくありません。

原因: 関数宣言で、型を指定しないで仮パラメータを指定しました。

処置: 関数宣言を書き換えて、すべてのパラメータの型を関数宣言に含めてください。

PCC-02310 仮パラメータ VARCHAR はポインタとして宣言してください。

原因: 多くの C コンパイラでは、構造体が関数に渡されたり、関数から戻されたりするようになっています。VARCHAR は C 構造体としてインプリメントされますが、VARCHAR はポインタとして関数に渡す必要があります。

処置: VARCHAR が関数に渡されるときはアドレスを指定してください。詳細は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02311 VARCHAR のビット・フィールドを含めることはできません。

原因: ホスト変数にビット・フィールドを含めることはできません。

処置: アプリケーションを再コーディングして、ビット・フィールドを削除してください。

PCC-02312 2つのディメンションを超える VARCHAR の配列はできません。

原因: 2次元以上の VARCHAR 変数が宣言されました。複数次元の配列はホスト変数としてサポートされません。

処置: アプリケーションを再コーディングして、複数次元の配列を削除してください。

PCC-02313 VARCHAR 宣言の作成に間違いがあります - サイズがありません。

原因: VARCHAR 宣言のとき、長さ指定は必須です。たとえば、次に示す VARCHAR 宣言は意味がなく無効です。

```
VARCHAR v1[];
```

処置: それぞれの宣言された VARCHAR に長さを指定してください。

PCC-02314 定数の SIZEOF 式を評価できません。

原因: プリコンパイラ式が想定されているところで、SIZEOF 演算子が使用されました。(たとえば、VARCHAR の長さなど。)

処置: このインスタンスで SIZEOF 演算子を排除してください。

PCC-02315 式は定数として評価できません。

原因: 指定された式は定数として評価しません。たとえば、VARCHAR の長さなどのような式が必要です。

処置: 定数整数として評価される式に変更してください。

PCC-02316 定数式にある演算子が正しくありません。

原因: 定数式の中に非算術演算子があります。

処置: 式を修正して非算術演算子を削除してください。

PCC-02317 式のキャスト・タイプが正しくありません

原因: 式の中に無効なキャストがあります。

処置: 無効なキャストを削除してください。

PCC-02318 式にタイプがありません。

原因: 指定した式にはタイプの宣言が欠落しています。

処置: 式のタイプを指定してください。

PCC-02319 式タイプが使用方法に合っていません。

原因: 変数の型がその使用方法に添っていません。たとえば、動的 SQL で SQL のテキスト文を含んでいるホスト変数は、C キャラクタ・タイプとして宣言されるか、または SQL 型の STRING と同値化される必要があります。

処置: 宣言を削除してください。

PCC-02320 算術式のオペランド・タイプが正しくありません。

原因: 算術式は整数型で指定する必要があります。

処置: 整数型を使用して、式を修正してください。

PCC-02321 2つのポインタ間での減算だけが可能です。

原因: ポインタ値の加算、乗算または除算はできません。ポインタで許可されている算術演算は減算のみです。

処置: コーディングをやり直して、このエラー・メッセージが発生しないようにしてください。

PCC-02322 未定義の識別子が見つかりました。

原因: SQL 文に使用されている識別子が定義されていません。たとえば、宣言されていないカーソル名が参照されたり、まだ PREPARE されていない文名が DECLARE CURSOR 文で使用されました。

処置: カーソル名や文名などの SQL 識別子がすべて、使用前に定義されていることを確認してください。変数またはそのタイプの識別子（あるいは両方）を宣言してください。

PCC-02323 typedef 名が式の中（値が入るところ）で使用されています

原因: 変数が想定されている場所で TYPEDEF 名が見つかりました。

処置: 式を修正して、TYPEDEF に対する参照を削除してください。

PCC-02324 変数名が typedef 名に使用されています。

原因: TYPEDEF が想定されている場所に変数名が見つかりました。

処置: 式を修正して、正しい TYPEDEF 参照を指定してください。

PCC-02325 間接演算が正しくありません。

原因: 非ポインタ型をポインタとして使用しようとしてしました。

処置: 式を修正してください。

PCC-02326 構造体の参照演算が正しくありません。

原因: 無効な構文を使用して構造体の構成要素が参照されました。たとえば、'.' 演算子ではなく、-> 演算子が使用されました。

処置: 不正な参照を修正してください。

PCC-02327 struct または struct のポインタが必要です。

原因: struct（またはそのポインタ）が必要なコンテキストで、スカラー・ホスト変数が使用されました。

処置: ホスト変数を構造体にするか、または SQL 構文の要件を満たすようにスカラー・ホスト変数をさらに追加してください。

PCC-02328 struct メンバーが未定義です。

原因: 宣言されていない struct の構成要素が参照されました。

処置: 構造体を再定義してください。

PCC-02329 未宣言機能への参照が見つかりました。

原因: 宣言されていない関数が参照されました。すべての関数の参照を宣言する必要があります。

処置: 関数を宣言してください。

PCC-02330 整数タイプの式が入ります。

原因: 式が整数として評価されません。たとえば、SQL FOR 式は整数型として評価される必要があります。

処置: 式を修正してください。

PCC-02331 SQL の識別子が未定義です。

原因: すべての SQL 識別子は使用前に定義する必要があります。このメッセージは、CURSOR または STATEMENT が参照前に宣言（定義）されていない場合に出力されます。

処置: 使用前に SQL 識別子を定義してください。

PCC-02332 SQL の識別子を再定義しようとしてしました。

原因: SQL 識別子（たとえばカーソル名など）は 1 度しか定義できません。

処置: SQL 識別子を再定義しないでください。別の名前を使用してください。

PCC-02333 SQL の識別子が文として宣言されていません。

原因: SQL 文の識別子が、PREPARE されてない DECLARE... CURSOR 文で参照されました。

処置: すべての SQL 文名が宣言されていることを確かめてください。SQL 文名は識別子であって変数ではないこと、およびプリコンパイル単位に対してローカルであることに注意してください。

PCC-02334 SQL の識別子がカーソルとして宣言されていません。

原因: 宣言されていないカーソル名が OPEN、FETCH または CLOSE 文で使用されました。

処置: すべての SQL カーソル名が宣言されていることを確かめてください。カーソルは識別子であって変数ではないこと、およびプリコンパイル単位に対してローカルであることに注意してください。

PCC-02335 カーソル本体で文の識別子に名前をつける必要があります。

原因：動的 SQL 方法 4 のアプリケーションでは、DECLARE... CURSOR 文は、前の文中で PREPARE された文の識別子に名前をつける必要があります。PREPARE 文は物理的に（論理的にではなく）DECLARE コマンドの前にある必要があります。

処置：このメッセージの後に文を参照する行および列を示す別のメッセージが続きます。アプリケーションを再コーディングしてください。

PCC-02336 ホスト変数式のタイプが正しくありません。

原因：ホスト変数として許可されていない C のタイプを使用してホスト変数が宣言されました。ホスト変数に許可されている C のタイプのリストは、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

処置：許可されているホスト変数のタイプを使用してください。

PCC-02337 このタイプに対してはマルチディメンション配列を宣言できません。

原因：複数の次元を持つスカラーのホスト変数配列は宣言できません。複数の次元を持つことを許可されているホスト変数は CHAR および VARCHAR のみです。

処置：変数宣言を修正してください。

PCC-02338 構造体にネストされた struct または union が含まれています。

原因：ホスト変数として使用される構造体は、ネストされた struct または union を含むことができません。

処置：変数宣言を修正してください。

PCC-02339 ホスト変数は union タイプにできません。

原因：ホスト変数として C union を使用できません。

処置：このメッセージの後に、無効な union を参照する行および列を示す別のメッセージが表示されます。構造体または対応するスカラー・ホスト変数を使用して、再コーディングしてください。

PCC-02340 構造体にビット・フィールドが含まれています。

原因：ビット・フィールドはデータベース DML 操作では意味をなさないため、ホスト変数では許可されていません。

処置：このメッセージの後に、無効なホスト変数を参照する行および列を示す別のメッセージが続きます。アプリケーションを再コーディングしてください。

PCC-02341 ホスト変数のタイプが正しくありません。

原因：ホスト変数に許可されていない（ENUM または VOID などの）タイプが使用されています。

処置：許可されたホスト変数のタイプを使用して、ホスト変数の宣言を修正してください。

PCC-02342 FOR UPDATE 句なしで定義されたカーソルで WHERE CURRENT OF が使用されています。

原因：MODE=Oracle の場合、WHERE CURRENT OF 句で定義されたカーソルには FOR UPDATE 句が必要です。

処置：カーソル定義を修正してください。

PCC-02343 カーソルの本体は問合せ式でなければなりません。

原因：カーソル定義は SELECT 文である必要があります。

処置：カーソル定義を修正してください。

PCC-02344 ホスト変数の配列サイズが合っていないません。最小値: *number* を使用しています。

原因：1 つの文のホスト変数の配列は、すべて同じサイズである必要があります。

処置：バインド変数の配列の長さをすべて同じサイズに再定義してください。

PCC-02345 組み込まれた PL/SQL ブロックを使用するときは、SQLCHECK=SEMANTICS でなければなりません。

原因：組み込まれた PL/SQL ブロックを使用するときは、コマンド行フラグ SQLCHECK=SEMANTICS が使用されている必要があります。

処置：SQLCHECK=SEMANTICS オプションを使用してください。なお、これには USERID 接続オプションも必要です。

PCC-02346 PL/SQL で意味エラーが見つかりました。

原因：存在しない表名や列名などのデータベース・エンティティが参照されました。これはコンパイル時のエラーで、実行時エラーではありません。

処置：PL/SQL 文で参照されたオブジェクトがすべて存在し、それらに必要なアクセス権限が付与されていることを確認してください。

PCC-02347 PL/SQL で構文エラーが見つかりました。

原因：PL/SQL 文の使用方法が正しくありません。

処置：正しい構文の詳細は、『Oracle8i PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

PCC-02348 EXEC IAF 文で標識変数は使用できません。

原因：ホスト変数と対応付けられている標識変数は、EXEC IAF 文（ユーザー・イグジットの GET および PUT など）で使用できません。

処置：標識変数を削除してください。可能であれば（たとえば Forms V4 などのように）、EXEC TOOLS 文を使用してください。EXEC TOOLS 文では、標識変数を許可しています。詳細は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02349 このタイプには精度を指定する必要があります。

原因：VAR 文または TYPE 文で、特定の Oracle 型に精度の指定が必要です。たとえば、VARCHAR2 および CHAR がそうです。

処置：精度を指定してください。

PCC-02350 この SQL の型は同値化できません。

原因：データ型 NUMBER または DECIMAL に同値化するデータ型または変数は使用できません。詳細は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

処置：アプリケーションに適切なデータ型を使用してください。

PCC-02351 データ型の同値化演算が正しくありません。

原因：指定されたデータ型を同値化できないか、VAR 文または TYPE 文の構文が不正確です。

処置：同値化できるデータ型のリストおよび VAR 文や TYPE 文の正しい構文の詳細は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02352 バインド位置が PL/SQL から外れています。

原因：PL/SQL が存在しないバインド位置を要求しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

PCC-02353 意味的エラーです (行 *number*、列 *number*、ファイル *string*) :

原因：このエラー・メッセージの後に明確なエラー・メッセージが表示されます。

処置：処置は必要ありません。次のメッセージに示されるエラーを修正してください。

PCC-02354 #include で挿入されたファイルに SQL 文を含めることはできません。

原因：Pro*C プリコンパイラは #INCLUDE ディレクティブで参照されたヘッダー・ファイルを読み取り、そこに定義された値を使用します。ただし、ヘッダー・ファイルの文を使用してコード生成しないので、ヘッダー・ファイルで SQL 文を使用するのは無効です。

処置：SQL 文をアプリケーションの本体に移動するか、または EXEC SQL INCLUDE を使用して、インクルード・ファイルがプリコンパイルされることを確認してください。

PCC-02355 オプションが無効なため無視しました。

原因：Pro*C リリース 2.0 では使用されないコマンド行オプションが指定されました。たとえば、AREASIZE オプションは Oracle7 Server で使用するプリコンパイラでは無効になっています。

処置：処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

PCC-02356 警告 (行 *number*、列 *number*、ファイル *string*) :

原因：これは一般的な警告メッセージです。詳細な警告がこの後に表示されます。

処置: 処置は必要ありません。次のメッセージに示されるエラーを修正してください。

PCC-02357 ファンクション・コールはホスト変数式として使用できません。

原因: LVALUE（アドレスの決まったもの）であるオブジェクトのみがホスト変数になることができます。関数呼出しが LVALUE ではないため、ホスト変数の代用にはなりません。

処置: アプリケーションを再コーディングしてください。

PCC-02358 ARRAYLEN の後の識別子は配列名でなければなりません。

原因: ARRAYLEN 文の引数には、宣言された配列を指定する必要があります。ARRAYLEN 文を指定する前に配列を宣言してください。ARRAYLEN 文の構文の詳細は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

処置: 引数としてホスト配列を指定し、文を修正してください。

PCC-02359 ARRAYLEN を指定する識別子は 4 バイトの整数でなければなりません。

原因: ARRAYLEN の次元を指定する式は整数として評価されなければなりません。たとえば、EXEC SQL ARRAYLEN my_array(1,3) という文は解析できません。

処置: 整数の次元を使用して、文を修正してください。

PCC-02360 この配列型は、ARRAYLEN 文と一緒に使用できません。

原因: いくつかのホスト変数型の配列は許可されていないため、ARRAYLEN 文では使用できません。VARCHAR および DATE はその例です。

処置: ホスト配列で利用できるデータ型で配列を指定してください。

PCC-02361 ARRAYLEN は SQL バインド配列と一緒に使用できません。

原因: ARRAYLEN は、PL/SQL ブロックにバインドできる配列でのみ有効です。

処置: 適切な配列型を使用してください。

PCC-02362 ホスト変数は SQL DECLARE 節で宣言されていません。

原因: プリコンパイル時に MODE=ANSI を指定する場合、ホスト変数はすべて宣言節内部で宣言される必要があります。MODE=ANSI は ANSI C ではなく ANSI SQL を示すことに注意してください。

処置: EXEC SQL BEGIN DECLARE SECTION... EXEC SQL END DECLARE SECTION 文内ですべてのホスト変数を宣言してください。

PCC-02363 標識変数は構造体でなければなりません。

原因: ホスト変数が構造体である場合、あわせて使用する標識変数も構造体にする必要があります。

処置: アプリケーションを再コーディングして、標識変数を構造体として作成してください。

PCC-02364 ホストの struct およびその標識の数はフィールド数と同じでなければなりません。

原因: 標識変数を含む構造体を宣言して、ホストの struct と対応付ける場合、標識変数構造体はホストの struct と同じフィールド数を含む必要があります。これは、一部の標識変数が使用されない場合や、使用しても意味がない場合（たとえば、NON NULL として制約されているフィールドの場合）にも当てはまります。

処置: 正しいフィールド数を持つ標識変数を再宣言してください。

PCC-02365 標識の配列サイズはホストの配列サイズより大きくなければなりません。

原因: 標識変数配列のサイズは、対応するホスト変数配列のサイズと等しいかそれより大きくする必要があります。

処置: 標識配列のサイズを変更してください。

PCC-02366 コマンド行引数 MODE=ANSI は DBMS=V6 と一緒に使用できません。

原因: Oracle バージョン 6 での特定の操作（文字の比較など）の方法は、ANSI/ISO SQL 標準に 100% 準拠していません。DBMS=V6 オプションまたは DBMS=V6_CHAR オプションを使用した V6 の方法が要求されている場合は、MODE=ANSI によるプリコンパイルは許可されません。

処置: V6 オプションで ANSI モードを使用しないでください。

PCC-02367 この標識変数は SHORT 型で宣言しなければなりません。

原因: この型のホスト変数の標識変数は、C の SHORT 型である必要があります。このような標識変数の配列は、SHORT 型の配列でなければなりません。

処置: 標識変数または標識変数配列を SHORT 型で宣言してください。

PCC-02368 EXEC TOOLS のホスト変数コンテキスト名が型 CHAR ではありません。

原因: EXEC TOOLS GET CONTEXT 文または EXEC TOOLS SET CONTEXT 文にコンテキスト名を定義するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

処置: CHAR 型のホスト変数に対してコンテキスト名を宣言してください。

PCC-02369 EXEC TOOLS のホスト・ポインタ変数がポインタではありません。

原因: EXEC TOOLS コンテキストを指定するホスト変数はポインタ型である必要があります。

処置: 変数がポインタであることを確認して、再宣言してください。

PCC-02370 EXEC TOOLS MESSAGE のホスト変数が型 CHAR ではありません。

原因: EXEC TOOLS GET CONTEXT 文または EXEC TOOLS SET CONTEXT 文でコンテキスト名を定義するためにホスト変数が使用される場合、そのホスト変数は CHAR 型である必要があります。

処置: CHAR 型のホスト変数に対してメッセージを宣言してください。

PCC-02371 FOR 句が正しくありません。

原因：FOR 句の引数は、整数または整数を含んだ識別子として指定する必要があります。

処置：FOR 句を修正してください。

PCC-02372 SELECT 文に FOR 句を含めることはできません。

原因：SELECT コマンドを含んだ SQL 文に FOR 句は指定できません。このような文の意味は不明です。

処置：FOR 句を削除して、SELECT 文を修正してください。

PCC-02373 EXEC SQL DECLARE 節での宣言が無効です。

原因：DECLARE 節に不適切な宣言があります。このメッセージは通常、DECLARE 節内に、EXEC SQL TYPE または EXEC SQL VAR の宣言を組み込むことによって発生します。

処置：宣言を SQL DECLARE 節の外に移動してください。

PCC-02374 SQLCHECK の値がコマンド行の値を超えています。

原因：EXEC ORACLE 文で SQLCHECK オプションに指定した値がコマンド行で指定した値よりも大きい、または SQLCHECK オプションがコマンド行で指定されていない場合にデフォルト値よりも大きくなりました。オプション値の順序は、SEMANTICS>SYNTAX>NONE となっています。このメッセージが表示されるとき、SQLCHECK の元の値（デフォルト値またはコマンド行値）が有効です。

処置：.PC ソース・ファイルで EXEC ORACLE オプションを削除または再コーディングして、この警告メッセージが発生しないようにしてください。

PCC-02375 SQL 文がファンクション本体の外にあります。

原因：PARSE=FULL のときに、宣言、データ型同値化または WHENEVER 文以外の SQL 文がファンクションの本体外で検出されました。

処置：SQL 文をファンクションの本体内に移動してください。

PCC-02376 DEF_SQLCODE = TRUE の場合、SQLCODE を宣言できません。

原因：SQLCODE 宣言がすでに明示的にプログラム内にある場合は、DEF_SQLCODE オプションを指定できない可能性があります。

処置：プログラムから SQLCODE 宣言を削除するか、または DEF_SQLCODE=NO（デフォルト）を指定してください。

PCC-02377 暗黙の VARCHARS の配列は使用できません。

原因：HOST_VARCHAR=TRUE のときに、暗黙の VARCHAR の配列が宣言されました。

処置：配列を使用しないで、暗黙の VARCHAR 宣言を修正してください。

PCC-02378 各国語キャラクタ変数の型が無効です。

原因: NLS_CHAR オプションを使用して各国語キャラクタとして宣言された変数が、CHAR または暗黙の VARCHAR として宣言されませんでした。

処置: CHAR または暗黙の VARCHAR として変数を宣言するか、または NLS_CHAR オプションを使用して指定しないでください。

PCC-02379 各国語キャラクタ変数を同値化できません。

原因: 各国語キャラクタ変数 (NLS_CHAR オプションを使用して指定) が、EXEC SQL VAR 文または TYPE 文を使用して、データ型の同値化を行いました。

処置: 各国語キャラクタ変数を同値化しないでください。

PCC-02380 ユーザーのパスワードの変更時に接続モードを指定できません。

原因: 同じ CONNECT 文で ALTER AUTHORIZATION 句を使用してパスワードを変更しようとしたときに、SYSOPER モードまたは SYSDBA モードで接続されました。

処置: SYSOPER モードまたは SYSDBA モードで接続中のパスワードの変更は禁止されています。ALTER AUTHORIZATION 句または CONNECT MODE 句のいずれかを削除して、CONNECT 文を修正してください。

PCC-02382 NLS_LOCAL=YES を使用するときは、MODE=ANSI と指定しなければなりません。

原因: MODE=ANSI を指定しないで、NLS マルチバイト文字変数を指定するために、NLS_CHAR が使用されました。

処置: NLS_LOCAL=TRUE を使用する場合には、コマンド行で MODE=ANSI を指定してください。

PCC-02383 型 OCIEExtProcContext の式が必要です。

原因: REGISTER CONNECT USING 文で指定されるバインド変数の型が、OCIEExtProcContext (のポインタ) ではありません。

処置: 型 OCIEExtProcContext (のポインタ) を持つ変数を宣言して、REGISTER CONNECT USING 文で使用してください。

PCC-02384 配列長指定子がありません。

原因: 配列長指定子を使用しないで配列宣言を指定しました。

処置: 配列宣言の長さを指定してください。

PCC-02385 NLS_CHAR および NLS_LOCAL=TRUE を使用するときは、CHAR_MAP は使えません。

原因: NLS マルチバイト文字変数としてプリコンパイラが処理するホスト変数を示しているときに、CHAR_MAP オプションが指定されました。このマッピングは、NLS_LOCAL=TRUE オプションで実行できません。このエラーは、NLS_CHAR および NLS_LOCAL=TRUE とともに DBMS=V6 が使用される場合も発生します。

処置: CHAR_MAP オプションを削除するか、または NLS_LOCAL=FALSE を設定してください。DBMS が V6 に設定されていないことを確認してください。

PCC-02386 ここで AT 句は使用できません。

原因: 明示的 AT 句が ALLOCATE 文または FETCH/CLOSE 文 (SQL_CURSOR 宣言を使用) とともに使用されました。

処置: AT 句の指定を削除してください。

PCC-02387 タイプには sql_cursor の式が必要です。

原因: 結果セット SQL_CURSOR として宣言されなかった ALLOCATE 文、FETCH 文または CLOSE 文でホスト・バインド変数が使用されました。

処置: SQL_CURSOR 型の変数を宣言してください。

PCC-02388 SELECT 文の FROM/WHERE 句では配列は使用できません。

原因: ホスト配列を SELECT-INTO 文の WHERE 句内で使用しています。

処置: 配列を使用しないように SELECT 文を修正するか、またはカーソルを使用してください。

PCC-02389 配列は SELECT リストの入力バインド変数として使用できません。

原因: ホスト配列を SELECT-INTO 文の SELECT リスト内で使用しています。

処置: SELECT リスト内で配列を使用しないように SELECT 文を修正してください。

PCC-02390 EXEC SQL CONTEXT USE 文が見つかりません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文が検出されないで、THREADS=YES オプションが要求されました。

処置: 必要な (SQL_CONTEXT 型の) コンテキスト変数が宣言され、実行可能な SQL 文の前で割り当てられ、使用されているか確認してください。

PCC-02391 ランタイム・コンテキスト変数の型が正しくありません。

原因: EXEC SQL CONTEXT USE 文または REGISTER CONNECT 文の RETURNING 句にあるホスト変数が、SQL_CONTEXT 型として宣言されませんでした。

処置: SQL_CONTEXT 型のランタイム・コンテキスト変数を宣言してください。

PCC-02392 すでに EXEC SQL DECLARE SECTION 内に入っています。

原因: 1 つの SQL DECLARE SECTION が別の SQL DECLARE SECTION 内にネストされています。

処置: DECLARE SECTION をネストしないようにしてください。ネスト内の DECLARE SECTION を削除してください。

PCC-02393 SQL 文が EXEC SQL DECLARE SECTION の中に見つかりました。

原因: 実行可能な SQL 文が DECLARE SECTION 内にあります。

処置: SQL 文をファンクションの本体の中に移動してください。

PCC-02394 入力ファイル名と出力ファイル名が同じです。

原因: INAME および ONAME の値が同じであるか、またはデフォルトの出力ファイル名が ONAME で指定したものと同じです。

処置: ONAME を使用して、出力ファイルに別のファイル名を指定してください。

PCC-02395 構造体の配列を使用する場合、その構造体に名前がついていなければなりません。

原因: 名前の付いていない構造体の配列がホスト変数として使用されました。構造体の配列を使用するときには、構造体に名前またはタグが必要です。

処置: 構造体に名前を指定してください。

PCC-02396 構造体の配列内での配列の使用方法が正しくありません。

原因: スカラーの配列または 2 次元の CHAR または VARCHAR フィールドが含まれている構造体の配列がホスト変数として使用されました。

処置: スカラー配列または 2 次元の CHAR または VARCHAR フィールドを使用しないように構造体を修正してください。

PCC-02397 #include ファイル内では VARCHAR 宣言は許可されません。

原因: #include 形式を使用して組み込まれたファイル内に VARCHAR 宣言が見つかりました。

処置: EXEC SQL INCLUDE 形式を使用して、VARCHAR 宣言を指定したファイルを組み込んでください。

PCC-02398 この文のその型に対しては標識は無視されます。

原因: 標識変数を要求または必要としない文で、ある型に対する標識変数が、ホスト変数および標識変数の組で使用されました。通常、ALLOCATE および FREE 文では、オブジェクトまたはコレクション型以外の型に対して標識変数は使用されません。OBJECT CREATE/DEREF 文でも、REF 型に対しては使用されません。

処置: 指定された文でこの型に対する標識変数を使用しないでください。そうでない場合、標識変数は無視されます。

PCC-02399 DBMS=V6 に対して CHAR_MAP オプションが不正です。オプションを無視します。

原因: CHAR_MAP=VARCHAR2 以外の CHAR_MAP オプションがインラインで指定されました。DBMS=V6 であるため、このオプションは問題の文における文字変数または文字列変数に対して無視されます。

処置: DBMS を V6 以外に設定するか、または CHAR_MAP=VARCHAR2 を指定してください。

PCC-02400 このホスト変数はポインタ型で宣言しなければなりません。

原因: 指定されたホスト変数はポインタ型として宣言されていません。

処置: ホスト変数をポインタ型として宣言してください。

PCC-02401 この型のホスト変数配列は現在サポートされていません。

原因: 指定された型のホスト変数配列はサポートされていません。

処置: この型の配列を使用しないようにプログラムを修正してください。

PCC-02402 オブジェクト・キャッシュを使用するには、Pro*C オプション、OBJECTS=YES が必要です。

原因: このホスト変数に対してオブジェクト・キャッシュが使用されますが、Pro*C コマンド行で OBJECTS=NO が指定されました。

処置: オブジェクト・キャッシュを使用する場合には、Pro*C コマンド行で OBJECTS=YES を指定してください。

PCC-02403 このホスト変数に対しては無効な型の標識変数です。

原因: 標識変数の型が、指定されたホスト変数に対して適切ではありません。

処置: 標識変数の型を有効な型に変更してください。適切な標識変数についての説明は、『Oracle8i Pro*C/C++ プリコンパイラ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PCC-02404 この標識変数はポインタ型で宣言しなければなりません。

原因: 指定されたホスト標識変数はポインタ型として宣言されていません。

処置: 標識変数をポインタ型として宣言してください。

PCC-02405 変数の型が未定義です。

原因: 変数の型識別子に対する宣言が見つかりませんでした。

処置: ホスト変数の型に有効な宣言を指定してください。プログラムでオブジェクトを使用している場合、オブジェクト型の OTT 生成ヘッダーが組み込まれており、その型のファイルが Pro*C コマンド行の INTYPE オプションで指定されていることを確認してください。

PCC-02406 フォーム 'RETURN[ING] REF INTO :<ref>' だけが入ります。

原因: OBJECT CREATE で RETURNING 句を使用している場合は、1 つの 'REF INTO :host_variable' のみが必要です。このエラーが発生するのは、REF が属する式リストが 1 つ以上であるか、または 1 つ以上のホスト変数がリストに指定されている場合です。

処置: RETURNING 句をそれぞれの指定ごとに修正してください。

PCC-02407 オブジェクトと REF 型が合致していません。

原因: OBJECT CREATE または Deref 文で、指定されたオブジェクトとそれに対応する REF の型が一致しません。

処置: オブジェクトとその REF の型が同じであることを確認してください。型情報は OTT によって生成され、OTT が作成するヘッダー・ファイルに明記されます。

PCC-02408 オブジェクト型の式が入ります。

原因: 式がオブジェクト型ではありません。たとえば、ナビゲーションル文の多数のホスト変数式は、変数がいくつかのオブジェクト型に宣言される必要があります。

処置: 式を修正するか、または変数をオブジェクト型に宣言してください。

PCC-02409 REF 型の式が入ります。

原因: 式が REF 型ではありません。たとえば、ナビゲーションル CREATE および Deref 文のホスト変数は、REF 型に宣言される必要があります。

処置: 式を修正するか、または変数を REF 型に宣言してください。

PCC-02410 コレクション型の式が必要です。

原因: 式がコレクション型ではありません。VARRAY または NESTED TABLE オブジェクトが必要ですが、指定されたホスト変数が有効なコレクション型に変換されませんでした。

処置: コレクション型の OTT 生成ヘッダーが Pro*C/C++ プログラムに正しく組み込まれており、型ファイルが Pro*C/C++ コマンド行の INTYPE オプションで指定されていることを確認してください。

PCC-02411 INDICATOR 記述子項目のホスト変数に対して型が無効です。

原因: INDICATOR 記述子項目と対になっているホスト変数の型が無効です。INDICATOR 項目に許可されている型は、符号付き 2 バイトの数値型、またはユーザー定義のオブジェクト型用に OTT によって生成された標識変数の構造体です。

処置: INDICATOR ホスト変数を有効な型を持つものと置き換えるか、既存のホスト変数を有効な型に再宣言してください。

PCC-02412 FOR 句は、OBJECT GET または SET 文で使用できません。

原因: 明示的な FOR 句が OBJECT GET または OBJECT SET 文で使用されました。これらの文に FOR 句は使用できません。

処置: FOR 句を削除してください。

PCC-02413 属性の数がホスト変数の数と一致しません。

原因: GET 文の OBJECT SET の属性リストに指定された属性の数が、この文に指定されたホスト変数の合計数と一致しません。

処置: その文から属性またはホスト変数をいくつか削除して、それぞれの合計数を同じにしてください。

PCC-02414 この属性が指定したオブジェクトにありません。

原因: OBJECT SET または GET 文の属性リストに指定された属性が、その文に指定されたオブジェクトのメンバーではありません。

処置: リストから属性を削除してください。

PCC-02415 OBJECT GET または SET にあるオブジェクト属性は操作できません。

原因: それ自体がオブジェクトまたは REF 型であるオブジェクトの属性を GET または SET しようとした。

処置: 文の属性リストから属性を削除してください。

PCC-02416 OBJECT GET または SET にあるオブジェクトは配列であってはなりません。

原因: OBJECT GET または SET 文で指定されたオブジェクトが配列であるため無効です。

処置: オブジェクトが配列でないように、オブジェクトを再宣言してください。または、オブジェクト配列の要素を 1 つのみ指定するようにオブジェクトをサブスクリプトしてください。

PCC-02417 属性とホスト変数の型変換が不適当です。

原因: ナビゲーション GET または SET 文で、属性型とホスト変数型の間で、無効な型変換をしようとした。

処置: 属性またはホスト変数のどちらかの型を変更してください。

PCC-02418 オブジェクトと REF ホスト変数との配列サイズが一致しません。

原因: OBJECT CREATE または Deref でのオブジェクトおよび REF 変数の配列サイズが一致しません。

処置: 互いに等しくなるように、2 つのホスト変数の配列を調整してください。

PCC-02419 OBJECT SET または GET でホスト変数は配列にできません。

原因: OBJECT SET または GET 文のホスト変数リストで、配列が見つかりました。

処置: (一次元の CHAR または VARCHAR 変数を除き) スカラーのみが、OBJECT SET または GET のホスト変数リストで許可されます。これらの文ではスカラーのみを使用してください。

PCC-02420 型指定が不完全 (または欠落) です。

原因: SQL 文で使用するホスト変数の宣言時に、不完全または欠落している型が指定されました。

処置: SQL 文で使用するホスト変数を宣言する場合には、完全な型の定義を指定してください。

PCC-02421 このホスト変数には標識変数を使用する必要があります。

原因: 標識変数が明示的に必要とする特定のホスト変数に、標識変数が指定されていません (一致していません)。

処置: SQL 文で指定されたホスト変数に使用する標識変数を指定してください。

PCC-02422 所定のコンテキスト・オプションに指定した値が無効です。

原因: CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文で指定された実行時コンテキスト・オプションの値が無効です。

処置: 特定のオプションの文で、有効なオプション値を使用してください。

PCC-02423 このオプション値のホスト変数に無効な型があります。

原因: CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文の特定のオプション値に対応するホスト変数の型が無効です。

処置: 特定の値に適した型を使用してください。

PCC-02424 値とホスト変数の数が一致しません。

原因: CONTEXT *option* OPTION SET（または GET）文で指定された値の数と、指定された有効なホスト変数の数が一致していません。

処置: 特定の文で指定した値と同じ数のホスト変数を使用してください。

PCC-02425 この属性では標識変数は必要ありません。

原因: LOB または DESCRIBE コレクションで、標識変数を必要としない LOB 属性の取出し中に、標識変数がホスト変数とともに使用されました。

処置: 標識変数を削除してください。

PCC-02426 LOB の型が一致しません。

原因: 型が一致していない LOB の間で、LOB 操作を実行しようとした。たとえば、LOB を別の LOB に ASSIGN している場合、LOB は両方とも同じ型である必要があります。同じ型でない場合、このエラーとなります。

処置: 同じ型の LOB 間で機能するように、LOB 操作を修正してください。指定の操作を実行する LOB 文で使用される LOB のうちの 1 つを、再宣言する必要があります。

PCC-02427 式が正しい文字列型ではありません。

原因: 指定されたホスト変数式が、要求されたキャラクタ・タイプで宣言されませんでした。この場合、いくつかの可能なキャラクタ・タイプの 1 つが受け入れられます。しかしホスト変数型は、そのいずれにも一致しませんでした。

処置: 許可されているキャラクタ・タイプの 1 つを使用して、問題のあるホスト変数を再宣言してください。

PCC-02428 バッファ型が LOB の型と一致しません。

原因: このエラーは、次に示す状況で発生します。

1. LOB からその LOB 型と互換性のないバッファ型へ読み込もうとしました。
2. バッファ型と一致しない型の LOB へバッファを書き込もうとしました。

処置: LOB 型およびバッファ型が指定された操作と互換性を持つように、LOB 型またはバッファ型のいずれかを変更してください。

PCC-02429 内部 LOB 型の式が必要です。

原因：指定されたホスト変数は、内部 LOB 型として宣言されませんでした。BLOB、CLOB または NCLOB が受け入れられましたが、ホスト変数はそのうちのどれにも一致しませんでした。

処置：内部 LOB 型のどれか 1 つを使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCC-02430 任意の LOB 型の式が必要です。

原因：指定されたホスト変数は、内部 LOB 型または外部 LOB 型のいずれにも宣言されませんでした。内部 LOB 型のみでなく、BFILE も受け入れられましたが、ホスト変数はそのうちのどれにも一致しませんでした。

処置：内部 LOB 型または外部 LOB 型を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCC-02431 外部 LOB 型 (BFILE) の式が必要です。

原因：指定されたホスト変数は、外部 LOB 型として宣言されませんでした。この場合、BFILE のみが受け入れられます。

処置：外部 LOB 型 (BFILE) を使用して、ホスト変数を再宣言してください。

PCC-02432 READ WRITE モードで外部 LOB (BFILE) をオープンできません。

原因：BFILE を READ WRITE モードでオープンしようとしてしました。書込み可能な BFILE は現在サポートされていないため、この操作はエラーとみなされます。

処置：READ WRITE モードを使用して、BFILE をオープンしないでください。BFILE は READ ONLY モードでのみオープンできます。

PCC-02433 ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。

原因：LOB または DESCRIBE コレクションで、ホスト変数と属性の組み合わせが無効です。この場合、ホスト変数に問題がある可能性があります。たとえば、ホスト変数が宣言されていない場合、または指定されていない場合に、このエラーが発生します。

処置：通常、さらに明確なその他のエラーが出力されます。いくつかの問題またはすべての問題を修正すると、このエラーを解決できます。

PCC-02434 LOB 文では FOR 句を使用できません。

原因：明示的 FOR 句が LOB 文で使用されました。FOR 句を LOB 文で使用すると、エラーとみなされます。

処置：FOR 句を削除してください。

PCC-02435 この属性は内部 LOB 型に対してだけ有効です。

原因：LOB が内部 LOB 型でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置：LOB DESCRIBE の LOB ホスト変数を内部 LOB 型として宣言された変数と置き換えてください。

PCC-02436 この属性は外部 LOB 型 (BFILE) に対してだけ有効です。

原因: LOB が外部 LOB 型 (BFILE) でない LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されました。

処置: 外部 LOB 型 (BFILE) ホスト変数を LOB DESCRIBE 文で使用してください。

PCC-02437 2 進整数型の式が必要です。

原因: 有効な 2 進整数型のホスト変数が指定されませんでした。一般的に、このエラーが発生するとき、符号付きまたは符号のない整数型が必要です。浮動小数点または正確でない数値型は、エラーがあるとみなされます。

処置: 問題のあるホスト変数を正確な整数値型を使用して宣言された変数と置き換えてください。

PCC-02438 収集オブジェクトの配列は使用できません。

原因: 収集オブジェクトの配列が COLLECTION 文で指定されました。スカラー (配列でない) 収集オブジェクトのみが COLLECTION 文で使用できます。

処置: 配列にならないようにホスト変数コレクションの宣言を変更してください。

PCC-02439 この COLLECTION 文では FOR 句を使用できません。

原因: FOR 句を使用できない COLLECTION 文、具体的には、TRIM または DESCRIBE COLLECTION 文で、無効な FOR 句が使用されました。

処置: FOR 句を文から削除してください。

PCC-02440 この属性は内部または外部 LOB に対して有効です。

原因: LOB DESCRIBE 文で、LOB 属性が要求されましたが、その文で指定された LOB ホスト変数は、内部または外部 LOB 型 (BFILE) のいずれでもありません。

処置: 内部 LOB 型ホスト変数または外部 LOB 型ホスト変数のどちらかを LOB DESCRIBE 文で使用してください。

PCC-02441 属性の数がホスト変数の数と一致しません。

原因: LOB または DESCRIBE コレクションで、属性の数および有効なホスト変数の間に不一致があります。

処置: 要求されている各属性に、ホスト変数の値を持つように指定された有効なホスト変数が 1 つでも存在することを確認してください。

PCC-02442 値は 1 から 65535 の間でなければなりません。

原因: ALLOCATE DESCRIPTOR 文の WITH MAX 句または GET/SET DESCRIPTOR 文の VALUE 句で指定される値が、1 未満かまたは 65535 を超えました。

処置: 値を 1 ～ 65535 の間で指定してください。

PCC-02443 この使用法は、DYNAMIC=ANSI が指定されている場合だけ有効です。

原因: 次の文のいずれかが、DYNAMIC=ANSI コマンド行オプション設定を指定しないで使用されました。

- EXEC SQL ALLOCATE/DEALLOCATE/GET/SET DESCRIPTOR
- EXEC SQL DESCRIBE OUTPUT/INPUT ... USING ... *descriptor*
- EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
- EXEC SQL EXECUTE ... USING ... *descriptor*
- EXEC SQL EXECUTE ...INTO ...
- EXEC SQL OPEN ... USING ... *descriptor*

処置: DYNAMIC=ANSI を指定するか、またはプログラムから前述の文を削除してください。

PCC-02444 記述子句と非記述子句の組合わせが無効です。

原因: ANSI 動的 SQL 文で記述子句および非記述子句が混在しています。

処置: 問題の ANSI 文では記述子と非記述子を混ぜて使用しないでください。

PCC-02445 USING 句は PREPARED 動的文でだけ有効です。

原因: PREPARE されていない文によってカーソル宣言されたカーソルに対して OPEN 時に USING 句が指定されています。正しい順序は、次のとおりです。

```
EXEC SQL PREPARE s FROM :stmt;  
EXEC SQL DECLARE c CURSOR FOR s;  
EXEC SQL OPEN c USING ...;
```

処置: SQL 文に対して PREPARE 文を実行して、これを DECLARE CURSOR 文で使用してください。

PCC-02446 DEALLOCATE 文では FOR 句を使用できません。

原因: 明示的 FOR 句が DEALLOCATE DESCRIPTOR 文で使用されました。

処置: FOR 句を文から削除してください。

PCC-02447 LOB WRITE APPEND では宛先オフセットを指定できません。

原因: 宛先オフセットが LOB WRITE APPEND 文で指定されました。宛先オフセットは LOB の終わりとみなされるので、明示的な宛先オフセットを指定するとエラーになります。

処置: LOB WRITE APPEND 文から宛先オフセットを削除してください。

PCC-02448 NLS_NCHAR オプションに UCS2 変数は指定できません。

原因: UTEXT、UVARCHAR または LONGUVARCHAR として宣言された変数が、NLS_NCHAR コマンド行オプションで指定されています。

処置: NLS_NCHAR コマンド行オプションで変数を指定せずに、再プリコンパイルしてください。

PCC-02449 UCS2 型は型同値にできません。

原因： UCS2 型が EXEC SQL TYPE 文で同値化指定されたか、または UCS2 型が EXEC SQL VAR 文で同値化指定されました。

処置： EXEC SQL TYPE 文または EXEC SQL VAR 文を削除してください。

コマンド行メッセージ (PCC)

PCC-02035 CMD-LINE: 構成ファイルの CONFIG= オプションが無効です。

原因: ユーザー構成ファイル内にユーザー構成ファイルを指定できません。つまり、ネストされた構成ファイルをネストできません。

処置: ネストされた構成ファイルがある場合は、オプションをネストされたファイルから最上位のファイルに移動してください。

PCC-02040 CMD-LINE: オプションが選択されましたが、値がありません。

原因: コマンド行にオプションが指定されましたが、そのオプションの値が組み込まれていませんでした。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
proc iname=sample1.pc oname=
```

処置: オプションに値を指定してください。

PCC-02041 CMD-LINE: オプションが存在しません:

原因: 存在しないオプションをコマンド行に指定しました。

処置: 有効なコマンド行オプションおよびその値の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02043 CMD-LINE: オプション構文が無効です。

原因: コマンド行オプションの値が正しく指定されませんでした。

処置: 指定するコマンド行オプションの値の正しい構文の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02044 CMD-LINE: オプションの値が無効か範囲外です:

原因: コマンド行オプションに指定した値が許容範囲内ではありません。たとえば、MAXOPENCURSORS オプションの範囲は 5 ~ 256 です。範囲外の値が指定される場合、メッセージが出力されます。

処置: オプション値の範囲の詳細は、言語固有のプリコンパイラ・プログラマーズ・ガイドを参照してください。

PCC-02045 CMD-LINE: オプションが一意ではありません：

原因：一意ではないオプション名がコマンド行に部分的に指定されました。たとえば次のような場合です。

```
% proc in=t.pc
```

この「in」オプションは、INAME または INCLUDE オプションのどちらの意味を示すことができます。

処置：コマンド行に十分な文字を指定して、オプション名が一意に示されるようにしてください。

PCC-02046 CMD-LINE: 構成ファイルをオープンできません：

原因：存在しないユーザー構成ファイルが、構成オプションでコマンド行に指定されました。

処置：構成ファイルに有効なファイル名を指定してください。

PCC-02047 CMD-LINE: オプションはインラインでは使用できません。

原因：コマンド行または構成ファイルでのみ入力できるオプションが、インラインで入力されました。たとえば、違反しているコードは次のようになっています。

```
EXEC ORACLE OPTION (NLS_CHAR=name) ;
```

NLS_CHAR オプションは、コマンド行または構成ファイルでのみ入力できます。

処置：ソース・ファイルからオプションを削除して、コマンド行で指定してください。

PCC-02066 CMD-LINE: システム構成ファイルが見つからないか、オープンできません。

原因：システム構成ファイルは、標準名 (PMSCFG.H) とオペレーティング・システム固有の位置から成り立っています。UNIX システムでは ORACLE_HOME/proc ディレクトリです。PMSCFG.H という名前のファイルが標準の位置に見つからないと、この警告メッセージが出力されます。

処置：標準の位置にシステム構成ファイルを作成してください。ファイルは空でもかまいません。オペレーティング・システム固有の Oracle マニュアルも参照してください。

PCC-02081 CMD-LINE: 未終了のオプション値リストまたは値リストが切捨てられました。

原因：値リストが必要なオプションが入力されましたが、値リストは閉じカッコを持っていませんでした。1 行に入力された値リストが長すぎて、Pro*C が切捨てた場合にも、このエラーが発生する可能性があります。

処置：すべての値リストを閉じカッコで終了するようにしてください。長い値リストは個々のエントリに分割してください。

PCC-02129 CMD-LINE: クライアントからの静的オプション表が無効です。

原因：これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

PCC-02132 CMD-LINE: メモリーを割当てできません。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

PCC-02133 CMD-LINE: 文字列処理機能にエラーがあります。

原因: これは通常は出力されない内部エラー・メッセージです。STRCPY または STRLEN などの C 文字列関数がエラーを戻したことを示しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

PCC-02134 CMD-LINE: オプションが NULL です。

原因: コマンド行で長さゼロのオプションが指定されました。

処置: 有効なオプションを指定して、コマンド行を再入力してください。

PCC-02135 CMD-LINE: ヘルプが要求されました。

原因: これは、コマンド行オプションに関する情報が要求されたときにプリコンパイラが発行する最後のメッセージです。たとえば、proc ? コマンドが発行され、コマンド行オプションのカレントのデフォルト値リストが表示された場合、このメッセージがリストの最後に表示されます。

処置: 処置は必要ありません。

PCC-02138 CMD-LINE: 内部一貫性エラーです。

原因: プログラムの例外に関係する内部メッセージです。コマンド行プロセッサが予期しない条件を検出し、一貫性チェックが失敗しました。このようなメッセージが出される原因として次のものが考えられます。

- 無効なコマンド行オプション
- メモリーの破壊

処置: 次の情報を収集した後、このエラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告してください。

- エラーが発生するまでの経過
- 実行しようとしてエラーを引き起こした操作
- このエラーが発生する前の通常と異なる状況

PCC-02144 CMD-LINE: 等号記号 (=) 両側にブランク文字を使用できません。

原因: ブランク文字が等号記号 (=) の直前または直後にありました。

処置: コマンド行では等号記号 (=) の両辺にブランク文字を入れないようにして、プログラムを再コンパイルしてください。

PCC-02150 行 *number*、列 *number* でエラーが発生しました。ファイル *string*

原因: 示された場所でエラーが検出されました。

処置: 示されたソース・ファイルをチェックし、このエラー・メッセージに続いて表示される追加情報を使用してエラーを修正してください。

PCC-02151 行 *number*、列 *number*、ファイル *string*:

原因: 示された場所でエラーが検出されました。

処置: リストされたソース・ファイルをチェックし、このエラー・メッセージに続いて表示される追加情報を使用してエラーを修正してください。

PCC-02152 ファイル *string* をオープンしてソース行 *number* を表示またはリストアップできません。

原因: ファイルにエラーが含まれていますが、ファイルを再オープンして誤りのある行をリストまたは表示できません。

処置: ファイルが壊れていないこと、および読取り権限があることを確認してください。操作を再実行してください。

PCC-02153 ファイル:*string* をオープン

原因: リスト・ファイルの作成中に新しいソース・ファイルがオープンされました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

PCC-02154 ファイル:*string* をクローズ

原因: リスト・ファイルの作成中に新しいソース・ファイルがクローズされました。

処置: 処置は必要ありません。これは情報メッセージです。

SQL ランタイム・メッセージ (SQL)

SQL-02100 メモリーが足りないため割当てできません。

原因：SQLLIB がプログラムを実行するために十分なメモリーを割り当てることができませんでした。

処置：ユーザー・プロセス用により多くのメモリーを割り当ててください。その後、プログラムを再実行してください。繰り返しエラーが発生する場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

SQL-02101 無効なカーソル・キャッシュです。ユニット・カーソル/グローバル・カーソルが一致しません。

原因：通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02102 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・キャッシュ・エントリがありません。

原因：通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02103 無効なカーソル・キャッシュです。カーソル・キャッシュ参照の範囲を超えています。

原因：通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02104 無効なホスト・キャッシュです。使用可能なカーソル・キャッシュがありません。

原因：通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02105 無効なカーソル・キャッシュです。グローバル・カーソルがありません。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02106 無効なカーソル・キャッシュです。Oracle カーソル番号が無効です。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02107 実行時ライブラリに対してプログラムが古すぎます。プログラムを再度プリコンパイルしてください。

原因: プログラムがこのリリースの SQLLIB と互換性のない古いバージョンの Oracle プリコンパイラでプリコンパイルされています。

処置: より新しいバージョンの Oracle プリコンパイラを使用してこのプログラムをプリコンパイルしてください。

SQL-02108 実行時ライブラリに無効な記述子が渡されました。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02109 無効なホスト・キャッシュです。ホスト参照が範囲外です。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02110 ホスト・キャッシュが無効です。ホスト・キャッシュ・エントリの型が無効です。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02111 ヒープ一貫性エラーが発生しました。

原因: 通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置: メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02112 SELECT..INTO が戻す行が多すぎます。

原因：SELECT ...INTO 文が、指定したホスト変数に格納できる行数よりも多くの行を戻しました。

処置：3つの解決方法が考えられます。

- プリコンパイラ・オプション SELECT_ERROR=NO を使用します。
- より大きな配列のホスト変数を宣言します。
- SELECT 文のカーソルまたはカーソル変数を宣言します。

SQL-02113 メッセージ・ファイルをオープンできません。

原因：SQLLIB は、SQLLIB メッセージ・ファイルの SQL*.MSB を検出またはオープンできませんでした。

処置：このファイルが MESS ディレクトリに存在し、読み込み可能であることを確認してください。

SQL-02114 無効な SQL カーソルの使用：すでにクローズしているカーソルをクローズしようとしてしました。

原因：MODE={ANSI|ANSI14} で、すでにクローズされているカーソルをクローズしようとしてしました。クローズされているカーソルを再クローズできるのは、MODE={ORACLE|ANSI13} のときのみです。

処置：MODE={ANSI|ANSI14} の場合には、カーソルをクローズする前にカーソルがすでにクローズされていないかどうか調べてください。クローズされているカーソルを再クローズする場合は、MODE={ORACLE|ANSI13} を指定してください。

SQL-02115 コード解析の問題 -- COMMON_NAME の使用法をチェックしてください。

原因：Pro*FORTRAN プログラムで、プリコンパイラ・オプション COMMON_NAME が正しく指定されていない場合にこのエラーが発生します。また、その他の Oracle プリコンパイラでは、プリコンパイラがコード・セクションの生成ができないときにこのエラーが発生します。

処置：Pro*FORTRAN で、COMMON_NAME を使用して複数のソース・モジュールをプリコンパイルしている場合には、各モジュールに異なる共通名を指定しているかどうか確認してください。その他の Oracle プリコンパイラでこのエラーが発生した場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SQL-02116 FATAL ERROR: 再入可能なコード・ジェネレータが無効なコンテキストを与えました。

原因：通常、この内部エラーはメモリー関係のエラーを示します。

処置：メモリー関係のエラー（たとえば、ポインタの無効または配列の境界違反など）がないかどうかプログラムを確認してください。

SQL-02117 無効な SQL カーソルの使用 : すでにオープンしているカーソルをオープンしようとしてしました。

原因 : MODE={ANSI|ANSI14|ANSI13} で、すでにオープンされているカーソルをオープンしようとしてしました。オープンしているカーソルを再オープンできるのは、MODE=ORACLE のときのみです。

処置 : MODE={ANSI|ANSI14|ANSI13} の場合には、カーソルをオープンする前に、カーソルがすでにオープンされていないかどうか調べてください。オープンされているカーソルを再オープンする場合は、MODE=ORACLE を指定してください。

SQL-02118 WHERE CURRENT OF 操作の列が無効です。

原因 : UPDATE 文または DELETE 文の CURRENT OF 句を使用して、存在していない行を参照しようとしてしました。このエラーは、FETCH が実行されなかった場合や、FETCH が "no data found" (データが見つかりません) というエラーを戻したのに対しプログラムがそのエラーをトラップできなかった場合に発生します。

処置 : 最後のカーソル操作が正しく完了したかどうか、カーソルのカレント行が有効かどうか確認してください。カーソル操作の結果は 2 つの方法で確認できます。WHENEVER 文で暗黙的に確認するか、または SQLCA の SQLCODE で明示的に確認できます。

SQL-02119 HSTDEF 引数が無効です。

原因 : 最初の引数が使用されたときに、SQLRCN コールの 2 番目の引数として NULL 以外のポインタが HSTDEF に対して指定されました。SQLRCN の最初または 2 番目の引数のいずれかが NULL である必要があります。

処置 : SQLRCN に対する最初または 2 番目の引数のいずれかに NULL ポインタを渡してください。

SQL-02120 SQLRCN の第 1 引数および第 2 引数が両方とも NULL です。

原因 : SQLRCN の最初の引数と 2 番目の引数が両方とも NULL でした。OCI LDA (最初の引数) の形式で、または HSTDEF ポインタ自体 (2 番目の引数) として、HSTDEF を SQLRCN に渡さなければなりません。

処置 : OCI LDA または HSTDEF のいずれかを渡してください。ただし、両方とも渡さないでください。

SQL-02121 ホスト名が無効です。

原因 : SQLFCN コールに渡されたホスト名は、SQLRCN への以前のコールで使用されませんでした。

処置 : 対応する SQLRCN コールで使用された同じ識別子を使用してください。

SQL-02122 データベース接続での OPEN または PREPARE が無効です。

原因 : 別のデータベース接続のために現在オープンしているカーソルを使用して、OPEN 文または PREPARE 文を実行しようとしてしました。このカーソルはこの接続では使用できません。

処置: 現在接続しているデータベースでできるようにカーソルをクローズするか、現在の接続に使用可能な他のカーソルに対して実行してください。

SQL-02123 EXEC TOOLS GET CONTEXT 文で参照されているコンテキストが見つかりません。

原因: EXEC TOOLS GET CONTEXT 文で指定されたコンテキスト名が、EXEC TOOLS SET CONTEXT 文で保存されていませんでした。

処置: 後で検索できるように、EXEC TOOLS SET CONTEXT 文を使用して、すべてのコンテキストを保存してください。

SQL-02124 EXEC TOOLS 文から NULL 値が戻されました。

原因: EXEC TOOLS から、標識変数が指定されていないホスト変数に対して NULL 値が戻されました。このエラーが戻されるのは、MODE=ANSI の場合のみです。MODE=ORACLE のときには、ホスト変数の値が不足でも、エラーは生成されません。

処置: NULL を戻す可能性のあるホスト変数と標識変数を関連付けてください。

SQL-02125 接続エラーでメッセージを取り出せません。

原因: 接続ができませんでした（デフォルト・ホストにも）。その結果、SQLLIB は、発生した Oracle エラーのメッセージ・テキストを読み取れませんでした。ただし、SQLLIB は、メッセージを調べるために使用できる Oracle エラー番号を戻します。

処置: このマニュアルで該当するメッセージを調べて、その原因および処置を参照してください。

SQL-02126 配列要素の数は 0 以上でなければなりません。

原因: プリコンパイラによって SQLDA（動的 SQL 方法 4 で使用する SQL 記述子領域）の N 変数または F 変数の配列変数に負数が検出されました。DESCRIBE 文を実行する前に、N に記述配列の次元を設定してください。DESCRIBE 文の実行後、F 変数に格納されている、DESCRIBE された変数の実際の数に N を再設定してください。

処置: N または F 変数が負以外の値に設定されているかどうかを確認してください。

SQL-02127 プリコンパイラと SQLLIB のバージョンが一致しません。

原因: プログラムが、旧バージョンの SQLLIB にリンクされており、Oracle プリコンパイラのこのリリースとの互換性がありません。

処置: プログラムを SQLLIB の新しいバージョンに再リンクしてください。

SQL-02128 セッションがまだ存在します。ログオフしません。

原因: XA が依然としてセッションをそのホストと対応付けているため、SQLLIB からホストが削除（ログオフ）されませんでした。

処置: SQLXDH をコールしてホストを削除する前に、XA がそのホストのすべてのセッションを削除するか、または "doit_anyway" フラグを設定してください。

SQL-02129 取出されたバイト数が奇数です。

原因：プログラムが、無効な列値をマルチバイト NLS ホスト変数に FETCH しようとしてしました。具体的には、有効な 2 バイト・データがその列に含まれていませんでした。

処置：列が 2 バイトのデータのみを含むようにしてください。これを確認するには、SQL*Plus または Server Manager を使用してください。

SQL-02130 EXEC TOOLS インタフェースが使用できません。

原因：EXEC TOOLS インタフェースをサポートしていないバージョンの Oracle Tool にリンクしようとしてしました。

処置：Oracle Tool をアップグレードするか、または EXEC IAF インタフェースを使用してください。

SQL-02131 ランタイム・コンテキストは使用中です。

原因：アプリケーションがすでに使用中のランタイム・コンテキストを使用して、SQL 文を実行しようとしてしました。

処置：同一のランタイム・コンテキストで 1 つのスレッドが完了するのを待ってから別の SQL 文を実行するようにするか、または各スレッドごとに別々のランタイム・コンテキストを割り当て使用するように、アプリケーションを修正してください。

SQL-02132 実行時コンテキスト sdfla asdjklfajs jfja ajsdf を割り当てできません。

原因：ランタイム・コンテキストを割り当てようとしてしましたが、できませんでした。

処置：このエラーは通常、プロセス・メモリーのサイズが小さいときに発生します。より多くのメモリーを割り当て、再度アプリケーションを実行してください。

SQL-02133 スレッドで使用するプロセスを初期化できません。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

SQL-02134 ランタイムのコンテキストが無効です。

原因：この文に関連するランタイム・コンテキストが適切に割り当てられていません。

処置：SQL 文を実行する前に、EXEC SQL CONTEXT ALLOCATE 文を実行するようアプリケーションを修正してください。

SQL-02135 与えられたマスクでは日付書式を初期化できません。

原因：ランタイム・ライブラリは与えられた日付書式マスクで日付書式設定文を発行できませんでした。

処置：日付書式の妥当性を検査し、必要に応じて修正してください。詳細は ORA エラー番号で調べてください。

SQL-02136 NCHAR キャラクタ・セット ID が無効です。

原因：NCHAR ホスト変数をバインドまたは定義しようとしてしましたが、環境変数 NLS_NCHAR が正しく設定されていませんでした。

処置: 環境変数 NLS_NCHAR を有効な固定幅キャラクタ・セット ID に設定し、再度アプリケーションを実行してください。

SQL-02137 RETURNING 句のないマルチスレッド・エージェントがあります。

原因: EXEC SQL REGISTER CONNECT 文が RETURNING 句を含まずに、エージェントはスレッド・モードで実行しています。

処置: 宣言された SQL_CONTEXT ホスト変数を参照する RETURNING 句を使用した文へ修正してください。

SQL-02138 外部プロシージャのコンテキストが存在しません。

原因: EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に渡された外部プロシージャ・コンテキストが有効ではありません。

処置: 次のことを行ったかどうか確認してください。

1. CONTEXT パラメータで PL/SQL プロシージャおよびファンクションを作成したか。
2. 外部プロシージャの仮パラメータ・リストに OCIExtProcContext が含まれているか。
3. OCIExtProcContext が EXEC SQL REGISTER CONNECT 文に正しく渡されたか。

SQL-02139 OCI ハンドルを取得できません。

原因: OCIExtProcGetEnv へのコールが失敗しました。

処置: OCIExtProcContext を確認し、外部プロシージャが CONTEXT パラメータで作成されていることを確認し、このコンテキストが EXEC SQL REGISTER CONNECT 文で正しく参照されていることを確認してください。

SQL-02140 名前のない接続がすでに存在しています。

原因: ランタイム・コンテキストに名前のない接続がすでに存在するときに、外部プロシージャ・コンテキストを登録しようとしてしました。

処置: 外部プロシージャから EXEC SQL CONNECT 文で、接続を設定しないでください。

SQL-02141 収集記述子が割当てられていません。

原因: 割当てられていないコレクション記述子を COLLECTION SET 文または COLLECTION GET 文で参照しました。

処置: EXEC SQL ALLOCATE 文でコレクション記述子を割り当ててください（たとえば、EXEC SQL ALLOCATE :coldesc_p; など）。

SQL-02142 収集が NULL です。

原因: EXEC SQL COLLECTION 文で参照されるコレクションが NULL です。

処置: EXEC SQL COLLECTION 文を実行する前に、関連付けられた標識変数の状態を調べてください。

SQL-02143 ターゲット・オブジェクトが適切に割当てられていません。

原因: コレクションから、割り当てられていないオブジェクト・ポインタに、要素を取り出そうとしました。

処置: EXEC SQL ALLOCATE 文でオブジェクト・ポインタを割り当ててください。

SQL-02144 ANSI Dynamic の使用方法が無効です。

原因: 動的オプションを設定していないときに、ANSI の割当て記述子文、割当て解除記述子文、取得記述子文または設定記述子文が検出されました。

処置: オプション DYNAMIC=ANSI でソースをプリコンパイルしてください。

SQL-02145 Dynamic 記述子が無効です。

原因: 割り当てられていないまたは無効な記述子へアクセスしようとしてしました。

処置: ANSI 記述子用に、記述子名が有効であることおよび記述子が割り当てられており、前に割当て解除をされていないことを確認してください。または MODE=ANSI で Oracle 記述子 (SQLDA) を使用する場合、DYNAMIC=ORACLE も使用してください。

SQL-02146 既存の記述子を割当てようとしてしました。

原因: 以前に割り当てられた記述子を割り当てようとしてしました。

処置: 一意の記述子名を使用するかまたは記述子を再割当てしようとする前に、その記述子の割当てを解除してください。

SQL-02147 ANSI Dynamic のオカレンス値が範囲外です。

原因: 動的 GET 文または動的 SET 文の VALUE 句が、1 未満または記述子の割当てに指定された最大値よりも大きくなっています。

処置: 記述子が割り当てられたとき、VALUE 句に 1 と最大オカレンス値の間の数を設定してください。

SQL-02148 ANSI Dynamic のカウント値が範囲外です。

原因: 動的 GET 文または動的 SET 文のカウントが、1 未満または記述子の割当てに指定された最大値よりも大きくなっています。

処置: 記述子が割り当てられたとき、COUNT 句に 1 と最大オカレンス値の間の数を設定してください。

SQL-02149 ANSI Dynamic で項目記述子の領域が不足しています。

原因: 記述されている SQL 文に、記述子への割当てよりも多くの出力項目 (または列) が含まれています。

処置: 記述子を割り当てるとき、オカレンスの最大値を増やしてください。

SQL-02150 ANSI Dynamic SET 文の長さが 0（ゼロ）です。

原因：ANSI Dynamic 文に、無効な長さ 0 が検出されました。

処置：0 ではない長さを設定してください。

SQL-02151 絶対数値の SET 文項目に対するホスト変数が無効です。

原因：無効な型または長さのホスト変数を使用して、ANSI Dynamic 文で絶対数値項目を取得または設定しました。

処置：ホスト変数が C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S9(9) の BINARY/COMP/DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE であることを確認してください。

SQL-02152 配列の GET/SET 文で使用する数値変数が無効です。

原因：C の INT か SHORT、S9(4) か S9(9) の BINARY または COMP 以外の型のホスト変数が絶対数値に対して配列サイズ > 1 で使用されました。

処置：配列を示すために、FOR 句で論理積の絶対数値を指定する場合、C の INT か SHORT、または COBOL の S9(4) か S(9) の BINARY または COMP のみを使用してください。特に、このコンテキストでは DIPLAY SIGN LEADING SEPARATE は使用できません。

SQL-02153 GET/SET 文で使用する文字変数が無効です。

原因：ANSI Dynamic GET 記述文または ANSI Dynamic SET 記述文の（DATA 項目以外の）項目名として、CHARACTER、STRING または VARCHAR 以外の型のホスト変数が検出されました。

処置：ANSI Dynamic GET 記述文または ANSI Dynamic SET 記述文の（DATA 項目以外の）文字項目のホスト変数型に、LONG または LONG VARCHAR 型を指定しないでください。ホスト変数を CHARACTER、STRING または VARCHAR に再宣言してください。

SQL-02154 ANSI Dynamic にあるホスト変数用のデータ型が無効または未設定です。

原因：以前に設定された有効な型のない、項目名 DATA の ANSI Dynamic SET 文が検出され、オプション MODE=ANSI が使用されました。

処置：MODE=ANSI で、DATA を設定する前に型を設定する必要があります。正しい項目型の SET 文または出力用に DESCRIBE を発行して、項目型を設定してください。あるいは、バインドまたは定義したホスト変数に対してデフォルトとして型が設定される MODE=ORACLE を使用してください。

SQL-02155 日付時間間隔は Dynamic=ANSI だけで有効です。

原因：TYPE_CODE オプションが ANSI に設定されていないときに、日付時間間隔コードまたは日付時間間隔精度へアクセスしようとしてしました。

処置：日付時間間隔コードまたは日付時間間隔精度へアクセスするには、プリコンパイラ・オプション TYPE_CODE=ANSI を使用してください。

SQL-02156 標識の型または戻り値の長さが無効です。

原因：項目標識または戻り値の長さと関連付けられたホスト変数は、SHORT 型または S9(4)COMP である必要があります。値構文およびスカラーの場合、DIPLAY SIGN LEADING SEPARATE ホスト変数に取得されます。

処置：C の場合、標識、REF 標識、戻り値の長さおよび REF 戻り値の長さのホスト変数には、符号付き SHORT を使用してください。COBOL の場合は、S9(4)COMP を使用してください。GET には配列以外であれば、DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE ホスト変数を使用できます。

SQL-02157 ソースまたは宛先 LOB が無効です。

原因：LOB の追加呼出しに使用されている LOB の 1 つが無効であるかまたは NULL である可能性があります。

処置：追加呼出しに使用されている LOB が NULL ではないことを確認してください。

第 VI 部

オプション・メッセージ

第VI部には、次の章があります。

- 第 47 章「interMedia Audio メッセージ (AUD)」
- 第 48 章「interMedia Image メッセージ (IMG)」
- 第 49 章「interMedia Video メッセージ (VID)」
- 第 50 章「interMedia Text メッセージ (DRG)」
- 第 51 章「Time Series メッセージ (TS)」
- 第 52 章「Spatial Data Option メッセージ (SDO)」
- 第 53 章「Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)」

interMedia Audio メッセージ (AUD)

interMedia Audio オプションについては、『Oracle8i *interMedia Audio, Image, Video* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

AUD-00001 Audio Cartridge 環境を初期化できませんでした。

原因：オーディオ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00511 *string*

原因：オーディオ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00599 内部エラーが発生しました。

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00601 オーディオのコピー中にメモリー不足が発生しました。

原因：イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

処置：データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

AUD-00602 オーディオ・データへアクセスできません。

原因：オーディオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置：システム管理者に連絡してください。

AUD-00603 オーディオ・データのソースにアクセスできません。

原因：SOURCE 属性が無効です。

処置：ソースの SOURCE 属性をオーディオ・データとともに移入してください。

AUD-00604 オーディオ・データの宛先にアクセスできません。

原因: 宛先の SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先ソースの SOURCE 属性が有効であることを確認してください。

AUD-00606 オーディオ・データへアクセスできません。

原因: 無効なオーディオにアクセスしようとしてしました。

処置: オーディオの SOURCE 属性をオーディオ・データとともに移入してください。

AUD-00607 オーディオの宛先に書き込みできません。

原因: 宛先オーディオの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先オーディオの SOURCE 属性を初期化された BLOB ロケータおよび十分な表領域とともに移入してください。

AUD-00702 オーディオ処理環境の初期化ができません。

原因: オーディオ処理プロシージャの初期化が失敗しました。

処置: JServer に十分なメモリーが割り当てられているか、データベース管理者に確認してください。十分なメモリーが割り当てられている場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00703 オーディオ・データの読み込みができません。

原因: オーディオ・ソースにアクセス中、エラーが発生しました。

処置: オーディオ・ソースが正しいか、確認してください。外部ソースの場合、全てのアクセス権限が付与されているか確認してください。

AUD-00704 入力形式が無効です。

原因: ソース中のオーディオ・データとオーディオ・オブジェクトの形式フィールドで指定されたフォーマットが一致しません。通常の場合、オーディオ・データが壊れています。

処置: 形式フィールドに正しい値を指定してください。正しい値が分からない場合、デフォルト形式を呼び出すため、NULL を指定してください。

AUD-00705 サポートされない入力形式です。

原因: オーディオ・データのファイル形式がサポートされていません。このエラーは、デフォルト形式プラグイン・パッケージでのみ発生します。

処置: サポートされている形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

AUD-00706 サポートされない入力形式か、破損しています。

原因: オーディオ・データが壊れているか、形式がサポートされていません。

処置: サポートされている形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。オーディオ・データが

壊れておらず、サポートされている形式の場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00713 オーディオ・データの解析中に内部エラーが発生しました。

原因：解析中に内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00714 内部エラーが発生しました。

原因：これは内部エラーです。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

AUD-00715 現在のソースに格納されているオーディオのオープンに失敗しました。

原因：ソース・オブジェクトに格納されているオーディオを読み取るためにオープンできません。

処置：オーディオ・ソースのアクセス権限が、コール者に正しく定義されていることを確認してください。

interMedia Image メッセージ (IMG)

interMedia Image オプションの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00001 Oracle8i *interMedia* 環境を初期化できません。

原因: イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00502 位取りの値が無効です。

原因: イメージ・プロセス・ファンクションのパラメータ解析中に無効な位取りの値が検索されました。

処置: 有効な位取りの値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ・プロセス・コマンド・ストリングの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00505 CUT 四角形を指定する値の数が足りません。

原因: 指定している四角形に、不正な値が使用されました。

処置: 左下および右上の頂点に、4つの整数値を正しく使用してください。

IMG-00506 CUT 四角形を指定する値の数が余分にあります。

原因: 指定している四角形に、不正な値が使用されました。

処置: 左下および右上の頂点に、4つの整数値を正しく使用してください。

IMG-00510 *string*

原因: イメージ・プロセス・ファンクションのパラメータ解析中に構文エラーが検出されました。

処置: 正しい有効なパラメータ値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法およびイメージ・プロセス・コマンド・ストリングについての詳細は、

『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00511 *string*

原因: イメージ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00512 適合しないスケール変更パラメータが複数見つかりました。

原因: イメージ・プロセス・コマンド・ストリングに、適合しないスケール変更パラメータが複数見つかりました。プロセス・コマンド・ストリングで一緒に使用できる XSCALE および YSCALE を除き、スケール関数は相互に排他的であり、結合できません。

処置: スケール関数を削除して1つのみにしてください (XSCALE および YSCALE の場合は2つ)。

IMG-00513 スケール変更操作で値が欠落しています。

原因: イメージ・ディメンションの指定に、不正な値を使用しています。FixedScale および MaxScale の場合、要求されたイメージの X および Y ディメンションに2つの整数値が必要です。

処置: FixedScale および MaxScale に2つの値を使用してください。

IMG-00514 スケール変更操作で余分な値があります。

原因: イメージ・ディメンションの指定に、不正な値を使用しています。FixedScale および MaxScale の場合、要求されたイメージの X および Y ディメンションに2つの整数値が必要です。

処置: FixedScale および MaxScale に2つの値を使用してください。

IMG-00515 入力チャネル数が正しくありません。

原因: 入力チャネルの指定に、不正な値を使用しています。入力チャネルには、灰色または赤、緑および青のチャネル割当てに対して、1つまたは3つのチャネル番号が必要です。

処置: 1つまたは3つの値を使用して、入力チャネルを指定してください。

IMG-00516 デフォルトのチャネルが範囲外です。

原因: デフォルトのチャネル選択の指定に、不正な値を使用しています。

処置: バンド数以下で0を超えるチャネル数を使用してください。

IMG-00517 パラメータ文字列に高さまたは幅が指定されていません。

原因: setProperties パラメータ文字列に高さまたは幅が指定されていません。

処置: 高さおよび幅の両方を指定してください。

IMG-00518 高さまたは幅の値が無効です。

原因：高さおよび幅は正の整数である必要があります。

処置：高さおよび幅の両方を正の整数として指定してください。

IMG-00519 パラメータの組合せが無効です。

原因：CCITTG3 または CCITTG4 が compressionFormat として使用されている場合、setProperties パラメータ文字列に、高さ、幅、dataOffset および userString 以外のパラメータを指定できません。

処置：compressionFormat が CCITTG3 または CCITTG4 のいずれかである場合、高さおよび幅のみを指定してください。dataOffset および userString もオプションで指定できます。

IMG-00520 numberOfBands の値が無効です。

原因：numberOfBands の値は、正の整数である必要があります。

処置：numberOfBands を正の整数として指定してください。

IMG-00521 dataOffset の値が無効です。

原因：dataOffset の値は、正の整数である必要があります。

処置：dataOffset を正の整数として指定してください。

IMG-00530 コマンドの解析中にエラーが発生しました。

原因：イメージ処理関数または外部イメージ SETPROPERTIES 関数に渡されたコマンドの解析中に、内部エラーが発生しました。

処置：関数に渡されたコマンドを確認してください。

正しい使用方法およびイメージ・プロセス・コマンド・ストリングまたは外部イメージ SETPROPERTIES 関数についての構文の詳細は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

使用しているコマンドが正しい場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00531 イメージ処理コマンドが空または NULL です。

原因：空または NULL のイメージ処理コマンドが、イメージ・プロセス・ファンクションに渡されました。

処置：正しい使用方法およびイメージ・プロセス・コマンド・ストリングについての詳細は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00599 内部エラー

原因：内部エラーが発生しました。

処置：オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00601 イメージのコピー中にメモリー不足になりました。

原因: イメージのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

IMG-00602 イメージ・データにアクセスできません。

原因: イメージ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

IMG-00603 ソースのイメージ・データにアクセスできません。

原因: ソース・イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: ソース・イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

IMG-00604 宛先のイメージ・データにアクセスできません。

原因: 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

IMG-00606 イメージ・データにアクセスできません。

原因: 無効なイメージにアクセスしようとしてしました。

処置: イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

IMG-00607 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。

IMG-00609 BFILE に格納されているイメージの読み込みができません。

原因: BFILE に格納されているイメージを読み込むためにオープンできません。

処置: イメージ・ファイルのアクセス権限およびイメージ・ファイルがあるディレクトリに読み込み権限があるかどうかを確認してください。

IMG-00701 空のイメージのプロパティは設定できません。

原因: イメージ・オブジェクトにデータがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00702 イメージ処理環境を初期化できません。

原因: イメージ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00703 イメージ・データの読み込みができません。

原因: イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00704 イメージ・データの読み込みができません。

原因: イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法は、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00705 サポートされない入力形式か、破損しています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00706 サポートされていないか、または破損している出力形式です。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00707 イメージ・データにアクセスできません。

原因: イメージ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

IMG-00710 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージが無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。

IMG-00711 宛先イメージのプロパティを設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00712 宛先イメージへの書き込みができません。

原因: 宛先イメージが無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が正しく初期化され、表領域が十分にあることを確認してください。宛先イメージを含む行がロックされていることを確認してください (テンポラリ BLOB には適用されません)。

IMG-00713 サポートされていない宛先イメージ・フォーマットです。

原因: サポートされていない形式にイメージを変換する要求になっています。

処置: サポートされる形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00714 内部エラー

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

IMG-00715 BFILE に格納されているイメージをオープンできません。

原因: BFILE に格納されているイメージを読み込むためにオープンできません。

処置: イメージ・ファイルのアクセス権限およびイメージ・ファイルがあるディレクトリに読み込み許可があるかどうかを確認してください。

IMG-00716 ソースのイメージ・フォーマットはプロセス・オプションをサポートしません。

原因: ソースのイメージ・フォーマットでサポートされていないプロセス・オプションを適用するように要求されました。

処置: サポートされているプロセス・オプションの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00717 宛先のイメージ・フォーマットはプロセス・オプションをサポートしません。

原因: 宛先のイメージ・フォーマットでサポートされていないプロセス・オプションを適用するように要求されました。

処置: サポートされているプロセス・オプションの詳細は、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

IMG-00718 同じテンポラリー LOB をソースと宛先両方に使用することはできません。

原因: ソースおよび宛先の両方に指定されている同じテンポラリー LOB で processCopy がコールされました。

処置: パラメータ dest に異なる LOB を指定してください。

interMedia Video メッセージ (VID)

interMedia Video オプションについては、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

VID-00001 Oracle81 *interMedia* 環境を初期化できません。

原因: ビデオ処理の外部プロシージャの初期化プロセスに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00511 *string*

原因: ビデオ・データへのアクセス中にエラーが検出されました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00599 内部エラー

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00601 ビデオのコピー中にメモリー不足になりました。

原因: ビデオのコピー中に、オペレーティング・システムのプロセス・メモリーを使い切っています。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、プロセスのメモリー割当てを増やしてください。

VID-00602 ビデオ・データにアクセスできません。

原因: ビデオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

VID-00603 ソースのビデオ・データにアクセスできません。

原因: SOURCE 属性が無効です。

処置: ソースの SOURCE 属性をビデオ・データとともに移入してください。

VID-00604 宛先のビデオ・データにアクセスできません。

原因: 宛先ソースの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先ソースの SOURCE 属性が有効であることを確認してください。

VID-00606 イメージ・データにアクセスできません。

原因: 無効なイメージにアクセスしようとしてしました。

処置: イメージの SOURCE 属性をイメージ・データとともに移入してください。

VID-00607 宛先イメージへの書込みができません。

原因: 宛先イメージの SOURCE 属性が無効です。

処置: 宛先イメージの SOURCE 属性が初期化された BLOB ロケータとともに移入され、表領域が十分にあることを確認してください。

VID-00702 ビデオ処理環境の初期化に失敗しました。

原因: ビデオ処理プロシージャの初期化が失敗しました。

処置: データベース管理者に依頼して、JServer に割り当てられるメモリーが十分であることを確認してください。JServer に割り当てられるメモリーが十分である場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00703 ビデオ・データの読み込みができません。

原因: ビデオ・ソースへのアクセス中に、エラーが発生しました。

処置: ビデオ・ソースが有効であることを確認してください。外部ソースに対して、全てのアクセス権限が付与されていることを確認してください。

VID-00704 入力形式が無効です。

原因: ソース内のビデオ・データがビデオ・オブジェクトのフィールド形式で指定されたフォーマットではありませんでした。まれに、ビデオ・データが破損している場合もあります。

処置: フィールド形式に正しい値を入れてください。正しい値が不明である場合は、DEFAULT フォーマット・プラグインを起動するためにフィールド形式に NULL を入れてください。

VID-00705 サポートされない入力形式です。

原因: ビデオ・データのファイル形式がサポートされていません。このエラーは、DEFAULT フォーマット・プラグイン・パッケージ内でのみ発生します。

処置: サポートされる形式については、『Oracle8i interMedia Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

VID-00706 サポートされない入力形式か、破損しています。

原因: ビデオ・データが破損している、またはファイル形式がサポートされていません。

処置: サポートされる形式については、『Oracle8i *interMedia* Audio, Image, Video ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。ビデオ・データが破損していない、かつファイル形式がサポートされている場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00707 ビデオ・データにアクセスできません。

原因: ビデオ・データの読み込みまたは書き込み中にエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

VID-00710 宛先ビデオへの書き込みができません。

原因: ビデオの宛先が無効です。

処置: ビデオの宛先が有効で、十分な記憶領域があることを確認してください。

VID-00711 宛先ビデオのプロパティを設定できません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00712 宛先ビデオへの書き込みができません。

原因: ビデオの宛先が無効です。

処置: ビデオの宛先が有効で、十分な記憶領域があることを確認してください。

VID-00713 ビデオ・データの解析で内部エラーが発生しました。

原因: 解析中に内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00714 内部エラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VID-00715 BFILE に格納されているビデオをオープンできません。

原因: ソース・オブジェクトに格納されているビデオを、読み取るためにオープンできません。

処置: ビデオ・ソースのアクセス権限が、コール者に正しく定義されていることを確認してください。

interMedia Text メッセージ (DRG)

interMedia ConText については、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle8i *interMedia Text* リファレンス』
- 『Oracle8i ConText カートリッジ アプリケーション開発者ガイド』
- 『Oracle8i *interMedia Text* 移行ガイド』

DRG-10000 列 *string* ・ *string* の読み込みに失敗しました。

原因: 指定されたテキスト列の読み込み中にエラーが発生しました。

処置: 列の存在と権限を確認してください。

DRG-10001 結果表 *string* にアクセスできません。

原因: 指定した表は存在しないか、またはサーバーに書き込み権限がありません。

処置: 指定された結果表を確認してください。

DRG-10002 結果表に挿入できません。

原因: テキスト・サーバーに挿入権限がないか、表領域がなくなりました。

処置: 権限および表領域を確認してください。

DRG-10011 オブジェクト名 *string* が無効です。

原因: 指定された表、列、またはプロシージャ名の形式が無効です。名前が長すぎるか、無効な文字が含まれています。無効なパラメータを渡した可能性があります。

処置: パラメータ値を確認してください。

DRG-10015 ID が数値の制限 (2147483642) を超えています。

原因: ID の制限は 2147483642 です。

処置: ID には、2147483642 以下の値を使用してください。

DRA-10016 この *string* の変更は、所有者に限定されます。

原因: 所有していないオブジェクトを修正しようとしてしました。

処置: 所有者にオブジェクトを修正してもらってください。

DRA-10017 これを実行するには *string* である必要があります: *string*

原因: 権限のないオブジェクトを修正しようとしてしました。

処置: 所有者にオブジェクトを修正してもらってください。

DRG-10100 無効な引数: *string* が見つかりました。

原因: 無効なコマンド引数が指定されました。

処置: 正しい引数をドキュメントで調べて、コマンドを再実行してください。

DRG-10101 引数: *string* の値がありません。

原因: この引数には値が必要です。

処置: 正しい引数値を指定して、コマンドを再実行してください。

DRG-10102 必須の引数: *string* が足りません。

原因: この引数は必須です。

処置: 引数を指定して、コマンドを再実行してください。

DRG-10103 引数の値が無効です: *string*

原因: この引数に無効な値が渡されています。

処置: この引数の正しい値は、ドキュメントで確認してください。

DRG-10200 サーバー・パーソナリティ・マスク: *string* は無効です。

原因: サーバー・パーソナリティ・マスクの指定が無効です。

処置: ドキュメントを参照して、正しいマスクを指定してください。

DRG-10202 サーバーは登録に失敗しました。

原因: データ・ディクショナリへのサーバーの登録に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10203 サーバー名 *string* のサーバーは存在しません。

原因: 存在しないサーバー名で更新が行われました。

処置: サーバー名を修正してください。

DRG-10204 サーバーの更新に失敗しました。

原因: サーバーの更新に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10205 サーバーの登録解除に失敗しました。

原因: データ・ディクショナリからのサーバーの登録解除に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10206 サーバーまたはクライアントのリカバリに失敗しました。

原因: サーバーまたはクライアントのリカバリに失敗しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-10301 サーバーからの応答待機中にタイム・アウトしました。

原因: 現在のシステム・ロードを処理するには実行しているサーバー数が十分でなく、コマンドの未処理分が大きくなりました。実行中のサーバーがない可能性があります。このメッセージは、要求を処理しようとしてサーバーの1つがクラッシュした場合にも、内部エラーとして表示されます。

処置: 実行しているサーバー数が十分かどうか、正しい型のコマンドを処理しているかどうかを確認してください。たとえば、すべてのサーバーが問合せコマンドを排他的に処理するように設定されていると、DDL コマンドはタイム・アウトになります。サーバーのログ・ファイルも確認してください。

DRG-10302 サーバーからの応答待機中に中断されました。

原因: 要求が完了する前に、ユーザーが割り込みました。

処置: 要求を再起動してください。

DRG-10303 処理すべきコマンドをキューに入れられませんでした。

原因: 指定されたコマンド（複数の場合もある）が、キューに入りませんでした。これは、システムの負荷がかなり高くなっていることを表しますが、内部エラーが発生している可能性もあります。

処置: コマンドを処理するサーバーが実行されているかどうかをチェックしてください。

DRG-10304 *interMedia Text* サーバーへのコマンドの送信で予期しないエラーが発生しました。

原因: *interMedia Text* サーバーにコマンドを送信中に予期せぬエラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-10305 パイプ *string* が満杯です。

原因: パイプが満杯のため、パイプ・コマンドが送信できません。

処置: パイプ・コマンドを処理する *interMedia Text* サーバーが実行されているかどうかを確認してください。

DRG-10306: サーバーはコマンド処理中に予期せず終了しました。

原因: コマンドの実行中にサーバーがシャットダウンしました。これは、SHUTDOWN ABORT の実行、またはサーバーの内部エラーが原因です。

処置: 終了したサーバーで内部エラーが発生している場合には、オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-10307 サーバーが稼動していません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている *interMedia Text* サーバーがないため、コマンドが処理できません。

処置: 正しいパーソナリティ・マスクで *interMedia Text* サーバーを開始してください。

DRG-10308 必須の *string* パーソナリティ・マスクで稼動しているサーバーはありません。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている *interMedia Text* サーバーがないため、コマンドが処理できません。

処置: 正しいパーソナリティ・マスクで *interMedia Text* サーバーを開始してください。

DRG-10309 ジョブ・キュー・プロセスが不十分です。

原因: 正しいパーソナリティ・マスクで実行されている *interMedia Text* サーバーがないため、コマンドが処理できません。

処置: *interMedia Text* サーバーを開始してください。

DRG-10310 要求を処理する前にサーバーが停止されました。

原因: 要求を処理する前に、*interMedia Text* サーバーがシャットダウンしたか、終了したため、コマンドが完了できませんでした。

処置: 正しいパーソナリティ・マスクで別の ConText サーバーを開始してください。

DRG-10311 リモート送信はサポートされていません。

原因: 索引指定でデータベース・リンクを指定しようとしました。

処置: ローカルな索引名のみ指定してください。

DRG-10312 ログ・ファイル名を指定する必要があります。

原因: ログ・ファイル名なしでロギングを開始しようとしました。

処置: ログ・ファイル名を指定してください。

DRG-10313 ロギングはすでに開始されています。

原因: ロギングがすでに開始されているのに、ロギングを開始しようとしました。

処置: ロギングを停止するか、このメッセージを無視してください。

DRG-10314 ロギングは開始されていません。

原因: ロギングが開始されていないのに、ロギングを停止しようとしてしました。

処置: ロギングを開始するか、このメッセージを無視してください。

DRG-10500 CREATE_INDEX に失敗しました: 列指定: *string*

原因: 指定された列にテキスト索引が作成できませんでした。

処置: スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-10501 ストップ・ワード: *string* は無効です。

原因: 指定されたストップ・ワードは、カレントのレクサー・プリファレンスで複数のトークンへ字句展開されました。

処置: レクサー・プリファレンスを確認し、ストップ・ワードを再指定してください。

DRG-10502 索引 *string* は存在しません。

原因: 指定された索引が存在しないか、アクセス権がありません。

処置: 索引の名前と索引へのアクセス権を調べてください。

DRG-10503 主キーがないため、表 *string* の索引を作成できません。

原因: テキスト・キーには、一列の UNIQUE キーが必要です。このキーの長さは、64 バイト以下でなければなりませんが、このようなキーが UNIQUE 索引として定義されていないか、主キーまたは UNIQUE キー制約として宣言されていません。

処置: 表に適切なテキスト・キーを作成するか、このプロシージャ・コールにテキスト・キーを明示的に指定してください。

DRG-10506 表: *string* が存在しません。

原因: 指定した表、ビュー、シノニムがありません。表の読み込み中に、権限問題が発生した可能性もあります。

処置: 正しい表名を指定して再起動してください。

DRG-10507 索引名: *string* は重複しています。

原因: 指定された索引は、すでにディクショナリ内に存在します。

処置: この索引は、更新または削除することができますが、これは、テキスト列に使用可能なテキスト索引がない場合のみ実行できます。

DRG-10509 *string* は無効なテキスト列です。

原因: 指定された列が無効です。

処置: 次の値が有効かどうかを確認してください:

- *interMedia Text* でサポートされているデータ型のテキスト列
- 仕様部内の有効な表名、列名

DRG-10510 ストップ・ワードが欠落しています。

原因: 追加するストップ・ワードが指定されていません。

処置: ストップ・ワードを指定してください。

DRG-10511 索引 *string* は存在しないか、または不完全です。

原因: 索引の作成が不完全です。

処置: 索引を作成してから、この操作を行ってください。

DRG-10513 索引 *string* メタデータが壊れています。

原因: ディクショナリ内に、この索引に対して無効なプリファレンスがあります。

処置: データベース管理者に連絡してください。

DRG-10516 Oracle エラーが発生したため、DDL 操作の実行に失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、要求された DDL 操作が失敗しました。

処置: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10517 索引 *string* はすでに有効です。

原因: 索引は有効な状態で、要求した操作を必要としていません。

処置: 要求した操作を確認してください。

DRG-10518 *string* 要求と矛盾する操作が進行中です。

原因: 別のセッションでこの索引が使用されています。次のような原因が考えられます。

- DML がリクエストされ、DDL が処理中である。
- DDL が要求され、その索引で DML が処理中である。

処置: 後でもう一度実行してください。

DRG-10520 索引: *string* の削除に失敗しました。

原因: 指定された索引を削除できませんでした。

処置: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10525 REBUILD キーワードがありません。

原因: *interMedia Text* の変更オプションはすべて、REBUILD キーワードが必要です。

処置: 索引変更を REBUILD キーワードと共に指定してください。

DRG-10528 主キーに *string* 型は使用できません。

原因: 無効な主キーのデータ型で表に索引を作成しようとしてしました。

処置: テキスト・キーを VARCHAR2、NUMBER、VARCHAR、DATE、CHAR または MLSLABEL のいずれかに変更してください。

DRG-10531 パラレル・パラメータは 1 以上でなければなりません。

原因: パラレル =0 で索引の作成がコールされました。

処置: 1 以上の値を指定してください。

DRG-10532 表がパーティション化されていません。

原因: パーティション化されていない表で、パラレルの索引作成をコールしました。

処置: 表をパーティション化して再作成するか、または PARALLEL 句を削除してください。

DRG-10533 ユーザー名: *string* は無効です。

原因: 無効なユーザー名が指定されました。

処置: 正しいユーザー名を指定してください。

DRG-10535 テキスト索引 *string* の最適化に失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、要求された最適化操作が失敗しました。

処置: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10549 オブジェクト名 *string* の長さが制限を超えています。

原因: オブジェクト名が 30 バイトの最大長を超えています。

処置: オブジェクト名を再作成する場合には、オブジェクト名の長さを短くしてください。

DRG-10550 索引、作業環境、ソースまたはセクション名の構文に誤りがあります。

原因: 名前に余分なピリオド (.) が含まれています。

処置: 名前の構文を調べてください。

DRG-10553 列指定 *string* の構文に誤りがあります。

原因: 列指定に余分なピリオド (.) が含まれています。

処置: 再作成する場合には、列指定の構文を確認してください。

DRG-10561 索引 *string* は要求した操作を実行できる状態ではありません。

原因: 以前のエラーによって、索引は有効な状態ではありません。

処置: 索引を削除して、索引を再作成してください。

DRG-10562 索引変更パラメータが足りません。

原因: パラメータ文字列が不足しています。

処置: 要求した索引の変更操作に関して正しいパラメータ文字列を入力してください。

DRG-10569 表または列: *string* が存在しません。

原因: 指定された表、ビュー、シノニムまたは列が存在しません。表の読み込み中に、権限問題が発生した可能性もあります。

処置: 正しい表名または列名を指定して再起動してください。

DRG-10573 索引 *string* は旧式です。

原因: 旧式の索引が指定されています。

処置: 索引に対して UPGRADE_INDEX を実行してください。

DRG-10574 テキスト索引 *string* のアップグレードに失敗しました。

原因: Oracle エラーのため、アップグレード操作に失敗しました。

処置: スタック上の Oracle エラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10579 テキスト問合せ基準が必要です。

原因: テキスト問合せ基準は必須です。

処置: テキスト問合せ基準を指定してください。

DRG-10580 パラレルの索引作成はサポートされていません: *string*

原因: パラレル・サーバーで索引を作成しようとした。

処置: 索引を削除して、索引作成のパラレルを 1 に設定してください。

DRG-10581 間接データストアは、LONG または LOB のテキスト列では使用できません。

原因: LONG または LOB 列に、ファイルや URL データストアなどの間接データストアを使用して索引を作成しようとした。

処置: 直接データストアまたは VARCHAR 列を使用してください。

DRG-10582 列 *string* が表 *string* にありません。

原因: 無効な列が指定されています。

処置: 有効な列を指定してください。

DRG-10583 TRUNCATE INDEX に失敗しました: *string*

原因: 指定された索引で *interMedia Text* 索引を切捨てできませんでした。

処置: スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-10584 Oracle エラーのため *string string string* は失敗しました。

原因: SQL エラーのため、索引オブジェクトの DDL 操作が失敗しました。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

DRG-10595 ALTER INDEX *string* に失敗しました。

原因: *interMedia Text* 索引の変更に失敗しました。

処置: スタック上の次のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-10597 再構築のオンライン操作はサポートされていません。

原因: REBUILD ONLINE は要求された操作ではサポートされていません。

処置: ONLINE オプションを付けずに索引を変更してください。

DRG-10599 列に索引が作成されていません。

原因: 指定された列に索引が作成されていません。

処置: 列に索引を作成してから、この操作を行ってください。

DRG-10601 この索引に対する保留 DML の削除に失敗しました。

原因: 要求された表に対する更新をモニターするためにセットアップされたトリガーを削除できません。

処置: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

DRG-10602 列 *string* (主キー *string*) に対する DML 変更のキューイングに失敗しました。

原因: 指定された列に対する変更が記録できません。

処置: スタック上の次のエラーを調べて、処置を判断してください。必要であれば、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。このエラーが解決するまで、この表のすべてのテキスト列に対する更新は、索引になりません。

DRG-10606 サーバーは DML キューへのアクセスに失敗しました。

原因: サーバーの DML キューへのアクセス中にエラーが発生しました。

処置: スタック上の次のエラーを見てください。

DRG-10700 作業環境が存在しません: *string*

原因: 指定された作業環境名が存在しません。

処置: 正しい作業環境名を指定して再試行してください。

DRG-10701 作業環境 *string.string* はすでに存在します。

原因: 指定された作業環境はすでに存在しています。

処置: 作業環境を再作成する場合には、その作業環境を削除する必要があります。

DRG-10702 別のユーザーのスキーマにある作業環境は作成または変更できません。

原因: 別のユーザーの表を作成または修正しようとしてしました。

処置: 所有者、CTXSYS または CTXADMIN ロールを持つユーザーが作業環境を作成してください。

DRG-10703 フレームワーク・オブジェクト *string* は無効です。

原因: 無効なオブジェクト型が指定されました。

処置: 有効なフレームワーク・オブジェクトを使用してください。

DRG-10704 作業環境 *string* には *string* という名の属性はありません。

原因: 無効な属性に値を設定しようとしています。この属性は、このオブジェクトではサポートされていません。

処置: 正しい属性名を指定してください。

DRG-10705 値 *string* (属性 *string* に対する) が無効です。

原因: 属性に無効な値を設定しようとしています。

処置: 属性のデータ型に正しい属性値を指定してください。

DRG-10706 *string* の長さが最大サイズ *string* を超えています。

原因: パラメータのバイト数が大きすぎます。

処置: 作業環境の設定を修正し、再度実行してください。

DRG-10707 属性 *string* (作業環境 *string*) に値が必要です。

原因: 必要な属性が指定されていません。

処置: 作業環境の設定を修正し、再度実行してください。

DRG-10708 クラス ID *string* (作業環境 *string*) が無効です。

原因: 指定されたクラス ID が、指定された作業環境に対して適切ではありません。

処置: 正しいクラス ID を指定してください。

DRG-10709 この作業環境は *string* から参照されているため、削除できません。

原因: 指定された作業環境は、他の作業環境の一部として使用されているため、参照している作業環境が変更されるまで削除できません。

処置: 参照している作業環境を変更してください。

DRG-10750 パラメータ *string* は不明です。

原因: パラメータを認識できません。

処置: 正しいパラメータを指定してください。

DRG-10751 パラメータの値が無効です。

原因: データ型が間違っているか、または範囲外です。

処置: 正しいパラメータ値を指定してください。

DRG-10752 DEFAULT_INDEX_MEMORY は、MAX_INDEX_MEMORY より大きくできません。

原因: DEFAULT_INDEX_MEMORY に、MAX_INDEX_MEMORY に設定した最大値より大きい値を設定しようとしてしました。

処置: 最大値より小さい値を指定してください。

DRG-10753 メモリー・サイズの文字列 *string* が無効です。

原因：不適切にフォーマットされたメモリー文字列が指定されました。

処置：正しくフォーマットされたメモリー文字列を指定してください。

DRG-10754 メモリー・サイズは *string* から *string* までです。

原因：範囲外のメモリー・サイズが指定されました。

処置：許可されている範囲内のメモリー・サイズを指定してください。

DRG-10755 *string* と *string* に共通する文字があります。

原因：結合キャラクタ・セットは共通する文字を持つことができません。

処置：属性値を修正して、再実行してください。

DRG-10756 テキスト索引も、題名索引も選択されていません。

原因：設定項目 INDEX_TEXT および INDEX_THEMES の両方を FALSE にすることはできません。

処置：INDEX_TEXT または INDEX_THEMES のいずれか、またはその両方を TRUE へ設定してください。

DRG-10757 ストップ・リストは、4096 ストップ・ワードまでです。

原因：ストップ・リストは、4096 ストップ・ワードまでです。これには、ストップ・テーマが含まれます。

処置：4096 を超えるストップ・ワードを使用しないでください。

DRG-10800 問合せ: *string string string* に失敗しました。

原因：問合せ処理に失敗しました。

処置：スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10801 別のユーザーの SQE を作成することはできません。

原因：別のユーザーの SQE を作成しようとしました。

処置：SQE 名指定から所有者を削除してください。

DRG-10816 表示 / ハイライト・コールに失敗しました。

原因：スタック上の次のエラーを参照してください。

処置：スタック上の次のエラーを参照してください。

DRG-10817 CONTAINS の検索語指定がストップ・ワードまたはストップ・ワードの節: *string* で構成。

原因：CONTAINS 問合せ内の 1 つ以上の検索語が、ストップ・ワードのみ、またはストップ・ワードのみの句で構成されています。

処置：ストップ・ワードを置換するか、ストップ・ワードを含まない句の中でストップ・ワードを使用してください。

DRG-10819 contains カーソルをオープンできませんでした。

原因: contains カーソルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

処置: スタック上の付随するエラー・メッセージを参照してください。

DRG-10820 contains カーソル ID が無効です。

原因: ID が存在しない contains カーソルをフェッチまたはクローズしようとしてしました。

処置: フェッチまたはクローズの起動を調べてください。

DRG-10821 contains カーソルがオープンされていません。

原因: オープンしていない contains カーソルからフェッチしようとしてしました。

処置: フェッチを実行する前にカーソルをオープンしてください。

DRG-10822 問合せ名が重複しています。

原因: すでに存在する名前を使用して、ストアド・クエリを作成しようとしてしました。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-10823: 問合せ名が無効です。

原因: 指定した問合せ名が無効です。

処置: 問合せ名を確認してください。

DRG-10825 ストアド・クエリが存在しません: *string*

原因: ストアド・クエリが存在しません。

処置: 問合せ名を確認してください。

DRG-10826 指定したテキストキーをもつ文書が見つかりません。

原因: 指定したテキスト・キーをもつ文書がありません。

処置: テキスト・キーを確認してください。

DRG-10827 open_con は、count_last の前に実行しなければなりません。

原因: LAST_COUNT はメモリー内問合せに該当したものを戻すので、メモリー内問合せは COUNT_LAST を使用する前に実行する必要があります。

処置: COUNT_LAST を実行する前に、OPEN_CON を実行してください。

DRG-10828 トークン *string* が列 *string* の最大長を超えています。

原因: フィードバック表に挿入するトークンが、列サイズの最大値を超えています。

処置: 問合せを変更するか、あるいはフィードバック表の列サイズまたはフィードバック・プロシージャ引数を合わせて変更してください。

DRG-10829 フィードバック ID *string* が最大長 *string* バイトを超えています。

原因: FEEDBACK_ID が、FEEDBACK_ID 列で許可される最大長を超えています。

処置: 最大長より小さい FEEDBACK_ID を指定してください。

DRG-10830 SHARELEVEL が 0 または 1 ではありません。

原因: SHARELEVEL に無効な値が指定されました。

処置: 0 または 1 の SHARELEVEL のみを使用してください。

DRG-10831 フィードバック表 *string* に挿入できません。

原因: 挿入の権限がありません。

処置: 権限の有無をチェックしてください。

DRG-10832 フィードバック表 *string* から削除できません。

原因: 削除の権限がありません。

処置: 権限の有無をチェックしてください。

DRG-10833 フィードバックに失敗しました。

原因: フィードバック要求の処理に失敗しました。

処置: スタック上のエラーを調べて、適切な処置を行ってください。

DRG-10834 セクション名 *string* の大文字フォームが長すぎます。

原因: セクション名の大文字フォームが、サポートされている長さより長くなっています。

処置: セクションを加える場合には、セクション名の長さを短くしてください。

DRG-10835 題名索引で WITHIN 演算子はサポートされていません。

原因: WITHIN 演算子がテーマ索引問合せに使用されています。

処置: WITHIN 演算子を取り除いて、問合せを修正してください。

DRG-10836 フィールド・セクションおよび属性セクションはネストできません。

原因: ネストされたセクションの検索で、フィールド・セクションまたは属性セクションが指定されています。

処置: ネストされたフィールド・セクションのない問合せに修正してください。

DRG-10837 セクション *string* が存在しません。

原因: 指定されたセクション名が、USER_SECTIONS に存在しません。

処置: 有効なセクション名で問合せを修正してください。

DRG-10838 無効な SPAN 引数が NEAR に指定されました。

原因: 無効な SPAN 引数が NEAR に指定されました。

処置: 有効な SPAN を指定してください。有効な値は 0 ～ 100 の整数です。

DRG-10839 無効な ORDER 引数が NEAR に指定されました。

原因: 無効な ORDER 引数が NEAR に指定されました。

処置: 有効な ORDER を指定してください。有効値は T、TRUE、F または FALSE です (大 / 小文字は区別されません)。

DRG-10840 0 (ゼロ) を含む CONTAINS 述語は、FIRST_ROWS ヒントでサポートされません。

原因: FIRST_ROWS ヒントを持つ 0 を含む CONTAINS 述語を使用して、問合せを発行しようとした。

処置: FIRST_ROWS ヒントを削除してください。

DRG-10841 無効な SCORE 引数が FUZZY に指定されました。

原因: 無効な SCORE 引数の値が FUZZY に指定されました。

処置: 有効な SCORE の値を指定してください。有効な値は、0 ～ 80 の整数です。

DRG-10842 無効な NUMRESULTS 引数が FUZZY に指定されました。

原因: 無効な NUMRESULTS 引数の値が FUZZY に指定されました。

処置: 有効な NUMRESULTS の値を指定してください。有効な値は、0 ～ 5000 の整数です。

DRG-10843 無効な LANGUAGE 引数が FUZZY または STEM に指定されました。

原因: 無効な LANGUAGE 引数の値が FUZZY または STEM に指定されました。

処置: 有効な LANGUAGE を指定してください。

DRG-10900 メモリー不足です。

原因: これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11000 無効なキーワード *string* です。

原因: 無効なキーワードが指定されました。

処置: 正しいキーワードでパラメータ文字列を再指定してください。

DRG-11001 *string* の 1 つを予定していましたが、キーワードがありません。

原因: キーワードがありません。

処置: キーワードとともにパラメータ文字列を再指定してください。

DRG-11002 *string* の値がありません。

原因: 引数に値がありません。

処置: 値とともにパラメータ文字列を再指定してください。

DRG-11003 値 *string* は、*string* に対して無効です。

原因：引数に無効な値が指定されました。

処置：有効な値を指定してください。

DRG-11004 *string* の値が重複または競合します。

原因：引数に複数の値が指定されました。

処置：パラメータ文字列を確認して、問題のパラメータを修正してください。

DRG-11005 CREATE INDEX のパラメータ文字列が無効です。

原因：指定されたパラメータが正しくありません。

処置：索引を削除して、正しいパラメータで索引を再作成してください。

DRG-11006 ALTER INDEX のパラメータ文字列が無効です。

原因：無効なパラメータ文字列が指定されました。

処置：正しいパラメータ文字列で文を再発行してください。

DRG-11007 複数のストップワードが指定されました。

原因：複数のストップ・ワードを追加しようとしてしました。

処置：一度に1つのストップ・ワードを指定してください。

DRG-11100 データベースに接続できません。

原因：Oracle データベースに接続できません。

処置：Oracle エラーおよび接続文字列を確認してください。

DRG-11101 ファイル *string* のオープンに失敗しました。

原因：ファイルのオープンに失敗しました。

処置：ファイルが存在するかどうか、アクセス権があるかどうかを確認してください。

DRG-11102 割り当てられたレクサーは、言語設定 *string* では動作できません。

原因：マルチバイト言語の設定で、シングルバイトのレクサーが選択されました。

処置：RDBMS 言語設定またはテキスト列のレクサー設定を確認してください。

DRG-11104 *interMedia Text* エラー：

原因：スタック上の次のエラーを参照してください。

処置：スタック上の次のエラーを参照してください。

DRG-11106 ユーザー・データベース・セッションが、この操作中に強制終了されました。

原因：このデータベース・セッションは存在しないか、または強制終了されました。

処置：*interMedia Text* 操作の実行中にユーザー・データベース・セッションが強制終了した理由を調べてください。

DRG-11107 パス指定: *string* は無効です。

原因: 指定されたパスが無効です。

処置: パス指定を確認してください。

DRG-11108 指定したファイル名: *string* は無効です。

原因: 指定したファイル名が無効です。

処置: ファイル名が空白で開始または終了していないかどうか、無効な文字が含まれていないかなどの問題を調べてください。

DRG-11109 割り当てられたレクサーは、*string* 問合せオペレータをサポートしていません。

原因: このレクサーは、この問合せオペレータをサポートしていません。

処置: 問合せでこのオペレータを使用しないでください。

DRG-11110 *string*

DRG-11111 *string* の値は、*string* から *string* までの値でなければなりません。

原因: 指定されたパラメータ値が範囲外です。

処置: 範囲内のパラメータ値を指定してください。

DRG-11112 *string* の長さが最大値 *string* を超過しています。

原因: 指定されたパラメータ値が長すぎます。

処置: 正しい長さのパラメータ値を指定してください。

DRG-11113 *string* の値は、*string* の 1 つでなければなりません。

原因: 指定されたパラメータ値が無効です。

処置: 有効なパラメータ値を指定してください。

DRG-11114 この操作に対する結果、表の形式が正しくありません。

原因: この操作に対して、列の番号、型または名前の違う結果表が指定されました。

処置: 結果表を確認してください。それぞれの操作に対する正しいフォーマットは、ドキュメントを参照してください。

DRG-11115 *string* に対する値の指定が必要です。

原因: パラメータの値が指定されていません。

処置: そのパラメータに値を指定してください。

DRG-11203 INSO フィルタは、このプラットフォームでサポートされていません。

原因: INSO フィルタをサポートしていないプラットフォームでこれを使用しようとしてしました。

処置: INSO フィルタを使用しないでください。

DRG-11204 ユーザー・フィルタ・コマンドが長すぎます。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドは、32 文字以下である必要があります。

処置: 32 文字以下のユーザー・フィルタ・コマンドを使用してください。

DRG-11205 ユーザー・フィルタ・コマンドに無効な文字が含まれています。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドには、スラッシュ、カッコ、セミコロンなどの特殊文字は使用できません。

処置: ユーザー・フィルタ・コマンドに特殊文字を使用しないでください。

DRG-11206 ユーザー・フィルタ・コマンド *string* を実行できませんでした。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドが実行できません。

処置: コマンドが \$ORACLE_HOME/ctx/bin にあるかどうか、そのコマンドが実行可能かどうかを確認してください。

DRG-11207 ユーザー・フィルタ・コマンドが状態 *string* で終了しました。

原因: ユーザー・フィルタ・コマンドがエラー状態で終了しました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11208 ORACLE_HOME が設定されていません。

原因: ORACLE_HOME が設定されていません。

処置: CTXSRV 実行時に ORACLE_HOME が設定されているかどうかを確認してください。

DRG-11209 *string* のファイル名が最大長 *string* を超えています。

原因: ファイル名の値が長すぎます。

処置: 長すぎないファイル名を指定してください。

DRG-11210 列フォーマットには、char、varchar または varchar2 型が必要です。

原因: 列フォーマットに、char、varchar または varchar2 型が指定されていません。

処置: 正しい型を列フォーマットに指定してください。

DRG-11211 列キャラクタ・セットには、char、varchar または varchar2 型が必要です。

原因: 列キャラクタ・セットに、char、varchar または varchar2 型が指定されていません。

処置: 列キャラクタ・セットに正しい型を指定してください。

DRG-11400 キー *string* での文書の解析に失敗しました。

原因: 言語抽出に指定された文書が解析できませんでした。この文書は、完全な英文になっていません。

処置: 文書の内容を確認してください。

DRG-11403 主キーの値は長すぎます。

原因: サービス要求に、主キーの最大長（64 バイト）を超えた主キー・パラメータが渡されました。

処置: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11404 主キーの値は指定されていません。

原因: サービス要求に NULL の主キー・パラメータが渡されました。

処置: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11410 結果表 *string* に挿入できませんでした。

原因: 結果表への言語出力の挿入中に Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラー・コードに対応する処置を行ってください。

DRG-11418 言語解析機能用の文書の内容が十分ではありません。

原因: 言語抽出に指定した文書は、指定された解析機能で解析されましたが、文書の内容が言語抽出には不十分でした。

処置: 文書の内容を確認するか、言語の設定を変更してください。

DRG-11422 言語サービスの初期化に失敗しました。

原因: 言語サービスの初期化に失敗しました。メモリーが不足している可能性があります。

処置: サーバーを再起動してください。

DRG-11425 gist レベル *string* が無効です。

原因: 指定された gist レベルが無効です。

処置: 有効な gist レベルを指定してください。

DRG-11427 有効な gist レベルの値は *string* です。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11432 *interMedia Text* 字句へのアクセスでファイル・エラーが発生しました。

原因: 字句へのアクセス時に Oracle エラーが発生しました。

処置: Oracle エラー・スタックを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-11435 主キーの値が無効です。

原因: サービス要求に有効でない主キー・パラメータが渡されました。

処置: 主キー・パラメータを確認してください。

DRG-11439 索引名の長さが最大値 25 文字を超えています。

原因: 索引の長さが索引名の最大サイズを超えています。

処置: 索引を削除して、短い索引名で再作成してください。

DRG-11440 *string* 言語ではサポートされない操作です。

原因: 要求された操作は現行の言語ではサポートされません。

処置: サポートされている操作のみ使用してください。

DRG-11441 *gist numParagraphs string* が無効です。

原因: *gist numParagraphs* に無効な値が指定されました。

処置: *gist numParagraphs* に有効な値のみを指定してください。

DRG-11442 有効な *gist numParagraphs* の値は、*string* です。

原因: *gist numParagraphs* に無効な値が指定されました。

処置: このメッセージで示した *gist numParagraphs* に有効な値が指定されているかどうかを確認してください。

DRG-11443 *gist maxPercent string* が無効です。

原因: *gist maxPercent* に無効な値が指定されました。

処置: *gist maxPercent* に有効な値のみを指定してください。

DRG-11444 有効な *gist maxPercent* の値は、*string* です。

原因: *gist maxPercent* に無効な値が指定されました。

処置: このメッセージで示した *gist maxPercent* に有効な値が指定されているかどうかを確認してください。

DRG-11445 ROWID の値が無効です: *string*

原因: サービス要求に有効でない ROWID の値のパラメータが渡されました。

処置: ROWID パラメータを確認してください。

DRG-11500 列名が正しくありません。 *string* (行 *string*) が見つかりました。

原因: 列名またはキーワードの綴りが間違っている可能性があります。

処置: 指定された行の近くの綴りおよび句読点を確認してください。

DRG-11501 識別子 *string* が、列名のかわりに行 *string* が見つかりました。

原因: 列名の綴りが間違っている可能性があります。

処置: 指定された行の近くの綴りを確認してください。

DRG-11502 行 *string* で、ファイル *string* の読み込みに失敗しました。

原因: ファイル名が間違っている、FILE_TYPE が正しくない、またはファイル・システムのエラーです。

処置: ファイル名、タイプとファイルの整合性を確認してください。

DRG-11503 文の挿入により文の最大サイズを超えました。

原因: 文の合計の長さが、データベースの最大値を超えました。

処置: 列名を短くするか、列数を少なくしてください。

DRG-11504 指定した LONG 値のパラメータ *string* は無効です。

原因: オプション引数が無効です。

処置: LONG バッファ・サイズに 0 より大きい値を KB 単位で指定してください。

DRG-11505 行 *string* の LONG データは見つからないか、無効です。

原因: データまたはデータ・ファイルのいずれかが無効です。

処置: ファイルが存在しているかどうか、アクセス可能かどうかを確認してください。

DRG-11506 エラーのため、行 *string* のレコードは無視されました。

原因: この行のデータの解析中に、エラーが発生しました。

処置: エラーのある行を別のロード・ファイルに移動して、修正してください。

DRG-11507 ファイル *string* の読み込みでファイル・エラーが発生しました。

原因: ファイルが見つからないか、読み込めません。

処置: ファイルの名前と位置を確認してください。

DRG-11508 *string* トークン (行 *string*) が誤っているか、または存在しません。

原因: 必要なトークンが見つかりません。

処置: エラーのあるロード・ファイルに移動して、影響のあるレコードを修正してください。

DRG-11509 行 *string* に値を指定してください。

原因: テキストに値がありません。

処置: エラーのあるロード・ファイルに移動して、影響のあるレコードを修正してください。

DRG-11510 行 *string* でリカバリ不能なエラーが発生しました。

原因: 前のメッセージを参照してください。

処置: 前のメッセージを参照してください。

DRG-11511 指定した表に LONG RAW 列はありません。

原因: テキストは、LONG RAW 型の列に挿入する必要があります。

処置: データの表および型を確認してください。

DRG-11512 シソーラス・ロード・ファイルの行 *string* の構文に誤りがあります。

原因: ロード・ファイルは、ロードするシソーラスに固有の形式である必要があります。

処置: ドキュメントを参照して、正しい構文を調べてください。

DRG-11513 ファイル *string* のオープンまたは書込みができません。

原因: ファイルのオープンまたは書込みをしようとして、失敗しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11514 ユーザー *string* に、*string* の UPDATE または SELECT 権限はありません。

原因: ユーザーには、UPDATE または SELECT 権限は付与されていません。

処置: ユーザー権限を確認してください。

DRG-11515 テキスト・キーの値が不十分です。

原因: 指定された値の数がテキスト・キーの数と一致しません。

処置: テキスト・キーの数と同じ数の値を指定してください。

DRG-11516 この操作を実行するには、少なくとも CTXUSER のロールが必要です。

原因: ユーザーに CTXUSER、CTXAPP または CTXADMIN のロールがありません。

処置: ユーザーに適切なロールを与えてください。

DRG-11517 テキスト・オブジェクトの妥当性検査中にエラーが発生しました。

原因: 同時に出力される Oracle エラーを参照してください。

処置: 同時に出力される Oracle エラーを参照してください。

DRG-11518 テキスト表 *string* に LONG または LONG RAW 列がありません。

原因: 指定された表に LONG または LONG RAW 列がありません。

処置: 指定された表を確認してください。

DRG-11519 LONG または LONG RAW 列のエクスポート中にエラーが発生しました。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

処置: 同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

DRG-11520 ファイルの書込み中にエラーが発生しました。

原因: ファイルが存在しません。

処置: ファイルが存在するかどうかを確認してください。

DRG-11521 LONG または LONG RAW 列の更新中にエラーが発生しました。

原因: 同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

処置: 同時に出力されるエラー・メッセージを参照してください。

DRG-11522 指定したテキスト・キーをもつ行が存在しません。

原因: 表の中の行に指定されたテキスト・キーがありません。

処置: 正しいテキスト・キーを使用してください。

DRG-11523 指定した行を更新用にロックできません。

原因: 他プロセスが指定した行をロックしています。

処置: ロックを解放するか、またはロックが解放されるまで持ってください。

DRG-11524 主キーの値が指定されていません。

原因: 主キー値が指定されていません。

処置: 主キー値を指定してください。

DRG-11525 無効な commitafter パラメータ *string* が指定されました。

原因: オプション引数が無効です。

処置: 0 を超える commitafter を指定してください。

DRG-11526 ファイル名が最大長を超えています。

原因: ファイル名の値が長すぎます。

処置: 最大長を超えないファイル値を使用してください。

DRG-11527 行 *string* で終了トークンが見つかりません。

原因: レコードの終わりに <TEXTEND> が見つかりません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11528 LONG または LONG RAW 列定義が構造体データで見つかりました。

原因: 位置が誤っていることが考えられます。

処置: 構造体データから LONG または LONG RAW 列への参照を削除してください。

DRG-11529 トークンが最大長を超えています。

原因: 列の名前または値が長すぎます。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11530 トークンが最大長を超えています。

原因: 句またはリレーション・ワードの値が長すぎます。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11531 行 *string* で開始トークンが見つかりません。

原因: <TEXTSTART> がレコードの始めに見つかりません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11532 行 *string* (ファイル *string*) の終わりで読み込みエラーが発生しました。

原因: 行の終わりまで読み込んだところで文字が見つかりました。

処置: 無関係な文字を削除してください。

DRG-11533 列 *string* の値が正しくありません。

原因: 列の値が長すぎるか、引用符が一致していません。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11534 列 *string* が存在しない、またはスペルミスです。

原因: 列が存在しないか、綴りが間違っています。

処置: 処理を中断して、レコードを修正してください。

DRG-11600 URL 保存: *string* が永続的に移動されました。

原因: URL が参照している文書が永続的に移動されました。

処置: 文書の新しいアドレスを調べてください。

DRG-11601 URL 保存: *string* に対する要求の構文に誤りがあります。

原因: クライアントが正しい要求を作成できません。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11602 URL 保存: *string* へのアクセスには認証が必要です。

原因: ユーザーにパスワードまたは認証が必要です。

処置: 必要なアクセス権を取得するか、URL を確認してください。

DRG-11603 URL 保存: *string* へアクセスするにはペイメントが必要です。

原因: URL にアクセスするにはペイメントが必要です。

処置: URL を確認するか、またはアクセスに必要であればペイメントを行ってください。

DRG-11604 URL 保存: *string* へのアクセスは否認されました。

原因: URL へのアクセスが否認されました。

処置: URL を確認してください。URL が正しい場合には、URL へのアクセスは試みないでください。

DRG-11605 URL 保存: *string* で指定された文書が見つかりません。

原因: 指定されたホストにドキュメントが見つかりません。

処置: URL を確認してください。

DRG-11606 URL 保存: *string* へのアクセスがクライアント要求の待機中にタイム・アウト。

原因: クライアントからタイムアウト周期内に応答がありませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11607 URL 保存: 誤った応答が原因で、*string* へのアクセスが否認されました。

原因: URL の Web サーバーが HTTP プロトコルに準拠していません。

処置: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

DRG-11608 URL 保存: *string* のホスト部分が誤って指定されています。

原因: URL のホスト部分が解析できません。

処置: URL を確認してください。

DRG-11609 URL 保存: *string* で指定されたローカル・ファイルをオープンできません。

原因: ローカル・ファイルをオープンできませんでした。

処置: URL を確認してください。

DRG-11610 URL 保存: *string* で指定されたローカル・ファイルを読み込むことができません。

原因: ローカル・ファイルが読み込めませんでした。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11611 URL 保存: *string* で指定されたプロトコルが不明です。

原因: 解析したプロトコルが HTTP またはファイルのいずれでもありませんでした。

処置: URL を確認してください。

DRG-11612 URL 保存: *string* で指定されたホストが不明です。

原因: 指定されたホストのアドレスが解決できませんでした。

処置: URL を確認してください。

DRG-11613 URL 保存: *string* で指定されたホストへの接続が拒否されました。

原因: 指定されたホストへの接続が拒否されました。

処置: URL を確認してください。

DRG-11614 URL 保存: *string* に指定されたホストとの通信がタイム・アウトしました。

原因: ネットワーク操作がタイムアウトしました。

処置: 後でもう一度試みてください。Web サーバーとのネットワーク接続が切断されている可能性があります。

DRG-11615 URL 保存: ネットワーク内の *string* へ送信する書込みが失敗しました。

原因: Web サーバーへの書込み中に不明なエラーが発生しました。

処置: ネットワーク接続を確認してください。

DRG-11616 URL 保存: *string* へアクセスしようとするリダイレクションが多すぎます。

原因: URL へアクセスしようとする HTTP リダイレクションの連鎖が多すぎます。

処置: リモート・ホストの Web 管理者に連絡してください。

DRG-11617 URL 保存: URL: *string* が長すぎます。

原因: URL 文字列の長さが URLSIZE を超えています。

処置: URLSIZE 属性の値を大きくしてください。

DRG-11618 URL 保存: *string* で示された文書が大きすぎます。

原因: 文書の大きさがユーザーの設定した最大サイズを超えています。

処置: URL にアクセスしないか、文書サイズの制限を大きくしてください。

DRG-11619 URL 保存: 表内の行が空です。

原因: 行が削除されているか、あるいは欠落しています。

処置: 必要であれば、表を確認してください。

DRG-11620 URL 保存: スレッド操作のエラー。

原因: スレッド操作が失敗しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11621 URL 保存: *string* に関するソケット・オープン・エラー。

原因: ソケット・オープンに失敗しました。オープンしているファイル記述子が多すぎる可能性があります。

処置: 起動するスレッドの最大数を減らしてください。

DRG-11622 URL 保存: *string* の読取りについての不明な HTTP のエラー。

原因: *interMedia Text* が認識できない HTTP エラーが発生しました。

処置: HTTP エラー・コードを調べてください。有効な場合は、システム管理者に連絡してください。

DRG-11623 URL 保存: *string* の読取りについての不明なエラー。

原因: *interMedia Text* が認識できないエラーが発生しました。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-11624 属性 *string* (*string*) は無効です: 有効範囲は *string* から *string* の間です。

原因: *interMedia Text* が認識できないエラーが発生しました。

処置: 属性値を変更してください。

DRG-11625 MAXURLS * URLSIZE は、*string* よりも小さくなければなりません。

原因: MAXURLS × URLSIZE は制限値を超えることはできません。

処置: MAXURLS または URLSIZE のいずれかの値を小さくしてください。

DRG-11700 シソーラス *string* はすでに存在しています。

原因: 同じ名前のシソーラスが存在します。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-11701 シソーラス *string* は存在しません。

原因: シソーラスが存在しません。

処置: 別のシソーラスを使用するか、シソーラスを作成してください。

DRG-11702 *string*

原因: 問合せでシソーラス演算子の解析中にエラーが発生しました。

処置: 詳細は、エラー・メッセージを参照してください。

DRG-11703 この機能を実行するには、ユーザー *string* には最低 CTXAPP ロールが必要です。

原因: 権限が不十分です。

処置: ユーザーに CTXAPP ロールを付与してください。

DRG-11704 句 *string* が存在しません。

原因: 句が存在しません。

処置: 別の句を使用するか、または句を作成してください。

DRG-11705 *string* から *string* への複数レベルジャンプです。

原因: シソーラス・ロード・ファイルに、解析できない複数レベル・ジャンプがあります。

処置: シソーラス・ファイルを修正してください。

DRG-11706 リレーション *string* が無効です。

原因: 指定されたりレーションが無効です。

処置: 有効なリレーションのセットが表示されます。さらに、構文言語名（最大 10 バイトまでの文字列で指定可能）のある翻訳を指定できます。有効なリレーションを指定して、再送信してください。

DRG-11707 有効なリレーション: *string*

原因: 指定されたりレーションが無効です。

処置: 有効なリレーションのセットが表示されます。さらに、構文言語名（最大 10 バイトまでの文字列で指定可能）のある翻訳を指定できます。

DRG-11708 シソーラスが多すぎます。

原因: CTXKBTC では 16 を超えるシソーラスはコンパイルできません。

処置: 指定する値を少なくしてください。

DRG-11709 シソーラスの語句が多すぎます。

原因：シソーラスの語句数が最大値を超えています。

処置：シソーラスの語句数を減らしてください。

DRG-11710 シソーラスの語句 *string* が長すぎます。

原因：ナレッジ・ベースでは 80 文字を超える語句が許可されていません。

処置：80 文字を超える語句を使用しないでください。

DRG-11711 語句 *string* のデータが多すぎます。

原因：語句のデータ・サイズは内部的に制限されています。

処置：シソーラスを再設計してください。

DRG-11712 語句 *string* に対して複数の上位概念語があります。

原因：語句に対して複数の上位概念語は許可されません。

処置：それぞれの語句が上位概念を 1 つのみ持っていることを確認してください。

DRG-11713 1 つのシノニム・リングに対して複数の優先語があります。

原因：1 つのシノニム・リングに対して複数の優先語は許可されません。

処置：それぞれのシノニム・リングが優先語を 1 つのみ持っていることを確認してください。

DRG-11714 シノニムに異なる上位概念語があります。

原因：すべてのシノニムには、同じ上位概念語が必要です。

処置：すべてのシノニムに同じ上位概念語があることを確認してください。

DRG-11715 2KB カテゴリ *string* と *string* に上位概念語関係を追加しようとしてしました。

原因：上位概念語関係は、2 つのナレッジ・ベース・カテゴリ間には追加できません。

処置：上位概念語階層を再設計してください。

DRG-11716 下位概念語 *string* を非優先語 *string* に対して追加しようとしてしました。

原因：下位概念語を追加できるのは、優先語に対してのみです。

処置：下位概念語を優先語に付加してください。

DRG-11717 類義語 *string* を非優先語 *string* に対して追加しようとしてしました。

原因：類義語を追加できるのは、優先語に対してのみです。

処置：類義語を優先語に付加してください。

DRG-11718 語句 *string* に対して複数の優先語があります。

原因：語句に対して複数の優先語は許可されません。

処置：それぞれの語句が優先語を 1 つのみ持っていることを確認してください。

DRG-11719 上位概念語の階層が深すぎます。

原因: 上位概念語の階層が深すぎます。

処置: 最善の結果が得られるように階層を均一にしてください。

DRG-11720 シノニム・リング当りのシノニムが多すぎます。

原因: 1 つの優先語に対するシノニムが多すぎます。

処置: さらに区分して、階層を深くしてください。

DRG-11721 シソーラス *string* が空です。

原因: シソーラスにエントリが存在しません。

処置: エントリを追加するか、シソーラスを削除してください。

DRG-11722 言語の指定が無効です。

原因: 言語は 10 文字を超える指定はできません。

処置: 言語を 10 文字以下で指定してください。

DRG-11723 句は NULL にできません。

原因: シソーラスに NULL 句を追加しようとしてしました。

処置: 有効な句を指定してください。

DRG-11724 句 *string* はすでに存在しています。

原因: 同じ名前の句がすでに存在します。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-11725 句にシノニムがありません。

原因: シノニムのない句を優先語にしようとしたか、またはシノニムのない句から SYN を削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11726 句は優先語ではありません。

原因: 優先語のリレーションを優先語ではない句から削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11727 関連した項が句にありません。

原因: 存在しないリレーションを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11728 句にこの型の上位概念語はありません。

原因: 存在しないリレーションを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11729 句にこの型の下位概念語はありません。

原因: 存在しないリレーションを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11730 リレーションがありません。

原因: 存在しないリレーションを削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11731 翻訳がありません。

原因: 存在しない翻訳を削除しようとしてしました。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-11801 継続

原因: 継続が必要かどうかをユーザーに確認しています (HTTP_ERROR = 100)。

処置: 必要であると応答した場合は、元の操作が継続されます。

DRG-11802 プロトコルを切り替えています。

原因: クライアントに、プロトコルの切替えを通知しています (HTTP_ERROR = 101)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11803 OK

原因: クライアントの状況が正常であることを通知しています (HTTP_ERROR = 200)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11804 作成されました。

原因: クライアントで作成されたことを通知しています (HTTP_ERROR = 201)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11805 アクセプトされました。

原因: クライアントがアクセプトされましたが、コミットされていないことを通知しています (HTTP_ERROR = 202)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11806 非認可の情報です。

原因: 戻されたメタ情報は、最終的なセットではありません (HTTP_ERROR = 203)。

処置: ユーザー・エージェントは、非認可の情報であることを認識します。

DRG-11807 内容がありません。

原因: 要求は実行されましたが、新しい情報はありません (HTTP_ERROR = 204)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11808 リセットされた内容です。

原因: クライアントにドキュメント・ビューのリセットを通知しています (HTTP_ERROR = 205)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11809 一部の内容です。

原因: クライアントのドキュメントの内容は不完全です (HTTP_ERROR = 206)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11810 一部更新は OK です。

原因: クライアントのドキュメントは一部更新されています (HTTP_ERROR = 207)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11811 複数の選択です。

原因: クライアントに複数のリソースを選択できることを通知しています (HTTP_ERROR = 300)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11812 永久に移動しました。

原因: URI に、新しい永続 URI が割当てられました (HTTP_ERROR = 301)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11813 一時的に移動しました。

原因: その URI は一時的に別の URI へ移動されました (HTTP_ERROR = 302)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11814 他を参照してください。

原因: その URI は、別の URI で GET METHOD を使用して検索できます (HTTP_ERROR = 303)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11815 変更されませんでした。

原因: 条件付き GET の応答は、ドキュメントが変更されていないことを示します (HTTP_ERROR = 304)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11816 プロキシを使用します。

原因: 要求を繰り返すには、クライアントは指定されたプロキシを使用する必要があります (HTTP_ERROR = 305)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11817 プロキシ・リダイレクトです。

原因: プロキシ・リダイレクトです。使用されていません (HTTP_ERROR = 306)。

処置: HTTP を新しくしてください。

DRG-11818 一時リダイレクトです。

原因: そのリソースは一時的に別の URI へ移動されました (HTTP_ERROR = 307)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11819 不正な要求です。

原因: URL の構文が正しくありません。要求はサーバーに拒否されました (HTTP_ERROR = 400)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11820 認可されていません。

原因: その要求にはさらに認証が必要です (HTTP_ERROR = 401)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11821 支払いが必要です。

原因: 将来利用のために予約されています。(HTTP_ERROR = 402)

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11822 禁止されています。

原因: サーバーは、クライアントからの要求の実行を拒否しました (HTTP_ERROR = 403)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11823 見つかりません。

原因: サーバーは要求された URI を検索できません (HTTP_ERROR = 404)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11824 使用できないメソッドです。

原因: ユーザー・エージェントが使用できないメソッドを指定しました (HTTP_ERROR = 405)。

処置: ユーザー・エージェントは、使用できるヘッダーを読んでかわりのメソッドを判断します。

DRG-11825 アクセプトできません。

原因: 要求されたりソースは、要求ヘッダーによってアクセプトできません (HTTP_ERROR = 406)。

処置: ユーザー・エージェントは、ユーザーに次の処置を問い合わせる必要があります。

DRG-11826 プロキシ認証が必要です。

原因: クライアント自身にプロキシ認証が必要です (HTTP_ERROR = 407)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11827 要求がタイムアウトしました。

原因: サーバーは要求をタイムアウトしました (HTTP_ERROR = 408)。

処置: ユーザー・エージェントは要求を繰り返します。

DRG-11828 競合します。

原因: その URI の現在の状態と要求が競合します (HTTP_ERROR = 409)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11829 なくなりました。

原因: リソースがもう使用できず、フォワードするアドレスがありません (HTTP_ERROR = 410)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11830 長さが必要です。

原因: サーバーは、コンテンツ長ヘッダーを受信する必要があります (HTTP_ERROR = 411)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11831 事前の条件設定に失敗しました。

原因: リソースが事前の条件設定に失敗したことをユーザー・エージェントに通知しています (HTTP_ERROR = 412)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11832 エンティティ要求が大きすぎます。

原因: エンティティ要求が大きすぎるため、要求が拒否されました (HTTP_ERROR = 413)。

処置: Retry-After にヘッダーが見つかった場合、ユーザー・エージェントは再試行する必要があります。

DRG-11833 URI 要求が大きすぎます。

原因: サーバーは大きすぎる URI のアクセプトを拒否しています (HTTP_ERROR = 414)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11834 サポートされないメディア・タイプです。

原因: サーバーは、メディア・タイプによって要求を拒否しています (HTTP_ERROR = 415)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11835 要求した範囲では条件を満足できません。

原因: リソースの範囲により、バイト範囲の要求は満たされませんでした。
(HTTP_ERROR = 416)。

処置: ユーザー・エージェントは、応答でコンテンツの範囲ヘッダーを読み取ります。

DRG-11836 見込みが外れました。

原因: サーバーは、ユーザー・エージェントの要求に応じられません (HTTP_ERROR = 417)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11837 再認可が必要です。

原因: 予約されています。(HTTP_ERROR = 418)

処置: 予約されています。

DRG-11838 プロキシの再認可が必要です。

原因: 予約されています。(HTTP_ERROR = 419)

処置: 予約されています。

DRG-11839 内部サーバー・エラーです。

原因: 要求の実行中に、サーバーの内部エラーが発生しました (HTTP_ERROR = 500)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11840 インプリメントされていません。

原因: サーバーに要求された機能はまだインプリメントされていないため、サポートできません (HTTP_ERROR = 501)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11841 ゲートウェイが正しくありません。

原因: 要求の送出時、サーバーはゲートウェイから無効な応答を受信しました (HTTP_ERROR = 502)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11842 サービスは使用可能ではありません。

原因: サーバーはオーバーロードしたか、またはメンテナンス・モードです (HTTP_ERROR = 503)。

処置: 応答に Retry-After ヘッダーがあった場合、要求を再試行します。

DRG-11843 ゲートウェイ・タイムアウトです。

原因: アップストリーム・サーバーは、ゲートウェイ・サーバーに適時に応答しませんでした (HTTP_ERROR = 504)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11844 HTTP バージョンはサポートされません。

原因: 要求ヘッダーの HTTP バージョンは、サーバーに拒否されました (HTTP_ERROR = 505)。

処置: ユーザー・エージェントが、適切に処置します。

DRG-11845 一部更新はありません。

原因: 予約されています。 (HTTP_ERROR = 506)

処置: 予約されています。

DRG-11846 応答は無効です。

原因: ユーザー・エージェントは、戻された応答が失効していることを認識しています (HTTP_CACHE_ERROR = 10)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが、適切に処置します。

DRG-11847 妥当性再チェックに失敗しました。

原因: ユーザー・エージェントは、失効した応答の失敗の再検証を試みます (HTTP_CACHE_ERROR = 11)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11848 操作が切断されました。

原因: キャッシュは、時間切れのため切断されました (HTTP_CACHE_ERROR = 12)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11849 試行錯誤は時間切れです。

原因: キャッシュが確実な存続期間および応答の寿命が、いずれも 24 時間を超えています。 (HTTP_CACHE_ERROR = 13)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11850 変換は適用されました。

原因: キャッシュ内容のエンコーディング / メディア・タイプが変更されたことを、キャッシュ・マネージャに通知しています (HTTP_CACHE_ERROR = 14)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11851 キャッシュ関連の警告です。

原因: キャッシュの存続時間が長すぎる場合の不定期な情報です (HTTP_CACHE_ERROR = 99)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントは、何も処置をしません。

DRG-11852 リモート・ホストの位置を特定できません。

原因: リモート・ホストへの接続に失敗しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11853 ホスト名が見つかりません。

原因: ホスト名が URI に指定されていません (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11854 ファイル名が見つからないか、またはファイルがアクセス不可です。

原因: 指定されたファイルをオープンできません (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11855 FTP サーバーが応答しました。

原因: FTP サーバーは、エージェントの要求に応答します (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11856 FTP サーバーからの応答がありません。

原因: 操作中、FTP サーバーからの応答がありません (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11857 サーバーがタイムアウトしました。

原因: サーバー・オペレーションがタイム・アウトしました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11858 ゴーファ・サーバーの応答です。

原因: Gopher サーバーは、エージェントの要求に応答します (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11859 データ転送中に割込みが発生しました。

原因: URL 要求の処理中に割込みが発生しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11860 接続を確立中に割込みが発生しました。

原因: 接続操作中に割込みが発生しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11861 CSO サーバーが応答しました。

原因: クライアントの状況が正常であることを通知しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11862 HTTP サーバー 0.9 またはそれ以前である可能性があります。

原因: 古すぎる Web サーバーです (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11863 不正、不完全または不明な応答です。

原因: サーバーが応答した数値は意味不明です (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11864 不明なアクセス認証スキームです。

原因: サーバーが使用しているアクセス認証スキームが不明です (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11865 ニュース・サーバーの応答です。

原因: ニュース・サーバーが応答しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11866 `file://` ではなく、`ftp://` で試行してください。

原因: 誤ったアクセス方式が使用されています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11867 自動リダイレクションに対してメソッドが適合しません。

原因: クライアントの状況が正常であることを通知しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11868 リダイレクションが多すぎます。

原因: Web サーバーの設定は、リダイレクションが多すぎる構成です (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11869 早すぎるファイルの終りが見つかりました。

原因: 予期しない位置でファイルが終わっています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-11870 WAIS サーバーからの応答が長すぎます -- 余分な行は無視されました。

原因: WAIS からの応答によってバッファがオーバーフローしました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11871 WAIS サーバーからデータが戻りません。

原因: WAIS サーバーが不良です (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11872 WAIS サーバーに接続できません。

原因: WAIS サーバーへの接続に失敗しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11873 システム・コールの応答です。

原因: システム・コールの応答を登録します (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11874 アクセス・スキームが不正または不明です。

原因: プロトコルのクラスが、サーバーに不正に接続しました (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11875 アクセス・スキームはこの *interMedia Text* に使用できません。

原因: クライアントの状況が OK であることを通知しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11876 接続していれば、ログインできます。

原因: telnet エージェントに情報を渡しています (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11877 このキャッシュ・バージョンは期限切れで、自動的に再ロードされます。

原因: キャッシュ・エントリが再ロードされていることをユーザーに通知する必要があります (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11878 新規ルールのロードには、明示的な承認が必要です。

原因: ユーザー・エージェント・クライアントに新ルールのロードを認識させる必要があります (USER_AGENT_ERROR)。

処置: ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-11879 自動プロキシ・リダイレクションには、明示的な承認が必要です。

原因：ユーザー・エージェント・クライアントにプロキシ・リダイレクションを認識させる必要があります (USER_AGENT_ERROR)。

処置：ユーザー・エージェントが適切に処置します。

DRG-12001 ユーザー名を入力してください：

原因：ユーザーに名前を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 0)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12002 プロキシ認証のユーザー名を入力してください：

原因：ユーザーに名前を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 1)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12003 この FTP サーバーのユーザー名を入力してください：

原因：ユーザーに名前を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 2)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12004 パスワード：

原因：ユーザーにパスワードの入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 3)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12005 保存するファイル名を指定してください：

原因：ユーザーにファイル名を入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 4)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12006 アカントを入力してください：

原因：ユーザーにアカウントの入力を要求しています (W3CLIB_MSG = 5)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12007 ここではこのメソッドを使用できない可能性があります。継続しますか？

原因：ユーザーにサービスの使用不能を警告しています (W3CLIB_MSG = 6)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12008 位置が変更されました。継続しますか？

原因：ユーザーに位置の変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 7)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12009 一連の新規ルールをこの設定に追加する必要があります。継続しますか？

原因：ユーザーにルールの変更を警告しています (W3CLIB_MSG = 8)。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12010 このファイルはすでに存在しています。既存のファイルを置き換えますか？

原因：ユーザーに置換の保留を警告しています（W3CLIB_MSG = 9）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12011 認証に失敗しました。再試行しますか？

原因：ユーザーに認証の失敗を警告しています（W3CLIB_MSG = 10）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12012 プロキシ認証に失敗しました。再試行しますか？

原因：ユーザーにプロキシ認証の失敗を警告しています（W3CLIB_MSG = 11）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12013 このメソッドはすでに実行済みです。操作を繰り返しますか？

原因：ユーザーに以前使用したメソッドの繰返しを警告しています（W3CLIB_MSG = 12）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12014 非常に大きいドキュメントです。操作を継続しますか？

原因：ユーザーに非常に大きなドキュメントの処理を警告しています（W3CLIB_MSG = 13）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12015 この操作に対するソース・ドキュメントは移動しました。継続しますか？

原因：ユーザーに位置の変更を警告しています（W3CLIB_MSG = 14）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12016 この操作に対するターゲット・ドキュメントは移動しました。継続しますか？

原因：宛先のドキュメントの変更を警告しています（W3CLIB_MSG = 15）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12017 リダイレクションでこのメソッドの動作が変わる可能性があります。継続しますか？

原因：ユーザーに、リダイレクションのメソッドに対する影響を警告しています（W3CLIB_MSG = 16）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12018 プロキシ変更の自動要求です。継続しますか？

原因：ユーザーにプロキシの自動的な変更を警告しています（W3CLIB_MSG = 17）。

処置：ユーザー・エージェント・クライアントが適切に処置します。

DRG-12201 セクション・グループ *string* はすでに存在します。

原因: 同じ名前のセクション・グループがすでに存在します。

処置: 別名を使用するか、または既存のセクション・グループを削除してください。

DRG-12202 セクション・グループの作成でエラーが発生しました。

原因: セクション・グループの作成時に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12203 セクション・グループ *string* がありません。

原因: 指定されたセクション・グループは存在しません。

処置: 既存のセクション・グループを指定してください。

DRG-12204 セクション・グループ *string* の削除でエラーが発生しました。

原因: セクション・グループの削除時に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12206 タグ *string* は、すでにセクション・グループ *string* にあります。

原因: 指定された開始タグは同じセクションにすでに存在します。

処置: 別の開始タグを指定してください。

DRG-12210 セクション *string* の追加でエラーが発生しました。

原因: セクションの追加時に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12211 セクションまたはセクション ID *string* は存在しません。

原因: 削除するセクション名またはセクション ID が存在しません。

処置: 存在するセクション名またはセクション ID を指定してください。

DRG-12212 セクション *string* の削除でエラーが発生しました。

原因: セクションの削除時に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12213 他のユーザーのセクション・グループまたはセクションは作成 / 削除できません。

原因: 自分のセクション・グループ・オブジェクトのみを作成または削除できます。

処置: オブジェクトを所有するユーザーが作成または削除してください。

DRG-12217 タグは 64 バイト以下でなければなりません。

原因: 開始または終了タグの最大値は 64 バイトです。

処置: 64 バイト以内の開始または終了タグを指定してください。

DRG-12218 セクション・グループ名が欠落しています。

原因: セクション・グループ名を指定する必要があります。

処置: セクションまたはセクション・グループの作成時にセクション・グループ名を指定してください。

DRG-12219 セクション名が欠落しています。

原因: セクションを作成する場合、セクション名を指定する必要があります。

処置: セクション名を指定してください。

DRG-12220 有効なタグを指定してください。

原因: セクションをセクション・グループに追加する場合、タグを指定する必要があります。

処置: タグを指定してください。

DRG-12223 セクション名 *string* は確保されている名前です。

原因: セクションに予約名を割り当てようとした。

処置: 予約名を使用しないでください。

DRG-12224 セクション・グループの作成には `ctx_ddl.create_section_group` を使用します。

原因: `CTX_DDL.CREATE_PREFERENCE` を使用して、セクション・グループを作成しようとした。

処置: `CTX_DDL.CREATE_SECTION_GROUP` を使用してください。

DRG-12225 この型のセクションは、このセクション・グループに追加できません。

原因: セクションを NULL セクション・グループへ追加しようとしたか、停止セクションを非自動セクション・グループへ追加しようとしたか、ゾーンまたはフィールド・セクションを自動セクション・グループへ追加しようとした。

処置: このセクション・グループに、そのタイプのセクションは追加できません。

DRG-12226 *string* という名前のフィールド・セクションは、このセクション・グループにすでに存在します。

原因: 属性またはゾーン・セクションに既存のフィールド・セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-12227 *string* という名前のゾーン・セクションは、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因: 属性またはゾーン・セクションに既存のフィールド・セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-12228 フィールドのセクション数 (*string*) がその最大数を超過しました。

原因: セクション・グループの一意のフィールド・セクション数が、最大数を超過しています。

処置: 一意のフィールド・セクションの数を減らしてください。

DRG-12229 特殊セクション *string* は、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因: すでに存在している特殊セクションを追加しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-12230 特殊セクション名は、*string* の 1 つでなければなりません。

原因: 無効な特殊セクションを追加しようとした。

処置: 有効な特殊セクションを使用してください。

DRG-12231 属性セクション *string* は、このセクション・グループにすでに存在しています。

原因: フィールドまたはゾーン・セクションに既存の属性セクションと同じ名前を割り当てようとした。

処置: 別の名前を使用してください。

DRG-12232 属性タグ形式が無効です。

原因: 属性タグとして使用するタグに、誤った形式のタグが指定されました。属性タグは、TAG@ATTR 形式である必要があります。

処置: 正しいフォーマットを使用してください。

DRG-12400 テンプレート *string* が空です。

原因: テンプレートが空です。

処置: テンプレートが正しくインストールされているかを確認してください。

DRG-12401 無効なテンプレート: ループ内の問合せ

原因: CTX REPEAT タグ内では CTX EXEC タグをつけることはできません。

処置: CTX EXEC タグを削除してください。

DRG-12402 テンプレート *string*、行 *string* の処理でエラーが発生しました。

原因: テンプレートの処理時にエラーが発生しました。

処置: スタック上の他のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12403 テンプレート *string* が見つかりません。

原因: テンプレートが存在しません。

処置: テンプレート名とそのテンプレートがインストールされているかどうかを確認してください。

DRG-12404 テンプレート *string* が複数見つかりました。

原因: 同じ名前のテンプレートが複数見つかりました。

処置: 必要に応じてテンプレートを削除してください。

DRG-12405 CTX REDIRECT または CTX LABEL タグの処理でエラーが発生しました。

原因: タグの構文エラーです。

処置: タグ構文を修正してください。

DRG-12406 CTX EXEC タグ属性 (*string*) が無効です。

原因: 属性が正しく指定されていません。

処置: 指定された属性の構文を確認してください。

DRG-12407 CTX REPEAT タグ属性 (*string*) が無効です。

原因: 属性が正しく指定されていません。

処置: 指定された属性の構文を確認してください。

DRG-12408 変数参照が無効です: *string*. *string*

原因: 参照された変数が存在しません。

処置: ラベルおよび列名を確認してください。

DRG-12409 *string* のラベルに構文エラーがあります。

原因: CTX EXEC タグの SQL に、ラベルまたはラベル型の正しくない構文があります。

処置: CTX EXEC タグの SQL 属性を確認してください。

DRG-12410 CTX EXEC タグを処理できません。

原因: CTX EXEC タグの SQL 属性の処理時にエラーが発生しました。

処置: スタック上の他のエラーを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12411 SQL 処理エラー: *string*

原因: CTX EXEC タグの SQL 属性から SQL を間違えて実行しました。

処置: SQL 属性の SQL を確認してください。

DRG-12412 テンプレート処理属性 (*string*) が欠落しているかまたは無効です。

原因: 指定された属性が HTML 入力フィールドでは欠落しているか、または無効です。

処置: テンプレートの INPUT、SELECT、RADIO および CHECKBOX タグでテンプレート処理固有の属性を調べてください。

DRG-12422 クライアントへの書込みに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12430 必須の引数がありません: *string*

原因: この引数は必須です。

処置: この引数を指定した状態で URL を送り直してください。

DRG-12431 構成セクション *string* が見つかりません。

原因: 指定された構成引数が無効です。

処置: 引数を修正して URL を送り直してください。

DRG-12432 構成ファイル *string* が見つからないか、または読み込み不能です。

原因: 構成ファイルの処理時にエラーが発生しました。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12433 *string* JDBC ドライバ・クラスのロードに失敗しました。

原因: ドライバ・クラスが無効です。

処置: 管理者に連絡して、構成を修正してください。

DRG-12434 構成情報 *string* を使用した接続に失敗しました。

原因: 構成情報が正しくありません。

処置: 管理者に連絡して、構成を修正してください。

DRG-12435 ハイライト表の割当てに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12436 ドキュメント表の割当てに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12437 ハイライト表のリリースに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12438 ドキュメント表のリリースに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12439 ハイライト表の読み込みに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12440 ドキュメント表の読み込みに失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12441 ハイライト数の計算に失敗しました。

原因: 次のメッセージを参照してください。

処置: 管理者に連絡してください。

DRG-12500 ストップ・リスト *string* はすでに存在します。

原因: 指定されたストップ・リストはすでに存在しています。

処置: ストップ・リストを再作成する場合は、重複しているストップ・リストを削除してください。

DRG-12501 NULL のストップ・リストは許可されていません。

原因: 指定されたストップ・リストが NULL です。

処置: 有効なストップ・リストを指定してください。

DRG-12502 他のユーザーのストップ・リストは変更できません。

原因: 自分のストップ・リストまたはストップ・ワード・オブジェクトのみ作成または削除できます。

処置: オブジェクトを所有するユーザーが作成または削除してください。

DRG-12503 ストップ・リストの作成または削除中にエラーが発生しました。

原因: ストップ・リストの作成時に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12504 ストップ・リスト *string* は存在しません。

原因: 指定したストップ・リストが存在しません。

処置: ストップ・リストが有効であることを確認してください。

DRG-12505 ストップ・ワードの追加または削除中にエラーが発生しました。

原因: ストップ・ワードの追加または削除中に Oracle エラーを検出しました。

処置: Oracle エラー・メッセージを参照して、適切な処置を行ってください。

DRG-12506 ストップ・ワード *string* はストップ・リスト *string* ではありません。

原因: 指定したストップ・ワードが存在しません。

処置: ストップ・ワードが有効であることを検証してください。

DRG-12507 ストップ・ワード *string* は、すでにこのストップ・リストにあります。

原因: 指定されたストップ・ワードはすでに存在しています。

処置: 再作成する場合は、重複しているストップ・ワードを削除してください。

DRG-12508 ストップ・ワードは NULL にできません。

原因: 指定されたストップ・ワードが NULL です。

処置: 再作成する場合は、NULL のストップ・ワードを削除してください。

DRG-12509 ストップ・ワード *string* の長さがその制限である *string* バイトを超えています。

原因: ストップ・リスト・エントリが最大長を超えています。

処置: ストップ・リスト・エントリの長さを短くしてください。

DRG-12511 ストップ・リストの作成には `ctx_ddl.create_stoplist` を使用します。

原因: CTX_DDL.CREATE_PREFERENCE を使用して、ストップ・リストを作成しようとした。

処置: CTX_DDL.CREATE_STOPLIST を使用してください。

DRG-12512 無効なストップ・クラス *string* です。

原因: 無効なストップ・クラスが指定されました。

処置: 有効なストップ・クラスを指定してください。

DRG-12513 有効なストップ・クラス: *string*

原因: 無効なストップ・クラスが指定されました。

処置: 有効なストップ・クラスがリストされています。

DRG-12600 ユーザー・データストア・プロシージャ名: *string* にセミコロンがあります。

原因: 指定されたプロシージャ名にセミコロンが含まれています。

処置: セミコロンを削除するか、プロシージャを改名ください。正しい形式は *packagename.procedurename* です。

DRG-12601 ユーザー・データストア・プロシージャ名: *string* は無効です。

原因: プロシージャ名の形式が無効です。形式は *packagename.procedurename* または *procedurename* である必要があります。

処置: PROCEDURE 属性の形式が、*packagename.procedurename* または *procedurename* であることを確認してください。

DRG-12602 索引所有者には、ユーザー・データストア・プロシージャ: *string* へのアクセス権がありません。

原因: 索引所有者には、プロシージャに対する実行権限がありません。

処置: CTXSYS を使用して、プロシージャに対する実行権限を索引所有者に付与してください。

DRG-12603 CTXSYS は、ユーザー・データストア・プロシージャ : *string* を所有していません。

原因: CTXSYS に、ユーザー・データストア・プロシージャに対する実行権限がありません。

処置: パッケージが CTXSYS によって所有されており、プロシージャが存在することを確認してください。

DRG-12604 ユーザー・データストア・プロシージャの実行に失敗しました。

原因: ユーザー・データストア・プロシージャの実行中にエラーが発生しました。

処置: データストア・プロシージャを確認してください。

DRG-12700 シード・ワードは必ずシングル・ワードです。

原因: シード・ワードがシングル・ワードではありません。

処置: シングル・ワードのシード・ワードを使用してください。

DRG-12800 NESTED_TYPE 属性には、接頭辞に所有者名が必要です。

原因: NESTED_TYPE 属性の接頭辞に所有者名がありません。

処置: NESTED_TYPE 属性を設定し直して、接頭辞に所有者名を含めてください。

DRG-12801 型が無効です : *string*

原因: NESTED_TYPE が無効です。

処置: 所有者およびその型の属性名を確認してください。

DRG-12802 列の型が無効です : *string*

原因: 指定された列は、そのタイプ表には存在しません。

処置: タイプ表を確認してください。

DRG-12803 テキストのデータ型が無効です。

原因: NESTED TABLE では LONG および LONG RAW データ型はサポートされません。

処置: テキスト列をサポートされているデータ型に変更してください。

DRG-12900 操作 : *string* (索引 : *string*) はすでに開始しています。

原因: 指定された操作はすでに開始しています。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-13000 サブ・レクサーの追加または削除でエラーが発生しました。

原因: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

処置: 同時に出力されるメッセージを参照してください。

DRG-13001 サブ・レクサーとマルチ・レクサーには同じ所有者が必要です。

原因: 指定されたサブ・レクサーの所有者は、そのサブ・レクサーを含むマルチリンガル・レクサー・プリファレンスの所有者ではありません。

処置: 所有者が、マルチ・レクサー・プリファレンスの所有者と同じであるサブ・レクサーを指定してください。

DRG-13002 作業環境 *string* は MULTI_LEXER ではありません。

原因: サブ・レクサーをアクセプトできないレクサー・プリファレンスに、サブ・レクサーを追加しようとした。サブ・レクサーをアクセプトできるのは、マルチリンガル・レクサーのみです。

処置: マルチリンガル・レクサーを指定してください。

DRG-13003 作業環境 *string* はサブ・レクサーとして使用できません。

原因: レクサーではないか、またはマルチリンガル・レクサーである、サブ・レクサーにプリファレンスが指定されました。

処置: マルチリンガル・レクサーではないサブ・レクサーを指定してください。

DRG-13004 言語が無効です。

原因: サブ・レクサーに、無効な言語が指定されました。

処置: 有効な言語を指定してください。有効な言語のリストは、『Oracle8i NLS ガイド』を参照してください。

DRG-13005 alt_value は、NLS 言語名にできません。

原因: NLS 言語名が alt value に指定されました。

処置: NLS 以外の値を指定してください。

DRG-13006 この言語用のサブ・レクサーが定義されていません。

原因: 言語のサブ・レクサーを削除しようとしたが、その言語にはサブ・レクサーが定義されていません。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-13007 デフォルトのサブ・レクサーに対する代替値を定義できません。

原因: デフォルトのサブ・レクサーに代替値を定義しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-13008 デフォルトのサブ・レクサーを削除できません。

原因: デフォルトのサブ・レクサーを削除しようとした。

処置: 処置は必要ありません。

DRG-13009 マルチ・レクサー作業環境にデフォルトのサブ・レクサーがありません。

原因: デフォルトのサブ・レクサーが定義されていないマルチ・レクサー・プリファレンスを使用しようとした。

処置: デフォルトのサブ・レクサーをマルチ・レクサー・プリファレンスに追加し、再試行してください。

DRG-13010 alt_value は、別のサブ・レクサーですすでに使用されています。

原因: レクサー・プリファレンスですすでに他のサブ・レクサーに使用されている alt value を指定しようとした。

処置: 異なる alt value を指定してください。

DRG-13011 マルチ・レクサーを使用する場合は、言語列の指定が必要です。

原因: マルチ・レクサー・プリファレンスを使用して索引を作成しようとしたが、言語列を指定していません。

処置: 言語列を指定してください。

DRG-13012 言語列には、char、varchar または varchar2 型が必要です。

原因: CHAR、VARCHAR または VARCHAR2 型ではない言語列が指定されました。

処置: 正しい型の言語列を指定してください。

DRG-50900 text query parser error on line *string*, column *string*

原因: 無効な問合せです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50901 text query parser syntax error on line *string*, column *string*

原因: 無効な問合せです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50902 unexpected character *string*

原因: 無効な問合せです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50903 invalid weight *string*

原因: 無効な重みです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50904 weight *string* outside valid range 0.1 to 10.0

原因: 無効な重みです。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50905 invalid score threshold *string*

原因: 無効なスコアのしきい値です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50906 score threshold *string* is not an integer

原因: 無効なスコアしきい値です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50907 score threshold *string* outside valid range 1 to 100

原因: 無効なスコアしきい値です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50908 invalid maximum number of documents *string*

原因: ドキュメントの最大数が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50909 maximum number of documents *string* is not an integer

原因: ドキュメントの最大数が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50910 max documents requested *string* outside valid range 1 to 65535

原因: ドキュメントの最大数が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50911 invalid first document number *string*

原因: 最初のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50912 first document number *string* is not an integer

原因: 最初のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50913 first document requested *string* is not a positive number

原因: 最初のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50914 invalid last document number *string*

原因: 最後のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50915 last document number *string* is not an integer

原因: 最後のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50916 last document *string* is less than first document

原因: 最後のドキュメント番号が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50917 escape on at end of text query string

原因: 一致しないエスケープ文字があります。

処置: エスケープをオフにしてください。

DRG-50918 mismatched close escape character

原因: オープン・エスケープ文字とクローズ・エスケープ文字が一致していません。

処置: オープン・エスケープとクローズ・エスケープを一致させてください。

DRG-50919 NEAR operand not a phrase, equivalence or another NEAR expression

原因: NEAR オペレータのオペランドの型が無効です。

処置: オペランドの型を修正してください。

DRG-50920 part of phrase not itself a phrase or equivalence

原因: 句の一部である式の型が無効です。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50921 EQUIV オペランドがワードまたは他の EQUIV 式ではありません。

原因: EQUIV オペレータのオペランドの型が無効です。

処置: オペランドの型を修正してください。

DRG-50922 PL/SQL 式が *string* で失敗しました。

原因: PL/SQL ファンクションが存在していないか、不正値を戻している可能性があります。

処置: PL/SQL ファンクションが存在していないか、不正値を戻している可能性があります。

DRG-50923 could not rewrite PL/SQL for execution

原因: 解析内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50924 PL/SQL inside PL/SQL not supported

原因: PL/SQL ファンクション・コールは、別の PL/SQL コールを戻しました。

処置: 再帰 PL/SQL を削除してください。

DRG-50925 could not parse return value of PL/SQL

原因: PL/SQL ファンクションから戻された文字列を解析できませんでした。

処置: コールする PL/SQL ファンクションを修正してください。

DRG-50926 invalid text query string

原因: 問合せ文字列が空か、無効な文字から構成されています。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50927 parser failed on line *string* on column *string*

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50928 reserved failure on line *string* on column *string*

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50929 parser internal on line *string* on column *string*

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50930 parser memory failure on line *string* on column *string*

原因: メモリーの割当てエラーまたは解放エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50931 parser not opened

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50932 parser preference initialization failed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50933 parser hash insert failure

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50934 parser hash create failure

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50935 parser component failure

原因: これは内部エラーです。

処置: 他のエラーを調べてください。

DRG-50936 query word *string* is too complex for index

原因: これは内部エラーです。

処置: 他のエラーを調べてください。

DRG-50937 query too complex

原因: 問合せが複雑すぎます。

処置: 問合せを小さくしてください。

DRG-50938 parser already bound

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50939 parser not set

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50940 parser not parsed

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-50941 PL/SQL function *string* cannot be executed

原因: PL/SQL ファンクションが存在していないか、ユーザーによって実行されていない可能性があります。

処置: 問合せに指定された PL/SQL ファンクションを修正してください。

DRG-50942 errors:*stringstring*

原因: PL/SQL ファンクションでエラーが見つかりました。そのエラー・メッセージです。

処置: エラー・メッセージを参照してください。

DRG-50943 query token too long on line *string* on column *string*

原因: 問合せトークンの長さが 256 バイトを超えています。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50944 NEAR operator not supported for theme index

原因: NEAR オペレータがテーマ索引問合せに使用されています。

処置: NEAR オペレータを取り除いて、問合せを修正してください。

DRG-50945 Illegal phrase in query for theme index

原因: テーマ索引問い合わせに不正な句が指定されています。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50946 Invalid unary operator for theme index

原因: STEM、ファジー・マッチおよび SOUNDEX はテーマ索引では許可されていません。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50947 ABOUT clause not allowed without a theme index

原因: 問合せに ABOUT 句が含まれていますが、それをサポートするテーマ索引がありません。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50948 ABOUT clause required in the absence of a text index

原因: テキスト索引がありませんが、問合せに ABOUT 句が含まれていません。1つのみテーマ索引が存在する状態で、それぞれの検索語が ABOUT 句に属している必要があります。

処置: 問合せを修正してください。

DRG-50949 too many SQEs

原因: SQE が多すぎて拡張できません。

処置: 問合せまたは SQE を修正してください。

DRG-50950 circular SQE found

原因: 循環 SQE 参照が見つかりました。

処置: 問合せまたは SQE を修正してください。

DRG-51023 stemmer file cannot be opened

原因: stemmer 辞書を含むオペレーティング・システム・ファイルをオープンできないか、またはファイル内容が正しくありません。

処置: *interMedia Text Option* のドキュメントを参照して stemmer 辞書が正しい位置にあるかを確認し、ファイルの破損状態を確認してください。

DRG-51024 out of memory in stemmer

原因: これ以上メモリーを割り当てることができません。

処置: システム管理者に連絡してください。

DRG-51025 an invalid character was passed to the stemmer

原因: stemmer に入力されたワードに無効な文字があります。

処置: stem するワードから無効な文字を削除してください。

DRG-51028 unexpected error in fuzzy match expansion: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51029 unexpected error in stemmer expansion: *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51030 ワイルド・カード問合せ拡張の結果、語数が多すぎます。

原因: ユーザー・エラーです。

処置: ワイルド・カード問合わせを絞り込んでください。

DRG-51100 プログラムの項の索引が正しくありません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51101 項の作成のコールバックが失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51801 ファイル: *string* のシークに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51802 ファイル: *string* の読込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51803 ファイル: *string* のオープンに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-51804 ファイル: *string* への書込みに失敗しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52200 無効なエクスポート中の状態 *string*

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52201 互換性がない *interMedia Text* バージョンです。

原因: 互換性のないバージョンの *interMedia Text* のデータをインポートしようとした。

処置: ソースおよびターゲットの *interMedia Text* のバージョンに互換性があることを確認してください。

DRG-52202 無効なクラス名: *string*

原因: 指定したクラス名が無効です。

処置: 有効なクラス名を指定してください。

DRG-52203 無効なオブジェクト名: *string*

原因: 指定したオブジェクト名が無効です。

処置: 有効なオブジェクト名を指定してください。

DRG-52204 索引登録中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52205 クラス *string* とオブジェクト *string* はすでに索引に存在しています。

原因: クラスおよびオブジェクトのエントリが重複しています。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52206 索引オブジェクト登録中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52207 指定した属性: *string* が存在しません。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52208 指定した属性: *string* はすでに存在しています。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

DRG-52210 属性: *string* の値を登録中にエラーが発生しました。

原因: これは内部エラーです。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Time Series メッセージ (TS)

Time Series の詳細は、『Oracle8i Time Series ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

TS-00500 内部エラーです。

原因: これは Time Series 例外に対する内部エラーの一括エラー番号です。処理で例外条件が検出されたことを示します。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

TS-00501 入力パターンが同じ長さではありません。

原因: 入力カレンダーに異なる長さのパターンがあります。

処置: 同じ長さのパターンを持つカレンダーを使用してください。

TS-00502 パターン・アンカーはその月の 29 日または 30 日にあることはできません。

原因: Time Series が、その月の 29 日または 30 日にあるパターン・アンカーを持つカレンダーに遭遇しました。

処置: すべてのパターン・アンカーがその月の 29 日または 30 日でないことを確認してください。

TS-00503 パターン・アンカーは、すべてゼロ (0) またはすべて 1 のパターンの場合だけ NULL にできます。

原因: パターン・アンカーは NULL ですが、NULL *patanchor* が受け入れられるパターンではありません。アンカーは、すべて 0 またはすべて 1 のパターンの場合のみ NULL にできます。

処置: パターン・アンカー日付を指定するか、パターンを調整してください。

TS-00504 DisplayValCal/DisplayValTS に無効な validflag パラメータが渡されました。

原因: 無効なパラメータで DisplayValCal または DisplayValTS がコールされました。

処置: それぞれ ValidateCal または ValidateTS の出力でのみ、DisplayValCal および DisplayValTS をコールしてください。

TS-00505 DisplayValCal/DisplayValTS に無効な outmessage パラメータが渡されました。

原因：無効なパラメータで DisplayValCal または DisplayValTS がコールされました。

処置：それぞれ ValidateCal または ValidateTS の出力でのみ、DisplayValCal および DisplayValTS をコールしてください。

TS-00506 カレンダ・パターンが NULL です。

原因：Time Series が NULL パターンを持つカレンダに遭遇しました。

処置：すべてのカレンダが、決して NULL パターンを持たないようにしてください。

TS-00507 カレンダに不正確な mindate または maxdate があります。

原因：Time Series が不正確な MINDATE または MAXDATE を持つカレンダに遭遇しました。

処置：すべてのカレンダの MINDATE または MAXDATE が正確であることを確認してください。

TS-00508 頻度が 5、7、10、16、18 のカレンダに対して NULL パターン・アンカーが不正です。

原因：Time Series が、次の頻度で、NULL パターン・アンカーを持つカレンダに遭遇しました。

- 週 (5)
- 四半期 (7)
- 10 日間 (10)
- 半月 (16)
- 半年 (18)

処置：(5、7、10、16、18) の頻度値を持つすべてのカレンダに NULL パターン・アンカーがないことを確認してください。

TS-00509 入力カレンダに 1 より大きく等しくないパターン・ビットがあります。

原因：Time Series が、パターン・ビットが 1 より大きく、対応するパターン・ビットが等しくないパターンを持つカレンダに遭遇しました。Union & Intersection 操作では、ビットが 1 より大きい場合、2 つの入力カレンダは一致するパターン・ビットを持っていなければなりません。

処置：渡されたカレンダのパターン・ビットが一致することを確認してください。

TS-00510 datetab にカレンダ範囲外の日付があります。

原因：DeriveExceptions が入力カレンダの MINDATE/MAXDATE の範囲外の日付に遭遇しました。

処置：MINDATE/MAXDATE を調整するか、入力 DateTab から無関係な日付を削除してください。

TS-00511 カレンダのパターン・ビット配列が空または NULL です。

原因: Time Series が空または NULL パターン・ビット配列を持つカレンダーに遭遇しました。

処置: 有効なパターンを含めるためにカレンダーを更新してください。

TS-00512 頻度値が無効です。

原因: Time Series がサポートされていない頻度を持つカレンダーに遭遇しました。

処置: すべてのカレンダーをサポートされている頻度 (1、2、3、4、5、6、7、8、10、16、18) に制限してください。

TS-00513 入力した日付の順序が正しくありません。

原因: 指定された日付範囲の順序が逆でした。

処置: 日付範囲を指定するとき、必ず早い方の日付を先にリストしてください。

TS-00514 カレンダー・パターンに不正確なアンカー日があります。

原因: Time Series が誤った精度のアンカーを持つカレンダーに遭遇しました。

処置: アンカーの精度を調整して、カレンダー頻度を一致させてください。

TS-00515 入力した日付がカレンダーの mindate/maxdate を超えています。

原因: Time Series が MINDATE より小さいか、MAXDATE より大きい日付を持つカレンダーに遭遇しました。

処置: 入力した日付がすべて、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 範囲内であることを確認してください。

TS-00516 入力した日付は、カレンダーの maxdate より大きい日付です。

原因: Time Series が MAXDATE より大きい日付に遭遇しました。

処置: 入力した日付がすべて、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 範囲内であることを確認してください。

TS-00517 カレンダー・パターン・アンカーの頻度を設定できません。

原因: Time Series が頻度を設定できないパターン・アンカーを持つカレンダーに遭遇しました。アンカーに設定した頻度が、許可された Oracle 日付を超えています。

処置: カレンダー・パターン・アンカーが少なくとも最小 Oracle 日付 (ユリウス 1) の頻度単位であることを確認してください。パターン・アンカーは、[Oracle MinDate + 頻度, Oracle Maxdate] の範囲内になければなりません。

TS-00519 時間系列タイプの系列属性が NULL です。

原因: Time Series が時系列内で NULL 系列に遭遇しました。

処置: すべての時系列が、確実に NULL 系列の構成要素を持たないようにしてください。

TS-00520 入力したカレンダーは NULL です。

原因: Time Series が NULL カレンダーに遭遇しました。

処置: すべてのカレンダーが NULL ではないことを確認してください。

TS-00522 カレンダーへのスケール変更日付がエラーです。

原因: 入力した日付は指定されたカレンダーへスケールできません。

処置: 指定されたカレンダーが有効で、カレンダーの MINDATE/MAXDATE が可能性のあるすべてのタイム・スタンプ値を包含していることを確認してください。

TS-00523 入力した日付が NULL です。

原因: スケールアップが NULL 日付に遭遇しました。NULL 日付に対して定義されているスケール方法はありません。

処置: スケールアップへのすべての入力が、NULL ではないことを確実にしてください。

TS-00525 入力した時間系列が NULL です。

原因: Time Series が NULL 時系列に遭遇しました。

処置: すべての時系列が、小さい構成要素まで、NULL ではないことを確実にしてください。

TS-00526 入力した時間系列に NULL のカレンダーがあります。

原因: Time Series が時系列内で NULL カレンダーに遭遇しました。

処置: すべての時系列が有効な (NULL ではない) 時間構成要素を持つことを確認してください。

TS-00527 ターゲットのカレンダー頻度へのスケール上げがエラーです。

原因: スケールアップが、入力した時系列のカレンダーよりも短い頻度のターゲット・カレンダーに遭遇しました。

処置: スケールアップでは、ターゲット・カレンダーは同じ頻度か、それより長い頻度に行ってください。

TS-00528 カレンダーに NULL の mindate または NULL の maxdate があります。

原因: Time Series が NULL の MINDATE または MAXDATE を持つカレンダーに遭遇しました。

処置: すべてのカレンダーが有効な MINDATE または MAXDATE を持つことを確認してください。

TS-00529 カレンダーの mindate が maxdate より大きくなっています。

原因: Time Series が MAXDATE より大きい MINDATE を持つカレンダーに遭遇しました。

処置: すべてのカレンダーが有効な MAXDATE 以下の MINDATE を持つことを確実にしてください。

TNS-00530 系列索引は 0 (ゼロ) より大きくなければなりません。

原因: GetNthElement は 1 未満の索引に遭遇しました。

処置: 0 より大きい索引を使用してください。

TS-00531 入力した時間系列に NULL のカレンダー参照があります。

原因: Time Series が NULL のカレンダー参照を持つ時系列に遭遇しました。

処置: すべてのカレンダーが有効であることを確実にしてください。

TS-00532 時間系列で参照されるカレンダーは DEREf できません。

原因: 時系列で参照されるカレンダーは DEREf できません。

処置: 問合せを実行しているユーザーがオブジェクトを保存しているカレンダー表のセレクト権限を持っていることと、正しいカレンダーが時系列参照により参照されていることを確認してください。

TS-00533 時間系列に、そのカレンダーの mindate/maxdate を超える日付があります。

原因: Time Series が MINDATE/MAXDATE を超える日付を持つ時系列に遭遇しました。

処置: すべてのタイム・スタンプがカレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にあることを確認してください。

TS-00534 要求する行数は正の整数でなければなりません。

原因: 要求した行数が 0 未満でした。

処置: 正数を使用して、要求する行数を指定してください。

TS-00535 時間系列参照に NULL の table_name パラメータがあります。

原因: Time Series が NULL の TABLE_NAME を持つ時系列参照に遭遇しました。

処置: すべての時系列参照に有効な表名が含まれていることを確認してください。

TS-00536 時間系列参照に NULL の tstamp_colname パラメータがあります。

原因: Time Series が NULL の TSTAMP_COLNAME を持つ時系列参照に遭遇しました。

処置: すべての時系列参照に有効なタイム・スタンプ列名が含まれていることを確認してください。

TS-00537 時間系列参照に NULL の value_colname パラメータがあります。

原因: Time Series が NULL の VALUE_COLNAME を持つ時系列参照に遭遇しました。

処置: すべての時系列参照に有効な列名が含まれていることを確認してください。

TS-00538 時間系列参照に NULL の qualifier_colname パラメータがあります。

原因：Time Series が NULL の QUALIFIER_COLNAME を持つ時系列参照に遭遇しました。

処置：すべての時系列参照に有効な修飾子列名が含まれていることを確認してください。

TS-00539 時間系列参照に NULL の qualifier_value パラメータがあります。

原因：Time Series が NULL の QUALIFIER_VALUE を持つ時系列参照に遭遇しました。

処置：すべての時系列参照に有効な修飾子値が含まれていることを確認してください。

TS-00540 実効リード・タイム・スタンプが、カレンダーの mindate/maxdate を超えています。

原因：指定されたパラメータが MINDATE/MAXDATE の範囲外のタイム・スタンプになります。

処置：リード・タイム・スタンプやリード単位を調整して、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にするか、MINDATE/MAXDATE を拡張してください。

TS-00541 実効ラグ・タイム・スタンプが、カレンダーの mindate/maxdate を超えています。

原因：指定されたパラメータが MINDATE/MAXDATE の範囲外のタイム・スタンプになります。

処置：ラグ・タイム・スタンプやラグ単位を調整して、カレンダーの MINDATE/MAXDATE 内にするか、MINDATE/MAXDATE を拡張してください。

TNS-00542 mavg/msum 用のウィンドウ・サイズは、1 以上でなければなりません。

原因：moving average/sum に渡されたウィンドウ・サイズ・パラメータが、0 より大きくありませんでした。

処置：1 以上のウィンドウ・サイズ・パラメータを使用してください。

TS-00547 入力した塗りつぶしタイプは無効です。

原因：Fill が、0 より小さいか、2 より大きい塗りつぶしタイプでコールされました。

処置：有効な塗りつぶしタイプを使用してください。0、1 または 2 を入力してください。

TS-00548 Lead 用のターゲット・タイム・スタンプが無効です。

原因：Lead へのターゲット・タイム入力が、入力した時系列カレンダーに関して無効です。

処置：Lead 関数へ入力したターゲット・タイムは、入力した時系列カレンダーに関して有効なタイム・スタンプであることを確認してください。

TS-00551 時間系列参照を使う SQL 文の解析エラーです。

原因：時系列参照から構成された SQL 文が無効でした。

処置：時系列参照の妥当性を次のように検証してください。

- 時系列参照のすべての構成要素の妥当性を検証します。
- 表名や列名に、スペースや無効な句読点がないか確認します。
- 参照されている表のセレクト権限がユーザーにあるか確認します。
- 表名がスキーマ名で修飾されているか確認します。

TS-00552 時間系列参照を使う SQL 文の実行エラーです。

原因：時系列参照から構成された SQL 文が無効でした。

処置：時系列参照の妥当性を次のように検証してください。

- 時系列参照のすべての構成要素の妥当性を検証します。
- 表名や列名に、スペースや無効な句読点がないか確認します。
- 参照されている表のセレクト権限がユーザーにあるか確認します。
- 表名がスキーマ名で修飾されているか確認します。

TS-00553 0（ゼロ）除算によるエラーです。

原因：TSDivide で 0 での除算をしようとしてしました。

処置：定数による除算のとき、定数が 0 でないことを確認してください。

TS-00554 入力したカレンダー・パターンが等しくありません。

原因：DeriveExceptions には、参照時系列のカレンダーが処理中の時系列と同じパターンを持っている必要があります。

処置：DeriveExceptions が同じパターンを持つ時系列でのみコールされていることを確認してください。

TS-00555 入力したカレンダー頻度が等しくありません。

原因：DeriveExceptions には、参照時系列のカレンダーが処理中の時系列と同じ頻度を持っている必要があります。

処置：DeriveExceptions が同じ頻度を持つ時系列でのみコールされることを確認してください。

TS-00556 参照カレンダーの mindate が、ターゲット・カレンダーの mindate を超えています。

原因：DeriveExceptions が、ターゲット時系列のカレンダーよりも大きな MINDATE を持つ参照時系列のカレンダーに遭遇しました。

処置：DeriveExceptions が適切な時系列でのみコールされることを確認してください。

TS-00557 ターゲット・カレンダーの maxdate が、参照カレンダーの maxdate を超えています。

原因：DeriveExceptions が、ターゲット時系列のカレンダーよりも小さな MAXDATE を持つ参照時系列のカレンダーに遭遇しました。

処置：DeriveExceptions が適切な時系列でのみコールされることを確認してください。

TS-00558 ターゲット・カレンダーには、空のオンまたはオフの例外リストが必要です。

原因: DeriveExceptions が空でない例外リストを持つターゲット時系列に遭遇しました。

処置: DeriveExceptions が、空の例外リストを持つターゲット時系列でのみコールされていることを確認してください。

TS-00559 カレンダーの caltype フィールドに無効な値があります。

原因: Time Series が無効のカレンダー・タイプを持つカレンダーに遭遇しました。

処置: すべてのカレンダーが有効なカレンダー・タイプ値を持つことを確認してください。有効なカレンダー・タイプ値は、(Exception-driven calendars = 0) です。

TS-00560 入力データに不正確なタイム・スタンプがあります。

原因: DeriveExceptions 関数が時系列（または datetab）入力中で不正確な日付に遭遇しました。

処置: DeriveExceptions をコールする前に、時系列（または datetab）内のすべてのタイム・スタンプがターゲット・カレンダーに関して正確であることを確認してください。

TS-00561 begin_create_ts_group がコールされませんでした。

原因: BEGIN_CREATE_TS_GROUP は、このプロシージャがコールされる前にコールされなければなりません。

処置: この関数をコールする前に、BEGIN_CREATE_TS_GROUP をコールしてください。

TS-00562 列名が重複しています。

原因: 時系列に指定された 2 つの名前が同じでした。

処置: 各時系列に、一意の列名を付けてください。この列名が、TSTAMP 列の明示的列名やデフォルトの列名または GROUP_NAME 列の列名と競合しないことを確認してください。デフォルト値を判断するには、GET_ATTRIBUTES を使用してください。

TS-00563 列属性が不明です。

原因: 時系列が定義列なしで定義されました。

処置: ADD_VARCHAR2、ADD_NUMBER または ADD_INTEGER で時系列に少なくとも 1 つの列を定義してください。

TS-00564 不明な格納モデルです。

原因: 指定された時系列格納モデルが、有効な格納モデルに対応していません。

処置: プロシージャが有効な格納モデル記述子 'OBJECT' か 'FLAT' でコールされていることを確認してください。

TS-00565 格納モデルが誤りです。

原因: 時系列プロシージャは現在定義されている格納モデルではコールできません。

処置: プロシージャが有効な格納モデル記述子 'OBJECT' か 'FLAT' でコールされていることを確認してください。

TS-00566 不明な時間系列グループです。

原因: 指定された時系列の定義が不明です。

処置: コールが既知の時系列定義を確実に参照するようにしてください。

TS-00567 サポートされていないデータ型です。

原因: 時系列に指定された列データ型はサポートされていません。

処置: 時系列の列データ型が、NUMBER、INTEGER または VARCHAR2 であることを確認してください。

TS-00568 コール順序が不正です。

原因: 正しい順序で関数がコールされていません。

処置: 正しい順序で関数をコールしてください。

TS-00569 すべての属性を削除することはできません。

原因: 時系列グループに属するオブジェクトのすべては削除できませんでした。これは基礎オブジェクトがすでに存在していないか、他の時系列定義が基礎オブジェクトを参照しているためです。

処置: オブジェクトを直接削除するために、権限を取得してください。

TS-00570 宣言された列が多すぎます。

原因: 時系列に宣言された列が多すぎます。許可される最大数に制限については、ドキュメントを参照してください。

処置: 余分の列を収容するために、他の時系列を宣言してください。

TS-00571 細目表がなければなりません。

原因: 細目表が存在しない場合、ADD_EXISTING_COLUMN は不正です。

処置: ADD_VARCHAR2_COLUMN または ADD_NUMBER_COLUMN プロシージャをコールしてください。

TS-00572 列が見つかりません。

原因: ADD_EXISTING_COLUMN がディテール表に存在しない列に対してコールされました。

処置: 既存のディテール表に、NUMBER または VARCHAR2 列表を指定してください。

TS-00573 細目表が存在してはいけません。

原因: 細目表が存在しない場合、ADD_VARCHAR2_COLUMN および ADD_NUMBER_COLUMN は不正です。

処置: 細目表が存在するときは、ADD_COLUMN 関数をコールしてください。

TS-00574 ログ・ファイルはすでにオープンしています。

原因: ログ・ファイルがすでにオープンしているとき、OPEN_LOG がコールされました。

処置: OPEN_LOG をコールする前に、CLOSE_LOG をコールして カレントのログ・ファイルをクローズしてください。

TS-00575 パラメータが detail_table_exists と競合しています。

原因: DETAIL_TABLE_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、DETAIL_TABLE_ATTR、DETAIL_TABLE_PK または TSNAME_LENGTH フィールドが NULL ではない値に設定されていました。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES を DETAIL_TABLE_EXISTS=1 でコールするとき、DETAIL_TABLE_ATTR、DETAIL_TABLE_PK および DETAIL_TSNAME_LENGTH パラメータは NULL にしてください。

TS-00576 パラメータが map_table_exists と競合しています。

原因: MAP_TABLE_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、MAP_TABLE_ATTR または MAP_TABLE_PK フィールドが NULL ではない値に設定されていました。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES を MAP_TABLE_EXISTS=1 でコールするとき、MAP_TABLE_ATTR または MAP_TABLE_PK パラメータは NULL にしてください。

TS-00577 パラメータが cal_table_exists と競合しています。

原因: CAL_TABLE_EXISTS が 1 の値でコールされたとき、CAL_TABLE_ATTR または CAL_TABLE_PK フィールドが NULL ではない値に設定されていました。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES を CAL_TABLE_EXISTS=1 でコールするとき、CAL_TABLE_ATTR または CAL_TABLE_PK パラメータは NULL にしてください。

TS-00578 細目表が見つかりません。

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定された細目表が見つかりませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定された細目表が存在することを確認してください。

TS-00579 SET_FLAT_ATTRIBUTES で指定した tstamp フィールドが存在しません。

原因: TSTAMP フィールドが既存のディテール表に見つかりません。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定された TSTAMP 列名がディテール表に存在することを確認してください。

TS-00580 指定された tstamp フィールドは DATE 列ではありません。

原因: コールには DATE データ型でない TSTAMP フィールドを指定しました。

処置: DATE データ型である TSTAMP フィールドを指定してください。

TS-00581 SET_FLAT_ATTRIBUTES で指定した tsname フィールドが存在しません。

原因: TSNAME フィールドが既存のディテール表に見つかりません。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定された TSNAME 列名がディテール表に存在することを確認してください。

TS-00582 指定した tsnme フィールドは VARCHAR2 列ではありません。

原因: コールは VARCHAR2 データ型でない TSNAME フィールドを指定しました。

処置: VARCHAR2 データ型である TSNAME 列を指定してください。

TS-00583 既存の細目表に主キー制約が見つかりません。

原因: 必要な主キー制約が欠けているディテール表で時系列を作成しようとした。

処置: 細目表が TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00584 既存の細目表に、最初の列として tsnme がある索引が見つかりません。

原因: TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していない細目表で時系列を作成しようとした。

処置: 細目表が TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00585 既存の細目表に、2 番目の列として tstmp がある索引が見つかりません。

原因: TSTAMP フィールドを主キー索引の 2 番目の列として指定していない細目表で時系列を作成しようとした。

処置: 細目表が TSNAME および TSTAMP 列に主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00586 カレンダ表が見つかりません。

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているカレンダ表が見つかりませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されたカレンダ表が存在することを確認してください。

TS-00587 カレンダ表が正しい型ではありません。

原因: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているカレンダ表が、型 ORDSYS.ORDTCALENDAR のオブジェクト表ではありませんでした。

処置: SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているカレンダ表が、型 ORDSYS.ORDTCALENDAR のオブジェクト表であることを確認してください。

TS-00588 カレンダ表に主キー制約が見つかりません。

原因: 必要な主キー制約が欠けているカレンダ表で時系列を作成しようとした。

処置: カレンダ表が NAME フィールドに主キー制限を持っていることを確認してください。

TS-00589 既存のカレンダー表に、最初の列として NAME がある索引が見つかりません。

原因：NAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないカレンダー表で時系列を作成しようとした。

処置：カレンダー表が NAME フィールドに主キー制限を持っていることを確認してください。

TS-00590 マップ表が見つかりません。

原因：SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されているマップ表が見つかりませんでした。

処置：SET_FLAT_ATTRIBUTES に指定されたマップ表が存在することを確認してください。

TS-00591 既存のマップ表に CALNAME フィールドが見つかりません。

原因：指定したマップ表には、VARCHAR2(256) 型の CALNAME と呼ばれるフィールドが必要です。

処置：指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00592 既存のマップ表内の CALNAME フィールドが VARCHAR2 フィールドではありません。

原因：指定した既存のマップ表には、VARCHAR2 型の CALNAME と呼ばれるフィールドが必要です。

処置：指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00593 CALNAME VARCHAR2 フィールドの長さが 256 ではありません。

原因：指定した既存のマップ表には、長さ 256 の CALNAME と呼ばれる VARCHAR2 フィールドが必要です。

処置：指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00594 既存のマップ表に tsname 列が見つかりません。

原因：指定した既存のマップ表には、ディテール表の TSNAME 列と同じ名前のフィールドが必要です。

処置：指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00595 マップ表内の tsname フィールドが VARCHAR2 列ではありません。

原因：既存のマップ表内の TSNAME フィールドは、VARCHAR2 フィールドである必要があります。

処置：指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00596 既存のマップ表内の tsname フィールドの長さが正しくありません。

原因: 既存のマップ表にある TSNAME フィールドの長さは、ディテール表にある TSNAME フィールドの長さと同じである必要があります。

処置: 指定された既存のマップ表に正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00597 マップ表に主キー制約が見つかりません。

原因: 指定されたマップ表には、TSNAME フィールドに主キー制限が必要です。

処置: 指定された既存のマップ表に正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00598 マップ表に tsname フィールドの索引が見つかりません。

原因: TSNAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないマップ表で時系列を作成しようとしてしました。

処置: 指定された既存のマップ表が正しく、必要なフィールドがあるかどうかを確認してください。

TS-00599 入力パラメータ値が不正です。

原因: 入力パラメータの組合せまたは値が不正です。

処置: コールで入力したパラメータの値および組合せが正しいかどうかを確認してください。

TS-00600 tstamp 値の更新が不正です。

原因: instead of トリガーが、TSTAMP フィールドを更新しようとしていることを検出しました。

処置: 時系列での TSTAMP フィールドの更新は許可されていません。

TS-00601 tsname 値の更新が不正です。

原因: 更新トリガーが、TSNAME フィールドを更新しようとしていることを検出しました。

処置: 時系列での TSNAME フィールドの更新は許可されていません。

TS-00602 カレンダが見つかりません。

原因: 挿入トリガーまたは削除トリガーが、標準の時系列のカレンダを取り出すのに失敗しました。

処置: 更新中の時系列にトリガーと関連付けられたカレンダがあるかどうかを確認してください。

TS-00603 tstamp 日付が有効ではありません。

原因: カレンダに対して有効でないタイム・スタンプ日付値を使用して挿入が行われました。

処置: タイム・スタンプ日付が時系列のカレンダに対して有効かどうかを確認してください。

TS-00604 タイム・スタンプは、開始日付前の最初の有効日付でなければなりません。

原因: 開始日付前の最初の有効日付でないタイム・スタンプを挿入しようとしました。

処置: タイム・スタンプ日付が時系列のカレンダに対して有効かどうかを確認してください。

TS-00605 タイム・スタンプは、終了日付後の最初の有効日付でなければなりません。

原因: 終了日付後の最初の有効日付でないタイム・スタンプを挿入しようとしました。

処置: タイム・スタンプ日付が時系列のカレンダに対して有効かどうかを確認してください。

TS-00606 時間系列内の有効日付は削除できません。

原因: 時系列の途中でタイム・スタンプを削除しようとしました。

処置: 時系列の終わりでタイム・スタンプを削除してください。

TS-00607 時間系列グループは存在します。

原因: 指定した時系列グループはすでに存在しています。

処置: BEGIN_CREATE_TS_GROUP がまだ存在していない時系列を指定していることを確認してください。

TS-00608 時間系列インスタンスが見つかりません。

原因: 挿入トリガーまたは削除トリガーが、時系列インスタンスを取り出すのに失敗しました。

処置: 指定された時系列インスタンスが存在しているかどうかを確認してください。

TS-00609 begin_create_ts_group はすでにコールされています。

原因: 時系列グループを定義中に BEGIN_CREATE_TS_GROUP をコールしようとしました。

処置: CANCEL_CREATE_TS_GROUP をコールするか、開始された時系列グループ定義を完了してください。

TS-00610 取り消すものはありません。

原因: 開始されている時系列グループ定義がないときに、CANCEL_CREATE_TS_GROUP をコールしようとしました。

処置: 時系列定義が開始されていないときに、このコールを実行しないでください。

TS-00611 頻度が有効ではありません。

原因: ファンクションに渡された頻度が、有効なカレンダ頻度値に対応しません。

処置: コールに有効なカレンダ頻度値を渡していることを確認してください。

TS-00612 指定した時間系列型はサポートされていません。

原因：作成する時系列オブジェクト表に誤った型が指定されています。

処置：時系列オブジェクト表でサポートされる型は、ORDSYS.ORDTNUMSERIES および ORDSYS.ORDTVARCHAR2SERIES のみです。

TS-00613 時間系列オブジェクト表が見つかりません。

原因：SET_OBJECT_ATTRIBUTES に指定された時系列オブジェクト表が見つかりません。

処置：SET_OBJECT_ATTRIBUTES に指定された時系列オブジェクト表が存在することを確認してください。

TS-00614 既存のオブジェクト表は異なる型です。

原因：(既存の) オブジェクト表の型が、指定された時系列の型と一致しません。

処置：既存のオブジェクト表で時系列グループを作成中に、時系列の型がオブジェクト表の型と一致していることを確認してください。時系列オブジェクト表でサポートされる型は、ORDSYS.ORDTNUMSERIES および ORDSYS.ORDTVARCHAR2SERIES のみであることに注意してください。

TS-00615 時間系列オブジェクト表に主キー制約が見つかりません。

原因：必要な主キー制約が欠けているオブジェクト表で時系列を作成しようとした。

処置：時系列オブジェクト表が NAME フィールドに主キー制限を持っていることを確認してください。

TS-00616 既存の時間系列オブジェクト表に NAME 属性の索引が見つかりません。

原因：NAME フィールドを主キー索引の最初の列として指定していないオブジェクト表で時系列を作成しようとした。

処置：時系列表が NAME フィールドに主キー制約を持っていることを確認してください。

TS-00617 パラメータが object_table_exists と競合しています。

原因：OBJECT_TABLE_EXISTS が 1 に設定された状態で、SET_OBJECT_ATTRIBUTES がコールされたとき、OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES、STORAGE_TABLE_NAME、STORAGE_TABLE_ATTRIBUTES または OBJECT_TABLE_PK フィールドが NULL でない値へ設定されていました。

処置：OBJECT_TABLE_EXISTS が 1 に設定された状態で、SET_OBJECT_ATTRIBUTES がコールするとき、OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES、STORAGE_TABLE_NAME、STORAGE_TABLE_ATTRIBUTES および OBJECT_TABLE_PK はすべて NULL を設定してください。

TS-00618 サポートされていない引数で setprecision がコールされました。

原因: 引数として日付および頻度を使用して、SetPrecision をコールしようとしました。このインタフェースはサポートされていません。SetPrecision には引数としてカレンダーと日付が必要です。

処置: カレンダーと日付を指定して SetPrecision をコールするか、データベースの互換モードを 8.0.5 へ変更してください。データベースの互換モードを変更すると、新しい機能が動作しなくなることにご注意してください。

TS-00619 storage_table_attributes には OVERFLOW 句が必要です。

原因: OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES が、OVERFLOW を含まない句に SET_OBJECT_ATTRIBUTES を使用するように設定されています。OVERFLOW 句は、ORDTVARCHAR2SERIES のオブジェクト格納を作成するときに必要です。

処置: ORDTVARCHAR2SERIES に設定された OBJECT_TABLE_TYPE で SET_OBJECT_ATTRIBUTES がコールされるとき、OBJECT_TABLE_ATTRIBUTES 内に指定された OVERFLOW 句が存在することを確認してください。

TS-00620 時間系列が無効です。

原因: 新しい時系列インスタンスが有効な時系列でないので、オブジェクト・ビュー挿入または更新トリガーが失敗しました。

処置: 挿入中または更新中の新しい時系列が有効な時系列かどうかを確認してください。

TS-00630 正規でない時間系列は有効な入力ではありません。

原因: DeriveExceptions ファンクションには、入力した時系列が正規の時系列であることが必要です (正規でない時系列には関連するカレンダーがないので、DeriveExceptions ファンクションへの入力は不正となります)。

処置: DeriveExceptions ファンクションに入力した時系列が正規の時系列であることを確認してください。

TS-00631 先行および遅延操作は、正規でない時間系列ではサポートされていません。

原因: リード操作およびラグ操作には、カレンダーが時系列のタイム・スタンプの結果を計算することが必要です。

処置: リードおよびラグが、カレンダーのある時系列だけで使用されていることを確認してください。

TS-00632 塗りは正規でない時間系列ではサポートされていません。

原因: Fill には、カレンダーが時系列のタイム・スタンプの結果を計算することが必要です。

処置: Fill が、カレンダーのある時系列のみで使用されていることを確認してください。

TS-00633 表の属性値が大きすぎます。

原因: 渡された表属性値が大きすぎます。

処置: 表属性 VARCHAR2 値は 1023 未満であることを確認してください。

TS-00640 時間系列はターゲット・カレンダーにスケール変更できません - 頻度が一致しません。

原因: 時系列およびカレンダーの頻度に互換性がありません。

処置: スケール変更された時系列に関連付けられたカレンダーが、ターゲット・カレンダーと互換性があることを確認してください。

TS-00641 時間系列はターゲット・カレンダーにスケール変更できません - カレンダー・アンカーが一致しません。

原因: 時系列とカレンダーに関連付けられたカレンダー・アンカーが一致していません。

処置: スケール変更された時系列に関連付けられたカレンダーが、ターゲット・カレンダーと互換性があることを確認してください。

TS-00642 タイム・スケール変更エラー: 1 回の入力間隔が出力間隔 2 回以上にわたっています。

原因: ソース時系列の 1 回の間隔が、スケール変更するターゲット・カレンダーの間隔 2 回以上にわたっています。

処置: スケール変更される時系列がターゲット・カレンダーと一致していることを確認してください。

TS-00643 タイム・スケール変更エラー: 入力間隔で既存でない出力間隔をマップしています。

原因: 入力した時系列の 1 つ以上のセルに、ターゲット・カレンダーの関連付けられた間隔がありません。

処置: スケール変更される時系列がターゲット・カレンダーと一致していることを確認してください。

TS-00644 タイム・スケール変更エラー: permitDropData パラメータが範囲外です。

原因: permitDropData の無効な値が Scaleup のパラメータとして指定されました。

処置: permitDropData パラメータが 0 または 1 であることを確認してください。

TS-00645 不規則な時間の連続に対して scaledownrepeat はサポートされません。

原因: NULL カレンダーのある時系列が ScaleDownRepeat へ渡されました。

処置: ScaleDownRepeat で使用する時系列に、カレンダーがあることを確認してください。

TS-00646 不規則な時間の連続に対して scaledownsplit はサポートされません。

原因: NULL カレンダーのある時系列が ScaleDownSplit へ渡されました。

処置: ScaleDownSplit で使用する時系列に、カレンダーがあることを確認してください。

TS-00647 scaleup オプションは無効です。

原因: 認識できないオプションを ScaleUp ファンクションで使用しました。

処置: 有効なオプションのリストは、ドキュメントを参照してください。

TS-00648 scaleup オプションの組合わせが無効です。

原因: 複数の数値オプション、または数値と名前付きオプションの組合せが、ScaleUp で使用されました。

処置: 有効なオプションのリストは、ドキュメントを参照してください。名前付きオプションが数値オプションとともに使用されていないこと、および1つ以上の数値オプションが指定されていないことを確認してください。

TS-00649 scaleup オプションは無効です。

原因: 認識できない数値オプションを ScaleUp ファンクションで使用しました。有効な数値オプションには、0、1、10 および 11 があります。

処置: 有効な数値オプションのみを使用することを確認してください。名前付けオプションの使用については、ドキュメントを参照してください。

TS-00650 scaleup オプションが重複しています。

原因: 複数の数値オプションまたは数値と名前付きオプションの組合せが、ScaleUp で使用されました。

処置: 複数の名前付きオプションを使用する場合は、オプションを重複しないように、また矛盾するオプションを使用しないように注意してください。矛盾するオプションのリストは、ドキュメントを参照してください。

Spatial Data Option メッセージ (SDO)

Spatial Data Option については、『Oracle8i Spatial ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

SDO-00000 正常に完了しました。

原因: 操作が正常に終了しました。例外はありません。

処置: 処置は必要ありません。

SDO-00002 *string* ではエラーが多すぎます - 強制終了中です。

原因: 許可されるエラーの最大数に達しました。

処置: エラーを修正するか、または許可される最大のエラー数を増加してください。

SDO-00200 内部ヒープ・マネージャの初期化用にメモリーを割当てできませんでした。

原因: 必須メモリーを割当てできませんでした。

処置: 使用可能なメモリー量を増加するか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

SDO-00201 メッセージ・ハンドラを初期化できません。

原因: 必須メモリーを割当てできなかった可能性があります。

処置: 使用可能なメモリー量を増加するか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

SDO-00202 必須メモリーの割当て実行中にメモリー不足になりました。

原因: 必須メモリーを割当てできませんでした。

処置: 使用可能なメモリー量を増加するか、または使用可能なメモリーが増えるまで待機してください。

SDO-00203 最大バインド配列サイズが無効です。

原因: 必要な処理を行うために割り当てられた空間が、十分ではありません。

処置: バインド・サイズ値を増加してください。

SDO-00250 処理用に *string* をオープンできません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルをオープンできませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00251 *string* をクローズできません。

原因: 指定された名前のファイルをクローズできませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00252 *string* を読み込めません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルを読み込めませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00253 *string* に書き込めません。

原因: 指定された名前のファイルにデータを書き込めませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00254 *string* でシークできません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルをシークできませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00255 ログ・ファイルに書き込めません。

原因: ログ・ファイルに書き込めませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00256 *string* を削除できません。

原因: 指定された名前のファイルを削除できませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00257 *string* を改名できません。

原因: 指定された名前のファイルを改名できませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00258 処理用に一時ファイルをオープンできません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルをオープンできませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00259 一時ファイルをクローズできません。

原因: 指定された名前のファイルをクローズできませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00260 一時ファイルから読み込めません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルを読み込めませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00261 一時ファイルに書き込めません。

原因: 指定された名前のファイルにデータを書き込めませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00262 一時ファイルでシークできません。

原因: 指定された名前の処理用ファイルをシークできませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00263 他と重複しない一時ファイル名を作成できません。

原因: 一意のファイル名を作成できませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00264 一時ファイルを削除できません。

原因: テンポラリ・ファイルを削除できませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00265 一時ファイルを改名できません。

原因: テンポラリ・ファイルを改名できませんでした。

処置: このメッセージに続く、オペレーティング・システム・メッセージを確認してください。

SDO-00267 パスで環境変数を変換できません。

原因：環境変数が無効か、定義されていません。

処置：環境変数が正しいことを検証してください。

SDO-00269 プロセスを分岐できません（エラー番号 = *string*）。

原因：表示されたオペレーティング・システム・エラーのため、デーモンを分岐できませんでした。

処置：オペレーティング・システムのエラーを修正してください。

SDO-00270 デーモン・プロセスを連結解除できません（エラー番号 = *string*）。

原因：デーモンが制御ターミナルから連結解除できませんでした。

処置：表示されたオペレーティング・システムのエラーを修正してください。

SDO-01000 キーワードまたは引数番号 : *string* の値が無効です。

原因：キーワードの綴りが不正か、キーワードが有効でないか、または引数値の型が不正です。

処置：コマンドの構文および綴りを確認し再実行してください。

SDO-01001 必須のキーワードが欠落しています。

原因：キーワードがコマンド行で省かれました。

処置：必須のキーワードをコマンド行に設定してください。

SDO-01002 キーワード *string* の引数が無効です。

原因：引数が欠落しているか、または範囲外です。

処置：引数が、表示されたキーワードに対して正しいことを検証してください。

SDO-01003 *string* が有効なキーワードでないか、またはキーワードの値が欠落しています。

原因：キーワードの綴りが不正か、キーワードが有効でないか、またはキーワードの値が欠落しています。

処置：コマンドの構文および綴りを確認し再実行してください。

SDO-01004 コマンド行の組合わせが無効です。

原因：使用されたキーワードは、コマンド行の前のキーワードと組み合わせることができません。

処置：コマンド行の構文を確認してください。

SDO-01005 コマンド行にエラーが検出されました。

原因：コマンド行パラメータが不正に定義されています。

処置：コマンド行パラメータがすべて正しく指定されていることを検証してください。

SDO-01006 コマンド行にユーザー ID が指定されていません。

原因：コマンド行に USER ID が指定されていません。

処置：コマンド行に USER ID を指定してください（たとえば、USER ID = sims/sims）。

SDO-01007 接続文字列を解析できません。

原因：指定された接続文字列を正しく解析できませんでした。

処置：接続文字列が有効であることを検証してください。有効ならば、メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01008 NULL のユーザー ID が指定されました。

原因：NULL の USER ID が指定されました。

処置：USER ID を入力してください。

SDO-01009 NULL のパスワードが指定されました。

原因：NULL のパスワードが指定されました。

処置：パスワードを入力してください。

SDO-01200 内部エラー:[string]

原因：内部の合致操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01201 内部エラー:[string]

原因：内部の副文字列操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01202 内部エラー:[string]

原因：内部の増分値操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01203 内部エラー:[string]

原因：内部の ID 設定操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01204 内部エラー:[string]

原因：内部の ID 取得操作中に、エラーが発生しました。

処置：メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01500 ユーザー名 / パスワードが無効です。ログオンは拒否されました。

原因: Oracle にログオンするときに、無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

処置: 有効なユーザー名 / パスワードの組合せを、正しい形式で入力してください。

SDO-01501 Oracle にログオンできません。

原因: Oracle へのログオンに失敗しました。

処置: Oracle 接続文字列が有効であることを検証してください。

SDO-01502 MDSYS として接続できません。

原因: Oracle MDSYS アカウントへの接続に失敗しました。

処置: このアカウントが存在し、正しく設定されていることを検証してください。

SDO-01503 パーティションはロックされています。

原因: パーティションは現在使用されています。

処置: パーティションがロック解除されるまで、待機してください。

SDO-01507 パーティションは不明な状態でロックされています。

原因: パーティションの状態が不明です。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリが正しいことを検証してください。

SDO-01508 他で実行された後に、パーティション・レコードを挿入しました。

原因: 複数のロードが同時に同じパーティションを作成しました (1つのみ有効)。

処置: ロード・プロセスを再実行してください。

SDO-01600 表を作成できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を作成できることを検証してください。

SDO-01601 一時表を作成できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を作成できることを検証してください。

SDO-01602 表を削除できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を削除できることを検証してください。

SDO-01603 一時表を削除できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を削除できることを検証してください。

SDO-01604 表を切り捨てられません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を切り捨てることを検証してください。

SDO-01605 一時表を切り捨てられません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表を切り捨てることを検証してください。

SDO-01607 HHCODE 列には領域情報がありません。

原因: HHCODE 列の領域情報が見つかりませんでした。

処置: 領域情報が正しいことを検証してください。

SDO-01608 HHCODE 列には *string* の領域情報が欠落しています。

原因: 領域情報が入力されていません。

処置: 領域情報が正しいことを検証してください。

SDO-01609 指定された所有者に対する領域表名が存在しません。

原因: 領域表名の綴りに誤りがあるか、存在しません。

処置: 表が存在することを確認し、綴りを確認してください。

SDO-01610 非 NULL フィールド: *string* に NULL が渡されました。

原因: 非 NULL フィールドとして設定された列に、NULL フラグが設定されました。

処置: 非 NULL 設定にフラグを設定してください。

SDO-01611 *string* の領域値は境界外です。

原因: 領域値が、ディメンションの上限および下限範囲内にありません。

処置: データが正しく、ディメンションの下限および上限が正しいかどうかを検証してください。

SDO-01612 列: *string* にはサポートされないデータ型があります。

原因: 列が、サポートされていないデータ型で定義されています。

処置: この列に別のデータ型を使用してください。

SDO-01613 *string* は、パーティションで区切られていない領域表として検索できませんでした。

原因: 指定された表は存在しないか、またはパーティションで区切られていない領域表ではありません。

処置: 指定された表が存在し、パーティションで区切られていない領域表であることを検証してください。

SDO-01614 一時表からディメンション情報を検索できません。

原因: 表が存在しない可能性があります。

処置: 表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01615 一時列表から HHCODE 列情報を検索できません。

原因: 一時表が不正です。

処置: 表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01616 領域表には HHCODE 列が含まれていません。

原因: HHCODE 列が指定された空間表に存在しません。

処置: HHCODE 列が指定された空間表に存在することを検証してください。

SDO-01617 指定された表にパーティション・キー列がありません。

原因: パーティション・キーとして指定された HHCODE 列がありませんでした。

処置: 空間表を変更して、パーティション・キーを持たせてください。

SDO-01618 HHCODE 列の領域情報が見つかりませんでした。

原因: HHCODE 列の領域情報が存在しません。

処置: 対応する空間表の、Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01619 細目の最大レベルを超えました。

原因: パーティション上の最大サブディビジョン点で、高水位標を超過しています。

処置: 空間表をより高い水位標で変更してください。

SDO-01620 指定されたロールバック・セグメントにトランザクションを割り当てられません。

原因: 指定されたロールバック・セグメントは無効です。

処置: ロールバック・セグメントが正しいことを検証してください。

SDO-01621 一時ビューを作成できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: ビューを作成できることを検証してください。

SDO-01622 一時ビューを削除できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: ビューを削除できることを検証してください。

SDO-01700 パーティションで基本トリガーを作成できません。

原因: トリガーを作成できませんでした。

処置: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

SDO-01701 パーティションで基本トリガーを使用可能にできません。

原因: トリガーを使用可能にできませんでした。

処置: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

SDO-01702 表から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表から選択できることを検証してください。

SDO-01703 一時表から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表から選択できることを検証してください。

SDO-01704 user_users ビューから情報を選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: このビューから選択できることを検証してください。

SDO-01705 一時列表から選択できません。

原因: 表が存在しない可能性があります。

処置: 表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01706 一時表から選択できません。

原因: 表が存在しない可能性があります。

処置: 表が存在し、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01707 一時表に挿入できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: 表に挿入できることを検証してください。

SDO-01708 all_tables ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、またはアクセス権がありません。

処置: ビューへのアクセス権があり、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01800 sys.col\$ から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.COL\$ から選択できることを検証してください。

SDO-01801 sys.obj\$ から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.OBJ\$ から選択できることを検証してください。

SDO-01802 sys.ts\$ から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.TS\$ から選択できることを検証してください。

SDO-01803 sys.tab\$ から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.TAB\$ から選択できることを検証してください。

SDO-01804 sys.dba_tables から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.DBA_TABLES から選択できることを検証してください。

SDO-01805 sys.dba_users から選択できません。

原因: このメッセージに続いて表示される Oracle メッセージを確認してください。

処置: MDSYS が SYS.DBA_USERS から選択できることを検証してください。

SDO-01850 string の HHCODE 列名が無効です。

原因: 指定された空間表の HHCODE 列名が見つかりませんでした。

処置: HHCODE 列が指定された空間表に存在することを検証してください。

SDO-01851 all_md_columns ビューでは列情報が見つかりませんでした。

原因: 指定された空間表では非 HHCODE 列が見つかりませんでした。

処置: ALL_MD_COLUMNS ビューが正しいことを検証してください。

SDO-01852 all_md_tables ビューではクラス情報が見つかりませんでした。

原因: 空間表のクラス情報が見つかりませんでした。

処置: ALL_MD_TABLES ビューが正しいことを検証してください。

SDO-01853 all_md_tables ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01854 領域表の HHCODE 列名: string が見つかりませんでした。

原因: 指定された領域表の HHCODE 列名が見つかりませんでした。

処置: HHCODE 列が指定された領域表に存在することを検証してください。

SDO-01855 指定された HHCODE 列のディメンション名: string が見つかりませんでした。

原因: 指定された空間表にディメンション名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

処置: 入力されたディメンション名が有効であり、または指定された HHCODE 列のディメンション名が指定された空間表に存在することを検証してください。

SDO-01856 指定された領域表の列名: *string* が見つかりませんでした。

原因: 指定された領域表に列名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

処置: 入力された列名が正しく、指定された領域表に存在することを検証してください。

SDO-01857 パーティション・キー列のディメンション名: *string* が見つかりませんでした。

原因: 指定された空間表にディメンション名が存在しないか、または名前の綴りが不正です。

処置: 入力されたディメンション名が有効であり、または指定されたパーティション・キー列のディメンション名が指定された空間表に存在することを検証してください。

SDO-01858 *string* の非 NULL フィールドに値が渡されていません。

原因: 非 NULL フィールドとして設定された列に値が渡されませんでした。

処置: NULL 以外の値を、この列に渡してください。

SDO-01859 *string* のデータ型が無効です。

原因: COL 構造体データ型の記述は、空間表を記述するデータ型に一致しません。

処置: データを記述するデータ型が正しく、空間表の列が正しいデータ型であることを検証してください。

SDO-01860 パーティション名の順序がオーバーフローしました。

原因: 順序の可能な値をすべて使い果たしました。

処置: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-01900 md\$col 表から情報を選択できません。

原因: 表が存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01901 md\$dim 表から情報を選択できません。

原因: 表が存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01902 md\$ptab 表から情報を選択できません。

原因: 表が存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01903 mdv\$tab ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01904 mdv\$col ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01905 mdv\$dim ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01906 all_md_dimensions ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01907 all_md_columns ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01908 all_tab_columns ビューから情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、またはアクセス権がありません。

処置: ビューへのアクセス権があり、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01909 all_md_dimensions ビューからディメンション情報を検索できません。

原因: ビューが存在しない可能性があります。

処置: ビューが存在し、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01910 all_md_columns ビューから列情報を検索できません。

原因: ビューが存在しない可能性があります。

処置: ビューが存在し、正しく作動していることを検証してください。

SDO-01911 md\$ler 表から情報を選択できません。

原因: ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置: Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01912 md\$pts 表から情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01913 md\$tab 表から情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01914 md\$exc 表から情報を挿入できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01915 md\$lser 表から情報を挿入できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01916 md\$ptab 表から情報を挿入できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01917 md\$exc 表から情報を削除できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01918 md\$lser 表から情報を削除できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01919 md\$ptab 表から情報を削除できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01920 md\$ptab 表で情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01921 md\$lser 表から情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01922 md\$pts 表から情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01923 md\$tab 表から情報を更新できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01924 dba_md_columns ビューから情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-01925 dba_md_dimensions ビューから情報を選択できません。

原因：ビューが存在しないか、または矛盾しています。

処置：Spatial Data Option のデータ・ディクショナリを検証してください。

SDO-05000 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。

原因：SLF ファイルが、パーティションで区切られた空間表、またはパーティションで区切られていない空間表に構築されています。SLF ファイルが誤ったクラスにロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05001 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。

原因：SLF ファイルの HHCODE 列の合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05002 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。

原因：SLF ファイルの各 HHCODE 列に対するディメンションの合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置：SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05003 SLF ヘッダー：string は領域データ・ディクショナリ：string と一致しません。

原因：SLF ファイルの非 HHCODE 列の合計数が、空間表での合計数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05004 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05005 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション数が、空間表でのディメンション数と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05006 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの最大レベルが、空間表での最大レベルと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05007 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のサイズが、空間表でのサイズと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05008 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列の NULL フィールドが、空間表での NULL フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05009 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05010 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション番号が、空間表でのディメンション番号と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05011 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンション・レベルが、空間表でのレベルと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05012 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの下限が、空間表での下限と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05013 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの HHCODE 列のディメンションの上限が、空間表での上限と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05014 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列名が、空間表での名前と一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05015 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列の NULL フィールドが、空間表での NULL フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05016 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列タイプが、空間表での列タイプと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05017 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列の精度フィールドが、空間表での精度フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05018 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列のスケール・フィールドが、空間表でのスケール・フィールドと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05019 SLF ヘッダー: *string* は領域データ・ディクショナリ: *string* と一致しません。

原因: SLF ファイルの列のサイズが、空間表でのサイズと一致しません。SLF ファイルが作成された後で空間表定義が変更されたか、または SLF ファイルが誤った空間表にロードされています。

処置: SLF ファイルが正しい空間表にロードされていることを確認するか、または SLF ファイルを再生成してください。

SDO-05020 SLF ファイルではデータが見つかりません (ヘッダー情報のみ)。

原因: 変換処理中に、SLF レコードの書き込みプロセスが停止しました。

処置: SLF ファイルを再作成して、SLF データが書き込まれていることを検証してください。

SDO-05200 *string* の行は複雑すぎて解析できません。

原因: 制御ファイルのデータが、最大のフィールド制限を超過しました。

処置: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

SDO-05201 *string* のフィールド数が不十分です。

原因: 制御ファイルのフィールドが3つより少なくなっています。

処置: 制御ファイルが正しいことを確認してください。

SDO-05202 *string* で必要な行またはキーワードが見つかりません。

原因: 必要なキーワードまたは行が見つかりませんでした。

処置: 指定されたキーワードの順序が正しいことを検証してください。

SDO-05203 無効なパーティション・キー列数が *string* に指定されました。

原因: 複数のパーティション・キーが、指定された名前の制御ファイルに指定されました。

処置: 指定された名前の制御ファイルに、HHCODE が1つだけパーティション・キーとして指定されていることを検証してください。

SDO-05204 HHCODE 列には *string* のディメンション順序が欠落しています。

原因: 空間情報を指定された名前の制御ファイルに入力している時、ディメンション順序が省かれました。

処置: ディメンションの順序値が正しいことを検証してください。

SDO-05205 *string* でファイル型キーワードが見つかりません。

原因: 指定されたファイルに、必要なファイル型が欠落しています。

処置: 制御ファイルに正確な情報があることを検証してください。

SDO-05206 *string* で予期せぬキーワードまたは値が見つかりました。

原因: 制御ファイルにフィールドが複数ありました。

処置: 制御ファイルが正しいことを確認してください。

SDO-05207 制御ファイルに指定された *string* は無効なファイル型です。

原因: ファイル型の綴りが不正です。有効なファイル型は BINARY と ASCII のみです。

処置: 制御ファイルに指定されたファイル型が正しいことを検証してください。

SDO-05208 *string* で書式キーワードが見つかりません。

原因: 指定された名前のファイルで、要求された書式キーワードが欠落しています。

処置: 制御ファイルに正しい情報があることを検証してください。

SDO-05209 *string* で予期せぬキーワードまたは値が見つかりました。

原因: 制御ファイルにフィールドが2つ以上ありました。

処置: 制御ファイルが正しいことを確認してください。

SDO-05210 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: キーワード FIXED が制御ファイル内に見つかりませんでした。

処置: 制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを検証してください。

SDO-05211 データ・ファイルに指定された *string* は無効なレコード長です。

原因: 与えられたデータ・ファイルに指定されたレコード長が、無効です。

処置: 指定されたレコード長が正しいことを検証してください。

SDO-05212 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: 有効なキーワードは DIMENSION と COLUMN のみです。

処置: 制御ファイルに指定されたファイル型が正しいことを検証してください。

SDO-05213 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: 欠落しているキーワード POSITION が、制御ファイルで見つかりませんでした。

処置: 制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを検証してください。

SDO-05214 *string* に無効なポジション値が指定されました。

原因: フィールド位置が不正に指定されました。

処置: 指定されたフィールド位置が正しいことを検証してください。

SDO-05215 制御ファイルに指定された *string* は無効なデータ型です。

原因: 指定されたデータ型の綴りが不正でした。有効なデータ型は INTEGER、SMALLINT、FLOAT、DOUBLE、BYTEINT、DATE、RAW および CHAR のみです。

処置: 指定されたデータ型が正しいことを検証してください。

SDO-05216 指定された位置の長さが *string* と矛盾します。

原因: フィールド位置が不正に指定されました。

処置: 指定されたフィールド位置が正しいことを検証してください。

SDO-05217 制御ファイルに指定された *string* は無効なキーワードです。

原因: 欠落しているキーワード NULLIF が、制御ファイルで見つかりませんでした。

処置: 制御ファイルに指定されたキーワードが正しいことを検証してください。

SDO-05218 制御ファイルの *string* は無効な NULL 標識です。

原因: NULL 標識が不正に指定されました。

処置: NULL 標識が正しいかどうかを確認してください。

SDO-05219 *string* では領域情報が見つかりませんでした。

原因: 指定された名前のファイルで、領域情報が見つかりませんでした。

処置: ディメンション情報を指定された名前のファイルに入力してください。

SDO-05220 *string* では領域情報または列情報が見つかりませんでした。

原因: 指定された名前のファイルで、領域情報が見つかりませんでした。

処置: 列情報およびディメンション情報を指定された名前のファイルに入力してください。

SDO-05221 データ・ファイルの *string* は予期せぬ値です。

原因: 必要な値が見つかりませんでした。

処置: 指定されたファイルが正しいかどうか確認してください。

SDO-05222 列: *string* を使用してデータを変換できません。

原因: 不正なデータが渡されたか、または不正なフォーマット文字列が使用されました。

処置: データおよびフォーマット文字列が正しいかどうか確認してください。

SDO-05500 ユーザーにより SD*Loader が強制終了されました。

原因: ユーザーによりプログラムが強制終了されました。

処置: 処置は必要ありません。

SDO-05501 SQL*Loader で全レコードをパーティションにロードできません。

原因: レコードのいくつかが不正か、または拒否されました。

処置: ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを修正してください。

SDO-05502 SQL*Loader でエラーが発生しました。

原因: SQL*Loader プロセスが停止しました。

処置: ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを修正してください。

SDO-07506 RESTORE 要求に失敗しました。

原因: RESTORE 要求に失敗しました。

処置: ログ・ファイルを調べ、確認できるすべてのエラーを修正してください。

SDO-07510 不正なブール値です。

原因: 不正なブール値が指定されました。

処置: 値が TRUE または FALSE であることを検証してください。

SDO-07511 端末からユーザー入力を読み込めません。

原因: 端末からのユーザー入力のプロンプトを試行中に、エラーが検出されました。これは内部エラーです。

処置: メッセージを書き留めてからオラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Visual Information Retrieval メッセージ (VIR)

Visual Information Retrieval オプションについては、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01001 ANALYZE で SIGNATURE の生成に失敗しました。

原因: Analyze ファンクションは Signature を生成できませんでした。

処置: アナライズされるイメージが有効であることを確認してください。

VIR-01002 SCORE で SIGNATURES の比較に失敗しました。

原因: Score ファンクションは 2 つの Signature を比較できませんでした。

処置: Signature が正しく生成されていることを確認してください。

VIR-01003 SIGNATURE バッファが小さすぎます。

原因: 生成される Signature は、それを受け取るために割り当てられた記憶領域よりも大きいものです。

処置: Signature に割り当てる領域を増加してください。分析するイメージの複雑さを軽減してください。また、分析するイメージを切り取って、余分な特徴を削減してください。

VIR-01005 属性文字列が空または NULL です。

原因: 空または NULL の weight 属性文字列が Score または Similar ファンクションに渡されました。

処置: 正しい使用方法および属性の weight 文字列の構文については、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01006 属性値が無効です。

原因: Score または Similar ファンクションで属性の weight 文字列を解析しているときに、無効な値が見つかりました。

処置: 有効な属性値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法および Score と Similar 属性の weight 文字列の構文については、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01007 内部エラー

原因: 内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VIR-01008 string

原因: Score または Similar 関数で属性の weight 文字列を解析しているときに、構文エラーが見つかりました。

処置: 正しい有効なパラメータ値を使用して、誤りのある文を修正してください。正しい使用方法および属性の weight 文字列についての構文は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01009 イメージ・データの読み込みができません。

原因: イメージ・オブジェクトにイメージ・データがありません。

処置: イメージ・データのイメージ・オブジェクトへの移入方法については、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01010 SIGNATURE データが破損しているか、または無効です。"

原因: Signature 内のデータが有効な Virage Signature ではありません。

処置: Analyze メソッドを使用して Signature を再作成してください。

VIR-01011 SIGNATURE のバイト順序が正しくありません。

原因: Signature 内のデータは有効な Virage Signature の可能性があります、バイト順序が正しくありません。

処置: Convert メソッドを使用してバイト順序を変更してください。

VIR-01012 SIGNATURE の変換に失敗しました。

原因: Signature 内のデータが有効な Viisage Signature でない可能性があります。

処置: 有効な Viisage Signature で Signature を再作成してください。

VIR-01013 無効な変換操作です。

原因: 指定された変換操作が無効です。

処置: 正しい使用方法および変換操作文字列についての構文は、『Oracle8i Visual Information Retrieval User's Guide and Reference』を参照してください。

VIR-01014 指定したフォントの太さが無効です。

原因: 指定された weight が Score には無効です。標準とフェイシャルの両方の weight が指定されました。

処置: 標準とフェイスシャルの両方の属性には weight を指定しないでください。

VIR-01015 フォントの太さが未指定です。

原因: 渡されたすべての weight が 0 です。少なくとも 1 つの属性に weight を付ける必要があります。

処置: 少なくとも 1 つの属性に weight を指定してください。

VIR-01016 初期化中に内部エラーが発生しました。

原因: VIR イメージ・エンジンを初期化しようとしているときに、内部エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

VIR-01017 イメージを分析中、メモリー不足になりました。

原因: イメージの分析中に、外部プロシージャ・エージェントがオペレーティング・システムのメモリーを使い果たしました。

処置: データベース管理者またはオペレーティング・システム管理者に依頼して、外部プロセス・エージェントのプロセス・メモリーの割当てを増やしてください。

VIR-01018 SIGNATURE を固有のバイト順序に変換できません。

原因: Signature データが壊れている可能性があります。

処置: Analyze メソッドを使用して Signature を再作成してください。

VIR-01019 SIGNATURE が Viisage 署名ではありません。

原因: 受け取った Signature が Viisage Signature ではありません。

処置: 有効な Viisage Signature で Signature を再作成してください。

A

AUD, 47-1

D

DRG, 50-1

E

EPC, 15-1

EXP, 16-1

I

IMG, 48-1

IMP, 17-1

L

LCD, 19-1

LFI, 20-1

LRM, 18-1

M

MOD, 34-1

N

NCR, 32-1

NMP, 31-1

NNC, 26-1

NNF, 30-1

NNL, 28-1

NNO, 27-1

NPL, 29-1

NZE, 33-1

O

O2F, 35-1

O2I, 36-1

O2U, 37-1

ORA-00000 ~ ORA-00816, 2-1

ORA-00900 ~ ORA-01499, 3-1

ORA-01500 ~ ORA-02098, 4-1

ORA-02100 ~ ORA-04099, 5-1

ORA-04930 ~ ORA-07499, 6-1

ORA-07500 ~ ORA-09857, 7-1

ORA-09870 ~ ORA-12084, 8-1

ORA-12315 ~ ORA-12354, 9-1

ORA-12400 ~ ORA-12499, 10-1

ORA-12700 ~ ORA-18010, 11-1

ORA-19400 ~ ORA-24279, 12-1

ORA-24280 ~ ORA-29249, 13-1

ORA-29250 ~ ORA-30999, 14-1

P

PCB, 38-1

PCC, 40-1, 41-1, 42-1, 43-1, 44-1, 45-1

PCF, 39-1

PLS, 21-1

Q

QSM, 22-1

R

RMAN, 23-1

S

SDO, 52-1

SQL, 46-1

SQL*Loader, 24-1

T

TNS, 25-1

TS, 51-1

V

VID, 49-1

VIR, 53-1

め

メッセージ・スタック, 1-3

メッセージにおける埋込み変数, 1-3